

**2020年度
社会学部
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

講義・実習科目	【LL001】	アメリカのジャーナリズム [荒木 暢也]	春学期授業/Spring	1
講義・実習科目	【LD305】	意思決定論 [宇野 齊]	春学期授業/Spring	2
講義・実習科目	【LA309】	イスラム社会論 [岡野内 正]	春学期授業/Spring	3
講義・実習科目	【LE105-a】	English Oral Communication I [アラン バークマン]	春学期授業/Spring	4
講義・実習科目	【LE105-b】	English Oral Communication I [ジョージ・ハン]	春学期授業/Spring	5
講義・実習科目	【LE105-c】	English Oral Communication I [ジョージ・ハン]	春学期授業/Spring	6
講義・実習科目	【LE106-a】	English Oral Communication II [アラン バークマン]	秋学期授業/Fall	7
講義・実習科目	【LE106-b】	English Oral Communication II [ジョージ・ハン]	秋学期授業/Fall	8
講義・実習科目	【LE106-c】	English Oral Communication II [ジョージ・ハン]	秋学期授業/Fall	9
講義・実習科目	【LE107-a】	English Drama I [ジョージ・ハン]	春学期授業/Spring	10
講義・実習科目	【LE107-b】	English Drama I [ジョージ・ハン]	春学期授業/Spring	11
講義・実習科目	【LE108-a】	English Drama II [ジョージ・ハン]	秋学期授業/Fall	12
講義・実習科目	【LE108-b】	English Drama II [ジョージ・ハン]	秋学期授業/Fall	12
講義・実習科目	【LE101-c】	English Reading & Writing A I [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	13
講義・実習科目	【LE101-d】	English Reading & Writing A I [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	14
講義・実習科目	【LE101-b】	English Reading & Writing A I [ジョナサン ブラウン]	春学期授業/Spring	15
講義・実習科目	【LE101-a】	English Reading & Writing A I [ステラ 山崎]	春学期授業/Spring	16
講義・実習科目	【LE102-c】	English Reading & Writing A II [佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	16
講義・実習科目	【LE102-d】	English Reading & Writing A II [佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	17
講義・実習科目	【LE102-b】	English Reading & Writing A II [ジョナサン ブラウン]	秋学期授業/Fall	18
講義・実習科目	【LE102-a】	English Reading & Writing A II [ステラ 山崎]	秋学期授業/Fall	19
講義・実習科目	【LE103-a】	English Reading & Writing B I [ジョナサン ブラウン]	春学期授業/Spring	20
講義・実習科目	【LE103-b】	English Reading & Writing B I [ステラ 山崎]	春学期授業/Spring	21
講義・実習科目	【LE104-a】	English Reading & Writing B II [ジョナサン ブラウン]	秋学期授業/Fall	21
講義・実習科目	【LE104-b】	English Reading & Writing B II [ステラ 山崎]	秋学期授業/Fall	22
講義・実習科目	【LE110-a】	Intensive TOEIC (R) [アラン バークマン]	秋学期授業/Fall	23
講義・実習科目	【LE110-b】	Intensive TOEIC (R) [アラン バークマン]	秋学期授業/Fall	24
講義・実習科目	【LE110-c】	Intensive TOEIC (R) [ステラ 山崎]	秋学期授業/Fall	25
講義・実習科目	【LE110-d】	Intensive TOEIC (R) [ステラ 山崎]	春学期授業/Spring	25
講義・実習科目	【LE109-a】	Intensive TOEFL (R) [アラン バークマン]	春学期授業/Spring	26
講義・実習科目	【LE109-b】	Intensive TOEFL (R) [アラン バークマン]	春学期授業/Spring	27
講義・実習科目	【LD018-b】	ウェブ・プログラミングA [石井 由起]	春学期授業/Spring	28
講義・実習科目	【LD018-a】	ウェブ・プログラミングA [堀 亜砂実]	秋学期授業/Fall	29
講義・実習科目	【LD018-c】	ウェブ・プログラミングA [堀 亜砂実]	春学期授業/Spring	30
講義・実習科目	【LD019】	ウェブ・プログラミングB [加藤 徹郎]	秋学期授業/Fall	31
講義・実習科目	【LE116】	英語講読A I [深松 亮太]	春学期授業/Spring	31
講義・実習科目	【LE117】	英語講読A II [深松 亮太]	秋学期授業/Fall	32
講義・実習科目	【LE118】	英語講読B I [高 美智]	春学期授業/Spring	33
講義・実習科目	【LE119】	英語講読B II [高 美智]	秋学期授業/Fall	34
講義・実習科目	【L0840】	英語講読C I [金原 瑞人]	春学期授業/Spring	35
講義・実習科目	【L0841】	英語講読C II [金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	36
講義・実習科目	【LE112】	英語翻訳A I [金原 瑞人]	春学期授業/Spring	36
講義・実習科目	【LE113】	英語翻訳A II [金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	37
講義・実習科目	【LE114】	英語翻訳B I [金原 瑞人]	春学期授業/Spring	37
講義・実習科目	【LE115】	英語翻訳B II [金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	38
講義・実習科目	【LB110】	エイジングの社会学 [姫野 宏輔]	秋学期授業/Fall	38
講義・実習科目	【L0721】	映像ジャーナリズム論 I [坂上 香]	春学期授業/Spring	39
講義・実習科目	【L0722】	映像ジャーナリズム論 II [足立 義則]	秋学期授業/Fall	40
講義・実習科目	【LD101-b】	映像制作技法 [石橋 充行]	春学期授業/Spring	41
講義・実習科目	【LD101-a】	映像制作技法 [稲増 龍夫]	春学期授業/Spring	42
講義・実習科目	【LD102-b】	映像制作実習 [石橋 充行]	秋学期授業/Fall	43
講義・実習科目	【LD102-a】	映像制作実習 [稲増 龍夫]	秋学期授業/Fall	44
講義・実習科目	【L2903】	映像制作実習B [稲増 龍夫]	年間授業/Yearly	45

講義・実習科目【LA206】エネルギー論 [高橋 洋] 春学期授業/Spring	46
専門演習【L1401】演習1 [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	47
専門演習【L1406】演習1・2 [荒井 容子] 年間授業/Yearly	48
専門演習【L1416】演習1 [池田 寛二] 年間授業/Yearly	49
専門演習【L1431】演習1 [稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	50
専門演習【L1671】演習1 [宇野 齊] 年間授業/Yearly	51
専門演習【L1666】演習1 [遠藤 聡] 年間授業/Yearly	52
専門演習【L1446】演習1・2 [岡野内 正] 年間授業/Yearly	53
専門演習【L1466】演習1 [堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	54
専門演習【L1796】演習1 [勝又 暢之] 年間授業/Yearly	55
専門演習【L1812】演習1 [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	56
専門演習【L1781】演習1 [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	57
専門演習【L1476】演習1 [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	58
専門演習【L1490】演習1 [高 美智] 年間授業/Yearly	59
専門演習【L1486】演習1・2 [越部 清美] 年間授業/Yearly	60
専門演習【L1784】演習1 [小林 直毅] 年間授業/Yearly	61
専門演習【L1494】演習1 [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	62
専門演習【L1505】演習1・2 [佐藤 成基] 年間授業/Yearly	63
専門演習【L1809】演習1 [澤柿 教伸] 年間授業/Yearly	64
専門演習【L1511】演習1 [島本 美保子] 年間授業/Yearly	65
専門演習【L1827】演習1 [ジョナサン ブラウン] 年間授業/Yearly	66
専門演習【L1521】演習1 [白田 秀彰] 年間授業/Yearly	67
専門演習【L1526】演習1・2 [白鳥 浩] 年間授業/Yearly	68
専門演習【L1501】演習1・2 [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	69
専門演習【L1531】演習1 [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	70
専門演習【L1536】演習1・2 [鈴木 智之] 年間授業/Yearly	71
専門演習【L1541】演習1 [鈴木 麻美] 年間授業/Yearly	72
専門演習【L1787】演習1 [鈴木 宗徳] 年間授業/Yearly	73
専門演習【L1707】演習1 [関口 浩] 年間授業/Yearly	74
専門演習【L1680】演習1 [曾布川 哲也] 年間授業/Yearly	75
専門演習【L1626】演習1 [高瀬 文人] 年間授業/Yearly	76
専門演習【L1830】演習1 [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	77
専門演習【L1561】演習1 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	78
専門演習【L1818】演習1 [多田 和美] 年間授業/Yearly	79
専門演習【L1677】演習1 [谷本 有美子] 年間授業/Yearly	80
専門演習【L1571】演習1 [津田 正太郎] 年間授業/Yearly	81
専門演習【L1821】演習1 [土倉 英志] 年間授業/Yearly	82
専門演習【L1581】演習1・2 [徳安 彰] 年間授業/Yearly	83
専門演習【L1790】演習1 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	84
専門演習【L1586】演習1 [中筋 直哉] 年間授業/Yearly	85
専門演習【L1824】演習1 [橋爪 絢子] 年間授業/Yearly	86
専門演習【L1591】演習1・2 [濱中 春] 年間授業/Yearly	87
専門演習【L1601】演習1 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	88
専門演習【L1611】演習1 [藤田 真文] 年間授業/Yearly	89
専門演習【L1815】演習1・2 [別府 三奈子] 年間授業/Yearly	90
専門演習【L1621】演習1 [堀川 三郎] 年間授業/Yearly	91
専門演習【L1631】演習1 [増田 正人] 年間授業/Yearly	91
専門演習【L1803】演習1 [諸上 茂光] 年間授業/Yearly	92
専門演習【L1402】演習2 [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	93
専門演習【L1417】演習2 [池田 寛二] 年間授業/Yearly	94
専門演習【L1432】演習2 [稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	95
専門演習【L1672】演習2 [宇野 齊] 年間授業/Yearly	96
専門演習【L1667】演習2 [遠藤 聡] 年間授業/Yearly	97
専門演習【L1457】演習2 [小川 有希子] 年間授業/Yearly	98
専門演習【L1467】演習2 [堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	99
専門演習【L1797】演習2 [勝又 暢之] 年間授業/Yearly	100
専門演習【L1813】演習2 [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	101

専門演習	[L1462]	演習2・3 (卒業論文) [金原 瑞人] 年間授業/Yearly	102
専門演習	[L1782]	演習2 [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	103
専門演習	[L1477]	演習2 [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	104
専門演習	[L1491]	演習2 [高 美智] 年間授業/Yearly	105
専門演習	[L1785]	演習2・3 (卒業論文) [小林 直毅] 年間授業/Yearly	106
専門演習	[L1495]	演習2 [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	107
専門演習	[L1810]	演習2 [澤柿 教伸] 年間授業/Yearly	108
専門演習	[L1512]	演習2 [島本 美保子] 年間授業/Yearly	109
専門演習	[L1807]	演習2 [志村 真弓] 年間授業/Yearly	110
専門演習	[L1522]	演習2・3 (卒業論文) [白田 秀彰] 年間授業/Yearly	111
専門演習	[L1532]	演習2 [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	112
専門演習	[L1542]	演習2 [鈴木 麻美] 年間授業/Yearly	113
専門演習	[L1788]	演習2・3 (卒業論文) [鈴木 宗徳] 年間授業/Yearly	114
専門演習	[L1708]	演習2 [関口 浩] 年間授業/Yearly	115
専門演習	[L1681]	演習2 [曾布川 哲也] 年間授業/Yearly	116
専門演習	[L1627]	演習2 [高瀬 文人] 年間授業/Yearly	117
専門演習	[L1831]	演習2 [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	118
専門演習	[L1562]	演習2 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	119
専門演習	[L1819]	演習2・3 (卒業論文) [多田 和美] 年間授業/Yearly	120
専門演習	[L1567]	演習2 [田中 充] 年間授業/Yearly	121
専門演習	[L1572]	演習2 [津田 正太郎] 年間授業/Yearly	122
専門演習	[L1822]	演習2 [土倉 英志] 年間授業/Yearly	123
専門演習	[L1791]	演習2 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	124
専門演習	[L1587]	演習2・3 (卒業論文) [中筋 直哉] 年間授業/Yearly	125
専門演習	[L1632]	演習2 [南雲 和夫] 年間授業/Yearly	126
専門演習	[L1546]	演習2 [西丸 良一] 年間授業/Yearly	127
専門演習	[L1825]	演習2 [橋爪 絢子] 年間授業/Yearly	128
専門演習	[L1602]	演習2 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	129
専門演習	[L1612]	演習2 [藤田 真文] 年間授業/Yearly	129
専門演習	[L1622]	演習2 [堀川 三郎] 年間授業/Yearly	130
専門演習	[L1642]	演習2 [宮下 阿子] 年間授業/Yearly	131
専門演習	[L1804]	演習2 [諸上 茂光] 年間授業/Yearly	132
専門演習	[L1403]	演習3 (卒業論文) [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	133
専門演習	[L1408]	演習3 (卒業論文) [荒井 容子] 年間授業/Yearly	134
専門演習	[L1412]	演習3 (卒業論文) [荒木 暢也] 年間授業/Yearly	135
専門演習	[L1418]	演習3 (卒業論文) [池田 寛二] 年間授業/Yearly	136
専門演習	[L1433]	演習3 (卒業論文) [稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	136
専門演習	[L1673]	演習3 (卒業論文) [宇野 齐] 年間授業/Yearly	137
専門演習	[L1668]	演習3 (卒業論文) [遠藤 聡] 年間授業/Yearly	138
専門演習	[L1608]	演習3 (卒業論文) [大崎 雄二] 年間授業/Yearly	139
専門演習	[L1448]	演習3 (卒業論文) [岡野内 正] 年間授業/Yearly	140
専門演習	[L1458]	演習3 (卒業論文) [小川 有希子] 年間授業/Yearly	141
専門演習	[L1468]	演習3 (卒業論文) [堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	142
専門演習	[L1798]	演習3 (卒業論文) [勝又 暢之] 年間授業/Yearly	143
専門演習	[L1814]	演習3 (卒業論文) [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	144
専門演習	[L1783]	演習3 (卒業論文) [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	144
専門演習	[L1478]	演習3 (卒業論文) [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	145
専門演習	[L1423]	演習3 (卒業論文) [工藤 悟志] 年間授業/Yearly	146
専門演習	[L1492]	演習3 (卒業論文) [高 美智] 年間授業/Yearly	148
専門演習	[L1488]	演習3 (卒業論文) [越部 清美] 年間授業/Yearly	149
専門演習	[L1496]	演習3 (卒業論文) [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	149
専門演習	[L1507]	演習3 (卒業論文) [佐藤 成基] 年間授業/Yearly	150
専門演習	[L1811]	演習3 (卒業論文) [澤柿 教伸] 年間授業/Yearly	151
専門演習	[L1513]	演習3 (卒業論文) [島本 美保子] 年間授業/Yearly	152
専門演習	[L1808]	演習3 (卒業論文) [志村 真弓] 年間授業/Yearly	153
専門演習	[L1528]	演習3 (卒業論文) [白鳥 浩] 年間授業/Yearly	154
専門演習	[L1503]	演習3 (卒業論文) [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	155

専門演習	[L1533]	演習 3 (卒業論文)	[鈴木 智道]	年間授業/Yearly	156
専門演習	[L1538]	演習 3 (卒業論文)	[鈴木 智之]	年間授業/Yearly	156
専門演習	[L1709]	演習 3 (卒業論文)	[関口 浩]	年間授業/Yearly	157
専門演習	[L1682]	演習 3 (卒業論文)	[曾布川 哲也]	年間授業/Yearly	158
専門演習	[L1628]	演習 3 (卒業論文)	[高瀬 文人]	年間授業/Yearly	158
専門演習	[L1563]	演習 3 (卒業論文)	[田嶋 淳子]	年間授業/Yearly	159
専門演習	[L1568]	演習 3 (卒業論文)	[田中 充]	年間授業/Yearly	160
専門演習	[L1573]	演習 3 (卒業論文)	[津田 正太郎]	年間授業/Yearly	161
専門演習	[L1823]	演習 3 (卒業論文)	[土倉 英志]	年間授業/Yearly	161
専門演習	[L1583]	演習 3 (卒業論文)	[徳安 彰]	年間授業/Yearly	162
専門演習	[L1792]	演習 3 (卒業論文)	[土橋 臣吾]	年間授業/Yearly	163
専門演習	[L1633]	演習 3 (卒業論文)	[南雲 和夫]	年間授業/Yearly	164
専門演習	[L1547]	演習 3 (卒業論文)	[西丸 良一]	年間授業/Yearly	165
専門演習	[L1558]	演習 3 (卒業論文)	[長谷部 俊治]	年間授業/Yearly	166
専門演習	[L1593]	演習 3 (卒業論文)	[濱中 春]	年間授業/Yearly	167
専門演習	[L1603]	演習 3 (卒業論文)	[樋口 明彦]	年間授業/Yearly	168
専門演習	[L1613]	演習 3 (卒業論文)	[藤田 真文]	年間授業/Yearly	168
専門演習	[L1817]	演習 3 (卒業論文)	[別府 三奈子]	年間授業/Yearly	169
専門演習	[L1623]	演習 3 (卒業論文)	[堀川 三郎]	年間授業/Yearly	170
専門演習	[L1643]	演習 3 (卒業論文)	[宮下 阿子]	年間授業/Yearly	171
専門演習	[L1805]	演習 3 (卒業論文)	[諸上 茂光]	年間授業/Yearly	171
講義・実習科目	[LB022]	外書講読 (社会学)	2 A [武田 俊輔]	春学期授業/Spring	172
講義・実習科目	[LB023]	外書講読 (社会学)	2 B [武田 俊輔]	秋学期授業/Fall	173
講義・実習科目	[LB024]	外書講読 (社会学)	3 A [土倉 英志]	春学期授業/Spring	174
講義・実習科目	[LB025]	外書講読 (社会学)	3 B [徳安 彰]	秋学期授業/Fall	175
講義・実習科目	[LA026]	外書講読 (社会政策科学)	3 A [関口 浩]	春学期授業/Spring	176
講義・実習科目	[LA027]	外書講読 (社会政策科学)	3 B [関口 浩]	秋学期授業/Fall	177
講義・実習科目	[LD026]	外書講読 (メディア社会学)	2 A [鈴木 宗徳]	春学期授業/Spring	178
講義・実習科目	[LD027]	外書講読 (メディア社会学)	2 B [鈴木 宗徳]	秋学期授業/Fall	178
講義・実習科目	[LB407]	開発とジェンダー	[平野 恵子]	秋学期授業/Fall	179
講義・実習科目	[K5363]	科学史	[河野 俊哉]	春学期授業/Spring	180
講義・実習科目	[LB104]	家族社会学 I	[菊澤 佐江子]	春学期授業/Spring	181
講義・実習科目	[LB105]	家族社会学 II	[菊澤 佐江子]	秋学期授業/Fall	182
講義・実習科目	[LA202]	環境経済学 I	[信澤 由之]	春学期授業/Spring	182
講義・実習科目	[LA203]	環境経済学 II	[信澤 由之]	秋学期授業/Fall	183
講義・実習科目	[LA205]	環境自治体論	[田中 充]	秋学期授業/Fall	184
講義・実習科目	[LB202]	環境社会学 I	[堀川 三郎]	春学期授業/Spring	185
講義・実習科目	[LB203]	環境社会学 II	[堀川 三郎]	秋学期授業/Fall	186
講義・実習科目	[LA204]	環境政策論	[田中 充]	春学期授業/Spring	186
講義・実習科目	[L0114]	環境生態学	[勝又 暢之]	秋学期授業/Fall	187
講義・実習科目	[L0614]	環境法	[井上 秀典]	秋学期授業/Fall	188
講義・実習科目	[L0613]	環境倫理	[島田 昭仁]	春学期授業/Spring	189
講義・実習科目	[LA100]	企業と社会論 A	[加藤 寛之]	春学期授業/Spring	190
講義・実習科目	[LA101]	企業と社会論 B	[多田 和美]	秋学期授業/Fall	191
講義・実習科目	[L1914]	企業法	[笹久保 徹]	春学期授業/Spring	192
講義・実習科目	[LA207]	気候変動論	[澤柿 教伸]	春学期授業/Spring	192
基礎演習	[L5027]	基礎演習 I	[荒木 暢也]	春学期授業/Spring	193
基礎演習	[L5031]	基礎演習 I	[飯野 智子]	春学期授業/Spring	195
基礎演習	[L5086]	基礎演習 I	[岩城 邦義]	春学期授業/Spring	196
基礎演習	[L5013]	基礎演習 I	[岡野内 正]	春学期授業/Spring	197
基礎演習	[L5015]	基礎演習 I	[加藤 寛之]	春学期授業/Spring	198
基礎演習	[L5051]	基礎演習 I	[兼子 諭]	春学期授業/Spring	199
基礎演習	[L5019]	基礎演習 I	[兼子 諭]	春学期授業/Spring	199
基礎演習	[L5065]	基礎演習 I	[山田 唐波里]	春学期授業/Spring	200
基礎演習	[L5088]	基礎演習 I	[左古 輝人]	春学期授業/Spring	200
基礎演習	[L5045]	基礎演習 I	[島田 昭仁]	春学期授業/Spring	201
基礎演習	[L5069]	基礎演習 I	[白田 秀彰]	春学期授業/Spring	202

基礎演習	[L5067]	基礎演習 I	[愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	203
基礎演習	[L5043]	基礎演習 I	[鈴木 智道] 春学期授業/Spring	204
基礎演習	[L5035]	基礎演習 I	[鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	204
基礎演習	[L5005]	基礎演習 I	[高橋 愛] 春学期授業/Spring	205
基礎演習	[L5094]	基礎演習 I	[高橋 賢次] 春学期授業/Spring	206
基礎演習	[L5039]	基礎演習 I	[高橋 誠一] 春学期授業/Spring	207
基礎演習	[L5063]	基礎演習 I	[武田 俊輔] 春学期授業/Spring	208
基礎演習	[L5003]	基礎演習 I	[多田 和美] 春学期授業/Spring	209
基礎演習	[L5011]	基礎演習 I	[田中 充] 春学期授業/Spring	209
基礎演習	[L5007]	基礎演習 I	[谷本 有美子] 春学期授業/Spring	210
基礎演習	[L5017]	基礎演習 I	[津田 正太郎] 春学期授業/Spring	211
基礎演習	[L5001]	基礎演習 I	[徳安 彰] 春学期授業/Spring	212
基礎演習	[L5041]	基礎演習 I	[宮下 阿子] 春学期授業/Spring	213
基礎演習	[L5053]	基礎演習 I	[中村 尚樹] 春学期授業/Spring	213
基礎演習	[L5047]	基礎演習 I	[南雲 和夫] 春学期授業/Spring	214
基礎演習	[L5033]	基礎演習 I	[古川 早苗] 春学期授業/Spring	215
基礎演習	[L5082]	基礎演習 I	[古澤 聡司] 春学期授業/Spring	216
基礎演習	[L5029]	基礎演習 I	[本田 親史] 春学期授業/Spring	217
基礎演習	[L5055]	基礎演習 I	[松下 峻也] 春学期授業/Spring	217
基礎演習	[L5092]	基礎演習 I	[南 宏幸] 春学期授業/Spring	218
基礎演習	[L5037]	基礎演習 I	[山崎 哲史] 春学期授業/Spring	219
基礎演習	[L5009]	基礎演習 I	[山下 大厚] 春学期授業/Spring	220
基礎演習	[L5023]	基礎演習 I	[吉田 公記] 春学期授業/Spring	220
基礎演習	[L5028]	基礎演習 II	[荒木 暢也] 秋学期授業/Fall	221
基礎演習	[L5032]	基礎演習 II	[飯野 智子] 秋学期授業/Fall	222
基礎演習	[L5087]	基礎演習 II	[岩城 邦義] 秋学期授業/Fall	223
基礎演習	[L5014]	基礎演習 II	[岡野内 正] 秋学期授業/Fall	224
基礎演習	[L5016]	基礎演習 II	[加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	225
基礎演習	[L5052]	基礎演習 II	[兼子 諭] 秋学期授業/Fall	226
基礎演習	[L5020]	基礎演習 II	[兼子 諭] 秋学期授業/Fall	226
基礎演習	[L5066]	基礎演習 II	[山田 唐波里] 秋学期授業/Fall	227
基礎演習	[L5089]	基礎演習 II	[左古 輝人] 秋学期授業/Fall	227
基礎演習	[L5046]	基礎演習 II	[島田 昭仁] 秋学期授業/Fall	228
基礎演習	[L5070]	基礎演習 II	[白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	229
基礎演習	[L5068]	基礎演習 II	[愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	230
基礎演習	[L5044]	基礎演習 II	[鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	231
基礎演習	[L5036]	基礎演習 II	[鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	231
基礎演習	[L5006]	基礎演習 II	[高橋 愛] 秋学期授業/Fall	232
基礎演習	[L5095]	基礎演習 II	[高橋 賢次] 秋学期授業/Fall	233
基礎演習	[L5040]	基礎演習 II	[高橋 誠一] 秋学期授業/Fall	234
基礎演習	[L5064]	基礎演習 II	[武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	235
基礎演習	[L5004]	基礎演習 II	[多田 和美] 秋学期授業/Fall	236
基礎演習	[L5012]	基礎演習 II	[田中 充] 秋学期授業/Fall	236
基礎演習	[L5008]	基礎演習 II	[谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	237
基礎演習	[L5018]	基礎演習 II	[津田 正太郎] 秋学期授業/Fall	238
基礎演習	[L5002]	基礎演習 II	[徳安 彰] 秋学期授業/Fall	239
基礎演習	[L5042]	基礎演習 II	[宮下 阿子] 秋学期授業/Fall	240
基礎演習	[L5054]	基礎演習 II	[中村 尚樹] 秋学期授業/Fall	240
基礎演習	[L5048]	基礎演習 II	[南雲 和夫] 秋学期授業/Fall	241
基礎演習	[L5034]	基礎演習 II	[古川 早苗] 秋学期授業/Fall	242
基礎演習	[L5083]	基礎演習 II	[古澤 聡司] 秋学期授業/Fall	243
基礎演習	[L5030]	基礎演習 II	[本田 親史] 秋学期授業/Fall	243
基礎演習	[L5056]	基礎演習 II	[松下 峻也] 秋学期授業/Fall	244
基礎演習	[L5093]	基礎演習 II	[南 宏幸] 秋学期授業/Fall	245
基礎演習	[L5038]	基礎演習 II	[山崎 哲史] 秋学期授業/Fall	246
基礎演習	[L5010]	基礎演習 II	[山下 大厚] 秋学期授業/Fall	246
基礎演習	[L5024]	基礎演習 II	[吉田 公記] 秋学期授業/Fall	247

講義・実習科目	[L0078]	基礎数学Ⅰ [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	248
講義・実習科目	[L0079]	基礎数学Ⅱ [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	249
講義・実習科目	[K8501]	キャリアデザイン論 [砂田 充] 春学期授業/Spring	250
講義・実習科目	[K8502]	キャリアデザイン論 [砂田 充] 春学期授業/Spring	251
講義・実習科目	[LA016]	行政学 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	252
講義・実習科目	[LA017]	行政法Ⅰ [長谷部 俊治] 春学期授業/Spring	253
講義・実習科目	[LA018]	行政法Ⅱ [長谷部 俊治] 秋学期授業/Fall	253
講義・実習科目	[LA112]	金融システム論 [八木 勲] 秋学期授業/Fall	254
講義・実習科目	[LD010-a]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring	255
講義・実習科目	[LD010-b]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall	256
講義・実習科目	[LD010-c]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring	257
講義・実習科目	[LD010-d]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall	258
講義・実習科目	[LA300]	グローバル市民社会論A [岡野内 正] 春学期授業/Spring	259
講義・実習科目	[LA301]	グローバル市民社会論B [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	260
講義・実習科目	[LA302]	グローバル社会のローカリティ [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	260
講義・実習科目	[LA111]	経済政策論 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	261
講義・実習科目	[L0054]	現代史Ⅰ [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	262
講義・実習科目	[L0055]	現代史Ⅱ [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	263
講義・実習科目	[LB204]	現代農業・農村の社会学 [池田 寛二] 春学期授業/Spring	264
講義・実習科目	[LB017]	原典講読 [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	265
講義・実習科目	[LA007]	憲法 [吉川 和宏] 春学期授業/Spring	266
講義・実習科目	[LD015]	公共性と民主主義Ⅰ [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	267
講義・実習科目	[LD016]	公共性と民主主義Ⅱ [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	268
講義・実習科目	[LD103]	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	269
講義・実習科目	[LD104]	広告・PR論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	270
講義・実習科目	[LD105]	広告制作実習 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	271
講義・実習科目	[LD125]	広告制作実習 [川越 智勇] 春学期授業/Spring	272
講義・実習科目	[LB404]	国際関係論Ⅰ [志村 真弓] 春学期授業/Spring	273
講義・実習科目	[LB405]	国際関係論Ⅱ [志村 真弓] 秋学期授業/Fall	273
講義・実習科目	[LA308]	国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	274
講義・実習科目	[LA109]	国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	275
講義・実習科目	[LA110]	国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	276
講義・実習科目	[LA310]	国際経済論Ⅰ [宮崎 礼二] 春学期授業/Spring	276
講義・実習科目	[LA311]	国際経済論Ⅱ [宮崎 礼二] 秋学期授業/Fall	277
講義・実習科目	[LB402]	国際社会学Ⅰ [田嶋 淳子] 春学期授業/Spring	278
講義・実習科目	[LB403]	国際社会学Ⅱ [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	279
講義・実習科目	[LB401]	国際社会と言語文化 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	279
講義・実習科目	[LB400]	国際社会と日本 [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	280
講義・実習科目	[LB406]	国際社会と民族 [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	281
講義・実習科目	[L0593]	国際社会入門 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	282
講義・実習科目	[L0096]	国際社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	283
講義・実習科目	[LA307]	国際政治論 [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	284
講義・実習科目	[LA312]	国際法 [妻木 伸之] 秋学期授業/Fall	284
講義・実習科目	[LD023]	特講 (コミュニケーション・デザイン論) [石寺 修三、青木 貞茂] 春学期授業/Spring	285
講義・実習科目	[LB200]	コミュニティ・デザイン論Ⅰ [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	286
講義・実習科目	[LB201]	コミュニティ・デザイン論Ⅱ [樋口 明彦] 秋学期授業/Fall	287
講義・実習科目	[L1913]	雇用政策論 [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	287
講義・実習科目	[LL004]	雇用と法 [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	288
情報教育基礎	[L0133]	コンピュータ入門 [石井 由起] 春学期授業/Spring	288
情報教育基礎	[L0165]	コンピュータ入門 [石井 由起] 春学期授業/Spring	289
情報教育基礎	[L0139]	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	290
情報教育基礎	[L0149]	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	291
情報教育基礎	[L0159]	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	292
情報教育基礎	[L0145]	コンピュータ入門 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	293
情報教育基礎	[L0147]	コンピュータ入門 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	294
情報教育基礎	[L0137]	コンピュータ入門 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	295
情報教育基礎	[L0161]	コンピュータ入門 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	295

情報教育基礎	【L0143】	コンピュータ入門	[橋爪 絢子]	春学期授業/Spring	296
情報教育基礎	【L0151】	コンピュータ入門	[林田 和人]	春学期授業/Spring	296
情報教育基礎	【L0153】	コンピュータ入門	[林田 和人]	春学期授業/Spring	297
情報教育基礎	【L0155】	コンピュータ入門	[堀 亜砂実]	春学期授業/Spring	298
情報教育基礎	【L0167】	コンピュータ入門	[堀 亜砂実]	春学期授業/Spring	299
情報教育基礎	【L0163】	コンピュータ入門	[堀 亜砂実]	春学期授業/Spring	300
情報教育基礎	【L0141】	コンピュータ入門	[諸上 茂光]	春学期授業/Spring	301
情報教育基礎	【L0131】	コンピュータ入門	[湯本 正実]	春学期授業/Spring	302
講義・実習科目	【LA014】	財政学Ⅰ	[関口 浩]	春学期授業/Spring	303
講義・実習科目	【LA015】	財政学Ⅱ	[関口 浩]	秋学期授業/Fall	304
講義・実習科目	【LA200】	サステナビリティ論A	[田中 充]	秋学期授業/Fall	305
講義・実習科目	【LA201】	サステナビリティ論B	[平野 寛弥]	春学期授業/Spring	306
講義・実習科目	【LA107】	産業社会学Ⅰ	[平野 寛弥]	春学期授業/Spring	307
講義・実習科目	【LA108】	産業社会学Ⅱ	[鈴木 玲]	秋学期授業/Fall	308
講義・実習科目	【LB101】	ジェンダー論	[飯野 智子]	春学期授業/Spring	309
講義・実習科目	【LD020-a】	システム・プログラミングA	[堀 亜砂実]	春学期授業/Spring	310
講義・実習科目	【LD020-b】	システム・プログラミングA	[堀 亜砂実]	秋学期授業/Fall	311
講義・実習科目	【LD021】	システム・プログラミングB	[伊藤 真利子]	秋学期授業/Fall	312
講義・実習科目	【L0086】	自然科学特講(数学)	[鈴木 麻美]	秋学期授業/Fall	312
講義・実習科目	【L0087】	自然科学特講(数学)	[鈴木 麻美]	秋学期授業/Fall	313
講義・実習科目	【L0084】	自然科学特講(生命科学)	[勝又 暢之]	春学期授業/Spring	314
講義・実習科目	【L0085】	自然科学特講(生命科学)	[勝又 暢之]	秋学期授業/Fall	315
講義・実習科目	【L0088】	自然科学特講(地学)	[澤柿 教伸]	春学期授業/Spring	316
講義・実習科目	【L0089】	自然科学特講(地学)	[澤柿 教伸]	秋学期授業/Fall	317
講義・実習科目	【LA303】	市民運動論	[中筋 直哉]	春学期授業/Spring	318
講義・実習科目	【L0757】	市民社会とエスニシティ	[佐藤 伴近]	秋学期授業/Fall	319
講義・実習科目	【LD109】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ	[別府 三奈子]	春学期授業/Spring	319
講義・実習科目	【LD110】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ	[別府 三奈子]	秋学期授業/Fall	320
講義・実習科目	【L0595】	ジャーナリズム論A	[松下 峻也]	春学期授業/Spring	321
講義・実習科目	【L0596】	ジャーナリズム論B	[別府 三奈子]	秋学期授業/Fall	322
講義・実習科目	【LA102】	社会・イノベーション論Ⅰ	[工藤 悟志]	春学期授業/Spring	323
講義・実習科目	【LA103】	社会・イノベーション論Ⅱ	[工藤 悟志]	秋学期授業/Fall	324
講義・実習科目	【LB011】	社会学史Ⅰ	[徳安 彰]	春学期授業/Spring	325
講義・実習科目	【LB012】	社会学史Ⅱ	[徳安 彰]	秋学期授業/Fall	326
講義・実習科目	【LB018】	社会学総合特講A	[徳安 彰]	春学期授業/Spring	327
講義・実習科目	【LB019】	社会学総合特講B	[斎藤 友里子]	秋学期授業/Fall	328
講義・実習科目	【LB001-a】	社会学入門A	[佐藤 成基、徳安 彰]	春学期授業/Spring	329
講義・実習科目	【LB001-b】	社会学入門A	[佐藤 成基、徳安 彰]	秋学期授業/Fall	329
講義・実習科目	【LB002-a】	社会学入門B	[鈴木 智之、斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	330
講義・実習科目	【LB002-b】	社会学入門B	[鈴木 智之、斎藤 友里子]	秋学期授業/Fall	331
講義・実習科目	【LB000】	社会学への招待	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	332
講義・実習科目	【LB004】	社会学理論AⅠ	[鈴木 智之]	春学期授業/Spring	332
講義・実習科目	【LB005】	社会学理論AⅡ	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	333
講義・実習科目	【LB006】	社会学理論BⅠ	[佐藤 成基]	春学期授業/Spring	334
講義・実習科目	【LB007】	社会学理論BⅡ	[佐藤 成基]	秋学期授業/Fall	334
講義・実習科目	【LB111】	社会教育概論Ⅰ	[荒井 容子]	春学期授業/Spring	335
講義・実習科目	【LB112】	社会教育概論Ⅱ	[荒井 容子]	秋学期授業/Fall	336
講義・実習科目	【L0609】	社会計画論Ⅰ	[湯浅 陽一]	春学期授業/Spring	337
講義・実習科目	【L0610】	社会計画論Ⅱ	[湯浅 陽一]	秋学期授業/Fall	338
講義・実習科目	【LL002】	社会思想史Ⅰ	[明戸 隆浩]	春学期授業/Spring	339
講義・実習科目	【LL003】	社会思想史Ⅱ	[明戸 隆浩]	秋学期授業/Fall	340
講義・実習科目	【LB108】	社会心理学Ⅰ	[土倉 英志]	春学期授業/Spring	341
講義・実習科目	【LB109】	社会心理学Ⅱ	[土倉 英志]	秋学期授業/Fall	342
講義・実習科目	【LA000】	社会政策科学入門A	[堅田 香緒里]	秋学期授業/Fall	343
講義・実習科目	【LA001】	社会政策科学入門B	[北浦 康嗣]	秋学期授業/Fall	343
講義・実習科目	【LA002】	社会政策科学入門C	[白鳥 浩]	春学期授業/Spring	344
講義・実習科目	【LA003】	社会政策科学入門D	[長谷部 俊治]	春学期授業/Spring	345

講義・実習科目	【LB027-a】	社会調査実習 [池田 寛二]	年間授業/Yearly	346
講義・実習科目	【LB027-b】	社会調査実習 [田嶋 淳子]	年間授業/Yearly	348
講義・実習科目	【LB027-d】	社会調査実習 [樋口 明彦]	年間授業/Yearly	349
講義・実習科目	【LB003】	社会調査入門 [山口 暁]	春学期授業/Spring	350
講義・実習科目	【LB008】	社会調査の方法 [山口 暁]	秋学期授業/Fall	351
講義・実習科目	【LB009】	社会調査のリテラシー [中筋 直哉]	秋学期授業/Fall	351
講義・実習科目	【LD303】	社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 斉]	春学期授業/Spring	352
講義・実習科目	【LD304】	社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 斉]	秋学期授業/Fall	353
講義・実習科目	【LA210】	社会保障法Ⅰ [曾布川 哲也]	春学期授業/Spring	354
講義・実習科目	【LA211】	社会保障法Ⅱ [曾布川 哲也]	秋学期授業/Fall	355
講義・実習科目	【LD011】	社会問題とメディア [津田 正太郎]	秋学期授業/Fall	356
講義・実習科目	【L0120】	社会を変えるための実践論 [荒井 容子]	秋学期授業/Fall	357
講義・実習科目	【LB305】	宗教社会学 [永井 美紀子]	春学期授業/Spring	358
講義・実習科目	【LD201】	消費者行動モデリング [諸上 茂光]	秋学期授業/Fall	359
講義・実習科目	【LD200】	消費者行動論 [諸上 茂光]	春学期授業/Spring	359
講義・実習科目	【LD106】	情報科学とコミュニケーション [小川 有希子]	春学期授業/Spring	360
講義・実習科目	【L0591】	情報メディア論A [高瀬 文人]	春学期授業/Spring	361
講義・実習科目	【L0106】	職業社会論 [依田 素味]	春学期授業/Spring	362
講義・実習科目	【L0066】	身体論 [越部 清美]	春学期授業/Spring	363
講義・実習科目	【LA020】	人的資源論 [山口 暁]	秋学期授業/Fall	363
講義・実習科目	【L0051】	心理学Ⅰ [山下 大厚]	春学期授業/Spring	364
講義・実習科目	【L0052】	心理学Ⅱ [山下 大厚]	秋学期授業/Fall	364
講義・実習科目	【LB015】	数理社会学Ⅰ [斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	365
講義・実習科目	【LB016】	数理社会学Ⅱ [斎藤 友里子]	秋学期授業/Fall	366
諸外国語初級	【L0411】	スペイン語初級A [乾 隆政、増山 久美]	春学期授業/Spring	367
諸外国語初級	【L0415】	スペイン語初級A [乾 隆政、増山 久美]	春学期授業/Spring	368
諸外国語初級	【L0413】	スペイン語初級A [松井 賢治、杉守 慶太]	春学期授業/Spring	369
諸外国語初級	【L0417】	スペイン語初級A [松井 賢治、杉守 慶太]	春学期授業/Spring	370
諸外国語初級	【L0412】	スペイン語初級B [乾 隆政、増山 久美]	秋学期授業/Fall	371
諸外国語初級	【L0416】	スペイン語初級B [乾 隆政、増山 久美]	秋学期授業/Fall	372
諸外国語初級	【L0414】	スペイン語初級B [松井 賢治、杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	373
諸外国語初級	【L0418】	スペイン語初級B [松井 賢治、杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	374
講義・実習科目	【L1321】	スペイン語中級1 [杉守 慶太]	春学期授業/Spring	375
講義・実習科目	【L1323】	スペイン語中級2 [乾 隆政]	春学期授業/Spring	375
講義・実習科目	【L1322】	スペイン語中級3 [杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	376
講義・実習科目	【L1324】	スペイン語中級4 [乾 隆政]	秋学期授業/Fall	377
保健体育科目	【L0459】	スポーツ総合1-I [國井 和彦]	春学期授業/Spring	378
保健体育科目	【L0461】	スポーツ総合1-I [國井 和彦]	春学期授業/Spring	378
保健体育科目	【L0487】	スポーツ総合1-I (補講) [國井 和彦]	春学期授業/Spring	379
保健体育科目	【L0451】	スポーツ総合1-I [越部 清美]	春学期授業/Spring	379
保健体育科目	【L0453】	スポーツ総合1-I [越部 清美]	春学期授業/Spring	380
保健体育科目	【L0483】	スポーツ総合1-I [清水 貴司]	春学期授業/Spring	380
保健体育科目	【L0485】	スポーツ総合1-I [清水 貴司]	春学期授業/Spring	381
保健体育科目	【L0463】	スポーツ総合1-I [高梨 泰彦]	春学期授業/Spring	381
保健体育科目	【L0465】	スポーツ総合1-I [高梨 泰彦]	春学期授業/Spring	382
保健体育科目	【L0471】	スポーツ総合1-I [永嶋 秀敏]	春学期授業/Spring	382
保健体育科目	【L0473】	スポーツ総合1-I [永嶋 秀敏]	春学期授業/Spring	383
保健体育科目	【L0455】	スポーツ総合1-I [平澤 愛]	春学期授業/Spring	383
保健体育科目	【L0457】	スポーツ総合1-I [平澤 愛]	春学期授業/Spring	384
保健体育科目	【L0475】	スポーツ総合1-I [星 貴洋]	春学期授業/Spring	384
保健体育科目	【L0479】	スポーツ総合1-I [堀籠 美紀]	春学期授業/Spring	385
保健体育科目	【L0481】	スポーツ総合1-I [堀籠 美紀]	春学期授業/Spring	385
保健体育科目	【L0477】	スポーツ総合1-I [堀籠 佳宏]	春学期授業/Spring	386
保健体育科目	【L0467】	スポーツ総合1-I [宮下 信一]	春学期授業/Spring	386
保健体育科目	【L0469】	スポーツ総合1-I [宮下 信一]	春学期授業/Spring	387
保健体育科目	【L0460】	スポーツ総合1-II [國井 和彦]	秋学期授業/Fall	387
保健体育科目	【L0462】	スポーツ総合1-II [國井 和彦]	秋学期授業/Fall	388

保健体育科目	[L0488]	スポーツ総合1-II (補講)	[國井 和彦]	秋学期授業/Fall	388
保健体育科目	[L0452]	スポーツ総合1-II	[越部 清美]	秋学期授業/Fall	389
保健体育科目	[L0454]	スポーツ総合1-II	[越部 清美]	秋学期授業/Fall	389
保健体育科目	[L0484]	スポーツ総合1-II	[清水 貴司]	秋学期授業/Fall	390
保健体育科目	[L0486]	スポーツ総合1-II	[清水 貴司]	秋学期授業/Fall	390
保健体育科目	[L0464]	スポーツ総合1-II	[高梨 泰彦]	秋学期授業/Fall	391
保健体育科目	[L0466]	スポーツ総合1-II	[高梨 泰彦]	秋学期授業/Fall	391
保健体育科目	[L0472]	スポーツ総合1-II	[永嶋 秀敏]	秋学期授業/Fall	392
保健体育科目	[L0474]	スポーツ総合1-II	[永嶋 秀敏]	秋学期授業/Fall	392
保健体育科目	[L0456]	スポーツ総合1-II	[平澤 愛]	秋学期授業/Fall	393
保健体育科目	[L0458]	スポーツ総合1-II	[平澤 愛]	秋学期授業/Fall	393
保健体育科目	[L0476]	スポーツ総合1-II	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	394
保健体育科目	[L0480]	スポーツ総合1-II	[堀籠 美紀]	秋学期授業/Fall	394
保健体育科目	[L0482]	スポーツ総合1-II	[堀籠 美紀]	秋学期授業/Fall	395
保健体育科目	[L0478]	スポーツ総合1-II	[堀籠 佳宏]	秋学期授業/Fall	395
保健体育科目	[L0468]	スポーツ総合1-II	[宮下 信一]	秋学期授業/Fall	396
保健体育科目	[L0470]	スポーツ総合1-II	[宮下 信一]	秋学期授業/Fall	397
保健体育科目	[L0509]	スポーツ総合2-I (バドミントン)	[草島 正治]	春学期授業/Spring	397
保健体育科目	[L0511]	スポーツ総合2-I (バドミントン)	[草島 正治]	春学期授業/Spring	398
保健体育科目	[L0513]	スポーツ総合2-I (太極拳)	[シン イェンリン]	春学期授業/Spring	398
保健体育科目	[L0517]	スポーツ総合2-I (太極拳)	[シン イェンリン]	春学期授業/Spring	399
保健体育科目	[L0501]	スポーツ総合2-I (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	春学期授業/Spring	400
保健体育科目	[L0503]	スポーツ総合2-I (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	春学期授業/Spring	401
保健体育科目	[L0505]	スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	春学期授業/Spring	402
保健体育科目	[L0507]	スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	春学期授業/Spring	403
保健体育科目	[L0519]	スポーツ総合2-I (ユニバーサル・スポーツ)	[坪内 友美]	春学期授業/Spring	404
保健体育科目	[L0521]	スポーツ総合2-I (サッカー)	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	405
保健体育科目	[L0523]	スポーツ総合2-I (サッカー)	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	406
保健体育科目	[L0515]	スポーツ総合2-I (テニス)	[宮崎 靖雄]	春学期授業/Spring	407
保健体育科目	[K4101]	スポーツ総合2-I (バレーボール基礎)	[野中 俊英]	春学期授業/Spring	408
保健体育科目	[K4103]	スポーツ総合2-I (サッカー・フットサル基礎)	[水野 浩幸]	春学期授業/Spring	409
保健体育科目	[L0510]	スポーツ総合2-II (バドミントン)	[草島 正治]	秋学期授業/Fall	409
保健体育科目	[L0512]	スポーツ総合2-II (バドミントン)	[草島 正治]	秋学期授業/Fall	410
保健体育科目	[L0514]	スポーツ総合2-II (太極拳)	[シン イェンリン]	秋学期授業/Fall	410
保健体育科目	[L0518]	スポーツ総合2-II (太極拳)	[シン イェンリン]	秋学期授業/Fall	411
保健体育科目	[L0502]	スポーツ総合2-II (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	秋学期授業/Fall	412
保健体育科目	[L0504]	スポーツ総合2-II (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	秋学期授業/Fall	413
保健体育科目	[L0506]	スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	秋学期授業/Fall	414
保健体育科目	[L0508]	スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	秋学期授業/Fall	415
保健体育科目	[L0520]	スポーツ総合2-II (ユニバーサル・スポーツ)	[坪内 友美]	秋学期授業/Fall	416
保健体育科目	[L0522]	スポーツ総合2-II (サッカー)	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	417
保健体育科目	[L0524]	スポーツ総合2-II (サッカー)	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	418
保健体育科目	[L0516]	スポーツ総合2-II (テニス)	[宮崎 靖雄]	秋学期授業/Fall	419
保健体育科目	[K4102]	スポーツ総合2-II (バレーボール応用)	[野中 俊英]	秋学期授業/Fall	420
保健体育科目	[K4104]	スポーツ総合2-II (サッカー・フットサル応用)	[水野 浩幸]	秋学期授業/Fall	421
講義・実習科目	[LB306]	スポーツ文化論	[越部 清美]	秋学期授業/Fall	421
講義・実習科目	[LA013]	政策データ分析実習	[中筋 直哉]	秋学期授業/Fall	422
講義・実習科目	[LA019]	政策と制度	[長谷部 俊治]	秋学期授業/Fall	422
講義・実習科目	[LA021]	政策フィールドワーク実習	[堅田 香緒里]	春学期授業/Spring	423
講義・実習科目	[L0822]	政策立案実習	[長谷部 俊治]	秋学期授業/Fall	424
講義・実習科目	[LA004]	政治学理論I	[白鳥 浩]	春学期授業/Spring	425
講義・実習科目	[LA005]	政治学理論II	[白鳥 浩]	秋学期授業/Fall	426
講義・実習科目	[L0113]	生命の科学	[勝又 暢之]	春学期授業/Spring	426
講義・実習科目	[L0061]	創作表現論I	[金原 瑞人]	春学期授業/Spring	427
講義・実習科目	[L0062]	創作表現論II	[金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	428
講義・実習科目	[LD311]	ソーシャルメディア実習	[野々山 正章]	秋学期授業/Fall	428
講義・実習科目	[LD310]	ソーシャルメディア分析	[北原 利行]	秋学期授業/Fall	429

講義・実習科目	[LD309]	ソーシャルメディア論 [北原 利行] 春学期授業/Spring	430
講義・実習科目	[LA012]	組織論 [多田 和美] 春学期授業/Spring	431
講義・実習科目	[LL005]	多摩地域形成論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	432
講義・実習科目	[LB205]	地域環境論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	433
講義・実習科目	[LB409]	地域研究 (アジア) [遠藤 聡] 春学期授業/Spring	434
講義・実習科目	[LB410]	地域研究 (中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	435
講義・実習科目	[L0766]	地域研究 (北米) [宮崎 礼二] 春学期授業/Spring	435
講義・実習科目	[LB408]	地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	436
講義・実習科目	[LA105]	地域産業論 I [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	437
講義・実習科目	[LA106]	地域産業論 II [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	437
講義・実習科目	[L0115]	地球と自然 I [澤柿 教伸] 春学期授業/Spring	438
講義・実習科目	[L0116]	地球と自然 II [澤柿 教伸] 秋学期授業/Fall	439
講義・実習科目	[LD013]	知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	440
講義・実習科目	[LA304]	地方財政論 [関口 浩] 秋学期授業/Fall	441
講義・実習科目	[LA305]	地方自治論 I [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	442
講義・実習科目	[LA306]	地方自治論 II [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	443
講義・実習科目	[L1301]	中国語上級 A 1・B 1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	444
講義・実習科目	[L1303]	中国語上級 A 2・B 2 [謝 荔] 春学期授業/Spring	445
講義・実習科目	[L1305]	中国語上級 A 3・B 3 [謝 荔] 春学期授業/Spring	446
講義・実習科目	[L1302]	中国語上級 A 4・B 4 [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	446
講義・実習科目	[L1304]	中国語上級 A 5・B 5 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	447
講義・実習科目	[L1306]	中国語上級 A 6・B 6 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	448
講義・実習科目	[L1308]	中国語上級 A 7・B 7 [謝 荔] 春学期授業/Spring	448
諸外国語初級	[L0371]	中国語初級 A [池田 麻希子、渡辺 浩司] 春学期授業/Spring	449
諸外国語初級	[L0381]	中国語初級 A [池田 麻希子、加藤 昌弘] 春学期授業/Spring	450
諸外国語初級	[L0377]	中国語初級 A [康 宏理、上村 陽子] 春学期授業/Spring	451
諸外国語初級	[L0387]	中国語初級 A [康 宏理、上村 陽子] 春学期授業/Spring	452
諸外国語初級	[L0373]	中国語初級 A [加藤 昌弘、田中 理恵] 春学期授業/Spring	453
諸外国語初級	[L0383]	中国語初級 A [加藤 昌弘、田中 理恵] 春学期授業/Spring	454
諸外国語初級	[L0375]	中国語初級 A [耿 函、大崎 雄二] 春学期授業/Spring	455
諸外国語初級	[L0379]	中国語初級 A [篠田 幸夫、杜 瑤琳] 春学期授業/Spring	456
諸外国語初級	[L0389]	中国語初級 A [篠田 幸夫、杜 瑤琳] 春学期授業/Spring	456
諸外国語初級	[L0385]	中国語初級 A [謝 荔、渡辺 浩司] 春学期授業/Spring	457
諸外国語初級	[L0393]	中国語初級 A [渡辺 浩司、大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	458
諸外国語初級	[L0372]	中国語初級 B [池田 麻希子、渡辺 浩司] 秋学期授業/Fall	459
諸外国語初級	[L0382]	中国語初級 B [池田 麻希子、加藤 昌弘] 秋学期授業/Fall	460
諸外国語初級	[L0378]	中国語初級 B [康 宏理、上村 陽子] 秋学期授業/Fall	461
諸外国語初級	[L0388]	中国語初級 B [康 宏理、上村 陽子] 秋学期授業/Fall	462
諸外国語初級	[L0374]	中国語初級 B [加藤 昌弘、田中 理恵] 秋学期授業/Fall	463
諸外国語初級	[L0384]	中国語初級 B [加藤 昌弘、田中 理恵] 秋学期授業/Fall	464
諸外国語初級	[L0376]	中国語初級 B [耿 函、大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	465
諸外国語初級	[L0380]	中国語初級 B [篠田 幸夫、杜 瑤琳] 秋学期授業/Fall	466
諸外国語初級	[L0390]	中国語初級 B [篠田 幸夫、杜 瑤琳] 秋学期授業/Fall	466
諸外国語初級	[L0386]	中国語初級 B [謝 荔、渡辺 浩司] 秋学期授業/Fall	467
諸外国語初級	[L0392]	中国語初級 B [渡辺 浩司、大崎 雄二] 春学期授業/Spring	468
講義・実習科目	[LH401]	中国語中級 1 [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	469
講義・実習科目	[LH411]	中国語中級 1・2・3 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	469
講義・実習科目	[LH403]	中国語中級 2 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	470
講義・実習科目	[LH405]	中国語中級 3 [謝 荔] 春学期授業/Spring	471
講義・実習科目	[LH402]	中国語中級 4 [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall	472
講義・実習科目	[LH414]	中国語中級 4・5・6 [謝 荔] 春学期授業/Spring	472
講義・実習科目	[LH404]	中国語中級 5 [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	473
講義・実習科目	[LH406]	中国語中級 6 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	474
講義・実習科目	[L1905]	中小企業政策論 [工藤 悟志] 秋学期授業/Fall	474
講義・実習科目	[LA104]	中小企業論 [工藤 悟志] 春学期授業/Spring	475
講義・実習科目	[LB029-a]	調査研究法 B [池田 寛二] 春学期授業/Spring	476
講義・実習科目	[LB029-b]	調査研究法 B [田嶋 淳子] 春学期授業/Spring	477

講義・実習科目	【LB029-d】	調査研究法B [樋口 明彦]	春学期授業/Spring	478
諸外国語初級	【L0421】	朝鮮語初級A [荻野 優子、李 相旭]	春学期授業/Spring	478
諸外国語初級	【L0423】	朝鮮語初級A [荻野 優子、李 相旭]	春学期授業/Spring	479
諸外国語初級	【L0422】	朝鮮語初級B [荻野 優子、李 相旭]	秋学期授業/Fall	479
諸外国語初級	【L0424】	朝鮮語初級B [荻野 優子、李 相旭]	秋学期授業/Fall	480
講義・実習科目	【L1341】	朝鮮語中級1 [荻野 優子]	春学期授業/Spring	480
講義・実習科目	【L1343】	朝鮮語中級2 [李 相旭]	春学期授業/Spring	481
講義・実習科目	【L1342】	朝鮮語中級3 [荻野 優子]	秋学期授業/Fall	481
講義・実習科目	【L1344】	朝鮮語中級4 [李 相旭]	秋学期授業/Fall	482
講義・実習科目	【K5253】	地理学Ⅰ [朴 侗玄]	春学期授業/Spring	482
講義・実習科目	【K5254】	地理学Ⅱ [朴 侗玄]	秋学期授業/Fall	483
講義・実習科目	【LD308】	デジタル情報環境実習 [土橋 臣吾]	春学期授業/Spring	484
講義・実習科目	【LD307】	デジタル情報環境分析 [土橋 臣吾]	秋学期授業/Fall	485
講義・実習科目	【LD306】	デジタル情報環境論 [土橋 臣吾]	春学期授業/Spring	486
講義・実習科目	【L0071】	哲学Ⅰ [大橋 基]	春学期授業/Spring	487
講義・実習科目	【L0072】	哲学Ⅱ [大橋 基]	秋学期授業/Fall	488
講義・実習科目	【L1261】	ドイツ語上級A 1・B 1 [三浦 美紀子]	春学期授業/Spring	489
講義・実習科目	【L1263】	ドイツ語上級A 2・B 2 [マルクス グラスミュック]	春学期授業/Spring	490
講義・実習科目	【L1265】	ドイツ語上級A 3・B 3 [マルクス グラスミュック]	春学期授業/Spring	491
講義・実習科目	【L1262】	ドイツ語上級A 4・B 4 [三浦 美紀子]	秋学期授業/Fall	491
講義・実習科目	【L1264】	ドイツ語上級A 5・B 5 [マルクス グラスミュック]	秋学期授業/Fall	492
講義・実習科目	【L1266】	ドイツ語上級A 6・B 6 [マルクス グラスミュック]	秋学期授業/Fall	493
諸外国語初級	【L0331】	ドイツ語初級A [武藤 陽子、齋藤 萌]	春学期授業/Spring	493
諸外国語初級	【L0335】	ドイツ語初級A [武藤 陽子、齋藤 萌]	春学期授業/Spring	494
諸外国語初級	【L0333】	ドイツ語初級A [本田 博之、布川 恭子]	春学期授業/Spring	495
諸外国語初級	【L0337】	ドイツ語初級A [本田 博之、布川 恭子]	春学期授業/Spring	496
諸外国語初級	【L0340】	ドイツ語初級A [脇田 淳、濱中 春]	秋学期授業/Fall	497
諸外国語初級	【L0332】	ドイツ語初級B [武藤 陽子、齋藤 萌]	秋学期授業/Fall	498
諸外国語初級	【L0336】	ドイツ語初級B [武藤 陽子、齋藤 萌]	秋学期授業/Fall	499
諸外国語初級	【L0334】	ドイツ語初級B [本田 博之、布川 恭子]	秋学期授業/Fall	500
諸外国語初級	【L0338】	ドイツ語初級B [本田 博之、布川 恭子]	秋学期授業/Fall	501
諸外国語初級	【L0339】	ドイツ語初級B [脇田 淳、濱中 春]	春学期授業/Spring	502
講義・実習科目	【LG201】	ドイツ語中級1 [兼子 安弘]	春学期授業/Spring	503
講義・実習科目	【LG211】	ドイツ語中級1・2・3 [兼子 安弘]	秋学期授業/Fall	504
講義・実習科目	【LG203】	ドイツ語中級2 [三浦 美紀子]	春学期授業/Spring	505
講義・実習科目	【LG205】	ドイツ語中級3 [マルクス グラスミュック]	春学期授業/Spring	506
講義・実習科目	【LG202】	ドイツ語中級4 [兼子 安弘]	秋学期授業/Fall	506
講義・実習科目	【LG214】	ドイツ語中級4・5・6 [兼子 安弘]	春学期授業/Spring	507
講義・実習科目	【LG204】	ドイツ語中級5 [三浦 美紀子]	秋学期授業/Fall	508
講義・実習科目	【LG206】	ドイツ語中級6 [マルクス グラスミュック]	秋学期授業/Fall	509
講義・実習科目	【L0080】	統計学Ⅰ [鈴木 麻美]	秋学期授業/Fall	509
講義・実習科目	【L0081】	統計学Ⅱ [鈴木 麻美]	秋学期授業/Fall	510
講義・実習科目	【LL008-a】	統計基礎実習 [橋本 政樹]	春学期授業/Spring	511
講義・実習科目	【LL008-b】	統計基礎実習 [橋本 政樹]	春学期授業/Spring	512
講義・実習科目	【L0955】	統計基礎実習Ⅱ [橋本 政樹]	秋学期授業/Fall	513
講義・実習科目	【L0959】	統計基礎実習Ⅱ [橋本 政樹]	秋学期授業/Fall	514
講義・実習科目	【LB026】	統計調査法 [斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	515
講義・実習科目	【LD203】	都市空間とデザインⅠ [齋藤 伊久太郎]	春学期授業/Spring	516
講義・実習科目	【LD204】	都市空間とデザインⅡ [齋藤 伊久太郎]	秋学期授業/Fall	516
講義・実習科目	【LD205】	都市空間分析 [郭 東潤]	春学期授業/Spring	517
講義・実習科目	【L0661】	都市政策論 [長谷部 俊治]	春学期授業/Spring	518
講義・実習科目	【LA904】	特講 (NPO 論) [谷本 有美子]	秋学期授業/Fall	519
講義・実習科目	【LD115】	特講 (広告制作実習) [青木 貞茂]	秋学期授業/Fall	520
講義・実習科目	【LD135】	特講 (広告制作実習) [川越 智勇]	秋学期授業/Fall	521
講義・実習科目	【LA902】	特講 (国土政策論) [長谷部 俊治]	秋学期授業/Fall	522
講義・実習科目	【LD318】	特講 (デジタル情報環境実習) [土橋 臣吾]	秋学期授業/Fall	522
日本語	【L7461】	特講 (ビジネス日本語) [村上 佳恵]	春学期授業/Spring	523

日本語【L7462】特講（ビジネス日本語）[村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	524
講義・実習科目【LD901】特講（ローカルジャーナリズム論）[土橋 臣吾] オータムセッション/Autumn Session	524
講義・実習科目【LE111】Topics in Comparative Culture [ジョージ・ハン] 春学期授業/Spring	525
講義・実習科目【LA006】日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	526
日本語【L7431】日本語1-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	527
日本語【L7433】日本語1-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	528
日本語【L7451】日本語1-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	529
日本語【L7435】日本語1-I [李 址遠] 春学期授業/Spring	529
日本語【L7432】日本語1-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	530
日本語【L7434】日本語1-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	530
日本語【L7452】日本語1-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	531
日本語【L7436】日本語1-II [李 址遠] 秋学期授業/Fall	531
日本語【L7437】日本語2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	532
日本語【L7439】日本語2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	532
日本語【L7441】日本語2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	533
日本語【L7453】日本語2-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	533
日本語【L7438】日本語2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	534
日本語【L7440】日本語2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	534
日本語【L7442】日本語2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	535
日本語【L7454】日本語2-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	535
日本語【L7443】日本語3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	536
日本語【L7445】日本語3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	537
日本語【L7447】日本語3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	538
日本語【L7455】日本語3-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	539
日本語【L7444】日本語3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	539
日本語【L7446】日本語3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	540
日本語【L7448】日本語3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	540
日本語【L7456】日本語3-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	541
講義・実習科目【LD111-d】ニュース・ライティング [飯田 裕美子] 秋学期授業/Fall	541
講義・実習科目【LD111-a】ニュース・ライティング [別府 三奈子] 春学期授業/Spring	542
講義・実習科目【LB100】人間・社会論 [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	543
講義・実習科目【L0588】人間・社会論B [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	543
講義・実習科目【LL000】人間論 [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	544
講義・実習科目【L0677】人間論B [宮下 阿子] 秋学期授業/Fall	545
講義・実習科目【LD107】認知映像論 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	546
講義・実習科目【LD012】認知科学 [森 健治] 春学期授業/Spring	546
講義・実習科目【L2883】ネットワーク・プログラミング [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	547
講義・実習科目【LB102】発達・教育の理論I [山下 大厚] 春学期授業/Spring	548
講義・実習科目【LB103】発達・教育の理論II [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	549
講義・実習科目【LB302】表象文化論A [高橋 愛] 春学期授業/Spring	550
講義・実習科目【LB303】表象文化論B [野田 吉郎] 秋学期授業/Fall	551
講義・実習科目【LA208】福祉社会学I [堅田 香緒里] 春学期授業/Spring	551
講義・実習科目【LA209】福祉社会学II [堅田 香緒里] 秋学期授業/Fall	552
講義・実習科目【K5353】物理学I [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	552
講義・実習科目【K5354】物理学II [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	553
講義・実習科目【K5355】物理学I [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	554
講義・実習科目【K5356】物理学II [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	555
講義・実習科目【L1281】フランス語上級A1・B1 [高橋 愛] 春学期授業/Spring	556
講義・実習科目【L1283】フランス語上級A2・B2 [ヴェロゾ クリステル] 春学期授業/Spring	557
講義・実習科目【L1285】フランス語上級A3・B3 [ヴェロゾ クリステル] 春学期授業/Spring	558
講義・実習科目【L1282】フランス語上級A4・B4 [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	558
講義・実習科目【L1284】フランス語上級A5・B5 [ヴェロゾ クリステル] 秋学期授業/Fall	559
講義・実習科目【L1286】フランス語上級A6・B6 [ヴェロゾ クリステル] 秋学期授業/Fall	560
諸外国語初級【L0353】フランス語初級A [村上 由美、實谷 総一郎] 春学期授業/Spring	560
諸外国語初級【L0357】フランス語初級A [村上 由美、實谷 総一郎] 春学期授業/Spring	561
諸外国語初級【L0351】フランス語初級A [高橋 久美、佐藤 久仁子] 春学期授業/Spring	562
諸外国語初級【L0355】フランス語初級A [高橋 久美、佐藤 久仁子] 春学期授業/Spring	563

諸外国語初級	[L0360]	フランス語初級A [美頭 千不美、高橋 愛] 秋学期授業/Fall	564
諸外国語初級	[L0354]	フランス語初級B [村上 由美、實谷 総一郎] 秋学期授業/Fall	565
諸外国語初級	[L0358]	フランス語初級B [村上 由美、實谷 総一郎] 秋学期授業/Fall	566
諸外国語初級	[L0352]	フランス語初級B [高橋 久美、佐藤 久仁子] 秋学期授業/Fall	567
諸外国語初級	[L0356]	フランス語初級B [高橋 久美、佐藤 久仁子] 秋学期授業/Fall	568
諸外国語初級	[L0359]	フランス語初級B [美頭 千不美、高橋 愛] 春学期授業/Spring	569
講義・実習科目	[LF301]	フランス語中級1 [高橋 久美] 春学期授業/Spring	570
講義・実習科目	[LF311]	フランス語中級1・2・3 [美頭 千不美] 秋学期授業/Fall	571
講義・実習科目	[LF303]	フランス語中級2 [高橋 愛] 春学期授業/Spring	572
講義・実習科目	[LF305]	フランス語中級3 [ヴェロゾ クリステル] 春学期授業/Spring	572
講義・実習科目	[LF302]	フランス語中級4 [高橋 久美] 秋学期授業/Fall	573
講義・実習科目	[LF314]	フランス語中級4・5・6 [美頭 千不美] 春学期授業/Spring	574
講義・実習科目	[LF304]	フランス語中級5 [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	575
講義・実習科目	[LF306]	フランス語中級6 [ヴェロゾ クリステル] 秋学期授業/Fall	575
講義・実習科目	[LL007-c]	プログラミング初級 [伊藤 真利子] 春学期授業/Spring	576
講義・実習科目	[LL007-b]	プログラミング初級 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	576
講義・実習科目	[LL007-e]	プログラミング初級 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	577
講義・実習科目	[LL007-a]	プログラミング初級 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	578
講義・実習科目	[LL007-d]	プログラミング初級 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	578
講義・実習科目	[L2882]	プログラミング中級E [近藤 恵子] 秋学期授業/Fall	579
講義・実習科目	[LD017]	プログラミングと論理的思考 [湯本 正実] 春学期授業/Spring	580
情報教育基礎	[L0134]	プログラミング入門 [石井 由起] 秋学期授業/Fall	580
情報教育基礎	[L0166]	プログラミング入門 [石井 由起] 秋学期授業/Fall	581
情報教育基礎	[L0140]	プログラミング入門 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	581
情報教育基礎	[L0150]	プログラミング入門 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	582
情報教育基礎	[L0160]	プログラミング入門 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	582
情報教育基礎	[L0146]	プログラミング入門 [加藤 徹郎] 秋学期授業/Fall	583
情報教育基礎	[L0148]	プログラミング入門 [加藤 徹郎] 秋学期授業/Fall	584
情報教育基礎	[L0138]	プログラミング入門 [近藤 恵子] 秋学期授業/Fall	585
情報教育基礎	[L0162]	プログラミング入門 [近藤 恵子] 秋学期授業/Fall	585
情報教育基礎	[L0144]	プログラミング入門 [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall	586
情報教育基礎	[L0152]	プログラミング入門 [林田 和人] 秋学期授業/Fall	586
情報教育基礎	[L0154]	プログラミング入門 [林田 和人] 秋学期授業/Fall	587
情報教育基礎	[L0156]	プログラミング入門 [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	588
情報教育基礎	[L0168]	プログラミング入門 [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	589
情報教育基礎	[L0164]	プログラミング入門 [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	590
情報教育基礎	[L0142]	プログラミング入門 [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	591
情報教育基礎	[L0132]	プログラミング入門 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	592
講義・実習科目	[L0056]	文学 [彭 丹] 春学期授業/Spring	593
講義・実習科目	[LB300]	文化社会学A [武田 俊輔] 春学期授業/Spring	593
講義・実習科目	[LB301]	文化社会学B [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	594
講義・実習科目	[LB304]	文化人類学 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	595
講義・実習科目	[L0099]	平和論 [中村 長史] 春学期授業/Spring	596
Basic English	[L0201]	Basic English 1-I 1 [荒木 暢也] 春学期授業/Spring	598
Basic English	[L0206]	Basic English 1-I 1 4 [荒木 暢也] 春学期授業/Spring	599
Basic English	[L0202]	Basic English 1-I 2 [石垣 弥麻] 春学期授業/Spring	600
Basic English	[L0205]	Basic English 1-I 4 [市川 由季子] 春学期授業/Spring	601
Basic English	[L0207]	Basic English 1-I 1 5 [岡村 盛雄] 春学期授業/Spring	602
Basic English	[L0208]	Basic English 1-I 1 6 [岡村 盛雄] 春学期授業/Spring	603
Basic English	[L0218]	Basic English 1-I 9 [小林 テレサ] 春学期授業/Spring	604
Basic English	[L0203]	Basic English 1-I 3 [佐藤 修一] 春学期授業/Spring	605
Basic English	[L0223]	Basic English 1-I 2 2 [佐藤 修一] 春学期授業/Spring	606
Basic English	[L0204]	Basic English 1-I 1 1 [ジョナサン ブラウン] 春学期授業/Spring	607
Basic English	[L0224]	Basic English 1-I 2 3 [ジョナサン ブラウン] 春学期授業/Spring	608
Basic English	[L0214]	Basic English 1-I 5 [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	609
Basic English	[L0215]	Basic English 1-I 6 [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	610
Basic English	[L0210]	Basic English 1-I 7 [東郷 裕] 春学期授業/Spring	611

Basic English	[L0213]	Basic English 1-I	1 0	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	612
Basic English	[L0217]	Basic English 1-I	1 2	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	613
Basic English	[L0216]	Basic English 1-I	1 3	[ジョージ・ハン]	春学期授業/Spring	614
Basic English	[L0219]	Basic English 1-I	1 7	[広川 治]	春学期授業/Spring	615
Basic English	[L0220]	Basic English 1-I	1 8	[広川 治]	春学期授業/Spring	616
Basic English	[L0212]	Basic English 1-I	2 4	[深松 亮太]	春学期授業/Spring	617
Basic English	[L0211]	Basic English 1-I	8	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	618
Basic English	[L0209]	Basic English 1-I	1 9	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	619
Basic English	[L0221]	Basic English 1-I	2 0	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	620
Basic English	[L0222]	Basic English 1-I	2 1	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	621
Basic English	[L0226]	Basic English 1-II	1	[荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	622
Basic English	[L0231]	Basic English 1-II	1 4	[荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	623
Basic English	[L0227]	Basic English 1-II	2	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	624
Basic English	[L0230]	Basic English 1-II	4	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	625
Basic English	[L0232]	Basic English 1-II	1 5	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	626
Basic English	[L0233]	Basic English 1-II	1 6	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	627
Basic English	[L0243]	Basic English 1-II	9	[小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	628
Basic English	[L0228]	Basic English 1-II	3	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	629
Basic English	[L0248]	Basic English 1-II	2 2	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	630
Basic English	[L0229]	Basic English 1-II	1 1	[ジョナサン ブラウン]	秋学期授業/Fall	631
Basic English	[L0249]	Basic English 1-II	2 3	[ジョナサン ブラウン]	秋学期授業/Fall	632
Basic English	[L0239]	Basic English 1-II	5	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	633
Basic English	[L0240]	Basic English 1-II	6	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	634
Basic English	[L0235]	Basic English 1-II	7	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	635
Basic English	[L0238]	Basic English 1-II	1 0	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	636
Basic English	[L0242]	Basic English 1-II	1 2	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	637
Basic English	[L0241]	Basic English 1-II	1 3	[ジョージ・ハン]	秋学期授業/Fall	637
Basic English	[L0244]	Basic English 1-II	1 7	[広川 治]	秋学期授業/Fall	638
Basic English	[L0245]	Basic English 1-II	1 8	[広川 治]	秋学期授業/Fall	639
Basic English	[L0237]	Basic English 1-II	2 4	[深松 亮太]	秋学期授業/Fall	640
Basic English	[L0236]	Basic English 1-II	8	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	641
Basic English	[L0234]	Basic English 1-II	1 9	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	642
Basic English	[L0246]	Basic English 1-II	2 0	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	643
Basic English	[L0247]	Basic English 1-II	2 1	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	644
Basic English	[L0260]	Basic English 2-I	1 1	[荒木 暢也]	春学期授業/Spring	644
Basic English	[L0252]	Basic English 2-I	2	[石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	645
Basic English	[L0253]	Basic English 2-I	3	[石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	646
Basic English	[L0254]	Basic English 2-I	4	[市川 由季子]	春学期授業/Spring	647
Basic English	[L0255]	Basic English 2-I	5	[市川 由季子]	春学期授業/Spring	648
Basic English	[L0257]	Basic English 2-I	1 6	[岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	649
Basic English	[L0263]	Basic English 2-I	1 3	[岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	650
Basic English	[L0258]	Basic English 2-I	7	[高 美智]	春学期授業/Spring	651
Basic English	[L0259]	Basic English 2-I	8	[高 美智]	春学期授業/Spring	652
Basic English	[L0261]	Basic English 2-I	9	[小林 テレサ]	春学期授業/Spring	653
Basic English	[L0266]	Basic English 2-I	1 0	[小林 テレサ]	春学期授業/Spring	654
Basic English	[L0276]	Basic English 2-I	1	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	655
Basic English	[L0256]	Basic English 2-I	6	[田中 邦佳]	春学期授業/Spring	656
Basic English	[L0264]	Basic English 2-I	1 4	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	657
Basic English	[L0265]	Basic English 2-I	1 5	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	658
Basic English	[L0267]	Basic English 2-I	1 7	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	659
Basic English	[L0268]	Basic English 2-I	1 8	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	660
Basic English	[L0262]	Basic English 2-I	1 2	[広川 治]	春学期授業/Spring	661
Basic English	[L0269]	Basic English 2-I	1 9	[広川 治]	春学期授業/Spring	662
Basic English	[L0273]	Basic English 2-I	2 4	[深松 亮太]	春学期授業/Spring	663
Basic English	[L0274]	Basic English 2-I	2 3	[深松 亮太]	春学期授業/Spring	664
Basic English	[L0270]	Basic English 2-I	2 0	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	664
Basic English	[L0271]	Basic English 2-I	2 1	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	665

Basic English	[L0272]	Basic English 2-I	2 2	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	666
Basic English	[L0285]	Basic English 2-II	1 1	[荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	667
Basic English	[L0277]	Basic English 2-II	2	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	668
Basic English	[L0278]	Basic English 2-II	3	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	669
Basic English	[L0279]	Basic English 2-II	4	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	670
Basic English	[L0280]	Basic English 2-II	5	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	671
Basic English	[L0282]	Basic English 2-II	1 6	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	672
Basic English	[L0288]	Basic English 2-II	1 3	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	673
Basic English	[L0283]	Basic English 2-II	7	[高 美智]	秋学期授業/Fall	674
Basic English	[L0284]	Basic English 2-II	8	[高 美智]	秋学期授業/Fall	675
Basic English	[L0286]	Basic English 2-II	9	[小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	676
Basic English	[L0291]	Basic English 2-II	1 0	[小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	677
Basic English	[L0251]	Basic English 2-II	1	[佐藤 修一]	春学期授業/Spring	678
Basic English	[L0281]	Basic English 2-II	6	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	679
Basic English	[L0289]	Basic English 2-II	1 4	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	680
Basic English	[L0290]	Basic English 2-II	1 5	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	681
Basic English	[L0292]	Basic English 2-II	1 7	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	682
Basic English	[L0293]	Basic English 2-II	1 8	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	682
Basic English	[L0287]	Basic English 2-II	1 2	[広川 治]	秋学期授業/Fall	683
Basic English	[L0294]	Basic English 2-II	1 9	[広川 治]	秋学期授業/Fall	684
Basic English	[L0298]	Basic English 2-II	2 4	[深松 亮太]	秋学期授業/Fall	685
Basic English	[L0299]	Basic English 2-II	2 3	[深松 亮太]	秋学期授業/Fall	685
Basic English	[L0295]	Basic English 2-II	2 0	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	686
Basic English	[L0296]	Basic English 2-II	2 1	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	687
Basic English	[L0297]	Basic English 2-II	2 2	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	688
講義・実習科目	[L2922]	編集出版論 [熊谷 伸一郎]			秋学期授業/Fall	688
講義・実習科目	[L0100]	法と社会 [白田 秀彰]			春学期授業/Spring	689
講義・実習科目	[L0103]	法律学 [清水 弥生]			秋学期授業/Fall	690
講義・実習科目	[L0102]	法律学 (日本国憲法) [清水 弥生]			春学期授業/Spring	690
講義・実習科目	[L0691]	保健医療論 [森岡 崇]			春学期授業/Spring	691
講義・実習科目	[LD202]	マーケティング実践 [諸上 茂光]			秋学期授業/Fall	692
講義・実習科目	[LA011]	マクロ経済学 [北浦 康嗣]			秋学期授業/Fall	693
講義・実習科目	[L0779]	マクロ経済学Ⅱ [北浦 康嗣]			春学期授業/Spring	694
講義・実習科目	[LD209]	マス・コミュニケーション論 [藤田 真文]			春学期授業/Spring	695
講義・実習科目	[LA010]	ミクロ経済学 [北浦 康嗣]			春学期授業/Spring	696
講義・実習科目	[L0777]	ミクロ経済学Ⅱ [北浦 康嗣]			秋学期授業/Fall	697
講義・実習科目	[L0858]	民法 (家族法) [三宅 利昌]			秋学期授業/Fall	698
講義・実習科目	[LA009]	民法 (財産法) [松田 佳久]			秋学期授業/Fall	699
講義・実習科目	[LA008]	民法 (総則) [松田 佳久]			春学期授業/Spring	699
講義・実習科目	[LD000]	メディア研究法入門A [藤田 真文]			春学期授業/Spring	700
講義・実習科目	[LD001]	メディア研究法入門B [宇野 斉]			秋学期授業/Fall	701
講義・実習科目	[LD211]	メディアコンテンツ分析 [藤田 真文]			秋学期授業/Fall	702
講義・実習科目	[LD210]	メディアコンテンツ論 [藤田 真文]			秋学期授業/Fall	703
講義・実習科目	[LD004]	メディア社会学基礎A [土橋 臣吾]			秋学期授業/Fall	704
講義・実習科目	[LD005]	メディア社会学基礎B [稲増 龍夫]			春学期授業/Spring	705
講義・実習科目	[LD006]	メディア社会学基礎C [白田 秀彰]			春学期授業/Spring	706
講義・実習科目	[L0571]	メディア社会学への招待 [藤田 真文]			春学期授業/Spring	707
講義・実習科目	[LD002]	メディア社会入門Ⅰ [津田 正太郎]			春学期授業/Spring	707
講義・実習科目	[LD003]	メディア社会入門Ⅱ [津田 正太郎]			秋学期授業/Fall	708
講義・実習科目	[L0717]	メディア政策論 [松本 淳]			春学期授業/Spring	709
講義・実習科目	[LD300]	メディアテクノロジーと社会 [橋爪 絢子]			春学期授業/Spring	710
講義・実習科目	[LD302]	メディアテクノロジーと社会実習 [橋爪 絢子]			秋学期授業/Fall	710
講義・実習科目	[LD301]	メディアテクノロジーと社会分析 [橋爪 絢子]			秋学期授業/Fall	711
講義・実習科目	[LD007]	メディアと人間Ⅰ [坂上 香]			春学期授業/Spring	712
講義・実習科目	[LD008]	メディアと人間Ⅱ [坂上 香]			秋学期授業/Fall	713
講義・実習科目	[LD009]	メディアの思想 [小林 直毅]			秋学期授業/Fall	714
講義・実習科目	[LD206]	メディアの歴史 [小林 直毅]			春学期授業/Spring	714

講義・実習科目	【LD022-a】	メディアプログラミング実習 [湯本 正実]	秋学期授業/Fall	715
講義・実習科目	【LD022-b】	メディアプログラミング実習 [湯本 正実]	春学期授業/Spring	716
講義・実習科目	【LD100】	メディア文化論 [稲増 龍夫]	春学期授業/Spring	717
講義・実習科目	【LD726】	メディア文化論 I [稲増 龍夫]	秋学期授業/Fall	718
講義・実習科目	【LD207】	メディア分析技法 [小林 直毅]	秋学期授業/Fall	718
講義・実習科目	【LD208】	メディア分析実践 [小林 直毅]	春学期授業/Spring	719
講義・実習科目	【LD014】	メディア法 [白田 秀彰]	秋学期授業/Fall	720
講義・実習科目	【LD108】	物語シミュレーション [小川 有希子]	秋学期授業/Fall	721
講義・実習科目	【LB010】	理論社会学 [佐藤 成基]	秋学期授業/Fall	722
講義・実習科目	【LB106】	臨床社会学 I [木矢 幸孝]	春学期授業/Spring	723
講義・実習科目	【LB107】	臨床社会学 II [木矢 幸孝]	秋学期授業/Fall	724
講義・実習科目	【LB013】	歴史社会学 I [鈴木 智道]	春学期授業/Spring	724
講義・実習科目	【LB014】	歴史社会学 II [鈴木 智道]	秋学期授業/Fall	725
諸外国語初級	【L0401】	ロシア語初級 A [佐藤 裕子、長屋 房夫]	春学期授業/Spring	725
諸外国語初級	【L0402】	ロシア語初級 B [佐藤 裕子、長屋 房夫]	秋学期授業/Fall	726
講義・実習科目	【L1331】	ロシア語中級 1 [土岐 康子]	春学期授業/Spring	727
講義・実習科目	【L1333】	ロシア語中級 2 [長屋 房夫]	春学期授業/Spring	728
講義・実習科目	【L1332】	ロシア語中級 3 [土岐 康子]	秋学期授業/Fall	728
講義・実習科目	【L1334】	ロシア語中級 4 [長屋 房夫]	秋学期授業/Fall	729

SOC200EA

アメリカのジャーナリズム

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後、日本の報道メディア界に多大な影響を与えてきたアメリカのジャーナリズムを概観していきます。米国ジャーナリズム歴史の経緯と現状、そして種々の問題点を指摘し、常に日本の報道メディアの現状や問題点との関連性を念頭に講義を進めていきます。加えて、ネット時代のジャーナリズムについて、SNS を含めた諸課題を扱います。

2020/04/13 追記：

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、春学期授業をオンライン形式で行います。

【到達目標】

日本のジャーナリズムに多大な影響を与えてきた米国ジャーナリズムの歴史と現状、そして未来を適切に理解していくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの講義形式による。

以下に書き示す具体的な授業計画は、春学期全てがオンラインで行われることを前提としています。教室での授業が再開された時には、実際の教室でその場合の計画を説明します。

1. 4/22（水）～5/13（水）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDF ファイル）で提示します。映像ならびに音声を使っている授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/20（水）～7/8（水）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube 等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルの URL を記入します。諸君はその URL をクリックし、内容を確認してください。YouTube 教材は、全て画面に字幕が映し出されることを事前確認した上で指定します。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

3. 最終日（7/15）の授業

追って連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/22	①講義内容の概観と講義の目的 ②米国のジャーナリズムとは	①講義の全計画（講義シラバス）をプリント配布する。 ②計画講義概要説明、成績評価方法説明 ③米国のジャーナリズムの概観
5/6	パーソナル・ジャーナリズムの時代	・ベンジャミン・フランクリンのジャーナリズム ・独立の気運とジャーナリズム ・独立、建国とジャーナリズム ・貧しき負け犬たちの国作りとジャーナリズム
5/13	大衆紙の時代①	・大衆社会の到来とジャーナリズム① ・急速な工業発展と移民
5/20	大衆紙の時代②	・大衆社会の到来とジャーナリズム② ・移民とジャーナリズム
5/27	調査ジャーナリズムの時代①	・社会変革とジャーナリズム ・労働運動 ・社会の矛盾とジャーナリズム
6/3	調査ジャーナリズムの時代②	・権力とジャーナリズム① ・ウォーター・ゲート事件
6/10	調査ジャーナリズムの時代③	・権力とジャーナリズム② ・調査ジャーナリズムと日本
6/17	市場ジャーナリズム①	・テレビの台頭と情報娯楽 ・メディア産業の巨大化
6/24	市場ジャーナリズム②	・大統領選挙と市場ジャーナリズム ・トランプ現象とは？
7/1	市場ジャーナリズム③	・ネットジャーナリズムと市場ジャーナリズム ・Fake News

7/8 ジャーナリズムの今後

- ・ネット社会とジャーナリズム
- ・SNS とジャーナリズム

7/15 日米のジャーナリズム
まとめと解説

- ・WWII 敗戦と日本のジャーナリズム
- ・日本のジャーナリズムとアメリカ
- ・まとめと解説
- ・期末レポート提出
- ・提出締め切り等詳細は別途指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン講義で提示される米国ジャーナリズムの特徴が、現在の日本のメディア報道、ジャーナリズムにいかに関与しているのか、日々の新聞、テレビ報道、ネット報道等を注意深く観察する。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 4/22（水）～5/13（水）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDF ファイル）で提示します。映像ならびに音声を使っている授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/20（水）～7/8（水）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube 等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルの URL を記入します。諸君はその URL をクリックし、内容を確認してください。YouTube 教材は、全て画面に字幕が映し出されることを事前確認した上で指定します。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

3. 最終日（7/15）の授業

追って連絡します。

【参考書】

『メディア・コミュニケーション—その構造と機能』、法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

期末筆記レポート 100%

受講後、重要な質問、興味深い質問、意欲ある質問をした学生にはその分、特別に加点して評価します。まじめで熱心な受講学生は、常に高評価の対象です。

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59 以下 : D

未受験、採点不能: E

今回の事態は異例中の異例であり、その特殊性からレポートならびに毎回の課題提出を成績基準とします。その時、十分に気をつけて欲しい事柄を 2 点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・学生諸君の理解度にあわせる授業を心がけます。

・講義内容の性格上、英語での資料が使用されます。しかし、音声、映像の場合は、適宜日本語解説を行い（逐次通訳）、諸君の語学力の不安を解消します。
・学生諸君の理解度を確保するため、質問があれば即座に「学習支援システム」を利用して質問してください。重要な質問の場合は次回以降の講義で紹介し、解説を加えます。またその場合、質問をした学生に対して、その分を成績評価で加点します。

・期末レポートに関しては、6 月初旬に具体的内容を伝えます。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to the major issues and themes in the history of American journalism from the pre-Revolutionary War period up to the present.

The main objectives of the course are:

- ・To help students learn core historical knowledge about American journalism
- ・To help students understand American journalism in a broader historical context
- ・To help students realize why many aspects of Japanese journalism are influenced by American journalism

The lecture will be given in Japanese.

SSS300ED

意思決定論

宇野 齊

サブタイトル：Operations Research

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

意思決定のためのモデルとプロセスの理解。意思決定の実践的な進め方や注意点を理解し、より有効な意思決定ができるようになります。

【到達目標】

以下が実行できるようになります。

- 1 問題状況の把握とモデル化
- 2 意思決定プロセスの理解とし段階的実行
- 3 いくつかのタイプの問題について既存手法による分析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

問題の捉え方、考え方、モデル化の方法、意思決定のプロセスと情報を概観します。個人、組織、社会の各レベルでの意思決定問題の分析手法を学び、例題演習、グループ学習で理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	ガイダンスとイントロ、問題とは何か	授業内容を学生と教員で確認、問題と意思決定の見方・考え方を共有します。
第 02 回	状況モデル化と意思決定プロセス	状況の把握、分析のモデル化、問題解決への一連の行動プロセスを考察します。
第 03 回	意思決定と情報 1	情報の種類、程度、確からしさ等による意思決定への影響を学びます。
第 04 回	意思決定と情報 2	情報処理の不確かさ、信念、個別の利害に基づく意思決定を知ります。
第 05 回	価値基準と代替案の評価 1	階層分析法 (AHP) による分析を学び例題の演習により理解します。
第 06 回	価値基準と代替案の評価 2	複数主体の価値基準と代替案評価での意思決定をグループで演習します。
第 07 回	価値基準と代替案の評価 3	現実例から、価値基準と代替案の評価を演習します。
第 08 回	彼我の状況 1	二主体間の競争的状況をゲーム理論で分析します。
第 09 回	彼我の状況 2	二主体間の協力的状況をゲーム理論で分析します。
第 10 回	彼我の状況 3	多主体間での個別の決定と全体の結果についてグループで演習します。
第 11 回	複雑状況の把握と意思決定 1	ソフトシステム方法論 (SSM) の考え方を学び、例題で演習します。
第 12 回	複雑状況の把握と意思決定 2	ケースに関する SSM による分析をグループで行います。
第 13 回	複雑状況の把握と意思決定 3	実際の事例について分析を各自の問題としてグループで演習します。
第 14 回	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに掲載します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、学習支援システムに掲載します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25%、個別レポート 25 %、グループレポート 25%、期末試験 25 %。グループレポートが実施できない場合は、別の個人レポートを設定する。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを設定してください。

少なくとも表計算ソフト、ワープロソフトを使用します。

授業内で P C を使用する場合があります。事前案内に対応して個人用または多摩情報センター貸出用を持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

社会学部開講コンピュータ入門の内容理解は前提です。

なるべく統計学 I ・ II を（先行・並行）履修して下さい。

2018 年度以降入学者は、社会ネットワーク論 I ・ II に引き続き受講することが望ましいです。

受講許可が必要な科目です。事務課からの事前指示に対応してください。

【Outline and objectives】

Understand theoretical models and processes for decision making.

Understand practical ways of making decisions and precautions. You

can make more effective decisions.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明と、報告者の決定。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレソトピア国家：レソトピア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論

- | | | |
|----|-------------------------|----------------|
| 11 | イランのイスラーム統治体制の現状 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 12 | イラク「政治体制を巡る迷路」 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 13 | イスラエルの国家安全保障とパレスチナ問題の変遷 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 14 | ヨルダン—紛争との共生 | 受講生報告と教員を交えた議論 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の6項目を含むこと。まず授業前の準備として、次の5項目を書いて授業に参加します。①各回のテキスト部分を読んで、自分なりにわかったこと。②わからなかったこと。③知りたくなって調べてみてわかったこと。④調べてみてわからなかったこと。⑤授業で講師や他の学生と議論してみたいこと。

さらに授業の後には、その日の授業で、⑥議論してみてわかったこと。⑦やはりわからなかったこと。⑧これから自分で調べたり、考えたり、議論してみたいこと。

準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。

岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

提出された授業日誌について、予習50%、復讐50%、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

LANe200EA

English Oral Communication I

アラン バーグマン

サブタイトル：English Speech & Debate I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【その他の重要事項】

This semester has been affected by the Coronavirus Pandemic, so the syllabus has changed.

【Outline and objectives】

Because of going online, students will be asked to express written opinions about selected topics.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The emphasis Semester One of this class will expressing written opinions about discussion/debate topics.

【到達目標】

Because of going online the course goals for the first semester is now having students be able to express a written opinion about a topic which they will be able to support with facts or examples.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Because of going online, semester one will mainly focus on written responses to discussion/debate topics rather than presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	A Self-introduction	preparing a self introduction
week 2	hometown	preparing an essay about your hometown
week 3	marriage	giving and supporting your opinions about marriage
week 4	where to live	giving and supporting your opinions about where to live
week 5	childhood activities	giving and supporting your opinions about childhood activities
week 6	What to do about Grandmother	giving and supporting your opinions about the elderly
week 7	Watching TV	giving and supporting your opinions television
week 8	Your friend is a thief	giving and supporting your opinions about the limits of friendship
week 9	Capital Punishment	giving and supporting your opinions about the death penalty
week 10	LBGQ	giving and supporting your opinions about homosexuals in society
week 11	Things that go Bump in the night	giving and supporting your opinions about the supernatural
week 12		
week 13		
week 14		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare written presentations and complete assignments. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

The class text for semester 1 was SPEAKING OF SPEECH (Macmillan Languagehouse) by David Harrington and Charles LeBeau. We will use this for only a few activities this semester. We will focus on the presentation skills in the textbook when we have face to face classes. Most this semester's materials will be provided online by the instructor.

【参考書】

There are none this semester, but the students should use the Internet to research their topics.

【成績評価の方法と基準】

The situation has changed because of the Coronavirus. Grades will be based on the completion of assignments.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs and the needs of the situation.

【学生が準備すべき機器他】

a dictionary, a device for viewing and turning in online assignments.

LANe200EA

English Oral Communication I

ジョージ・ハン

サブタイトル：English Speech & Debate I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, most of the spring semester will be conducted online. Please note that this class will start on MAY 11, 2020.

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Students must attend class every week to evaluate other speechmakers. Points are awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters.
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3) Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to speech technique
2	Speechmaking	Introduction to speech technique (cont'd)
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction to presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction to debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

NOTE: As most of the spring semester will be conducted online, there will be changes to the grading criteria. Details will be posted on Hoppii on the first day of class.

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

LANe200EA

English Oral Communication I

ジョージ・ハン

サブタイトル：English Speech & Debate I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, most of the spring semester will be conducted online. Please note that this class will start on MAY 11, 2020.

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Students must attend class every week to evaluate other speechmakers. Points are awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters.
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3) Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to speech technique
2	Speechmaking	Introduction to speech technique (cont'd)
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction to presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction to debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

NOTE: As most of the spring semester will be conducted online, there will be changes to the grading criteria. Details will be posted on Hoppii on the first day of class.

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

LANe300EA

English Oral Communication II

アラン バーグマン

サブタイトル：English Speech & Debate II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The emphasis semester 2 of this class will be on using the techniques taught in the first semester to make effective presentations in English.

In addition, students will be able to express and support opinions about a variety of topics.

【到達目標】

The goal of the course for the student to become comfortable and competent at making presentations in English, and to be able to express and support opinions in English. Students should be able to adapt the skills and techniques learned in this class for use in their future careers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Semester two will focus on students' mastery of the basics of speechmaking as taught the first semester. They will be expected to demonstrate this mastery on a variety of different topics. In addition, they will be expected to give opinions in English and to support those opinions in classroom discussion/debate and in presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation for any new enrollees; review of a good speaker and a good speech	preparing a self-introduction
week 2	a self-introduction presentation; current events	preparing a current events presentation
week 3	current events presentation; technology	begin the issue of technology
week 4	technology; environmental problems	complete technology; begin the issue of environmental problems
week 5	environmental problems; cause and effect	complete the issue of environmental problems; prepare a cause and effect presentation
week 6	A Cause and Effect Presentation; marriage	begin the issue of marriage
week 7	marriage; LBGTQ	complete the issue of marriage; begin the topic of LBGTQ
week 8	LBGTQ	complete the issue of LBGTQ; prepare a future events (dream) presentation
week 9	Future Events Presentation; cause and effect	Dream Presentation; prepare a cause and effect presentation
week 10	cause and effect presentation; capital punishment	Cause and Effect Presentation; begin the topic of the death penalty
week 11	capital punishment; making an opinion speech	finish the topic of the death penalty; prepare a opinion presentation
week 12	Opinion Presentation	Opinion Presentation; begin the issue of "My Friend is a Thief"
week 13	My Friend is a Thief; neighborliness	finish the topic of My friend is a Thief; begin the neighborliness issue
week 14	make-ups; neighborliness	presentation make-ups; complete the neighborliness issue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare speeches and complete written assignments.

Considering the university setting, learning outside of class hours such as preparation, homework, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided by the instructor.

【参考書】

There are no reference books.

【成績評価の方法と基準】

Grades:

40% based on class participation and the completion of assignments.

40% based on the performance of in-class presentations.

20% on topic topic vocabulary quizzes

ATTENDANCE IS REQUIRED.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

【学生が準備すべき機器他】

a dictionary, a USB flash drive

【その他の重要事項】

It is strongly recommended that students have completed the first semester of Speech & Debate (Speech and Debate I).

Attendance is required. Even if absent, students are responsible for finding out and completing assignments for the next class.

Students using cell phones for non-class related activities will be marked absent.

【Outline and objectives】

In the second semester, students will be given the chance to demonstrate their mastery of the basics of speechmaking as taught the first semester.

Also, they will be expected to give opinions in English on a variety of issues, and to support and defend those opinions.

LANe300EA

English Oral Communication II

ジョージ・ハン

サブタイトル：English Speech & Debate II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

[Outline and objectives]

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Students must attend class every week to evaluate other speechmakers. Points are awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters.
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3) Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to class	Introduction/review of speech technique
2	Speechmaking	Intermediate speech techniques
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction/review of presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction/review of debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

LANe300EA

English Oral Communication II

ジョージ・ハン

サブタイトル：English Speech & Debate II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Students must attend class every week to evaluate other speechmakers. Points are awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters.
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3) Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to class	Introduction/review of speech technique
2	Speechmaking	Intermediate speech techniques
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction/review of presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction/review of debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

LANe200EA

English Drama I

ジョージ・ハン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, most of the spring semester will be conducted online. Please note that this class will start on MAY 6, 2020.

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Play 02 reading; plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Play 03 reading; plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Play 04 reading; plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Play 05 reading; plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

NOTE: As most of the spring semester will be conducted online, there will be changes to the grading criteria. Details will be posted on Hoppii on the first day of class.

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

LANe200EA

English Drama I

ジョージ・ハン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, most of the spring semester will be conducted online. Please note that this class will start on MAY 6, 2020.

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Play 02 reading; plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Play 03 reading; plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Play 04 reading; plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Play 05 reading; plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

NOTE: As most of the spring semester will be conducted online, there will be changes to the grading criteria. Details will be posted on Hoppii on the first day of class.

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

LANe300EA

English Drama II

ジョージ・ハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

LANe300EA

English Drama II

ジョージ・ハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業のオンライン化のためシラバス内容を随時変更します！

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは英文読解の速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・パラグラフの基本パターンを身につけ、様々なトピックのパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき使用できる語彙・英語表現を増やす。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。
- ・英語の本を一冊読み切る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*本授業の開始日は4/24（金）です。

・主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示・配布する。学生は各自で学習を行う。（可能な場合は教室での対面授業に移行する。）

・英語の本を各自一冊選び、読書レポート提出・プレゼンテーション実施

・成績評価は、主に文書・音声・動画ファイル等の提出物などで行う。

*詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	読解課題1 パラグラフ基礎1	読解・要約 パラグラフとは何か
第3回	読解課題2 パラグラフ基礎2	読解・要約 パラグラフの構成要素
第4回	*読書レポート関係 パラグラフ基礎3	レポート用の本の選定・入手 モデルにならってパラグラフ練習
第5回	読解課題3 Time Order パラグラフ1	読解・要約 Time Order のパラグラフとは
第6回	読解課題4 Time Order パラグラフ2	読解・要約 Time Order パラグラフ練習
第7回	読解課題5 Order of Importance パラグラフ1	読解・要約 Order of Importance パラグラフとは
第8回	読解課題6 Order of Importance パラグラフ2	読解・要約 Order of Importance パラグラフ練習
第9回	学期末課題1	学期末課題の説明、準備
第10回	読解課題7 学期末課題2	読解・要約 学期末課題の準備
第11回	学期末課題3	読書レポート プレゼンテーション
第12回	まとめ	学期末作文課題提出 レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、各種テストの準備、宿題の作成など
- ・リスニング/音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）
- ・Web上の教材の自習
- ・上記の時間は毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

①教材は「学習支援システム」上で随時指示、配布する。

②英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

・文法参考書：評判の良いものが一冊あると便利。文法参考書を参照する習慣を身につけてほしい。『総合英語 Evergreen』（=『総合英語 Forest』の後継）など

・自習向け Web サイト：BBC Learning English < <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/> > 授業でも利用予定

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回の課題、宿題など）60%
- ・読書レポート+プレゼンテーション 20%
- ・学期末作文課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【その他の重要事項】

AEPには多様な科目があります。授業内容が自分の目的に合っているかチェックしてから履修してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業のオンライン化のためシラバス内容を随時変更します！

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは英文読解の速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・パラグラフの基本パターンを身につけ、様々なトピックのパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき利用できる語彙・英語表現を増やす。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。
- ・英語の本を一冊読み切る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*本授業の開始日は4/24（金）です。

・主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示・配布する。学生は各自で学習を行う。（可能な場合は教室での対面授業に移行する。）

・英語の本を各自一冊選び、読書レポート提出・プレゼンテーション実施

・成績評価は、主に文書・音声・動画ファイル等の提出物などで行う。

*詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	読解課題1 パラグラフ基礎1	読解・要約 パラグラフとは何か
第3回	読解課題2 パラグラフ基礎2	読解・要約 パラグラフの構成要素
第4回	読解課題3 パラグラフ基礎3	読解・要約 モデルにならってパラグラフ練習
第5回	読解課題4 Time Order パラグラフ1	読解・要約 Time Order のパラグラフとは
第6回	読解課題5 Time Order パラグラフ2	読解・要約 Time Order パラグラフ練習
第7回	読解課題6 Order of Importance パラグラフ1	読解・要約 Order of Importance パラグラフとは
第8回	読解課題7 Order of Importance パラグラフ2	読解・要約 Order of Importance パラグラフ練習
第9回	学期末課題1	学期末課題の説明、準備
第10回	読解課題8 学期末課題2	読解・要約 学期末課題の準備
第11回	学期末課題3	読書レポート プレゼンテーション
第12回	まとめ	学期末作文課題提出 レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、各種テストの準備、宿題の作成など
- ・リスニング/音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）
- ・Web上の教材の自習
- ・上記の時間は毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

①教材は「学習支援システム」上で随時指示、配布する。

②英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

・文法参考書：評判の良いものが一冊あると便利。文法参考書を参照する習慣を身につけてほしい。『総合英語 Evergreen』（＝『総合英語 Forest』の後継）など

・自習向け Web サイト：BBC Learning English < <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/> > 授業でも利用予定

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回の課題、宿題など）60%
- ・読書レポート+プレゼンテーション 20%
- ・学期末作文課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【その他の重要事項】

AEPには多様な科目があります。授業内容が自分の目的に合っているかチェックしてから履修してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

ジョナサン ブラウン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では高度なアカデミックライティング技術及び、学術論文読解力を身につける。学生はグローバル化に関する学術論文を読み、分析し、まとめ上げ、批判的に考え学ぶ。なお、ライティングを通して学生自身の考えを探索しまとめ上げる。

【到達目標】

1) Increase academic vocabulary.

アカデミック語彙を増やす。

2) Improve reading comprehension and fluency.

読解力及びリーディングフルエンシーを向上させる。

3) Learn to read critically and evaluate an argument.

批判的に読み、議論を評価することを学ぶ。

4) Be able to compare and contrast various points of view from different texts.

様々な文章を読みながら多角的視点を持つようにする。

5) Be able to express and support one's own thoughts/opinions through writing.

自分の意見及び考えを英語で書き表すことができるようにする。

6) Become familiar with globalization and some of its effects.

グローバル化及び効果を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course begins May 6. This course adopts the content approach to language learning; students will read articles, watch short videos, and participate in class/group discussions on globalization and some of its effects. Additionally, students will complete in-class activities/worksheets to practice the target language/grammar needed for the major writing assignments in this class.

この科目では content-based 教授法を採用する。学生はグローバル化及び日本の社会問題における英文記事を読んだり、ビデオを見たり、グループディスカッションを行う。なお、この学期中に作成する英作文に必要な言語及び文法を学習するため、学生は様々な授業内アクティビティを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions; Module 1: Expository Essay - "What is globalization?"	Explanation of course and syllabus; Self- introductions; Expository essay structure; Introductory paragraph, body paragraphs, concluding paragraph
第 2 回	Module 1 continued	Watch Globalization Easily Explained; Outline; HW: Reading 1
第 3 回	Module 1 continued	Pair-work discussion; Draft 1; Improving your work; Peer review
第 4 回	Module 1 continued	Final Draft (500 words)
第 5 回	Module 2: Argumentative Essay - "Should endangered languages be protected?"	Developing arguments; Organizing argumentative essays
第 6 回	Module 2 continued	Linguistic/Cultural impact of globalization; Pair-work discussion; Outline
第 7 回	Module 2 continued	Draft 1; Improving your work; peer review
第 8 回	Module 2 continued	Draft 2; Instructor feedback
第 9 回	Module 2 continued	Final draft (800 words); Begin working on final presentations
第 10 回	Final Presentations	Final Presentations
第 11 回	none	none
第 12 回	none	none
第 13 回	none	none
第 14 回	none	none

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading assignments; essay writing; essay editing; listening review; presentation prep.

リーディング課題; エッセイの準備及び作成; エッセイの編集; リスニング復習; 発表の準備

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Skills 2 by Chin, Reid, Wray, and Yamazaki. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Essay 1 (300 words) エッセイ 1 (300 文字程度): 20%

Essay 2 (650 words) エッセイ 2 (650 文字程度): 30%

Essay drafts 下書き: 20%

Final PowerPoint Presentation 最終パワーポイントプレゼンテーション:

20% Pair-work Discussions/Peer Review 査読: 10%

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学期のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline and objectives】

This course focuses on developing academic reading and writing skills in English. Students will read academic articles on globalization and its various effects, analyze and synthesize ideas across texts, and learn to think critically about what they have read. Furthermore, through writing, students will explore and generate their own ideas related to the readings and learn how to effectively argue and support their positions.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

ステラ 山崎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will increase vocabulary, reading speed and comprehension of academic texts in sociology and end with production of a 5-paragraph essay.

【到達目標】

社会的現象に関する英文が読めるようになり、その内容について自分の意見を 300 語程度の英作文で表現できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教材の各章を読み、その内容を受講生の間で議論したり、関連したトピックについて自分の考えを英語で書きます。Online Apr.27-

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction; Marriage: A Changing Institution	授業の概要説明 vocab, graph, reading
2	The Family Today	meanings, skim, notetaking
3	How We Learn to Behave	definitions, discussion, review
4	The Influence of the Culture	terms, examples, collocation, write
5	Peer Groups	rephrase, synonyms, antonyms
6	Crowds	speed read, grammar, structure, write
7	Midterm Test	vocabulary, T/F, write
8	Growing up Male or Female	chart, contrast, context
9	Gender and Academic Achievement	graphics, predict, summarize
10	The Influence of Mass Media on Gender Roles	details, passive, adjectives, write
11	Balancing Home and Work	details, word families, quotes
12	It's Not So Easy Being Male	pronouns, definitions, personality
13	Gender Equality at Work	supporting ideas, clues, final writing test
14	Final Test	vocabulary, 300 word essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習をすること。語句を調べ、毎回のテーマについて討論できるように準備をすること。ライティング課題を用意すること。毎週の小テスト（語彙、内容）について準備をすること。Two hours of review and two hours of preparation for each class are required.

【テキスト（教科書）】

Williams, J., Brown, K. & Hood, S. (2012). Academic Encounters: Life in Society, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

英和と和英辞典が必要になります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での参加、時間厳守）30 %

課題の提出と毎週の小テスト 45 %

中間テストと期末テスト 25 %

Objectives, course plan, materials and evaluation may change. Online 80% tests and homework, 20% participation.

【学生の意見等からの気づき】

More writing and vocabulary practice

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class. Book or electronic dictionaries okay. No cell phone dictionaries.

【Outline and objectives】

We will cover one text unit per week: vocabulary, reading, and exercises. The main objectives are improving reading speed and comprehension through vocabulary and word study.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業のオンライン化のためシラバス内容を変更中です！

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは比較的難易度が低く短い英文を使い、速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・様々なトピックについてシンプルなパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき使用できる語彙・英語表現を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・英文読解/和訳練習：教材のタスクをこなす；予習に基づき発表する。
- ・パラグラフ・ライティングの練習：様々なスタイル、トピックのパラグラフを書く。
- ・各種テストなど：小テスト、学期末テスト、作文プロジェクト

【注意】春・秋学期を連続したものととして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

【注意】春学期初回授業のガイダンスに必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、受講許可
第 2 回	英文読解 5/パラグラフ基礎復習	読解作業、パラグラフ基礎確認
第 3 回	英文精読 5/Writing Process	精読作業、パラグラフ作文の手順
第 4 回	Instruction のパラグラフ 1	Instruction のパラグラフとは
第 5 回	英文読解 6/Instruction のパラグラフ 2	読解作業、Instruction のパラグラフの作文
第 6 回	英文精読 6/Narrative のパラグラフ 1	精読作業、Narrative のパラグラフとは
第 7 回	Narrative のパラグラフ 2	Narrative のパラグラフ作文
第 8 回	英文読解 7/Opinion のパラグラフ 1	読解作業、Opinion のパラグラフとは
第 9 回	英文精読 7/Opinion のパラグラフ 2	精読作業、Opinion のパラグラフ作文
第 10 回	Opinion のパラグラフ 3	読解練習、Opinion のパラグラフ作文
第 11 回	英文読解 8/Writing Project 1	読解作業、課題作文説明
第 12 回	英文精読 8/Writing Project 2	精読作業、課題作文作成
第 13 回	読解応用/Writing Project 3	難易度の高い英文読解、課題作文作成
第 14 回	まとめ	期末テスト、今期のまとめ他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、各種テストの準備、宿題の作成など
- ・リスニング/音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）
- ・上記の時間は毎回 4 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ・リーディング教材：600 ~ 700 words 程度の長さの比較的難易度の低い英文が中心、時々やや難易度の高い英文も使用
- ・ライティング教材：初歩的なパラグラフ・ライティング練習用のもの
- ・リスニング・音読練習用にリーディング教材の音声ファイル（注：上の 3 つは配布するので購入の必要はない。）

- ・英語辞書：毎回の授業で必須

【重要】春学期初回授業（ガイダンス）で教材サンプルを示す。難易度等を検討の上、履修すること。

【参考書】

- ・文法参考書：この授業ではある程度の文法知識が必須。日頃から参照すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト（各授業の復習）20 %
- ・作文プロジェクト（学期末の提出課題）20 %

- ・筆記テスト（学習内容全体について）40 %
- ・平常点（発表、宿題など）20 %

【注意】10 回以上の出席を単位取得の必須条件とする。15 分以上の遅刻は出席と認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器が必要。教材の音声は「授業支援システム」からダウンロードする。パソコンで作成する課題がある。

【その他の重要事項】

授業中、スマホ類の使用は原則禁止

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業のオンライン化のためシラバス内容を変更中です！

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは比較的難易度が低く短い英文を使い、速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・様々なトピックについてシンプルなパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき使用できる語彙・英語表現を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・英文読解／和訳練習：教材のタスクをこなす；予習に基づき発表する。
- ・パラグラフ・ライティングの練習：様々なスタイル、トピックのパラグラフを書く。
- ・各種テストなど：小テスト、学期末テスト、作文プロジェクト

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

【注意】春学期初回授業のガイダンスに必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、受講許可
第 2 回	英文読解 5/パラグラフ基礎復習	読解作業、パラグラフ基礎確認
第 3 回	英文精読 5/Writing Process	精読作業、パラグラフ作文の手順
第 4 回	Instruction のパラグラフ 1	Instruction のパラグラフとは
第 5 回	英文読解 6/Instruction のパラグラフ 2	読解作業、Instruction のパラグラフ作文
第 6 回	英文精読 6/Narrative のパラグラフ 1	精読作業、Narrative のパラグラフとは
第 7 回	Narrative のパラグラフ 2	Narrative のパラグラフ作文
第 8 回	英文読解 7/Opinion のパラグラフ 1	読解作業、Opinion のパラグラフとは
第 9 回	英文精読 7/Opinion のパラグラフ 2	精読作業、Opinion のパラグラフ作文
第 10 回	Opinion のパラグラフ 3	読解練習、Opinion のパラグラフ作文
第 11 回	英文読解 8/Writing Project 1	読解作業、課題作文説明
第 12 回	英文精読 8/Writing Project 2	精読作業、課題作文作成
第 13 回	読解応用/Writing Project 3	難易度の高い英文読解、課題作文作成
第 14 回	まとめ	期末テスト、今期のまとめ他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、各種テストの準備、宿題の作成など
- ・リスニング／音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）
- ・上記の時間は毎回 4 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ・リーディング教材：600 ～ 700 words 程度の長さの比較的難易度の低い英文が中心、時々やや難易度の高い英文も使用
- ・ライティング教材：初歩的なパラグラフ・ライティング練習用のもの
- ・リスニング・音読練習用にリーディング教材の音声ファイル（注：上の 3 つは配布するので購入の必要はない。）
- ・英語辞書：毎回の授業で必須

【重要】春学期初回授業（ガイダンス）で教材サンプルを示す。難易度等を検討の上、履修すること。

【参考書】

- ・文法参考書：この授業ではある程度の文法知識が必須。日頃から参照すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト（各授業の復習）20 %
- ・作文プロジェクト（学期末の提出課題）20 %

- ・筆記テスト（学習内容全体について）40 %
- ・平常点（発表、宿題など）20 %

【注意】10 回以上の出席を単位取得の必須条件とする。15 分以上の遅刻は出席と認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器が必要。教材の音声は「授業支援システム」からダウンロードする。パソコンで作成する課題がある。

【その他の重要事項】

授業中、スマホ類の使用は原則禁止

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

ジョナサン ブラウン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では高度なアカデミックライティング技術及び、学術論文読解力を身につける。学生は社会問題に関する学術論文を読み、分析し、まとめ上げ、批判的に考え学ぶ。なお、ライティングを通して学生自身の考えを探索しまとめ上げる。

【到達目標】

- 1) Increase academic vocabulary.
アカデミック語彙を増やす。
- 2) Improve reading comprehension and fluency.
読解力及びリーディングフルエンシーを向上させる。
- 3) Learn to read critically and evaluate an argument.
批判的に読み、議論を評価することを学ぶ。
- 4) Be able to compare and contrast various points of view from different texts.
様々な文章を読みながら多角的視点を持てるようにする。
- 5) Be able to express and support one's own thoughts/opinions through writing.
自分の意見及び考えを英語で書き表すことができるようにする。
- 6) Become familiar with current social problems in Japan and some of its effects.
現在の日本における社会問題及び効果を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course adopts the content approach to language learning; students will read articles, watch short videos, and participate in class/group discussions on current social problems in Japan and some of its effects. Additionally, students will complete in-class activities/worksheets to practice the target language/grammar needed for the major writing assignments in this class.

この科目では content-based 教授法を採用する。学生は日本の社会問題における英文記事を読んだり、ビデオを見たり、グループディスカッションを行う。なお、この学期中に作成する英作文に必要な言語及び文法を学習するため、学生は様々な授業内アクティビティを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions Module 1: Research	Explanation of course and syllabus Plagiarism; Using outside sources in academic essays; Making a reference list (APA style) Citing sources (APA style)
第 2 回	Module 1 continued	APA Style Test; AWS 2, Unit 4, Part 1: Compare and contrast essay structure; Read "What is Nationalism?"
第 3 回	Module 2: Compare/Contrast Essay - "Patriotism vs. Nationalism"	AWS 2, Unit 4, Part 2: Describing similarities and differences; Read "What is Patriotism?"; Outline
第 4 回	Module 2 continued	AWS 2, Unit 4, Part 3: Improving your work; Draft 1
第 5 回	Module 2 continued	Draft 2
第 6 回	Module 1 continued	Final draft
第 7 回	Module 1 continued	Read "Japan's Population Problem"; Watch "Are the Japanese Risking Extinction?" Outline
第 8 回	Module 3: Problem & Solution	Read "Aging of Japan"; Watch "Aging Japan: Burden of a Graying Planet"; Watch "How is Japan Dealing with its Rapidly Aging Population"; Draft 1
第 9 回	Module 3 continued	Draft 2
第 10 回	Module 3 continued	Final draft
第 11 回	Module 3 continued	Final Poster
第 12 回	Final Poster Presentations	What are poster presentations and how do you make one?
第 13 回	Christmas Movie	Christmas Movie

第 14 回 Final Poster Work on posters and print
Presentations (Presentations will be held during
continued final exam week with ERW BII)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading assignments; essay writing; essay editing; listening review; presentation prep.

リーディング課題; エッセイの準備及び作成; エッセイの編集; リスニング復習; 発表の準備

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Skills 2 by Chin, Reid, Wray, and Yamazaki. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Essay 1 (700 words) エッセイ 1 (700 文字程度): 20%

Essay 2 (1000 words) エッセイ 2 (1000 文字程度): 30%

Essay drafts 下書き: 10%

APA Style Test APA スタイルテスト 10%

Final Poster Presentation 最終ポスタープレゼンテーション: 20%

Class Participation 授業参加: 10%

(15 分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を 3 回した場合、1 回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline and objectives】

This course focuses on developing academic reading and writing skills in English. Students will read academic articles on current social problems in Japan and its various effects, analyze and synthesize ideas across texts, and learn to think critically about what they have read. Furthermore, through writing, students will explore and generate their own ideas related to the readings and learn how to effectively argue and support their positions.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

ステラ 山崎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will increase vocabulary, reading speed and comprehension of academic texts on sociology and end with production of a 5-paragraph essay.

【到達目標】

社会的現象に関する英文が読めるようになり、その内容について自分の意見を 300 語程度の英作文で表現できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教材の各章を読み、その内容を受講生の間で議論したり、関連したトピックについて自分の考えを英語で書きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction, The Role of Mass Media	授業の概要説明, topic, vocab, linking, highlighting
2	What is Newsworthy?	reflect, compounds, summarize
3	Privacy and the Media	predict, true/false, mapping, write
4	The Impact of the Internet on Mass Media	scan, speed read, affixes
5	Social Media	graphs, acad. vocab, personalizing
6	Learning and Thinking with New Media	multiple choice, context, outlining, write
7	Midterm Test	vocab, T/F, write
8	Deviance and Crime	tables, passive, cartoons
9	Who Commits Crime?	read critically, compare data, vocab
10	Technology and Crime	main idea, synonyms, collocations, write
11	What Stops Us from Committing Crimes?	highlights, control words, word families
12	Science and Technology in Crime Fighting	details, graphic data, order
13	Crime and Punishments	chart making, application, final writing test
14	Final Test	vocab, 300 word essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習をすること。語句を調べ、毎回のテーマについて討論できるように準備をすること。ライティング課題を用意すること。毎週の小テスト（語彙、内容）について準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Williams, J., Brown, K. & Hood, S. (2012). Academic Encounters: Life in Society, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

英和と和英辞典が必要になります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での参加、時間厳守） 30 %

課題の提出と毎週の小テスト 45 %

中間テストと期末テスト 25 %

The objectives, course plan, materials and system for evaluation may be changed to better meet the needs of the learners.

【学生の意見等からの気づき】

More writing

【Outline and objectives】

We will cover one text unit per week plus writing practice. Objectives are increased reading speed and comprehension and production of the 5-paragraph essay.

LANe200EA

English Reading & Writing B I

ジョナサン ブラウン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では高度なアカデミックライティング技術及び、学術論文読解力を身につける。学生はグローバル化に関する学術論文を読み、分析し、まとめ上げ、批判的に考え学ぶ。なお、ライティングを通して学生自身の考えを探索しまとめ上げる。

【到達目標】

- 1) Increase academic vocabulary.
アカデミック語彙を増やす。
- 2) Improve reading comprehension and fluency.
読解力及びリーディングフルエンシーを向上させる。
- 3) Learn to read critically and evaluate an argument.
批判的に読み、議論を評価することを学ぶ。
- 4) Be able to compare and contrast various points of view from different texts.
様々な文章を読みながら多角的視点を持てるようにする。
- 5) Be able to express and support one's own thoughts/opinions through writing.
自分の意見及び考えを英語で書き表すことができるようにする。
- 6) Become familiar with globalization and some of its effects.
グローバル化及び効果を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course begins May 5. This course adopts the content approach to language learning; students will read articles, watch short videos, and participate in class/group discussions on globalization and some of its effects. Additionally, students will complete in-class activities/worksheets to practice the target language/grammar needed for the major writing assignments in this class.

この科目では content-based 教授法を採用する。学生はグローバル化及び日本の社会問題における英文記事を読んだり、ビデオを見たり、グループディスカッションを行う。なお、この学期中に作成する英作文に必要な言語及び文法を学習するため、学生は様々な授業内アクティビティを行う。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus; Self-introductions
第 2 回	Module 1: Expository Essay - "What is globalization?"	AWS 2, Unit 1 - Part 1: Expository essay structure; Introductory paragraph
第 3 回	Module 1 continued	AWS 2, Unit 1 - Part 2: Body paragraphs, concluding paragraphs, and outlining
第 4 回	Module 1 continued	Watch Globalization Easily Explained; Draft 1
第 5 回	Module 1 continued	Reading 1; Draft 2
第 6 回	Module 1 continued	Final Draft
第 7 回	Module 2: Argumentative Essay - "Should endangered languages be protected?"	AWS 2, Unit 3 - Part 1: Developing arguments; Linguistic/Cultural impact of globalization
第 8 回	Module 2 continued	AWS 2, Unit 3 - Part 2: Organizing argumentative essays; Outline
第 9 回	Module 2 continued	AWS 2, Unit 3 - Part 3: Improving your work; Draft 1
第 10 回	Module 2 continued	Draft 1 continued
第 11 回	Module 2 continued	Draft 2
第 12 回	Module 2 continued	Final draft; Begin working on final presentations
第 13 回	Final Presentations - "Should endangered languages be protected?"	Final presentations
第 14 回	Final Presentations continued	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading assignments; essay writing; essay editing; listening review; presentation prep.

リーディング課題; エッセイの準備及び作成; エッセイの編集; リスニング復習; 発表の準備

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Skills 2 by Chin, Reid, Wray, and Yamazaki. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary. 和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Essay 1 (500 words) エッセイ 1 (500 文字程度): 20%

Essay 2 (800 words) エッセイ 2 (800 文字程度): 30%

Essay drafts 下書き: 20%

Final PowerPoint Presentation 最終パワーポイントプレゼンテーション:

20% Pair-work Discussions/Peer Review 査読: 10%

【学生の意見等からの気づき】

エッセイの数を減らした。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学期のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline and objectives】

This course focuses on developing academic reading and writing skills in English. Students will read academic articles on globalization and its various effects, analyze and synthesize ideas across texts, and learn to think critically about what they have read. Furthermore, through writing, students will explore and generate their own ideas related to the readings and learn how to effectively argue and support their positions.

LANe200EA

English Reading & Writing B I

ステラ 山崎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will increase vocabulary, reading speed and comprehension of academic texts in sociology and end with production of a 5-paragraph essay.

【到達目標】

社会的現象に関する英文が読めるようになり、その内容について自分の意見を 300 語程度の英作文で表現できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教材の各章を読み、その内容を受講生の間で議論したり、関連したトピックについて自分の考えを英語で書きます。Online Apr. 21-

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction; Marriage: A Changing Institution	授業の概要説明 vocab, graph, reading
2	The Family Today	meanings, skim, notetaking
3	How We Learn to Behave	definitions, discussion, review
4	The Influence of the Culture	terms, examples, collocation, write
5	Peer Groups	rephrase, synonyms, antonyms
6	Crowds	speed read, grammar, structure, write
7	Midterm Test	vocabulary, T/F, write
8	Growing up Male or Female	chart, contrast, context
9	Gender and Academic Achievement	graphics, predict, summarize
10	The Influence of Mass Media on Gender Roles	details, passive, adjectives, write
11	Balancing Home and Work	details, word families, quotes
12	It's Not So Easy Being Male	pronouns, definitions, personality
13	Gender Equality at Work	supporting ideas, clues, final writing test
14	Final Test	vocabulary, 300 word essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習をすること。語句を調べ、毎回のテーマについて討論できるように準備をすること。ライティング課題を用意すること。毎週の小テスト（語彙、内容）について準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Williams, J., Brown, K. & Hood, S. (2012). Academic Encounters: Life in Society, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

英和と和英辞典が必要になります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での参加、時間厳守）30 %
課題の提出と毎週の小テスト 45 %
中間テストと期末テスト 25 %; online: tests, homework 80%; participation, 20%
I may make changes to meet learner needs.

【学生の意見等からの気づき】

More writing and vocabulary practice

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class. Book or electronic dictionaries okay. No cell phone dictionaries.

【Outline and objectives】

We will cover one text unit per week. The main objectives are improving reading speed and comprehension through word study.

LANe300EA

English Reading & Writing B II

ジョナサン ブラウン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では高度なアカデミックライティング技術及び、学術論文読解力を身につける。学生は社会問題に関する学術論文を読み、分析し、まとめ上げ、批判的に考え学ぶ。なお、ライティングを通して学生自身の考えを探索しまとめ上げる。

【到達目標】

- 1) Increase academic vocabulary.
アカデミック語彙を増やす。
- 2) Improve reading comprehension and fluency.
読解力及びリーディングフルエンシーを向上させる。
- 3) Learn to read critically and evaluate an argument.
批判的に読み、議論を評価することを学ぶ。
- 4) Be able to compare and contrast various points of view from different texts.
様々な文章を読みながら多角的視点を持てるようにする。
- 5) Be able to express and support one's own thoughts/opinions through writing.
自分の意見及び考えを英語で書き表すことができるようにする。
- 6) Become familiar with current social problems in Japan and some of its effects.
現在の日本における社会問題及び効果を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course adopts the content approach to language learning; students will read articles, watch short videos, and participate in class/group discussions on current social problems in Japan and some of its effects. Additionally, students will complete in-class activities/worksheets to practice the target language/grammar needed for the major writing assignments in this class.

この科目では content-based 教授法を採用する。学生は日本の社会問題における英文記事を読んだり、ビデオを見たり、グループディスカッションを行う。なお、この学期中に作成する英作文に必要な言語及び文法を学習するため、学生は様々な授業内アクティビティを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Guidance/Introductions Module 1: Research	Explanation of course and syllabus Plagiarism; Using outside sources in academic essays; Making a reference list (APA style)
2	Module 1 continued	Citing sources (APA style)
3	Module 2: Compare/Contrast Essay - "Patriotism vs. Nationalism"	APA Style Test; AWS 2, Unit 4, Part 1: Compare and contrast essay structure; Read "What is Nationalism?"
4	Module 2 continued	AWS 2, Unit 4, Part 2: Describing similarities and differences; Read "What is Patriotism?"; Outline
5	Module 2 continued	AWS 2, Unit 4, Part 3: Improving your work; Draft 1
6	Module 2 continued	Draft 2
7	Module 2 continued	Final draft
8	Module 3: Problem & Solution	Read "Japan's Population Problem"; Watch "Are the Japanese Risking Extinction?" Outline
9	Module 3 continued	Read "Aging of Japan"; Watch "Aging Japan: Burden of a Graying Planet"; Draft 1
10	Module 3 continued	Draft 2
11	Module 3 continued	Final draft
12	Final Poster Presentations	What are poster presentations and how do you make one?
13	Christmas Movie	Christmas Movie
14	Final Poster Presentations continued	Work on posters and print (Presentations will be held during final exam week with ERW AII)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading assignments; essay writing; essay editing; listening review; presentation prep.

リーディング課題; エッセイの準備及び作成; エッセイの編集; リスニング復習; 発表の準備

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Skills 2 by Chin, Reid, Wray, and Yamazaki. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.
和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Essay 1 (1000 words) エッセイ 1 (100 文字程度): 20%

Essay 2 (1500 words) エッセイ 2 (1500 文字程度): 30%

Essay drafts 下書き: 10%

APA Style Test APA スタイルテスト 10%

Final Poster Presentation 最終ポスタープレゼンテーション: 20%

Class Participation 授業参加: 10%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline and objectives】

This course focuses on developing academic reading and writing skills in English. Students will read academic articles on current social problems in Japan and its various effects, analyze and synthesize ideas across texts, and learn to think critically about what they have read. Furthermore, through writing, students will explore and generate their own ideas related to the readings and learn how to effectively argue and support their positions.

LANe300EA

English Reading & Writing B II

ステラ 山崎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will increase vocabulary, reading speed and comprehension of academic texts on sociology and end with production of a 5-paragraph essay.

【到達目標】

社会的現象に関する英文が読めるようになり、その内容について自分の意見を 300 語程度の英作文で表現できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教材の各章を読み、その内容を受講生の間で議論したり、関連したトピックについて自分の考えを英語で書きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction, The Role of Mass Media	授業の概要説明, topic, vocab, linking, highlighting
2	What is Newsworthy?	reflect, compounds, summarize
3	Privacy and the Media	predict, true/false, mapping, write
4	The Impact of the Internet on Mass Media	scan, speed read, affixes
5	Social Media	graphs, acad. vocab, personalizing
6	Learning and Thinking with New Media	multiple choice, context, outlining, write
7	Midterm Test	vocab, T/F, write
8	Deviance and Crime	tables, passive, cartoons
9	Who Commits Crime?	read critically, compare data, vocab
10	Technology and Crime	main idea, synonyms, collocations, write
11	What Stops Us from Committing Crimes?	highlights, control words, word families
12	Science and Technology in Crime Fighting	details, graphic data, order
13	Crime and Punishments	chart making, application, final writing test
14	Final Test	vocab, 300 word essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習をすること。語句を調べ、毎回のテーマについて討論できるように準備をすること。ライティング課題を用意すること。毎週の小テスト（語彙、内容）について準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Williams, J., Brown, K. & Hood, S. (2012). Academic Encounters: Life in Society, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】

英和と和英辞典が必要になります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での参加、時間厳守） 30 %

課題の提出と毎週の小テスト 45 %

中間テストと期末テスト 25 %

The objectives, course plan, materials and system for evaluation may be changed to better meet the needs of the learners.

【学生の意見等からの気づき】

More writing and vocabulary

【Outline and objectives】

We will cover one unit of the text per week plus writing practice. Objectives are increased reading speed and comprehension and production of the 5-paragraph essay.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

アラン バーグマン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of the course is to provide students with test-taking strategies and to develop the language skills necessary to improve their TOEIC scores.

【到達目標】

The goal of the course is to improve students' TOEIC scores with particular emphasis on listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The course will cover basic background on the format of the test, the keys to higher scores, audio comprehension skills, and vocabulary development. The main focus of this course will be to improve students' listening comprehension skills with particular emphasis on the four types of listening comprehension questions used in the TOEIC.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation and getting started	sentences about photographs - vocabulary exercises, listening comprehension
week 2	listening comprehension (unit 1)	sentences with meaning problems - sentences with sound problems - vocabulary exercises, listening comprehension
week 3	listening comprehension (unit 1)	sentences with sound and meaning problems - vocabulary exercises, listening comprehension
week 4	listening comprehension (unit 2)	information questions - yes/no questions - vocabulary exercises, listening comprehension
week 5	listening comprehension (unit 2)	other types of questions and statements - vocabulary exercises, listening comprehension
week 6	listening comprehension (unit 2)	recognizing distractors - vocabulary exercises, listening comprehension
week 7	listening comprehension (unit 3)	short conversation overview - questions - vocabulary exercises, listening comprehension
week 8	listening comprehension (unit 3)	short conversation detail questions - short conversation inference questions - vocabulary exercises, listening comprehension
week 9	listening comprehension (unit 4)	short talks - public announcements, news, weather, public service bulletins - vocabulary exercises, listening comprehension
week 10	listening comprehension (unit 4)	short talks - commercial messages, and business talks - vocabulary exercises, listening comprehension
week 11	listening comprehension (unit 4)	short talks - recorded messages - vocabulary exercises, listening comprehension
week 12	practice listening test	practice listening test and review - vocabulary exercises, listening comprehension
week 13	Listening Test	Listening Test
week 14	test review	test review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

To complete homework assignments from the textbook.

Considering the university setting, learning outside of class hours such as preparation, homework, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

The class text will be Complete Guide To The TOEIC Test 4th Edition (HEINLE) by Bruce Rogers.

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

60% based on participation and the completion of assignments
40% based on a semester exam
ATTENDANCE IS REQUIRED.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

【学生が準備すべき機器他】

a dictionary

【その他の重要事項】

Attendance is required. Even if absent, students are responsible for finding out and completing assignments for the next class.

Students using cell phones for non-class related activities will be marked absent.

【Outline and objectives】

This is a one semester course. Students will be instructed on the basics of taking the TOEIC with particular focus on the Listening section of the test and the improvement of their skills in this area.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

アラン バーグマン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of the course is to provide students with test-taking strategies and to develop the language skills necessary to improve their TOEIC scores.

【到達目標】

The goal of the course is to improve students' TOEIC scores with particular emphasis on listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The course will cover basic background on the format of the test, the keys to higher scores, audio comprehension skills, and vocabulary development. The main focus of this course will be to improve students' listening comprehension skills with particular emphasis on the four types of listening comprehension questions used in the TOEIC.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation and getting started	sentences about photographs - vocabulary exercises, listening comprehension
week 2	listening comprehension (unit 1)	sentences with meaning problems, sentences with sound problems - vocabulary exercises, listening comprehension
week 3	listening comprehension (unit 1)	sentences with sound and meaning problems - vocabulary exercises, listening comprehension
week 4	listening comprehension (unit 2)	information questions, yes/no questions - vocabulary exercises, listening comprehension
week 5	listening comprehension (unit 2)	other types of questions and statements - vocabulary exercises, listening comprehension
week 6	listening comprehension (unit 2)	recognizing distractors - vocabulary exercises, listening comprehension
week 7	listening comprehension (unit 3)	short conversation overview questions - vocabulary exercises, listening comprehension
week 8	listening comprehension (unit 3)	short conversation detail questions, short conversation inference questions - vocabulary exercises, listening comprehension
week 9	listening comprehension (unit 4)	short talks - public announcements, news, weather, public service bulletins - vocabulary exercises, listening comprehension
week 10	listening comprehension (unit 4)	short talks - commercial messages, and business talks - vocabulary exercises, listening comprehension
week 11	listening comprehension (unit 4)	short talks - recorded messages - vocabulary exercises, listening comprehension
week 12	practice listening test	practice listening test and review - vocabulary exercises, listening comprehension
week 13	Listening Test	Listening Test
week 14	test review	test review

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

To complete homework assignments from the textbook.

Considering the university setting, learning outside of class hours such as preparation, homework, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

The class text will be Complete Guide To The TOEIC Test 4th Edition (HEINLE) by Bruce Rogers.

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

Grades:

60% based on participation and the completion of assignments

40% based on a semester exam

ATTENDANCE IS REQUIRED.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

【学生が準備すべき機器他】

a dictionary

【その他の重要事項】

Attendance is required. Even if absent, students are responsible for finding out and completing assignments for the next class.

Students using cell phones for non-class related activities will be marked absent.

【Outline and objectives】

This is a one semester course. Students will be instructed on the basics of taking the TOEIC with particular focus on the Listening section of the test and the improvement of their skills in this area.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

ステラ 山崎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course helps students enlarge vocabulary, learn test-taking strategies and build overall English proficiency. The course prepares students to study on their own for the TOEIC test. It is not a substitute for self-study.

【到達目標】

Students develop test-related skills and review typical grammar patterns, business and Latin-based vocabulary and test-taking strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

We work through the text weekly to practice test-taking skills, and use handouts for other techniques. Weekly tests on Latin roots. Online Apr. 21-

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Rules, tips, Mini-TOEIC
2	Listening test	Latin 1, tips, listening test
3	Reading test	Test only
4	Chap. 1 Outdoor Sports	Latin 2, vocabulary, collocations
5	Chap. 2 Outdoor Sports	Latin 3, vocabulary, prepositions, connectors
6	Chap. 3 Job Hunting	Latin 4, vocabulary, special assignments
7	Chap. 4 Job Hunting	Latin 5, vocabulary, relatives
8	Chap. 5 At the Office	Latin suffixes, vocabulary, verbs
9	Chap. 6 At the Office	Latin 6, vocabulary, particles
10	Chap. 7 Working Conditions	Latin 7, vocabulary, utilities
11	Chap. 8 Working Conditions	Latin 8, vocabulary, transpo schedule
12	Chap. 9 Being Transferred	Latin 9, vocabulary, graphs and surveys, 2-part readings
13	Chap. 10 Being Transferred	Latin 10, vocabulary, confusing pairs
14	TOEIC New Test	vocabulary, test tips and suggested study materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Study for weekly, cumulative Latin roots tests. Students must have a high weekly test average to pass the class. Students wishing a B must complete textbook chapters for homework weekly. Students wishing an A must complete textbook chapters and make vocabulary study cards weekly. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TOEIC Test: To the Point Nanundo. Students must bring dictionaries containing two, equal parts: Japanese to English and English to Japanese. Electronic dictionaries are okay but not cell phones.

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

Weekly Latin roots tests: 60% of points; Homework: 30%; Participation and punctuality: 10%. I may make changes to meet learner needs. Online: tests and homework 80%; participation 20%.

【学生の意見等からの気づき】

Penalize unmotivated and late students.

【その他の重要事項】

This class is designed for highly motivated, high intermediate and advanced students. It is not easy. If you are a low student or have no interest in TOEIC, do not choose this class.

【Outline and objectives】

We begin each lesson with Latin roots, continue with vocabulary and text, and end with skill exercises. The main objective is to improve reading skills.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

ステラ 山崎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students enlarge their vocabularies, learn test-taking strategies and build overall English proficiency. The course prepares students to study on their own for the TOEIC test. It is not a substitute for self-study.

【到達目標】

Students will develop test-related skills and review typical grammar patterns, business and Latin-based vocabulary and test-taking strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

We work through the text weekly to practice test-taking skills, and use handouts for other techniques. Weekly tests on Latin roots.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Rules, tips, Mini-TOEIC
2	Listening test	Latin 1, tips, listening test
3	Reading test	Test only
4	Chap. 1 Outdoor Sports	Latin 2, vocabulary, collocations
5	Chap. 2 Outdoor Sports	Latin 3, vocabulary, prepositions, connectors
6	Chap. 3 Job Hunting	Latin 4, vocabulary, special assignments
7	Chap. 4 Job Hunting	Latin 5, vocabulary, relatives
8	Chap. 5 At the Office	Latin suffixes, vocabulary, verbs
9	Chap. 6 At the Office	Latin 6, vocabulary, particles
10	Chap. 7 Working Conditions	Latin 7, vocabulary, utilities
11	Chap. 8 Working Conditions	Latin 8, vocabulary, transpo schedule
12	Chap. 9 Being Transferred	Latin 9, vocabulary, graphs and surveys, 2-part readings
13	Chap. 10 Being Transferred	Latin 10, vocabulary, confusing pairs
14	TOEIC New Test	vocabulary, test tips and suggested study materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Study for weekly, cumulative Latin roots tests. Students must have a high weekly test average to pass the class. Students wishing a B must complete textbook chapters for homework weekly. Students wishing an A must complete textbook chapters and make vocabulary study cards weekly. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TOEIC Test: To the Point Nanundo. Students must bring dictionaries containing two, equal parts: Japanese to English and English to Japanese. Electronic dictionaries are okay but not cell phones.

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

Weekly Latin roots tests: 60% of points; Homework: 30%; Participation and punctuality: 10%. The objectives, course plan, materials and evaluation may be changed to better meet the needs of learners.

【学生の意見等からの気づき】

Penalize unmotivated and late students.

【その他の重要事項】

This class is designed for highly motivated, high intermediate and advanced students. It is not easy. If you are a low student or have no interest in TOEIC, do not choose this class.

【Outline and objectives】

We will begin each class with Latin roots, continue with vocabulary and text, and end with special focus exercises. The main objective is to improve reading skills.

LANe200EA

Intensive TOEFL (R)

アラン バーグマン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this class is to develop students' academic skills in English, while building test-taking confidence.

【到達目標】

The goal of the course is for students to improve their TOEFL scores.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The course will cover listening, vocabulary development, reading, writing, note-taking, item-analysis, and integrated tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation, unit 1 Advertising	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 2	unit 1 Advertising	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 3	unit 2 Extreme Sports	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 4	unit 2 Extreme Sports	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 5	unit 3 Fraud	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 6	unit 3 Fraud	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 7	unit 4 Story Telling	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 8	unit 4 Story Telling	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 9	unit 5 Language	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 10	unit 5 Language	skill focus, writing assignment; speaking pair work, reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 11	test	an online test
week 12		
week 13		
week 14		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

To complete assignments and write essays.

Considering the university setting, learning outside of class hours such as preparation, homework, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

The class textbook is Building Skills for the TOEFL iBT (intermediate) by John Beaumont published by Pearson Longman. We will not be doing the speaking activities.

【参考書】

There is no reference book. However, students may find the textbook's companion website of interest.

<http://www.longman.com/northstar>

【成績評価の方法と基準】

The situation has changed because of the Coronavirus. Grades will then be based on the completion of assignments and an online test.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs and the needs of the situation.

【学生が準備すべき機器他】

a dictionary, a device for viewing and turning in online assignments.

【その他の重要事項】

This semester was affected by the Coronavirus Pandemic, so the syllabus has changed.

【Outline and objectives】

The course will follow closely activities in the textbook which include vocabulary exercises, listening comprehension, reading comprehension, test taking recommendations, and essay writing.

LANe200EA

Intensive TOEFL (R)

アラン バーグマン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this class is to develop students' academic skills in English, while building test-taking confidence.

【到達目標】

The goal of the course is for students to improve their TOEFL scores

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The course will cover listening, vocabulary development, reading, writing, note-taking, item-analysis, and integrated tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation, unit 1 Advertising	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 2	unit 1 Advertising	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 3	unit 2 Extreme Sports	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 4	unit 2 Extreme Sports	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 5	unit 3 Fraud	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 6	unit 3 Fraud	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 7	unit 4 Story Telling	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 8	unit 4 Story Telling	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 9	unit 5 Language	campus conversation listening, academic listening, reading activity; vocabulary exercise, listening comprehension
week 10	unit 5 Language	skill focus, writing assignment; reading comprehension, listening comprehension, write an essay
week 11	test	an online test
week 12		
week 13		
week 14		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

To complete assignments and write essays. Considering the university setting, learning outside of class hours such as preparation, homework, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

The class textbook is Building Skills for the TOEFL iBT (intermediate) by John Beaumont published by Pearson Longman.

【参考書】

There is no reference book. However, students may find the textbook's companion website of interest.

<http://www.longman.com/northstar>

【成績評価の方法と基準】

The situation has changed because of the Coronavirus. Grades will be based on the completion of assignments and an online test.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs and the needs of the situation.

【学生が準備すべき機器他】

a dictionary, a device for viewing and turning in online assignments.

【Outline and objectives】

The course will follow closely activities in the textbook which include vocabulary exercises, listening comprehension, reading comprehension, test taking recommendations, and essay writing.

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ホームページの制作方法、ならびにインターネットから情報の収集と表現方法を学びます。

【到達目標】

- (1) ホームページを制作できること。HTML と CSS を利用したデジタルの世界の表現の特性を理解し、制作課題に活用すること。
- (2) インターネットから必要な情報を抽出し、自作のホームページで伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ホームページがどのような仕組みで動作するのかを理解するとともに、制作に必要な HTML5 と CSS3 でホームページを作成する演習。

Web 上のデータを用いて、自作のホームページ上で表現する。

2020/04/16 追記

本授業の開始日は 4 月 22 日（水）

この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。春学期前半のオンラインでの開講にともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	HTML の基本	ホームページの仕組み
第 2 回	見出し・段落・強調表示	見出し・段落・キーワードの強調表示の方法
第 3 回	CSS の基本	デザイン技法の習得
第 4 回	画像表示	画像の加工と表示の方法
第 5 回	ハイパーリンク	別ページへジャンプする方法
第 6 回	絶対パスと相対パス	HTML 文書のフォルダ・ファイル構成
第 7 回	表の作成	簡単な一覧表の表示方法
第 8 回	レイアウトの基本	美しく使いやすいレイアウト
第 9 回	レイアウトの応用	デバイスや内容に応じたレイアウトの応用
第 10 回	JavaScript の基本	ページに色々な動きを与える
第 11 回	Web 上のデータの活用と表現 1	データの抽出
第 12 回	Web 上のデータを活用と表現 2	Web 上のデータの可視化と表現
第 13 回	SEO 対策・自由制作	上位検索を実現する知識
第 14 回	自由制作	ホームページの自由制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業中に提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、1 4 回を通した実習への取り組みを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意して下さい。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To design a webpage by HTML and CSS.

COT300ED

ウェブ・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Web は情報発信の手段として広く利用されていますが、それらを「作る」としたらどのような視点や知識、技術が必要になるのかを、実習を通じて理解していきます。

【到達目標】

1)HTML および css のルールを理解し正しく使用できること、2)Web ページ公開の仕組みを理解し正しく行えること、3) 閲覧者を意識した情報発信ができること、1) から 3) により、4)Web ページの表面的な見栄えにとらわれず情報の内容を吟味できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Mac 基本	Mac の基本操作を確認する
第 2 回	HTML 基本	HTML の基本を確認する
第 3 回	HTML 活用	より実践的な HTML の演習を行う
第 4 回	HTML5	HTML5 に即したコーディングを行う
第 5 回	Web ページの公開	公開の方法や仕組み、注意点を学ぶ
第 6 回	css 基本	css の考え方や仕組みを確認する
第 7 回	css 活用	より実践的な css の演習を行う
第 8 回	Web サイト作成準備	サイト構成やファイル名を整理する
第 9 回	Web サーバ	サーバにログインしファイルを操作する
第 10 回	Web サイト作成着手	企画した Web サイトを HTML 化する
第 11 回	各種サービスの活用	SNS や地図・動画を埋め込む
第 12 回	css による装飾とレイアウト	css で HTML の見栄えを整える
第 13 回	補足とまとめ	これまでの実習を振り返り修正を行う
第 14 回	相互評価	完成した Web サイトを受講者間で相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習を必要に応じて行うこと。
- ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
- ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の授業資料に目を通し、課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書なし。参考サイト等は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
- ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

自分が選んだテーマの Web ページを作るので楽しめたという意見が多いです。また授業内課題を細かく採点して次回授業冒頭で返却することについて「自分の到達度がわかりやすい・やり甲斐を感じる」等肯定的な意見が多いので、履修人数にもよりますが今年度もできるだけ行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業は社会学部棟 101 教室で行います。授業では主に Mac を使いますが、Mac を所有している必要はありません。

【その他の重要事項】

- ・質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand how to make Web pages, especially the basics of HTML and CSS.

COT300ED

ウェブ・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Web は情報発信の手段として広く利用されていますが、それらを「作る」としたらどのような視点や知識、技術が必要になるのかを、実習を通じて理解していきます。

【到達目標】

1)HTML および css のルールを理解し正しく使用できること、2)Web ページ公開の仕組みを理解し正しく行えること、3) 閲覧者を意識した情報発信ができること、1) から 3) により、4)Web ページの表面的な見栄えにとらわれず情報の内容を吟味できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は【4 月 27 日】とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

===以上、4 月 16 日追記。以下は、当初予定された内容===

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Mac 基本	Mac の基本操作を確認する
第 2 回	HTML 基本	HTML の基本を確認する
第 3 回	HTML 活用	より実践的な HTML の演習を行う
第 4 回	HTML5	HTML5 に即したコーディングを行う
第 5 回	Web ページの公開	公開の方法や仕組み、注意点を学ぶ
第 6 回	css 基本	css の考え方や仕組みを確認する
第 7 回	css 活用	より実践的な css の演習を行う
第 8 回	Web サイト作成準備	サイト構成やファイル名を整理する
第 9 回	Web サーバ	サーバにログインしファイルを操作する
第 10 回	Web サイト作成着手	企画した Web サイトを HTML 化する
第 11 回	各種サービスの活用	SNS や地図・動画を埋め込む
第 12 回	css による装飾とレイアウト	css で HTML の見栄えを整える
第 13 回	補足とまとめ	これまでの実習を振り返り修正を行う
第 14 回	相互評価	完成した Web サイトを受講者間で相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習を必要に応じて行うこと。
 ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
 ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時までに欠席分の授業資料に目を通し、課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書なし。参考サイト等は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったため、成績評価の方法と基準も若干変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

===以上、4 月 16 日追記。以下は、当初予定された内容===

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%

・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

自分が選んだテーマの Web ページを作るので楽しめたという意見が多いです。また授業内課題を細かく採点して次回授業冒頭で返却することについて「自分の到達度がわかりやすい・やり甲斐を感じる」等肯定的な意見が多いので、履修人数にもよりますが今年度もできるだけ行います。

【学生が準備すべき機器他】

科目の性質上、受講にはインターネットに接続できるパソコンが必要です。

・OS は Windows、Mac どちらでも構いません。

・少々古くても、セキュリティ対策や動作に問題がなければ大丈夫です。

・法政大学学生の皆さんは「Microsoft Office」の最新版を無料でインストールできます。

<https://software.k.hosei.ac.jp/office365/index.html>

(法政大学ソフトウェアステーション：Office365 Pro Plus を使いたい)

を参考して下さい。

===以上、4 月 16 日追記。以下は、当初予定された内容===

授業は社会学部棟 101 教室で行います。授業では主に Mac を使いますが、Mac を所有している必要はありません。

【その他の重要事項】

・質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand how to make Web pages, especially the basics of HTML and CSS.

COT300ED

ウェブ・プログラミングB

加藤 徹郎

サブタイトル：プログラミング中級 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング初級で学んだ知識を応用し、Android アプリを皆さん自身の力で企画・作成できるようになることを目指します。

【到達目標】

プログラミングに関する、応用力を兼ねそろえた全般的な知識と技術を一定程度習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、序盤では初級で学んだ Java プログラミング一連の流れを復習・発展させて応用力を身につけていきます。中盤以降は、Android Studio を使用し本格的にアプリ作成を学びます。

※ 授業内容は変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業進行についての説明。
2	Review (Java)	初級の復習
3	Import (〇)	インポート文と画像の挿入
4	Layout (〇)	GUI 画面のレイアウトについて
5	Implement (〇)	実装の概念理解と用い方
6	Introduction (Android)	Android Studio の基礎。作業画面の説明と使い方。
7	Activity (〇)	画面の部品配置
8	findViewById (〇)	主要メソッドの確認と理解
9	Toast (〇)	トースト機能の設定
10	Adopter (〇)	アダプタークラスとリスト配列の組み合わせ
11	Intent Class (〇)	画面遷移の仕組み
12	Action Bar (〇)	ウィジェットの追加の仕方。「戻る」ボタンの作成。
13	Context Menu (〇)	コンテキストメニューを使用したトーストの設定
14	まとめ	全体のまとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでください。それが復習の役割を担うはず。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、毎回の課題提出（90 %）

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの有益な意見は、なるべく授業に反映できるよう努力します。ともに授業を創り上げていけるような空間にしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB など。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【その他の重要事項】

※ カリキュラム編成の流れを受けて、Android 以外のプログラミングを行う可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course deal with the basic of programming with Java / Eclipse and Android studio.It also enhance the development of students' skill in making a program by oneself.

LINE200EA

英語講読 A I

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国の歴史に関する文献を講読する。毎回の授業で概ね 30 ページの分量の英文を読み、読んできた内容を 1200 字以内で要約すると共に、受講者各位の読後の見解をレポートとしてまとめる。（締切厳守）

【到達目標】

大量の英文を読みこなし、大まかな内容を理解する能力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業を開始するのは 4 月 28 日（火）とする。遠隔授業の期間中は、学習支援システムを通じて課題を配布し、担当教員の問題提起に従って、予習として課される 30 ページ程度の英文を読んで理解した内容を毎回レポートとしてまとめていく。対面授業が可能になった際には、報告担当者を決めてディスカッション等の課題を課していく。毎回課される読書量・課題作成にかかる時間など、受講生にとって相当な負担となることを理解した上で受講してほしい。※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/28	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方、課題（レポート）について学習支援システムを通じて指示する。
5/11	アメリカ革命	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
5/18	南部の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
5/25	北部の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
6/1	西部の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
6/8	南北戦争前夜の政治と国家	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
6/15	南北戦争の時代	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
6/22	再建期の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
6/29	農業都市と産業都市の形成	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
7/6	金びか時代のアメリカ	レポートの提出（締切厳守）
7/13	革新主義の時代	テキストに関する個別報告とディスカッション
12	帝国主義への道	テキストに関する個別報告とディスカッション
13	世界大恐慌とニューディール	テキストに関する個別報告とディスカッション
14	1960 年代と公民権運動	テキストに関する個別報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。読み終えた後、【要約】（1200 字以内）を締切厳守で提出すること。休む回の課題も必ず期限までに提出すること。本授業の準備学習時間は 4 時間以上である。

【テキスト（教科書）】

課題文献の該当ページのコピーを学習支援システムを通じて配布する※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【参考書】

授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポートの提出（100%）※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当しない。

【その他の重要事項】

授業の準備や課題に相当な準備時間を要することを理解した上で、受講すること。提出期日を過ぎた課題は一切受け取らない。※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【Outline and objectives】

This course deals with articles of American History, to enhance English reading skills. The course is for those students with advanced English level.

LINe200EA

英語講読 A II

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語をとおしてアメリカの文化を学ぶことを目的とする。受講者は、毎回 20 ページ程度の英文を通読し、報告担当者に内容のレクチャーをすることを課題として課す。報告担当者以外の学生は、内容を 1200 字以内で要約し、ディスカッションに積極的に加わってもらう。

【到達目標】

大量の英文を読みこなし、大まかな内容を理解する能力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

予習として課される 20 ページ程度の英文を読んで理解した内容を他の受講者に説明するゼミ形式の授業を予定している。（受講人数による）報告担当者以外にも毎回レポート提出とディスカッションへの参加を要求するので、相当な負担となることを理解した上で受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方、課題（報告・レポート）について
2	消費社会と格差	テキストに関する個別報告とディスカッション
3	グローバルゼーションとフェア・トレード	テキストに関する個別報告とディスカッション
4	19 世紀の移住とその生活	テキストの和訳と内容把握
5	「文化」の国際移動	テキストに関する個別報告とディスカッション
6	1970 年代と「グローバルゼーション」	テキストに関する個別報告とディスカッション
7	「敵性イメージ」はいかにして造られるのか	テキストに関する個別報告とディスカッション
8	「人種」と「言語」	テキストに関する個別報告とディスカッション
9	「人種」と「文化」：ミンストレル劇	テキストに関する個別報告とディスカッション
10	エルヴィス・プレスリーと人種/階級	テキストに関する個別報告とディスカッション
11	白人貧困層と「保守政治」	テキストに関する個別報告とディスカッション
12	「スラム」と白人文化	テキストに関する個別報告とディスカッション
13	プロバガンダとフェイクニュース	テキストに関する個別報告とディスカッション
14	他人の不幸は蜜の味？	テキストに関する個別報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各論文を読み終えた後、読書ノートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

課題文献の該当箇所のコピーを指示する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

受講学生 1 人当たり 2 回（受講人数による）行う個別報告（60%）
個別報告担当者以外が毎回提出する読書ノート（1200 字以内）（40%）
読書ノートは欠席する回も含めて必ず期日までに提出すること。締め切りを過ぎた提出物は一切受け取らない。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき、該当しない。

【その他の重要事項】

授業の準備や課題に相当な準備時間を要することを理解した上で受講すること。提出期限を過ぎた課題は一切受け取らない。

【Outline and objectives】

This course deals with articles of American Culture, to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. The course is for those students with advanced English level.

LINE200EA

英語講読 B I

高 美 寄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニー映画における人種・ジェンダー表象を論じた新聞記事や学術論文を読み、英語の読解力を向上させるとともに、映画・メディア研究の基礎的知識・メディア表象の考察の枠組みへの理解を深める。

【到達目標】

新聞記事からはじめ、最終的には難易度の高い学術論文を英語で読むことができるようになることを目標とする。また、メディアにおけるジェンダーや人種表象についての理解を深めメディア・リテラシーを身につける。文献購読を通して得た表象分析の枠組みを使用して、自分なりの考察を英語で表現することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020 年度前期授業はコロナ感染症対策のため、当面、授業は対面ではなくオンラインで行います。

初回オンライン授業は 4 月 21 日です。

必ず 4 月 21 日に学習支援システムにログインし指示に従って学習をすすめてください。

その後も毎週必ず火曜日にログインしその日の課題を行うこと。

授業では、ディズニー映画における人種・ジェンダー表象を論じた新聞記事や学術論文を使用します。精読を基本としますが、逐語訳ではなく、議論の大意をつかむことを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Disney Stereotypes 1	授業の進め方の説明とディズニー映画におけるジェンダーと人種のステレオタイプ表象に関する英語記事を読む
2	Disney Stereotypes 2	ディズニー映画におけるジェンダーと人種のステレオタイプ表象に関する英語記事を読む
3	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 1	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む
4	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 2	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む
5	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 3	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む
6	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 4	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む
7	Watching Mulan	ムーラン（アニメ版）の鑑賞
8	Academic article on Mulan 1	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む
9	Academic article on Mulan 2	ムーランのジェンダー表象を考察した学術論文を読む
10	Academic article on Mulan 3	ムーランのジェンダー表象を考察した学術論文を読む
11	Writing a report	文献購読を通して得た表象分析の枠組みを使用して自分の考察を英語で書く
12	期末課題の提出（期末テスト）	期末課題の提出（期末テスト）
13	なし	なし
14	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの指示にしたがって学習をすすめてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

プリントを教材セクションにアップロードしますので、自宅あるいはコンビニなどで必ずプリントアウトして授業課題を行うようにしてください

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30 %

レポート 20%

期末課題（期末テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムにシラバスの詳細版をアップロードしてありますので確認してください。

この科目は受講許可科目です。人数によっては1回目の課題を提出していない人の受講をお断りする場合がありますので、受講を希望する人は必ず4月21日に授業支援システムでその日の学習を行い、宿題を提出してください。

【Outline and objectives】

By using both journalistic and academic writings on the films made by Disney Studio, the course aims to help students develop an advanced level of English reading comprehension skills as well as the basic skills of critically analyzing the media representation of ethnicity, gender, and sexuality. While the course mainly focuses on reading, the students will also have opportunities to develop English-speaking skills through discussions and presentations.

LINE200EA

英語講読 B II

高 美智

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ映画におけるジェンダー表象を歴史的に考察した文献を読みながら、英語の読解力を向上させるとともに、映画・メディア研究の基礎的知識・メディア表象の考察の枠組みへの理解を深める。

【到達目標】

学術的論文の英語に慣れ、難易度の高い英語文献を読むことができるようになることを目標とする。また、メディアにおけるジェンダー表象についての理解を深めメディア・リテラシーを身につける。文献購読を通して得た表象分析の枠組みを使用して、自分なりの考察を英語で表現することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Gender and American Film という映画研究書を英語教材にしたテキストを用います。授業においては、精読を基本としますが、逐語訳ではなく、議論の大意をつかむことを重視します。また、文献の内容をもとに、英語でグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション1 Introduction: What is gender?	授業の進め方の説明し、文献の Introduction を読む
2	イントロダクション2 Introduction: What is gender?	授業の進め方の説明し、文献の Introduction を読む
3	Chapter 1 - Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む
4	Chapter 1 - Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む
5	Chapter 1 - Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む
6	Chapter 2 - Masculinity: Men in American Film	アメリカ映画における男性表象についてのテキストを読む
7	Chapter 2 - Masculinity: Men in American Film	アメリカ映画における男性表象についてのテキストを読む
8	Chapter 2 - Masculinity: Men in American Film	アメリカ映画における男性表象についてのテキストを読む
9	Chapter 3 - Gender in American Film since the 1960s	1960年代以降のアメリカ映画におけるジェンダー表象についてのテキストを読む
10	Chapter 3 - Gender in American Film since the 1960s	1960年代以降のアメリカ映画におけるジェンダー表象についてのテキストを読む
11	Chapter 3 - Gender in American Film since the 1960s	1960年代以降のアメリカ映画におけるジェンダー表象についてのテキストを読む
12	プレゼンテーション	授業で読んだ文献をもとに自分で映画を選び考察し発表する
13	プレゼンテーション	授業で読んだ文献をもとに自分で映画を選び考察し発表する
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、単語を調べて内容の大意を理解しておくこと。文献で扱われている映画をできるだけみておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Gender and American Film : How Men and Women Have Been Represented in the Hollywood Films

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での積極的な取り組み、予習、宿題、ディスカッションへの参加など）30%
 プレゼンテーション 20%
 期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の履修を希望する学生は、第1回目、第2回目の授業のどちらかに必ず出席すること。

【Outline and objectives】

By using academic writings on historical representation of gender in Hollywood cinema, the course aims to help students develop an advanced level of English reading comprehension skill as well as the knowledge on the way in which Hollywood cinema has been contributing to constructing certain images of men and women.

LINE300EA

英語講読C I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音楽に関する基礎知識、黒人音楽の歴史、とくにジャズの歴史などを英語の文献を読みながら把握する。

【到達目標】

音楽一般、黒人音楽、ジャズなどに関する英語のテキストを正確に読めるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

音楽、黒人音楽、ジャズに関する英語のテキストを読む一方、毎時間、何曲か実際に聴いていく。

授業は4月22日から始めます。すでに学習支援システムに課題などはアップしてあるので、確認しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	音楽の基本 1	Voices
2	音楽の基本 2	Rhythm
3	音楽の基本 3	Code
4	音楽の基本 4	Melody
5	黒人音楽 1	Work songs
6	黒人音楽 2	Blues
7	黒人音楽 3	Ragtime
8	Jazz 1	Beginnings
9	Jazz 2	In New Orleans
10	Jazz 3	Big Band
11	Jazz 4	Jazz Women
12	Jazz 5	Bebop
13	Jazz 6	Cool
14	Jazz 7	Modern

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

授業で読むテキストを予習すること。指定された部分を日本語に訳してくること。【コロナウイルスの影響により多少変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のところを見てください。】

【テキスト（教科書）】

プリントして配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業の最初に行う小テスト（40%）、提出してもらった訳文（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のところを見てください。】

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

To read English text about basic knowledge about music, a history of Black music and a history of Jazz.

LINE300EA

英語講読C II

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音楽に関する基礎知識、黒人音楽の歴史、とくにブルーズから R&R の歴史などを英語の文献を読みながら把握する。

【到達目標】

音楽一般、黒人音楽、ブルーズ、R&R などに関する英語のテキストを正確に読めるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

音楽、黒人音楽、ブルーズ、R&R に関する英語のテキストを読む一方、毎週、何曲か実際に聴いていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ブルーズの基本	3 codes, 12 bars
2	ブルーズの原型	work songs and holler songs
3	ブルーズの誕生	slave songs and spirituals
4	黒人霊歌とゴスペル	spirituals and gospels
5	初期のブルーズ	Mississippi
6	初期のブルーズ	Texas
7	ブルーズの伝説	Robert Johnson
8	シティ・ブルーズ	Chicago
9	ソウルの誕生	soul music
10	ピアノの可能性	ragtime
11	アメリカ 40 年代	R&B 前夜
12	エレキギターとドラムズ	R&B
13	ブルーズの展開	R&R
14	アメリカ 50 年代	若者文化の誕生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で読むテキストを予習すること。指定された部分を日本語に訳してこること。

【テキスト（教科書）】

プリントして配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業の最初に行う小テスト（40%）、提出してもらった訳文（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

To read English text about a history of Black music and a history of blues.

LINE200EA

英語翻訳 A I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた小説を正確に読解し、日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力をつける。読みやすく正しい日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。以下のテーマ、内容に関しては、変更することもある。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」の場所を見てください。】授業は 4 月 22 日から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を翻訳したものをプリントアウトして、授業の最初に提出すること。

毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。

毎回、授業の最初に小テストを行う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」の場所を見てください。】授業は 4 月 22 日から始まります。

【テキスト（教科書）】

プリントして配布します。使用するテキストは児童書かヤングアダルトむけの作品の予定。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらった訳文の評価（50%）、最後の授業に提出してもらった訳し直しの評価（30%）、小テスト（20%）を総合して評価する。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」の場所を見てください。】

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行くということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

LINe200EA

英語翻訳 A II

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた小説を正確に読解し、日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力をつける。読みやすく正しい日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。以下のテーマ、内容に関しては、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を翻訳したものをプリントアウトして、授業の最初に提出すること。

毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。

毎回、授業の最初に小テストを行う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高校生向けの作品、あるいは児童書。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらった訳文の評価（50%）、最後の授業に提出してもらった訳し直しの評価（30%）、小テスト（20%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

LINe300EA

英語翻訳 B I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた小説を正確に読解し、日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力をつける。読みやすく正しい日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。以下のテーマ、内容に関しては、変更することもある。

【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のこちらを見てください。】授業は 4 月 22 日から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を翻訳したものをプリントアウトして、授業の最初に提出すること。

毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。

毎回、授業の最初に小テストを行う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントして配布します。

コロナウイルスの影響により、オンライン授業になるので、中高生むけの小説を読むことにします。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらった訳文の評価（50%）、最後の授業に提出してもらった訳し直しの評価（30%）、小テスト（20%）を総合して評価する。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のこちらを見てください。】

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

LINE300EA

英語翻訳 B II

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた記事を正確に読解し、日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力をつける。読みやすく正しい日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。以下のテーマ、内容に関しては、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を翻訳したものをプリントアウトして、授業の最初に提出すること。

毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。

毎回、授業の最初に小テストを行う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用するテキストは TIME など、英語圏の雑誌や新聞の記事です。

プリントを配布します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらった訳文の評価（50%）、最後の授業に提出してもらった訳し直しの評価（30%）、小テスト（20%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

SOC200EC

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。

そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて 2 回を 1 セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ → (後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の 2 点を到達目標とする。

(1) エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。

(2) 自分の身の回りに起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は 2 回を 1 セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ → (後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1 セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたいコメントカードを提出してもらいます。正しい解決策といったものはありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。また、授業期間途中でディスカッション回を挟みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということとはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ (1)	・ディスアビリティ概念について
3	老いとディスアビリティ (2)	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと経済・年金 (1)	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
5	老いと経済・年金 (2)	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
6	老いと家族・血縁 (1)	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
7	老いと家族・血縁 (2)	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
8	老いと人間関係 (1)	・老いと社会的孤立の相関関係について
9	老いと人間関係 (2)	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差 (1)	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差 (2)	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。

12	エイジング社会のデザイン (1)	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン (2)	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布される資料を読み返すことを基本にしてください。丸暗記の必要はありません。資料で紹介されている様々な事例で、「自分ならばどうするか」を簡単にいいので考えておくことが重要です（授業の目標的にも、課題を提出するうえで）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができるかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
得点の配分は、2 回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として 50 %、期末レポートを到達度の確認として 50 % の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「老い」によって生じている社会問題のリアルに迫る事例を、授業中にもっと紹介していくことを重視しました。中には目を背けたいような事例もありますが、それらの問題が決して「縁遠い」事例ではないことを学んでもらえればと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces social problems concerning the aging society. My aim is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society. This course will be given by Japanese language.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

映像ジャーナリズム論 I

坂上 香

サブタイトル：映像ジャーナリズム論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ドキュメンタリー論です。映像ジャーナリズムの歴史や手法を意識しつつ、ドキュメンタリーというアプローチについて展開していきます。ニュース映像やテレビドキュメンタリーから劇場公開のドキュメンタリー映画、ウェブや SNS 動画、VR まで「いまここ」にある幅広い対象に触れながら、そのアプローチや変遷について学びます。また、ドキュメンタリーを見る場にも着目し、現代におけるドキュメンタリーとその意義について、考察していきたいと思えます。なお、新型コロナ感染拡大への対応として、オンライン授業になる予定です。zoom やオンデマンドなどを使用することになると思えます。詳しくは学習支援システムで随時情報をアップデートしていく予定です。

【到達目標】

- ①学期を通して、幅広いドキュメンタリー映像やドキュメンタリー論に触れ、ドキュメンタリーを多角的に学ぶ。
- ②ドキュメンタリー映像を見る場（空間）について考察する。
- ③ドキュメンタリーをそれぞれが再定義し、その現代的意義を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業の開始は 4/21 です。4/12 まではテキストベース、5/19 以降は、履修生のネットおよび PC 環境にもよりますが、ライブ形式 (zoom など) とオンデマンドを使った講義を展開したいと考えています。学期半ばでは、「映画を見る場（空間）」に関するプレゼンをしてもらう予定です。新型コロナの拡大状況により、授業計画は変更の可能性があります。詳しくは「学習支援システム」(Hoppii) で随時情報をアップデートしていく予定です。*5/5 は授業がありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/21	ガイダンスとイントロダクション	授業の概要と進め方
4/28	ドキュメンタリーの生と歴史 (1) ドキュメンタリー前史	映画の誕生 ドキュメンタリーの概念が生まれる前まで
5/12	ドキュメンタリーの生と歴史 (2)	ドキュメンタリー運動からプロパガンダ、ダイレクトシネマへ
5/19	ドキュメンタリーのアプローチ (1)	ビル・ニコルズの理論 1
5/26	ドキュメンタリーのアプローチ (2)	ビル・ニコルズの理論 2
6/2	ドキュメンタリーを観る場	映像空間の変遷
6/9	ドキュメンタリーを観る場プレゼン (1)	学生のプレゼン
6/16	ドキュメンタリーを観る場プレゼン (2)	学生のプレゼン
6/23	ドキュメンタリーを観る場プレゼン (3)	学生のプレゼン
6/30	ドキュメンタリーを観る場プレゼン (4)	学生のプレゼン

7/7	日本のドキュメンタリー（1）	社会告発としてのドキュメンタリー
7/14	日本のドキュメンタリー（2）	セルフ・ドキュメンタリーの時代からポストセルフへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやテレビなどで視聴可能な映像に関して、課題を出すことがあります。ドキュメンタリー映像についてはもちろんのこと、それを観る空間、観せるための動き（配給や宣伝）、人々の反応、影響についても、日常的に意識してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。パワーポイントのスライド、リーディング課題、その他の資料を「学習支援システム」(Hoppii)に提示します。

【参考書】

エリック・バーナウ 安原和見（訳）『ドキュメンタリー映画史』（筑摩書房、2015 年）
 佐藤真『〈愛蔵版〉ドキュメンタリーの地平』（凱風社、2009 年）
 土本典昭『映画は生きものの仕事である—私論・ドキュメンタリー映画』（未来社、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

プレゼン（40%）

レポート（40%）

平常点（20%）

新型コロナウイルス感染拡大への対応として、オンライン授業になる予定です。成績評価の方法や基準については、オンライン授業のあり方に作用されるので、変更の可能性もあります。変更については、「学習支援システム」(Hoppii)でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

授業での反応やアクションペーパーなどの内容を、授業の展開に積極的に反映していきたいと思えます。オンライン授業の場合、リアクションペーパーは「学習支援システム」(Hoppii)を通して提出することになります。

【学生が準備すべき機器他】

zoom やオンデマンドの使用を予定しているため、それらが使える機器（スマートフォン、PC もしくはタブレットなど）。

【その他の重要事項】

4/21～5/12 は、基本的に pdf やワードなどのテキストベースで教材を提示し、自習していただくこととなります。今学期中は、新型コロナウイルス感染拡大への対応として、オンライン授業になる予定です。ただし、wifi へのアクセスの問題なども予想されるので、ライブ形式（zoom など）中心にするのか、オンデマンドを中心にするのか、はたまたテキストベースになるのかは未定。方針が決まり次第、学習支援システム (Hoppii) でアップデートします。

【Outline and objectives】

This is a basic course on Documentary Theory which covers its history, different approaches and the new wave. Students are expected to give a short presentation on "the space to watch documentaries in contemporary world" based on their own observations.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

映像ジャーナリズム論Ⅱ

足立 義則

サブタイトル：Web・SNS 時代のメディアを考える

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「知りたいことはたくさんあるが、そこにかけられる時間は多くない」ある大学生の授業でのことばです。少子高齢化が進むなか、少数派で不利な立場の若たち大学生がよりよく生きていくには、複雑なニュースを読み解く力が必要です。

講師は NHK 報道局記者です。25 年以上の報道現場での経験を踏まえて、日々のニュースや過去のドキュメンタリー作品を例に、ニュースの読み解き方や、映像ドキュメンタリーの作り方などを教えます。

【到達目標】

ジャーナリズムは映像によって何を得たか。映像の危うさとは何か。映像ジャーナリズムの作品の基本要素と制作スタイル、映像ジャーナリズムの読み解き方を理解することが目標です。また映像制作者に求められる心構えや制作体制について論述できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、最新のニュースについて、学生の意見を聞く時間をもうけます。そのあと、毎回のテーマに沿って、資料映像を多く用いながら講義します。参考書は特にありませんが、日々のニュースへの感度の高さ、考察の深さが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス・メディア意識調査	授業の内容紹介。ふだん接するメディアは、授業に期待することなどについて意識調査。
2	「映像ジャーナリズム」とは	ジャーナリズムとは。ジャーナリズムは、映像によって「何」を得たか。
3	映像の危うさ「嘘」(1)	戦争とプロパガンダ
4	映像の危うさ「嘘」(2)	フェイクニュースの危機について
5	映像の危うさ「嘘」(3)	フェイクニュースの最新事情とファクトチェックについて
6	映像の危うさ「切り取り」と「炎上」(1)	メディアがだまされた例 メディアがだました＝「やらせ」の問題について
7	映像の危うさ「切り取り」と「炎上」(2)	「切り取り」の具体的な事例 企業 CM などの「炎上」はなぜ起きるか
8	映像ジャーナリズム作品の構成 (1)	「切り取り」の具体的な事例 企業 CM などの「炎上」はなぜ起きるか 実際の作品をもとに、映像ジャーナリズム作品のパーツの分け方について学ぶ
9	映像ジャーナリズム作品の構成 (2)	映像ジャーナリズム作品のパーツをどのように並べるか、構成について学ぶ
10	映像ジャーナリズムをどう作るか (1)	動機から取材、ロケから放送まで、映像ジャーナリズムの制作過程を学ぶ
11	映像ジャーナリズムをどう作るか (2)	動機から取材、ロケから放送まで、映像ジャーナリズムの制作過程を学ぶ
12	映像ジャーナリズムをどう作るか (3)	「現場型」「シナリオ型」の違い、さまざまな手法について学ぶ
13	ネット時代の映像ジャーナリズムは	ショート動画など、ネット時代の映像ジャーナリズムの在り方を考える
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎日、通学途中にでも、最近のニュースはなんだろう？、そのニュースはどこから始まり、今はどんな状況なんだろう、ということについて考えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

映像ジャーナリズムの授業ですから、初回までに、何か、映像ジャーナリズムの作品を見ておいてください。テレビでも映画でも、NHKでも民放でも何でも結構ですが、例えば毎週土日に放送している「NHKスペシャル」など。初回の授業で「最近気になった映像ドキュメンタリーは？」について尋ねます。

【成績評価の方法と基準】

到達度をみるために、期末に筆記テストを実施します（単語記入式と論述式）出席調査も兼ねて記名によるリアクションペーパーを毎回提出してもらいます。期末の筆記テストによって成績評価します（100%）
「遅刻・早退・授業中の居眠り・スマホいじり・私語」などについては「欠席」扱いとします。授業への出席は単位取得の前提条件ですので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

教師からの説明だけでなく、学生たちとの対話をもとに授業を作っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター（音声付き）とスクリーンで映像作品を上映します。

【Outline and objectives】

How do you understand the background of news?

How can I prevent being fooled by fake news?

I will tell you about information literacy and composition of video documentary, taking the latest news and past documentary works as examples.

SOC300ED

映像制作技法

石橋 充行

サブタイトル：映像制作実習A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像表現には、伝えたいことを目に見える形に置き換え、伝達していく力の習得が不可欠です。

そのために必要となる基本的な知識・技術を学んでいきます。

【到達目標】

映像を「つくる」だけでなく、「見る」際にも必要となる映像表現のための基本的な技法や知識の理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像表現に必要な知識・スキルを様々なジャンルの映像を鑑賞したり、実際に制作してみることを通して学びます。

最後には、与えられたテーマに基づいての簡単な映像制作に挑戦してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スケジュールの確認ならびに各自の興味・関心のヒアリングなど
2	映像表現の技法を知る_1	過去の名作を通して映像表現の基本的な技法を知る
3	映像表現の技法を知る_2	過去の名作から様々な映像表現、その具体的な手法を学ぶ
4	映像編集_基本 1	映像編集アプリケーションの基本的な使い方を学ぶ
5	映像編集_基本 2	簡単な映像編集への挑戦
6	映像表現の技法を知る_3	映像を撮影する際に必要となる基本的知識などを学ぶ
7	映像編集_基本 3	映像の撮影から編集までに各自が挑戦する
8	映像編集_基本 4	制作した課題の発表・講評
9	企画	課題テーマに基づいた映像の企画書・提案書づくり
10	企画発表	各自の考えた企画の発表・講評
11	課題制作_1	各自企画の映像化に向けての作業
12	中間発表	途中経過の発表を通して企画をより良いモノにしていく
13	課題制作_2	最終発表のための映像制作
14	最終発表	制作した課題の発表・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での活動が、ある程度必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。有用なものに関しては授業内で共有などします。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の制作（60%）と平常点（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作のための環境が整っていることが理想ではありますが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

様々なジャンルの映像ディレクターとしての経験を持つ教員が、映像表現のために必要となる基礎的な知識・技術を指導します。

【Outline and objectives】

This course introduces students to communication in a creative perspective through visual imagery.

Students will learn basic skills for visual communication, visualization of ideas, and others.

SOC300ED

映像制作技法

稲増 龍夫

サブタイトル：映像制作実習 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は、映像初心者を対象に、前期は個人で法政大学デジタルコンテンツコンテストへの出品作品制作を主目標に行う。

【到達目標】

映像制作を通して送り手の立場を体感し、カット割りや音楽の効果など、映像メディアリテラシーの向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2つの映像制作活動がメインですが、放送中のテレビドラマの演出分析もやりますので、テレビドラマに関心のある学生諸君の受講を希望します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認と課題オリエンテーション
2	メンバー自己紹介	フェイバリットミュージックビデオのプレゼン
3	デジタル技法の解説(1)	コマ撮り
4	デジタル技法の解説(2)	デジタル合成
5	デジタル技法の解説(3)	デジタルエフェクト
6	課題オリエンテーション	班分けと課題曲の提示
7	ミュージックビデオの歴史(1)	1980年代のミュージックビデオ
8	ミュージックビデオの歴史(2)	1990年代のミュージックビデオ
9	ミュージックビデオの歴史(3)	2000年代のミュージックビデオ
10	課題作品企画報告	企画の最終構想発表
11	制作撮影会議	撮影作業
12	制作撮影会議	撮影作業
13	制作編集会議	編集作業
14	課題発表会	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)と、課題作品の制作=提出(30+30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作の経験がなくても大丈夫ですが、相応の努力で経験者に追いついてもらいます。機材も 101 教室のカメラ、PC を利用できるのも、個人で持っている必要はありません。

【その他の重要事項】

2017 年度以前入学生の受講希望者は、春学期の映像制作実習 (LD102-a) を合わせて受講することになりますので、そちらのシラバスも読んでください。

【Outline and objectives】

Artistic Techniques of Video Art

SOC300ED

映像制作実習

石橋 充行

サブタイトル：映像制作実習 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を用いて、伝えたいことを形にし、コミュニケーションしていくために必要となる知識・技術を実習を通して学んでいきます。

【到達目標】

- ・映像を見る力の獲得。
- ・課題制作を通して「考え → 作り → 伝える力」を成長させる。
- ・各種映像ソフトウェアの使い方、その基本の理解。

これらを到達目標として設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

(1) 各種ソフトウェアの使い方を基本を理解するための練習課題
(2) テーマに基づいての制作 → 制作物発表 → 講評
上記 2 点が、授業形態の基本的な柱となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認ならびに各自の指向・スキルレベルのヒアリング
2	映像制作_基礎 1	過去の名作から様々な映像表現の基本原則を学ぶ
3	映像制作_基礎 2	各種アプリケーションの基本的な使い方を学ぶ
4	映像制作_基礎 3	撮影・編集の基礎的な技法を知る
5	映像制作_基礎 4	編集作業を通してより実践的な表現手法を学ぶ
6	映像制作_基礎まとめ	テーマに基づいたシンプルな映像作品制作への挑戦
7	映像制作_基礎まとめ	完成作品の発表・講評
8	映像制作_応用 1	先行事例から映像デザイン・エフェクトの基礎的な手法を学ぶ
9	映像制作_応用 2	モーションデザイン課題【ロゴアニメーション】
10	映像制作_応用 3	モーションデザイン課題【予告編制作】
11	映像制作_応用 4	テーマに基づいた映像の企画書・提案書づくりに挑戦する
12	映像制作_応用 2	企画発表ならびに講評
13	映像制作_応用 3	各自、企画の映像化に向けての制作作業
14	映像制作_応用 4	完成作品試写・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での活動が、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。有用なものに関しては授業内で共有などします。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の制作 (60 %) と平常点 (40 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作のための環境が整っていることが理想ではありますが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

様々なジャンルの映像ディレクターとしての経験を持つ教員が映像表現のために必要となる基本的な知識・技術を指導します。
映像制作の経験が多少でもあると望ましいですが、必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to communication in a creative perspective through visual imagery.

Students will learn the concepts, theories, and skills of visual communication, covering visual persuasion, visualization of ideas, and others.

SOC300ED

映像制作実習

稲増 龍夫

サブタイトル：映像制作実習A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作の初心者を対象に、映像制作活動の基礎的視角を獲得するために、応用映像制作技法の習得とグループに分かれてのミュージックビデオの制作をおこないます。

【到達目標】

映像制作活動がメインですが、秋クールのテレビドラマの演出分析を行い、基礎的な映像リテラシーの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像制作活動に関心がある学生を対象に、デジタル技法などの応用政策を学び、その実践として、グループでミュージックビデオの制作をおこなってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	前期スケジュールの確認
2	メンバー自己紹介	ベストテレビドラマの発表
3	テレビドラマ演出分析のオリエンテーション	ドラマ分析の基本フレームを学ぶ
4	ドラマ分析企画会議	分析担当のドラマ決定
5	テレビドラマ演出分析概論	ゲスト講師による分析紹介
6	テレビドラマ演出分析-1	春クールドラマの演出分析発表
7	テレビドラマ演出分析-2	春クールドラマの演出分析発表
8	テレビドラマ演出分析-3	春クールドラマの演出分析発表
9	グループ課題班分け	班分けと内容の検討
10	グループ課題企画プレスト	ミュージックビデオ制作の内容をつめる
11	グループ課題企画発表	グループごとの企画案プレゼン
12	グループ課題撮影	撮影作業
13	グループ課題編集	編集作業
14	グループ課題上映会	作品上映と反省会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作はすべて課外活動となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】

実習授業につきアンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Production of Video Art

FRI300ED

映像制作実習 B

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度な映像製作技術を習得している上級者を対象に、現代の気鋭のクリエイターの技法をサーベイしつつ、各種映像コンテストへの出品を目指します。

【到達目標】

現代の若手映像クリエイターの活動をフォローしながら、斬新な映像製作の文法や技法を追求します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

さまざまな最先端の映像作品を鑑賞しつつ、その世界観や技法を研究し、各自の映像制作に反映させながら、作品を制作します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールと受講者の自己紹介
2	映像作家技法分析	山田健人
3	映像作家技法分析	加藤マニ
4	映像作家技法分析	二宮大輔
5	映像作家技法分析	牧野惇
6	映像作家技法分析	石田悠介
7	映像作家技法分析	長谷川カラム
8	デジコン企画会議	過去の優秀作品上映（2000年代）
9	デジコン企画会議	過去の優秀作品上映（2010年代）
10	デジコン企画プレゼン	企画案・絵コンテをプレゼン
11	デジコン制作	撮影・編集
12	デジコン制作	撮影・編集
13	デジコン制作	撮影・編集
14	デジコン提出作品上映会（仮）	相互コメント
15	デジコン提出作品上映会	最終チェック
16	映像作家技法分析	山田智和
17	映像作家技法分析	関和亮
18	映像作家技法分析	児玉裕一
19	映像作家技法分析	岡崎体育
20	映像作家技法分析	ヒロムライ
21	ショートショートフィルムフェスティバル	ガイダンス
22	ショートショートフィルムフェスティバル	過去の優秀作品（2000年代）
23	ショートショートフィルムフェスティバル	過去の優秀作品（2010年代）
24	ショートショートフィルムフェスティバル	企画プレゼン
25	ショートショートフィルムフェスティバル	撮影・編集
26	ショートショートフィルムフェスティバル	撮影・編集
27	ショートショートフィルムフェスティバル	撮影・編集
28	ショートショートフィルムフェスティバル	作品上映会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）+課題作品制作（50%）

【学生の意見等からの気づき】

実習授業につき、アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】

本実習は、旧カリ科目につき2017年度以前の学生しか受講できません。

【Outline and objectives】

Study of Video Production

EVN200EB

エネルギー論

高橋 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、経済社会に不可欠な財であるエネルギーを巡る諸課題について、主として政治学・公共政策論の観点から考察することにある。現代社会は、石油、天然ガス、電力といったエネルギーなしには、全く成り立たない。これらエネルギーは、自動車、鉄道、工場の稼働から、暖房やスマホの充電まで、経済活動や我々の日常生活に欠かせないが、ほとんどが自然環境の中に偏在して賦存している。そのため、エネルギーの貿易は大規模に行われると共に、これを巡る政治的紛争が起き易く、また廃棄物が環境問題を引き起こすことも問題視されている。具体的には、エネルギー自体の基礎的・社会的な理解から始まり、エネルギー政策の理論的枠組みを踏まえた上で、個別のエネルギー問題について考えていく。各論としては、シェール革命、電力自由化、気候変動問題、再生可能エネルギー、福島第一原発事故などを取り上げ、これらの政治との関係や政策的対処法について議論する。政治学・公共政策論を基本としつつ、経済学や社会学、若干の工学、国際関係論、環境経済学などの知識も援用する。

【到達目標】

本授業に能動的に参画した結果、経済社会におけるエネルギーの役割や影響、課題、これらに対する政策のあり方を理解できるようになる。新聞などを賑わしている、シェール革命、電力自由化、ホルムズ海峡問題、パリ協定といった論点について、専門的かつ実践的な理解を深め、自分なりの意見を持ち、議論できるようになる。また、これらエネルギー問題に対する、政策的な処方箋を提案する能力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業では、日本語による講義を基本としつつ、学生の積極的な参画を組み合わせる。講義については、教科書（後述）に沿って行う。毎週該当箇所を指定する（授業計画）ので、事前にざっと読んで上で教科書を授業に持参すること。また講義は双方向で行うことを旨とし、受講生は積極的に発言することが求められる。講師は授業中に様々な質問をし、こちらから指名することもある。授業で扱う様々な課題に関心を持ち、リアクションペーパーに記載したり、自主的に調べたりすることも重要である。第13回ではグループ討論も行う。当面の間は ZOOM にて遠隔講義を行う。URL等の詳細は Hoppi を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の紹介（序章）	シラバスをもとに、授業の概要と進め方について説明
2	エネルギーと経済社会（1章）	エネルギーの定義と分類、供給と消費の定量的状況
3	多様なエネルギーとその特徴（2章）	石炭、石油、天然ガス、原子力、再生可能エネルギー、省エネルギー
4	エネルギー政策の基礎概念（3章）	政府の役割と市場の失敗（公共財、自然独占、外部性）、エネルギー政策の3E

5	エネルギー政策の枠組みと主体（4・5章）	エネルギー関連法制、特別会計、資源エネルギー庁 中間レポートの課題の提示
6	化石燃料と石油危機（8章）	石油メジャー、石油危機、米国発のシェール革命 中間レポートの提出
7	公益事業と電力自由化（9章）	法定独占と自由化政策、電力自由化の政策過程
8	気候変動問題と環境・エネルギー政策（10章）	気候変動問題と温室効果ガス、エネルギーの脱炭素化と省エネルギー
9	再生可能エネルギーとエネルギー転換（11章）	再生可能エネルギーの世界的導入、ドイツのエネルギー転換とエネルギー自治
10	福島第一原発事故と日本のエネルギー政策の展開（12章）	気候変動問題と温室効果ガス、エネルギーの脱炭素化と省エネルギー
11	グループ討論	日本のエネルギー問題について、グループに分かれて自由討論
12	授業の総括（終章）、期末テスト	授業内容のまとめ、期末テスト（全体を対象）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各回の該当する教科書の章を事前に読んでから、授業に臨むこと。授業後はノートの整理をしておくことをお勧めする。

【テキスト（教科書）】

高橋洋（2017）『エネルギー政策論』岩波書店（2400円＋税）。各自で必ず入手し、各回の授業に持参すること。

【参考書】

- ・植田和弘（2014）『緑のエネルギー原論』岩波書店。
- ・倉阪秀史（2015）『環境政策論 第3版』信山社。
- ・経済産業省編『エネルギー白書』。
- ・高橋洋（2011）『電力自由化』日本経済新聞出版社。
- ・新澤秀則・森俊介（2015）『エネルギー転換をどう進めるか』岩波書店。
- ・福富満久（2015）『Gゼロ時代のエネルギー地政学』岩波書店。
- ・ヤーギン、ダニエル（1991）『石油の世紀』上・下、日本放送出版協会。
- ・ロビンス、エイモリー（2012）『新しい火の創造』ダイヤモンド社。

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点：15点（授業での質問・発言、グループ討論への参画等）
- 2：リアクションペーパー：8点×2枚＝16点
- 3：中間レポート：14点
- 4：期末試験：55点

第1に、授業貢献点を取る。毎回の授業における発言や質問に対して、1回当たり2～4点を目処に点数を付ける。グループ討論への参画状況も貢献点の対象となる。

第2に、2回以上のリアクションペーパーの提出を求める。任意の授業を選び、それに対する感想、意見、疑問、要望などをA4・1枚程度にまとめる。次回の授業の際に自ら提出することとし、遅れた場合や他人が提出した場合は減点する。但し、1回目は第8回（6月4日）までに提出すること。3回以上の提出に対しては、高得点2回分を選択の上、残りの回を加点の対象とする。なお、原則として提出した次の授業にて返却するが、その際に本人がいないことが2回続くと－3点とする。

第3に、中間レポートの提出を求める、教科書の第6章・7章に関するもので、第5回授業においてレポートの課題を伝える。1週間後に締め切りとするので、事前に2つの章をよく読んでおくことをお勧めする。

第4に、期末試験を第14回の授業内で行う。授業で扱った基礎的概念や専門用語を問う記述式の予定である。その際、「自筆ノートのみ持ち込み可」とするので、日頃からノートを丁寧にとることをお勧めする。

なお、感染症問題による授業内容・形態の変更に応じて、評価方法を変更する可能性がある。その際、できる限り受講生に不公平が生じないように配慮する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

講師は、経済産業省の総合資源エネルギー調査会委員や内閣府参与、大阪府・市特別参与などを経験し、エネルギー政策の形成に実務的に関わってきた。それら経験から得られる知見を授業において適宜紹介する。

【Outline and objectives】

Objective of this lecture is to understand various issues regarding energy from standpoints of public policy. Energy such as petroleum, natural gas and electricity, are essential goods in our modern society. We absolutely need them for automobiles, train systems, and battery charging of smart phones. Energy, on the other hand, is endowed in natural environment unevenly across nations. Therefore, energy is traded internationally in a large scale, can be a source of political conflicts, and its waste materials can cause environmental problems. We start understanding basic nature of energy from standpoints of social sciences, base on theoretical framework of energy policy, and apply them to each social and economic issue over energy. We discuss on such issues as Shale Revolution, Climate Change and Fukushima Nuclear Accident.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TV、新聞、雑誌、インターネット等の広告を分析することを通じて、なぜ自分にとって広告効果があるのか、そのメカニズムを理解する。特に、どのようなメッセージ、表現方法、メディア選定が効果的なのかをブランド・コミュニケーションを中心として考察した結果、様々な対象をテーマとした広告プランニングの基礎を習得する。

【到達目標】

大学生としての研究・調査能力をより高度化し、分析課題に対して仮説を立案し、仮説に沿って資料収集、データ分析を行い、その仮説証明に関して説得的かつ効果的なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自己のテキスト読解に至る方法論も学んでいく。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

授業開始日を4月27日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告研究に関する基本知識	広告研究に関して必要な基礎知識
第3回	広告企画事例の設定	広告に関する企画事例を設定
第4回	事例分析方法の習得(1)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第5回	事例分析方法の習得(2)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第6回	事例分析方法の習得(3)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第7回	プレゼンテーション方法	分析結果のまとめとプレゼンテーション技法の習得
第8回	広告分析の発表とディスカッション(1)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第9回	広告分析の発表とディスカッション(2)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第10回	広告分析の発表とディスカッション(3)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第11回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(1)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第12回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(2)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施

第13回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(3)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第14回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(4) および前半のまとめ	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第15回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク(タウンウォッチング)の成果発表	合宿でのフィールドワーク=タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第16回	効果的なブランド広告の構造	効果的なブランド広告の分析方法について学ぶ
第17回	研究対象の設定	効果的なブランド広告のケース選定
第18回	ケース発表(1)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第19回	ケース発表(2)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第20回	ケース発表(3)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第21回	ケース発表(4)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第22回	ケース発表(5)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第23回	ケース発表(6)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第24回	ケース発表(7)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第25回	グループ研究	グループ研究の広告企画設定
第26回	グループ・プレゼンテーションと評価(1)	企画プレゼンとディスカッション
第27回	グループ・プレゼンテーションと評価(2)	企画プレゼンとディスカッション
第28回	グループ・プレゼンテーションと評価(3) およびまとめ	企画プレゼンとディスカッション 全体への講評とディスカッション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング(フィールドワーク)を実施する。

【テキスト(教科書)】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別の面談は事前にメールで連絡し、調整する。

【Outline and objectives】

This class will look into the mechanism of advertising effect on us through analyzing advertisements such as TV, newspapers, magazines, the Internet, etc. In particular, we will examine what kind of message, expression method, or media selection is effective based on brand communication. The class provides the basics of advertisement planning on various subjects.

EDU200EB, EDU200EC, EDU200ED

演習1・2

荒井 容子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

教育・社会教育に関する認識を深め、各自の研究テーマを検討し合い論文にまとめる。

【到達目標】

人々の学習・文化・スポーツ活動を支える社会教育実践について理解を深め、演習3で卒業論文を書くための問題意識の深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は「教育」「社会教育」の本質について学び、秋学期は各自の研究にテーマを深め、ゼミ論にまとめ、全員で検討する。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業開始日は4月23日で、事前の打合せ会も含め、実施方法はすでに学習支援システムの「お知らせ」で提示済みである。またそれにとりまう各回の授業計画の変更もその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講生の自己紹介、今後予定の確認
2	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 1
3	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 2
4	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 3
5	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 4
6	「教育」の本質について	「教育の本質」の検討 1
7	「教育」の本質について	「教育の本質」の検討 2
8	「教育」の本質について	「教育の概念と教育学」の検討 1
9	「教育」の本質について	「教育の概念と教育学」の検討 2
10	「教育」の本質について	「教育の概念と教育学」の検討 3
11	「社会教育」の本質	「社会教育の本質」の検討 1
12	「社会教育」の本質	「社会教育の本質」の検討 2
13	「社会教育」の本質	宮原誠一「社会教育の本質」の検討 3
14	総括と相談	春学期の総括と秋学期の相談
1	各自の調査研究	報告と相談 1
2	各自の調査研究	報告と相談 2
3	各自の調査研究	報告と相談 3
4	第1ラウンド	研究成果の報告とその検討 1
5	第1ラウンド	研究成果の報告とその検討 2
6	第1ラウンド	研究成果の報告とその検討 3
7	第2ラウンド	研究成果の報告とその検討 1
8	第2ラウンド	研究成果の報告とその検討 2
9	第2ラウンド	研究成果の報告とその検討 3
10	第3ラウンド	研究成果の報告とその検討 1
11	第3ラウンド	研究成果の報告とその検討 2
12	第3ラウンド	研究成果の報告とその検討 3
13	ゼミ論の骨子・構成	最終検討
14	ゼミ論提出	論文編集作業と口頭質問の打合わせ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

人々の学びの営みに関心を寄せ、社会教育活動・研究集会に参加し、感性を磨いておく。本授業の準備学習は報告者になった場合計16時間以上必要。復習は特に必要ない。

【テキスト(教科書)】

春学期第6回から第13回までで検討する文献は配布する。

【参考書】

雑誌『月刊社会教育』、社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所、その他講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義時の理解度・学習成果(他者の学習への貢献も含め)50%と最終のゼミ論の質50%を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が10人以下のため授業改善アンケートを行っていない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用するのでアクセス、eメールアドレスの登録を確実にしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain an understanding of basic theory of education and social education. After that, students are required to engage in own research and report at the class in turn for the class discussion. Students are required to write the final report on their own theme.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の農業・食糧・環境・エネルギー問題の実態解明を主なテーマとします。

【到達目標】

演習参加者各自が、実際に今日本と世界各地で起こっている環境問題、エネルギー問題の実態を、社会の動向と関連させながら明らかにすることによって、社会的な調査方法と思考方法を習得することが最終的な到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者の人数にもよる（最大 25 人）が、原則として 1 回に一人、自分で発見した事例について報告し（30 分）、それを受けて討論者がコメントと質問を行って全体の議論を方向づけ（10 分）、それにもとづいて司会者の進行によって全員で討論し（30 分）、教員のコメントを受けてその回の報告の結論と報告者の今後の課題を確認する（20 分）、というのが 1 回の演習の流れです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	教員からの趣旨説明、演習参加者の自己紹介
2	役割分担、年間計画	ゼミ長その他の恒常的運営上の役割分担の決定、各回の報告者、討論者、司会者の決定
3	第 1 回演習	報告と討論
4	第 2 回演習	報告と討論
5	第 3 回演習	報告と討論
6	第 4 回演習	報告と討論
7	第 5 回演習	報告と討論
8	第 6 回演習	報告と討論
9	第 7 回演習	報告と討論
10	第 8 回演習	報告と討論
11	第 9 回演習	報告と討論
12	第 10 回演習	報告と討論
13	第 11 回演習	報告と討論
14	春学期の演習の成果確認、演習運営方法の反省、夏季ゼミ合宿の計画	全員で議論
15	秋学期の改善点等確認、役割分担、報告者等のスケジュール再調整	全員で議論
16	第 12 回演習	報告と討論
17	第 13 回演習	報告と討論
18	第 14 回演習	報告と討論
19	第 15 回演習	報告と討論
20	第 16 回演習	報告と討論
21	第 17 回演習	報告と討論
22	第 18 回演習	報告と討論
23	第 19 回演習	報告と討論
24	第 20 回演習	報告と討論
25	第 21 回演習	報告と討論
26	第 22 回演習	報告と討論
27	第 23 回演習	報告と討論
28	年間総括、次年度の計画、ゼミ論文の提出指示	全員で議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告の準備（文献・資料の収集と解説、必要に応じて調査活動の実施）とそれにもとづく報告資料（レジュメ等）の作成、ゼミ論文（最終回までに指示）の作成本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の課題に応じて指定します。

【参考書】

各自の課題に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】

各自の報告の内容（50%）、討論への参加度（20%）、ゼミ論文（30%）によって総合的に評価します。（春学期は、報告と討論をオンラインで実施します。）

【学生の意見等からの気づき】

特筆事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてプロジェクターなど。

【その他の重要事項】

演習中はスマホとの「対話？」は厳禁します。

【Outline and objectives】

The main theme of this seminar is to discuss on the realities of agriculture, food, environment, and energy problems in contemporary Japan and the world.

FRI200EB, FRI200EC, FRI200ED

演習 1

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画、テレビドラマ、バラエティ、音楽ビデオ、CF、ウェブなどの「映像が好き」ということを前提に、実践的な映像制作活動を通してメディアリテラシー能力の習得＝向上を目指します。

【到達目標】

「説得力がある・おもしろい・カッコいい」など、受け手として享受する映像コンテンツの魅力を、基礎的な映像文法や技法を学ぶことで体感的に理解し、自ら、そうした映像をクリエートできる能力を磨きます。たとえば「やらせ」はダメというのは当たり前のことですが、どうやったら、受け手にわかりやすく、インパクトのある映像を作ろうかと考えた時、なんらかの「演出」は不可欠であり、それがどこまで許されるかを体感的に理解することは、座学では得られない実践的学習になるのです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

メディア関係の基礎文献の輪読と映像制作活動を軸に、送り手の立場を体感した上で、メディアコミュニケーション過程を立体的に理解し、あわせて、コミュニケーション／プレゼンテーション能力の向上を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミガイダンス	年間スケジュールの確認
2	ゼミプロモの解題	2ゼミ生のゼミプロモ制作解説
3	自己紹介ビデオの収録	1人2分間の自己紹介
4	ニュース課題企画会議	多摩キャンパスニュースの概略
5	ニュース課題企画会議	ニュース課題の班分け企画会議
6	撮影ガイダンス	撮影機材の取り扱い方の指導
7	編集ガイダンス	PCによるノンリニア編集指導
8	ニュース上映と文献輪読- 1	チャンネルAの上映とチャンネルDのプレゼン
9	ニュース上映と文献輪読- 2	チャンネルBの上映とチャンネルEのプレゼン
10	ニュース上映と文献輪読- 3	チャンネルCの上映とチャンネルAのプレゼン
11	ニュース上映と文献輪読- 4	チャンネルDの上映とチャンネルBのプレゼン
12	ニュース上映と文献輪読- 5	チャンネルEの上映とチャンネルCのプレゼン
13	ニュース課題総括	2ゼミ生の評価／講評発表
14	夏課題ガイダンス	夏自由課題「2017 夏」の概略
15	夏課題の総括	2ゼミ生による評価／講評
16	MTV 課題のガイダンス	MTV 課題の概略
17	MTV 課題ガイダンス- 1	先輩のMTV 課題の紹介
18	MTV 課題ガイダンス- 2	先輩のMTV 課題の紹介
19	1980 年代MTV 解説	初期のMTV の解説
20	1990 年代MTV 解説	1990 年代のMTV の解説
21	2000 年代MTV 解説	2000 年代のMTV の解説
22	MTV 最新トレンド	最新のMTV の解説
23	文献輪読- 1	プロジェクトAのプレゼン
24	文献輪読- 2	プロジェクトBのプレゼン
25	文献輪読- 3	プロジェクトCのプレゼン

26	文献輪読- 4	プロジェクトDのプレゼン
27	MTV課題上映会	MTV課題の上映
28	MTV課題総括	2ゼミによる課題評価/講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企画／撮影／編集などの制作活動は授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

天野彬「SNS変遷史」（イースト新書）
田中辰雄・浜屋敏「ネットは社会を分断しない」（角川新書）

【参考書】

近藤智嗣『映像メディアとCGの基礎』（放送大学教材）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、映像制作課題（50％）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習につき実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

各自、編集／プレゼン用のノートパソコン（Macbook Pro など）を所有することが望ましいです。

【その他の重要事項】

映像制作未経験者も大歓迎。誰もが、1年間で高度な制作能力を習得できます。ちなみに、2011年末にTBSで放送された「完コピ選手権」で、稲増ゼミ制作の「カウントダウンTV」が紹介され、その再現技術の高さが絶賛されました。

【Outline and objectives】

Practical Study of Media literacy by Video Production

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

宇野 斉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期：テーマごとのグループで担当文献について発表し理解します。
秋学期：個別のテーマごとに研究発表をします。年度末に論文としてまとめます。

【到達目標】

文献を適切に要約する技能と必要な内容をまとめ発表する技能とを修得します。論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループまたは個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末には各自の研究内容を論文としてまとめます。自己の研究のみならず、他のグループ、他のメンバーの研究への理解とコメントも必須です。他大学との共同研究発表や、そのための学外調査を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	演習テーマと進行計画を学生と教員で確認します。
02	グループ分けと課題設定	各グループにメンバーを分けグループ別課題文献を決定します。
03	発表、質疑、議論 (01)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論 (02)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論 (03)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論 (04)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論 (05)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論 (06)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論 (07)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論 (08)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論 (09)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論 (10)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論 (11)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
14	グループのまとめと秋学期個別研究テーマ発表	グループ別にまとめを作成します。秋学期への夏休み中の個別課題を確認します。
15	個別の課題テーマの確認	各人の夏休み中の成果と個人研究の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論 (01)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論 (02)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論 (03)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論 (04)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論 (05)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論 (06)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論 (07)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論 (08)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論 (09)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

25	発表、質疑、議論 (10)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
26	発表、質疑、議論 (11)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	発表、質疑、議論 (12)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
28	論文の整備	個人研究論文の形式を整備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布します。発表後、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布します。

合同ゼミ合宿や研究発表大会に向けてグループミーティングまたは個人での作業時間、場合によっては実地調査が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は受講者グループごとに相談し教員が決定します。秋学期は使用しません。

【参考書】

グループまたは個別に、適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

基礎演習Ⅰ・Ⅱを履修していることが前提です（転編入学生は除く）。

秋学期末に個別研究成果を論文としてまとめます。

授業計画は、進行によって若干の変更があります。

【Outline and objectives】

Spring semester: Participants understand by summarizing designated books, announcing them mutually and examining them.

Fall semester: Participants make research presentations sequentially. Participants create thesis at the end.

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1

遠藤 聡

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題をテーマとし、アジア（東アジア、東南アジア、南アジア）の社会、経済、政治、文化などの問題を議論することを目的としています。アジアについて、とくに深い知識がなくとも、ゼミで勉強していくので大丈夫です。

【到達目標】

一年間のゼミをとおして、文献報告や議論を進めていく中で、アジアに関する見方を深め、「自分のテーマ」を獲得することを演習1の目標とします。アジアに関心があって、「自分のテーマ」を持ちたい、やる気のある学生の参加を期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、レジュメの書き方や時事問題を学んだ上で、テキスト報告と議論。秋学期はテーマを設定してグループ報告と議論、また各自のゼミ論文の報告と執筆。また春学期・秋学期にディベートも行う。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの説明とテキストの検討
第2回	時事問題プレゼン (1)	アジアの時事問題について
第3回	時事問題プレゼン (2)	新聞記事からトピックを選択
第4回	時事問題プレゼン (3)	レジュメ準備し、報告と議論
第5回	テキスト報告と議論	テキストの序章・第1章
第6回	テキスト報告と議論	テキストの第2章と第3章
第7回	テキスト報告と議論	テキストの第4章と第5章
第8回	テキスト報告と議論	テキストの第6章と第7章
第9回	テキスト報告と議論	テキストの第8章と第9章
第10回	テキスト報告と議論	テキストの第10章と第11章
第11回	テキスト報告と議論	テキストの第12章と第13章
第12回	テキスト報告と議論	テキストの第14章と第15章
第13回	ディベート (1)	学生が選んだテーマでディベート
第14回	ディベート (2)	夏合宿について 秋学期の報告や課題について
第15回	テキスト報告と議論	テキストの第16章と第17章
第16回	テキスト報告と議論	テキストの第18章と第19章
第17回	テキスト報告と議論	テキストの第20章と第21章
第18回	テキスト全体についての議論	テキスト全体についてのレポート提出と論点・議論
第19回	ゼミ論文の報告 (1)	各自、研究テーマを決める
第20回	ゼミ論文の報告 (2)	各自、レジュメを用意して報告
第21回	ゼミ論文の報告 (3)	それぞれの報告について議論
第22回	ゼミ論文の報告 (4)	全体の議論
第23回	ゼミ論文の報告 (5)	報告と議論
第24回	ディベート (1)	ゼミ生のテーマでディベート
第25回	ディベート (2)	ゼミ生のテーマでディベート
第26回	ディベート (3)	ゼミ生のテーマでディベート
第27回	ディベート (4)	ゼミ生のテーマでディベート
第28回	1年間の振り返りとゼミ論文の提出	ゼミの1年間の振り返りとゼミ論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考資料、レジュメ準備など勉強が必要です。とくに報告やディベートは、個別の勉強に加えて、グループでの作業が求められます。またゼミ論文の執筆もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、アジアについて学べる本を候補とし、議論して決めます。

【参考書】

参考書は、必要に応じて適時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の基準は、①ゼミの報告準備や発言・議論など(70%)、②ゼミ論文(30%)などを総合的に評価します。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミにおける学生の自主的な運営と積極的な議論参加に期待しています。

【その他の重要事項】

二次募集は実施しません。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of second-year students. This course is to study analyzing Asian social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the final term-paper.

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1・2

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きることと、学問的のものごとを考えることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4月22日開始です。

春学期（4月初めから7月初めまでの3か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方に都心で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加し、他流試合(?)の経験をしてもらいます。夏休み明けくらいに関西の私大のゼミとの合同合宿、11月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自のテーマでじっくりとゼミ論文を書いていきます。

以上が大枠ですが、内容については、学びの主体が受講生である以上、受講生と話し合って決めるのが基本だと考えています。受講生によるゼミ運営の自治組織をつくって、連絡網、楽しいことの企画などをやってもらいます。修正提案については、議論しますので、いつでもどうぞ！ さしあたりの提案は、以下のとおりです。

社会科学の古典中の古典である『資本論』を1年かけて読む。各自が「ゼミ日誌」を作って、そこに、テキストや討論の要旨、コメントなどを書き込んでいきます。最後の2回までに各自の自由論題でのゼミ論文を書き、回覧して相互評価します。同時に、9月の関西の私大との合同ゼミ合宿での共同報告を準備し、11月のゼミ研究発表会での共同報告も準備します。

なお例年9月及び2-3月に海外で、その他の時期に国内で、希望者のみが参加するベーシック・インカムに関連する現地調査や学会などに参加するゼミ研修旅行を行っており、参加者はその成果を報告書にまとめて公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	商品論	報告と討論：社会的分業について。
3	貨幣論と資本論	報告と討論：物神性について。
4	労働過程論	報告と議論：人間と自然、人間と人間とのかわり。
5	価値増殖過程論	報告と議論：システムによる生活世界の植民地化。
6	絶対的剰余価値論	報告と討論：搾取への欲望。
7	労働日論	報告と討論：生活世界からみたシステムの論理。
8	相対的剰余価値論	報告と討論：生産力と搾取への欲望。
9	労賃論	報告と討論：システムと生活世界の交錯。
10	単純再生産論	報告と討論：歴史への視点。
11	領有法則の転回論	報告と討論：規範理論。
12	蓄積論	報告と討論：資本家による資本家からの奪い取りの論理。
13	本源的蓄積論	報告と議論：歴史的不正義と正義回復論。
14	資本循環論	報告と議論：資本の流れを見る場合の生産、商品、貨幣という視点のちがいとその帰結。
15	再生産論	報告と議論：二部門分割三価値構成からなる再生産表式に基づく再生産バランスの分析。
16	生産価格論	報告と討論：社会的分業視点から企業間競争をみるということ。

17	利潤論	報告と討論：個別企業の行動論と経営学の地平。
18	利潤率の傾向的低下論	報告と議論：システムの論理。
19	利子生み資本論	報告と議論：近代資本主義システムの歴史的特性。
20	信用論	報告と討論：社会的分業の視点から金融機関を考える。
21	株式会社論	報告と討論：「資本家的共産主義」としての株式会社の歴史的性格。
22	地代論	報告と討論：生産力発展に対する自然的制約の問題。エコロジーの理性論。
23	階級論	報告と討論：階級意識と即自的階級、対自的階級論。
24	金融資本論	報告と討論：銀行の役割の変化。
25	帝国主義論	報告と討論：植民地領有と軍需産業の問題。
26	資本論の歴史理論	報告と討論：19世紀、20世紀、21世紀の変わらなさと違い。
27	資本論の地理学	報告と討論：欧米、ラテンアメリカ、アフリカ、アジアからみた資本論。
28	国家論	トランスナショナル資本とトランスナショナル国家の議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「ゼミ日誌」を書く。「ゼミ日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、授業での質疑応答と討論の要約とコメント。②各回のテーマに関連して、自分の日常生活、最近読んだ本やニュースなどをもとに考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。また、最終回の2回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

カール・マルクス『資本論』（数種類の翻訳があり、インターネットからも入手できます。どれでも大丈夫です。ただし、新しい訳のほうが読みやすく、岩波文庫などの古い訳は読みにくいので古本購入の場合は注意のこと）

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。
 岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2018年、9月刊行予定）
 ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000円プラス税）
 ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】

最終回に提出されたゼミ日誌とゼミ自由論文について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の10大セミナーへの参加を推奨し、「ゼミ日誌」によって活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOW200EB, SOW200EC, SOW200ED

演習 1

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダーと福祉との関わりについて、インターセクショナルリティ（交差性）という観点から理解する。

【到達目標】

- 1) ジェンダーと福祉との関わりを、貧困・労働・シティズンシップ・グローバルイゼーション等の多様な観点から理解すること
- 2) 「女」に限らず、福祉国家においてマイノリティと位置付けられる人びとの生活や労働の意味を各自が問い直していくこと
- 3) 既存の制度や事実を、批判的/反省的に捉える方法を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等でのディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、ジェンダーと福祉との関わりに関する基本的な文献の講読と、グループごとに調査・研究発表を行うグループワークが中心となる。秋学期は、文献の講読と、個人別の調査・研究発表を中心に行う。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※4/30に初回授業を行います。詳細は、学習支援システムのお知らせ欄を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション(春)	イントロダクション(春学期)
第2回	文献の選定	基本文献の選定・担当決定
第3回	課題文献の検討①	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第4回	課題文献の検討②	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第5回	課題文献の検討③	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第6回	課題文献の検討④	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第7回	課題文献の検討⑤	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第8回	グループ別研究テーマの選定	グループ分け、研究テーマの選定
第9回	グループワーク①	グループ別研究テーマの検討・先行研究の整理
第10回	グループワーク②	グループ別研究テーマの検討・論点整理と掘り下げ
第11回	グループワーク③	グループ別研究テーマの検討・発表資料の作成
第12回	グループ別研究発表①	グループ別研究発表、ディスカッション
第13回	グループ別研究発表②	グループ別研究発表、ディスカッション
第14回	まとめ	ふりかえり・秋学期に向けて
第15回	イントロダクション(秋)	イントロダクション(秋学期)
第16回	個人別研究テーマ案の発表①	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第17回	個人別研究テーマ案の発表②	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第18回	課題文献の検討⑥	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第19回	課題文献の検討⑦	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第20回	課題文献の検討⑧	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第21回	課題文献の検討⑨	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第22回	課題文献の検討⑩	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第23回	個人別研究報告①	個人別研究報告、ディスカッション
第24回	個人別研究報告②	個人別研究報告、ディスカッション
第25回	個人別研究報告③	個人別研究報告、ディスカッション
第26回	個人別研究報告④	個人別研究報告、ディスカッション
第27回	個人別研究報告⑤	個人別研究報告、ディスカッション
第28回	ふりかえり	ふりかえり、個人別研究論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読・レジュメ作成の他、各グループ・個人の研究テーマに沿った自己学習等を要します。本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（グループへの貢献、ディスカッション含む）40%、提出物（読書ノート・プレゼンテーション資料・個人別研究論文含む）60%で行います。提出物の締切は厳守とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

受講者の関心により、学外での勉強会やヒアリング・イベント等への参画も検討しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the concept of "intersexuality".

SEE200EB, SEE200EC, SEE200ED

演習 1

勝又 暢之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩地域の遺産である里山の自然と文化の持続性に関する文理融合的研究を教員と学生が一緒になって遂行する。これにより、里地里山の自然環境を五感をもって体感し、その保全的管理のあり方や人と自然とのかかわり方について一人一人が答えを導いていく。

【到達目標】

自然と生物のシステムを体験的に学習し、人間とはどんな生物であるのかを考究することにより豊かな人間力を養う。里山を題材とした環境問題について議論し、環境力のアップを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多摩キャンパスの自然や生物を観察したり、個人研究およびグループでの共同研究を通じて、自然と生物を科学的に理解するための理論と方法論を学ぶ。夏休みに集中合宿を行って、自然とのディープな付き合い方や自然の食材を食することの意義を学ぶ場合もある。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月5日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	事前に与えた課題の成果物の提出と授業内容についての概要説明
第2回	野鳥観察法	野鳥観察の基本知識を得るための講義を行う
第3回	野鳥観察法	多摩キャンにてバードウォッチングを行う
第4回	植物観察法	植物観察の基本知識を得るための講義を行う
第5回	植物観察法	多摩キャンに生息する植物観察を行う
第6回	動物観察法	動物観察の基礎知識を得るための講義を行う
第7回	動物観察法	多摩キャンに生息する動物の観察を行う
第8回	予備日（天候により実施日は前後する）	天候等を考慮したフィールドワーク調整日であり、代わりに室内実験を行う
第9回	水生生物観察法	水生生物観察の知識を得るための講義を行う
第10回	水生生物観察法	4号調整池に生息する生物の観察を行う
第11回	夏休み自由研究の実施について	夏休み自由研究を実施することの意義について説明する
第12回	夏休み自由研究課題の設定	夏休み自由研究の課題名について各自検討し、話し合いのうえ決定する
第13回	夏休み自由研究計画の立案方法について	夏休み自由研究をどのように行うのか、研究計画の立案方法について解説する
第14回	夏休み自由研究の課題と計画に関するプレゼン	夏休み自由研究の課題と計画についてパワポを用いてプレゼンする
第15回	夏休み自由研究の成果発表会（前半）	夏休みの実施した自由研究の成果について各自パワポでプレゼンする
第16回	夏休み自由研究の成果発表会（後半）	夏休みの実施した自由研究の成果について各自パワポでプレゼンする
第17回	グループ研究の実施について	グループ研究の実施意義について説明する
第18回	グループ研究課題とグループ分け	各自が行いたい研究課題を出し合ったのち、共同研究が可能になるよう、グループ分けを行う
第19回	グループ研究課題の設定方法について	どのようにグループ研究の課題を設定すべきか、具体例をもとに解説する
第20回	グループ研究の計画立案について	グループ研究の研究計画を立案することのコツについて解説する
第21回	グループ研究の課題と研究計画についてのプレゼン	各グループ研究の課題と研究計画についてパワポを使って発表する

発行日：2020/5/1

第 22 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 23 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 24 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 25 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 26 回	グループ研究の中間発表会	それまでに得られたグループ研究の成果についてパワポで発表し、最終成果発表会に向けての修正を行う
第 27 回	グループ研究の最終成果発表会に向けた準備	中間発表の時の助言をもとに発表原稿を再検討する
第 28 回	グループ研究の最終成果発表会	グループ研究の成果についてパワポを作成し、最終発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休みの自由研究を実施するので、夏休み期間中に各自の研究テーマに沿った調査や実験を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時、関連資料を配布する。

【参考書】

「面白くてよくわかる！ エコロジー」満田久義著、アスペクト（2013）；「里山資本主義」藻谷 浩介、NHK 広島取材班著、角川書店（2013）

【成績評価の方法と基準】

夏休み自由研究課題とグループ研究課題の発表内容から成績を評価する。各課題に対する評価の配分（重みづけ）はそれぞれ 50 % とする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必要に応じて）

【その他の重要事項】

生物や自然が大好きで、真摯に対応する人が望ましい。そこで、履修を希望する人は初回の授業の時までに、参考図書に挙げた 2 つの書籍のどちらか 1 冊を読んでおくこと。グループ研究があるので共同作業は必須である。自然界を相手にするので、授業スケジュール等を変更することがある。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on ecosystem services, e.g. biodiversity and matter cycle, in the forest of Tama Campus. In the spring semester, the students will learn how to study living organisms in the field and laboratory.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業調査の基礎を学び、各人が産業調査マン・調査ウーマンになることを目指します。

4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

特定の地域産業の概要を各自で調べ上げることができるようになることが目標です。今年度は具体的には、人口減少の影響を大きく受けているであろう、産婦人科業界、幼稚園・保育園業界、学習塾業界、教育業界、アパレル産業、ブライダル産業等について、皆で調査します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初はやさしめの本をやや大量に消化し、自分の言葉でレジュメを作成する練習をします。次に産業調査の方法について学び、最後に実際に自分で個別産業を調べることができるようになるように進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	通年ガイダンス	ゼミの進め方・年間計画などについて
第 2 回	リサーチ・デザイン (1)	リサーチ・デザインとは何か
第 3 回	リサーチ・デザイン (2)	リサーチ・デザインの基本形
第 4 回	リサーチ・デザイン (3)	変数による思考
第 5 回	リサーチ・デザイン (4)	事例をいかに選択するか
第 6 回	リサーチ・デザイン (5)	因果関係のコンセプト
第 7 回	リサーチ・デザイン (6)	定量的因果推論の技法
第 8 回	リサーチ・デザイン (7)	比較事例での因果推論技法
第 9 回	リサーチ・デザイン (8)	単独事例での因果推論技法
第 10 回	下調べ (1)	業種別審査辞典を読み込む (1)
第 11 回	下調べ (2)	業種別審査辞典を読み込む (2)
第 12 回	下調べ (3)	業種別審査辞典を読み込む (3)
第 13 回	下調べ (4)	業界団体を調べて、訪ねる (1)
第 14 回	下調べ (5)	業界団体を調べて、訪ねる (2)
第 15 回	後期ガイダンス	後期のゼミの進め方について
第 16 回	夏休みの宿題の講評	夏休みの宿題の講評
第 17 回	産婦人科業界 (1)	産婦人科業界の業界構造の推移の把握
第 18 回	産婦人科業界 (2)	産婦人科業界でのイノベーションの把握
第 19 回	幼稚園・保育園業界 (1)	幼稚園・保育園業界の業界構造の推移の把握
第 20 回	幼稚園・保育園業界 (2)	幼稚園・保育園業界のイノベーションの把握
第 21 回	学習塾業界 (1)	学習塾業界の業界構造の推移の把握
第 22 回	学習塾業界 (2)	学習塾業界でのイノベーションの把握
第 23 回	教育業界 (1)	教育業界の業界構造の推移の把握
第 24 回	教育業界 (2)	教育業界でのイノベーションの把握
第 25 回	アパレル産業 (1)	アパレル産業の業界構造の推移の把握
第 26 回	アパレル産業 (2)	アパレル産業でのイノベーションの把握
第 27 回	ブライダル産業 (1)	ブライダル産業の業界構造の推移の把握
第 28 回	ブライダル産業 (2)	ブライダル産業の業界構造の推移の把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、消化することが求められます。また、授業時間内に発現するためには、指定した文献以外の文献を幅広く消化しておく必要があります。授業時間外の学習時間として、各 2 時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房

【参考書】

様々な業界の業界団体のホームページおよび業界団体発行の資料を参考書とします。

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)

自身が設定した課題に対する取組度 (30%)

最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

課題は盛りだくさんですが、取り組みやすい課題が多いとの意見が多いです。

【Outline and objectives】

To study how to research various industries.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：家族と社会を考える

テーマに関するゼミ学習を通じて、研究過程の基礎を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の諸領域について理解を深め、研究の手がかりをつかむとともに、研究に関連する基礎的な事柄を理解し、各課題に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
2	図書館ガイダンス	春学期課題における図書館活用法の説明
3	今「家族」に何が起きているのか	新聞記事等を用いた報告と議論
4	文献講読(1)	報告と議論
5	文献講読(2)	報告と議論
6	文献講読(3)	報告と議論
7	文献講読(4)	報告と議論
8	文献講読(5)	報告と議論
9	文献講読(6)	報告と議論
10	文献講読(7)	報告と議論
11	文献講読(8)	報告と議論
12	期末レポート(初稿)の検討(1)	検討会
13	期末レポート(初稿)の検討(2)	個別指導
14	春学期の総括	期末レポート(最終稿)の提出と夏休み課題の説明
15	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
16	図書館ガイダンス	秋学期課題における図書館活用法の説明
17	共同研究報告(1)	報告と議論
18	共同研究報告(2)	報告と議論
19	共同研究報告(3)	報告と議論
20	共同研究報告(4)	報告と議論
21	共同研究報告(5)	報告と議論
22	共同研究報告(6)	報告と議論
23	共同研究報告(7)	報告と議論
24	共同研究報告(8)	報告と議論
25	共同研究報告(9)	報告と議論
26	ゼミ論文の書き方	ゼミ論文の執筆方法の説明
27	ゼミ論文(初稿)の検討	検討会
28	秋学期の総括	ゼミ論文(最終稿)の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者全員が毎回必ず事前に文献を読み、要約とコメントをまとめた読書レポート(A4一枚程度)を作成したうえで議論に参加する。報告者は、効果的な報告・議論が出来るよう準備する。各課題(個別・グループ別)の達成に必要な活動(文献の探索・収集・講読、執筆、関連する打合わせ等)への取組みが随時求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を使用する。

【その他の重要事項】

適宜、学習支援システムで提示する。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to acquire an understanding of the processes of sociological research, especially on family issues.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるような学生になることが目標です。とくに「行動経済学」を取り上げて、教員による講義部分を授業外に事前学習させた上で、ゼミ内でその学習にもとづく演習を行わせる反転授業や、学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法によって理解を深めます。

【到達目標】

- ① 経済学的な発想ができる。
- ② 経済学的な効果についてグラフなどを用いて説明できる。
- ③ ゲーム理論を用いて、経済社会問題について議論できる。
- ④ 行動経済学の枠組みを用いて、経済社会問題について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、身近なことにも経済学という考え方が取り入れられていることを確認します。数式やグラフをほとんど用いずに、経済学的な発想を身につけることに重点を置きます。行動経済学を中心に勉強する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	行動経済学 ①	アノマリーについて解説します。
2	行動経済学 ②	ヒューリスティクスについて解説します。
3	行動経済学 ③	ヒューリスティクスについて対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
4	行動経済学 ④	ヒューリスティクスについて解説します。
5	行動経済学 ⑤	ヒューリスティクスについて対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
6	行動経済学 ⑥	プロスペクト理論について解説します。
7	行動経済学 ⑦	プロスペクト理論について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
8	行動経済学 ⑧	プロスペクト理論について解説します。
9	行動経済学 ⑨	プロスペクト理論について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
10	行動経済学 ⑩	双曲割引について解説します。
11	行動経済学 ⑪	双曲割引について解説します。
12	行動経済学 ⑫	双曲割引について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
13	行動経済学 ⑬	双曲割引について解説します。
14	前期のまとめ	行動経済学について、理解したかどうかの確認を行います。

15	行動経済学 ⑭	ヒューリスティクスについて、グループ別に分けて、反転授業を行います。
16	行動経済学 ⑮	ヒューリスティクスについて対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
17	行動経済学 ⑯	ヒューリスティクスについてグループ別に分けて、反転授業を行います。
18	行動経済学 ⑰	ヒューリスティクスについて対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
19	行動経済学 ⑱	プロスペクト理論についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
20	行動経済学 ⑲	プロスペクト理論について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
21	行動経済学 ⑳	プロスペクト理論についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
22	行動経済学 ㉑	プロスペクト理論について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
23	行動経済学 ㉒	双曲割引についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
24	行動経済学 ㉓	双曲割引について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
25	行動経済学 ㉔	双曲割引についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
26	行動経済学 ㉕	双曲割引について対話またはディスカッションを通して理解を深めます。
27	行動経済学 ㉖	フレーミングについてグループ別に分けて、反転授業を行います。
28	行動経済学 ㉗	フレーミングについて対話またはディスカッションを通して理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：

報告は Word や PowerPoint を使って行います。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。（最低2時間以上）

復習時間：

議論の後、修正等して再提出するため、復習時間を設けます。（最低2時間以上）

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) 課題・レポート (80%) で評価します。欠席は3回までとします。4回以上欠席すると単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline and objectives】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. This class focuses on "behavioral economics" and incorporates the following approaches:

A method where students study in advance with lectures and have collaborative learning in the classroom.

A method where small groups are formed and students are given tasks to solve cooperatively.

ART200EB, ART200EC, ART200ED

演習 1

高 美智

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画研究の基本として、ショット分析の方法や、ジャンル批評・ジェンダー批評・歴史的批評など批評的視座を学び、映画を学術的に研究します。

【到達目標】

映画研究の基礎を身につけ、映画を題材に、単なる映画レビューや感想文ではなく、学術的な視座から論文が書けるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020 年度前期授業はコロナ感染症対策のため、当面、授業は対面ではなくオンラインで行います。

初回オンライン授業は 4 月 27 日です。

必ず 4 月 27 日に学習支援システムにログインし指示に従って学習をすすめてください。

その後も毎週必ず月曜日にログインしその日の課題を行うこと。

詳細は初回授業で説明します。

文献の講読と映画作品の分析が基本。

演習 2 との合同授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
第 2 回	古典的ハリウッド 1	論点の報告と作品分析・議論
第 3 回	古典的ハリウッド 2	論点の報告と作品分析・議論
第 4 回	古典的ハリウッド 3	論点の報告と作品分析・議論
第 5 回	古典的ハリウッド 4	自分の選んだ作品の考察・分析発表
第 6 回	映画分析入門 1	論点の報告と作品分析・議論
第 7 回	映画分析入門 2	論点の報告と作品分析・議論
第 8 回	映画分析入門 3	論点の報告と作品分析・議論
第 9 回	映画分析入門 4	論点の報告と作品分析・議論
第 10 回	映画分析入門 5	論点の報告と作品分析・議論
第 11 回	映画分析入門 6	論点の報告と作品分析・議論
第 12 回	予備日	予備日
第 13 回	なし	なし
第 14 回	なし	なし
第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
第 16 回	文献講読 7（研究論文）	論点の報告と議論
第 17 回	文献講読 8（研究論文）	論点の報告と議論
第 18 回	作品分析 4	映画作品の分析報告と議論
第 19 回	文献講読 9（研究論文）	論点の報告と議論
第 20 回	文献講読 10（研究論文）	論点の報告と議論
第 21 回	作品分析 5	映画作品の分析報告と議論
第 22 回	文献講読 11（研究論文）	論点の報告と議論
第 23 回	文献講読 12（研究論文）	論点の報告と議論
第 24 回	作品分析 6	映画作品の分析報告と議論
第 25 回	グループ研究 2-1（計画）	問いの設定、映画選択
第 26 回	グループ研究 2-2（中間報告）	先行研究の評価
第 27 回	グループ研究 2-3（中間報告）	映画分析・考察の確認
第 28 回	グループ研究 2-4（発表）	研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者は毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってレジュメを作成したうえで討論に参加する。課題映画も必ず事前に視聴し、分析をしたうえで授業に参加することが必須。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・30%、課題 30%、学期末研究報告・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

現代の娯楽作品だけでなく、古い作品や政治的な映画、芸術映画にも興味があり、映画を観ることに意欲的な学生の受講を希望する。

【Outline and objectives】

In this course, the students will be introduced to the key theories in Film Studies. The course emphasizes an understanding of the historical, cultural, commercial, and aesthetic contexts that influence film, but also develops the students' understanding of a film's narrative and visual structure and its place within established theoretical traditions. The goal of the course is that the students will acquire the essential skills to analyze films.

HSS200EB, HSS200EC, HSS200ED

演習 1・2

越部 清美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体文化や非言語コミュニケーションに関する知識を学び、実践を通して深めていく。自己のからだや動きについて意識化していく。

【到達目標】

自己の身体感覚や運動感覚が、人間のアイデンティティを構成する根源であることを理解し、各々の方法で自己表現できること。言語および非言語によるコミュニケーション能力の向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「からだ」や「身体文化」、「非言語コミュニケーション」に関する文献の輪読を行ったり、実際に自分の5感を使っていろいろな体験を行ったりする。また、個人によるテーマ研究とグループによるプロジェクトを計画している。小学校や福祉施設など、地域での活動も検討中である。高尾山ハイキング、ダンスフェスティバル等への参加、春・夏に合宿を予定している。授業計画は授業の展開によって若干の変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせと打ち合わせ。係の決定
第2回	からだワーク①	五感を意識した実践トレーニング
第3回	からだワーク②	ボディワーク各種及び民族芸能
第4回	からだワーク③	ボディワーク各種及び民族芸能
第5回	チームプロジェクト①	グループごとに企画、打ち合わせ
第6回	チームプロジェクト②	現場において実施
第7回	振り返り	チームプロジェクトの反省
第8回	お楽しみ課題①	各々による表現課題の発表・鑑賞
第9回	文献講読・発表①	文献の読解と討議
第10回	文献講読・発表②	文献の読解と討議
第11回	文献講読・発表③	文献の読解と討議
第12回	文献講読・発表④	文献の読解と討議
第13回	お楽しみ課題②	各々による表現課題の発表・鑑賞
第14回	個人による研究報告会① まとめ①	各々による研究の中間報告・検討。春学期の振り返りと夏合宿の打ち合わせ
第15回	お楽しみ課題③	各々による表現課題の発表・鑑賞
第16回	からだワーク④	ボディワーク各種
第17回	チームプロジェクト③	グループごとに企画・打ち合わせ
第18回	チームプロジェクト④	現場において実施
第19回	個人による研究報告会②	各々による研究の中間報告・検討
第20回	文献講読・発表⑤	文献の読解と討議
第21回	文献講読・発表⑥	文献の読解と討議
第22回	文献講読・発表⑦	文献の読解と討議
第23回	文献講読・発表⑧	文献の読解と討議
第24回	お楽しみ課題④	二人表現課題の発表・鑑賞
第25回	からだワーク⑤	ボディワーク各種及び民族芸能
第26回	からだワーク⑥	ボディワーク各種及び民族芸能
第27回	お楽しみ課題⑤	グループ表現課題の発表・鑑賞
第28回	個人による研究報告会③ まとめ②	各々による研究報告の発表。秋学期の振り返りと春合宿の打ち合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する情報収集を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論（または報告書）20%、平常点（ゼミ運営・活動への参加状況）80%

【学生の意見等からの気づき】

学生たちが非言語コミュニケーションを学ぶことで、自分に自信を持ち、人として大きく成長できるよう働きかけていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve nonverbal communication ability.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

小林 直毅

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア表象としての現代社会を読み解く」が、この演習のテーマです。とくに今年度は、まず春学期に「メディアとは何か」という根本的で基礎的な考察から始めます。その上で、秋学期には、映画、ドキュメンタリー番組、音楽、文学作品などのさまざまなメディア表象によって、近現代社会の何が、どのように描かれているのかを考えていきます。

【到達目標】

メディア研究は、どのようなメディアで、何が顕著に描かれ、語られ、記憶として共有されるのか、逆に、何が描かれず、語られず、忘却されていくのかを問うことから出発します。そこから、メディアで描かれ、語られ、記憶されている出来事の特徴を、現代史や現代社会の在り様として解明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業とします。それとともなう各回の授業計画の変更には、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月8日とし、それまでを準備期間として具体的なオンライン授業の方法や準備のための課題などを、学習支援システムで提示します。

なお、すでに示した「授業の進め方と方法」は下記のとおりです。

「春学期はテキストクリティークを中心に進めます。秋学期は研究成果を共同研究発表に集約していく作業が中心になります。（以下の授業計画はあくまでも暫定案です）」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題関心の共有。
第2回	問題構成	課題の見取り図を作る。
第3回	テーマ概説	テキストと関連文献の概説。
第4回	メディアと〈心の装置〉	春学期テキストの第1章の報告と討論。
第5回	〈テクノロジーの文字〉と〈技術的無意識〉	春学期テキストの第2章の報告と討論。
第6回	現代資本主義と文化産業	春学期テキストの第3章の報告と討論。
第7回	中間総括	これまでの報告と討論の総括。
第8回	メディアの〈デジタル転回〉	春学期テキストの第4章の報告と討論。
第9回	「注意力の経済」と「精神のエコロジー」(1)	春学期テキストの第5章前半の報告討論。
第10回	「注意力の経済」と「精神のエコロジー」(2)	春学期テキストの第5章後半の報告と討論。
第11回	メディア再帰社会のために	春学期テキストの第6章の報告と討論。
第12回	総括討論	これまでのテキスト・クリティークの総括。
第13回	近現代社会のメディア表象	共同研究と秋学期に向けたオリエンテーション
第14回	共同研究のラフデザイン	共同研究の計画の検討。
第15回	共同研究のテーマの設定。	共同研究の全体構想の検討。
第16回	野蛮な西洋文明	秋学期テキストの第1章の報告と討論。
第17回	すれちがいが、集まる眼差し	秋学期テキストの第2章の報告と討論。
第18回	水俣から流浪の風景へ	秋学期テキストの第3章の報告と討論。
第19回	ドキュメンタリー番組・音楽・映画	テキスト後半に向けたオリエンテーション。
第20回	「天然の美」という音楽を追って	秋学期テキストの第4章の報告と討論。
第21回	演歌の源流	秋学期テキストの第5章の報告と討論。
第22回	大衆文化の肉体	秋学期テキストの第6章の報告と討論。
第23回	亡命ロシア人の東アジア	秋学期テキストの第7章の報告と討論。
第24回	インディ・ジョーンズとバンスキング	秋学期テキストの第8章の報告と討論。
第25回	映画と想像力	秋学期テキストの第9章の報告と討論。
第26回	共同研究の取りまとめ	分担した研究成果の集約と検討。
第27回	共同研究発表の総括	共同研究の評価と反省。
第28回	総括	1年間の研究活動のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読んで出席することは必須です。積極的な発言、討論への参加を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期：石田英敬（2016）『大人のためのメディア論講義』ちくま新書。
秋学期：姜信子（2002）『安住しない私たちの文化——東アジア流浪——』晶文社
ドキュメンタリー番組：熊本放送（2003）『流転—追放の高麗人と日本のメロディー』
*ドキュメンタリー番組については開講後説明します。

【参考書】

年度初めに、「参考文献リスト」を配布します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもなつて、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日（5月8日）に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand contemporary society as media representation.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマ「公平さと公共性」を手がかりに社会学的視点とロジックを学ぶ。

この演習の目的はふたつある。第一は、公共性・公平さ、そして共同性に関わる諸問題について考えることを通して「社会学的想像力」を鍛えること。第二は、科学的な考え方や説得の作法を身につけることである。

【到達目標】

自分自身の「社会学的な問題関心」を見つけるとともに、（自分のものかどうかに関わらず）「問い」に対する答えを、客観的・中立的な方法で見つけ、それを説得的に提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は「公平性・公共性」に関する基本的な文献を読む。目的は基本的な考え方やテクニカルタームをいくつか学習し、テーマを見つける「めがね」を作ることである。秋学期はグループごとに設定した研究テーマについて文献講読・資料収集・調査などにより研究を進める。この作業を通して、テーマに関する知識のみならず「疑問を明確にし、答えをみつけ、根拠を示して論じる」方法を身につける。

授業開始日・すすめ方についてはゼミ生を対象としたメールですすでに通知済みなので再度確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ゼミの進め方	ゼミの進め方・レジュメ準備の方法などについて説明する
第 2 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された基本文献について担当者による発表と質疑応答を行う（3 回以降も同様）
第 3 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 4 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 5 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 6 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 7 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 8 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 9 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 10 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 11 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 12 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 13 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 14 回	資料収集の方法	社会学における基本的な資料収集の方法のいくつかを紹介する
第 15 回	各自の関心の発表	グループ研究のテーマを決定するため、各自の研究関心を発表し共有する
第 16 回	研究テーマの探索	グループ研究のテーマを決定するために各自のアイデアをひとつに練り上げる
第 17 回	研究テーマの探索	グループ研究のテーマを決定するために各自のアイデアをひとつに練り上げる
第 18 回	研究テーマの発表	グループ研究のテーマに関する質疑応答、研究の進め方について議論する
第 19 回	データ構築の方法	グループ研究で利用することの多い、データベースの使用方法を図書館で学ぶ

第 20 回 ゼミ研究進捗状況の報告 発表担当のグループがゼミ研究について進捗状況を報告し、他のグループとの討論を行うことで研究を進める（21 回以降も同様）

第 21 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 22 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 23 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 24 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 25 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 26 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 27 回 ゼミ研究進捗状況の報告 担当グループの発表・討論

第 28 回 次年度の研究に向けて 次年度の研究計画を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は指定された文献を講読し理解する。これとともに、新聞・テレビ・ウェブや、各自の実生活の中で、テーマを見つけるべくアンテナをはる。秋学期はグループ研究のための作業を進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）により評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to learn "how to see and think sociologically", by looking at the issue of fairness, justice, and togetherness in our daily lives. Students should grasp the essence of "sociological imagination" and the scientific thinking as well.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

佐藤 成基

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語と英語の文献を用いながら、欧米先進諸国や日本における排外主義の現状について社会的な比較検討を行う。同時に、ゼミ論文の執筆に向けた指導を行う。

【到達目標】

近年高まっている移民や難民に対する排外主義的な運動や世論の動向を国際比較の視点から学び、さらにその背後にある構造的な要因についても探求する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①基礎的文献の講読。毎回報告担当者が報告を行い、それを踏まえて討論を行う。春学期は日本語文献を中心に、秋学期は英語文献を含めた文献を購読する。

②ゼミ論文執筆（学年末提出）。自分で決めたテーマに関するゼミ論を執筆する。ゼミの時間、何回か中間報告の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の説明
2	現代の排外主義	欧米・日本などにおける現代の排外主義の概観
3	排外主義の国際比較 1	文献①の講読
4	排外主義の国際比較 2	文献①の講読
5	排外主義の国際比較 3	文献①の講読
6	排外主義の国際比較 4	文献①の講読
7	研究報告 1	ゼミ論文のテーマの報告・検討（3年生）
8	排外主義の国際比較 5	文献①の講読
9	排外主義の国際比較 6	文献①の講読
10	排外主義の国際比較 7	文献①の講読
11	日本の排外主義 1	他の文献（英文）
12	日本の排外主義 2	他の文献（英文）
13	日本の排外主義 3	他の文献（英文）
14	研究報告 2	ゼミ論文のテーマの報告・検討
15	夏休みの課題報告	夏休みの課題の成果報告
16	排外主義の分析枠組み 1	文献②
17	排外主義の分析枠組み 2	文献②
18	排外主義の分析枠組み 3	文献②
19	現代の排外主義 1	文献②
20	現代の排外主義 2	文献②
21	現代の排外主義 3	文献②
22	現代の排外主義 4	文献②
23	研究報告 3	ゼミ論文のテーマの報告・検討（2年生）
24	研究報告 4	ゼミ論文のテーマの報告・検討（3年生）
25	現代の排外主義 5	他の文献（邦文）
26	現代の排外主義 6	他の文献（邦文）
27	現代の排外主義 7	他の文献（邦文）
28	総括討論	総括的な討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読の予習。報告の準備。ゼミ論文のテーマに関する文献講読・資料収集・分析・論文執筆。（約3時間）

【テキスト（教科書）】

①宮島喬・佐藤成基編『包摂・共生の政治か、排除の政治か 一移民・難民と向き合うヨーロッパ』（明石書店、2019）

② Roger Eatwell and Matthew Goodwin, *National Populism: The Revolt against Liberal Democracy* (Pelican, 2018)

他

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ内での報告（30%）、ゼミでの発言の回数や内容（30%）、ゼミ論（40%）を総合して評価する。なお、欠席が3回を越えた場合、また担当の決まっている報告を行わなかった場合、原則として単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

社会学科ないし社会学入門等で社会学の基礎的知識を習得している学生が望ましい。

【Outline and objectives】

In this course we will study the recent rise of xenophobia and racism in Western countries and Japan from a sociological and comparative perspective. The course will also guide the students to produce a "seminar paper" as an independent piece of academic work.

PLN200EB, PLN200EC, PLN200ED

演習 1

澤柿 教伸

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで考える。野外に存在する自然とそれに関連する社会現象が対象として、それによって知りえた自然や社会現象を考察し、問題の解決や新しいコンセプトの創出につながる能力を養う。最終的に、その結果を論理的にプレゼンしたり論文としてまとめたりする能力を磨く。

【到達目標】

地球科学に関する基礎的な思考力・論理展開力・調査手法を習得し、学術的に通用する水準の文章の執筆と討議への参画能力を身につける。社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2-3 年生合同でグループディスカッション、ディベートを行いながら共通のテーマにとりくみます。夏休みには合宿形式でフィールドワークも行き、最終成果を 11 月末に開催される社会学部研究発表会で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	通年ガイダンス	ゼミの進め方
第 2 回	自己紹介 1	自分の興味についてプレゼン
第 3 回	自己紹介 2	自分の興味についてプレゼン
第 4 回	企画・報告 1	測量実習と巡検下調べ
第 5 回	企画・報告 2	測量実習と巡検下調べ
第 6 回	企画・報告 3	測量実習と巡検下調べ
第 7 回	企画・報告 4	測量実習と巡検下調べ
第 8 回	企画・報告 5	測量実習と巡検下調べ
第 9 回	夏合宿事前準備 1	夏合宿の企画
第 10 回	夏合宿事前準備 2	夏合宿にむけた下調べ
第 11 回	夏合宿事前準備 3	夏合宿にむけた下調べ
第 12 回	夏合宿事前準備 4	夏合宿にむけたプレゼン
第 13 回	夏合宿事前準備 5	夏合宿にむけたプレゼン
第 14 回	夏期休暇課題検討	夏期休暇中の課題検討
第 15 回	秋学期ガイダンス	後期のゼミの進め方について
第 16 回	夏期課題の成果発表 1	夏期休暇成果発表
第 17 回	夏期課題の成果発表 2	夏期休暇成果発表
第 18 回	発表会テーマ検討	研究発表会テーマ検討
第 19 回	発表会テーマ決定	研究発表会テーマ決定
第 20 回	発表会テーマ方針	研究発表会テーマ方針討議
第 21 回	発表会テーマ分担	研究発表会テーマ役割分担
第 22 回	プレゼン資料作成 1	プレゼン資料作成
第 23 回	プレゼン資料作成 2	プレゼン資料作成
第 24 回	プレゼン資料作成 3	プレゼン資料作成
第 25 回	発表練習 1	発表練習とプレゼン資料修正
第 26 回	発表練習 2	発表練習とプレゼン資料修正
第 27 回	研究発表会	研究発表会
第 28 回	研究発表会の反省	研究発表会の反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

セミナーは、日頃の各自の成果をお互いに問う場であり、文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

ナショナル・ジオグラフィックという月刊誌の講読

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)；自身が設定した課題に対する取組度 (30%)；最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「フリーライダー」がでないように全員参加・全員貢献が実現するよう考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

・休日巡検には、野外で活動しやすい服装や靴が必要です。

・40 リットル前後のリュックサックや、雨具、野帳なども必要です。

【Outline and objectives】

This seminar provides students with interactive opportunities to learn various geographical concepts and practical methods to understand and solve social issues. Holding active discussions are encouraged.

SES200EB, SES200EC, SES200ED

演習 1

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の中で資源管理に関する問題、具体的には世界の食料、森林、エネルギーの動向についての知識を深め、これらの問題を分析するための方法論についても探索していきます。

【到達目標】

演習 1 の到達目標は、文献から世界の食料、森林、エネルギー等の資源管理について事実関係を知る事です。基本的な事実とその背景について問題意識を喚起する文献を輪読し、その知識を基に広く事実関係のリサーチを行い、基本的な知識ベースを培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は文献の輪読を行います。レジュメは毎回全員が書いてくるという方式です。食料、森林、エネルギーといった分野の基礎知識が不足している人が多いので、まず基礎固めをやりませう。その後マクロ（貿易や農林水産や資源政策）分析班とミクロ（地域おこし等）分析班に分かれてリサーチを行い、学部研究発表会で、世界の資源管理問題についての発表をするべくまとめ上げていきます。なお演習 1 の時間で十分でない場合、サブゼミを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介と役割分担の決定
2	生源寺『農業が・・・』 輪読	輪読（1）
3	生源寺『農業が・・・』 輪読	輪読（2）
4	鈴木『食の戦争』輪読	輪読（3）
5	鈴木『食の戦争』輪読	輪読（4）
6	島本『熱帯林・・・』輪読	輪読（5）
7	植田『国民・・・』輪読	輪読（6）
8	グループ研究に向けての 課題設定	グループづくり
9	図書館での文献検索につ いての講習	Cinii、MagazinPlusなどを学ぶ
10	図書館でのリサーチ①	グループ研究
11	図書館でのリサーチ②	グループ研究
12	図書館でのリサーチ③	グループ研究
13	グループ発表①	研究の進捗を報告、議論
14	グループ発表②	研究の進捗を報告、議論
15	PPT の講習	PPT の簡単な使い方を講習
16	班ごとのリサーチ	図書館等でリサーチ
17	班ごとのリサーチ	図書館等でリサーチ
18	中間報告	グループ研究中間報告
19	班ごとのリサーチ	図書館等でリサーチ
20	班ごとのリサーチ	図書館等でリサーチ
21	中間報告	グループ研究中間報告
22	学部研究発表会準備①	報告のストーリーについて話し合う
23	学部研究発表会準備②	学部研究発表会のリサーチ
24	学部研究発表会準備③	学部研究発表会のプレゼン作成
25	輪読 1	ゼミ生の選んだ文献の輪読
26	輪読 2	ゼミ生の選んだ文献の輪読
27	輪読 3	ゼミ生の選んだ文献の輪読
28	1 年間のまとめ	来年度に向けての検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の食料問題について知識を集積したり、見聞を広めておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

生源寺真一 (2018) 『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会
鈴木 宣弘 (2013) 『食の戦争 米国の罠に落ちる日本』(文春新書) 新書。
島本美保子 (2015) 『熱帯林を中心とした国際的な森林保全』、『シリーズ環境政策の新天地 5 資源を未来につなぐ』第 3 章, 岩波書店。
和田武 (2016) 『再生可能エネルギー 100%時代の到来』, あけび書房。

【参考書】

スーザン・ジョージ著 (1984) 『なぜ世界の半分が飢えるのか』, 東京: 朝日新聞社。

【成績評価の方法と基準】

輪読のレジュメ 60%、夏休みの課題 10%、グループ研究における貢献度 10%、学部研究発表会への取り組み 10%、平常点 10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習 2 の学生の演習 1 への参加度を高めるべきとの意見があり、少しずつ実現していきたい。

【その他の重要事項】

当ゼミでは春（1泊2日）と夏（2泊3日）に農村（昨年度は新潟県柏崎市高柳町の門出集落）でフィールドワークを行います。田植え稲刈りや過疎山村の状況や村おこしについてのヒアリングなどを行います。フィールドワークへの参加を前提としてゼミを選択して下さい。

【Outline and objectives】

We will explore the resource management in the environmental issues, deepening the knowledge about the trend of food, forest and energy of the world, and also the methodology to analyze these issues.

ARSk200EB, ARSk200EC, ARSk200ED

演習 1

ジョナサン ブラウン

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will investigate a number of social/cultural issues through readings, videos, and class discussions.

【到達目標】

- We will learn how to read and critique academic articles in English.
- We will learn how to verify and synthesize data across sources.
- We will learn how to discuss and debate important topics in the field at an academic level in English.
- We will learn how to report on other ideas and respond to those ideas through writing and oral presentations.
- We will learn basic research methods/approaches for conducting comparative investigations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. We will read English articles and watch videos about various social/cultural issues around the world and discuss them in class.
2. We will then prepare written summary-responses of the readings/videos and present them through both formal and informal presentations to the class.
3. We will work together as a class to identify similarities and differences, support and contradictions, and, strengths and weaknesses across the readings/videos.
4. At the end of the course, students will put together all that they learned into a final report/presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course guidance; Get-to-know-one-another activity; Opening discussion on education
第 2 回	Education	"Time for School" documentary part 1; Part 1 discussion
第 3 回	Education continued	"Time for School" documentary part 2; Part 2 discussion
第 4 回	Education continued	Reading 1; Reading 1 discussion Hw: Reading 1 Summary & Reaction
第 5 回	Education continued	Reading 2; Reading 2 discussion; HW: Reading 2 Summary & Reaction
第 6 回	Education continued	"The Finland Phenomenon" documentary
第 7 回	Education continued	Documentary 2 discussion
第 8 回	Education continued	Reading 3; Reading 3 discussion HW: Reading 3 Summary & Reaction
第 9 回	Education continued	Reading 4; Reading 4 discussion HW: Reading 4 Summary & Reaction
第 10 回	Education continued	"Girl Rising" documentary part 1; Part 1 discussion
第 11 回	Education continued	"Girl Rising" documentary part 2; Part 2 discussion HW: Choose your presentation topic
第 12 回	Education continued	Learn how to make and give effective presentations in English; Work on presentations
第 13 回	Presentation 1	Presentations
第 14 回	Presentation 1 continued	Presentations
第 15 回	Poverty/Social class	Opening discussion on poverty/social class: India's "untouchables"

第 16 回	Poverty/Social class continued	"Daughters of Destiny - The Untouchables" documentary; discussion
第 17 回	Poverty/Social class continued	Reading 5; Reading 5 discussion HW: Reading 5 Summary & Reaction
第 18 回	Poverty/Social class continued	Reading 6; Reading 6 discussion HW: Reading 6 Summary & Reaction
第 19 回	Poverty/Social class continued	"People like us: Social class in America" documentary part 1; Part 1 discussion
第 20 回	Poverty/Social class continued	"People like us: Social class in America" documentary part 2; Part 2 discussion
第 21 回	Poverty/Social class continued	Reading 7; Reading 8 discussion HW: Reading 7 Summary & Reaction
第 22 回	Poverty/Social class continued	Reading 8; Reading 8 discussion HW: Reading 8 Summary & Reaction
第 23 回	Comparative research	Principles of conducting a comparative study part 1
第 24 回	Comparative research continued	Principles of conducting a comparative study part 2
第 25 回	Comparative research continued	How to write a research paper HW: Choose your research topic (Education, poverty, or social class)
第 26 回	Comparative research continued	Peer-review; work on Draft 2
第 27 回	Final Presentations (Research paper topic)	HW: Final presentations Final presentations
第 28 回	Final Presentations continued	Final presentations Research paper final drafts due

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials provided by the instructor.

【参考書】

English-Japanese/Japanese-English Dictionary

【成績評価の方法と基準】

Summary & Response Papers: 20%
Presentations: 20%
Class Discussions/Participation: 30%
Research Paper: 30%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

【その他の重要事項】

All discussions, materials, and assignments will be done in English, so students need good English skills. More than a high-level of English skills, however, students need to have a high-level of motivation and a willingness to work hard and learn. I do not expect perfect English, but I do hope students will try and keep an open mind, not only with English but with the topics we investigate.

【Outline and objectives】

This course will help students develop the language, thinking, academic, and research skills they need to carry out comparative research in English. Students will learn how to critically read academic texts, summarize the main points, synthesize concepts across sources, and respond to the various sources covered in Class with their own ideas/opinions in both written essays and oral presentations.

SOS200EB, SOS200EC, SOS200ED

演習 1

白田 秀彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題を遂行するにあたって、「計画し・実行し・報告する」という一連の作業手順を的確に行うこと。課題内容については、演習で固定化されている事項に加えて、ゼミ生の意向を斟酌して決める。また、社会に出て活動するにあたっての基礎的規律を実践する。

【到達目標】

「計画し・実行し・報告する」技法・技能を身につけることを目標とする。さらに、興味関心領域を社会的・法学的学問へと接続することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、形式面と内容面において大学生水準のレポートを書く技能を向上させる。秋学期は、指定されたテーマによる、フィールドワークの訓練と、グループ・プレゼンテーションを行う。ゼミ活動・連絡等では、メーリング・リストと Web を活用するので、対応しうる機器等を保有していることが条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調べる 1	ライブラリツアーを行う。
2	調べる 2	データベース講習を行う。
3	調べる 3	テーマに沿って文献を発見する方法について指導する。
4	整理する 1	集めた文献や資料を整理する方法を指導する。
5	整理する 2	集めた資料を論文の形式に沿って構成する方法を指導する。
6	整理する 3	全体構成から段落構成へと構造的に配置する方法を指導する。
7	整理する 4	情報の取扱に関する法に関する講習を行う。
8	執筆する 1	レジュメ執筆にあたっての形式面を遵守できるよう指導する。
9	執筆する 2	指示された課題図書を整理する。
10	執筆する 3	レジュメを執筆し提出する。
11	執筆する 4	論文執筆にあたっての形式面を遵守できるよう指導する。
12	執筆する 5	指示された課題について文献調査し資料を集める。
13	執筆する 6	論文を執筆し提出する。
14	計画を立てる 1	夏合宿にて行う、実地調査・現地調査の計画を作成する。
15	前期提出論文の講評	前期に提出された論文についての講評を行う。
16	調査する 1	夏合宿で行った調査内容の資料整理を行う。
17	調査する 2	夏合宿での調査報告を行う。
18	調査する 3	指定されたテーマについての調査計画を作成する。
19	調査する 4	先の調査計画を実行する。
20	調査する 5	報告書形式での調査結果の報告を行う。
21	調査する 6	電子機器を用いた調査技法について練習を行う。
22	調査する 7	調査用機器の運用計画について。
23	調査する 8	調査用機器の実践的利用について。
24	制作する 1	調査内容を整理して、プレゼンテーションのシナリオを作成する。
25	制作する 2	シナリオに沿ってプレゼンテーションを作成する。
26	制作する 3	プレゼンテーションの事前試演を行い、問題点の発見と修正を行う。
27	報告する 4	秋学期での調査を総合し、プレゼンテーションを行う。全体を三分したうちの最初の三分の二。
28	報告する 5	秋学期での調査を総合し、プレゼンテーションを行う。全体を三分したうちの残りの三分の一。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この演習は、「計画・実行・報告」を目的とするため、課外活動がほぼ毎月設定されている。年間予定は 4 月段階で決定されるため、不参加が許されない。自主的に情報収集したり、手配したりすることが強く要求される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習のテーマに沿ったものを適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習中に何度か小論文の提出を求める。また期末にゼミ論文を提出させる。小論文について 40%、ゼミ論文について 60%で評価を行う。単位取得できない学生は次年度の受講を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Students are expected to plan, to practice and to report appropriately in the series of work procedures. Assignments are designated as seminar routine and also be decided in consideration of those who attend the seminar. In addition, practicing social standard is assigned in order to make a start in life.

This subject is aimed at achieving abilities to plan, to practice and to report. Furthermore, it is also aimed at connecting students' area of interest to sociological and juristic learnings.

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1・2

白鳥 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic knowledges for the writing of academic papers.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治と国内政治の体系的理解

【到達目標】

政治学を通じて社会で要求される知見を獲得する。また、ゼミという小集団で要求される、今後社会で要請される協調性、社会性を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

政治は「未来の選択」であり、「可能性のアート」であるといわれる。そうした政治についてこのゼミでは学びます。

ゼミのテーマは「現代政治の分析」です。具体的には、国際、国内の政治過程におけるさまざまな問題を、理論的に分析することを目指します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。学習支援システムで授業が開始されるのは4月23日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	日本政治のイントロダクション	日本の政治
2)	国内の政治分析 (1)	民主主義とは
3)	国内の政治分析 (2)	政策の決定者
4)	国内の政治分析 (3)	政府の形態
5)	国内の政治分析 (4)	日本の選挙
6)	国内の政治分析 (5)	日本の政党
7)	国内の政治分析 (6)	政党の発展
8)	国内の政治分析 (7)	比較政治
9)	国内の政治分析 (8)	圧力団体
10)	国内の政治分析 (9)	後援会
11)	国内の政治分析 (10)	地方自治
12)	国内の政治分析 (11)	首長
13)	国内の政治分析 (12)	議会
14)	国内の総合的政治分析	選挙制度と政党システム
15)	国際政治のイントロダクション	国際政治とは
16)	国際の政治分析 (1)	国際政治と国内政治
17)	国際の政治分析 (2)	国益
18)	国際の政治分析 (3)	国民国家
19)	国際の政治分析 (4)	国際統合
20)	国際の政治分析 (5)	民主的平和論
21)	国際の政治分析 (6)	欧州連合
22)	国際の政治分析 (7)	国際政治と国際経済
23)	国際の政治分析 (8)	安全保障
24)	国際の政治分析 (9)	国際機構
25)	国際の政治分析 (10)	ブレグジット
26)	国際の政治分析 (11)	テロとの戦争と暴力
27)	国際の政治分析 (12)	平和構築
28)	国際の総合的政治分析	国民国家と国際政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%。平常点50%。平常点は、発表、発言等のゼミ運営への積極的な貢献を中心に評価する。協調性、社会性を備えた学生同士の交流による平常点が重要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

HIS200EB, HIS200EC, HIS200ED

演習 1・2

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史」から現代社会・世界の諸問題を考える（入門編）

【到達目標】

①現代社会のなかの「歴史」への関心を深める、②文献を通じて歴史学の方法に慣れ親しむ、③テーマを立てて歴史的事実を探求するための資料調査・フィールドワークの方法の基礎を身につけることが大卒の目標です。歴史学入門、歴史認識問題、東アジアと日本の関係史、朝鮮半島の歴史、日本史・世界史の出来事などを幅広く取り扱います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は①と②に重点を置き、関心ある社会問題の発見と関連文献の講読、方法論の文献講読、ドキュメンタリー分析などによる歴史的思考の基礎作りをします。夏合宿では「社会の中の歴史・記憶」をテーマに史跡フィールドワークを行い、秋学期は③を重点にグループ学習で「企画展示」を構想します。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本演習の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	演習1の方向・ゼミ運営に関する取り決め。自己紹介。共同文献講読の内容を決める。
第2回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第3回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第4回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第5回	【学習方法の確認】	レジュメ、パワポ、レポートの作り方、資料調査の方法の確認（講義を含む）
第6回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第7回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第8回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第9回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第10回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第11回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第12回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第13回	夏合宿準備会	夏合宿に関する準備学習

第14回	夏合宿	調査学習
第15回	秋学期イントロダクション	後期の予定+夏合宿の総括討議
第16回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループの形成/テーマの設定
第17回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	報告に向けた事前学習
第18回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	報告に向けた事前学習
第19回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	事前学習+調査
第20回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+調査
第21回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+調査
第22回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+ゼミ研究発表会準備
第23回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ①の発表
第24回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ②の発表
第25回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ③の発表
第26回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ④の発表
第27回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ⑤の発表
第28回	まとめ	後期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共同講読の文献は購入し、報告者はレジュメを作成（あるいはパワーポイント）、ゼミ生は必ず読んでくること。報告に関する論文を提出する。また、個人・グループごとの課題への取り組みについても、積極的に関連書籍を読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

演習の中で適宜選択する。

【参考書】

演習の中で適宜選択する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

The problem that modern society and the world are various is considered from "history".

演習 1

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to plan the details of individual research and write an academic essay on a sociological theme.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「〈日常生活〉の社会学」

日常、何気なく生活している上では、さして気にも留めないこと、普段であれば、やり過ぎていたりするようなものにこそ、あえて立ち止まって、その「意味」を考えてみる価値がある——そのような問題意識を共有した上で、個人での活動とゼミ生全体での共同活動を組み合わせながら、社会学的な発想や視点を培っていく。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業とする。それにともなう各回の授業計画の変更については、その都度知らせる。また、本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを受講生に知らせる。

【到達目標】

適切な「問い」を立てることと自らの研究を貫くオリジナルな視点にこだわりながら、自身で設定したテーマと格闘した成果をゼミ論としてまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明・スケジュール確認
2	問題関心報告	選考時の問題関心の再報告
3	問いの立て方	文献の講読・課題の確認
4	サブゼミガイダンス	サブゼミ概要説明
5	テーマ設定①	第1次リサーチプロポーザル検討
6	テーマ設定②	第1次リサーチプロポーザル検討
7	テーマ設定③	第1次リサーチプロポーザル検討
8	テーマ設定④	第1次リサーチプロポーザル検討
9	サブゼミ調査報告	調査テーマの再検討
10	個人研究進展報告①	第2次リサーチプロポーザル検討
11	個人研究進展報告②	第2次リサーチプロポーザル検討
12	個人研究進展報告③	第2次リサーチプロポーザル検討
13	個人研究進展報告④	第2次リサーチプロポーザル検討
14	個人研究進展再報告	夏合宿に向けて
15	サブゼミ再調査①	調査のリデザイン
16	サブゼミ再調査②	調査結果の集計
17	サブゼミ再調査③	調査結果の検討
18	サブゼミ再調査④	調査結果のストーリー化
19	個人研究中間報告①	進展状況の報告と課題の確認
20	個人研究中間報告②	進展状況の報告と課題の確認
21	個人研究中間報告③	進展状況の報告と課題の確認
22	サブゼミ再調査⑤	調査報告に向けて
23	サブゼミ再調査⑥	調査報告に向けて
24	ゼミ論の作成に向けて①	形式要件の確認
25	ゼミ論節立て報告①	ゼミ論の構成をイメージする
26	ゼミ論節立て報告②	ゼミ論の構成をイメージする
27	ゼミ論節立て報告③	ゼミ論の構成をイメージする
28	ゼミ論の作成に向けて②	注意事項の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジユメの作成、ゼミ論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・担当部分の報告・議論への参加を含むゼミへの参加度（50%）、およびゼミ論の執筆に至るプロセスとその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

鈴木 智之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生活史の社会学」の実践の場をつくる。
他者の語りを聞くという作業を通じて、他者の経験と生活を理解する可能性を探求する。個人の生活の背後にある歴史的・社会的状況への想像力を養う。

【到達目標】

物語論的なアプローチの基本的な考え方を学習しつつ、「語る／聴く」ことの実践を通じて、「他者の経験」にアプローチするための方法を模索する。その上で、インタビュー（生活史の聞き取り）を通じて、他者の経験を受け取り、これを再構成し、伝える実践を重ねる。

本年度は、「病い」や「障害」とともに生きることの意味を、基本文献の講読を通じて考えるところから始めて、聞き取り調査の実践を通じて、他者の生のリアリティに迫ることを試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、「病い」と「障害」の経験に関する「文献講読」を行い、同時に他者の語りを聞く・読む・伝えるための実践的なトレーニングを行う。
秋学期は、共同研究として、ライフストーリーの「聞き取り」とその「分析」を行う。
その間に、個人研究の報告と討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	このゼミは何をやる場所か
第 2 回	方法論の基礎（1）	生活史研究の基本的な考え方
第 3 回	方法論の基礎（2）	個人の生活から社会の構造へ
第 4 回	「病い」「障害」とともに生きる（1）	『障害社会学という視座』を読む（1）
第 5 回	「病い」「障害」とともに生きる（2）	『障害社会学という視座』を読む（2）
第 6 回	「病い」「障害」とともに生きる（3）	『障害社会学という視座』を読む（3）
第 7 回	「病い」「障害」とともに生きる（4）	『障害社会学という視座』を読む（4）
第 8 回	ワークショップ（1）	「伝言ゲーム」とその観察
第 9 回	ワークショップ（2）	物語的に判断する
第 10 回	ワークショップ（3）	「訊」を伝える
第 11 回	個人研究報告（1）	個人研究の構想を報告する（1）
第 12 回	個人研究報告（2）	個人研究の構想を報告する（2）
第 13 回	個人研究報告（3）	個人研究の構想を報告する（3）
第 14 回	個人研究報告（4）	個人研究の構想を報告する（4）
秋学期第 1 回	共同研究報告（1）	インタビュー記録から問いを立てる（1）
第 2 回	共同研究報告（2）	インタビュー記録から問いを立てる（2）
第 3 回	共同研究報告（3）	インタビュー記録の読み込み（1）
第 4 回	共同研究報告（4）	インタビュー記録の読み込み（2）
第 5 回	共同研究報告（5）	インタビューに基づく研究報告（1）
第 6 回	共同研究報告（6）	インタビューに基づく研究報告（2）
第 7 回	共同研究報告（7）	インタビューに基づく研究報告（3）
第 8 回	共同研究報告（8）	インタビューに基づく研究報告（4）
第 9 回	共同研究報告（9）	「伝える」ための方法を考える
第 10 回	共同研究報告（10）	「伝える」ことを試みる（1）
第 11 回	共同研究報告（11）	「伝える」ことを試みる（2）
第 12 回	個人研究報告 1	+ 共同研究報告書の作成
第 13 回	個人研究報告 2	+ 共同研究報告書の作成（つづき）
第 14 回	個人研究報告 3	+ 共同研究報告書作成（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の講読、ストーリーの構想、データの整理、個人研究レポートの作成など、課題はたくさんあります。たくさん勉強してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

榊原堅二郎編『障害社会学という視座 社会モデルから社会的反省へ』新曜社、2019 年

【参考書】

A. W. フランク『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版
岸政彦『マンガと手榴弾』新曜社、2018 年
岸・石岡・丸山『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』、有斐閣、2016 年
岸政彦『街の人生』、勁草書房、2014 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の報告や討論への参加、聞き取り調査への参加、報告への貢献、その内容、個人研究レポートの内容などを総合的に評価（100%）します

【学生の意見等からの気づき】

正直なところ、ゼミの進め方については、試行錯誤が続いています。この「試行」につきあって、ともに新しい研究の進め方を考えてくれる人を求めています。

【その他の重要事項】

年間の予定は、ゼミ生の人数等によって変更されることがある

【Outline and objectives】

In this seminar, we inquire the possibility to understand the lives of others through the practices of biographical research.

SEE200EB, SEE200EC, SEE200ED

演習 1

鈴木 麻美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今、社会で求められている「数学的思考力」は何のために求められているのであろうか。数学と社会との関わりを考えると同時に「数学とはいかなる学問か」ということも真剣に考えてみたい。「数学」は社会においてどのような威力を発揮するのかを考えると共に、社会における数学的思考力の必要性を考えていく。

【到達目標】

数学を知らずには「数学的思考力」の重要性を考えることはできない。従ってこの講義の3分の1は数学の最も基本と言える「集合論」を題材にして「数学的論理」を基礎から学ぶ。当たり前に見えることも丁寧にかつ簡潔にまとめ、論理的に記述できる文章力（国語の力）を持つてる学生は残念ながらもなかなか居ない。ゼミではこうした能力を身に付けたい。また同時に社会においてこの数学的論述力がどう意味を持つのか各自で考えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自準備をしてきた部分をゼミで他の学生達に解説することを中心にして、ディスカッションも多く取り入れる。自分の考えをしっかりと持つためには、様々な情報を収集し自分の中で咀嚼して理解する事が大切である。また「数学」に関する内容は非常に簡単ではあるが、数学的な構文に慣れるまでは予習に時間をかけて欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「数学」の紹介と、講義の進め方および成績評価について説明する。
2	数学を学ぶ（1）	数学の理論体系をまなぶ
3	数学を学ぶ（2）	ユークリッド幾何学とは
4	数学を学ぶ（3）	証明とは。学問のはじまりとは。
5	数学の学びの特徴を考える。	数学の学びはどのような能力を身につけられるのかを考える。
6	社会問題と数学との関係（1）	社会と数学との関係性について考える。
7	数学教育を考える	世界の数学教育と日本の数学教育に関して考える。
8	日本の数学教育について	日本の数学教育の現状や大学生の学力調査などから社会における問題を考える。
9	数学を学ぶ（4）	数学の論理と日常の言葉
10	数学を学ぶ（5）	「すべての」と「任意の」および「存在する」と「唯一」・「一意的」
11	数学の特徴	数学の学びと他の学問の学びとの違いを考える。
12	社会問題と数学との関係（2）	数学的思考力が社会で必要とされているその理由に関して考える。
13	レポートの課題について、各自発表	夏に取り組むレポートについて、各自計画書を作成して発表する。
14	まとめ	前回までのまとめと後半へ向けた課題確認。

15	課題成果の発表（1）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。1回目
16	課題成果の発表（2）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。2回目
17	数学を学ぶ（6）	集合を学ぶ
18	数学を学ぶ（7）	部分集合。
19	数学を学ぶ（8）	和集合・共通集合・差集合・補集合
20	社会問題と数学との関係（3）	社会へ活用するための数学的思考力について考える。
21	社会問題と数学との関係（4）	社会へ活用するための数学的思考力について考える一その2
22	数学を学ぶ（9）	直積集合
23	数学を学ぶ（10）	集合の集まり、集合族
24	数学を学ぶ（11）	写像。単射・全射・全単射
25	課題作成中間報告（1）	社会と数学との関係および今後の問題など様々な視点からのレポートを発表。
26	課題作成中間報告（2）	レポート発表第2回
27	課題作成中間報告（3）	レポート発表第3回
28	成果発表	1年間の学習の成果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの数学の力は問わない。テキストが日本語のため、日本語が読めることを望む。ノートを丁寧にまとめ、毎週復習をすることで、論理的思考力を身につけたい。また、各自、社会に多く見られる「数学」について、様々な視点からレポートをまとめることを行う。このため様々な書籍の他、ニュースや新聞・雑誌など、社会における情報収集も怠らないで欲しい。演習の準備および復習は、毎回の授業については平均すると4時間程度であるが、課題担当の順番や内容により、さらに多くの時間を要する場合もある。

【テキスト（教科書）】

「集合・写像・論理—数学の基本を学ぶ」中島 匠一（著）、共立出版（2012）。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習における課題への取り組みと課題内容を60%、学期末の提出課題を40%として総合的に評価する。授業以外での演習の準備および課題に掛ける時間は毎回通常4時間程度と考えるが、課題のテーマによりそれ以上の時間を必要とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的にゼミの課題に取り組むことで、各自の大学での学習のみならず、卒業をしてからの社会に対する問題意識が開拓されているように思える。ゼミを通じて様々なことに関しての問題意識を持ち、積極的に取り組んでもらいたい。

【Outline and objectives】

What is the “mathematical thinking” required by society now? We consider the relationship between mathematics and society, and we consider what kind of study is mathematics. Further we consider the validity of “Mathematics”, and study the necessity of mathematical thinking in society.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

鈴木 宗徳

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代における批判的社会理論の可能性

【到達目標】

社会理論を精密に読解する力を養うとともに、現代の社会問題および社会変動を説明し批判する上でどのような理論枠組みが必要かについて、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員の専門はドイツを中心とする社会学理論で、ゼミでも、社会科学の主要な理論的著作の輪読をおこなう。ただし「理論のための理論」を採求することが目的ではなく、あくまで、われわれが直面する社会問題や社会変動を説明する枠組みとしてどのような理論が要請されているかを考えながら、それぞれの理論の可能性と限界について検討したい。

春学期はテキスト講読が中心となる。夏休みは研修旅行（フィールドワーク）を行ない、秋学期に各自が成果を報告書にまとめるとともに、学部研究発表会で発表を行なう。2011 年は静岡県御前崎市の浜岡原発周辺を訪ね、反対運動家や市議会議員をはじめ地域の様々なアクターに話を伺った。2012 年は被災地の復興を視察するため宮城県石巻市を訪ね、市議会議員、漁協、病院等に話を伺った。2013 年は、大阪市釜ヶ崎の高齢の日雇労働者が集住する地域を訪ね、ホームレス支援、子どもの支援、高齢者への仕事の斡旋を行う NPO 等で話を伺った。2 年間の在外研究をはさみ、2016 年は大阪市と京都市を訪ね、ヘイトスピーチ問題と取り組む在日朝鮮人の団体やジャーナリストらに話を伺った。2017 年度は福島県福島市や郡山市を訪ね、原発事故被害への補償や被ばくの不安の問題にとり組む被害者団体や母親たちのグループ、農業団体等で話を伺った。2018 年度は静岡県浜松市の日系ブラジル人労働者が集住する地域を訪ね、多文化共生政策や日本語学習支援の担当者、ブラジル人学校や保育園で話を伺った。2019 年度は日雇労働者が多かった横浜寿町で、医療、ホームレス支援、就労支援に携わる方々に話を伺った。

今年度は、川崎ないし横浜の朝鮮学校や在日朝鮮人コミュニティを訪ね、教育問題・多文化共生・ヘイトスピーチ対策等についてお話を伺う予定である。

秋学期は、二冊目のテキスト講読と並行して、個人研究報告を行なってもらう。個人研究は教員と相談しながら進めてもらうが、どのようなテーマを選ぶかは（そのテーマについて指導できるより適切なゼミがほかにある場合を除いて）基本的に自由である。

「演習 1」（2 年）と「演習 2・3」（3・4 年）を連続する時間帯に設定し、もう一方のゼミにも（単位にはならないが）出席することを義務とする（毎週 100 分×2 コマの出席）。議論が充実するため、ゼミ生には好評である。授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で、希望票を提出してほしい。三月末～四月初旬の演習説明会に出席することを、希望票を提出する要件とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	自己紹介など
第 2 回	ガイダンス (2)	研究の進め方について

第 3 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 4 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 5 回	テキスト講読 (1)	並行して研修旅行の準備 (1)
第 6 回	テキスト講読 (2)	並行して研修旅行の準備 (2)
第 7 回	テキスト講読 (3)	並行して研修旅行の準備 (3)
第 8 回	テキスト講読 (4)	並行して研修旅行の準備 (4)
第 9 回	テキスト講読 (5)	並行して研修旅行の準備 (5)
第 10 回	秋学期の研究計画の発表	2・4 年生による

第 11 回	テキスト講読 (6)	並行して研修旅行の準備 (6)
第 12 回	テキスト講読 (7)	並行して研修旅行の準備 (7)
第 13 回	テキスト講読 (8)	並行して研修旅行の準備 (8)
第 14 回	テキスト講読 (9)	並行して研修旅行の準備 (9)
第 15 回	テキスト講読 (1)	並行して 2 年生の研究報告 (1)
第 16 回	テキスト講読 (2)	並行して 2 年生の研究報告 (2)
第 17 回	テキスト講読 (3)	並行して 2 年生の研究報告 (3)
第 18 回	テキスト講読 (4)	並行して 2 年生の研究報告 (4)
第 19 回	2 年生の研究報告 (5)	並行して学部研究発表会の準備 (1)
第 20 回	2 年生の研究報告 (6)	並行して学部研究発表会の準備 (2)
第 21 回	4 年生の研究報告 (1)	並行して学部研究発表会の準備 (3)
第 22 回	4 年生の研究報告 (2)	並行して学部研究発表会の準備 (4)
第 23 回	4 年生の研究報告 (3)	並行して学部研究発表会の準備 (5)
第 24 回	4 年生の研究報告 (4)	並行して学部研究発表会の準備 (6)
第 25 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 26 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 27 回	テキスト講読	(5) (6)
第 28 回	テキスト講読	(7) (8)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

素晴らしいレジュメを作ることに全力を注いでほしい。また、時間割が許すならば、鈴木が担当する「公共性と民主主義」を履修すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストは、参加者と相談した上で第一回目のゼミで決める。候補は、アレント『全体主義の起源 3』、ライアン『監視文化の誕生』、ベンヤミン『ベンヤミン・コレクション①』、バウマン『デカルトからペイトソンへ』である。

これまでも毎年 2～3 冊ずつ、バウマン『コミュニティ』、ファノン『黒い皮膚・白い仮面』、石田勇治『過去の克服』、アンダーソン『想像の共同体』、ブルデュー『ディスタンクシオン』、ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ドゥルーズ『差異と反復』、フロム『自由からの逃走』、フーコー『生政治・統治』、リッツァ『消費社会の魔術的体系』、アレント『人間の条件』、バウマン『ホロコーストと近代』、ヒルシュ『国民的競争国家』などを、講読してきた。

【参考書】

必要な参考書は、授業内で適宜指示する。履修希望者は、担当教員が執筆した論文を Dropbox からダウンロードし (<http://ur0.link/sZeb>)、選考までに必ず一つ以上読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容 (30%)、議論への参加姿勢 (30%)、ゼミ論 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course explores the possibility of critical social theories in contemporary society.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1**関口 浩**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」をテーマとする。

【到達目標】

本演習では、社会科（公民的分野）に源泉のある「財政学」を中心に研究し、卒業後に「学生時代には財政学を研究した」と胸を張っていえることと、将来にわたるゼミ生同士の友好を深めることを目標とする。「財政学」の知識の深めることはもとより、多面的なゼミ活動を通じて伝統を重んじかつ新しいものを創造できる能力を養い、協調性ある人間となることをゼミ3年間の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「財政学演習」は、学年別ゼミと上級生との合併ゼミを実施している。「財政学演習1」は2年次で構成されるため、旧・教養課程段階で学ぶべき専門研究の基礎をまず固める必要がある。その上で、上級生の研究姿勢を見ながら、またその指導を受けながら、財政学研究に入っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回		3年間の演習計画説明
第2回	I. 財政学の文献輪読	各年度の研究、ゼミ活動の説明
第3回	I. 財政学の文献輪読	税とは何か
第4回	I. 財政学の文献輪読	税の体系
第5回	I. 財政学の文献輪読	所得税
第6回	I. 財政学の文献輪読	法人税
第7回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論題の決定
第8回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告目次の作成
第9回	III. 財政学基礎の習得	財政民主主義・財政学説史
第10回	III. 財政学基礎の習得	公債の意義と公債負担論
第11回	III. 財政学基礎の習得	日本の予算決算制度・市場の失敗・費用便益分析
第12回	III. 財政学基礎の習得	社会保障財政・教育財政
第13回	III. 財政学基礎の習得	租税理論
第14回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆経過報告
第15回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆討論
第16回	IV. 合同ゼミ研究報告会	沖縄国際大学前村財政学演習と第23回合同ゼミ研究報告会を令和2年度は沖縄開催。
第17回	IV. 合同ゼミ研究報告会	合同ゼミ合宿の成果を報告
第18回	IV. 合同ゼミ研究報告会	『財政学研究(第24巻)』編集作業開始
第19回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税の概念)
第20回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税の基本概念)
第21回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税の作用)
第22回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税原則と租税体系)
第23回	IV. 合同ゼミ研究報告会	『財政学研究(第24巻)』編集中間報告
第24回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(個人所得税)
第25回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(法人税)
第26回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(付加価値税)
第27回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(資産課税)
第28回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(日本税制論)
第29回	IV. 合同ゼミ研究報告会	『財政学研究(第24巻)』編集最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ初年度は「財政学」の知識がないといえる。毎回、前時間に指示した教科書該当箇所を2時間以上かけて丹念に通読し、分からない点を明らかにしておく。各回のゼミ終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料や演習問題を頼りに2時間以上かけて復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

- [1] 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。
[2] その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告資料作成水準(40%)、出席票記述事項(30%)、『財政学研究』論文執筆水準(30%)で総合して、ゼミ活動への取り組み状況(100%)を評価する。詳細はゼミ活動を通じて説明するので日々確認してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

忍耐力と協調性を有したゼミ生が増えてつつある。上級生の姿勢からよく学び、ゼミ生として誇りある行動をとって欲しい。

【その他の重要事項】

1. 財政学の文献を教材とした「外書講読(社会政策科学)3A・3B」(水・3限)の受講を、原則ゼミ登録の要件とする。財政学の理解を深めるためである。必修科目等との重複がある場合は事前に相談の上指示を受けること。
2. ゼミ所属3年間のできるだけ早い時期に、「財政学I・II」(火・2限)、「地方財政論」(水・秋学期3限)をすべて受講すること。
3. ゼミホームページ(<http://sekiguchizemi.ws.hosei.ac.jp>)が停止中の(<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~sekiguch/>)を参照。

【Outline and objectives】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being.

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

演習 1

曾布川 哲也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障法の中でも特に社会保険を主たるテーマとし、社会保険を法理論的なアプローチと実務的なアプローチの両面から捉える。参加者によるテーマに関する発表・討議・レポート等を通じて、3 年生以降に必要となる論文の読み方と報告の作法などを身につけ、論理的に思考できる力を養う。

【到達目標】

理論と実際の違いを理解し、各自が法政策を考える際の礎を築くこと。学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会保障法の領域に関する論文や資料等の題材を決めて、参加者が順番に担当者になってまとめた報告等をし、それをもとに全員で討議を行うことを基本とする。そのねらいは、テキストの内容理解とその記述の裏側にある現実社会の考察という一連の流れを通じて、自ら課題を見つけて解決方法を探る力をつけることにある。

春学期前半は、標準的なテキストを用いて、ゼミでの報告と討議の方法を中心に進め、後半は同じテキストを使い、報告担当を決めて参加者全員で討議する。また通常のゼミとは別に、学部研究発表会に参加するための共通テーマの検討を行うこともある。秋学期は、少し難易度が高めの論文や資料または裁判事例を読み、報告と討議を進める。ただし進み具合を見て、参加者の興味関心に基づいたテーマについての論文等を読むことや、各自の選んだテーマ発表等で進めることもある。

報告者は、論文等文献の内容をまとめたレジュメを作成し、全員に配布する。どのような内容で作成するのかはゼミ内で案内する。

水曜日の 3 時限目に開講する演習 2 との合同ゼミを開催することもある。

ゼミでの報告とは別にレポート作成を春秋 1 回ずつ課す。

※本演習は、長沼建一郎教授の代講として 2020 年度限りで開講されるものである。2021 年度以降は長沼教授に引き継がれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認
2	ゼミでの学習に向けた基本事項の確認	文献の読解方法
3	ゼミでの学習に向けた基本事項の確認	討議への参画方法
4	ゼミでの学習に向けた基本事項の確認	資料や論文の作成方法
5	ゼミでの学習に向けた基本事項の確認	春学期の検討テーマの選定等
6	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
7	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
8	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
9	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
10	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
11	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
12	社会保障に関する法政策	グループ報告と討議
13	社会保障に関する法政策	小括、フィードバック
14	論文執筆に向けて	論文執筆の技術
15	秋学期のガイダンス	スケジュールの確認
16	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
17	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
18	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
19	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
20	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
21	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
22	学部研究発表会準備	ゼミ全体での準備作業
23	学部研究発表会準備	ゼミ全体での準備作業
24	学部研究発表会準備	ゼミ全体での準備作業
25	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
26	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
27	社会保障に関する法政策	個人またはグループ報告と討議
28	まとめと振り返り	総括、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当でないも当日取り上げるテーマについてあらかじめ読み、自分なりの考えをもって臨むこと。また、学部研究発表会準備その他のためにサブゼミを行う必要が生じる場合があることを想定しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期は、増田幸弘他編著『変わる福祉社会の論点「第 2 版」』（信山社、2019 年）を、秋学期は、日本社会保障法学会編『新・講座社会保障法第 1 巻 これからの医療と年金』（法律文化社、2012 年）を予定している。また、その他適宜資料や文献等を配布する。

【参考書】

長沼建一郎『図解テキスト社会保険の基礎』（弘文堂、2015 年）
岩村正彦、菊池馨実、高さやか、笠木映里編著『目で見える社会保障法教材第 5 版』（有斐閣、2013 年）
その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

担当教員は、現役の社会保険労務士で、専門は医療保障および年金保険。課題提示および問題解決の理論的なアプローチだけでなく、実務家としての問題のとらえ方も提示する。このことによって理論と実践の両方を学修できる。

【Outline and objectives】

This seminar deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

高瀬 文人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディア時代、デジタル時代において「調べ」「考え」「伝える」とはどのようなことなのか。それらを考え、実践し、まとめ、発信するプロセスを知り、それに必要な方法を身につけ、社会とのつながりを研究する入口まで進んでいきます。

【到達目標】

1. 「面白い」「何だろう」「おかしい」という気持ちを、「問題意識」としてはつきりさせ、事実を「裏付け」、効果的な手段と力かたちで「伝える」ことができる。2. 紙媒体、ウェブページ、ソーシャルメディア、動画、イベントなどさまざまな媒体の特性を知り、効果的な表現方法とは何かを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*既に募集終了、遠隔授業にて開講しています。

講義と実習を組み合わせで行います。調査、実践、研究を行いながら「伝える」ことの設計（デザイン）を学びます。これまでのテーマには、地域からの発信、ニュースパーク（日本新聞博物館）の展示提案、フェイクニュース調査、などがあります。多くの場合、企業や自治体と一緒に活動を行い、NTT 研究所、栃木県足利市の NPO 法人コムラボなどと取り組んで来ました。鳥根での取り組みは、書籍『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』（ハーベスト出版）としてまとめられています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	方針の確認と自己紹介
第 2 回	実践	インタビュー冊子づくり
第 3 回	実践	インタビュー冊子づくり
第 4 回	実践	インタビュー冊子づくり
第 5 回	調査	実践テーマの検討
第 6 回	調査	実践テーマの検討
第 7 回	調査	事例の分析
第 8 回	調査	事例の分析
第 9 回	調査	事例の分析
第 10 回	調査	計画の立案
第 11 回	調査	計画の立案
第 12 回	実践	実践の実施
第 13 回	実践	実践の実施
第 14 回	実践	実践の実施
第 15 回	ガイダンス	実践の振り返りと方針の確認
第 16 回	研究	研究テーマの検討
第 17 回	研究	研究テーマの検討
第 18 回	研究	研究テーマの検討
第 19 回	研究	先行研究の調査
第 20 回	研究	先行研究の調査
第 21 回	研究	先行研究の調査
第 22 回	研究	調査の設計
第 23 回	研究	調査の設計
第 24 回	研究	調査の実施
第 25 回	研究	調査の実施
第 26 回	研究	調査の分析
第 27 回	研究	調査の分析
第 28 回	研究	調査のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外の準備が必要です。土日、長期休暇を利用しての合宿、他大学との合同ゼミや学会への参加などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。活動に対する取り組みや出席状況で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、カメラ、デザインソフトなどを使用します。大半がゼミに用意してありますがパソコンは用意する必要があります。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムやメディアに興味がある学生、社会の課題解決に関心がある学生を歓迎します。大切なのは、面白いと思ったり、違和感を持ったりする好奇心です。人と異なっている、自分の想いを大切にすることが重要であり、演習ではそれを人に伝え、説得するためのスキルを身につけることを目指します。ソーシャルメディア時代のメディア実践や研究にはテクノロジーへの理解が必須になりますが、必要に応じて学ぶ機会を設定します。講師は現役のジャーナリスト・雑誌編集者であり、原稿を多数執筆し、また多くの原稿を添削してきました。それを踏まえて「伝える」ためのコミュニケーションを指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、広告コピーライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として編集業務全般を行っている。

<研究テーマ>

調査報道の現代的あり方、リサーチ教育

<主要研究業績>

『リーガル・リサーチ』2003 年、日本評論社

『ひと目でわかる六法入門 第 2 版』2018 年、三省堂

『鉄道技術者 白井昭』2012 年、平凡社

【Outline and objectives】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

武田 俊輔

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化とまちづくりから見る地域社会というテーマについて、文献の講読とフィールドワークを通じて学ぶ。

【到達目標】

都市・農山漁村における文化、祭り・イベント、観光、まちづくり、メディアなどを手がかりとして、地域社会について分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4 回生で卒業論文を書けるようになるための一里塚として (1) 文献の読解、(2) 学外での共同でのフィールドワーク、(3) ゼミ論の執筆を行う。

文献は文化社会学・地域社会学・都市社会学を中心とするが、社会学の古典的著作をできるだけ選ぶつもりである。また休暇中のフィールドワークを予定している。ただしコロナウイルスの今後の流行状況によっては、中止・延期の可能性がある。

年度の最後にゼミ論の提出を求める。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの目的と進め方についての説明、文献担当の決定
2	入門的な文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (1)
3	入門的な文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (2)
4	入門的な文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (3)
5	入門的な文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (4)
6	入門的な文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (5)
7	入門的な文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (6)
8	入門的な文献の講読 (7)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (7)
9	入門的な文献の講読 (8)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (8)
10	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	フィールドワークに向けた文献講読 (1)
11	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	フィールドワークに向けた文献講読 (2)
12	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	フィールドワークに向けた文献講読 (3)
13	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
14	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (2)
15	フィールドワークの成果報告とディスカッション (1)	夏期休暇中のフィールドワークの成果のまとめ (1)
16	フィールドワークの成果報告とディスカッション (2)	夏期休暇中のフィールドワークの成果のまとめ (2)
17	基礎的文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (1)
18	基礎的文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (2)
19	基礎的文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (3)
20	基礎的文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (4)
21	基礎的文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (5)
22	基礎的文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (6)

23	基礎的文献の講読 (7)	春学期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (7)
24	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	春学期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
25	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	春学期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (2)
26	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	春学期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (3)
27	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	春学期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
28	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2) とまとめ	春学期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (2)、および 1 年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成。共同でのフィールドワーク。フィールドワークのための下調べやその内容のまとめ、学生同士のディスカッションと成果報告の準備。ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

初回、また必要になるごとに文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告のレジュメの内容 (25%)
 討論への参加度 (25%)
 フィールドワークでの貢献度 (25%)
 ゼミ論の内容 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初年度のため、特になし。

【その他の重要事項】

授業時間外に学生のみでフィールドワークのための下調べやディスカッションの時間を持つこと。時間については初回に相談する。

【Outline and objectives】

Studying local communities and culture through reading books and fieldwork.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住の社会学を考える

【到達目標】

日本社会のグローバル化に関わる社会現象（特に移住に関する問題）を自らテーマ化できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 月 22 日より zoom による授業を開始します。演習の詳細については必ず学習支援システムに仮登録の上、お知らせを確認してください。サブ・グループごとに問題を設定し、文献の講読と議論、発表を進める。社会調査の方法の基礎をさまざまなフィールドワークを通じて学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方について	概要紹介
2	社会学入門一歩前	文献検索の方法（統計資料等の読み方）および観察記録
3	テキストの概説と参考文献について（図書館利用）	東京に関する資料の収集
4	グローバル都市の現実	カメラ目線から問題意識を探る（連休中に一度は大久保を歩く）。
5	移住の社会学事始め（1）	池袋・新宿調査からの 20 年について
6	移住の社会学事始め（2）	社会調査報告『多文化共生のありかを求めて』を分担に応じて報告
7	移住の社会学事始め（3）	テキスト『多文化共生のありかをまとめて Part II』から自らのテーマを考える。
8	移住の社会学事始め（4）	長年にわたり、池袋をフィールドとされてきた方をお呼びし、ゼミでの質疑。
9	フィールドの何が問題かを考える	テキスト『多文化共生のありかをまとめて Part II』
10	テーマ設定	グループ発表準備作業
11	グループ研究発表（1）	グループ発表準備作業
12	グループ研究発表（2）	グループごとの研究発表（個人テーマの明確化）
13	夏休み調査計画	夏休み中に実施する調査計画の発表
14	前期まとめ	レポートの提出
15	調査結果の集約	秋学期の発表へ向けた調査結果の確認
16	インタビューデータの集約	分析方法を学ぶ
17	プレゼンテーションの作法（1）	発表の仕方を学ぶ
18	プレゼンテーションの作法（2）	プレゼンテーション準備作業
19	プレゼンテーションの作法（3）	プレゼンテーションを作成
20	プレゼンテーションの作法（4）	サブ・ゼミ谷での発表
21	個人テーマ化へのアプローチ（1）	問題意識を深化させる
22	個人テーマ化（2）	文献の再検索
23	個人テーマ化（3）	統計資料の扱い方
24	個人テーマ化（4）	補足的なインタビュー調査
25	個人テーマ化（5）	個人テーマにもとづく発表
26	ゼミ・レポート作成準備作業	レポートを書くために
27	ゼミ・レポート準備（2）	レポートを書くために
28	ゼミ・レポート作成への道しるべ	集大成としてのレポートへ向けた取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書（発表とレポート作成）の発表とレポート作成。課題図書についてはグループごとの読み合わせと討論のまとめ・その結果を次回ゼミで発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 社会調査実習報告 2006 年、『多文化共生のありかをもとめて』法政大学社会学部。
2. 社会調査実習報告 2011 年、『多文化共生のありかをもとめて Part II』法政大学社会学部。
3. 社会調査実習報告 2014 年、『多文化共生のありかをもとめて Part III』法政大学社会学部。
4. 社会調査実習報告 2010 年、『グローバル化の中の池袋－中国系移住者コミュニティとは－』

【参考書】

1. 田嶋淳子 2010 「アジア系移住者をめぐる調査－新宿・池袋調査からの 20 年」『社会と調査』第 4 号、有斐閣。
2. N. ハイナー、田嶋淳子訳 1997 『ホテル・ライフ』ハーベスト社。
3. 田嶋淳子著、2010 年、『国際移住の社会学－東アジアのグローバル化を考える』明石書店。
4. 田嶋淳子、1998 『世界都市・東京のアジア系移住者』学文社。

【成績評価の方法と基準】

演習における課題の報告（20%）、春学期レポート（30%）、ゼミ内発表会（20%）および最終レポート（30%）によって総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Students will be given an opportunity to ponder the sociology of international migration.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

多田 和美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、オンライン形式で実施します。

受講生には、詳細をメール等によって連絡しています。

本授業は、「国際社会における多国籍企業の経営戦略と組織」をテーマとしています。国際経営論を主要領域に、今日の環境変化を踏まえて、社会と企業がともに発展していくための国際経営活動を考察することを目的とします。演習1では、主に基本文献の輪読と日本多国籍企業の事例研究に取り組みます。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営の基本理論を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を説得的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

当面の間、オンラインによる演習形式で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	文献購読とディスカッション
第3回	国際経営の利点と課題	文献購読とディスカッション
第4回	国際経営の理論①	文献購読とディスカッション
第5回	国際経営の理論②	文献購読とディスカッション
第6回	国際経営の基本視座①	文献購読とディスカッション
第7回	国際経営の基本視座②	文献購読とディスカッション
第8回	国際マーケティング	文献購読とディスカッション
第9回	海外生産	文献購読とディスカッション
第10回	国際研究開発	文献購読とディスカッション
第11回	国際パートナーシップ	文献購読とディスカッション
第12回	国際人的資源管理	文献購読とディスカッション
第13回	国際経営とCSR	文献購読とディスカッション
第14回	小括	ディスカッション
第15回	事例研究の方法	文献購読と議論
第16回	研究計画	リサーチ・クエスチョン、研究対象、研究方法
第17回	先行研究の検討と分析枠組①	文献レビュー①
第18回	先行研究の検討と分析枠組②	文献レビュー②
第19回	企業調査①	パイロット・スタディ
第20回	企業調査②	1次データと2次データの収集①
第21回	企業調査③	1次データと2次データの収集②
第22回	企業調査④	1次データと2次データの収集③
第23回	事例分析①	データの分析①
第24回	事例分析②	データの分析②
第25回	事例研究のまとめ①	事例研究の結論・含意・課題
第26回	事例研究のまとめ②	事例研究の発表準備
第27回	研究発表①	発表とディスカッション①
第28回	研究発表②	発表とディスカッション②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究課題に向けて相応の授業時間外の学習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業内で提示します。

【参考書】

下記の文献のほか、適宜授業内で提示します。

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%、課題の完成度：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、適宜連絡します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to enhance various skills of students, such as logical thinking and problem solving in international business by acquiring knowledge on both international business and research method. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Review of basic literature on international business
- 2) Discussion about theoretical topics of international business
- 3) Case study of Japanese multinational company
- 4) Writing a report on international business

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1

谷本 有美子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、人口減少期の都市自治体の政策課題を対象に、マルチステークホルダー・パートナーシップを通じた課題解決の可能性を、市民自治の理念から探求することを目的としています。

主に東京圏の都市自治体における人口減少期の公共的な政策課題に着眼し、それらの課題解決に関わる企業・NPO・地域団体などの多様な主体と自治体との関係や、提供されている資源の現状を分析します。さらに民主的統制の側面からの検討も加えつつ、21 世紀における都市自治体のマルチステークホルダー・パートナーシップによる政策展開の可能性を実践的に検討していきます。

【到達目標】

- ・自治体の政策課題の基本的事項について、理解を深める
- ・チームによる政策検討の説明力、討議力、思考力を身につける
- ・プレゼンテーションスキルを身につける
- ・多角的な情報や知識に基づき課題を分析し、政策を構想する力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期前半は、指定した文献について担当を決め受講生が順次内容をレポートする形式で進めます。後半は、都市自治体における具体的な課題や実践事例を用いたグループディスカッションやワークショップを行います。

秋学期は、各々の卒論テーマに関連する自治体の政策課題について受講生による報告（問題提起）とそれに対するグループ討議・発表を行っていきます。なお、授業計画は受講生の関心に応じて、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス－自治体と政策課題	自己紹介とゼミの進め方についての説明
第 2 回	21 世紀の自治体を取り巻く課題	人口減少期の自治体が抱える政策課題についての概要説明と討議
第 3 回	テキスト報告の担当決め	テキストの紹介と報告担当者の決定
第 4 回	テキストの講読（1）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 5 回	テキストの講読（2）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 6 回	テキストの講読（3）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 7 回	テキストの講読（4）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 8 回	テキストの講読（5）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 9 回	テキストの講読（6）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 10 回	テキストの講読（7）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 11 回	テキストの講読（8）	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 12 回	テキストの総括	テキストから学んだ自治体の政策課題と関連事項を検討する
第 13 回	研究テーマの抽出と検討－グループワーク	テキストの内容を中心に、秋学期の検討テーマを選択する
第 14 回	自治体調査の計画づくり	夏季休業中に予定する自治体調査の計画を立てる
第 15 回	自治体の政策課題の検討(1)－グループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 16 回	自治体の政策課題の検討(2)－グループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 17 回	自治体の政策課題の検討(3)－グループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 18 回	課題解決案の発表(1)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 19 回	課題解決案の発表(2)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 20 回	課題解決案の発表(3)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 21 回	グループ研究のまとめ	グループが発表した内容をもとに政策の展開図を作成・俯瞰する

第 22 回	研究案の作成	卒論に予定するテーマについて、研究案を作成する
第 23 回	研究案の提示とディスカッション（1）	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 24 回	研究案の提示とディスカッション（2）	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 25 回	研究案の提示とディスカッション（3）	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 26 回	研究案の提示とディスカッション（4）	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 27 回	研究案の提示とディスカッション（5）	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 28 回	ふりかえりと総括	次年度に向けた課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テキスト購読のレジュメ作成、グループワークと発表の事前準備、研究テーマの発表準備等、授業前に指示された準備作業を行う。討議内容のメモを取り、検討したことの振り返りや論点整理等を自主的に行う。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

柴田直子・松井望『地方自治論入門』（ミネルヴァ書房）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の報告 40 %、討議への参加姿勢 30 %、卒論研究案の提出 30 % を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is from the aspect of the philosophy of citizens' self-government to explore the possibility of solving the policy issues of municipalities in the declining population term through multi-stakeholder partnerships.

Focusing on public policy issues during the declining population period, mainly in municipalities in the Tokyo metropolitan area, we'll analyze the resources provided to public problems by local governments and various actors, such as companies, NPOs and local organizations. In addition, we will consider the possibility of policy development through multi-stakeholder partnership at urban municipalities in the 21st century, while taking into account democratic control.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではメディアに関する基本的な知識を学ぶとともに、広い意味でのメディア現象について政治学・社会学的な観点からグループ研究を行う。

【到達目標】

この演習の目標は、参加者が現代社会におけるメディアの役割に関する理解を深めるとともに、分析のための視角や手法を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この演習では基本的な文献の輪読を行い、メディアに関する基礎知識や調査のための方法論を学ぶ。また、グループに分かれて、それぞれの興味関心に沿ったテーマについて研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度の演習を進めていくための基盤整備	ゼミ運営
第 2 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（序章）	文献輪読
第 3 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（1 章）	文献輪読
第 4 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（2 章）	文献輪読
第 5 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（3 章）	文献輪読
第 6 回	研究テーマ決定	グループ研究
第 7 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（1 章、2 章）	文献輪読
第 8 回	インタビュー成果報告（1）	研究準備
第 9 回	インタビュー成果報告（2）	研究準備
第 10 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（3 章、4 章）	文献輪読
第 11 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（5 章、6 章）	文献輪読
第 12 回	研究初回報告（1）	グループ研究
第 13 回	研究初回報告（2）	グループ研究
第 14 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（7 章、8 章）	文献輪読
第 15 回	後期を始めるにあたっての打ち合わせ	ゼミ運営
第 16 回	夏季休暇中の成果報告（1）	グループ研究
第 17 回	夏季休暇中の成果報告（2）	グループ研究
第 18 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（9 章、10 章）	文献輪読
第 19 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（11 章、12 章）	文献輪読
第 20 回	文章論評会（1）	研究準備
第 21 回	文章論評会（2）	研究準備
第 22 回	研究中間報告（1）	グループ研究
第 23 回	研究中間報告（2）	グループ研究
第 24 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（13 章、14 章）	文献輪読
第 25 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（15 章、16 章）	文献輪読

第 26 回 文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（17 章、18 章）

第 27 回 研究最終報告（1） グループ研究

第 28 回 研究最終報告（2） グループ研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習に関しては輪読の準備、レジュメの作成、グループ研究の実施、打ち合わせ、報告書の作成等、授業時間外での長時間の活動が必要になる。また、新歓合宿および夏合宿への参加も求められる。フィールドワークについては、グループ研究や合宿時においてインタビュー調査を実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸政彦ほか（2016）『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣／津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社

【参考書】

初回の演習において、メディアを学ぶうえで是非読んでもらいたい文献のリストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、年度末レポート（70%）。なお、遅刻・欠席が多い者については演習への参加を取りやめてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はゼミ生とのコミュニケーションに関して改善すべき点があったため、今年度は早めの連絡を心がけた。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help participants learn the basics of media studies, and to facilitate group research on media from the viewpoint of sociology and political science.

PSY200EB, PSY200EC, PSY200ED

演習 1

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般市民を対象とするイベントを企画・運営するアクションリサーチに取り組む。授業では、まず、どのようなねらいのもと、どのようにイベントを実施するのかを検討し、実際に、イベントの企画・準備・実施といった活動に取り組んでいく。イベントの企画・運営に取り組むだけでは十分ではなく、それを学術的に位置づけていくことが重要となる。秋学期には成果報告書の作成とプレゼンを実施する。

【到達目標】

- ・目標を設定し、それを実現するイベントを計画するスキルを習得する
- ・イベントの企画・運営のスキルを習得する
- ・イベントをふりかえり、成果を他者に報告するスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、文献講読、イベントの企画・準備・実施、イベントのふりかえり、報告書の作成、プレゼンテーションといった一連の活動からなる。
- ・受講者が中心になって活動を展開していく。必要に応じて教員が解説を行なう。
- ・準備やイベント等、授業時間外の作業も多く求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明, 自己紹介, 役割分担
2	イベントの検討	何をねらい, どのようなイベントを実施するかを検討する
3	イベントの検討	何をねらい, どのようなイベントを実施するかを検討する
4	イベントの検討	何をねらい, どのようなイベントを実施するかを検討する
5	イベントの準備・企画	イベントをどこでどのように実施するかを詰めて考える
6	イベントの準備・企画	イベントをどこでどのように実施するかを詰めて考える
7	イベントの準備・企画	イベントをどこでどのように実施するかを詰めて考える
8	イベントの実施	イベントを実施する
9	イベントの実施	イベントを実施する
10	イベントのふりかえり	イベントをふりかえる
11	文献講読	担当者による文献の報告, 質疑応答, ディスカッション
12	文献講読	担当者による文献の報告, 質疑応答, ディスカッション
13	文献講読	担当者による文献の報告, 質疑応答, ディスカッション
14	まとめ	夏休みの課題の説明
15	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
16	イベントの企画・準備・実施	イベントを企画・準備し, 実施し, ふりかえる
17	イベントの企画・準備・実施	イベントを企画・準備し, 実施し, ふりかえる
18	イベントの企画・準備・実施	イベントを企画・準備し, 実施し, ふりかえる
19	イベントの企画・準備・実施	イベントを企画・準備し, 実施し, ふりかえる
20	イベントの企画・準備・実施	イベントを企画・準備し, 実施し, ふりかえる
21	イベントの企画・準備・実施	イベントを企画・準備し, 実施し, ふりかえる
22	成果報告の準備	ゼミ論の作成に向けて, 研究成果を報告する
23	成果報告の準備	ゼミ論の作成に向けて, 研究成果を報告する
24	成果報告の準備	ゼミ論の作成に向けて, 研究成果を報告する
25	ゼミ論の作成	活動の成果をゼミ論にまとめる
26	ゼミ論の作成	活動の成果をゼミ論にまとめる

27 ゼミ論の作成 活動の成果をゼミ論にまとめる
28 まとめ 一年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・イベントの企画・実施に向けた準備を行なう。
- ・文献講読の準備を行なう。
- ・適宜課される課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・初回の授業で指示します。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質（40%）、イベントの準備・実施への貢献度（40%）、ゼミ論（20%）で判断します。
- ・なお、イベントの準備・実施、ゼミ論の提出は必須条件とします。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ふりかえりをふまえて、早々にイベントの準備に取り掛かりたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・方法論を修得するために、教員が担当する別の授業に出席することを求めます。
- ・授業時間外や夏休みにもイベントの準備等を行なうことがあります。
- ・イベントの準備や実施にともなう交通費は原則自己負担となります。

【Outline and objectives】

In this course students engage in action research projects. Action research is one of the research methods of social psychology. The goal of this method is to change societies for the better. The objective of this course is to acquire skills in analyzing the problems of societies and in developing action research projects.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

徳安 彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「社会システムと人間」。さまざまな社会現象をとりあげて、構造的な条件である社会システムと、社会で生きる人間の両面から、社会学的に考察していく。各ゼミ生の取り組むテーマは、なるべく多様性を持たせる。

【到達目標】

社会学の基礎概念や主要理論を学び、それを社会現象の分析に適用できる。自分の研究のための社会学的なテーマ設定、研究方法の選択、文献・資料・データ等の収集・分析、基礎概念や理論を用いて結論を導く論証ができる。研究の経過や成果を、プレゼンテーションや論文によって他者に伝達し、他者と討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の授業開始日は 4 月 24 日（金）とする。これは演習の運営を始める日（平常であればメンバーの顔合わせの日）であって、具体的な学習作業は 5 月 1 日（金）以降にスタートする。

春学期は、個人研究の発表と討議を行う。秋学期は、研究の基礎となる理論や方法を学習し、グループワークに基づいて成果のプレゼンテーションを 2 ラウンド行う。年度末にゼミ論を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の学習目標の確認
第 2 回	学習ガイダンス	文献、資料、データ等の検索法や論証構成の仕方を学ぶ
第 3 回	グループワーク 1 (1)	テーマと問題の設定。方法の決定。作業分担、スケジュールの決定
第 4 回	グループワーク 1 (2)	文献・資料検索と学習
第 5 回	グループワーク 1 (3)	文献・資料検索と学習
第 6 回	グループワーク 1 (4)	結論を導く論証構成の検討
第 7 回	グループワーク 1 (5)	資料作成と報告の練習
第 8 回	グループワーク 1 (6)	成果のプレゼンテーションと討議
第 9 回	グループワーク 2 (1)	テーマと問題の設定。方法の決定。作業分担、スケジュールの決定
第 10 回	グループワーク 2 (2)	文献・資料検索と学習
第 11 回	グループワーク 2 (3)	文献・資料検索と学習
第 12 回	グループワーク 2 (4)	結論を導く論証構成の検討
第 13 回	グループワーク 2 (5)	資料作成と報告の練習
第 14 回	グループワーク 2 (6)	成果のプレゼンテーションと討議
第 15 回	イントロダクション	秋学期の学習目標の確認
第 16 回	個人研究報告 (1)	個人報告と討議
第 17 回	個人研究報告 (2)	個人報告と討議
第 18 回	個人研究報告 (3)	個人報告と討議
第 19 回	個人研究報告 (4)	個人報告と討議
第 20 回	個人研究報告 (5)	個人報告と討議
第 21 回	個人研究報告 (6)	個人報告と討議
第 22 回	ゼミ論の書き方	ゼミ論執筆方法の説明
第 23 回	個人研究報告 (7)	個人報告と討議
第 24 回	個人研究報告 (8)	個人報告と討議
第 25 回	個人研究報告 (9)	個人報告と討議
第 26 回	個人研究報告 (10)	個人報告と討議
第 27 回	個人研究報告 (11)	個人報告と討議
第 28 回	個人研究報告 (12)	個人報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークでは各グループ、個人研究では各人の作業の進捗状況に応じて、研究にかかわる文献・資料・データの収集・分析、プレゼンテーションの準備等を行う。必要に応じて、個人相談も行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、グループワーク、個人研究のいずれも、研究成果のプレゼンテーションや論文作成に至るために、必要に応じてそれ以上の作業時間を確保することが求められる。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

とくに用いない。

【成績評価の方法と基準】

単位認定にあたっては、以下の 3 つの要件を満たす必要がある。

- ①グループワーク報告：前期に 2 回の発表を厳守。グループ全員がプレゼンテーションを行うようにすること。
- ②個人研究報告：後期に 1 回の発表を厳守。こちらについては、どんな事情があっても必ず発表すること。
- ③ゼミ論の提出：演習 1 は 8,000 字以上、演習 2 は 12,000 字以上。評価は、グループワークおよび個人の研究報告 (30%)、ゼミ論 (50%)、ゼミにおける討議への貢献 (20%) による。

【学生の意見等からの気づき】

学年の垣根を越えた学問的コミュニケーション（相互の研究テーマの理解、討議や相互批判）を促進できるような環境作りに留意して、ゼミを運営したい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、ノート PC、プロジェクタ等の機器を適宜用いる。

【その他の重要事項】

教員と学生という垣根もない、自由闊達な議論が許される場がゼミナールです。より充実した議論がなされるための、皆さんの積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

We explore various social phenomena sociologically from the viewpoint of the social system and human life.

FRI200EB, FRI200EC, FRI200ED

演習 1

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「デジタルメディアの実践的研究」です。ウェブ、モバイル、Processingなどを活用した新たなコミュニケーションや経験のデザインに取り組みます。

【到達目標】

上記の活動を通じて、デジタルメディア環境を前提にした企画力を身につけることが目標です。また、日々の制作活動を通じて、プログラミングやデザインの実践に取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は基礎知識を得るための文献輪読とプロジェクトの企画立案を行います。夏休みから制作に入り、秋学期は毎回のゼミで進捗報告を行い、11月の半ばまでに、試作版を完成させます。その後、プロジェクトの再デザイン期間に入り、秋学期の最終会でプロジェクト最終報告会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方について
2	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プロジェクトテーマ領域の解説
3	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域1の事例検討
4	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域2の事例検討
5	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域3の事例検討
6	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域4の事例検討
7	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プロジェクトチーム発足
8	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/「哲学」の設定
9	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/「ビジョン」の設定
10	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査の計画
11	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査とプロトタイプ
12	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査とプロトタイプ
13	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プロジェクトプランのプレゼン
14	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プランの修正
15	ガイダンス	秋学期の進め方について
16	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
17	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
18	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
19	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
20	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
21	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
22	試作版完成報告会	制作物の試作版プレゼン
23	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/完成へ向けての課題の洗い出し
24	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
25	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
26	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
27	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
28	プロジェクト完成報告	最終プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

制作活動はすべて課外の時間に行います。また、毎週行われる指定文献の輪読の準備、レジュメ作成なども課外の時間に行われます。さらに、土日その他を使って、外部講師による技術講習、企業とのワークショップなどが行われることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ドミニク・チェン、2015、『脳のレリギオービッドデータ社会で心をつくる』NTT 出版

【参考書】

必要に応じて具体的に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加（40%）プロジェクトの評価（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

プログラミングやデザインの作業を中心とした制作活動が中心なので、授業時間外での活動が相当程度生じます。また、週末や長期休暇中に勉強会やワークショップが開催されることがありますので、そちらも積極的に参加して下さい。また、通常のゼミは連続で2コマ分の時間行います。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and theory of digital sociology. It also enhances the development of students' skill in sociological analyses of digital media use and user experience design.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1**中筋 直哉**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 のテーマは「グローバル社会のローカルな生活」である。入門的な文献を複数講読して、世界史を「グローバル・ヒストリー」として勉強し直す。さらに、さまざまなローカルな生活についてグループで調べ、議論する。

【到達目標】

議論を通して自分自身のグローバル化とローカリティのイメージを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式。教科書の各章を報告者と論点提示者の 2 人で報告し、全員で討論する。春秋 1 回ずつの校外見学と夏期休暇中の合宿を行う予定。演習はグループディスカッション形式、見学と合宿ではフィールドワークを行う。オンライン授業の第 1 回は 4 月 23 日 5 限の時間通りです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確かめてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介とスケジュールの確認
2	レポート作成術	専門的なりポート作成術を学ぶ
3	討論の進め方	生産的な議論の進め方を学ぶ
4	教科書 1 の講読 1	教員による教科書の解説
5	教科書 1 の講読 2	第 1 章の発表と討論
6	教科書 1 の講読 3	第 2 章の発表と討論
7	教科書 1 の講読 4	第 3 章の発表と討論
8	教科書 1 の講読 5	第 4 章の発表と討論
9	教科書 1 の講読 6	第 5 章の発表と討論
10	教科書 2 の講読 1	講師による教科書の解説
11	教科書 2 の講読 2	第 1 章の発表と討論
12	現地見学 1	演習 2, 3 と合同の校外学習
13	現地見学の検証 1	校外学習の報告と討論
14	ゼミ合宿の計画	ゼミ合宿の計画
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	夏期課題の報告 1	報告と討論
17	夏期課題の報告 2	報告と討論
18	教科書 2 の講読 3	第 4 章の報告と討論
19	教科書 2 の講読 4	第 5 章の報告と討論
20	教科書 2 の講読 5	第 6 章の報告と討論
21	教科書 2 の講読 6	第 7 章の報告と討論
22	現地見学 2	演習 2, 3 と合同の校外学習
23	現地見学の検証 2	校外学習の報告と討論
24	グループ調査研究 1	グループ報告と討論
25	グループ調査研究 2	グループ報告と討論
26	グループ調査研究 3	グループ報告と討論
27	グループ調査研究 4	グループ報告と討論
28	まとめ	各自レポートの提出と年度の総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年間の演習を踏まえた、A4×1 枚程度のレポートを秋学期末に紙で提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 水島司,2010,『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社,729 円+税。
- ダイヤモンド,J. 他,2018,『歴史は実験できるのか』慶應義塾大学出版会,2800 円+税。

【参考書】

演習中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の発表と討論への積極的参加が 60 % (それが見られないときは D), リポートの出来が 40 %。オンライン授業の場合も従来の評価基準に従って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

討論の題材になるような具体的資料の提示に努める。

【学生が準備すべき機器他】

教科書の他、ノートと筆記用具が必須。

【Outline and objectives】

This seminar aims to study the relation of globalization and local regional society. In the 1st year, We read some books about global history, and research some regional society under globalization.

SOS200EB, SOS200EC, SOS200ED

演習 1

橋爪 絢子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザ中心設計に関する英語の文献を輪読し、関連文献を調べながら内容を理解します。また、関心のあるテーマの文献を調べ、その内容を要約して発表します。さらに、テーマごとに調査を計画し、実施しながら、調査研究の一連の流れを学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計における各活動を組織に適用する方法の理解
- (2) 文献を要約し、伝える技術の習得
- (3) 調査の計画から実施、分析までの流れの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020 年度の初回は、4/23(木) にオンラインで行います。

演習形式で行い、個人かグループでの発表と質疑で構成されます。ゲストの招聘を行うなど、授業計画を変更することがあります。

最初は、指定の英語の文献を輪読しますが、英語の意味を理解することが目的ではありません。書かれている内容について理解したうえで説明し、メンバー間で情報を共有します。文献調査も同様に、各自が調べた文献の内容を要約して発表し、メンバー間で情報を共有したり、議論を通じて意見の交換を行ったりします。さらに、関心のあるテーマごとに調査を計画して実施しながら、その状況を毎回報告し、最後に最終報告を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	方針の確認、自己紹介
2	文献①の輪読 1	文献輪読とその内容の発表、および質疑
3	文献①の輪読 2	文献輪読とその内容の発表、および質疑
4	文献①の輪読 3	文献輪読とその内容の発表、および質疑
5	文献①の輪読 4	文献輪読とその内容の発表、および質疑
6	文献①の輪読 5	文献輪読とその内容の発表、および質疑
7	文献②の輪読 1	文献輪読とその内容の発表、および質疑
8	文献②の輪読 2	文献輪読とその内容の発表、および質疑
9	文献②の輪読 3	文献輪読とその内容の発表、および質疑
10	文献②の輪読 4	文献輪読とその内容の発表、および質疑
11	文献②の輪読 5	文献輪読とその内容の発表、および質疑
12	文献調査 1	テーマを決めるための文献調査とその内容の発表、および質疑
13	文献調査 2	テーマを決めるための文献調査とその内容の発表、および質疑
14	秋学期に向けて	夏休み中の課題などを確認
15	ガイダンス 2	方針の確認
16	文献調査 3	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
17	文献調査 4	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
18	文献調査 5	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
19	調査の計画 1	テーマごとに調査計画の確認、質疑
20	調査の計画 2	テーマごとに調査計画の確認、質疑
21	調査の実施 1	調査の進捗報告、質疑
22	調査の実施 2	調査の進捗報告、質疑
23	調査の実施 3	調査の進捗報告、質疑
24	調査の分析 1	分析の進捗報告、質疑
25	調査の分析 2	分析の進捗報告、質疑
26	結果のまとめ 1	調査結果の発表と質疑
27	結果のまとめ 2	調査結果の発表と質疑
28	結果のまとめ 3	調査結果の発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初は、指定の英語の文献を輪読してもらいますが、内容を理解するためには、英語の辞書を引くだけでなく、ほかの文献も調べて、情報を補う必要があります。また、毎回、自身の活動の内容を伝えるための資料の準備が必要です。テーマの設定によって、学外での活動が必要になることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

課題への取り組みやグループへの貢献、メンバーへのコメント等を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を取り入れながら行っていきます。

【Outline and objectives】

We will deepen the understanding of the User Centered Design (UCD) by examining relevant documents. We will also search the documents on the theme that students are interested in and summarize the information to give a presentation on the contents. In addition, we will learn the sequence of research by planning and doing surveys on each theme.

HUM200EB, HUM200EC, HUM200ED

演習 1・2

濱中 春

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな媒体によって表現された風景や場所の意味を考察するとともに、表象文化の可能性を探ります。

【到達目標】

「風景」や「場所」にアプローチするさまざまな論点を理解する。表象分析の方法を実践を通して習得する。研究文献の要点を読みとり、考察をくわえることができる。自分でテーマを設定して研究を行い、その内容を論文の形式でアウトプットすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

風景論・表象文化論の文献講読と、風景や場所の表象の分析にもとづく研究（演習1・2）、あるいは風景や場所にかかわる文化現象やなんらかの表象文化を対象とした研究（演習2）を行います。演習1・2の合同ゼミとして開講し、春学期の文献講読は学年横断的なグループで、秋学期は2年生はグループ研究、3年生は個人研究を行い、ゼミでその内容について報告して議論します。

【変更】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月22日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	自己紹介、春学期の予定
2	グループワーク (1)	文献講読の準備
3	グループワーク (2)	文献講読の準備
4	文献講読 (1)	報告と議論
5	文献講読 (2)	報告と議論
6	研究テーマ	研究テーマの検討
7	文献講読 (3)	報告と議論
8	文献講読 (4)	報告と議論
9	文献講読 (5)	報告と議論
10	文献講読 (6)	報告と議論
11	文献講読 (7)	報告と議論
12	文献講読 (8)	報告と議論
13	研究計画 (1ゼミ)	グループ研究のテーマと方法
14	文献講読 (9)	報告と議論
15	イントロダクション (2)	秋学期の予定
16	中間報告 (2ゼミ) (1)	研究の構想
17	中間報告 (2ゼミ) (2)	研究の構想
18	中間報告 (1ゼミ) (1)	研究の内容と課題
19	中間報告 (1ゼミ) (2)	研究の内容と課題
20	中間報告 (2ゼミ) (3)	先行研究
21	中間報告 (1ゼミ) (3)	研究のタイトルと構成
22	中間報告 (1ゼミ) (4)	研究のタイトルと構成
23	中間報告 (2ゼミ) (4)	先行研究

24	中間報告 (1ゼミ) (5)	学部研究発表会の準備
25	中間報告 (2ゼミ) (5)	研究対象についての考察
26	中間報告 (2ゼミ) (6)	研究対象についての考察
27	中間報告 (2ゼミ) (7)	研究対象についての考察
28	論文の検討	コメントと再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告の担当者はレジュメを用意する。

文献講読では、担当グループは十分に準備をして臨む。また、それ以外の受講者もかならず文献を予習してくる。

グループ研究・個人研究を計画的に進め、論文を執筆する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献講読でとりあげる文献は、授業開始時に伝えます。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告のしかたと内容、議論への参加 50%

論文 50%

【学生の意見等からの気づき】

少人数のためアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to analyze the meaning of the representations of landscape and place and to investigate the potentials of culture and representation.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、社会的企業・NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを身につける。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを身につける。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①インタビュー方法の基礎
ゼミ合同で共通の研究テーマを設定し、質問票を作成する。
前期において、インタビューを実際に経験する。

②プレゼンテーションの基礎

PowerPoint を使ってプレゼンテーションを行う。
学部主催の「ゼミ研究発表会」で、インタビュー結果を報告する。

③論文執筆の基礎

ゼミ論（10,000 字）を執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	論文とは何か	論文の構造
3	インタビュー準備①	調査方法のタイプ
4	インタビュー準備②	資料収集・文献講読
5	インタビュー準備③	資料収集・文献講読
6	インタビュー準備④	資料収集・文献講読
7	インタビュー準備⑤	テーマの設定
8	インタビュー準備⑥	質問票の作成
9	インタビュー準備⑦	質問票の作成
10	インタビュー準備⑧	質問票の作成
11	インタビュー準備⑨	質問票の作成
12	インタビュー準備⑩	インタビューのやり方
13	インタビュー	インタビューの実施
14	インタビュー反省	振り返り
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	プレゼンテーション準備	PowerPoint の作り方
17	インタビューの分析①	テーマの設定
18	インタビューの分析②	指標の設定
19	インタビューの分析③	結果の評価
20	インタビュー結果の報告会①	PowerPoint によるプレゼン
21	インタビュー結果の報告会②	PowerPoint によるプレゼン
22	研究発表会準備①	PowerPoint 作成
23	研究発表会準備②	PowerPoint 作成
24	論文準備	論文の書き方
25	ゼミ論の合評会①	ゼミ論の構想発表
26	ゼミ論の合評会②	ゼミ論の構想発表

27 ゼミ論の合評会③ ゼミ論の構想発表
28 まとめ 進捗状況の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①ゼミ論の執筆（10,000 字）
- ②本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①ゼミ論文（70 %）
- ②プレゼンテーション（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

First-year seminar

FRI200EB, FRI200EC, FRI200ED

演習 1

藤田 真文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は4月22日（水）5限からオンライン授業を開始します。春学期は、『ギフト』（1997年放送）というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、社会的との関わりなど多様な観点からテレビ・テキストの分析を学びます。秋学期は、脚本の書き方、撮影・編集などを学び、ショート・ムービーを制作します。

【到達目標】

テレビドラマを対象にしてマス・メディアのテキスト分析を実践する。さらにその知識をもとにショート・ムービーを制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①レポーターによるテキストの報告 ②テキストの類似事例の分析を繰り返し、テキスト分析とテキスト制作の方法を理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	『ギフト』第1話を見る	テキスト分析
第2回	物語の進行	テキスト分析
第3回	物語の時間	テキスト分析
第4回	登場人物	テキスト分析
第5回	映像表現	テキスト分析
第6回	夏合宿に向けて	テキスト分析
第7回	物語と精神分析	テキスト分析
第8回	物語とジェンダー	テキスト分析
第9回	相互テキスト性	テキスト分析
第10回	現実性	テキスト分析
第11回	視聴者の読解	テキスト分析
第12回	読者論	テキスト分析
第13回	作家論	テキスト分析
第14回	グループ・テーマ発表	テキスト分析
第15回	脚本とは	脚本制作
第16回	ストーリーの発想	脚本制作
第17回	プロットの発想	脚本制作

第18回	脚本の執筆ルール	脚本制作
第19回	映像表現	映像制作
第20回	制作班の構成	映像制作
第21回	グループ・ストーリー報告	映像制作
第22回	撮影の基本	映像制作
第23回	撮影の応用①	映像制作
第24回	撮影の応用②	映像制作
第25回	音声の録音	映像制作
第26回	編集の基本	映像制作
第27回	編集の応用	映像制作
第28回	撮影の準備	映像制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 授業のシラバスを熟読する
第2回～14回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第15回～27回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第28回 撮影に向けたグループ活動の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田真文『ギフト、再配達 テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年、2415円

【参考書】

各回の授業で紹介する

【成績評価の方法と基準】

①レポーター報告（評価の40%）授業で取りあげた事項の理解力を評価する。
②グループ作業への貢献（評価の40%）授業で取りあげた概念を活用できる力を評価する。
③平常点（評価の20%）ゼミ内での発言を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送番組の分析や制作のアクティブラーニング、フィールドワークにおいてアドバイスを与えている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of story analysis and making.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

別府 三奈子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ジャーナリズム史：ポートレート」研究のゼミです。演習1では、人権侵害の現場や生命の尊厳、時代の空気感などを、無名の人びとの姿を通して伝えてきた写真記録の歩みを観察し、社会的記録の存在意義を学びます。研究目的は「不可視化への挑戦」です。

【到達目標】

- ①情報社会の偏向や封印の構造的特性を知る。
- ②公的記録によって問題解決が促されてきた歴史を知る。
- ③ジャーナリズムの優劣について、自ら判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主に、世界的なジャーナリズム賞であるピューリッツアー賞受賞写真と、国際報道写真家集団マグナムの写真について、観察と討議を重ねていきます。社会的問題の不可視化が起こるしくみと、不可視化の壁をこえようとした人びとの挑戦、映像化の功罪について、学生同士の意見交換を踏まえ、考えを深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の研究計画	テキストと映像資料の説明
第2回	記者の立ち位置	『戦場のフォトグラファー』の観察
第3回	ジャーナリズムの役割	『マグナムフォト』の観察
第4回	指定テキスト解題	ピューリッツアー賞とマグナムフォト
第5回	第一期の観察：権力装置として起動する写真	煽られた戦争に仕留められる人々
第6回	1940年代	情報操作に命がけで抗う記録者たち
第7回	1950年代	事故も争議も引退もこんなに困難だ
第8回	第二期の観察：代理戦争い巻き込まれる人々	特集写真によって深い想いを物語る
第9回	1960年代前半	テレビ映像の速報を写真が固定する
第10回	1960年代後半	冷戦前線のアジア。同じ民族なのに
第11回	第三期の観察：東西分断、個人の繁栄と困窮	高い壁の双方で暮らす人を繋ぎたい
第12回	1970年代前半	生も死も累々と。どうして？
第13回	1970年代後半	身近な生活に宿る精神世界を描く
第14回	写真記録の意義	撮る側・撮られる側の願い
第15回	秋学期の研究計画	可視化への挑戦
第16回	第四期の観察：南北の分断と格差・差別・暴力	消費の陰で搾取される人々がいる
第17回	1980年代	ホームレスも赤ちゃんも、生きたい
第18回	1990年代	中国。ドイツ。分断に立ち向かう顔
第19回	第五期の観察：デジタル革命の功罪	飢餓と暴力に沈む大地。助けての瞳
第20回	2000年代～	ハイチ、ビルマ、アフリカ、どこも
第21回	2010年代～	リアルを再定義し原点から立て直す
第22回	今日の不可視化	新聞データベース調査
第23回	事例の発表（1）	行くべき現場
第24回	事例の発表（2）	聞くべき人
第25回	事例の発表（3）	聞き取りの準備
第26回	障壁を超える試み（1）	聞き取りの実施
第27回	障壁を超える試み（2）	聞き取り後の作業
第28回	障壁を超える試み（3）	記録する、ということ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像資料の視聴と日々のニュース観察を積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ピューリッツアー賞受賞写真全記録 第2版』ビュエル・ハル著、日経ナショナル・ジオグラフィック社、2015年
『smile & smile 100のほほえみ』マグナムフォト東京支社、クレオ、2001年

【参考書】

『マグナムマグナム・コンパクトバージョン（完全日本語版）』マグナムフォト著、青幻舎、2009年
『ハーフ・ザ・スカイ 彼女たちが世界の希望に変わるまで』ニコラスD. クリストフ他著、英知出版、2010年

【成績評価の方法と基準】

春学期の討議 30%、夏休みのフォト・ポートレート制作 30%、秋学期の報告レポート 40%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を見ながら、必要に応じて進み具合を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

社会問題の解決に向けた社会情報の在り方、人と社会の関係性に関心ある人、歴史や映像が好きな人を歓迎します。専門基礎から積み上げていくので、所属学科は問いません。リテラシーが上がってくると、そこに居ながら見えていなかった人の姿が見えるようになってきます。演習2の後半から演習3では、なぜ見えないのか、どうすれば見えるのかを、各自の関心に合わせて、さらに探究していきます。今年度は、ゼミのやり方を共同研究から個人研究に変更した最初の年なので、演習1・2は合同で行います。

【Outline and objectives】

This is a seminar on "History of Journalism: Portrait" research. In Exercise 1, you will observe the history of photographic records that have passed through unknown people to the scene of human rights violations and the dignity of life, and learn the significance of social records. The research purpose is "Challenge for invisibility."

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市問題・都市環境問題・まちづくりの社会学

【到達目標】

論理的に思考し、それを明晰に表現できるようになることを目指す。端的に言うなら、方法を獲得する、ということ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文へ向けての系統的指導の第一段階として、このゼミでは（1）文献の読破、（2）各自のフィールドワーク、（3）ゼミ論文の執筆、を行います。基礎的な文献を読破する過程で、物事を深く考え、分析する「方法」を身に付けていくことが目指されます。文献は、環境社会学や都市社会学にとどまらず、良質な社会学的専門書（いわゆる「古典」）も含め、良質かつ興味深いものを選んで講読します。年度の最後には、1 年間の勉学のまとめとして、「1 ゼミ修了論文」を仕上げます。授業開始は 4 月 24 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ入門	ゼミおよび学習方法についての説明
2	入門文献講読 (1)	社会学の入門的文献講読 (1)
3	入門文献講読 (2)	社会学の入門的文献講読 (2)
4	入門文献講読 (3)	社会学の入門的文献講読 (3)
5	入門文献講読 (4)	社会学の入門的文献講読 (4)
6	入門文献講読 (5)	社会学の入門的文献講読 (5)
7	入門文献講読 (6)	社会学の入門的文献講読 (6)
8	入門文献講読 (7)	社会学の入門的文献講読 (7)
9	入門文献講読 (8)	社会学の入門的文献講読 (8)
10	入門文献講読 (9)	社会学の入門的文献講読 (9)
11	各自のテーマ報告 (1)	1 ゼミ修了論文構想報告 (1)
12	各自のテーマ報告 (2)	1 ゼミ修了論文構想報告 (2)
13	各自のテーマ報告 (3)	1 ゼミ修了論文構想報告 (3)
14	春学期のまとめ	春学期の総括討論
15	基礎文献の講読 (1)	古典の講読 (1)
16	基礎文献の講読 (2)	古典の講読 (2)
17	基礎文献の講読 (3)	古典の講読 (3)
18	基礎文献の講読 (4)	古典の講読 (4)
19	基礎文献の講読 (5)	古典の講読 (5)
20	基礎文献の講読 (6)	古典の講読 (6)
21	専門的文献の講読 (1)	専門文献の講読 (1)
22	専門的文献の講読 (2)	専門文献の講読 (2)
23	専門的文献の講読 (3)	専門文献の講読 (3)
24	専門的文献の講読 (4)	専門文献の講読 (4)
25	各自のテーマ報告 (1)	論文内容報告 (1)
26	各自のテーマ報告 (2)	論文内容報告 (2)
27	各自のテーマ報告 (3)	論文内容報告 (3)
28	全体のまとめ	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サブゼミ本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

論文 (50%) および議論への貢献度 (50%) で評価します。論理的かつ首尾一貫してテーマについて論じているかが、評価のポイントになります。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの運営方法などについて、適宜、話し合いを持つ

【その他の重要事項】

正規の時間以外に週 1 回実施するサブゼミに参加できること

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing and the fundamentals of academic research to students taking this seminar. It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better term paper.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは、「グローバルゼミを考える」です。

現代のグローバル経済の現状について、社会科学に基づく分析を行い、一人ひとりが自分の見解を持てるようにすることです。

【到達目標】

ゼミの目標は、社会科学、特に経済学の知識を学びながら、以下の 3 つにまとめられる。

- ①現代のグローバル世界について、ゼミ参加者が基本的な認識を持つことができるようになること。
- ②グローバル世界の功罪をきちんと把握したうえで、時代に流されるのではなく、自分の見解を持って将来を考えていけるような力量を身につけ、自分の意見を論理的に発表できるようになること。
- ③ゼミでの学びを通じて、ゼミ生同士また先輩や後輩との豊かな人間関係を形成すること。そして、それぞれが卒業後の進路をしっかりと歩んでいけるような力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

以下、1 月時点でのシラバスの記載ですが、コロナウイルスの感染拡大の状況から、相当程度の変更が想定されます。状況を踏まえ、変更については、学習支援システム上で指示しますので、そちらを必ず毎週見るようにしてください。

授業は、4 月 21 日からスタートします。

ゼミは、I ゼミ、II ゼミを合同で行います。I ゼミの時は、基本的な文献を読んだり、映像や資料等に基づいて討論をしたりして、グローバルゼミについての基本的事項の勉強をします。通常は、ゼミ室での勉強になりますが、大学の外に出て学ぶことも重視しています。

夏休みには、現場を見ることを中心にするゼミ合宿をします。昨年は、ベトナム、一昨年はタイに行きました。ベトナムでは、ホーチミン市内の博物館、元大統領官邸、植民地時代の建物等を見学し、ベトナム戦争を詳しく知るために、クチトンネルでの体験を行いました。また、彼は財の問題を学ぶため、ツーズー病院と平和村を訪問し、枯葉剤の被害を受けた子供たちとの懇親を行いました。

現代の日ベトナム関係を学ぶという観点で、ベトナムで最初の自由貿易区にある日本企業のグンゼで工場見学を行い、花王のベトナム工場、ミツバの工場見学も行いました。現地で働く法政 OBOG と合同で懇親会も開催し、ベトナムで働くということについてたくさんのお話をしてもらいました。日本とのかわりや日本企業の発展途上国戦略の実際を現地で学んできました。

1 月時点で、シラバスには、「今年度も海外でゼミ合宿を行うことになるので、4 月の教員ガイダンスには必ず出席してください。」と記しましたが、コロナウイルスの感染拡大の状況から、夏休みには、今年度は海外でのゼミ合宿を行えないつもりです。他の次期を考えるか、別の手段を考えます。

また、ゼミでは、毎年、立教大学や神戸外国語大学の学生たちと合同での研究発表会（合同ゼミ）を行っています。1 2 月にテーマを決めてディベート形式やプレゼン形式で研究発表を行い、ディスカッションをするというものです。秋学期はこの準備のために、グループごとのサブゼミが多くなります。今年度は神戸で開催する予定です。こちらは今のところ変更はありません。ゼミ合宿や工場見学（昨年は、クノールの食品工場、サントリー武蔵野工場、他）、施設見学など、通常のゼミ以外も原則として全員参加での行事があります。（やむを得ない事情で欠席するときには、教員の許可を求めると。）

ゼミでは、人前で論理的に話すことができるようにするため、2 分間スピーチ、頭の体操、ミニ発表会などを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと自己紹介
2	テキストの輪読①	レジメの書き方など
3	テキストの輪読②	テキスト 1 章の輪読
4	テキストの輪読③	テキスト 2 章
5	グループ別学習①	テーマ別、グループ別学習
6	グループ学習②	テーマ別、グループ別学習
7	グループ学習③	テーマ別、グループ別学習
8	テキストの輪読④	テキスト 4 章
9	テキストの輪読⑤	テキスト（ゼミ生と相談して決める）
10	テキストの輪読⑥	テキスト（ゼミ生と相談して決める）
11	夏合宿向け学習①	海外で行うフィールドワークに関する基礎的な文献の購読

12	夏合宿向け学習②	海外で行うフィールドワークに関する基礎的な文献の購読
13	夏合宿向け学習③	海外で行うフィールドワークに向けた課題別のグループ学習
14	夏合宿向け学習④	海外で行うフィールドワークに向けた課題別のグループ学習
15	夏合宿の振り返り、まとめ	まとめと秋学期の打ち合わせ
16	合同ゼミのための文献講読①	基礎文献の輪読
17	文献の講読②	基礎文献の輪読
18	文献の講読③	基礎文献の輪読
19	文献の講読④	基礎文献の輪読
20	文献の輪読⑤	基礎文献の輪読
21	合同ゼミに向けた中間発表④	合同ゼミに向けた中間発表
22	発表の論点整理と検討	発表グループの論点整理と検討
23	発表の論点整理と検討	発表グループの論点整理と検討
24	模擬発表会	合同ゼミの模擬発表会
25	合同ゼミの準備	合同ゼミの準備
26	合同ゼミの準備	合同ゼミの準備
27	合同ゼミの反省会	合同ゼミについての反省会、など。
28	まとめ	1年間の学習のまとめと春休み、新学期の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの内容は、1ゼミの時にマスターすることが目標なので、繰り返しよく読んでおくこと。授業では取り上げない章は各自で読んで、理解すること。わからない点などは教員に質問して、理解できないところを博すようにしてください。

前期は、毎週宿題が出ます。週週のゼミのときに提出してください。最低でも予習1時間、復習2時間はかかります。

また、12月には、合同ゼミ発表会（共通のテーマを決めてディベートする。）を行うので、秋学期はサブゼミが多くなります。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『21世紀、大転換期の国際社会』羽場久美子編、法律文化社、2019年。

『21世紀国際社会への招待』羽場久美子・増田正人編、有斐閣、2002年、は絶版になっているので、必要箇所はコピーして使います。古本で購入してもらえると助かります。

その他は、適宜、指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表の頻度、内容、ゼミ討論への参加度、ゼミのまとめ等の提出物で総合的に平常点（100%）として評価します。オンラインで行う間は、参加度と提出物で評価しますが、具体的には授業支援システム内で説明します。

ゼミは、3回以上無断で欠席すると、単位が得られません。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

合同ゼミはPCを使い、パワーポイントで発表するので、それに習熟することが大事です。マルチメディア室を利用するときなどは、教室変更の指示をしますので、掲示板等に注意すること。

【その他の重要事項】

ゼミは、通常の時間帯以外に、新歓合宿、夏合宿、ディベート大会直前合宿、卒論発表会など、ゼミ単位の行事があり、それらへの参加は必要です。やむを得ない事情で参加できない場合は、事前に教員に説明し、欠席の許可を得ること。

【Outline and objectives】

The theme of my seminar is to think about globalization.
The purpose of my seminar is to analyze the global economy based on social science, so that each person can have their own views.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献講読（輪読）及びディスカッション（グループディスカッション・プレインストーミング等）を通じて、消費者行動と、その基となる心理過程の理解を深めることを目標とする。さらにこうした理論に基づいた効果的な広告手法やマーケティング手法について討議する。

【到達目標】

消費者行動の基本的理解とディスカッション技術の修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミでは毎時間文献の発表係と、特定のテーマに関する議論を提起する係を順番に担当する。授業は発表者が準備したレジュメに基づいて行われるが、発表者だけでなく参加者全員の積極的な発言が求められる。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読と討議 1	消費者行動とマーケティング①
3.	文献講読と討議 2	消費者行動とマーケティング②
4.	文献講読と討議 3	消費者行動の心理モデル
5.	文献講読と討議 4	購買意思決定過程
6.	文献講読と討議 5	消費者の情報探索
7.	文献講読と討議 6	購買後の諸過程
8.	文献講読と討議 7	消費者の知覚
9.	文献講読と討議 8	消費者の記憶
10.	文献講読と討議 9	消費者の学習
11.	文献講読と討議 10	消費者の感情
12.	文献講読と討議 11	消費者の態度形成
13.	文献講読と討議 12	消費者の個人特性
14.	文献講読と討議 13	消費者の状況要因
15.	輪読・グループ研究 1	ブランドコミュニケーション①
16.	輪読・グループ研究 2	ブランドコミュニケーション②
17.	輪読・グループ研究 3	ブランドコミュニケーション③
18.	輪読・グループ研究 4	広告効果モデル①
19.	輪読・グループ研究 5	広告効果モデル②
20.	中間発表①	グループ研究の中間発表
21.	輪読・グループ研究 6	広告媒体の効果モデル①
22.	輪読・グループ研究 7	広告媒体の効果モデル②
23.	輪読・グループ研究 8	心理効果と広告戦略①
24.	輪読・グループ研究 9	心理効果と広告戦略②
25.	中間発表②	グループ研究の中間発表、討議
26.	輪読・グループ研究 10	心理効果とマーケティング戦略①
27.	輪読・グループ研究 11	心理効果とマーケティング戦略②
28.	輪読・グループ研究 12	成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通学中の電車の中をはじめ、身の回りに溢れている広告活動やマーケティング活動を見て、その背後にある意図や理論を探索する習慣をつけることが望ましい。また、常に新しい社会情勢をチェックし、新しい視点を議論に取り入れられるように努力することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本徹雄編著『消費者理解のための心理学』（福村出版）

仁科貞文 他著『広告心理』（電通）

その他適宜授業内で指定する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメ 50%

討議への参加姿勢 50%

で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline and objectives】

To obtain the basic knowledge and have group discussions about consumer behavior.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブランド広告の分析および企画の理論と方法を実例により身につけ、効果的なブランド・コミュニケーションのやり方を学ぶ。その上で自分自身のブランディングに応用をしていくことを目指す。

【到達目標】

単なるブランド広告の分析に止まらずブランド・コミュニケーションを効果的に実践するレベルまで到達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自分自身のブランド分析と構築を実現する方法論を身につける。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

授業開始日は4月27日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明。
第2回	ブランド広告企画に関する基本知識	ブランド広告企画立案に関する基本知識
第3回	ブランド広告企画事例の設定	ブランド広告企画事例を設定する
第4回	ブランド広告事例分析方法の習得(1)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第5回	ブランド広告事例分析方法の習得(2)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第6回	ブランド広告事例分析方法の習得(3)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第7回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(1)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第8回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(2)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第9回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(3)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第10回	具体的な施策案、表現案立案についてのオリエンテーション	自己ブランディング広告企画の立案
第11回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(1)	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション
第12回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(2)	自己ブランディング広告の決定
第13回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(3)	グループ研究のテーマ設定
第14回	ブランド広告企画の選定	複数のアイデアからブランド広告企画を選定する
第15回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第16回	自己ブランディングとは何か	自己ブランディングについてのグループ討議
第17回	自己ブランディング広告企画の基礎知識	自己ブランディング広告企画の基礎知識の習得
第18回	自己ブランディング広告企画の立案(1)	自己ブランディング広告企画の立案
第19回	自己ブランディング広告企画の立案(2)	自己ブランディング広告企画の立案

第 20 回	自己ブランディング広告企画の立案 (3)	自己ブランディング広告企画の立案
第 21 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (1)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 22 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (2)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 23 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (3)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 24 回	自己ブランディング広告の決定	自己ブランディング広告についての講評
第 25 回	グループ研究オリエンテーション	グループ研究のテーマ設定
第 26 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (1)	研究結果プレゼンとディスカッション
第 27 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (2)	研究結果プレゼンとディスカッション
第 28 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (3)	研究結果プレゼンとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ブランド広告に関する知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別面談は事前にメールで連絡した上で個別調整する。

【Outline and objectives】

Here we will first study the theory and method of analyzing and planning brand advertisement for effective brand communication through case studies. Then we will try to apply this to our own branding.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の農業・食糧・環境・エネルギー問題の実態解明を主なテーマとします。

【到達目標】

演習参加者全員が、実際に今日本と世界各国、各地域で施行されている環境・エネルギー政策の実状と有効性や問題点、政策転換への課題などについて、社会の動向と関連させながら明らかにすることによって、社会学的な調査方法と思考方法にもとづく政策批判・政策提言能力を習得することが最終的な到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者の人数にもよる（最大 25 人）が、原則として 1 回に一人、自分が関心を持つ環境・エネルギー政策について報告し（30 分）、それを受けて討論者がコメントと質問を行って全体の議論を方向づけ（10 分）、それにもとづいて司会者の進行によって全員で討論し（30 分）、教員のコメントを受けてその回の報告の結論と報告者の今後の課題を確認する（20 分）、というのが 1 回の演習の流れです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	演習参加者全員の自己紹介、演習の進め方等の相談
2	役割分担、年間計画	ゼミ長その他の恒常的運営上の役割分担の決定、各回の報告者、討論者、司会者の決定
3	第 1 回演習	報告と討論
4	第 2 回演習	報告と討論
5	第 3 回演習	報告と討論
6	第 4 回演習	報告と討論
7	第 5 回演習	報告と討論
8	第 6 回演習	報告と討論
9	第 7 回演習	報告と討論
10	第 8 回演習	報告と討論
11	第 9 回演習	報告と討論
12	第 10 回演習	報告と討論
13	第 11 回演習	報告と討論
14	春学期の演習の成果確認、演習運営方法の反省、夏季ゼミ合宿の計画	全員で議論
15	秋学期の改善点等確認、秋学期の役割分担、報告者等のスケジュール再調整	全員で議論
16	第 13 回演習	報告と討論
17	第 14 回演習	報告と討論
18	第 15 回演習	報告と討論
19	第 16 回演習	報告と討論
20	第 17 回演習	報告と討論
21	第 18 回演習	報告と討論
22	第 19 回演習	報告と討論
23	第 20 回演習	報告と討論
24	第 21 回演習	報告と討論
25	第 22 回演習	報告と討論
26	第 23 回演習	報告と討論
27	第 24 回演習	報告と討論
28	年間総括、次年度の計画、卒業論文（演習 3）に向けて、各自の研究テーマに関する小論文の提出指示	全員で議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告の準備（文献・資料の収集と分析、調査活動の実施）とそれにもとづく報告資料（レジュメ等）の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の課題に応じて指示します。

【参考書】

各自の課題に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告の内容（50%）、司会者としての議論の進行の仕方および討論への参加度（50%）等によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特筆事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてプロジェクターなど。

【その他の重要事項】

演習中はスマホとの「対話？」は厳禁します。

【Outline and objectives】

The main theme of this seminar is to discuss on the realities of agriculture, food, environment, and energy problems in contemporary Japan and the world.

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習 2

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作活動を通してのメディアリテラシーとコミュニケーション能力のさらなる向上と、現代メディア事情に関する実践的理解を目指します。

【到達目標】

1ゼミでは「映像が好き」を「映像を作る」に高めました。さらに、たんなる自己満足ではなく、他人や社会からの評価に耐えうる映像制作を目指します。

その延長線上に、自らのスキルを武器とした「就職活動」を明確にゼミ活動に組み込み、「自分探し」と「社会＝時代のニーズの分析」をおこないます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像制作活動と基礎文献のレジュメ発表／議論を軸に、テレビ局やメーカーなどとの連携をはかった実践的プログラムにも取り組みます。なお、前期は「法政大学後援会ビデオ」制作を遂行します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	稲増ゼミプロモ制作会議	ゼミプロモ試写と最終チェック
2	ガイダンス	年間スケジュールの確認
3	MY JAPAN 企画会議	オリエンテーション
4	MY JAPAN ビデオ制作	NY JAPAN ビデオの取材・撮影作業
5	MY JAPAN ビデオ制作	MY JAPAN ビデオの取材・撮影作業
6	MY JAPAN の中間報告	MY JAPAN ビデオ編集作業
7	ゼミ実践プロジェクト 企画会議- 1	稲増ゼミの成果を広く内外に公表し、可能なら社会実践に展開できる可能性を検討
8	ゼミ実践プロジェクト 企画会議- 2	ゼミサイトの有効活用ならびに映像ビジネスモデルの研究
9	ゼミ実践プロジェクト 企画会議- 3	ゼミサイトの有効活用ならびに映像ビジネスモデルの研究
10	ゼミ実践プロジェクト 企画会議- 4	OBを招いてのプレゼンとゼミ実践活動のフィージビリティの検討
11	MY JAPAN ビデオ上映会	後援会ビデオ上映とチェック
12	MY JAPAN 最終上映会	MY JAPAN ビデオ完成版の上映
13	進路個人面談- 1	進路希望に関する個人面談
14	進路個人面談- 2	希望進路に関する個人面談
15	1ゼミ夏課題の評価	1ゼミ夏課題作品の上映と評価
16	1ゼミ夏課題評価	1ゼミ夏課題作品の上映・評価
17	「ゼミ物語」企画会議	「ゼミ物語 2020」の概略と企画内容の決定
18	「ゼミ物語」制作	「ゼミ物語 2020」撮影
19	「ゼミ物語」制作	「ゼミ物語 2020」撮影
20	「ゼミ物語」制作	「ゼミ物語 2020」編集
21	「ゼミ物語 2020」上映	「ゼミ物語 2020」の上映会
22	就活ガイダンス講座	就活の概要と準備のオリエンテーション

23	業界研究講座- 1	ゼミOB講師によるメディア系企業の解説
24	業界研究講座- 2	ゼミOB講師によるIT系、一般企業の解説
25	自己分析講座	各自の自己分析を深める
26	面接講座	ゼミ生同士の相互模擬面接
27	3ゼミ生との合同ゼミ	3ゼミ生の就活報告&アドバイス
28	就活進路面談	進路に関する直前個人面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

稲増龍夫『就活は最強の教育プログラムである』（中央公論新社）

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、プロジェクトへの貢献（30%）、映像制作課題（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習につき実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

高度な映像編集ソフトをインストールしたノートパソコン（Macbook Pro など）を個人的に所持していることが望ましい

【その他の重要事項】

外部コンテストへの出品を推奨しています。今までのゼミ生は、法政大学デジタルコンテンツコンテスト動画部門で、グランプリ/優秀賞/佳作/入選の各賞を50名以上が受賞しました。また2014年度から、海外に日本を宣伝する「My Japan Award」にも積極的に参加し、2014年度から2017年度にかけて4回の審査員賞を受賞しています。

【Outline and objectives】

Practical Study of Media Literacy by Video Production

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習2

宇野 齊

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別のテーマごとに研究発表をします。年度末に論文としてまとめます。

【到達目標】

論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末には各自の研究内容を論文としてまとめます。自己の研究のみならず、メンバーの研究への理解とコメントも必須です。他大学との共同研究発表や、そのための学外調査を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	個別研究テーマ候補案と進行計画を学生と教員で確認します。
02	今後の目標・テーマ発表	各自決定した研究テーマを発表し、研究の方向を確認します。
03	発表、質疑、議論(01)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論(02)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論(03)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論(04)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論(05)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論(06)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論(07)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論(08)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論(09)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論(10)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論(11)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
14	春学期のまとめと秋学期への課題の確認	秋学期への夏休み中の課題を確認します。
15	個別成果と今後への確認	夏休み中の成果と研究の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論(12)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論(13)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論(14)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論(15)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論(16)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論(17)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論(18)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論(19)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論(20)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論(21)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
26	発表、質疑、議論(22)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	論文の整備(01)	個人研究論文の形式を整備します。

28 論文の整備 (02) 個人研究論文の形式を整備します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布します。発表後週週に、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布します。

合同ゼミ合宿や研究発表大会に向けてグループミーティングまたは個人での作業時間、場合によっては実地調査が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

個別に適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

演習 1 を履修していることが前提です。演習 1 に引き続いての履修が望ましいです。

年度末に成果を個別に論文としてまとめます。

授業計画は、受講者の状況と進行の状況によって、若干の変更があります。

【Outline and objectives】

Participants make research presentations sequentially. Participants create thesis at the end.

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

演習 2

遠藤 聡

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題をテーマとし、アジア（東アジア、東南アジア、南アジア）の社会、経済、政治、文化などの諸問題を議論することを目的としています。

【到達目標】

演習 2 は、2 年次のゼミでの議論の中で得た知識と「自分のテーマ」を中心として、文献報告や議論を進めていく中で、アジアに関する見方を深めていくことを目標とします。また上級生としてゼミの 2 年生の指導も含めて、ゼミの運営を主体的に進めていくことも課題となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、レジュメの書き方や時事問題を学んだ上で、テキストを中心に報告と議論を進めます。秋学期はテーマを設定してグループ報告と議論、また各自のゼミ論文の報告と執筆も行います。またアジアに関するテーマで春学期・秋学期にディベートも行います。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの説明とテキストの検討
第 2 回	時事問題プレゼン (1)	アジアの時事問題について
第 3 回	時事問題プレゼン (2)	新聞記事からトピックを選択
第 4 回	時事問題プレゼン (3)	レジュメ準備し、報告と議論
第 5 回	テキスト報告と議論	テキストの序章・第 1 章
第 6 回	テキスト報告と議論	テキストの第 2 章と第 3 章
第 7 回	テキスト報告と議論	テキストの第 4 章と第 5 章
第 8 回	テキスト報告と議論	テキストの第 6 章と第 7 章
第 9 回	テキスト報告と議論	テキストの第 8 章と第 9 章
第 10 回	テキスト報告と議論	テキストの第 10 章と第 11 章
第 11 回	テキスト報告と議論	テキストの第 12 章と第 13 章
第 12 回	テキスト報告と議論	テキストの第 14 章と第 15 章
第 13 回	ディベート (1)	学生が選んだテーマでディベート
第 14 回	ディベート (2)	夏合宿について 秋学期の報告や課題について
第 15 回	テキスト報告と議論	テキストの第 16 章と第 17 章
第 16 回	テキスト報告と議論	テキストの第 18 章と第 19 章
第 17 回	テキスト報告と議論	テキストの第 20 章と第 21 章
第 18 回	テキスト報告と議論	テキスト全体について論点・議論
第 19 回	テキスト全体の議論	テキスト全体についてレポート提出と論点・議論
第 20 回	ゼミ論文の報告 (1)	各自、研究テーマを決める
第 21 回	ゼミ論文の報告 (2)	各自、レジュメを用意して報告
第 22 回	ゼミ論文の報告 (3)	それぞれの報告について議論
第 23 回	ゼミ論文の報告 (4)	全体の議論
第 24 回	ゼミ論文の報告 (5)	報告と議論
第 25 回	ディベート (1)	ゼミ生のテーマでディベート
第 26 回	ディベート (2)	ゼミ生のテーマでディベート
第 27 回	ディベート (3)	残りのゼミ生は審査
第 28 回	ゼミの 1 年間の振り返り とゼミ論文の提出	ゼミの 1 年間の振り返りとゼミ論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考資料、レジュメ準備など勉強が必要です。とくに報告やディベートは、個別の勉強に加えて、グループでの作業が求められます。またゼミ論文の執筆もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、アジアについて学べる本を候補とし、議論して決めます。

【参考書】

参考書は、必要に応じて適時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の基準は、①ゼミの報告準備および参加や発言・議論参加（70%）、②ゼミ論文（30%）などから総合的に評価します。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミにおける学生の自主的な運営と積極的な議論参加に期待しています。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of third-year students. This course is to study analyzing Asian social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the final term-paper.

HUI300EB, HUI300EC, HUI300ED

演習2

小川 有希子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像と、その物語および環境に、認知科学の立場からアプローチする。特に映画を中心に扱うが、それ以外のジャンルの映像も取り上げる。

【到達目標】

映像を、データや制作、プログラミングなどもふまえ、認知科学的観点から分析し、それを論文としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習2では、映画・音楽ビデオ・広告・ヴィデオアートなど様々な映像に実際に数多く接するだけでなく、その映像に関する認知科学的調査やシミュレーションを様々に行う。また、映像と物語、認知に関する文献の講読および議論を行う。実験素材としての映像制作やプログラミングも、必要に応じて行う。

多様なジャンルの映像を扱うので、映像の歴史や現在までのあらゆる映像に対する好奇心が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの内容について
第2回	認知科学的調査とは	認知科学的調査の解説
第3回	調査練習	映像認知の調査実習
第4回	調査練習2	調査実習結果
第5回	研究計画発表1	個人発表
第6回	研究計画発表2	個人発表
第7回	研究計画発表3	個人発表
第8回	研究計画発表4	個人発表
第9回	映像上映 学外	学外での映像認知体験
第10回	映像認知の議論	映像認知体験について
第11回	映像データ発表1	映像とデータの発表
第12回	映像データ発表2	映像とデータの発表
第13回	映像データ発表3	映像とデータの発表
第14回	映像データ発表4	映像とデータの発表
第15回	夏合宿の復習	夏合宿などの総括・議論
第16回	秋学期の計画	秋学期の計画に関する議論
第17回	研究経過発表1	個人発表
第18回	研究経過発表2	個人発表
第19回	研究経過発表3	個人発表
第20回	研究経過発表4	個人発表
第21回	研究経過発表5	個人発表
第22回	映像上映 祭	映画祭など
第23回	映像と環境について	映像環境に関する議論
第24回	研究成果発表1	研究成果の議論
第25回	研究成果発表2	研究成果の議論
第26回	研究成果発表3	研究成果の議論
第27回	研究成果発表4	研究成果の議論
第28回	ゼミ論文を基にした議論	ゼミ論文提出と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人研究を進めておくこと。また、サブゼミ課題を指定した場合は、成果をグループでまとめてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論文（50%）と、通常のゼミでの発表および議論・課題内容（50%）などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像に関する調査・実験法を、より細かく議論していきたい。

【その他の重要事項】

必ず、毎回出席すること。

【Outline and objectives】

This seminar deals with the film and image theory, narratology and cognitive science.

SOW300EB, SOW300EC, SOW300ED

演習 2

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 2 では、文献の購読の他、インタビュー調査等も視野に入れ、グループ別・個人別の研究を随時遂行することを通して、ジェンダーや福祉に関連して各自が立てた問いをさらに追求していく。

【到達目標】

演習 1 での学びを踏まえつつ、自らの問いをさらに深く追求し、演習 3（卒業論文）に向けた下準備まで行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、文献の講読と、グループごとに調査・研究発表を行うグループワークが中心となる。

秋学期は、文献の講読と、個人別の調査・研究発表を中心に行う。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※ 4/30 に初回授業を行います。詳細は、学習支援システムのお知らせ欄を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（春学期）	イントロダクション（春学期）
第 2 回	個人研究の構想発表	個人研究の構想発表
第 3 回	文献の選定	課題文献の選定・担当決定
第 4 回	課題文献の検討①	文献の講読、レジюме作成、議論
第 5 回	課題文献の検討②	文献の講読、レジюме作成、議論
第 6 回	課題文献の検討③	文献の講読、レジюме作成、議論
第 7 回	課題文献の検討④	文献の講読、レジюме作成、議論
第 8 回	課題文献の検討⑤	文献の講読、レジюме作成、議論
第 9 回	グループ別研究テーマの選定	グループ分け、研究テーマの選定
第 10 回	グループワーク①	グループ別研究テーマの検討・先行研究の整理
第 11 回	グループワーク②	グループ別研究テーマの検討・論点整理と掘り下げ
第 12 回	グループワーク③	グループ別研究テーマの検討・発表資料の作成
第 13 回	グループ別研究発表①	グループ別研究発表、ディスカッション
第 14 回	グループ別研究発表②	グループ別研究発表、ディスカッション
第 15 回	イントロダクション（秋学期）	イントロダクション（秋学期）
第 16 回	個人別研究テーマ案の発表①	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第 17 回	個人別研究テーマ案の発表②	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第 18 回	個人別研究テーマ案の発表③	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第 19 回	課題文献の検討⑥	文献の講読、レジюме作成、議論
第 20 回	課題文献の検討⑦	文献の講読、レジюме作成、議論
第 21 回	課題文献の検討⑧	文献の講読、レジюме作成、議論
第 22 回	課題文献の検討⑨	文献の講読、レジюме作成、議論
第 23 回	課題文献の検討⑩	文献の講読、レジюме作成、議論
第 24 回	個人別研究報告①	個人別研究報告、ディスカッション
第 25 回	個人別研究報告②	個人別研究報告、ディスカッション
第 26 回	個人別研究報告③	個人別研究報告、ディスカッション
第 27 回	個人別研究報告④	個人別研究報告、ディスカッション
第 28 回	まとめ	ふりかえり、個人別研究論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読・レジюме作成の他、各研究テーマに沿った自己学習等を要します。また、研究テーマによってはインタビュー調査等を行うこともあります。

本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（グループへの貢献、ディスカッション含む）40 %、提出物（読書ノート・プレゼンテーション資料・個人別研究論文含む）60 %で行います。提出物の締切は厳守とします。

【学生の意見等からの気づき】

演習形式の授業のため、遅刻・欠席は厳禁。

【その他の重要事項】

受講者の関心により、学外での勉強会やヒアリング・見学イベント等への参画も検討しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn how to write a thesis and present the research outcomes related to their research interests.

SEE300EB, SEE300EC, SEE300ED

演習 2

勝又 暢之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 で学んだ知識やスキルを使って、すでに決定した卒業研究のテーマを掘り下げていく。そのために、フィールドワーク、実験、文献講読を行う。年度末には、卒業研究に準ずるレポートの作成を行うが、この目的に向けて学生は日々努力する。

【到達目標】

自然環境や生物に関するテーマを研究し、深く理解することにより、自然との付き合い方や環境問題の解決に向けた新たな規範やライフスタイルを大胆に発想する想像力と実践できる行動力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多摩キャンパスの生物的自然を対象とした研究テーマを設定し、研究計画を立案する。必要な研究手法を習得しながら、実際に調査・研究を行う。授業終了時に、卒業論文に準ずる研究レポートを提出する。途中何回かレポート研究の進捗状況を発表する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月5日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	年間の授業内容に関して説明する
第 2 回	卒業研究テーマの再確認	演習 1 で設定した卒業研究のテーマを再確認し、今後の準備を進める
第 3 回	卒業研究テーマの計画発表	卒業研究の個々のテーマについて年間計画について順次紹介する
第 4 回	卒業研究テーマの計画発表	卒業研究の個々のテーマについて年間計画について順次紹介する
第 5 回	野外調査・実験手法	調査地の選び方の習得
第 6 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 7 回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第 8 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 9 回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第 10 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 11 回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第 12 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 13 回	データ整理とプレゼン	Excel と PowerPoint の基本の習得
第 14 回	研究成果の中間発表（1 回目）	各テーマの進捗状況のプレゼン
第 15 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 16 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 17 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 18 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 19 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 20 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 21 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 22 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 23 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 24 回	データ解析方法	データ解析の方針を議論する
第 25 回	合同ゼミ	演習 2 と 3 を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う
第 26 回	合同ゼミ	演習 2 と 3 を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う
第 27 回	研究成果の中間発表会（2 回目）	卒業研究に準ずる研究の成果をパワポで発表し、いろいろな助言を得て次回の最終発表会に向けて準備をする

第 28 回 研究成果の最終発表会 卒業研究に準ずる研究の成果をパワポで最終発表し、内容をレポートに作成して提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外でも自分の研究テーマを掘り下げていく努力をする本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を随時配布する

【参考書】

自分で文献を探し出し、全員で講読する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（50%）、平常点（50%）

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必要に応じて）

【その他の重要事項】

自然や生物を対象とするため、授業スケジュール等の変更がありうる。

【Outline and objectives】

In this course, each student will do an independent research project on a topic related to biology and environmental sciences. For this, students will choose their own topic, conduct a presentation and write a report about their research findings.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習 2

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

The theme is to blush up yourself of industry researchers.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業調査の基本を学び、自ら調査ができるようになることが目的です。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

現実の各種産業について、各自が問題意識を持ち、業界の財務諸表を読みこなし、自ら調査分析できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

最初はやさしめの本をやや大量に消化し、自分の言葉でレジュメを作成する練習をします。次に産業調査の方法について学び、最後に実際に自分で個別産業を調べることができるようになるように進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティング・ミックス	4P
2	ターゲット市場の選定	セグメンテーション
3	製品ライフサイクル	導入期、成長期、成熟期、衰退期
4	市場地位別のマーケティング戦略	リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー
5	業界の構造分析	競争要因と利益ポテンシャル
6	全社戦略	多角化、PPM
7	事業とドメインの定義	ドメイン定義の注意点
8	戦略的思考に向かって	3つのスタンス 集中せよ
9	戦略はストーリー	論理と実践 戦略の論理化
10	競争戦略の基本論理	SPとOC
11	静止画から動画へ	ストーリーの強さ、太さ、長さ
12	始まりはコンセプト	起承転結の起
13	キラーパスを組み込む	スターバックスのストーリー
14	戦略ストーリーを読解する	ガリバーインターナショナル
15	夏休みの課題の講評	夏休みの課題の講評
16	戦略ストーリーの骨法1	エンディングから考える
17	骨法2	普通の人々の本性を直視する
18	骨法3	悲観主義で論理を詰める
19	骨法4	物事が起こる順序にこだわる
20	骨法5	過去から未来を構想する
21	骨法6	失敗を避けようとしな
22	骨法7	賢者の盲点を衝く
23	骨法8	競合他社に対してオープンに構える
24	骨法9	抽象化で本質をつかむ
25	骨法10	思わず人に話したくなる話をする
26	調査実習1	業界団体を訪問する
27	調査実習2	業界の資料を集めまくる
28	調査実習3	資料を整理しまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼上幹著『わかりやすいマーケティング入門』有斐閣アルマ

楠木健著『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社

【参考書】

様々な業界の業界団体のホームページおよび業界団体発行の資料を参考書とします。

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)

自身が設定した課題に対する取組 (30%)

最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

LIT300EB, LIT300EC, LIT300ED

演習2・3（卒業論文）

金原 瑞人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の思うもの、思い描くもの、伝えたいものを、効果的に表現するにはどうするかを考える。

【到達目標】

他人に読んでもらうことを前提とした文章が書けるようになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる文章が書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

詩、戯曲、小説、評論、ドキュメント、フィクション、ノンフィクション、純文学、エンタテインメントなど、ジャンルは問わない。書きたい人のためのゼミ。書いてきた作品をほかのゼミ生に読んできてもらって、講評してもらう。毎回、そういう形で進めていく。また、その時々で、こちらから本を指示して、読んでもらうこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	書き方の基本	日本人作家にみる、句読点の使いかたの違い
2	書き方の決まり	日本人作家にみる、句読点の歴史的な変化
3	表記の基本	例外的な名詞、固有名詞の表記
4	表記の決まり	時代時代による名詞、固有名詞の表記の変化
5	口語と文語	明治時代の言文一致について
6	文体	文体のおもしろさ
7	文体の種類	饒舌な文体、寡黙な文体
8	自分の文体	自分の文体を分析してみる
9	他人の文体	他人の文体を分析してみる
10	自他の文体	自他の文体を分析してみる
11	日本語の文体	自分の好きな日本人作家の文体
12	他言語の文体	自分の好きな日本人作家以外の文体
13	アメリカ人の文体	自分の好きなアメリカ人作家の文体
14	イギリス人の文体	自分の好きなイギリス人作家の文体
15	文体	文体とは何か
16	様々な文体	短い文の効果的な使いかた
17	様々な文体のつづき	長い文の効果的な使いかた
18	内容と文体	内容によって文の長短が決まるのか
19	文体と内容	文の長短が内容を決めることがあるのか
20	リズムと文体	リズムカルな小説について
21	文体とリズム	リズムカルな詩歌について
22	リズムについて	文章のリズムと音楽のリズム
23	文体について	音楽の文体について
24	リズム・文体	文章、音楽、リズムについて
25	段落について	段落とはなにか
26	段落という概念	日本人の段落
27	また別の段落という概念	欧米人の段落
28	エンディングについて	エンディングから書く書き方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日こつこつ書くこと。ただし、短篇をひとつずつ合評会に提出してよいし、長篇を合宿や合評会に提出してもよい。今年度は、毎週、書いてくる、あるいは書き直していただくことを基本とする。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」の箇所を見てください。】

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

提出してもらった作品の量、作品の出来、授業への参加の頻度などを総合して評価する。ただし一年間に最低、400字詰め原稿用紙にして、(演習2)は250枚以上、(演習3)は300枚以上書くこと。作品(80%)と平常点(20%)を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は便宜上のものであり、この順で授業を行うわけではない。あくまでも提出された作品をもとに授業を展開していくので、授業計画にあげてはいるものの触れないまま終わることもあるし、あるテーマを数回にわたって取りあげることもある。

【Outline and objectives】

To learn how to express your story in sentences effectively in Japanese.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を使用する。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to acquire an understanding of the processes of sociological research, especially on family issues.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：家族と社会を考える

テーマに関するゼミ学習を通じて、研究過程の基礎を学ぶ。

【到達目標】

各自の研究関心を深めるとともに、研究を企画する過程を理解し、卒業論文のテーマへと発展させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
2	研究報告(1)	報告と議論
3	研究報告(2)	報告と議論
4	研究報告(3)	報告と議論
5	研究報告(4)	報告と議論
6	研究報告(5)	報告と議論
7	研究報告(6)	報告と議論
8	研究報告(7)	報告と議論
9	研究報告(8)	報告と議論
10	研究報告(9)	報告と議論
11	研究報告(10)	報告と議論
12	ゼミ論文(初稿)の検討(1)	検討会
13	ゼミ論文(初稿)の検討(2)	個別指導
14	春学期の総括	ゼミ論文(最終稿)の提出と夏休み課題の説明
15	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
16	研究報告(1)	報告と議論
17	研究報告(2)	報告と議論
18	研究報告(3)	報告と議論
19	研究報告(4)	報告と議論
20	研究報告(5)	報告と議論
21	研究報告(6)	報告と議論
22	研究報告(7)	報告と議論
23	研究報告(8)	報告と議論
24	研究報告(9)	報告と議論
25	研究報告(10)	報告と議論
26	研究計画書(初稿)の検討(1)	検討会
27	研究計画書(初稿)の検討(2)	個別指導
28	秋学期の総括	研究計画書(最終稿)の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各学期末にゼミ論文・研究計画書（各 A4×10 枚以上）を提出する。これに関連して、学期中、小課題が順次提示される。各期限を念頭に、計画的に文献を探索・収集し、読み進め、執筆することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習 2

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるようなゼミ生を育成することが目標です。とくに演習 2 では研究テーマについて報告してもらいます。

【到達目標】

- (1) 関心のある経済社会問題をデータに基づいて議論できる。
- (2) ゼミ論 (10,000 字以上) を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、公共サービス、教育・健康、環境に関する諸問題や貧困・高齢化などの社会問題について、各自関心のあるテーマを決めます。次に、対象となる国や地域（地方自治体）を決めます。それに基づいて、Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。このようにゼミ生同士の相互作用を重視します。この他に挙げたテーマに応じて「現場」を見ることも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の報告（1 回目）①	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
2	ゼミ論の報告（1 回目）②	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
3	ゼミ論の報告（1 回目）③	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
4	研究テーマの紹介①（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、皆さんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
5	ゼミ論の報告（2 回目）①	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
6	ゼミ論の報告（2 回目）②	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
7	ゼミ論の報告（2 回目）③	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
8	研究テーマの紹介②（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、皆さんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
9	ゼミ論の報告（3 回目）①	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。

10	ゼミ論の報告（3 回目）②	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
11	ゼミ論の報告（3 回目）③	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
12	研究テーマの紹介③（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、皆さんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
13	ゼミ論の報告（4 回目）①	3 回目の報告を踏まえて、参考文献を整理して報告します。
14	ゼミ論の報告（4 回目）②	3 回目の報告を踏まえて、参考文献を整理して報告します。
15	ゼミ論の報告（5 回目）①	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
16	ゼミ論の報告（5 回目）②	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
17	ゼミ論の報告（5 回目）③	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
18	ゼミ論の報告（5 回目）④	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
19	研究テーマの紹介④（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
20	ゼミ論の報告（6 回目）①	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
21	ゼミ論の報告（6 回目）②	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
22	ゼミ論の報告（6 回目）③	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
23	研究テーマの紹介⑤（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
24	ゼミ論の報告（7 回目）①	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
25	ゼミ論の報告（7 回目）②	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
26	ゼミ論の報告（7 回目）③	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
27	研究テーマの紹介⑥（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
28	ゼミ論の報告（8 回目）	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告は各自のテーマについて Word や PowerPoint を使って行います。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。本演習の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

8 回以上のゼミ論報告 (20 %) およびゼミ論 10,000 字以上 (80 %) で評価します。欠席は 3 回までとします。4 回以上欠席すると単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline and objectives】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics.

ART300EB, ART300EC, ART300ED

演習 2

高 美智

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画研究の基本として、ショット分析の方法や、ジャンル批評・ジェンダー批評・歴史的批評など批評的視座を学び、映画を学術的に研究します。

【到達目標】

映画研究の基礎を身につけ、映画を題材に、単なる映画レビューや感想文ではなく、学術的な視座から論文が書けるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020年度前期授業はコロナ感染症対策のため、当面、授業は対面ではなくオンラインで行います。

初回オンライン授業は4月27日です。

必ず4月27日に学習支援システムにログインし指示に従って学習をすすめてください。

その後も毎週必ず月曜日にログインしその日の課題を行うこと。

詳細は初回授業で説明します。

文献の講読と映画作品の分析が基本。

演習1との合同授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
第2回	古典的ハリウッド1	論点の報告と作品分析・議論
第3回	古典的ハリウッド2	論点の報告と作品分析・議論
第4回	古典的ハリウッド3	論点の報告と作品分析・議論
第5回	古典的ハリウッド4	自分の選んだ作品の考察・分析発表
第6回	映画分析入門1	論点の報告と作品分析・議論
第7回	映画分析入門2	論点の報告と作品分析・議論
第8回	映画分析入門3	論点の報告と作品分析・議論
第9回	映画分析入門4	論点の報告と作品分析・議論
第10回	映画分析入門5	論点の報告と作品分析・議論
第11回	映画分析入門6	論点の報告と作品分析・議論
第12回	予備日	予備日
第13回	なし	なし
第14回	なし	なし
第15回	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
第16回	文献講読7（研究論文）	論点の報告と議論
第17回	文献講読8（研究論文）	論点の報告と議論
第18回	作品分析4	映画作品の分析報告と議論
第19回	文献講読9（研究論文）	論点の報告と議論
第20回	文献講読10（研究論文）	論点の報告と議論
第21回	作品分析5	映画作品の分析報告と議論
第22回	文献講読11（研究論文）	論点の報告と議論
第23回	文献講読12（研究論文）	論点の報告と議論
第24回	作品分析6	映画作品の分析報告と議論
第25回	グループ研究 2-1（計画）	問いの設定、映画選択
第26回	グループ研究 2-2（中間報告）	先行研究の評価
第27回	グループ研究 2-3（中間報告）	映画分析・考察の確認
第28回	グループ研究 2-4（発表）	研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者は毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってレジュメを作成したうえで討論に参加する。課題映画も必ず事前に視聴し、分析をしたうえで授業に参加することが必須。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・30%、課題 30%、学期末研究報告・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

現代の娯楽作品だけでなく、古い作品や政治的な映画、芸術映画にも興味があり、映画を観ることに意欲的な学生の受講を希望する。

【Outline and objectives】

In this course, the students will be introduced to the key theories in Film Studies. The course emphasizes an understanding of the historical, cultural, commercial, and aesthetic contexts that influence film, but also develops the students' understanding of a film's narrative and visual structure and its place within established theoretical traditions. The goal of the course is that the students will acquire the essential skills to analyze films.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2・3（卒業論文）

小林 直毅

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア表象としての現代社会を読み解く」が、この演習のテーマです。今年度はとくに、広島、長崎、チェルノブイリ、そして福島へといたる「グローバル・ヒパクシャ」のメディア表象と「記録と記憶」を考察します。

【到達目標】

メディア研究は、どのようなメディアで、何が顕著に描かれ、語られ、記憶が共有されるのか、逆に、何が描かれず、語られず、忘却されていくのかを問うことから出発します。そこから、メディアで描かれ、語られ、記憶されている出来事の特徴を、現代史や現代社会の在り様として解明できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業とします。それにとまう各回の授業計画の変更には、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月8日とし、それまでを準備期間として具体的なオンライン授業の方法や準備のための課題などを、学習支援システムで提示します。

なお、すでに示した「授業の進め方と方法」は下記のとおりです。

「春学期はテキストクリティークを中心に進めます。秋学期は研究成果を共同研究発表に集約していく作業が中心になります（以下の授業計画はあくまでも暫定案です）」。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題関心の共有。
第2回	問題構成	課題の見取り図を作る。
第3回	テーマ概説	テキストと関連文献の概説。
第4回	「ヒパクシャ・シネマ」とは何か	テキストの「はじめに」の報告と討論。
第5回	映画のなかの広島	テキストの第1章の報告と討論。
第6回	ゴジラと日本の悪夢	テキストの第2章の報告と討論。
第7回	マンガとアニメーション	テキストの第3章の報告と討論。
第8回	消費文化における核戦争後のイメージ	テキストの第4章の報告と討論。
第9回	占領期日本映画の原爆の表象	テキストの第5章の報告と討論。
第10回	フィールドワークの準備(1)	フィールドワークのラフデザインの検討。
第11回	広島、長崎の記録映画(1)	テキストの第6章前半の報告と討論。
第12回	広島、長崎の記録映画(2)	テキストの第6章後半の報告と討論。
第13回	中間総括	春学期の研究のまとめ。
第14回	フィールドワークの準備(2)	フィールドワークの計画の検討。
第15回	共同研究のテーマ設定	フィールドワークの結果の確認と共同研究の準備。
第16回	黒澤明の夢と狂詩曲	テキストの第7章の報告と討論。
第17回	黒澤明と核の時代	テキストの第8章の報告と討論。
第18回	小説・映画の『黒い雨』が語り、描く核の脅威(1)	テキストの第9章前半の報告と討論。
第19回	小説・映画の『黒い雨』が語り、描く核の脅威(2)	テキストの第9章後半の報告と討論。
第20回	女性被爆者と原爆の記憶の政治学(1)	テキストの第10章前半の報告。
第21回	女性被爆者と原爆の記憶の政治学(2)	テキストの第10章後半の報告。
第22回	共同研究の分担報告1	分担した研究成果の報告と検討。
第23回	共同研究の分担報告2	分担した研究成果の報告と検討。
第24回	共同研究の分担報告3	分担した研究成果の報告と検討。
第25回	共同研究の取りまとめ1	分担した研究成果の集約と検討。
第26回	共同研究の取りまとめ2	分担した研究成果の集約と検討。
第27回	共同研究発表の総括	共同研究発表の評価と反省。
第28回	総括	1年間の研究活動のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読んで出席することは必須です。積極的な発言、討論への参加を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ミック・プロデリック編著『ヒバクシャ・シネマ——日本映画における広島・長崎と核のイメージ——』現代書館（1,468円）。

【参考書】

年度初めに、「参考文献リスト」を配布します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもなっており、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日（5月8日）に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand contemporary society as media representation.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

齋藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマ「公平さと公共性」を手がかりに社会学的視角とロジックを学ぶ。

この演習の目的はふたつある。第一は、公共性・公平さ、そして共同性に関わる諸問題について考えることを通して「社会学的想像力」を鍛えること、第二は、科学的な考え方や説得の作法を身につけることである。

【到達目標】

自分自身の「社会的な問題関心」を見つけるとともに、（自分のものかどうかに関わらず）「問い」に対する答えを、客観的・中立的な方法で見つけ、それを説得的に提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミの前半は、演習1の後半に開始したグループ研究を引き続き進めゼミ論文を執筆する。この間に、各グループの研究の進捗状況と必要に応じ、研究方法やスキルに関するワークショップをゼミ中に行う。ゼミの後半は、卒業研究に向けた各自の関心の深化とテーマの探索を行う。

授業開始日・すすめ方についてはゼミ生を対象としたメールですでに通知済みなので再度確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ研究進捗状況の報告	発表担当のグループがゼミ研究について進捗状況を報告し、他のグループとの討論を行うことで研究を進める（2回以降も同様）
第2回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第3回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第4回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第5回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第6回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第7回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第8回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第9回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第10回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第11回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第12回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第13回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第14回	ゼミ研究論文の構成について	各グループのゼミ研究論文の構成について発表し、検討する
第15回	ゼミ論文提出	ゼミ論文の提出と内容に関する簡単な報告
第16回	卒業論文に関する個別相談	テーマ設定に関する個別相談を実施する
第17回	卒業論文に関する個別相談	テーマ設定に関する個別相談を実施する
第18回	各自の研究報告	卒業論文のテーマ設定・研究方法について個別に報告し、討議を行う（19回以降も同様）
第19回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第20回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第21回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第22回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第23回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第24回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第25回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第26回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第27回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第28回	春休みの研究計画報告	卒業論文に関する春休みの作業計画の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文完成までは、グループ別にゼミ研究を進め、ゼミでの報告準備を行う。ゼミ論文完成後は、個別の研究関心を深化させるために資料収集を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）とゼミ論文により評価する（60％：40％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to learn "how to see and think sociologically", by looking at the issue of fairness, justice, and togetherness in our daily lives. Students should grasp the essence of "sociological imagination" and the scientific thinking as well.

PLN300EB, PLN300EC, PLN300ED

演習2

澤柿 教伸

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学と第四紀地球科学の分野を基礎として、社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで考えます。文献資料の収集と分析、電子地図や人工衛星画像の解析、野外での測量や観察などの手法を使いこなすスキルを習得し、それによって知りえた自然や社会現象を考察して、問題の解決や新しいコンセプトの創出につなげる能力を養います。最終的に、その結果を論理的にプレゼンしたり論文としてまとめたりする能力を磨きます。

【到達目標】

地球科学に関する基礎的な思考力・論理展開力・調査手法を習得し、学術的に通用する水準の文章の執筆と討議への参画能力を身につける。社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・週末巡検を企画してフィールドワークを行います。
- ・グループディスカッションやディベート等により課題に取り組み、11月末に開催される社会学部研究発表会で成果を発表します。
- ・基本的に「演習1」（2年生）と合同で実施する機会を適宜設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	通年ガイダンス	ゼミの進め方
第2回	卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第3回	卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第4回	卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第5回	企画・報告1	巡検報告次回の下調べ
第6回	企画・報告2	巡検報告次回の下調べ
第7回	企画・報告3	巡検報告次回の下調べ
第8回	企画・報告4	巡検報告次回の下調べ
第9回	卒論研究事前準備1	卒論研究にむけた下調べ
第10回	卒論研究事前準備2	卒論研究にむけた下調べ
第11回	卒論研究事前準備3	卒論研究にむけた下調べ
第12回	卒論研究事前準備4	卒論研究にむけたプレゼン
第13回	夏期休暇課題検討1	夏期課題のプレゼン
第14回	夏期休暇課題の検討2	夏期課題のプレゼン
第15回	秋学期ガイダンス	秋学期の進め方について
第16回	夏期課題成果発表1	夏期調査の成果発表
第17回	夏期課題の成果発表2	夏期調査の成果発表
第18回	ハンズオンと討論1	文献・理論の検討
第19回	ハンズオンと討論2	文献・理論の検討
第20回	ハンズオンと討論3	課題研究進捗状況報告
第21回	研究発表会テーマ決定	研究発表会テーマ決定
第22回	発表会資料作成1	プレゼン資料作成
第23回	発表会資料作成2	プレゼン資料作成
第24回	発表会資料作成3	プレゼン資料作成
第25回	発表練習1	発表練習
第26回	発表練習2	発表練習
第27回	研究発表会	研究発表会
第28回	研究発表会の反省	研究発表会の反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・セミナーは、日頃の各自の成果をお互いに問う場であり、文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

ナショナル・ジオグラフィックという月刊誌の講読

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点(40%)、自身が設定した課題に対する取組度(30%)、最終提出課題の内容(30%)

【学生の意見等からの気づき】

各学年ごとにゼミを開催していますが、ゼミ内の先輩・後輩との交流できる機会を持つように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・休日巡検には、野外で活動しやすい服装や靴が必要です。
- ・40リットル前後のリュックサックや、雨具、野帳なども必要です。

【Outline and objectives】

Based on the physical geography and Quaternary sciences, this course helps students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their Sociological studies. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning, along with academic writing tutorial.

SES200EB, SES200EC, SES200ED

演習 2

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の中で資源管理に関する問題、具体的には世界の食料、森林、エネルギーについて各々のテーマを決め、これらの問題を分析するための方法論についても探索し、ゼミ論文を執筆します。

【到達目標】

演習 2 では、自分のテーマを決め、基本的な事実関係をリサーチし、方法論を用いたアプローチに意識をおきながら論理的に構築し、年末にはゼミ論を提出します。ゼミ論は 8000 字以上で web 以外の参考文献が 10 件以上ついでなければなりません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマについてリサーチして報告します。方法論をもって論理を構築する事が卒業論文作成に必要なので、環境・資源管理に親和的な方法論的アプローチのいくつかを文献の輪読によって学びます。なお演習Ⅱの時間内で十分でない場合、サブゼミを行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論テーマ発表	各自のゼミ論テーマについてチェック
2	ゼミ論報告 1 回目①	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
3	ゼミ論報告 1 回目②	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
4	ゼミ論報告 1 回目③	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
5	ゼミ論報告 1 回目④	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
6	ゼミ論報告 1 回目⑤	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
7	ゼミ論報告 1 回目⑥	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
8	ゼミ論報告 2 回目①	テーマに適合した筋立て、文献集めができているかチェック
9	ゼミ論報告 2 回目②	テーマに適合した筋立て、文献集めができているかチェック
10	ゼミ論報告 2 回目③	テーマに適合した筋立て、文献集めができているかチェック
11	ゼミ論報告 2 回目④	テーマに適合した筋立て、文献集めができているかチェック
12	ゼミ論報告 2 回目⑤	テーマに適合した筋立て、文献集めができているかチェック
13	ゼミ論報告 2 回目⑥	テーマに適合した筋立て、文献集めができているかチェック
14	ゼミ論報告補足	2 回目の報告の中から再報告
15	ゼミ論報告 3 回目①	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
16	ゼミ論報告 3 回目②	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
17	ゼミ論報告 3 回目③	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
18	ゼミ論報告 3 回目④	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
19	ゼミ論報告 3 回目⑤	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
20	ゼミ論報告 3 回目⑥	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
21	ゼミ論報告 4 回目①	筋書きとリサーチの進捗をチェック
22	ゼミ論報告 4 回目②	筋書きとリサーチの進捗をチェック
23	ゼミ論報告 4 回目③	筋書きとリサーチの進捗をチェック
24	ゼミ論報告 4 回目④	筋書きとリサーチの進捗をチェック
25	ゼミ論報告 4 回目⑤	筋書きとリサーチの進捗をチェック
26	ゼミ論報告 4 回目⑥	筋書きとリサーチの進捗をチェック
27	ゼミ論報告補足	保続報告が必要な人の報告
28	ゼミ論提出	来年度に向けての準備
		1年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の食料、森林、エネルギーの分野で、自分が研究したいテーマについて、文献を読んだり、見聞を広めておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論中間報告を中心とした平常点20%とゼミ論（A4 7-8枚程度）80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

当ゼミでは春（1泊2日）と夏（2泊3日）に農村（昨年度は新潟県柏崎市高柳町の門出集落）でフィールドワークを行います。田植え稲刈りや過疎山村の状況や村おこしについてのヒアリングなどを行います。フィールドワークへの参加を前提としてゼミを選択して下さい。

【Outline and objectives】

Each student will decide a theme for his seminar thesis about resource management, specifically among the world food, forest, energy issues and etc., also will explore the methodology to analyze these issues. At the end of the year he will submit the thesis.

POL300EB, POL300EC, POL300ED

演習2

志村 真弓

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：金3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代国際社会における「戦争」と「平和」、「国際平和」と「人間の安全」の関係について、文献輪読を通して批判的に検討・議論する。また、そこで得た国際関係論・国際政治学的視点をを用いて各自の研究関心への理解を深め、考察の成果をゼミ論文としてまとめる。

【到達目標】

文献を批判的に読み、議論する作業を通じて、今日の多様な国際問題について基本的な知見を得ると共に、考察を深めていくための分析的視点を養う。各自の研究課題について、自身の見解を批判的・実証的・論理的に文章化することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は原則オンライン授業（各自でゼミ論文執筆に向けた文献収集、読み込みをしながら、適宜「学習支援システム」掲示板を活用して議論を行う形式）とする。春学期の授業開始日は4月24日とする。秋学期はオンラインまたは対面授業において、各自の研究テーマについて発表を行い、ゼミ論文完成に向けてフィードバックの機会を設ける。授業計画は授業の進捗により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の進め方について
2	ゼミ論文の書き方	学術論文の目的と構成、執筆作法など
3	文献輪読1-1	「国際平和と民族問題」（含：序章）
4	文献輪読1-2	「脆き平和」
5	文献輪読1-3	「第二次世界大戦と国連の平和構想」
6	文献輪読1-4	「『平和共存』平和と人民の戦争」
7	文献輪読1-5	「人間の安全を脅かした国際平和秩序」
8	文献輪読1-6	「『新戦争』とアイデンティティ政治」
9	文献輪読1-7	「安全保障共同体の創造に向けて」（含：終章）
10	文献輪読2-1	「国際政治と難民問題」
11	文献輪読2-2	「難民と強制移動のダイナミズム」
12	文献輪読2-3	「国際機関と難民」
13	文献輪読2-4	「難民の社会統合」
14	文献輪読2-5	「第三世界の難民」
15	ガイダンス	個人研究発表の予定調整
16	文献輪読2-6	「ヨーロッパ難民問題」
17	文献輪読2-7	「米国の難民問題」
18	文献輪読2-8	「日本の難民問題」
19	文献輪読2-9	「難民と人間の安全保障」
20	個人研究発表①	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
21	個人研究発表②	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
22	個人研究発表③	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
23	個人研究発表④	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
24	個人研究発表⑤	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
25	個人研究発表⑥	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
26	個人研究発表⑦	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
27	個人研究発表⑧	ゼミ論文のテーマ発表・質疑
28	個人研究発表⑨	ゼミ論文のテーマ発表・質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

年度末のゼミ論文完成を目指して、春学期は参考文献の検索と読み込み、秋学期は相互発表会の機会を活用しつつ執筆作業を進める（標準の学習時間は毎週約 6 時間）。

【テキスト（教科書）】

輪読文献 1：吉川元『国際平和とは何か』中央公論新社、2015 年。
輪読文献 2：滝澤三郎・山田満編『難民を知るための基礎知識』明石書店、2017 年。
このほか随時指定する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論文：100 %

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため該当なし。

【Outline and objectives】

This seminar course is designed for undergraduate students to critically read international relations (IR) literature and independently write an essay on their own topic in IR.

SOS300EB, SOS300EC, SOS300ED

演習 2・3（卒業論文）

白田 秀彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題を遂行するにあたって、「計画し・実行し・報告する」という一連の作業手順を的確に行うこと。課題内容については、演習で固定化されている事項に加えて、ゼミ生の意向を斟酌して決める。また、社会に出て活動するにあたっての基礎的規律を実践する。

【到達目標】

「計画し・実行し・報告する」技法・技能を身につけることを目標とする。さらに、興味関心領域を社会的・法学的学問へと接続することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定されたテーマによる、フィールドワークの訓練と、グループ・プレゼンテーションを行います。いずれにしても積極的に取り組むことを強く要求する。ゼミ活動・連絡等では、メーリング・リストと Web を活用するので、対応しうる機器等を保有していることが条件となる。演習 3 については、個別テーマでの卒業論文の指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調査する 1	外部の図書館・公共機関・研究機関を用いての情報収集の練習を行う。
2	調査する 2	ゼミ全体での調査の計画立案の前提となる資料を集める。
3	構想する 1	ゼミ全体での調査計画を作成する。
4	調査する 3	ゼミ全体での調査を実施する。
5	調査する 4	ゼミ全体での調査を再度実施する。
6	整理する 1	調査結果の評価を行う。
7	整理する 2	調査結果を整理し、報告についての構想を検討する。
8	構想する 2	構想を具体化するための検討を行う。
9	構想する 3	構想を確定し、制作手順について計画する。
10	制作する 1	報告プレゼンテーションの作成を行う。
11	制作する 2	報告プレゼンテーションの作成を続けて行う。
12	制作する 3	報告プレゼンテーションの進捗報告を行う。
13	制作する 4	報告プレゼンテーションの改善を行う。
14	報告する 1	報告プレゼンテーションを行う。
15	前期報告プレゼンテーションについての評価と反省	前期に行ったプレゼンテーションについての講評を行う。
16	<個人テーマ> 調査する 1	各個人テーマによるゼミ論へ向けて、事前調査を行う。
17	<個人テーマ> 調査する 2	ゼミ論のための文献調査を行う。
18	<個人テーマ> 調査する 3	ゼミ論のためのさらなる文献調査を行う。
19	<個人テーマ> 整理する 1	資料を整理し、論点を明確にする。
20	<個人テーマ> 整理する 2	資料を配列し、構想を検討する。
21	<個人テーマ> 整理する 3	さらに追加的な資料が必要でないかを検討する。
22	<個人テーマ> 構成する 1	ゼミ論の構成案を作成する。
23	<個人テーマ> 構成する 2	構成案の再検討を行う。
24	<個人テーマ> 構成する 3	ゼミ論の構想を簡易なプレゼンテーションとして発表する。
25	<個人テーマ> 構成する 4	構成案の再々検討を行う。
26	<個人テーマ> 執筆する 1	ゼミ論の執筆を行う。
27	<個人テーマ> 執筆する 2	ゼミ論の進捗報告を行う。

28 < 個人テーマ > 執筆するゼミ論について口頭報告を行う。
3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この演習は、「計画・実行・報告」を目的とするため、課外活動がほぼ毎月設定されている。年間予定は4月段階で決定されるため、不参加や欠席が許されないことに留意すること。自主的に情報収集したり、手配したりすることが強く要求される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習中に何度か課題の提出を求める。また期末にゼミ論文あるいは制作物を提出させる。課題提出物について40%、ゼミ論文あるいは制作物について60%で評価を行う。単位取得できない学生は次年度の受講を認めない。演習3については、卒業論文(100%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Students are expected to plan, to practice and to report appropriately in the series of work procedures. Assignments are designated as seminar routine and also be decided in consideration of those who attend the seminar. In addition, practicing social standard is assigned in order to make a start in life.

This subject is aimed at achieving abilities to plan, to practice and to report. Furthermore, it is also aimed at connecting students' area of interest to sociological and juristic learnings.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「〈日常生活〉の社会学」

演習1で培ってきた様々なスキルをふまえながら、特定の《現場》をめぐる、共通テーマに基づく共同研究に取り組む。研究対象へは、主として、インタビュー調査をおこなうことでアプローチしていくことになる。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業とする。それにとまなう各回の授業計画の変更については、その都度知らせる。また、本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを受講生に知らせる。

【到達目標】

インタビュー調査の可能性と限界をふまえながら、「他者の声」と格闘したその足跡を論文として再構成することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明・スケジュール確認
2	全体テーマの検討①	プレストとKJ法
3	全体テーマの検討②	テーマ群の整理
4	全体テーマの検討③	テーマ群の再整理
5	問題関心の明確化①	テーマの絞り込み
6	問題関心の明確化②	テーマから問いへ
7	問題関心の明確化③	問題関心のブラッシュアップ
8	テーマの確定	班構成と役割分担
9	方法の習得	調査方法の概要説明
10	予備調査報告①	研究課題の明確化
11	予備調査報告②	研究課題の明確化
12	リスト検討①	インタビューリスト・一次案作成
13	リスト検討②	ブラッシュアップ
14	リスト検討③	リスト確定作業
15	秋学期ガイダンス	スケジュールの確認
16	調査結果の検討①	グループ別報告
17	調査結果の検討②	グループ別報告
18	調査結果の検討③	グループ別報告
19	調査結果の検討④	グループ別報告
20	調査結果の検討⑤	グループ別報告
21	研究報告に向けて①	データの集約
22	研究報告に向けて②	問題の析出
23	研究報告に向けて③	ストーリー確定
24	資料集の作成ガイダンス	概要説明
25	資料集の作成①	データの整理
26	資料集の作成②	役割分担確定
27	資料集の作成③	原稿提出
28	演習3ガイダンス	卒論執筆に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジュメの作成、ゼミ論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの出席・調査活動への参加度（50%）、およびゼミ論の執筆に至るプロセスとその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to do research on a sociological theme in collaboration with other students. Students have to use interviews in qualitative research to approach the theme.

SEE300EB, SEE300EC, SEE300ED

演習 2

鈴木 麻美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今、社会で求められている「数学的思考力」は何のために求められているのであろうか、数学と社会との関わりを考えると同時に「数学とはいかなる学問か」ということも真剣に考えてみたい。「数学」は社会においてどのような威力を発揮するのかを考えると共に、社会における数学的思考力の必要性を考えていく。

【到達目標】

数学を知らずには「数学的思考力」の重要性を考えることはできない。従ってこの講義の3分の1は数学の最も基本と言える「集合論」を題材にして「数学的論理」を基礎から学ぶ。当たり前に見えることも丁寧にかつ簡潔にまとめ、論理的に記述できる文章力（国語の力）を持つてる学生は残念ながらもなかなか居ない。ゼミではこうした能力を身に付けたい。また同時に社会においてこの数学的論述力はどう意味を持つのか各自で考えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自準備をしてきた部分をゼミで他の学生達に解説することを中心にして、ディスカッションも多く取り入れる。自分の考えをしっかりと持つためには、様々な情報を収集し自分の中で咀嚼して理解する事が大切である。また「数学」に関する内容は非常に簡単ではあるが、数学的な構文に慣れるまでは予習に時間をかけて欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「数学」の紹介と、講義の進め方および成績評価について説明する。
2	数学を学ぶ（1）	数学の理論体系をまなぶ
3	数学を学ぶ（2）	ユークリッド幾何学とは
4	数学を学ぶ（3）	証明とは。学問の始まりとは。
5	数学の学びの特徴を考える。	数学の学びはどのような能力を身につけられるのかを考える。
6	社会問題と数学との関係（1）	社会と数学との関係性について考える。
7	数学教育を考える	世界の数学教育と日本の数学教育に関して考える。
8	日本の数学教育について	日本の数学教育の現状や大学生の学力調査などから社会における問題を考える。
9	数学を学ぶ（4）	数学の論理と日常の言葉
10	数学を学ぶ（5）	「すべての」と「任意の」および「存在する」と「唯一」・「一意的」
11	数学の特徴	数学の学びと他の学問の学びとの違いを考える。
12	社会問題と数学との関係（2）	数学的思考力が社会で必要とされているその理由に関して考える。
13	レポートの課題について、各自発表	夏に取り組むレポートについて、各自計画書を作成して発表する。
14	まとめ	前回までのまとめと後半へ向けた課題確認。

15	課題成果の発表（1）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。1回目
16	課題成果の発表（2）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。2回目
17	数学を学ぶ（6）	集合を学ぶ
18	数学を学ぶ（7）	部分集合。
19	数学を学ぶ（8）	和集合・共通集合・差集合・補集合
20	社会問題と数学との関係（3）	社会へ活用するための数学的思考力について考える。
21	社会問題と数学との関係（4）	社会へ活用するための数学的思考力について考える一その2
22	数学を学ぶ（9）	直積集合
23	数学を学ぶ（11）	集合の集まり、集合族
24	数学を学ぶ（11）	写像。単射・全射・全単射
25	課題作成中間報告（1）	社会と数学との関係および今後の問題など様々な視点からのレポートを発表。
26	課題作成中間報告（2）	レポート発表第2回
27	課題作成中間報告（3）	レポート発表第3回
28	成果発表	1年間の学習の成果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備および復習は、毎回の授業については平均すると4時間程度であるが、課題担当の順番や内容により、さらに多くの時間を要する場合もある。

【テキスト（教科書）】

「集合・写像・論理—数学の基本を学ぶ」中島 匠一（著）、共立出版（2012）。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習における課題への取り組みと課題内容を60%、学期末の提出課題を40%として総合的に評価する。授業以外での演習の準備に掛ける時間は毎回通常4時間程度と考えるが、課題のテーマによっては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的にゼミの課題に取り組むことで、各自の大学での学習のみならず、卒業をしてからの社会に対する問題意識が開拓されているように思える。ゼミを通じて様々なことに関しての問題意識を持ち、積極的に取り組んでもらいたい。

【Outline and objectives】

What is the “mathematical thinking” required by society now? We consider the relationship between mathematics and society, and we consider what kind of study is mathematics. Further we consider the validity of “Mathematics”, and study the necessity of mathematical thinking in society.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2・3（卒業論文）

鈴木 宗徳

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代における批判的社会理論の可能性

【到達目標】

社会理論を精密に読解する力を養うとともに、現代の社会問題および社会変動を説明し批判する上でどのような理論枠組みが必要かについて、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員の専門はドイツを中心とする社会学理論で、ゼミでも、社会科学の主要な理論的著作の輪読をおこなう。ただし「理論のための理論」を探求することが目的ではなく、あくまで、われわれが直面する社会問題や社会変動を説明する枠組みとしてどのような理論が要請されているかを考えながら、それぞれの理論の可能性と限界について検討したい。

春学期はテキスト講読が中心となる。夏休みは研修旅行（フィールドワーク）を行ない、秋学期に各自が成果を報告書にまとめるとともに、学部研究発表会で発表を行なう。2011年は静岡県御前崎市の浜岡原発周辺を訪ね、反対運動家や市議会議員をはじめ地域の様々なアクターに話を伺った。2012年は被災地の復興を視察するため宮城県石巻市を訪ね、市議会議員、漁協、病院等に話を伺った。2013年は、大阪市釜ヶ崎の高齢の日雇労働者が集住する地域を訪ね、ホームレス支援、子どもの支援、高齢者への仕事の斡旋を行うNPO等で話を伺った。2年間の在外研究をはさみ、2016年は大阪市と京都市を訪ね、ヘイトスピーチ問題と取り組む在日朝鮮人の団体やジャーナリストらに話を伺った。2017年度は福島県福島市や郡山市を訪ね、原発事故被害への補償や被ばくの不安の問題にとり組む被害者団体や母親たちのグループ、農業団体等で話を伺った。2018年度は静岡県浜松市の日系ブラジル人労働者が集住する地域を訪ね、多文化共生政策や日本語学習支援の担当者、ブラジル人学校や保育園で話を伺った。2019年度は日雇労働者が多かった横浜寿町で、医療、ホームレス支援、就労支援に携わる方々に話を伺った。

今年度は、川崎ないし横浜の朝鮮学校や在日朝鮮人コミュニティを訪ね、教育問題・多文化共生・ヘイトスピーチ対策等についてお話を伺う予定である。

秋学期は、二冊目のテキスト講読と並行して、個人研究報告を行なってもらう。個人研究は教員と相談しながら進めてもらうが、どのようなテーマを選ぶかは（そのテーマについて指導できるより適切なゼミがほかにある場合を除いて）基本的に自由である。

「演習1」（2年）と「演習2・3」（3・4年）を連続する時間帯に設定し、もう一方のゼミにも（単位にはならないが）出席することを義務とする（毎週100分×2コマの出席）。議論が充実するため、ゼミ生には好評である。授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で、希望票を提出してほしい。三月末～四月初旬の演習説明会に出席することを、希望票を提出する要件とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (1)	自己紹介など
第2回	ガイダンス (2)	研究の進め方について

第3回	3年生の研究報告	(1) (2)
第4回	3年生の研究報告	(3) (4)
第5回	テキスト講読 (1)	並行して研修旅行の準備 (1)
第6回	テキスト講読 (2)	並行して研修旅行の準備 (2)
第7回	テキスト講読 (3)	並行して研修旅行の準備 (3)
第8回	テキスト講読 (4)	並行して研修旅行の準備 (4)
第9回	テキスト講読 (5)	並行して研修旅行の準備 (5)
第10回	秋学期の研究計画の発表	2・4年生による
第11回	テキスト講読 (6)	並行して研修旅行の準備 (6)
第12回	テキスト講読 (7)	並行して研修旅行の準備 (7)
第13回	テキスト講読 (8)	並行して研修旅行の準備 (8)
第14回	テキスト講読 (9)	並行して研修旅行の準備 (9)
第15回	テキスト講読 (1)	並行して2年生の研究報告 (1)
第16回	テキスト講読 (2)	並行して2年生の研究報告 (2)
第17回	テキスト講読 (3)	並行して2年生の研究報告 (3)
第18回	テキスト講読 (4)	並行して2年生の研究報告 (4)
第19回	2年生の研究報告 (5)	並行して学部研究発表会の準備 (1)
第20回	2年生の研究報告 (6)	並行して学部研究発表会の準備 (2)
第21回	4年生の研究報告 (1)	並行して学部研究発表会の準備 (3)
第22回	4年生の研究報告 (2)	並行して学部研究発表会の準備 (4)
第23回	4年生の研究報告 (3)	並行して学部研究発表会の準備 (5)
第24回	4年生の研究報告 (4)	並行して学部研究発表会の準備 (6)
第25回	3年生の研究報告	(1) (2)
第26回	3年生の研究報告	(3) (4)
第27回	テキスト講読	(1) (2)
第28回	テキスト講読	(3) (4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

素晴らしいレジュメを作ることに全力を注いでほしい。また、時間割が許すならば、鈴木が担当する「公共性と民主主義」を履修すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストは、参加者と相談した上で第一回目のゼミで決める。候補は、アーレント『全体主義の起源 3』、ライアン『監視文化の誕生』、ベンヤミン『ベンヤミン・コレクション①』、バerman『デカルトからペイトソンへ』である。

これまでも毎年2～3冊ずつ、バerman『コミュニティ』、ファノン『黒い皮膚・白い仮面』、石田勇治『過去の克服』、アンダーソン『想像の共同体』、ブルデュー『ディスタンクシオン』、ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ドゥルーズ『差異と反復』、フロム『自由からの逃走』、フーコー『生政治・統治』、リツァ『消費社会の魔術的体系』、アレント『人間の条件』、バuman『ホロコーストと近代』、ヒルシュ『国民的競争国家』などを、講読してきた。

【参考書】

必要な参考書は、授業内で適宜指示する。履修希望者は、担当教員が執筆した論文をDropBoxからダウンロードし (<http://ur0.link/sZeb>)、選考までに必ず一つ以上読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容 (30%)、議論への参加姿勢 (30%)、ゼミ論 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course explores the possibility of critical social theories in contemporary society.

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習 2

関口 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは「地方分権時代の税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」である。

【到達目標】

令和2年度の「財政学演習2」は、ゼミのテーマ「地方分権時代の税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」の観点からの研究を進め、他大学との研究報告会での報告を成功させ、その成果をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「財政学演習2」は3年次から構成され、本来、名実ともに専門課程に入るのでゼミの支柱である「財政学」の研究を演習形式で深化させる時期である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1年間の演習計画説明	本年度の研究、ゼミ活動の説明
第2回	I. 財政学の文献輪読	租税利益説の適用
第3回	I. 財政学の文献輪読	担税力と課税ベース
第4回	I. 財政学の文献輪読	担税力と垂直的公平
第5回	I. 財政学の文献輪読	租税の帰着概念
第6回	II. 合同ゼミ合宿準備	2年次に昨年度の説明
第7回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論題・目次の作成
第8回	III. 財政学基礎の確認	財政民主主義・財政学説史
第9回	III. 財政学基礎の確認	公債の意義と公債負担論
第10回	III. 財政学基礎の確認	日本の予算決算制度・市場の失敗・費用便益分析
第11回	III. 財政学基礎の確認	社会保障財政・教育財政
第12回	III. 財政学基礎の確認	租税理論
第13回	II. 合同ゼミ合宿準備	合同ゼミ沖縄開催の企画案検討
第14回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆討論
第15回	合同ゼミ研究報告会	沖縄国際大学前村財政学演習と第23回合同ゼミ研究報告会を令和2年度は沖縄開催。
第16回	IV. 『財政学研究』編集	合同ゼミ合宿の成果を報告
第17回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第24巻)』編集指揮
第18回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(予算)
第19回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(決算)
第20回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(公共経済学)
第21回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(経費)
第22回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第24巻)』編集中間報告
第23回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第24巻)』編集再検討
第24回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第24巻)』ゲラ作成
第25回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(公債)
第26回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(地方財政)
第27回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(財政政策)
第28回	III. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第24巻)』編集最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

専門ゼミ2年度で「財政学」の基礎知識を講義等で習得している。毎回、前時間に指示した教科書該当箇所を2時間以上かけて丹念に通読し、学問的により深化すべき点を明らかにしておく。各回のゼミ終了後にはより深化すべき点をいかに考究したかを確認すべく、教科書、配付資料や演習問題を頼りに2時間以上かけて復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

1. Richard A.MUSGRAVE & Peggy B.MUSGRAVE, "Public Finance in Theory and Practice," McGraw-Hill, 1980. (木下和夫監修『マズグレイブ財政学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』有斐閣、昭和58～59年。)

※名著として一部輪読する。

2. その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告資料作成水準(40%)、出席票記述事項(30%)、『財政学研究』論文執筆水準・編集への関与(30%)で総合して、ゼミ活動への取り組み状況(100%)を評価する。詳細はゼミ活動を通じて説明するので日々確認してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

卒業生および現在登録ゼミ生から継続要請のあった春学期後半の市ヶ谷での大学院合同ゼミを全学年で行うので、財政学の基礎を確認する機会としたい。

【その他の重要事項】

1. 「財政学演習2」受講の要件は「演習1」と同じであるので、「演習1」を参照のこと。

2. 昨年度蓄積されたチームワークを活かし、新たなゼミづくりに邁進してほしい。

【Outline and objectives】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being.

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED

演習2

曾布川 哲也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【その他の重要事項】

担当教員は、現役の社会保険労務士で、専門は医療保障および年金保険です。課題提示および問題解決の理論的なアプローチだけでなく、実務家としての問題のとらえ方も提示します。このことによって理論と実践の両方を学修できます。

【Outline and objectives】

This seminar deals with social problems and social policies.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続き、社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題への政策対応領域のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。ただし、個人研究の関心の内容や参加人数によっては、社会保障法に関する会談の時間を行う場合もあります。

演習2では個人単位での研究と、ゼミ共通テーマの検討を並行してお願いする予定です。

※本演習は長沼建一郎教授の代講として2020年度限りで開講されます。2021年度は長沼教授に引き継がれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認
2	春学期のガイダンス	研究テーマの選定
3	春学期のガイダンス	資料収集の方法
4	個人研究構想報告	個人ごとの報告
5	個人研究構想報告	個人ごとの報告
6	個人研究構想報告	個人ごとの報告
7	個人研究構想報告	総括、フィードバック
8	個人研究中間報告	個人ごとの報告
9	個人研究中間報告	個人ごとの報告
10	個人研究中間報告	個人ごとの報告
11	個人研究中間報告	個人ごとの報告
12	個人研究中間報告	個人ごとの報告
13	個人研究中間報告	個人ごとの報告
14	個人研究中間報告	総括、フィードバック
15	秋学期のガイダンス	スケジュールの確認
16	秋学期のガイダンス	最終報告に向けた留意点
17	個人研究最終報告	個人ごとの報告
18	個人研究最終報告	個人ごとの報告
19	個人研究最終報告	個人ごとの報告
20	個人研究最終報告	個人ごとの報告
21	個人研究最終報告	個人ごとの報告
22	学部研究発表会準備	ゼミ全体での準備作業
23	学部研究発表会準備	ゼミ全体での準備作業
24	個人研究最終報告	個人ごとの報告
25	個人研究最終報告	個人ごとの報告
26	個人研究最終報告	個人ごとの報告
27	個人研究最終報告	個人ごとの報告
28	個人研究のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるように、確実に準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】

長沼建一郎『図解テキスト社会保険の基礎』（弘文堂、2015年）

岩村正彦、菊池馨実、嵩さやか、笠木映里編著『目で見える社会保障法教材 第5版』（有斐閣、2013年）

その他演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習2

高瀬 文人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディア時代、デジタル時代において「調べ」「考え」「伝える」とはどのようなことなのか。演習2では、それらを考え、実践し、まとめ、発信するプロセスと方法を調査など実践を行うことで、さらに高度なものにしていき、研究を深めていきます。

【到達目標】

1. 「問題意識」と事実の「裏付け」、効果的に「伝える」ことを、より高度に考えることができるようになります。2. 媒体の特性と、効果的な表現方法を選び、実際に発表する実践を行います。3. これらが実際に社会的に意義があると評価されるように、表現方法を磨くプロセスを経ることで、1.2. で言及したスキルをより高めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*既に募集終了、遠隔授業にて開講しています。

講義と実習を組み合わせで行います。調査、実践、研究を行いながら「伝える」ことの設計（デザイン）を学びます。これまでのテーマには、地域からの発信、ニュースパーク（日本新聞博物館）の展示提案、フェイクニュース調査、災害時広報のあり方などがあります。演習2では、演習1を踏まえて、研究会などの発表に向けて取り組みを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	方針の確認と自己紹介
第2回	調査	実践テーマの検討
第3回	調査	実践テーマの検討
第4回	調査	事例の分析
第5回	調査	事例の分析
第6回	調査	予備調査
第7回	調査	予備調査
第8回	調査	計画の立案
第9回	調査	計画の立案
第10回	実践	実践の実施
第11回	実践	実践の実施
第12回	実践	実践の実施
第13回	実践	実践の実施
第14回	実践	実践の実施
第15回	ガイダンス	実践の振り返りと方針の確認
第16回	研究	研究テーマの検討
第17回	研究	研究テーマの検討
第18回	研究	研究テーマの検討
第19回	研究	先行研究の調査
第20回	研究	先行研究の調査
第21回	研究	先行研究の調査
第22回	研究	調査の設計
第23回	研究	調査の設計
第24回	研究	調査の実施
第25回	研究	調査の実施
第26回	研究	調査の分析
第27回	研究	調査の分析
第28回	研究	調査のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外の準備が必要です。土日、長期休暇を利用しての合宿、他大学との合同ゼミへや学会への参加などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。活動に対する取り組みや出席状況で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、カメラ、デザインソフトなどを使用します。大半がゼミに用意してありますがパソコンは用意する必要があります。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムやメディアに興味がある学生、社会の課題解決に関心がある学生を歓迎します。大切なのは、面白いと思ったり、違和感を持ったりする好奇心です。人と異なっても、自分の想いを大切にすることが重要であり、演習ではそれを論理にし、人に伝え、説得するためのスキルを身につけることを目指します。ソーシャルメディア時代のメディア実践や研究にはテクノロジーへの理解が必須になりますが、必要に応じて学ぶ機会を設定します。講師は現役のジャーナリスト・雑誌編集者であり、多数の原稿を執筆し、また多くの原稿を添削してきました。それを踏まえて「伝える」ためのコミュニケーションを指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、広告コピーライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として編集業務全般を行っている。

<研究テーマ>

調査報道の現代的あり方、リサーチ教育

<主要研究業績>

『リーガル・リサーチ』2003年、日本評論社

『ひと目でわかる六法入門 第2版』2018年、三省堂

『鉄道技術者 白井昭』2012年、平凡社

【Outline and objectives】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

武田 俊輔

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化とまちづくりから見る地域社会というテーマに即して、古典の文献・基本的文献を読む。それと共に、卒業論文研究計画書の執筆と報告を進め、4 年次における卒業論文執筆に必要な能力を養う。

【到達目標】

3 年次までにそれぞれの研究テーマについて決定するとともに、その先行研究に関するレビューを一通り完成させること。フィールドワークや史資料の分析を行う上で必要なスキルを身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は前半で基本的・古典の文献を講読することで社会的な考え方について理解を深める。後半では演習 1 と連携しつつ共同でのフィールドワークに向けた下調べを行う。それによってフィールドワークや史資料の分析に関する基本的なスキルについても学ぶ。

秋学期は学生がそれぞれ個人での研究テーマを設定して、文献の報告とフィールドワーク・史資料の分析にもとづく研究報告を行ってもらうことで、4 回生で卒業論文を執筆するための準備を進める。

なお演習 1 との合同でゼミやフィールドワークを行うことがある。今年度については、連続する時間帯に開講する「演習 1」(2 年)にも(単位にはならないが)部分的に出席することが必要となる。そのため、授業時間割の計画に制約が生じることを理解した上で受講するよう留意してほしい。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの目的と進め方についての説明、文献担当の決定
2	基礎的・古典的な文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (1)
3	基礎的・古典的な文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (2)
4	基礎的・古典的な文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (3)
5	基礎的・古典的な文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (4)
6	基礎的・古典的な文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (5)
7	基礎的・古典的な文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (6)
8	基礎的・古典的な文献の講読 (7)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (7)
9	基礎的・古典的な文献の講読 (8)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (8)
10	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
11	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (2)
12	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (3)
13	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
14	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメの内容と質問項目の作成 (2)
15	フィールドワークの成果報告とディスカッション (1)	夏期休暇中でのフィールドワークの成果のまとめ (1)

16	フィールドワークの成果報告とディスカッション (2)	夏期休暇中でのフィールドワークの成果のまとめ (2)
17	学生による研究テーマと先行研究レビューの報告 (1)	学生自身による卒論に向けた研究テーマの説明と先行研究のレビュー (1)
18	学生による研究テーマと先行研究レビューの報告 (2)	学生自身による卒論に向けた研究テーマの説明と先行研究のレビュー (2)
19	調査方法・調査倫理に関する文献講読 (1)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読 (1)
20	調査方法・調査倫理に関する文献講読 (2)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読 (2)
21	調査方法・調査倫理に関する文献講読 (3)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読 (3)
22	学生による研究計画書案の報告 (1)	調査方法・対象・スケジュールなども含めた、学生による研究計画書案の報告 (1)
23	学生による研究計画書案の報告 (2)	調査方法・対象・スケジュールなども含めた、学生による研究計画書案の報告 (2)
24	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
25	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	春季休暇中のフィールドワーク合宿に向けた文献講読 (2)
26	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	春季休暇中のフィールドワーク合宿に向けた文献講読 (3)
27	最終的な研究計画書に関する報告 (1)	卒論の研究計画書の完成に向けた学生の報告 (1)
28	最終的な研究計画書に関する報告 (2)	卒論の研究計画書の完成に向けた学生の報告 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成。共同でのフィールドワーク。フィールドワークのための下調べやその内容のまとめ、学生同士のディスカッションと成果報告の準備。卒業論文研究計画書の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

初回、また必要になるごとに文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告および研究報告レジュメの内容 (30%)
討論への参加度 (25%)
フィールドワークでの貢献度 (15%)
ゼミ論の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初年度のため、特になし。

【その他の重要事項】

上でも述べたように、演習 1 の時間にも出席してもらうことがしばしばある。また演習 1 の受講生と共に、授業時間外に学生のみでフィールドワークのための下調べやディスカッションの時間を持つ必要がある。時間については初回に相談する。

【Outline and objectives】

Studying local communities and culture through reading literatures and fieldwork.
Students need to proceed their research plan to write a graduation thesis in fourth grade.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【Outline and objectives】

Students will be given an opportunity to ponder the sociology of international migration.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「田嶋ゼミの東京スタディーズ Part II」

【到達目標】

演習を通じ、社会調査の一連のプロセスを学び、各自のテーマと問題意識を深め、ゼミ論文を書く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

本演習は4月22日よりzoomを利用して開始します。授業の進め方については、学習支援システムに詳細をお知らせします。必ず確認の上、参加してください。本演習においては、各自のテーマを中心に、調査研究を進め、最終的にはゼミ論文の作成をめざします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	1年間のスケジュールと課題を説明
2	各自のテーマ選定（春休み中の作業確認）	テーマの絞り込み
3	論文を書くために	研究の進め方
4	既存データの収集	（官庁統計の読み方・作り方）
5	文献の収集・検討	参考文献の検索方法および既存データを読む
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討
7	既往研究の検討（2）	資料の収集と講読、発表
8	インタビュー実施	地域関連組織へのインタビューを予定
9	インタビュー結果のとりまとめ、	インタビュー参加者による報告（結果の集約）
10	調査準備	グループごとに調査対象者の選定作業
11	調査準備	アポイントの取り方、インタビュー項目の作成
12	インタビュー実施へ向けた準備作業	インタビュー日程の設定と質問項目の完成
13	調査を実施するために	インタビュー日程の確定
14	夏休み課題準備	インタビューの実施
15	論文構成と春学期レポートの提出	独自の調査へ向けて
16	夏休み中の課題発表	夏休み中の課題
17	テーマの再検討	各自の研究テーマ
18	研究領域の見直し	文献検索
19	学部研究発表へ向けて	テーマの選定
20	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
21	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
22	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
23	学部研究発表準備	プレゼンテーションの方法
24	学部研究発表準備	プレゼンテーションの方法
25	学部研究発表会	各自のテーマ
26	学部研究発表会の反省会	プレゼンテーションの問題点
27	論文とは何か	研究を仕上げる
28	論文とは何か	書くということ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ゼミで出された課題を個人あるいはグループで実施するため、準備作業（サブ・ゼミ）が重要となる。

【テキスト（教科書）】

田嶋ゼミ 2010 年度演習 2（調査演習）報告書『グローバル化の中の池袋』ほか各年度で作成したゼミの報告書（これらは配布または貸し出し予定）

【参考書】田嶋淳子「池袋・新宿調査からの 20 年」『社会と調査』第 4 号、2010 年。
田嶋淳子、2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店。**【成績評価の方法と基準】**演習のすべての段階における参加度（30%）、
春学期レポート（30%）および最終レポート（40%）**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

MAN300EB,MAN300EC,MAN300ED

演習2・3（卒業論文）

多田 和美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【Outline and objectives】

The aim of this course is to enhance various skills of students, such as logical thinking and problem solving in international business by combining theoretical knowledge with practical knowledge. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Review of literature on international business
- 2)Empirical studies (qualitative/quantitative)
- 3)Challenge to various presentation contests
- 4)Writing a graduation thesis

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、オンライン形式で実施します。

受講生には、詳細をメール等によって連絡しています。

本授業は、「国際社会における多国籍企業の経営戦略と組織」をテーマとしています。国際経営論を主要領域とし、今日の世界変化を踏まえて、社会と企業がともに発展していくための国際経営活動を考察することを目的とします。授業では、学内外の研究発表大会での発表を射程として実証研究（定性／定量研究）を実施するとともに、ゼミでの学習の集大成として卒業論文を執筆します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営の基本知識と企業の国際経営の実際に関する情報の両者を融合し、
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を説得的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

当面の間、オンラインによる演習形式で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	研究テーマの設定①	関心領域の特定化
第3回	研究テーマの設定②	リサーチ・クエスションの発見
第4回	研究の方法論①	学術研究の作法
第5回	研究の方法論②	定性研究
第6回	研究の方法論③	定量研究
第7回	先行研究の検討①	先行研究の発見事実
第8回	先行研究の検討②	先行研究の課題
第9回	先行研究の検討③	研究課題の設定
第10回	実証研究①	パイロット・スタディ
第11回	実証研究②	定性／定量研究
第12回	実証研究③	定性／定量研究
第13回	実証研究④	定性／定量研究
第14回	小括	進捗状況の報告
第15回	実証研究⑤	定性／定量研究
第16回	実証研究⑥	定性／定量研究
第17回	実証研究⑦	定性／定量研究
第18回	研究報告①	進捗報告とディスカッション
第19回	研究報告②	進捗報告とディスカッション
第20回	研究報告③	進捗報告とディスカッション
第21回	研究報告④	進捗報告とディスカッション
第22回	研究報告⑤	進捗報告とディスカッション
第23回	研究報告⑥	進捗報告とディスカッション
第24回	研究報告⑦	進捗報告とディスカッション
第25回	研究報告⑧	進捗報告とディスカッション
第26回	研究報告⑨	最終報告とディスカッション
第27回	研究報告⑩	最終報告とディスカッション
第28回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究課題に向けて相応の授業時間外の学習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

必要に応じて、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%，研究発表の内容・完成度：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、適宜連絡します。

SES300EB, SES300EC, SES300ED

演習2

田中 充

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習では、環境問題を中心とした社会問題について社会科学及び環境政策の視点から掘り下げ、問題の構造を分析・考察します。関連する専門文献の講読を行い環境問題に関する知識を深めるとともに、より専門的な観点から研究論文を執筆します。

【到達目標】

環境問題の専門知識と環境マインドについて学びます。具体的な社会問題を取り上げ構造や要因を調査・分析し、1 万字程度の論文を執筆することにより、社会科学的思想法やプレゼンテーション能力、調査研究技法、論文執筆手法等を向上させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、年間を通して文献講読、討論・発表、グループ研究を行い、演習成果として研究論文を執筆します。希望により現地見学等を行います。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。新規のゼミ生は募集しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミの進め方とスケジュール、注意事項等を確認します。
2	研究テーマの検討	ゼミ研究の基本的進め方を確認し、研究テーマについて検討します。
3	研究テーマ絞り込みと講読文献の検討	ゼミ生の関心に沿って研究テーマを絞り込み、研究対象を選定します。講読文献を決定します。
4	研究計画の検討・発表	研究テーマの内容を検討し、発表します。研究作業は基本的にサブゼミで行います。
5	文献講読 (1)	文献の講読を行います。並行してプレゼンテーション資料の作成に取り組みます。
6	文献講読 (1)	文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
7	文献講読 (1)	文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
8	文献講読 (1)	文献の講読を行います。論文構想発表の準備をします。
9	論文研究構想の中間報告	論文研究について中間報告を行い、意見交換します。
10	文献講読 (2)	第2文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
11	文献講読 (2)	第2文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
12	プレゼンテーションの実施	春学期のプレゼンテーション資料について発表します。
13	文献講読 (2)	第2文献の講読を行います。論文構想発表の準備をします。
14	論文研究構想の春学期報告	春学期まとめとして研究報告を行い、今後の進め方について意見交換します。ゼミ生の希望により現地見学等を行います。
15	秋学期の進め方と講読文献の確認	秋学期の進め方について確認し、講読文献を選定します。
16	論文研究構想の発表	研究の進捗状況を報告し、討論します。
17	文献講読 (3)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
18	文献講読 (3)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
19	文献講読 (3)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
20	文献講読 (3)	専門文献の講読を行います。論文構想発表の準備をします。
21	論文研究構想の発表	研究内容の中間報告として論文構想を発表します。希望により現地見学、ヒアリング等を実施します。

22	文献講読 (4)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
23	文献講読 (4)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
24	文献講読 (4)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
25	文献講読 (4)	専門文献の講読を行います。プレゼンテーション資料の作成を行います。
26	プレゼンテーションの実施	秋学期のプレゼンテーション資料について発表します。
27	研究の最終報告と討論	研究の最終報告を行い、討論します。論文書式の相互点検を行います。
28	ゼミ論文の提出と発表	研究論文を完成し、ゼミ発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題等に関する理解を深めるために、指定の課題図書について事前に講読します。研究テーマにそって文献調査、メール調査等を行い、1 万字程度の論文を執筆します。文献講読、レジュメ等の作成、論文構想準備、論文執筆等の授業外学習が必要です。発表等に間に合うよう前日までに印刷作業を完了するなど計画的に準備を進めます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講読文献は受講生と相談しながら決定します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>

授業参加（平常点）：30%、研究活動・討論：30%、ゼミ論文：40%

<評価基準>

・授業参加は出席した上で積極的な学習と発言することを評価します。満点を 30 点とし、欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回分）は 1 回ごとに - 5 点をつけます。無断欠席は厳禁であり - 15 点（欠席 3 回分）とします。
・欠席の多い受講態度は成績評価の対象外とします。
・研究活動は、文献発表の取り組みや調査活動への積極的な参加について、満点 30 点で評価します。
・ゼミ論文の提出を満点 40 点として、論文構成、論理性、事例研究、文章表現などをポイントに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

メール受信環境の確保と常時の確認は必須です。

【Outline and objectives】

This Seminar 2 introduces academic reading and writing on social issues, especially environmental problems to students taking this course. Students are required to write research paper.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではグループ研究を通じて、個々の受講者がメディアに関する理解を深めることを目的とする。グループ研究の成果については報告書を刊行し、広く周知する。

【到達目標】

個々の受講者が主体的にグループ研究に参加することで、研究に必要となる方法論の理解、論理的思考、文章力などを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この演習ではテーマに沿った文献の輪読を行うとともに、グループ研究の報告を繰り返し行い、その完成度を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今年度の演習を進めていくための基盤整備	ゼミ運営
第2回	研究テーマ決定	グループ研究
第3回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』序章/第1章	文献輪読
第4回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第2章/第3章	文献輪読
第5回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第4章/第5章	文献輪読
第6回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第6章/第7章	文献輪読
第7回	研究初回報告（1）	グループ研究
第8回	研究初回報告（2）	グループ研究
第9回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第8章/第9章	文献輪読
第10回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第10章/第11章	文献輪読
第11回	文章論評会（1）	研究準備
第12回	文章論評会（2）	研究準備
第13回	研究中間報告（1）	グループ研究
第14回	研究中間報告（2）	グループ研究
第15回	後期に関する打ち合わせ	ゼミ運営
第16回	夏季休暇研究成果報告（1）	グループ研究
第17回	夏季休暇研究成果報告（2）	グループ研究
第18回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第12章/第13章	文献輪読
第19回	文献輪読『基礎ゼミメディアスタディーズ』第14章/終章	文献輪読
第20回	研究中間報告（1）	グループ研究
第21回	研究中間報告（2）	グループ研究
第22回	卒論執筆のための文献輪読（1）	文献輪読
第23回	卒論執筆のための文献輪読（2）	文献輪読
第24回	卒論執筆のための文献輪読（3）	文献輪読
第25回	卒業後の進路について考える	キャリアガイダンス
第26回	卒論執筆のための文献輪読（4）	文献輪読
第27回	研究最終報告（1）	グループ研究
第28回	研究最終報告（2）	グループ研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成、グループ研究の実施、打ち合わせ、報告書の作成等、授業時間外での長時間の活動が必要になる。また、新歓合宿および夏合宿への参加も求められる。フィールドワークについては、グループ研究や合宿時においてインタビュー調査を実施する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石田佐恵子／岡井崇之編（2020）『基礎ゼミメディアスタディーズ』（世界思想社）／その他、ゼミで指定する。

【参考書】

必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、年度末レポート（70%）。なお、遅刻・欠席が多い者については演習への参加を取りやめてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help participants learn the advanced media studies through their own research projects. The results of their research will be published as a research report at the end of the school year.

PSY300EB, PSY300EC, PSY300ED

演習 2

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広義の社会心理学の文献（専門書、学術論文）の講読とそれにもとづく討論を通じて、自分の関心を学術的に位置づけ、問いに鍛え上げていくことを目指す。この活動を通して、研究手続きに習熟すること、文献の読解力を養うこと、コミュニケーションや議論のスキルを磨くことを目標とする。

【到達目標】

- ・人の行動・認知・感情を社会心理学的に解釈できる
- ・心理学の研究手法を理解できる
- ・文献の読解力を向上させる
- ・プレゼンテーションや議論のスキルを磨く

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・指定の文献および各自の問題関心に関連する文献の講読を行なう。発表担当者はレジュメやパワーポイントの資料を作成・発表し、全員で議論を行なう。
- ・秋学期は並行して経験的データの収集と分析に取りくむ。
- ・必要に応じて教員が研究手法の解説を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、自己紹介、役割分担
2	文献講読の説明	文献の読み方・レジュメの作成方法の説明
3	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
4	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
5	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
6	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
7	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
8	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
9	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
10	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
11	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
12	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
13	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション
14	文献講読	担当者による文献の報告、質疑応答、ディスカッション。夏休みの課題の説明
15	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
16	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
17	研究構想の報告	研究の構想の報告、質疑応答、ディスカッション
18	研究構想の報告	研究の構想の報告、質疑応答、ディスカッション
19	研究構想の報告	研究の構想の報告、質疑応答、ディスカッション
20	研究計画の報告	研究の計画の報告、質疑応答、ディスカッション
21	研究計画の報告	研究の計画の報告、質疑応答、ディスカッション
22	研究計画の報告	研究の計画の報告、質疑応答、ディスカッション
23	データの収集	データを収集する
24	データの収集	データを収集する
25	データの収集	データを収集する
26	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする

- 27 ゼミ論のプレゼン ゼミ論の要旨をプレゼンする
28 ゼミ論の提出・総括 ゼミ論を提出する。年度のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題を発表する準備を行なう。
- ・適宜課される課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・初回の授業で指示します。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質（70%）、ゼミ論（30%）で判断します。なお、ゼミ論の提出は必須条件とします。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・方法論を修得するために、教員が担当する別の授業に出席することを求めます。
- ・教員が担当する演習 1 の受講者が企画・運営するイベントへの協力・支援をお願いすることがあります。
- ・これらの点に留意して受講するようにしてください。

【Outline and objectives】

Research seminar on social psychology: We read various articles pertaining to social psychology and hold group discussions. We also explore and investigate research themes. The objective of this seminar is to develop your research skills through engaging with research projects.

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習2

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1.ゼミに引き続き、テーマは「デジタルメディアの実践的研究」です。2.ゼミでは、企画制作のための調査活動（観察・ワークショップなど）に本格的に取り組んでいきます。

【到達目標】

上記の活動を通じて、デジタルメディア環境を前提にした企画力を身につけることが目標です。また、日々の制作活動を通じて、プログラミングやデザインの実践に取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期前半でプロジェクトの企画立案を行い、春学期後半には制作のための調査活動を本格的に行います。調査結果に基づいた制作を明示的に行うことで、企画の社会的意義をより明確化します。春学期後半から秋学期前半にかけて制作作業を行い、秋学期後半で運用と修正を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方について
2	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プロジェクトテーマ領域の解説
3	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域1の事例検討
4	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域2の事例検討
5	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域3の事例検討
6	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/テーマ領域4の事例検討
7	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プロジェクトチーム発足
8	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/「哲学」の設定
9	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/「ビジョン」の設定
10	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査の計画
11	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査とプロトタイプ
12	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査とプロトタイプ
13	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/ユーザー調査とプロトタイプ
14	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/プランの修正
15	ガイダンス	秋学期の進め方について
16	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
17	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
18	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
19	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
20	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
21	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/制作進捗報告とグループ作業
22	試作版完成報告	制作物の試作版プレゼン
23	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/完成へ向けての課題の洗い出し
24	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
25	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
26	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
27	文献輪読/プロジェクト	指定文献輪読/修正作業進捗報告
28	プロジェクト完成報告	最終プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

制作活動は課外の時間に行います。また、文献のレジュメ作成なども課外の時間に行われます。さらに、土日その他を使って、外部講師による技術講習、企業とのワークショップなどが行われることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡邊恵太, 2015, 『融けるデザイナーハード × ソフト × ネット時代の新たな設計論』BNN 新社

【参考書】

必要に応じて具体的に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加（40%）プロジェクトの評価（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

1.ゼミのときと同様、プログラミングやデザインの作業を中心とした制作活動が中心なので、授業時間外での活動が相当程度生じます。また、週末や長期休暇中に勉強会やワークショップが開催されることがありますので、こちらも積極的に参加して下さい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and theory of digital sociology. It also enhances the development of students' skill in sociological analyses of digital media use and user experience design.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2・3 (卒業論文)

中筋 直哉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【学生が準備すべき機器他】

教科書の他、ノートと筆記用具が必須。

【Outline and objectives】

This seminar aims to promote student's graduation thesis by discussing each other.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習 2,3 の共通テーマは「グローバル社会のローカリティ」である。演習 2 では地域社会における多文化共生に関する学術的・実践的知識を深め、卒業論文のテーマを確定する。演習 3(卒論演習)では、個別指導を通して卒業論文のより高い水準での完成をめざす。演習 2 は 2019 年度演習 1 履修者を主たる対象とするが、若干名は追加受け入れ可能。演習 3 は 2018 年度演習 2 履修者を対象とする。

【到達目標】

学術的な精度とオリジナリティのあるレポート、卒業論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

合同演習形式で、春学期は 3 年生は教科書の文献講読。4 年生は個別の卒論準備指導。秋学期は 4 年生の卒論草稿と 3 年生の卒論構想を検討。演習自体はグループディスカッション形式、見学や合宿ではフィールドワークを行う。オンライン授業の第 1 回は 4 月 23 日 (木)4 限の時間通りです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確かめてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	都市社会学の講義	都市社会学の専門的講義
3	都市問題に関する講義	現代日本の都市問題に関する講義
4	教科書 1 の講読 1	4 年生は卒論個別指導
5	教科書 1 の講読 2	4 年生は卒論個別指導
6	教科書 1 の講読 3	4 年生は卒論個別指導
7	教科書 1 の講読 4	4 年生は卒論個別指導
8	教科書 1 の講読 5	4 年生は卒論個別指導
9	教科書 1 の講読 6	4 年生は卒論個別指導
10	教科書 1 の講読 7	4 年生は卒論個別指導
11	教科書 1 の講読 8	4 年生は卒論個別指導
12	現地見学 1	演習 1 と合同の校外学習
13	現地見学の検証 1	校外学習の総括と討論
14	ゼミ合宿の計画	ゼミ合宿の計画
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	卒論中間報告会 1	演習 2,3 合同の討論
17	卒論中間報告会 2	演習 2,3 合同の討論
18	卒論中間報告会 3	演習 2,3 合同の討論
19	卒論中間報告会 4	演習 2,3 合同の討論
20	卒論中間報告会 5	演習 2,3 合同の討論
21	卒論中間報告会 6	演習 2,3 合同の討論
22	現地見学 2	演習 1 と合同の校外学習
23	現地見学の検証 2	校外学習の総括と討論
24	卒論構想検討会 1	4 年生は卒論個別指導
25	卒論構想検討会 2	4 年生は卒論個別指導
26	卒論構想検討会 3	4 年生は卒論個別指導
27	卒論構想検討会 4	4 年生は卒論個別指導
28	まとめ	卒論構想レポートの提出 (4 年生は卒論の提出)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習 2 は卒論構想を A4×2 枚程度のレポートにして紙で提出。

演習 3(卒論演習)は 2 万字程度の卒業論文を執筆。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

1. 宮島喬,2014,『多文化であることとは』岩波書店,2300 円+税。

【参考書】

演習中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習 2 は演習への積極的参加が 60 % (それが見られない場合は D)、レポートの出来が 40 %。演習 3 は卒論の出来が 100 %。オンライン授業の場合も従来の基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教員の発言以上に、履修者の表現と相互討論に重点を置く。

演習 2

南雲 和夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは、「グローバル化を考える」です。
ゼミ I の学習を基にして、年度末に、ゼミ論文の提出。

【到達目標】

目標は、一人ひとりが主体的に学び、発言し、行動できるようになること。Iゼミと合同で行うので、先輩としての役割をきちんと果たすことが求められます。

その上で、ゼミ論文をきちんと仕上げること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミは、I・IIゼミを合同して行いますが、秋学期には分けても行います。秋学期の最初に、ゼミ論文の構想の発表を行い、年度末にゼミ論文（400字×40枚程度）を執筆します。IIIゼミでは、ゼミ論文を下地にして、卒業論文の執筆を柱にしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと自己紹介
2	テキストの輪読 (1)	テキスト 1 章 (1)
3	テキストの輪読 (2)	テキスト 1 章 (2)
4	テキストの輪読 (3)	テキスト 2 章
5	グループ別学習 (1)	テーマ別、グループ別学習 (1)
6	グループ別学習 (2)	テーマ別、グループ別学習 (2)
7	グループ別学習 (3)	テーマ別、グループ別学習 (3)
8	テキストの輪読 (4)	テキスト (4)
9	テキストの輪読 (5)	テキスト (5)
10	テキストの輪読 (6)	テキスト (6)
11	合宿に向けた学習 (1)	夏合宿に向けた基礎文献の講読 (1)
12	合宿に向けた学習 (2)	夏合宿に向けた基礎文献の講読 (2)
13	合宿に向けた学習 (3)	テーマ別のグループ学習 (1)
14	合宿に向けた学習 (4)	テーマ別のグループ学習 (2)
15	合宿のまとめ	秋学期の打ち合わせ
16	ゼミ論文のテーマ発表	ゼミ論文執筆に向けた構想の発表。各回5人程度。
17	ゼミ論文の執筆準備	続き
18	ゼミ論文の執筆準備	続き、文献リストの提出
19	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (1)	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (1)
20	基礎文献の講読 (2)	基礎文献の講読 (2)
21	基礎文献の講読 (3)	基礎文献の講読 (3)
22	合同ゼミの中間発表会	合同ゼミの中間発表会
23	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (4)	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (4)
24	合同ゼミに向けた論点の整理と検討	合同ゼミに向けた論点の整理と検討
25	合同ゼミの模擬発表会	合同ゼミの模擬発表会
26	合同ゼミの準備	合同ゼミの準備
27	合同ゼミの反省会	合同ゼミの反省
28	ゼミの総括	ゼミの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

IIゼミの学生は、ゼミの中で、Iゼミ学生の疑問に応えられるように、しっかりとテキストを予習しておいてください。合同ゼミでは、Iゼミ生の力を引き出しながら、頑張ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。年度末にゼミ論文の提出。

【テキスト（教科書）】

『21世紀、大転換期の国際社会』羽場久美子編著、法律文化社。その他、適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの出席、討論への参加度、発表の内容をみて、総合的に評価します。ゼミは、3回以上、無断で欠席すると、単位が与えられません。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫。

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

西丸 良一

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育・労働・格差に関する社会学の考え方を理解し、自らの関心に基づいて研究を進める

【到達目標】

学生それぞれが関心をもつ様々なテーマに対して、実証的にアプローチする方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で文献購読と研究報告を中心に進めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究関心の報告 担当文献の割り振り	自己紹介 読む文献を選ぶ、報告の順番を決める
2	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
3	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
4	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
5	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
6	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
7	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
8	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
9	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
10	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
11	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
12	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
13	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
14	総括	前期に学んだ内容について議論する
15	後期のスケジュールを決める	グループ決めなど
16	課題設定	グループごとに設定したテーマを報告する
17	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
18	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
19	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
20	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
21	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
22	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
23	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
24	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
25	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
26	研究報告	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する

27	研究報告	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
28	総括	まとめと課題について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期の文献購読に関しては、授業までに全員が必ず読んでおくこと。また、各回の報告者は報告準備を念入りにおこない、授業時には報告資料（レジュメ）を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（35%）、討論への参加（30%）、レポート課題の出来（35%）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

計量的なデータを分析するため、ノート PC を使用する。

【Outline and objectives】

To develop an understanding of the sociological traditions and methodologies in inequality

SOS300EB, SOS300EC, SOS300ED

演習 2

橋爪 絢子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

We will pick up some issue that is controversial and needs more research and discussions in our everyday life. Through the research, we will understand the relationship between society, media, and their users, and promote a better understanding of the User Centered Design (UCD).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活における疑問や関心ごとをテーマに、ユーザ中心設計と絡めながら研究していきます。研究を通じて、社会とメディア、そのユーザの関連性を理解し、ユーザ中心設計についての理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 研究を行うための方法論を理解する
- (2) 自身の考えを人にわかりやすく伝える技術を身に付ける
- (3) 質問や議論をする技術を身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020年度の初回は、4/23(木)にオンラインで行います。

授業は演習形式で行います。ゲストの招聘を行うなど、授業計画を変更することがあります。

各自でテーマを検討し、研究計画を立てながら、調査研究を実施していきます。毎回、各自の研究の進捗状況について、発表形式で報告してもらいます。個人での報告だけではなく、メンバーの研究に対する理解と質疑への参加も必須となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	方針の確認、自己紹介
2	研究発表 1	テーマの検討、質疑
3	研究発表 2	テーマの検討、質疑
4	研究発表 3	研究計画の報告、質疑
5	研究発表 4	研究計画の報告、質疑
6	研究発表 5	進捗報告、質疑
7	研究発表 6	進捗報告、質疑
8	研究発表 7	進捗報告、質疑
9	研究発表 8	進捗報告、質疑
10	研究発表 9	進捗報告、質疑
11	研究発表 10	進捗報告、質疑
12	春学期のまとめ 1	春学期の成果報告、質疑
13	春学期のまとめ 2	春学期の成果報告、質疑
14	春学期のまとめ 3	夏休み中の課題の確認
15	ガイダンス 2	方針の確認
16	研究発表 11	夏休み中の成果と今後の計画の発表、 質疑
17	研究発表 12	夏休み中の成果と今後の計画の発表、 質疑
18	研究発表 13	進捗報告、質疑
19	研究発表 14	進捗報告、質疑
20	研究発表 15	進捗報告、質疑
21	研究発表 16	進捗報告、質疑
22	研究発表 17	進捗報告、質疑
23	研究発表 18	進捗報告、質疑
24	研究発表 19	進捗報告、質疑
25	研究発表 20	進捗報告、質疑
26	秋学期のまとめ 1	秋学期の成果報告、質疑
27	秋学期のまとめ 2	秋学期の成果報告、質疑
28	秋学期のまとめ 3	論文執筆への準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、自身の活動の内容を伝えるための資料の準備が必要です。ゼミ合宿や研究発表会への参加に加えて、学外での活動も必要となってきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

課題への取り組みやグループへの貢献、メンバーへのコメント等を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を取り入れながら行っています。

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、社会的企業・NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを向上させる。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを向上させる。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①インタビューの技術の向上
各自、研究テーマを設定し、独自の質問票を作成する。
アポイントメントを取り、質問票に基づいてインタビューを実施する。
- ②プレゼンテーションの技術の向上

PowerPoint を使ってプレゼンテーションを行う。
学部主催の「ゼミ研究発表会」で、インタビュー結果を報告する。

- ③論文の書き方の習熟
ゼミ論（18,000 字）を執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	旧ゼミ論の報告会①	PowerPoint による報告
3	旧ゼミ論の報告会②	PowerPoint による報告
4	旧ゼミ論の報告会③	PowerPoint による報告
5	先行研究の輪読①	テキスト講読
6	先行研究の輪読②	テキスト講読
7	先行研究の輪読③	テキスト講読
8	先行研究の輪読④	テキスト講読
9	先行研究の輪読⑤	テキスト講読
10	先行研究の輪読⑥	テキスト講読
11	先行研究の輪読⑦	テキスト講読
12	ゼミ論計画の合評会①	各自の研究テーマを検討
13	ゼミ論計画の合評会②	各自の研究テーマを検討
14	ゼミ論計画の合評会③	各自の研究テーマを検討
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	インタビューの方法論	アポイントメントの取り方
17	質問票の合評会①	各自の質問票を検討
18	質問票の合評会②	各自の質問票を検討
19	質問票の合評会③	各自の質問票を検討
20	ゼミ論の個人面談①	質問票の修正
21	ゼミ論の個人面談②	質問票の修正
22	ゼミ論の個人面談③	質問票の修正
23	ゼミ論の進捗状況報告会	ゼミ論の進捗状況を確認
24	研究発表会準備①	PowerPoint 作成
25	研究発表会準備②	PowerPoint 作成
26	ゼミ論の報告会①	ゼミ論の分析結果報告
27	ゼミ論の報告会②	ゼミ論の分析結果報告
28	ゼミ論の報告会③	ゼミ論の分析結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①インタビューの実施、②ゼミ論の執筆（18,000 字）
- ②本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①ゼミ論文（80 %）
- ②プレゼンテーション（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】
Second-year seminar

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習 2

藤田 真文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初回授業は 4 月 22 日（水）4 限からオンライン授業を開始します。春学期はマス・メディア産業（放送、広告、IT など）の現状を様々な資料を駆使して分析します。秋学期は放送番組の企画書を作成して放送関係者の外部評価をもらいます。

【到達目標】

マス・メディア産業（放送、広告、IT など）の現状を分析するとともに、番組を企画し外部評価を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①テキストのレポーター報告 ②グループ作業による取りまとめを繰り返しながら、理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度ゼミの進行	ガイダンス
第 2 回	放送産業調査	現状分析
第 3 回	放送産業分析①	現状分析
第 4 回	放送産業分析②	現状分析
第 5 回	広告産業調査	現状分析
第 6 回	広告産業分析①	現状分析
第 7 回	広告産業分析②	現状分析
第 8 回	IT 産業調査	現状分析
第 9 回	IT 産業分析①	現状分析
第 10 回	IT 産業分析②	現状分析
第 11 回	放送産業分析発展①	現状分析
第 12 回	放送産業分析発展②	現状分析
第 13 回	広告産業分析発展①	現状分析
第 14 回	広告産業分析発展②	現状分析
第 15 回	放送関係者からのオリエンテーション	ガイダンス
第 16 回	視聴行動の分析	企画書作成
第 17 回	視聴者層の分析	企画書作成

発行日：2020/5/1

第18回	企画意図の確定	企画書作成
第19回	企画詳細の調査	企画書作成
第20回	企画詳細の確定	企画書作成
第21回	番組展開の発想	企画書作成
第22回	番組展開の確定	企画書作成
第23回	企画書報告①	企画書作成
第24回	企画書報告②	企画書作成
第25回	放送関係者からの評価	企画書作成
第26回	卒業研究・テーマ発表①	卒業研究準備
第27回	卒業研究・テーマ発表②	卒業研究準備
第28回	卒業研究・テーマ発表③	卒業研究準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 授業のシラバスを熟読する
第2回～14回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第15回～25回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第26回～28回 卒業研究に向けた準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

各回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①レポーター報告（評価の40%）②グループ作業への貢献（評価の40%）③授業内での発言（評価の20%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送業界や企業と連携した企画提案のアクティブラーニング、フィールドワークにおいてアドバイスを与えている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of media analysis.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位
曜日・時限：金3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市問題・都市環境問題・まちづくりの社会学

【到達目標】

専門文献（邦語および英語）の基礎的読解方法の習得と、それを自分の研究計画に反映させる道筋をつけられるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文へ向けての第二段階です。英文文献も含め、文献を読破し、さらに方法論を深く学びます。授業開始は4月24日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	社会学と（都市）環境問題に関する重要文献の講読。リストは開講時に配付し、参加者との合議で決定します。
第2回	文献講読（1）	環境問題に関する重要文献の講読
第3回	文献講読（2）	環境問題に関する重要文献の講読
第4回	文献講読（3）	環境問題に関する重要文献の講読
第5回	文献講読（4）	環境問題に関する重要文献の講読
第6回	文献講読（5）	環境問題に関する重要文献の講読
第7回	文献講読（6）	環境問題に関する重要文献の講読
第8回	文献講読（7）	環境問題に関する重要文献の講読
第9回	文献講読（8）	環境問題に関する重要文献の講読
第10回	文献講読（9）	環境問題に関する重要文献の講読
第11回	文献講読（10）	環境問題に関する重要文献の講読
第12回	文献講読（11）	環境問題に関する重要文献の講読
第13回	文献講読（12）	環境問題に関する重要文献の講読
第14回	春学期のまとめ・総合討論	総合討論
第15回	導入	秋学期への導入
第16回	ゼミ論文の執筆指導（1）	各人の問題意識に基づいたゼミ論文を執筆します（「2ゼミ修了論文」）。個別に相談にのり、場合によって添削指導をする場合もあります。指導の眼目は、各自のアイデアに私が介入・干渉することではなく、「そのアイデアを展開するにはどうしたら良いのか・いかに説得的に論述できるか」といった「君自身のアイデアの洗練化」です。ですから、自分のテーマのない学生や自ら積極的に取り組まない学生には、指導がなされませんから注意してください。
第17回	ゼミ論文の執筆指導（2）	ゼミ論文の執筆指導
第18回	ゼミ論文の執筆指導（3）	ゼミ論文の執筆指導
第19回	ゼミ論文の執筆指導（4）	ゼミ論文の執筆指導
第20回	ゼミ論文の執筆指導（5）	ゼミ論文の執筆指導
第21回	ゼミ論文の執筆指導（6）	ゼミ論文の執筆指導
第22回	ゼミ論文の執筆指導（7）	ゼミ論文の執筆指導
第23回	ゼミ論文の執筆指導（8）	ゼミ論文の執筆指導
第24回	ゼミ論文の執筆指導（9）	ゼミ論文の執筆指導
第25回	ゼミ論文の執筆指導（10）	ゼミ論文の執筆指導
第26回	ゼミ論文の執筆指導（11）	ゼミ論文の執筆指導
第27回	ゼミ論文の執筆指導（12）	ゼミ論文の執筆指導
第28回	総括討論	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

綿密な予習・復習及び各自のフィールドワークが必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して決定します

【参考書】

演習中に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】

学年末提出の「2ゼミ修了論文」(50%) および演習での議論への貢献度(50%)

【学生の意見等からの気づき】

定期的にゼミ運営について、ゼミ生と話し合いを持ちます。

【その他の重要事項】

正規の時間以外に週1回実施するサブゼミに参加できること
原則として新規募集はしませんが、年度によっては募集する場合があります。事務課前のゼミ掲示板に注意してください。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing and the fundamentals of academic research to students taking this seminar. It enhances the development of students' skill in carrying out fieldworks by themselves. At the end of the seminar, students should be able to do the following:

- ・ recognize and recall major terms and concepts in sociology,
- ・ describe and explain major methods and theories.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

宮下 阿子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、ケアや支援への社会的なアプローチをテーマとする。ケアや支援が必要とされるような状況を社会問題としてとらえかえし、そこにおける人びとの相互行為や人びとを取り巻く社会構造を読み解く。

【到達目標】

ひとりひとりの学生が、具体的な課題に根ざしながら、医療や福祉などの個別領域にとどまるのではなく、社会全体を問いなおすものとして、自分なりにテーマを立てる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、ケアや支援への社会的アプローチや現場へのアプローチの基礎を学ぶための文献講読、また、情報収集や分析のためのワークショップを中心に進める。

秋学期は、各自の研究報告とその検討を中心に進める。各々、具体的な題材やテーマを選び、学期末にゼミ論にまとめる。

(なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて、若干の変更がありうる。)

※この授業は4月21日(火)から始めます。受講生は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期について	概要の説明
第2回	ワークショップ①	題材とテーマの設定
第3回	ワークショップ②	身近な事柄を題材として①
第4回	文献講読①	報告と議論①
第5回	文献講読②	報告と議論②
第6回	ワークショップ③	身近な事柄を題材として②
第7回	文献講読③	報告と議論③
第8回	文献講読④	報告と議論④
第9回	ワークショップ④	身近な事柄を題材として③
第10回	文献講読⑤	報告と議論⑤
第11回	文献講読⑥	報告と議論⑥
第12回	ワークショップ⑤	各班の発表①
第13回	ワークショップ⑥	各班の発表②
第14回	まとめ	夏休みに向けて
第15回	秋学期について	概要の説明
第16回	自由報告 1-①	素案の報告①
第17回	自由報告 1-②	素案の報告②
第18回	自由報告 1-③	素案の報告③
第19回	文献・資料の収集	各自の作業と個別相談
第20回	自由報告 2-①	各自の報告と議論①
第21回	自由報告 2-②	各自の報告と議論②
第22回	自由報告 2-③	各自の報告と議論③
第23回	自由報告 2-④	各自の報告と議論④
第24回	自由報告 2-⑤	各自の報告と議論⑤
第25回	自由報告 2-⑥	各自の報告と議論⑥
第26回	自由報告 2-⑦	各自の報告と議論⑦
第27回	自由報告 2-⑧	各自の報告と議論⑧
第28回	まとめ	研究成果の発表とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに沿った学習を要する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表、発言、参加姿勢など）
課題点 50%（ゼミ論、その他の課題）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習 2

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の認知や行動についての調査方法を習得し、実際に各自でテーマ設定を行い、仮説検証型の研究を進める。

【到達目標】

各種懸賞論文等への投稿を目指し、文献調査、仮説の構築、調査・分析まで行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

専門書の輪読により消費者の心理や行動についての理解を深め、調査手法を学ぶ。また、一年間に渡り、各自が設定したテーマに沿って研究を進める。毎週の授業時には進捗状況報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読①	文献の輪読
3.	文献講読②	文献の輪読
4.	文献講読③	文献の輪読
5.	文献講読④	文献の輪読
6.	テーマ設定と討議	テーマ発表
7.	テーマ設定と討議	テーマ発表
8.	テーマ設定と討議	テーマ発表
9.	テーマ設定と討議	テーマ発表
10.	仮説構築①	各自の研究仮説の発表
11.	仮説構築②	各自の研究仮説の発表
12.	仮説構築③	各自の研究仮説の発表
13.	調査法①	消費者行動調査方法の検討
14.	調査法②	消費者行動調査方法の検討
15.	調査結果発表①	調査結果の発表・グループ討論
16.	調査結果発表②	調査結果の発表・グループ討論
17.	調査結果発表③	調査結果の発表・グループ討論
18.	分析法①	調査結果の詳細な分析方法の検討
19.	分析法②	調査結果の詳細な分析方法の検討
20.	分析法③	調査結果の詳細な分析方法の検討
21.	論文作成 1	進捗状況報告
22.	論文作成 2	進捗状況報告
23.	論文作成 3	進捗状況報告
24.	論文作成 4	進捗状況報告
25.	論文作成 5	進捗状況報告
26.	論文作成 6	進捗状況報告
27.	論文作成 7	進捗状況報告
28.	研究発表	成果発表・グループ討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アンケート調査や実証実験などを行う。
また、学年横断型グループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況報告内容 60%
授業への参加姿勢 40%
で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline and objectives】

To obtain fundamental knowledge about survey and enhance the development of students' skill in carrying out a quantitative survey of consumers.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定と論文作成に必要なデータ、文献収集等、分析についての方法を学びつつ、論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を習得する。研究のための仮説立案力、分析力、思考力と論文作成力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

設定した卒業論文のテーマに基づき研究を進め、首尾一貫した仮説を論証するアカデミックな論文作成を行なう。自身の仮説を様々な方法を用いて論証することでテーマを設定して解決に向けた考え抜く力とその内容を的確に伝達する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告に関連した卒業論文のテーマとなる問題意識を明確にし、演習受講者同士の積極的・主体的なディスカッションを通じて具体的なテーマと仮説を定める。設定した卒業論文のテーマの論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を学んだ上で、研究の進捗に沿ってより具体的な論文内容のプレゼンテーションを段階的に行なう。最終的な完成論文に対して口頭試問を行なう。授業開始日を4月21日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文とは何か、執筆の進め方
第2回	論文のテーマ設定とは	問題意識に沿った論文テーマの設定の仕方
第3回	問題意識と論文テーマの発表(1)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第4回	問題意識と論文テーマの発表(2)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第5回	問題意識と論文テーマの発表(3)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第6回	問題意識と論文テーマの発表(4)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第7回	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方
第8回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(1)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第9回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(2)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第10回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(3)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第11回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(4)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第12回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(1)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第13回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(2)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第14回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(3)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第15回	論文執筆のオリエンテーション	前期に決定した基本概要に沿った論文執筆の方法をガイダンス
第16回	論文発表の方法	前期に執筆した段階での論文発表の方法をガイダンス
第17回	論文内容の中間発表(1)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第18回	論文内容の中間発表(2)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第19回	論文内容の中間発表(3)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第20回	論文内容の中間発表(4)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第21回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(1)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認

第22回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(2)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第23回	論文内容の最終発表(1)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第24回	論文内容の最終発表(2)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第25回	論文内容の最終発表(3)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第26回	論文内容の最終発表(4)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第27回	論文内容の最終発表(5)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第28回	論文内容の最終発表(6)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集、読み込み、論文執筆は、演習時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。論文作成の指導を積極的に受け、自ら主体的に資料、参考文献収集、調査等を実行することを求める。なお、個別面談は事前にメールで調整する。

【Outline and objectives】

Students will learn how to gather literature and analyze data necessary for selecting a theme and preparing their graduation thesis. At the same time, students will acquire the basics of citation method and the overall composition required for producing a paper. The class aims to provide hypothesis planning skills, analytical skills, thinking skills and ability to prepare a research paper.

EDU400EB, EDU400EC, EDU400ED

演習3（卒業論文）

荒井 容子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2で執筆したゼミ論を発展させ、卒業論文に結実させる。

【到達目標】

共同討議の力を借りて問題意識を明確化し、自分の力で研究方法を工夫し、分析を深め、課題を追求し、その成果を明快な論文にまとめあげる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

卒業論文に向けた研究報告を交代で行い、集団討議の中で助言しあっていく。提出論文については演習1・2の受講生も含め、全員で口頭試問を行う。※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業開始日は4月23日で、事前の打合せ会も含め、実施方法はすでに学習支援システムの「お知らせ」で提示済みである。またそれにとりま各回の授業計画の変更もその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総括と今後のテーマ	ゼミ論総括と卒論テーマの確認
2	卒業研究経過報告1	研究テーマと設定理由 1
3	卒業研究経過報告1	研究テーマと設定理由 2
4	卒業研究経過報告2	先行研究文献の把握 1
5	卒業研究経過報告2	先行研究文献の把握 2
6	卒業研究経過報告3	先行研究文献の検討 1
7	卒業研究経過報告3	先行研究文献の検討 2
8	卒業研究経過報告4	テーマ再確認、再設定と理由 1
9	卒業研究経過報告4	テーマ再確認、再設定と理由 2
10	卒業研究経過報告5	研究の方法と射程について 1
11	卒業研究経過報告5	研究の方法と射程について 2
12	卒業研究経過報告6	卒業論文骨子について 1
13	卒業研究経過報告6	卒業論文骨子について 2
14	卒業研究経過報告7	卒業論文にむけた研究方法の再確認
1	卒論執筆過程について	執筆プロセスの確認
2	卒論執筆経過報告1	章立てと序章 1
3	卒論執筆経過報告1	章立てと序章 2
4	卒論執筆経過報告2	執筆した章の報告 1
5	卒論執筆経過報告2	執筆した章の報告 2
6	卒論執筆経過報告3	執筆した章の報告 1
7	卒論執筆経過報告3	執筆した章の報告 2
8	卒論執筆経過報告4	執筆した章の報告ほか 1
9	卒論執筆経過報告4	執筆した章の報告ほか 2
10	卒論執筆経過報告5	結論部分の報告と論文の再構成 1
11	卒論執筆経過報告5	結論部分の報告と論文の再構成 2
12	卒業論文 最終検討	最終の文章推敲
13	卒業論文 最終検討	最終の文章推敲
14	卒業論文提出	論文集編集作業と口頭試問の打合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文執筆に向けて、常に思考し、調査し、文献検索・分析に取り組むこと。本授業の準備学習は報告時には計16時間以上、秋学期後半、卒論執筆の追い込み時には毎日5時間以上が必要となる。復習は次の報告のための準備時間の中に含まれる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各自の論文執筆の経過に合わせて助言する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の質（50%）、口頭試問での自己分析（15%）・他者の論文に対する評価（15%）、講義時の相互検討における理解度・学習成果（他者の学習への貢献も含め）及び論述能力（計20%）も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動による研究中断をカバーし、研究継続を励ます必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用するのでアクセス、eメールアドレスの登録を確実にしておくこと。

【Outline and objectives】

Students are required to engage in own research and report at the class in turn for the class discussion. Students are required to write the graduation thesis.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習3（卒業論文）

荒木 暢也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカのプリント・メディアの日本関連記事を分析し、そこにあらわれる日本のイメージを論じる。

当該授業（演習3）においては、このテーマの元に卒業論文を執筆する。

【到達目標】

1. 現代ジャーナリズムの特徴と問題点を把握すること
2. 米国ジャーナリズムと日本のジャーナリズムの差違を的確に把握すること
3. 日米関係に関する基本的な知識を獲得すること
4. 報道とは何か？といった基本的な問題点に気付くこと
5. 日米関係を通して見る国際的視野に気付くこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別対応による卒業論文指導を行う。

個別指導につき、各学生の能力と執筆の進度にしたがって、適切な指導を行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

なお、以下に書き示す具体的な授業計画は、春学期全てがオンラインで行われることを前提としています。教室での授業が再開された時には、速やかにその後の計画を説明します。

一日も早い通常ゼミの再開を願います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論指導 1	個別指導 1：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
2	卒論指導 2	個別指導 2：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
3	卒論指導 3	個別指導 3：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
4	卒論指導 4	個別指導 4：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
5	卒論指導 5	個別指導 5：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
6	卒論指導 6	個別指導 6：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
7	卒論指導 7	個別指導 7：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
8	卒論指導 8	個別指導 8：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
9	卒論指導 9	個別指導 9：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
10	卒論指導 10	個別指導 10：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
11	卒論指導 11	個別指導 11：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
12	卒論指導 12	個別指導 12：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
15	卒論指導 13～15	個別指導 13～15：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
16	卒論指導 16	個別指導 16：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。

17	卒論指導 17	個別指導 17：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
18	卒論指導 18	個別指導 18：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
19	卒論指導 19	個別指導 19：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
20	卒論指導 20	個別指導 20：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
21	卒論指導 21	個別指導 21：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
22	卒論指導 22	個別指導 22：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
23	卒論指導 23	個別指導 23：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
24	卒論指導 24	個別指導 24：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
25	卒論指導 25	個別指導 25：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
26	卒論指導 26	個別指導 26：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
27	卒論指導 27	個別指導 27：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。
28	卒論指導 28	個別指導 28：各学生に対し、執筆出来た部分に対する評価と次回に向けた改善点を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サブゼミ必須、夏季ならびに冬季合宿授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリント配布

【参考書】

司馬遼太郎、『アメリカ素描』、新潮社文庫

D.J. プーアスティン著、星野郁美、後藤和彦 訳、『幻影の時代—マスコミが製造する事実』、現代社会科学叢書

W. リップマン著、掛川トミ子 訳、『世論』（上）、（下） 岩波文庫

ルース・ベネディクト 著、長谷川 松治 訳、『菊と刀』、講談社学術文庫

『メディア・コミュニケーション—その構造と機能』、法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

・卒業論文執筆内容評価 100 %

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59 以下: D

未受験、採点不能: E

【学生の意見等からの気づき】

卒論内容評価に関しては、各学生に個別面接を行い、評価結果とその理由についての説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜使用

【Outline and objectives】

In this course, a student will write a graduation thesis concerning about an media article of his/her choice.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究と執筆を指導する。【到達目標】
卒業論文を完成し提出すること。【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>【授業の進め方と方法】
各自の卒業論文に関する報告と討論。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	年間スケジュールの作成	役割分担、各自のテーマの確認と共有、発表順番の確定
2	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
3	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
4	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
5	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
6	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
7	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
8	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
9	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
10	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
11	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
12	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
13	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
14	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
15	春学期の総括と秋学期の課題	春学期の各自の進捗状況の確認と共有、秋学期の発表順番の確定
16	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
17	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
18	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
19	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
20	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
21	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
22	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
23	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
24	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
25	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
26	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
27	最終執筆指導（1）	報告と討論、執筆指導
28	最終執筆指導（2）	報告と討論、執筆指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の卒業論文に関する文献・資料収集とその他の調査研究活動。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。【テキスト（教科書）】
各自の論文テーマに即して適宜指示する。【参考書】
各自の論文テーマに即して適宜指示する。【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容によって 100 % 評価します。【学生の意見等からの気づき】
卒業論文は学生生活の集大成です。各自が納得のできる卒業論文を仕上げられるよう力を尽くしてください。テーマの選び方や問いの立て方には、唯一の正解はありません。自らの問題意識に基づいて問い学ぶという貴重な経験を存分に楽しんでください。卒論にかんする迷いや悩みが生じたときには、できるだけ早めに相談してください。【Outline and objectives】
Instructing research and writing of graduation thesis.

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作活動を通してメディアリテラシーの向上と、社会人として通用するための実践的コミュニケーション能力を磨きます。

【到達目標】

「映像が好き」段階から「映像を作る」となって、3ゼミは「映像を仕事にする」というのが基本スタンスです。その意味で、「就活」を明確な学習目標に掲げています。

ここ数年、毎年、10 人近くがテレビ局に就職し、その他、広告代理店、出版社、番組制作会社、レコード会社など、全体で 8 割ほどがメディア業界に進んでいます。また、卒業後も頻繁に同期会／同窓会がおこなわれ、現役ゼミ生と O B、あるいは O B 間の交流はきわめて盛んです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

就職活動の個人指導と卒論指導が中心です。ただ、2005 年以降、ゼミ生自らが自主映像祭を企画＝実行しており、3 年間の映像制作活動の集大成としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	就活の現状報告	本年度就活の動向とアドバイス
3	卒論ガイダンス- 1	卒論のオリエンテーション
4	卒論ガイダンス- 2	卒論テーマの構想プレゼン
5	卒論ガイダンス- 3	卒論テーマの構想プレゼン
6	卒論ガイダンス- 4	卒論テーマの構想プレゼン
7	映像イベントのガイダンス	映像イベントの時期とテーマを検討
8	就活面談- 1	就活に関する個人面談
9	就活面談- 2	就活に関する個人面談
10	就活面談- 3	就活に関する個人面談
11	就活面談- 4	就活に関する個人面談
12	就活面談- 5	就活に関する個人面談
13	就活面談- 6	就活に関する個人面談
14	就活面談- 7	就活に関する個人面談
15	映像イベントのガイダンス	2003 年から続いている卒業制作イベント「eizou+」の歴史と概要
16	イベント企画会議- 1	映像作品の内容確定
17	イベント企画会議- 2	仕事の分担決定と初回企画会議
18	卒論構想の発表- 1	メディア論関連の卒論構想
19	卒論構想の発表- 2	コンテンツ論関連の卒論構想
20	卒論構想の発表- 3	現代若者論関連の卒論構想発表
21	卒論構想の発表- 4	上記以外の卒論構想発表
22	映像イベント会議- 1	映像制作の進捗状況報告
23	映像イベント会議- 2	広報活動の戦略
24	映像イベント会議- 3	映像イベントの最終チェック
25	映像イベント会議- 4	映像作品の試写
26	映像イベント eizou+	上映会本番
27	2ゼミ生との合同ゼミ	就活報告&アドバイス
28	卒論仮発表	卒論の最終構想の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3ゼミでは自主映像イベント以外の課外活動はありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

稲増龍夫『就活は最強の教育プログラムである』（中央公論新社）

【参考書】

卒論テーマに則して個人的にアドバイスします。

【成績評価の方法と基準】

卒論（60％）とイベント実施への貢献（40％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習につき実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

高度な映像編集ソフトをインストールしたノートパソコン（Macbook Pro など）を個人的に所有していることが望ましい

【その他の重要事項】

進路はマスコミ関係が多く、NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京など全国60を超える放送局に80人以上の人材を輩出。その他、電通、博報堂、朝日新聞、読売新聞、集英社、文藝春秋、ソニーミュージック、吉本興業、アミューズ、ホリプロなどの主要マスコミ、ならびに、近年はグーグル、フェイスブックス、アマゾン、ヤフー、サイバーエージェント、楽天などのIT企業への就職・転職も盛んです。2018年におこなわれたゼミ35周年記念パーティには350人を超える出席者があり、OBからすれば現役生は高感度モニターであり、現役生からすればOBは頼りになる就活アドバイザーです。

【Outline and objectives】

Practical Study of Media Literacy by Video Production

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

宇野 斉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：月2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別のテーマごとに研究発表を通じて研究を進め、卒業論文としてまとめます。

【到達目標】

論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末に各自研究内容をまとめ卒業論文を作成します。自己の研究のみならず、メンバーの研究への理解とコメントも必須です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	学生と教員で受講者ごとの進行計画を確認します。
02	以前の研究と今後	前年度までの研究内容のまとめと今後の目標・テーマ発表をします。
03	発表、質疑、議論(01)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論(02)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論(03)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論(04)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論(05)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論(06)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論(07)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論(08)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論(09)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論(10)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論(11)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
14	春学期のまとめと秋学期への課題の確認	秋学期への夏休み中の課題を確認します。
15	卒業論文作成にむけての確認	夏休み中の成果と論文の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論(12)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論(13)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論(14)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論(15)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論(16)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論(17)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論(18)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論(19)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論(20)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論(21)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
26	発表、質疑、議論(22)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	卒業論文の整備	提出予定の卒業論文について形式と記述を整備します。

28 口頭試問の準備 口頭試問の準備をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布が必要です。発表後翌週に、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布が必要です。研究内容によっては実地調査が必要な場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

個別に適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

演習Ⅱを履修していることが前提です。

授業計画は、受講者の状況と進行の状況によって、若干の変更があります。

【Outline and objectives】

Participants make research presentations sequentially. The participants finish the graduation thesis at the end.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3（卒業論文）

遠藤 聡

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題を研究テーマとし、卒業論文の執筆と議論を中心にゼミを進めていきます。とくに自分自身の研究テーマに関連した研究書をそれぞれ読んで、卒業論文の作成に集中してほしいと思います。

【到達目標】

演習1・2の成果を活かし、問題関心を深く掘り下げ、きちんと分析することを目的とします。とくに基本的な文献や資料の読み取り方や議論の構成や分析の仕方などを身につけることを基本的な目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本演習では、それぞれの卒業論文の研究テーマを掘り下げて、卒業論文の執筆を進めていきます。まず、論文のテーマと議論の流れを考えながら、論文の構成である章構成を立てていき、参考文献や資料にあたりながら、詳細なレジュメを作成していきます。夏合宿では、卒業論文の中間報告として、詳細なレジュメの報告を行い、秋学期は、さらに内容を詰めていき、卒業論文の執筆を進めていきます。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	卒業論文の執筆に向けて
第2回	卒業論文のテーマ	論文のテーマについて
第3回	テーマと章構成(1)	論文の視角について
第4回	テーマと章構成(2)	論文の構成について
第5回	テーマと章構成(3)	論文の章・節の構成について
第6回	トピック報告(1)	研究テーマについて
第7回	トピック報告(2)	参考文献について
第8回	トピック報告(3)	各章の内容について
第9回	章構成の2次報告(1)	章構成のレジュメの報告
第10回	章構成の2次報告(2)	詳細なレジュメの作成
第11回	章構成の2次報告(3)	各自の報告と議論
第12回	論文の書き方(1)	論文の形式について
第13回	論文の書き方(2)	引用注の付け方など
第14回	中間報告に向けて	夏合宿について 秋学期の打合せ
第15回	卒論中間報告の詳細レジュメ改訂作業について	卒論中間報告の詳細レジュメ改訂作業について
第16回	トピック報告(1)	論文のテーマについて
第17回	トピック報告(2)	各章の内容について
第18回	詳細レジュメ(1)	全体の構成の再チェック
第19回	詳細レジュメ(2)	論文全体の議論
第20回	詳細レジュメ(3)	各章の内容
第21回	詳細レジュメ(4)	結論
第22回	詳細レジュメ(5)	まとめ
第23回	論文の執筆	参考文献・引用注の書き方など
第24回	執筆の進行(1)	執筆を進めていく
第25回	執筆の進行(2)	論文の形式と注意
第26回	卒論のドラフトチェックと提出に向けて	卒論ドラフト（原稿）チェックと提出に向けて
第27回	卒論の提出	最終的なまとめ
第28回	1年間の振り返り	ゼミの1年間の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文は、ゼミでの報告の準備や執筆も含めて、自分で進める研究が多くなります。頑張りましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習3の性格から、テキストは指定しません。

【参考書】

各自の卒業論文に合わせて、参考文献は適時、紹介します。それぞれの研究テーマに合わせて、自分で参考文献リストの作成とレビューを進めるとともに、必要に応じて参考文献や資料について助言します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①ゼミの報告準備・議論参加（30％）、②卒業論文・口述試験（70％）などから総合的に評価します。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の卒業論文への取り組みと積極的な議論参加に期待しています。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of final-year students. This course is to study analyzing Asian/International social issues with presentations and discussion for graduate dissertations. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit graduate dissertations.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3（卒業論文）

大崎 雄二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国、東アジア地域を対象とし、その社会、文化、政治等について深く考察する。先行研究を十分に踏まえた上で、各自個別のテーマについてさらに綿密に調査、整理し、卒業論文としてまとめる。

【到達目標】

十分な先行研究解題を前提とし、学術論文の作法、技法を駆使しながら、内容の深い学術論文としての卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現代中国、東アジア地域を対象とした地域研究、国際社会研究をテーマとして卒業論文を作成する学生のための演習。定期的な報告と相互学習、議論を重ねながら、個別の論題についてさらに詳しく調査、分析を重ね、最終的には卒業論文としてまとめる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマの決定（1）	テーマの報告、討論（1）
2	テーマの決定（2）	テーマの報告、討論（2）
3	テーマの決定（3）	先行研究調査、文献解題（1）
4	テーマの決定（4）	先行研究調査、文献解題（2）
5	テーマの決定（5）	論文構想の検討（1）
6	テーマの決定（6）	論文構想の検討（2）
7	経過報告（1）	執筆経過報告（1）
8	経過報告（2）	執筆経過報告（2）
9	経過報告（3）	執筆経過報告（3）
10	経過報告（4）	執筆経過報告（4）
11	経過報告（5）	執筆経過報告（5）
12	経過報告（6）	執筆経過報告（6）
13	経過報告（7）	執筆経過報告（7）
14	経過報告（8）	執筆経過報告（8）
15	中間発表（1）	執筆経過報告（1）
16	中間発表（2）	執筆経過報告（2）
17	中間発表（3）	執筆経過報告（3）
18	執筆経過報告（1）	進捗状況報告（1）
19	執筆経過報告（2）	進捗状況報告（2）
20	執筆経過報告（3）	進捗状況報告（3）
21	執筆経過報告（4）	進捗状況報告（4）
22	形式の確認（1）	形式の細部の確認（1）
23	形式の確認（2）	形式の細部の確認（2）
24	執筆経過報告（5）	進捗状況報告（5）
25	執筆経過報告（6）	進捗状況報告（6）
26	執筆経過報告（7）	進捗状況報告（7）
27	執筆経過報告（8）	進捗状況報告（8）
28	執筆経過報告（9）	進捗状況報告（9）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書 講読指定図書、参考図書その他の書籍について
2. 調査
 - (1) 図書館にある関連書籍の調査・把握、データベース等の活用
 - (2) 聴き取り調査、アンケート調査等のさまざまな実地調査
3. 授業支援システム、Blog、BBS等を利用した時間外の討議、意見交換
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

共有すべき共通テキストがあれば、提示する。

【参考書】

参考文献リストは、個別、テーマ別に可能な限り詳細に提示する。

【成績評価の方法と基準】

十分な先行研究解題、具体的事実の調査、独自の視点の展開等学術論文としての要件を十全に備えた卒業論文であるかどうか（75％）、それに参加（10％）と協働（発表等15％）の要素を加え、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムやその他のインタラクティブな方法で時間外の意見交換等をさらに活発におこなっていききたい。

【その他の重要事項】

履修希望者は、期日までに研究計画書を提出すること。

2019年度に「演習2」を履修しておらず、「演習3」で初めて履修する学生は、必ず事前にメールで連絡、相談のこと。

【Outline and objectives】

SEMINAR 3 Complete your graduation thesis on your theme.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3（卒業論文）

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

【到達目標】

現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、2万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4月22日開始です。

受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①受講生からのテーマ報告。	卒論構想の報告と討論 (1)
3	卒論構想の検討②参考文献の報告。	報告と討論 (2)
4	卒論構想の検討③先行研究の整理について。	報告と討論 (3)
5	プレカリアートの時代①階級論。	テキストについての論点提起と議論 (1)
6	プレカリアートの時代②新自由主義論。	論点提起と議論 (2)
7	プレカリアートの時代③多国籍企業論。	論点提起と議論 (3)
8	プレカリアートの時代④権力論。	論点提起と議論 (4)
9	グローバル・ベーシック・インカム (GBI) 入門①ベーシック・インカム論。	テキストについての論点提起と議論 (1)
10	GBI 入門②ナミビアの事例。	論点提起と議論 (2)
11	GBI 入門③ブラジルの事例。	論点提起と議論 (3)
12	GBI 入門④インドの事例。	論点提起と議論 (4)
13	卒論構想の再検討①テーマと章立て。	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論 (1)
14	卒論構想の再検討②先行研究の整理。	報告と討論 (2)
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①テーマと章立て。	夏のあいだに進めた卒論作成の中間報告と討論 (1)
17	卒論の中間報告②論理的一貫性。	報告と討論 (2)
18	卒論の中間報告③実証性。	報告と討論 (3)
19	卒論の中間報告④学術論文という形式。	報告と討論 (4)
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と議論 (1)
21	GBI 構想の射程②ベーシック・インカム論	論点提起と議論 (2)
22	GBI 構想の射程③開発戦略論。	論点提起と議論 (3)
23	GBI 構想の射程④開発援助論。	論点提起と議論 (4)

- 24 GBI 構想の射程⑤多国籍 論点提起と議論（5）
企業論。
- 25 卒論草稿の検討①テーマ 卒論草稿の報告と討論（1）
と構成。
- 26 卒論草稿の検討②論理性 報告と討論（2）
と実証性。
- 27 卒論草稿の検討③先行研究の整理 報告と討論（3）
- 28 卒論草稿の検討④学術論文形式。 報告と討論（4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期終了後には、大学の懸賞論文に応募できる水準のものを作成する。11月末までに卒論を完成させる。したがって、授業外の時間を用いて、自分の興味のあるテーマについて資料を集め、ひたすら論文の作成作業をする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年（刊行予定）。

【参考書】

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】

卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式（引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある）と内容（論理的に首尾一貫している）があれば、単位取得が可能な60%とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新鮮さ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100%で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

早めに草稿を完成させ、仕上げているように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権NGOでの活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class for academic writing in order to support the participants in writing the graduation Thesis.

HUI400EB, HUI400EC, HUI400ED

演習3（卒業論文）

小川 有希子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：月2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像と、その物語および環境に、認知科学の立場からアプローチし、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

映像と物語に関して、データや実験・制作映像・シミュレーションなどを基に認知科学的観点から分析し、それを学術論文としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文の作成を行う。
映像と、その物語の関係を分析し、修辞と効果に認知科学の立場からアプローチする。また、卒業論文に向け、分析・実験・制作・シミュレーションなどとその記述を精緻化していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの内容について
第2回	卒論に向けて	卒論に向けた解説
第3回	ゼミ論の復習	先年度のまとめと今後に向けた議論
第4回	春学期の計画	春学期の研究計画に関する議論
第5回	研究計画発表1	個人発表
第6回	研究計画発表2	個人発表
第7回	研究計画発表3	個人発表
第8回	研究計画発表4	個人発表
第9回	映像上映 学外	学外での映像認知体験
第10回	映像認知の議論	映像認知体験について
第11回	映像データ発表1	映像とデータの発表
第12回	映像データ発表2	映像とデータの発表
第13回	映像データ発表3	映像とデータの発表
第14回	映像データ発表4	映像とデータの発表
第15回	春学期の復習	夏合宿の総括
第16回	秋学期の計画	秋学期の研究計画に関する議論
第17回	研究経過発表1	個人発表
第18回	研究経過発表2	個人発表
第19回	研究経過発表3	個人発表
第20回	研究経過発表4	個人発表
第21回	研究経過発表5	個人発表
第22回	映像上映 祭	映画祭など
第23回	映像と環境について	映像環境に関する議論
第24回	研究成果発表1	研究成果の議論
第25回	研究成果発表2	研究成果の議論
第26回	研究成果発表3	研究成果の議論
第27回	研究成果発表4	研究成果の議論
第28回	卒論提出に向けたまとめ	卒論についてのこれまでの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人研究を進めておくこと。また、サブゼミ課題を指定した場合は、成果をグループでまとめてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文(50%)と、通常のゼミでの発表および議論・課題内容(50%)などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人面談の回数を増やすと共に、よりきめ細かい指導をしていきたい。

【Outline and objectives】

This seminar deals with the film and image theory, narratology and cognitive science.

SOW400EB, SOW400EC, SOW400ED

演習3（卒業論文）

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆に必要な基本的な技法を身に付け、卒業論文を執筆する。

【到達目標】

演習1・演習2での学びを踏まえて、自らの問いをさらに深く追求する。
1年間かけて、自らの問いと向き合いながら、卒業論文を完成させる。
論文のテーマは原則的に自由（各自が1年間かけて取り組みたい、と思えるものであれば）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自が、自分の問いと向き合いながら研究を遂行し、その成果を卒業論文としてまとめていく。毎回の授業は、各自の研究の進捗状況の報告と検討を中心に進めていく。目安としては、春学期中に研究計画を完成させ、夏季休暇中に研究を進め、秋学期後半は各自の草稿を検討する。

※ 4/30 に初回授業を行います。詳細は、学習支援システムのお知らせ欄を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明、卒業論文の説明
第2回	問いの設定(1)	先行研究の整理と、問いの設定
第3回	問いの設定(2)	先行研究の整理と、問いの設定
第4回	問いの設定(3)	先行研究の整理と、問いの設定
第5回	問いの設定(4)	先行研究の整理と、問いの設定
第6回	問いの設定(5)	先行研究の整理と、問いの設定
第7回	卒業論文の技法(1)	優秀卒業論文集からピックアップした複数の論文の輪読・批評
第8回	卒業論文の技法(2)	優秀卒業論文集からピックアップした複数の論文の輪読・批評
第9回	研究計画の発表(1)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第10回	研究計画の発表(2)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第11回	研究計画の発表(3)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第12回	研究計画の発表(4)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第13回	研究計画の発表(5)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第14回	夏季休暇中の作業について(1)	夏季休暇中に取り組むべき課題の整理
第15回	イントロダクション(秋学期)	イントロダクション(秋学期)
第16回	研究の中間報告(1)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第17回	研究の中間報告(2)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第18回	研究の中間報告(3)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第19回	研究の中間報告(4)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第20回	研究の中間報告(5)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第21回	論文の書き方について	論文執筆における基本的マナーについて改めて確認
第22回	初稿の相互批評(1)	初稿の提出、相互批評
第23回	初稿の相互批評(2)	初稿の提出、相互批評
第24回	研究の最終報告(1)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第25回	研究の最終報告(2)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第26回	研究の最終報告(3)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第27回	研究の最終報告(4)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第28回	ふりかえり	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成まで、各自の研究テーマについて計画的な学習を要します。
また、ゼミ生同士での相互批評と相互扶助を大事にしてほしいと思っています。
本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組み等）は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、発表の内容（10%）、相互批評の内容（20%）、卒業論文の内容（60%）等から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to prepare students for writing a graduation thesis related to their research interests.

SEE400EB, SEE400EC, SEE400ED

演習3（卒業論文）

勝又 暢之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 5/Tue.5**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

これまでの演習で習得した生物学、生態学、環境科学に関するアカデミックスキルを使って、多摩キャンパスとの自然環境や生態系サービスについて理解を深めるための研究を行う。実践的環境リテラシーを高めることができる。

【到達目標】

自然環境や生物に関するテーマを研究し、深く理解することにより、環境問題の解決に向けた新たな規範やライフスタイルを大胆に発想する想像力と実践できる行動力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

年数回、卒業研究の進捗状況についての発表会を行い、各自の研究についてゼミ生と教員が徹底した議論を行う。そこで指摘されたことをフィードバックして研究内容の向上に役立てる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月5日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要について	卒業研究と論文の作成についての説明
第2回	研究計画の立案	一年間の研究計画と卒論作成計画の立案
第3回	研究計画の立案	一年間の研究計画と卒論作成計画の立案
第4回	研究計画の発表会	一年間の研究計画について発表し、教員と学生で議論する。
第5回	研究計画の発表会	一年間の研究計画について発表し、教員と学生で議論する
第6回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第7回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第8回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第9回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第10回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第11回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第12回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第13回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第14回	卒業研究の中間発表会（1回目）	卒業研究の進捗状況についてパワポを使ってプレゼンし、助言を得る
第15回	卒論作成計画の立案	卒業論文の完成に向けてスケジュールを策定する
第16回	卒論作成計画の発表会	卒業論文の作成計画を発表し、必要な準備についてチェックする
第17回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う。
第18回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第19回	卒業研究の指導	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第20回	卒業研究の中間発表会（2回目）	卒業研究の進捗状況について発表し、教員と学生で議論する
第21回	データ解析の指導	データを解析し、図表化する作業を行う
第22回	データ解析の指導	データを解析し、図表化する作業を行う
第23回	データ解析の指導	データを解析し、図表化する作業を行う
第24回	卒業論文の執筆指導	卒業論文の作成を指導する

第25回	合同ゼミ	演習2と3を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う
第26回	合同ゼミ	演習2と3を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う
第27回	卒業研究の中間発表会（3回目）	卒業研究の成果をパワポで発表し、いろいろな助言を卒論のまとめに生かす
第28回	卒業研究の最終発表	卒業研究の成果をパワポで発表し、いろいろな助言を反映させた卒論をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

専門知識を得るために生物や自然に関する書籍を最低5冊は読むこと。卒業論文は最低でも2～3回の修正を加える予定であるが、授業以外の時間を使うことが多いので各自留意しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

「生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系」宮下直ほか著、朝倉書店（2012）；「森のバランス」森林立地学会編、東海大学出版（2012）；「地球温暖化懐疑論批判」明日香壽川ほか著、東京大学 IR3S/TIGS 叢書（2009）

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（80%）、平常点（20%）
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必要に応じて）

【その他の重要事項】

自然や生物を対象とするため、授業スケジュール等の変更がありうる。

【Outline and objectives】

In this course, each student will do an independent research project on a topic related to biology and environmental sciences. For this, students will choose their own topic, conduct a few presentations and write a senior thesis.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1年をかけて卒業論文を作成する能力を蓄積し、論理的にプレゼンテーションできる能力を養います。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

自分で設定した卒業論文のテーマについて、先行研究を消化し、仮説を立て、論証する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

卒業論文の執筆が主たる課題です。執筆途中の論文原稿の添削を繰り返すことで完成度を高めていきます。ゼミの時間には、進捗状況の報告プレゼンと研究に関する相談を受け付けます。最終段階で学生相互によるピアレビューを行い、完成度を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒論の執筆に向けて指針を示す
第2回	卒論テーマプレゼン 1	各自の卒論テーマを紹介
第3回	卒論テーマプレゼン 2	各自の卒論テーマを紹介
第4回	卒論の全体構成 1	卒論の章立や全体像構想
第5回	卒論の全体構成 2	卒論の章立や全体像構想
第6回	卒論研究の中間報告 1	卒論研究の中間報告
第7回	卒論研究の中間報告 2	卒論研究の中間報告
第8回	卒論研究の中間報告 3	卒論研究の中間報告
第9回	卒論研究の中間報告 4	卒論研究の中間報告
第10回	卒論研究の中間報告 5	卒論研究の中間報告
第11回	卒論研究の中間報告 6	卒論研究の中間報告
第12回	卒論研究の中間報告 7	卒論研究の中間報告
第13回	卒論第一稿提出	論文提出初回
第14回	卒論第一稿チェック	卒論の添削
第15回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第16回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第17回	卒論中間報告 8	卒論研究の中間報告
第18回	卒論中間報告 9	卒論研究の中間報告
第19回	卒論中間報告 10	卒論研究の中間報告
第20回	卒論中間報告 11	卒論研究の中間報告
第21回	卒論中間報告 12	卒論研究の中間報告
第22回	卒論添削	論文の仕上がりをチェック
第23回	卒論添削	論文の仕上がりをチェック
第24回	卒論添削	導入・手法の章チェック
第25回	卒論添削	結果の章チェック
第26回	卒論添削	考察の章チェック
第27回	卒論添削	全章を完成させる
第28回	卒論提出直前面談	最終提出にむけたチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論は、自分が大学で学んだことの総集編です。卒論の完成度を高めるためには、提出間際まで努力を要します。一定レベルに達した論文を卒業論文と認定します。最後の最後で大化けする可能性もありますので、あきらめずに取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの研究テーマに添った文献を指示します。

【参考書】

論文やレポートの書き方指南書を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

卒論研究への取組み（30%）やプレゼンスキル（30%）、卒論本文の完成度（40%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒論執筆には、構想・調査/実践・粗稿執筆・推敲・プレゼン・校了、といった多くのプロセスからなり、思った以上に日時を要します。

【学生が準備すべき機器他】

卒論はワープロで執筆すること。

【Outline and objectives】

To make your graduation thesis and to bluish up your presentation skill.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学部ゼミ学習の集大成として、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

演習1・2で学んだことを基礎として、各自の問題関心にもとづいて独自に調査・研究を行い、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	卒業論文初回報告(1)	研究計画書についての報告と検討
3	卒業論文初回報告(2)	研究計画書についての報告と検討
4	卒業論文初回報告(3)	研究計画書についての報告と検討
5	卒業論文初回報告(4)	研究計画書についての報告と検討
6	卒業論文中間報告(1)	研究経過の報告と検討
7	卒業論文中間報告(2)	研究経過の報告と検討
8	卒業論文中間報告(3)	研究経過の報告と検討
9	卒業論文中間報告(4)	研究経過の報告と検討
10	卒業論文第2回中間報告(1)	研究経過の報告と検討
11	卒業論文第2回中間報告(2)	研究経過の報告と検討
12	卒業論文第2回中間報告(3)	研究経過の報告と検討
13	卒業論文第2回中間報告(4)	研究経過の報告と検討
14	春学期の総括	春学期の成果の検討と今後のスケジュールの確認
15	卒業論文第3回中間報告(1)	研究経過の報告と検討
16	卒業論文第3回中間報告(2)	研究経過の報告と検討
17	卒業論文第3回中間報告(3)	研究経過の報告と検討
18	卒業論文第3回中間報告(4)	研究経過の報告と検討
19	卒業論文第4回中間報告(1)	研究経過の報告と検討
20	卒業論文第4回中間報告(2)	研究経過の報告と検討
21	卒業論文第4回中間報告(3)	研究経過の報告と検討
22	卒業論文第4回中間報告(4)	研究経過の報告と検討
23	卒業論文最終報告(1)	原稿の検討
24	卒業論文最終報告(2)	原稿の検討
25	卒業論文最終報告(3)	原稿の検討
26	卒業論文最終報告(4)	原稿の検討
27	卒業論文発表会について	発表方法の説明と準備
28	卒業論文発表会	卒業論文の発表と相互討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、各課題および卒業論文の完成に向けて、計画的に文献探索・収集、購読、調査、執筆等をすすめることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜指示する

【その他の重要事項】

卒業論文執筆のためのゼミであるため、執筆予定者以外は履修しないこと。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to write graduation thesis.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3（卒業論文）

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるようなゼミ生を育成することが目標です。学生を少人数のグループに分け、執筆している論文に対して、対話、またはディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】

世界を見渡すと、日本のように経済が発展している国となかなか経済が発展できない国があります。「どうしてこんなに格差が出たのか?」「このような格差を埋めるには、どのようにするのがよいか?」経済発展にまつわる様々な問題について事実と経済理論の両面から考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、対象となる要因（公共サービス、教育・健康、環境など）や社会問題（貧困問題や高齢化問題など）を決めます。次に、対象となる国や地域（地方自治体）を決めます。それに基づいて、Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。このようにゼミ生同士の相互作用を重視します。この他に取り上げたテーマに応じて「現場」を見ることも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方など
2	研究テーマの報告①	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
3	研究テーマの報告②	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
4	研究テーマの報告③	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
5	研究テーマの報告④	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
6	研究テーマの報告および討論①	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
7	研究テーマの報告および討論②	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
8	研究テーマの報告および討論③	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
9	研究テーマの報告および討論④	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
10	研究テーマの報告および討論⑤	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
11	研究テーマについて検討①	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。

12	研究テーマについて検討②	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。
13	研究テーマについて検討③	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。
14	研究テーマについて検討④	他のメンバーと討論したことを踏まえて、再び関心のあるテーマについて報告します。
15	収集したデータを中心に整理・報告①	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
16	収集したデータを中心に整理・報告②	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
17	収集したデータを中心に整理・報告③	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
18	収集したデータを中心に整理・報告④	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
19	収集したデータを中心に整理・報告⑤	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
20	論文作成①	論文作成の進捗状況を報告します。
21	論文作成②	論文作成の進捗状況を報告します。
22	論文作成③	論文作成の進捗状況を報告します。
23	論文作成④	論文作成の進捗状況を報告します。
24	論文作成⑤	論文作成の進捗状況を報告します。
25	研究発表①	卒論の発表を行います。
26	研究発表②	卒論の発表を行います。
27	研究発表③	卒論の発表を行います。
28	研究発表④	卒論の発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告は各自のテーマについて Word や Excel を使って発表します。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況、卒業論文の内容（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline and objectives】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. In this class, students will be divided into small groups to understand the paper they write, and discuss the paper to interpret and describe the significance of their findings.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

工藤 悟志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では「社会における技術とイノベーションのマネジメント」に関するテーマを扱います。社会現象を自ら読み解き、分析し、自分なりの考えにまとめて説明・発信すること、これらの一連の作業を自分一人で行えるようになることが本演習の最終目標です。そのためには、1) 社会科学的なモノの見方・考え方を身につける、2) 分析する力をつける、3) 論理的に説明・発信する力をつける、この3つをそれぞれ鍛えていきます。

6月頃から卒業論文に関する発表と指導を行います。おおよそ月に1回のペースでレポート（章）を事前提出し、それをもとに進捗報告をおこない、教員と学生でディスカッションし、教員のコメント（文章の修正案の提示を含む）もフィードバックしていきます。

【到達目標】

卒業論文の執筆プロセスを通して、自ら問題を設定し、分析し、解決案を出す、一連のプロセスを身につけることを最終目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文執筆のために必要な理論と方法論に関する研究や論文について議論します。また、各自の進捗に合わせた発表をおこない、それについて教員とゼミ生全員でディスカッションをして、ブラッシュアップしながら卒業論文を完成させます。

授業開始日は、5月1日（金）です。おもに学習支援システムを通じたオンライン形式で授業を実施します。必要に応じて、リアルタイムのオンライン授業でディスカッションをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス	卒業論文の目的と年間計画
第02回	論文のテーマ設定 (1)	問題意識を明確にする
第03回	論文のテーマ設定 (2)	問題意識を明確にする
第04回	既存研究レビュー (1)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する
第05回	既存研究レビュー (2)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する
第06回	既存研究レビュー (3)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する
第07回	既存研究レビュー (4)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する。
第08回	輪読 (1)	リサーチ・デザインに関する文献の輪読をする
第09回	輪読 (2)	リサーチ・デザインに関する文献の輪読をする
第10回	輪読 (3)	リサーチ・デザインに関する文献の輪読をする

第 11 回	リサーチクエスト を設定する (1)	既存研究では明らかになっていないことを発見し、具体的なリサーチクエストを設定する。
第 12 回	リサーチクエスト を設定する (2)	既存研究では明らかになっていないことを発見し、具体的なリサーチクエストを設定する
第 13 回	フィールドワークの技 法	フィールド調査を実施するための方法論を学ぶ
第 14 回	フィールドワーク計画	夏に実施するフィールドワーク計画を立てる
第 15 回	論文執筆に向けたガイ ダンス	前期に設定した骨子に沿って論文としてまとめるためのガイダンスをおこなう
第 16 回	卒業論文の発表 (1)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 17 回	卒業論文の発表 (2)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 18 回	卒業論文の発表 (3)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 19 回	卒業論文の発表 (4)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 20 回	卒業論文の発表 (5)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 21 回	卒業論文の発表 (6)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 22 回	卒業論文の発表 (7)	論文の進捗報告と発表、ディスカッション
第 23 回	卒業論文の最終発表 (1)	論文の発表とブラッシュアップのためのディスカッションをおこなう
第 24 回	卒業論文の最終発表 (2)	論文の発表とブラッシュアップのためのディスカッションをおこなう
第 25 回	卒業論文の最終発表 (3)	論文の発表とブラッシュアップのためのディスカッションをおこなう
第 26 回	卒業論文の最終発表 (4)	論文の発表とブラッシュアップのためのディスカッションをおこなう
第 27 回	卒業論文の最終発表 (5)	論文の発表とブラッシュアップのためのディスカッションをおこなう
第 28 回	卒業論文の最終発表 (6)	論文の発表とブラッシュアップのためのディスカッションをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読は、内容を紹介するレジюмеを作成する、その内容の中で問題を設定して議論するレポートを作成する、ことを要求します。

6 月以降、卒業論文の執筆にあたり、おおよそ月に 1 回のペースでレポート（卒業論文の章）を作成し、提出してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、発表 30 %、論文内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ゼミ生にはすべての回のゼミに参加する意欲と、卒業論文に最後まで真剣に取り組む姿勢を求めます。

【Outline and objectives】

This course deals around the theme of “management of technology and innovation in society”. Through the course, students are going to develop: 1) mind-set and way of thinking in social science, 2) analysing skills, and 3) skills for explaining and presenting things logically. By the end of this course, students will be able to understand, analyse, frame, explain and present the social phenomenon related to technology and innovation.

Guidance for writing and presenting graduation thesis starts from June onward, Students were asked to submit a chapter of the thesis approximately once a month. Feedback and comments on thesis and discussion among students are going to be provided.

ART400EB, ART400EC, ART400ED

演習3（卒業論文）

高 美智

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ1、ゼミ2での学習の集大成として卒業論文の作成を行う。

【到達目標】

各自テーマを設定し、具体的な問いをたてて研究を行い、その成果を論文にまとめる。

設定した問題関心（問い）について、歴史的、理論的、美学的視座から論理的に考察・検証するとともに、映画テキストの詳細な分析を行うことが必須。感想でも批評でもなく、映画についての「研究論文」として卒論を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

各自、自分の研究テーマについて研究をすすめ、論文を完成する。中間報告を定期的に行い、他のゼミ生との質疑応答から改善点を得て研究に役立てる。別途、教員の個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	春学期のについての説明
第2回	研究計画書の作成	研究計画書の作成
第3回	先行研究の整理	先行研究を収集し整理する
第4回	先行研究のまとめ	既存の研究をまとめ自分の問いを再確認する
第5回	第1章(1): 進捗報告1	第1章の構成報告・討議
第6回	第1章(2): 進捗報告2	第1章の映像分析・考察を報告・討議
第7回	第1章(3): 初稿発表	第1章のドラフトを発表・討議
第8回	第1章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第9回	第1章(5):完成・発表	第1章を完成・発表
第10回	第2章(1): 進捗報告1	第2章の構成報告・討議
第11回	第2章(2): 進捗報告2	第2章の映像分析・考察を報告・討議
第12回	第2章(3): 初稿発表	第2章のドラフトを発表・討議
第13回	第2章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第14回	第2章(5):完成・発表	第2章を完成・発表
第16回	第3章(1): 進捗報告1	第3章の構成報告・討議
第16回	第3章(2): 進捗報告2	第3章の映像分析・考察を報告・討議
第17回	第3章(3): 初稿発表	第3章のドラフトを発表・討議
第18回	第3章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第19回	第3章(5):完成・発表	第3章を完成・発表
第20回	序論(1)	序論の問いの背景部分を執筆・報告
第21回	序論(2)	序論のドラフト完成・報告
第22回	序論(3)	序論の完成と報告
第23回	結論(1)	結論部分のドラフト作成と報告
第24回	結論(2)	結論の完成と報告
第25回	論文全体の初稿完成	論文全体の初稿完成
第26回	研究報告1	初稿をもとに発表・討議
第27回	論文全体の改稿	前回の発表・討議をもとに改稿
第28回	研究報告2	完成した卒業論文の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、卒業論文の完成に向けて計画的に、映画視聴・分析、文献探索、購読、考察、執筆を計画的にすすめること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 70 %

ゼミへの参加（中間報告等）30 %

* 論文提出はゼミ参加（中間報告）を前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The course offers students the opportunity of personal advanced study and writing a dissertation on a topic of their own choice in Film Studies. The dissertation should be written strictly from an academic perspective involving historical, theoretical and aesthetic analyses. The length of the dissertation should be more than 20,000 letters.

HSS400EB, HSS400EC, HSS400ED

演習3（卒業論文）

越部 清美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

各自が、自分の興味や関心あるテーマを設定し、卒業論文を仕上げる。

【到達目標】

卒業論文を仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

個別指導が中心であるが、毎回、各自の研究の進捗状況について報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間の予定の説明
第2回	研究報告	テーマ設定についての報告1
第3回	研究報告	テーマ設定についての報告2
第4回	研究報告	テーマ設定についての報告3
第5回	研究報告	テーマ設定についての報告4
第6回	研究報告	構想についての報告1
第7回	研究報告	構想についての報告2
第8回	研究報告	構想についての報告3
第9回	研究報告	構想についての報告4
第10回	研究報告	構想についての報告5
第11回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告1
第12回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告2
第13回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告3
第14回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告4
第15回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告5
第16回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告6
第17回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告7
第18回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告8
第19回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告9
第20回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告10
第21回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告11
第22回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告12
第23回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告13
第24回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告14
第25回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告15
第26回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告16
第27回	研究報告	卒業論文最終完成版の提出
第28回	試験・まとめと解説	授業の総括として口頭試問を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに関する情報収集を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文70%ゼミへの参加30%（報告、発言等）として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to write a graduation thesis.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

3年次までの漠然とした問題関心を深化させ、卒業研究へと結実させる（できれば3年次までのテーマであった、公共性や公平さに関心のあることが望ましい）。

【到達目標】

卒業論文の完成と、完成までのプロセスを通して、社会現象を客観的に分析し、主張を説得的に提示する技法を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

卒業研究の進捗状況について発表し討議を行う形で進める。授業開始日・すすめ方についてはゼミ生を対象としたメールですすでに通知済みなので再度確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第2回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第3回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第4回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第5回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第6回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第7回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第8回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第9回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第10回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第11回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第12回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第13回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第14回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第15回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第16回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第17回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第18回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第19回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第20回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第21回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第22回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第23回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第24回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第25回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う

第 26 回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第 27 回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第 28 回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文作成に向けて、先行研究の消化と、資料やデータの取集・分析を行い執筆を進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）と論文により評価する（30%：70%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this seminar, students should complete their graduation thesis by deepening sociological insight into one's own theme that they have developed through their work in Seminars 1 and 2.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3（卒業論文）

佐藤 成基

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆に向けた指導を行う。

【到達目標】

卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 論文の書き方のスキルをマスターする。2. 毎回 1～2 名が卒論の進捗状況を報告し、完成に近づける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論完成にむけた予定を確認する。
2	論文作成法	論文作成法について検討する。
3	論文作成法	論文作成法について検討する。
4	文献講読	基本文献の講読
5	文献講読	基本文献の講読
6	文献講読	基本文献の講読
7	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
8	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
9	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
10	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
11	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
12	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
13	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
14	卒論研究報告	卒論の進捗状況を報告する。
15	論文作成法	あらためて卒業論文作成のスタイルについて確認する。
16	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
17	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
18	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
19	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
20	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
21	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
22	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
23	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
24	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
25	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
26	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
27	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。
28	卒業論文の作成	進捗状況を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自卒論執筆に必要な文献を読み、資料を分析し、論文を執筆する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

なお、4 年生の卒論に向けた指導は別途サブゼミを開いて対応する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to guide the students to complete a B.A. thesis as an independent piece of academic work.

PLN400EB, PLN400EC, PLN400ED

演習3（卒業論文）

澤柿 教伸

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで考えます。野外に存在する自然とそれに関連する社会現象が対象となりますが、問題へのアプローチとして、文献資料の収集と分析、電子地図や人工衛星画像の解析、野外での測量や観察などの手法を用います。これらの手法を使いこなすスキルを習得し、それによって知りえた自然や社会現象を考察して、問題の解決や新しいコンセプトの創出につなげる能力を養います。最終的に、その結果を論理的にプレゼンしたり論文としてまとめたりする能力を磨きます。

【到達目標】

地球科学に関する基礎的な思考力・論理展開力・調査手法を習得し、学術的に通用する水準の文章の執筆と討議への参画能力を身につける。社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個々のテーマにそったフィールドワークを実施して卒業論文を執筆することが主たる課題です。執筆途中の論文原稿の添削を繰り返すことで完成度を高めていきます。ゼミの時間には、グループディスカッションやディベート等により、進捗状況の報告をプレゼンし、個別にも研究に関する相談を受け付けます。最終段階で学生相互によるピアレビューを行い、完成度を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒論の執筆に向けて指針を示す
第2回	卒論テーマプレゼン 1	各自の卒論テーマを紹介
第3回	卒論テーマプレゼン 2	各自の卒論テーマを紹介
第4回	卒論の全体構成 1	卒論の章立や全体像構想
第5回	卒論の全体構成 2	卒論の章立や全体像構想
第6回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 1	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第7回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 2	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第8回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 3	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第9回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 4	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第10回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 5	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第11回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 6	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第12回	卒論研究の中間報告および調査地巡検 7	卒論研究の中間報告を行うとともに他の調査対象地域を巡る
第13回	卒論第一稿提出	論文提出初回
第14回	卒論第一稿チェック	卒論の添削
第15回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第16回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第17回	卒論中間報告 8	卒論研究の中間報告
第18回	卒論中間報告 9	卒論研究の中間報告
第19回	卒論中間報告 10	卒論研究の中間報告
第20回	卒論中間報告 11	卒論研究の中間報告
第21回	卒論中間報告 12	卒論研究の中間報告
第22回	卒論添削	論文の仕上がりをチェック
第23回	卒論添削	論文の仕上がりをチェック
第24回	卒論添削	導入・手法の章チェック
第25回	卒論添削	結果の章チェック
第26回	卒論添削	考察の章チェック
第27回	卒論添削	全章を完成させる
第28回	卒論提出直前面談	最終提出にむけたチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論は、自分が大学で学んだことの総集編です。卒論の完成度を高めるためには、提出間際まで努力を要します。一定レベルに達した論文を卒業論文と認定します。最後の最後で大化けする可能性もありますので、あきらめずに取り組んでください。卒論研究の中間報告では、自分の研究の進捗状況をプレゼンするためにゼミの時間までに事前準備をしてください。また自他の調査対象地域を相互に訪問しながら、現地でも討議を行います。これら本授業の準備学習・復習に要する時間はおおむね各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの研究テーマに添った文献を指示します。

【参考書】

・論文やレポートの書き方指南書を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

・卒論研究への取組み（30%）やプレゼンスキル（30%）、卒論本文の完成度（40%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒論執筆には、構想・調査/実践・粗稿執筆・推敲・プレゼン・校了、といった多くのプロセスからなり、思った以上に日時を要します。

【学生が準備すべき機器他】

・卒論はワープロで執筆すること。

【Outline and objectives】

This seminar provides an individual tutorial to write undergraduate thesis. This undergraduate thesis project provides students with knowledge of how to seek scientific facts and how to plan, carry out and present scientific work as well as theoretical and practical specialization within a social subject area.

SES400EB, SES400EC, SES400ED

演習3（卒業論文）

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

年間 4 回の中間報告を行い、卒業論文の作成を行います。

【到達目標】

論文はレポートとは異なります。単に文献を調べてまとめただけでは論文とはいえません。各自の問題関心に基づいて命題を構築し、社会科学の理論的な枠組みを用いて分析し、その命題に対する何らかの答え（結論）が見いだされていること、そしてそれぞれの論点に対してきちんと実証的または理論的サポートがなされているものが論文です。そのような論文の基本的要件を満たし、次のいずれかに当てはまるものを卒業論文とみなします。

- ①ヒアリングに基づいて書かれているもの
- ②アンケート調査を行っているもの
- ③統計的データやその他の既存のデータを用いて論理的に分析しているもの
- ④文献研究のみではあるが、理論的に整理され、オリジナリティのあるまとめ方をしているもの
- ⑤外国語文献を用いて理論または実証的なまとめ方をしているもの

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

年間 4 回卒業論文の中間発表を行い、他のゼミ生と質疑応答を行います。要件に達しないとみなされた場合、中間報告をやり直してまいります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒業論文に向けて	ゼミ論文からどう発展させるか、について報告
2	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
3	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
4	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
5	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
6	中間報告 step1 補足	step1 の追加報告
7	中間報告 step1 補足	step1 の追加報告
8	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
9	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
10	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
11	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
12	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
13	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
14	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
15	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
16	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
17	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
18	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
19	中間報告 step3 の補足	step3 の追加報告
20	中間報告 step3 の補足	step3 の追加報告
21	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
22	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
23	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
24	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
25	最終報告の補足	最終報告の追加報告
26	最終報告の補足	最終報告の追加報告
27	個別相談	卒業論文の仕上げ
28	個別相談	卒業論文の仕上げ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆に必要な文献調査、フィールドワークやデータ収集など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・4 回の中間報告 step をクリアすること

- ・分量 24000 字以上
- ・web 以外の引用文献 30 件程度
- ・書式、文献作法などをきちんと踏まえた論文
- 上記の条件を満たす卒業論文を提出することを単位取得の最低要件とし、最終評定は卒業論文の内容 100 % によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

We will make an interim report four times a year and will write a graduation thesis.

POL400EB, POL400EC, POL400ED

演習3（卒業論文）

志村 真弓

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代国際社会が直面する問題、あるいは国際政治において関係諸主体が直面する問題について、国際関係論分野の先行研究成果を踏まえて構造的に理解したうえで、自ら批判的検討を行う。各自で研究課題を設定し、卒業論文を作成する。

【到達目標】

現代国際社会ならではの地球規模問題群、越境的事象、国際政治・外交問題などについて、先行学術成果を可能な限り広く正確に理解し、これに対する自身の見解を批判的・実証的・論理整合的に論文にまとめ上げることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文の完成に向けて、研究テーマの検討、先行研究の整理、各自の研究見通しの発表とフィードバック（学習支援システム利用）、学術論文の執筆作法の確認を含む執筆作業、研究成果の発表とディスカッションなどを行う。春学期の授業開始日は4月24日とする。授業計画は授業の進捗により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の進め方について
2	学術論文執筆スキル①	学術論文の構成と形式
3	学術論文執筆スキル②	先行研究の見つけ方
4	学術論文執筆スキル③	学術研究における問いの立て方
5	研究テーマの検討①	研究テーマの発表とフィードバック
6	研究テーマの検討②	研究テーマの発表とフィードバック
7	研究テーマの検討③	研究テーマの発表とフィードバック
8	研究テーマの検討④	研究テーマの発表とフィードバック
9	研究テーマの検討⑤	研究テーマの発表とフィードバック
10	研究テーマの検討⑥	研究テーマの発表とフィードバック
11	研究テーマの検討⑦	研究テーマの発表とフィードバック
12	研究テーマの検討⑧	研究テーマの発表とフィードバック
13	研究テーマの検討⑨	研究テーマの発表とフィードバック
14	学術論文スキル④	引用・注釈の作法、参考文献一覧の重要性
15	ガイダンス	個人研究発表の予定調整
16	第1回個人研究発表①	研究課題とアウトラインの発表・質疑
17	第1回個人研究発表②	研究課題とアウトラインの発表・質疑
18	第1回個人研究発表③	研究課題とアウトラインの発表・質疑
19	第1回個人研究発表④	研究課題とアウトラインの発表・質疑
20	第1回個人研究発表⑤	研究課題とアウトラインの発表・質疑
21	第1回個人研究発表⑥	研究課題とアウトラインの発表・質疑
22	第2回個人研究発表①	研究成果の発表・ディスカッション
23	第2回個人研究発表②	研究成果の発表・ディスカッション
24	第2回個人研究発表③	研究成果の発表・ディスカッション
25	第2回個人研究発表④	研究成果の発表・ディスカッション
26	第2回個人研究発表⑤	研究成果の発表・ディスカッション

27 第2回個人研究発表⑥ 研究成果の発表・ディスカッション
28 論文報告会 口頭発表**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

卒業論文完成に向けて、段階別に先行研究調査、研究課題の分析作業、本文執筆などを進めること。授業外学習時間の標準は毎週16時間である。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表の成果、質疑・ディスカッションへの貢献）：20%（ただし秋学期に直面授業が可能であった場合に限り）

卒業論文：80%（秋学期もオンライン授業形式となった場合には100%とする）

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため該当なし。

【Outline and objectives】

This course is designed for undergraduate students to independently research and write the thesis on their own specific topics in international relations and world politics.

POL400EB, POL400EC, POL400ED

演習3（卒業論文）

白鳥 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際政治と国内政治の体系的理解に基づく卒業論文作成

【到達目標】

政治学の卒業論文を通じて論理的に思考・表現することを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

政治は「未来の選択」であり、「可能性のアート」であるといわれる。そうした政治についてこのゼミでは学びます。

ゼミのテーマは「現代政治の分析」です。具体的には、国際、国内の政治過程におけるさまざまな問題を、理論的に分析し、卒業論文を作成することを目指します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。学習支援システムで授業が開始されるのは4月23日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	卒業論文作成のイントロダクション	論文の書き方
2)	卒業論文に向けた政治分析(1)	事例研究
3)	卒業論文に向けた政治分析(2)	事例研究
4)	卒業論文に向けた政治分析(3)	事例研究
5)	卒業論文に向けた政治分析(4)	事例研究
6)	卒業論文に向けた政治分析(5)	事例研究
7)	卒業論文に向けた政治分析(6)	事例研究
8)	卒業論文に向けた政治分析(7)	事例研究
9)	卒業論文に向けた政治分析(8)	事例研究
10)	卒業論文に向けた政治分析(9)	事例研究
11)	卒業論文に向けた政治分析(10)	事例研究
12)	卒業論文に向けた政治分析(11)	事例研究
13)	卒業論文に向けた政治分析(12)	事例研究
14)	卒業論文に向けた総合的政治分析	事例研究
15)	秋学期のイントロダクション	卒論の進捗状況
16)	卒業論文作成の政治分析(1)	事例研究
17)	卒業論文作成の政治分析(2)	事例研究
18)	卒業論文作成の政治分析(3)	事例研究
19)	卒業論文作成の政治分析(4)	事例研究
20)	卒業論文作成の政治分析(5)	事例研究
21)	卒業論文作成の政治分析(6)	事例研究
22)	卒業論文作成の政治分析(7)	事例研究
23)	卒業論文作成の政治分析(8)	事例研究
24)	卒業論文作成の政治分析(9)	事例研究
25)	卒業論文作成の政治分析(10)	事例研究

- 26) 卒業論文作成の政治分析 事例研究 (11)
- 27) 卒業論文作成の政治分析 事例研究 (12)
- 28) 卒業論文提出の総合的政治分析 事例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文50%。平常点50%。授業への積極性はもとより、発表、発言等のゼミ運営への貢献なども考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic knowledges for the writing of an Academic Thesis.

HIS400EB, HIS400EC, HIS400ED

演習3（卒業論文）

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「歴史」から現代社会や世界の諸問題を考える（卒業論文）

【到達目標】

現代史をテーマに、これまでの二年間でテーマを設定し研究を進めてきた個人研究を、学術論文としての体裁を整えた卒業論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

個人報告とゼミ生によるディスカッションを重ねながら卒業論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の計画確認
2	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
3	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
4	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
5	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
6	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
7	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
8	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
9	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
10	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
11	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
12	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
13	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
14	春学期総括	春学期の進捗状況の整理、夏以降の課題を確認する。
15	秋学期イントロダクション	秋学期の研究計画確認
16	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
17	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
18	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
19	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
20	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
21	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
22	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告

23	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
24	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
25	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
26	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
27	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
28	個別面談	卒業論文の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆に必要な文献調査・講読、研究史の整理、資料調査・収集・分析など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの中間報告や討議への参加内容（40 %）、卒業論文の内容（60 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Create a graduation thesis

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

卒業論文の執筆に向けて、過去 2 年間のゼミ活動のなかで培ってきた研究活動をふりかえりつつ、まずはのちのち悔いの残らない研究テーマを慎重に吟味・選定し、確定する。その上で、問いの設定 → 資料の渉猟 → 章立て構成の検討 → 論文の執筆へと順を追って進めていく。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業とする。それにともなう各回の授業計画の変更については、その都度知らせる。また、本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを受講生に知らせる。

【到達目標】

演習 2 までの経験をふまえながら、納得の卒業論文を完成させることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スケジュールの確認
2	テーマの検討①	個人報告
3	テーマの検討②	個人報告
4	テーマの検討③	個人報告
5	テーマの検討④	個人報告
6	問いの設定①	個人報告
7	問いの設定②	個人報告
8	問いの設定③	個人報告
9	問いの設定④	個人報告
10	問いの明確化①	個人報告
11	問いの明確化②	個人報告
12	問いの明確化③	個人報告
13	問いの明確化④	個人報告
14	進展状況報告	全体報告
15	各自課題の確認	スケジュールの確認
16	章立て構成の検討①	個人報告
17	章立て構成の検討②	個人報告
18	章立て構成の検討③	個人報告
19	章立て構成の検討④	個人報告
20	中間報告①	個人報告
21	中間報告②	個人報告
22	中間報告③	個人報告
23	中間報告④	個人報告
24	卒論執筆に向けて	執筆要領の確認
25	執筆状況進展報告①	個人報告
26	執筆状況進展報告②	個人報告
27	初稿チェック	個人報告
28	卒論提出に向けて	注意事項の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジュメの作成、卒論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒論作成の取り組み・プロセス（50%）と卒論そのものの最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to write and present a graduation thesis based on a sociological way of thinking.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

鈴木 智之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

卒業論文の作成

【到達目標】

卒業論文を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、各自の研究経過の報告にもとづき討論を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業論文の執筆に向けて
第 2 回	テーマの提出	各自の研究テーマについて
第 3 回	研究報告 (1)	問題設定の確認 (1)
第 4 回	研究報告 (2)	問題設定の確認 (2)
第 5 回	研究報告 (3)	問題設定の確認 (3)
第 6 回	研究報告 (4)	先行研究の整理 (1)
第 7 回	研究報告 (5)	先行研究の整理 (2)
第 8 回	研究報告 (6)	先行研究の整理 (3)
第 9 回	研究報告 (7)	資料・データの報告と検討 (1)
第 10 回	研究報告 (8)	資料・データの報告と検討 (2)
第 11 回	研究報告 (9)	資料・データの報告と検討 (3)
第 12 回	研究報告 (10)	資料・データの報告と検討 (4)
第 13 回	研究報告 (11)	資料・データの報告と検討 (5)
第 14 回	研究報告 (12)	資料・データの報告と検討 (6)
第 15 回	秋学期について	今後の予定と進捗状況の確認
第 16 回	章構成の報告 (1)	各章の内容について (1)
第 17 回	章構成の報告 (2)	各章の内容について (2)
第 18 回	章構成の報告 (3)	各章の内容について (3)
第 19 回	章構成の報告 (4)	各章の内容について (4)
第 20 回	章構成の報告 (5)	各章の内容について (5)
第 21 回	章構成の報告 (6)	各章の内容について (6)
第 22 回	章構成の報告 (7)	各章の内容について (7)
第 23 回	論文の作成にあたって	論文の書き方を確認する
第 24 回	論文の作成 (1)	結論の報告と論文の再構成 (1)
第 25 回	論文の作成 (2)	結論の報告と論文の再構成 (2)
第 26 回	論文の作成 (3)	結論の報告と論文の再構成 (3)
第 27 回	論文の作成 (4)	結論の報告と論文の再構成 (4)
第 28 回	論文の完成に向けて	最終的な確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の完成に向けて、各自の研究テーマに沿った学習（参考文献の整理、調査など）を進めてください本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

授業中に適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって評価します (100%)。

なお、論文の提出は、研究経過の報告がされていることを条件とします

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to write a graduation thesis.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3（卒業論文）

関口 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」である。

【到達目標】

「財政学演習3」は、学部生活の最終局面として、ゼミのテーマ「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」の観点、あるいはこれまで関心を持ってきた財政学をめぐる問題から興味のある分野を取り上げて卒業論文を執筆することと、日本人として国際的に恥ずかしくない人格を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

令和2年度の「財政学演習3」は、まず各自卒業論文のテーマを決定し、続いて毎回卒業論文に関する報告を重ねていくこととする。全力で打ち込み、推敲をするうちに、次第に自信も出てくるものである。「財政学演習3」は人格形成とともに、学部の集大成ともいえる「卒業論文の執筆」を主軸にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1年間の演習計画説明	本年度の研究、ゼミ活動の説明
第2回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文の目次作成
第3回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文構成検討
第4回	I. 卒業論文執筆指導	就職活動経過報告
第5回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文執筆経過報告
第6回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文執筆経過報告討論
第7回	I. 卒業論文執筆指導	就職活動経過報告
第8回	II. 財政学基礎の確認	財政民主主義・財政学説史
第9回	II. 財政学基礎の確認	公債の意義と公債負担論
第10回	II. 財政学基礎の確認	日本の予算決算制度・市場の失敗・費用便益分析
第11回	II. 財政学基礎の確認	社会保障財政・教育財政
第12回	II. 財政学基礎の確認	租税理論
第13回	III. 合同ゼミ合宿準備	合同ゼミ東京開催の企画案検討
第14回	III. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆討論
第15回	合同ゼミ研究報告会	沖縄国際大学前村財政学演習と第23回合同ゼミ研究報告会を令和2年度は沖縄開催。
第16回	IV. 『財政学研究』編集	合同ゼミ合宿の成果を報告
第17回	V. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆進捗報告
第18回	V. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆報告
第19回	VI. 卒論・修論経過報告	大学院生を交えての報告
第20回	VI. 卒論・修論経過報告	大学院生を交えての論評
第21回	VIII. 財政学の文献輪読	相続税（遺産税的要素を加味した遺産取得税方式）
第22回	VIII. 財政学の文献輪読	相続税（相続時精算課税制度）
第23回	VII. 卒論・修論秋学期中間報告	学部4年次と修士2年次の論文中間報告と論評
第24回	V. 卒業論文経過報告	執筆論文全体の報告・討論
第25回	V. 卒業論文経過報告	執筆論文全体の報告・再検討
第26回	V. 卒業論文経過報告	参考文献と論文の関係の再確認
第27回	V. 卒業論文経過報告	執筆論文全体の報告・討論
第28回	VI. 卒業論文最終報告	執筆論文の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の卒論評価で指摘された修正点の修正と新たな論点の探究のために2時間以上の予習をすること。演習の後は、今回修正を指示された箇所についての文献収集と修正による論文体の構成の均衡のために2時間以上の復習を求める。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の審査結果（60%）および、出席票記述事項（30%）、後輩への指導（10%）で総合して、ゼミ活動への取り組み状況（100%）を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまで通り、積極的なゼミ活動を行い、ゼミ生相互の親交を深める。

【その他の重要事項】

1. 近年、日本の若者の生き方の問題点がさまざまな形で指摘されている。かつて本研究室に所属されていた法政大学史上最高齢のゼミ生（院生）持木邦子さんがいわれた「明日の日本を担うのは皆さん、若い人たちですよ」という意味をよく考え、礼儀を重んじる良識ある人間となりうるように、個人あるいは組織として活動する術をゼミ活動から学び取り、果立ってほしい。
2. 就職活動があるため多摩での演習は不可能なため、一部市ヶ谷で大学院生と演習を行う。大学院生の修士論文執筆経過報告の姿勢、論文の指摘を自らの卒業論文執筆に役立ててほしい。
3. ゼミ活動については「演習1」や「演習2」を参照のこと。

【Outline and objectives】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being.

LAW400EB, LAW400EC, LAW400ED

演習3（卒業論文）

曾布川 哲也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

卒業論文を執筆します。研究計画を立てて、資料を集め、分析と考察を加えて、一編の論文を完成させることで、演習 1～3 の、また大学生活の総決算として下さい。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

論文を執筆するための基本的な技法に関する指導を行います。テーマは各人が一年間かけて追求できるものであれば、どのような領域のものでも構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認
2	卒論ガイダンス	卒論テーマの選定
3	卒論ガイダンス	卒論テーマの選定
4	卒論ガイダンス	資料収集の方法
5	卒論ガイダンス	資料収集の方法
6	卒論ガイダンス	論文の執筆技術
7	卒論ガイダンス	論文の執筆技術
8	卒論構想報告	執筆者ごとの個人報告
9	卒論構想報告	執筆者ごとの個人報告
10	卒論構想報告	執筆者ごとの個人報告
11	卒論構想報告	執筆者ごとの個人報告
12	卒論構想報告	執筆者ごとの個人報告
13	卒論構想報告	執筆者ごとの個人報告
14	卒論構想報告	総括、フィードバック
15	卒論ガイダンス	スケジュールの確認
16	卒論ガイダンス	本格的な執筆に向けた留意点
17	卒論中間報告	本執筆者ごとの個人報告
18	卒論中間報告	執筆者ごとの個人報告
19	卒論中間報告	執筆者ごとの個人報告
20	卒論中間報告	執筆者ごとの個人報告
21	卒論中間報告	執筆者ごとの個人報告
22	卒論中間報告	執筆者ごとの個人報告
23	卒論中間報告	総括、フィードバック
24	卒論最終報告	執筆者ごとの個人報告
25	卒論最終報告	執筆者ごとの個人報告
26	卒論最終報告	執筆者ごとの個人報告
27	卒論最終報告	執筆者ごとの個人報告
28	卒論報告のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて、各自およびゼミ生相互での研鑽を強く期待します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容（80%）とその他の参画（他の卒論へのアドバイス等）（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当教員は、現役の社会保険労務士で、専門は医療保障および年金保険です。課題提示および問題解決の理論的なアプローチだけでなく、実務家としての問題のとらえ方も提示します。このことによって理論と実践の両方を学修できます。

【Outline and objectives】

This seminar deals with social problems and social policies.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

高瀬 文人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ソーシャルメディア時代の「伝える」を設計（デザイン）するための実践と研究を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

演習 1・2 の取り組みを理論化し、社会的に意義ある質の高い卒業論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

*既に募集終了、遠隔授業にて開講しています。各自が設定したテーマに沿って研究を進めます。ゼミ活動の集大成として、ゼミの OB/OG や関係者が参加した卒論発表会が行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の説明
第 2 回	テーマ	テーマ検討
第 3 回	テーマ	テーマ決定
第 4 回	調査	先行研究の調査
第 5 回	調査	先行研究の調査
第 6 回	調査	先行研究の調査
第 7 回	調査	文献リストの作成、整理
第 8 回	調査	文献リストの作成、整理
第 9 回	調査	調査手法の検討
第 10 回	調査	調査手法の検討
第 11 回	調査	予備調査
第 12 回	調査	予備調査
第 13 回	調査	調査準備
第 14 回	調査	調査準備
第 15 回	報告	調査結果の報告
第 16 回	報告	調査結果の報告
第 17 回	報告	調査結果の報告
第 18 回	報告	課題修正
第 19 回	論文作成	構成の検討
第 20 回	論文作成	構成の検討
第 21 回	論文作成	論文構成の提出
第 22 回	論文作成	課題修正と執筆
第 23 回	論文作成	課題修正と執筆
第 24 回	論文作成	課題修正と執筆
第 25 回	論文作成	課題修正と執筆
第 26 回	論文作成	論文第一稿提出
第 27 回	論文作成	課題修正と執筆
第 28 回	まとめ	卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は研究の進捗報告で、調査、執筆の大半が授業外の学習となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自が設定したテーマに沿って適宜指示します。

【参考書】

藤田真文（2011 年）『メディアの卒論—テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容（十分に先行研究を踏まえているか、調査は十分に行われているか、調査を踏まえ論旨を十分に展開できているか）について 80 %、口頭試問について 10 %、卒論発表会について 10 %の配分で決定します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

担当講師は現役のジャーナリスト・雑誌編集者であり、多数の原稿を執筆し、また多くの原稿を添削してきました。それを踏まえ、論理構成や文章表現を指導します。

【Outline and objectives】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【Outline and objectives】

Students will learn the entire process of graduation thesis writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を書くための一連のプロセスを学ぶ。

【到達目標】

演習を通じ、必要な調査を自ら計画・実施し、論文を書き上げることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

本演習は4月22日よりzoomを利用したゼミを開始します。詳細は学習支援システムのお知らせを参照してください。本演習においては、オリジナルティのある卒業論文を完成させるために、2年間の蓄積を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の里程標
2	問題意識の明確化	参考文献の検索
3	先行研究の一覧作成	検索した文献一覧を持参
4	論文タイトルの確定	既存データを読み、問題の所在を把握する
5	文献の収集・検討	既存研究データ・ベースの作成作業、文献の講読
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討。調査研究計画の立案
7	既存データの批判的検討	統計、ドキュメントなど資料の収集と講読、レポート
8	調査へのアプローチ	テーマごとに調査の可能性を探索
9	対象領域における調査対象者を選定	調査方法の検討
10	実査へ向けた準備	調査対象者一覧の作成
11	調査の準備作業	データ・ベースの作成
12	調査の準備作業	調査対象へのアプローチ方法の検討
13	調査計画の立案	夏休み中の調査計画立案
14	春学期のまとめ	春学期レポートの作成作業（卒論序章の完成）
15	夏休み作業の確認	調査対象者へのアプローチとアポイントの確定
16	調査結果の検討	調査結果の批判的検討
17	データ・クリーニング	データ・クリーニング
18	データの分析作業	分析作業を進める
19	データの分析作業	サブ・グループを作り、データ分析作業
20	データの分析作業	データ分析から各自のテーマ化
21	補足調査実施	各自のテーマに必要な補足調査を実施
22	統計資料の検討	統計資料の収集と作成
23	既往文献の再検索	既往文献を再検索する
24	卒論構成の検討	各自の論文化へ向けた作業
25	卒論構成の確定	調査報告書の構成を確定し、論文のテーマを調整
26	完成プロセスの報告	卒論の完成に向けたブラッシュアップ
27	卒論の執筆作業	論文の書き方
28	卒論の完成	参考文献、脚注の点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に出された課題を個人で実施するために2時間程度の準備作業が必要である。また、指摘した内容に応じて、資料の収集および講読を各2時間程度実施する。

【テキスト（教科書）】

石川淳志・佐藤健二・山田一成編『見えないものを見る力』八千代出版（ただし、入手が難しい場合には、必要部分を配布します）。

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期における論文テーマ選定理由、文献講読を通じたゼミでの報告（40%）、調査実施のプロセス検証および最終的に提出された卒業論文（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

SES400EB, SES400EC, SES400ED

演習3（卒業論文）

田中 充

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題を中心とした社会問題について、専門的・研究的な観点から掘り下げて問題構造を調査・分析・考察し、卒業論文を執筆します。大学（社会学部）での学びの集大成となる成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

環境問題の専門的知識と環境マインドについて学び、修得します。具体的な社会問題を対象とし、社会科学的思考法や調査研究技法、論文執筆手法等を活かして構造や要因を調査・分析し、卒業論文にまとめることにより、問題の分析力や論文の執筆能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、専門文献の講読、発表、研究調査活動を行います。演習の成果として卒業論文を執筆します。希望に応じて現地見学等を行います。ゼミの状況により若干、予定の変更を行うことがあります。新規のゼミ生は募集しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミの進め方とスケジュール、注意事項等を確認します。
2	研究テーマの検討	卒業研究テーマについて意見交換し、研究テーマを絞り込みます。
3	研究テーマの情報収集と資料検索	研究テーマに関して現状と背景などの情報収集と文献検索を行います。一次文献リストを作成します。
4	研究テーマの情報収集と資料検索	研究テーマに関して現状と背景などの情報収集と文献検索を行います。一次文献リストを作成します。
5	研究テーマに関する文献講読	研究テーマに関連する資料収集と文献講読を行います。
6	卒業論文構想の中間報告（第1回）	研究計画の中間報告を行い進め方や論文構想について助言します。
7	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。
8	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。
9	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。必要に応じて現地調査を行います。
10	卒業論文構想の中間報告（第2回）	研究論文テーマの現状、課題等について中間報告を行います。
11	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。必要に応じて現地調査を行います。
12	研究テーマに関する資料収集	文献講読や情報収集によりテーマの現状把握等を行います。
13	研究テーマに関する情報収集	文献講読や情報収集によりテーマの現状把握等を行います。
14	卒業論文構想の中間報告（第3回）	春学期のまとめとして、論文テーマの課題等について報告を行います。
15	研究テーマに関する情報収集	文献講読や情報収集によりテーマの現状把握等を行います。
16	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
17	卒業論文構想の中間報告（第4回）	夏休みの調査研究成果を受けて、論文構想の報告（第3回）を行います。
18	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
19	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
20	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。

21	卒業論文構想の中間報告（第5回）	卒業論文執筆に向けて研究内容、論文構成、記述面等に関して報告会（第5回）を行います。
22	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
23	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
24	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
25	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
26	卒業論文構想の中間報告（第6回）	卒業論文の執筆に向けた論文構想の中間報告会（第6回）を行います。
27	論文構想の点検と指導、執筆	卒業論文の構成や記述面等を点検し、指導します。指摘等を受けて論文を修正します。
28	卒業論文の完成、提出	指摘等を受けて卒業論文を修正し、完成させます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに関する専門文献の収集・講読、ヒアリング調査、メール調査等を行います。最終的に2万字程度の卒業研究論文を執筆します。研究内容はゼミ内で報告します。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安にします。

【テキスト（教科書）】

受講生と相談しながら決定します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>
・授業参加（平常点）：30%、卒業論文：70%
<評価基準>
・授業参加は、単に出席するだけでなく、積極的な学習と発言を評価します。満点を30点とし、欠席（遅刻2回で欠席1回分）は1回ごとに-5点をつけます。無断欠席は厳禁です（-15点、欠席3回分）。欠席の多い受講態度は成績評価の対象外とします。
・卒業論文の提出を満点70点として、論文構成、論理性、事例研究、文章表現などのポイントについて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への連絡はメールを基本に行います。メール受信環境の確保と常時の確認は必須です。

【その他の重要事項】

新規のゼミ生は募集しません。

【Outline and objectives】

This Seminar 3 deals with academic writing on social issues, especially environmental problems and students taking this course are required to write graduation thesis.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この演習では卒業論文の完成に向けた指導を行う。

【到達目標】

より完成度の高い卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

受講者による中間報告を中心として実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今年度の運営体制の検討	ゼミ運営
第2回	卒業論文初回報告（1）	卒業論文の準備
第3回	卒業論文初回報告（2）	卒業論文の準備
第4回	卒業論文初回報告（3）	卒業論文の準備
第5回	卒業論文初回報告（4）	卒業論文の準備
第6回	卒業論文初回報告（5）	卒業論文の準備
第7回	卒業論文初回報告（6）	卒業論文の準備
第8回	卒業論文相談会	卒業論文の準備
第9回	卒業論文中間報告（1）	卒業論文の準備
第10回	卒業論文中間報告（2）	卒業論文の準備
第11回	卒業論文中間報告（3）	卒業論文の準備
第12回	卒業論文中間報告（4）	卒業論文の準備
第13回	卒業論文中間報告（5）	卒業論文の準備
第14回	卒業論文中間報告（6）	卒業論文の準備
第16回	後期運営体制の相談	ゼミ運営
第16回	卒業論文第2回中間報告（1）	卒業論文の準備
第17回	卒業論文第2回中間報告（2）	卒業論文の準備
第18回	卒業論文第2回中間報告（3）	卒業論文の準備
第19回	卒業論文第2回中間報告（4）	卒業論文の準備
第20回	卒業論文第2回中間報告（5）	卒業論文の準備
第21回	卒業論文第2回中間報告（6）	卒業論文の準備
第22回	卒業論文相談会	卒業論文の準備
第23回	卒業論文最終報告（1）	卒業論文の準備
第24回	卒業論文最終報告（2）	卒業論文の準備
第25回	卒業論文最終報告（3）	卒業論文の準備
第26回	卒業論文最終報告（4）	卒業論文の準備
第27回	卒業論文最終報告（5）	卒業論文の準備
第28回	卒業論文最終報告（6）	卒業論文の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の準備および執筆については授業外での作業が主となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。

【参考書】

特に指示しない。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文完成へと至るプロセス（20%）、および完成した論文の完成度（80%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help participants write undergraduate dissertations.

PSY400EB, PSY400EC, PSY400ED

演習3（卒業論文）

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

これまでに習得した知識とスキルを活かして、各自が設定した研究テーマを追究し、成果を卒業論文にまとめる。研究報告と討論を通じて、自分の考えを深めたり、洗練させたりするスキルを習得することも目的とする。

【到達目標】

- ・現象を社会心理学の視点からとらえることができる
- ・データに基づいて思考することができる
- ・自分の考えを他者と共有し、議論することで、考えを深めたり、洗練させることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

- ・受講者の研究報告を中心に進める。
- ・発表担当者はレジュメやパワーポイントの資料を作成・発表し、全員で議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	担当者による報告、全体討論
2	研究の報告	担当者による報告、全体討論
3	研究の報告	担当者による報告、全体討論
4	研究の報告	担当者による報告、全体討論
5	研究の報告	担当者による報告、全体討論
6	研究の報告	担当者による報告、全体討論
7	研究の報告	担当者による報告、全体討論
8	研究の報告	担当者による報告、全体討論
9	研究の報告	担当者による報告、全体討論
10	研究の報告	担当者による報告、全体討論
11	研究の報告	担当者による報告、全体討論
12	研究の報告	担当者による報告、全体討論
13	研究の報告	担当者による報告、全体討論
14	研究の報告	担当者による報告、全体討論、春学期のまとめ
15	ガイダンス、研究の報告	担当者による報告、全体討論
16	研究の報告	担当者による報告、全体討論
17	研究の報告	担当者による報告、全体討論
18	研究の報告	担当者による報告、全体討論
19	研究の報告	担当者による報告、全体討論
20	研究の報告	担当者による報告、全体討論
21	研究の報告	担当者による報告、全体討論
22	研究の報告	担当者による報告、全体討論
23	研究の報告	担当者による報告、全体討論
24	研究の報告	担当者による報告、全体討論
25	研究の報告	担当者による報告、全体討論
26	研究の報告	担当者による報告、全体討論
27	研究の報告	担当者による報告、全体討論
28	研究の報告	担当者による報告、全体討論、1年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の研究テーマをひたすらに追究する。
- ・ひとつの研究をまとめるには、自ら調べ、読み、報告し、他者と意見を交換することが重要になる。これらの活動に積極的にとりくむことが求められる。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・特になし

【参考書】

・適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・卒業論文と口頭試問で評価する（100 %）。
- ・ただし、授業で定期的に報告を行なうこと、中間発表会で発表を行なうこと、卒論発表会で発表を行ない、口頭試問を受けることを単位修得の前提条件とする。
- ・無断欠席は厳しく評価する。
- ・卒業論文は、定められた期間に、所定の形式に則ったものを提出することが求められるので注意すること。
- ・卒業論文では原則として経験的研究を実施し、20,000 字以上とする。

【学生の意見等からの気づき】

・新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・教員が担当する「演習 1」の受講者が企画・運営するイベントへの協力・支援をお願いすることがあります。

【Outline and objectives】

Research seminar on social psychology: Students are required to write a senior thesis using knowledge and skills acquired from previous studies. Students investigate their own research projects from a social psychological perspective. They must report on the progress of their research and regularly discuss their projects with seminar members. The objective of this seminar is to develop students' research and communication skills.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3（卒業論文）

徳安 彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次、3 年次までのゼミでの研究の集大成として、卒業論文を作成する。個別指導を中心として質の高い卒業論文の作成を目指す。

【到達目標】

3 年次までのゼミ論を基礎にして、一本の論文としての内容の深化・洗練を図りながら、自分の研究テーマについての卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の授業開始日は 4 月 24 日（金）とする。これは演習の運営を始める日（平常であればメンバーの顔合わせの日）であって、具体的な学習作業は 5 月 1 日（金）以降にスタートする。

卒業論文の作成については、個別指導と発表にもとづく全員での討議の両方を行う。構想発表については、半期に 1 度はまとまった構想を順次発表し、全員で討議する。個別指導については、各自の進捗状況を個別に報告し、論文構成、文献参照、資料・データ分析、文章作成等について指導を受ける。春学期は論文構成の方向性の確定に重点をおき、秋学期は論文作成の具体的な指導に重点をおく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒論作成方法（1）	卒業論文の作成方法と作業の進め方について概説する
第 2 回	卒業論文個別指導（1）	卒業論文の構想報告・相談
第 3 回	卒業論文個別指導（2）	卒業論文の構想報告・相談
第 4 回	卒業論文個別指導（3）	卒業論文の構想報告・相談
第 5 回	卒業論文個別指導（4）	卒業論文の構想報告・相談
第 6 回	卒業論文個別指導（5）	卒業論文の構想報告・相談
第 7 回	卒業論文個別指導（6）	卒業論文の構想報告・相談
第 8 回	卒論構想発表（1）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 9 回	卒論構想発表（2）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 10 回	卒論構想発表（3）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 11 回	卒論構想発表（4）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 12 回	卒論構想発表（5）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 13 回	卒論構想発表（6）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 14 回	卒論構想発表（7）	卒業論文の構想発表・討議（1 回目）
第 15 回	卒論構想発表（8）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 16 回	卒論構想発表（9）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 17 回	卒論構想発表（10）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 18 回	卒論構想発表（11）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 19 回	卒論構想発表（12）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 20 回	卒論構想発表（13）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 21 回	卒論構想発表（14）	卒業論文の構想発表・討議（2 回目）
第 22 回	卒論作成方法（2）	卒論の詳細な形式を概説し、完成までの工程を確認する
第 23 回	卒業論文個別指導（7）	卒業論文の作成状況報告・相談
第 24 回	卒業論文個別指導（8）	卒業論文の作成状況報告・相談
第 25 回	卒業論文個別指導（9）	卒業論文の作成状況報告・相談
第 26 回	卒業論文個別指導（10）	卒業論文の作成状況報告・相談
第 27 回	卒業論文個別指導（11）	卒業論文の作成状況報告・相談
第 28 回	卒業論文個別指導（12）	卒業論文の作成状況報告・相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年次までの研究成果を踏まえ、卒業論文の研究・執筆を進める。それぞれのテーマ・目標に対する現在の進捗具合と課題点を明らかにするよう意識し、構想報告・相談の機会をより充実させるよう努めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし、卒業論文執筆という学生にとっては負荷の大きな内容なので、各自の論文の完成にむけては、必要に応じてそれ以上の作業時間を確保することが求められる。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

とくに用いない。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導中心の運営となるが、ゼミとしてのコミュニケーション（卒業論文の内容の共有や討議・相互批判など）が促進されるように留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付などに授業支援システムを適宜使用する。また、ゼミ内での連絡には適宜電子メールを用いる。

【その他の重要事項】

1ゼミからの研究の蓄積の集大成が卒業論文です。完成は決して容易なものではありませんが、これまでの成果を総括する貴重な機会でもあります。皆で一緒にゴールまでたどり着きましょう。

【Outline and objectives】

Every participant write a graduation thesis on her/his own sociological theme based on the study and research in the last two years.

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1ゼミ、2ゼミの成果を踏まえて卒業論文を執筆します。

【到達目標】

ゼミ活動の集大成として、卒業論文を完成させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別指導と各種の報告会の組み合わせにより、卒論の執筆を支援します。受講生には、それぞれの段階で、テーマ、論文構成、進捗などについての報告をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成に関するガイダンス
2	テーマ設定 1	テーマ設定の考え方
3	テーマ設定 2	文献リストの作成
4	テーマ設定 3	先行研究のレビュー（1）
5	テーマ設定 4	先行研究のレビュー（2）
6	調査手法の検討 1	先行事例の検討
7	調査手法の検討 2	調査手法の確定
8	予備調査 1	予備調査の計画
9	予備調査 2	予備調査の実施
10	卒論構想発表 1	構想発表と議論
11	卒論構想発表 2	構想発表と議論
12	卒論構想発表 3	構想発表と議論
13	調査計画の立案 1	夏休み中に実施する調査の計画
14	調査計画の立案 2	夏休み中に実施する調査の計画
15	調査報告 1	夏休み中に実施した調査の知見報告
16	調査報告 2	夏休み中に実施した調査の知見報告
17	調査報告 3	夏休み中に実施した調査の知見報告
18	論文構成検討 1	論文構想レジュメの検討
19	論文構成検討 2	論文構想レジュメの検討
20	論文作成	執筆中原稿の検討 1
21	論文作成	執筆中原稿の検討 2
22	論文作成	執筆中原稿の検討 3
23	論文作成	執筆中原稿の検討 4
24	論文作成	執筆中原稿の検討 5
25	卒業論文第一稿提出	第一稿の相互チェックと議論
26	完成稿執筆へ向けての個別指導 1	完成稿へ向けての加筆修正の指導
27	完成稿執筆へ向けての個別指導 2	完成稿へ向けての加筆修正の指導
28	最終稿提出	最終稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間での議論・指導をベースにしつつ、課外の時間で、論文執筆に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

進捗に応じて、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出された卒論の内容・完成度によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Based on research and practice in seminar 1 and seminar 2, students write graduation thesis.

演習3（卒業論文）

南雲 和夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【Outline and objectives】
learning about globalization**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

グローバルゼーションを考える。

【到達目標】

目標は、参加者全員が卒業論文を執筆すること。卒業論文は、カリキュラム上は必修ではないが、執筆者の能力を飛躍的に向上させるものであるため、厳しい状況の中でもあきらめずに執筆することがとても大切であると思う。なお、卒業論文の提出がなければ、単位はとれない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各自の卒論執筆に向けた作業を中心に行う。日程の調整もあるので、最初の授業時に全員出席すること。（その場で、就職活動との調整も行う）。参加者の状況を考慮しつつ、可能であるならば、春学期に必要な文献の輪読を行う。テキストは、第一回の授業時に相談して決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと打ち合わせ
2	卒論のテーマの確定	卒論テーマの確定
3	テキストの輪読(1)	卒論の相談、テキスト輪読(1)
4	テキストの輪読(2)	卒論の相談、テキスト輪読(2)
5	テキストの輪読(3)	卒論の相談、テキスト輪読(3)
6	テキストの輪読(4)	卒論の相談、テキスト輪読(4)
7	テキストの輪読(5)	卒論の相談、テキスト輪読(5)
8	テキストの輪読(6)	卒論の相談、テキスト輪読(6)
9	テキストの輪読(7)	卒論の相談、テキスト輪読(7)
10	テキストの輪読(8)	卒論の相談、テキスト輪読(8)
11	テキストの輪読(9)	卒論の相談、テキスト輪読(9)
12	テキストの輪読(10)	卒論の相談、テキスト輪読(10)
13	卒論の中間発表(1)	卒論の中間発表。各回2～3人。
14	卒論の中間発表(2)	卒論の中間発表。各回2～3人。
15	卒論の中間発表(4)	夏休みに行った研究を中心にして、卒論の中間発表を行う。各回2～3人。
16	卒論の中間発表(5)	夏休みに行った研究を中心にして、卒論の中間発表を行う。各回2～3人。
17	卒論の中間発表(6)	夏休みに行った研究を中心にして、卒論の中間発表を行う。各回2～3人。
18	テキストの輪読(11)	卒論の相談、テキスト輪読(11)
19	テキストの輪読(12)	卒論の相談、テキスト輪読(12)
20	テキストの輪読(13)	卒論の相談、テキスト輪読(13)
21	テキストの輪読(14)	卒論の相談、テキスト輪読(14)
22	テキストの輪読(15)	卒論の相談、テキスト輪読(15)
23	テキストの輪読(16)	卒論の相談、テキスト輪読(16)
24	テキストの輪読(17)	卒論の相談、テキスト輪読(17)
25	卒論の最終発表	卒論の最終レジュメの提出
26	テキストの輪読(18)	卒論の相談、テキスト輪読(18)
27	卒論の仕上げ(1)	卒論の下書きの提出
28	卒論の仕上げ(2)	卒論の下書きの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論執筆が中心になるので、就職活動の期間中もきちんと準備を進めていくこと。

最初の授業時に、日程の確認を行うので、必ず出席すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ロバート・B. ライシュ、清家篤訳『勝者の代償—ニューエコノミーの深淵と未来』東洋経済新報社、2002年。杉山 伸也『グローバル経済入門』（岩波新書、2014/11/21）、その他は受講生と相談して決める。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

西丸 良一

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生それぞれが自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、それに対して適切な問いを立てて答えを与える方法を学ぶ

【到達目標】

卒業論文を執筆する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミでの研究報告と個別相談を繰り返しながら卒業論文の完成に向けて進めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論に向けての研究報告(1)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
2	卒論に向けての研究報告(2)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
3	卒論に向けての研究報告(3)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
4	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
5	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
6	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
7	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
8	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
9	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
10	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
11	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
12	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
13	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
14	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
15	後期のスケジュールを決める	卒論の進行状況を確認する
16	秋学期のスケジュールを決める	卒論の進行状況を確認する
17	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
18	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
19	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
20	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
21	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
22	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
23	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
24	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
25	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
26	卒論に関する報告	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう
27	卒論に関する報告	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう
28	卒論に関する報告	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は基本的に卒論の内容報告や相談をおこなう時間であり、実際の執筆は授業時間外におこなうことになる本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

伊丹敬之、2001、『創造的論文の書き方』有斐閣。
 荻谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』講談社。
 木下是雄、1981、『理科系の作文技術』中公新書。
 本多勝一、1976、『日本語の作文技術』朝日文庫。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

卒論相談の無断欠席・遅刻には厳しく対処する

【Outline and objectives】

To write a thesis adding value to an existing research on topics of students' interests

演習3（卒業論文）

長谷部 俊治

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【Outline and objectives】
Making of the graduation thesis**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

各自がテーマを設定し、調査研究をすすめて卒業論文を作成する。
テーマは、都市への関心に沿って自由に設定してよい。

【到達目標】

卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の問題意識に応じたテーマを選び、卒業論文を作成する。
テーマ設定後は、1) 問題意識の明確化、2) 問題解明へのアプローチの発見と確定、3) 調査研究の実施、4) 論文構成ドラフトの検討、5) 論文の執筆という過程を自発的に進めることとなる。
その円滑な進行を確保するために、適宜グループに分かれて問題の共有を図るほか、個別の相談に応じる。
なお、授業は学年暦どおり4月24日から開始する。COVID-19対策のため教室授業ができないあいだの対応については、学習支援システムを通じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論執筆の作法	問題意識、アプローチ方法、論文構成、作業管理
2	卒論作成計画	テーマ・アプローチの決定、スケジュール
3	研究の実施 (1)	調査研究に対する助言等 (その1)
4	研究の実施 (2)	調査研究に対する助言等 (その2)
5	研究の実施 (3)	調査研究に対する助言等 (その3)
6	研究の実施 (4)	調査研究に対する助言等 (その4)
7	研究の実施 (5)	調査研究に対する助言等 (その5)
8	中間報告会 (1-1)	発表と質疑 (その1)
9	中間報告会 (1-2)	発表と質疑 (その2)
10	研究の実施 (6)	調査研究に対する助言等 (その6)
11	研究の実施 (7)	調査研究に対する助言等 (その7)
12	研究の実施 (8)	調査研究に対する助言等 (その8)
13	研究の実施 (9)	調査研究に対する助言等 (その9)
14	研究の実施 (10)	調査研究に対する助言等 (その10)
15	中間報告会 (2-1)	発表と質疑 (その1)
16	中間報告会 (2-2)	発表と質疑 (その2)
17	研究の実施 (11)	調査研究に対する助言等 (その11)
18	研究の実施 (12)	調査研究に対する助言等 (その12)
19	研究の実施 (13)	調査研究に対する助言等 (その13)
20	研究の実施 (14)	調査研究に対する助言等 (その14)
21	研究の実施 (15)	調査研究に対する助言等 (その15)
22	研究の実施 (16)	調査研究に対する助言等 (その16)
23	中間報告会 (3-1)	発表と質疑 (その1)
24	中間報告会 (3-2)	発表と質疑 (その2)
25	研究の実施 (17)	調査研究に対する助言等 (その17)
26	研究の実施 (18)	調査研究に対する助言等 (その18)
27	研究発表会 (1)	調査研究の報告 (その1)
28	研究発表会 (2)	調査研究の報告 (その2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに4時間に相当する労力が必要となる。

【テキスト（教科書）】

なし。(フィールドがテキスト!)

【参考書】

各自のテーマに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文を100%の割合で評価する。(テーマ、研究手法、論述などの適切さのほか、独創性を重視する。)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は、状況に応じて適宜変更することがある。

HUM400EB, HUM400EC, HUM400ED

演習 3 (卒業論文)

濱中 春

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

原則として「風景／場所」あるいは「表象文化」のいずれか、あるいは両方にかかわるテーマの下で研究を行い、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

課題発見力、学問的探究力、資料収集力、論理的思考力、言語表現力を向上させ、論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

各自がこれまでの研究を土台としてテーマを設定し、参考文献の収集と内容の把握、研究対象の分析と考察、ゼミでの中間報告と議論をへて、論文（20000字以上）を執筆します。ゼミの時間には主に研究報告とそれについての議論をおこないます。

【変更】本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	春学期の予定
2	研究報告 1 (1)	演習 2 の論文の内容と自己評価
3	研究報告 1 (2)	演習 2 の論文の内容と自己評価
4	研究報告 1 (3)	演習 2 の論文の内容と自己評価
5	研究報告 1 (4)	演習 2 の論文の内容と自己評価
6	研究報告 1 (5)	演習 2 の論文の内容と自己評価
7	研究報告 1 (6)	演習 2 の論文の内容と自己評価
8	個別指導 (1)	テーマや研究方法の再考
9	個別指導 (2)	テーマや研究方法の再考
10	個別指導 (3)	テーマや研究方法の再考
11	研究報告 2 (1)	研究の進捗状況と今後の計画
12	研究報告 2 (2)	研究の進捗状況と今後の計画
13	研究報告 2 (3)	研究の進捗状況と今後の計画
14	研究報告 2 (4)	研究の進捗状況と今後の計画
15	イントロダクション (2)	秋学期の予定
16	研究報告 3 (1)	研究の内容と成果
17	研究報告 3 (2)	研究の内容と成果
18	研究報告 3 (3)	研究の内容と成果
19	研究報告 3 (4)	研究の内容と成果
20	研究報告 3 (5)	研究の内容と成果
21	研究報告 3 (6)	研究の内容と成果
22	研究報告 4 (1)	研究の内容と成果
23	研究報告 4 (2)	研究の内容と成果
24	研究報告 4 (3)	研究の内容と成果
25	研究報告 4 (4)	研究の内容と成果
26	研究報告 4 (5)	研究の内容と成果
27	研究報告 4 (6)	研究の内容と成果
28	論文の点検	原稿の形式のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各自の構想にもとづいて研究を進め、論文を執筆する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。**【テキスト（教科書）】**

なし。

【参考書】

各自のテーマにあわせて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミで研究報告を行っていることを前提として、提出された論文の内容と形式にもとづいて（100 %）評価します。

【学生の意見等からの気づき】

少人数のためアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to write graduation thesis.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、社会的企業・NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを向上させる。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを向上させる。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①インタビューの活用
各自、研究テーマを設定し、独自の質問票を作成する。
アポイントメントを取り、質問票に基づいてインタビューを実施する。
- ②プレゼンテーションの活用
PowerPointを使ってプレゼンテーションを行う。
学部主催の「ゼミ研究発表会」で、インタビュー結果を報告する。
- ③論文執筆の集大成
卒論（30,000字）を執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	旧ゼミ論の報告会①	PowerPointによる報告
3	旧ゼミ論の報告会②	PowerPointによる報告
4	旧ゼミ論の報告会③	PowerPointによる報告
5	先行研究の輪読①	テキスト講読
6	先行研究の輪読②	テキスト講読
7	先行研究の輪読③	テキスト講読
8	先行研究の輪読④	テキスト講読
9	先行研究の輪読⑤	テキスト講読
10	先行研究の輪読⑥	テキスト講読
11	先行研究の輪読⑦	テキスト講読
12	卒論計画の合評会①	各自の研究テーマを検討
13	卒論計画の合評会②	各自の研究テーマを検討
14	卒論計画の合評会③	各自の研究テーマを検討
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	卒論の合評会①	卒論の構想発表
17	卒論の合評会②	卒論の構想発表
18	卒論の合評会③	卒論の構想発表
19	質問票の合評会①	各自の質問票を検討
20	質問票の合評会②	各自の質問票を検討
21	質問票の合評会③	各自の質問票を検討
22	卒論の個人面談①	質問票の修正
23	卒論の個人面談②	質問票の修正
24	研究発表会準備①	PowerPoint作成
25	研究発表会準備②	PowerPoint作成
26	卒論の報告会①	卒論の分析結果報告
27	卒論の報告会②	卒論の分析結果報告
28	卒論の報告会③	卒論の分析結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①インタビューの実施、②卒論の執筆（30,000字）
- ②本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①卒論（90%）
- ②プレゼンテーション（10%）

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】
Third-year seminar

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

藤田 真文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は5月6日（水）4限からオンライン授業を開始します。
卒業研究の計画と卒業論文執筆

【到達目標】

卒業研究を段階的に進め卒業論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は卒業研究を段階的に進めるために、テーマ発表、関連文献報告、調査計画を報告してもらいます。秋学期は卒業論文の完成に向けて個別指導を中心に進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	本年度ゼミの進行	ガイダンス
第2回	テーマ最終チェック①	卒業研究準備
第3回	テーマ最終チェック②	卒業研究準備
第4回	テーマ最終チェック③	卒業研究準備
第5回	参考文献調査①	卒業研究準備
第6回	参考文献調査②	卒業研究準備
第7回	参考文献調査③	卒業研究準備
第8回	参考文献報告①	卒業研究準備
第9回	参考文献報告②	卒業研究準備
第10回	参考文献報告③	卒業研究準備
第11回	卒業研究調査計画①	卒業研究発展
第12回	卒業研究調査計画②	卒業研究発展
第13回	卒業研究調査計画③	卒業研究発展
第14回	卒業研究調査計画④	卒業研究発展
第15回	卒業研究進行チェック①	ガイダンス
第16回	卒業研究進行チェック②	卒業研究発展
第17回	卒業研究進行チェック③	卒業研究発展
第18回	卒業研究進行チェック④	卒業研究発展

第 19 回	卒業研究最終報告①	卒業研究発展
第 20 回	卒業研究最終報告②	卒業研究発展
第 21 回	卒業研究最終報告③	卒業研究発展
第 22 回	卒業研究最終報告④	卒業研究発展
第 23 回	最終報告からの修正①	卒業研究発展
第 24 回	最終報告からの修正②	卒業研究発展
第 25 回	卒論の文章表現①	卒論執筆
第 26 回	卒論の文章表現②	卒論執筆
第 27 回	論文執筆個別指導①	卒論執筆
第 28 回	論文執筆個別指導②	卒論執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 授業のシラバスを熟読する
 第 2 回～ 14 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第 15 回～ 26 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第 27 回～ 28 回 論文執筆の最終チェックを行う本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田真文編著『メディアの卒論 テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016 年、3200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- ①レポーター報告（評価の 40 %）②卒業論文（評価の 40 %）③平常点（評価の 20 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送業界をテーマにした卒業論文の指導においてデータ収集のアドバイスを行っている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better graduation thesis

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3（卒業論文）

別府 三奈子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会に属するがゆえに発生している問題の中から、自らの関心に即してテーマを設定し、文献調査を踏まえて、現場の聞き取り調査を行い、学位論文を書く。

【到達目標】

社会問題の解決のために必要な情報の収集・分析力を養う。併せて、情報化社会特有の格差構造を観察し、マスメディア理論を踏まえ、公的記録の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学生のレジюмеをもとに、疑問の実態を把握する調査を行い、分析・考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	年間予定	研究手法の流れの概説
第 2 回	リサーチトピック案	テーマ案の検討
第 3 回	新聞データベース作成	キーワードの検討
第 4 回	先行研究の調査	ブックリストの作成
第 5 回	仮説・調査法の検討	研究方法論の整理
第 6 回	論文構成案の発表	研究実施計画
第 7 回	先行研究の調査	ブックレビューの蓄積
第 8 回	先行研究の分析	先行する知見の整理
第 9 回	実証の設計	仮説の検証方法の精査
第 10 回	調査準備	調査の実施準備
第 11 回	調査の実施	調査シミュレーション
第 12 回	調査の実施 1	聞き取り調査のコード化
第 13 回	調査の実施 2	聞き取り調査の分析
第 14 回	研究発表	前期調査の結果報告と討議
第 15 回	秋学期の作業計画の作成	計画案の検討
第 16 回	調査情報の整理	論文構成案の検討
第 17 回	追加調査	調査の実施計画
第 18 回	追加調査の分析	調査報告
第 19 回	追加調査の考察	調査結果の分析
第 20 回	中間発表	論文目次の検討
第 21 回	先行研究整理	1 章、先行知の広がり
第 22 回	方法論と仮説の整理	2 章、方法論の検討
第 23 回	検証	3 章、調査の実施
第 24 回	分析	4 章、調査結果の分析
第 25 回	考察	5 章、結果の考察
第 26 回	文献リスト・資料	文章表記、引用確認
第 27 回	研究の振り返り	残された課題の精査
第 28 回	研究の振り返り	研究全体の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本ゼミは、授業外での調査研究の結果をもとに討議を重ねる場となる。調査自体は校外で自主的、日々取り組んでいくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の現場:地方紙で読む 2016』早稲田大学ジャーナリズム研究所編、早稲田大学出版部、2016 年

【参考書】

テーマに即して、文献リストを作成する。

【成績評価の方法と基準】

日頃の研究活動を踏まえた研究発表内容 40 %、論文の完成度 60 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度記入なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

継続は力なり、です。工夫しながら取りくみ続け、書き上げる意志をもって思索を深めましょう。

【Outline and objectives】

From the problems that arise because of belonging to society, set themes according to their own interests, conduct a field interview based on the literature survey, and write a dissertation.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自のテーマによる卒業論文指導

【到達目標】

卒業論文の執筆を到達目標地点とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には演習(II)の延長ですが、卒業論文へ向けての最終段階にあたりますので質的・量的にさらなるレベル・アップを図り、質の高い卒業論文の作成を目指します。

春学期は、各自の論文テーマの中間報告と文献リスト、そしてその後の作業日程リストを提出してもらいます。秋学期は、卒論構想の個別報告と検討を行います。卒論の口頭試問は、1月末～2月初旬に公開形式で行います。例年、ゼミ生全員に加えOB/OG院生、一般聴衆の前で3年間の成果を発表し、ともに学びあう場になっています。9月中旬にゼミ合宿を実施する予定ですから、必ず参加してください。これにもOB/OG院生が参加して議論をリードしたり、鋭い批判を投げ掛けてくれるはずです。授業開始は4月24日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期への導入	受講者との相談の上、決定します。基本的には、チュートリアル指導による密度の濃い論文指導となります。
第2回	卒論執筆指導(1)	卒論の構想案の検討、討論
第3回	卒論執筆指導(2)	卒論の構想案の検討、討論
第4回	卒論執筆指導(3)	卒論の構想案の検討、討論
第5回	卒論執筆指導(4)	卒論の構想案の検討、討論
第6回	卒論執筆指導(5)	卒論の構想案の検討、討論
第7回	卒論執筆指導(6)	卒論の構想案の検討、討論
第8回	卒論執筆指導(7)	卒論の構想案の検討、討論
第9回	卒論執筆指導(8)	卒論の構想案の検討、討論
第10回	卒論執筆指導(9)	卒論の構想案の検討、討論
第11回	卒論執筆指導(10)	卒論の構想案の検討、討論
第12回	卒論執筆指導(11)	卒論の構想案の検討、討論
第13回	卒論執筆指導(12)	卒論の構想案の検討、討論
第14回	卒論執筆指導(13)	卒論の構想案の検討、討論
第15回	秋学期への導入	導入および卒論書式の確認
第16回	卒論執筆指導(14)	卒論の構想案の検討、討論
第17回	卒論執筆指導(15)	卒論の構想案の検討、討論
第18回	卒論執筆指導(16)	卒論の構想案の検討、討論
第19回	卒論執筆指導(17)	卒論の構想案の検討、討論
第20回	卒論執筆指導(18)	卒論の構想案の検討、討論
第21回	卒論執筆指導(19)	卒論の構想案の検討、討論
第22回	卒論執筆指導(20)	卒論の構想案の検討、討論
第23回	卒論執筆指導(21)	卒論の構想案の検討、討論
第24回	卒論執筆指導(22)	卒論の構想案の検討、討論
第25回	卒論執筆指導(23)	卒論の構想案の検討、討論
第26回	卒論執筆指導(24)	卒論の構想案の検討、討論
第27回	卒論執筆指導(25)	卒論の構想案の検討、討論
第28回	卒論執筆指導(26)	卒論の構想案の検討、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

綿密な予習・復習及び各自のフィールドワーク、卒論の執筆・推敲・完成が必須です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の専門研究を展開するため、特にテキストは指定しません

【参考書】

各自の問題関心に応じたものを適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

学年末提出の「IIIゼミ修了論文」すなわち「卒業論文」で評価します。出席は当然のことながら必須です。論理的かつ首尾一貫してテーマについて論じているか、IIゼミ修了論文を量・質ともに超えているか、が評価の中軸になります。端的に表現すれば「自己ベスト更新」がなされているかが評価のポイントだということです。

【学生の意見等からの気づき】

定期的にゼミ運営について、ゼミ生と話し合いを持ちます。

【その他の重要事項】

原則として、新規募集は行いません

【Outline and objectives】

This course is designed to help students write a B.A. thesis that is based on firsthand data obtained by their own fieldwork. At the end of the seminar, students should be able to do the following:

- evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
- apply theories or findings to real world situations.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

宮下 阿子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

卒業論文を執筆する。自ら問いを立ち上げ、1年間の取り組みを通して、論文にまとめることを目的とする。

【到達目標】

各自の問題関心にしたがって、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

各自の研究報告とその検討を中心に進める。

この演習では、自分が何に関心を持っているのかを繰り返し問いなおし、必要な情報を収集し、そこから自分の考えを言語化してまとめていくという、一連のプロセスを重視する。

※この授業は4月21日（火）から始めます。受講生は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期について	概要の説明とスケジュールの確認
第2回	題材とテーマを決める	研究の進め方の解説
第3回	素案の報告①	題材とテーマを報告＋先行研究の整理
第4回	素案の報告②	題材とテーマを報告＋先行研究の整理
第5回	素案の報告③	題材とテーマを報告＋先行研究の整理
第6回	素案の報告④	題材とテーマを報告＋先行研究の整理
第7回	素案の報告⑤	題材とテーマを報告＋先行研究の整理
第8回	現場へのアプローチ	調査倫理・手法の解説
第9回	中間報告 1-①	進捗状況と今後の方向性について
第10回	中間報告 1-②	進捗状況と今後の方向性について
第11回	中間報告 1-③	進捗状況と今後の方向性について
第12回	中間報告 1-④	進捗状況と今後の方向性について
第13回	中間報告 1-⑤	進捗状況と今後の方向性について
第14回	夏休みに向けて	各自の課題の確認
第15回	秋学期について	概要の説明とスケジュールの確認
第16回	章立てをつくる	論文構成の解説
第17回	中間報告 2-①	各章の内容と構成を報告
第18回	中間報告 2-②	各章の内容と構成を報告
第19回	中間報告 2-③	各章の内容と構成を報告
第20回	中間報告 2-④	各章の内容と構成を報告
第21回	中間報告 2-⑤	各章の内容と構成を報告
第22回	問いと結論を一貫させる	まとめ方の解説
第23回	最終報告①	タイトルと結論を報告
第24回	最終報告②	タイトルと結論を報告
第25回	最終報告③	タイトルと結論を報告
第26回	最終報告④	タイトルと結論を報告
第27回	最終報告⑤	タイトルと結論を報告
第28回	卒業論文の提出に向けて	最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】卒業論文の完成に向けて、各自の研究テーマに沿った学習を進めること。1年間かけて、粘り強く、自らの問いと向き合ってほしい。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文を完成させるまでの取り組み、および、卒業論文の内容によって、総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students write a graduation thesis.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

三年間の演習の総まとめとして、卒業論文に取り組む。

【到達目標】

文献調査および実証実験を基に、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

専門書の輪読により消費者の心理や行動についての理解を深め、調査手法を学ぶ。また、一年間に渡り、各自が設定したテーマに沿って研究を進める。毎週の授業時には進捗状況報告を行う。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読 1	文献の輪読
3.	文献講読 2	文献の輪読
4.	文献講読 3	文献の輪読
5.	文献講読 4	文献の輪読
6.	テーマ設定と討議 1	テーマ発表
7.	テーマ設定と討議 2	テーマ発表
8.	テーマ設定と討議 3	テーマ発表
9.	テーマ設定と討議 4	テーマ発表
10.	文献講読 5	文献の輪読
11.	文献講読 6	文献の輪読
12.	文献講読 7	文献の輪読
13.	実証実験 1	消費者行動調査
14.	実証実験 2	消費者行動調査
15.	調査結果発表 1	調査結果の発表
16.	調査結果発表 2	調査結果の発表
17.	調査結果発表 3	調査結果の発表
18.	調査結果発表 4	調査結果の発表
19.	データ分析 1	調査結果の詳細な分析
20.	データ分析 2	調査結果の詳細な分析
21.	データ分析 3	調査結果の詳細な分析
22.	論文作成 1	進捗状況報告
23.	論文作成 2	進捗状況報告
24.	論文作成 3	進捗状況報告
25.	論文作成 4	進捗状況報告
26.	論文作成 5	進捗状況報告
27.	論文作成 6	進捗状況報告
28.	研究発表 7	成果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アンケート調査や実証実験などを行う。

また、学年横断型グループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況報告内容 20%、

卒業論文の内容 60%、

口述試験 20%

による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline and objectives】

To brush up the graduation thesis.

SOC300EC

外書講読（社会学）2 A

武田 俊輔

サブタイトル：特講（外書講読社会学2 A）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Graham Crow, What are community studies? (Bloomsbury USA Academic, 2018) をテキストとして、コミュニティについての社会学的研究について英語で学ぶ。

【到達目標】

- ・英語で書かれた社会学のテキストを読めるようになること。
- ・文献の内容を理解することで、コミュニティについての社会的なとらえ方や調査方法、調査倫理について理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講者が分担して、テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。英語の授業ではないので、1回に進む分量は5ページ程度と少ない。報告者は文献を読んだ上で、(図書館が閉鎖されて使えない状況下においては、あくまで手元の図書やオンライン上の文献を用いて)内容を調べ、他の受講生に対して説明することが求められる。その上で、全員で質疑応答とディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的とテーマ、レジュメの作り方について
2	Chapter 1 の講読	Chapter 1 の講読、担当者の報告、ディスカッション
3	Chapter 2 (2.1 ~ 2.2) の講読	Chapter 2 (2.1 ~ 2.2) の講読、担当者の報告、ディスカッション
4	Chapter 2 (2.3) の講読	Chapter 2 (2.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
5	Chapter 3 (3.1) の講読	Chapter 3 (3.1) の講読、担当者の報告、ディスカッション
6	Chapter 3 (3.2) の講読	Chapter 3 (3.2) の講読、担当者の報告、ディスカッション
7	Chapter 3 (3.3) の講読	Chapter 3 (3.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
8	Chapter 4 (4.1) の講読	Chapter 4 (4.1) の講読、担当者の報告、ディスカッション
9	Chapter 4 (4.2) の講読	Chapter 4 (4.2) の講読、担当者の報告、ディスカッション
10	Chapter 4 (4.3) の講読	Chapter 4 (4.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
11	Chapter 5 (5.1) の講読	Chapter 5 (5.1) の講読、担当者の報告、ディスカッション
12	Chapter 5 (5.2 ~ 5.3) の講読	Chapter 5 (5.2 ~ 5.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
13	Chapter 5 (5.4 ~ 5.5) の講読	Chapter 5 (5.4 ~ 5.5) の講読、担当者の報告、ディスカッション
14	Chapter 6 の講読・総括討論	Chapter 6 の講読、担当者の報告、ディスカッション。および全体に関する総括討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のテキストの講読部分を事前に辞書を引きながら熟読し、紹介される文献についての調べて理解を深めるとともに、不明な点や疑問点、派生的な関心について明確にすること。それが質疑応答・ディスカッションを行う上での前提となる。英語の授業というより社会学やコミュニティに関する授業なので、社会学事典や『コミュニティ事典』（春風社、2017年）なども合わせて下調べすることが望ましい。また授業終了後にこの講読をふまえて、「コミュニティ」についてレポートを提出してもらうことになる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Graham Crow, 2018, What are community studies?, Bloomsbury USA Academic.

【参考書】

玉野和志（編）,2020,『都市社会学を学ぶ人のために』世界思想社。地域社会学会編,2011,『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社。中筋直哉・五十嵐泰正,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房。

その他、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）：テキストの担当部分、紹介される文献の下調べ、派生的な関心についての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度にもとづき評価する。

レポート（30%）：原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初回のため、特になし。

【Outline and objectives】

Students learn sociological research on communities. The textbook is "What are community studies?"(Bloomsbury USA Academic, 2018) written by Graham Crow .

外書講読（社会学）2 B

武田 俊輔

サブタイトル：特講（外書講読社会学2 B）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当者が分担執筆している Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützelzer, Sebastian Polak-Rottmann(eds), Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery (Routledge,2020) をテキストとして、現代日本の地域社会について学ぶ。ヨーロッパの日本学 (Japanology) の研究者たちが人口減少の進む日本の地域社会をどのように論じているかについて学ぶことで、日本の地域社会について理解するための視点を獲得する。

【到達目標】

英語で書かれた日本社会に関するテキストを読めるようになること。日本の地域社会について、海外との比較の視点も持ちつつ社会学的な視点で理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講者が分担して、テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。単なる要約ではなく不明点や疑問点を明確にすること、また各章で紹介される地域社会の状況について事前に報告者は下調べして、他の受講生に対して説明することが求められる。その上で、全員で質疑応答とディスカッションを行う。

なお授業計画は学生の英語力や関心によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的とテーマ、レジュメの作り方について
2	Chapter 1（前半）の講読	Chapter 1（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
3	Chapter 1（後半）の講読	Chapter 1（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
4	Chapter 2（前半）の講読	Chapter 2（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
5	Chapter 2（後半）の講読	Chapter 2（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
6	Chapter 4（前半）の講読	Chapter 4（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
7	Chapter 4（後半）の講読	Chapter 4（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
8	Chapter 5（前半）の講読	Chapter 5（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
9	Chapter 5（後半）の講読	Chapter 5（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
10	Chapter 6（前半）の講読	Chapter 6（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
11	Chapter 6（後半）の講読	Chapter 6（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
12	Chapter 8（前半）の講読	Chapter 8（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
13	Chapter 8（後半）の講読	Chapter 8（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のテキストの講読部分を事前に辞書を引きながら熟読し、理解を深めるとともに、内容に関する不明な点や疑問点、派生的な関心について明確にすること。それが質疑応答・ディスカッションを行う上で前提となる。英語の授業というより社会学や地域社会に関する授業なので、そうした観点からのディスカッションに時間をできるだけ使う。

また授業終了後にこの講読をふまえて、日本の地域社会に関するレポートを提出してもらうことになる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützelzer, Sebastian Polak-Rottmann(eds), 2020, Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery, Routledge.

テキストは担当教員が用意する（もし購入できる人がいればその方が望ましい）。

【参考書】

その都度、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）：テキストの担当部分、紹介される文献の下調べ、派生的な関心についての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度にもとづき評価する。

レポート（30 %）：原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初回のため、特になし。

【Outline and objectives】

Students learn about contemporary local community in Japan. The textbook is "Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery" (Routledge,2020) edited by Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützelzer, Sebastian Polak-Rottmann.

They can get perspectives to understand local depopulated communities by learning how European researchers who major in Japanology analyze such communities.

SOC300EC

外書講読（社会学）3A

土倉 英志

サブタイトル：特講（外書講読社会学3A）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

This course involves reading social psychology articles written in English. Especially we focus on psychological experiments. The objective of this course is to develop reading skills in English and to acquire basic knowledge of central research method in social psychology.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学の英語論文を読む際につまづきの石となるもののひとつに、方法論の理解がある。たとえば、心理学実験の考えかた、実施手続き、データ収集後の分析手法（統計を含む）といったものである。英語を読むのが得意でも、英語論文を読みすすめることができないのは、こうした理解と関連している。方法論の理解があいまいなままでは、残念ながら「論文を読んだ」とは言えない。そこで本講義では、英文講読を通じて、社会心理学の考えかたの基礎を学んでいく。

【到達目標】

- ・社会心理学の英語論文を読むための知識を身につける。
- ・社会心理学の研究手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・受講者による文献報告を中心に展開する。受講者ごとに、またはチームごとに担当の文献を割りあてる。担当者にはレジュメを作成し、報告してもらう。これを受けてディスカッションを行なう。必要に応じて教員が説明を行なう。前半は、社会心理学の古典的な研究を中心に学び、基本的な研究枠組みを理解する。中盤以降は、最近公刊された論文を読んでいく。終盤には先行研究の追試を実施する。

※※ 4/16 追記：本授業は 4 月 23 日からオンラインで実施する。詳細は学習支援システムに仮登録し、資料を参照すること。※※

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要の説明、自己紹介、役割分担
2	社会心理学の研究を読むとは	社会心理学の研究を「読む」のに必要な基礎知識の紹介
3	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
4	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
5	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
6	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
7	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
8	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
9	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
10	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
11	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
12	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
13	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論
14	文献講読	文献報告、質疑応答、集団討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献を報告する準備を行なう。レジュメは発表の 1 週間前に印刷し、配付する。適宜課される課題に取り組む。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・テキストの詳細は初回授業で説明するため必ず出席すること。

・論文はコピーを配付する。一例としてつき。Callan,M.J.,Harvey,A.J.,& Sutton,R.M. (2014). Rejecting victims of misfortune reduces delay discounting, *Journal of Experimental Social Psychology*, 51,41-44.

【参考書】

・大坪庸介・スミス、A. (2017). 『英語で学ぶ社会心理学』。有斐閣。

・その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（文献報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質で判断する（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

・特になし

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがある。

SOC300EC

外書講読（社会学）3 B

徳安 彰

サブタイトル：特講（外書講読社会学3 B）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Daniel Trottier "Identity Problems in the Facebook Era"および Ben Agger "Oversharing"をテキストに、英語で社会学を学ぶ。このテキストの講読をとおり、インターネット時代のアイデンティティや自己呈示の社会的な捉え方を身につける。

【到達目標】

英語で書かれた社会学の初歩的な文献を読解できるようになる。文献の内容を理解することによって、アイデンティティや自己呈示の社会的な捉え方を習得する。その結果、インターネット時代におけるアイデンティティや自己呈示の様相をみずから考察することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講者が、原典テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する（進度は各回 10 ページ程度）。テキストの各章の末尾に設けられた Discussion Questions にもとづいて、受講者全員で質疑応答や討議を行う。また必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	2つのテキストのまえがきにもとづくテーマの概説
第 2 回	講読 (1)	Identity Problems I
第 3 回	講読 (2)	Identity Problems II
第 4 回	講読 (3)	Identity Problems III
第 5 回	講読 (4)	Identity Problems IV
第 6 回	講読 (5)	Identity Problems V
第 7 回	講読 (6)	Identity Problems VI
第 8 回	講読 (7)	Oversharing I
第 9 回	講読 (8)	Oversharing II
第 10 回	講読 (9)	Oversharing III
第 11 回	講読 (10)	Oversharing IV
第 12 回	講読 (11)	Oversharing V
第 13 回	講読 (12)	Oversharing VI
第 14 回	講読 (13)	Oversharing VII

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原典テキストの講読部分を事前に熟読し、理解を深めるとともに、不明点や派生的な関心点を明確にして授業に臨むこと。また授業後は、復習的にテキストを再読し、十分な理解が得られるようにすること。さらに派生的なテーマについても積極的に学習すること。英語で社会学のテキストを読むので、英和辞典は当然のこと、社会学辞典もあわせて用意するのが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とするが、とりわけ準備には十分な時間をとって授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Daniel Trottier, Identity Problems in the Facebook Era, Routledge, 2014
Ben Agger, Oversharing, Rutledge, 2015

テキストは担当教員が用意するが、できれば自分で購入するのが望ましい。

【参考書】

アーヴィング・ゴッフマン『行為と演技—日常生活における自己呈示』誠信書房、1974 年

アーヴィング・ゴッフマン『スティグマの社会学—烙印を押されたアイデンティティ』せりか書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70 %) : テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

レポート (30 %) : 原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの講読の仕方を指導することによって、受講生のテキスト理解が深まるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【Outline and objectives】

We learn sociology in English with the texts "Identity Problems in the Facebook Era" (Daniel Trottier, Routledge 2014) and "Oversharing" (Ben Agger, Routledge 2015). With these texts, we learn the sociological concept of identity and presentation of self in the Internet age.

SOS300EB

外書講読（社会政策科学）3A

関口 浩

サブタイトル：特講（外書講読社会政策科学3A）
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学関係の英語文献講読。令和2年度春学期の講義では、経済学の理論に立脚したやや難解な租税論に関する文献、そして将来の在外生活等を考えて米国の慣習・制度に関する最新の英語文献を講読する。

【到達目標】

国際化の進展に伴い、小学校からの英語教育も叫ばれ、英語の会話力や英語文献の読解力が従来にも増して求められている。読解も会話もその力を伸ばすためには「継続は力なり」で、失敗をおそれず繰り返し実践することである。本講義では、本学部創設以来の伝統である「応用経済学」のうち、「財政学」関連の文献を講読し、その知識を深めるとともに、米国の文化等に触れながら、外国文献の読解力を伸ばすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、遠隔講義方式と遠隔演習方式を併用して進めていく。受講生には話し合いの上、主たる担当部分が割り当てられる。まず訳出し、重要構文・専門用語等を調べ、レジュメを作り、受講生全員に前週までに配付する。講義では全員を対象に無作為に指名し、訳および説明を求める。なお進捗に応じて、担当教員による講義を加える。なお、予習をしてこない学生が多いので毎回試験を行う。
2. 原則として「外書講読（社会政策科学）3B」と合わせて受講する必要がある。
3. 大学の遠隔講義体制が5月に本格化することから、受講生の遠隔講義受信体制が整うまでの期間を考え、5月6日を暫定講義開始日とする。学年暦の講義開始日である4月22日は受信設定と、後日学習支援システムから配付する教材の予習に専念してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講読計画の説明	教科書の概要説明
第2回	I. 米国および海外の財政連邦主義（ないし地方財政）	1. 州・地方の歳入・歳出
第3回	I. 米国および海外の財政連邦主義（ないし地方財政）	2. 海外の財政連邦主義
第4回	II. 最適財政連邦主義	1. ティーパー・モデル
第5回	IV. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第6回	II. 最適財政連邦主義	2. ティーパー・モデルの問題点
第7回	II. 最適財政連邦主義	3. ティーパー・モデルの証拠
第8回	II. 最適財政連邦主義	4. 最適財政連邦主義
第9回	III. 地域間の再分配	1. 再分配手段の検討
第10回	IV. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第11回	III. 地域間の再分配	2. 再分配手段：補助金(1) 経済理論的分析
第12回	III. 地域間の再分配	2. 再分配手段：補助金(2) 経済理論的分析
第13回	III. 地域間の再分配	3. 学校財政均衡化政策(1)
第14回	III. 地域間の再分配	3. 学校財政均衡化政策(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり2時間以上かけて、予習段階では各回講読箇所を読み、不明な単語を調べ、構文を中心に訳し、文意の不明な箇所を明らかにし、講義時の討論の材料となる構文や財政学的背景、米国の文化的背景について調べる。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、配付資料を頼りに2時間以上かけて取り組み、復習すること。また通学車内で予習・復習の一環として、講読部分を通読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

講読教科書として以下のものを予定しているが、詳細は第1回講義の際に説明する。

1. Jonathan GRUBER, *Public Finance and Public Policy (5th edition)*, Worth Publishers, 2016.
2. 米国の慣習・制度に関する英語文献。

【参考書】

1. 長谷川啓之編『英和英経済用語辞典』富士書房、昭和55年。
2. 佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。
3. 参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2. 例年は目安として、夏の定期試験(50%)を中心に、報告資料作成水準(30%)、出席票記述事項(10%)、講義への参加度合(10%)を総合し、講義最終回提出物(必須)の提出有無を加味して評価している。本学期もこれに準じることになるが、具体的方法と基準は学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

予習をしてきた他の受講生の迷惑にならないように、必ず予習をして講義に臨むこと。また、財政学に関する専門用語がかなり出てくるので、大学生レベルの英和辞典と専門用語辞典を用意してほしい。

【その他の重要事項】

1. 昨年度に続いて、租税に関する基礎知識をつけるために、講義の進行に応じて、何回か都心の学外施設(租税資料館等)を利用して講義を行う予定である。そのため本講義の前後の時間帯に講義等がある学生は支障をきたすことが予想される。登録に際しては十分注意すること。また受講者の事情により講義時刻開始を早めなければならない回が生じることも予想されるので、第1回講義には必ず出席すること。後日の対応は不可であるので十分に注意すること。
2. 本講義を受講する学生は講義の性質を考えて、「財政学Ⅰ」、「財政学Ⅱ」、「地方財政論」を受講済みか同時受講していることを、原則、必須要件とする。これらの要件を満たしていない学生は、機械登録ができたとしても、評価の対象としないので注意すること。
3. 海外留学、4年次の履修、過年度生の履修等で事情のある学生は第1回講義開始時に申し出て指示を受けること。

【Outline and objectives】

We read and understand the book about the slightly difficult local public finance theory and tax theory based on an economic theory.

SOS300EB

外書講読（社会政策科学）3 B

関口 浩

サブタイトル：特講（外書講読社会政策科学3 B）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学関係の英語文献講読。令和2年度秋学期の講義では、経済学の理論に立脚したやや難解な租税論に関する文献、そして将来の在外生活等を考えて米国の慣習・制度に関する最新の英語文献を講読する。財政学関係の英語文献講読。

【到達目標】

国際化の進展に伴い、小学校からの英語教育も叫ばれ、英語の会話力や英語文献の読解力が従来にも増して求められている。読解も会話もその力を伸ばすためには「継続は力なり」で、失敗をおそれず繰り返し実践することである。本講義では、本学部創設以来の伝統である「応用経済学」のうち、「財政学」関連の文献を講読し、その知識を深めるとともに、米国の文化等に触れながら、外国文献の読解力を伸ばすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 基本的に演習方式と講義方式を併用して進めていく。受講生には話し合いの上、主たる担当部分が割り当てられる。まず訳出し、重要構文・専門用語等を調べ、レジュメを作り、受講生全員に前週までに配付する。講義では全員を対象に無作為に指名し、訳および説明を求める。なお進捗に応じて、担当教員による講義を加える。なお、予習をしてこない学生が多いので毎回試験を行う。

2. 原則として「外書講読（社会政策科学）3 A」と合わせて受講する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講読計画の説明	教科書の概要説明
第2回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (1)
第3回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (2)
第4回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (3)
第5回	II. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第6回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (4)
第7回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (5)
第8回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (6)
第9回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分 (7)
第10回	II. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第11回	I. 課税と厚生	2. 物品税の厚生費用の測定 (1)
第12回	I. 課税と厚生	2. 物品税の厚生費用の測定 (2)
第13回	I. 課税と厚生	2. 物品税の厚生費用の測定 (3)
第14回	II. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり2時間以上かけて、予習段階では各回講読箇所を読み、不明な単語を調べ、構文を中心に訳し、文意の不明な箇所を明らかにし、講義時の討論の材料となる構文や財政学的背景、米国の文化的背景について調べる。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、配付資料を頼りに2時間以上かけて取り組み、復習すること。また通学車内で予習・復習の一環として、講読部分を通読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

講読教科書として以下のものを予定しているが、詳細は第1回講義の際に説明する。

1. Arnold C. HARBERGER, *Taxation and Welfare*, Little Brown and Company, 1974.
2. 米国の慣習・制度に関する英語文献。

【参考書】

1. 長谷川啓之編『英和英経済用語辞典』富士書房、昭和55年。
2. 佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。
3. 参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

2. 目安として、夏の定期試験(50%)を中心に、報告資料作成水準(30%)、出席票記述事項(10%)、講義への参加度合(10%)を総合し、講義最終回提出物(必須)の提出有無を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習してきた他の受講生の迷惑にならないように、必ず予習をして講義に臨むこと。また、財政学に関する専門用語がかなり出てくるので、大学生レベルの英和辞典と専門用語辞典を用意してほしい。

【その他の重要事項】

1. 昨年度に続いて、租税に関する基礎知識をつけるために、講義の進行に応じて、何回か都心の学外施設(租税資料館等)を利用して講義を行う予定である。そのため本講義の前後の時間帯に講義等がある学生は支障をきたすことが予想される。登録に際しては十分注意すること。
2. 本講義を受講する学生は講義の性質を考えて、「財政学Ⅰ」、「財政学Ⅱ」、「地方財政論」を受講済みか同時受講していることを、原則、必須要件とする。これらの要件を満たしていない学生は、機械登録ができたとしても、評価の対象としないので注意すること。
3. 海外留学、4年次の履修、過年度生の履修等で事情のある学生は第1回講義開始時に申し出て指示を受けること。

【Outline and objectives】

We read and understand the book about the slightly difficult local public finance theory and tax theory based on an economic theory.

SOC300ED

外書講読（メディア社会学）2 A

鈴木 宗徳

サブタイトル：特講（外書講読メディア社会学2 A）
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2～3 ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨む。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆく。文の構造や文脈について解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読(1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読(2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読(3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読(4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読(5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読(6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読(7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読(8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読(9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読(10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読(11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読(12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Helen Margetts, Rethinking Democracy with Social Media, The Political Quarterly, 19(1), 2019, pp.107 - 123.

テキストは初回に配布するが、担当者個人のDropBoxからファイルをダウンロードできるので (<http://urx2.nu/PSsq>) 事前に1～2段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績(45%)、期末テストの成績(45%)、授業への参加姿勢(10%)。2回欠席するごとに、成績評価を一段階ずつ下げます(S→A+, A+→A, A→A-…)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, students practice reading academic English texts.

SOC300ED

外書講読（メディア社会学）2 B

鈴木 宗徳

サブタイトル：特講（外書講読メディア社会学2 B）
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2～3 ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨む。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆく。文の構造や文脈について解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読(1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読(2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読(3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読(4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読(5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読(6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読(7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読(8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読(9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読(10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読(11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読(12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Giulia Evolvi, Hate in a Tweet: Exploring Internet-based Islamophobic discourses, Religions, 9(10), 307, 2018, pp.1-14 (冒頭のAbstractはとばして、Introductionから読み始める。)

テキストは初回に配布するが、担当者個人のDropBoxからファイルをダウンロードできるので (<http://urx2.nu/PSsq>) 事前に1～2段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績(45%)、期末テストの成績(45%)、授業への参加姿勢(10%)。2回欠席するごとに、成績評価を一段階ずつ下げます(S→A+, A+→A, A→A-…)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, students practice reading academic English texts.

GDR200EC

開発とジェンダー

平野 恵子

サブタイトル：国研：開発とジェンダー

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて、基本的な考え方や視角を身に付け、とくにジェンダーという視点を入れることによって問題がどう見えてくるのか、具体的なことから問題を考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発の理論におけるジェンダーから具体的な開発途上国の現状まで、さまざまな面から議論します。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のテーマと目的を紹介する
第2回	開発と「女性・男性」の視点	「女性・男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第3回	「農村の近代化」：「農民=男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第4回	開発途上国のケース・スタディから：貧困、ジェンダー、女性	開発途上国における貧困問題とジェンダーについて検討する
第5回	開発途上国の女性の生活	開発途上国の女性の生活について、教育や妊娠・出産などについて考える
第6回	開発政策とジェンダー	国連などの議論などを紹介する
第7回	開発途上国の少女	伝統的慣習や女子割礼
第8回	グローバル経済におけるジェンダー	グローバル化が開発途上国における女性に与える影響を考える
第9回	「器用な指先」	多国籍企業の開発途上国進出と女性工場労働者
第10回	移住労働とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働とジェンダー、移住労働とケア労働など
第11回	セックス産業と人身取引	人身取引（トラフィッキング）とジェンダー
第12回	代理母ビジネス	インドの代理母ビジネス
第13回	女性のエンパワーメント	国際NGOsの人材育成プロジェクト
第14回	人間の安全保障とジェンダー	開発・貧困・ジェンダーを人間の安全保障の視点から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連して文献を読むなど、授業以外での勉強も必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献は適宜、紹介します。

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版社（2004）；吉村真子「アジアの女性移住労働者」『アジア新世紀5市場』（第1章）岩波書店（2003）；吉村真子『マレーシアの経済発展と労働力構造』（第4章）法政大学出版社（1998）；宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社（2007）；田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社（2017）なども参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は、①授業内のコメント・カードおよびミニ・レポート（30%）、②定期試験（70%）などから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダーなど、国際社会問題をめぐって、授業以外の問題につながるような議論の進め方をしたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets and to take a final term examination.

SHS100CA

科学史

河野 俊哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、本講義では、「科学」とは何かについて、歴史的に考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。【4/20更新】学習支援システムで授業が開始されるのは4/30（木）とします。詳細は追って示しますが、第1回の4/30（木）、第2回の5月7日（木）は、学習支援システムにレジメやパワーポイントのスライドをアップロードするので、指定された課題を、学習支援システムを通じて提出する「資料配信型」の授業になる予定です。適宜学習支援システムには、「御知らせ」や「教材」、「アンケート」機能を利用して、皆さんにアプローチ・連絡しますので、まめにチェックするようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、進め方、成績評価等について説明します。アンケートを実施しますので、必ず出席して下さい。
第2回	「科学」の誕生	「歴史観」について説明します。
第3回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「世界観（宇宙論）」等について説明。
第4回	「錬金術と絵画」	「ハリー・ポッターと賢者の石」を手掛かりに錬金術について概観。
第5回	「12世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	「12世紀ルネサンス」と「大学の誕生」について説明。
第6回	「科学革命論」再考Ⅰ	「科学革命論」の概略とその問題点を説明。映画『薔薇の名前』。
第7回	「科学革命論」再考Ⅱ	「中国の科学」と「西洋中心主義」について説明。「暦の誕生」
第8回	「科学革命論」再考Ⅲ	コペルニクス、ケプラーらの営為を通して、ルネサンスの意味を考えます。
第9回	「科学革命論」再考Ⅳ	「魔術的自然観」と「機械論的自然観」
第10回	「科学革命論」再考Ⅴ：「化学革命の検討」	「化学革命」再考。『においの歴史』、『バビューム』
第11回	「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命、百科事典と学問分類
第12回	科学技術社会論入門Ⅰ：BSEと科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）問題を事例に科学コミュニケーションについて説明。
第13回	科学技術社会論入門Ⅱ：原発問題とリスク社会	「原発問題」を事例にしてリスク社会、科学リテラシーについて説明します。
第14回	本講義のまとめ	「大学の誕生（日本の場合）」、「教養教育の再構築」。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019年）
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）

【参考書】

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018年）。

【成績評価の方法と基準】

授業内小レポート 40% 授業外レポート 30% 試験 30%

【4/25更新】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分には配慮しますが、短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム

【Outline and objectives】

As you can see from COVID-19 and the nuclear power plant incidental problem, for many people, the understanding of the meaning of scientific research and the result (science literacy) are becoming indispensable. With that in mind, this lecture aims to deepen the understanding of "science" by historically considering what "science" is. I hope that your view of science will change in a good way.

SOC200EC

家族社会学 I

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声がかかるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会学的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは (1)	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは (2)	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族 (1)	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族 (2)	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族 (3)	歴史社会学的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめ	授業のまとめと期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付する文献リストに沿って、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読みこなすことが求められる。適宜、授業内課題によって、受講者の理解度を確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

非該当

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに学習支援システムの「お知らせ」や「配布資料」を確認すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families.

SOC300EB, SOC300EC

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題とをとりあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式によるが、授業内課題等を通じて双方向の授業を目指す。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本における子育て支援について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国における子育て支援について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	子どもとの同居は高齢者の幸せか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の高齢者・家族支援について概説する
14	まとめ	授業のまとめと期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付する文献リストに沿って、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読みこなすことが求められる。適宜、授業内課題によって、受講者の理解度を確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 85%、授業内課題 15%により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映写内容が見やすいよう適宜照明等を調整する。

【その他の重要事項】

テキストや成績評価方法等の詳細は初回授業時に説明するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care.

SES200EB

環境経済学Ⅰ

信澤 由之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）について、どのような効果があるのか、について考える。とりわけ、環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、地球温暖化、原子力政策と放射性廃棄物の問題と政策効果について学ぶ。

【到達目標】

環境経済学Ⅰでは、問題解決型学習を実施する。履修者が環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗の観点から環境問題の関係について説明できるようにする。特に、外部性以外にも、独占や情報の非対称性、公共財においてもケーススタディからなぜこの問題が起こったのか考えるままとめられることを目標とする。「身近な環境問題」ないし、「地球環境問題」に関心を持ち、地球環境問題を通じて問題提を起し、考察し、文章にまとめる力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画に変更がある場合には、授業資料に記載していきます。また、学習支援システムで提示するガイダンス資料をもとに、準備・事後学習、オンライン授業に取り組んでください。本授業の開始日は5月11日（月）とする。オンライン授業の方法は、授業資料を読み、その内容を理解した上で、レジュメの中から課題を出題するので、それに取り組み、提出してください。教室授業再開の場合、毎回配布する資料を用いた講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオ教材などを活用することで、授業内容を理解しやすいくようにしていく。また、授業内容をベースとした課題を出し、授業内容の理解度を小テストで確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／地球環境破壊の現状	シラバスの内容確認／9つの地球環境問題とその影響について考える。
第2回	環境破壊のメカニズム	なぜ、環境は破壊されるのか、事例を用いてそのメカニズム考える。
第3回	市場メカニズムと市場の失敗	市場メカニズムは万能か、市場の失敗は、何が問題かを考える。
第4回	環境問題と経済	環境問題と経済学の関係について考える。
第5回	外部性・情報の非対称性と環境問題	外部性と情報の非対称性の観点から環境問題を考える。
第6回	地球温暖化とエネルギー資源	地球温暖化の発生メカニズムを把握し、どのエネルギー資源が、温暖化防止に望ましいのかを考える。

第7回	独占と環境問題	独占の視点から再生可能エネルギー固定価格買取制度の欠陥を考える。
第8回	日本の原子力政策	日本における原子力政策について学び、今後、原発ゼロが可能かどうかを考える。
第9回	放射性廃棄物の処分問題－世代間の環境問題	放射性廃棄物とは何か、どのような影響を及ぼすかを学び、安全な処分方法について考える。
第10回	公共財と環境問題	地球公共財とグローバルコモンズの視点から環境破壊について考える。
第11回	外部不経済の理論的考察	経済学で環境問題を考える上で重要な外部不経済を費用の視点から理解する。
第12回	環境汚染の責任と費用負担	地球環境問題において汚染者とは誰か、誰が責任を負うべきか、環境に係わる費用は誰が負担すべきかを考える。
第13回	外部不経済の内部化のための方法	環境政策手法で用いられる規制的手法と経済的手法、奨励的手法について理解する。
第14回	試験・まとめと解説	環境経済学Ⅰの期末試験を実施し、試験終了後、解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とする。
また、期末試験・小テストなどを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
講義内容の範囲が広いので、履修者から質問があれば、助言する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、平常点（30%）で評価をする。
期末試験については、論述試験を実施する（予定）。教室での試験が実施できない場合、レポートで評価する。レポートの出題及び評価方法については、期末試験と同様に行う（詳細については、ガイダンス資料を参照）。
平常点については、教室授業再開までは、小テストの代わりに、レポート課題を出題する。①第1回から第2回までの講義内容、②第3回から第5回までの講義内容、③第6回から第7回までの講義内容、④第8回から第9回までの講義内容、⑤第10回から第11回の講義内容、⑥第12回から第13回までの講義内容とする。ただし、この内容は予定であり、授業の進捗状況でレポート課題・小テストの回数は増減することはあるが、全体の比率としては、平常点30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの簡単な課題を出し（平常点には含めない）、解説をしていく。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES300EB

環境経済学Ⅱ

信澤 由之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）の事例を用いて、その効果について考える。とりわけ、ヒートアイランド、都市交通問題、ごみ問題、地方環境税を事例に考える。

【到達目標】

環境経済学Ⅱでは、問題解決型学習を実施する。履修者が個別の環境問題について政策効果のある政策手法を論理的に説明できるようにする。特に、廃棄物問題と資源問題、環境配慮型製品の普及と、その消費行動を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた施策を考える。「環境意識」を持ち、生活環境問題・地球環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する資料を用いた講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオ教材などを活用することで、授業内容を理解しやすいようにしていく。また、授業内容をベースとした課題を出し、授業内容の理解度を小テストで確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／SDGsについて	シラバスの内容確認 SDGs、持続可能な社会について考える。
第2回	水俣病と国際条約	世界の水俣病問題の状況と水俣条約について理解する
第3回	廃棄物問題とその責任	廃棄物問題とは何か、誰が処理を処理・処分をするのか、その責任は誰にあるのかを考える。
第4回	家庭系一般廃棄物の削減施策	家庭ごみ有料化とその他廃棄物減量施策の効果を理論的に考察する。
第5回	先進国における食品ロス問題	日本の食品ロス問題を中心に、なぜ食品ロスが問題であるか、グローバルの視点で考える。
第6回	廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題	プラスチックやマイクロプラスチックが海洋生物に与える影響と、プラスチックの排出源からの排出抑制策を考える。
第7回	産業廃棄物問題とゼロ・エミッション	有害性の高い産業廃棄物の不法投棄問題と、ゼロ・エミッション工場について考える
第8回	産業廃棄物税とその効果	地方自治体が導入する産業廃棄物税の効果について理論的考察をする。
第9回	ヒートアイランド問題とその施策	ヒートアイランド問題に取り組み先進的自治体の事例からヒートアイランド対策を考える

第10回	森林保全と森林環境税	地方自治体が独自課税として導入した森林環境税について、その効果を考える。
第11回	環境配慮型技術・製品の普及と環境配慮型の消費行動	環境配慮型技術・製品を普及させるためには、消費者が環境配慮型の消費行動にならないといけない。そのための方策を考える。
第12回	途上国における環境問題	貧困問題からもたらされる環境破壊について考える。
第13回	コモングの悲劇と資源問題	コモングとは何か、水資源と生物資源の観点から考える。
第14回	試験・まとめと解説	環境経済学Ⅱの期末試験を実施し、試験終了後、解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とする。
また、期末試験・小テストを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
和田尚久『地域環境税』日本評論社、2002年

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、平常点（30%）で評価をする。

平常点については、小テストとする。

小テストは、①第2回から第3回までの講義内容、②第4回から第5回までの講義内容、③第6回の講義内容、④第7回から第8回の講義内容、⑤第9回から第10回までの講義内容、⑥第11回から第13回までの講義内容とする。ただし、この内容は予定であり、授業の進捗状況で小テストの回数は増減することはあるが、全体の比率としては、平常点30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの簡単な課題出し（平常点には含めない）、解説をしていく。
環境経済学Ⅰを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止、エネルギー対策を事例として行政施策の条例・計画、環境マネジメント、住民参加手法などを学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、地球温暖化・エネルギー問題等の具体的な環境問題について、その原因・経過・対策の構造を学び、自治体環境行政の視点に即して地域環境政策の概念と体系について修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。受講生の理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回アクションペーパーの提出を求めます。問題状況に対する理解を深めるため、環境問題の映像を視聴します。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介します。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水俣の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水俣市の資源循環型地域づくりを学びます。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、環境と産業の調和を目指すエコタウン構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とともに、対策の柱である緩和策と適応策について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとして飯田市のマネジメントの取り組みを学びます。
11	自治体環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として風力発電を進める庄内町（旧立川町）を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境自治体の概念、持続可能性のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に2回の課題レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・配分は、授業参加(平常点)30%、課題レポート20%、期末試験50%とします。
- ・授業参加として、毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点(1回につき0~2点)し、全回提出で満点30点とします。
- ・課題レポートは2回(うち1回を小テストに代える場合がある)行い、満点20点とします。
- ・授業のまとめとして満点50点の期末試験を行います。
- ・欠席の多い受講態度(概ね3割以上の欠席)は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
- ・担当教員は、自治体行政における環境政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with local governmental policies on issues of waste disposal, global warming measures and environmental management system, etc.

SOC200EB, SOC200EC

環境社会学 I

堀川 三郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようにすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論(被害構造論、社会的ディレンマ論)を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉(概念)が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。必ず、秋学期の「環境社会学【II】」とセットで履修すること。授業開始は4月22日ですが、5月6日まではキャッチアップ可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件(1)	事件の概要
5	足尾鉍毒事件(2)	別紙銅山との比較
6	水俣病事件(1)	事件の概説
7	水俣病事件(2)	漁民の視点
8	水俣病事件(3)	支援者の視点
9	水俣病事件(4)	チソンの視点
10	水俣病事件(5)	行政の視点
11	水俣病事件(6)	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論(1)	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論(2)	社会的ディレンマ論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクションペーパーを提出してもらい、それに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline and objectives】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies.

SOC300EB, SOC300EC

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という 2 つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学 (1)	小樽 (1)
5	「共存」の社会学 (2)	小樽 (2)
6	「共存」の社会学 (3)	小樽 (3)
7	「共存」の社会学 (4)	竹富島
8	「共存」の社会学 (5)	セントルイス (1)
9	「共存」の社会学 (6)	セントルイス (2)
10	「共存」の社会学 (7)	気候変動
11	「共存」の社会学 (8)	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論 (1)	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論 (2)	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでくる必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらったリアクション・ペーパーに担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline and objectives】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies.

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。本授業は、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する専門的な知見を学ぶとともに、環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回リアクションペーパーを記入、提出します。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講生の注意を紹介します。環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則	政策の基本原則として持続性やコジカルフットプリント等を学び、政策への適用について考えます。
7	環境政策の基本原則と対策手法	政策の基本原則である汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則などの考え方から対策手法を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を説明します。
10	水俣病への行政の不作為と裁判	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21 世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に 2 回の課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）30％、課題レポート 20％、期末試験 50％とします。
 ・授業参加として毎回アクションペーパーの提出を求めます。アクションペーパーは記述内容に応じて採点（1回につき 0～2 点）し、全回提出で 30 満点とします。
 ・課題レポートは 2 回（1 回を小テストに代える場合がある）行い、20 満点とします。
 ・授業のまとめとして 50 点満点の期末試験を行います。
 ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像視聴時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
 <研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

BAB200EA

環境生態学

勝又 暢之

サブタイトル：生命の科学Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学をディシプリンとして、環境論、環境と生物の関わり、生物の多様性、グローバルな環境問題、人類存続に関する具体的なテーマを設定・詳説し、人類の未来について考える。

【到達目標】

人間の脱生物的活動によって生じた多種多様な環境問題の理解と解決に資する科学リテラシー・リスクリテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワポを使った講義を行う。事前に授業支援システムで配布資料をダウンロードして授業に臨む。授業の理解度により授業テーマの順序や内容を多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方と全体像について	授業の進め方を説明し、14 回の授業について概説
第 2 回	環境とは何か	環境の定義について考える
第 3 回	生物と生態系の多様性と地理的分布	生物や生態系の多様性が地理的に変化する理由を探る
第 4 回	変化する生態系	生態系の遷移について理解する
第 5 回	生物適応の戦略的進化	生物の環境適応について具体例を挙げながら説明する
第 6 回	生態系からの恩恵としばしば返す	生態系サービスとそれを損なうことの問題を考える
第 7 回	ローカルな環境問題 ～ 公害と科学リテラシー～	水俣病の記録映画を鑑賞し、科学リテラシーの必要性を説く
第 8 回	ローカルな環境問題 ～ 環境ホルモン再考～	内分泌かく乱ホルモンについて考える
第 9 回	グローバルな環境問題と科学リテラシー	地球環境問題は是非論について考える
第 10 回	地球温暖化と生物および生態系	地球温暖化によって生物と生態系がどのように変化するかを講義
第 11 回	環境と人類生態学 ～ 紫外線～	人類が紫外線との戦いで獲得したものの
第 12 回	環境と人類生態学 ～ 脳の病気～	生活環境の変化に伴い脳が発達した人類における脳の病気について学ぶ
第 13 回	衣食住環境の問題点	現在の生活を支える衣食住環境の問題点について考える
第 14 回	人類存続のための生態学と全体のまとめ	古代文明の栄枯盛衰から人類存続について講義し、試験範囲について知らせる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし、あらかじめ予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系—宮下直ほか著、朝倉書店（2012）；「森のバランス」森林立地学会編、東海大学出版（2012）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）によって成績を評価する。期末試験の問題は各回のテーマから 2～3 問程度作成し、全体で 30～40 問のマークシート方式の試験とする。最終の授業にて期末試験範囲を説明するが、そのときに伝える範囲は全体の 8 割程度である。残りの 2 割は授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に出席しない学生と出席する学生間で格差がないのはおかしいという意見があった。これを解消するために、試験範囲のアナウンスは常時出席する人が有利になるように配慮した。

【Outline and objectives】

The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

環境法

井上 秀典

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題解決のために環境法・政策がどのような役割を果たしているのかについて学ぶ。

【到達目標】

環境に関する国内外の基本的な法制度の理解を目指すとともに、問題点を理解する。国内環境法と国際環境法の密接な関係を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最近、有害化学物質、土壌汚染、廃棄物・リサイクル、環境影響評価、気候変動、遺伝子組換え生物などの問題が話題となっている。講義では、このような環境問題に対する法が現在どのような状況にあるのか、さらに、法が問題解決のためにどのような役割を果たしているのかを考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講ガイダンス	受講にあたってのガイダンスを行う。
第 2 回	環境法の歴史	足尾銅毒事件から現在に至るまでの環境法の歴史を概説する。
第 3 回	環境基本法と環境基本計画	環境基本法とそれに基づく環境基本計画の成立経緯および内容を説明し、問題点を指摘する。
第 4 回	大気汚染・水質汚濁	大気汚染および水質汚濁に関する国内法制度を検討する。
第 5 回	廃棄物問題と法	廃棄物問題に対し、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、各種リサイクル法について解説する。
第 6 回	有害廃棄物の越境移動	有害廃棄物の越境移動問題をめぐる国内法・国際法上の枠組みについて解説する。
第 7 回	環境影響評価	環境影響評価制度について説明し、その役割および問題点を探る。
第 8 回	土壌汚染・化学物質	土壌汚染対策法を中心に近年の土壌汚染問題を検討する。また、化学物質関連法にも触れる。
第 9 回	被害者救済制度、環境紛争の調停	被害者救済制度ならびに環境紛争の調停という面にスポットを当てて解説する。
第 10 回	環境訴訟と法（1）	環境分野の民事訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解決する。
第 11 回	環境訴訟と法（2）	環境分野の行政訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解説する。
第 12 回	地球規模の環境問題と法（総論）	地球規模の環境問題に対する国際法上の枠組みおよび特徴を検討する。
第 13 回	気候変動 1	気候変動に関して条約および国内法について検討する。京都議定書採択までを扱う。
第 14 回	気候変動 2	京都議定書採択以降、パリ協定採択から現在までを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事やインターネットを通じて環境法に関連する事項の学習をすること。環境法関連書籍を図書館等で学習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、井上秀典『持続可能な社会を考える法律学入門』八千代出版を使用し、さらに関連資料を配付する。

【参考書】

大塚直『環境法 Basic』有斐閣、北村喜宣『環境法』弘文堂、『環境白書』（環境省）、『環境法辞典』（有斐閣）、『環境法判例百選』第 3 版（有斐閣）、『ベーシック環境六法』（ぎょうせい）

【成績評価の方法と基準】

試験（80%）および平常点（20%）によって成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書について改善工夫をする。

【Outline and objectives】

Learning the role of environmental law and Policy to solve environmental Problems.

PHL200EB, PHL200EC, PHL200ED

環境倫理

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代科学の原点になっている「自由」を理解するためにキリスト教哲学まで遡り「倫理」とは何かを明らかにする。同時に「倫理」は深い悲しみや憤りを共感することから理解しうるものであるから、様々な現実の社会問題を扱い、共感することを学ぶ。

【到達目標】

科学的合理性は「時」の概念から説明されうる。時を理解するうえで「自由」の概念を理解しなくてはならない。またそれを規制する目的で生まれた「公共」が、本来「自由」の中に包摂されるものであったことを理解しなくてはならない。今日の環境問題は、両者の分離に端を発していることに気づくことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。まとめの講義で15分グループディスカッションを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ークロスロードー	寄生、共生、侵略とは何か
2	身近な環境と都市計画	都市計画は環境の敵か味方か
3	エネルギー政策と環境ー ダム	ハツ場ダム建設を題材に公共政策とは何かを考える
4	エネルギー政策と環境ー 原発	本学の「ゼロエネルギーキャンパスプロジェクト」を題材に
5	エネルギー政策と環境ー ドイツの選択	ドイツの脱原発政策を題材にドイツ思想について考える
6	交通と騒音ー新幹線公害	新幹線公害問題の社会学における意味
7	生態学における生産者と 消費者	ストロマトライトから哺乳類の誕生、農耕民族と侵略民族
8	交通と土壌汚染ー豊洲市場問題	ふたたび「公共」とは何かについて考える。
9	軍事ー沖縄の基地問題	「自由」とは何かについて考える。
10	軍事ー辺野古移転問題	ゲストスピーカーによる講演
11	震災復興ー阪神淡路大震災と東日本大震災の比較	区画整理事業を通して「住民主権」とは何か考える
12	エコロジーと社会学	エコフェミニズム・フェミニズム論争
13	倫理とは何かーキリスト教と侵略	旧約聖書 申命記7章を考える
14	まとめ ー時を超えるー	科学的合理性を支えている「時」の概念と「自由」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに毎回のスライドをアップロードするので、各自ダウンロードして予習・復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。当初は講義録画（ビデオクリップ）をアップする。

【テキスト（教科書）】

テキスト、参考書は授業内に配布する。（購入不要）

【参考書】

・『人間とは何かーその誕生からネット化社会まで』、ボルツ,2009年、法政大学出版社
・『境界線を破る!: エコ・フェミニズム社会主義に向かって』、メアリ・メラウ、壽福・後藤訳,1993、新評論

【成績評価の方法と基準】

①期末試験期間のレポート提出による。

②レポート課題は、第14回講義内で示す。

*講義で言及した主題から10項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する(30%)、自分の意見とその論拠を記述する(50%)、課題論文についての感想を記述する(20%)の3点である。

③評価基準は、主題把握的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆっくと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】

国や地方自治体の都市計画業務に25年間携わった教員が、関連法規や施策の構想から実施までの流れに関する基本的知識を講義する。

【Outline and objectives】

What is the "freedom" which becomes the starting point of modern science? It have to be dated back from Christian philosophy and Greek philosophy to understand those, and then I will find out what is "ethics" clearly.

I deal with the historical investigation, and the practice philosophy which made the real environmental problem the subject. It will be analyzed multilaterally beyond the field scientifically for it. And I'll make it clear what is freedom and public, and "ethics".

ECN100EB

企業と社会論 A

加藤 寛之

サブタイトル：産業・企業論 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、受講生が企業に関する正確な理解をもつことにおきま。次のような問い、企業とは何か、企業はなぜ存在するのか、企業は経済活動上どんな役割を果たすのか、への答えを説明します。経済学の企業論は20世紀に入って生まれた理論です。その概要を理解することが目的です。4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

基礎理論を踏まえつつ、最新の理論的成果と現代企業が直面する主要な活動を学ぶことを通じて、受講生各自が、様々な企業を分析理解できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別企業のケースを取り上げながら説明します。そのためパワーポイントを使った説明が主になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代の企業社会	企業の発展と企業の理論
2	損益計算書	5つの利益、付加価値
3	貸借対照表	ROE、ROA
4	キャッシュフロー計算書	黒字倒産
5	近代企業の登場	専門経営者
6	所有と支配の分離	経営者支配
7	財閥の形成と解体	企業集団、買収・合併
8	資本主義と企業の発展	工場と経営体の誕生 経営管理の生成
9	経営管理の系統図	科学的管理法
10	経営管理の諸理論	大量生産方式、コンティンジェンシー理論
11	組織のデザイン	機能別組織 事業部制組織
12	日本型組織デザイン	日本型組織デザインの特殊性と普遍性
13	構造は戦略に従う	戦略と組織の適合性
14	資源の束としての企業	ベンロース 資源配分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考文献をいくつか指定するので読んでおくこと。問題意識を持って講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いません。プリントを配布します。

【参考書】

毎回の講義の最後に、参考文献をお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、企業の理論を理解し説明できること、に置きます。

評価方法は、次の二つの要素の総合です。

期末テスト80%、平常点20%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

講義では必要に応じてパワーポイントを利用します。

【Outline and objectives】

To study about modern firms and modern societies.

ECN100EB

企業と社会論 B

多田 和美

サブタイトル：産業・企業論 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、社会の主要な構成要素の1つである企業に焦点を当てます。企業経営に関する基本理論の修得を通じて、企業が社会に及ぼす影響や果たす役割を考察します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 企業経営に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する講義資料にもとづいて、講義形式で実施します。初回の授業で履修上の注意点を説明するので、履修希望者は必ず出席してください。また、リアクション・ペーパーおよび小テストを活用して、受講生からの質問や意見を受け付けます。その結果は授業内で随時フィードバックし、受講生と双方向の授業になるように努めます。なお、授業の進捗状況に応じて、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	企業経営の仕組み
第2回	企業形態論①	企業の各形態
第3回	企業形態論②	営利企業の特徴
第4回	企業統治論①	コーポレート・ガバナンスの基本
第5回	企業統治論②	今日のコーポレート・ガバナンス
第6回	経営戦略とは何か	経営戦略の基本
第7回	競争戦略①	事業構造の分析
第8回	競争戦略②	3つの基本戦略
第9回	競争戦略③	ビジネス・システム
第10回	多角化戦略①	多角化の論理
第11回	多角化戦略②	多角化のパターン
第12回	企業構造再編の戦略①	他企業も含めた企業構造の再編
第13回	企業構造再編の戦略②	M&A と戦略的提携
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社。
 井原久光（2008）『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房。
 大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略（第3版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%，中間レポート 20%，定期試験 60%で評価します。小テストを実施した回に欠席した場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of management theories. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Forms of business ownership
- 2)Corporate governance
- 3)Strategic management

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

企業法

笹久保 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は主として会社法に関する講義となる。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解する。
・自分の身の周りや社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**【重要】**

オンライン授業を 4 月 28 日（火曜日）から開始します。授業開始日に学習支援システム（Hoppii）にアクセスして下さい。

【重要】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 28 日（火曜日）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと会社法総論	ガイダンス、前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の決議等の解説
第 5 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 6 回	取締役 2	取締役の義務等の解説
第 7 回	取締役 3	取締役の責任等の解説
第 8 回	取締役 4	責任追及の解説
第 9 回	株式 1	株式の内容・種類の解説
第 10 回	株式 2	株式譲渡の解説
第 11 回	募集株式	募集株式の概要の解説
第 12 回	新株予約権	新株予約権の概要の解説
第 13 回	組織再編 1	合併・会社分割の解説
第 14 回	組織再編 2	株式交換等の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原伸作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】**【重要】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後に学習支援システム等で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

EVN200EB

気候変動論

澤柿 教伸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動きを考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ感染防止対策で遠隔授業になっている期間は特に、学習支援システムを通じて授業形態を指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

通常の座学（LC）に加えて、グループワークやディベート（GW）を適宜とり入れる。気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例を受講生各自で発掘・取材し発表し討論する。そのプロセスを通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的的確な把握が難しいことを認識し適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	気候変動の見方（LC・GW）
第 2 回	IPCC の現状認識	IPCC の紹介・考え方・認識（LC・GW）
第 3 回	温暖化懐疑論	地球温暖化論争の紹介（LC・GW）
第 4 回	地球の構造	地球表層部に限定した一気・海洋・大陸・宇宙空間の構造と相互関係（LC・GW）
第 5 回	気象と気候	時々刻々の大気現象と広域・長期の気象状態、因果関係（LC・GW）
第 6 回	地球の循環システム	物質とエネルギーの循環、熱・水・炭素などの循環（LC・GW）
第 7 回	気候変動と歴史	第四紀環境変遷と人類種の提案（LC・GW）
第 8 回	温暖化の原理	放射強制力・温室効果・フィードバック・エアロゾル（LC・GW）
第 9 回	大気現象の時空スケール	テレコネクション・極端現象・局地現象・エルニーニョ・集中豪雨（LC・GW）
第 10 回	気候変動の検出と予測	観測技術とシミュレーション技術、その可能性と限界（LC・GW）
第 11 回	再び温暖化懐疑論へ	これまでの授業内容に基づいて論争をふりかえり、温暖化懐疑論への反論（LC・GW）
第 12 回	国際協調にむけて	これまでの授業内容に基づいて IPCC の指針と COP などの国際協調の動き（LC・GW）
第 13 回	温暖化への対応策	気候変動への「緩和策・適応策・持続可能性」（LC・GW）
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容のふりかえり（LC）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参すること。
・問題発掘課題を事前に実施して授業内のディスカッションに備えること。
・リアクションペーパーを指定。事前にキャンパス内の印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社 KS 絵でわかるシリーズ）、2018 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

【参考書】

「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート(著), 増田耕一・熊井ひろ美(翻訳), みすず書房, 2005.

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出。その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価(50%)および定期試験による評価(50%)

なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の基礎素養にばらつきがあります。関連分野をそれなりに学んできた学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするようです。全体構成の前半では、この差異を埋めるように受講生の素養を見極めながら進めます。

【Outline and objectives】

This course provides clear, concise and up-to-date information for a general understanding about climate change, focusing on particular interest to explain the fundamentals of climate change science, the international climate change legal and policy framework.

BSP100EA

基礎演習 I

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な姿勢を身につけ、「話す・聞く・読む・書く」能力を向上させる。さまざまな問題への意識を高め、自ら「考える力」を磨く。

なお、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、春学期授業をオンライン形式で行います。

【到達目標】

・関心があるテーマは何かを考え、図書館を利用しながら関連文献を読み、要約とコメントを作成することができる。

・わかりやすく説明し、グループ内で建設的な議論・討論ができる能力を身につける。このために必要なこととして以下の点を学ぶ。

a. 他者と協働することの重要性

b. 批判と非難の違い

・レポートの書き方を学ぶ。

・剽窃の問題を指摘する。

・レポートを書くうえでの基本的なルールを習得し、「基礎演習Ⅱ」の準備をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 4/21（火）～5/12（火）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDF ファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/19（火）～7/7（火）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube 等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルの URL を記入します。諸君はその URL をクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

ただし適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。

3. 最終日（7/14）の授業

追って連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/21	教材配布	はじめに テキスト配布と初回課題
4/28	教材配布	教材配布
5/12	意見発表	個々の意見提示 課題提出
5/19	教材配布 グループワークの可能性	教材の解説
5/26	教材解釈 グループワークの可能性	解釈内容を提出

6/2	意見発表 グループワークの可能性	個々の意見の提示 課題提出
6/9	教材配布 グループワークの可能性	教材の解説
6/16	教材解釈 グループワークの可能性	解釈内容を提出
6/23	意見発表 グループワークの可能性	個々の意見の提示 課題提出
6/30	小レポートの作成へ向 けて(1)	レポートの書き方、ルールの説明、 剽窃とは?
7/7	小レポートの作成	小レポート作成
7/14	春学期のまとめ	春学期のまとめ 小レポート提出 提出締め切りは別途指示

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人課題とグループワークに関わる文献の講読、レジュメの作成や小レポートの執筆などに要する時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 4/21（火）～5/12（火）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDF ファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/19（火）～7/7（火）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube 等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルの URL を記入します。諸君はその URL をクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。

3. 最終日（7/14）の授業

追って連絡します。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各課題評価）70 %+ 期末レポート 30%

授業で重要な質問、興味深い質問、意欲ある質問をした学生にはその分、特別に加点して評価します。まじめで熱心な受講学生は、常に高評価の対象です。

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59 以下 : D

未受験、採点不能: E

今回の事態は異例中の異例であり、その特殊性からレポートならびに毎回の課題提出を成績基準とします。その時、十分に気をつけて欲しい事柄を2点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

BSP100EA

基礎演習 I

飯野 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の問題意識を掘り下げ、何を専門的に学びたいのか、目的を明確にする。研究に必要な基本的な能力（図書館の利用方法、資料収集と活用の仕方、レジュメの作成、発表の仕方）を身につける。また、他者と協力し作業を行い、発表し、討論する事を通して、討論マナーや効果的なプレゼンテーションの仕方を身につける。

【到達目標】

現在の社会問題に関心を持ち、設定したテーマに従って研究計画を立てる。インターネット、単行本、論文、新聞など様々な資料を収集し、データを活用できるようにする。また、それらを基に分析を行い、正しい様式のレジュメを作成する。さらに、討論マナーを守った上で効果的な発表の仕方、説得力ある発表ができるようにする。他者の発表を聞き、自分と比較し冷静に評価できるようにする。議論を通して他者の考えと自分の考えを比較検討した上で結論を述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。ガイダンス、個人発表、図書館ガイダンスは授業準備期間として、大学での学び方一般について学ぶ。グループ分けの後、グループでのテーマ設定、資料収集、議論、発表を行う。ディベートで討論マナーを学ぶ。新聞批評では、新聞記事を比較する事で記事の内容そのものと報道に対する批評を行う。学習した事についてレポートを作成し提出する。オンライン授業の開始は 4 月 21 (火)。詳しい進め方は初回授業で提示する。こまめに学習支援システムをチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、学習計画、基礎演習の位置づけ
第 2 回	個人発表	各自関心のある本、雑誌記事、新聞記事、音楽などの発表
第 3 回	図書館ガイダンス	図書館の利用、資料の収集方法
第 4 回	共通テーマ作業	テーマについてグループ毎に討論、分析
第 5 回	共通テーマ討論	レジュメの作成
第 6 回	グループ発表前半	発表と全体討論
第 7 回	グループ発表後半	発表と全体討論
第 8 回	ディベート	ディベートを行い討論マナーを身につけ、批評し合う
第 9 回	新聞記事収集	資料収集とテーマの設定
第 10 回	新聞記事分析	新聞記事の比較、分析
第 11 回	記事のまとめ	討論とレジュメ作成
第 12 回	新聞批評発表前半	発表と全体討論
第 13 回	新聞批評発表後半	発表と全体討論
第 14 回	レポートの書き方	個人レポートの書き方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要な資料を図書館等で収集する。新聞批評では選択した新聞記事を収集し、切り抜き整理する。グループ毎に集まり、話し合ったりレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

ディベートやグループ討論のテーマにより、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み 40 %、課題の提出 10 %、学期末レポート 50 %だが、オンライン授業の場合、オンラインでの課題の提出と対面授業への取り組みを合わせて 60 %、学期末レポート 40 %。オンライン授業の回数によって変動する。学習支援システムで随時情報を提供する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ作業、グループ発表では、メンバー間のコミュニケーションが必ずしもうまくいっていないことがあったので、それぞれが責任を持って積極的に参加できるような工夫をしたい。新聞批評は現在の問題に限らず、100 年前から現在までを扱うことも考えている。

【Outline and objectives】

Students will look deeper at the issues, decide what they want to specialize in and clarify their objective. They will learn the basic competences required in research (using the library, collecting and using data, making presentation handouts, making presentations). Also, through cooperation with others, presentations and discussions, they will pick up discussion manners and effective presentations skills.

BSP100EA

基礎演習 I

岩城 邦義

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となります。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢を習得することが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう授業計画の変更や、具体的なオンライン授業の方法などは、学習支援システムなどを通じてその都度提示していきます。本授業の開始日は4月21日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の説明など
2	「自己紹介シート」を用いた課題①	「自己紹介シート」を完成させる
3	「自己紹介シート」を用いた課題②	各自の「自己紹介シート」を読み、コメントをする
4	文献・資料の収集方法について	文献・資料の収集方法について学ぶ
5	文献購読について	文献の紹介など
6	レジュメの書き方	レジュメの書き方について
7	文献購読①	レジュメの作成
8	文献購読②	レジュメの作成
9	文献購読③	レジュメの作成
10	文献購読④	レジュメの作成
11	文献購読⑤	レジュメの作成
12	レポートの書き方	レポートの書き方について
13	ディベート	所定のテーマについてディベート
14	春学期のまとめ	夏休みの課題などについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で使用する文献の精読、発表に向けた資料の作成、教室外でのグループ活動など。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に資料を通じて提示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

BSP100EA

基礎演習 I

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4 月 22 日開始です。読書会形式でテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それを少人数グループで回覧しながら、議論を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、ゼミ運営の役割分担。
2	日本語版序文および第 1 章プレカリアート前半	報告と討論。
3	第 1 章後半	報告と討論。
4	第 2 章プレカリアートが増える理由前半	報告と討論。
5	第 2 章後半	報告と討論。
6	第 3 章プレカリアートになるのは誰か？ 前半	報告と討論。
7	第 3 章後半	報告と討論。
8	第 4 章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	第 5 章 労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
10	第 5 章後半	報告と討論。
11	第 6 章地獄に至る政治	報告と討論。
12	第 7 章極楽に至る政治	報告と討論。
13	今日の世界とプレカリアートについて	報告と討論。授業日誌提出。
14	私たちの日常生活と社会システムについて	報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の 2 項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②各回のテーマに関連して、自分自身の日常生活や最近読んだ本、ニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアートの時代』法律文化社、2016 年（英語版原書 Guy Standing, "The Precariat : The New Dangerous Class", Bloomsbury, 2011 は、出版社サイト < <https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/> > で全文無料公開されている）。

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税。
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008 年、定価 777 円。

【成績評価の方法と基準】

提出された授業日誌について、各項目 50%ずつ 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学での学習の際に必要なとされる基本的な態度・作法を身につけるとともに、社会的問題への関心と好奇心を醸成する。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

個別単位及びグループ単位で種々の課題に取り組むことにより、読む能力、聞きとる能力、話し発表する能力、書く能力という、大学で学習する際に必要となる基礎的な能力と態度を醸成する。

さらに、社会科学の学習で求められる、先行研究や資料収集、実地調査などの基本的な手法について理解し、それらを課題に利用することにより、主体的に考える能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、資料の収集、レジュメの作成、報告・発表、ゼミ生との論議や協力、図書館の利用、レポートの作成などのプロセスを体験することにより、基本的な学習態度と学習作法を身につける。さらに、文献講読や議論などを通じて、複眼的思考方法を体得し、今後の大学生活に活かしていく。

授業計画はおおむね以下のとおりであるが、受講者の状況や授業の進行状況などを踏まえ、変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と教員・ゼミ生の自己紹介
2	興味ある問題を発表する（1）	各自の身近な問題を素材として発表の練習
3	興味ある問題を発表する（2）	各自の身近な問題を素材として発表の練習
4	図書館ガイダンス	図書館の使い方を学ぶ
5	グループ研究（1）	グループ研究のテーマ候補検討
6	グループ研究（2）	グループ研究のテーマ決定
7	著書を読み、議論する（1）	輪読と議論
8	著書を読み、議論する（2）	輪読と議論
9	グループ研究中間報告	グループ研究の進行状況の報告
10	著書を読み、議論する（3）	輪読と議論
11	著書を読み、議論する（4）	輪読と議論
12	グループ研究発表（1）	グループ研究結果の報告・発表 議論とコメント
13	グループ研究発表（2）	グループ研究結果の報告・発表 議論とコメント
14	グループ研究の補足説明	グループ発表での質問・意見に関する補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献の講読、資料収集、レポート作成など、種々の授業時間外の学習が要請される。各自、発表日・提出日に間に合うよう、計画的、主体的な準備を進めること。授業時間外の学習時間として各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

大学で学習する際に必要な基礎的な知識、ものごとを主体的に考える考察力について、以下の方法で評価する。

課題（報告・発表、レポート等）70%、平常点（授業への主体的参加・発言・貢献等）30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への参加が基本です。授業では、毎回、質問や意見を求められた際に積極的に発言すること、ほかのゼミ生の意見を聞き取り自分なりの考えを発信することが期待されています。

詳しい事項は初回の授業説明するので、履修予定者は、初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

兼子 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学での研究活動のための重要なルール・マナーを身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

この演習では、以下の能力の養成を目指す。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション、⑥レポート執筆（夏季休暇中に初稿：5000 字以上、後期に完成原稿：7000 字以上）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な能力の養成に従事する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明
2	レジュメ作成とプレゼンテーション	自己紹介レジュメの作成と発表
3	文献読解トレーニング①	社会学文献の批判的読解
4	文献読解トレーニング②	社会学文献の批判的読解
5	資料収集トレーニング①	図書館ガイダンス
6	資料収集トレーニング②	社会学に関する文献・資料の収集
7	資料収集トレーニング③	収集した文献・資料の発表
8	グループワーキング①	グループワーキングの実施
9	グループワーキング②	グループワーキングの実施
10	グループワーキング③	グループワーキングの実施
11	グループワーキング④	グループワーキングの実施
12	グループ発表	グループごとの発表
13	レポートトレーニング①	レポート執筆について講義
14	レポートトレーニング②	レポートのフォーマットの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己紹介、文献読解、資料収集、グループワーキングのそれぞれについて、参加者全員に発表を求める。そのため、講義時間外には発表のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

前期の成績評価の基準は次の通り。

①自己紹介レジュメ（5%）、②文献読解の発表（25%）、③資料収集（25%）、④グループワーキング（25%）、⑤平常点（出席状況、演習内での発言など）（20%）

・自己紹介、文献読解、資料収集、グループ発表のひとつでも欠けたら単位は落第。また 4 回欠席でも落第とする。

・15 分以内の遅刻は 1/2 の出席、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・レポート（5000 字以上）の第 1 稿の執筆を夏季休暇の課題とする。このレポートが提出されなかった場合、原則的に後期の履修登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個人およびグループ研究の進め方について、昨年度の参加者から有意義な意見を頂いた。それらを考慮して、今年度の基礎演習を開講したい。

【学生が準備すべき機器他】

回によってはノートパソコンの準備をお願いするかもしれない。

【その他の重要事項】

・有意義な演習を進めるためには学生の積極的な参加が不可欠である。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

・講義時間が 100 分と長時間に及びます。リラックスしながらも緊張感のある演習になるよう心がけたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of basis seminar is learned important rule and manner for research activities in university.

BSP100EA

基礎演習 I

兼子 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学での研究活動のための重要なルール・マナーを身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

この演習では、以下の能力の養成を目指す。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション、⑥レポート執筆（夏季休暇中に初稿：5000 字以上、後期に完成原稿：7000 字以上）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な能力の養成に従事する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明
2	レジュメ作成とプレゼンテーション	自己紹介レジュメの作成と発表
3	文献読解トレーニング①	社会学文献の批判的読解
4	文献読解トレーニング②	社会学文献の批判的読解
5	資料収集トレーニング①	図書館ガイダンス
6	資料収集トレーニング②	社会学に関する文献・資料の収集
7	資料収集トレーニング③	収集した文献・資料の発表
8	グループワーキング①	グループワーキングの実施
9	グループワーキング②	グループワーキングの実施
10	グループワーキング③	グループワーキングの実施
11	グループワーキング④	グループワーキングの実施
12	グループ発表	グループごとの発表
13	レポートトレーニング①	レポート執筆について講義
14	レポートトレーニング②	レポートのフォーマットの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己紹介、文献読解、資料収集、グループワーキングの各々について、参加者全員に発表を求める。そのため、講義時間外にも発表のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

①自己紹介レジュメ（5%）、②文献読解の発表（25%）、③資料収集（25%）、④グループワーキング（25%）、⑤平常点（出席状況、演習内での発言など）（20%）

・自己紹介、文献読解、資料収集、グループ発表のひとつでも欠けたら単位は落第。また 4 回欠席でも落第とする。

・15 分以内の遅刻は 1/2 の出席、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・レポート（5000 字以上）の第 1 稿の執筆を夏季休暇の課題とする。このレポートが提出されなかった場合、原則的に後期の履修登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個人およびグループ研究の進め方について、昨年度の参加者から有意義な意見を頂いた。それらを考慮して、今年度の基礎演習を開講したい。

【学生が準備すべき機器他】

回によってはノートパソコンの準備をお願いするかもしれない。

【その他の重要事項】

・有意義な演習を進めるためには学生の積極的な参加が不可欠である。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

・講義時間が 100 分と長時間に及びます。リラックスしながらも緊張感のある演習になるよう心がけたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of basis seminar is learned important rule and manner for research activities in university.

BSP100EA

基礎演習 I

山田 唐波里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生が大学における初歩的な学びを実際に経験することで、「大学での学び方」の基本的な作法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

「話す・聞く・読む・書く・考える」ことについて、大学で求められる基本的な水準に達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明・各自自己紹介
2	レジュメ作成法	レジュメ作成法の説明
3	図書館ガイダンス	資料収集の方法・ディスカッションの準備
4	グループディスカッション	ディスカッションの練習・講読文献の紹介
5	文献講読に向けて	文献講読の進め方の説明
6	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
7	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
8	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
9	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
10	レポートの執筆に向けて	レポートの書き方の説明
11	文献講読 II	レジュメ報告とディスカッション
12	文献講読 II	レジュメ報告とディスカッション
13	文献講読 II	レジュメ報告とディスカッション
14	まとめ	レポートの提出と授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の軸となる文献講読を行うにあたって、必ず報告担当者以外も事前に文献を読み、疑問点やディスカッションのテーマになりそうな点を見つけておくこと。また、報告担当者は、レジュメの作成・印刷等の準備を授業時間までに必ず終えておく必要がある。以上にくわえて、授業終盤は期末レポートの準備を各自で進めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととまない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is for students to acquire the basic manners of "how to study at university" through actually experiencing elementary studying at university.

BSP100EA

基礎演習 I

左古 輝人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学での学び方を知り、社会学を学ぶために必要な前提知識を修得する

【到達目標】

文化・常識の多様性・相対性を理解する
仮説、検証、考察のサイクルを修得する
文献を探し、読み、理解する基本的なやり方を身につける
自分が学んだ事柄を他者に説明するやり方を身につける
他者の発表の聞き方を身につける
ディスカッションのやり方を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミナール形式。テキストを講読し、上記の到達目標を目指す。
90 分のうち、最初の 30 分で発表。次の 30 分で質疑応答、補足。
最後の 30 分でグループディスカッションとまとめ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	最低限順守すべき事項の確認。自己紹介。大学での学びが高校までとどう違うか。
2	レジュメ作成の方法	形式。何を記載するか。図書の見方。引用・参照。
3	産業資本制 テキスト 第 3 章	産業資本制の構造と歴史を概観する。
4	社会学の生成 テキスト 第 1 章	19 世紀、社会学はなぜ生まれ、何を問題にしたか窯部。
5	賃労働群衆の生成 テキスト 第 5 章	産業資本制が全面展開することで、人々の暮らしがどう劇的に変わったか学ぶ。
6	大量生産システムの完成 テキスト 第 6 章	20 世紀初頭の米国について学ぶ。
7	世界大戦の時代 テキスト 第 7 章	20 世紀を特徴づけた 2 つの世界大戦について学ぶ。
8	消費化時代の開幕 テキスト 第 8 章	1920 年代から 30 年代米国の模索について学ぶ。
9	消費化の確立 テキスト 第 8 章	1950 年代米国における使い捨て文化の確立について学ぶ。
10	家庭と女性 テキスト 第 9 章	産業化・消費化による女性の暮らしの変化を学ぶ。
11	恋愛結婚 テキスト 第 9 章	産業化・消費化による親密関係の変化を学ぶ。
12	公害から環境問題へ テキスト 第 10 章	消費化社会の負の帰結について学ぶ。
13	情報革命 テキスト 第 11 章	情報革命が消費化社会に対して持つ意味を学ぶ。
14	グローバル化 テキスト 第 12 章	グローバル化がなぜ進行し、何をもたらしているのか学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を予習してくる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版局 2006年。

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書 1998年。

佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書 1998年。

【成績評価の方法と基準】

発表の質30%、ディスカッションにおける発言の量と質40%、提出物の質30%。

【学生の意見等からの気づき】

運営の適切さが確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、インターネットに接続された端末機（スマートフォン、タブレット、PCなど）を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定しない。電子メールでの質問に答える。

【Outline and objectives】

This seminar introduces students to the scientific thinking especially in the study of modern social phenomena.

BSP100EA

基礎演習 I

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学（とくに社会科学系）における学問の仕方、ゼミにおける基本的態度について学ぶ。

【到達目標】

社会科学分野のテキストを読解、簡略して記述、口述することができること。フィールド調査の企画、調整が行えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テキストを輪読し、レジュメを順番に発表する。夏合宿の企画を立て、フィールド調査も行う。（当初はオンデマンドとビデオクリップを使用するので、掲示板をときどき注視してください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミ長ほか役職の決定
2	テキスト輪読 『境界線を破る!』1章	レジュメ発表
3	テキスト輪読 『境界線を破る!』2章	レジュメ発表
4	テキスト輪読 『境界線を破る!』3章	レジュメ発表
5	テキスト輪読 『境界線を破る!』4章	レジュメ発表
6	テキスト輪読 『境界線を破る!』5章	レジュメ発表
7	テキスト輪読 『境界線を破る!』6章	レジュメ発表
8	テキスト輪読 『境界線を破る!』7章	レジュメ発表
9	テキスト輪読 『境界線を破る!』8章	レジュメ発表
10	『入門インテグラル理論』1	レジュメ発表
11	『入門インテグラル理論』2	レジュメ発表
12	『入門インテグラル理論』3	レジュメ発表
13	フィールドワーク企画	夏合宿の企画
14	フィールドワーク準備	プレ調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。当初はビデオクリップを使用するので、掲示板の案内を注視してください。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストは授業内で配布します。（購入不要）

『境界線を破る!：エコ・フェミ社会主義に向かって』、メアリ・メラ、壽福・後藤訳,1993, 新評論

【参考書】

『入門 インテグラル理論』, 鈴木・久保・甲田,2020年3月, 日本能率協会マネジメントセンター

【成績評価の方法と基準】

以下①②の平常点から評価する。①毎回のレジュメ発表における読解力と口頭説明能力を評価(60%)。②夏合宿の企画やブレ調査への参加度や学習状況から評価(40%)。

【学生の意見等からの気づき】

重要なことを何度も繰り返して説明します。

【Outline and objectives】

It's learned about the manner of the learning and the attitude in the university (in particular, the social science).

BSP100EA

基礎演習 I

白田 秀彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を学び、大学の講義に支障のない能力を得ること。

【到達目標】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を滞りなく実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」という課程を繰り返すことで定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調べる 1	ライブラリー・ツアーを行う。指定されたテーマについて資料を集める。
2	整理する 1	資料整理の技法について学ぶ。
3	構成する 1	整理された資料を論文の形として整理する。
4	執筆する 1	論文の形式について学ぶ。最初の小論文を提出する。
5	調べる 2	新たに指定されたテーマについて資料を集める。
6	整理する 2	資料整理の技法を再度実践して確認する。
7	構成する 2	整理された資料を論文の形として整理することを再度実践して確認する。
8	執筆する 2	二度目の小論文を提出する。
9	要約する 1	書籍を要約する技法を学ぶ。
10	整理する 1	指定された書籍について要点を抽出する。
11	構成する 2	レジュメの形式について学ぶ。要点を形式に合わせて構成する。
12	執筆する 3	レジュメを提出する。
13	調べる 3	自由課題について主として文献調査を行い、資料を集める。
14	構成する 3	三度目の小論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習中は方法の指導を中心とするため、課題は時間外学習として行うことが主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に用いない。演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

課題毎の評価(33%)、提出物の評価(33%)、平常点(34%)で行う。ただしいずれかの項目が著しく悪い評価である場合には、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Learning skills to research, to consolidate, to organize and to write to achieve abilities to manage lectures in the university.

BSP100EA

基礎演習 I

慎 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ゼミでは、大学生活、あるいはこれからの人生に必要な基礎的思考力を身につけるために、さまざまな課題に取り組んでいきます。

【到達目標】

この演習の到達目標は、来年度以降、a) 専門科目（社会学科）での学習能力向上の基盤となる、b) 基本的な思考力やスキルを身につけてもらうことです。具体的には、主に、

①資料・文献を集め、調査する力を身につける。②読書する力を身につける、③論理的に思考する力を身につける、④グループで討議し、調べる力を身につける、⑤レジュメを作成し報告する力を身につける、⑥研究倫理について理解を深めるです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前期では、①②をベースにして、文献購読班を編成し、レジュメによる文献要約と内容検討に関する報告を行います。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	演習ガイダンス	概要の説明／簡単な自己紹介
第2回	大学の環境を知る①	キャンパス案内
第3回	自己紹介する	関心ある社会問題／大学生活について
第4回	大学の環境を知る②	図書館ガイダンス
第5回	文献購読の作法とレジュメ	図書購読／文献購読班の編成
第6回	大学の環境を知る③	障がい学生支援
第7回	文献購読①	班ごとの文献決定／役割分担の決定・構想報告
第8回	レポート・論文①	レポート・論文作成に関する学習
第9回	文献購読②	班による報告①
第10回	文献購読	班による報告②
第11回	文献購読	班による報告③
第12回	文献購読	班による報告④
第13回	文献購読	班による報告⑤
第14回	まとめ	基礎演習 I の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成、資料収集など報告に向けた準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にはありません。使用する場合は適宜指示します。

【参考書】

特にはありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題点 50 %（報告、レジュメ等）。ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

Everyone works on various problems to put on the basic thinking power necessary to a study life at the university.

BSP100EA

基礎演習 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

レジュメを作成する、発表する、他者の報告を聞く、それに対してコメントするなどといった一連の作業を通して、大学における「学び方」の基本的な作法を習得することを目的とする。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業とする。それにともなう各回の授業計画の変更については、その都度受講生に知らせる。また、本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに今後の授業方法などを、学習支援システムにアップするのであらかじめ確認すること。

【到達目標】

大学における「学び方」の基本的な作法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

大学での学び方や思考法に関する文献を講読することを通して、この社会に生じる現象を読み解くための社会学（社会科学）的な思考や認識について理解を深めていく。また、そうした議論を踏まえつつ、より個別具体的なテーマに関する文献を読みながら、論点をまとめる、自分の意見を「作る」、「討論」を通して自分の意見を表現するといった経験をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	本演習の概要説明・自己紹介
2	イントロダクション②	演習の進め方・レジュメの書き方の説明
3	ディスカッションのすすめ	小課題をめぐってグループ活動
4	クリティカル・リーディングの作法	指定文献の講読と練習
5	作文の技法	指定文献の講読と練習
6	ディスカッションする①	担当班による文献の報告と議論
7	ディスカッションする②	担当班による文献の報告と議論
8	ディスカッションする③	担当班によるテーマの提示と討論
9	ディスカッションする④	担当班によるテーマの提示と討論
10	問いを立てる	指定文献の講読と個人テーマの検討
11	「考え方」の技術	指定文献の講読と個人テーマの検討
12	情報収集の技術	図書館ガイダンス
13	企画書を作る	個人テーマの検討
14	企画書の更新	個人テーマの再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、小レポートの作成など何らかの課題が課せられる。そのほか、文献を事前に読んでおくこと、報告班になった場合は、レジュメ・資料をあらかじめ作成し、印刷することなど、必要に応じて、授業外での活動が必要とされる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

刈谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社 + a 文庫、2002）
そのほかの文献については、授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への関与（50 %）、ならびに、個人としてのスキルアップの度合い（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to acquire academic skills and develop critical thinking through doing some practical activities.

BSP100EA

基礎演習 I

鈴木 宗徳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学で自立的な研究ができるようになるための第一歩を踏み出す。

【到達目標】

1. 大学での学びに不可欠な、資料収集、テキスト読解、レジュメ作成、レポート・論文執筆、討論、共同研究、研究発表等の基本的なスキルを習得する。

2. 社会科学の幅広さと深さを知り、自分でテーマを選び、自分で研究を進められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

大学における勉強は、自分でテーマを選び、自分で研究し、自分でその成果を発表しなければなりません。膨大な資料やデータ、そして先行研究からなる“知の大海”の中で無事に泳ぎまわることがは並大抵のことではありませんが、努力すればそれだけ達成感が得られます。

基礎演習では、研究に必要な学びのスキルを習得するとともに、共同作業を通じて大学生活をスムーズにスタートできるよう手助けをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	チームワーク作り
2	イントロダクション	半年間の課題説明
3	文献検索とレジュメ作成法	研究の基礎を学ぶ
4	図書館利用ガイダンス	図書館の利用方法を学ぶ
5	「論文」を読んでみる	学術的な文章の書き方を学ぶ
6	「論文」を読んでみる	学術的な文章の書き方を学ぶ
7	テキスト講読	平易なテキストを講読する
8	テキスト講読	平易なテキストを講読する
9	テキスト講読	平易なテキストを講読する
10	ディベート	アクチュアルな問題について討論する
11	ディベート	アクチュアルな問題について討論する
12	テキスト講読	平易なテキストを講読する
13	テキスト講読	平易なテキストを講読する
14	テキスト講読	平易なテキストを講読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. たくさん文献を紹介するので、まめに図書館や書店に足を運び、本の内容を確認するようにしてください。まずはたくさん読むことが重要です。

2. 分かりやすく書くこと、分かりやすく説明することは、意外に難しいものです。「自分は日本語ができる」という思い込みを捨てて、真摯に課題と向き合ってください。

3. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林香里『メディア不信——何が問われているのか』（岩波新書、2017 年、840 円 + 税）

【参考書】

適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容（60%）、議論への参加姿勢など平常点（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

- ゼミは「自分が勉強する場」であるとともに、「ほかの学生に勉強させる場」でもあります。議論に参加しない、つまり他の学生に知的刺激を与えられない場合は、評価が低くなります。
- 「学問に敬意を払うこと」を絶対に忘れないでください。「剽窃」は先行研究に敬意を払っていないものとして、厳しく対処します。
- 無断欠席および無断遅刻は絶対に認めません。このルールを一回破るごとに、成績評価を一段階ずつ下げます（S→A+、A+→A、A→A-…）。
- ゼミは何よりもチームワークが大事です。積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic research skills.

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な姿勢を身につけ、「話す・聞く・読む・書く」能力を向上させる。さまざまな問題への意識を高め、自ら「考える力」を磨く。

【到達目標】

- 関心があるテーマは何かを考え、図書館を利用しながら関連文献を読み、要約とコメントを作成することができる。
- わかりやすく説明し、グループ内で建設的な議論・討論ができる能力を身につける。
- レポートを書くうえでの基本的なルールを習得し、「基礎演習II」の準備をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月日 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第 2 回	本・新聞記事の紹介（1）	興味がある本、関心をもった新聞記事を要約・報告
第 3 回	本・新聞記事の紹介（2）	興味がある本、関心をもった新聞記事を要約・報告
第 4 回	グループワークの準備	グループに分かれて、報告に関する議論
第 5 回	ディスカッション	興味・関心のあるテーマは何か、どのような問いが立てられるかをグループで議論
第 6 回	図書館ガイダンス	図書館で OPAC 等の利用法を学ぶ
第 7 回	レジュメを作る	レジュメの書き方と口頭発表の説明
第 8 回	文献講読（1）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 9 回	文献講読（2）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 10 回	文献講読（3）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 11 回	文献講読（4）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 12 回	小レポートの作成へ向け て（1）	レポートの書き方、ルールの説明（著作権についての理解）
第 13 回	小レポートの作成へ向け て（2）	小レポート作成へ向けたテーマの決定、関連文献の調査
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人課題とグループワークに関わる文献の講読、レジュメの作成や小レポートの執筆などがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 賢次

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で学ぶこと」の意味を理解し、そのために必要な基礎的な知識やスキル、作法を身につけること。

【到達目標】

大学における「学び」の目的は、既存の知識や情報の上に「問い」を立ち上げ、新たな／オリジナルな「答え」を産出することにあります。

それに向けて、本演習では、主に文献講読とディスカッションを通じて、

- ①文献の内容を精確に把握し、批判的に検討する力
- ②自分の考えを他者に理解可能な形で表現し、お互いの意見を尊重しながら議論を交わす力
- ③文献・資料の探し方やレジュメの作り方などの、基礎的な学問的スキル以上の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は当面のあいだオンライン形式で行うため、講義計画は変更となります。

本科目の授業開始日は4月21日（火）とし、初回授業時に「学習支援システム」上で授業の内容や進め方についてアナウンスを行います。

受講生のみなさんは、かならず「学習支援システム」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の概要説明
2	個人発表	自己紹介を兼ねたプレゼンテーションの練習
3	ディスカッション	身近な出来事をテーマにした討論の体験的学習
4	文献・資料の探し方	図書館ガイダンス
5	文献講読に向けて（1）	文献講読の進め方にかんする説明／講読文献および報告箇所の分担決め
6	文献講読に向けて（2）	レジュメの作り方の説明
7	文献講読（1）	レジュメ報告とディスカッション
8	文献講読（2）	レジュメ報告とディスカッション
9	文献講読（3）	レジュメ報告とディスカッション
10	「読書ノート」の作成に向けて	演習Ⅰの期末課題となる「読書ノート」の書き方の説明
11	文献講読（4）	レジュメ報告とディスカッション
12	文献講読（5）	レジュメ報告とディスカッション
13	文献講読（6）	レジュメ報告とディスカッション
14	まとめ	演習Ⅰのまとめと期末課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①文献講読の際は、必ず事前に文献を読んだ上で、全員が疑問点やコメントをまとめておくこと。

②報告の担当者はレジュメやコメントなどを作成し、必ず始業時刻までに配布できるよう印刷を済ませておくこと。

③期末課題となる「読書ノート」の準備を各自で進めておくこと。

以上①～③を中心とした本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講生の希望にあわせて、適宜指定します。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。

刈谷剛彦、2002、『知的複眼思考法——誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更となります。具体的な方法と基準は、授業開始日に「学習支援システム」でお知らせしますので、受講生はかならず「学習支援システム」を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習中の積極的な発言を促し、受講生が関心と意欲をもって取り組めるような運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に持ち込む必要はありませんが、文献講読におけるレジュメの作成や期末課題の執筆・提出は、すべてPCで行います。

【その他の重要事項】

止むをえない理由で授業に遅刻・欠席する場合には、必ず理由を添えて事前に担当教員まで連絡してください。また、学生からの質問や相談は、適宜受け付けます。

【Outline and objectives】

This course introduces basic knowledge, skills and manners necessary for academic research to student taking this course.

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶということがどういうことなのかを知り、大学で学ぶための基本的な学習スキルや作法を身につける。また、社会学（社会科学）的な思考や方法論についての理解を深める。

【到達目標】

文献を読む／読み解く／批判的に検討する、自分の考えや意見を表現する（話す・書く）、他人の考えや意見に耳を傾け議論する、ためのスキルや作法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主にテキストの講読とディスカッション。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
ゼミへの参加とは別に読書ノートの作成・提出を課題とする。

【追記】

当面の授業のオンライン化にともない授業計画は大幅に変更となることが予想される。

授業計画の変更および成績評価については、学習支援システムで周知していく。

4月21日（火）より授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習についての説明と自己紹介
第2回	アカデミック・スキル	テキストの読み方、レジュメのつくり方、文献・資料の探し方・見つけ方と「読書ノート」について
第3回	ディベート	情報を集め、整理し、論理的に表現するためのトレーニング
第4回	文献講読（1）	報告とディスカッション
第5回	文献講読（2）	報告とディスカッション
第6回	文献講読（3）	報告とディスカッション
第7回	文献講読（4）	報告とディスカッション
第8回	文献講読（5）	報告とディスカッション
第9回	文献講読（6）	報告とディスカッション
第10回	文献講読（7）	報告とディスカッション
第11回	文献講読（8）	報告とディスカッション
第12回	文献講読（9）	報告とディスカッション
第13回	文献講読（10）	報告とディスカッション
第14回	まとめ	課題の返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ文献を読み、内容を理解し、自分の考えを整理しておくこと。

また、担当になった場合は、レジュメやコメントなどを作成し、授業で配布できるように準備しておくこと（必ず始業までに準備を済ませておくこと）。

演習Iのまとめとして、読書ノートを作成・提出する。

授業の準備・復習および読書ノートの作成は、1回につき4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ゼミへの参加（70 %）
- ・読書ノート（30 %）

「参加」＝「出席」ではありません。

出席したうえで、考え、発言することを重視します。

読書ノートの評価については、授業で詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

ゼミは参加が基本です。

3回以上欠席した場合は単位を認めません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

武田 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学で学ぶために必要な能力とスキルを学生が身につけることを目的とする。特に文献の探し方や読み方、レジュメの作り方、学生たちが協力してゼミをどう運営するかを学ぶ。

【到達目標】

大学のゼミにおいて必要とされる基本的な能力・スキルを習得すること。より具体的には以下の 3 点となる。

- 1) 文献やデータを自ら収集して内容を理解するとともに、その内容を批判的に読み、課題を発見することができるようになること。
- 2) レジュメやレポートを書くために必要な、基本的な文章力を習得すること。
- 3) ゼミに主体的に参加し、学生同士による意見交換を通して、研究を進めていく能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献やデータの検索、専門書・論文の読解、レポートの作成、ゼミでの報告とディスカッションの方法等について学ぶ。

第 2 回までで文献やデータの収集方法を学んだ上で、第 3 回以降は報告と、学生同士による相互評価が中心となる。自分の報告や他の人の報告に関する評価表を毎回提出してもらい、共有する。それらの積み重ねを通して自分自身の報告の仕方を改善するとともに、成長の過程を実感してもらい、最後に夏休みの宿題として個人レポートを提出してもらい、全体のまとめとする。

なお授業計画は授業の展開と学生のインターネット環境の状況に応じて、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	概要の説明、自己紹介
2	文献・データを収集する	文献・データの検索の仕方、図書館の使い方
3	文献を読む (1)	正確に文献を理解するために何が必要か
4	文献を読む (2)	正確な要約と生産的な批判、コメントの重要性
5	文献を読む (3)	レジュメの作成・報告と相互批評、ディスカッションをどう行うか
6	情報やデータの収集 (1)	マスメディアやインターネットによる情報やデータの収集をどう行うかの課題の提示
7	情報やデータの収集 (2)	課題に基づく結果の提出と批評
8	報告の準備	各自のテーマの決定
9	各自の報告 (1)	文献・データに基づく報告と討論の実践（学籍番号で前から 6 人目までのメンバーの報告）
10	各自の報告 (2)	文献・データに基づく報告と討論の実践（学籍番号で前から 7 ～ 12 人目までのメンバーの報告）

11	各自の報告 (3)	文献・データに基づく報告と討論の実践（学籍番号で前から 13 ～ 18 人目までのメンバーの報告）
12	各自の報告 (4)	文献・データに基づく報告と討論の実践（学籍番号で前から 19 ～ 23 人目までのメンバーの報告）
13	夏休みの課題に向けた準備 (1)	最終レポートに向けた方向性についての相談
14	夏休みの課題に向けた準備 (2)	最終レポートの方向性についての確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に沿った文献・資料収集、レポート執筆。他の学生のレジュメへの意見の提示。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村一夫,2014,『ゼミ入門』文化書房博文社。

【参考書】

橋本努,2013,『学問の技法』筑摩書房。

野村一夫「社会学の作法・初級編：社会学的リテラシー構築のためのレッスン」

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業への積極的な参加度を通じた平常点評価（10 点）。
- ・第 3 回以降のレジュメの報告に基づく評価（30 点）。
- ・第 3 回以降の自己評価表・他者評価表の提出による評価（30 点）。
- ・夏休み個人レポートに基づく評価（30 点）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当するため、特になし。

【Outline and objectives】

It is the purpose of this class for students to acquire the abilities and skills necessary to study at university. In particular, they learn how to search and read papers, how to make resumes, and how they cooperate in managing seminars.

BSP100EA

基礎演習 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

・初回授業：4月21日(火)2時限より学習支援システム上で教材を配布します。
・学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知します。

本授業では、これから大学で学習するために必要な「調べる・読む・書く」ことに関する基本スキルの修得と知的好奇心の喚起を目的とします。

【到達目標】

本授業では、次の2点に到達することを目標とします。

- 1) 文献等の情報を調査し正しく参照・引用したうえで、レポートを作成できる。
- 2) 調査結果や自分の意見を、文章によって論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、主に学習支援システムを通じたオンライン形式で授業を実施します。

詳しくは、学習支援システムを通じて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大学での学び方①	ガイダンス
第2回	プレゼンテーション	自己紹介を兼ねた報告・発表
第3回	情報のとらえ方①	情報の読みとり方
第4回	情報のとらえ方②	批判的読書法
第5回	文献調査	各種調査方法
第6回	文献講読①	文献講読
第7回	文献講読②	要約の練習
第8回	文献講読③	レジュメの作成
第9回	レポートの作成①	レポートの基本
第10回	レポートの作成②	テーマ設定、研究方法
第11回	レポートの作成③	文献調査
第12回	レポートの作成④	文章の書き方
第13回	レポートの作成⑤	引用、図表等の作法
第14回	まとめ	秋学期に向けた意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提示する課題：70%、期末試験もしくは期末レポート：30%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course to help student acquire the skills and knowledge necessary for learning at university. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Literature review
- 2)Reading exercise
- 3)Writing exercise

BSP100EA

基礎演習 I

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基礎演習 I は、大学生として求められる専門的な思考力を身につけること、研究調査活動を自ら実施するための基礎的な技術（情報収集、読解、分析、思考、記述、発表等）を修得することを目的とします。

【到達目標】

受講生は、基礎的な研究調査技法と文献講読、グループ活動などを通じて「考える力」を修得することを目標とします。具体的な到達点として、文献を読みレジュメを作成する、プレゼンテーションを行う、討議を通じて考えを深めるなどの学習・研究能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、レジュメの作成と発表、討議・ディベート、図書館利用等の活動を行います。受講生は、これらを様々な形で実施することにより、基礎的な研究分析の作法や思考法を体得します。授業計画は受講生等の進行状況によって若干の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要を説明します。受講生は相互に自己紹介を行います。
2	関心ある物事の発表 (1)	身近な事柄を題材として関心のある物事を発表します。
3	関心ある物事の発表 (2)	身近な事柄を題材として関心のある物事を発表します。
4	図書館の資料検索	書籍や新聞記事、雑誌記事・論文の検索の仕方について学びます。
5	レジュメの作成	指定された文章を読み、内容の要約とレジュメの作成の仕方を学びます。
6	討議・ディベートの実施	関心あるテーマについて討議を行います。
7	文献講読と発表、討議 (1)	担当した該当頁についてレジュメ（要約と論点）を作成し、討議を行います。
8	文献講読と発表、討議 (2)	担当した該当頁についてレジュメを作成し、討議を行います。
9	文献講読と発表、討議 (3)	担当した該当頁についてレジュメを作成し、討議を行います。
10	文献講読と発表、討議 (4)	担当した該当頁についてレジュメを作成し、討議を行います。
11	グループ発表と討議 (1)	グループでレジュメを作成し発表します。これについて全体で意見交換を行います。
12	文献講読と発表、討議 (5)	担当した該当頁についてレジュメを作成し、討議を行います。
13	討議・ディベートの実施	関心あるテーマについて討議を行います。
14	授業のまとめと夏休みの課題	春学期の授業の振り返りを行います。夏休みの過ごし方と課題について話し合います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに文献講読、レジュメ作成、グループワーク等の授業外学習を行います。発表・提出に間に合うよう作業を完了するなど、計画的に授業準備を進める必要があります。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>

・授業参加（平常点）：40%、討議:30%、レジュメ等の課題提出：30%
<評価基準>

・授業参加は、出席した上で積極的な学習と発言することを評価します。満点を40%（点）とし、欠席（遅刻2回で欠席1回分）した場合は減点します。欠席の多い（2割以上）受講生は成績評価の対象外とします。

・討論は、文献発表や班活動への積極的な参加について満点 30 % (点) で評価します。
 ・レジュメ等の課題提出は満点 30 % (点) として、調査内容、文章表現、論理性などをポイントに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読と発表、討論は「講読シート」を用いて行います。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への連絡は電子メールを基本に行います。メールを随時チェックできるような通信環境を設定します。

【その他の重要事項】

授業は、毎回の出席と授業への参加が原則です。出席することはもちろん、質問・意見を求められたときに積極的に発表すること、他の人の意見をしっかりと聞いて意見を述べる必要があります。

【Outline and objectives】

The aim of Basic Seminar I is to help students acquire the basic research skills and knowledge in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要な自主学習の方法や基本的な技術を習得すること、また、議論を通じて他者の多様な関心を知る中から、自ら学ぶことに対しての意欲を高めていくことを目的とする。

【到達目標】

- ・文献や情報を収集する方法を習得する
- ・レジュメやレポートの作り方を習得する
- ・討議の作法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
 関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

人に伝える、聴く、文献を読む、調べる、書面にまとめる等の基本的な技法の説明をしながら、発表、グループ討議、レポート提出などの方法で学生自身がそれらを実践する機会を作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と受講生の自己紹介
第 2 回	出来事やニュースを伝える －グループワーク	具体的な出来事やニュースをグループに伝えて、意見交換する
第 3 回	レジュメをつくる	レジュメを作り、話す内容を整理する
第 4 回	報告する	レジュメに沿ってクラスで報告する
第 5 回	インタビュー －グループワーク	前回の報告内容について、グループでインタビューする
第 6 回	文献や資料の探し方	図書館やインターネットを使った文献・資料の探し方を学ぶ
第 7 回	図書館を利用する	興味を持ったテーマの文献を見つける
第 8 回	文献からの学びの展開	取り上げた文献の要点整理しメモを作成し、わからないこと、さらに知りたいことを調べて付記する
第 9 回	文献を紹介する －グループワーク	読んだ内容をグループに紹介し、質問に答えながら、意見を交換する
第 10 回	レポートの書き方	自分が紹介した文献を題材にレポートを作成する
第 11 回	問題を発見する －グループワーク	与えられたテーマ（時事問題）からグループで問題認識を洗い出し、整理する
第 12 回	問題認識を深める －グループワーク	グループ内討議を通じて、解決策を見つけるべき問題を絞り込む
第 13 回	解決策を見出す －グループワーク	文献やインターネットを活用し、グループでの解決策をまとめる
第 14 回	解決策の発表	グループごとに解決策を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

文献を読む、発表の準備を行う、レポートを作成するなど、授業中に指示した課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。

【参考書】

授業内で適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30％）、発表等の準備状況（30％）、最終レポート（40％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Students will acquire basic skills such as self-learning methods of collecting literature and information necessary for studying at the university, basic skills of preparing resumes and making reports. And also through knowing various interests of others on discussions, students will be expected to motivate to study by themselves.

BSP100EA

基礎演習 I

津田 正太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの意味を考えることから始め、レポートの書き方、研究の進め方、社会科学の方法論について学習する。

【到達目標】

大学での学びに求められる動機づけを向上させるとともに、社会学部の学生として求められる基本的な学習・研究スキルを修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者同士でのディスカッションや個人単位での調査を実施する。また、基礎的な文献の輪読を通じてレジユメの作成法や文献の読み方についても学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講にあたっての諸注意	イントロダクション
第 2 回	何のために大学で学ぶのか	大学での学び
第 3 回	文献輪読『メディア不信』序章	基礎知識習得とレジユメの作成
第 4 回	文献輪読『メディア不信』1章	基礎知識習得とレジユメの作成
第 5 回	研究テーマ発表（1）	個人研究準備
第 6 回	研究テーマ発表（2）	個人研究準備
第 7 回	文献輪読『メディア不信』2章／3章	基礎知識習得とレジユメの作成
第 8 回	図書館ガイダンス	アカデミック・スキル
第 9 回	文献輪読『メディア不信』4章／5章	基礎知識習得とレジユメの作成
第 10 回	研究中間報告（1）	個人研究
第 11 回	研究中間報告（2）	個人研究
第 12 回	文献輪読『メディア不信』最終章	基礎知識習得とレジユメの作成
第 13 回	研究最終報告（1）	個人研究
第 14 回	研究最終報告（2）	個人研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習内でも話し合いの時間を設けるが、輪読の準備やレジユメの作成、個人研究に関しては演習の時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林香里（2017）『メディア不信 何が問われているのか』岩波新書。

【参考書】

参考書については適宜紹介する。社会学部の学生としては是非読んでもらいたい文献のリストも配布する。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究の完成度、研究への参加度などに応じて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生の主体的な参加を可能にする授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジユメや最終レポートの作成にあたっては PC の利用が必須である。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar is to help participants consider the reasons for studying at university by themselves, as well as learn academic skills needed for it.

BSP100EA

基礎演習 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での研究活動のための重要なルール、マナー、技法を身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

学術的なルール、マナー、技法の修得にもとづいて、以下のことが実践できるようになる。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション、⑥レポート執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は4月21日(火)とする。
文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な能力を修得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明
2	レジュメ作成とプレゼンテーション	自己紹介レジュメの作成と発表
3	文献読解トレーニング①	社会学文献の読み方を学ぶ
4	文献読解トレーニング②	社会学文献の読み方を学ぶ
5	資料収集トレーニング①	文献・資料の収集法を学ぶ
6	資料収集トレーニング②	社会学に関連する文献・資料を収集する
7	資料収集トレーニング③	収集した文献・資料について発表する
8	グループワーキング①	研究の進め方についてブレインストーミングをする
9	グループワーキング②	発表に向けて作業を進める
10	グループワーキング③	発表に向けて作業を進める
11	グループワーキング④	プレゼンテーションの準備をする
12	グループ発表	グループごとの発表をする
13	レポートトレーニング①	レポート執筆のテーマ設定や構成の仕方について学ぶ
14	レポートトレーニング②	レポート執筆の具体的方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。自己紹介、文献読解、資料収集、グループワーキングのそれぞれについて、参加者全員に発表を求める。そのため、時間外には発表のための準備が必要となる。また授業のフィードバックにもとづく復習も必要となる。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次の通り。

- ①自己紹介レジュメ（5%）、②文献読解の発表（25%）、③資料収集（25%）
 - ④グループワーキング（25%）、⑤平常点（出席状況、演習内での発言など）（20%）
- ・自己紹介、文献講読、資料収集、グループ発表のひとつでも欠けたら単位は落第とする。また4回欠席でも落第とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当しなかったもので、とくにない。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

有意義な演習を進めるためには学生の積極的な参加が不可欠です。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar I is to learn important rules, manners, and techniques for research activities in the university.

BSP100EA

基礎演習 I

宮下 阿子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学で研究活動に取り組むうえで必要となる基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の内容を理解し、批判的に検討する力を養う。
- 2) 自分の考えを言葉にして伝える力、お互いの考えを尊重しながら議論を交わす力を養う。
- 3) レジュメの作成、レポートの作成、プレゼンテーション、資料収集等の基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読とディスカッションを中心に進める。授業を通して、1) 2) 3) を習得するための機会を提供する。

(なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。)

※この授業は4月21日(火)から始まります。受講生は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	個人発表①	作品紹介を通したプレゼンテーションの練習
第3回	個人発表②	作品紹介を通したプレゼンテーションの練習
第4回	グループ・ディスカッション	テーマを選びディスカッションの練習
第5回	レジュメの作成に向けて	レジュメの作成方法の説明
第6回	図書館ガイダンス	文献・資料の収集方法の説明
第7回	文献講読①	担当班による報告+議論
第8回	文献講読②	担当班による報告+議論
第9回	文献講読③	担当班による報告+議論
第10回	レポートの作成に向けて	レポートの作成方法の説明
第11回	文献講読④	担当班による報告+議論
第12回	文献講読⑤	担当班による報告+議論
第13回	文献講読⑥	担当班による報告+議論
第14回	まとめ	読書レポートの提出+振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、文献を読み、自分の考えをまとめておくこと。また、各自、レジュメの報告やレポートの提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%（発表、発言、参加姿勢など）
課題点 40%（読書レポートの内容）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

中村 尚樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

“モビリティ”に着目しながら、日本社会の将来を展望する文献をテキストに、レジュメ作成と発表、コメントを通して、参加者のまなざしの違いを確認する。そのことにより、問題に対する深い理解を得たうえで、自分の考えをまとめるという主体的かつ論理的な思考力の習得を目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の意図を正確に理解することができる。
- 2) 自ら問題意識をもって「問い」を発し、自分なりの結論を導くことができる。
- 3) 以上を簡潔にまとめ、発表することができる。
- 4) 比較的短い文章で的確に自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。学習支援システムによる本授業の開始日は5月11日(月)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と方法。“他己”紹介。担当班の振り分け。
第2回	問題や紛争を解決する方法	錯覚と思い込み。ゼロサムゲームとプラスサム。
第3回	MaaS と CASE とは	担当班がレジュメで発表する。
第4回	移動弱者対策	担当班がレジュメで発表する。
第5回	観光型 MaaS	担当班がレジュメで発表する。
第6回	ウーバー・DiDi・クルー	担当班がレジュメで発表する。
第7回	電動キックボード	担当班がレジュメで発表する。
第8回	駐車場シェアリング	担当班がレジュメで発表する。
第9回	物流プラットフォーム	担当班がレジュメで発表する。
第10回	空飛ぶクルマ	担当班がレジュメで発表する。
第11回	自動運転	担当班がレジュメで発表する。
第12回	医療型 MaaS	担当班がレジュメで発表する。
第13回	スマートシティ	担当班がレジュメで発表する。
第14回	春学期のまとめ	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキストを事前に精読する。特に報告者は関連文献を調べて読み込み、グループでレジュメにまとめる。

【テキスト（教科書）】

中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすい MaaS & CASE』（2020年4月、プレジデント社）

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の担当がないため、該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

参考文献等でPDF資料配布の場合には、「授業支援システム」を利用する。

報告担当者は事前にリソグラフでレジюмеを人数分コピーすること。

【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline and objectives】

Students focus on “mobility” and create and present resumes. The aim is to acquire a proactive and logical thinking ability to put together one’s thoughts after gaining a deep understanding of the problem.

BSP100EA

基礎演習 I

南雲 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な方法、技術の習得（レジюмеの書き方、発表の仕方、ディベートの進め方）を目標にします。なお、1年を通して「情報操作」や「疑似科学」などを主なテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・レジюмеを一人で完成させる。
- ・ある社会的なテーマについて、冷静に議論ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

具体的には、春学期はグループ毎にテキストを輪読し、発表していきます。秋学期には、ディベート（討論）を中心に演習を進めていきます。

基礎演習の主人公はみなさんひとりひとりです。必ず毎回出席するようにして下さい。過去に沖縄（3回）・伊豆半島、九十九里浜等で合宿を行いました。また奥多摩でバーベキュー大会などを行いました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間の子定、そのほか班分けなどについて話し合います。
2	図書館ガイダンス	図書館の使い方についてガイダンスを行います。(日程変更あり)
3	教材鑑賞	視聴覚教材を鑑賞します。
4	発表1	新聞を読んで、興味を持った課題についてレジюмеを作成し発表します。
5	発表2	新聞を読んで、興味を持った課題についてレジюмеを作成し発表します。
6	教材鑑賞	視聴覚教材を鑑賞します。
7	テキスト輪読1	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
8	テキスト輪読2	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
9	テキスト輪読3	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
10	テキスト輪読4	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
11	テキスト輪読5	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
12	テキスト輪読6	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
13	テキスト輪読7	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
14	教材鑑賞	春学期にテキストなどで学んだことに関連する視聴覚教材を鑑賞します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の担当箇所を予習を予習します。なお、テキストなどの予習は最低でも 3 時間は必要です。
合宿（予定：場所などは相談します）。

【テキスト（教科書）】

林香里『メディア不信』（岩波新書）。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

S = 毎回のレジュメ報告、小レポートなどを必ず提出し、かつ集団学習における協調性がきわめて優秀と認められる、A+ = 毎回のレジュメ、小レポートなどを必ず 100 % 提出し、かつ平常点の演習における態度がきわめて優秀かつ集団学習の態度が優秀、A = 毎回の課題・レポートなどを必ず提出し平常の態度が優秀、B = 課題・レポートなどを 80 % 以上提出し平常点が普通、C = 課題を 60 % 以上提出し平常点が普通。

（レジュメ報告、小レポートは 50 %、集団学習の態度は 50 %）

なお、無断欠席が多い場合は不合格になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの書き方を個人の進捗度合いに応じて指導します。

【その他の重要事項】

毎回のテキスト部分を予習します。

【Outline and objectives】

Learning how to write resume,how to present,how to debate

BSP100EA

基礎演習 I

古川 早苗

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでは、問題を与えられそれに答えていくというスタイルに慣れてきたのではないだろうか。しかし、大学では問題も自分で探すものであり設定していくものである。自分の設定した問題について自分自身で追求・探求していくための「基礎体力」を養うことが本演習の目的である。

【到達目標】

この演習を通じて、聞く・話す・読む・書く・調べる、そして何より考えることが、少しでも億劫でなくなり、面白く興味深いと感じられるようになることを目指す。と同時に、人間事象や社会事象についての視野や興味が柔軟さを持って広がっていくことが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本演習の開始日は 4 月 21 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本演習の進め方についての説明／ゼミ参加者の自己紹介
第 2 回	本を用いた自己紹介	図書館（閉架）の本を用いての自己紹介
第 3 回	レジュメの書き方の練習 (1)	短い文章を用いてレジュメの作成
第 4 回	レジュメの書き方の練習 (2)	各自が準備してきたレジュメを用いてグループ毎に検討
第 5 回	レジュメの書き方の練習 (3)	各自が準備してきたレジュメを用いてグループ毎に検討
第 6 回	文献や資料の読み方について	さまざまなタイプの資料を用いて「深読み」の練習
第 7 回	論文とは何か	単なる感想文や報告との違いを学ぶ
第 8 回	文献の批判的検討 (1)	担当班がレジュメを準備して全体で検討
第 9 回	文献の批判的検討 (2)	担当班がレジュメを準備して全体で検討
第 10 回	文献の批判的検討 (3)	担当班がレジュメを準備して全体で検討
第 11 回	文献の批判的検討 (4)	担当班がレジュメを準備して全体で検討
第 12 回	図書館の利用	OPAC やデータベースの利用法、活用方法を知る
第 13 回	ゼミ論作成に向けた報告	各自、現時点でのゼミ論テーマ（案）とアプローチ方法について報告
第 14 回	小レポートの提出／秋学期からのゼミ論作成について	秋学期からの進め方とゼミ論作成に向けて夏休み中にしておいて欲しいことの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、レジュメ作成等の HW を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、成績評価の方法も基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の演習内容から秋学期のゼミ論作成作業への移行を違和感がないように進めたい。

[Outline and objectives]

The purpose of this exercise is to cultivate intellectual "basic physical strength" to explore the problems that you set yourself.

BSP100EA

基礎演習 I

古澤 聡司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次生を対象とした大学生に必要な勉強の仕方や技術を学びます。必要な文献を読み、仲間の意見にも耳を傾け、皆で討論し、自分なりの考えをまとめていきます。

【到達目標】

自分なりの考えをレポートや論文としてまとめあげることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習での報告の仕方、レジュメの書き方、資料収集の方法、討論の仕方、論文・レポートの書き方など、具体的な勉強の方法、技術の習得を目指します。当初はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更は、学習支援システムでお知らせしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画と自己紹介など。
第 2 回	受講の準備	テキストの入手。
第 3 回	テキスト第 4 講の講読	「要約の仕方」を読む。
第 4 回	テキスト第 9 講の講読	「レジュメの作り方」を読む。
第 5 回	レジュメの作り方の実習	パソコンの文章作成機能を使ってレジュメを作る。
第 6 回	テキスト第 10 講の講読	「ゼミ発表の仕方」を読む。
第 7 回	テキスト第 3 講の講読	「テキストの読み方」を読む。
第 8 回	テキスト第 5 講の講読	「きちんと考える方法」を読む。
第 9 回	図書館ガイダンス	O P A C などの利用法と図書館の活用方法を学びます。
第 10 回	テキスト第 6 講の講読	「図書館の利用」を読み、ガイダンスの復習。
第 11 回	テキスト第 7 講と第 8 講の講読	「レポート・論文の書き方」を読む。
第 12 回	春学期のまとめ	春学期の学習を振り返るとともに夏休みの過ごし方について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の講読は各自、事前学習しておくこととする。なお、準備学習・復習時間の目安は、各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

『大学基礎講座 改増版』北大路書房刊

【参考書】

授業の進進にしがって提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発言、報告の仕方、レジュメの書き方、討論の仕方、レポートの提出など平常点を 50%、レポートの内容評価を 50% で、合計点を総合的に評価します。

オンライン授業にとりまう変更の可能性がります。変更の場合は学習支援システムをとりまうお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

授業が学生との相互作用の過程であることをいつもながら思い知らされます。

【Outline and objectives】

You must learn about the way of learning in university.

BSP100EA

基礎演習 I

本田 親史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

比較的平易な文章を通じ専門的な勉強に入る前の教養力をつける。

【到達目標】

1) 概念等について自ら調べて内容を深めながら批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける一の 2 点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

定評ある社会学者による平成時代を再検証した本を読んでいきます。毎回班ごとにレジュメ提出、プレゼンをしてもらい最後にレポートを提出していただきます。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロ	ガイダンスなどと班作成
第 2 回	レジュメ・討論実践	新聞等を基に予行演習
第 3 回	はじめに	「平成という失敗」
第 4 回	第一章 (1)	「没落する企業国家」1
第 5 回	第一章 (2)	「没落する企業国家」2
第 6 回	第二章	「ポスト戦後政治の幻滅」
第 7 回	図書館ガイダンス	図書館の使い方を学びます
第 8 回	第三章 (1)	「社会の連続と非連続」1
第 9 回	第三章 (2)	「社会の連続と非連続」2
第 10 回	第四章 (1)	「虚構化する自己認識」1
第 11 回	第四章 (2)	「虚構化する自己認識」2
第 12 回	おわりに	「失われる半世紀の序曲」
第 13 回	春学期まとめ (1)	レポートの書き方解説
第 14 回	春学期まとめ (2)	レポート提出・前期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) 発表当番は発表箇所のレジュメを前日までに完成させ、印刷も済ませておく（当日朝はコピー機が混雑します）2) 授業時間の後半は必ずディスカッションに充てるので、発表当番はその構想も準備する 3) 発表班以外も全員授業で進む箇所を事前に読んでおくこと。突如当てる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉,2019,「平成時代」,岩波新書,ISBN978-4-00-431777-7

【参考書】

国語辞典は常に持参してください

【成績評価の方法と基準】

・平常点 50%+レポート 50 %。平常点とは出席状況に加え、プレゼンテーション能力および討論への参加度を総合的に加味したものを指す。

【学生の意見等からの気づき】

・発表当番以外の受講者がテキストを読んでこないという指摘があります。全員きちんと授業範囲を読んでおくこと

【その他の重要事項】

・使用書籍の購入については授業中の指示に従ってください。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts on social sciences through basic readings and discussions.

BSP100EA

基礎演習 I

松下 峻也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

履修する学生は、「大学で学ぶ」ために必要な技能と作法を取得します。具体的には、学術書を読む力、みずから問いを立てる力、史資料を調べる力、その成果を報告し、他者と議論する力を、学生が身につけることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、文献講読をとおして既存の知識や知見から学ぶとともに、ディスカッションによってその成果を共有します。学生が、学術書を精確に読み解き、その内容を他者にたいして報告/他者とともに議論できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

オンラインでの開講にともない、講義計画を変更し、毎回の内容（教材や課題など）を学習支援システムで指定します。初回の内容の指定は 4 月 21 日とし、それを本科目の講義開始日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の概要や目的の解説と、教員と学生による自己紹介
2	文献講読の準備①	学術書の「読みかた」のレクチャーと、講読文献の決定
3	文献講読の準備②	「報告のしかた」のレクチャー
4	文献講読①	レジュメの報告とディスカッション
5	文献講読②	レジュメの報告とディスカッション
6	文献講読③	レジュメの報告とディスカッション
7	文献講読④	レジュメの報告とディスカッション
8	記者という職に学ぶ	社会に問いを立て、調査し、報道する職業である「記者」の検討
9	文献講読⑤	レジュメの報告とディスカッション
10	文献講読⑥	レジュメの報告とディスカッション
11	文献講読⑦	レジュメの報告とディスカッション
12	文献講読⑧	レジュメの報告とディスカッション
13	課題レポートの作成の準備	レポートの「書きかた」のレクチャー
14	総括	本科目の総括と、期末課題（レポート）の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、文献講読の報告とディスカッションの準備が求められます。また、期末課題（レポート）の作成も授業時間外におこないます。本科目の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義のなかで指定します。

【参考書】上野千鶴子, 2018,『情報生産者になる』筑摩書房。
好井裕明, 2014,『違和感から始まる社会学——日常性のフィールドワークへの招待』光文社。**【成績評価の方法と基準】**

オンラインでの開講にともない、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から本科目を新規担当するため、とくにありません。

【Outline and objectives】

In this class, students learn skills and manners necessary for academic research.

BSP100EA

基礎演習 I

南 宏幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間、大学生ともなると、先生から教わったことを覚えれば済む、というわけにはいかなくなる。自力で新しい認識を生み出し、その認識を的確に他人に伝えられるようになることが、求められるのである。「人から教わる生徒」であるだけでなく、「新たに知り、それを他人に教えられる探究者」ともなる、という課題である。学問というものは、この探究の一形式であり、大学に行って「学問する」ということは、この探究に主体的に参加する、ということをも意味するのだ。そして「生徒」から「探究者」へのこの大転換を実践するのが、「演習」という大学特有の場である。しかし「教わる生徒」から「教える探究者」への転換は、やはりそれほど簡単ではない。学問には考え方の異なる多様な人間が「認識を共有する」ために、様々な制約・約束事があるが、まずはそれを習得しないと、探究者となる土台もできない。基礎演習という授業は、学生諸氏が学問の制約を習得し、探究者となる土台を作って、今後の演習で各自の探究を実践できるよう、準備と予行演習をしてもらうために存在する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①学問上の探究を通じて達成できること・できないことを知ること。②学生諸氏が、現実の社会生活の中から、「なぜこういうことが起きているのか」という知的な関心を選び取って、それを一定の仮説（「○○だからではないか」）と結び付けられるようにすること。③自らの仮説を確認・検証するためには、何をどのように調べればいいのか、目星をつけられるようにすること。④演習参加の心構え、「レジュメ」の作成方法、発表の仕方等、演習で必要となる諸作法を経験し、習得すること。以上である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員が、資料を授業内で逐次提示し、それらを元に学生諸氏に意見を聞く、といった形で授業を進める予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	顔を見知り、授業に備える。	演習とは何か、なぜ特別に重要なのか等の説明。学生諸氏の自己紹介。
2	実験される側として研究の実例に触れる	メディアリテラシーに関わる簡素な実験の被験者になって、自分たちが示した反応を、自分たちで分析してみる、経験学習。
3	自分たちの反応を研究者視点で考察する	第二回で行った実験で得られたデータを使い、班別に発見・仮説構築をする。
4	自分はなぜそう反応したのか、探究を経験すること、できないことの解説。	仮説と、その検証に必要な調査・追加実験について、班別に発表。
5	学問的探究のできること、できないことの解説。	「価値自由」原則の説明。
6	「事実に基づいた議論」の意義解説。	常識に反する研究を提示し、「事実に基づいた議論」、対話的思考の必要性を考える。同時に「レジュメ」作成のガイダンス。
7	難解な文章を読解してみる。	「難解」な文章を読み解き、レジュメ作成する練習。
8	自分の関心を特定する。	幾つかの問題カテゴリー・ジャンル別に作られた班に分かれ、問題設定・仮説構築・検証方法の検討を行う
9	研究のビジョンを仮設し、発表する。	第八回で設定した班毎に、研究ビジョン発表。
10	各自の関心特定を進める（第1班）	第1班が、各自の関心に従って「謎」を見つけ、「答え」を作り、発表する。発表者以外は「異論・反論」を述べる。
11	各自の関心特定を進める（第2班）	同上。
12	仮説の検証をしてみる	各自が立てた仮説を検証できそうな調査・実験を考案し、ゼミレベルで実行する課題設定。
13	検証結果発表	検証結果の発表と、質疑応答。
14	レポート提出と発表	前期暫定レポート提出と発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

逐次指定する以外の事前読書は、特に求めない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教科書」は用いない（必要資料は教員がプリントし配布する）。

【参考書】

授業内では、数冊の文献を活用するが、部分的な利用であり、特に参考書指定はしない。

【成績評価の方法と基準】

期末に提出する、「問題設定・仮説暫定レポート」の評価比重 50 %、その他の小レポート等の比重が 20 %、平常点 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

「演習」という授業の「特別さ」を解っていない学生が増えた気がする。これをどうやったら伝えられるのか、模索中。

【その他の重要事項】

「言われた事をやる」だけで満足せず、「自分のために自分で動く」態度を身につける場として、大学と基礎演習を役立ててほしい。春・秋学期合わせての履修推奨。

【Outline and objectives】

As university students, it is not enough to be submissive learners. you will be required to create new recognition by yourself and to be able to accurately convey it to others. It is the task of "becoming intellectual explorers who can understand what was not understood". Academic research is a form of this exploration. However, switching from 'taught pupils' to 'teaching explorers' is not so easy. In order to "share recognition", Academic research has various restrictions / promises. This "basic exercise class" exists to help you learn those restrictions / promises of academic disciplines, get foundations to be intellectual explorers, and have preparations and pre-exercises so that you can practice your own in future exercises.

BSP100EA

基礎演習 I

山崎 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本的な考え方を身につけること。文献を読みこなし、自分の考えを構築し、表現する（授業で発言・議論をする、論文を書く）ための基本を修得すること。

【到達目標】

文献を読みこんで、授業で自分の考えを適切に表現できること。小論文の作成では、問題設定とその解答（結論）をしっかりと書けるようになること。また、そのために自分の力で文献・資料を探し出し、それを適切に参照できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常授業（文献の討議）は次のように進めます。

(1) 参加者は指定されたテキスト読み込み、論点・疑問点等を考えて、授業に参加します。(2) 担当者はレジュメを作成し、報告します。(3) 参加者の疑問点について考察し、討議を行います。また、レジュメの作り方、論文の書き方、図書館の利用方法についても、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習とは何か、どのようにすすめるのか、説明します。
2	スピーチ	テーマにそって、5 分間のスピーチを行います。
3	文献討議	社会学の考え方 1
4	文献討議	社会学の考え方 2
5	小論文の書き方	論文の書き方を説明します。
6	文献討議	選定したテキストの討議
7	文献討議	選定したテキストの討議
8	文献討議	選定したテキストの討議
9	文献討議	選定したテキストの討議
10	文献討議	選定したテキストの討議
11	文献討議	選定したテキストの討議
12	文献討議	選定したテキストの討議
13	文献討議	選定したテキストの討議
14	文献討議	選定したテキストの討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み込んで、論点・疑問点を書いてくること。レポート（2～3回）の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪大三郎 2008 「社会学はどういう学問なのか」 『橋爪大三郎の社会学講義』14-53. 筑摩書房（ちくま学芸文庫）（各自でコピー）
現代の社会情勢を扱った文献（参加者の希望）

【参考書】

森下伸也 2000 『社会学がわかる事典』 日本実業出版社
栗田宣義 2006 『[図解雑学] 社会学』 ナツメ社
見田宗介・栗原彬・田中義久（編）1994 『[縮刷版] 社会学事典』 弘文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

レポート（合計）：70 %

なお、レポートは、適切な問題設定、問題・論証・結論の一貫性を評価基準にします。

【学生の意見等からの気づき】

参加者が積極的に討論できるように工夫します。論点・疑問点の用紙の配布、テーマの選定など。

【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to learn the fundamental thinking of sociology and to acquire the basis for reading the literature, building the idea of yourself and expressing it.

BSP100EA

基礎演習 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基礎演習 I では学部での学び方、研究の進め方、自律的に学ぶことについて学習する。また高校で論文執筆を経験した者もいると思われるが、“大学”の“社会学”の論文に取り組むために必要なことを学ぶ。

【到達目標】

「話す・聞く・読む・書く」力の向上を通して「考える力」を磨き、高校の学習と異なる「大学での学び」を経験すること。文献・資料を批判的に読める／グループで課題解決のために協働できる／レジュメ・スライドを作成し発表できる／忌憚なく意見交換できる／図書館利用・情報検索できる／著作権・剽窃・盗用を理解し適切に資料を利用できる／アカデミック・ライティングの基礎を学びレポート・論文を適切に書ける／ゼミ論文の研究テーマが設定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマ設定を目標に、文献・資料を基に考えるだけでなく協働作業や発表・討論を通じてアイデアを纏めレポートを作成する。なお、授業計画は展開をみて適宜変更することがあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎演習 I ガイダンス	本演習の進め方、すべきことについて。
第 2 回	問題発見と資料の探索	興味関心を探り資料・文献を見つける。
第 3 回	文書資料を読みとる	文書資料の検討と討論。
第 4 回	映像資料を読みとる	映像資料の検討と討論。
第 5 回	問題意識の探索	問題意識の共有と協働の足掛かりを得る。
第 6 回	グループ課題の設定	課題設定と協働の仕方について。
第 7 回	何に、どう取り組むか	主題設定と方略について。
第 8 回	図書館ガイダンス	情報検索と資料の適切な利用について。
第 9 回	資料の活用と研究倫理	引用、文献挙示の作法と剽窃・コピー。
第 10 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 11 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 12 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 13 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 14 回	振り返りと秋学期の準備	反省と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの設定には社会学の様々なフィールドの探索が必要だ。断片的な情報はネットで入手可能だが、活字から逃げずに読むこと、また論文の完成までテーマについて考え続けることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。その都度、指示した内容について予習、復習、課題を行なうこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使う予定はないが、各自の関心に沿って社会学領域の文献を読む必要があり、テーマの核心となる文献を選んでもらうことになる。

【参考書】

特定の参考書は指定しない。各自のテーマに応じて個別にアドバイスしたい。

【成績評価の方法と基準】

評価のウェイト：平常点 50%、発表 25%、レポート 25%、評価基準：ゼミ活動への参加度、グループ作業と発表・討論の充実度、レポートは資料の利用・挙示、主題に応じた議論の展開の適切さ、文章推敲など。

【学生の意見等からの気づき】

全体的な流れがつかみにくいかもかもしれないが、年度始めの説明だけではなく、つどつど、ねらい、進め方を説明するよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使う場合があるが、うまく使えない人が困らないように配慮したい。また経験を積む機会として PC でプレゼンに挑戦してもらうが、PC を使わず模造紙で行なう方が面白いこともある。

【その他の重要事項】

仲間同士刺激しあうところにゼミの醍醐味がある。積極的な参加を期待している。また、質問・相談はゼミの後やシャトル・カード、メールで受け付ける。なお、基礎演習 I での学びの成果は、基礎演習 II に引き継がれることを想定している。本科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamentals of academic learning skill, research, writing, citation style of The Japan Sociological Society.

BSP100EA

基礎演習 I

吉田 公記

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本科目は、大学での学び方の基礎を習得するとともに、これからの 4 年間で探究していきたいテーマを見つけることを目的とする。

【到達目標】

①文献や資料の集め方、レジュメやレポートの書き方といった大学での学習の基礎的技術を習得すること。②2 年次以降のゼミ選択に向けて、各自で問題関心を見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。下記【授業計画】は展開に応じて若干の変更がありうる。

*本科目の授業開始日は 4 月 21 日とし、しばらくの間、オンライン形式で授業を実施する。詳細については学習支援システムに掲示するので、そちらを参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要について説明する
2	研究テーマの検討	これから深く学びたい分野・テーマを各自で検討し発表する
3	基礎的技術の習得①	文献や資料の集め方を学ぶ
4	基礎的技術の習得②	レジュメやレポートの書き方を学ぶ
5	研究テーマ関連調査①	関心のある事柄に関する具体的な内容について資料を用いて発表する
6	研究テーマ関連調査②	第 5 回授業の続き
7	研究テーマ関連調査③	第 6 回授業の続き
8	入門文献の講読①	下記【テキスト】欄の文献を読む
9	入門文献の講読②	第 8 回授業の続き
10	入門文献の講読③	第 9 回授業の続き
11	個別の文献書評①	関心のある事柄に関する文献を各自で読み、書評を発表する
12	個別の文献書評②	第 1 1 回授業の続き
13	個別の文献書評③	第 1 2 回授業の続き
14	まとめ	これまでの学習内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での報告に必要な文献・資料等の収集・講読およびレジュメやレポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

第 8 ～ 10 回授業で受講生は下記のいずれかを選択し、書評を発表する。
・竹内洋『社会学の名著 30』（2008 年、筑摩書房）
・橋爪大三郎・大澤真幸ほか『社会学講義』（2016 年、筑摩書房）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分を目安として総合的に評価する。

・平常点（授業への参加姿勢等）：40%

・課題点（レポート等）：60%

*授業形式の一部変更にとまない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。詳細については学習支援システムに掲示するので、そちらを参照すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Through this course, students will (1) gain basic skills for academic study and (2) find academic themes to explore.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎演習Ⅰ」に続く本演習では、自ら問題を設定し、調べ、考察するという過程を通じて、各々の関心を醸成し、2年以降の専門学習へ向けて準備する。

【到達目標】

- ・自ら問いを立て、それに沿って文献にあたり、考察を深めることができる。
- ・図書館やインターネットを効果的に使い、正しく調べる方法を身につける。
- ・レジュメを作成し、必要に応じてパワーポイント等を利用しながら、プレゼンテーションの仕方を習得する。
- ・一定量の文章を書き、学期末には課題論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために、授業内外の各自の学習とグループワークを通じて、授業計画で列挙する課題に取り組んでいく。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	個人課題とグループ発表の進行について説明
第2回	グループ研究の説明	グループ研究の課題について説明
第3回	グループ研究（1）	グループ研究の課題へ向けた準備（テーマの検討、問題点、関連文献の調査）
第4回	グループ研究（2）	グループディスカッション、発表の準備
第5回	グループ研究（3）	レジュメ、パワーポイントの作成とチェック
第6回	グループ発表（1）	担当グループの報告と全体討議
第7回	グループ発表（2）	担当グループの報告と全体討議
第8回	グループ発表（3）	担当グループの報告と全体討議
第9回	グループ発表（4）	担当グループの報告と全体討議
第10回	ゼミ論文へ向けて	ゼミ論文（個人課題）の作成における確認と注意
第11回	ゼミ論文報告（1）	個人課題に関する検討、発表
第12回	ゼミ論文報告（2）	個人課題に関する検討、発表
第13回	ゼミ論文提出	個人課題の成果をまとめ、提出
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人課題とグループワークに関わる文献の講読、レジュメの作成や小レポートの執筆などに要する時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題（発表、ゼミ論文等） 50 %

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80：A-
79～77：B+
76～73：B
72～70：B-
69～67：C+
66～63：C
62～60：C-
59以下：D
未受験、採点不能：E

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

飯野 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ作業では、テーマの設定、研究計画の作成、資料収集を行い、分析した結果を発表する。他の発表については評価をし、単に発表するだけで終わらず、さらにより研究するにはどうすればよいか検討する。また、社会学の基礎的な文献を講読する。さらに個人の関心に従って研究を進め、個人レポートを作成する。

【到達目標】

図書館、インターネットを十分活用し、必要な資料を収集できるようにする。グループ発表では前期に学んだ議論や発表の仕方を活かし、より効果的な発表ができるようにする。さらに、他の発表を評価し、自分たちの発表への評価を聞き、よりよい研究のためにどうすればよいか検討する。また、自身の関心のある分野から研究テーマを設定し、レポートを書く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。グループ自由テーマについての研究発表、文献の講読と発表を行う。発表は必ず全体討論を伴う。個人レポートのための研究についてもクラスで発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学習計画、グループ分け
第2回	グループ自由テーマ作業	テーマ決定、資料収集
第3回	グループ自由テーマ討論	分析、グループ討論
第4回	グループ自由テーマまとめ	レジュメの作成
第5回	グループ発表前半	発表と全体討論、批評
第6回	グループ発表後半	発表と全体討論、批評
第7回	ディベート	ディベートを行い、評価し合う
第8回	文献講読1班発表	発表と討論
第9回	文献講読2班発表	発表と討論
第10回	文献講読3班発表	発表と討論
第11回	文献講読4班発表	発表と討論
第12回	文献講読5班発表	発表と討論
第13回	レポート発表前半	個人レポートの要旨を発表
第14回	レポート発表後半	個人レポートの要旨を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表についての資料収集や分析、レジュメの作成をする。テキストは事前に読んでおく。個人レポートのための資料収集や分析、個人レポートの執筆を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準。

【テキスト（教科書）】

森下伸也、君塚大学、宮本孝二『パラドックスの社会学 パワーアップ版』1998、新曜社

【参考書】

ディベートやグループ討論のテーマにより、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 40%（責任を持って作業しているか、積極的に討論に参加しているか） 課題の提出 10%（レジュメの評価） 学年末個人レポート 50%（書式、資料の活用、内容）

【学生の意見等からの気づき】

ただ単に課題をこなすだけではなく、自ら課題を探したり、問題意識を掘り下げるような学習態度を引き出すように工夫したい。一人一人のレポートを充実させるよう、計画書の提出とアドバイスをを行う。

【Outline and objectives】

In group work, students will set their own research theme, create a research plan, collect data and present their analytical findings. They will critique other students' presentations, and think about how to improve their research beyond the presentation. They will also read basic literature on sociology. In addition, they will continue research based on their area of interest and make a report.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岩城 邦義

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、また大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となります。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢の習得を目指し、ゼミ論文を提出してもらうことが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループでのテーマ決定や課題への取り組み、各自が興味関心のあるテーマや領域を発表し、論文の書き方について学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期のガイダンス	夏休みの課題提出と、秋学期についての説明
2	グループワーク①	テーマの決定と課題への取り組み
3	グループワーク②	課題への取り組み
4	グループ発表①	担当グループの報告と討議
5	グループ発表②	担当グループの報告と討議
6	グループ発表③	担当グループの報告と討議
7	グループ発表④	担当グループの報告と討議
8	論文作成準備	ゼミ論文の準備
9	個人研究報告①	ゼミ論文の中間発表
10	個人研究報告②	ゼミ論文の中間発表
11	個人研究報告③	ゼミ論文の中間発表
12	個人研究報告④	ゼミ論文の中間発表
13	ゼミ論文についての確認	形式についての確認
14	年間のまとめ	年間のまとめ、ゼミ論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に向けた教室外でのグループ活動・資料の作成、ゼミ論文執筆のための発表準備など。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、ゼミ論文（40%）をもとにして総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しあう。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それを少人数グループで回覧しながら、議論を進めます。最後の2回までに、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文を回覧して相互評価検討会をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	第2部1章ナミビア	報告と討論
4	第2部2章ブラジル	報告と討論
5	第2部3章ナミビア	報告と討論
6	第2部4章インド	報告と討論
7	第2部5章アラスカ	報告と討論
8	第2部6章イラン	報告と討論
9	第1部神学的まえがき、1章社会実験	報告と討論
10	第1部2章影響評価前半	報告と討論
11	第1部2章影響評価後半	報告と討論
12	第1部第3章全国の実施	報告と討論
13	第1部第3章全国の実施後半	報告と討論、授業日誌提出。
14	ゼミ自由論文検討会	各自のゼミ論文を回覧して、評価を書き入れていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の5項目を含むこと。①各回のテキスト部分の要約。②内容へのコメント（長所と短所を簡潔に）。③授業での質疑応答と討論についての要約。④授業での質疑応答と討論へのコメント。⑤社会の現状に関する疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。さらに、最後の2回までに、自由論題での学術論文形式のゼミ自由論文を作成して来る必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2020年刊行予定）。

ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアートの時代』（法律文化社、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発 NGO での長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学で学習するに際しての基本的な態度と作法を学ぶとともに、社会的問題への関心と好奇心を養成する。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

個別単位、グループ単位で種々の課題に取り組むことにより、社会科学を学習するうえで必要な、読む能力、聞き取る能力、話し発表する能力、書く能力、そして主体的に考える能力を醸成する。春学期で学んだ学問的な研究方法を課題に活用することにより、各自の研究能力を進め、その結果を論文にまとめて、発表する能力を強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、資料の収集、レジュメの作成、ゼミ生との議論や協力、図書館の利用、論文の作成、報告・発表などのプロセスを体験することにより、基本的な学習態度と学習作法を身につける。授業計画は、概ね、以下のとおりである。なお、受講者の状況や授業の進行状況を踏まえ、変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明 基礎演習Ⅰの総括
2	解くべき問題を設定する（1）	問題意識を踏まえての研究テーマの発表
3	解くべき問題を設定する（2）	問題意識を踏まえての研究テーマの発表
4	先行研究を調査する	図書館等を利用した情報収集
5	先行研究を読み、議論する（1）	文献講読を踏まえてのディスカッション
6	先行研究を読み、議論する（2）	文献講読を踏まえてのディスカッション
7	先行研究を読み、議論する（3）	文献講読を踏まえてのディスカッション
8	ストーリーを創る（1）	研究テーマのアウトライン発表
9	ストーリーを創る（2）	研究テーマのアウトライン発表
10	論文骨子の作成	研究テーマについての論文骨子作成に向けての検討
11	論文骨子発表（1）	研究テーマについての論文骨子発表と議論
12	論文骨子発表（2）	研究テーマについての論文骨子発表と議論
13	ゼミ論をまとめる（1）	ゼミ論作成の検討会
14	ゼミ論をまとめる（2）	論文作成についての個別相談を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献講読、レポート・論文作成など、種々の授業時間外学習が要請される。発表・提出日に間に合うように、各自、計画的かつ主体的に準備を進めることが望まれる。授業時間外の学習時間として各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

大学で学習する際に必要な基礎的な知識と主体的な考察力、考えをまとめ発表する能力について、以下の方法で評価する。

課題（報告、レポート、論文等）70%、平常点（授業への主体的な参加、発言、貢献等）30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への主体的な参加が原則です。授業では毎回、質問や意見を求められた際に積極的に発言すること、他のゼミ生の意見を踏まえつつ自分なりの考えを発信することが期待されています。秋学期における詳細な事項は、初回授業で説明・相談するので、履修予定者は必ず初回の授業に参加すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

兼子 諭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートの完成が後期演習の目的である。

【到達目標】

レポート（7000 字以上）の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

夏季休暇中に執筆したレポートを発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに完成稿の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自のテーマ発表
2	グループでの検討①	学生間でのレポートの検討
3	グループでの検討②	学生間でのレポートの検討
4	レポート発表①	各自のレポートの発表と検討
5	レポート発表②	各自のレポートの発表と検討
6	レポート発表③	各自のレポートの発表と検討
7	レポート発表④	各自のレポートの発表と検討
8	レポート発表⑤	各自のレポートの発表と検討
9	レポート発表⑥	各自のレポートの発表と検討
10	レポート発表⑦	各自のレポートの発表と検討
11	レポート発表⑧	各自のレポートの発表と検討
12	2 年次以降の研究テーマの検討	2 年次以降の研究テーマの検討
13	専門演習の検討	専門演習の検討
14	レポートの総評	レポートの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人発表やレポートの加筆・修正のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

後期の成績評価の基準は次の通り。

- ①レポートの発表（30%）
 - ②レポート完成稿（7000 字以上）の提出（60%）
 - ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（10%）
- ①から③のいずれかが欠ければ単位は落第とする。出席や欠席、遅刻については前期と同様。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生より、個人研究の発表に後期は特化するので、自身の発表以外の回の参加意欲がやや低下するという意見があった。このことを考慮して、学生同士での検討時間を拡充しつつ、個人発表に対する質問・コメントなどを平常点として採点対象とすることとした。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはノートパソコンの準備をお願いする。

【その他の重要事項】

自分のレポートはもちろんのこと、参加者全員のレポートが充実するよう積極的なコメントをお願いします。特に、グループでの検討の際には、他の参加者のレポートの充実も図るよう心がけましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of latter seminar is completed report.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

兼子 諭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートの完成が後期演習の目的である。

【到達目標】

レポート（7000 字以上）の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

夏季休暇中に執筆したレポートを発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに完成稿の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自のレポートのテーマの発表
2	レポートのグループでの検討①	学生間でのレポートの検討
3	レポートのグループでの検討②	学生間でのレポートの検討
4	レポート発表①	各自のレポートの発表と検討
5	レポート発表②	各自のレポートの発表と検討
6	レポート発表③	各自のレポートの発表と検討
7	レポート発表④	各自のレポートの発表と検討
8	レポート発表⑤	各自のレポートの発表と検討
9	レポート発表⑥	各自のレポートの発表と検討
10	レポート発表⑦	各自のレポートの発表と検討
11	レポート発表⑧	各自のレポートの発表と検討
12	2 年次以降の研究テーマの検討	2 年次以降の研究テーマの検討
13	専門演習の検討	専門演習の検討
14	レポートの総評	レポートの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人発表やレポートの加筆・修正のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①レポートの発表（30%）
 - ②レポート完成稿（7000 字以上）の提出（60%）
 - ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（10%）
- ①から③のいずれかが欠ければ単位は落第とする。出席や欠席、遅刻については前期と同様。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究の発表に後期は特化するので、自身の発表以外の回の意欲がやや低下するという意見を頂いた。このことを考慮して、学生同士での検討時間を拡充しつつ、個人発表に対する質問・コメントなどを平常点として採点対象とすることとした。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはノートパソコンの準備をお願いする。

【その他の重要事項】

自分のレポートはもちろんのこと、参加者全員のレポートが充実するよう積極的な参加をお願いします。

【Outline and objectives】

The purpose of latter seminar is completed report.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山田 唐波里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生がそれぞれの問題関心を「研究」として具体化できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

それぞれの問題関心を探ることから始まり、それを学問的な「問い」として立て、その「問い」にアプローチするために必要な「資料収集」を行い、最終的に「論文（ゼミ論）」という形でまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の問題関心に沿った発表をもとにディスカッションを重ねることから内容を深めていく。それと並行して、「ゼミ論」を書くうえで必要となる基本的なスキルについては、適宜授業で取り上げる（ただし、授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明
2	「問い」を立ててみる	各自の研究テーマの報告
3	「問い」の立て方	先行研究の整理法の説明
4	「問い」を深める	先行研究の整理をふまえた「問い」の報告
5	ゼミ論の執筆に向けて	ゼミ論の書き方の説明
6	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
7	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
8	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
9	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
10	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
11	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
12	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
13	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
14	まとめ	ゼミ論の提出と授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終目標となる「ゼミ論」の完成に向けて、各自授業時間外に問題関心の探求、資料の収集、報告資料の作成、ゼミ論の執筆などが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）50%、レジュメ報告とゼミ論 50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to enable students to materialize their interests in the form of research.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

左古 輝人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学での学び方を知り、社会学を学ぶために必要な前提知識を用いて、社会問題への課題関心を形づくる

【到達目標】

文化・常識の多様性・相対性を理解する
仮説、検証、考察のサイクルを修得する
文献を探し、読み、理解する基本的なやり方を身につける
自分が学んだ事柄を他者に説明するやり方を身につける
他者の発表の聞き方を身につける
ディスカッションのやり方を身につける
自分の課題関心を明確化し、研究計画を策定、実行する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミナール形式。テキストを講読し、上記の到達目標を目指す。
90分のうち、最初の30分で発表。次の30分で質疑応答、補足。
最後の30分でグループディスカッションとまとめ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	進め方の説明	貧富格差問題への3通りの見解を学び、自分の課題関心に結びつける
2	橋木 前半	橋木が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
3	大竹 前半	大竹が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
4	佐藤 前半	佐藤が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
5	まとめとディスカッション	三者の一致点と対立点を確認する
6	橋木 中盤	橋木がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
7	大竹 中盤	大竹がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
8	佐藤 中盤	佐藤がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
9	まとめとディスカッション	三者の一致点と対立点を確認する
10	橋木 後半	橋木の提案を知り、それに対する意見を持つ
11	大竹 後半	大竹の提案を知り、それに対する意見を持つ
12	佐藤 後半	佐藤の提案を知り、それに対する意見を持つ

- | | | |
|----|--------------|---------------------------------------|
| 13 | まとめとディスカッション | 最終レポートの作成に向け、自分の意見を裏付ける学者の見解やデータを収集する |
| 14 | レポート返却と講評 | 提出されたレポートに対し、さらなる発展に向けたアドバイスを与える |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橘木『格差社会—何が問題なのか』岩波新書 2006 年
大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社 2005 年
佐藤俊樹『不平等社会日本 さよなら総中流』中公新書 2000 年

【参考書】

適宜指定する
ウェブリソースとしては、「東京経済オンライン」「現代ビジネス」
「荒木優太 (youtube)」、 「信州読書会の宮澤 (youtube)」を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

発表の質 30%、ディスカッションにおける発言の量と質 40%、提出物の質 30%。

【学生の意見等からの気づき】

運営の適切さを確認した。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、インターネットに接続された端末機（スマートフォン、タブレット、PC など）を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定しない。電子メールでの質問に答える。

【Outline and objectives】

Each student will construct his/her own academic problematics.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

島田 昭仁

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学の学び方、論文の書き方について基本的な能力をつけることを目標とします。

【到達目標】

社会科学系の論文構想ができること。文献調査及びフィールドワークが行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はフィールド調査の分析方法、中盤は理論研究・実践研究・創造研究・帰納法・演繹法などの論文の書き方、後半は各自の論文作成を想定した社会学的構想力について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワーク発表	夏合宿のふりかえり
2	フィールドワーク分析	夏合宿のふりかえり
3	フィールドワーク講評	レジュメ発表
4	論文の書き方『住民主権の都市計画』第 1 章	レジュメ発表
5	論文の書き方『住民主権の都市計画』第 2 章	レジュメ発表
6	論文の書き方『住民主権の都市計画』第 3 章	レジュメ発表
7	論文の書き方『住民主権の都市計画』第 4 章	レジュメ発表
8	論文構想発表	レジュメ発表（1 番から 4 番）
9	論文構想発表	レジュメ発表（5 番から 8 番）
10	論文構想発表	レジュメ発表（9 番から 12 番）
11	論文構想発表	レジュメ発表（13 番から 16 番）
12	プレゼン・シミュレーション	プレゼン（1 班から 3 班）
13	プレゼンシミュレーション	プレゼン（4 班から 6 班）
14	とりまとめ	各自発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『住民主権の都市計画』, 岩見・波多野・遠藤・島田・今西著, 自治体研究社, 2019年10月

【参考書】

参考書は授業内で配布します。

【成績評価の方法と基準】

以下、①平常点と②課題によって評価する。①平常点（50%）：レジュメ発表における要約能力、プレゼン能力を評価。②課題（50%）：最終回までに、各自が論文構想を A3×1 枚で整理し発表。評価の基準は、社会学的構想力（6 割）、誠実性（2 割）、公正性（1 割）、真理性（1 割）とする。

【学生の意見等からの気づき】

重要なことは繰り返して説明します。

【Outline and objectives】

It's learned about the manner of the learning and the attitude in the university (in particular, the social science system).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「調べる・整理する・構成する・発表する」ための技法を学び、大学の講義に支障のない能力を得ること。

【到達目標】

「調べる・整理する・構成する・発表する」ための技法を計画的かつ着実に実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「調べる・整理する・構成する・発表する」という課程を計画的に遂行することでその手順を理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	計画する 1	プレゼンテーション形式による発表のテーマを選定するための事前調査を行う。
2	計画する 2	発表を行うための作業計画を作成する。
3	計画する 3	作業計画の評価と計画の見直しのおえ、計画を決定する。
4	調べる 1	図書館等を用いて資料を集める。
5	調べる 2	インタビューやアンケートの基本的な技法について学ぶ。
6	調べる 3	インタビューやアンケートの結果について整理する技法を学ぶ。
7	整理する 1	資料を整理し、発表の内容を構成する。
8	構成する 1	発表の構成案の報告を行う。
9	制作する 1	構成案に沿って、各種資料をどのようにレイアウトするのか、コンテを作成する。
10	制作する 2	主として画像を発表に用いることができるように処理する技法について学ぶ。
11	制作する 3	コンテに沿って発表用資料の作成を行う。
12	制作する 4	コンテに沿って発表用資料の作成を行う。
13	発表する 1	編成された班のうち前半の班の発表を行う。報告の技法について実践する。
14	発表する 2	編成された班のうち後半の班の発表を行う。報告の技法について実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習中は方法の指導を中心とするため、課題は時間外学習として行うことが主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に用いない。演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

課題毎の評価 (33%)、提出物の評価 (33%)、平常点 (34%) で行う。ただしいずれかの項目が著しく悪い評価である場合には、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Learning skills to research, to consolidate, to organize and to write to achieve abilities to manage lectures in the university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ゼミでは、大学生生活、あるいはこれからの人生に必要な基礎的思考力を身に付けるために、さまざまな課題に取り組んでいきます。

【到達目標】

この演習の到達目標は、来年度以降、a) 専門科目（社会学科）での学習能力向上の基盤となる、b) 基本的な思考力やスキルを身につけてもらうことです。具体的には、主に、①資料・文献を集め、調査する力を身につける。②読書する力を身につける、③論理的に思考する力を身につける、④個人でテーマを設定する、⑤レジュメを作成し報告する力を身につける、⑥プレゼンテーションのしかたを経験する、⑦論文を書く、⑧研究倫理について理解を深めるです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

後期では「関心ある出来事・人物」に関する個人報告、ゼミ論文作成を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習内容の作業工程の説明・確認
第 2 回	個人発表：構想の提示	「関心ある出来事・人物」に関する研究構想提示
第 3 回	文献・資料調査方法	図書館での学習
第 4 回	大学の環境を知る	障がい者支援学習
第 5 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 6 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 7 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 8 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 9 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 10 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 11 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 12 回	論文を書く	論文作成概要と学習／執筆
第 13 回	論文を書く	論文執筆＋第一次原稿提出
第 14 回	論文を書く	添削原稿返却＋修正作業＋第 2 次提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成、資料収集など報告に向けた準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にはありません。使用する場合は適宜指示します。

【参考書】

特にはありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 点
課題点 50 点（報告、レジュメ等）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Everyone works on various problems to put on the basic thinking power necessary to a study life at the university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていく技術を身に付けていくなかで、今後、各自の抱く様々な問題関心にも対処できるような基礎的な土壌を作ることを目的とする。

【到達目標】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていく技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別に関心のあるテーマを検討・決定し、そのテーマを問いへの展開することからはじめる。その後、それぞれの問題関心（問い）に応じて資料を収集したり調査していきながら、研究を分析的に練り上げていく作業へと進んでいく。さらに、そうした作業の成果を、①全受講者の前での発表（プレゼン）、②それをふまえた「ゼミ論」の執筆という2つの異なる表現手段で報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スケジュールの確認
2	各自テーマの深化①	個人テーマの再検討
3	各自テーマの深化②	先行研究を整理する / 問いを明確化する
4	各自テーマの深化③	アウトラインを考える
5	各自テーマの深化④	ストーリーを練り上げる
6	プレゼン①	各自の調査報告
7	プレゼン②	各自の調査報告
8	プレゼン③	各自の調査報告
9	ゼミ論の書き方について	論文作成の作法と注意事項
10	個人テーマの再検討①	問いを明確化する
11	個人テーマの再検討②	節立てを考える
12	個人テーマの再検討③	提出直前チェック
13	ゼミ論提出	体裁の確認・校正
14	まとめ	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人のテーマにもとづき、文献の講読、資料の収集、プレゼン資料の作成、ゼミ論の作成等、必要に応じて、授業外活動が必要とされる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第2版）』（慶應義塾大学出版会、2012）そのほかの文献については、授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンに対する取り組み（50%）、ならびに、ゼミ論の執筆に至るプロセスおよびその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to acquire academic skills and develop critical thinking through doing some practical activities.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

鈴木 宗徳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学で自立的な研究ができるようになるための第一歩を踏み出す。

【到達目標】

1. 大学での学びに不可欠な、資料収集、テキスト読解、レジュメ作成、レポート・論文執筆、討論、共同研究、研究発表等の基本的なスキルを習得する。

2. 社会科学の幅広さと深さを知り、自分でテーマを選び、自分で研究を進められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

大学における勉強は、自分でテーマを選び、自分で研究し、自分でその成果を発表しなければなりません。膨大な資料やデータ、そして先行研究からなる“知の大海”の中で無事に泳ぎまわることが並大抵のことではありませんが、努力すればそれだけ達成感が得られます。

基礎演習では、研究に必要な学びのスキルを習得するとともに、共同作業を通じて大学生活をスムーズにスタートできるよう手助けをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	半年間の課題説明
2	ゼミ論中間報告	個人研究発表
3	ゼミ論中間報告	個人研究発表
4	ゼミ論中間報告	個人研究発表
5	ゼミ論中間報告	個人研究発表
6	ゼミ論中間報告	個人研究発表
7	ゼミ論中間報告	個人研究発表
8	ゼミ論中間報告	個人研究発表
9	共同研究の準備	課題設定・グループ分け
10	共同研究の準備	グループごとに準備
11	共同研究の準備	グループごとに準備
12	共同研究の準備	グループごとに準備
13	共同研究発表	パワーポイントを使って発表
14	共同研究発表	パワーポイントを使って発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. たくさん文献を紹介するので、まめに図書館や書店に足を運び、本の内容を確認するようにしてください。まずはたくさん読むことが重要です。

2. 分かりやすく書くこと、分かりやすく説明することは、意外に難しいものです。「自分は日本語ができる」という思い込みを捨てて、真摯に課題と向き合ってください。

3. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

ゼミ論執筆と共同研究発表の参考になる文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメの内容（30%）、ゼミ論の内容（40%）、議論への参加姿勢など平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

- ゼミは「自分が勉強する場」であるとともに、「ほかの学生に勉強させる場」でもあります。議論に参加しない、つまり他の学生に知的刺激を与えられない場合は、評価が低くなります。
- 「学問に敬意を払うこと」を絶対に忘れないでください。「剽窃」は先行研究に敬意を払っていないものとして、厳しく対処します。
- 無断欠席および無断遅刻は絶対に認めません。このルールを一回破るごとに、成績評価を一段階ずつ下げます（S→A +、A + →A、A→A - …）。
- ゼミは何よりもチームワークが大事です。積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic research skills.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎演習Ⅰ」に続く本演習では、自ら問題を設定し、調べ、考察するという過程を通じて、各々の関心を醸成し、2年以降の専門学習へ向けて準備する。

【到達目標】

- ・自ら問いを立て、それに沿って文献にあたり、考察を深めることができる。
- ・図書館やインターネットを効果的に使い、正しく調べる方法を身につける。
- ・レジュメを作成し、必要に応じてパワーポイント等を利用してしながら、プレゼンテーションの仕方を習得する。
- ・一定量の文章を書き、学期末には課題論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために、授業内外の各自の学習とグループワークを通じて、授業計画で列挙する課題に取り組んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	個人課題とグループ発表の進行について説明
第2回	グループ研究の説明	グループ研究の課題について説明
第3回	グループ研究（1）	グループ研究の課題へ向けた準備（テーマの検討、問題点、関連文献の調査）
第4回	グループ研究（2）	グループディスカッション、発表の準備
第5回	グループ研究（3）	レジュメ、パワーポイントの作成とチェック
第6回	グループ発表（1）	担当グループの報告と全体討議
第7回	グループ発表（2）	担当グループの報告と全体討議
第8回	グループ発表（3）	担当グループの報告と全体討議
第9回	グループ発表（4）	担当グループの報告と全体討議
第10回	ゼミ論文へ向けて	ゼミ論文（個人課題）の作成における確認と注意（研究倫理に関する理解と注の付け方等）
第11回	ゼミ論文報告（1）	個人課題に関する検討、発表
第12回	ゼミ論文報告（2）	個人課題に関する検討、発表
第13回	ゼミ論文提出	個人課題の成果をまとめ、提出
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人課題とグループ発表に関わる文献・資料の収集ならびに講読、レジュメの作成やゼミ論文の執筆などがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題（発表、ゼミ論文等） 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で学ぶこと」の意味を理解し、そのために必要な基礎的な知識やスキル、作法を身につけること。

【到達目標】

次年度以降のより専門的な研究を見据えて、
①受講生自身の関心から「学問的な問い」を立てる
②先行研究を収集・整理・検討する
③実際に必要なデータを集めて分析する
以上のプロセスを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主に個人の研究報告とそれにもとづくディスカッションを中心に進めていく。期末課題では、その成果をまとめた「研究ノート」を執筆する。ただし、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。なお、秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の概要説明
2	「問い」を立てる（1）	各自の研究テーマおよび問題関心の報告と共有
3	「問い」を立てる（2）	「論文」の基本的な構成を理解し、「学問的な問い」の条件を学ぶ
4	資料・先行研究を探す	資料および先行研究の収集にかんするレクチャー
5	研究ノートの執筆に向けて	中間報告および期末課題にかんする説明
6	中間報告Ⅰ（1）	各自の進捗状況の報告と検討
7	中間報告Ⅰ（2）	各自の進捗状況の報告と検討
8	中間報告Ⅰ（3）	各自の進捗状況の報告と検討
9	中間報告Ⅰ（4）	各自の進捗状況の報告と検討
10	中間報告Ⅱ（1）	各自の進捗状況の報告と検討
11	中間報告Ⅱ（2）	各自の進捗状況の報告と検討
12	中間報告Ⅱ（3）	各自の進捗状況の報告と検討
13	中間報告Ⅱ（4）	各自の進捗状況の報告と検討
14	まとめ	演習Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間報告の担当者は、報告用のペーパーを始業時刻までに印刷・配布し、授業開始と同時に報告が始められるよう準備しておくこと。また、期末課題となる「研究ノート」の執筆に向けて、各自で必要な資料を収集し、先行研究を読み込むこと。

以上を含めた本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。
刈谷剛彦、2002、『知的複眼思考法——誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。

【成績評価の方法と基準】

・報告や発言などの演習への参加（60%）
・期末課題：研究ノート（40%）

注1）本演習で評価対象となるのは、演習への「参加」であって「出席」ではありません。

注2）演習における 2 回の中間報告と期末課題の提出は成績評価の必須条件とし、いずれか一方が欠けた場合は落第とします。

注3）忌引などの止むをえない場合を除き、事前に連絡のない無断欠席や正当な理由のない欠席については累計 3 回、病欠も併せて累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に合わせて、いくつかの小課題や目標を設定するなど、受講生が研究のプロセスをよりよく体感できるような工夫をこらします。

【学生が準備すべき機器他】

授業に持ち込む必要はありませんが、中間報告におけるレジュメの作成や期末課題の執筆・提出は、すべて PC で行います。

【その他の重要事項】

止むをえない理由で授業に遅刻・欠席する場合には、必ず理由を添えて事前に担当教員まで連絡してください。また、学生からの質問や相談は、適宜受け付けます。

【Outline and objectives】

This course introduces basic knowledge, skills and manners necessary for academic research to student taking this course.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【その他の重要事項】

ゼミは参加が基本です。
3 回以上欠席した場合は単位を認めません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in their university studies.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていくスキルを身につける。

【到達目標】

自分の考えを他人に説得的に伝えるためのスキルを身につける。先行研究を整理し、「問い」と「課題」を明確にする力をつける。それらを言語化し、的確に表現（文章を書けるように）できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
ゼミへの参加とは別に研究ノートの作成・提出を課題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方と研究ノートのついて
第 2 回	テーマ発表	各自の研究テーマの発表と検討
第 3 回	研究ノートの作成 (1)	テーマを再考する
第 4 回	研究ノートの作成 (2)	先行研究の検討と情報収集
第 5 回	研究ノートの作成 (3)	先行研究の検討と情報収集
第 6 回	研究ノートの作成 (4)	アウトラインの作成
第 7 回	中間報告 (1)	進捗状況の報告
第 8 回	中間報告 (2)	進捗状況の報告
第 9 回	研究ノートの作成 (5)	研究ノートの執筆
第 10 回	研究ノートの作成 (6)	研究ノートの執筆
第 11 回	研究ノートの作成 (7)	研究ノートの執筆
第 12 回	研究発表 (1)	パワーポイントによるプレゼン
第 13 回	研究発表 (2)	パワーポイントによるプレゼン
第 14 回	まとめ	課題の返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマ発表、中間報告および研究発表の準備。
研究ノートを作成・提出する。
授業の準備および研究ノートの作成は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・研究ノート（50 %）
- ・中間報告（15 %）
- ・研究発表（15 %）
- ・ゼミへの参加（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で社会学を学ぶために必要な能力とスキルを身につけること、基礎演習Ⅰで学んだことをふまえつつ、学生が自分でレポートを書き、プレゼンテーションを行うことを通じて、個人で研究を進めていくことができるようになることを目的とする。

【到達目標】

大学のゼミにおいて自ら問いを設定し、研究を進めていくための基本的な能力・スキルを習得すること。より具体的には以下の4点となる。

- 1) 個人の関心に応じて文献やデータを自ら収集して内容を理解できるようにすること。
- 2) 先行研究を批判的に読みつつ課題を発見し、自分のテーマを設定しそれに回答できるようにすること。
- 3) 第三者に対して自分の研究内容やその意義について、プレゼンテーションを通じて伝えることができるようになること。
- 4) 研究倫理についての基本的な理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献やデータの検索、専門書・論文の読解、レポートの作成、ゼミでの報告とディスカッションの方法等について学ぶ。基礎演習Ⅰの内容を復習しつつ、学生が自分自身のテーマに即して文献やデータの収集方法を学ぶ。その上で報告とディスカッション、報告に対する学生同士の相互評価が中心となる。自分の報告に関する自己評価表、および他の学生の報告に対する評価表を毎回提出してもらい、共有する。それらの積み重ねを通して自分自身の報告の仕方を改善するとともに、成長の過程を実感してもらう。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	概要とスケジュール、各自の報告の評価方法の説明
2	研究テーマの紹介 (1)	各自によるゼミ論研究テーマの紹介の前半
3	研究テーマの紹介 (2)	各自によるゼミ論研究テーマの紹介の後半
4	先行研究と問題設定	先行研究のレビューと問いの設定の仕方について具体的な事例をもとに考える。
5	研究方法と対象、研究をめぐる倫理	研究方法と対象の設定、また研究をめぐる倫理について具体的な事例を元に考える。
6	ゼミ論の問題設定・研究レビューの検討 (1)	各自によるゼミ論の問題設定・研究レビューの検討（学籍番号順に若い方から 1/3 が報告）
7	ゼミ論の問題設定・研究レビューの検討 (2)	各自によるゼミ論の問題設定・研究レビューの検討（学籍番号順に真ん中 1/3 が報告）

8	ゼミ論の問題設定・研究レビューの検討 (3)	各自によるゼミ論の問題設定・研究レビューの検討（学籍番号順に最後の 1/3 が報告）
9	ゼミ論の中間経過報告 (1)	各自によるゼミ論の進行状況についての経過報告（学籍番号順に若い方から 1/3 が報告）
10	ゼミ論の中間経過報告 (2)	各自によるゼミ論の進行状況についての経過報告（学籍番号順に真ん中 1/3 が報告）
11	ゼミ論の中間経過報告 (3)	各自によるゼミ論の進行状況についての経過報告（学籍番号順に最後の 1/3 が報告）
12	ゼミ論の最終報告 (1)	各自がまとめたゼミ論の最終的な内容を報告学籍番号順に若い方から 1/3 が報告）
13	ゼミ論の最終報告 (2)	各自がまとめたゼミ論の最終的な内容を報告（学籍番号順に真ん中 1/3 が報告）
14	ゼミ論の最終報告 (3)	各自がまとめたゼミ論の最終的な内容を報告（学籍番号順に最後の 1/3 が報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人での課題に沿った文献・資料収集、レジュメおよびプレゼンテーション、ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業への積極的な参加度を通じた平常点評価（20点）。
- ・第2回・3回・6回～14回までの個人の報告に基づく評価（50点）。
- ・第2回・3回・6回～14回の自己評価表・他者評価表の提出による評価（30点）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当するため、特になし。

【Outline and objectives】

It is the purpose of this class for students to acquire abilities and skills necessary to study sociology by themselves at this university. They need to write reports and make presentation to develop their ability of conducting research on their own.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、これから大学で学習するために必要な「調べる・発表する・議論する」ことに関する基本スキルおよび研究方法の基本を修得することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、次の 2 点に到達することを目標とします。

- 1) 企業等の事例を調査し調査結果を正しく報告するとともに、自分の意見を説得的に発表できる。
- 2) 事実や他者の意見を踏まえて、自分の意見を論理的に表明し議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で実施します。受講生は、積極的に発言するなど能動的に授業に参加する必要があります。また、一定数を越えて欠席した場合には単位を取得できません。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず出席してください。なお、授業の進捗状況に応じて、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期のオリエンテーション
第 2 回	ケース・スタディ①	研究計画
第 3 回	ケース・スタディ②	1 次資料と 2 次資料の調査
第 4 回	ケース・スタディ③	調査結果をまとめる
第 5 回	ケース・スタディ④	調査結果を分析する
第 6 回	ケース・スタディ⑤	レポートの執筆
第 7 回	プレゼンテーション①	発表の作法
第 8 回	プレゼンテーション②	ケース・スタディの個人発表とディスカッション
第 9 回	プレゼンテーション③	ケース・スタディの個人発表とディスカッション
第 10 回	グループワーク①	研究計画と調査
第 11 回	グループワーク②	調査と分析
第 12 回	グループワーク③	分析と発表準備
第 13 回	グループワーク④	最終発表とディスカッション①
第 14 回	グループワーク⑤	最終発表とディスカッション②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%、期末レポート：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、連絡します。

【Outline and objectives】

The aim of this course to help student acquire the skills and knowledge necessary for learning at university based on previous course in spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Case study
- 2)Presentation
- 3)Discussion

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基礎演習Ⅰの修了を経て、基礎的な研究調査能力を向上させ、身につけることを目的とします。到達点として専門的要素を組み込んだ小論文を執筆します。

【到達目標】

専門的な思考力を向上させ、問題関心の醸成と問いの立案手法を修得します。プレゼンテーションとディスカッション力の向上、小論文の執筆により、専門演習につなげる研究調査能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、レジュメ作成と発表・討議、意見交換する方式で実施します。論文執筆に向けて適宜、論文構想発表を行い、論文執筆に向けて作業を進めていきます。授業計画は進行状況等によって若干の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休みの報告と研究テーマの意見交換	夏休みの結果を発表します。研究テーマに関して意見交換します。
2	文献講読と発表、討論(1)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
3	文献講読と発表、討論(2)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
4	文献講読と発表、討論(3)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
5	論文のテーマ等の絞り込みと発表	執筆するゼミ論文のテーマについて発表し、意見交換を行います。
6	ゼミ論文構想の発表(1)	各自のゼミ論文の構想を発表し、意見交換します。
7	文献講読と発表、討論(4)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
8	論文執筆の書式・技法の修得	論文に関する情報収集や文献リストの記載、論文書式等を学びます。
9	文献講読と発表、討論(5)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
10	ゼミ論文構想の発表(2)	各自のゼミ論文の構想を発表し、意見交換します。
11	関連文献レビューと調査結果の発表	論文テーマに関する関連文献の報告と調査結果を報告します。
13	文献講読と発表、討論(6)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
13	ゼミ論文構想の発表(3)	レジュメにより論文構想の概要を発表します。
14	論文の提出とまとめ	ゼミ論文を完成します。基礎演習 1 年間の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、レジュメ等の作成、論文構想の準備、基礎調査の実施、論文執筆等の学習が必要になります。発表等に間に合うよう前日までに作業を完了するなど、計画的に授業準備を進める必要があります。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>

・授業参加（平常点）：30%、討論：20%、課題提出：20%、論文：30%
<評価基準>

・授業参加は、出席した上で積極的な学習と発言することを評価します。満点を 40% (点) とし、欠席 (遅刻 2 回で欠席 1 回分) した場合は減点します。欠席の多い (2 割以上) 受講態度は成績評価の対象外とします。

・討論は、文献発表やレジュメ発表への積極的な参加について満点 20% (点) で評価します。課題提出は、講読シートの提出などについて満点 20% (点) で評価します。

・論文は満点 30 % (点) として、論文書式、引用文献表記の仕方、調査内容、文章表現、論理性などをポイントに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読と発表、討論は「講読シート」を用いて行います。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への連絡は電子メールを基本に行います。メールを随時チェックできるような通信環境を設定します。

【その他の重要事項】

授業は、毎回の出席と授業への参加が原則です。出席することはもちろん、質問・意見を求められたときに積極的に発表すること、他の人の意見をしっかりと聞いて意見を述べる必要があります。

【Outline and objectives】

The aim of Basic Seminar II is to help students improve the basic research skills and knowledge in their university studies, and write essays combining specialized elements.

BSP100EA

基礎演習 II

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広い社会現象の中から時事問題を入りに、自らの問題関心に基づくテーマを見つけ出し、それに対する「解」の可能性を考えて、小論文やプレゼンテーションを通じて「人に伝える」ことを学ぶ。

【到達目標】

- ・自分で研究テーマを見出すこと
- ・立てた問題への「解」を学んだ調査技術を駆使して考え抜くこと
- ・パワーポイントを利用したプレゼンテーションを行うこと
- ・小論文を書くこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は、受講生の課題設定や自ら「解」を見出していくためのプロセスで、グループ討議を取り入れ、他者との議論を通じた「解」のブラッシュアップをめざします。

後半は、小論文の書き方やプレゼンテーション技法の基礎を学んだ上で、終盤にこれらを利用して「人に伝えること」を実践する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期のレポート検証と秋学期の進め方の説明
第 2 回	個人課題の発表	各自が秋学期に扱う課題案と問題認識を発表する
第 3 回	課題についての討議 －グループワーク	グループに分かれてそれぞれの問題認識について県交換する
第 4 回	小論文の書き方	小論文をまとめる際の基本的事項解説と小論文提出の指示
第 5 回	解決案の検討（1） －グループワーク	各自が考えた課題解決案について、グループに報告し、討議する
第 6 回	解決案の検討（2） －グループワーク	各自が考えた課題解決案について、グループに報告し、討議する
第 7 回	解決案の検討（3） －グループワーク	各自が考えた課題解決案について、グループに報告し、討議する
第 8 回	プレゼンテーションの技法	パワーポイントを用いたプレゼンテーション方法について解説
第 9 回	プレゼンテーションの実践（1）	各自の問題提起とその「解」について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う
第 10 回	プレゼンテーションの実践（2）	各自の問題提起とその「解」について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う
第 11 回	プレゼンテーションの実践（3）	各自の問題提起とその「解」について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う
第 12 回	プレゼンテーションの実践（4）	各自の問題提起とその「解」について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う

- 第13回 プレゼンテーションの 各自の問題提起とその「解」につ
実践 (5) いて、パワーポイントを用いてプ
レゼンテーションを行う
- 第14回 作業の振り返りと総括 1年間に学んだ技術の振り返りと
総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
プレゼンテーション及び小論文の作成に向け、文献やインターネット
を利用した調査を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、プレゼンテーション（30%）、小論文
（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Starting from current affairs issues, students will discover
their themes based on their own interests from the wide range
of social phenomena. Then work on finding solution of their
problems with the research skills they've got. At last will learn
to "telling others" by essays and presentations.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

津田 正太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅰに引き続き、大学で学ぶための基本的なスキルや知識を学ぶ。

【到達目標】

社会学部の学生として求められる基本的な学習・研究スキルを修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者同士での話し合いやグループ単位での調査を実施する。また、基礎的
な文献の輪読を通じてレジュメの作成法や文献の読み方についても学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	リサーチの進め方につ て	リサーチスキル
第2回	グループ研究のテーマ決 め	グループ研究
第3回	文献輪読『メディア社会 論』第1章、第2章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第4回	研究中間発表(1)	グループ研究
第5回	研究中間発表(2)	グループ研究
第6回	文献輪読『メディア社会 論』第3章、第4章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第7回	文献輪読『メディア社会 論』第5章、第6章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第8回	2年生以降の進路につ いて考える	大学での学び
第9回	研究中間発表(3)	グループ研究
第10回	研究中間発表(4)	基礎知識習得およびレジュメ作成
第11回	文献輪読『メディア社会 論』第7章、第8章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第12回	文献輪読『メディア社会 論』第9章、第10章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第13回	研究最終発表(1)	グループ研究
第14回	研究最終発表(2)	グループ研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読の準備やレジュメの作成、グループ研究に関しては演習の時間外に行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾編（2018）『メディア社会論』有斐閣。

【参考書】

参考書については適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個人研究の完成度、授業への参加度などに応じて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生の主体的な参加を可能にする授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや最終レポートの作成にあたってはPCの利用が必須である。

【Outline and objectives】

Following the Basic Seminar I, the purpose of this seminar is to help
students learn basic skills for studying at university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この演習は論文を執筆し、完成させることを目的とする。

【到達目標】

学術的なフォーマットに即した論文を執筆することができるようになる。

- ①適切な問いを立てることができる。
- ②適切な論証構成ができる。
- ③適切な文章が書ける。
- ④適切な引用・参照ができる。
- ⑤適切な文献・資料リストを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

自分の問題意識にもとづく論文の構想を発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに提出稿の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自の論文のテーマを発表する
2	グループでの検討①	グループでおたがいの論文について議論する
3	グループでの検討②	グループでおたがいの論文について議論する
4	グループでの検討③	グループでおたがいの論文について議論する
5	グループでの検討④	グループでおたがいの論文について議論する
6	レポート発表①	各自の論文内容を発表して全員で検討する
7	レポート発表②	各自の論文内容を発表して全員で検討する
8	レポート発表③	各自の論文内容を発表して全員で検討する
9	レポート発表④	各自の論文内容を発表して全員で検討する
10	レポート発表⑤	各自の論文内容を発表して全員で検討する
11	レポート発表⑥	各自の論文内容を発表して全員で検討する
12	専門演習のガイダンス	専門演習についてガイダンスを行う
13	レポートの執筆概要の確認	レポートの執筆概要について全体で再度確認する
14	レポートの総評	レポートの総評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。個人発表や、論文の加筆・修正のための準備が必要となる。また授業でのフィードバックにもとづく復習も必要となる。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次の通り。

- ①論文の発表（30 %）
 - ②論文完成稿の提出（60 %）
 - ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（10 %）
- ①から③のいずれかが欠ければ単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、とくにない。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分用のノートパソコンを準備するのが望ましい。

【その他の重要事項】

自分の論文はもちろんのこと、参加者全員の論文が充実するよう積極的なコメントをお願いします。特に、グループでの検討の際には、他の参加者の論文の充実も図るよう心がけましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar II is to write and complete your article.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

宮下 阿子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学で研究活動に取り組むうえで必要となる基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 問いを立ち上げる・掘り下げる力、最終的に文章にまとめる力を養う。
- 2) ゼミ論を作成するための基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究報告とディスカッションを中心に進める。授業を通して、1) 2) を習得する機会を提供する。

(なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	ゼミ論の作成に向けて	ゼミ論の作成方法の説明
第3回	研究テーマの設定	各自の研究テーマの発表+検討
第4回	文献・資料の収集	各自の作業+個別相談
第5回	中間報告 1-①	各自の研究報告+検討
第6回	中間報告 1-②	各自の研究報告+検討
第7回	中間報告 1-③	各自の研究報告+検討
第8回	今後の作業に向けて	各自の課題の確認+個別相談
第9回	中間報告 2-①	各自の研究報告+検討
第10回	中間報告 2-②	各自の研究報告+検討
第11回	中間報告 2-③	各自の研究報告+検討
第12回	中間報告 2-④	各自の研究報告+検討
第13回	ゼミ論の提出	第1稿の提出
第14回	まとめ	第1稿の返却+研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の問題関心に沿って、日頃から情報収集をしておくこと。また、研究報告やゼミ論の提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表、発言、参加姿勢など）
課題点 50%（ゼミ論の内容）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

中村 尚樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の演習で得た知識を前提に、参加者は自ら問題を設定し、ひとつのテーマに関する体系的な論文をまとめる。これにより、偏った知識と独断的な思考ではなく、幅広い知識に裏打ちされた、独創的な思考力の習得を目的とする。

【到達目標】

- 1) 適切な論文テーマを設定できる。
- 2) 文献や資料を的確に検索し、利用できる。
- 3) 自分なりの問題意識について発表し、他者との議論を通じて理解を深めることができる。
- 4) 論理的で独創的な論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期で学んだ内容を展開し、まずグループでそれぞれのテーマを設定して発表する。次に、モビリティの進化を踏まえた、これからの社会展望を下敷きにしなが、各自がレジュメを作成して構想を発表し、参加者の意見を聞く。これを踏まえ、最終的に論文を作成する。なお授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマ設定	自分のテーマを設定する。
第2回	グループ発表「シェアリング」	テーマを掘り下げ、または拡大して報告する。
第3回	グループ発表「サブスク립ション」	テーマを掘り下げ、または拡大して報告する。
第4回	グループ発表「MaaSアプリ」	テーマを掘り下げ、または拡大して報告する。
第5回	グループ発表「規制と革新」	テーマを掘り下げ、または拡大して報告する。
第6回	グループ発表「スマートシティ」	テーマを掘り下げ、または拡大して報告する。
第7回	グループ発表「ビヨンドMaaS」	テーマを掘り下げ、または拡大して報告する。
第8回	個別論文構想発表「シェアリング」他	各自の構想発表と検討。
第9回	個別論文構想発表「サブスク립ション」他	各自の構想発表と検討。
第10回	個別論文構想発表「MaaSアプリ」他	各自の構想発表と検討。
第11回	発表論文構想発表「規制と革新」他	各自の構想発表と検討。
第12回	個別論文構想発表「スマートシティ」他	各自の構想発表と検討。
第13回	個別論文構想発表「ビヨンドMaaS」他	各自の構想発表と検討。
第14回	論文提出・全体講評	講評とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。春学期の学習内容を踏まえ、夏季休業期間中に関連書籍を検索、読了しておくこと。グループ発表、個別論文構想発表ではレジュメを用意すること。

【テキスト（教科書）】

中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすい MaaS & CASE』（2020年4月、プレジデント社）

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

グループ発表 20点、個別論文構想発表 20点
ゼミ活動への取り組み 20点、個別論文 40点

【学生の意見等からの気づき】

前年度の担当がないため、該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

参考文献等でPDF資料配布の場合には、「授業支援システム」を利用する。

報告担当者は事前にリソグラフでレジュメを人数分コピーすること。

【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline and objectives】

Participants set their own questions and compile a systematic paper on a subject. This aims to acquire a creative thinking ability backed by broad knowledge, not biased knowledge and dogmatic thinking.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

南雲 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な方法、技術の習得（レジュメの書き方、発表の仕方、ディベートの進め方）を目標にします。なお、1年を通して「情報操作」や「疑似科学」などを主なテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・レジュメを一人で完成させる。
- ・ある社会的なテーマについて、冷静に議論ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期には、ディベート（討論）を中心に演習を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教材鑑賞	視聴覚教材の視聴を行います。
2	教科書の輪読1	第2教科書の輪読と討論を行います。
3	教科書の輪読2	第2教科書の輪読と討論を行います。
4	教科書の輪読3	第2教科書の輪読と討論を行います。
5	教科書の輪読4	第2教科書の輪読と討論を行います。
6	教科書の輪読5	第2教科書の輪読と討論を行います。
7	教材鑑賞	視聴覚教材の鑑賞を行います。
8	ディベートの準備	ディベートのテーマの設定と班分けなどを行います。
9	第1回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
10	第2回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
11	第3回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
12	第4回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
13	教材鑑賞	秋学期に学んだテーマに関連した視聴覚教材を視聴します。
14	ディベートの総括	ディベートの総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生たちはテキストの予習を行います。また、ディベートの際は必ずグループごとに担当するテーマについて集団で下調べを行い、共同でレジュメを作成します。なお、テキストなどの予習と、班ごとの議論は最低でも3時間は必要です。

【テキスト（教科書）】

秋学期最初の日に指示します。左巻健男『学校に入り込むニセ科学』（平凡社新書）。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

S = 毎回のレジュメ報告、小レポートなどを必ず提出し、かつ集団学習における協調性がきわめて優秀と認められる、A+ = 毎回のレジュメ、小レポートなどを必ず 100 % 提出し、かつ平常点の演習における態度がきわめて優秀かつ集団学習の態度が優秀、A = 毎回の課題・レポートなどを必ず提出し平常の態度が優秀、B = 課題・レポートなどを 80 % 以上提出し平常点が普通、C = 課題を 60 % 以上提出し平常点が普通。

(レジュメ報告、小レポートは 50 %、集団学習の態度は 50 %)

なお、無断欠席が多い場合は不合格になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートの議論に際して、必要なレジュメの書き方や、報告・討論の仕方を指示します。また、グループごとに必要な場合援助に入ります。

【Outline and objectives】

learning collective presentation and debating

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

古川 早苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでは、問題を与えられそれに答えていくというスタイルに慣れてきたのではないだろうか。しかし、大学では問題も自分で探すものであり設定していくものである。自分の設定した問題について自分自身で追求・探求していくための「基礎体力」を養うことが本演習の目的である。

【到達目標】

この演習を通じて、聞く・話す・読む・書く・調べる、そして何より考えることが、少しでも億劫でなくなり、面白く興味深いと感じられるようになることを目指す。と同時に、人間事象や社会事象についての視野や興味が柔軟さを持って広がっていくことが期待される。秋学期はこれらの目標をゼミ論の作成を通じて行ってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期に学んだことを生かしながら、ゼミ論執筆に向けた各自の報告（プレゼンテーション）を中心に進めていく。問題が与えられるものではなく自分で設定し自分で答えを求め与えていくものであるという過程を、ゼミ論作成の作業を通じて経験してもらうことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	次回からの発表方法について	次回からの発表方法について具体的な説明／ゼミ論作成の意味・意義について再確認する
第 2 回	ゼミ論の構想発表 (1)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 3 回	ゼミ論の構想発表 (2)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 4 回	ゼミ論の構想発表 (3)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 5 回	ゼミ論の構想発表 (4)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 6 回	ゼミ論の構想発表 (5)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 7 回	ゼミ論の構想発表 (6)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 8 回	ゼミ論の構想発表 (7)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 9 回	ゼミ論の構想発表 (8)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 10 回	ゼミ論の構想発表 (9)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 11 回	ゼミ論の構想発表 (10)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表 → 皆で検討
第 12 回	ゼミ論の構想発表 (11)	再報告を要するゼミ生からの報告 → 検討
第 13 回	ゼミ論執筆に関する注意	ゼミ論執筆、提出に関する具体的な注意点を再確認する
第 14 回	ゼミ論提出	ゼミ論提出／各自のゼミ論内容を口頭で報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の報告時以外にもゼミ論作成に向けた作業を継続しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論 (60%)、ゼミ論構想発表 (20%)、平常点 (20%) で行う。

【学生の意見等からの気づき】

教員への質問や相談がある場合、先延ばしにさせないようにしたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this exercise is to cultivate intellectual "basic physical strength" to explore the problems that you set yourself.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

古澤 聡司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「基礎演習Ⅰ」を学んだ学生を対象とした大学での勉強の仕方や技術を身に付けてもらう科目です。一人ひとりがテーマを設定して、必要な文献を探し読み、仲間の意見にも耳を傾け、自分なりの答えを導き出していきます。

【到達目標】

自分なりの考えをゼミ論文としてまとめあげることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「基礎演習Ⅰ」で学んだ演習での報告の仕方、レジュメの書き方、資料収集の方法、討論の仕方を踏まえ、ゼミ論文をまとめあげていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の授業計画。
第 2 回	ゼミ論文の執筆指導（その1）	個別指導。
第 3 回	ゼミ論文の執筆指導（その2）	個別指導。
第 4 回	ゼミ論文の執筆指導（その3）	個別指導。
第 5 回	ゼミ論文の執筆指導（その4）	個別指導。
第 6 回	ゼミ論文中間報告会	個別発表。
第 7 回	ゼミ論文中間報告会	個別発表。
第 8 回	ゼミ論文中間報告会	個別発表。
第 9 回	ゼミ論文中間報告会	個別発表。
第 10 回	ゼミ論文の執筆指導（その5）	個別指導。
第 11 回	ゼミ論文の執筆指導（その6）	個別指導。
第 12 回	ゼミ論文の執筆指導（その7）	個別指導。
第 13 回	ゼミ論文の執筆指導（その8）	個別指導。
第 14 回	ゼミ論文提出	秋学期の反省会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で設定したテーマに関する文献の講読は各自、事前学習しておくこととする。レポート役を担当する個人は、事前にレジュメの作成を必須とする。なお、準備学習・復習時間の目安は、各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発言、報告の仕方、レジュメの書き方、討論の仕方、ゼミ論文の提出など平常点を50%、ゼミ論文の内容評価を50%で、合計点を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業が学生との相互作用の過程であることをいつもながら思い知らされる。

【Outline and objectives】

The final goal in this class is to write out an article in Japanese.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

本田 親史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

若干概念性の高い論考を通じ専門的な勉強に入る前の教養力をつける。

【到達目標】

1) 概念、専門用語を自ら調べて内容を深めながら批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける—の2点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グローバル化と同時進行する英語中心主義を再検討する論考と一緒に精読していきます。毎回班ごとにレジュメ提出、プレゼンをしてもらい最後にレポートを提出していただきます。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロ	秋学期の授業の進め方
第 2 回	第一章	「アイオワの空の下で」
第 3 回	第二章 (1)	「バリでの報告」1
第 4 回	第二章 (2)	「バリでの報告」2
第 5 回	第三章 (1)	「外の言葉で書く人々」1
第 6 回	第三章 (2)	「外の言葉で書く人々」2
第 7 回	第四章 (1)	「国語の誕生」1
第 8 回	第四章 (2)	「国語の誕生」2
第 9 回	第五章	「近代文学の軌跡」
第 10 回	障害者支援の体験学習	ノートテイク実践など
第 11 回	第六章	「IT 時代の英語と国語」
第 12 回	第七章	「英語教育と日本語教育」
第 13 回	秋学期まとめ (1)	秋学期レポート作成解説
第 14 回	秋学期まとめ (2)	レポート提出・後期講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) 発表当番班は発表箇所のレジュメを前日までに完成させ、印刷も済ませておく（当日朝はコピー機が混雑します）2) 授業時間の後半は必ずディスカッションに充てるので、発表当番班はその構想も準備する 3) 発表班以外も全員授業で進む箇所を事前に読んでおくこと。突如当てる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水村美苗,2015,「増補 日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で」,ちくま文庫,ISBN978-4-480-43266-7

【参考書】

国語辞典は常に持参してください

【成績評価の方法と基準】

・平常点 50%+レポート 50%。平常点とは出席状況に加え、プレゼンテーション能力および討論への参加度を総合的に加味したものを指す。

【学生の意見等からの気づき】

・発表当番班以外の受講者がテキストを読んでこないという指摘があります。全員きちんと授業範囲を読んでおくこと。

【その他の重要事項】

・使用書籍の購入については授業中の指示に従ってください。

【Outline and objectives】

This course deals with more fundamental concepts on social sciences through basic readings and discussions.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

松下 峻也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【Outline and objectives】

In this class, students learn skills and manners necessary for academic research.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「大学で学ぶ」ために必要な技能と作法を取得します。具体的には、学術書を読む力、みずから問いを立てる力、史資料を調べる力、その成果を報告し、他者と議論する力を、学生が身につけることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、みずからが立てた問いにもとづいて、史資料の調査、分析、考察をおこない、その内容についてディスカッションをおこないます。学生が、各自の研究成果を他者にたいして報告／他者とともに議論し、論文を執筆することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員によるレクチャーをくわえながら、学生による研究内容の報告とディスカッションを中心に進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	基礎演習Ⅰのふりかえりと、本科目の概要と目的の解説
2	問いを立てる①	研究計画の「立てかた」のレクチャー
3	問いを立てる②	学生による問題関心の報告
4	史資料に触れる①	図書館の「使いかた」のレクチャー
5	史資料に触れる②	学内のアーカイヴ施設の見学
6	中間報告①	研究経過の報告とディスカッション
7	中間報告②	研究経過の報告とディスカッション
8	中間報告③	研究経過の報告とディスカッション
9	中間報告④	研究経過の報告とディスカッション
10	成果報告①	研究成果の報告と課題の検討
11	成果報告②	研究成果の報告と課題の検討
12	成果報告③	研究成果の報告と課題の検討
13	成果報告④	研究成果の報告と課題の検討
14	総括	本科目の総括と、期末課題（論文）の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、研究内容の報告とディスカッションの準備が求められます。また、期末課題（論文）の作成も授業時間外におこないます。本科目の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義のなかで指定します。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。
好井裕明、2014、『違和感から始まる社会学——日常性のフィールドワークへの招待』光文社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（研究内容の報告とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（論文）を 50 %として評価します。特別な理由（必要な書類の提出）のない欠席は、累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から本科目を新規担当するため、とくにありません。

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

南 宏幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期分の概要に記載したように、大学では「教えられる生徒」であるだけでなく、「人に教えられる探究者」であることも求められる。比喩的に言えば、「従順な子羊」であるだけでは足りず、「貪欲で自立した開拓者」ともなる必要がある、ということだ。基本的に演習は、学生各自が自らの関心に従って新たな知見を生み出す「開拓」を実行していく場であり、その準備と予行演習に当たるのが基礎演習である。

【到達目標】

学生各自が、問題設定・仮説構築・検証・発表という一連のプロセスを経験し、進級後も各演習で自らの探究を継続していける土台を築くのが、この授業の到達目標である。この経験から、自分がどういった事象に知的な興味を抱くか、どういった問題設定をすれば自らの知的好奇心を学問的研究に活かせるか、問題に対するどのような答えが、意義深い認識を生み出す、検証可能な仮説になるか、何をどう調べたら、その仮説を検証できるのか、実際調べたら、どういう結果が出るか、その結果から、どのような知見を導き出せるのか、この一連の研究成果を、どのようにして他人に説得力ある形で伝えられるのか・・・これらの目星をつけ、自らの糧としてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春期基礎演習での学習を元に、より本格的な研究構想を組み、発表し、改良し、研究論文という形で最終成果をまとめるのが、本授業である。時間の多くは、学生各自の研究構想発表に使われ、発表者以外の学生は、発表に対するコメントをその都度求められる。期末近くには論文執筆の具体的な注意事項が述べられ、期末に論文提出となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1班論文構想発表	第1班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
2	第2班論文構想発表	第2班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
3	第3班論文構想発表	第3班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
4	第4班論文構想発表	第4班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
5	第5班論文構想発表	第5班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
6	第6班論文構想発表	第6班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
7	第7班論文構想発表	第7班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
8	第8班論文構想発表	第8班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
9	第9班論文構想発表	第9班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
10	第10班論文構想発表	第10班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
11	第11班論文構想発表	第11班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
12	第12班論文構想発表	第12班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
13	論文執筆に際しての注意事項&期末大相談会	原稿用紙の使い方、表紙の様式、引用の仕方、参考文献一覧の様式等の指導。
14	論文提出。クラスメートへの概要報告	研究論文を提出し、他のゼミ生に研究成果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

構想発表という機会を活かせるよう、発表者は事前に、必要な予備知識を得て、可能な限り練り込まれた研究構想を組み立てておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

ゼミ生共通の参考文献指定はない。

【成績評価の方法と基準】

期末に提出する、最終成果である研究論文に対する評価が60%。構想発表の充実度評価が30%、発表に対するコメント等、平常点が10%。

【学生の意見等からの気づき】

他の授業と並べて、「ちょっとめんどくさい授業」「コスバが悪い授業」などと認識している学生が増えた気がする。「自分の考えを事実に基づいて組み立て、他者に伝える」という実践を通じて、演習の特別さを体得してほしい。

【その他の重要事項】

春・秋学期合わせての履修推奨。

【Outline and objectives】

As described in the summary of the spring season, university students are required not only to be 'taught pupils' but also to be 'teaching explorers'. In other words, it means that it is not enough just to be a 'compliant lamb', and it also needs to be 'greedy and self-sustaining pioneer'. Basically, the exercise is a place where each student carries out his own "pioneering = academic research". Through this "basic class", I hope you will prepare for your own pioneering in future exercises.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山崎 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の考え方を身につけて、現実の社会事象を分析できるようになること。

【到達目標】

自分の問題関心にしたがって、テーマを選択し、それに関するゼミ論文を書き上げること。また、他の参加者のテーマについても積極的に発言できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ論文のテーマにあわせて、グループ分けをおこない、各グループごとに文献を選択し、その内容を発表していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論文企画書発表 1	参加者各自、ゼミ論文の企画書を発表します。そのテーマに合わせてグループ訳を行います。
2	文献発表の方法と実例	文献発表の進め方について、実例を用いて説明します。
3	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
4	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
5	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
6	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
7	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
8	ゼミ論文企画書 2	ゼミ論文の企画書を再構成し、発表します。
9	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
10	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
11	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
12	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
13	文献発表	グループで文献の内容を発表します。
14	ゼミ論文に関する質疑応答	ゼミ論文について、最終的な検討を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文のための準備（文献・資料、企画書作成）
グループ発表のための準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれのグループの研究テーマに合わせて、文献を選出する。

【参考書】

森下伸也 2000 『社会学がわかる事典』 日本実業出版社
栗田宣義 2006 『図解雑学』社会学』 ナツメ社
見田宗介・栗原彬・田中義久（編）1994 『【縮刷版】社会学事典』 弘文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %
ゼミ論文企画書：40 %
ゼミ論文：30 %

なお、ゼミ論文とその企画書については、適切な問題設定、問題・論証・結論の一貫性、社会的な考察力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者が自分の問題関心にそって、テーマや文献を選択できるように援助します。

【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to be able to acquire the way of thinking of sociology and analyze real social phenomena.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅰは助走期間で大学に慣れることが優先された。基礎演習Ⅱでは、春学期に得たアイデアを具体化する難しさ、面白さを経験すること、他者の知見や考察に驚きや興味をもって耳を傾け、言葉を交わし学び合うことの楽しさを知ることが期待される。

【到達目標】

春学期の活動を足掛かりに個々人の問題関心の醸成を促し、2 年次からの専門演習へと橋渡しすることが目標である。具体的には、研究テーマを設定できる（自分の興味関心に「問い」の形を与えられる）／図書館やインターネットが活用できる（調べながら考えられる）／研究成果や考察をプレゼンテーションできる（スライドを作りながら考えられる）／論文スタイルで書くことができる（書くことで考えられる）／研究倫理の理解などが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期は準備期間を経てプレゼン、論文執筆と進むが、発表者と教員だけがやり取りするのではなく、聴き手も参加し全員が考え学ぶ過程にしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	進め方とすべきことについて。
第 2 回	ゲストによる特別講義	卒業生が語る 試行する人生。
第 3 回	論文執筆とプレゼン	論文書式とスライド制作のポイント。
第 4 回	論文テーマと文献リスト	資料蒐集と文献リスト作成の手ほどき。
第 5 回	ゼミ論文の設計図を作成	論文構想、章立てを練る。
第 6 回	序文らしきものを書く	論文執筆の足掛かりとなる短文を書く。
第 7 回	分析・考察を書いてみる	分析、結果、考察はどのようなものか
第 8 回	プレゼンの構成を考える	スライドの構成をスケッチし相互批評。
第 9 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 10 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 11 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 12 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 13 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 14 回	ゼミ論文提出	今年度のゼミ活動を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は中間報告のプレゼンを経て論文を執筆する。準備が円滑にできるよう配慮するが、何よりも本人の努力と時間を割く必要がある。考えながら書き、書きながら考え、考えながらつくり、つくりながら考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。発表の準備、スライドの作成、ゼミ論文の執筆などを行なうこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使う予定はないが、各自の関心に沿って社会学領域の文献を読む必要があり、テーマの核心となる文献を選んでもらうことになる。

【参考書】

特定の参考書は指定しないが、各自のテーマに応じて個別にアドバイスしたい。

【成績評価の方法と基準】

評価のウェイト：平常点 50%、プレゼン 25%、論文 25% 評価基準：ゼミへの参加度、各課題への取り組み方、プレゼン・論文は、資料の使い方、書き方の適切さ、文章推敲、主題に対応した議論の展開、その適切さなど。

【学生の意見等からの気づき】

発表者と教員のやり取りが中心になりがちだが、ゼミ生の同士の討論に十分な時間が確保できるようにしたい。また討論と無関係な私語については、教員からも注意していくが、ゼミ生自身の自覚と協力が何よりも大切である。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う。中間発表のプレゼン、ゼミ論文の執筆は主に PC やスマホで行うが、慌てて購入しなくても大学の共用 PC もある。

【その他の重要事項】

仲間同士刺激しあうところにゼミの醍醐味がある。積極的な参加を期待している。また、質問・相談はゼミの後やシャトル・カード、メールで受け付ける。なお基礎演習Ⅱは、基礎演習Ⅰでの学びの成果を前提としており、春・秋を通じて履修することが望ましい。なお授業計画は展開をみて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the development of students' skill in making oral presentation and academic writing.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

吉田 公記

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、大学での学び方の基礎を習得するとともに、これからの4年間で探究していきたいテーマを見つけることを目的とする。

【到達目標】

①文献や資料の集め方、レジュメやレポートの書き方といった大学での学習の基礎的技術を習得すること。②2年次以降のゼミ選択に向けて、各自で問題関心を見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。下記【授業計画】は展開に応じて若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要について説明する
2	レポート執筆テーマの報告①	期末レポートで執筆するテーマを決め、具体的な研究計画を発表する
3	レポート執筆テーマの報告②	第2回授業の続き
4	調査・分析法の学習①	下記【テキスト】欄の文献を読む
5	調査・分析法の学習②	第4回授業の続き
6	レポートの進捗状況の報告①	収集した文献や資料、および直面している課題等について発表する
7	レポートの進捗状況の報告②	第6回授業の続き
8	調査・分析法の学習③	第5回授業の続き
9	調査・分析法の学習④	第8回授業の続き
10	調査・分析法の学習⑤	第9回授業の続き
11	個別の研究報告①	期末レポートの内容を発表する
12	個別の研究報告②	第11回授業の続き
13	個別の研究報告③	第12回授業の続き
14	まとめ	これまでの学習内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での報告に必要な文献・資料等の収集・講読およびレジュメやレポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

第4～5・8～10回授業で受講生は下記の文献の書評を発表する。
・岸政彦ほか『質的社会調査の方法』（2016年、有斐閣）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分を目安として総合的に評価する。

- ・平常点（授業への参加姿勢等）：40%
- ・課題点（レポート等）：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Through this course, students will (1) gain basic skills for academic study and (2) find academic themes to explore.

MAT100EA

基礎数学 I

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく接している自然現象や、生活の仕組みは「数学」のもとに成り立っているものが多い。この「数学」とはどんな学問なのか。世界文化の変遷の中での数学のルーツと発展へ目を向け、様々な問題を取り上げて「数学的思考」を学ぶ。その中で「論理的な考え方・数学的思考力の重要性」を考える。

【到達目標】

この講義を通して社会生活における「論理的な考え方・数学的思考力の必要性」と「生活の中に存在する数学」に気づくことを目的とする。この気づきから、その重要性和数学へ興味を持ち、更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では、身近で具体的な問題について取り組む他、それらの問題の時代背景も紹介する。また、数学的論証として「帰納法」・「背理法」の基本を学ぶ。各テーマごとに証明問題や演習問題に取り組み、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数学の始まり。	「数学」の紹介と、講義の進め方・成績評価の説明。および人と数学のルーツと、学問の成り立ちの紹介。
2	ピタゴラス学派の数学上の発見	「ピタゴラスの定理」で有名な、ピタゴラス学派が発見した様々な数学の問題。
3	ピタゴラス数の構築	ピタゴラス数の構築
4	オイラーの等式	いろいろな多面体に注目し、新しい幾何学「位相幾何学」を学ぶ。
5	正多面体の決定	オイラーの等式を用いて、3次元空間の正多面体を定める。
6	グラフ理論と散歩道	位相幾何学・グラフ理論のルーツとグラフ理論の基礎定理。
7	一筆書きの原理	グラフ理論から「一筆書きの原理」を導く。
8	あみだくじ	「あみだくじ」を題材にして、置換・互換を学ぶ。
9	15ゲームの群論的考察	置換から学ぶ身近なゲーム「15ゲーム」。
10	15ゲームの応用	15ゲームの応用問題に取り組む。
11	合同式	日常に見られる「合同式」の仕組みを学ぶ。
12	暗号通信（1）	ある暗号システムの作り方と、解読システムを学ぶ
13	暗号通信（2）	暗号の作成・解読の演習。
14	まとめ。	これまでの講義の内容に関するまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一つ一つの理論は難しく無くとも、それが積み重なると煩雑に思えるだろう。毎回の授業の内容をノートに丁寧にまとめ、ノートと教科書の内容を毎週復習してから出席して欲しい。特に証明問題に関しては、授業中のノートの内容を何度も読み返し、自分でその証明を繰り返し再現することでしか身につけることはできない。面倒に思えても、その作業により数学的思考が徐々に身に着くことであろう。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて4時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】

「数学の視界 改訂版」 志賀弘典 著, 数学書房

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを書く科目が少ない中、自分で書くことで、復習の際の理解が深まる様子。丁寧にノートを書くことがこの科目では重要である。

【その他の重要事項】

上記にもあるように、必ず継続してノートを取る必要があります。

【Outline and objectives】

What is "Mathematics"? We consider the history of "Mathematics" and we learn some examples of mathematical problems. Furthermore we learn the mathematical thinking which are very important in the social life.

MAT100EA

基礎数学Ⅱ

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界の現象や、生活の中の現象の仕組みは、様々な「数学」のもとに成り立っているものが多い。この講義では、高校数学で学んだ基礎的な内容の中から数列と微分に関して、その基礎から経済・経営学に関する具体的な問題への応用を学ぶ。

【到達目標】

数列に関しては高校で学んだ等差数列・等比数列さらに無限級数を復習し「金利」のシステムへの応用を学ぶ。次に、変化する量を調べる際に多用される「微分」を応用して、経済活動の変化の様子を調べることを学ぶ事を目的とする。ここで学んだ基礎的な内容を、専門学習に役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では、具体的な問題を考えながら、その仕組みの基礎を学ぶ。黒板で説明することを中心としてノートに記録し、授業後に自己学習にて身につけて欲しい。この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、前回までの復習を前提として授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数列の基本	講義の進め方および成績評価についての説明と、等差数列と等比数列について学ぶ。
2	利息のお話	単利と複利の話し。
3	積み立て預金の話し	数列の和の存在性と積立預金への応用を学ぶ。
4	物やお金は、時とともに価値が変わる？	現在価値と将来価値の概念を導入する。
5	借金の仕組み	現在価値と将来価値の概念と、借金の仕組みを学ぶ。
6	数列の極限と無限級数	数列の極限值について、その概念と極限値の求め方を学ぶ。
7	関数の極限	関数の極限値を学ぶ
8	極限値と微分	極限値の概念と、関数の微分可能性について学ぶ。
9	導関数	簡単な関数について、その微分と導関数の導出方法を学ぶ。
10	導関数の幾何学的意味	導関数と関数の増減の関係を学ぶ。
11	微分の応用（1）	一般の多項式関数について関数の増減表・グラフの概形を学ぶ。
12	微分の応用（2）	経済に表れるいくつかの関数と利潤関数について学ぶ。
13	微分の応用（3）	いくつかの条件の下で、利潤最大化を考える。
14	まとめ	前回までの講義内容のまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一つ一つ出てくる理論は難しくないので、それらをたくさん積み重ねると、煩雑なものに思えることと思う。授業の内容はすべてノートに丁寧にきちんとまとめ、毎週教科書とノートを復習してから出席して欲しい。毎回の授業の予習復習は、通常合わせ 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】

「きちんとわかる経済経営数学入門（数列微分編）」鈴木麻美・内藤敏機著、牧野書店。

【参考書】

1. 「例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉」エドワード・T. ドウリング(原著), 大住 栄治(著), 川島 康男(著), シーエービー出版。
2. 「金利利息のしくみがわかる本」小向 宏美(著), 古橋 隆之(監修), 総合法令出版。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

数列・微分はほとんどの学生が高校で学んだ経験があるようであるが、この講義のような具体的な問題との関連性を考えることは、初めて学生が多い。数学をより身近な学問として捉えてくれることを期待している。

【Outline and objectives】

Many phenomena in nature and many mechanisms in life are constructed on various "mathematics". Therefore, in this lecture, especially we learn sequence and differential calculus, furthermore we study some examples in economic problems and business problems.

CAR100CA

キャリアデザイン論

砂田 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 4/15 追記 > 当科目は 2020 年度休講となりました。
キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
- ②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代 1（砂田）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、複雑化する社会に生きる
2	キャリアデザインと大学時代 2（斎藤）	自分をつかむ 1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは 1（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは 2（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは 3（斎藤）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
6	企業を知る 1（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る 2（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために 1（伊藤）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために 2（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために 3（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために 4（眞保）	ワークライフバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる 1（池田）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる 2（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる 3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各回の資料を授業支援システムより DL して予習すること（2 時間程度）、および講義後に各回の内容に照らして自らのキャリア形成について検討し、必要に応じてインターネットや図書館を利用して調査することが必要である（2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回、出席をとる。遅刻・早退は 2 回で、1 回の欠席と見なす。

【受講上の注意】

1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】

Under the theme of "designing" one's carrier, we will discuss how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

CAR100CA

キャリアデザイン論

砂田 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 4/15 追記 > 当科目は 2020 年度休講となりました。
キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
- ②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は大学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代 1（砂田）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、複雑化する社会に生きる
2	キャリアデザインと大学時代 2（斎藤）	自分をつかむ 1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは 1（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは 2（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは 3（斎藤）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
6	企業を知る 1（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る 2（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために 1（伊藤）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために 2（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために 3（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために 4（眞保）	ワークライフバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる 1（池田）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる 2（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる 3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各回の資料を授業支援システムより DL して予習すること（2 時間程度）、および講義後に各回の内容に照らして自らのキャリア形成について検討し、必要に応じてインターネットや図書館を利用して調査することが必要である（2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回、出席をとる。遅刻・早退は 2 回で、1 回の欠席と見なす。

【受講上の注意】

1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】

Under the theme of "designing" one's carrier, we will discuss how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

POL300EB

行政学

谷本 有美子

サブタイトル：政策過程論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会が決定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自体が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス－行政とは何か	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第 2 回	行政国家の成り立ち	時代に応じて政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説する（テキスト第 2 章参照）
第 3 回	日本の内閣制度と国地方関係	現代日本の政府体系として、議院内閣制と国地方関係について詳説する（テキスト第 5 章参照）
第 4 回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める
第 5 回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第 6 回	行政組織と行政管理	日本の行政組織とそのシステムについて概説した上で、1990 年代以降の行政改革の動向について検討する（テキスト第 6 章・第 8 章参照）
第 7 回	公務員制度と人事行政	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事行政のしくみについて概説する（テキスト第 7 章参照）
第 8 回	政策作成と決定	行政による政策案作成と政府案としての決定に至るプロセスを詳説し、理論モデルと実際を検討する（テキスト第 9 章参照）
第 9 回	政策立案の実際－法律・条例	国の法律案と自治体の条例案の作成過程から、合意形成と調整の側面を検討する（テキスト第 10 章参照）
第 10 回	政策立案の実際－予算	予算案の作成過程から合意形成と調整の側面を検討する（テキスト第 11 章参照）

第 11 回	政策の実施体制と手法	資金交付行政を取り上げながら、実施体制と手法について実践的に検討する
第 12 回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説し、フィードバックの実際を検討する
第 13 回	行政責任と行政統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第 14 回	行政学から見た社会課題の発見	行政課題と社会課題とのつながりについて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 ・2020 年度政府予算の重点政策を調べる
 ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホンブック基礎行政学』（北樹出版）
 金井利之『行政学概説』（放送大学教育振興会）
 西尾勝『行政の活動』（有斐閣）
 森田朗『現代の行政』（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講にとなったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

LAW300EB

行政法Ⅰ

長谷部 俊治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な行政活動を律している法的な構造とその枠組みをテーマとする。
行政法Ⅰ（春学期）では、行政活動の基盤となっている法原則と、行政活動の種類及びそれらの特色に焦点をあてて、行政活動のありかたについて考える。（行政作用法）

【到達目標】

・行政活動を律するうえで基本となる法概念及び制度構造について理解する。
・国家の作用についてどのような秩序が必要かを理解する。
・行政活動の法的な特徴を理解し、政府と私人との法的な関係に着目した秩序のあり方について考察する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを定め、具体的な行政事例や判例を紹介しつつ、講義する。
なお、この科目は春学期（行政法Ⅰ）・秋学期（行政法Ⅱ）を通じて履修することを強く勧める。

注：授業は学年暦どおり 4 月 22 日から開始する。COVID-19 対策のため教室授業ができないあいだは、学習支援システムを通じて授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	行政の広がり	ガイダンス、近代市民生活、国家の作用
2	統治と法秩序	立憲主義、法秩序、公法と私法、法の規範性
3	法律による行政	法治主義、二つの原則、司法との関係
4	適正手続原則	Due process of law、事前手続、法の一般原則
5	行政作用	行政活動の法的性質、「権力」の意味、行政作用の種類
6	行政行為（1）	その特性、法的効力
7	行政行為（2）	行政裁量の必要と限界、行政の柔軟性
8	行政行為（3）	瑕疵の種類と効果、行政行為の取消
9	行政立法	基準の設定、法規命令、委任の妥当性
10	行政契約	私法的活動、契約の特性、政策手段として
11	行政指導	非権力的な事実行為、法的統制の限界
12	行政計画	計画的コントロール、計画の法的性格
13	義務履行確保	強制執行、行政罰
14	まとめ	まとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日刊紙を読み、行政活動の実態について幅広く知るとともに、毎回の講義後、その内容を具体的な事例に当てはめて理解を深める。
本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。
なお、授業期間中にレポートを 1 回課す予定である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、講義レジュメを配布する。
六法（できれば判例つきのもの）を手元に置いて欲しい。

【参考書】

予習用の参考書として、次を推薦する。
藤田宙靖『行政法入門（第 7 版）』有斐閣、2016
芝池義一『行政法読本（第 4 版）』有斐閣、2016
稲葉・人見・村上・前田『行政法』（第 4 版）有斐閣、2018
藤田宙靖『行政法総論』青林書院、2013
その他の参考書は開講時に示す。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）及びレポート提出（1 回・40%）によって評価する予定。

注：期末試験を教室で実施できない場合には、レポートの提出に変更する予定である。変更の有無は学習支援システムで知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Understanding of Administrative Law (part one): mainly focussing on legal effect with administration

LAW300EB

行政法Ⅱ

長谷部 俊治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な行政活動を律している法的な構造とその枠組みをテーマとする。
行政法Ⅱ（秋学期）では、行政活動のプロセスと紛争や行政主体に焦点をあてて、行政活動を支えるしくみの構造と運営について考える。（行政救済法・行政組織法）

【到達目標】

・行政活動における政府と社会との相互関係について理解する。
・行政に対する司法統制について理解する。
・法機能のあり方について考察する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを定め、具体的な行政事例や判例を紹介しつつ、講義する。
なお、この科目は春学期（行政法Ⅰ）・秋学期（行政法Ⅱ）を通じて履修することを強く勧める。特に、行政法Ⅱを理解するためには、行政法Ⅰを履修していることが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	行政への参加と監視	民主主義の実効性確保、市民参加、行政監視のしくみ
2	情報公開	行政情報、情報公開のしくみ、個人情報保護
3	議会の機能	国政調査権、財政監督権
4	紛争処理のかたち	法的紛争、裁判機能、ADR
5	不服申立て	行政過程における争訟、行政不服審判制度
6	行政訴訟（1）	権利擁護機能、「公権力の行使」
7	行政訴訟（2）	行政訴訟の種類、訴訟要件
8	行政訴訟（3）	判決の効力、司法による行政統制機能
9	国家賠償（1）	公権力の行使による損害賠償、賠償の種類と考え方
10	国家賠償（2）	公の造営物に関する損害賠償、瑕疵概念
11	行政組織	行政機関概念、ビューロクラシー、公務員
12	地方自治	地方自治の意味、地方自治体、国と地方
13	法規範への期待	法規範と市場取引、法と正義、自由の意味
14	まとめ	まとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日刊紙を読み、行政活動の実態について幅広く知るとともに、毎回の講義後、その内容を具体的な事例に当てはめて理解を深める。
本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。
なお、授業期間中にレポートを 1 回課す予定である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、講義レジュメを配布する。
六法（できれば判例つきのもの）を手元に置いて欲しい。

【参考書】

予習用の参考書として、次を推薦する。
藤田宙靖『行政法入門（第 7 版）』有斐閣、2016
芝池義一『行政法読本（第 4 版）』有斐閣、2016
稲葉・人見・村上・前田『行政法』（第 4 版）有斐閣、2018
藤田宙靖『行政法総論』青林書院、2013
その他の参考書は開講時に示す。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）及びレポート提出（1 回・40%）によって評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Understanding of Administrative Law (part two): mainly focussing on democratic control process and legal conflict

ECN200EB

金融システム論

八木 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解するために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実際的な知識を身につける。

また、金融システムに応用された最新技術動向やそれらから得られた知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融システム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融システムで利用されている最新技術について学びます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融システムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済システムについて述べる
5	金融市場と新しい金融取引手法	金融市場の機能とその種類についてみていく
6	金融システムの安定性と監督規制	金融システムの安定性とブルーム効果、バーゼル規制等を学ぶ
7	金融システムと中央銀行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支える技術	ブロックチェーンを支える科学技術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最新動向	ブロックチェーンを用いたビジネス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金融サービスと金融 IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報システム	各金融業界で利用されている金融情報システムについて紹介していく
13	データサイエンスと金融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイエンスの利活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビジネス	情報産業としての金融業の特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第 4 版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・バイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、どうしても数理的な説明をせざるを得ない箇所があります。

【Outline and objectives】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題 2「思い出の本」をクラスごとのエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしていく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は 800 字～2000 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。作品の制作や提出を授業時間外に行う課題がある。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。

それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開講日は 4 月 21 日とし、この日までに学習支援システムに仮登録を修了し、学習支援システム内の課題に取り組み始めること。

※定員を越えましたので、仮登録を締め切り、受講生の抽選をしました。

学習支援システムに接続できないときは、

Google Classroom をみてください。

(臨時の代替情報ですので、後日、

再度学習支援システムで確認してください)

クラスコード

3 限

g4jhspv

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	推敲とは	エッセイ添削例
第 4 回	作品 1 提出	テーマは「はじめての○○」
第 5 回	作品指導 1	自作を捉え直す
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	課題 1 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 1
第 8 回	作品 2 提出	テーマは「思い出の本」
第 9 回	作品指導 2	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題 2 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 2
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンターニュ エッセイ抄』みずぎ書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の文字数や締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品はワードかテキストファイルで授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。授業中に手書きで文書作成が難しい者は、パソコン等を使用する。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短編小説の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、創作、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品は批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題の短編小説をクラスごとのアンソロジー短編集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、設定づくり、執筆、校正、編集など作品を本にしていく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は課題のテーマに沿った 1500 字～3000 程度の短編小説を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	ストーリーとは	穴埋め創作
第 4 回	だれをどう描くか	人物や暮らしを捉える
第 5 回	なぜ書くのか	小説があることの意味を考える
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	プロット提出	課題に沿った粗筋を作る
第 8 回	作品提出	課題に沿った短編小説創作
第 9 回	作品指導	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題の合評	作品批評、質疑応答
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『好き、だった。はじめての失恋、七つの話』MF 文庫ダヴィンチ。『きみが見つける物語 十代のための新名作 恋愛編』角川文庫。『金原瑞人 YA セレクション みじかい眠りにつく前に I 真夜中に読みたい 10 の話』ポプラ文庫ビュアフル

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品を提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品は授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現や短編小説創作について実践的に指導する。「アンソロジー」を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題 2「思い出の本」をクラスごとのエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしていく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は 800 字、2000 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。作品の制作や提出を授業時間外に行う課題がある。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。

それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに学習支援システムに仮登録を修了し、学習支援システム内の課題に取り組み始めること。

※定員を越えましたので、仮登録を締め切りました。

学習支援システムに接続できないときは、

Google Classroom をみてください。

(臨時の代替情報ですので、後日、

再度学習支援システムで確認してください)

クラスコード

4 限

jsh5rco

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	推敲とは	エッセイ添削例
第 4 回	作品 1 提出	テーマは「はじめての○○」
第 5 回	作品指導 1	自作を捉え直す
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	課題 1 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 1
第 8 回	作品 2 提出	テーマは「思い出の本」
第 9 回	作品指導 2	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題 2 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 2
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディターズクール編集。

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の文字数や締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品はワードかテキストファイルで授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。授業中に手書きで文書作成が難しい者は、パソコン等を使用する。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短編小説の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、創作、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品は批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題の短編小説をクラスごとのアンソロジー短編集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、設定づくり、執筆、校正、編集など作品を本にしていく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は課題のテーマに沿った 1500 字～3000 程度の短編小説を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	ストーリーとは	穴埋め創作
第 4 回	だれをどう描くか	人物や暮らしを捉える
第 5 回	なぜ書くのか	小説があることの意味を考える
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	プロット提出	課題に沿った粗筋を作る
第 8 回	作品提出	課題に沿った短編小説創作
第 9 回	作品指導	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題の合評	作品批評、質疑応答
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『好き、だった。はじめての失恋、七つの話』MF 文庫ダヴィンチ。『きみが見つめる物語 十代のための新名作 恋愛編』角川文庫。『金原瑞人 YA セレクション みじかい眠りにつく前に I 真夜中に読みたい 10 の話』ポプラ文庫ビュアフル

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品を提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品は授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現や短編小説創作について実践的に指導する。「アンソロジー」を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC100EB

グローバル市民社会論 A

岡野内 正

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20 世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21 世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20 世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4 月 22 日開始です。
グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業ノート」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回ではそれをもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。テキストの報告分担任。
2	グローバル化とプレカリアート	受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム	受講生の報告と教員を交えた議論。
10	インドからの市民社会への展望—ガンジーの反植民地運動	受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ガンジーの憲法論	受講生の報告と教員を交えた議論。
12	独立後のインドとガンジー	受講生の報告と教員を交えた議論。
13	ガンジー思想の可能性	受講生の報告と教員を交えた議論。授業ノート提出。
14	グローバル市民社会論の意義と限界	授業ノートに基づく、受講生と教員を交えた議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業ノート」を書く。授業ノートは、以下の 2 項目を含むこと。①各回の講義あるいはテキスト部分、授業での質疑応答や討論についての要約とコメント。②授業のテーマと関連して、自分自身の日常生活と最近のニュースなどから考えたこと（質問し、議論し、研究してみたいこと）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。

C・ダグラス・ラミス著『ガンジーの危険な平和憲法案』集英社新書、2009 年、680 円＋税。

【参考書】

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【成績評価の方法と基準】

13 回分の授業ノートの内容によって 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOC100EB

グローバル市民社会論 B

中筋 直哉

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のグローバル化に対応しつつ、身近な市民社会を主体的に形成するための基本課題を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに理論的基礎づくりに重点を置く。

【到達目標】

・グローバル化が市民社会に与える影響を、事実とデータに基づいて理解、説明できる。
・公共政策を中心とする市民社会形成の諸方法を体系的に理解し、今後の専門的学修に役立てられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを使用する他、授業支援システムで事前に資料を配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	グローバル化の社会理論	世界史からグローバル・ヒストリーへ
3	グローバル化の社会理論	世界システム分析の理論
4	グローバル化の社会理論	グローバル化とカルチュラル・スタ
5	グローバル市民社会の哲学	1 カントのいう「歓待」をめぐる
6	グローバル市民社会の哲学	2 カントを超える現代哲学
7	グローバル市民社会の哲学	3 オンナ・コドモのグローバリズム
8	事例研究的講義	グローバル市民社会の先端事例
9	事例をめぐる質疑と討論	受講者のグループディスカッション
10	市民社会形成の方法	1 地域社会の再構築
11	市民社会形成の方法	2 社会運動の提案力
12	市民社会形成の方法	3 地域政府と公共政策の市民化
13	展開的講義	国民国家再考
14	グローバル市民社会の展望	重要論点の復習的グループディスカッション

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを使った復習。授業の中盤に A4×1 枚のリポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リポートの出来が 40 %、論述式の定期試験が 60 %。試験解答において、市民社会形成についての自らの考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で最新の事件、事例に基づいて説明するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント使用だがノートと筆記用具は必須。授業支援システムへのアクセスも必要。

【Outline and objectives】

This introductory lecture aims to study the academic approach to global civil society.

SOC200EB, SOC200EC

グローバル社会のローカリティ

中筋 直哉

サブタイトル：地域社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】

・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを使用する他、授業支援システムで事前に資料を配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か	1 国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か	2 グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態	1 親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態	2 農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態	3 世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態	4 境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの事例紹介
9	事例をめぐる質疑と討論	事例をめぐるグループディスカッション
10	人びとの移動と定着	1 移民・難民たちのレガシース
11	人びとの移動と定着	2 リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着	3 旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来	1 新しいローカリティ形成の事例紹介
14	ローカリティの未来	2 重要論点の復習と質疑、グループディスカッション

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを使った復習。授業の中盤に A4×1 枚程度のリポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リポートの出来が 40 %、論述式の期末試験が 60 %。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

コースの専門的科目なので受講には入門以上の知識が必要。2 年生以下の履修は合格率が高くなく、勧めない。最新事例をめぐるグループディスカッションの充実に努める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント使用だがノートと筆記用具は必須。授業支援システムへのアクセスも必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study regional society below globalization by sociological perspective.

ECN200EB

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済政策の1つとして、効率的な資源配分が達成されるために政府が何らかの手段で市場へ介入することが挙げられます。本講義では、ミクロ経済学の内容を前提として産業組織論の基本的な考え方を解説するとともに、規制政策・競争政策の経済学的根拠を解説します。

【到達目標】

- (1) 産業、企業の経済学的行動について、図を用いて説明することができる。
- (2) 不完全競争について、図を用いて説明することができる。
- (3) 規制政策・競争政策について、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は産業、企業の行動について経済学的な分析を行う。その後、不完全競争について解説し、規制政策・競争政策について議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、生産の理論（1）—完全競争市場	ガイダンスを行った後に、利潤・費用・収入といった用語や生産関数・生産要素の限界生産力を解説します。
2	生産の理論（2）—完全競争市場	利潤最大化問題について解説します。
3	生産の理論（3）—完全競争市場	総費用曲線と限界費用曲線の関係を図解します。
4	生産の理論（4）—完全競争市場	総費用曲線と平均費用曲線の関係を図解します。
5	生産の理論（5）—完全競争市場	利潤最大化問題を図解します。
6	生産の理論（6）—完全競争市場	損益分岐点と操業停止点を図解します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	不完全競争	不完全競争について解説します。
9	ゲーム理論（1）	戦略的行動について解説します。
10	ゲーム理論（2）	同時手番ゲームについて解説します。
11	ゲーム理論（3）	ナッシュ均衡について解説します。
12	ゲーム理論（4）	囚人のジレンマについて解説します。
13	クールノー競争（1）	不完全競争における価格競争について解説します。
14	クールノー競争（2）	競争政策・産業政策について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学（第2版）」中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験 50 % , 期末試験 50 % , 両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the theory of the firm;
- (2) the theoretical market structures of perfect competition, monopoly and oligopoly.

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年国際連盟発足から 100 年の年です。2020 年の現代史 I では、近代における諸戦争や革命・独立へと帰結する「世界史」と「東アジア史」はどのような特徴を帯びているのかを、「戦争」と「植民地主義」の歴史に焦点をあてて、学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では最初に近代の諸戦争の特徴をおおまかに分析したうえで、これらの戦争を植民地主義との関わり考察するアプローチ法とその歴史過程を学んでいきます。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開講日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像と進め方／学問としての歴史学について学ぶ
第 2 回	概論① 歴史における「戦争」とは	世界史における「戦争」の変化を概観します。
第 3 回	概論② 近現代の「戦争」を規定する「植民地主義」	「戦争」と「植民地主義」との関わりについて考えます。
第 4 回	「植民地戦争」のはじまり	16～18 世紀におけるヨーロッパ諸国の植民地戦争について概観します
第 5 回	同時期の東アジア	文禄・慶長の役の性格について考察します
第 6 回	二重革命の時代の戦争と植民地主義	民主革命・産業革命の時代の植民地戦争（インド・東南アジア）について考察します
第 7 回	東アジアの戦争①	アヘン戦争とその衝撃について考察します
第 8 回	東アジアの戦争②	明治維新後の日本の対外膨張について概観します
第 9 回	帝国主義と東アジア①	日清戦争について三つの視座から考察します
第 10 回	帝国主義と東アジア②	中国の義和団戦争について考察します
第 11 回	帝国主義と東アジア③	日露戦争について三つの視座から考察します
第 12 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」①	第 1 次世界大戦までの植民地主義の歴史を概観します
第 13 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」②	日本の植民地支配と民族運動について考察します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【Outline and objectives】

100 years have passed from the League of Nations start this year.It's learned what kind of feature "world history" and "East Asia history" in which you result to several wars in the modern times, a revolution and independence take on by contemporary history I.

HIS200EA

現代史Ⅱ

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史Ⅱは、現代史Ⅰの問題意識を継承して、二つの世界大戦と「戦後」の世界において、「植民地主義と戦争」はいかに形を変えて「継続」していくのかを、「日本と東アジア」を中心に学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は現代史Ⅰにおける「戦争」と「植民地主義」の概念を確認した上で、両者が国際的にどのように展開していくのかを、東アジアのケースを中心に考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像・進め方の説明と前期の内容の確認
第2回	概論① 歴史修正主義と歴史学	現代の歴史認識の現状と歴史学について考える。
第3回	戦間期の戦争と植民地主義①	国際法体制の変化と1920年代について考える。
第4回	戦間期の戦争と植民地主義②	世界恐慌と全体主義の1930年代について考える。
第5回	15年戦争① 満州事変	満州事変を三つの視座から再検討します。
第6回	15年戦争② 日中戦争	日中戦争について検討します。
第7回	第2次世界大戦①	第2次世界大戦について概観します
第8回	第2次世界大戦②	アジア太平洋戦争について三つの視座から検討します
第9回	「戦争責任」の展開と「植民地問題」	極東国際軍事裁判の性格を考察します
第10回	複合戦争としての朝鮮戦争	朝鮮戦争について三つの視座から検討します。
第11回	「新植民地主義」と民族独立	戦後アジア・アフリカの民族独立について考察します
第12回	ベトナム戦争の世界史	ベトナム戦争の特徴について考察します。
第13回	現代の戦争へ	1980～90年代の「戦争」について考察します。
第14回	まとめ	現代における「戦争」と「植民地主義」の関わりを捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）+平常点（30%）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【Outline and objectives】

It's learned about the feature of "war" and "colonialism" in the 1st, the Second World War and the world of "the postwar".

SOC200EC

現代農業・農村の社会学

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代の日本と世界の農業・農村の多様な実情と問題を極力具体的な事例を示して紹介し、それらが急激な都市化とグローバリゼーションの渦中で営まれている私たちの日常生活、特に食生活とどのように関連しているかを、主に社会学の視点から検討することを目的とする。受講生には、自らの食生活を地域から地球規模に至る諸社会のダイナミックな変化と結びつけて考える知的センスを獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

この授業では、私たちの食生活が、どのような社会関係（多様な人と人との関係）によって支えられているかを、日本と世界の両面から、主に社会的な視点から学ぶ。したがって、自分自身の日頃の食生活を意識的に自己点検し、食品が生産されてから自分が口に入れるまでの間に、どのような壮大で複雑な社会関係（生産者と消費者の関係、農村住民と都市住民の関係、食品加工業者・流通業者を介した関係、外食産業やファーストフード、コンビニ業界との関係、コマースやメディアと消費者との関係、食料輸出国の生産者と輸入国の消費者との関係など）が連動して生起しているかを、受講生自らが調べて考える能力を実践的に会得できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の農業・農村の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせたりレポートを作成させて受講生の反応を確認し、それに応じてさらに授業方法に工夫を加えてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	農業とは何か？(1)	都市の消費者がイメージする農業は現実の農業と同じか？
第2回	農業とは何か？(2)	世界と日本の農業の歴史と現状、ポスト減反政策のゆくえ
第3回	農村とは何か？(1) 日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？	日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？
第4回	農村とは何か？(2)	世界の農村・農業社会学は何を明らかにしてきたか？
第5回	食の社会学(1)	私たちは何をどのように食べているのか？
第6回	食の社会学(2)	食を支える都市・農村関係、食を支える国際関係
第7回	農業と食の安全学(1)	食品の安全性はどのように保障されているのか？
第8回	農業と食の安全学(2)	食糧生産と環境問題のジレンマ（森林減少と気候変動）
第9回	食品ロスの社会学(1)	社会問題としての飢餓と飽食、飽食の末の棄食（食品廃棄）
第10回	食品ロスの社会学(2)	格差社会と食品ロス、食のサーキュラー・エコノミーおよびシェアード・エコノミーの可能性
第11回	食をめぐる産業連関の地殻変動(1)	農業・農村・都市間関係のイノベーション、農業のデジタルイノベーション
第12回	食をめぐる産業連関の地殻変動(2)	都市農業の新たな展開、農村農業の国際化
第13回	食文化の多様性と現代社会のダイバーシティ	地域と世界の新たなつながり
第14回	(まとめ) 私たちの食生活と農業・農村・都市の未来	社会的想像力の働かせ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の日常の食生活を研究対象として調査させ、適宜レポートさせる。つまり、自分自身の食生活を観察者の立場に立ってフィールドワークさせる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

エイミー・グブティル&デニス・コブルトン,2016『食の社会学:パラドクスから考える』(原題"Food and Society")(NTT 出版)
Jean-Pierre Poulain,2017,The Sociology of Food (Bloomsbury)
T. スタンダージ・新井崇嗣訳, 2017『歴史を変えた6つの飲物』(楽工社)
大原悦子,2016『フードバンクという挑戦—貧困と飽食のあいだで』(岩波書店)
S. クロイツベルガー他・長谷川圭訳, 2013『さらば、食料廃棄—捨てない挑戦』(春秋社)
その他多数

【成績評価の方法と基準】

フィールドワークのレポート(50%)と試験(30%)および授業ごとのリアクションペーパーの内容(質問やコメントの質)(20%)を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特記事項なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to introduce multifaceted realities and problems of agriculture and rural communities in Japan and the world, and to examine how they relate to our daily eating life mainly from sociology viewpoints.

SOC300EC

原典講読

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【Outline and objectives】

The aim of this course is to read carefully M. Foucault's *Discipline & Punish* (1975) and to learn a way of grasping the modern society, focusing on the birth of the prison.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「耳学問」で聞きかじったことがある思想や概念も、「原典」にじっくりあたり、深く検討してみると、それまでの理解とはずいぶん異なる視界が広がることもある。今年度は、現代思想／現代社会分析に多大な影響を与え続けている 20 世紀後半を代表する哲学者（社会学者？／歴史家？）ミシェル・フーコーの諸著作のうち、思想的に中期を画する『監獄の誕生』を取り上げる。社会学のテキストにしばしば登場する「パノプティコン」や「規律権力」といった概念は本書に由来している。しかし、そうした概念は、フーコーのいかなる問題意識（の展開）と文脈のなかで提起されているのだろうか。本授業では、まず本書を精読しながら、フーコーの思考の道筋を迫体験してみる。同時にそれを通して、フーコーが「近代社会」なる社会のあり方をいかに理解しようとしたのかを、受講者との議論を通して探索することを目的とする。

【到達目標】

原典にあたることで見えてくる現代（近代）社会分析の深遠さに触れることで、自分自身のものの見方／社会との対峙の仕方とあらためて向き合い考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進める。受講者には、事前に割り振られた担当章について、レジュメの作成と授業内での報告が求められる。担当者による報告の後、当該内容について受講者全員で議論をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明、スケジュール確認
第 2 回	フーコーを読む前に①	フーコーの生涯・思想遍歴・方法
第 3 回	フーコーを読む前に②	『監獄の誕生』以前・概説
第 4 回	第 1 部 身体刑：第 1 章 受刑者の身体	当該箇所の精読と議論
第 5 回	同：第 2 章 身体刑の華々しさ	当該箇所の精読と議論
第 6 回	第 2 部 処罰：第 1 章 一般化される処罰	当該箇所の精読と議論
第 7 回	同：第 2 章 刑罰のおだやかさ	当該箇所の精読と議論
第 8 回	第 3 部 規律・訓練：第 1 章 従順な身体	当該箇所の精読と議論
第 9 回	同：第 2 章 良き訓育の手段	当該箇所の精読と議論
第 10 回	同：第 3 章 一望監視方式	当該箇所の精読と議論
第 11 回	第 4 部 監獄：第 1 章 「完全で厳格な制度」	当該箇所の精読と議論
第 12 回	同：第 2 章 違法行為と非行性	当該箇所の精読と議論
第 13 回	同：第 3 章 監禁的なもの	当該箇所の精読と議論
第 14 回	晩期のフーコー思想	『監獄の誕生』以後・概説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全受講者が、文献の指定箇所を事前に読了した上で授業にのぞむこと。報告者は、指定文献についての要約とコメント・問題提起をおこなうべく、レジュメの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ミシェル・フーコー『監獄の誕生－監視の処罰－』新潮社、1975=1977。

【参考書】

詳細については開講後に指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席・議論への積極的関与を含む授業への参加度（40%）、担当章の報告（40%）、および期末レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更により該当なし。

LAW200EB, LAW200ED

憲法

吉川 和宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の基本ルールである日本国憲法の基礎を学び、その理解を深めることを目標とします。各講義は独立したテーマで、憲法の基本的な事柄とメディアに登場する比較的身近な憲法問題を取り上げます。

【到達目標】

授業で学んだ事柄が新聞やテレビニュースで取り上げられときに、それがどのような憲法問題であるかを理解できる力を養うとともに、他の人にそれを説明できる力を備えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう授業計画の変更については、学習支援システムの「教材」に提示する。本授業の開始日は修正後の予定通り 4 月 21 日（火）より開始する。具体的なオンライン授業の方法は当面の間「文字ベース」とし、学習支援システムの「教材」に「レジュメ」と「解説」をアップする。オンライン授業の方法が変更される場合は、やはり「教材」にその旨を記載した文章を掲載する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと憲法の基礎	憲法の基礎的概念について学びます
第 2 回	平等原則と男女平等	平等原則の基礎と平等の側面について学びます
第 3 回	首相の靖国参拝をめぐる憲法問題	政教分離の基礎知識について学びます
第 4 回	憲法と報道の自由	表現の自由と検閲の禁止を中心に学びます
第 5 回	報道の自由と取材の自由のはなし	マスメディアと憲法の関係を覗いてみよう
第 6 回	経済的自由権の保障	営業の自由と損失補償について学びます
第 7 回	生存権保障の限界	生存権保障の内容について確認します
第 8 回	教育を受ける権利の基礎	学問の自由と教育を受ける権利について学びます
第 9 回	「新しい人権」の保障	LGBTs の権利保障の現状について確認します
第 10 回	国会「入門」	国会の基礎知識について確認します
第 11 回	わが国の内閣制度	内閣と内閣総理大臣の仕事を確認します
第 12 回	裁判制度の基礎	司法権の独立と違憲審査制を取り上げます
第 13 回	憲法 9 条と自衛隊	憲法の平和主義の基礎を確認します
第 14 回	象徴天皇制の基本と概要	生前退位など天皇制をめぐる諸問題について学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日のうちに復習しましょう。また、日ごろから時事問題に関心を持ち、新聞をよく読むようにしましょう。図書館蔵書の「憲法」の本などで、講義該当箇所を事前に予習しておくとともに充実した学習ができるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。講義レジュメを「授業支援システム-教材」に事前にアップします。それを各自印刷して授業に出席してください。

【参考書】

図書館にある憲法関係の本を読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。基本は試験の成績によるが、具体的なことは後日「教材」または「お知らせ」に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

一部講義項目を変更しました

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業のレジュメを授業支援システムのこの科目の「教材」に事前に公開します。

【その他の重要事項】

質問などは授業終了後をお願いします。

【Outline and objectives】

We study about basic concepts and principles of constitutional law, which is the supreme law of Japan. Each lecture has different subjects, which are basic or recent constitutional problems.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスは『公共性の構造転換』（1962）において、18世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18世紀市民社会とは何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19世紀市民社会の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19世紀末以降の公共圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉国家	グローバル化時代における再分配
8	フレイザーによるハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐって
10	ハーバーマスのコミュニケーション的行為論	近代化による生活世界の合理化と植民地化
11	アーレントの公共性論と複数性	全体主義と画一性への批判
12	闘技民主主義と熟議	ムフの思想とミニ・パブリックス

13 地域における社会運動の実践

14 まとめ 全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントに提示するレジュメを授業支援システムにアップロードするので、プリントして持参すること。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未來社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（20%）、期末試験（80%）。適宜提出を求めるリアクションペーパーに必ず意見を書くこと（「代筆」には厳しく対処する）。

期末試験の問題は事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポートによる救済措置は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course explores the history and contemporary significance of public sphere.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実に存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

まず、外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む“壁”がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー鑑賞
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐる
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロニアリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的直接行動を理性化する
12	メディアへの政治介入	報道の萎縮と自主規制
13	事実の隠蔽と改竄	議会制民主主義の劣化
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントに提示するレジュメを授業支援システムにアップロードするので、プリントして持参すること。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未來社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中に紹介する参考書のリストを授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（20%）、期末試験（80%）。適宜提出を求めるリアクションペーパーに必ず意見を書くこと（「代筆」には厳しく対処する）。

期末試験の問題は事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポートによる救済措置は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course presents a study of theories on public sphere and the reality of social issues.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自立的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。授業開始日は、4月27日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第 2 回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第 3 回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第 4 回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第 5 回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第 6 回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第 7 回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第 8 回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第 9 回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第 10 回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第 11 回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第 12 回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第 13 回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第 14 回	試験・まとめ	論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。

【Outline and objectives】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

SOC200ED

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	広告プランニングとは	広告の企画から制作・出稿までの流れの概要
第3回	広告表現企画の方法	広告表現の開発におけるポイント
第4回	生活者インサイトの発見(1)	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見(2)	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	ブランドと広告(1)	ブランドの捉え方についてディベート(何がブランドなのか)
第7回	ブランドと広告(2)	ブランドをつくり育てるもの
第8回	シンボル・マネジメント	シンボルの企画・管理についてディベート(広告シンボルの有効性と評価について)
第9回	メディア計画、クロスメディア	メディア・プランニングの方法
第10回	IMC(統合型マーケティングコミュニケーション)	広告とPR、コンテンツ等を一体化する統合の概念
第11回	広告効果の考え方	広告の効果の測定・評価の実際
第12回	広告・PRビジネスの概況	現代の広告・PRビジネスについて(就活との関連についてグループディスカッション)
第13回	広告・PR会社の組織、機能	広告・PR会社の組織、機能の現状について
第14回	試験・まとめ	論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（30％）と試験（70％）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。

SOC300ED

広告制作実習

青木 貞茂

サブタイトル：広告制作実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な TVCM の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、実際の商品を仮想ケースとして選択し、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。企画立案、表現制作にあたっては、グループでの共同作業を実施してもらう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。授業開始日を4月27日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第 3 回	広告および「広告知」の理論	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第 4 回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第 5 回	成功した広告の事例分析 (1)	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第 6 回	成功した広告の事例分析 (2)	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第 7 回	成功した広告の事例分析 (3)	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第 8 回	CM 制作ケースの選定	広告表現開発の商品ブランドを選定
第 9 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 10 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 11 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (3)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 12 回	生活者インサイトの発見 (1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析
第 13 回	生活者インサイトの発見 (2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析
第 14 回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイデア』（インプレスジャパン、2007 年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

・受講は、メディア社会学科において映像制作の科目を履修済みか、年初（前期内）に 101 教室が主催する映像編集の講習を受け、受講修了証を得ていることを条件とする。
・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
・2017 年度以前入学者については、この科目は通年科目となっています。このシラバスは春学期の内容となりますので、秋学期の内容については「特講（広告制作実習）」のシラバスを確認して下さい。2018 年度以降入学者は、この科目に加えて、秋学期に「特講（広告制作実習）」もセットで履修することが可能です。この科目は、秋学期の「特講（広告制作実習）」で実際に CM 制作をおこなうことを前提とした内容となるため、2 科目合わせての履修を強く推奨します。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【Outline and objectives】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

SOC300ED

広告制作実習

川越 智勇

サブタイトル：広告制作実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TVCM 制作実習のプロセスを通じて、課題発見から解決へのアプローチ、CM の企画、プレゼンテーションの構成／実施について学びます。問いを立てるための視点や企画発想法など、実際の広告実務の背景にある実践的な手法を身につけることを重点的に目指します。

【到達目標】

課題の抽出、解決方針の検討、具体策の立案のプロセスを実際に体験し、広告的な課題解決プロセスをひととおり実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

まず、広告に関する基礎的な事象から、課題抽出／解決のための考え方～秋学期の特講（広告制作実習）で実制作をおこなうために必要となる知識やノウハウを学びます。全体を通して手法の実践をともなう内容になるため、受講者の積極的・主体的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	広告ビジネス概観	広告の役割や広告会社のビジネスモデルなど広告産業に関する基礎と広告制作プロセスについて
第 3 回	広告制作の流れ①オリエン～チームビルディング	広告会社の組織や制作作業に関係するプレーヤーについて
第 4 回	広告制作の流れ②現状分析～課題抽出	市場や生活者について知るためのアプローチから課題を抽出する方法について
第 5 回	広告制作の流れ③企画発想～プレゼン	企画～プレゼンテーションまでの流れについて
第 6 回	広告制作の流れ④実制作～効果測定	撮影や編集など実制作および実施後の効果測定について
第 7 回	CM 企画について①	CM の構成について
第 8 回	CM 企画について②	CM を企画する方法について
第 9 回	CM 企画について③	アイデアとは何かについて
第 10 回	グループ実習①	CM 企画をグループで考える
第 11 回	グループ実習②	CM 企画をグループで考える
第 12 回	グループ実習③	CM 企画をグループで考える
第 13 回	グループ実習④	CM 企画をグループで考える
第 14 回	ケーススタディ	実際の広告キャンペーンを読み解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いち生活者／消費者としての自己の購買行動について客観的に観察すること、日常触れる広告について考察すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義にワークを取り入れていますが、企画についてのものをさらに多くおこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使って課題などを共有することがあります。

【その他の重要事項】

広告会社、クリエイティブブティック、フリーランス、ベンチャーでのクリエイティブ・ディレクター経験があり、現在も広告制作に携わる教員が、最新事例も交えながら広告制作について講義をおこないます。

2017 年度以前入学者については、この科目は通年科目となっています。このシラバスは春学期の内容となりますので、秋学期の内容については「特講（広告制作実習）」のシラバスを確認して下さい。2018 年度以降入学者は、この科目に加えて、秋学期に「特講（広告制作実習）」もセットで履修することが可能です。この科目は、秋学期の「特講（広告制作実習）」で実際に CM 制作をおこなうことを前提とした内容となるため、2 科目合わせての履修を強く推奨します。

なお、授業計画は、授業の展開によって変更することもあります。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the ways of discovering issues, finding solution, and planning for TVC through the process of producing TVCs.

POL200EB, POL200EC

国際関係論 I

志村 真弓

サブタイトル：国際関係論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【※本シラバスは、以下、授業のオンライン化を踏まえて、4月8日に変更を加えたものである】国際関係論の学際性を踏まえたうえで、本科目では特に政治学の観点から現代国際関係を考察する。国際政治学の誕生が20世紀前半の戦間期に求められることを確認し、戦争原因の分析枠組みとして積み上げられてきた外交論を学ぶ。

【到達目標】

国際政治学における外交論と秩序論の基礎的な概念と分析枠組みを理解し、今日の国際問題を批判的・論理整合的・実証的に検討するための視点と方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的にオンライン授業（教科書の指定範囲等を熟読のうえ、学習支援システムを通して示されたレポート課題に取り組むこと）とする。オンライン授業において学生から提出された課題に対しては、教員が全体講評等を示すことにより適宜フィードバックを行う。授業開始日は4月27日（授業計画第4回目に相当）とする。授業計画は授業の進度により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法について
2	ガイダンス（臨時1）	授業のオンライン化について
3	ガイダンス（臨時2）	授業のオンライン化について
4	国際関係論とは何か（1）	国際関係論・国際政治学誕生の歴史的文脈
5	国際関係論とは何か（2）	主権国家体制と勢力均衡論；対象とアプローチ
6	草創期の国際政治学	第一次世界大戦原因論と戦後秩序構想
7	国際政治の「現実」とは	第二次世界大戦とリアリズムの台頭；リアリズムによる国連憲章体制批判
8	外交論（1）	三つの分析レベル；政治の三類型；三つの対外政策決定パラダイム
9	外交論（2）	戦略型ゲームによる分析
10	外交論（3）	展開型ゲームによる分析
11	外交論（4）	抑止の論理
12	外交論（5）	強要の論理
13	外交論（6）	安心供与の論理
14	まとめ	レポート課題の全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに提示された課題（レポート課題2本）に取り組むこと（標準の学習時間は毎週約6時間）。

【テキスト（教科書）】

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題1：50%

レポート課題2：50%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため該当なし。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to theories of International Relations. At the end of the course, students will be able to understand how states interact without central authority in world politics today and what challenges the world faces with for building an international order.

POL300EB, POL300EC

国際関係論 II

志村 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業で学んだ国際政治学の分析視角を踏まえて、本科目では国際法と国際政治が交錯する現代国際秩序の変動過程について考察する。国連の集団安全保障体制における武力不行使原則の課題、国家間の武力行使を禁止する体制のもとで増加した「内戦」の国際的要因と国際的帰結、内戦等への「人道的介入」が「平和」を一層破壊し得るディレンマなどについて考える。

【到達目標】

現代国際社会における《不法で違法な武力行使》と《合法で正当な武力行使》、《国際平和》と《国内平和》、《平和》と《正義》の関係について、国際政治学と国際法学の知見を用いて、批判的・論理整合的・実証的に検討するための視点と方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目は春学期の授業内容を理解していることが前提となる。基本的に講義形式。毎回の授業冒頭10分間で、確認テスト（資料持ち込み可）を通して前回授業の復習を行い、理解の定着を図る。授業計画は授業の進度により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法について
2	国際法と国際政治	戦争違法化の歴史と現在
3	国連集団安全保障体制（1）	国連集団安全保障体制の前提と例外；米ソ対立と集団安全保障
4	国連集団安全保障体制（2）	脱植民地化と国連；冷戦終結と「平和の逆説」
5	国連集団安全保障体制（3）	1991年湾岸戦争の開戦過程；2003年イラク戦争の開戦過程
6	国際平和と国内平和（1）	「内戦」の増加傾向；内戦の国際的要因と国際的帰結
7	国際平和と国内平和（2）	国連平和活動の武装化と多機能化
8	国際平和と国内平和（3）	非国家主体による越境武力攻撃と国家の自衛権
9	国際平和と国内平和（4）	難民問題とは何か、「難民」とはだれか
10	平和と正義の相克（1）	国際社会の「共同の利益」？；国際犯罪者の処罰と「平和」
11	平和と正義の相克（2）	国際犯罪からの保護と武力介入
12	平和と正義の相克（3）	武力行使の法的根拠と政治的正当化
13	まとめ	国際関係論の学際性
14	試験・まとめと解説	持ち込み不可の筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、次回授業冒頭の確認テストに向けて、講義内容を教科書や関連文献を読んで復習すること（標準の復習時間は毎回約4時間）。

【テキスト（教科書）】

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（確認テスト）：45%

授業内試験（第14回授業内に実施。持ち込みなし。一問一答及び短文論述問題）：55%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため該当なし。

【Outline and objectives】

This course examines how international law and international politics interact to shape and change international relations today. It focuses on how international norms and rules on use of force change under the UN collective security system.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による報告分担
2	問題提起—正義のために資本を使う	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コートン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
9	アラスカ・モデルの意義—遺産相続の論理と株式配当収益による無条件現金移転	受講生の報告と教員を交えた議論
10	全グローバル企業の90%を包摂する株式所有ネットワーク形成の意義	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカムの財源規模	受講生報告と教員を交えた議論
12	人類遺産相続基金の論理—全人類の相続回復による本源的蓄積暴力の匡正	受講生報告と教員を交えた議論
13	持ち分所有者全員による人類遺産の管理—透明性と熟議直接民主主義	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	持ち分所有者間紛争の非暴力的管理—歴史的正義回復審判所	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②自分自身の日常生活や国際協力の現状に関するニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年（9月刊行予定）。

【参考書】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

提出された13回分の授業日誌の2項目について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ECN200EB

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:
1)Basic theories of international business
2)Basic frameworks of international business
3)Advantages/disadvantages of international business
4)Social responsibility of multinational companies

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・初回授業：4月21日(火)1時限より学習支援システム上で教材を配布します。
・学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知します。
国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、学習支援システムを通じたオンライン形式で授業を実施します。

詳しくは、学習支援システムを通じて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際経営とは何か	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第3回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第4回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第5回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第6回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第8回	トランスナショナル経営②	国際経営の4タイプ
第9回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第10回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第11回	国際パートナーシップ	生産・販売の海外委託
第12回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第13回	国際経営と CSR, BOP	多国籍企業の社会的責任
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

毎回提示する課題：70%、期末試験もしくは期末レポート：30%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

ECN300EB

国際経営論Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。ここでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書および随時配布する講義資料にもとづく講義形式で実施します。初回の授業で履修上の注意点を説明するので、履修希望者は必ず出席してください。また、リアクション・ペーパーおよび小テストを活用して、受講生からの質問や意見を受け付けます。その結果は授業内で随時フィードバックし、受講生と双方向の授業になるように努めます。なお、授業の進捗状況に応じて、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA 型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営①	先進国市場の特徴
第12回	先進国と国際経営②	先進国企業の特徴
第13回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第14回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%、中間レポート 20%、定期試験 60%で評価します。
小テストを実施した回に欠席した場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies in developed and emerging countries.

ECN200EB

国際経済論Ⅰ

宮崎 礼二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済の理解を深めるための概念と基礎理論を深め、グローバル時代の経済常識を身につけることを目的とする。とくに、外国為替、貿易、多国籍企業、国際金融をテーマに、国際経済に日本を位置づけながら講義を行う。

【到達目標】

1. 国際経済の基礎理論の習得を目標とする。
2. 経済ニュースを理解できるようにすることを目指す。
3. 経済事象に対する洞察力を獲得することを目標とする。
4. 現代の国際経済の特徴を把握し、説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4月21日から取りあえず、ZOOMでのオンライン授業を計画している。Hoppii上の授業掲示板でURLを掲示するので授業時間にアクセスすること。現時点でHoppiiへのアクセスが困難であり、ZOOM操作が不慣れなこともあるので、当面はオンライン授業の習熟期間とする。難易度としては、日本経済新聞の国際経済欄を読める程度を前提とする。春・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	授業の進行方法などガイダンス、国際経済を学ぶ意義
(2)	国際貿易の基礎その1	貿易の基礎知識
(3)	国際貿易の基礎その2	自由貿易と保護貿易—D. リカード vs. F. リスト—
(4)	国際貿易の基礎その3	今日の自由貿易の展開
(5)	多国籍企業と直接投資その1	多国籍企業の諸理論
(6)	多国籍企業と直接投資その2	多国籍企業の史的考察
(7)	多国籍企業と直接投資その3	企業の多国籍化と発展形態
(8)	外国為替の基礎その1	外国為替とは—固定相場制と変動相場制—
(9)	外国為替の基礎その2	外国為替の変動要因
(10)	外国為替の基礎その3	今日の外国為替
(11)	国際金融取引の基礎その1	国境を超越するマネーフロー
(12)	国際金融取引の基礎その2	経済のグローバル化と金融
(13)	国際金融取引の基礎その3	金融危機の特徴
(14)	今日の国際経済	グローバル時代の国際経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義テーマに関する知識と情報を学習しておくこと。
事後学習：講義で紹介する参考文献を読んで、各テーマの理解を深めること。
新聞・TV・インターネットなどを通じて経済関係のニュースに日々触れること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（選択問題と論述形式）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course deals with the foundations of International Economy.

ECN300EB

国際経済論Ⅱ

宮崎 礼二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は、グローバリゼーションの大きな波の只中にある。グローバリゼーションの大波は、歴史上、19 世紀末と 1990 年代半ば以降今日の 2 度我われの経済社会を飲み込んだ。本講義は、第二次世界大戦後の国際経済の展開を軸に、今日のグローバリゼーションを読み解くことを目的としている。とりわけ、グローバリゼーションの原動力である自由貿易の具体的な展開過程から、「国際経済」から「グローバル経済」への変貌について焦点を当てる。

【到達目標】

1. 日々の経済ニュースを歴史的文脈において説明できる。
2. 今日の経済のグローバル化の過程を説明できる。
3. 日々流れる膨大な個別情報を統合して、今日の国際経済の状況を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現代経済の特徴を示す言葉の 1 つとして「グローバリゼーション」が挙げられる。グローバリゼーションという現象が、自分たちから「遠く離れた世界」の出来事や「ニュースの世界」の話ではなく、身近な日々の経済生活に影響を及ぼしているということは多くが認識するところであろう。現代の経済を理解するためには、進行中のグローバリゼーションがいかなる経済現象であるのかを知ることが不可欠である。

そこで、本講義は今日のグローバリゼーションがいかなる経済現象であるのかを把握するために、第二次世界大戦前後から今日に至る国際経済の変遷と展開を、インターナショナルな経済関係からグローバルな経済への移行とその背景に焦点を当てながら、政治経済学的な視角から考察をおこなう。さらに、国際経済の変遷過程に、現実経済と経済政策思想との関係性を見出し、政策面からも国際経済を捉えたい。講義では、個々の具体的な政治経済事象や政策展開を時系列的に取り上げ、それらの政治経済的な意義とそれらが現実の国際経済にどのような影響をもたらしたか、またどのような意味をもったのかを論じたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	戦後構想の背景	大戦前後の覇権を巡る攻防
(2)	自由貿易体制と国際通貨システム	ブレトンウッズ体制の始動
(3)	復興援助政策	冷戦の激化と自由貿易
(4)	「政治経済資源」としての石油	アメリカ中心のシステムへの西欧の統合
(5)	Pax Americana の矛盾とドル「危機」の発生—その 1	アメリカの基礎収支の赤字とドル
(6)	Pax Americana の矛盾とドル「危機」の発生—その 2	新しい国際金融市場—ユーロ市場—の成長
(7)	ブレトンウッズ体制崩壊と Pax Americana の転換	金ドル交換停止の意義
(8)	1970 年代のマネーフローとオイル・ダラー—その 1	オイルショックの発生
(9)	1970 年代のマネーフローとオイル・ダラー—その 2	オイルショックの帰結
(10)	1980 年代のアメリカ経済政策の影響—その 1	アメリカの高金利政策
(11)	1980 年代のアメリカ経済政策の影響—その 2	プラザ合意と日本経済
(12)	冷戦の終結と国際経済	地球一体化の時代の到来
(13)	金融グローバリゼーションとバブル連鎖	リーマンショック前後の国際経済
(14)	21 世紀新たな国際経済における動向	アメリカの TPP 離脱が暗示するもの

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：各講義テーマについて講義前に時代背景などを学習すること。
事後学習：講義内で紹介した文献を読んで、講義内容を補足すること。】

新聞・TV・インターネットなどで日々、政治や経済に関するニュースに触れること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

授業内で多数紹介するが、新岡・板木・増田編『国際経済政策論』有斐閣を基本の参考文献とする。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（選択、論述形式）100 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course deals with the history of international economy after the World War II to understand key challenges related to globalization.

国際社会学 I

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【Outline and objectives】

Students will study main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会学における視点、主要概念、アプローチ方法について学びます。

【到達目標】

グローバル化による社会変容が進む今日、私たちが生きている現代社会の諸問題について国際社会的な視点やアプローチを用いて読み解き、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は 4 月 21 日～講義を開始します。方法は学習支援システムに教材として PPT をアップし、課題に答えるという方法で進めます。また、この科目は春学期の授業内容を踏まえて、秋学期の授業が展開します。そのため、春・秋学期を通じて履修することが望ましいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「国際社会学」とは何か？	授業計画、成績評価についての説明と講義のイントロダクション。
2	グローバル化と社会変容	グローバル化の進展による国家の揺らぎと社会の変容について考えます。
3	「現代の移住」とはいかなる社会現象か	移民現象と国民国家の関係について、国際移民の時代をキーワードに考えます。
4	国際移民研究の理論的展開	国際移住システム論を紹介し、その理論的展開について考えます。
5	国際移住と日本社会	日本社会を事例として現代の移住問題を考えます。
6	日本に移民政策は存在するか？	移民問題を政策面から考えていきます。
7	難民問題と日本社会	難民に対する政策変遷と実態について考えます。
8	止められない移住プロセスの展開	移住プロセスをマイクロ構造の視点から読み解きます。
9	ニューカマーズと在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人コミュニティについて現状と課題を考えます。
10	移住第 2 世代と多文化教育の可能性	アイデンティティと教育を中心に移住第 2 世代をめぐる諸問題について考えます。
11	複層化するアイデンティティ	エスニック・アイデンティティについて考えます。
12	新しい「市民権」とは	新しい「市民権」論について考えます。
13	グローバル化の帰結	グローバル化がもたらす帰結について考えます。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

- 梶田孝道編、2005、『新・国際社会学』名古屋大学出版会。
 - 塩原良和、2012、『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂。
 - S. カースルズ・M. J. ミラー／関根政美・関根薫監訳、2009=2011、『国際移民の時代（第 4 版）』名古屋大学出版会。
 - 樽本英樹編、2018、『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房。
 - 小井土彰宏編、2017『移民政策の国際比較』名古屋大学出版会。
 - 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学』明石書店。
- (参考文献一覧は授業関連サイトにアップする予定です)

【成績評価の方法と基準】

- 授業内試験（100 %）持ち込み不可

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を確認するため、今年度もリアクションペーパーを活用する。

SOC300EB, SOC300EC

国際社会学Ⅱ

田嶋 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住と東アジアのグローバル化を考える

【到達目標】

東アジアにおけるグローバル化の現実とトランスナショナルな社会空間の生成を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。適宜リアクションペーパーを通じて、講義の理解度を確認しますが、出席はとりません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際移住研究の方法論的課題	方法論的課題について考えていきます。
2	送り出しとしての中国社会の変容-改革・開放 40年-	国際移住からみた中国社会を理解する上での前提となる基本構造をみていきます。
3	国際移住からみた中国社会	19世紀後半から現代に至る中国社会と国際移住を考えます。
4	移民社会の中の中国系移住者（その1）オーストラリア	オーストラリアにおける多文化主義政策の中の中国系移住者たちについて考えます。
5	イタリアと温州を繋ぐもの	イタリアに多くの移住者を送り出す温州地域について考えます。
6	移民社会の中の中国系移住者（その2）アメリカ	アメリカ合衆国における中国系移民の歴史的経緯と中国系人の現在を考えます。
7	移民社会の中の中国系移住者（その3）カナダ	カナダにおける多文化主義政策の進展と中国系人の移住について考えます。
8	グローバル化の中の台湾社会	東アジアにおけるグローバル化と台湾社会の変容を考えます。
9	中台関係と外国人労働者問題	台湾における外国人労働者導入の経緯から中台関係を考えます。
10	台湾と香港—一国二制度をめぐる葛藤	一国二制度について取り上げ、香港社会の現状を考えます。
11	ディアスポラとしてのコリアン：北東アジアにおける朝鮮族移住者	北東アジアにおける朝鮮族移住者の現在を考えます。
12	韓国社会の変容過程と南北関係	韓国社会の戦後と南北関係について、考えます。
13	韓国における外国人労働者政策	2000年以降の韓国における外国人労働者政策の変遷を見ていきます。
14	東アジアのグローバル化と国際移住	東アジアにおけるグローバル化の展開と国際移住問題のこれからについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田嶋淳子著『国際移住の社会学』明石書店,2010年（講義の一部をカバーしています）。

【参考書】

参考文献一覧は my campus を通じて、配布予定です。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の試験（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド転換スピードと配布資料の内容

【Outline and objectives】

Students will study main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

LIN100EC

国際社会と言語文化

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語はヒトのコミュニケーションの「手段」であると同時に、思考や文化の「乗り物」でもある。グローバル化が進む現代の世界や各地域を言語という側面からとらえ直し、検証、考察をすすめる。

【到達目標】

1. 言語の歴史、特に近代以降の国民国家形成と言語（「国語」）との関係を学び、その背景をより深く理解する。
2. それぞれの母語と学習中の諸言語について、その言語と文化をさらに積極的に学ぶ態度を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

自らの言語生活を改めて検証する作業を通じて、母語や学習中の諸言語を意識的にとらえ直すための考察をすすめる。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションをとることができる時間と空間としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ヒトの言語	ヒトの移動と言語の機能
2	日本語を検証する ①	「ハイブリッド」の構造
3	日本語を検証する ②	漢字の受容と活用の歴史
4	近代国民国家と言語 ①	「国（家）語」の誕生
5	近代国民国家と言語 ②	「国（家）語」の現在
6	近代国民国家と言語 ③	EUの言語政策（ゲスト）
7	近代国民国家と言語 ④	フランス語の歴史（ゲスト）
8	近代国民国家と言語 ⑤	中国語から考える
9	近代国民国家と言語 ⑥	アジアの諸言語から考える
10	「グローバル言語」	英語から考える（ゲスト）
11	グローバル化と消滅危機言語 ①	言語の多様性と文化の多様性
12	グローバル化と消滅危機言語 ②	言語・文化の多様性と生物多様性
13	21世紀の社会とことば ①	言語と文化の未来を考える（グループ、個人発表と議論） ①
14	21世紀の社会とことば ②	言語と文化の未来を考える ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書その他の書籍について）
2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
3. 授業支援システム等を利用した時間外の討議、意見交換
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「国民国家語」として「再編」された諸言語、その背後にある歴史と文化をしっかりと考察し、「課題1」（書評など、20%）と「課題2」（小論文、50%）を完成させる。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表=30%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to the human languages.

SOC100EC

国際社会と日本

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①国際社会の歴史と現在、②国際社会のなかの日本、③日本のなかの国際化、という 3 つの側面から、「国際社会と日本」というテーマについて学び、考えることを課題とします。

【到達目標】

現代の日本と国際社会について、国際社会における日本、もしくは国際社会との関わり方、日本の国際化について、現在の具体的な事例を考察する視角を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では、最初に「国際社会」「国際化」「グローバル化」などに関する視座を提示した上で、①国際社会の課題と日本、②日本のなかの国際化という側面から、「国際社会と日本」に関わるさまざまな課題を学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス：授業のテーマと目的
第 2 回	国際社会の歴史と現在	現在の国際社会を捉える
	①	
第 3 回	国際社会の歴史と現在	グローバリゼーションの世界史的位相
	②	
第 4 回	国際社会の歴史と現在	グローバリゼーションの特徴に接近する
	③	
第 5 回	国際社会のなかの日本	難民の受け入れと日本
	①	
第 6 回	国際社会のなかの日本	戦争と平和をめぐる課題 I
	②	
第 7 回	国際社会のなかの日本	戦争と平和をめぐる課題 II
	③	
第 8 回	国際社会のなかの日本	マイノリティの権利
	④	
第 9 回	日本のなかの国際化①	ヘイト・スピーチ／ヘイト・クライムをめぐって
第 10 回	日本のなかの国際化②	日本の民族的マイノリティとレイシズム
第 11 回	日本のなかの国際化③	外国人との共生①教育
第 12 回	日本のなかの国際化④	同上
第 13 回	日本のなかの国際化⑤	外国人労働者の受け入れ
第 14 回	日本のなかの国際化⑥	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、参考文献やそれ以外の文献などで、国際社会や日本に関する問題についての勉強を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考書は授業で適宜、紹介しますので、受講生はそれぞれ、参考書を読むようにしてください。

【参考書】

授業で適宜、紹介しますので、それぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①毎回講義後に提出してもらうリアクションペーパー（30%）、②期末試験（70%）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This Lecture's theme is "international society and Japan". The contents are, internationalization in Japan and Japan in the history of an international society, present and the international society.

SOC200EC

国際社会と民族

慎 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会には「国民国家」や「民族」をめぐる多くの摩擦が存在しています。この「国民国家」「民族」とは何なのか、それを単に地域固有の文化の問題として捉えるのではなく、国際社会、国民国家、民族・地域・個人の不均等な重層関係として歴史的に考えていきます。

【到達目標】

「国民国家」「民族」とはどのような歴史的存在であり、国際社会においてどのような政治的・経済的・文化的な重層関係にあるのかを、ヨーロッパ、アジアなど具体的事象の説明を通じて理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

国民国家、民族をめぐる概念と論争、その歴史に関する議論を紹介した上で、国際体制、国民国家、民族・地域・民衆との重層的で不均等な関係を考えます。その後、国際社会、ヨーロッパの国民国家の歴史展開を、不均等な関係に置かれていく民族や地域・民衆の視点から批判的に再検討し、日本・アジアのナショナリズムの歴史と現在について理解を深めます。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方と議論の入り口。
第2回	現代の課題から①	現代世界における「国民国家」「民族」をめぐる諸問題を考える。
第3回	概念と論争の歴史に関する議論を整理する①	民族・国家・国民・ナショナリズムをめぐる概念を考える。
第4回	概念と論争の歴史に関する議論を整理する②	同上
第5回	国民国家の歴史を考える①	西欧の国民国家体系の歴史とフランス国民国家について考える。
第6回	国民国家の歴史を考える②	ドイツの国民国家とユダヤ人問題について考える
第7回	帝国主義と民族①	インドを例に考える。。
第8回	帝国主義と民族②	イスラームの近現代- 宗教と民族・国家について考える。
第9回	ファシズムとジェノサイド	ホロコーストを考える
第10回	日本のナショナリズム（I）	「ナショナリズム」を支える思想と支配体制の特徴を考える。
第11回	日本のナショナリズム（II）	国家と地域・民衆の関係/植民地主義と他民族観の特質について考える。
第12回	東アジアのナショナリズム-中国	知識人の思想と民族運動の展開を検討する。
第13回	まとめ①	これまでの内容をまとめる。
第14回	まとめ②	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国民国家、民族をめぐる時事問題に関心を深めるとともに、できるかぎり講義で適宜紹介する文献を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回の授業の際に、この講義で話すために参照した文献リストを配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

リアクションペーパーを毎回提出してもらいます

【Outline and objectives】

Much friction concerning "nation state" and "race" exists in an international society. I lecture on what this "nation state" "race" is from a historical viewpoint.

BSP100EB, BSP100EC, BSP100ED

国際社会入門

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「国際社会から私へ、私から国際社会へ」。…自分の命は、国際社会の中でどのように生まれ、なぜ大学で学ぶようになったか。その国際社会に向けて、自分の命が続く限り返していけるものは何か。そのために何を学ばばいいか。これらの問いをつきつめて考えるお手伝いをします。

【到達目標】

①自分の人生を、人類史の流れの中で、学問的に振り返る力をつける。②自分の人生の将来について、学問的な見通しをつける。③自分はこの大学で何を学ぶべきか、見通しをもつ。④国際社会で広く議論されている学術的問題を理解し、自分の問題として批判的に捉える力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4月22日開始です。
テキストおよび、担当教員の研究室ホームページからアクセスできる担当教員執筆の論文を受講生全員で分担して報告し、それをもとに全員で議論していきます。受講生は、後述の「授業日誌」を作成しつつ、それをもとに議論に参加します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明：国際社会から私へ。私から国際社会へ。	システム論と生活世界論との関連について。受講生によるテキスト報告の分担。
2	グローバル・ベーシック・インカム論	テキストの序章について、受講生からの報告、討論。
3	ナミビアの事例。	テキスト第2部のナミビア部分の報告、討論。
4	ブラジルの事例。	テキスト第2部のブラジル部分の報告、討論。
5	インドの事例。	テキスト第2部のインド部分の報告、討論。
6	アラスカの事例。	テキスト第2部のアラスカ部分の報告、討論。
7	イランの事例。	テキスト第2部のイラン部分の報告、討論。
8	ナミビアでの社会実験報告。	テキスト第1部の報告、討論。
9	グローバル資本主義システムと生活世界	テキスト全体について、システムと生活世界との関連の視点からの報告と議論。
10	歴史的不正義と先住民民族論	研究室 HP にあるニュージーランド論文をもとに、報告、討論。
11	歴史的不正義とパレスチナ問題（1）	研究室 HP にあるパレスチナ論文をもとに、報告、討論。イスラエル論。
12	歴史的不正義とパレスチナ問題（2）	研究室 HP にあるパレスチナ論文をもとに、報告、討論。パレスチナ論。
13	新部族主義と国家論	研究室 HP にあるシオニズム論文と、新部族主義論文をもとに、報告、討論。授業日誌提出。
14	家族、私有財産あるいは市場、国家を考える。	受講生による授業日誌をもとにする報告と討論。現代社会の生活世界とシステムについての総括討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下5点を含む「授業日誌」を毎回作成する。①授業内容の要約。②授業内容へのコメント（おもしろかった点、よくわからない点を簡潔に）。③授業に関連して自分で読んだ本や資料の要約。④それへのコメント。⑤自分自身の生活を事例として、生活世界とシステムとの関連について考えたこと。疑問点と今後の研究課題。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、定価2000円。
「岡野内正研究室」のホームページからダウンロードできる各種論文（授業計画を参照）。

【参考書】

岡野内正著『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年9月刊予定。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート—不平等社会が生み出す危険な階級』法律文化社、2016年、定価3000円+税）。

【成績評価の方法と基準】

授業日誌について、項目①～⑤のそれぞれについて、到達目標①～⑤に照らして、20%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験を活かして、教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class for the beginners on the issues of International Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOC100EA

国際社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会とは、国境で区切られてしまった人類社会のことだ。20世紀の二度の世界大戦という人類相互の大規模の殺し合いを経て、人類社会は、空前の繁栄を達成したが、いまだに飢餓やテロ、戦争、地球生態系の危機に陥っている。このような諸問題への学問的アプローチを知り、自分の生き方と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

受講生が、今日の国際社会の諸問題の諸相とともに、担当者の仮説を理解し、その是非について批判的に議論できる力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

今日の国際社会の諸問題について、アメリカの外交政策を中心に20世紀の世界秩序を論じた古典的著作を受講生全員で熟読しつつ、世界と私たちの身の回りの現実に照らして、今日の学問状況を批判的に検討する議論を行う。受講生から毎回数名がボランティアとして、テキストの要旨紹介と論点提起、別の文献資料や参考書の論点に照らした問題提起を分担して行ってもらおう。議論をもとに受講生はレポートを作成し、最後の授業の1回前の授業で提出し、最後の授業で採点したレポートを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際社会をめぐる学問状況	授業説明、報告者の決定など。
第2回	アメリカのジレンマ	受講生による報告と教員を交えた議論
第3回	第二次大戦後の妥協	受講生による報告と教員を交えた議論
第4回	競争的安全保障	受講生による報告と教員を交えた議論
第5回	協力的安全保障	受講生による報告と教員を交えた議論
第6回	経済安定化	受講生による報告と教員を交えた議論
第7回	経済転換	受講生による報告と教員を交えた議論
第8回	極、多元性、そして未来	受講生による報告と教員を交えた議論
第9回	教条的ユニラテラリズムとその限界	受講生による報告と教員を交えた議論
第10回	多国籍企業と人権問題	受講生による報告と教員を交えた議論
第11回	いわゆるラギー指導原則における国家	受講生による報告と教員を交えた議論
第12回	ラギー指導原則における企業	受講生による報告と教員を交えた議論

第13回 ラギー指導原則における市民社会 受講生による報告と教員を交えた議論

第14回 国連、国民国家、市民社会 受講生による報告と教員を交えた議論. レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考書を読み、授業でのボランティア報告のための準備、そしてレポートを締め切り厳守で作成し、提出する必要がある。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョン・ジェラルド・ラギー著、小野塚佳光・前田幸男訳『平和を勝ち取る—アメリカはどのように戦後秩序を築いたか』岩波書店、2009年。

ジョン・ジェラルド・ラギー著、東澤靖訳『正しいビジネス——世界が取り組む「多国籍企業と人権」の課題』岩波書店、2014年。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアートの時代』法律文化社、2016年。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

締め切り厳守で提出されたレポートの内容の論理性と実証性について60点満点で評価する。さらに授業での報告や討論への貢献について40点満点で評価する。（その40点の内訳は、ボランティア報告者には無条件で30点、報告内容と議論への貢献について10点とする。）

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義よりは、報告や討論の機会のある授業がいいという声にこたえて、ゼミ形式に近い授業の組み立てにしました。また、結果についてのフィードバックのない試験への不満の声にこたえて、レポートを授業内で採点・返却することにしました。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

POL200EB

国際政治論

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】

「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。「グローバリズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響力は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。学習支援システムで授業が開始されるのは 4 月 23 日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトゥングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケー ジ・ポリティックス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいままでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて「現代欧州統合の構造」芦書房、2008年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらおうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.

LAW200EB

国際法

妻木 伸之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、国際社会を規律する法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】

国際法学の基本的な枠組について理解できること。加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は「講義形式」で実施します。また、疑問点や不明な点がある場合は、積極的に質問するようにしてください。
なお、授業計画は展開によって、若干の変更の可能性がある。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1：「国際法」の歴史の展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入 2：国際社会における立法・司法・執行	国内社会・国内法との比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ。
3	国際法の「法源」—国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」—国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」を持つものとしての国家について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法—国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現—国内実現と国際実現	国内平面と国際平面における国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	戦争の違法化と武力を用いないで紛争を処理する手段について学ぶ。
10	集団安全保障：その限界と克服の努力	武力行使抑制のための枠組としての集団安全保障の展開について学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外および武力紛争における行為の規制について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO 体制	第 2 次大戦後、西側先進国が構築した経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	途上国を中心とする「南側」からの変革運動について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（+補足説明）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書などで、各自、復習をすることを望みます（少なくともレジュメの見直しは必須）。また、参考書の関連部分に目を通すなどの準備が有用です。なお、本授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（レジュメ等を毎回の講義時に配布する。なお、配布物については、授業支援システムにもファイルをアップロードする）。

【参考書】

例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010 年）、玉田大ほか『国際法』（有斐閣（ストゥディアシリーズ）、2017 年）、柳原正治ほか編『ブラクティス国際法講義（第 3 版）』（信山社、2017 年）、渡部茂己ほか編『国際法（第 2 版）』（弘文堂、2014 年）など。また、森川幸一ほか編『国際法で世界が分かる』（岩波書店、2016 年）は時事問題を扱っており興味深い。

【成績評価の方法と基準】

試験期間に実施する試験 100 %。なお、試験のみで評価しますので、卒業を控えている者は、その旨、十分留意すること（追加の救済措置は一切行わない）。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語の説明を丁寧に行う。

【Outline and objectives】

This course introduces the public international law.

The goals of this course is following,

(1) to obtain the basic knowledge of the international law,

(2) as possible, to be able to appraise global issues from the legal perspective.

SOC300ED

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である(株)博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成する。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指す。

【到達目標】

講義を通じて、コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。あわせて、コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個々人が自律的に創りあう関係構築に関与するようになる。また、何かを効果的に伝えることに関する基本的なスキル、知識を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進める。

I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【重要な変更】 コロナウイルス禍の影響により、今期の授業構成と形式を上記予定から大きく変更します。現在、リモートであっても本来のエッセンスをなるべく維持できるよう検討中です。現時点の確定事項は以下の通りです。

①授業開始は5月6日(水)とします。授業終了は予定通り7月15日のままとします。

②授業は、追って受講者にお知らせするサイトを利用した動画配信形式で行う予定です。

③授業構成と回数は、現行のシラバスに極力沿いながら、新しい授業環境に合わせて改定します。その詳細および皆さんに準備していただきたいことなどは、4月29日に受講者に授業支援システムを通してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学ぶ。
2 回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学ぶ。
3 回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学ぶ。
4 回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学ぶ。
5 回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学ぶ。
6 回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学ぶ。
7 回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学ぶ。

8回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学ぶ。
9回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学ぶ。
10回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学ぶ。
11回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学ぶ。
12回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学ぶ。
13回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学ぶ。
14回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物 (ポスター) の提出。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最終回のプレゼンテーションに使用するポスター制作以外に、いくつかの講義で簡単な事前課題を付与する。
 なお、本講義は授業で学んだことを日常生活で実践することで大きな気づきが得られる構成となっている。学生諸君が普段のゼミ活動や論文・レポート作成などで積極的に実践することを期待する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しないが、下記に挙げる講師陣の著書を参考書とする。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイデア』(インプレスジャパン,2007) ※オンデマンドパブリッシング
 博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』(日本経済新聞社,2010)
【追加】 博報堂生活総合研究所『生活者の平成30年史』(日本経済新聞社,2019)

【成績評価の方法と基準】

出席状況に基づく平常点 (80%) と論文課題 (20%) で評価を行う。
【重要な変更】 授業形式の大幅変更に伴い、論文課題のみで評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業終了時に授業に関する質問やフィードバックを記入することをルールとし、次回以降の授業に随時反映させるスタイルとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム内の掲示板を活用すること。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結するが、同時に1つのテーマのもとで連続性を持った構成となっている。その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するため、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。(※当然ながら、遅刻と途中退出は原則的に禁止とする)
 また、授業支援システムを使用しての受講生とのインタラクティブなやりとりも継続するので、学生諸君の積極的な書き込みを期待する。

【Outline and objectives】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論 I

樋口 明彦

サブタイトル：コミュニティ形成論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、コミュニティという言葉が注目されている。かつては、「ご近所さん」のように、地域性が重要な意味を持っていた。ところが、現在では、NPOやネット・コミュニティのように、伝統的な地域性にとらわれない、新たな共同性の形が出現している。現代社会において、なぜコミュニティは争点になるのか。様々な領域のケース・スタディを通じて、その理由を探る。

【到達目標】

①現代社会において、コミュニティが果たす役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。授業内でゲスト講義を1回行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会と世間のはざま
2	理論的考察①	地域性と共同性の乖離
3	理論的考察②	「離脱・発言・忠誠」というオプション
4	ケース・スタディ①	相互扶助と社会保障の相克
5	ケース・スタディ②	町内会・自治会とNPO
6	ケース・スタディ③	商人とまちづくり
7	ケース・スタディ④	防犯という戦略
8	ケース・スタディ⑤	アートという新たなメディア
9	ケース・スタディ⑥	孤独をめぐる闘い
10	ケース・スタディ⑦	親密性と公共性
11	将来展望の検討①	社会的企業という事業体
12	将来展望の検討②	サード・セクターの役割
13	将来展望の検討③	社会的包摂という政策フレーム
14	ゲスト講義	(詳細未定)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

各回の講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①期末試験 (90%)
- ②ゲスト講義への感想文提出 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture on community design

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論Ⅱ

樋口 明彦

サブタイトル：コミュニティ思想論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティは、社会学において最も基本的な概念の一つである。しかし、その用途は多岐に渡り、一筋縄では理解できない。本科目では、コミュニティに関する代表的な社会的著作を一つずつ紹介しながら、この概念が現代社会に与える可能性と限界を検討する。

【到達目標】

- ①社会学におけるコミュニティ概念の系譜を理解する。
- ②コミュニティ概念が現代社会に対して有する批判力を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コミュニティの3類型	B・ウェルマン「コミュニティ問題」
2	コミュニティ喪失論①	F・テンニース『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』
3	コミュニティ喪失論②	R・M・マッキーヴァー『コミュニティ』
4	コミュニティ存続論①	J・ジェイコブズ『アメリカ大都市の死と生』
5	コミュニティ存続論②	H・J・ガンズ『都市の村人たち』
6	コミュニティ存続論③	M・ヤング&P・ウィルモット『東ロンドンの家族と親族関係』*
7	コミュニティ存続論④	G・デンチ、K・ガブロン&M・ヤング『新しいイーストエンド』*
8	コミュニティ解放論①	R・パットナム『孤独なボウリング』
9	コミュニティ解放論②	C・S・フィッシャー『友人のあいだで暮らす』
10	コミュニティ解放論③	Z・パウマン『コミュニティ』
11	コミュニティ解放論④	A・ボルテス&R・ルンバウト『現代アメリカ移民第二世代の研究』
12	コミュニティ解放論⑤	M・カステル『インターネットの銀河系』
13	日本のコミュニティ①	大塚久雄『共同体の基礎理論』
14	日本のコミュニティ②	岩崎信彦他編『阪神・淡路大震災の社会学①②③』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「授業計画」の「内容」を参照。*の付いている書籍のみ、邦訳なし。

【成績評価の方法と基準】

- ①期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

The lecture on community design

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

雇用政策論

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用政策のなかでも、就業形態の多様化、労働市場に関する法、雇用関係を取り巻く変化に応じた各種法規の動向の理解することを目的としている。

【到達目標】

雇用政策に係る法律制度、パート有期法、職業安定法、労働者派遣法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、障害者雇用促進法、高齢者雇用安定法、雇用対策法等といった労働法令の制定・改正過程及び法令内容を正しく理解し、その役割と課題を理解・説明できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

労働市場法制、多様な働き方に対応した法律の制定・改正動向や雇用政策（若年雇用対策、高齢者雇用対策）等を取り扱う。

最新の統計資料、論文、新聞・雑誌記事、裁判例などを用いて、これらの課題を検討する。雇用問題に関するVTRを視聴して、レポートを提出する機会を設ける。（授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	労働法の構造と近年の立法・改正状況を学ぶ。
2	パート有期法	パート有期法の内容と改正経緯を学ぶ
3	労働者派遣法	派遣をめぐる雇用政策を学ぶ
4	雇用平等	性別差別禁止、母性保護、均等法を学ぶ
5	ワーク・ライフ・バランス	育児介護休業法を学ぶ
6	労働者の人格権保障（1）	ハラスメント対策を学ぶ
7	労働者の人格権保障（2）	プライバシー、個人情報保護を学ぶ
8	守秘義務・競争禁止義務	不正競争防止法について学ぶ
9	雇用保険制度	雇用保険の意義を学ぶ
10	若年雇用	青少年雇用促進法等について学ぶ。
11	高齢者の雇用	高齢者雇用安定法を学ぶ
12	雇用政策と障害者	障害者雇用促進法を学ぶ
13	外国人雇用政策	外国人雇用に関する政策の展開を学ぶ
14	授業内試験と解説	試験を実施し、解説・総評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布するレジュメ、資料、テキストの該当箇所を熟読して予習しておくこと。労働関係、労働法に興味を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読み、雇用政策に関するTV番組（ドキュメンタリー、ニュース解説）などを視聴し、その内容や自分の意見・感想を記録しておくこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年4月発刊予定、本体2,300円（予備）+税

【参考書】

労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2020年版）』、浜村彰・唐津博・青野寛・奥田香子『ベーシック労働法』第8版、2020年3月発刊予定、のほか講義内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間中のレポート・宿題（20%）、試験（80%）の合計により評価。試験は論述式に筆記試験で、雇用政策を正しく理解し、その役割と課題を理解・説明できるという到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

論理的な文章、法律や政策に係る論述について、より綿密な指導を実施する。社会・経済政策と雇用政策の関連と相違について着目した文献・情報等の収集を奨励し、学生の自発的な学びの機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムでレジュメの配布するので、プリントアウトして持参のこと。雇用政策にかかる新聞記事などに注目すること。授業支援システム内でのレポートの提出。

【Outline and objectives】

Employment policy theory

It aims to understand the diversification of employment form, the labor market law, and the trends of various laws and regulations.

LAW200EA

雇用と法

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用に関する法律（労働法）の基礎を学ぶ。労働法の成立過程、個別労働関係法、集団労働関係法の基礎を理解することを目的とする。

【到達目標】

労働基準法、労働契約法、労働組合法について基礎的な知識を身につける。採用から退職に至るまでの、労働契約の成立・展開・終了と、労働条件の基準、労働条件の変更、労働基本権について、条文に基づいて正しく理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いながら授業を行う。事前に授業支援システムでレジュメ、資料を配付するので、各自プリントアウトして持参すること。宿題、ミニテストを随時実施する。（授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得えます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程を学ぶ
第 2 回	就職活動と法	労働契約の成立過程について学ぶ
第 3 回	労働契約	労契法の意義と内容について学ぶ
第 4 回	就業規則	就業規則の意義、労働条件の変更を学ぶ
第 5 回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、支払、最賃法を学ぶ
第 6 回	労働時間（1）	法定労働時間、変形制を学ぶ
第 7 回	労働時間（2）	時間外労働と割増賃金を学ぶ
第 8 回	休日・休暇	法定休日、年休を学ぶ
第 9 回	人事異動	配転・出向・転籍を学ぶ
第 10 回	服務規律と懲戒	企業秩序と懲戒を学ぶ
第 11 回	労働契約の終了（1）	解雇規制、解雇権濫用法理を学ぶ
第 12 回	労働契約の終了（2）	定年、退職、雇止めを学ぶ
第 13 回	安全配慮義務と労災保険	労災、安全配慮義務を学ぶ
第 14 回	労働基本権	労働組合法の意義を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に際して、事前に授業支援システムで配布されたプリントとテキストの該当箇所を熟読のうえで毎回必ず出席する。テレビ、新聞、雑誌等における雇用・労働問題に関わる記事を意識して読み、ノートに記載していく。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020 年 4 月発刊予定、本体 2,300 円（予価）＋税

【参考書】

講義のなかでその都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間中の課題・宿題（20%）、期末試験期間（80%）の合計により評価。試験は論述式の筆記試験。労働基準法、労働契約法、労働組合法について基礎的な知識を正しく身に付けて、条文に沿って学説、判例を引用しつつ設問に対し論理的に解答できるかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

法理論と実際の法律適用の場面とを結びつけて理解できるよう、2019 年度はビデオ視聴の機会を増やした。最新の雇用情勢に係る情報を提供するよう心がけている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにてレジュメ資料を配付するので、各自プリントアウトのうえ持参すること。

【その他の重要事項】

関連科目（雇用政策論）

【Outline and objectives】

It aims to understand the foundation of Labor Standards Law, Labor Contract Law, and Labor Union Act

COT100EA

コンピュータ入門

石井 由起

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、基礎的な操作を習得します。大学での学習と、実社会で必要とされる、発表やレポート作成などの表現を自在にこなすための情報スキルを身につけます。

【到達目標】

大学の授業で横断的に必要なスキルである、情報を検索し、分析し、文書や web ページ、プレゼンテーションで伝える技能を身につけます。具体的には、基礎的なソフトウェア、Microsoft Office を活用して文書や報告の作成、発表ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら [https://www.housei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/](https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/)

【授業の進め方と方法】

ワードやエクセル、インターネットなどを利用して、コンピュータ・リテラシーの技量を高めます。コンピュータの仕組みや成り立ち、その発達が社会に与える影響などについても考察します。

2020/04/16 追記

本授業の開始日は 4 月 22 日（水）
この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。春学期前半のオンラインでの開講にともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の使用やルールの説明
第 2 回	ネットワーク 前編	メール設定とネチケット
第 3 回	ネットワーク 中編	グーグルでランデブー
第 4 回	ネットワーク 後編	ヤフーとグーグルの情報検索
第 5 回	ワープロ 前編	ワードの基本操作
第 6 回	ワープロ 後編	ワード文書の作成
第 7 回	表計算 前編	エクセルの基本操作
第 8 回	表計算 中編	エクセルの関数
第 9 回	表計算 後編	エクセルでグラフ作成
第 10 回	ワープロと表計算	マクロ機能
第 11 回	HTML 前編	HTML の基本構造
第 12 回	HTML 後編	HTML によるレイアウト
第 13 回	ホームページ制作	ホームページ制作 前編
第 14 回	ホームページ制作	ホームページ制作 後編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回数も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60%、課題（提出物）40%です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。

2020/04/13 追記

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準を若干変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意して下さい。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To clarify the basic knowledge about computer and network systems.
To manipulate OSs and applications for academic works.
To create academic works and analyze data by applying the skills gained in this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

石井 由起

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、基礎的な操作を習得します。大学での学習と、実社会で必要とされる、発表やレポート作成などの表現を自在にこなすための情報スキルを身につけます。

【到達目標】

大学の授業で横断的に必要なスキルである、情報を検索し、分析し、文書や web ページ、プレゼンテーションで伝える技能を身につけます。具体的には、基礎的なソフトウェア、Microsoft Office を活用して文書や報告の作成、発表ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワードやエクセル、インターネットなどを利用して、コンピュータ・リテラシーの技量を高めます。コンピュータの仕組みや成り立ち、その発達が社会に与える影響などについても考察します。

2020/04/16 追記

本授業の開始日は 4 月 22 日（水）

この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。春学期前半のオンラインでの開講にともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の使用やルールの説明
第 2 回	ネットワーク 前編	メール設定とネチケット
第 3 回	ネットワーク 中編	グーグルでランデブー
第 4 回	ネットワーク 後編	ヤフーとグーグルの情報検索
第 5 回	ワープロ 前編	ワードの基本操作
第 6 回	ワープロ 後編	ワード文書の作成
第 7 回	表計算 前編	エクセルの基本操作
第 8 回	表計算 中編	エクセルの関数
第 9 回	表計算 後編	エクセルでグラフ作成
第 10 回	ワープロと表計算	マクロ機能
第 11 回	HTML 前編	HTML の基本構造
第 12 回	HTML 後編	HTML によるレイアウト
第 13 回	ホームページ制作	ホームページ制作 前編
第 14 回	ホームページ制作	ホームページ制作 後編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意して下さい。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To clarify the basic knowledge about computer and network systems.
To manipulate OSs and applications for academic works.
To create academic works and analyze data by applying the skills gained in this course.

PR1100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、授業資料の中で合わせて提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日の予定で、この日の授業開始時刻に授業のおおまかなスケジュールなどを記した書面を学習支援システムの「教材」にアップロードする。そのスケジュールに変更がある場合は、学習支援システムの「お知らせ」に掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 5 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 6 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能（続き）、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 7 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 8 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 9 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 10 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 11 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 12 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 13 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作（続き）
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させていくこと。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更することを検討している。具体的な方法と基準は、できるだけ早期に授業資料の中で合わせて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this lecture, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment.

PRI100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、授業資料の中で合わせて提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日の予定で、この日の授業開始時刻に授業のおおまかなスケジュールなどを記した書面を学習支援システムの「教材」にアップロードする。そのスケジュールに変更がある場合は、学習支援システムの「お知らせ」に掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 5 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 6 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能（続き）、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 7 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 8 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 9 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 10 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 11 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 12 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 13 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作（続き）
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させていくこと。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更することを検討している。具体的な方法と基準は、できるだけ早期に授業資料の中で合わせて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this lecture, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment.

PR1100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、授業資料の中で合わせて提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日の予定で、この日の授業開始時刻に授業のおおまかなスケジュールなどを記した書面を学習支援システムの「教材」にアップロードする。そのスケジュールに変更がある場合は、学習支援システムの「お知らせ」に掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 5 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 6 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能（続き）、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 7 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 8 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 9 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 10 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 11 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 12 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 13 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作（続き）
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させていくこと。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更することを検討している。具体的な方法と基準は、できるだけ早期に授業資料の中で合わせて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this lecture, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment.

PRI100EA

コンピュータ入門

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生としての「学び」を円滑にするための、最低限必要なコンピューターのスキルの習得

【到達目標】

Microsoft Office 関連の操作の習熟。HTML についての理解。ファイル管理の徹底。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【変更】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日・ガイダンスは【4月23日】とするが、以降、【5月7日】までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この実習では、これから大学生活をおくるために最低限必要な、コンピューターの基礎知識を確認・習得することを目的とします。具体的にはワード／パワーポイント／エクセル／HTML の作成などを行います。単なるスキルの習得を目指すだけでなく、「何故これが必要なのか？」ということを常に考えながら、授業を進めていければと思っています。

※ 秋学期の「プログラミング入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの確認。授業の進行についての説明。各自「自己紹介」の作成。
2	Word ①	アウトラインモードによる文章作成。ファイル管理についての説明。
3	Word ②	前回の続き。文章の構造化とは何かについて考える。
4	Power Point ①	word で作成した資料をもとに、プレゼンテーションの作法を学習する。
5	Power Point ②	前回の続き。プレゼンテーション用資料の完成
6	Power Point ③	プレゼンテーションの実際。発表会。
7	Excel ①	表計算ソフトを使用した簡単な集計の説明。基本操作の確認。グラフの作成など。
8	Excel ②	表計算ソフトを使用したやや難しい集計の実習。基本的な関数の確認と、組み合わせ。
9	Excel ③	マクロを使用したデータベースの処理。
10	Excel ④	文系的表計算ソフト活用術。文献リストの作成。
11	HTML ①	Word~Power Point 作品をもとにした、ホームページの草案づくり。
12	HTML ②	ホームページ（トップページ）の作成。
13	HTML ③	ホームページ（サブページ）の作成。
14	HTML ④	簡単な CSS（スタイルシート）を用いた、ホームページ全体の調整。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させること。それが復習の役割を担うはずで、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

【変更】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

平常点 (10 %), HTML 課題 (90 %)

※ HTML の課題（提出は必須）が未完成だった時のみ、Word / PowerPoint / Excel の課題提出状況を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつの作業について、「何故そうなるのか？・なぜそれが必要なのか？」を細かく説明できれば良いと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを用意してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundation of personal computer operation to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生としての「学び」を円滑にするための、最低限必要なコンピューターのスキルの習得

【到達目標】

Microsoft Office 関連の操作の習熟。HTML についての理解。ファイル管理の徹底。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【変更】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日・ガイダンスは【4月23日】とするが、以降、【5月7日】までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この実習では、これから大学生活をおくるために最低限必要な、コンピューターの基礎知識を確認・習得することを目的とします。具体的にはワード／パワーポイント／エクセル／HTML の作成などを行います。単なるスキルの習得を目指すだけでなく、「何故これが必要なのか？」ということを常に考えながら、授業を進めていければと思っています。

※ 秋学期の「プログラミング入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの確認。授業の進行についての説明。各自「自己紹介」の作成。
2	Word ①	アウトラインモードによる文章作成。ファイル管理についての説明。
3	Word ②	前回の続き。文章の構造化とは何かについて考える。
4	Power Point ①	word で作成した資料をもとに、プレゼンテーションの作法を学習する。
5	Power Point ②	前回の続き。プレゼンテーション用資料の完成
6	Power Point ③	プレゼンテーションの実際。発表会。
7	Excel ①	表計算ソフトを使用した簡単な集計の説明。基本操作の確認。グラフの作成など。
8	Excel ②	表計算ソフトを使用したやや難しい集計の実習。基本的な関数の確認と、組み合わせ。
9	Excel ③	マクロを使用したデータベースの処理。
10	Excel ④	文系的表計算ソフト活用術。文献リストの作成。
11	HTML ①	Word~Power Point 作品をもとにした、ホームページの草案づくり。
12	HTML ②	ホームページ（トップページ）の作成。
13	HTML ③	ホームページ（サブページ）の作成。
14	HTML ④	簡単な CSS（スタイルシート）を用いた、ホームページ全体の調整。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させること。それが復習の役割を担うはずで、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

【変更】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

平常点 (10 %), HTML 課題 (90 %)

※ HTML の課題（提出は必須）が未完成だった時のみ、Word / PowerPoint / Excel の課題提出状況を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつの作業について、「何故そうなるのか？・なぜそれが必要なのか？」を細かく説明できれば良いと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを用意してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundation of personal computer operation to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

近藤 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとインターネットをより有効かつ安全に活用するための知識と技術の修得。

【到達目標】

レポートや資料作成のような大学生活に必要な技術を身に付けつつ、その後も実社会で通用するコンピュータの基本的な知識を修得する。メールや Web 等のインターネットの基本的な仕組みを理解し、ネットワーク社会において必須となる知識とマナーを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業は 5 月 15 日に本格的に開始するが、4 月 24 日には具体的なオンライン授業の方法と準備しておくべき物を学習支援システムにて提示するので、各自必ず確認しておく。

本授業は内容をネットリテラシー、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトと大きく 4 つの単元に分けて進める。その中で演習を積み重ね最後に課題を課す。さらに単元間の関係を考えていく事で体系的な理解力を身に付ける。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	休講	準備期間として休講とする
第 3 回	コンピュータ入門	コンピュータの基本操作、法政大学 Gmail の使い方
第 4 回	インターネット (1)	ネット犯罪と情報倫理
第 5 回	インターネット (2)	HTML の基本構造とレポートの HTML 化
第 6 回	Word(1)	基本操作
第 7 回	Word(2)	レポートの整形
第 8 回	Excel(1)	基本操作とグラフの作成
第 9 回	Excel(2)	式と関数
第 10 回	Excel(3)	課題制作
第 11 回	PowerPoint(1)	基本操作
第 12 回	PowerPoint(2)	課題制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単元相互に関係があるため、一度休むとそれ以降の受講に影響する。やむを得ず欠席した場合には必ず自習しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回課す課題の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難易度の評価にばらつきが大きい。基準は上げ過ぎないようにしつつ応用課題を組み込んでいく。

【Outline and objectives】

This course introduces knowledge and skills to make more effective and safe use of computers and the Internet to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

近藤 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとインターネットをより有効かつ安全に活用するための知識と技術の修得。

【到達目標】

レポートや資料作成のような大学生活に必要な技術を身に付けつつ、その後も実社会で通用するコンピュータの基本的な知識を修得する。メールや Web 等のインターネットの基本的な仕組みを理解し、ネットワーク社会において必須となる知識とマナーを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業は 5 月 15 日に本格的に開始するが、4 月 24 日には具体的なオンライン授業の方法と準備しておくべき物を学習支援システムにて提示するので、各自必ず確認しておく。

本授業は内容をネットリテラシー、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトと大きく 4 つの単元に分けて進める。その中で演習を積み重ね最後に課題を課す。さらに単元間の関係を考えていく事で体系的な理解力を身に付ける。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	休講	準備期間として休講とする
第 3 回	コンピュータ入門	コンピュータの基本操作、法政大学 Gmail の使い方
第 4 回	インターネット (1)	ネット犯罪と情報倫理
第 5 回	インターネット (2)	HTML の基本構造とレポートの HTML 化
第 6 回	Word(1)	基本操作
第 7 回	Word(2)	レポートの整形
第 8 回	Excel(1)	基本操作とグラフの作成
第 9 回	Excel(2)	式と関数
第 10 回	Excel(3)	課題制作
第 11 回	PowerPoint(1)	基本操作
第 12 回	PowerPoint(2)	課題制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単元相互に関係があるため、一度休むとそれ以降の受講に影響する。やむを得ず欠席した場合には必ず自習しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回課す課題の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難易度の評価にばらつきが大きい。基準は上げ過ぎないようにしつつ応用課題を組み込んでいく。

【Outline and objectives】

This course introduces knowledge and skills to make more effective and safe use of computers and the Internet to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、Word/Excel/PowerPoint の操作を網羅的に行う。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文において一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行うという、一連の作業ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4/22(水)に、2020 年度の授業の進め方を『学習支援システム』を通してご連絡します。

本授業ではレポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられたときにどのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」という一連の作業を行えばいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、学期末に最終プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3	情報の検索と収集	google 等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
4	情報の分析（1）	Excel の基本操作
5	情報の分析（2）	表の作成と集計
6	情報の分析（3）	関数を使用した計算
7	マクロの利用（1）	Excel 上で簡単なマクロの記録
8	マクロの利用（2）	VBA の簡単な紹介と基礎的なプログラムの作成
9	情報のまとめ	適切な図表に分析結果をまとめる
10	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成
11	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
12	発表資料の作成（1）	PowerPoint の基本操作
13	発表資料の作成（2）	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
14	ホームページ制作	html を利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となります。何度も練習して、少しでも早く正確に文字入力ができるように努力してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題 (40%)
・最終発表課題 (30%)
・平常点 (30%)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline and objectives】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

PRI100EA

コンピュータ入門

林田 和人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決するためには、コンピュータやインターネットの利用が必須です。

そこで、自分の問題解決のための道具として、コンピュータやインターネットを自在に活用できるように、基礎的な能力を身につけましょう。使い方を覚えるだけでなく、自分で問題を発見し、それに対する解決策を考えると、アウトプットする能力も身につけます。

【到達目標】

コンピュータのいろいろな利用方法を学び、自分の問題解決に使えるようになることを到達目標とします。

具体的には、ワープロ、表計算ソフトの使い方を習得するだけでなく、自分で問題を見つけ、それに対する回答として考えたアイデアを、プレゼンテーションソフトやホームページで表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎的なツールの習得	ガイダンス、パスワード変換、日本語変換（変換対象場所の移動、変換対象の変更）、ショートカットキー、拡張子、階層構造、ファイルの複製、圧縮してメール送信
第 2 回	基礎的なネットワークの習得、「課題 1（こんなあったらいいな）」の課題	クラウドである R ドライブを知る、課題 1 のポイントは問題の発見と解決策の提案
第 3 回	Excel の習得 1	Excel でグラフの作成、「課題 1（こんなあったらいいな）」のエスキース
第 4 回	Excel の習得 2	Excel の並べ替えを学ぶ
第 5 回	PowerPoint の使い方	PowerPoint の使い方を学ぶ
第 6 回	「課題 1（こんなあったらいいな）」の制作 1	「課題 1（こんなあったらいいな）」を PowerPoint を使って制作する
第 7 回	「課題 1（こんなあったらいいな）」の制作 2	「課題 1（こんなあったらいいな）」を PowerPoint を使って制作する
第 8 回	「課題 1（こんなあったらいいな）」の発表	「課題 1（こんなあったらいいな）」を発表し意見交換する
第 9 回	ペイントの習得	お絵描きソフトの一つであるペイントで作成する
第 10 回	HTML の習得 1	HTML の基礎を習得する、「課題 2（ホームページ）」の課題
第 11 回	HTML の習得 2	習得した HTML を用いて簡単なサンプルを作成する
第 12 回	ホームページの作成 1	CSS の基礎を習得する
第 13 回	ホームページの作成 2	HTML を用いてホームページを制作する
第 14 回	「課題 2（ホームページ）」の発表	「課題 2（ホームページ）」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に來れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, it is necessary to use a computer and the Internet.

You will acquire the ability to freely utilize computers and the Internet. It is not just to remember how to use it.

You will also acquire the ability to discover problems yourself and think about solutions to it.

PRI100EA

コンピュータ入門

林田 和人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決するためには、コンピュータやインターネットの利用が必須です。

そこで、自分の問題解決のための道具として、コンピュータやインターネットを自在に活用できるように、基礎的な能力を身につけましょう。

使い方を覚えるだけでなく、自分で問題を発見し、それに対する解決策を考えると、アウトプットする能力も身につけます。

【到達目標】

コンピュータのいろいろな利用方法を学び、自分の問題解決に使えるようになることを到達目標とします。

具体的には、ワープロ、表計算ソフトの使い方を習得するだけでなく、自分で問題を見つけ、それに対する回答として考えたアイデアを、プレゼンテーションソフトやホームページで表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎的なツールの習得	ガイダンス、パスワード変換、日本語変換（変換対象場所の移動、変換対象の変更）、ショートカットキー、拡張子、階層構造、ファイルの複製、圧縮してメール送信
第2回	基礎的なネットワークの習得、「課題1（こんなのあったらいいな）」の出題	クラウドであるRドライブを知る、課題1のポイントは問題の発見と解決策の提案
第3回	Excelの習得1	Excelでグラフの作成、「課題1（こんなのあったらいいな）」のエスキース
第4回	Excelの習得2	Excelの並べ替えを学ぶ
第5回	PowerPointの使い方	PowerPointの使い方を学ぶ
第6回	「課題1（こんなのあったらいいな）」の制作1	「課題1（こんなのあったらいいな）」をPowerPointを使って制作する
第7回	「課題1（こんなのあったらいいな）」の制作2	「課題1（こんなのあったらいいな）」をPowerPointを使って制作する
第8回	「課題1（こんなのあったらいいな）」の発表	「課題1（こんなのあったらいいな）」を発表し意見交換する
第9回	ペイントの習得	お絵描きソフトの一つであるペイントで作成する
第10回	HTMLの習得1	HTMLの基礎を習得する、「課題2（ホームページ）」の出題
第11回	HTMLの習得2	習得したHTMLを用いて簡単なサンプルを作成する
第12回	ホームページの作成1	CSSの基礎を習得する
第13回	ホームページの作成2	HTMLを用いてホームページを制作する
第14回	「課題2（ホームページ）」の発表	「課題2（ホームページ）」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業にあれば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, it is necessary to use a computer and the Internet.

You will acquire the ability to freely utilize computers and the Internet. It is not just to remember how to use it.

You will also acquire the ability to discover problems yourself and think about solutions to it.

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後に活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は【4月22日】とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第2回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第3回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第4回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第5回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第6回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第7回	PowerPoint	発表効果を意識した資料作成を行う
第8回	Excel: 相対参照と絶対参照	相対・絶対参照を活用する
第9回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第10回	Web: インターネットと画像ファイル	インターネットの仕組み、情報収集/画像編集
第11回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第12回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第13回	Web: ページの公開	HTML 文書の公開について学ぶ
第14回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・キーボードで日本語長文の入力が円滑に行なえるよう、タイピング練習を行なうこと。

・復習を必要に応じて行うこと。

・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。

・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・久野靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 監修『キーワードで学ぶ最新情報トピックス』日経 BP 社 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったため、成績評価の方法と基準も若干変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

・授業内課題の合計点・・・60%

・2回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

様々な履修者が集まるため、例年「難しかった」「簡単だった」と両方の感想がありますが、どちらのタイプの人にも自分で考え手を動かすことを楽しんでもらえるよう、説明はじっくり丁寧にしつつ、簡単すぎて退屈させないよう課題内容を工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】

科目の性質上、受講にはインターネットに接続できるパソコンが必要になります。

- ・OSはWindows、Macどちらでも構いません。
- ・少々古くても、セキュリティ対策や動作に問題がなければ大丈夫です。
- ・「Microsoft Office」のうち、「WordとExcelとPowerpoint」がインストールされている必要がありますが、法政大学学生の皆さんは最新版を無料でインストールできます。

<https://software.k.hosei.ac.jp/office365/index.html>

(法政大学ソフトウェアステーション：Office365 Pro Plus を使いたい)を参考にしてください。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

この授業は毎回、実習室のコンピュータを使用して行います。

課題作成や復習のため、授業時以外にもコンピュータを使用する必要がありますが、大学には自習室や貸出機器があるため、必ずしもパソコンを購入する必要はありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to get computer literacies.

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後に活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は【4月27日】とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第2回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第3回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第4回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第5回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第6回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第7回	PowerPoint	発表効果を意識した資料作成を行う
第8回	Excel: 相対参照と絶対参照	相対・絶対参照を活用する
第9回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第10回	Web: インターネットと画像ファイル	インターネットの仕組み、情報収集/画像編集
第11回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第12回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第13回	Web: ページの公開	HTML 文書の公開について学ぶ
第14回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・キーボードで日本語長文の入力が円滑に行なえるよう、タイピング練習を行なうこと。

・復習を必要に応じて行うこと。

・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。

・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・久野靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 監修『キーワードで学ぶ最新情報トピックス』日経 BP 社 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったため、成績評価の方法と基準も若干変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%

・2回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

様々な履修者が集まるため、例年「難しかった」「簡単だった」と両方の感想がありますが、どちらのタイプの人にも自分で考え手を動かすことを楽しんでもらえるよう、説明はじっくり丁寧にしつつ、簡単すぎて退屈させないよう課題内容を工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】

科目の性質上、受講にはインターネットに接続できるパソコンが必要になります。

- ・OSはWindows、Macどちらでも構いません。
- ・少々古くても、セキュリティ対策や動作に問題がなければ大丈夫です。
- ・「Microsoft Office」のうち、「WordとExcelとPowerpoint」がインストールされている必要がありますが、法政大学学生の皆さんは最新版を無料でインストールできます。

<https://software.k.hosei.ac.jp/office365/index.html>

(法政大学ソフトウェアステーション：Office365 Pro Plus を使いたい)を参考にしてください。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

この授業は毎回、実習室のコンピュータを使用して行います。

課題作成や復習のため、授業時以外にもコンピュータを使用する必要がありますが、大学には自習室や貸出機器があるため、必ずしもパソコンを購入する必要はありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to get computer literacies.

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後に活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は【4月22日】とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第2回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第3回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第4回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第5回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第6回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第7回	PowerPoint	発表効果を意識した資料作成を行う
第8回	Excel: 相対参照と絶対参照	相対・絶対参照を活用する
第9回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第10回	Web: インターネットと画像ファイル	インターネットの仕組み、情報収集/画像編集
第11回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第12回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第13回	Web: ページの公開	HTML 文書の公開について学ぶ
第14回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・キーボードで日本語長文の入力が円滑に行なえるよう、タイピング練習を行なうこと。

・復習を必要に応じて行うこと。

・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。

・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・久野靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 監修『キーワードで学ぶ最新情報トピックス』日経 BP 社 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったため、成績評価の方法と基準も若干変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%

・2回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

様々な履修者が集まるため、例年「難しかった」「簡単だった」と両方の感想がありますが、どちらのタイプの人にも自分で考え手を動かすことを楽しんでもらえるよう、説明はじっくり丁寧にしつつ、簡単すぎて退屈させないよう課題内容を工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】

科目の性質上、受講にはインターネットに接続できるパソコンが必要になります。

- ・OSはWindows、Macどちらでも構いません。
- ・少々古くても、セキュリティ対策や動作に問題がなければ大丈夫です。
- ・「Microsoft Office」のうち、「WordとExcelとPowerpoint」がインストールされている必要がありますが、法政大学学生の皆さんは最新版を無料でインストールできます。

<https://software.k.hosei.ac.jp/office365/index.html>

(法政大学ソフトウェアステーション：Office365 Pro Plus を使いたい)を参考にしてください。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

この授業は毎回、実習室のコンピュータを使用して行います。

課題作成や復習のため、授業時以外にもコンピュータを使用する必要がありますが、大学には自習室や貸出機器があるため、必ずしもパソコンを購入する必要はありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to get computer literacies.

PRI100EA

コンピュータ入門

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、Word/Excel/PowerPointの操作を網羅的に行う。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文において一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excelを使って分析し、Wordを使って報告書にまとめ、Powerpointを使って発表を行うという、一連の作業ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではレポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられたときにどのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」という一連の作業を行えばいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、学期末に最終プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Windowsの基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2.	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3.	情報の検索と収集	google等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
4.	情報の分析（1）	Excelの基本操作
5.	情報の分析（2）	表の作成と集計
6.	情報の分析（3）	関数を使用した計算
7.	マクロの利用（1）	Excel上で簡単なマクロの記録
8.	マクロの利用（2）	VBAの簡単な紹介と基礎的なプログラムの作成
9.	情報のまとめ	適切な図表に分析結果をまとめる
10.	報告書の作成	Wordを用いた報告書の作成
11.	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
12.	発表資料の作成（1）	PowerPointの基本操作
13.	発表資料の作成（2）	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
14.	ホームページ制作	htmlを利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となります。何度も練習して、少しでも早く正確に文字入力ができるように努力してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内課題 (40%)
- ・最終発表課題 (30%)
- ・平常点 (30%)

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline and objectives】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

PRI100EA

コンピュータ入門

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

【Outline and objectives】

Understand basic operations for using Windows PC

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実作業上確実に役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。パソコンと、スマートフォンや PDA（携帯情報端末）との共通点や相違点についても理解する。

【到達目標】

Windows パソコン全体の使い方。および、Word、Excel、PowerPoint の一通りの操作、およびネットワークの概要についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パソコンでの実操作を通して、コンピュータがどうやって動くか、コンピュータは何が得意で何が不得意かを体系的に学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部、および Windows 基本 1	・ Windows 基本操作 電源 On、ログオン、アプリ起動、電源 Off までの一連の操作
第 2 週	Windows 基本 2	・ 改めてキーボードを見直す（両手を使うこと！） ・ ドライブ、フォルダ、ファイル操作
第 3 週	電子メール	・ 送受信の基本方法 ・ 転送/返信/CC/BCC の使い方
第 4 週	Word：文書作成ソフト	・ 文書の構造を考える ・ フォーマットに沿って文書作成を行う
第 5 週	PowerPoint：発表用資料作成ソフト	・ まず作ってみる ・ 更に凝ったものを作る機能
第 6 週	Excel(1)：計算表用のソフト。一番飯のタネになるアプリ	・ 基本操作：サンプル表の作成 ・ 何を選択しているかの識別 ・ ブックとシート
第 7 週	Excel(2)：ちょっと踏み込んだ操作	・ 書式指定：ややこしいけれども案外大切 ・ 関数の一部の使用
第 8 週	Excel(3)：こんなこともできます	・ ちょっと複雑な関数の使い方
第 9 週	Web についての基本知識	・ 超入門：HTML(Web ページの記述)
第 10 週	各アプリを組み合わせて文書作成	・ PowerPoint に Excel/画像等を組み込んでみる
第 11 週	覚えておくと便利なこと	・ Word, Excel, PowerPoint 等の共通操作について
第 12 週	Web の明と暗、学習および学習棄却	・ 慣れ親しんだ知識との決別も必要 ・ メディア・リテラシーおよびコンピュータ・リテラシー
第 13 週	不明点の確認および課題資料の作成	・ 構想を練る&草稿作成
第 14 週	課題の完成	・ 最終版作成 + 提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 大学の実習室での授業が実施出来ない期間は、課題提出をもって出席とみなす。

・ 授業時間外での質問等は基本的に電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・ 実習室での授業が実施出来ない期間は基本的に課題点により評価する。
・ 質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

・ 毎回の授業で必ず覚えてプラスになるものがあるように工夫する。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

ECN300EB

財政学 I

関口 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財政学 I」では、自らの経済生活を豊かにするために、経済学・政治学・行政学・経営学・会計学・社会学にまたがり「境界線上の学問」とも称される財政学の歴史と分析方法、財政学の広範な主題の重要部分とされる予算、そして政府の存在根拠を中心に公共経済学の基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

講義を契機にして、財政の理論と実際そして財政制度の基本的な知識を習得をし、財政制度および政策の経済的な意義と問題点を明らかにすることを目標とする。また、本講義では財政学の特定分野に特化しないで、財政学全般を対象とするので、現実問題について幅広く受講生自ら考える力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、遠隔講義形式とする。毎回講義の感想等を学習支援システム経由で提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含めたい。
2. 事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学 I」と「財政学 II」をともに受講することが望ましい。
3. 大学の遠隔講義体制が5月に本格化することから、受講生の遠隔講義受信体制が整うまでの期間を考え、4月28日を暫定講義開始日とする。学年歴の講義開始日である21日は受信設定と第1回講義のための予習に専念してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	I. 緒論（財政と財政学） 〈教科書：開講にあたり〉	1. 法政大学元総長大内兵衛と財政学 2. 経済学と財政学
第2回	I. 緒論（財政と財政学）	3. 財政学とは何か〈教科書：第1章〉
第3回	I. 緒論（財政と財政学）	4. 財政学と財政思想の変遷〈教科書：第2～3章〉
第4回	I. 緒論（財政と財政学）	5. 現代財政学の展開〈教科書：第3章〉
第5回	I. 緒論（財政と財政学）	5. 財政の機能と分析方法〈教科書：第3～4章〉
第6回	II. 予算論〈教科書：第5章〉	1. 予算の意義 2. 予算原則
第7回	II. 予算論	3. 日本の予算・決算制度 (1)〈教科書：第6章〉
第8回	II. 予算論	3. 日本の予算・決算制度 (2)〈教科書：第6～7章〉
第9回	II. 予算論	4. 財政投融资制度〈教科書：第20章〉
第10回	II. 予算論	5. 予算の改革〈教科書：第8章〉
第11回	III. 公共経済学の基礎理論	1. 政府が存在するための経済的根拠〈教科書：第9章〉
第12回	III. 公共経済学の基礎理論	2. 市場の失敗（独占・外部性）〈教科書：第9章〉
第13回	III. 公共経済学の基礎理論	3. 公共財の理論（続・市場の失敗）〈教科書：第9章〉
第14回	III. 公共経済学の基礎理論	4. 政府の失敗〈教科書：第9章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩著『財政学入門 [新版]』同文館、令和元年。

【参考書】

1. 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。
2. 池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣、平成27年。
3. 参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2. 例年は目安として、夏の定期試験(70%)を中心に、出席票のコメント(30%)、講義最終回指定提出物(必須)等を加味して評価している。本学期もこれに準拠することになるが、具体的方法と基準は学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特に経済学的により深く学ぼうとする学生は、理論経済学(ミクロ経済学・マクロ経済学)を履修済みもしくは同時履修することが望ましい。

【その他の重要事項】

時間の関係で扱えない「地方財政論」は別枠で半期講義(水・秋学期3限)があるので、ぜひとも併せて受講してほしい。

【Outline and objectives】

We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

ECN300EB

財政学Ⅱ

関口 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【学生の意見等からの気づき】

「財政学Ⅱ」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【その他の重要事項】

「地方財政論」(水・3限)を受講することを推奨したい。

【Outline and objectives】

We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財政学Ⅱ」では、「財政学Ⅰ」を踏まえて財政学の理解をより深めるために、古くから財政学の首座を占めてきた租税、そして社会保障、教育、財政赤字等の今日的な財政問題、また財政政策について学ぶ。

【到達目標】

「財政学Ⅰ」と同様に、財政の理論と実際そして財政制度の基本的知識を習得し、財政制度および政策の経済的意義と問題点を受講者自身が考える手助けをすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 基本的には講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。

2. 事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学Ⅰ」と「財政学Ⅱ」をともに受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Ⅳ. 経費論（教科書：第10～11章）	1. 経費の意義と経費膨張の法則 2. 政府の範囲と国民経済計算・経費区分
第2回	Ⅳ. 経費論	3. 社会保障の財政問題（教科書：第12章）
第3回	Ⅳ. 経費論	4. 教育財政（教科書：第13章）
第4回	Ⅳ. 経費論	5. 費用便益分析（教科書：第14章）
第5回	Ⅴ. 租税論（総論）（教科書：第15章）	1. 租税の意義と機能
第6回	Ⅴ. 租税論（総論）	2. 租税負担の根拠と負担配分の公平 3. 租税体系と租税原則（教科書：第15章）
第7回	Ⅴ. 租税論（総論）（教科書：第15章）	4. 最適課税論
第8回	Ⅴ. 租税論（総論）	5. 租税の転嫁と帰着 6. 租税体系の変遷と国際比較（教科書：第15～19章）
第9回	Ⅵ. 租税論（各論）	1. 所得課税の理論と実際（教科書：第16～17章） 2. 消費課税の理論と実際（教科書：第18章）
第10回	Ⅵ. 租税論（各論）	3. 資産課税の理論と実際（教科書：第16章）
第11回	Ⅶ. 公債論（教科書：第20～21章）	1. 公債の意義と種類 2. 公債原則論と公債負担論
第12回	Ⅶ. 公債論	3. 日本の公債問題（教科書：第22章）
第13回	Ⅷ. 財政政策論（教科書：第23～24章）	1. ケインズ経済学の基礎 2. フィスカル・ポリシーとビルト・イン・スタビライザー
第14回	Ⅷ. 財政政策論	3. IS-LM分析とポリシー・ミックス（教科書：第24章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「準備学習」にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。あわせて、「財政学Ⅰ」で未消化の知識については、教科書を活用して、各自でその補修をしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩著『財政学入門〔新版〕』同文館、令和元年。

【参考書】

1. 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。
2. 片桐正俊編『財政学（第3版）』東洋経済新報社、平成26年。
3. 参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 基本的に「財政学Ⅰ」と同じである。第1回講義の説明を必ず聞くこと。
2. 目安として、冬の定期試験（70%）を中心にして、出席票のコメント（30%）、講義最終回指定提出物（必須）等を加味して評価する。

SES100EB

サステナビリティ論 A

田中 充

サブタイトル：環境問題 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題は人間活動により引き起こされる問題であり、社会の持続性「サステナビリティ」を考える上できわめて重要です。授業では、環境の視点からサステナビリティをとらえ、問題の構造、持続可能な開発目標、文明と環境との関わり、公害・環境問題の原因と解決策について学びます。

【到達目標】

持続可能な社会に向けて環境問題の基礎的な知識を修得し、その発生原因と影響、対策の考え方について理解します。環境問題の考え方・とらえ方、解決の考え方である「環境リテラシー」について学び、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。理解度を確認するため、受講生の発言を求めるとともに、毎回アクションペーパーを記入し提出します。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方と諸注意 環境問題とサステナビリティ	シラバスを解説し、受講上の注意をします。講義の出発点としてサステナビリティと環境問題の概要を学びます。
2	環境問題の意義と構造	環境問題を考える意義と環境問題の構造を解説します。持続可能な開発目標について紹介します。
3	文明の発達と環境問題	人間文明の発達と環境問題との関わりを学びます。
4	イースター島の文明崩壊と環境サステナビリティ	文明社会の発達が環境サステナビリティの破壊を引き起こした事例を学びます。
5	日本における公害問題の経緯～足尾銅毒事件	日本の公害問題の経緯を振り返り、近代化の過程で発生した足尾銅毒事件を学びます。
6	日本の高度経済成長とイタイイタイ病	高度経済成長期に発生したイタイイタイ病の原因・構造を学びます。
7	高度経済成長期の薬品公害・食品公害	産業公害と同時に発生した薬害と食品公害（カネミ油症事件等）を学びます。
8	公害問題の原点「水俣病」の構造	公害問題の原点である水俣病問題の経緯と被害構造を学びます。
9	水俣病による地域社会への影響	加害者・被害者の立場から水俣病が地域社会に及ぼした影響と構造的な要因を学びます。
10	水俣病の拡大と被害者の救済	水俣病被害の拡大の背景、水俣病裁判の経緯を学びます。
11	水俣病に学ぶ教訓－環境サステナビリティの視点	水俣病を例として環境問題の特徴と課題、教訓を抽出し、サステナビリティを考えます。
12	都市の水問題～水不足	グローバルな環境問題として世界の水問題について学びます。
13	都市の水問題～水の汚染	水問題のもう一つの側面である水質汚染の実態と対策について学びます。
14	環境サステナビリティの実現に向けて－講義のまとめ	環境サステナビリティの実現に向けて、何が必要かを受講生との討論形式で考え、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。授業期間中に課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）ほか、必要に応じて授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・配分は、授業参加（平常点）30 %、課題レポート 10 %、期末試験 60 % とします。
- ・授業参加として、毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回につき 2～0 点）し、全回提出で満点 30 点とします。
- ・課題レポート（小テストに代える場合がある）を 1 回行い、満点 10 点とします。期末に状況に応じて自主（救済）レポートを行う場合があります。
- ・授業のまとめとして満点 60 点の期末試験を行います。
- ・欠席の多い受講態度（概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオ上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
- ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等を事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論

<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of environmental issues, especially environmental sustainability.

SES100EB

サステナビリティ論 B

平野 寛弥

サブタイトル：環境問題 B

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな社会問題の概況を紹介するとともに、それに対する政策的対応（社会政策）について解説する。

【到達目標】

いわゆる社会政策ないしは広い意味での福祉政策についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

代表的な社会問題を取りあげて、具体的な事例を素材として、政策的な対応について検討する。

受講者からの質問やコメントなどにも積極的に返答し、さらなる思考を促すような双方向的な授業を行う。

なおコロナウイルスの感染拡大により、対面での授業ができないことから、本科目はオンライン方式での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代社会と社会問題、社会政策
第 2 回	健康	自死、ストレス、うつ病、依存症、肥満、喫煙、健康至上主義、高額医療
第 3 回	家族	パートナーシップ、生涯未婚、家族の多様化
第 4 回	子育て	待機児童、児童虐待、子育て支援
第 5 回	教育	実学志向、奨学金、発達障害・学習障害
第 6 回	介護	高齢化、認知症、老老介護、介護保険
第 7 回	生命倫理	臓器移植、人工生殖、遺伝子操作、出生前診断
第 8 回	差別	性、障害、LGBT、外国人、先住民への差別、同和問題
第 9 回	貧困	格差社会、生活保護、ホームレス
第 10 回	労働・雇用	就活、ブラック企業、リストラ、過労死、サービス残業、給与体系、福利厚生、労働条件、ワークライフバランス
第 11 回	所得保障	賃金水準、公的年金、ベーシックインカム
第 12 回	人口減少	出生率、労働力不足、移民、少子化対策
第 13 回	環境	温暖化、森林破壊、大気汚染、海洋汚染、SDGs
第 14 回	持続可能性を再考する	持続可能な社会に向けた課題の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

各回の授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各授業でのリアクションレポート（50%）および期末レポート（50%）により評価する。

なお、期末レポートの提出は単位取得にとって必須である。

ボーダーライン層については、各講義でのリアクションレポートの提出状況および内容を勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（今年度から担当します）。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、講義内容に変更が生じる可能性がありますのでご了承ください。

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

平野 寛弥

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「雇用と社会保障」をキーワードに日本の産業を取り巻く現状と課題を学ぶ。

【到達目標】

日本型雇用と呼ばれる日本独自の雇用慣行や労働を取り巻く現状、社会保障の概要を学ぶとともに、女性、非正規労働者、高齢者、外国人労働者など周辺化された労働者の実態と関連する政策を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

日本型雇用と呼ばれる伝統的な雇用慣行など、雇用を取り巻く現状を解説したあと、社会保障制度について概説する。あわせて、社会サービスの産業化やベーシックインカム構想への注目の高まりなど、政府と市場の新しい関係が生まれつつある状況についても触れることで、今後の日本社会における雇用と社会保障の関係を再検討する。

なおコロナウイルスの感染拡大により、対面での授業ができないことから、本科目はオンライン方式での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代社会において雇用と社会保障を学ぶ意味とは
第 2 回	日本型雇用とその功罪	日本型雇用の概要とその特殊性、およびそれがもたらした影響（サービス残業、長時間労働）
第 3 回	労働組合と労使関係	労働組合の役割とその衰退、労使関係の変遷
第 4 回	女性の労働	女性の労働を取り巻く状況（就労率、就労形態、給与等の待遇、労働条件）
第 5 回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワーク・ライフ・バランスの目的と実態、働き方改革の現状
第 6 回	高齢社会の到来が産業にもたらす影響	定年制の意義、退職年齢の引き上げの影響、高齢化が産業にもたらす影響
第 7 回	外国人労働者とその受け入れ	日本の外国人労働者の実態（人数、役割、産業別分布）、受け入れ政策の概要と課題
第 8 回	企業の社会的役割	企業の社会的責任（CSR）、地域社会との関係構築
第 9 回	社会サービスの産業化	介護サービス供給、生活困窮者支援における民間団体の進出
第 10 回	諸外国における社会サービスの産業化	イギリスの就労支援の外部委託（コントラクト・アウト）の現状
第 11 回	社会保障制度の現状と課題	社会保障制度の目的とそ p の概要、直面する課題
第 12 回	企業の福利厚生と社会保障制度	生活保障に果たす企業の役割と公的社会保障制度との関連
第 13 回	雇用と社会保障の再検討	雇用のフレキシブル化、AI の発達、ベーシックインカム
第 14 回	今後の日本社会と産業	秋学期後半のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用や社会保障について関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度の時間をかけて、キーワードの下調べや疑問点についての確認をすること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

各授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義でのリアクションレポート（50%）、および期末レポート（50%）で評価する。

なお、期末レポートの提出は単位取得にとって必須である。

ポスターライン層については各講義でのリアクションレポートの提出状況や内容を勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対して提出されたリアクション・ペーパーについては、次回の授業でできるだけ答えるようにし、共有を図る。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更となる可能性があるのでご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, you can understand the current state and issues of Japanese industry, focusing on employment and social security.

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

鈴木 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業社会学は、「働くこと」とは何か、「働くこと」が時代の変化でどのように変化したのかを学ぶ学問である。この授業は、1990年代以降の経済や社会情勢の変化のもと、働く人たち（労働者）がどのような課題を抱えているのか、そのような課題についてどのような解決策が模索されているのかなどの「労働問題」について考える。具体的には、長時間労働、不安定雇用、雇用の多様化、労働運動の変化の模索などについて検討する。

【到達目標】

学生は、労働者が直面している問題についての実態や具体的事例を理解し、労働問題が起きる社会的、制度的構造や労働問題を解決するために何が求められるのかを、社会学的な分析枠組みから把握・分析できるようにする。また、様々な雇用形態、属性、出身地をもつ労働者が働くうえで直面する諸問題を理解できる「想像力」をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各テーマに関するレジュメを配布し、それに基づいた講義を行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：労働問題をどのようにみるのか	労働者が現在おかれた状況について統計などを使い概観する
第2回	労働時間 (1)	労働時間の諸統計の検討、この30年でどのように変化したのか、長時間労働の弊害
第3回	労働時間 (2)	長時間労働問題に対してどのような解決策が検討されてきたのか、また対策は効果があったのか
第4回	正規雇用と非正規雇用 (2)	従来の「日本的雇用関係」の下での正規雇用と非正規雇用のあり方
第5回	正規雇用と非正規雇用 (2)	90年代以降の「日本的雇用関係」の変化に伴う正規雇用のあり方の変容、非正規雇用の拡大
第6回	労働組合 (1)	「日本的雇用関係」と企業別組合
第7回	労働組合 (2)	企業別組合の「機能不全」とユニオン運動
第8回	中間テスト	授業前半のまとめ
第9回	女性労働 (1)	女性労働者が直面する賃金や雇用上の差別について
第10回	女性労働 (2)	賃金や雇用上の差別に対する女性労働者の運動
第11回	外国人労働者 (1)	90年代以降の日本で働く外国人労働者の状況の推移
第12回	外国人労働者 (2)	技能実習制度、特定技能などの日本の外国人労働者政策の問題点
第13回	近年の労働問題	コンビニオーナーなどの個人事業主の広がりや労働問題

第14回 授業内試験

授業後半のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業で指示された新聞記事や本の一部を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』旬報社（各年）
竹信三恵子『企業ファースト化する日本』岩波書店（2019年）
熊澤誠『働きすぎに斃れて』岩波書店（2010年）
その他、授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストで各50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対して提出されたリアクション・ペーパーについては、次回授業でできるだけ答えるようにする。

【Outline and objectives】

Industrial sociology examines the meaning of labor and how modes of labor have changed from an industrial to post-industrial era. This course focuses on issues faced by workers (labor issues) and policies and social movements that sought to address these issues under changing social and economic contexts in Japan since the 1990s. Specific topics include long working hours, precarious employment, diversity of workforce, and new trends in the labor movement.

GDR100EC

ジェンダー論

飯野 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【Outline and objectives】

1. Learn terminology and concepts essential in studies on gender problems. 2. Analyze problems in areas such as the modern family, feminism and men's studies, gender and violence and sexuality (body, beauty, commercialization), and reproduction (population policies, reproductive medicine). 3. Be able to consider solutions to current problems after understanding gender and sexuality problems brought about by modernization.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ジェンダー問題を学ぶ上で不可欠な用語や概念を学ぶ。2. 近代家族・フェミニズムと男性学・ジェンダーと暴力・セクシュアリティ（身体・美容・商品化）・リプロダクション（人口政策・生殖医療）といった分野の諸問題について分析する。3. 近代化によってもたらされたジェンダー、セクシュアリティ問題を理解した上で、今日的な問題の解決を考えられるようにする。

【到達目標】

1. 文化と性差、性別の多様性について理解し、多様な生き方を肯定する視点を身につける。2. フェミニズムの問題意識と、男性学の目指すものについて理解した上で、具体的な諸問題を分析できるようにする。3. 近代家族と性別役割分業の今日的問題について検証する。4. 「美・医」と「性・生殖」の関係と国家管理、近代的身体観の成立を、男女の方向性の違いに着目し、理解する。5. 近代化をジェンダー、セクシュアリティといった視点から問い直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業の場合、学習支援システムを使用し、レジュメを配布、課題を提示する。

履修生は教科書、レジュメを読み、課題を提出する。

授業開始は4月21日。双方向型ではないので、必ずこの日にpc、スマホを見なければならぬわけではないが、学習支援システムは必ずこまめにチェックをすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ジェンダー、セクシズム	性別の多様性、基本用語と概念
2.	近代化と第一波フェミニズム	第一波フェミニズムの問題意識と目的
3.	戦後民主化と第二波フェミニズム	第二波フェミニズムの問題意識と目的
4.	近代家族と性別役割分業	近代家族の特徴と問題、家族の多様性
5.	ドメスティックバイオレンス…被害者支援	ジェンダーと暴力、関係性
6.	ドメスティックバイオレンス…加害者プログラム	加害者プログラムの現状と問題点
7.	身体の二重規範…男女の方向性	「美」と「健康」…身体の家管理
8.	ダイエットと摂食障害	「美」と「健康」…矛盾と主体性の獲得
9.	美容医療の現状と問題点	美容医療の問題点について検証する。
10.	美容医療…是非論の整理	美容医療をめぐる議論及び男性と美容
11.	男性学という視点	男性解放とは何か。男性性を問い直す。
12.	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	概念、人口政策の変遷と問題点
13.	生殖医療…代理出産	生命倫理、身体的手段化、家族を持つ権利をめぐる議論
14.	性の商品化…男女の非対称性	セクシュアリティ問題を様々な視点から分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ジェンダー、セクシュアリティ関連の報道には注意をして、事実関係や世論を把握する。授業で扱った問題について自分自身の意見をまとめ、リアクションペーパーに記述する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準。

【テキスト（教科書）】

伊藤公雄、幸田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』、世界思想社、2015、1800円（本体）

【参考書】

参考書は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、初回授業4/21日に、方法と基準を示します。

【学生の意見等からの気づき】

ドメスティックバイオレンスや美容医療といった問題をジェンダー論という視点で見るとどうなるのか、「俗説・常識」を覆すような意見を学生ができるようにしたい。加害者プログラム、代理出産など世論を二分するような問題については学生に意見を書かせ、発表する。

COT300ED

システム・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：UNIXシステム実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Apple 社のコンピュータ用 OS「MacOS」のベースやサーバ用に広く使われる OS「UNIX」の実習により、多様なコンピュータ・携帯端末や、インターネットを用いたサービスの仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

UNIX の基本や活用法を知って、コンピュータ・携帯端末やインターネットの仕組みをよりよく理解し、さらなる活用につなげます。UNIX はもちろん、Mac の基本操作や活用法などを知ることで、コンピュータや携帯端末をより自由に選択できるようになることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は【4月27日】とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

Apple 社のコンピュータ「Mac」を使う UNIX の実習となるため、Mac の基本操作から始めます。

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、試験の代わりに大課題を2回程度出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	MacOS と UNIX	MacOS と UNIX の関係について
第2回	ファイル操作	UNIX でのファイル操作を学ぶ
第3回	ディレクトリ操作	UNIX でのディレクトリ概念を学ぶ
第4回	コマンドとオプション	UNIX の様々なコマンドを学ぶ
第5回	インターネットと UNIX	ネットワークを介して UNIX を使う
第6回	テキストエディタ	「Vi」の基本操作を学ぶ
第7回	シェルスクリプト基本	シェルスクリプトを実行する
第8回	シェルスクリプト活用	シェルスクリプトを編集・作成する
第9回	Web と UNIX	Web と UNIX サーバについて
第10回	Web プログラミング基本	サーバで動くプログラムを作る
第11回	Web プログラミング活用	インタラクティブな Web ページ作成
第12回	復習	学んだ内容を復習し理解を深める
第13回	Web システム	簡易的な Web システムを作る
第14回	UNIX の活用まとめ	学んだ UNIX の活用法を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回新しい事柄を取り上げるので、復習を積極的に行うこと。
・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的・積極的に取り組むこと。
・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書の指定なし。授業時に参考文献や Web サイトを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったため、成績評価の方法と基準も若干変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%

・2回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

例年「簡単過ぎずやり甲斐があった・意欲的な学生が集まっていて刺激を受けた」という声があります。入門科目の内容を十分に習得していることと積極的な姿勢が必要な科目で、2年次春学期の履修者からは「他の情報科目を履修した後、2年次秋学期以降に履修するとより理解が深まったかも」との意見もあったので参考にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

科目の性質上、受講にはインターネットに接続できるパソコンが必要です。
・OS はできる限り Mac、無理なら Windows でも構いませんが【新しい Windows よりも古めの Mac】を準備して下さい。
・少々古くても、セキュリティ対策や動作に問題がなければ大丈夫です。
・法政大学学生の皆さんは「Microsoft Office」の最新版を無料でインストールできます。

<https://software.k.hosei.ac.jp/office365/index.html>

(法政大学ソフトウェアステーション：Office365 Pro Plus を使いたい)

を参考にしてください。

===以上、4月16日追記。以下は、当初予定された内容===

授業は社会学部棟 101 教室の Mac で行います。課題作成や復習には、大学や私物のコンピュータを積極的に利用して下さい。授業では主に Mac を使いますが、Mac を所有している必要はありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中および授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to use many basic commands of UNIX and to get how to make shell scripts.

COT300ED

システム・プログラミング A

堀 亜砂実

サブタイトル：UNIXシステム実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Apple 社のコンピュータ用 OS「MacOS」のベースやサーバ用に広く使われる OS「UNIX」の実習により、多様なコンピュータ・携帯端末や、インターネットを用いたサービスの仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

UNIX の基本や活用法を知って、コンピュータ・携帯端末やインターネットの仕組みをよりよく理解し、さらなる活用につなげます。

UNIX はもちろん、Mac の基本操作や活用法などを知ることで、コンピュータや携帯端末をより自由に選択できるようになることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Apple 社のコンピュータ「Mac」を使う UNIX の実習となるため、Mac の基本操作から始まります。

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、試験の代わりに大課題を 2 回程度出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	MacOS と UNIX	MacOS と UNIX の関係について
第 2 回	ファイル操作	UNIX でのファイル操作を学ぶ
第 3 回	ディレクトリ操作	UNIX でのディレクトリ概念を学ぶ
第 4 回	コマンドとオプション	UNIX の様々なコマンドを学ぶ
第 5 回	インターネットと UNIX	ネットワークを介して UNIX を使う
第 6 回	テキストエディタ	「Vi」の基本操作を学ぶ
第 7 回	シェルスクリプト基本	シェルスクリプトを実行する
第 8 回	シェルスクリプト活用	シェルスクリプトを編集・作成する
第 9 回	Web と UNIX	Web と UNIX サーバについて
第 10 回	Web プログラミング基本	サーバで動くプログラムを作る
第 11 回	Web プログラミング活用	インタラクティブな Web ページ作成
第 12 回	復習	学んだ内容を復習し理解を深める
第 13 回	Web システム	簡易的な Web システムを作る
第 14 回	UNIX の活用まとめ	学んだ UNIX の活用法を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回新しい事柄を取り上げるので、復習を積極的に行うこと。
 ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的・積極的に取り組むこと。
 ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時までに、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書の指定なし。授業時に参考文献や Web サイトを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
 ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

例年「簡単過ぎずやり甲斐があった・意欲的な学生が集まっていて刺激を受けた」という声があります。入門科目の内容を十分に習得していることと積極的な姿勢が必要な科目で、2 年次春学期の履修者からは「他の情報科目を履修した後、2 年次秋学期以降に履修するとより理解が深まったかも」との意見もあったので参考にして下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業は社会学部棟 101 教室の Mac で行います。課題作成や復習には、大学や私物のコンピュータを積極的に利用して下さい。授業では主に Mac を使いますが、Mac を所有している必要はありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中および授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to use many basic commands of UNIX and to get how to make shell scripts.

COT300ED

システム・プログラミングB

伊藤 真利子

サブタイトル：プログラミング中級 C

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段利用している様々な Web サービスの裏側では、サービスを提供する側のコンピュータが働いています。その OS（オペレーティングシステム）環境として、現在広く使われているのが「Linux」です。Linux に初めて触れる人を対象に、実習形式で操作に親しみ、理解を深めることを目指します。

【到達目標】

Linux の操作コマンドに始まり、いくつかのコマンドを組み合わせたスクリプトの作成や、スクリプト言語 Python の基本を学びます。毎回の授業でシンプルな課題に取り組みます。プログラミングは人を対象とした調査や実験研究にも役立ちますので、そうしたシステムづくりも想定しながら学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実習室の機器を利用して進めます。毎回、小さな課題に取り組みます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の目標、予定、進め方
第 2 回	Linux の基本動作	ログイン、ログアウトなど
第 3 回	コマンドの心得	コマンド入力の基本
第 4 回	ディレクトリ	ディレクトリという概念や、関連するコマンド
第 5 回	正規表現	検索やその条件指定（正規表現）に関連するコマンド
第 6 回	パイプライン	コマンドをつなぎ合わせた使い方
第 7 回	シェルスクリプト（1）	単純なシェルスクリプトの作成から実行まで
第 8 回	シェルスクリプト（2）	より柔軟で便利なシェルスクリプトの書き方
第 9 回	スクリプト言語 Python（1）	Python とは何か
第 10 回	スクリプト言語 Python（2）	より柔軟で便利な Python スクリプトの書き方
第 11 回	スクリプト言語 Python（3）	より拡張的な Python スクリプトの書き方（特に、ファイル入力）
第 12 回	スクリプト言語 Python（4）	より拡張的な Python スクリプトの書き方（特に、ファイル出力）
第 13 回	まとめと最終課題	ここまでのまとめと、学習内容を盛り込んだ最終課題の説明
第 14 回	最終課題	ここまでの学習内容を盛り込んだ最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は基本的に必要ありません。ただし、授業内での理解が不十分だと感じた場合や、授業内に課題を提出できなかった場合や、やむを得ず欠席した場合には自習が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。PowerPoint の資料を毎回提示します。

【参考書】

参考書は必要に応じて講義の中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点（50%）と最終提出課題（50%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

スピードは人それぞれなので、一人ひとりに合わせた助言を行います。

【その他の重要事項】

質問は授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This class is designed for those who trying to operate Linux OS (operating system) for the first time. Course objective is to introduce students the operating method and basic concept of the Linux OS.

MAT100EA

自然科学特講（数学）

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は、必ずある前提の上に理論が成り立っている。中学や高校の数学で「二人でじゃんけんをして勝つ確率は」などの問題にも、前提条件がある。この授業では、具体的な問題に取り組みながら、生活の中の自然現象や数の仕組みなどを考察する。実際に手を動かし、体を使って毎回問題に取り組むことで「試行錯誤しながら問題を解決する能力」を身につける「きっかけ」をつかむことを目的とする。

【到達目標】

自分が解らない問題を提示されたときに「自ら問題を解決する取り組み」ができるようになることをはじめの目標とする。さらに「論理的な考え方・数学的思考力が必要である」ことに気づき更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

はじめに「数学」を取り巻く世界の歴史を振り返りながら紹介する。その後はグループに分かれて実験を行う他、各自パズルに取り組むなど具体的な問題に取り組む。さらには、理論的なアプローチを行い、実際の現象との比較を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと数学のはじまり	「数学」とは何かを説明し、講義の進め方および成績評価について説明をし、数学のルーツと世界史から見る数学の発展を学ぶ。
2	数学と文明	古代の数学と文明の発展との関連を学ぶ。
3	N 進法	デジタルの世界で用いられる二進法や近年まで多く使われていたローマ数字などについて学ぶ。
4	きれいな数	計算によってきれいな並びを示す数字について、その美しさの原理を学ぶ。
5	実際の確率を試す	サイコロを投げてデータをとり「数学的確率」を考える。
6	立体を考える（1）	一つの升でいろいろな容積を量ろう。
7	立体を考える（2）	体積をパズルを使って考える。
8	論理パズルに挑戦	帽子の問題他「論理思考」を鍛えよう。
9	図形パズルに挑戦	古代から考えられてきた「土地の分割」パズルを考える。
10	円周率を考える	作図で極限を体験する。
11	和算に挑戦（1）	江戸時代に日常的に使われていた図形パズルを体験しよう。
12	和算に挑戦（2）	江戸の庶民も熱中した油分け算に挑戦。
13	数学の鍵を考える。	数学の鍵でもある「命題」について学ぶ。
14	まとめ	これまでの講義の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートは丁寧にきちんとまとめ、毎週授業の後には復習をして欲しい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内での取り組みと課題提出 (60%) および期末試験 (40%) により評価する。授業後の課題に掛ける時間は毎回通常 4 時間程度と考えるが、難しい問題に関しては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

これまで知識として持っていたことも、実際手を動かして作業をしながら考えると、まったく違う角度で見えてくる。体を動かしながら物を考えることで、自分自身の思考力についても、いろいろ考えるきっかけになったようだ。

【Outline and objectives】

In mathematics, the theory is based on certain assumptions. In this lecture, we will consider natural phenomena in life and the mechanism of numbers while working on concrete problems. The purpose of this study is to get a chance to learn "the ability to solve problems by trial and error" by actually moving hands and using the body to tackle problems each time.

MAT100EA

自然科学特講（数学）

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は、必ずある前提の上に理論が成り立っている。中学や高校の数学で「二人でじゃんけんをして勝つ確率は」などの問題にも、前提条件がある。この授業では、具体的な問題に取り組みながら、生活の中の自然現象や数の仕組みなどを考察する。実際に手を動かし、体を使って毎回問題に取り組むことで「試行錯誤しながら問題を解決する能力」を身につける“きっかけ”をつかむことを目的とする。

【到達目標】

自分が解らない問題を提示されたときに「自ら問題を解決する取り組み」ができるようになることをはじめの目標とする。さらに「論理的な考え方・数学的思考力が必要である」ことに気づき更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

はじめに「数学」を取り巻く世界の歴史を振り返りながら紹介する。その後はグループに分かれて実験を行う他、各自パズルに取り組むなど具体的な問題に取り組む。さらには、理論的なアプローチを行い、実際の現象との比較を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと数学のはじまり	「数学」とは何かを説明し、講義の進め方および成績評価について説明をする。その後、数学のルーツと世界史から見る数学の発展を学ぶ。
2	数学のはじまり	古代の数学と文明の発展との関連を学ぶ。
3	N 進法	デジタルの世界で用いられる二進法や近年まで多く使われていたローマ数字などについて学ぶ。
4	きれいな数	計算によってきれいな並びを示す数字について、その美しさの原理を学ぶ。
5	実際の確率を試す	サイコロを投げてデータをとり「数学的確率」を考える。
6	立体を考える（1）	一つの升でいろいろな容積を量ろう。
7	立体を考える（2）	体積をパズルを使って考える。
8	論理パズルに挑戦	帽子の問題他「論理思考」を鍛えよう。
9	図形パズルに挑戦	古代から考えられてきた「土地の分割」パズルを考える。
10	円周率を考える	作図で極限を体験する。
11	和算に挑戦（1）	江戸時代に日常的に使われていた図形パズルを体験しよう。
12	和算に挑戦（2）	江戸の庶民も熱中した油分け算に挑戦。
13	数学の鍵を考える。	数学の鍵でもある「命題」について学ぶ。

14 まとめ これまでの講義の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートは丁寧にきちんとまとめ、毎週授業の後には復習をして欲しい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内での取り組みと課題提出 (60%) および期末試験 (40%) により評価する。授業後の課題に掛ける時間は毎回通常 4 時間程度と考えるが、難しい問題に関しては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

これまで知識として持っていたことも、実際手を動かして作業をしながら考えると、まったく違う角度で見えてくる。体を動かしながら物を考えることで、自分自身の思考力についても、いろいろ考えるきっかけになったようだ。

【Outline and objectives】

In mathematics, the theory is based on certain assumptions. In this lecture, we will consider natural phenomena in life and the mechanism of numbers while working on concrete problems. The purpose of this study is to get a chance to learn "the ability to solve problems by trial and error" by actually moving hands and using the body to tackle problems each time.

BAB200EA

自然科学特講（生命科学）

勝又 暢之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスの生物や自然を対象として様々な観察・実験を室内外で行い、生物と自然を五感で感じとる力を身に着ける。また、自然素材を生かした工芸品を製作し、自然と人間の文化的関わりについても理解を深め、人と生物・自然との関りについて考える授業を展開する。

【到達目標】

1. 多摩キャンパスの生物の種類を同定し、その生態を語るができる。
2. 人が自然を利用する知恵を学び、普段の生活に生かすことができる。
3. 生物の一員としての人間のあり方や生き物と人間との関係について考える能力が養われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主として多摩キャンパスの生き物や自然を対象としていくつかのテーマを設定し、必要に応じてフィールドワークと室内実験を行う。テーマごとにレポートを作成し、理解度を深める。授業計画は授業の進行、扱う生物や天候、機材の状況によって変更があり得る。必要に応じて汚れてもよい衣服や雨具を用意すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の授業内容についての概略を示す。
第 2 回	季節の植物観察	多摩キャンパス内に分布する身近な生物と環境の多様性を再認識する。
第 3 回	バードウォッチング	野鳥図鑑や双眼鏡を持って多摩キャンパス内に生息する野鳥を観察する
第 4 回	外来タンポポと在来タンポポの勢力分布～野外調査	外来種についての講義と外来・在来タンポポの分布を調査する。
第 5 回	外来タンポポと在来タンポポの勢力分布～分析	外来・在来タンポポの分布を地図化し、分析する。
第 6 回	森林のバイオマス調査	毎木調査のデータから森林のバイオマスを推定する。
第 7 回	生物個体数の推定	抜き取り調査に基づく個体数推定のしかたを実践を通じて理解する。
第 8 回	淡水プランクトンの顕微鏡観察	多摩キャンパス内の池の水に生息するプランクトンを観察する。
第 9 回	自然素材を用いたリースづくり	多摩キャンパスにある素材を使ってリースを作る
第 10 回	DNA の抽出実験自然との共生	DNA 抽出キットを使って、自分の口内細胞の DNA を抽出する。
第 11 回	光合成色素の分離と観察	様々な植物から色素を抽出し、薄層クロマトによって分離する。
第 12 回	草木染 ～事前準備～	草木染を通して、植物色素の化学的性質と利用について学ぶ。
第 13 回	草木染 ～染色液の抽出と染色～	染色液を抽出し、コースター布の染色を行う
第 14 回	自然との共生	これまでの授業を振り返り自然との共生について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学のHPにある「多摩キャンパス自然と生物」の紹介を見ておいてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（ほぼ毎回の授業で資料を配付する）

【参考書】

「森林立地調査法」（有光一登ほか監修 博友社 1999 年）
「ベーシックマスター 生態学」（南佳典ほか編 オーム社 2007 年）

【成績評価の方法と基準】

この授業は体験型なので、授業に取り組む姿勢とレポート課題を重視する。平常点 (50%)、レポート課題 (50%)

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習が少ないとの意見があった。必要な場合は課題を与えて学習効果を高めるようにしたい。

【その他の重要事項】

昆虫などの動物が苦手な人は履修にあたっては注意すること。

【Outline and objectives】

The main aims of this lecture are to survey biota and natural environment in Tama Campus and deepen knowledge and understanding of plants, birds, planktons and mushrooms. The focus is on sustainable coexistence between people and nature.

BAB200EA

自然科学特講（生命科学）

勝又 暢之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスの生物や自然を対象として様々な観察・実験を室内外で行い、生物と自然を五感で感じとる力を身に着ける。また、自然素材を生かした工芸品を製作し、自然と人間の文化的関わりについても理解を深め、人と生物・自然との関わりについて考える授業を展開する。

【到達目標】

1. 多摩キャンパスの生物の種類を同定し、その生態を語るができる。
2. 人が自然を利用する知恵を学び、普段の生活に生かすことができる。
3. 生物の一員としての人間のあり方や生き物と人間との関係について考える能力が養われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主として多摩キャンパスの生き物や自然を対象としていくつかのテーマを設定し、必要に応じてフィールドワークと室内実験を行う。テーマごとにレポートを作成し、理解度を深める。授業計画は授業の進行、扱う生物や天候、機材の状況によって変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の授業内容についての概略を示す。
第 2 回	季節の植物観察	多摩キャンパス内に分布する身近な生物と環境の多様性を再認識する。
第 3 回	観察のための生物スケッチ	生物の特徴を線画で表現し、他者に評価してもらう。
第 4 回	顕微鏡を用いたミクロスケールの観察	顕微鏡操作を習得し、コケ植物を観察する。
第 5 回	見えないものを見るアイデア	光の透過性がない、あるいは大きすぎる試料を顕微鏡で観察する知恵を学ぶ。
第 6 回	光合成色素の分離と観察	様々な植物から色素を抽出し、薄層クロマトによって分離する。
第 7 回	草木染 ～事前準備～	草木染を通して、植物色素の化学的性質と利用について学ぶ。
第 8 回	草木染 ～染色液の抽出と染色～	染色液を抽出し、コースター布を染色する。
第 9 回	生物個体数の推定	抜き取り調査に基づく個体数推定のしかたを実践を通じて理解する。
第 10 回	森林のバイオマス調査	毎木調査のデータから森林のバイオマスを推定する。
第 11 回	DNA の抽出実験	DNA 抽出キットを使って、自分の口内細胞の DNA を抽出する。
第 12 回	クリスマスリースの製作	多摩キャンパスの自然素材を使ってクリスマスリースを作る。
第 13 回	バードウォッチング	野鳥図鑑や双眼鏡を持って多摩キャンパス内に生息する野鳥を観察する。
第 14 回	自然との共生	これまでの授業を振り返り自然との共生について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学のHPにある「多摩キャンパス自然と生物」の紹介を見ておいてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（ほぼ毎回の授業で資料を配付します）

【参考書】

「森林立地調査法」（有光一登ほか監修 博友社 1999 年）
「ベーシックマスター 生態学」（南佳典ほか編 オーム社 2007 年）

【成績評価の方法と基準】

この授業は体験型なので、授業に取り組む姿勢とレポート課題を重視する。平常点（50 %）、レポート課題（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習が少ないとの意見があった。必要な場合は課題を与えて学習効果を高めるようにしたい。

【その他の重要事項】

昆虫などの動物が苦手な人は履修にあたっては注意すること。

【Outline and objectives】

The main aims of this lecture are to survey biota and natural environment in Tama Campus and deepen knowledge and understanding of plants, birds, planktons and mushrooms. The focus is on sustainable coexistence between people and nature.

PLN200EA

自然科学特講（地学）

澤柿 教伸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球を知るためには、野外に出かけていって、実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、それらのフィールドワークの実践方法について学びます。

【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも活用できる素養を身に付けます。野外と室内の作業を通じて、地形図の読図、測位技術の活用、主題図の作成ができるようになること、さらにそれらの手法を批判的思考のツールとしてつかいこなせるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

抽選の都合上、仮登録期間は 4/17(金)17：00 まで、定員超過の場合は抽選で受講生を選びます。1 年次～4 年次の受講が可能です。春学期（L0089）の開講です。

受講登録手続きは春・秋学期ともに下記の通り行いますので、各自熟読したのち、順次手続きを行ってください。

自然科学特講は、「数学」・「地学」・「生命科学」（いずれも半期授業）のうち、春・秋学期のどちらかを選んで受講します（水曜 3 時限）。ただし、「数学」は秋学期に 2 つ同じ授業が開講となります。1 科目のみでも、春・秋学期で異なる 2 科目を組み合わせても、あるいは同じ学期に違う 2 科目を受講することも可能です。受講できる定員枠は、春・秋学期それぞれ「数学」20 名、「地学」20 名、「生命科学」24 名とします。なお、コロナウィルスの感染防止を踏まえて、定員枠は例年よりも少なくなっています。

受講希望者は、学習支援システムにログインし、履修を希望する科目について「仮登録」をして下さい。抽選の都合上、仮登録期間は 4/17(金)17：00 までとします。希望者（仮登録者）の数が定員を上回る場合は、抽選により受講を許可する学生を決定します。受講許可が与えられた学生の名簿（学生証番号のみ）を作成し、4/20(月)に学習支援システムの「お知らせ」機能を使って発表します。

春学期は、コロナ感染症が落ち着くまでは教室での授業ではなくオンライン授業となります。学習支援システムの「お知らせ」を常にチェックし、授業に関する最新の情報を得るようにしてください。

※今年度に関しては、定員を満たさない科目があったとしても受講希望者を再募集することはありません。

自然科学特講（地学）の授業では、本来は多摩キャンパスの敷地内で屋外作業をしたり室内で手作業したりするのですが、コロナ対策で遠隔授業になっている間はそれでもできません。指示する課題を自宅で行っていただく形式にする予定です。

例年は春学期（L0088）と秋学期（L0089）に同じ内容を繰り返していますが、2020 年度は春学期だけ変則的になる可能性が高いです。コロナ禍が収まれば秋学期には通常の形態に戻します。通常の方法を希望される場合は、秋学期（L0089）のほうに仮登録されることをお勧めします。

春学期初回の授業を 4 月 22 日（水）3 限（13:40～15:20）に Zoom で実施します。

Zoom のアクセス先は、当日の正午までに学習支援システムを通じて掲示します。

Zoom を使えるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介、進め方の説明
第 2 回	フィールドワークの極意	月面探査にみるフィールドワーク伝授のストーリー
第 3 回	高低差（実践編）	ハンドレベルによる野外実習（GW・FW）
第 4 回	高低差（解析編）	ハンドレベル実習データの解析（GW）
第 5 回	パソコンで地形学	いろいろな地図を実際に見てみる（GW）
第 6 回	地形を数値で表現	数値地図の基本（GW）
第 7 回	地形を三次元で再現	数値地図から 3D 地形モデルを構築する（GW）
第 8 回	地球の大きさを測る	GPS のポジショニング野外実習（GW・FW）
第 9 回	ルートとナビゲーション	GPS のロギング・ナビゲーション野外実習（GW・FW）
第 10 回	多摩キャンパスを測る	平板測量野外実習（GW・FW）
第 11 回	河川を追跡	地形図を用いた縦断面描画（GW）

- 第 12 回 実体視で峠の謎にせまる アナグリフによる実体視で碓氷峠と中山道を地形解析 (GW)
- 第 13 回 富士山の謎にせまる クリティカルシンキングで富士山の地形を社会学する (GW)
- 第 14 回 ミッションのすべて 野外調査の企画・立案・実践・解析・取りまとめの流れ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しませんが、個別の文献を授業中で指示します。

【参考書】

- ・ナショナルジオグラフィック (月刊雑誌)
- ・GIS を使った主題図作成講座 (古今書院)
- ・カシミール 3D 入門編 (実業之日本社)

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題による通常時の評価 (50%)
- ・定期試験による評価 (50%)

なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

作業にあてる時間配分が難しいという声がありますが、100 分授業となるため、十分に対応可能となりました。

【学生が準備すべき機器他】

多摩キャンパス内の屋外作業用に動きやすい服装と靴を用意してください。室内作業では、定規や色鉛筆を携えます。測量機器や PC をその都度貸し出します。

【Outline and objectives】

This course focuses on the practical skills required to understand geological and geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises and laboratory analysis and group gatherings. Participation includes active listening, questioning, hypothesis formulation, use of landscape interpretation techniques.

PLN200EA

自然科学特講 (地学)

澤柿 教伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球を知るためには、野外に出かけていって、実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、それらのフィールドワークの実践方法について学びます。

【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも演用できる素養を身に付けます。野外と室内の作業を通じて、地形図の読図、測位技術の演習、主題図の作成ができるようになること、さらにそれらの手法を批判的思考のツールとしてつかいこなせるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

抽選の都合上、仮登録期間は 4/17(金)17 : 00 まで、定員超過の場合は抽選で受講生を選びます。1 年次～4 年次の受講が可能です。秋学期 (L0089) の開講です。

受講登録手続きは春・秋学期ともに下記の通り行いますので、各自熟読したのち、順次手続きを行ってください。

自然科学特講は、「数学」・「地学」・「生命科学」(いずれも半期授業)のうち、春・秋学期のどちらかを選んで受講します(水曜 3 時限)。ただし、「数学」は秋学期に 2 つ同じ授業が開講となります。1 科目のみでも、春・秋学期で異なる 2 科目を組み合わせても、あるいは同じ学期に違う 2 科目を受講することも可能です。受講できる定員枠は、春・秋学期それぞれ「数学」20 名、「地学」20 名、「生命科学」24 名とします。なお、コロナウィルスの感染防止を踏まえて、定員枠は例年よりも少なくなっています。

受講希望者は、学習支援システムにログインし、履修を希望する科目について「仮登録」をして下さい。抽選の都合上、仮登録期間は 4/17(金)17 : 00 までとします。希望者(仮登録者)の数が定員を上回る場合は、抽選により受講を許可する学生を決定します。受講許可が与えられた学生の名簿(学生証番号のみ)を作成し、4/20(月)に学習支援システムの「お知らせ」機能を使って発表します。

※今年度に関しては、定員を満たさない科目があったとしても受講希望者を再募集することはありません。

自然科学特講(地学)の授業では、本来は多摩キャンパスの敷地内で屋外作業をしたり室内で手作業したりするのですが、コロナ対策で遠隔授業になっている間はそれできません。指示する課題を自宅で行っていただく形式にする予定です。

例年は春学期(L0088)と秋学期(L0089)に同じ内容を繰り返していますが、2020 年度は春学期だけ変則的になる可能性が高いです。コロナ禍が収まれば秋学期には通常の形態に戻します。通常の方法を希望される場合は、秋学期(L0089)のほうに仮登録されることをお勧めします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介、進め方の説明
第 2 回	フィールドワークの極意	月面探査にみるフィールドワーク伝授のストーリー
第 3 回	高低差(実践編)	ハンドレベルによる野外実習 (GW・FW)
第 4 回	高低差(解析編)	ハンドレベル実習データの解析 (GW)
第 5 回	パソコンで地形学	いろいろな地図を実際に見てみる (GW)
第 6 回	地形を数値で表現	数値地図の基本 (GW)
第 7 回	地形を三次元で再現	数値地図から 3D 地形モデルを構築する (GW)
第 8 回	地球の大きさを測る	GPS のポジショニング野外実習 (GW・FW)
第 9 回	ルートとナビゲーション	GPS のロギング・ナビゲーション野外実習 (GW・FW)
第 10 回	多摩キャンパスを測る	平板測量野外実習 (GW・FW)
第 11 回	河川を追跡	地形図を用いた縦断面描画 (GW)
第 12 回	実体視で峠の謎にせまる	アナグリフによる実体視で碓氷峠と中山道を地形解析 (GW)
第 13 回	富士山の謎にせまる	クリティカルシンキングで富士山の地形を社会学する (GW)
第 14 回	ミッションのすべて	野外調査の企画・立案・実践・解析・取りまとめの流れ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、個別の文献を授業中で指示します。

【参考書】

- ・ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）
- ・GISを使った主題図作成講座（古今書院）
- ・カシミール3D入門編（実業之日本社）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題による通常時の評価（50%）
- ・定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

作業にあてる時間配分が難しいという声がありますが、100分授業となるため、十分に対応可能となりました。

【学生が準備すべき機器他】

多摩キャンパス内の屋外作業用に動きやすい服装と靴を用意してください。室内作業では、定規や色鉛筆を 사용합니다。測量機器やPCをその都度貸し出します。

【Outline and objectives】

This course focuses on the practical skills required to understand geological and geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises and laboratory analysis and group gatherings. Participation includes active listening, questioning, hypothesis formulation, use of landscape interpretation techniques.

SOC200EB, SOC200EC

市民運動論

中筋 直哉

サブタイトル：市民運動論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の1つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法をに基づいて理解する。とくに歴史的な視野とグローバル化への視野に重点を置く。

【到達目標】

- ・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
- ・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを使用する他、授業支援システムで事前に資料を配布する。オンライン授業の第1回は4月22日(水)3限の時間通りです。詳細は学習支援システムに仮登録して「お知らせ」を見てください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動の理論 1	社会的行為としての合理性
3	社会運動の理論 2	構造変動をもたらす集合的力
4	社会運動の理論 3	文化を創造する言葉と身ぶり
5	社会運動の歴史 1	伝統社会の騒乱の論理
6	社会運動の歴史 2	労働組合運動の消長
7	社会運動の歴史 3	地域開発と住民運動
8	事例研究的講義	市民運動の先端事例
9	事例をめぐる質疑と討論	事例をめぐるグループディスカッション
10	グローバルな市民運動 1	正義のフロンティアに向かって
11	グローバルな市民運動 2	越境するアソシエーション
12	グローバルな市民運動 3	小さな運動の構想力
13	展開的講義	ジェンダーをめぐる市民運動
14	市民運動の未来	重要論点をめぐる復習と質疑、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを使った復習。授業の中盤にA4×1枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が40%、論述式の定期試験が60%。試験解答において、市民運動に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることがAの条件。オンライン授業の場合も、実施可能な範囲の修正を施した上で従来の基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コースの専門的科目なので受講には入門以上の知識が必要。2年生以下の履修は合格率が高くなく、勧めない。最新の事例のていねいな解説に努める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント使用だがノートと筆記用具は必須。授業支援システムへのアクセスも必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study social movements by sociological, historical and positive perspective.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

市民社会とエスニシティ

佐藤 伴近

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の様々な社会におけるエスニック集団（民族）やナショナリズムに関する問題について、その歴史的展開と今日的状況を考える。

【到達目標】

①創られた伝統、多文化主義などの概念を理解し説明できる。②今日起きている民族やナショナリズムの問題について考え、当該地域についての理解を深め、自らの意見を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。適宜、映像資料も活用する。各回の終わりに、理解を確認するためにコメント、意見、質問をリアクションペーパーに記入し提出してもらう。なお、授業計画は、授業の展開や時事問題などによって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	民族やナショナリズムに関する問題とは何か
2	エスニーとネイション	ネイションの成立を論じる「近代主義」と「歴史主義」
3	大西洋奴隷貿易と在イギリス黒人	奴隷（貿易）制度に起因する問題を考える
4	ヨーロッパにおける移民①における移民②	イギリスの移民問題
5	ヨーロッパにおける移民②	フランスの移民問題
6	ヨーロッパの民族問題	ヨーロッパにおけるロマの現状
7	イギリス帝国（意識）とコモンウェルス	国を越える枠組みの機能を考える
8	スポーツによる紐帯と対抗	民族・ナショナリズム問題におけるスポーツの役割
9	ヨーロッパの地域問題①	スコットランド・ナショナリズムの展開
10	日本の民族問題	日本におけるアイヌ
11	スコットランドと日本	スコットランドとアイヌの民族問題の比較
12	ヨーロッパの地域問題②	スペイン・カタールニャの問題
13	オーストラリアの民族問題	アボリジニ、黄禍論・白豪主義、多文化主義
14	日本のニュー・カマー	外国人労働者をめぐる軋轢と異文化理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連する資料や文献を読み、予習、復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。以下の文献も参考にする。
梶田孝道編『国際社会学－国家を超える現象をどうとらえるか』（名古屋大学出版会、1996年）、宮島喬・吉村真子編『移民・マイノリティと変容する世界』（法政大学出版局、2012年）、宮島喬『多文化であることは－新しい市民社会の条件』（岩波書店、2014年）。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（30%）、期末試験（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Learning about issues relating with ethnic groups, nations and nationalism.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 I

別府 三奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

問題に直面した当事者たちを記録して皆に伝え、解決案を社会構成員の皆が多角的に考え、政策に移していく。ジャーナリズムは、こういった民主主義の在り方を根拠で支えている。本講義では、問題解決のための社会装置であるジャーナリズムの形成過程と、その必然的背景となる言論の自由の考え方を中心に、ジャーナリズムの生い立ちと今日の存在意義を学ぶ。

【到達目標】

今日のグローバル・スタンダードとなっているジャーナリズムの理念形成過程と、法学や医学を手本として制度化されたジャーナリズム・プロフェッションの民主社会における構造を理解する。欧州における信教の自由、政治参加の自由、市民社と平等、言論の自由といった、現在の日本の報道業界をも規定している権利概念の由来と意義、及び、それらとジャーナリズムの関係性を、今に生きる自らのものとして再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP5・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

▶変更情報 4月20日版：オンライン授業対応がしばらく続く見込みが強くなったことから、授業目的は変わりませんが、授業の進め方を変更します。毎週水曜日の12時に、指定テキストを併用し、その週に学ぶことをまとめた教材をアップします。3週目にワークシート課題を出し、数日のうちに提出してもらいます。翌週はリプライ集を教員側が提示し、復習しながらポイント整理して理解を深めます。このセットを数回繰り返します。最初の教材アップは、4月29日（水）の12時を予定しています。シラバスと評価方法も、変更がありますので、併せてご覧のうえ、履修登録をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ニュースをめぐる考察
第2回	ジャーナリズムの主体	記者の条件
第3回	マスメディアと技術	マスコミュニケーション発達史
第4回	ジャーナリストの考察	誰のために何をする人か
第5回	言論の自由思想の形成	封建社会の自由と不自由
第6回	言論の自由の社会的機能	市民社会の自由と不自由
第7回	言論の自由の法文化	ポール・リビアの鐘の音
第8回	修正第一条の意味	誰が何をするための自由か
第9回	社会改良主義1	ルイス・ハインの写真
第10回	社会改良主義2	ジャーナリストの生涯
第11回	弱点1：会社会の克服	経営者とジャーナリズム
第12回	弱点2：国益の克服へ	国家とジャーナリズム
第13回	プロフェッション論	パブリックサービスの考察
第14回	理念を実現する制度	民主主義とジャーナリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの事前予習と、授業で扱った歴史的な出来事に関する自習、専門用語に関する復習など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育 研究所編、早稲田大学出版部、2013年。

【参考書】

『エンサイクロペディア 現代ジャーナリズム』早稲田大学出版部、2013年

【成績評価の方法と基準】

▶（4月20日修正版）成績評価は、提出されたワークシートで総合判断する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

情報、メディア、マス・メディア、ジャーナリズムといった用語の、一般語と専門用語の相違に対する自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

春学期はジャーナリズムの歴史と思想の下部構造である言論の自由を主題とする。秋学期は、上部構造に表出する20世紀の事例の数々を扱う。ジャーナリズムの理解には2科目履修が望ましい。

[Outline and objectives]

Students learn the concept of the freedom of the press, a relationship between journalism and the free press, and the meaning of the first amendment in America.

SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ

別府 三奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムは、人間の平等と政治参加の自由を理念とする民主制に組み込まれた、社会改良のための装置である。本講座Ⅱでは、第一次世界大戦を経て基盤が整ったグローバル・ジャーナリズムの具体的な事例を、基本的人権の観点から考察する。日本型報道の特性についても、比較考察を加える。

【到達目標】

ジャーナリズムとコマーシャルイズムの違い、広報やプロパガンダとの相違、現代情報社会全体の構造的偏りの原因、改善の糸口、ジャーナリストの立ち位置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

国家間の究極の対立である戦争を中心事例として、ジャーナリズムの実例の幅広く観察し、今日の情報環境を主体的・批判的に熟考する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	記録と記憶と社会的認識
第2回	目の複製技術・写真機	誰のための何の記録か
第3回	1930年代の情報環境	キャバの変遷
第4回	独逸の情報統制	第2次世界大戦の情報操作
第5回	時を超える検証1	東京大空襲
第6回	時を超える検証2	満州開拓団の語り
第7回	記録による記憶の固定	理解度確認テストと解説
第8回	映像記録の多彩な視点	マグナムの世界観
第9回	政府宣伝と戦場の乖離	硫黄島 VS. 赤ん坊もか
第10回	国家と機密	米国・ベトナム調査報告
第11回	個人的視点の公共化	日本・被爆者の生活記録
第12回	国家的暴力と国際記者	韓国・光州事件の記録
第13回	社会的タブーへの挑戦	米国・聖職者の調査報道
第14回	社会的記憶の継承	法と倫理と知る権利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った歴史や専門用語に関する復習。関連する映像や資料による補習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦—市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年。この他、ハンドアウトのワークブックを使用する予定。

【参考書】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育 研究所編、早稲田大学出版部、2013年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験60%、中間の確認テスト40%。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の解説資料を、必要に応じて追加する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

この科目は、春学期のⅠと秋学期のⅡを通して、ジャーナリズム理念・制度・実践の通史となるよう構成している。春学期の主テーマである言論の自由の形成過程に関する知識があると、秋学期の本科目で扱うジャーナリズムの事例に関する理解がより深まる。

【Outline and objectives】

Students learn about the global standard of journalism spirits and huge effects of visual journalism for Democratic Society in the 20th century.

SOC100EB, SOC100EC, SOC100ED

ジャーナリズム論 A

松下 峻也

サブタイトル：マスコミ問題 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「ジャーナリズム」をめぐるいくつかの思想と理論を学んだうえで、現代の日本の「報道」を考察する。学生が概念的な視座を習得し、日本で展開されたジャーナリズムの成果と課題を、自分自身で考える力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、(マス) コミュニケーションと (マス) メディアをめぐる蓄積された研究成果をふまえたうえで、ジャーナリストが現実の社会問題をどのように取材し、報道してきたのかを考察する。理論と思想、実際の事例とを往復することで、学生が、ジャーナリズムの研究の意義を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講にともない、講義計画を変更し、毎回の教材と課題を学習支援システムで指定する。初回の教材と課題の指定は 5 月 7 日とし、それを本科目の講義開始日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「ジャーナリズムを研究する」ための準備をする。
2	マスコミュニケーションの理論①	「限定効果論」について学び、事例もとに考える。
3	マスコミュニケーションの理論②	「議題設定機能」について学び、事例をもとに考える。
4	マスコミュニケーションの理論③	「沈黙の螺旋」について学び、事例をもとに考える。
5	マスコミュニケーションの思想①	「公共圏としてのメディア環境」について学び、事例をもとに考える。
6	マスコミュニケーションの思想②	「ステレオタイプ」について学び、事例をもとに考える。
7	マスコミュニケーションの思想③	「疑似イベント」について学び、事例をもとに考える。
8	マスコミュニケーションの思想④	「メディア界（場）」について学び、事例をもとに考える。
9	マスコミュニケーションの思想⑤	「記号的消費」について学び、事例をもとに考える。
10	メディアの思想①	「身体の拡張」について学び、事例をもとに考える。
11	メディアの思想②	「身体と物質性」について学び、事例をもとに考える。
12	メディアの思想③	「想像の共同体」について学び、事例をもとに考える。
13	メディアの思想④	「記憶と記録」について学び、事例をもとに考える。
14	総括	「ジャーナリズムを研究する」ことの意義を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読み、ディスカッションの準備をすることが求められる。本科目の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

毎回の講義で指定する。

【成績評価の方法と基準】

春学期のすくなくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から授業担当者変更のため、とくになし。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn some of thoughts and theories around 'journalism', and consider 'media coverage' in contemporary Japan. The objective is that students learn ideal perspectives, and improve their ability to think results and problems of journalism deployed in Japan on their own.

SOC100EB, SOC100EC, SOC100ED

ジャーナリズム論 B

別府 三奈子

サブタイトル：マスコミ問題 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【Outline and objectives】

Examine journalist records to understand the social significance of journalism and the role of freedom of speech.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリストの記録に触れ、ジャーナリズムの社会的意義と言論の自由の役割を理解する。

【到達目標】

多様な情報社会のなかで、ジャーナリズムの社会的役割とジャーナリストの職能条件を再定義し、ニュースや論評の優劣が判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

映像資料の学生による分析と、分析に必要な専門知識の座学を基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ジャーナリズムの定義をめぐる討議、映像資料説明
第 2 回	福島菊次郎の仕事	『にっぽんのうそ』概説
第 3 回	被爆者を記録する	受忍論のなかの格差
第 4 回	農民を記録する	国権と個人の権利
第 5 回	学生を記録する	表現の自由の諸相
第 6 回	調査報道の仕事	『スポットライト』概説
第 7 回	タブーの構造	利害関係図を作成する
第 8 回	タブーを解体する	記者の立ち位置の考察
第 9 回	法的根拠	情報源の秘匿
第 10 回	J. ナクトウェイの仕事	『戦場のフォトグラファー』
第 11 回	記録者と当事者	被写体との距離
第 12 回	記録者と編集者	記録と伝播の関係
第 13 回	ジャーナリストの思想	ジャーナリズムと報道
第 14 回	社会的記録の継承	公的機関とは別の記録の存在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で、配布された資料映像の視聴と分析レジュメの作成に毎週 4 時間程。

【テキスト（教科書）】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部、2013 年

【参考書】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦 一市民社会と国際支援戦略』D. カプラン他著、旬報社、2017 年。

【成績評価の方法と基準】

授業内での討議用レポート 50 %、期末レポートに見る理解度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

日々のニュースへの関心を喚起する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

指定された映像資料以外にも幅広く映像記録に触れることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>米国ジャーナリズム思想史

<研究テーマ>写真ジャーナリズムの国際比較

<主要研究業績>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006 年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006 年。

MAN200EB

社会・イノベーション論Ⅰ

工藤 悟志

サブタイトル：産業と企業の理論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、より良い社会の実現を目指す「社会・イノベーション」に関する諸理論および事例について、「産業と企業」という分析レベルから学習していきます。まずは私たちの身近に存在する「企業のイノベーション」に関する理解を深めます。具体的には、企業が効果的、効率的にイノベーションをおこなすための戦略、そのプロセスと組織について議論します。本講義では、国内外の様々な事例を通じて、受講者の多面的な理解を促したいと思えます。

【到達目標】

- ・社会における企業と企業のイノベーション活動の意義と重要性を理解する
- ・企業のイノベーション活動を遂行する戦略、プロセスと組織を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、おもに学習支援システムを通じたオンライン形式で授業を実施します。必要に応じて、リアルタイムのオンライン授業をおこないます。講義のパワーポイントを掲載し、理解を確認するリアクションペーパーの提出です。また、具体的なイノベーションの事例について調査・分析をおこない、レポートとして提出してもらいます。

授業開始日は、5月1日（金）です。（ガイダンスと第1回講義シラバス、課題を掲載予定）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第2回	産業と企業	本講義の対象となる産業と企業についての概念
第3回	イノベーション概論	イノベーションに関するシュムペーターとドラッカー等の提唱する理論を紹介
第4回	企業戦略とイノベーション（1）	企業戦略とイノベーションに関わる理論と現象の理解
第5回	企業戦略とイノベーション（2）	企業戦略とイノベーションに関わる理論と現象の理解
第6回	事業戦略とイノベーション（1）	事業戦略とイノベーションに関わる理論と現象の理解
第7回	事業戦略とイノベーション（2）	事業戦略とイノベーションに関わる理論と現象の理解
第8回	R&D戦略（1）	科学知に基づくイノベーションとそれを生み出すイノベーション・システム（組織）
第9回	R&D戦略（2）	科学知に基づくイノベーションとそれを生み出すイノベーション・システム（組織）
第10回	製品開発	製品開発を効果的におこなう戦略、プロセスと組織
第11回	生産管理（1）	概論と歴史

第12回	生産管理（2）	生産現場における工夫
第13回	オープン&クローズ戦略	戦略の概念と基本フレーム
第14回	事例	事例/まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目をつけることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト/リアクションペーパー提出50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

講義レジュメは、事前に授業支援システムに掲載する予定です。

【Outline and objectives】

This course deals with theories and cases of “social innovation” from the industry and corporate analytical points of view. The course will start from having a good understanding about the companies around us. During the course, we’ll discuss about the strategies, processes and characteristics of organizations that lead to innovation more effectively and efficiently. Throughout the course, student will be able to understand the social innovation from multiple aspects.

MAN300EB

社会・イノベーション論Ⅱ

工藤 悟志

サブタイトル：産業と企業の理論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ソーシャル・イノベーションの意味や役割を理解するために、その担い手であるソーシャル・エンタープライズ（Social Enterprise:社会的企業）やソーシャル・アントレプレナー（Social Entrepreneur：社会起業家）に注目して、多くの事例から理論を理解する。

【到達目標】

- ・社会イノベーションの概念を理解する
- ・社会の問題を発見・分析する力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、おもに毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。また、理解を深めるために、グループごとに社会イノベーション事業を考案し、発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第2回	ソーシャル・イノベーションとは	概念の理解
第3回	ソーシャル・エンタープライズの登場と背景	概念の理解と事例
第4回	ソーシャル・エンタープライズのフロンティア	概念の理解と事例
第5回	現代のソーシャル・エンタープライズ	概念の理解と事例
第6回	現代のソーシャル・エンタープライズ	概念の理解と事例
第7回	現代企業の社会意識	役割と重要性
第8回	ソーシャル・アントレプレナーの源流	概念の理解と事例
第9回	日本におけるソーシャル・アントレプレナーの出現	概念の理解と事例
第10回	ソーシャル・イノベーションの事例（1）	具体的な事例から理論を結びつける
第11回	ソーシャル・イノベーションの事例（2）	具体的な事例から理論を結びつける
第12回	ソーシャル・イノベーションの考案・発表（1）	具体的に新たなソーシャル・イノベーションを考案する
第13回	ソーシャル・イノベーションの考案・発表（2）	具体的なソーシャル・イノベーションを発表する
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト20%、期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

講義レジュメは、事前に授業支援システムに掲載する予定です。

【Outline and objectives】

This course deals with the theories and cases on “social innovation” aimed at realizing a better society from corporate, industry, local community, and national level. We focus on social enterprises and social entrepreneurs to understand the meaning and role of social innovation. Throughout the course, student will be able to understand the social innovation from multiple aspects.

SOC300EC

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は 4 月 22 日（水）とする。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
4	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
5	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
6	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
7	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
8	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
9	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
10	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
11	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
12	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
13	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣

那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣

新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC300EC

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したりリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新陸人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新陸人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性的の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC300EC

社会学総合特講 A

徳安 彰

サブタイトル：社会学総合特講 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一般システム理論やサイバネティクス concepts を社会現象に適用して、社会現象のメカニズムを理解することを目的とする。

【到達目標】

この授業では以下のようなことができるようになることを目標とする。

- ①一般システム理論やサイバネティクスの概念を理解し、修得することができる。
- ②それらの概念を社会現象に適用することができる。
- ③それによって社会現象のメカニズムを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は、一般システム理論やサイバネティクスの概念について講義形式で説明する部分と、それを受講生が社会現象に適用し、その結果を全員で検討する部分から成り立つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要とシステム理論の歴史について概説する
第 2 回	フィードバック	フィードバックの概念を説明し、社会現象に適用する
第 3 回	ホメオスタシス	ホメオスタシスの概念を説明し、社会現象に適用する
第 4 回	最小多様度の法則	最小多様度の法則を説明し、社会現象に適用する
第 5 回	モーフォジェネシス	モーフォジェネシスの概念を説明し、社会現象に適用する
第 6 回	自己組織化	自己組織化の概念を説明し、社会現象に適用する
第 7 回	適応制御	適応制御の概念を説明し、社会現象に適用する
第 8 回	複雑系	複雑系の概念を説明し、社会現象に適用する
第 9 回	カオス	カオスの概念を説明し、社会現象に適用する
第 10 回	開放システム／閉鎖システム	開放システム／閉鎖システムの概念を説明し、社会現象に適用する
第 11 回	オートポイエーシス	オートポイエーシスの概念を説明し、社会現象に適用する
第 12 回	機能	機能の概念を説明し、社会現象に適用する
第 13 回	機能分化	機能分化の概念を説明し、社会現象に適用する
第 14 回	まとめ	全体をふり返り、全員で総合討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業で学んだ概念を理解した上で、自分でそれを社会現象に適用してみるのが重要なので、とくに復習には十分な時間を割く必要がある。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない

【参考書】

『社会学理論応用事典』丸善、2017 年（とくに「社会システム」の各項目）
その他の参考書については、授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価する。その内訳は、①各回の作業およびその出来映え 50 %、②授業後の掲示板への書き込みおよびその内容 50 %、である。当日の授業に出席しなかったばあいは、授業後の掲示板の書き込みも含めて、当日分の評価はゼロである。

【学生の意見等からの気づき】

初めての担当なので、とくにない

【学生が準備すべき機器他】

可能ならば自分用のノートパソコンを準備するのが望ましい

【その他の重要事項】

この授業は、受動的な受講ではなく、能動的に自分で概念を社会現象に適用する作業が最も重要です。毎回、自分の頭を使い、他の受講生と一緒に考えて作業が課せられます。単なる出席ではなく、授業に積極的にコミットする姿勢で授業に臨んでください。

【Outline and objectives】

The Objective of this lecture is to learn several concepts of general systems theory and cybernetics, and to apply them to social phenomena in order to understand their mechanism.

SOC300EC

社会学総合特講B

斎藤 友里子

サブタイトル：社会学総合特講Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【Outline and objectives】

This course provides students an opportunity to learn and think about the relation between the process of self-definition and social inclusion-exclusion.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の枠組みを中心として、社会心理学や人類学の知見も援用しつつ、「われわれが自分をどう捉えるか」が、他者との関係性や排除・包摂の問題にどう関わるのかを考える。

【到達目標】

他者の存在を前提として成立する自己の概念化が包摂と排除にもつ意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主として講義による。授業計画は授業の展開により若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい
2	近代化と個人（1）	分業の進展と集団の拡大
3	近代化と個人（2）	「その前」となにが違うのか
4	近代化と個人（3）	アイデンティティという問題
5	「居場所」の問題（1）	自己と共同体
6	「居場所」の問題（2）	アイデンティティへの欲求と所属
7	「居場所」の問題（3）	アイデンティティとカテゴリー
8	境界の問題（1）	境界の形成と維持
9	境界の問題（2）	カテゴリーへの包摂と排除
10	「われわれ」と「彼ら」	カテゴリーをどう捉えるか（1）
11	「われわれ」と「彼ら」	多様性と寛容をめぐる問題（2）
12	「われわれ」と「彼ら」	異質なものへの不寛容：計量的アプローチ（3）
13	「われわれ」と「彼ら」	価値意識へのインプリケーション（4）
14	まとめ	全体をふりかえり、理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験により評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度初回のためなし。

SOC100EC

社会学入門A

佐藤 成基、徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は4月23日(木)とする。

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。授業の進め方としては、前半を佐藤成基が、後半を徳安彰が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	佐藤担当	ガイダンス
第2回	佐藤担当第1回	産業化
第3回	佐藤担当第2回	ゲームインシャフトとゲゼルシャフト
第4回	佐藤担当第3回	合理化（ヴェーバー）
第5回	佐藤担当第4回	文明化（エリアス）
第6回	佐藤担当第5回	シティズンシップ
第7回	佐藤担当第6回	グローバル化
第8回	試験	前半6回分についての試験
第9回	徳安担当第1回	アイデンティティ
第10回	徳安担当第2回	包摂と排除
第11回	徳安担当第3回	親密性
第12回	徳安担当第4回	役割
第13回	徳安担当第5回	社会的機能
第14回	徳安担当第6回	世俗化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連の文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度リアクション・ペーパー等によって確認する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門B」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学入門A

佐藤 成基、徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。授業の進め方としては、前半を佐藤成基が、後半を徳安彰が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	佐藤担当第1回	ガイダンス／産業化
第2回	佐藤担当第2回	ゲームインシャフトとゲゼルシャフト
第3回	佐藤担当第3回	合理化（ヴェーバー）
第4回	佐藤担当第4回	文明化（エリアス）
第5回	佐藤担当第5回	シティズンシップ
第6回	佐藤担当第6回	グローバル化
第7回	試験	前半6回分についての試験
第8回	コースガイダンス	社会学入門をもとにより専門的な学修に進むためのガイダンス
第9回	徳安担当第1回	アイデンティティ
第10回	徳安担当第2回	包摂と排除
第11回	徳安担当第3回	親密性
第12回	徳安担当第4回	役割
第13回	徳安担当第5回	社会的機能
第14回	徳安担当第6回	世俗化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連の文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度リアクション・ペーパー等によって確認する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門B」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学入門B

鈴木 智之、斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学の固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。

授業の進め方としては、前半を鈴木智之が、後半を斎藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりあう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）である。

前半（鈴木担当）については、毎週木曜日の朝までに、その週の講義内容（テキスト）を学習支援システムにアップするので、必ずその日の内に確認すること。

後半については、やり方が変わる可能性があるため、斎藤の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鈴木担当	ガイダンス
2	鈴木担当第1回	アノミー
3	鈴木担当第2回	秘密（社会化の形式としての）
4	鈴木担当第3回	純粋関係
5	鈴木担当第4回	ラベリング
6	鈴木担当第5回	ステイグマ
7	鈴木担当第6回	感情労働
8	試験	試験・まとめと解説
9	斎藤担当第1回	予言の自己成就
10	斎藤担当第2回	秩序問題
11	斎藤担当第3回	交換と互酬性
12	斎藤担当第4回	信頼

13 斎藤担当第5回 一般化された他者

14 斎藤担当第6回 相互行為儀礼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

授業期間の短縮のため、前半（鈴木担当分）については、試験ではなくレポート（＝論文試験）によって評価する。

後半（斎藤担当分）についても、変更の可能性があるため、教員からの指示によく注意すること。

情報は、「学習支援システム」にあげられるので、各自で確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学入門B

鈴木 智之、斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学の固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。

授業の進め方としては、前半を鈴木智之が、後半を斎藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鈴木担当第1回	アノミー
2	鈴木担当第2回	秘密（社会化の形式としての）
3	鈴木担当第3回	純粋関係
4	鈴木担当第4回	ラベリング
5	鈴木担当第5回	スティグマ
6	鈴木担当第6回	感情労働
7	試験	試験・まとめと解説
8	斎藤担当第1回	予言の自己成就
9	斎藤担当第2回	秩序問題
10	斎藤担当第3回	交換と互酬性
11	斎藤担当第4回	信頼
12	斎藤担当第5回	一般化された他者
13	斎藤担当第6回	相互行為儀礼
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学への招待

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学とはいかなる学問領域かということを探求しながら、専門学習に向けて自らの問題関心を醸成することを目的とする。

【到達目標】

社会学という学問領域の特徴・特性を学び、専門学習のための手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回オムニバス形式で、社会学を専門とする先生方が、それぞれの専門分野をベースに、いま一番おもしろいと感じている研究テーマや研究方法等について講義する。社会学という学問は、何を対象とするかというより、対象に対して向ける視線や姿勢、切り口にこそその特質がある。各先生方の講義を聴くことで、社会学の多様性と同時に、そこに一貫して流れるこの学問のもつ特質・特徴について考えていく。

なお、毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は下記の通り（但し、若干の変更可能性あり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の概要説明
2	我問う、ゆえに我あり：大学への招待、社会学への入門	堀川三郎先生の講義
3	国際移住の社会学を考える	田嶋淳子先生の講義
4	気候変動の社会学	池田寛二先生の講義
5	国籍と国民	佐藤成基先生の講義
6	社会心理学のまなざし	土倉英志先生の講義
7	家族社会学への招待	菊澤佐江子先生の講義
8	地方都市の社会学：祭礼文化のフィールドワークから	武田俊輔先生の講義
9	相互理解とはどのようなことか	徳安彰先生の講義
10	近代社会の光と影	鈴木宗徳先生の講義
11	〈歴史〉から問う社会学	鈴木智道先生の講義
12	「ただしさ」を社会学してみよう	斎藤友里子先生の講義
13	記憶と語りの社会学	鈴木智之の講義
14	まとめ	各講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業で紹介のあった文献等を読み、授業内容についての理解を深め、発展させる。本授業の復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

【武田俊輔先生】武田俊輔, 2019, 『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

【鈴木宗徳先生】豊泉周治・鈴木宗徳・伊藤賢一・出口剛司, 2014, 『(私)をひらく社会学—若者のための社会学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】

試験 (70%) と平常点 (リアクションペーパー等) (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This course introduces the nature of sociology to students taking this course.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A I

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論 (interactionism)」の考え方に基いて、日々の社会的現実の成り立ちを社会学的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に着け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不安全感」の理由を言語化できるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「教材」によって講義を進める。

リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。

当面のあいだ、オンラインで「テキスト教材」を提示することによって、講義を行う。

毎週、月曜日の昼までに、その週の「教材」を学習支援システムにアップするので、その日の内に確認すること。

初回は、4月27日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第 2 回	相互作用論の理論的基礎 (1)	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第 3 回	相互作用論の理論的基礎 (2)	対面的相互行為をめぐる E. ゴフマンの視点
第 4 回	相互作用論の理論的基礎 (3)	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第 5 回	相互作用論の理論的基礎 (4)	「レリヴァンス」と「フレイム」
第 6 回	相互作用秩序とそのトラブル (1)	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第 7 回	相互作用秩序とそのトラブル (2)	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第 8 回	相互作用秩序とそのトラブル (3)	トラブルを報告する
第 9 回	相互作用秩序とそのトラブル (4)	「アラーム」の出現
第 10 回	「心」の相互作用秩序 (1)	感情の社会的構成
第 11 回	「心」の相互作用秩序 (2)	コミュニケーションの要素としての「動機」
第 12 回	「心」の相互作用秩序 (3)	「モーティヴ・トーク」の社会学
第 13 回	「心」の相互作用秩序 (4)	動機の語彙と「心の闇」
第 14 回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された参考書を各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回、レジュメを配布する予定です。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社

中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社

鈴木智之, 2014 『「心の闇」と動機の語彙』青弓社

など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。学期末の「試験」のみを評価の対象とします (100%)。

ただし、コロナウイルスの感染状況によって、教室での「試験」が行えない可能性があります。その場合には、採点・評価の方法は変更するかもしれません。「学習支援システム」に提示する情報をよく注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

講義そのものが、私とあなたとの対面的な相互作用の場面です。相互作用秩序の形成を協働的に達成することが求められています。お互いに、この「場」を大事にして、日々の実践を積み重ねましょう。

【Outline and objectives】

The educational aims of this lecture are to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメに沿って講義を進める。
リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第 2 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第 3 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第 4 回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第 5 回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第 6 回	「ハビトゥス」の理論（3）	「図式（シエマ）」の複合体としてのハビトゥス
第 7 回	「ハビトゥス」の理論（4）	感覚の社会的依存性
第 8 回	「ハビトゥス」の理論（5）	複数のハビトゥス
第 9 回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第 10 回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第 11 回	物語としての自己（3）	病いの語り
第 12 回	物語としての自己（4）	存在への配慮
第 13 回	物語としての自己（5）	自己物語の複数性
第 14 回	「私」という存在の社会的成り立ち	秋学期の講義内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義によって提起された問いを、自分自身の現実に適用して、「私」という存在の成り立ちについて考える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメを配布する予定。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013 年
A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年
他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

よく「先生、単位下さい」という学生さんがいますが、「単位」は「あげる／もらう」ものではありません、「取得する」ものです。教員の役割は学生が単位を「取る」ために超えなければならない「ハードル（障害）」を設定することだと思います。これを乗り越えて（つまり、いやというほど勉強して）この科目の単位を取りに来てください。

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B I

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家（state）」という社会制度についての社会的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。マックス・ヴェーバー以来、社会学が「国家」をどう論じてきたのかを、様々な論者の所説を紹介しながら解説していく。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か：その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）：正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というヴェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）：国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）：国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）：ヴェーバーの官僚制論	ヴェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）：官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）：国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）：間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）：「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）：官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）：国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）：社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャーの権力について
14	国家と情報管理：国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から、授業での説明の不足や不確かさを補っている。

【Outline and objectives】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B II

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論 B I に引き続き「国家（state）」という社会制度についての社会的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B I での講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）：ナショナリズムの発生	近代主と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）：国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）：ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義（1）：国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と資本主義（2）：マルクス主義の国家論	マルクス主義の国家論について
7	国家と民主主義（1）：アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するゲール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
8	国家と民主主義（2）：民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
9	国家の社会福祉（1）：福祉国家の発生	福祉国家の発生について
10	国家と社会福祉（2）：福祉国家の「危機」？	現代福祉国家の「危機」について
11	国家のグローバル化：世界社会と国家	メイヤーらの新制度主義について
12	国家の「崩壊」：アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化：「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国民国家の現在：国家の機能不全と右翼ポピュリズム	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から、授業での説明の不足や不確かさを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B I を受講することを強く推奨する。社会学理論 B II は B I の内容を前提にして進められる。

【Outline and objectives】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

EDU200EC

社会教育概論 I

荒井 容子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。各自に何らかの社会教育事業に参加してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう。なお講義内容について適宜、バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業開始日は4月22日、実施方法はすでに学習支援システムの「お知らせ」等で提示済みである。またそれにとまなう各回の授業計画の変更もその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第1ラウンド 社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 1
5	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 2
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について 貧困と識字
7	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史1
10	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史2
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例1
12	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例2
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言はか）
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加 報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の初めに提示する課題2に関する指示に従って、講義期間中、各自早めに、興味のもてる内容の社会教育事業を探し出し、参加しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で20%、後一者で80%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】

「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていないことをさらに周知する必要。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

EDU300EC

社会教育概論Ⅱ

荒井 容子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容について適宜バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 - 「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行-行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	「生涯学習」政策の展開と法制度の変遷 1990年代以降
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	軍事政権下のラテンアメリカでの民衆文化運動ビデオ鑑賞
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布・回収する「感想・意見メモ」は熟考する機会として活用してほしい。これは熟考し追記したのち次週に提出してもよい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984年12月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015年9月。

【成績評価の方法と基準】

レポート（課題・期限は講義内で提示）を 85 %、講義内で配布・回収する「感想・意見メモ」は 15 % で評価する。レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になる。講義最終回でレポートをもとにバズセッションを行う。これは単位取得の必須条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

提供する情報を厳選し、配布資料を少なくする必要。バズセッションを活かすために、討議課題を工夫する必要。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会計画論 I

湯浅 陽一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域問題、環境問題の領域におけるさまざまな社会問題の解決をめぐる成功事例と失敗事例について学び、問題解決の成否の意味と、成否を左右した要因連関について検討する。2. 社会制御の過程を把握する社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」論を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会計画が関与した社会問題の解決過程の事例についての知識を得る。
2. 社会制御過程についての社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」を理解する。
3. 社会計画についての規範理論的問題群について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営システムと支配システムという視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

なお、とくに指示がないかぎり、春学期の授業はオンラインで実施する。これに伴う授業計画の変更については随時、学習支援システム（Hoppii）にアップロードしていく。授業は5月8日より開始するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンスと導入	受講上の注意と授業の導入
2	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析①	事例①：沼津市におけるゴミ問題
3	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-1	事例②-1：名古屋新幹線公害問題
4	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-2	事例②-2：名古屋新幹線公害問題（ビデオ）
5	地域問題・環境問題の解決過程③	事例③：東北・上越新幹線建設問題
6	地域問題・環境問題の解決過程④	事例④：フランスにおける新幹線の建設過程
7	地域問題・環境問題の解決過程⑤	事例⑤：静岡県コンビナート立地問題
8	地域問題・環境問題の解決過程⑥	事例⑥：東京ごみ戦争
9	地域問題・環境問題の解決過程⑦	事例⑦：高レベル放射性廃棄物問題
10	事例分析の整理と協働連関の両義性論	これまで取り上げてきた事例の整理を行い、協働連関の両義性論と結びつける
11	協働連関の両義性論①—経営システム・支配システムによる分析	協働連関の両義性と経営システム・支配システムについて解説する。
12	協働連関の両義性論②—2つのシステムの正連動と逆連動	経営システムと支配システムの正連動と逆連動について解説する
13	社会問題解決の成立条件と規範理論的検討	問題解決過程の基本サイクルと社会問題解決の基本的公準について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松橋晴俊，2012，『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

【参考書】

松橋晴俊他編，1985，『新幹線公害—高速文明の社会問題』有斐閣
松橋晴俊他編，1988，『高速文明の地域問題—東北新幹線の建設・紛争と社会的影響』有斐閣

松橋晴俊，2010，『組織の存立構造論と両義性論—社会学理論の重層的探究』東信堂

松橋晴俊，2018，『社会制御過程の社会学』東信堂

他の文献については開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの授業実施に伴い、成績評価の方法も変更する。具体的な内容は授業開始日に合わせて Hoppii 上に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論を組み合わせた講義内容により、深い理解を促すことができる。

【Outline and objectives】

Taking case studies of environmental and other social problems, this lecture aims to analyze key factors for resolution.

The relationship between Management and domination is a basic theoretical perspective for us.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

社会計画論Ⅱ

湯浅 陽一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域問題、環境問題、エネルギー問題の領域に関して、さまざまな社会問題や政策的課題の解決努力の成功や失敗を規定している要因を検討する。2. 社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みに対する理解を深める。

【到達目標】

1. 社会問題の解決過程について、事例の理解を通して知識を得る
2. 社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みとしての社会制御システム論と公共圏の機能について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会制御システムや公共圏の機能という視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要と導入	本講義の進め方、主題と導入
2	鉄道政策の事例分析①-1	事例①-1：整備新幹線建設－問題の概要
3	鉄道政策の事例分析①-2	事例①-2：並行在来線問題
4	鉄道政策の事例分析①-3	事例①-3：ミニ新幹線
5	鉄道政策の事例分析②	事例②：旧国鉄長期債務問題
6	エネルギー政策の事例分析①	事例①：日本の電力システム
7	エネルギー政策の事例分析②	事例②：原子力エネルギーと地域社会
8	エネルギー政策の事例分析③	事例③：再生可能エネルギーと地域社会
9	エネルギー政策の事例分析④	事例④：再生可能エネルギーと市民活動
10	エネルギー政策の事例分析⑤	事例⑤：再生可能エネルギー導入の国際比較
11	エネルギー政策の事例分析⑥	事例⑥：核燃料サイクル問題
12	事例の整理、社会制御システム論と公共圏の機能	事例の整理を行い、社会制御システム論と公共圏の機能の視点から解説する
13	社会問題の制御に向けて	公共圏の機能と民主主義、社会問題の解決について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松橋晴俊、2012、『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

松橋晴俊他編、2001、『政府の失敗の社会学』ハーベスト社

【参考書】

松橋晴俊、2010、『組織の存立構造論と両義性論－社会学理論の重層的探究』東信堂

松橋晴俊、2012、『核燃料サイクル施設の社会学－青森県六ヶ所村』有斐閣

松橋晴俊・壽福眞美編、2013、『公共圏と熟議民主主義－現代社会の問題解決』法政大学出版局

松橋晴俊、2018、『社会制御過程の社会学』東信堂

【成績評価の方法と基準】

読書ノート（25%）、期末テスト（75%）による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

事例と関連づけることによる理論的説明は、理解を促進するので、その方法を基本とする。

【その他の重要事項】

この講義を単独で履修することも可能であるが、社会計画論Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In the field of environmental and energy problems, this lecture aims to analyze key factors for making good policy.

The social control theory and public sphere are basic theoretical perspectives for us.

PHL200EA

社会思想史 I

明戸 隆浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業開始日について（20200423）】学年暦上の授業開始日は明日 4 月 24 日ですが、初回は簡単な課題のみとし、5 月 8 日の第 2 回から zoom を使ったリアルタイム授業を行います。詳細は登録後に学習支援システムで確認してください。

ヨーロッパおよびアメリカにおける近代以降の社会思想の流れを、「社会哲学の方法」に焦点を当てて見ていきます。

【到達目標】

(1) 重要な社会思想家が示した社会哲学の方法を、それが生まれた時代や地域などに即して理解する。(2) (1) で見た社会哲学の方法を現代社会の具体的な問題に適用し、その射程を見極める。(3) (1) (2) を通して、これから現代社会を生きる上で土台となるような視点の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回一人の思想家を取り上げ、(a) その人となりや社会的背景を解説した上で、(b) 原典の抜粋の講読を行い、(c) それが現代においてどう応用できるかを考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(全体の流れを概説します)
2	ホッブズ	絶対主権が秩序を守る
3	ロック	市民の同意による政府
4	ルソー	「一般意志」による政治
5	カント	よい／悪いは理性が決める
6	功利主義	よい／悪いは功利で決まる
7	リベラリズム	平等な社会のために
8	リバタリアニズム	自由が最高の価値である
9	共同体主義	社会の土台としてのコミュニティ
10	フェミニズム	差異としてのジェンダー
11	最終レポートに向けて	(最終レポートに向けてのガイダンスを行います)
12	グループディスカッション I	(テーマは実施の際に提示します)
13	グループディスカッション II	(テーマは実施の際に提示します)
14	最終ディスカッション	(最終レポートをもとにグループごとの意見交換を行います)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回関連文献を提示するので、各自の関心に沿って積極的に読み進めてください。授業内では授業で得た知識があれば答えられる簡単なワークシートに取り組みますが、そこに時間外に学習したことが反映できている場合、より高く評価します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定せず、毎回資料を配布します。

【参考書】

ジョナサン・ウルフ『政治哲学入門』（晃洋書房、2000 年）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』（早川書房、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回簡単なワークシートに取り組みます）：30/100 点、期末レポート：70/100 点

【学生の意見等からの気づき】

授業中の学生の出入りが多いという意見がいくつかあったので、今年度はワークシートの提出の仕方などを少し工夫しようかと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用します。またワークシートの提出などにウェブを利用するので、ノート PC やタブレットの持ち込みを歓迎します。

【その他の重要事項】

後期に開講される「社会思想史Ⅱ」の受講は必須ではありませんが、併せて受講することでこの講義についてもより知識を深めることができます。

【Outline and objectives】

This course aims to explore the development of modern social thought in the West focusing on the "method" of social philosophy.

PHL200EA

社会思想史Ⅱ

明戸 隆浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【Outline and objectives】

This course aims to examine the problem of ethnicity and multiculturalism in the United States since the latter half of the 20th century from the perspective of social philosophy.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半以降のアメリカにおけるエスニシティや多文化主義の問題を、関連する社会思想を通して見ていきます。

【到達目標】

(1) 多文化社会アメリカにおいて展開されてきた社会思想を、それが生まれた文脈に即して理解する。(2) (1) で見た社会思想の射程を現代日本の具体的な問題に適用し、視野を広げる。(3) (1) (2) を通して、これから現代社会を生きる上で土台となるような視点の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回一人の思想家を取り上げ、(a) その人となりや社会的背景を解説した上で、(b) 原典の抜粋の講読を行い、(c) それが現代の日本においてどう応用できるかを考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(全体の流れを概説します)
2	公民権運動	多文化社会アメリカの原点
3	ブラック・パワー	「ラディカルなマイノリティ」をどう理解するか
4	ニューヨーク知識人	ユダヤ系知識人がアメリカで歩んだ道
5	アファーマティブ・アクション	「平等」と「能力」の狭間で
6	ヘイトスピーチ	「表現の自由の国」アメリカの限界
7	多文化主義	90 年代アメリカにおけるエスニック問題の複雑化 (1)
8	ポリティカル・コレクティブネス	90 年代アメリカにおけるエスニック問題の複雑化 (2)
9	9.11	ニューヨーク知識人からネオコンへ
10	トランプ以降	多文化社会アメリカはどこへ行くのか
11	最終レポートに向けて	(最終レポートに向けてのガイダンスを行います)
12	グループディスカッションⅠ	(テーマは実施の際に提示します)
13	グループディスカッションⅡ	(テーマは実施の際に提示します)
14	最終ディスカッション	(最終レポートをもとにグループごとの意見交換を行います)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回関連文献を提示するので、各自の関心に沿って積極的に読み進めてください。授業内では授業で得た知識があれば答えられる簡単なワークシートに取り組みますが、そこに時間外に学習したことが反映できている場合、より高く評価します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定せず、毎回資料を配布します。

【参考書】

南川文里『アメリカ多文化社会論——「多からなる一」の系譜と現在』（法律文化社、2016 年）
 中山俊宏『アメリカン・イデオロギー——保守主義運動と政治的分断』（勁草書房、2013 年）
 堀邦維『ニューヨーク知識人——ユダヤ的知性とアメリカ文化』（彩流社、2000 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回簡単なワークシートに取り組みます）：30/100 点、期末レポート：70/100 点

【学生の意見等からの気づき】

授業中の学生の出入りが多いという意見がいくつかあったので、今年度はワークシートの提出の仕方などを少し工夫しようかと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用します。またワークシートの提出などにウェブを利用するので、ノート PC やタブレットの持ち込みを歓迎します。

【その他の重要事項】

前期に開講される「社会思想史Ⅰ」の受講は必須ではありませんが、併せて受講することでこの講義についてもより知識を深めることができます。

SOC200EC

社会心理学 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、感情、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的現象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。

※※ 4/16 追記：本授業は 4 月 22 日からオンラインで実施する。詳細は学習支援システムに仮登録し、資料を参照すること。資料は初回授業までにアップする。※※

※※ 4/21 追記：授業の進め方の詳細を第 1 回の資料にアップした。参照されたい。※※

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	推論に影響する要因は何か
5	社会的推論 3	推論はいかなるプロセスでなされるか
6	態度と態度変化	価値観がどのように変わるのか
7	説得と態度変化	人を説得するにはどうしたらいいか
8	対人魅力と親密化過程	どのような人に魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	他者に自分をどのように見せるか
11	社会的影響	他者の存在からどう影響を受けるのか
12	援助行動	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・村井潤一郎編（2018）『絶対役立つ社会心理学』。ミネルヴァ書房。
- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）。有斐閣。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・定期試験の成績で判断する（100 %）
- ・ただし、指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となる。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。
- ※※ 4/21 追記：成績の評価方法は上記から変更になる。詳細は学習支援システムに仮登録し、第 1 回の資料を参照すること。※※

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者の意見を参考に配付資料の位置づけを工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline and objectives】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOC300EC

社会心理学Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連性、文化的道具論、グループ・ダイナミクスと実践研究、制度アプローチ、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取り組み機会を設けたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミクスとは何か
2	認知の文化歴史性	文化・歴史とともにある認知
3	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
4	認知とネットワーク	ネットワークに埋め込まれた認知
5	分散された認知	人びとの間に分散している認知と活動
6	実践共同体と学び	正統的周辺参加論
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
9	制度アプローチ	誘因の構造と行為の関連
10	制度アプローチ	誘因の構造をいかに変えるか
11	グループ・ダイナミック	グループ・ダイナミクスと実践研究
12	偏見とステレオタイプ	偏見とステレオタイプがもたらす問題
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はなし。

【参考書】

- ・石黒広昭・亀田達也編（2010）『文化と実践』。新曜社。
- ・ドナルド・ノーマン（1990）『誰のためのデザイン？』。新曜社。
- ・レイヴ&ウエンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』。産業図書。
- ・杉万俊夫（2013）『グループ・ダイナミクス入門』。世界思想社。
- ・ブルーノ・ラトゥール（2019）『社会的なものを組み直す』。法政大学出版局。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・定期試験（80%）とグループワーク課題（20%）で判断する。
- ・ただし、指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となる。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

・グループワーク課題を早めに課すことにします。プレゼンを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline and objectives】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, group dynamics of community building, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOS100EB

社会政策科学入門A

堅田 香緒里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策に関する基本的な知識と視点を学ぶ

【到達目標】

社会政策や、政策の背後にある考え方について理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DP
についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

出来るだけ具体的な「社会問題」のトピックをとりあげ、それらへの
政策的対応の在り方について検討する。※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて
変更の可能性もある。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）
の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イントロダクション
第2回	社会を理解する①	貧困／ホームレス／生活保護
第3回	社会を理解する②	ワーキングプア・非正規雇用／フリーター
第4回	社会を理解する③	過労死／ブラック企業／就活
第5回	社会を理解する④	子どもの貧困／児童虐待／待機児童
第6回	社会を理解する⑤	家族／ジェンダー／セクシュアリティ
第7回	社会を理解する⑥	高齢化／医療／認知症
第8回	社会を理解する⑦	少子高齢化／持続可能性
第9回	社会を理解する⑧	グローバリゼーション／移民
第10回	社会政策を理解する①	市民／地域／国家／市場
第11回	社会政策を理解する②	市民参加／福祉多元主義
第12回	社会政策を理解する③	専門職／当事者
第13回	ふりかえり	これまでの授業で取り上げた「社会問題」および政策的対応についての振り返り
第14回	授業内試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

授業は毎回のレジュメ・教材に沿って行います。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（今年度から担当します）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and perspectives of social policy.

SOS100EB

社会政策科学入門B

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、経済学の視点を身につけることです。経済学の基礎理論は、主にミクロ経済学とマクロ経済学によって構成されます。本講義では、ミクロ経済学やマクロ経済学を将来的に履修する上で必要となる経済学の基礎や、これらの科目ではカバーできない分野に関して解説します。

【到達目標】

- (1) 比較優位について、図を用いて説明できる。
- (2) 効率性と公平性について理解できる。
- (3) ジニ係数の導出過程を説明することができる。
- (4) 行動経済学のプロスペクト理論について図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DP
についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は効率性と政策の関係をもとに費用便益分析を扱う。さらに、
機会費用と比較優位について解説する。後半は、効率性と公平性の
トレードオフおよび所得格差に関して考察する。最後に、行動経済
学のプロスペクト理論について解説する。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）
の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、効率性	経済学について議論します。
2	費用・便益分析（1）	費用・便益分析について解説します。とくに費用の考え方に注目します。
3	費用・便益分析（2）	費用・便益分析について、具体例から議論します。
4	比較優位（1）	機会費用から比較優位に関して議論します。
5	比較優位（2）	比較優位と絶対優位の違いに関して議論します。
6	比較優位（3）	比較優位について図解します。
7	比較優位（4）	比較優位について計算による理解をします。
8	中間試験	費用・便益分析および比較優位の確認を行います。
9	効率性と公平性	効率性と公平性について議論します。
10	ジニ係数（1）	格差を測る指標を導出します。
11	ジニ係数（2）	格差を計算することで、現状を確認します。
12	ジニ係数（3）	格差指標を用いて、高齢化と少子化について議論します。
13	行動経済学（1）	プロスペクト理論について解説します。
14	行動経済学（2）	プロスペクト理論について図解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50%、期末試験50%、両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire an economics perspective. The basic theory of economics is mainly composed of “microeconomics” and “macroeconomics”. In this course, we will explain the basics of economics required for future studies of “microeconomics” and “macroeconomics”, and the areas that cannot be covered by these subjects.

SOS100EB

社会政策科学入門C

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策科学、公共政策の基礎的な考え方を学ぶ

【到達目標】

政策科学、公共政策についての基本的知識を身につける。

理論のみならず事例の理解も試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1) 前半7回の政策科学における政治学の位置を踏まえた上で、後半7回では政策過程における社会科学のうちで、「有権者」となる諸君に必須な政治学的アプローチに対する知識を深めてもらう。

2) 本講義では、政策科学における統治機構の立法府において実際に政策決定に関連する政治家を中心とした諸アクターと、そうした統治機構に対するわれわれ国民からのインプットという、基礎的な知識を身につけてもらうことを期待する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。学習支援システムで授業が開始されるのは4月23日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	政策科学とは何か？ 国際政治学・政治学のアプローチ	政策科学を学ぶ上で、なぜ、国際政治学・政治学が必要なのかを考える。
第2回	政策科学における国際政治学・政治学の位置	国際政治学・政治学とはいったいどういう学問なのかを理解する。
第3回	国際政治学・政治学の理論	理論を支える哲学を考える。
第4回	国際・国家・コミュニティの課題	政策科学の問題対象である三つの領域の課題を理解する。
第5回	政治システム論：イーストンを中心に	政治システム論の基礎的理解。
第6回	政治コミュニケーション論：ドイチュを中心に	政治コミュニケーション論の基礎的理解。
第7回	国際・比較政治学の視座	国際・比較政治学の基礎的理解。
第8回	政治制度と政治過程	政治過程論の発展と現代政治学。
第9回	政策決定の主体	政治家とは？
第10回	政策過程における集団	集団の時代。
第11回	政党の理論：デュベルジェ	二大政党システムの基礎理論。
第12回	政党の理論：サルトリー	デュベルジェの修正としての政党理論。
第13回	55年体制と93年体制	日本政治の理論的理解。
第14回	政策科学における国際政治学・政治学の課題の総合的理解。	国際政治学・政治学の総合的理解の到達。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」として理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『衆参ねじれ選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2011年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

18歳選挙権の導入により、有権者となった皆さんの主権者教育に資するために、ミネルヴァ書房の「現代日本の選挙シリーズ」の一冊をこれまで指示して使用したことがあった。そこで、今年度も同等のものを、講義において、適宜指示するつもりである。

【参考書】

マックス・ウェーバー、1984、『職業としての政治』岩波文庫
白鳥浩、2009、『都市対地方の日本政治』声書房

【成績評価の方法と基準】

試験＝50% 講義への積極性＝20% レポート＝30%を目安とする。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向コミュニケーションを大事にしたい

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Public Policy.

SOS100EB

社会政策科学入門D

長谷部 俊治

サブタイトル：社会政策科学への招待

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は、社会を律する枠組みをかたちづくるシステムで、統治の体制、罪と罰の適用、所有・契約の要件・効果などはすべて法によって定められている。この授業では、法の重要な考え方に焦点を当てて、その特徴や法を基盤とした社会的な関係について、分析的に考察することとする。受講者は、社会の問題に対して法的にアプローチする思考力を養い、社会科学を学ぶための基礎的な力を身につけることができるはずである。

【到達目標】

- ・法システムの概要と法的な思考方法を理解する。
- ・社会的課題を解決するうえで法が担う役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法システムを構成する主要な分野について、そのしくみと基盤となっている考え方を講義する。特に、法的思考の特徴を具体的に理解することに重点を置く。

注：授業は学年暦どおり4月21日から開始する。COVID-19対策のため教室授業ができないあいだは、学習支援システムを通じて授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法という現象－社会のなかの法－	法ルールの規範性と社会的機能、社会理論における法理解
2	法律体系－類型・相互関係－	公法と私法、法源、実定法の相互関係
3	立憲主義－統治と法秩序－	国家統治、立憲の考え方、法の支配、違憲審査
4	罪刑法定主義－刑法の基礎－	罰則の役割、刑罰手続、死刑をめぐる問題
5	私人のあいだの法的規律	近代的社会関係、民法の構成、権利行使
6	権利と義務の発生－契約－	契約法の基本的構成、契約プロセス
7	権利を守るために－不法行為制度－	不法行為制度の機能、不法行為成立の要件とその効果
8	血縁のルール－家族関係－	家族関係と法秩序、家族法と財産法の接点
9	紛争解決－裁判のしくみ－	紛争解決の類型、裁判の意味、民事訴訟手続
10	国際秩序－国際法の世界－	国際社会のルール、条約、国際秩序の課題
11	市民法の形成と発達	近代市民像、中世ヨーロッパの都市法、市民組織
12	法の性質－法思想の諸相－	法システム、法と社会構造、法の本質
13	法の目指すもの－権威・正義・自由－	正当な支配、法による正義、自由の保障と限界
14	まとめ	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日刊紙を読み、社会問題に対する関心を鋭敏にする。また、講義後、毎回、その内容を具体的な事例に当てはめて理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とする。

授業期間中にレポートを1回課す予定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、講義レジュメを配布する。

【参考書】

基本的な参考書は次のとおり。

- ・碧海純一『法と社会』中公新書、1967
- ・ヴィノグラドフ『法における常識』岩波文庫、1972
- ・星野英一『民法のすすめ』岩波新書、1998

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60％）及びレポート提出（1回・40％）によって評価する予定。

注：期末試験を教室で実施できない場合には、レポートの提出に変更する予定である。変更の有無は学習支援システムで知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Understanding of jurisprudence as policy science

SOC300EC

社会調査実習

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本の地域社会は農村地域はもとより都市部においても急激な人口減少に直面している。そのため、人口減少に抗するにしても適応するにしても、いかに地域社会の持続可能性を高めることができるかが、あらゆる地域社会の喫緊の課題となっている。この授業では、八王子市、町田市、相模原市を主な対象として、住民や行政や企業など多様なアクターが人口減少の現状と課題に対してどのように取り組んでいるかを、主として質的調査の方法（参与観察、インタビュー調査、ドキュメント分析など）を駆使して解明し、社会調査というアクション・リサーチを通して、地域課題とその解決の方向性を社会的に考え実践する能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

具体的な問題を抱える地域社会の実態と政策課題をフィールドワーク型の社会調査によって把握・分析することを通して、学生に社会調査の全プロセスを経験させ、質的調査法を実践的に習得させることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は以下の大きく4つの段階に沿って進められる。

1：社会調査を実施する（「実査」する）ことの意味に関する基本認識を共有する。

2：社会調査を設計・計画する。（「フィールドノーツ」の重要性と作成法、基礎資料・基本情報の共有化、調査テーマの確定、調査地域の選定、調

査対象の確定、仮説の定立、調査方法の確定、質問項目の整理、質問文の作成、インタビューマニュアルの作成、調査スケジュールの作成、調

査対象者とのアポイントメントの心得の共有、インタビュー記録・観察記録のフォーマットの共有、収集した質的調査データの処理・分析の手法

、報告書の作成法、「調査倫理」としての対象者・協力者への結果報告の心得

3：社会調査を実施（実査）する：2の設計・計画に応じて現地調査（フィールドワーク）を実践する。

4：調査結果のまとめと報告書作成：調査結果をまとめ調査対象者・協力者に報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	序論、教員および参加学生の自己紹介	調査実習の趣旨の共有
2 回目	先行研究から学ぶ（1）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
3 回目	先行研究から学ぶ（2）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
4 回目	先行研究から学ぶ（3）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
5 回目	先行研究から学ぶ（4）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く

6 回目	先行研究から学ぶ (5)	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
7 回目	予備調査 (1)	調査地に関する基礎資料の収集と講読
8 回目	予備調査 (2)	調査地に関する基礎資料の収集と講読
9 回目	予備調査 (3)	調査地に関する基礎資料の収集と講読
10 回目	予備調査 (4)	調査地に関する基礎資料の収集と講読
11 回目	予備調査 (5)	調査地に関する基礎資料の収集と講読
12 回目	現地予備調査の実施 (1)	地元の関係者を担当とするインタビュー
13 回目	現地予備調査の実施 (2)	地元の関係者を担当とするインタビュー
14 回目	現地予備調査の実施 (3)	地元の関係者を担当とするインタビュー
15 回目	現地予備調査の成果の まとめ	インタビュー結果の整理と共有、 秋学期における本調査への留意点 の確認
16 回目	本調査の計画と準備 (1)	本調査における調査項目と調査方 法の確認、マニュアル作成
17 回目	本調査の計画と準備 (2)	本調査における調査項目と調査方 法の確認、マニュアル作成
18 回目	本調査の計画と準備 (3)	本調査における調査項目と調査方 法の確認、役割分担とスケジュール 作成
19 回目	本調査の計画と準備 (4)	本調査における調査項目と調査方 法の確認、分担とスケジュール作 成、アポイントメント
20 回目	本調査の実施 (1)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
21 回目	本調査の実施 (2)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
22 回目	本調査の実施 (3)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
23 回目	本調査の実施 (4)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
24 回目	本調査の実施 (5)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
25 回目	本調査の実施 (6)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
26 回目	本調査の実施 (7)	現地調査の実施、その都度報告、 報告書の執筆を同時並行で進める
27 回目	調査結果のまとめ (1)	各自の調査結果の整理と共有、報 告書の編集
28 回目	調査結果のまとめ (2)	報告書の原稿完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。また、調査対象地に関する自発的な資料・情報収集活動を主な宿題とします。

【テキスト（教科書）】

過去の池田が担当した社会調査実習の報告書＝池田寛二他編著『首都圏山村社会の現状と課題』（1）～（4）（2005 年度～2009 年度）・『首都圏農村社会の現状と課題』（1）（2）（3）（2013 年度～2015 年度）

【参考書】

日本村落研究会編『むらの社会を研究する』（農山漁村文化協会、2006 年）、
地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社、2006 年）、
池田寛二『制度資本としてのコモンズ—政令指定都市の中の山村社会を事例として—』宇沢・関編『社会的共通資本としての森』第 8 章（東京大学出版会、2015 年）など

【成績評価の方法と基準】

調査活動への参加度・貢献度（40 %）、調査手法の習熟度（20 %）、調査報告書の内容（40 %）を主な評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This class mainly focuses on Hachioji City, Machida City, and Sagami City, and conducts a qualitative social research mainly on how various actors, such as residents, local governments, and business persons, are tackling the current issues of population decline. The purpose of this class is to enhance students' ability to do research on community issues sociologically through active learning called social research.

SOC300EC

社会調査実習

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習の目的は社会調査を実施する方法を学ぶ。今年度のテーマは『グローバル化の中の池袋 Part II』

【到達目標】

本実習では社会調査の一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習は4月22日よりzoomを使って授業を開始します。学習支援システムに仮登録をし、担当教員まで必ず、事前に連絡メールを送って下さい。詳細は学習支援システムにて指示します。本実習においては、都市地域社会を対象とするフィールドワークを通じ、調査の流れに沿って、作業プロセスを体験します。特に、地域へのアプローチの仕方から問題の析出とドキュメント分析およびインタビューなどの調査プロセスを通じ、調査報告書の作成に至る社会調査の全プロセスを把握します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調査概要と調査地について	調査地についての文献検索及び統計データの収集
2	調査報告書を読む	調査報告書を参考に調査報告の書き方を学ぶ
3	既存データの収集および講読	参考文献の検索方法および既存データを読み、問題の所在を把握する
4	調査地の社会地図	写真データの収集と共有化
5	文献の収集・検討	既存研究データ・ベースの作成作業、文献の講読を通じて、問題意識の明確化をはかる
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討。調査研究計画の立案
7	既存データの批判的検討	統計、ドキュメントなど資料の収集と講読、レポート
8	調査地域へのアプローチ	対象地域を地域組織へのインタビューから把握する
9	インタビュー記録の作成	インタビュー記録の作成作業とケース化
10	インタビュー記録の作成	ケース化作業
11	調査の準備作業	データの共有化
12	調査の準備作業	調査対象へのアプローチ方法の検討
13	調査計画の立案	夏休み中の調査計画立案
14	夏休み調査の準備作業	調査対象者へのアプローチとアポイントの確認
15	調査結果の検討	調査結果の批判的検討
16	データ・クリーニング	インタビューデータの確認
17	データの分析作業	分析作業を進める（各自の担当部分と全体とのつながり）
18	データの分析作業	サブ・グループを作り、データ分析作業
19	データの分析作業	データ分析から各自のテーマ化
20	補足調査実施	各自のテーマに必要な補足調査を実施
21	既往文献の再検索	既往文献を再検索する
22	データの公表の仕方	倫理規定についての検討
23	プレゼンテーションの準備	PPTを使った発表の仕方
24	論文構成の検討	各自の論文文化へ向けた作業
25	報告書構成の確定	調査報告書の構成を確定し、論文のテーマを調整
26	報告書の執筆作業	報告原稿の完成に向けたブラッシュアップ
27	報告書の執筆作業	論文の書き方
28	報告書の執筆作業	報告書の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で出された課題を個人あるいはグループで実施するため、準備作業が重要となる。また、夏休み中のインタビュー調査と合宿は必ず参加すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各年度で作成した調査報告書（これらは配布または貸し出し予定）
社会調査実習報告書,2019『多文化共生のありかをもとめて Part IV』
社会調査実習報告書,2018『コミュニティとしての横浜中華街 Part III』

【参考書】

田嶋ゼミ社会調査報告書,2006『多文化共生のありかをもとめてⅠ、Ⅱ、Ⅲ』。
田嶋淳子「池袋・新宿調査からの20年」『社会と調査』第4号,2010年。
田嶋淳子、2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店。
田嶋ゼミナール『グローバル化の中の池袋』2010年調査報告。

【成績評価の方法と基準】

調査実習のすべての段階における課題提出（30%）、インタビュー記録などの調査データの作成（30%）および最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本社会調査実習は調査研究法B（田嶋担当）とセットで履修することが求められている。履修にあたっては、必ず事前に担当教員と相談すること。

【Outline and objectives】

Students will learn how to conduct social research. The theme this year is “Globalization of Ikebukuro- part II.”

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

社会調査実習

樋口 明彦

サブタイトル：政策研究実習

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、貧困・不登校・中退・日本語習得などの課題を抱えながら学ぶ高校生の増加が報告されている。東京都教育庁は「学びのセーフティネット事業」を通じて、このような若者をサポートしている。本実習では、多摩地域の居場所でのフィールドワークを行いながら、高校生にインタビューを行い、高校生が直面する困難の実情を社会的に分析する。

【到達目標】

- ①高校生の学習支援の現状を調査し、その政策効果を評価するスキルを獲得する。
- ②研究論文を執筆して、見解を論理的に述べるスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、実際のフィールドワークを通じて、調査企画・実査・データ分析・報告書作成という一連の作業を行う。具体的な作業として、学習支援機関に通う高校生を対象にヒアリングを行う。4～6月には、調査地に関する下調べ、先行研究の検討、論文で取り上げる各自の研究テーマの設定を行う。7月には、質問票の作成を行う。9月には、ヒアリングを実施する。10月には、調査結果に基づき、各自の分析を進める。11～12月には、研究論文の執筆を行う。そして、1月に、研究報告書を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	概要説明
2	調査テーマの確認	日本の若年者雇用問題について
3	先行研究の検討①	新聞記事
4	先行研究の検討②	雑誌記事
5	先行研究の検討③	統計書
6	先行研究の検討④	論文
7	先行研究の検討⑤	書籍
8	対象地域の下調べ①	報告書
9	対象地域の下調べ②	学習支援の現状
10	質問票の作成①	各自の研究テーマの設定
11	質問票の作成②	各自の研究テーマの修正
12	質問票の作成③	質問項目の提示
13	質問票の作成④	質問項目の修正
14	質問票の作成⑤	プレテスト、最終確認
15	ヒアリングの実施①	訪問、聞き取り
16	ヒアリングの実施②	訪問、聞き取り
17	ヒアリングの実施③	訪問、聞き取り
18	ヒアリングの実施④	訪問、聞き取り
19	データ整理	取得データの確認
20	研究テーマの設定①	各自の研究テーマを検討
21	研究テーマの設定②	各自の研究テーマを検討
22	研究テーマの設定③	各自の研究テーマを検討
23	分析結果の合評①	各自の分析結果を検討
24	分析結果の合評②	各自の分析結果を検討
25	分析結果の合評③	各自の分析結果を検討
26	論文の検討①	論文の推敲
27	論文の検討②	論文の推敲
28	論文の検討③	論文の推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①ヒアリング
- ②ヒアリング結果のテープ起こし
- ③研究論文の執筆
- ④本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後、指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①報告書論文（80%）
- ②平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

- ①4月初旬に開催される「社会調査実習／政策研究実習ガイダンス」に出席して、担当教員の指示を受けること。
- ②本実習では、大学の外に出てヒアリング調査を行うため、正規の開講時間に合致しないことがある。ただし、その際は、事前に受講生と日程調整を行い、無理のない実施に努める。
- ③本実習は社会調査士資格 G 科目に該当する。
- ④本実習は、同じ担当教員の「調査研究法 B」とセットで履修しなければならない。

【Outline and objectives】

The social survey on youth services

SOC100EC

社会調査入門

山口 壘

サブタイトル：社会調査 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

To develop a basic understanding of histories and the different methodological traditions of the social research.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会調査の歴史や方法および具体的な事例の学習を通じて、その社会的・学術的意義に関する理解を深める。またそのことを通じて、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを向上させることが、社会調査を取り巻く現在の状況との関連で今後ますます重要となることを学ぶ。

【到達目標】

社会調査とはどのようなものであるかをイメージすることができるようになる。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4・DP9に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は秋学期の「社会調査の方法（社会調査Ⅱ）」とセットで受講することが望ましい。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査の目的と意義	社会調査の目的と意義
2	社会調査の歴史（1）	社会調査とその時代的背景
3	社会調査の歴史（2）	社会調査とその時代的背景
4	国による調査の紹介	国勢調査などの基幹統計とその意義
5	社会調査の種類	さまざまな分類方法の紹介
6	量的調査と質的調査	共通点と相違点
7	量的調査を用いた研究の紹介（1）	自殺論を読む
8	量的調査を用いた研究の紹介（2）	自殺論を読む
9	質的調査を用いた研究の紹介（1）	ストリートコーナーサエティを読む
10	質的調査を用いた研究の紹介（2）	ストリートコーナーサエティを読む
11	量的調査と質的調査の組み合わせ（1）	方法の組み合わせ（トライアングレーション、ミックスドメソッド）
12	量的調査と質的調査の組み合わせ（2）	担当教員がおこなう調査・研究の紹介
13	学術的調査以外の調査の紹介	マーケティング調査など
14	社会調査を取り巻く現状と課題	調査倫理・個人情報の保護・調査リテラシーまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料や参考書をもとに、準備学習・復習をすすめる。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

轟亮・杉野勇編、2013、『入門・社会調査法【第 2 版】』法律文化社。
佐藤郁哉、2006、『フィールドワーク——書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社。
E. デュルケム（宮島喬訳）、『自殺論』中公文庫。
W.F. ホワイト（奥田道大・有里典三訳）、『ストリート・コーナーサエティ』有斐閣。
その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（25%）、コメントシート（5%）、試験（70%）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

SOC200EC

社会調査の方法

山口 壘

サブタイトル：社会調査Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会調査データの創出・整理・保存・公開というサイクルを踏まえ、それぞれの段階における具体的な手続きを学んでいく。とりわけ、社会調査の企画段階からその実施に至るまでのプロセスについては、複数のトピックに分けて細かく検討していく。

【到達目標】

本講義を通じ、受講生は社会調査を企画した上で実施し、得られたデータを適切な形で整理・保存・寄託するための一連の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4・DP9に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期の「社会調査入門（社会調査Ⅰ）」とセットで履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査の企画	目的 予算 組織 調査デザイン
2	調査方法を選ぶ (1)	面接 郵送 電話 インターネット
3	調査方法を選ぶ (2)	フィールドワーク インタビュー 参与観察
4	調査対象を確定する	母集団と標本 サンプリング
5	社会調査に伴う誤差	標本誤差と非標本誤差
6	質問文・調査票の作成 (1)	概念から指標へ 変数と値
7	質問文・調査票の作成 (2)	質問の形式 ワーディング
8	質問文・調査票の作成 (3)	選択肢のつくり方
9	質問文・調査票の作成 (4)	調査趣旨書のつくり方
10	調査の実施方法	具体的な手順を考える
11	調査データの整理	エディティング コーディング データ入力 クリーニング フィールドノート
12	データを保存する	調査票の管理、基礎集計表・コードブック・記録文書・報告書の作成
13	データを寄託する	公共財としての社会調査 一次データと二次データ データアーカイブの紹介
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料や参考書をもとに、準備学習・復習をすすめる。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣。
佐藤博樹・石田浩・池田謙一編, 2000, 『社会調査の公開データ——2 次分析への招待』東京大学出版会。
その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート (10 %)、小テスト (20 %)、試験 (70 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This class intends students to understand general procedures to conduct quantitative survey in order to answer a research question of their choice. Covering topics include constructing a good questionnaire, sampling methods, secondary analysis of existing data, and so on.

SOC200EB, SOC200EC

社会調査のリテラシー

中筋 直哉

サブタイトル：特講（社会調査のリテラシー）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査によって得られたさまざまな形式のデータを用いて読み書きするために必要となる基礎的なリテラシーを学ぶ。現代社会におけるさまざまな問題を社会科学的に解釈、説明するための基本的な概念を理解する。

【到達目標】

社会調査によって得られたデータを使った論文や報告書の分析結果や社会的含意を理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

おもにパワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の目的	社会調査を読み書きするリテラシー
2	量的調査を読む (1)	量的データ、とくに公的統計のデータベースにアクセス
3	量的調査を読む (2)	量的データ、とくに公的統計を用いた代表的文献の講読
4	質的調査を読む (1)	質的調査、とくにフィールドワークを用いた文献。資料にアクセス
5	質的調査を読む (2)	質的調査、とくにフィールドワークを代表的文献の講読
6	抽象化して考える	変数と値
7	データを記述する (1)	度数分布表の読み取りと作成、相対度数、累積度数、累積百分率
8	データを記述する (2)	各種のグラフの読み取りと作成
9	変数の関連を捉える (1)	代表とと散布度—平均、分散、標準偏差など
10	変数の関連を捉える (2)	相関と因果、疑似相関、変数のコントロール
11	変数間の関連を記述する (1)	クロス集計表
12	変数間の関連を記述する (2)	尺度水準と分析方法
13	変数間の関連を記述する (3)	量的変数間の関連—散布図、共分散、相関係数
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

理解の積み上げが必要となる部分があるので、必要に応じて配布資料で復習して授業に臨むことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

岩井紀子・保田時男, 2007, 『調査データ分析の基礎——JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣。
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメントシート、小テスト）35 %、期末テスト 65 %

【学生の意見等からの気づき】

スライドが冗長という意見があったので、各回のスライドを工夫し、より明快な説明を心掛ける。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study basic data analysis acquired by social research and public survey.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

宇野 齊

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステム的な見方とともに、学びます。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会のシステム的な見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1 社会におけるネットワーク現象の理解する
2 企業や地域等のネットワーク現象と運営を考察
3 実験を通じスモールワールド等の社会現象を考察
4 システム概念を確認した上で、個人と社会のネットワーク的な関わりを考察

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介し、社会現象を起すネットワークの振る舞いを考察します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	システム論的見方を提示した後、ネットワーク上の主体の役割と相互関係を状況確認します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク (2)	地域を成立させているネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク (1)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
08	地域のネットワーク (2)	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
10	スモールワールドの実験	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
11	スモールワールドの実験と理論	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	社会における多段階のネットワーク関係をシステム的に考察します。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。
14	まとめと質疑および議論	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25 %、レポート 25 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学 I・II を（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn how to view society from a systematic view and network view.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 齊

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【Outline and objectives】

Learn the theory and method which can analyze the social networks in the organization.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を交えて授業を進めます。組織の中でのネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式の関係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果 1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果 2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果 3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の関係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 25 %、期末試験 45 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

LAW200EB

社会保険法 I

曾布川 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保険の制度、特に社会保険の制度と仕組みを理解し、法政策上の論点を検討する。

私たち生活者は、常に日常生活を脅かす病気やケガ、障害者になるリスク、失業あるいは高齢による稼働能力の減退というリスクと隣り合わせである。こうしたリスクが現実起こったとき、それを解消しあるいは最小限の負担に食い止めるためには、事態をあらかじめ想像してそれに備えておくことが必要となる。この備えを全て個人の貯蓄で賄いきることは困難であるため、集団による費用の持ち合いの手法を用いる。こうした手法を、少々乱雑な整理ではあるが「保険」と呼ぶことにすると、社会保険制度においては、社会全体で保険を行う「社会保険」がこれに該当することとなる。

2020 年度の社会保険法 I では、この社会保険を中心に据えて、基本的な制度のメカニズムを理解することを主眼とする。また、この講義で学修する社会保険の知識は、今すぐ使える情報でもあるので、実生活でも役立ててもらいたい。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室での講義ができなくなった。

そこで代替案として、指定教科書を徹底的に読み込むこととし、これにより授業の目的である「社会保険の制度と仕組みを理解し、法政策上の論点検討」を目指す。

講義はレジュメ（ツッコミレジュメと称する）で行う。教科書とツッコミレジュメを読み、時に参考書や資料を参照し理解を深めてもらう。ツッコミレジュメには、教科書を読む際のガイド、理解を助けるための補足説明や資料、法政策としての論点などを掲載する。また、授業内掲示板も利用する。

補足的に短い動画で説明を行う場合もある。

2 回の課題レポート作成・提出を義務とする。

・受講スタイル（受講生が行う内容）

①毎週教科書の指定範囲を読み、疑問点やわかりにくい箇所などを挙げておく

②必要に応じて参考書等で調べておく

③講義時に配布されるツッコミレジュメをダウンロードして読む

④掲示板に投稿し他の受講生との意見交換を行う

⑤ 2 回のレポート作成と提出を行う

・授業内掲示板の利用方法

①講義を受けて理解したこと、疑問に思ったこと、自分で調べたこと、質問などを投稿する

②他の受講生の投稿に返信する

③投稿や質問に対して、教員が回答を投稿することもある

講義開始は 4 月 22 日 11 時 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総論	社会保険を理解するために、保険ということについて考えてみる
2	医療保険①	医療保険制度の仕組みを中心に
3	医療保険②	傷病手当金等現金給付を中心に
4	医療保険③	高齢者医療制度を中心に
5	介護保険	社会保険としての介護保険という観点で
6	雇用保険	失業したら支給される給付と失業させないために支給される給付がある
7	労災保険	業務災害・通勤災害。アルバイトをする大学生も対象
8	労働保険特別編	労働保険とは雇用保険と労災保険（合わせて労働保険）の実際を紹介する
9	公的年金①	公的年金のしくみを中心に
10	公的年金②	保険料と保険給付を中心に
11	公的年金③	障害年金・遺族年金を中心に
12	社会福祉、児童手当、その他	社会福祉を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週指定教科書を読んでおくことが必要。わからないところ、疑問に思ったことを参考書などを使って調べる。受講後は掲示板に自分が理解できたこと、考えたことを投稿する。他の受講者の投稿にも目を通す。

レポート作成 2 回。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂、2015 年）

【参考書】

岩村正彦、菊池馨実、高さやか、笠木映里編著『目で見る社会保険法教材 第 5 版』（有斐閣、2013 年）

梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保険（第 17 版）』（有斐閣、2020 年）その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポートにより評価する。

掲示板への積極的な投稿者へ加点がある。投稿をしないことによる減点はしない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットでのやり取りができる端末が必要。スマートフォンでも対応可能。ただし、レポート作成提出と短い動画を閲覧いただくこともある。したがって、入力が容易なキーボード等と可能な限り短い動画視聴に耐えうる通信量を準備されることが望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、現役の社会保険労務士で、専門は医療保障および年金保険。理論を踏まえたうえで実務の実際をも講義する。今すぐ生活に役立つ医療保険や年金保険、労災保険等の情報も得られる。

【Outline and objectives】

This course deals with social security law.

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

曾布川 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障があることで私たちは安心して生活できている。その一方で、制度への不信任や不満感が国民の間にくすぶっており、信頼が薄れてしまっている面もある。この信頼と安心感を取り戻すためにも、また社会保障制度が持続可能であるためにも、改革が必要であるとされている。

2020 年度の社会保障法Ⅱでは、社会保険各法における問題点を考察する。そこから、持続可能な社会保障制度構築のために克服すべき課題や必要な政策を探っていききたい。

受講に際し、春学期開講の社会保障法Ⅰを受講されていることが望ましいが、単独でも受講は可能である。ただしその場合、参考書を読み、社会保険制度についての概要を把握しておくことをお勧めする。

【到達目標】

社会保障のうち主に社会保険にまつわる課題解決のために、今後必要とされる政策について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員からの一方講義形式を中心に進める。

リアクションペーパーを用いる。講義中に指定する課題について単語から短文レベルの簡単な記述をしてもらい、また、講義で取り上げた制度に対しての自由意見も記述してもらう。後日返答するかあるいは講義へフィードバックすることで、講義に奥行きを持たせていく。また、毎回ではないが、リアクションペーパーとは別に、受講生から意見を挙げてもらうことも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	働くことと社会保障① 労働法と社会保障法	働くこと（労働）に関して、労働法と社会保障法においてどのような議論が行われてきたのか。特に社会保険を中心に概観し、第 2 回以降の課題提起を行うこととする。
2	働くことと社会保障② 労災保険	労働災害をめぐる争いを手掛かりに、働くことと労災保険について考察する。
3	働くことと社会保障③ 雇用保険・雇用対策	人手不足・売り手市場と言われる現在の雇用社会において、雇用保険、雇用政策あるいは失業対策の役割はどのようなものか。雇用保険にまつわる問題を考察する。
4	社会保障の諸問題① 医療保険	医療保険に関する諸問題を取り上げ考察する。 ※社会保障の諸問題は全 3 回を予定しているが、濃淡に差があるため講義内容が前後することがある。
5	社会保障の諸問題② 年金保険	所得保障たる年金制度について諸問題を取り上げ考察する。
6	社会保障の諸問題③ 生活保護・貧困問題	最低生活保障たる生活保障制度について諸問題、貧困問題を取り上げ考察する。
7	社会保障をめぐる争いの解決① 不服申立制度と裁判による解決	社会保険・労働保険の審査請求の仕組みと具体的な争いを検証する。さらに、社会保障法関係争訟から、国が行う社会保障内容の根拠について考える。
8	社会保障をめぐる争いの解決② 医療保険裁判事例	医療保険をめぐる裁判事例から、国民と国あるいは、被保険者と保険者の関係性を考える。
9	社会保障をめぐる争いの解決③ 年金保険裁判事例	障害年金をはじめ年金保険をめぐる裁判事例から、国が行う所得保障について考える。
10	社会保障の理論①	社会保障に関する政策を考える際の骨格となる、法学、経済学、政治学等の理論的アプローチ方法を考察する。
11	社会保障の理論②	第 10 回に引き続き、社会保障に関する政策を考える際の骨格となる、法学、経済学、政治学等の理論的アプローチ方法を考察する。

12	社会保障の政策課題①	近時の社会保障をめぐる政策課題について検討する。
13	社会保障の政策課題②	近時の社会保障をめぐる政策課題について検討する。
14	試験・まとめと解説	まとめ講義として社会保障とは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習を強く期待する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に講義レジュメ等を入手する方法については講義時に指定する。

【テキスト（教科書）】

長沼健一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂、2015 年）

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣、最新刊）

岩村正彦、菊池馨実、嵩さやか、笠木映里編著『目で見える社会保障法教材 第 5 版』（有斐閣、2013 年）

その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（100 %）。なお、リアクションペーパーを評価基準とはしないが、期末試験の出来が振るわなかった場合には加点要素とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

現役の社会保険労務士が講義する。課題提示および問題解決の理論的なアプローチだけでなく、端々に実務家としての問題のとらえ方も提示する。このことによって理論と実践の両方を学修できる。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC300EC, SOC300ED

社会問題とメディア

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な社会問題とメディアとの関係についての分析視角を提示する。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアという観点から社会問題や日本社会の歩みについての理解を深めることに加えて、自らの問題関心に沿って分析を行うための方法論を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、リアクション・ペーパーに回答することで、受講者の疑問にできるだけ答えるようにしていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会病理学とモラルパニック論	社会問題を分析するための視座として、社会病理学およびモラルパニック論について考える
第2回	社会問題への社会構築主義アプローチ	社会問題を分析するための視座として、社会構築主義アプローチについて考える
第3回	リスク社会におけるメディア報道	リスク社会におけるメディア報道のあり方を考える
第4回	メディアが描く犯罪	メディアによる犯罪の描き方にはどのような問題があるのかを考える
第5回	メディアが描く犯罪（事例編）	メディアがどのように犯罪被害者および加害者を描くのかを事例に即して考える
第6回	メディアが描く貧困	現代社会における貧困の現状を踏まえつつ、メディア報道の問題点について考える
第7回	貧困報道をめぐるジレンマ	メディアが貧困を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第8回	排外主義とメディア	現代的な排外主義の特質を踏まえつつ、それとメディアとの関係について考える
第9回	排外主義をめぐるメディアのジレンマ	メディアが排外主義を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第10回	原発問題とメディア	日本の原発導入過程においてメディアが果たした役割を考える
第11回	「原発安全神話」とメディア	「原発安全神話」とは何か、メディアがそれといかなる関係にあるのかを考える
第12回	大衆社会論の出現とその背景	戦後日本社会における大衆社会論の出現とそこにおけるメディアの位置づけについて考える
第13回	管理社会論の出現とその限界	戦後日本社会において管理社会論がどのように登場し、メディアといかなる関係にあったのかを考える
第14回	日本型ポストモダン言説とその失墜	戦後日本社会において消費社会的ポストモダン言説がいかに高揚し、いかに失墜したのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書および講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。
大石裕編（2012）『戦後日本のメディアと市民意識 「大きな物語」の変容』ミネルヴァ書房。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

通常は学期末試験によって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、リアクション・ペーパーによるインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to explain the sociological perspectives for analyzing the relationship between media and social problems.

SOC300EA

社会を変えるための実践論

荒井 容子

サブタイトル：特講（社会を変えるための実践論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題に当事者として立ち向かっていった複数の実践事例について学び、当事者としての教員やゲストを交えて、受講生同士で討議しながら、直面した社会問題の解決にむけて行動する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

社会問題に直面したとき、その解決に向けて主体的に行動するとはどういうことか、その意味と方法を認識し、実践につなげる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業運営は複数の教員が集団で行う。社会問題の解決のために行動している多様な事例を取り上げ、当事者の立場を重視しながら受講生と教員が一緒になってそれらの事例について討議していく。テキストの関係章がある回では、事前に該当章を読み、レポートを持参することを課す。当事者をゲストとして招く場合もある。なお授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス バズセッション	自分が社会問題に直面するとはどういうことだろう（担当 全員）
2	生活を支える「お金」1	学生にとってのお金 ～奨学金とブラックバイト～ ゲスト講師 大内裕和（中京大学） （担当 鈴木宗徳）
3	生活を支える「お金」2	体験報告と討議 「第1章 最低賃金を1500円に！ AEQUITAS がはじめた新しい『声のあげ方』」をもとに（担当 鈴木宗徳）
4	政治を動かす1	地方議員と地方議会「第5章 そろそろ政治の話しよう 地方議員と地方議会を知ろう」をもとに（担当 荒井・島本）
5	政治を動かす2	市民として政治に関わる「第6章 保育国民営化問題に直面して」をもとに（担当 島本）
6	働く誇りを育む海外の労働運動	労働権に目覚めるボリビアの子どもたち（子ども労働組合）（担当 荒井）
7	中間総括討議	バズセッション（担当 全員）
8	「ボランティア」って？	「自由意志」は新しい民主的な市民社会の創造の原動力となり得るのか（担当 大崎）
9	社会を変える海外の市民運動	フランスの黄色いジャケット運動（担当 中筋）
10	国際的に動く1	国際的な貧困格差問題 「第8章 グローバル市民社会と私たち」 「第9章 人類史の流れを変えるグローバル・シビックカムと歴史的不正義」をもとに（担当 吉村）
11	国際的に動く2	国際社会と歴史的不正義ーパレスチナ問題から考える（担当 岡野内）
12	メディアを動かす	ソーシャルメディアを活かす「第4章 社会を変えるためにソーシャルメディアを使う」をもとに（担当 藤代）
13	司法に訴える	不当解雇と闘う「第7章 教員の不当解雇と裁判闘争」をもとに
14	総括討議	現代を生きぬくために必要な力とは バズセッション ～実践体験の分析も交流～（担当 全員）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当章を読み、質問を提出したり、調べてきたことを持ち寄って討議したりすることも多いので、事前の指示に注意し、準備して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中優子+法政大学社会学部「社会を変えるための実践論」講座編『そろそろ「社会運動」の話しようー自分ゴトとして考え、行動する。社会を変えるための実践論』改訂版明石書店 2019年4月発行

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間総括討議時と総括討論会時に提出するレポート（または授業内試験）（各40%程度）を中心に、時々宿題、ほぼ毎回回収する感想・意見を20%以内で加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身の実践をもとにした報告の交流機会の導入は、学生たちが問題を現実的につかむ力を育む。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【その他の重要事項】

社会問題について学んできた問題意識の高い学生が受講することを推奨する。すべての学生にグループ討議を通じて発言が求められる。また講義の目的・運営上の必要から150人までに受講を制限する。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したもののだけが受講登録を行うことができる。秋学期に受講登録を変更することはできない。

【Outline and objectives】

This course is to study how citizens/people can challenge social problems and difficulties by their own in the society. Lecturers offer various case studies of social movements. Students will discuss the way to survive in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom. Students are required to prepare for written-reports and discussion each week as well as a mid-term discussion and the final report.

SOC200EC

宗教社会学

永井 美紀子

サブタイトル：現代社会と宗教

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。そして、それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教現象に気づき、身のまわりの宗教現象を客観的に把握し、理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教材資料を配信する形式でのオンライン授業を行います。本授業の開始日は4月28日です。①教材は学習支援システムにアップします。シラバスにある毎回の授業毎ではなく、大きなテーマでまとめた教材の場合もあります。②テーマ毎（内容によっては、テーマの項目毎）確認の課題または小テストを行います。③ネット通信に関して学生負担を減らす対策が取られた後に、受講状況を考慮しながら録音音声オンデマンド型でテーマ毎にアップしたいとは考えています。この場合はその都度 Web 掲示板にて通知します。④中間レポートを学期半ばに提出します。課題図書は参考文献（Web シラバス）に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	現代におけるユダヤ教・キリスト教・イスラーム
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会・新宗教運動の社会的背景
12	社会のなかの宗教 1	宗教意識の国際比較
13	社会のなかの宗教 2	世俗化論と宗教復興
14	試験	授業内容理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくことよいでしょう。新聞の中から宗教に関係する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる教材資料には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。また、アップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年

山田真茂留編『グローバル現代社会論』文眞堂 2018 年

各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上で出される課題や小テストの結果 40 %、②中間レポートの内容 30 %、③期末試験の成績を 30 %とする割合で総合的に判断・評価します。教室での期末試験が不可能な場合は学習支援システム上で行うことにします。なお、受講状態等により期末試験の形式に関しては変更する場合があります。その際には事前に学習支援システム上で通知します。

【学生の意見等からの気づき】

内容を検討し適宜改善に努めていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

COT200ED

消費者行動モデリング

諸上 茂光

サブタイトル：プログラミング中級 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の IOT 技術の急速な進歩やビッグデータが積極的な活用は、今後マーケティング戦略の構築方法にも大きな変革をもたらすことが予想される。従来よりもオンラインに様々な消費行動に関するデータが技術的に得られることは、一方でそのデータをどのように扱って次のマーケティング戦略構築に利用すべきかを学ぶ必要が出てきたことも意味する。本演習では、実際のマーケティングデータを用い、統計的な手法によって様々な「消費者の行動」をどのようにモデル化し、シミュレーションを行えばよいかを習得する。

【到達目標】

身近な消費者行動を観察し、そこから観測すべき変数を決定し、モデル化を行い、数値シミュレーションを行う一連の過程を行えるようになること、および、そのシミュレーション結果から新しい提案ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「店舗の混雑度と稼働度・消費者の店内行動・時間帯別通行量・在庫管理・配車管理」など、実際にいくつかの事象を例に、まずはコンピュータ上に計算モデルを作成し、そのモデルを実際に計算機上で動かすことでシミュレーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明
2.	統計的基礎の復習	相関分析を行いながら統計的な基礎を確認
3.	単回帰分析とモデル化（1）	単回帰分析による消費者行動の予測モデルの構築
4.	単回帰分析とモデル化（2）	単回帰分析による消費者行動の分析
5.	重回帰分析とモデル化（1）	重回帰分析による消費者行動の予測モデルの構築
6.	重回帰分析とモデル化（2）	重回帰分析による消費者行動の分析
7.	数量化 I 類を用いた分析とモデル化（1）	数量化 I 類を用いたカテゴリーデータの活用について
8.	数量化 I 類を用いた分析とモデル化（2）	カテゴリーデータも利用した消費者行動の予測モデルの構築
9.	コンジョイント分析とモデル化（1）	コンジョイント分析の説明とコンジョイントカードの作成
10.	コンジョイント分析とモデル化（2）	コンジョイント分析の実施と消費者行動モデルの構築
11.	最終課題制作（1）	モデル化する消費者行動の探索（グループワーク）
12.	最終課題制作（2）	調査の作成（グループワーク）
13.	最終課題制作（3）	分析とモデル化（グループワーク）
14.	成果発表	発見した事実の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から興味を持った様々な事象を積極的にモデル化してみると上達が早くなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（60%）と最終課題（40%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【学生が準備すべき機器他】

授業は情報実習室で行います。

【Outline and objectives】

Deals with the basic skills for simulating consumer behaviors.

MAN200EB, MAN200ED

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な事例に触れてもらうため、随時、事前課題を授業の最後に示す。この事前課題の一部が小レポートとして評価に加算される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類（30%）

期末試験（70%）

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした

【Outline and objectives】

Deal with the basic concepts and principles of consumer psychology.

PRI200ED

情報科学とコミュニケーション

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを情報科学的な観点から総合的に把握し、分析することを目指す。主として情報理論、システム理論、認知科学、人工知能などの方法論を取り上げる。

【到達目標】

コミュニケーションを情報科学的な観点から分析できるようになる。また、情報理論やコンピュータ、デジタル技術の可能性と限界を理解したうえで、情報メディアが関わるコミュニケーションをデザインすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義の第一部では、コンピュータの基本的な構造と仕組み、インターネットの基盤となっている通信のモデルや、コミュニケーションに対してより深く、また幅広くアプローチするモデルなどについて学ぶ。さらに中間論文課題提出後の本講義の第二部では、コンピュータ・メディア・ネットワークなどを基盤とするコンテンツやコミュニケーションの現場について、人工知能やコンピュータ、関連作品の最新情報を盛り込みつつ、第一部の内容や中間論文課題をふまえた講義と議論を行う。最終的には以上の内容をふまえた論文の提出が必要になる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、授業資料の中で合わせて提示する。本授業の開始日は4月27日の予定で、この日の授業開始時刻に授業のおおまかなスケジュールなどを記した書面を学習支援システムの「教材」にアップロードする。そのスケジュールに変更がある場合は、学習支援システムの「お知らせ」に掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、情報科学へのイントロダクション
第2回	アナログとデジタル	アナログ情報とデジタル情報の違いについて議論する
第3回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基本的な構造と仕組みについて学ぶ
第4回	通信ネットワークとセキュリティ	インターネットの基盤になっている通信のモデルについて議論する
第5回	情報とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように扱われているかを議論する
第6回	情報理論とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように伝達されているかを議論する
第7回	システム理論とコミュニケーション	現状のコンピュータの理論では実現不可能な事項は何かを議論する
第8回	中間論文課題へ向けたまとめ	最新の情報メディアに関する議論と、これまでの授業のまとめ
第9回	人工知能とコミュニケーション	コンピュータのプログラミングの限界について議論する
第10回	人間的・社会的コミュニケーション	日常のコミュニケーションの分析を、情報科学的な観点から行なう
第11回	音楽とコミュニケーション	音楽とコミュニケーションの関係について議論する
第12回	映像・広告とコミュニケーション	映像・広告とコミュニケーションの関係について議論する
第13回	芸術とコミュニケーション	芸術とコミュニケーションの関係について議論する
第14回	まとめと授業内論文	半期の授業のまとめと、それに基づいた論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、それをふまえて中間論文課題を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更することを検討している。具体的な方法と基準は、授業開始日（またはできるだけ早期）に授業資料の中で合わせて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

情報科学の理系的側面および哲学的側面を扱う回数も数回あるので、そのことは意識しておいてください。数学を扱う回数も1~2回あります。社会学ではなく、情報科学やプログラミングの観点を重視しますので、難解に感じられる回もあるかもしれませんが、デジタル機器やインターネットの基盤になっている内容ですので、深く探究してください。また、アナログ的な観点についても重視していく予定です。

【Outline and objectives】

This course mainly deals with the information theory, system theory, cognitive science and artificial intelligence.

SOC100EB, SOC100EC, SOC100ED

情報メディア論A

高瀬 文人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアは、それが生まれた 21 世紀初頭から現代にかけて、メディアのあり方のみならず言論空間の構造を変え、社会全体を大きく変化させてきました。一方で、現代の大学生にとって、ソーシャルメディアは「物心ついた時にはあったもの」で、空気と同じような意識で使われていると思われまます。本講義では、ソーシャルメディアの歴史や構造、課題を学ぶことで、その構造や社会的機能をもつかを確認し、受講者個人の表現や社会課題解決のための使い方を考えていきます。簡単なグループディスカッションにより、学習者と利用者との立場の互換性を意識しつつ学びを深めます。

【到達目標】

1. ソーシャル・メディアの機能と社会との関係について理解する。2. ソーシャル・メディアとの関わりで、社会がどのように変容したかを見る。3. 学生自身が日常的に利用するメディアであるソーシャルメディアの構造を 1.2. についてグループディスカッションによって気づき、それを構造化させることで理解する。4. 情報発信の当事者として、メディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

*授業の初回は 4 月 22 日（水）3 限です。

「考える」「表現する（書く）」「広める」ことがソーシャル・メディアの機能そのものなので、授業時間内に簡単な作業や討論を行うことを予定しています。現在進行形で起きているメディアの問題を扱うため、ゲストを招聘したり、受講者数や受講生の関心を見て授業計画を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス・ソーシャルメディアとは何かを考える
第 2 回	イントロダクション	ソーシャルメディアの機能・学生の経験をもとにした、簡単なグループディスカッションを予定。
第 3 回	歴史	ソーシャルメディアの歴史
第 4 回	歴史	ソーシャルメディアと社会とのつながり
第 5 回	歴史	ソーシャルメディアとマスメディア
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ・簡単なグループディスカッションを予定。
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース・フェイクニュース・簡単なグループディスカッションを予定。
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとフィルターバブル・簡単なグループディスカッションを予定。
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治・キャンペーン
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアと地域
第 12 回	現在を知る	ソーシャルメディアで社会課題を解決する
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと未来
第 14 回	未来を考える	ソーシャルメディアをどう使いこなすか・簡単なグループディスカッションを予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート 70%、平常点 30%。平常点について、授業中の発言や質問は授業への貢献として高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スマホ・タブレット・PC の持参があると望ましい。

【その他の重要事項】

講師は現役のジャーナリスト・雑誌編集者であり、原稿を多数執筆し、また多くの原稿を添削してきました。それを踏まえて「伝える」ためのコミュニケーションを指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、広告コピーライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として編集業務全般を行っている。

<研究テーマ>

調査報道の現代的あり方、リサーチ教育

<主要研究業績>

『リーガル・リサーチ』2003 年、日本評論社

『ひと目でわかる六法入門 第 2 版』2018 年、三省堂

『鉄道技術者 白井昭』2012 年、平凡社

【Outline and objectives】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

CAR100EA

職業社会論

依田 素味

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】

- ①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰的することができる。
- ②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
- ③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

◆春学期スタート後、しばらくはオンラインでの開講となります。本授業の第一回目は4月21日(火)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【1 当初の予定】

レジュメに沿って講義を行い、必要に応じて資料を配布します。レジュメは、Web上の授業支援システムにアップしますので、授業前に各自プリントして予習し、授業の時に必ず持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AI化による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	商店経営などで働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティの関係
11	キャリアデザイン	個人のキャリア形成
12	教育訓練	職業人生を磨く
13	職業社会に関する今日的課題	「働き方改革」とは
14	職業社会のまとめ	【グループワーク】により他者の考え方を共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『就職活動から一人前の組織人まで』上西充子・川喜多喬編 同友館 2010年
『人材育成 キーワード 99』川喜多喬・依田素味著 泉文堂 2008年

【成績評価の方法と基準】

◆春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績の方法と基準も変更があります。その場合は、学習支援システムで提示いたします。

【1 当初予定】

- ①期末試験 60%（講義で学んだことが最終的に理解できているかどうか）
- ②中間レポート 20%（理解度を確認する）
- ③授業内レポート 20%（積極的な授業参加の状況が評価の基準）

【学生の意見等からの気づき】

大規模教室の講義でも、学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間も設定します。

【その他の重要事項】

- ①私語、遅刻については、厳しく注意を促します。
- ②授業内の取り決め詳細は「第一回目の講義」の時に伝えますので、必ず出席してください。
- ③1年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。

④オフィスアワーは、授業後に受け付けます。

⑤社会学部を卒業し、企業経験を経て研究者となった教員が、「働く社会」について講義します。

【Outline and objectives】

We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.

As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

HSS100EA

身体論

越部 清美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生物としての生きる基盤の「身体」に関する知識を広げると共に文化的存在、または社会的存在である身体の側面にも焦点をあて、身体に関する機能や意味などについて考察していく。

【到達目標】

「身体」に関する考え方、知識を広げる。自己の将来を見通してのからだ・健康づくりの設計ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	身体とは	健康を考える
第2回	生命について	いのちの成り立ちを見つめる
第3回	身体の構造と機能	身体の成り立ちを学ぶ
第4回	発育・発達・老化	人の一生を考える
第5回	性（1）	性とは何かを学ぶ
第6回	性（2）	異性との関係性について考える
第7回	性（3）	多様性について考える
第8回	生理学と身体（1）	身体運動の生理学的メカニズムを学ぶ
第9回	生理学と身体（2）	運動時の生理的効果（トレーニング効果）を学ぶ
第10回	環境と身体	身体と環境問題について考える
第11回	社会学と身体	社会学と身体について考える
第12回	芸術と身体	芸術と身体について考える
第13回	東洋と西洋の身体	東洋の身体観と西洋の身体観を比較する
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。**【参考書】**

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

身体づくりや性について改めて深く学び考えた、と書いてくれた学生が多かった。うれしいことである。これからも、自分の身体としっかり向き合って生きていくという学生を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくに定めない。**【Outline and objectives】**

This course deals with the basic concepts and principles of the body.

SOS300EB

人的資源論

山口 壘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業でのヒトの管理と活用について学びます。企業にとって、ヒトは利益の源泉となる重要なリソースのひとつです。だがその扱いは簡単ではなく、またときにはコストとしての側面のほうが強調されることもあります。本授業ではこれらの点について、おもに日本企業を想定した理解を深めていきます。

【到達目標】

- ①企業における人的資源の管理・活用の基本を説明できる。
- ②日本企業にみられる人的資源管理の特性と課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義で配布するレジュメ・資料を中心に授業をすすめます。毎回の講義では、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明
第2回	理論的視座（1）	制度、組織、労働市場
第3回	理論的視座（2）	人間関係、モチベーション、コミットメント
第4回	参入と退出	雇用の管理、キャリアの管理
第5回	育成と選抜（1）	長期雇用、能力主義、昇進管理
第6回	育成と選抜（2）	中高年層の人的資源管理
第7回	賃金と人件費	賃金の決定、成果主義の導入
第8回	多様で柔軟な人的資源（1）	ダイバーシティ・マネジメント、知識労働者の台頭
第9回	多様で柔軟な人的資源（2）	雇用ポートフォリオ、非正社員の増加と活用
第10回	人的資源の保全と生活（1）	福利厚生、ワークライフバランス
第11回	人的資源の保全と生活（2）	労働時間、メンタルヘルス
第12回	労使関係の調整	労働組合の役割と課題
第13回	国際化する人的資源	国際人的資源管理、外国人労働者の活用
第14回	試験・まとめと解説	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、関連する新聞・雑誌記事を収集し、スクラップします。復習では、テキストやレジュメで紹介される参考文献を読み、理解を深めます。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史、2019『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣、2100円（税別）

【参考書】

平野光俊・江夏幾多郎、2018『人事管理：人と企業、ともに生きるために』有斐閣、2100円（税別）

【成績評価の方法と基準】

到達目標の達成を期末試験で評価し（70%）、講義への積極性（30%）を次の2点から評価します。

- ①毎回のリアクションペーパーの内容。
- ②授業時間外での学習の成果をレポート形式でまとめたもの。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The aim of the class is to grasp the outlook of Human Resource Management, especially on Japanese enterprises.

PSY100EA

心理学 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の扱う領域は広く専門ごとに印象も大きく異なり全体像の把握には到底及ぶべくもないが、本講義では心理学のいくつかの領域を概観し、基本的な問題設定、概念、理論について学ぶとともに、その歴史的・社会的背景も含めた心理学史的な観点からも学習する。

【到達目標】

学術心理学と、通俗心理学、素朴心理学、心理技術（学）を区別し、心理学の基本的な概念や考え方について簡略に説明できる。心理学の発展とその社会的広がりについて時代背景と関連付けて科学的な捉え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドと配布資料、映像資料を用いて講義を行い、リアクションペーパーで受講生の理解度を確かめながら進める。また授業計画は適宜変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の展開予定と受講上の留意事項
第 2 回	学術心理学の諸領域	代表的な対象領域と諸学派について
第 3 回	知覚の心理学	心の機能としての知覚/錯覚
第 4 回	記憶の心理学	記憶の研究史/記憶論争とその背景
第 5 回	学習の心理学	条件付け、強化の行動主義/学習理論
第 6 回	認知・思考の心理学	「認知」とは何か、「思考」とは何か
第 7 回	知能の心理学	知能検査/知能神話の誕生
第 8 回	個人差の心理学	平均からのズレとしての個人差
第 9 回	パーソナリティの心理学	「人格」はどう分析されてきたか
第 10 回	発達心理学	発達の発見/問題としての発達
第 11 回	エソロジーと進化心理学	動物の心と心の「進化」
第 12 回	同調/服従の心理学	凡庸な悪/代理人状態/帰属の誤り
第 13 回	感情・意識の心理学	「感情」と「意識」の研究の系譜
第 14 回	脳神経科学と心理学	脳波と心/脳画像と心

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は基礎心理学の概論をベースに展開し、なるべく難解にならないように努めるが、受け身で聞いてもなんとなく理解できる、というものはかりではない。準備学習用の資料を事前に読み、講義での配布資料を講義を踏まえて復習し理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。資料のプリントを随時配布する予定だが、期末試験に不可欠な資料となるので、整理して保存すること。

【参考書】

特定の書籍は指定しないが、数多く出版されている心理学概論のいずれか 1 冊を手にとってみてほしい。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：期末試験とリアクションペーパー（3 回）。
評価のウェイト：期末試験（70%）、リアクションペーパー（30%）
評価の基準：期末試験は、学習した内容と、しかるべき観点を正しく理解し、問いに適切に答えているか。リアクションペーパーについては、そのときのテーマに対して適切に理解して書いているか、注目して読ませてもらっている。

【学生の意見等からの気づき】

試験ではなくレポートを望む声が多いが、数回実施するリアクションペーパーで対応する。私語については、その都度、教員からも注意するが、受講生一人ひとりの自覚を期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようにしておくこと。また授業支援システムの受講者の名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

この科目は心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。内容に踏み込んだ対話的なやり取りや疑問の解決はメールや講義後の時間に質問して欲しい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic problem setting, concepts and theories of psychology. The goals of this course are to be able to understand the development of psychology from the viewpoint of historical and social contexts.

PSY200EA

心理学 II

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心や精神の問題は、個人の失調や病理とみなされがちだが、社会的、文化的構造の問題が滲み出たものだともいわれる。いくつかの事象の検討を通じて、このように指摘される根拠や歴史的経緯、背景について理解を深める。

【到達目標】

心や精神の障害、病理の処遇にかかわる、社会的、歴史的事件や現代の専門的制度の枠組みなどについて、基本的な知識を持ち理解すること。これらの諸問題に、自ら興味を持ち今後の動向にも関心を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドと配布資料、映像資料を用いて講義を行い、リアクションペーパーで受講生の理解度を確かめながら進める。また授業計画は適宜変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の展開予定と受講上の留意事項
第 2 回	心理主義とグローバル化	国際診断基準/エビデンス/向精神薬
第 3 回	メンタルヘルスと予防精神医学	労災としてのうつ病/ストレス・チェック
第 4 回	期待される行動療法と認知療法について	精神分析、薬物療法に代わる心理療法としての側面と、その批判的検討
第 5 回	狂気の歴史と反精神医学	その問題提起をどう引き継ぐか
第 6 回	パザーリアの精神病院廃絶の挑戦	イタリア・トリエステの脱施設化と地域精神保健
第 7 回	わが国の精神病院問題	宇都宮事件/社会的入院/身体拘束
第 8 回	フェミニズムと精神分析	フェミニストはフロイトをどう読むか
第 9 回	優生思想と精神病者	生きるに値しない命とは
第 10 回	発達障害が提起するもの	自閉症スペクトラムとアスペルガー
第 11 回	性・心・身体	性同一性障害/ジェンダーと心の病
第 12 回	戦争神経症と PTSD	歴史的背景と現代における諸問題
第 13 回	夢について	フロイト、ユングの夢研究/夢の仕事
第 14 回	司法と精神医学	保安処分と医療観察法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

難解なことも、最大限かみ砕いて説明していくが、受け身で聞くだけでは十分に理解できるものでもない。準備学習用の資料を事前に読み、講義での配布資料を講義を踏まえて復習し理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。資料のプリントを随時配布する予定だが、期末試験に不可欠な資料となるので、整理して保存すること。

【参考書】

必要があれば、その都度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：期末試験とリアクションペーパー（3 回）。
評価のウェイト：期末試験（70%）、リアクションペーパー（30%）
評価の基準：期末試験は、学習した内容と、しかるべき観点を正しく理解し、問いに適切に答えているか。リアクションペーパーについては、そのときのテーマに対して適切に理解して書いているか、注目して読ませてもらっている。

【学生の意見等からの気づき】

試験ではなくレポートを望む声が多いが、数回実施するリアクションペーパーで対応する。私語については、その都度、教員からも注意するが、受講生一人ひとりの自覚を期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するので使えるようにしておくこと。また授業支援システムの受講者の名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

この科目は心理学Ⅰと併せて履修することが望ましい。内容に踏み込んだ対話的なやり取りや疑問の解決はメールや講義後の時間に質問して欲しい。

【Outline and objectives】

This course introduces the problematic raised by anti/critical psychiatry and critical history of psychiatry to students taking this course.

SOC300EC

数理社会学 I

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

少なくとも春学期の前半は学習支援システムを使用して授業を実施する。4月23日から学習支援システムでの授業関連情報や教材、課題の配信を開始するので、履修を希望する人は学習支援システムへ登録してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス (1)	関係のフォーマルな捉え方とハイダースのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス (2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持されるとき (1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持されるとき (2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持されるとき (3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ (1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ (2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ (3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ (4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力 (1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるかを考える
12	つながりの産物としての権力 (2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力 (3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会を<モデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

SOC300EC

数理社会学Ⅱ

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義によるが、授業中に実際に問題を解くことを通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963) のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963) モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ (1973) のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか(4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
14	社会学と数理モデル	社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline and objectives】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

LANs100EA

スペイン語初級A

乾 隆政、増山 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第2回	1課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hayの表現、形容詞
第3回	2課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第4回	2課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estarとserの用法
第5回	3課:Soy japonés.	estarとserの用法、指示形容詞
第6回	4課:Voy a la Univ.	irの直説法現在、所有形容詞・後置形
第7回	4課:Voy a la universidad en tren.	hayとestar存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第8回	5課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第9回	5課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第10回	6課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar型構文
第11回	6課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar型動詞、代名詞の重複
第12回	7課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第13回	7課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第14回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター ― スペイン語入門コース ―』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級A

乾 隆政、増山 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第2回	1課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hayの表現、形容詞
第3回	2課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第4回	2課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estarとserの用法
第5回	3課:Soy japonés.	estarとserの用法、指示形容詞
第6回	4課:Voy a la Univ.	irの直説法現在、所有形容詞・後置形
第7回	4課:Voy a la universidad en tren.	hayとestar存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第8回	5課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第9回	5課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第10回	6課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar型構文
第11回	6課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar型動詞、代名詞の重複
第12回	7課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第13回	7課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第14回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級A

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第2回	1課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hayの表現、形容詞
第3回	2課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第4回	2課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estarとserの用法
第5回	3課:Soy japonés.	estarとserの用法、指示形容詞
第6回	4課:Voy a la Univ.	irの直説法現在、所有形容詞・後置形
第7回	4課:Voy a la universidad en tren.	hayとestar存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第8回	5課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第9回	5課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第10回	6課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar型構文
第11回	6課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar型動詞、代名詞の重複
第12回	7課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第13回	7課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第14回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター ― スペイン語入門コース ―』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級A

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第2回	1課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hayの表現、形容詞
第3回	2課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第4回	2課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estarとserの用法
第5回	3課:Soy japonés.	estarとserの用法、指示形容詞
第6回	4課:Voy a la Univ.	irの直説法現在、所有形容詞・後置形
第7回	4課:Voy a la universidad en tren.	hayとestar存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第8回	5課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第9回	5課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第10回	6課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar型構文
第11回	6課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar型動詞、代名詞の重複
第12回	7課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第13回	7課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第14回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級B

乾 隆政、増山 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第2回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第3回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第4回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第5回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第6回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第7回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第8回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第9回	12 課:Iremos de...	直説法未来
第10回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第11回	13 課:Te recomiendo	接続法の活用と用法
第12回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第13回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第14回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、試験 80%（中間 30%、期末 50%）と平常点 20%（小テスト、課題、授業への取り組み、等）により総合的に評価する。
なお、試験の実施方法等についての詳細は各教員が適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs100EA

スペイン語初級B

乾 隆政、増山 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第 2 回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第 3 回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第 4 回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第 5 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第 6 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第 7 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第 8 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第 9 回	12 課:Iremos de...	直説法未来
第 10 回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第 11 回	13 課:Te recomiendo	接続法の活用と用法
第 12 回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第 13 回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第 14 回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、試験 80 %（中間 30 %、期末 50 %）と平常点 20 %（小テスト、課題、授業への取り組み、等）により総合的に評価する。
なお、試験の実施方法等についての詳細は各教員が適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs100EA

スペイン語初級B

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第2回	8課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第3回	8課:No pude ir... 9課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第4回	9課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第5回	10課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第6回	10課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第7回	11課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第8回	11課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第9回	12課:Iremos de...	直説法未来
第10回	12課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第11回	13課:Te recomiendo	接続法の活用と用法
第12回	13課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第13回	14課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第14回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、試験 80%（中間 30%、期末 50%）と平常点 20%（小テスト、課題、授業への取り組み、等）により総合的に評価する。
なお、試験の実施方法等についての詳細は各教員が適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs100EA

スペイン語初級B

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第 2 回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第 3 回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第 4 回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第 5 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第 6 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第 7 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第 8 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第 9 回	12 課:Iremos de...	直説法未来
第 10 回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第 11 回	13 課:Te recomiendo	接続法の活用と用法
第 12 回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第 13 回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第 14 回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員から適宜宿題の指示があるが、学生諸君は自らテキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、試験 80 %（中間 30 %、期末 50 %）と平常点 20 %（小テスト、課題、授業への取り組み、等）により総合的に評価する。
なお、試験の実施方法等についての詳細は各教員が適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs200EA

スペイン語中級 1

杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で身につけたスペイン語をさらに向上させることを目的とします。とくにスペイン語の読解力（+リスニング力）を身につけることを目標とします。文法を段階的に復習しながら、同時に易しい文章から難しい文章へと進んでいきます。授業では、スペイン語圏の国々についての知識と理解を深めることができます。

【到達目標】

スペイン語の基礎文法を理解したうえで文章を読むことができる。
スペイン語圏の国々の特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。授業開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
週に一度の授業なので、十分予習・復習に努めてもらいたい。基本的にテキストに沿って授業を進めていきます。スペイン語を学びながらラテンアメリカ諸国の歴史・文化・社会について学んでいきましょう。なお、頻繁に映像・音声教材（映画、ニュース・ドキュメンタリー番組など）を利用する予定です。できるだけ参加者の意見や要望を取り入れながら授業を運営していきます。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業説明
第2回	第1課 ラテンアメリカ	読解、文法：直接法現在
第3回	第2課 メキシコ①	読解、文法：比較
第4回	第3課 メキシコ②	読解、文法：関係代名詞
第5回	第4課 メキシコ③	読解、文法：直接法点過去
第6回	第5課 グアテマラ	読解、文法：再帰動詞
第7回	第6回までのまとめ	中間試験
第8回	第6課 エルサルバドル	読解、文法：直接法線過去
第9回	第7課 ホンジュラス	読解、文法：過去分詞
第10回	第8課 ニカラグア	読解、文法：現在完了形
第11回	第9課 コスタリカ	読解、文法：過去完了形
第12回	第10課 パナマ	読解、文法：現在分詞
第13回	第12回までのまとめ	期末試験
第14回	第11課キューバ 前期のまとめ	読解、文法：接続詞 前期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習（テキストの文章の和訳、内容の確認）本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国本伊代ほか、『ラテンアメリカ旅行記』（弘学社）。その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて授業の進捗を調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students enhance the skills developed in Basic Spanish. Students will be able to gain knowledge and understanding of Spanish speaking countries.

LANs200EA

スペイン語中級 2

乾 隆政

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で身につけたスペイン語をさらに伸ばしつつ、実際に使ってみることを第一義とします。ことばはあくまでも道具ですから、使ってこそその価値があり、使うことで新たな出会いや知識の習得へと繋がるのです。授業では、スペイン語のリスニングや読解に必要な既習の文法事項の復習と未習の文法事項の学習、語彙の確認をおこなった上で、会話文や読み物の内容を楽しみます。

【到達目標】

- 辞書を使いながら新聞の見出しを理解できる
- 文章の読解力、リスニング能力をさらに高める
- 再帰動詞の表現や目的格人称代名詞を伴う文章が理解できる
- 現在完了や分詞構文の理解
- 関係詞、点過去や線過去の表現が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに入る前のウォーミングアップとして、毎回スペイン新聞各紙の見出しから最新ニュースを読み解き、その後テキストを使用します。■追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1. Autopresentación	直接法現在、seを使った無主語文
第2回	1. Autopresentación	El español: lengua viva.
第3回	2. En una cafetería	再帰動詞
第4回	2. En una cafetería	La vida de un universitario
第5回	3. Contemplación de...	現在完了
第6回	3. Contemplación de...	Hoy ha sido un día precioso.
第7回	ここまでのおさらい	3課までのおさらい
第8回	4. Ir de compras	目的格人称代名詞
第9回	4. Ir de compras	La fiesta de cumpleaños de María
第10回	5. Sushi en...	現在分詞
第11回	5. Sushi en...	Tertulia de amigos
第12回	6. El fútbol	点過去・線過去・過去完了
第13回	6. El fútbol	Felipe II, el Prudente
第14回	春学期のまとめ	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生諸君には予習の徹底に努めてもらいたい。外国語を理解する喜びと新たな情報を得る満足感を味わうためには語彙を増やすための不断の努力と繰り返し“読むこと”が不可欠です。また予習をすることで、何が理解できなかったかを把握することもできます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本間芳江、ほか『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』Ejercicios prácticos de conversación e interpretación español / japonés — Nivel intermedio — (2020年、三修社) その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、二度の試験（中間[40点]、期末[40点]）と平常点（[20点]：出席状況、小テスト、授業への参加度等）により総合的に評価する。■追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。■

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて必要な文法事項の解説を行います。既習・未習を問わず、分からない文法や構文、語彙等のあらゆる疑問は、そのままにせず積極的に質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

In this course the students will develop once again their linguistic skills of Spanish that they have learned during the Elementary Course. Language is a tool, so we should use it to obtain our purpose. Throughout the course, we will review the grammatical elements learned so that we can enjoy the content of the readings.

LANs200EA

スペイン語中級3

杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様、初級で身につけたスペイン語をさらに向上させることを目的とする。とくにスペイン語の読解力（+リスニング力）を身につけることを目標とする。文法を段階的に復習しながら、同時に易しい文章から難しい文章へと進んでいきます。授業では、スペイン語圏の国々についての知識と理解を深めることができます。

【到達目標】

スペイン語の基礎文法を理解したうえで文章を読むことができる。ラテンアメリカ諸国の特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

週に一度の授業なので、十分予習・復習に努めてもらいたい。基本的にテキストに沿って授業を進めていきます。スペイン語を学びながらラテンアメリカ諸国について学んでいきましょう。なお、頻繁に映像・音声教材（映画、ニュース・ドキュメンタリー番組など）を利用する予定です。できるだけ参加者の意見や要望を取り入れながら授業を運営していきます。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業説明
第2回	第13課 ベネズエラ	読解、文法：不定詞
第3回	第14課 コロンビア	読解、文法：直接法未来
第4回	第15課 エクアドル	読解、文法：過去未来
第5回	第16課 ベルー①	読解、文法：再帰動詞
第6回	第17課 ベルー②	読解、文法：人称代名詞
第7回	第6回までのまとめ	中間試験
第8回	第18課 ボリビア	読解、文法：現在分詞
第9回	第19課 チリ	読解、文法：現在分詞
第10回	第20課 アルゼンチン	読解、文法：過去未来
第11回	第21課 ウルグアイ	読解、文法：接続法現在
第12回	第22課 パラグアイ	読解、文法：接続法過去
第13回	第12回までのまとめ	期末試験
第14回	第23課 ブラジル 後期のまとめ	読解、文法：接続法の表現 後期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習（テキストの文章の和訳、内容の確認）本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国本伊代ほか、『ラテンアメリカ旅行記』（弘学社）。その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、二度の試験（中間 [40%]、期末 [40%]）と平常点（[20%]：レポート、授業への参加度等）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて授業の進捗を調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students enhance the skills developed in Basic Spanish. Students will be able to gain knowledge and understanding of Spanish speaking countries.

LANs200EA

スペイン語中級4

乾 隆政

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

Throughout the course, we will review the grammatical elements learned so that we can enjoy the content of the readings.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級、さらには春学期に身につけたスペイン語をさらに伸ばしつつ、実際に使ってみることを第一義とします。ことばはあくまでも道具ですから、使ってこそその価値があり、使うことで新たな出会いや知識の習得へと繋がるのです。授業では、スペイン語のリスニングや読解に必要な既習の文法事項の復習と未習の文法事項の学習、語彙の確認をおこなった上で、会話文や読み物の内容を楽しみます。

【到達目標】

- ・辞書を使いながら新聞の見出しを理解できる
- ・文章の読解力、リスニング能力をさらに高める
- ・比較級、完了形、過去形、未来形等の表現が理解できる
- ・接続法の表現の理解を深める・命令文や条件文が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに入る前のウォーミングアップとして、毎回スペイン新聞各紙の見出しから最新ニュースを読み解き、その後テキストを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	7. En el tren	三人称複数の無主語文
第2回	7. / 8. En una posada...	Una experiencia... 未来・過去未来
第3回	8. En una posada...	Evolución de la población española
第4回	9. El Santuario...	受身 (ser 受身と再帰受身)
第5回	9. / 10. En un bar	La almadraba... gustar 型構文
第6回	10. En un bar	La afición de Margarita al cine
第7回	ここまでのおさらい	10 課までのおさらい
第8回	11. Una anécdota...	接続法現在
第9回	11. / 12. El tren bala	Paseo por... 接続法、比較級
第10回	12. El tren bala	Excursión a Monjuic
第11回	13. Cómo puedo ir...	命令文
第12回	13. / 14. Llamada...	Libro de gramática inglesa 条件文
第13回	14. / 15. En el Templo...	Las vacac. 接続法過去・過去完了
第14回	秋学期のまとめ	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生諸君には予習の徹底に努めてもらいたい。外国語を理解する喜びと新たな情報を得る満足感を味わうためには語彙を増やすための不断の努力と繰り返し“読むこと”が不可欠です。また予習をすることで、何が理解できなかったかを把握することもできます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本間芳江、ほか著【会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語】Ejercicios prácticos de conversación e interpretación español / japonés — Nivel intermedio — (2020年、三修社) その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、二度の試験（中間 [40点]、期末 [40点]）と平常点（20点）：出席状況、小テスト、授業への参加度等）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて必要な文法事項の解説を行います。既習・未習を問わず、分からない文法や構文、語彙等のあらゆる疑問は、そのままにせず積極的に質問して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

授業に遅刻する事のないように心がけて下さい。なお、欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

In this course the students will develop once again their linguistic skills of Spanish that they have learned during the Elementary Course and the first semester. Language is a tool, so we should use it to obtain our purpose.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I (補講)

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を学ぶ。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について 様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を 確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。」本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する。平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make to understand the significance and effect physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

越部 清美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

越部 清美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

清水 貴司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

清水 貴司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

高梨 泰彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

高梨 泰彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

永嶋 秀敏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

永嶋 秀敏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

平澤 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

平澤 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 佳宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

宮下 信一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

宮下 信一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる。学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とする。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

國井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

國井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II（補講）

國井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康維持や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する。平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】
以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】
以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

清水 貴司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

清水 貴司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

高梨 泰彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

高梨 泰彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

永嶋 秀敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

永嶋 秀敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

平澤 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

平澤 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 佳宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

宮下 信一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

宮下 信一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

いろいろな体育施設を利用しながら、各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきを得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 2 - I（バドミントン）

草島 正治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バドミントンを通して、健康の維持・増進、体力の向上などに努め、スポーツで身体を動かした後の爽快感・達成感等の充足に努めると共に、ダブルス、シングルスゲームのゲームが出来ることを目的とする。

【到達目標】

春学期は基本ストロークを中心に、フットワークなど基本を重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術 2	シャトルの弾き上げについて学ぶ
第3回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク 1	ドライブショットについて学ぶ
第7回	基本ストローク 2	ハイクリアショットについて学ぶ
第8回	基本ストローク 3	ドロップ&レシーブショットについて学ぶ
第9回	基本ストローク 4	プッシュ&レシーブショットについて学ぶ
第10回	基本ストローク 5	スマッシュ&レシーブショットについて学ぶ
第11回	基本ストローク 6	ヘヤピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を行い、体力強化（ランニングやダッシュなど）本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配布する。

【参考書】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、実技テストなどを参考にして評価する。
実技テストは基本ストロークの完成度テストである。
・平常点：70 % ・技術点：20 % ・その他：10 %

【学生の意見等からの気づき】

経験者・未経験者の同時授業なので未経験者の上達を早めるため基本習得時より経験者が未経験者と打ち合う。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of badminton and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (バドミントン)

草島 正治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

バドミントンを通して、健康の維持・増進、体力の向上などに努め、スポーツで身体を動かした後の爽快感・達成感等の充足に努めると共に、ダブルス、シングルスゲームが出来ることを目的とする。

【到達目標】

春学期は基本ストロークを中心に、フットワークなど基本を重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術 2	シャトルの弾き上げについて学ぶ
第3回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク 1	ドライブショットについて学ぶ
第7回	基本ストローク 2	ハイクリアーショットについて学ぶ
第8回	基本ストローク 3	ドロップ&レシーブショットについて学ぶ
第9回	基本ストローク 4	プッシュ&レシーブショットについて学ぶ
第10回	基本ストローク 5	スマッシュ&レシーブショットについて学ぶ
第11回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習・復習を行い、体力強化 (ランニングやダッシュなど) 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配布する。

【参考書】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、実技テストなどを参考にして評価する。
実技テストは基本ストロークの完成度テストである。
・平常点：70% ・技術点：20% ・その他：10% 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

経験者・未経験者の同時授業なので未経験者の上達を早めるため基本習得時より経験者が未経験者と打ち合う。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of badminton and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマである「簡化24式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具体的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法 (頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操) (目の疲れをとり、近視の予防) を毎回入れる。
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	太極拳動作：(一) 起勢 (二) 左右野馬分鬃 (三) 白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：(四) 左右樓膝拗歩 (五) 手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：(六) 左右倒卷肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：(七) 左攬雀尾 (八) 右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：(九) 單鞭 (十) 雲手 (十一) 單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：(十二) 高探馬 (十三) 右蹬脚 (十四) 雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1の動作から6動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7の動作から14動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するの理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

太極拳に関する資料を調べ、DVDを見て太極拳の動作を勉強する。毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70%
2. 技術点 20% (授業中に音楽に合わせてながら実技テスト)
3. その他 10%

【学生の意見等からの気づき】

中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】

普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具体的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬚（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右樓膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒卷肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾（八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭（十）雲手（十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬（十三）右蹬脚（十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1 の動作から 6 動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7 の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するの理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせてながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】

普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (ヨガ)

鈴木 伸枝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされず、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・冥想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

アーサナ (ポーズ)/プラーナヤマ (呼吸法) /瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション / 簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣) の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana (氣) を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ (ポーズ) ①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ (ポーズ) ②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ (ポーズ) ③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
9	「冥想」を理解するための「瞑想」	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
10	生き方としてのヨガ 冥想行法①	冥想に至るための心構え/身構え/氣構え

11	生き方としてのヨガ 冥想法②	自己コントロール法（プラティヤハラ）の実践。
12	生き方としてのヨガ 冥想法③	集中力を高める/最高の心身安定をつくる
13	生き方としてのヨガ 冥想法④	無条件の心/他との統一/利己主義でも、自己犠牲でもない生き方とは
14	生き方としてのヨガ 冥想法⑤	全てのものに価値を見だし感謝する心/真の喜びとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%

授業態度、レポートなどを含めて評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ヨガマット

オンラインクラスを受講するための、スマホやパソコンなどのタブレット

※現在お持ちで無い方は、ご購入する必要はありません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I（ヨガ）

鈴木 伸枝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じて自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされず、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

アーサナ（ポーズ）/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣)の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
9	「瞑想」を理解するための「瞑想」	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
10	生き方としてのヨガ 冥想法①	瞑想に至るための心構え/身構え/氣構え

11	生き方としてのヨガ 冥想行法②	自己コントロール法（プラティヤハラ）の実践。
12	生き方としてのヨガ 冥想行法③	・集中力を高める ・最高の心身安定をつくる
13	生き方としてのヨガ 冥想行法④	・無条件の心 ・他との統一 利己主義でも、自己犠牲でもない生き方とは
14	生き方としてのヨガ 冥想行法⑤	・全てのものに価値を見だし感謝する心 ・真の喜びとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%
授業態度、レポートなどを含めて評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ヨガマット
オンラインクラスを受講するための、スマホやパソコンなどのタブレット
※現在お持ちで無い方は、購入する必要はありません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第 7 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワーク について	有識者を招いての講演（プロ野球等）について
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)

田中 善則

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム(試合)が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

講義(歴史、規則、トレーニング理論)等と実技(練習、試合)をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者を招いての講演(プロ野球等)
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料(プリント)を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、技術点20%、その他10%とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (ユニバーサル・スポーツ)

坪内 友美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ (ユニバーサル・スポーツ) について学び、体験し、理解する。

【到達目標】

工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。

運動のみならず、地域や職場等のような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。

車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。

動きやすい服装で参加すること。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明
第2回	障がいの理解/実践	脊髄・頸髄損傷について/バスケット用車いすの操作
第3回	障がいの理解/実践	障がいとは? /車いすツインバスケットボール
第4回	運動の効果の理解/実践	運動が身体に与える影響について/車いすツインバスケットボール
第5回	運動の効果の理解/実践	運動が脳に与える影響について/ボッチャ
第6回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第7回	障がいの理解/実践	脳血管障害: 食事と運動と血管/四面卓球バレー
第8回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第9回	ターゲット型スポーツ	ディスクゴルフ
第10回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について/フライングディスク (アキュラシー競技ディスリート・ファイブ等)
第11回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について/ゴールボール
第12回	感覚を研ぎ澄ます	見えない・見えにくい世界の体験/サウンドテーブルテニス
第13回	車いすを使った運動	車いす卓球
第14回	海と障がいとスポーツ	障がいのある人とスキューバダイビング

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (サッカー)

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ

【到達目標】

サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。

第13回 チーム戦術

集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第14回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

実技種目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー ベネトレイション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

HSS100EA

スポーツ総合2-I (サッカー)

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す。健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ。

【到達目標】

サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニク、グループ・スキル、チーム・スキルのほか **Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move** などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。

チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニク	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニク	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメイトとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメイトとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメイトとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメイトの理解と自分の役割について学び実践する。

第14回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イメージーションサッカー ベネトレイション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

HSS100EA

スポーツ総合2-I (テニス)

宮崎 靖雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスの基本技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニスを通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツである事を学習する。

【到達目標】

- ①ショットの基本技術を習得する。
- ②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
- ③ダブルス、シングルの試合を学習する。
- ④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。開始日は5月8日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基本技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。

実技では、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。

雨天時の場合は原則として教室にて講義を行う。

授業計画は授業の展開や天候によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明
第2回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第3回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第4回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第5回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第6回	サービス・リターン	基本練習及びラリー、ミニゲーム
第7回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第8回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ&ネットプレー、ミニゲーム
第9回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第10回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第11回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ&ネットプレー、試合形式練習
第12回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルの試合の進め方
第13回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルの試合形式練習
第14回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルの試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技型の授業であるため、授業への参画姿勢などの平常点（70%）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20%）、授業態度（10%）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については個別に対応、評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席とみなすため、遅刻、欠席については十分に留意すること。

HSS200CA

スポーツ総合2-I (バレーボール基礎)

野中 俊英

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

- ①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
- ②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
- ③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
- ④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本 I ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本 II ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本 I ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本 II ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本 III ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ (トス)、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (90 % 程度)、レポート課題 (10 % 程度) などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるように、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】

バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】

To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.

To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ総合2-I (サッカー・フットサル基礎)

水野 浩幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを通して習得することを目標とする。

【到達目標】

- ①サッカーの基礎技術、戦術の習得
- ②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ(ラグビー場もしくはホッケー場)を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第2回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第3回	4vs4, 5vs5のミニゲーム	ボール回し・GK無しのゲーム
第4回	4vs4, 5vs5のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK無しのゲーム
第5回	6vs6, 7vs7 + GK	GK有りのゲーム
第6回	6vs6, 7vs7 + GK	GK有りのゲーム・守備の個人戦術
第7回	ボールポジションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第8回	ボールポジションゲーム	攻撃の個人戦術
第9回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3人目の動き
第10回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第11回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第12回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第13回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第14回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

自らのスキル向上への積極性、授業態度 60%

サッカーの技術的、戦術的理解度 30%

チームへの貢献度 10%

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、春学期末までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (バドミントン)

草島 正治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に習得した基本ストロークを駆使してゲーム中心に授業を行い、技術的な事もしっかり習得することを目的とする。

【到達目標】

ゲームが中心の授業になるとかなりハードなスポーツなので怪我に気を配り本格的な技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本の復習1	ドライブショット・クリヤーショットについて学ぶ
第2回	基本の復習2	ドロップ・プッシュショットについて学ぶ
第3回	基本の復習3	スマッシュ・ヘヤピンショットについて学ぶ
第4回	サブゲーム1	反面シングルス(ストレート)のゲームについて学ぶ
第5回	サブゲーム2	反面シングルス(クロス)のゲームについて学ぶ
第6回	サブゲーム3	アタック&レシーブ(シングルス)について学ぶ
第7回	サブゲーム4	アタック&レシーブ(ダブルス)について学ぶ
第8回	サブゲーム5	ドライブ(ダブルス)について学ぶ
第9回	サブゲーム6	クリヤー(一人対二人)について学ぶ
第10回	ゲーム1	ルール(シングルス)について学ぶ
第11回	ゲーム2	ルール(ダブルス)について学ぶ
第12回	ゲーム3	リーグ戦(ダブルス)について学ぶ
第13回	ゲーム4	リーグ戦(ダブルス)について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習・復習 体育館の一般開放などを利用して実践練習本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配付する。

【参考書】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、実技テストなどを参考にして評価する。実技テストはゲームの中での技術習得度テストである。
・平常点：70% ・技術点：20% ・その他：10%

【学生の意見等からの気づき】

経験者に相手をして貰うが特にダブルスではパートナーを務めて貰い、精神的・技術的な事まで習得していく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of badminton and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (バドミントン)

草島 正治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に習得した基本ストロークを駆使してゲーム中心に授業を行い、技術的な事もしっかり習得することを目的とする。

【到達目標】

ゲームが中心の授業になるとかなりハードなスポーツなので怪我に気を配り本格的な技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

この科目は、春学期・秋学期と通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本の復習 1	ドライブショット・クリヤーショットについて学ぶ
第2回	基本の復習 2	ドロップ・プッシュショットについて学ぶ
第3回	基本の復習 3	スマッシュ・ヘアピンショットについて学ぶ
第4回	サブゲーム 1	反面シングルス（ストレート）のゲームについて学ぶ
第5回	サブゲーム 2	反面シングルス（クロス）のゲームについて学ぶ
第6回	サブゲーム 3	アタック&レシーブ（シングルス）について学ぶ
第7回	サブゲーム 4	アタック&レシーブ（ダブルス）について学ぶ
第8回	サブゲーム 5	ドライブ（ダブルス）について学ぶ
第9回	サブゲーム 6	クリヤー（一人対二人）について学ぶ
第10回	ゲーム 1	ルール（シングルス）について学ぶ
第11回	ゲーム 2	ルール（ダブルス）について学ぶ
第12回	ゲーム 3	リーグ戦（ダブルス）について学ぶ
第13回	ゲーム 4	リーグ戦（ダブルス）について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習 体育館の一般開放などを利用し実践練習本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配付する。

【参考書】

特に決まったテキストは使用せず、資料はその都度配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、実技テストなどを参考にして評価する。
実技テストはゲームの中での技術習得度テストである。
・平常点：70% ・技術点：20% ・その他：10%

【学生の意見等からの気づき】

経験者に相手をして貰うが特にダブルスではパートナーを務めて貰い、精神的・技術的な事まで習得していく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of badminton and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得（十五）轉身左蹬脚
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針（二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬欄錘（二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら 24 式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	24 式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら 24 式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70%
2. 技術点 20% (24 式太極拳を授業中に音楽に合わせてながら実技テスト)
3. その他 10%

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（太極拳）

シン イェンリン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十五）轉身左蹬脚
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針（二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬攔錘（二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら 24 式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	24 式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら 24 式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（24 式太極拳を授業中に音楽に合わせてながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（ヨガ）

鈴木 伸枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされず、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/ブラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣)の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは？ ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
9	「瞑想」を理解するための「瞑想」	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
10	生き方としてのヨガ 冥想行法①	冥想に至るための心構え/身構え/氣構え
11	生き方としてのヨガ 冥想行法②	自己コントロール法（プラティヤハラ）の実践。
12	生き方としてのヨガ 冥想行法③	・集中力を高める ・最高の心身安定をつくる

- 13 生き方としてのヨガ
冥想行法④
- ・無条件の心
 - ・他との統一
 - ・利己主義でも、自己犠牲でもない生き方とは
- 14 生き方としてのヨガ
冥想行法⑤
- ・全てのものに価値を見だし感謝する心
 - ・真の喜びとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%
授業態度、レポートなどを合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に、ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（ヨガ）

鈴木 伸枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じて自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされず、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通して、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・アーサナ（ポーズ）/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
 - ・ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
 - ・ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
- 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更がありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣) の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana (氣) を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践。
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーユルヴェーダを学ぶ	ガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
9	「冥想」を理解するための「瞑想」	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
10	生き方としてのヨガ 冥想行法①	冥想に至るための心構え/身構え/氣構え
11	生き方としてのヨガ 冥想行法②	自己コントロール法（プラティヤハラ）の実践。
12	生き方としてのヨガ 冥想行法③	集中力を高める 最高の心身安定をつくる

- 13 生き方としてのヨガ
冥想行法④
- ・無条件の心
 - ・他との統一
- 利己主義でも、自己犠牲でもない生き方とは
- 14 生き方としてのヨガ
冥想行法⑤
- ・全てのものに価値を見だし感謝する心
 - ・真の喜びとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%
授業態度、レポートなどを合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に、ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者による講演（プロ野球等）
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%とし、授業に対して積極的に真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」
男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者による講演（プロ野球等）
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、技術点20%、その他10%とし、授業に対して積極的に真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。

個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」

男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

[Outline and objectives]

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内 友美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】

工夫されたスポーツを実際におこない、各種目を持つそれぞれの特徴を理解する。

運動のみならず、地域や職場等のような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。

車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。

動きやすい服装で参加すること。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明／バスケット用車いすの操作
第2回	運動の効果の理解／実践	なぜ運動が必要なのか／車いすラグビー
第3回	運動の効果の理解／実践	運動と健康／車いすラグビー
第4回	運動の効果の理解／実践	運動による精神面への効果／車いすバドミントン
第5回	車いすを使った運動	車いすテニス
第6回	車いすを使った運動	車いすテニス
第7回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ブラインドテニス
第8回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フロアバレーボール
第9回	ネット型スポーツ	シッティングバレーボール
第10回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第11回	ターゲット型スポーツ	障がいとは？／ボッチャ
第12回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第13回	障がいの理解／実践	精神障がいと全国障害者スポーツ大会／ソフトバレーボール
第14回	障がいの理解／実践	事業所製品：福祉事業所が地域を救う／幻覚妄想かるた

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (サッカー)

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す。健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ。

【到達目標】

サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Moveなどの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。
第14回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実技科目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー ペネトレーション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

HSS100EA

スポーツ総合2-II（サッカー）

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す。健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ。

【到達目標】

サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。
第14回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技科目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イメージネーションサッカー ペネトレーション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはつきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

HSS100EA

スポーツ総合2-II (テニス)

宮崎 靖雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスの基本技術、応用技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニス実技を通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツであることを学習する。

【到達目標】

- ①ショットの基礎技術を習得する。
- ②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
- ③ダブルス、シングルの試合を学習する。
- ④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの応用技術と戦術、ゲーム方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。

実技ではスポーツウェア、テニスシューズを着用すること。

雨天時の場合には原則として教室にて講義を行う。

授業計画は授業の展開や天候によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、ストロークの基礎	授業概要説明、打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第2回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第3回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第4回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第5回	サービス、リターン	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第6回	サービス、リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第7回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ&ネットプレー、ミニゲーム
第8回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第9回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第10回	シングルスまたはダブルスの応用戦術①	アプローチ&ネットプレー、試合形式練習
第11回	シングルスまたはダブルスの応用戦術②	サービス&ボレー、リターン&ダッシュ、試合形式練習
第12回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルのゲームの進め方
第13回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルの試合形式練習
第14回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルの試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。また実技に当たって新進の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技型の授業であるため、授業への参画姿勢などの平常点（70%）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20%）、授業態度（10%）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については、個別に対応、評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席と見なすため、遅刻や欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS200CA

スポーツ総合2-II (バレーボール応用)

野中 俊英

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

- ①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
- ②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
- ③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
- ④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるように、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】

バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】

To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.

To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ総合2-II（サッカー・フットサル応用）

水野 浩幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを行いながら習得することを目標とする。

【到達目標】

- ①サッカーのポジションごとの役割を理解する
- ②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ（ラグビー場もしくはホッケー場）を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第2回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第3回	4vs4, 5vs5のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第4回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第5回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第6回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第7回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第8回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第9回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第10回	チーム編成、チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第11回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第12回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第13回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第14回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

自らのスキル向上への積極性、授業態度 60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度 30 %
チームへの貢献度 10 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、春学期末までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS200EC

スポーツ文化論

越部 清美

サブタイトル：スポーツ社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会においてスポーツは、一部の特権的な人々の所有物から大衆の文化として広く深く人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びながら、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、その中でも特に現代に特徴的と思われる視点について考えていく。

【到達目標】

スポーツの歴史を学び、現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え、理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回の講義の中でリアクションペーパー等の提出を求める。ゲスト講師を予定している。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ文化論とは	スポーツ文化論を学ぶ意義
第2回	スポーツの歴史	文化としてのスポーツの発生
第3回	スポーツの思想（1）	近代スポーツの思想
第4回	スポーツの思想（2）	現代スポーツの思想
第5回	メディアとスポーツ（1）	テレビとスポーツの関係を探る
第6回	メディアとスポーツ（2）	構造と機能
第7回	女性とスポーツ	歴史を振り返り問題点を問う
第8回	スポーツ競技者	アスリートと社会の関係を探る
第9回	スポーツファン	スポーツファンとは何か
第10回	オリンピックとパラリンピック	オリンピック・パラリンピックと政治・経済の関係
第11回	スポーツと環境問題	スポーツと環境の関係
第12回	体育の社会的構造と機能	体育はなぜ存在するのか
第13回	生涯スポーツ	生涯スポーツを考える
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに思想があるのか、と驚く学生が結構多い。いろいろな事例を紹介しながら、さらに理解を深めてもらいたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sports culture while learning the history of sports culture.

ECN200EB

政策データ分析実習

中筋 直哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ひとり社会」の実証分析と政策提言

【到達目標】

政策課題について適切なデータ（統計資料、社会調査資料）を収集し、それらを適切な学問分野と分析手法に基づいて二次分析し、実現可能な政策提言を作成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「ひとり社会」をテーマに、官公庁の統計やマスコミの世論調査データを収集、二次分析し、オリジナルな政策提言集をまとめる。授業前半では当該の課題に関する先行研究を講読し、データの収集方法や分析方法について検討する。授業後半では実際にデータを収集、二次分析し、各自政策提言を含むレポートにまとめる。受講予定人数は15人で、希望者が大きく超過した場合選考を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	履修者の自己紹介と日程の相談
2	政策課題の理解 1	テキスト 1 の講読と討論
3	政策課題の理解 2	テキスト 2 の講読と討論
4	政策領域の理解 1	政策を要請する社会構造の概説
5	政策領域の理解 2	政策を遂行する行政機構の概説
6	政策データの収集 1	官庁統計の収集と整理
7	政策データの収集 2	マスコミ等の意識調査データの収集と整理
8	データ分析の基礎	基本統計量と相関、従属の概念
9	データ表現の基礎	さまざまなグラフ表現
10	データ分析の展開 1	回帰分析、重回帰分析の理論
11	データ分析の展開 2	エクセルによる重回帰分析の実習
12	レポート構想発表 1	受講生の発表と討論（グループディスカッション）
13	レポート構想発表 2	受講生の発表と討論（グループディスカッション）
14	レポート提出と合評会	レポートを提出し、各自口頭発表して、相互に評価、批判し合う（グループディスカッション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの精読、指示されたデータハンドリング、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 南後由和,2018,『ひとり空間の都市論』ちくま新書,929 円+税。
2. 吉川徹,2014,『現代日本の「社会の心」』有斐閣,2300 円+税。

【参考書】

データ分析方法に関する参考書は、受講者の習熟度に合わせて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 60 %、レポート 40 %。10 回以上の授業に出席し、討論や作業に積極的に参加し、形式の整ったレポートを提出することが C(合格) の条件。討論や作業をリードし、学術的価値のあるレポートを提出することが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

よりたくさんの履修者に計量分析の楽しさを知ってもらえるよう、難易度を下げる。

【学生が準備すべき機器他】

MS エクセルがインストールされたパソコン

【Outline and objectives】

This seminar aims to study multi regression analysis to use policy making on basic level.

LAW300EB

政策と制度

長谷部 俊治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は様々な社会的課題を解決する目論見であるが、その実現には、制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要がある。また地方自治体においては、それぞれの地域社会の特質に応じた制度を立案する必要性が高まっている。その必要に応えるべく、制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について考察する。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を習得する。公共政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成する。制度のありかたについて考察する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

問題の特質に応じて最適な政策手法を選択・構築すること（制度設計）及び政策を運用する場合の基本的な考え方（制度運用）について講義する。そのうえで、政策に対する理論的な考察を試みる。なお、受講のためには、法学及び経済学についての基礎的な知識が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	政策的アプローチ	公共問題の特質、政府の働き、政策手法
2	政策思想の先人たち	マキャヴェッリ、ジョン・ロック、アダム・スミス、ケインズ
3	政策手法の類型	手法のリスト、政策コスト
4	ルールの設定と運用	ルールの特質と要件、ルールの執行
5	市場への介入	市場機能の活用、負担調整、市場の失敗
6	公共サービスの供給	供給体制の編成、直轄と委託、独占と競争
7	情報による行動制御	情報コントロール、ガイドライン
8	社会的意思決定	意思決定過程、評価基準、合意形成
9	制度設計の技法	問題の認識、制度のデザイン、問題から解決へ
10	制度とは(1)：社会コントロールのしくみ	目的達成の手法、効率と正義
11	制度とは(2)：社会的行動の枠組み	社会的行動ルールの創出、AGIL 図式
12	政策の失敗	水俣病と原発事故、アプローチの失敗、失敗の根
13	政策思考の展開	秩序条件の変容、政策枠組み、社会システムの運営
14	まとめ	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日刊紙を読み、社会問題に対する関心を鋭敏にする。講義後、毎回、その内容を具体的な事例に当てはめて理解を深める。本授業の準備・復習時間は、合わせて4時間を標準とする。授業期間中にレポートを1回課す予定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、講義レジュメを配布する。

【参考書】

基本的な参考書は次のとおり。
・平井宜雄『法政策学：法制度設計の理論と技法』有斐閣、1995
・阿部泰隆『行政の法システム（上）（下）』有斐閣、1997
・大橋洋一編著『政策実施』ミネルヴァ書房、2010
・青木昌彦『比較制度分析に向けて』NTT出版、2001
・クリストファー・フッド『行政活動の理論』岩波書店、2000
また、文献を適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）及びレポート提出（1回・40%）によって評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

SOS300EB

政策フィールドワーク実習

堅田 香緒里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、東京都下においてホームレス状態にある人や、そのような人を支援する人・団体へのインタビュー調査や参与観察を通じ、フィールドワークの手法について実践的に学習していく。

【到達目標】

フィールドワークの一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようになること
野宿状態にある人の生活実態と排除の諸相への理解を深め、その対策について何らかの提言ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は大きく分けると、調査の(1)準備段階、(2)実施段階、(3)分析段階から構成される。(1)では調査を円滑に実施するための予備的作業、(2)では調査票の作成、調査の実施、(3)では得られたデータをもとにした考察、論文の作成などを行う。

※ 5/8 に初回授業を行います。詳細は、学習支援システムのお知らせ欄を確認してください。

※状況に応じて、フィールドワークは行わず、既存データの二次分析を行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	先行研究から学ぶ（1）	調査方法論についての文献の講読を通して、調査の方法を理解する。
3	先行研究から学ぶ（2）	調査方法論についての文献の講読を通して、調査の方法を理解する。
4	先行研究から学ぶ（3）	野宿者を対象とした調査を基にした文献の講読を通して、問題の所在を理解する。
5	先行研究から学ぶ（4）	野宿者を対象とした調査を基にした文献の講読を通して、問題の所在を理解する。
6	先行研究の整理／批判的検討	先行研究のデータ・ベース作成／先行研究の批判的検討を通し、問題の所在を明らかにする。
7	予備調査（1）	既存のホームレス調査等で用いられた調査票を活用し、模擬的なインタビューを実施する。
8	予備調査（2）	フィールドにおける参与観察を行う、フィールドノーツの作成
9	調査の準備作業	調査票の作成／対人調査に関する倫理審査、野宿者へのインタビューに伴う困難
10	調査の実施（1）	フィールドにてインタビュー調査を実施する
11	調査の実施（2）	フィールドにてインタビュー調査を実施する
12	調査データの整理	テープ起こし、得られたデータの整理、データのコード化
13	調査データの分析	データの分析作業を行う
14	分析結果の論文化	調査結果・分析を踏まえ、論文を執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回の授業で課題の提出を求める。

授業時間外にも積極的にフィールドに足を運ぶことを強く期待する。

本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてそのつど指示する。

【参考書】

必要に応じてそのつど指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（主体的参加度や、共同作業への貢献など）30%、インタビュー記録などの調査データの作成 30%、論文 40%によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（貸与パソコン可）

【その他の重要事項】

4月初旬に実施する政策フィールドワーク実習のガイダンスに出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn how to plan and implement fieldwork. Students also learn how to design structured questionnaires and visit some sites in Tachikawa and Shinjuku for fieldwork to collect information from the target persons. After the fieldwork, students make a fieldwork report and present the research outcomes.

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED

政策立案実習

長谷部 俊治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は様々な社会的課題を解決する目論見である。その立案に当たっては、問題の本質を把握し、解決に向けた筋道を構築していかなければならないが、その能力は、体験を通して身に付き、高めることができる。そこで、具体的な問題を設定して、その解決のための政策を構築する演習を行う。

【到達目標】

政策立案の基礎的な技法を体験的に理解する。
制度をデザインするための基礎的な能力を形成する。
具体的な政策の提案を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初めに、政策立案の考え方と技法について講義する。次に、受講者がそれぞれ問題を設定し、その実態の把握と問題の分析を行う。最後に、問題解決のための政策案を作成し、その可能性と限界を評価する。授業は、授業の前半は講義によって、後半は受講者各自が（またはチームを編成して）与えた課題を実施することによって進めることとなる。なお、受講のためには、春学期の講義「政策と制度」を終了していることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	問題解決アプローチ	問題形成、対策立案、行動計画
2	制度設計の技法	基本原則、問題へのアプローチ手法、デザイン論
3	政策事例（1）	都市の安全：都市防災、首都直下型地震、生活安全
4	政策事例（2）	自殺予防：自殺問題とは、自殺総合対策
5	演習（1）	問題の設定、問題状況の把握
6	演習（2）	問題の分析、調査
7	演習（3）	アプローチの選択、政策手法の選定
8	演習（4）	問題解決への道筋の構築
9	中間報告	政策立案計画の発表と討議
10	演習（5）	政策の枠組みの構築
11	演習（6）	施策の選択肢とその比較
12	演習（7）	政策ドラフトの作成
13	演習（8）	政策提案の評価
14	まとめ	政策提案の発表・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習作業のために、現地調査その他の課外活動が必要となるであろう。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。問題の場がテキストとなる。

【参考書】

設定した問題に応じて、適宜文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での習熟度を40%、立案した政策を60%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は、受講者数、問題関心などに応じて適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
Practical training in policy making

POL200EB, POL200EC

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているとあって良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。学習支援システムで授業が開始されるのは4月23日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去の政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の事例への理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

POL200EB, POL200EC

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必要な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっているが、現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必要な考え方をともに考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホッブス、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロッキンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

BAB100EA

生命の科学

勝又 暢之

サブタイトル：生命の科学Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では生命科学に関する様々な話題を設定し、ヒトとの関連性を確認しながら授業を展開していく。学生は人間が生物の一員であることを再認識することで、現代社会における多種多様な問題を解決していくための規範の一つを学ぶ。

【到達目標】

ゲノムや新たな遺伝子発現に関する知識を得た上で、バイオテクノロジーによる生命操作や生殖補助医療の是非について考えるための遺伝子リテラシーを身に付けることができる。また、病の一部は生物進化の産物であることを学び、病との向き合い方について新しい視点を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワポを使った講義を行う。事前に授業支援システムで配布資料をダウンロードして授業に臨む。授業の理解度により授業テーマの順序や内容を多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と全体像	講義の方法と概要を説明する。
第2回	物質と生命の歴史	アストロバイオロジーが描く生命誕生の物語
第3回	遺伝子・DNA・ゲノムとは何か	生命の設計図である遺伝子、DNA、ゲノムについて理解する
第4回	一卵性双生児に違いが生ずるのはなぜか	エピジェネティクスについて学ぶ
第5回	バイオテクノロジーの功罪①	遺伝子組み換え作物（食品）の是非論を議論する
第6回	バイオテクノロジーの功罪②	恐竜再生や再生医療やバイオテクノロジーの応用の是非
第7回	ヒトから人間へ～人間の起源～	攻撃性、社会性などの人間性が誕生した理由を考える
第8回	ヒトから人間へ～性差の起源～	ヒトの基本形は女であることを学ぶ
第9回	病の起源～メタボリックシンドローム～	ヒトはメタボになるべくしてなることを人類進化からひも解く
第10回	病の起源～腰痛～	腰痛の起源を人類進化から考える
第11回	病の起源～アレルギー～	アレルギーの起源を人類進化から考える
第12回	病の起源～うつ病～	うつ病は生物進化に伴うストレスの多様化が原因
第13回	生殖補助医療を考える	体外受精などの生殖医療について考える
第14回	生物に流れる時間	生物が時間という物理量を感じ取り方について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし、あらかじめ予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「これが生物学だ」(E. マイア著(八杉貞雄・松田学翻訳) シュプリンガー・フェアラック東京 1999年), 「人間のための一般生物学」(武村政春著 裳華房 2007年), 「人体600万年史(上・下):科学が明かす進化・健康・疾病」(ダニエル・E・リーバーマン著(塩原通緒翻訳) 早川書房 2015)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)によって成績を評価する。期末試験の問題は各回のテーマから2~3問程度作成し、全体で30~40問のマークシート方式の試験とする。最終の授業にて期末試験範囲を説明するが、そのときに伝える範囲は全体の8割程度である。残りの2割は授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に出席しない学生と出席する学生間で格差がないのはおかしなという意見があった。これを解消するために、試験範囲のアナウンスは常時出席する人が有利になるように配慮した。

【Outline and objectives】

This course aims to develop an understanding of what life is at the genetic level. Based on the life sciences, the students also learn about pros and cons of biotechnology and origins of humanity and diseases.

LIT100EA

創作表現論 I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧米の文芸史を学ぶ一方、日本語での創作の基本を身につける。

【到達目標】

欧米の文学に関する基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

欧米文芸史の講義+実際の創作指導。欧米の神話の時代から、中世、ルネサンスまでを14回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を提出してもらう。また、2週間に1冊くらい、古典的な作品を読んでもらう。【コロナウイルスの影響により多少変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のところを見てください。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	三遊亭圓朝と言文一致	『牡丹灯籠』
2	ギリシア神話	『神統記』
3	ホメロス	『イリアス』
4	ギリシア演劇	『オイディプス王』
5	ユダヤ神話	『旧約聖書』
6	北欧神話	『エッダ』
7	騎士物語	『アーサー王の死』
8	イギリスの神話	『指輪物語』
9	ダンテ	『神曲』
10	チャョーサー	『カンタベリー物語』
11	シェイクスピアの短い芝居	『マクベス』
12	シェイクスピアの長い芝居	『ハムレット』
13	シェイクスピアのパロディ	『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』
14	歌舞伎	『仮名手本忠臣蔵』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、1編ずつ作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を書いて提出する。また、2週間に1冊くらい、古典的な作品を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のところを見てください。】

授業は4月21日（火）から始まります。すでに学習支援システムに課題などはアップしてあるので、確認しておいてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

2回目以降、授業の最初に小テストを行い、前回の授業の理解度をチェックする。

この小テストの評価（30%）と、提出物の評価（70%）を総合して評価する。【コロナウイルスの影響により変更。詳細は仮登録をして「お知らせ」のところを見てください。】

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

読んでもらう作品のリストは1回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline and objectives】

Learn about Western cultural history and learn the basics of creative writing in Japanese.

LIT100EA

創作表現論Ⅱ

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧米の文芸史を学ぶ一方、日本語での創作の基本を身につける。

【到達目標】

欧米の文学に関する基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

欧米文芸史の講義+実際の創作指導。18 世紀ヨーロッパの小説から現代の小説までを 14 回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を提出してもらう。また 2 週間に 1 冊くらい、古典的な作品を読んでもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	小説の誕生	18 世紀イギリス
2	書簡体小説	『バメラ』
3	日本の小説の誕生	逍遙、四迷、圓朝
4	19 世紀、ブロンテ	『嵐が丘』
5	19 世紀、ディケンズ	『荒涼館』
6	19 世紀、フローベール	『ボヴァリー夫人』
7	19 世紀、ゾラ	『居酒屋』
8	19 世紀、ドストエフスキー	『カラマーゾフの兄弟』
9	近代リアリズム小説	誕生から発展
10	20 世紀イギリス	『ユリシーズ』
11	20 世紀、ブルースト	『失われた時を求めて』
12	20 世紀その他	『異邦人』『変身』
13	前衛	ダダ、シュール、その他
14	50 年代アメリカにおける若者文化	音楽、映画、ファッション、文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、原稿用紙で 4 枚以上の作品を提出する。また、毎回、1 編ずつ作品（詩、短歌、俳句など）を書いて提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

2 回目以降、授業の最初に小テストを行い、前回の授業の理解度をチェックする。

この小テストの評価（30 %）と、提出物の評価（70 %）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

読んでもらう作品のリストは 1 回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline and objectives】

Learn about Western cultural history and learn the basics of creative writing in Japanese.

FRI300ED

ソーシャルメディア実習

野々山 正章

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム実習
開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ソーシャルメディア論とソーシャルメディア分析で学んだことを活かし、ソーシャルメディアを利用した社会の課題解決について実践的に取り組みます。

【到達目標】

ソーシャルメディアを社会課題の解決に活かせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式の実習です。グループでの分析、作業、発表があります。取組予定のテーマは、生活環境、情報環境の変化を想定して、実際の社会課題についてのサービスの検討を予定しています。詳細はガイダンス時に伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	調査分析	対象の調査
第 3 回	調査分析	対象の調査
第 4 回	調査分析	対象の技術的な分析
第 5 回	調査分析	対象の技術的な分析
第 6 回	調査分析の構造化	対象の課題の構造を探る
第 7 回	調査分析の構造化	対象の課題の構造を探る
第 8 回	調査分析の可視化	可視化技法の習得
第 9 回	調査分析の可視化	可視化技法の演習
第 10 回	課題解決への企画立案	企画立案
第 11 回	課題解決への企画立案	企画立案
第 12 回	実践計画	実践計画の策定
第 13 回	実践計画	実践計画の策定
第 14 回	最終まとめ	実践の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループ作業が相当程度必要になります。ワークショップ形式で行われる参加型講義ですので、予習やグループ学習を必ず実施してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。平常点はグループワークやディスカッションへの貢献など総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プレゼンテーションソフトなど。

【その他の重要事項】

現役の UI/UX デザイナーが、製品開発におけるコンセプト策定の手法などを講義し、演習します。受講希望者はガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。ガイダンスの欠席者は受講を認めません。受講者は、プログラミングの授業や「ソーシャルメディア分析/メディア経営論」を受講しておくことを推奨します。グループワーク形式で行われるため原則すべての回に出席する必要があります。チーム作業を好まない人は履修を避けることが望ましいでしょう。どんな小さなアイデアでも発言し、前向きに議論することが求められます。

【Outline and objectives】

In this course, students will work on actual solutions to social issues by combining theories and analyses of social media.

SOC200ED

ソーシャルメディア分析

北原 利行

サブタイトル：メディア経営論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、既存のメディアをはじめ、社会、生活者に大きな変化をもたらしています。ソーシャルメディアにより可視化された人々の口コミの分析は、メディアに関わる企業において必要不可欠な職業的技能となっています。本授業では、ソーシャルメディアの口コミの構造やデータの分析手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアの口コミを単に分析するだけでなく、発生や伝播の構造を理解した上で、社会に与える影響を分析し、表層ではなく本質的に捉えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にグループワークで行われます。分析に関する取り組みを学ぶため、企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第3回	概論	消費行動モデルの変容
第4回	概論	口コミと「世論」の関係
第5回	概論	口コミを利用したキャンペーン
第6回	概論	炎上とその要因
第7回	概論	拡散の構造
第8回	分析	ソーシャルリスニング
第9回	分析	口コミの収集
第10回	分析	口コミの分析
第11回	分析	関連情報の収集
第12回	分析	関連情報の分析
第13回	分析	リスクの検討
第14回	プレゼンテーション	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

佐藤尚之（2011年）『明日のコミュニケーション「関与する生活者」に愛される方法』アスキー新書
 佐藤弘和ら（2013年）『ソーシャルメディア クチコミ分析入門』SBクリエイティブ
 シャーリーン・リーら（2008年）『グランズウェル~ソーシャルテクノロジーによる企業戦略』翔泳社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

プレゼンテーション 50%

平常点は、提出するレジュメの内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プレゼンテーションソフトが必要となります。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者はガイダンスに出席して授業方針を確認してください。グループワーク形式で行われるため原則すべての回に出席する必要があります。チーム作業を好まない人は履修を避けることが望ましいでしょう。授業計画に関しては習熟度などをみたく変更する可能性もあります。別途指示致します。

長年にわたるメディア、コミュニケーション領域でのリサーチなどの実務経験を活かして、論理的アプローチと現実的アプローチの両面からメディア、コミュニケーションを捉えられる多面的な視座を習得できる講義を実施する。

【＜専門領域＞】

メディア、コミュニケーション、広告

【＜研究テーマ＞】

マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷、消費者・生活者の情報摂取行動の変容

【＜主要研究業績＞】

「2017年の新聞広告とその動向——新聞社の総合力生かす展開に期待」、2018年4月、新聞研究

「2018 広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」(共著)、2017年12月、日経広告研究所

「情報メディア白書」(共著)、2007年～、ダイヤモンド社

【Outline and objectives】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

SOC200EB, SOC200ED

ソーシャルメディア論

北原 利行

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、既存のメディアをはじめとして、社会や生活者に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす社会的な課題を考えることで、メディア人として活動するための基礎的なメディア・リテラシーを獲得することを目的としています。

【到達目標】

- 1) ソーシャルメディア社会のあり方を理解する。
- 2) 情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

一方向の講義ではなく、テキストの予習を前提とした質疑応答、リアクションペーパーの紹介により、授業の理解を深めます。現在進行形で起きるメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史	リモート講義関係の環境確認、他 未来メディア予測動画「EPIC2014」 は実現したか ソーシャルメディアは何をつなげてきたか
第 3 回	歴史	技術の進化とオープンプライバシー社会
第 4 回	歴史	社会の制度と法律
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ（IoT）
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキストを事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

天野彬著（2019 年）『SNS 変遷史 「いいね！」でつながる社会のゆくえ』イースト・プレス（イースト新書）

【成績評価の方法と基準】

試験 60%

平常点 40%

平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者はガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。

長年にわたるメディア、コミュニケーション領域でのリサーチなどの実務経験を活かして、論理的アプローチと現実的アプローチの両面からメディア、コミュニケーション、ソーシャルネットを捉えられる多面的な視座を習得できる講義に務めます。

【<専門領域>】

メディア、コミュニケーション、広告

【<研究テーマ>】

マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷、消費者・生活者の情報摂取行動の変容

【<主要研究業績>】

「2017 年の新聞広告とその動向——新聞社の総合力生かす展開に期待」、2018 年 4 月、新聞研究

「2018 広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」（共著）、2017 年 12 月、日経広告研究所

「情報メディア白書」（共著）、2007 年～、ダイヤモンド社

【Outline and objectives】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology about social media.

SOS200EB, SOS200EC

3)Organizations in external environments

組織論

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・初回授業：4月22日(水)3時限より学習支援システム上で教材を配布します。

・学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知します。

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、学習支援システムを通じたオンライン形式で授業を実施します。

詳しくは、学習支援システムを通じて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	組織とは何か	組織の定義
第2回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第3回	組織デザイン①	分業と調整
第4回	組織デザイン②	組織構造
第5回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第6回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第7回	公共組織論①	公共組織の特徴と管理
第8回	公共組織論②	公共組織の事例研究
第9回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第10回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第11回	資源依存理論	依存とパワー
第12回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第13回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第14回	新制度派組織論	同型化、正当性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。

山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。

山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

毎回提示する課題：70%、期末試験もしくは期末レポート：30%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of organization theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Organization design
- 2)Management of organizations

IDN100EA

多摩地域形成論

池田 寛二

サブタイトル：多摩地域形成論 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている〈場所〉への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩 4 学部の教員と協力して実施する、4 学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第 9 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業支援システムを利用する。
- ・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものが受講登録を行うことができる。

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり=媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

SOC200EC

地域環境論

池田 寛二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の地域社会とそれを取りまく環境の急激な変化を社会的に読み解く。

【到達目標】

受講生が、自らが生活している地域社会がどのような環境条件にささえられていて、どのような環境問題に直面しているのかについて、意識的に目を向け、考え、実践できる想像力と行動力を体得することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を主とするが、毎回リアクション・ペーパーに質問やコメントを書かせ、それに応じてその都度授業方法に工夫を加えながら進める。また、受講生に身近な地域における環境の実情について、初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）を課題として提示し、その結果をレポートさせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域とは何か？ 地域環境とは何か？
第2回	地域社会とはどんな社会なのか？（1）	community とは何か？
第3回	地域社会とはどんな社会なのか？（2）	日本の地域社会の歴史と現在（農村的地域社会のとらえ方：「むら・村落・町・市町村・都市の中のむら」…）
第4回	地域社会とはどんな社会なのか？（3）	日本の地域社会の歴史と現在（都市的地域社会のとらえ方：「宮処・都市・大都市・アーバニズム」…）
第5回	地域社会とはどんな社会なのか？（4）	世界の地域社会の概況（アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカを中心に）
第6回	地域社会における人口と環境	人口と環境の相関性（I=P・A・T、「コモنزの悲劇」、エコロジカル・フットプリント）
第7回	都市への人口集中と環境	都市への急激な人口集中は環境をどう変えたか？（ヒートアイランド、都市鉱山…）
第8回	高度科学技術文明と地域環境	情報通信技術と生命技術のイノベーションは地域社会とその環境をどのように変えるのか？（AI 農業、自動運転…）
第9回	グローバル化と地域環境	グローバル化は地域（ローカルな社会）とその環境をどう変えたか？
第10回	リスク社会と地域環境	現代の地域と環境はどのようなリスクに対処しなければならないのか？
第11回	廃棄物と地域環境	現代の地域社会は廃棄物を適切に管理・処理できているのか？（東京多摩地域を事例として）
第12回	エネルギーと地域環境	現代の地域社会は持続可能なエネルギー供給システムを構築できているのか？（原発と再エネを中心に考える）
第13回	気候変動と地域環境	極端気象の常態化を抑制するために地域社会に求められている課題は何か？（脱炭素社会は地域からしか構築できない）
第14回	まとめ：地球環境と地域環境	地球環境は地域環境からしか変えられない（地球工学・国連至上主義・「人新世」言説の批判的検討）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は授業支援システムで予め配信するので、準備学習をしておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料の中で多数指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（20%）、受講生各自の身近な地域における環境の実情に関する初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）にもとづくレポート（80%）。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特記事項なし。

【Outline and objectives】

In this lecture, considering how drastically rural/urban communities and their environmental conditions are changing in contemporary Japan and the world.

ARSe200EC

地域研究（アジア）

遠藤 聡

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における諸課題を、具体的な事例に基づいて分かり易く解決し、理解を深めるとともに、どのように考え、対応してゆくべきかを学ぶ。本講義は、ベトナム戦争を中心的題材として、アジアの社会・現代史・政治などの問題について、さまざまな観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東南アジア、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾、日本）です。

【到達目標】

現在の国際社会で起きているさまざまな問題に関する書物やメディア等の情報に日頃から関心を持ち、これらの諸問題について理解するとともに、今後どのように問題の解決が図られるべきかについて自分なりに考察できる。本講義で、アジア社会、とりわけ戦争と平和の問題におけるさまざまな問題について、基本的な知識を身に付け、多角的な視点で議論することを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「国民国家の時代」あるいは「戦争の世紀」と目される 20 世紀の象徴的な事象であるベトナム戦争を、さまざまな視点から見つめ直すことで、21 世紀における今日の国際関係の課題を直視する。具体的には、国際関係史、冷戦研究、地域研究、平和構築論の視点から、戦争と平和の問題に対する外部的要因および内部的要因を理解することで、戦争の始まり方、戦争の終わらせ方、それらから派生するさまざまな問題や課題について理解することを目的とする。本講義は、アジアの社会や経済・政治について、さまざまな観点から論考していくことを目的とします。対象地域は、東南アジア、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾、日本）です。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国際関係における戦争と平和の問題
第 2 回	はじめに	20 世紀とベトナム戦争
第 3 回	国際関係史の視点（1）	短い平和
第 4 回	国際関係史の視点（2）	長い戦争
第 5 回	冷戦研究の視点（1）	米ソ冷戦
第 6 回	冷戦研究の視点（2）	中ソ対立
第 7 回	地域研究の視点（1）	アメリカの戦争
第 8 回	地域研究の視点（2）	ベトナムの戦争
第 9 回	地域研究の視点（3）	ベトナム戦争と日本
第 10 回	戦争と平和の問題（1）	難民問題の背景
第 11 回	戦争と平和の問題（2）	カンボジア問題の背景
第 12 回	戦争と平和の問題（3）	戦争の記憶の問題
第 13 回	総合的なまとめ	まとめと試験対策
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、自分で関心をもってアジア社会について調べることが必要です。アジアに関する文献・資料のほか、ドキュメンタリー、シンポジウムや講演会、アジア映画や展覧会など、教室の外で、アジアに触れて下さい。単に講義を聴くだけでなく、アジアに触れることを課題にして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠藤聡『ベトナム戦争を考える（第 8 刷）』明石書店、2005 年、2400 円。

【参考書】

中野亜里、遠藤聡ほか『入門東南アジア現代政治史（改訂版）』福村出版、2016 年、2500 円。その他の参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）。
期末試験は論述形式になります。平常点は授業に対する貢献度を加算します。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会をめぐって、授業以外の問題につながるような講義になります。

【その他の重要事項】

2 年生以上の専門科目です。

期末試験は、テキスト、配布プリント、自筆ノートの持ち込みを認めます。

【Outline and objectives】

This course is to study to look the problem of today's international relations in the 21st century in the face by reflecting the Vietnam War that is a symbolic phenomenon of the 20th century regarded as "the times of the nation-state" or "a century of the war" from various viewpoints. Specifically, it is intended to understand beginning war, various problems and problems to end it, and to be derived from, them of the war by understanding the external factor for the problem of War and Peace and an internal factor from history of international relations, the Cold War study, area study, the viewpoint of the peacebuilding theory, Asian societies and economies. Students are required to study social problems in Asian.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバリゼーションが進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国的世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書への渉猟）
 2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
 3. グループ発表、討論の準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとに行き渡るだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評など 20% + 小論文 50% = 70%）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表 = 30%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考察する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

ARSe200EB, ARSe200EC, ARSe200ED

地域研究（北米）

宮崎 礼二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年11月3日にアメリカ合衆国大統領選挙が実施される。トランプ現大統領の再選か、民主党選出の候補が当選するのか、今後のアメリカの方向性に大きく影響のある選挙だ。第二次世界大戦後の世界において、政治、経済、国際関係、文化などありとあらゆる領域でアメリカの影響力は大きく、「覇権国」とも呼ばれてきた。このアメリカのあり方が近年大きく揺らいでいる。そこで、本講義はアメリカという国を理解するための知見を提供することを目的とする。アメリカという国を理解するためには、国の成り立ちやその「建国の理念」に立ち返ることが不可欠である。そうすることで、アメリカという国の特徴を理解することができるようになる。講義ではアメリカを見る視点として、歴史的な視角を重視して進める。また、過去10数年間の日本の政策思想はレーガノミクス以来の新自由主義をモデルとしているのであり、その意味でアメリカ経済社会は日本の先行モデルになっているとも言えよう。したがって、今日のアメリカを知ることは、将来の日本社会の姿を知ることもである。本講義は、みなさんに「歴史として現代を把握する・自国の外を知って自国を知る」という二つの相対化の思考方法を身につけてもらいたい。

【到達目標】

- ①アメリカとはどのような国か、説明できる。
- ②現代アメリカ社会を歴史的な文脈において理解できる。
- ③トランプ大統領が誕生した政治・経済背景を説明できる。
- ④本年秋のアメリカ大統領選挙の動向を多面的な文脈で説明できる。
- ⑤アメリカを知ることで、日本を相対化して理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

4月21日から取りあえず、ZOOMでのオンライン授業を計画している。Hoppii上の授業掲示板でURLを掲示するので授業時間にアクセスすること。現時点でHoppiiへのアクセスが困難であり、ZOOM操作が不慣れなこともあるので、当面はオンライン授業の習熟期間とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス & イントロダクション	授業の進行方法などガイダンス。講義全体のイントロダクション。
2	独立革命と連邦共和国	理念国家＝アメリカ画集国の建国の歴史の意義とその特徴
3	南北戦争と経済発展	南北戦争、北部と南部、白人と黒人
4	19世紀末～20世紀初頭：イギリスを凌駕するアメリカ経済	大量生産・大量消費型の経済成長の始動と第一次世界大戦の効果
5	大恐慌の時代：ニューディール政策から第二次世界大戦期	新しい経済思想の登場と第二次世界大戦の経済効果
6	戦後アメリカ経済の黄金時代—1960年代—	持続的高成長の時代と寛容性の高まり
7	アメリカ経済の基盤の揺らぎ—1970年代—	4つの基盤の喪失と混迷の時代
8	レーガノミクス—反ニューディールの政策—	新自由主義思想受容の特殊アメリカ的な背景
9	レーガノミクス—格差拡大の政策展開—	金持ち減税とトリクルダウン
10	米ソ冷戦の崩壊とアメリカ再生戦略	IT革命、NAFTA
11	ウォールストリート＝ワシントン DC 複合体	産業構造の転換とドル高政策
12	住宅バブルとサブプライム危機	住宅バブルの構図とその帰結
13	大景気後退とオバマ政権	オキュパイ・ウォールストリート運動
14	オバマ政権Ⅱの政策—Middle Class Economy—	中間層の復活を目指す経済政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカは、日本人にとって、知っているようで知らない国の一つである。なかなか理解しにくい点も多くあるので、新聞やテレビなどのニュース、さまざまなメディアを通じてもたらされる情報などに、常に関心を払ってほしい。

指定のテキストは、毎回の講義で該当箇所を明示するので、必ず復習する際に読むこと。また、以下に紹介した参考書以外にも、講義内で紹介する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中本悟・宮崎礼二編『現代アメリカ経済分析: 理念・歴史・政策』日本評論社、2013 年。

【参考書】

- ① 大塚秀之『格差国家アメリカー広がる貧困、つるのる不平等』大月書店、2007 年。
- ② 瀬戸岡紘『アメリカ 理念と現実一分かっているようで分からないこの国を読み解く』時潮社、2006 年。
- ③ 堤未果『ルボ 貧困大国アメリカ』(岩波新書)、2008 年。
- ④ 堤未果『ルボ 貧困大国アメリカ II』(岩波新書)2010 年。
- ⑤ 堤未果『(株) 貧困大国アメリカ』(岩波新書)、2013 年。
- ⑥ 萩原伸次郎『金融グローバリズムの経済学』かもがわ出版、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（選択式と論述形式）で 100%で評価する。
出席状況によっては、授業内で課題を出すこともある（その場合には成績評価に加味）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を授業支援システムにアップするようにしました。

【Outline and objectives】

This course deals with North American Studies, especially focusing on the economy of the United States.

ARSA200EC

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

サブタイトル：地域研究（西欧）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多元性の上になり立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程をみる。現代ヨーロッパの特徴と今日の EU が抱える問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。そのすがたを通して、「多様性の中の統合」を掲げる EU の現状や今日における問題点を具体的に述べるができる。日本とヨーロッパの諸地域を比較し、関連付けて考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第 2 回	ヨーロッパとは？	ヨーロッパの地理的概念と文化的区分、ヨーロッパに対する意識をめぐる問題
第 3 回	ヨーロッパ世界の形成 (1)	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷
第 4 回	ヨーロッパ世界の形成 (2)	キリスト教文化圏の形成と共同体意識
第 5 回	ヨーロッパと世界大戦 (1)	第一次世界大戦
第 6 回	ヨーロッパと世界大戦 (2)	第二次世界大戦
第 7 回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	共通歴史教科書、モニュメント等をめぐる国家間のさまざまな議論
第 8 回	ヨーロッパ統合 (1)	地域統合へ向けた共通意思とその理念・実像、EU につながる統合の源流
第 9 回	ヨーロッパ統合 (2)	基本条約から欧州憲法条約、リスボン条約の発効まで、EU 独自のガバナンス
第 10 回	ヨーロッパ統合 (3)	EU の拡大と深化、加盟交渉、英国の離脱等をめぐる問題と行方
第 11 回	ヨーロッパと移民 (1)	19 世紀から第二次世界大戦までのヨーロッパにおける移民
第 12 回	ヨーロッパと移民 (2)	第二次世界大戦後の移民受け入れ
第 13 回	21 世紀におけるヨーロッパと移民・難民	ヨーロッパ域内の多様性、移民・難民政策の共通化等をめぐる今日的議論
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを通して、ヨーロッパで何が問題となり、議論されているのかをきちんと把握する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な貢献度、リアクションペーパーの内容を含む）30%
学期末に別途実施される定期試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

日々変化するヨーロッパの情勢を理解するために、今年度も新しい映像や記事を積極的に紹介したい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe.

ECN200EB

地域産業論 I

加藤 寛之

サブタイトル：地域産業論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布します。地域産業論の最新のトピックを紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業を見る眼、産業を見る眼、中小企業を見る眼、地域産業を見る眼
第 2 回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第 3 回	農業と立地	事例研究：ベルグアース、村上農園
第 4 回	地域経済の成長理論	需要主導型の成長モデル、供給主導型の成長モデル
第 5 回	都市と環境問題	公害としての環境問題、都市の環境問題
第 6 回	地方工業都市（1）	企業城下町、日立製作所、三菱重工業（東海・九州）
第 7 回	地方工業都市（2）	トヨタ生産システム、愛知と九州と東北の自動車産業
第 8 回	都市周縁の集積	大阪の金型工場の集積、岡山のジーンズ縫製
第 9 回	マザー工場	子工場、孫工場とマザー工場の共進化、富士通、川崎重工
第 10 回	産業集積の理論と実例	クラスター
第 11 回	国境を越える地域の連携	プロダクトサイクル説、雁行形態論、塩田モデル
第 12 回	国の競争優位（1）	タイの自動車産業のサプライヤーシステム
第 13 回	国の競争優位（2）	東アジアの優位産業の競争力
第 14 回	国境を越えるクラスター 同士の連携	東アジアのハードディスクドライブ産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、次回のプリントを配布しますので、講義内容をあらかじめ把握してください。また、日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ、時事的な事柄に感心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹（著）、高橋 望（著）、加藤 一誠（著）、榎原 胖夫（著）『航空の経済学』ミネルヴァ書房
伊藤 正昭（著）『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社
中村剛治郎編（2008）『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回アクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline and objectives】

To study about local industries.

ECN300EB

地域産業論 II

加藤 寛之

サブタイトル：特講（地域と産業）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきか考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定テキストを参照しながら、最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地方消滅、地域産業を調べるといことは
第 2 回	地方消滅	東京一極集中、コンパクトシティ
第 3 回	G 型と L 型	グローバル経済圏とローカル経済圏
第 4 回	産業分析	統計指標の読み方
第 5 回	企業分析	財務諸表と企業分析
第 6 回	稼ぐまちとは	利益なくして再生なし
第 7 回	街づくりを成功させる鉄則	自立がまちを支える
第 8 回	町おこし：鯖江市	「めがねのまち」から「オープンデーターのまち」へ
第 9 回	町おこし：今治タオル	地方発のブランド
第 10 回	温州商人	ソーシャルキャピタル、温州商人のネットワーク
第 11 回	琵琶湖水系	関西経済圏と琵琶湖水系、地盤沈下、水質汚染、環境と地域産業の共存
第 12 回	現代の二都物語	アナリー・サクセニアンの明らかにした経済地理
第 13 回	常石造船	沼隈町と常石造船
第 14 回	今治造船	瀬戸内海の波方船主達の生態と造船産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回プリントを配布します。日常的に新聞を読むなど、社会経済に関するニュースに触れて、時事的な事柄に関心を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

木下 斉（著）『稼ぐまちが地方を変える—誰も言わなかった 10 の鉄則』NHK 出版新書
木下 斉（著）『まちづくりの「経営力」養成講座』学陽書房
富山 和彦（著）『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書田村正紀（著）『リサーチ・デザイン』経営知識創造の基本技術』白桃書房
アナリー・サクセニアン（著）、本山 康之（監修、監修）、星野 岳徳（監修、監修）、酒井 泰介（翻訳）『最新・経済地理学』
アナリー・サクセニアン（著）、山形 浩生（翻訳）、柏木 亮二（翻訳）『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回アクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）との意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline and objectives】

To blush up your skills about researching local industries.

PLN100EA

地球と自然 I

澤柿 教伸

サブタイトル：自然環境論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間社会の多様な姿が生まれた背景には、歴史や文化の地域的特色、自然災害や地球温暖化などのグローバルな現象などがあり、それらは互いに密接に関連しています。本講義では自然本来の多様性に着目して、自然科学の諸分野と社会学との学際的アプローチを追求する上で不可欠となる「基礎的な地球観」を学びます。

【到達目標】

母なる地球に秘められた自然の摂理に思いを寄せる素養を培うとともに、地球科学が、物理・化学・生物・数学などの諸科学の基礎によって成り立っていることを理解できるようになる。特に、高校までに地球化学分野の基礎を修得してこなかった学生がもつ「素朴概念」を脱却し系統だった理学概念に置き換えることができるようになる。その上で、人間社会の歴史や、生活・文化の地域的特色の背景に地球の自然が深く関係していることを認識することや、地図や地理情報システムなどの諸資料に基づいて社会を理解し地球科学的な思考を正しく活用できるようになる。これらを通じて、現代社会がかかえる諸問題を、地球的思考を通して理解し、解決に向けて考察できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1 年次～4 年次の受講が可能です。春学期の開講です。この授業は例年、1 年生の 8 割以上が受講する科目です。入学ガイダンスが未実施のままのため、新入生はいろいろ不案内で迷っていることと思います。是非、手元に郵送されている「履修要項」を精読の上「履修登録」する授業を決めていただきたいと思ひます。それでもこの授業は、「視野形成科目」に指定されているため「履修登録」していただいても間違いのない、お勧めの授業です。

地球の全体像を広く理解するために、多方面から基礎的な項目を取り上げて解説します。スライド・動画・講義資料等をスクリーンや TV モニターに投影しながら実施します。授業支援システムを通じて、事前に講義資料および作業シートを配布します。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを推奨します。

以下は、コロナウイルス感染防止対策で遠隔授業を実施している期間に関する特別アナウンスです。

学習支援システムの「教材」から授業資料をダウンロードしてください。

学習支援システムの「動画」に 15 ～ 20 分程度に分割したビデオがアップしてあります。すべてを視聴してください。

動画は授業日（木曜日）から 3 日間（土曜日まで）視聴可能です。

視聴を完了したら学習支援システムの「課題」からリアクションペーパーを提出してください。

リアペの締め切りは授業日の週の土曜日いっぱいです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介、講義の進め方・成績評価等について
第 2 回	地球科学入門	地球科学を構成する学問体系、地質学・地理学・地球物理学の概要
第 3 回	地誌モノグラフ	北海道のモノグラフを例として自然地理学的に地域を総合理解する方法を紹介
第 4 回	地質学の原理	地球科学の基礎的理念・理論
第 5 回	物質・時間・空間	岩石と鉱物、地球史の基礎
第 6 回	プレートテクトニクス	マントル対流と地磁気の基礎
第 7 回	地殻変動	地震・火山の基礎
第 8 回	極域科学	南極観測の概要
第 9 回	地球シミュレーション	連鎖する現象と相互作用
第 10 回	大気と気象	地球の大気組成、気象と気候、世界の多様性と地域的特色
第 11 回	海洋	海洋の成り立ちと歴史、熱塩循環
第 12 回	核と地球	放射性物質や同位体と地球
第 13 回	第四紀と人類	人類の歴史と自然環境変動
第 14 回	まとめ	全体のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に授業支援システムを通じてレジュメを配布しますので、あらかじめ目を通してきてください。

・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を、授業後に授業支援システムを通じて配布しますので、答え合わせをしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じてレジュメを配付。

【参考書】

もう一度読む数研の高校地学（数研出版）、地球惑星科学入門（北海道大学出版会）、その他適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

大規模授業なので、マイクの音量や投影資料の見やすさに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

・授業支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください。
・リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。

【Outline and objectives】

This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

PLN200EA

地球と自然Ⅱ

澤柿 教伸

サブタイトル：自然環境論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、春学期の講義内容を基礎として、近年の環境変動に伴う様々な自然現象と社会問題とが結びついている事項を学びます。特に極域の環境や日頃の身近にある例を題材にしながら、地球科学の知識や理念をどのように社会科学的諸問題の解決に生かしていくかについて理解を深めます。

【到達目標】

・人間社会の活動や構造と地球科学との関わりに気づく素養を培う。
・社会と地球科学のつながりを考える意義・影響・展望について自ら考察できる基礎力を身につける。
・情報通信ネットワークや地理情報システムを活用できるようになる。
・「素朴概念」のとりわれから脱却し、地球科学の知識や思考法に基づいて論述したり批判的思考ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講していることを前提に進めます。
・スライド・動画・講義資料等をスクリーンに投影しながら実施します。
・授業支援システムを通じて講義資料を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介と授業の進め方の説明
第2回	高一大接続のための地球科学の基礎	春学期未履修、地球科学初学者のための地球科学概論
第3回	主題図の概要と活用	主題図や、測地技術・地理情報システムの活用
第4回	地球科学と社会	世界遺産・ジオパーク・ジオダイバシティ
第5回	河川管理と治世	河川管理を例に自然を制御しようとしてきた治世と統治について
第6回	河岸段丘と東京の自然史	水期・間水期サイクルと海水準変動、および段丘地形の発達史
第7回	火山と広域テフラ	火山の活動と火山噴出物の概要
第8回	雪氷圏の科学	雪と氷の科学、多摩キャンパスは寒い
第9回	地球温暖化問題	「不都合な真実」とサイエンス、およびIPCC
第10回	気候変動	100万年の地球史、宇宙気候学、古気候学
第11回	ヒマラヤの現実	地球温暖化と山岳水河
第12回	気候地理学	世界各地の地理的・文化的多様性と気候との関連
第13回	自然環境と人類	人類の進化と自然環境
第14回	まとめ	全体のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に授業支援システムを通じてレジュメを配布しますので、あらかじめ目を通してきてください。
・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を、授業後に授業支援システムを通じて配布しますので、答え合わせをしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じてレジュメを配付します。

【参考書】

南極読本（成山堂書店）、北極読本（成山堂書店）、地球惑星科学入門（北海道大学出版会）、その他、適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）、および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

大規模授業なので、マイクの音量や投影資料の見やすさに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

・授業支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください。
・リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。

[Outline and objectives]

This course inherits the spring semester course of geology, provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, especially focusing on the science-base understandings of climate change and its connection with social issues.

LAW200ED

知的財産権法

白田 秀彰

サブタイトル：情報メディア論B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験によって行う（100%）。持ち込み可の論述試験を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Regarding intellectual property law which has increased its importance as property in the information society, students are given lectures on patent, trademark, design and copyright before considering the copyright law, which is familiar to those who study humanities.

ECN200EB

地方財政論

関口 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地方財政論」は地方公共団体の歳入・歳入を中心とする経済活動のあり方を研究する学問である。地方創生が模索される中で、さまざまな問題点が指摘されつつある。地方財政の理論と歴史を踏まえ、わが国の日本の地方財政制度を中心にその現状と問題点、シャープ勧告の歴史的意義と限界、さらに時間の許す限り現実問題として脚光を浴びている介護保険、医療保険、保育所の運営等々の福祉と地方財政のかかわり等を概説していく。

【到達目標】

講義を契機として、地方財政の理論と実際そして地方財政制度の基本的な知識を習得することにより、地方財政制度および政策の経済的意義と問題点を明らかにして、地域社会への参加の手がかりを得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 基本的には講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。なお、本講義では地方財政論で扱う分野全般を、半期講義という制約の下、できる限り取り扱うつもりである。

2. 関連科目は「財政学Ⅰ・Ⅱ」（火・2限）であり、併せて履修することが受講生自身の理解度を深めるために望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	I. 緒論（地方財政と地方財政論）	1. 地方財政の役割〈教科書：第25章〉
第2回	I. 緒論（地方財政と地方財政論）	2. 中央集権化と地方分権化〈教科書：第25章〉
第3回	I. 緒論（地方財政と地方財政論）	3. 地方自治の財政理論〈教科書：第26章〉
第4回	II. 政府間財政関係	1. 中央と地方の連繋および地方財務〈教科書：第25～26章〉
第5回	II. 政府間財政関係〈教科書：第26章〉	2. 地方財政分析（各都道府県・各市町村財政の現状と問題点）
第6回	II. 政府間財政関係	3. 国庫補助負担金〈教科書：第28章〉
第7回	II. 政府間財政関係	4. 地方財政調整制度〈教科書：第27章〉
第8回	III. 地方税	1. 地方税原則と地方税法系〈教科書：第29章〉
第9回	III. 地方税〈教科書：第16、29章〉	2. 住民税
第10回	III. 地方税〈教科書：第17、18、19、29章〉	3. 固定資産税
第11回	IV. 地方債〈教科書：第30章〉	4. 事業税
第12回	IV. 地方債	5. 地方消費税
第13回	V. 福祉と政府間財政関係	6. 受益者負担
第14回	V. 福祉と政府間財政関係	1. 地方債の特性と機能
		2. 地方債許可制から協議制へ
		3. 地方債発行・消化の問題〈教科書：第30章〉
		1. 介護保険財政の諸問題〈教科書：第12章〉
		2. 保育所財政の諸問題〈教科書：第12章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句なし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩著『財政学入門〔新版〕』同文館、令和元年。

【参考書】

1. 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。
2. 片桐正俊編『財政学（第3版）』東洋経済新報社、平成26年。
3. その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 評価については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2. 目安として、定期試験（70%）を中心にして、出席票のコメント（30%）、講義最終回指定提出物（必須）等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「地方財政論」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【その他の重要事項】

詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

【Outline and objectives】

We learn the basics of "local public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

POL200EB

地方自治論 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21 世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めると、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民（Citizen）」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- 地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
- 地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。前半は、地方自治の成り立ちや歴史の変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第 2 回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第 3 回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第 4 回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960 年代以降の都市自治体の手掛けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する
第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

第 9 回	21 世紀の中央地方関係と地域の自治	2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実に自治体が直面している課題について考察する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 11 回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第 12 回	ポスト「平成の大合併」の自治体のかたち	平成の大合併を経て市町村数は 3 分の 1 に減少した。合併の功罪には今もさまざまな議論がある中、国は行政サービス維持の観点から新たに「圏域」という自治体間連携の仕組みの法制化を目指している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、合併を行わなかった小規模町村の取組みにも着目しながら、自治体のかたちを考察する
第 13 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールを活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
・地方自治に関連のあると考える新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

- 幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
- 大森彌／大杉寛『これからの地方自治の教科書』（第一法規）

その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80%）に授業内の小レポート提出状況等（20%）を加味し、総合的に判断します。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in Japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a "Citizen", the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

POL300EB

地方自治論Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行財政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がりつつあり、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増しています。

この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

- 自治体の政策展開に関わるしくみや諸制度について基本的な知識を身につける
- 自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、納税者の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。

それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）を理解することが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自治体が担う行政とその政策形成のしくみ	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体される基礎自治体を中心に政策形成や根拠法令等のしくみについて理解する
第 2 回	自治体福祉政策とバリアフリーの展開	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者のような対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のように縦割りを超えた共通対応を検討する
第 3 回	「人生 100 年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生 100 年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の視点から超高齢社会の問題を考察する
第 4 回	生活困窮者自立支援対策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第 5 回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第 6 回	子ども・子育て政策と地域ニーズの反映	全国的に展開されている子ども子育て関連施策を取り上げ、大都市部と地方都市・農山間地域における政策課題の共通性や相違性を学び、地域ニーズに応じた政策展開の必要性を検討する

第 7 回	開かれる学校教育と地域のサポート体制	自治体において長が運営する総合教育会議が設置されるようになり、地域社会に開かれた学校運営が求められる中で、学校教育と地域社会との連携が徐々に拡大しつつある現状を知り、地域の特色ある教育を考える
第 8 回	環境政策をめぐる多彩なパートナーシップ	自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持った NPO 等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する
第 9 回	都市計画のしくみとまちの将来ビジョン	住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める
第 10 回	社会インフラの老朽化への対策	高度成長期に整備した公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する
第 11 回	人口減少・超高齢社会における住宅施策	近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく
第 12 回	外国人住民と共生のまちづくり	政府が積極的に外国人労働者枠の拡大を進める中で、自治体はその地域に居住する外国人に対し、これまで予定してこなかったさまざまな施策が求められるようになってきていることを認識し、共生型のまちづくりの必要性を検討する
第 13 回	市民社会から提起される政策課題	地域においては自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対し NPO や住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する
第 14 回	自治体が果たすべきこと	災害対応のように地域住民の命や生活を守るという行政活動の本質を捉えながら、自治体が何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方について市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
・自分の住んでいる自治体の政策を調べる
・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80%）に授業内の小レポート提出状況（20%）を加味し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, and the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen’s participation for public policy making process has become more important than before. In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service in the view of the tax payer’s request.

中国語上級 A 1・B 1

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

1. ローマ字（ピンイン）は補助的な使用のみにしていく
2. 文成分の分析が正確にできる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れる
4. 辞書を引くことに習熟しながら「類推する力」を涵養する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主語、述語、修飾語、補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字（ピンイン）つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	精読の基礎（1）	文成分／構造分析① 主語
2	精読の基礎（2）	文成分／構造分析② 述語
3	精読の基礎（3）	文成分／構造分析③ 連体修飾語
4	精読の基礎（4）	文成分／構造分析④ 連用修飾語
5	精読の基礎（5）	文成分／構造分析⑤ 補語
6	精読の基礎（6）	文成分／構造分析⑥ その他の文成分
7	精読の基礎（7）	辞書を使いこなす①
8	精読の基礎（8）	辞書を使いこなす② web の活用
9	精読の基礎（9）	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎（10）	辞書にない事項の検索
11	文章の精読（1）	現代中国を読み解く①
12	文章の精読（2）	現代中国を読み解く②
13	文章の精読（3）	現代中国を読み解く③
14	文章の精読（4）	現代中国を読み解く④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞、雑誌、web 等の記事検索
4. 関連項目の調査、読書等

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufts.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 % として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

【学生の意見等からの気づき】

「この授業を履修してよかったと思う」100 % の維持を目標に、全員の満足度の高い情報提供と訓練の場を構築していきたい。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」、「中級」と積み上げてきた中国語、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた 2 年次程度の内容である。

将来の留学や研究、業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済、社会、文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級 A 2・B 2

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4月24日を授業開始日とします。

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

「聴く・話す」基礎力を伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につけることが授業の目的である。

【到達目標】

中国語中級の授業を通じて身につけた「聴く・話す」基礎力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

会話表現中心のテキストを用いる。より正確な発音、リスニング、問答の練習を中心に授業を進めていく。また、ペア練習にも時間を取り、定着度や運用力を向上させる。また、HSKや中国語検定試験の練習を適宜取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、自己紹介をする（「咱們認識一下」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第2回	「別」、「瞧」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<自己学習漢語的經歷>
第3回	外国での生活や体験について話す（「現在完全習慣了」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、ポイント説明、聞き取り練習
第4回	「過」、「哪里」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<去過的国家、去的目的>
第5回	友だち付き合いについて話す（「咱們從明天開始」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、ポイント説明、聞き取り練習
第6回	「～来/去」、「得」、反語の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<有没有外国朋友>
第7回	小テスト	小テストを行う。総合練習
第8回	変化について話す（「女大十八變」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、ポイント説明、聞き取り練習
第9回	「是～的」、「～以後」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<我的簡歷>
第10回	焦っている状況について話す（「放在哪里了」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、ポイント説明、聞き取り練習
第11回	「正在趕」、「来得及」、「～在」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<自己一天的學習、生活>
第12回	観光地について話す（「上有天堂、下有蘇杭」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、ポイント説明、聞き取り練習
第13回	「怪不得」、「還是」、「更」、「可是」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<自己的專業、熱門的專業>
第14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくこと、毎回の課題である会話文の準備をしておくこと。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中国語会話のプリントを使用する。

【参考書】

徐菊秀編著『快樂學漢語』、北京大学出版社

HSK 4級・5級の過去問題、中国検定試験の過去問題

【成績評価の方法と基準】

予習・授業への積極的な参加は30%、テストの合計は70%。

【学生の意見等からの気づき】

短いフレーズを使う会話力が上達した。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定試験などの練習・受験を奨励し、サポートする。

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級A3・B3

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4月24日を授業開始日とします。

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

さまざまなスタイルの中国語の映画の脚本や映画監督へのインタビューまたは映画評論を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」に触れながら、豊かな中国語表現を学習していく。

【到達目標】

映画の学習を通じてセリフの表現を理解し、登場人物の感情や生き方を中国語で表現することができるようになる。それと同時に中国社会と文化の理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、複数の名作映画を取り上げ、それぞれの背景を理解したうえで一部のセリフの表現を学習していく。辞書に載っていないような言い回しや新語の説明を行う。また、履修者に発話機会を多く与え、中国語の表現力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、映画（1）の鑑賞、内容の理解	ガイダンス、映画『海洋天堂』を見る（水族館、家族、自閉症、障がい者施設）
第2回	映画（1）の背景の説明、学習	新出単語とセリフの学習
第3回	映画（1）の学習、練習	セリフの学習、熟語を活用する練習
第4回	映画（2）の鑑賞、内容の理解	『不能説的秘蔵』を見る（学校、ピアノ、タイムトラベル）
第5回	映画（2）の背景の説明、学習	新出単語とセリフの学習
第6回	映画（2）の学習、練習	セリフの学習、熟語を活用する練習
第7回	映画（3）の鑑賞、内容の理解	『臥虎藏龍』を見る（武術、武侠、義理と人情）
第8回	映画（3）の背景の説明、学習	新出単語とセリフの学習
第9回	映画（3）の学習、練習	セリフの学習、熟語を活用する練習
第10回	映画（4）の鑑賞、内容の理解	『和你在一起』を見る。（夢、音楽、親子関係、人間模様）
第11回	映画（4）の背景の説明、学習	新出単語とセリフの学習
第12回	映画（4）の学習、練習	セリフの学習、熟語を活用する練習
第13回	総合練習	映画評論文の学習、練習
第14回	総合練習	映画評論文の学習、練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受ける前の予習が非常に重要である。知らない単語を調べておいて授業に臨み、また、自分の言いたいことを積極的に表現しようとする姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

予習・授業中の練習への積極的な参加は30%、課題の合計は70%。

【学生の意見等からの気づき】

映画の内容が面白かったこと。

【その他の重要事項】

辞典を必ず持参すること。

履修者の理解度を考慮し、また最新の映像資料を取り入れることによって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to study Chinese films.

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級A4・B4

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

「1」で培った力をもとに新聞、雑誌、書籍などの文章の読解をおこなう。授業では、

1. 長く難解な文の読解（文成分、文の構造分析の徹底）
2. 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌、書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用、慣用的表現にも習熟していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読（1）	文成分、構造分析をしながらの精読（1）
2	時事的な文章の精読（2）	文成分、構造分析をしながらの精読（2）
3	時事的な文章の精読（3）	文成分、構造分析をしながらの精読（3）
4	時事的な文章の精読（4）	文成分、構造分析をしながらの精読（4）
5	時事的な文章の精読（5）	文成分、構造分析をしながらの精読（5）
6	時事的な文章の精読（6）	文成分、構造分析をしながらの精読（6）
7	時事的な文章の精読（7）	文成分、構造分析をしながらの精読（7）
8	多読、速読（1）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（1）
9	多読、速読（2）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（2）
10	多読、速読（3）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（3）
11	多読、速読（4）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（4）
12	多読、速読（5）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（5）
13	多読、速読（6）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（6）
14	多読、速読（7）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞、雑誌、web等の記事検索

4. 関連項目の調査、読書等

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufts.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 % として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

【学生の意見等からの気づき】

「この授業を履修してよかったと思う」100 % の維持を目標に、全員の満足度の高い情報提供と訓練の場を構築していきたい。最新の集計結果については最初の時間に回覧する。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB 上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来をお楽しみに！

【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級 A 5・B 5

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「聴く・話す」基礎力を伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につけることが授業の目的である。

【到達目標】

中国語中級の授業を通して身につけた聴く力・話す力をさらに伸ばしていき、実用的な口語表現を習得し、運用する力を向上させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

会話表現中心のテキストを用いる。より正確な発音、リスニング、問答の練習を中心に授業を進めていく。また、ペア練習にも時間を取り、定着度や運用力を向上させる。また、HSK や中国語検定試験の練習を適宜取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	食べ物について話す（「有名な小喫」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第 2 回	「倒是・～起来」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<好喫的東西>
第 3 回	食事について話す（「忍不住要喫」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第 4 回	比較、同時進行に関連する表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<天気的变化>
第 5 回	中国語学習について話す（「總是不好意思開口」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第 6 回	「看来」、「也許」、「還差得遠」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<好的学習方法>
第 7 回	小テスト	小テストを行う。総合練習
第 8 回	予定について話す（「下星期我再～」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第 9 回	「別」、「約好了」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<念給大家一首古詩>
第 10 回	アルバイトについて話す（「打工不只是為了錢」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第 11 回	「老黃曆」、「再說」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<大学的種類和入学考試>
第 12 回	誕生祝に関連する表現（「猜猜看」）	本文、練習問題（フレーズ）の発音練習、聞き取り練習
第 13 回	「祝」、「或者」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習<説説看>、置き換え練習、応用練習<祝賀生日>
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくことと、毎回の課題である会話文の準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する。

【参考書】

徐菊秀編著『快樂学漢語』、北京大学出版社
HSK 4 級・5 級過去問題、中国語検定試験過去問題

【成績評価の方法と基準】

出席・予習・授業への参加状況は 30 %、テストの合計は 70 %。

【学生の意見等からの気づき】

短いフレーズを使う会話力が上達した。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定試験などの練習・受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

中国語上級A6・B6

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受賞映画の脚本や人気のテレビ番組を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」に触れながら、さまざまな中国語の表現を学習していく。

【到達目標】

映画の学習を通じてセリフの表現を理解し、登場人物の感情や生き方を中国語で表現することができるようになる。それと同時に中国社会と文化の理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、人気のある映画やテレビ番組の一部を学習教材として使用し、その中の表現を学習していく。辞書に載っていないような言い回しや新語の説明を行い、履修者に発話機会を多く与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	後期ガイダンス、映画（1）の鑑賞	第69回ベルリン国際映画祭でダブル受賞の映画『地久天長』を見る（一人っ子政策、社会変化） 新出単語とセリフの学習
第2回	映画（1）の背景の説明、学習	セリフの学習、熟語を活用する練習
第3回	映画（1）の学習、練習	受賞映画『無双』を見る（偽札、推理）
第4回	映画（2）の鑑賞	新出単語とセリフの学習
第5回	映画（2）の背景の説明、学習	セリフの学習、熟語を活用する練習
第6回	映画（2）の学習、練習	映画監督へのインタビューを学習する。
第7回	映画監督へのインタビュー	『外国人在中国』を見る。インタビューの内容表現の学習
第8回	ドキュメンタリー番組（1）の学習、練習	音楽番組『中国新歌声』を見る。インタビューの内容表現の学習と練習
第9回	ドキュメンタリー番組（1）の学習、練習	インタビューの内容表現の学習と練習
第10回	ドキュメンタリー番組（2）の学習、練習	歌詞の学習と練習①
第11回	ドキュメンタリー番組（2）の学習、練習	歌詞の学習と練習②
第12回	ドキュメンタリー番組（2）の学習、練習	総合練習
第13回	ドキュメンタリー番組（2）の学習、練習	
第14回	総合練習	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受ける前の予習が非常に重要である。知らない単語を調べておいて授業に臨み、また、自分の言いたいことを積極的に表現しようとする姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習・練習への積極的な参加、課題の提出とその成績で評価する。
予習・練習への積極的な参加は30%、課題は70%。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の要望に応じて HSK 試験の練習を適宜取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

辞典を持参のこと。

受講者の理解度に合わせて授業を進めていく予定で、最新の映像資料を取り入れることによって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to study Chinese films and TV programs.

中国語上級A7・B7

謝 荔

サブタイトル：漢語暢談中国文化
開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4月21日を授業開始日とします。

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

(1) メールと手紙の表現を学び、友人や目上の人と連絡する文章を作る。
(2) 履修者の生活体験やネット情報をまとめ、パワーポイントを使って発表する。

【到達目標】

学習内容における表現を生かしてメールや短い文を書く練習を重ね、表現力を高める。自分の感想や考え方を表現する短文が書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、メール、手紙、パワーポイントのレジュメの書き方を学習し、履修者の作文の添削を行い、表現のバリエーションを説明する。また、履修者の発表内容をめぐって会話練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明、メール用語の学習
第2回	メール・手紙の書き方（1）	近況報告関連の例文を学ぶ。
第3回	メール・手紙の書き方（2）	課題のメールの添削・説明を行う。勧誘関連の例文を学ぶ。
第4回	メール・手紙の書き方（3）	課題のメールの添削・説明を行う。連絡事項の例文を学ぶ。
第5回	メール・手紙の書き方（4）	課題のメールの添削・説明を行う。予定変更の例文を学ぶ。
第6回	メール・手紙の書き方（5）	予定変更と提案についてメールのやりとりを行う練習
第7回	メール・手紙の書き方（6）	学習、部活、インターンの活動など自己アピールの表現の学習と練習
第8回	パワーポイントのレジュメ作成	パワーポイントのレジュメ作成の学習
第9回	総合練習	履修者による発表（レジュメの添削、表現のバリエーションの説明、パワーポイントまたは写真資料を用いた発表）
第10回	総合練習	履修者による発表
第11回	総合練習	履修者による発表
第12回	総合練習	履修者による発表
第13回	総合練習	履修者による発表
第14回	総合練習	履修者による発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の言いたいことを中国語で表現するためにインターネットで情報収集を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加は30%、練習は70%。

【学生の意見等からの気づき】

履修者のレベルや要望に合わせて内容調整があり得る。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンを使用することがある。

【その他の重要事項】

受講者の状況に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The purpose of the course is primarily to improve students' skill in creative writing and speaking.

LANc100EA

中国語初級A

池田 麻希子、渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	受講者の学習支援システムへの自主登録の確認、『ポイント学習中国語初級』デジタル版への登録の指導（案内、ソフトのインストールなどの確認・質問など）、補足教材と辞書の紹介、課題提出（自己紹介や中国語を選択した理由などを書いたもの）
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音） 《発音の基本》発音とローマ字表記（ピンイン、拼音）、4つの声調、軽声などの練習
5・6	第二課の続き、第三課 韻母	声母（子音）、韻母 複母音（二重母音、三重母音）声調記号の付け方の練習
7・8	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ （数量）補語、四文型等の復習
15・16	復習・総合練習、第十二課 動詞述語文（一）	復習・総合練習、動詞述語文
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「動詞述語文」まとめ、 動詞述語文の復習・総合練習	総合練習
25・26	なし	なし
27・28	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDとデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。（池田・渡辺）

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ①スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
『ポイント学習中国語初級』デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e宿題ログイン」ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級A

池田 麻希子、加藤 昌弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	受講者の学習支援システムへの自主登録の確認、『ポイント学習中国語初級』デジタル版への登録の指導（案内、ソフトのインストールなどの確認・質問など）、補足教材と辞書の紹介、課題提出（自己紹介や中国語を選択した理由などを書いたもの）
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音） 《発音の基本》発音とローマ字表記（ピンイン、拼音）、4つの声調、軽声などの練習
5・6	第二課の続き、第三課 韻母	声母（子音）、韻母 複母音（二重母音、三重母音）声調記号の付け方の練習
7・8	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ （数量）補語、四文型等の復習
15・16	復習・総合練習、第十二課 動詞述語文（一）	復習・総合練習、動詞述語文
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「動詞述語文」まとめ、 動詞述語文の復習・総合練習	総合練習
25・26	なし	なし
27・28	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDとデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、必ずしも上記の授業計画通りには進まない可能性があります。（水曜担当 池田）
基本を着実に身に付け、応用力を身につけたい。やっていて楽しい、やってよかったというような時間になりたい。（加藤）

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ①スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
『ポイント学習中国語初級』デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e宿題ログイン」ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級A

康 宏理、上村 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1、金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	ガイダンス 受講者の学習支援システムへの自主登録の確認、「ポイント学習中国語初級」デジタル版への登録の指導（案内、ソフトのインストールなどの確認・質問など）、補足教材と辞書の紹介、課題提出（自己紹介や中国語を選択した理由などを書いたもの）
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音）＜発音の基本＞発音とローマ字表記（ピンイン、拼音、四つの声調、軽声などの練習。
5・6	第二課の続き 声母（子音）、第三課 韻母	複母音（二重母音、三重母音）声調記号の付け方の練習。
7・8	第四課、第五課	二音節語、挨拶言葉「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ、（数量）補語、四文型などの復習
15・16	復習・練習（小テスト）第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、テスト
25・26	復習	復習
27・28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDとデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

平常点、小テスト、試験により、総合評価する。

1. 平常点は三割を占める。十回以上出席しないと、評価できない。
2. 授業中には携帯を遊ばないこと、寝ないこと、私語しないこと、宿題を時間通りにやることを守ってもらう。
3. 小テストは一割を占める。
4. 試験は六割を占める。

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が四回（授業回数分の三分の一）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ①スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
「ポイント学習中国語初級」デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参加して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④「ポイント学習中国語初級」デジタル版の第一課の終わりにある[e 宿題ログイン] ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級A

康 宏理、上村 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	ガイダンス 受講者の学習支援システムへの自主登録の確認、「ポイント学習中国語初級」デジタル版への登録の指導（案内、ソフトのインストールなどの確認・質問など）、補足教材と辞書の紹介、課題提出（自己紹介や中国語を選択した理由などを書いたもの）
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音）＜発音の基本＞発音とローマ字表記（ピンイン、拼音、四つの声調、軽声などの練習。
5・6	第二課の続き 声母（子音）、第三課 韻母	複母音（二重母音、三重母音）声調記号の付け方の練習。
7・8	第四課、第五課	二音節語、挨拶言葉「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ、（数量）補語、四文型などの復習
15・16	復習・練習（小テスト）第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、テスト
25・26	復習	復習
27・28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDとデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

平常点、小テスト、試験により、総合評価する。

1. 平常点は三割を占める。十回以上出席しないと、評価できない。
2. 授業中には携帯を遊ばないこと、寝ないこと、私語しないこと、宿題を時間通りにやることを守ってもらう。
3. 小テストは一割を占める。
4. 試験は六割を占める。

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が四回（授業回数の三分の一）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ①スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
「ポイント学習中国語初級」デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参加して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④「ポイント学習中国語初級」デジタル版の第一課の終わりにある[e 宿題ログイン] ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級A

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	受講者の準備状況の確認、今後の授業の進め方の説明、補足教材と辞書の紹介、自己紹介
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音） 発音の基本：発音とローマ字表記（ピンイン）四つの声調、軽声の練習
5・6	第二課の続き、第三課	声母（子音）、第三課 韻母 複母音（二重母音、三重母音）声調記号のつけ方
7・8	第四課、第五課	二音節語、あいさつ言葉、「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ、（数量）補語
15・16	復習・練習（小テスト）、第十二課	四文型等の復習、動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ	動詞述語文の復習、総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDとデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が4回（授業回数の三分の一）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

基本をしっかり身に付け、着実に応用能力がつくようにしたい。やっついて楽しい、やっつよかったというような時間になりたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めて下さい。

- ①スマートフォンで下記のページにアクセスして下さい（パソコンも可）『ポイント学習中国語初級』デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認して下さい。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマートフォンに中国語キーボードと音声入力をセットアップして下さい。
- ④『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e 宿題ログイン」ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級 A

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	受講者の準備状況の確認、今後の授業の進め方の説明、補足教材と辞書の紹介、自己紹介
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音） 発音の基礎：発音とローマ字表記（ピンイン）、四つの声調、軽声などの練習
5・6	第二課の続き、第三課	声母（子音）、韻母 複母音（二重母音、三重母音）声調記号のつけ方
7・8	第四課、第五課	二音節語、あいさつ言葉、「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、（数量）補語
15・16	復習、練習（小テスト）、第十二課	四文型等の復習、動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、動詞述語文の復習、総合練習	動詞述語文の復習、総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD とデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。木曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が 4 回（授業回数の三分之一）を超えた場合には評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

基本を着実に身に着け、応用能力を着け、やっていて楽しい、やってもなかったというような時間になりたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めて下さい。

- ①スマートフォンで下記のページにアクセスして下さい（パソコンでも可）
『ポイント学習中国語初級デジタル版』 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認して下さい。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマートフォンに中国語キーボードと音声入力をセットアップして下さい。
- ④『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e 宿題ログイン」ページで「新規登録」を行って下さい。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級A

耿 函、大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	受講者の学習支援システムへの自主登録の確認、『ポイント学習中国語初級』デジタル版への登録の指導（案内、ソフトのインストールなどの確認・質問など）、補足教材と辞書の紹介、課題提出（自己紹介や中国語を選択した理由などを書いたもの）
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音） 《発音の基本》発音とローマ字表記（ピンイン、拼音）、 4つの 声調、軽声などの練習
5・6	第二課の続き 声母（子音）、第三課 韻母	声母（子音）、韻母 複母音 （二重母音、三重母音）声調記号の付け方の練習
7・8	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ （数量）補語、四文型等の復習
15・16	復習・練習（小テスト）、第十二課	復習・練習（小テスト）、動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「動詞述語文」まとめ	動詞述語文の復習・総合練習
25・26	なし	なし
27・28	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDとデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の学習意欲を引き出し、使える中国語の習得を目指して、様々な工夫を重ねていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ①スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
『ポイント学習中国語初級』デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ②トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e宿題ログイン」ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級 A

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「II 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「III 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。

毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が 4 回（授業回数の 3 分の 1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級 A

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「II 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「III 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。

毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が 4 回（授業回数の 3 分の 1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級A

謝 荔、渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 22 日を授業開始日とします。

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

初回授業はガイダンスです。

授業の自主登録、『デジタル版教材』の新規登録、基礎知識（添付ファイル）

の学習は授業内容です。

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちらら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストとデジタル版教材を併用し、簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	ガイダンス	受講者の学習支援システムへの自主登録の確認、『ポイント学習中国語初級』デジタル版への登録の指導（案内、ソフトのインストールなどの確認・質問など）、補足教材と辞書の紹介、課題提出（自己紹介や中国語を選択した理由などを書いたもの）
3・4	第一課、第二課	単母音、声調、声母（子音） 《発音の基本》発音とローマ字表記（ピンイン、拼音）、4つの声調、軽声などの練習
5・6	第二課の続き、第三課 韻母	声母（子音）、韻母 複母音（二重母音、三重母音）声調記号の付け方の練習
7・8	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば「発音の基本」まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語、連用修飾語、「中国語の基本構造」まとめ (数量) 補語、四文型等の復習
15・16	復習・総合練習、第十二課 動詞述語文（一）	復習・総合練習、動詞述語文
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「動詞述語文」まとめ、 動詞述語文の復習・総合練習	総合練習
25・26	なし	なし

27・28 なし

なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD とデジタル版教材を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大言語学モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストとデジタル版教材を学習・練習問題を解いたかどうかに基づいて評価する。毎回の課題の提出が重要である。水曜日、金曜日それぞれに平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が 4 回（授業回数の 3 分の 1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。渡辺

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ① スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
『ポイント学習中国語初級』デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ② トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③ トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④ 『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e 宿題ログイン」ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級 A

渡辺 浩司、大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「II 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
17・18	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
19・20	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
21・22	第十八課、「III 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習
23・24	第十九課、第二十課	完了態、変化態
25・26	期末テスト・まとめと解説、第二十一課	学習内容の復習、経験態
27・28	第二十二課、「初級 A」	進行態、持続態、～第二十二課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 「ポイント学習 中国語初級 [改訂版]」、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストで学んだ事項について、十分に理解し、習熟しているかどうかについて評価する。試験の範囲と方法、実施期日等については、学習効果を第一に考慮し、水曜日、金曜日双方の担当教員が相談して分担を決め、授業時間内に説明、通知する。

水曜日、金曜日それぞれに平常点と試験の点数を加えた素点を算出し、その点数を同じ割合で合算して成績を評価する。水曜は、進めた分を範囲とした期末テストを実施し評価する（100%）。金曜日は、I、II、III、IVのそれぞれ数課分をまとめ、秋学期計 4 回のテストの合計点を 100 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。渡辺

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級B

池田 麻希子、渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストで学んだ事項について、十分に理解し、習熟しているかどうかについて評価する。試験の範囲と方法、実施期日等については、学習効果を第一に考慮し、水曜日、金曜日双方の担当教員が相談して分担を決め、授業時間内に説明、通知する。

水曜日、金曜日それぞれに平常点と試験の点数を加えた素点を算出し、その点数を同じ割合で合算して成績を評価する。

期末試験を7～8割、小テスト・授業態度を2～3割として評価します。

期末試験・小テストの出題形式の詳細については講義中に説明します。

出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。（水曜担当 池田）

期末試験を7割、小テスト・授業態度等を3割として評価し、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。（金曜担当 渡辺）

LANe100EA

中国語初級B

池田 麻希子、加藤 昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストで学んだ事項について、十分に理解し、習熟しているかどうかについて評価する。試験の範囲と方法、実施期日等については、学習効果を第一に考慮し、水曜日、金曜日双方の担当教員が相談して分担を決め、授業時間内に説明、通知する。

水曜日、金曜日それぞれに平常点と試験の点数を加えた素点を算出し、その点数を同じ割合で合算して成績を評価する。

期末試験を7～8割、小テスト・授業態度を2～3割として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細については講義中に説明します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。（水曜担当 池田）期末試験60%、小テスト20%、平常点20%で評価する。（加藤）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を志します。尚、受講生の理解を優先しますので、必ずしも上記の授業計画通りには進まない可能性もあります。（水曜担当 池田）

基本を着実に身につけ、応用能力を身につけたい。やっつけて楽しい、やっつよかったというような時間にしたい。（加藤）

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

康 宏理、上村 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1、金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習、試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこなない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

平常点、小テスト、試験により、総合評価する。

1. 平常点は三割を占める。十回以上出席しないと、評価できない。

2. 授業中には携帯を遊ばないこと、寝ないこと、私語しないこと、宿題を時間通りにやることを守ってもらう。

3. 小テストは一割を占める。

4. 試験は六割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

康 宏理、上村 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

2. 授業中には携帯を遊ばないこと、寝ないこと、私語しないこと、宿題を時間通りにやることを守ってもらう。
3. 小テストは一割を占める。
4. 試験は六割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこなない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

平常点、小テスト、試験により、総合評価する。

1. 平常点は三割を占める。十回以上出席しないと、評価できない。

LANc100EA

中国語初級B

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【学生の意見等からの気づき】

基本を着実に身に付け、応用能力を着けたい。やっていて楽しい、やっ
てよかったというような時間になりたい。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レ
ベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめと
する語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課の
ポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの
能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示さ
れた学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこ
ちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語
文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴
き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の
実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総 復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容 詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文 の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述 語文」「VII 連体修飾 語・練用修飾語」まと め、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の 復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、 第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」 のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総 復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする
文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。
「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間
にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこ
ない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほ
しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書
店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、小テスト20%、平常点20%で評価する。（田中、加
藤ともに）

LANe100EA

中国語初級B

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【学生の意見等からの気づき】

基本を着実に身に付け、応用能力を着け、やっていて楽しい、やってよかったというような時間になりたい。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ	さまざまな表現の復習
27・28	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになりたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

（期末試験60%、小テスト20%、平常点20%で評価する。（田中、加藤ともに）

LANc100EA

中国語初級B

耿 函、大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト・まとめと解説、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「初級B」学習内容の総復習	さまざまな表現の復習
27・28	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末テスト・まとめと解説	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

試験の範囲と方法、実施期日等については、学習効果を第一に考慮し、水曜日、金曜日双方の担当教員が相談して分担を決め、授業時間内に説明、通知する。水曜日、金曜日それぞれの点数を同じ割合で合算して成績を評価する。

水曜日は、期末筆記テストを50%、会話の小テストやE宿題をそれぞれ20%、また平常点を10%にし、総合的に評価する。金曜日は、V、VI、VII、VIII、IXのそれぞれ数課分をまとめ、秋学期計5回のテストの合計点を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の学習意欲を引き出し、使える中国語の習得を目指して、様々な工夫を重ねていきたい。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANc100EA

中国語初級B

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日、期末試験60%、e宿題20%、積極的参加20%の割合で評価する。任意の小テストを行い成績優秀の場合は加点をする。欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。具体的な評価の方法については開講時に説明する。金曜日は、期末試験を六割、小テスト、発音、授業態度等を四割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。具体的な評価の方法については開講時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANc100EA

中国語初級B

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日、期末試験60%、e宿題20%、積極的参加20%の割合で評価する。任意の小テストを行い成績優秀の場合は加点をする。欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。具体的な評価の方法については開講時に説明する。金曜日は、期末試験を六割、小テスト、発音、授業態度等を四割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。具体的な評価の方法については開講時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

謝 荔、渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト・まとめと解説、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験・まとめと解説	さまざまな表現の復習
27・28	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

テキストで学んだ事項について、十分に理解し、習熟しているかどうかについて評価する。試験の範囲と方法、実施期日等については、学習効果を第一に考慮し、水曜日、金曜日双方の担当教員が相談して分担を決め、授業時間内に説明、通知する。

水曜日、金曜日それぞれに平常点と試験の点数を加えた素点を算出し、その点数を同じ割合で合算して成績を評価する。

期末試験を7割、小テスト・授業態度等を3割として評価し、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。（金曜担当 渡辺）

【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。渡辺

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

渡辺 浩司、大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

「旧：教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級 A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	第三十一課、第三十二課	程度補語、数量補語
15・16	第三十三課、第三十四課	結果補語、方向補語
17・18	第三十五課、「VIII 補語」のまとめ	可能補語、補語の復習
19・20	第三十六課、第三十七課	助動詞、兼語文
21・22	第三十八課、第三十九課	受け身表現、「把」構文
23・24	第四十課、「IX さまざまな表現」のまとめ	存現文、さまざまな表現の復習
25・26	期末テスト・まとめと解説、「初級 B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習①
27・28	「初級 B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習②、③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

「旧：テキストで学んだ事項について、十分に理解し、習熟しているかどうかについて評価する。試験の範囲と方法、実施期日等については、学習効果を第一に考慮し、水曜日、金曜日双方の担当教員が相談して分担を決め、授業時間内に説明、通知する。

水曜日、金曜日それぞれに平常点と試験の点数を加えた素点を算出し、その点数を同じ割合で合算して成績を評価する。水曜は、進めた分を範囲とした期末テストを実施し評価する（100%）。金曜日は、V、VI、VII、VIII、IXのそれぞれ数課分をまとめ、春学期計 5 回のテストの合計点を 100%として評価する。」

【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。渡辺

【学生が準備すべき機器他】

授業開始日までに次の手順で準備を進めてください。

- ① スマホで下記のページにアクセスしてください（パソコンでも可）
『ポイント学習中国語初級』デジタル版 <https://fic.xsrv.jp/hosei>
- ② トップページにある「デジタル版紹介ビデオ」を参照して、この教材の利用方法を確認してください。
- ③ トップページにある「ブレンド型学習の手引き」を参照して、スマホに中国語キーボードと音声入力をセットアップしてください。
- ④ 『ポイント学習中国語初級』デジタル版の第一課の終わりにある「e 宿題ログイン」ページで「新規登録」を行ってください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANc200EA

中国語中級 1

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章を分析する能力を高めること、発音を聞いて日本語を経由せずに概念が浮かんでくる単語を増やすことを柱に総合的な中国語の力を高めることを目的とする。

【到達目標】

「中国語検定試験 4 級」合格レベル到達を具体的な目標とする。
4 級レベルの文章を初見で意味が分からない場合、辞書さえ引けば文成分を明確に分析できる能力を身に付ける。また聞き取れる単語数 500～1000 を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在の实力を知る・復習	実力診断テスト 正確な発音・四つの述語文・連体修飾語・連用修飾語・態・補語の復習
2	第 1 課	名前の言い方、省略疑問文、連体修飾語（読解）
3	第 1 課	名前の言い方、省略疑問文、連体修飾語（音読・聞き取り）
4	第 2 課	動詞述語文、前置詞（読解）
5	第 2 課	動詞述語文、前置詞（音読・聞き取り）
6	第 3 課	形容詞述語文、主述述語文（読解）
7	第 3 課	形容詞述語文、主述述語文（音読・聞き取り）
8	第 4 課	動詞「有」と「在」、連動文（読解）
9	第 4 課	動詞「有」と「在」、連動文（音読・聞き取り）
10	第 5 課	進行の表現、完了の「了」（読解）
11	第 5 課	進行の表現、完了の「了」（音読・聞き取り）
12	第 6 課	助動詞「会・能」、助動詞「要」、変化の「了」、仮定表現（読解）
13	第 6 課	助動詞「会・能」、助動詞「要」、変化の「了」、仮定表現（音読・聞き取り）
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 辞書を引き本文・ポイント・閲読と練習問題を事前に学習する。
2. 復習 CD を使い必ず 1 週間に 2 回以上、1 回につき 15 分以上発音練習等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鄭萍・安力著『チャイニーズ・ガーデン』白帝社

【参考書】

相原茂 他 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同学社
相原茂 『謎解き中国語文法』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出が重要である。平常点の合計で成績を評価する。課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

分りやすい授業を心がけます。小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This course enhances the development of students' skill in analyze the construction of a sentence.

LANc200EA

中国語中級 1・2・3

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。読解力と口語表現力の向上を目指す授業である。教科書の会話文とドリルを通じて、(1) 複文の理解、(2) 実用的な表現を学ぶ。

【到達目標】

中国語初級の学習を通じて身につけた基礎力を踏まえて日常生活用語を目と耳で理解し、短文の読解力を身につけること、短いフレーズで自分の言いたいことを表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では文法事項の解説をしたうえで、短文の読解を練習する。それと並行して、発音練習、聞き取り練習、会話練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者の中国語レベルの確認（練習）、授業の進め方と評価方法の説明
第 2 回	自己紹介（1）	初対面の挨拶、趣味に関連する表現（前置詞）
第 3 回	自己紹介（2）	好みの店に関連する表現（存在文、複合方向補語）
第 4 回	アルバイト（1）	アルバイト探しに関連する表現（進行形、結果補語）
第 5 回	アルバイト（2）	アルバイト探しに関連する表現の練習（禁止表現、流行語）
第 6 回	飲食店（1）	店員と客のやりとり（複文）
第 7 回	飲食店（2）	店員と客のやりとりの応用練習（「人気」に関連する表現）
第 8 回	小テスト	小テストを行う。補足教材で練習する。
第 9 回	図書館（1）	図書館の利用に関連する表現（複文）
第 10 回	図書館（2）	「おごる」に関連する表現の練習
第 11 回	試験の準備（1）	試験に関連する表現（完全否定、受け身表現）
第 12 回	試験の準備（2）	気持ちに関連する表現の練習
第 13 回	リラククス	手ごたえと予定に関連する表現（複文）
第 14 回	試験・まとめと解説	テスト・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。効率よく練習を進めていくために、学習内容は授業時までには予習してきてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

奥村佳代子ほか『準中級中国語 会話編』金星堂、2019 年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30%）と小テスト（70%）。積極的な授業への参加が評価の前提となり、3分の1の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。中国語検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあり得る。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の変更があり得る。辞典を必ず持参する。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation and reading.

LANe200EA

中国語中級2

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級から中級への展開を意識しながら、読解と作文により初級～中級の文法項目の要点の復習と学習、整理を進める。

【到達目標】

「中国語検定試験 4 級」合格レベル到達を具体的な目標とする。本授業では、そのうち文法と読解、作文に関する分野について集中して学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初は「ポイント学習 中国語初級」の既習事項の確認から始め、少しずつ学習のスピードを上げ、さらに深い文法の解説、応用へと進めていく。学習効果を上げるため、テキストの編集順ではなく、文法項目順に学習する予定。常に意識してほしいのは、文成分（主語、述語、修飾語、補語等）。正確な読解や作文ができるよう着実な実力養成をはかっていく。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、0、第 16 課	中国語の発音、文成分のまとめ
2	第 1 課	名詞・数詞・量詞
3	第 2 課	時間・年月日・お金
4	第 4 課	数のいろいろ
5	第 3 課	指示代詞と人称代詞
6	第 5 課	いろいろな形容詞と区別詞
7	第 6 課	形容詞述語文
8	第 30 課	比較の言い方
9	第 11 課	疑問文について
10	第 12 課	再び、疑問文について
11	第 7 課	動詞述語文
12	第 8 課	動詞述語文 —— “是”
13	第 9 課	存在の表現
14	第 17 課	存在・出現・消失の文・非主述文・命令文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 本文の事前学習と理解
 2. 復習・暗唱 3 課ごとの小テストで例文を暗記し、重要なポイントをきちんとマスターする
 3. 検定試験対策 練習問題の自習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂、石田知子、戸沼市子『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』、同学社、2016。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

3 課ごとに小テストをおこない、その成績の累計を 100 % として絶対評価をする。小テストは学生がグループで相談し、テキストの中から重要な文を選び出し、担当教員がその中からさまざまな形式で出題する方式としたい。得点が 60 % 未満であった者、未受験者については再テストをおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の個別の発音の練習、矯正の徹底を含め、さらによりわかりやすい授業、明確に伝わる工夫を重ねていきたい。

【Outline and objectives】

Intermediate Chinese 2 (Chinese grammar)

LANe200EA

中国語中級3

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4月24日を授業開始日とします。

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」・「話す」の練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】

中国語検定試験準4級、さらに4級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は、会話文、ポイント説明、ワードバンク、置き換え会話練習、リスニング・並べ替え・短文の音読を含むドリルから構成されている。授業では文法事項の解説を最小限にとどめ、発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。効率よく練習を進めていくために、学習内容は授業時までに予習してきてほしい。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、中国語レベルのチェック	ガイダンス、中検の過去問題の練習(1)
第2回	中検の過去問題の練習(2)	中検の過去問題の練習(1)を通じて初級で学習した内容を復習する。
第3回	テキストでの学習を開始、自己紹介についての表現	名前、専攻、電話番号の聞き方と答え方、初対面の時に使う挨拶を練習する。
第4回	中検テスト	中検テストを行う。自己紹介の表現の応用練習。
第5回	アルバイト、趣味についての表現	前回の内容の復習。アルバイトの内容や趣味の聞き方と答え方を練習する。
第6回	食べ物についての表現	経験、選択、食べ物や飲み物の好みに関連する表現を練習する。
第7回	小テスト	小テストを行う。応用練習。
第8回	誘い、約束についての表現	誘い、約束に関連する表現を練習する。
第9回	評価についての表現	結果補語と様態補語を用いて評価する表現の練習。
第10回	中国語の歌における評価の表現	歌における評価の表現を説明する。誘い・約束・評価に関する応用練習。
第11回	中国語の歌詞	中国語の歌詞を学習する。
第12回	写真鑑賞についての表現	比較表現を練習する。
第13回	買い物についての表現	買い物物の表現、方向補語や程度を表す表現を練習する。
第14回	試験・まとめと解説	テスト・を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

聴く力と話す力を着実に身につけるには、授業に出席するだけでは不十分である。きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。必ず予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語2 一ステップアップ編―』（朝日出版社、2013年）

【参考書】

中国語検定試験準4級、4級問題集

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（15%）、テスト（45%）および中検テスト（40%）。積極的な授業への参加が評価の前提となり、3分の1の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

応用会話の練習の時間をより多く設けること。

中国語中級4

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章を分析する能力を高めること、発音を聞いて日本語を経由せずに概念が浮かんでくる単語を増やすことを柱に総合的な中国語の力を高めることを目標とする。

【到達目標】

「中国語検定試験 4 級」合格レベル到達を具体的な目標とする。
4 級レベルの文章を初見で意味が分からない場合、辞書さえ引けば文成分を明確に分析できる能力を身に付ける。また聞き取れる単語数 500～1000 を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各課の進め方は概ね以下の通り。

1. 重要文法事項の確認
2. 発音練習・和訳練習・中訳練習・シャドーイング・暗誦対話練習
3. 読解（発表形式）・文成分分析練習（発表形式）
4. 練習問題
5. 各課終了毎に小テスト

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	比較・依頼表現（読解中心）
2	第 7 課	比較・表現（音読・聞き取り）
3	第 8 課	方向補語、使役（読解中心）
4	第 8 課	方向補語、使役（音読・聞き取り）
5	第 9 課	結果補語、数量表現（読解中心）
6	第 9 課	結果補語、数量表現（音読・聞き取り）
7	第 10 課	選択疑問、可能補語（読解中心）
8	第 10 課	選択疑問、可能補語（音読・聞き取り）
9	第 11 課	「是～的」構文、様態補語（読解中心）
10	第 11 課	「是～的」構文、様態補語（音読・聞き取り）
11	第 12 課	受け身、処置文（読解中心）
12	第 12 課	受け身、処置文（音読・聞き取り）
13	総復習	7 課から 12 課の復習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 辞書を引き例文と練習問題を事前に学習する。
2. 復習 並べ替え・作文を再度行い語順と単語を記憶する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鄭萍・安力著『チャイニーズ・ガーデン』白帝社

【参考書】

相原茂 他『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同学社
相原茂『謎解き中国語文法』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %・小テスト 30 %・積極的参加 10 %の割合で絶対評価する（「S」評価についてはのみ絶対評価の後に相対評価する）。

授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

さらに分かりやすい授業を心がけます。小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【その他の重要事項】

受講生への要望

語学を習得する上で反復練習以外の近道はない。そのため授業は主に受講生が反復練習する時間であると考えている。練習する上で失敗を恐れる気持ちは上達の妨げとなる。失敗を指摘されることは決して恥ずかしいことではない。却ってより深い記憶に結びつきやすい。失敗を恐れず、むしろ積極的に失敗するつもりで大きな声を出して練習して欲しい。また語学を身につける上で大切なことは学習の習慣化である。1 日 5 分でも毎日積み重ねることができれば効果は大きい。復習・予習に励んで欲しい。

【Outline and objectives】

This course enhances the development of students' skill in analyze the construction of a sentence.

中国語中級4・5・6

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 24 日を授業開始日とします。

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

読解力と口語表現力の向上を目指す授業である。教科書の会話文とドリルを通じて、(1) 複文の理解、(2) 実用的な表現を学ぶ。

【到達目標】

中国語初級の学習を通じて身につけた基礎力を踏まえて日常生活用語を目と耳で理解し、短文の読解力を身につけること、短いフレーズで自分の言いたいことを表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では文法事項の解説をしたうえで、短文の読解を練習する。それと並行して、発音練習、聞き取り練習、会話練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者の中国語レベルの確認（練習）、授業の進め方と評価方法の説明
第 2 回	夏休み（1）	休暇の過ごし方に関連する表現（使役表現、程度補語）
第 3 回	夏休み（2）	物事の様子・程度に関連する表現（離合動詞、比喩表現）
第 4 回	グループディスカッション（1）	感想に関連する表現（推測、複文）
第 5 回	グループディスカッション（2）	「ほめる」に関連する表現の練習
第 6 回	PPT（1）	パワーポイント作成に関連する表現（数量詞）
第 7 回	PPT（2）	作業の経過と結果に関連する表現の練習（結果補語）
第 8 回	小テスト	小テストを行う。補足教材で練習する。
第 9 回	クリスマス（1）	予定と理由に関連する表現（複文）
第 10 回	クリスマス（2）	語呂合わせに関連する表現の練習
第 11 回	冬休み	確認と勧誘に関連する表現（比較文）
第 12 回	進路（1）	相談に関連する表現（可能補語と方向補語）
第 13 回	進路（2）	助言に関連する表現の練習
第 14 回	試験・まとめと解説	テスト・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。効率よく練習を進めていくために、学習内容は授業時まで予習してきてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

奥村佳代子ほか『準中級中国語 会話編』金星堂、2019 年

【成績評価の方法と基準】

配分：授業への積極的な参加（30 %）と小テスト（70 %）
積極的な授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。中国語検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

履修者のレベルに合わせてテキストの内容を調整する必要があった。実用的な表現を学んでよかった、という声があった。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の変更があり得る。

日中・中日辞典を必ず持参のこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation and reading.

LANe200EA

中国語中級5

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として読解と作文により、中級文法項目の要点の学習、まとめをおこなひ、文法、語法の力の涵養と総合的な実力養成をはかる。

【到達目標】

「中国語検定試験 4 級」合格レベル到達を具体的な目標とする。本授業では、そのうち文法と講読、作文に関する分野について集中して学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習のスピードをさらに上げ、深い文法の解説、応用へと進めていく。学習効果を上げるため、テキストの編集順ではなく、文法項目順に学習していきたい。常に意識してほしいのは、文成分（主語、述語、修飾語、補語等）。正確な読解や作文ができるよう着実な実力養成をはかっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 33 課	連動文 II
2	第 18 課	能願動詞（助動詞）
3	第 13 課	介詞（前置詞）
4	第 14 課	介詞，“是... 的”構文
5	第 31 課	“把”bǎ 構文
6	第 32 課	“被”bèi 構文
7	第 15 課、第 20 課	常用される副詞、進行のアスペクト
8	第 21 課	持続のアスペクト
9	第 22 課	完了・実現のアスペクト
10	第 23 課	経験と将然のアスペクト
11	第 24 課	補語——程度補語と様態補語
12	第 25 課	V+結果補語
13	第 26 課、第 27 課	方向補語、方向補語の派生義
14	第 28 課、第 29 課	結果補語・方向補語の可能形、動量、時量、差量

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 本文の事前学習と理解
2. 復習・暗唱 3 課ごとの小テストで例文を暗記し、重要なポイントをきちんとマスターする
3. 検定試験対策 練習問題の自習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂、石田知子、戸沼市子『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』、同学社、2016。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

3 課ごとに小テストをおこなひ、その成績の累計を 100 % として絶対評価をする。小テストは学生がグループで相談し、テキストの中から重要な文を選び出し、担当教員がその中からさまざまな形式で出題する方式としたい。得点が 60 % 未満であった者、未受験者については再テストをおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

さらによりわかりやすい授業、明確に伝わるよう努力を続ける。検定試験や留学等個別の相談にも応じる。

【Outline and objectives】

Intermediate Chinese 5 (Chinese grammar)

LANc200EA

中国語中級6

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業方法・内容・課題については、学習支援システムでご確認ください。

聴解力と口語表現力の向上をめざす授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」・「話す」の練習が中心となる。

【到達目標】

中国語検定試験4級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は、会話文、ポイント説明、ワードバンク、置き換え会話練習、リスニング・並べ替え・短文の音読を含むドリルから構成されている。授業では文法事項の解説を最小限にとどめ、発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。効率よく練習を進めていくために、学習内容は授業時までには予習してきてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、中国語レベルのチェック	ガイダンス、中検4級の過去問題の練習
第2回	中検4級の過去問題の練習	中検4級の過去問題の練習を行う。
第3回	パーティーについての表現	お祝いに関連する表現、複合方向補語の使い方を練習する。
第4回	映画鑑賞についての表現	映画の紹介に関連する表現、可能補語を練習する。
第5回	休暇の過ごし方についての表現	経験に関連する表現、不定疑問文を練習する。
第6回	小テスト	小テストを行う。応用練習をする。
第7回	大学生活についての表現	予定や期待に関連する表現を練習する。
第8回	応用練習	応用練習をする。
第9回	アウトドアについての表現	自然現象や天候に関連する表現、禁止表現を練習する。
第10回	診察についての表現	体調や病気の症状に関連する表現、受け身表現を練習する。
第11回	写真撮影についての表現	別れの挨拶、使役表現を練習する。
第12回	応用練習	中検などの補足教材を使って聞き取り・会話練習をする。
第13回	応用練習	中検などの補足教材を使って聞き取り・会話練習をする。
第14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語2 ステップアップ編-』（朝日出版社、2013年）

【参考書】

中国語検定試験4級問題集

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（20%）とテスト（80%）。

積極的な授業への参加が評価の前提となり、3分の1の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

会話練習の時間をより多く設けること。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の変更があり得る。

日中・中日辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

中小企業政策論

工藤 悟志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済活動主体の大多数を占める中小企業の活性化は、多くの国で重要な政策課題のひとつとして認識されています。そうした中、戦後、日本の中小企業政策は、世界各国で高く評価される一方、現在のグローバルレベルでの急速な環境変化には対応が難しく、新たな方向性が模索されています。中小企業政策は誰に対してどのような利益をもたらすのか、今後どのようにあるべきか。その問いに答えるために、各時代の背景を考慮しつつ、各国の事例をもとにした複眼的な視点から議論します。

【到達目標】

学生各自がこれからの中小企業政策について考えるベースとなる知識を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第2回	中小企業政策とは何か？	中小企業政策の対象と主体、および日本における特徴
第3回	中小企業政策の歴史（1）	戦後の中小企業政策（中小企業庁の設置）
第4回	中小企業政策の歴史（2）	大企業中心の産業育成・保護政策
第5回	中小企業政策の歴史（3）	二重構造論をベースとした中小企業基本法の制定
第6回	中小企業政策の歴史（4）	1970、80年代における中小企業観の転換
第7回	中小企業政策の歴史（5）	新中小企業基本法の制定
第8回	新しい中小企業政策	ベンチャー支援とその実態
第9回	ゲスト講演	ゲストスピーカーによる講演
第10回	地域イノベーション政策	日本におけるクラスター政策の概況
第11回	シリコンバレーモデル	米国シリコンバレーの成功要因を探る
第12回	欧州の中小企業政策（1）	欧州連合の基本的考え方
第13回	欧州の中小企業政策（2）	欧州の中小企業政策について
第14回	その他の国の中小企業政策	中国、インド、アフリカなど新興国の中小企業政策を紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業政策に関する新聞・書籍・ニュースなどをチェックするように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト20%、期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

講義レジュメは、事前に授業支援システムに掲載する予定です。

【Outline and objectives】

Revitalizing the small and medium enterprises (SMEs), who account for the majority of economic actors, is recognized as one of the important policy challenges in many countries. In this context, Japan's SME policies after the WWII have been highly regarded until recently. However, new directions need to be explored as they are facing challenges responding to global level high velocity environment. In order to provide answers for questions includes "to whom and what kind of benefits that SME policy provides?" and "how the SME policy should be in the future?", this course will examine variety of cases of some countries through different viewpoints, carefully considering background in history.

MAN200EB

中小企業論

工藤 悟志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済の根幹を形成する「中小企業」に関して、既存研究では（1）資源制約があるがゆえに発展が妨げられているという「問題型」の議論、（2）小さいことによる発展性／優位性に着目した「貢献型」の議論がなされてきました。本講義では、こうした中小企業をめぐる二面性を意識しつつ、中小企業に関する諸理論を学習します。具体的には、（1）中小企業とは何か？（2）中小企業はなぜ企業規模が小さいために問題性と発展性／優位性を有しているのか？（3）中小企業の一形態であるベンチャー企業とは何か？というテーマで議論します。また、多摩で活躍する中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招き、実践的な中小企業経営について議論します。

【到達目標】

本講義では、企業規模が小さいことに起因する「問題性」と「発展性／優位性」を認識した上で、両者を包含した複眼的な視点から中小企業に対する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、おもに学習支援システムを通じたオンライン形式で授業を実施します。必要に応じて、リアルタイムのオンライン授業でディスカッションをおこないます。講義のパワーポイントを掲載し、理解を確認するリアクションペーパーの提出です。また、具体的な中小企業の経営について、調査・分析した結果をレポートとして提出してもらいます。（例年おこなっている多摩地域の中小企業経営者を招いた講義は、Zoom等を利用して数回開催する予定で、調整中です。）

授業開始日は、5月1日（金）です。（ガイダンスと第1回講義シラバス、課題を掲載予定）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第2回	中小企業とは？	中小企業の定義、法律・経済・経営的な意味について、および日本経済の発展過程における中小企業の役割
第3回	複眼的視点からの中小企業論	中小企業を捉える視座について
第4回	イノベーションと中小企業	独自の視点からイノベーション活動を行う中小企業を紹介
第5回	ベンチャー企業の経営	ベンチャー企業マネジメントの要点
第6回	産業集積と産業クラスター	産業集積と産業クラスターの要点
第7回	中小企業のケース（1）	中小企業のケース分析
第8回	中小企業のケース（2）	中小企業のケース分析
第9回	中小企業のケース（3）	中小企業のケース分析

第10回 中小企業のケース（4） 中小企業のケース分析

第11回 中小企業のケース（5） 中小企業のケース分析

第12回 中小企業のケース（6） 中小企業のケース分析

第13回 中小企業論のまとめ（1） 中小企業のケースの総括

第14回 中小企業論のまとめ（2） 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業／ベンチャー企業の経営者によって書かれた独自のマネジメント手法に関する書籍を講読してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト/リアクションペーパー提出50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

講義レジュメは、事前に授業支援システムに掲載する予定です。

【その他の重要事項】

第7回から6回計画していた「多摩の中小企業」のゲストスピーカーの講義は中止とします。いくつかの中小企業のケースを読み、経営分析、戦略分析等をレポートとして提出してもらいます。

【Outline and objectives】

Small and medium enterprises (SMEs) form the basis of Japanese economy. There are mainly two major arguments in the previous researches on SMEs. One is “Problem driven” which argues that SMEs having difficulties growing due to limited resources. The other is 2) “Contribution driven” that argues potential and advances because of its small scale business. This course deals with general theories on SME, keeping these two different arguments in mind. We will discuss on the subject of (1) What is small business? (2) Why do SMEs have problems and potentiality / advantages? (3) What is a venture company / business? Additionally, guest lecturers who are active around Tama area are invited to give lectures.

SOC300EC

調査研究法B

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査の基本的な意味と現実社会におけるその意義や役割を認識させたい。質的社会調査を主とする社会調査の方法を、国内外における質的社会調査の実例を極力具体的に提示しながら、実践的に習得させることを目的とする。

【到達目標】

環境社会学と地域社会学の分野で多用されるフィールドワークや参与観察、半構造化インタビューといった手法、その方法論と実際、可能性と限界について、体系的かつ実践的に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

質的調査の方法に関する入門的著作、質的調査の成果として評価されている国内外の古典的著作等をテキストとして講義を進め、講義の節目ごとにテキストの精読とレポートも課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	総論：講義の目的と構成	講義全体の序論と到達目標、授業の進め方の概説
2 回目	質的調査法とは何か：その全体像と手法	質的／量的調査（データ）の対比、データの収集と分析、仮説の形成と検証、分析から報告書執筆まで
3 回目	先行研究に学ぶ（1）	地域社会学（農村社会学・都市社会学）および環境社会学における質的調査法の展開；今、地域社会調査の遺産をどう活用すべきか？
4 回目	先行研究に学ぶ（2）	地域・環境社会学における質的調査；その学問的成果と政策研究への貢献可能性、フィールドワークの重要性
5 回目	質的調査の手法（1）	課題設定と諸調査法；課題と方法の適合性、「正しい問い」とは何か、様々な方法論の存在とトライアングル・エレクション
6 回目	質的調査の手法（2）	どのようにフィールドに接近するか／フィールドの選定とその入り方、フィールドの構築、調査倫理と調査者の行動原則
7 回目	質的調査の手法（3）	参与観察法とは何か；方法論の特徴、「参与」観察者と参与「観察者」、フィールドノートの作成、フィールドでの作法
8 回目	質的調査の手法（4）	構造化／半構造化インタビュー；インタビュー・データの可能性と限界、対象の選定、質問項目、インタビューの取り方、聞きたいこと／聞けること、記録とコーディング
9 回目	質的調査の手法（5）	資料の収集方法と分析；言葉と視覚、史料の重要性、視覚データの重要性、方法と技術、定性／定量、データベースの作成手法

10 回目	質的調査の手法（6）	ドキュメント分析；ドキュメントの解読力、年表等一覧表のもたらす展望、内容と形式、他のデータとの相補性
11 回目	質的データ分析の諸相	コード化、カテゴリー化、文章のデータ化、KJ法の可能性と限界、「ぶ厚い記述」の可能性
12 回目	質的調査の実際（1）	地域調査対象の選択、調査者の位置取りとインタビュー、感性と倫理
13 回目	質的調査の実際（2）	自治体の政策調査；対象の選択、職務と調査、制度と運用のズレ、組織と「人」への着目、住民との関係
14 回目	質的調査に基づく報告書・論文執筆の作法	報告書・論文作成の全体像、分析の流れと注意点、執筆と形式上の注意、推敲過程の重要性、プライバシーと典拠示の制限

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定したテキストの精読、2時間の予習、2時間の復習を要する。

【テキスト（教科書）】

佐藤健二・山田一成編著,2009『社会調査論』（八千代出版）、佐藤郁哉,2012『フィールドワーク・増訂版』（新曜社）、大谷信介他編著,2005『社会調査へのアプローチ（第2版）』（ミネルヴァ書房）

【参考書】

柳田國男『都市と農村』（岩波文庫,2017）、宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫,2007）、日本村落研究学会編『むらの社会を研究する』（農山漁村文化協会,2006年）→池田寛二「開発と環境」

【成績評価の方法と基準】

平常点 15%, テキスト講読力 20%, 提出物（論文・レポートなど）60%, 出席回数 5%

【学生の意見等からの気づき】

社会調査法の修得は4年次の卒業論文にも役立つと好評です。

【その他の重要事項】

4月初旬に実施する政策研究実習ガイダンスに出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make students aware of the basic meaning of social research and its significance and role in the real world, while presenting examples of qualitative social surveys as concretely as possible, and to practically acquire methods of social research, mainly qualitative social surveys.

SOC300EC

調査研究法B

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査方法を学ぶ

【到達目標】

調査方法に関する知識を学ぶと同時に、その知識を使って、自ら調査を実施できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は4月22日よりzoomを利用して講義を開始します。講義方法については、学習支援システム上に明示するとともに、classroomを設定し、教材の共有、議論の場を提供します。フィールドワークを通しての資料収集、分析は都市社会学領域におけるシカゴ学派などの古典的調査研究から現代の都市地域社会を対象とする外国人居住調査まで幅広く用いられてきた調査手法である。これら既往研究の質的調査方法について、本講義では、できる限り原点における方法と課題とを現実の調査フィールドとの関係において、総合的な視点から論じていく。こうした作業を通じて、データの収集方法（観察、インタビュー、参与観察）ならびに分析方法について、それぞれの特徴と問題点を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の概要と進め方の説明	調査方法上の特徴について説明する。
2	都市社会学における研究上の方法と課題（シカゴ・シリーズの概説）	都市地域調査をとりあげ、具体的ないかなる調査がおこなわれてきたのかを文献から学ぶ。
3	都市社会学における研究上の方法と課題	日本の代表的な質的調査法の概説
4	都市社会学における質的分析法（1）	課題設定と調査方法
5	都市社会学における質的分析法（2）	フィールドへの入り方
6	都市社会学における質的分析法（3）	参与観察
7	都市社会学における質的分析法（4）	フォーマル/インフォーマル・インタビュー
8	都市社会学における質的分析法（5）	視覚データの収集方法と分析
9	都市社会学における質的分析法（6）	データのコード化、カテゴリー化、文章化
10	都市社会学における資料分析の方法	ドキュメントの活用と分析
11	事例研究（1）	外国人居住調査の分析方法
12	事例研究（2）	外国人政策（国、市町村レベル）の分析方法
13	エスニック研究の分析方法	『ストリート・ワイズ』から学ぶこと
14	質的研究	分析から理論へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で指定された参考文献を読み、必要な作業をこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、必要な資料はコピーで配布する。

【参考書】

- ウヴェ・フリック著小田他訳『質的研究入門』春秋社、2002年。
- 箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房、1998年。
- 箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際Ⅱ分析・解釈編』ミネルヴァ書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出（20%）、講義中に指示する資料収集などの成果（30%）および期末のレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は社会調査実習（田嶋担当）とセットで受講することになっている。受講希望者は事前に担当教員に受講希望を伝え、許諾を受けること。

【Outline and objectives】

Students will study qualitative research methods.

SOC300EC

調査研究法 B

樋口 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、質的データの収集と分析方法を概説することである。インタビュー、参与観察、ライフヒストリー分析といった手法を取り上げ、質的調査の方法論、その可能性と限界について体系的に講義する。さらに、実習を念頭に置き、テーマに沿ったテキストの購読を行い、実際の分析事例を検討する。

【到達目標】

①質的調査の意義と分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義および日本語文献講読

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	「調査研究法 B」と実習の関係
2	質的調査の意義①	社会理論と社会調査
3	質的調査の意義②	量的調査と質的調査
4	質的調査の手法①	インタビュー
5	質的調査の手法②	参与観察
6	質的調査の手法③	ライフヒストリー分析
7	質的調査の手法④	資料収集
8	質的調査の事例検討①	先行研究の購読
9	質的調査の事例検討②	先行研究の購読
10	質的調査の事例検討③	先行研究の購読
11	質的調査の事例検討④	先行研究の購読
12	質的調査の実際①	フィールドへの接近方法
13	質的調査の実際②	調査結果の公開
14	質的調査の実際③	調査における倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①日本語文献を事前に読む。
②本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ティム・メイ、2005、『社会調査の考え方』世界思想社。
谷富夫編、2008、『新版ライフヒストリーを学ぶ人のために』世界思想社。
佐藤郁哉、2002、『実践フィールドワーク入門』有斐閣。
※ただし、開講後の指示があるまで、テキストは購入しないこと。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【その他の重要事項】

- ①4月初旬に開催される「社会調査実習／政策研究実習ガイダンス」に出席して、担当教員の指示を受けること。
②この授業は社会調査士資格 F 科目に該当する。
③この授業は、同じ担当教員の「社会調査実習／政策研究実習」とセットで履修しなければならない。

【Outline and objectives】

The lecture on qualitative social research

LANk100EA

朝鮮語初級 A

荻野 優子、李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を初歩から学習します。
まず朝鮮語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいきます。

【到達目標】

朝鮮語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙約 300 語を習得すること、基本的な文法をマスターすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション、第 1 課	基本母音字
第 2 週	第 2 課	子音字 (1)
第 3 週	第 3 課、第 4 課	子音字 (2)
第 4 週	第 5 課、コラム	7 つの終声、漢字語と漢字音その 1
第 5 週	第 6 課、第 7 課	用言の「ですます」形、激音
第 6 週	第 8 課、第 9 課	合成母音字、濃音
第 7 週	まとめ	総復習 (1)
第 8 週	第 10 課、コラム	連音化、文字の順序と名称
第 9 週	第 11 課、第 12 課	疑問形と否定形、平音の濃音化 (1)
第 10 週	第 12 課、第 13 課	平音の濃音化 (2)、日本語のハングル表記 (1)
第 11 週	第 13 課、第 14 課	日本語のハングル表記 (2)、激音化
第 12 週	第 14 課、第 15 課	鼻音化、口蓋音化、子音語幹用言 (1)
第 13 週	第 15 課、コラム	子音語幹用言 (2)、外来語と外国地名
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。今学期は、日頃の課題の提出状況と中間課題および期末課題の評価、小テスト等を行い、それぞれの総合点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については学生によって、早すぎる、遅いと、その見解はわかれますが、授業がある程度進んだ段階ごとに調節を図っていくようにします。

【Outline and objectives】

In the spring course, you will study Korean from the beginning.

On the first phase, let's learn Korean characters and pronunciation precisely to acquire basic grammar.

LANk100EA

朝鮮語初級A

荻野 優子、李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を初歩から学習します。
まず朝鮮語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいきます。

【到達目標】

朝鮮語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙約 300 語を習得すること、基本的な文法をマスターすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション、第 1 課	基本母音字
第 2 週	第 2 課	子音字 (1)
第 3 週	第 3 課、第 4 課	子音字 (2)
第 4 週	第 5 課、コラム	7 つの終声、漢字語と漢字音その 1
第 5 週	第 6 課、第 7 課	用言の「ですます」形、激音
第 6 週	第 8 課、第 9 課	合成母音字、濃音
第 7 週	まとめ	総復習 (1)
第 8 週	第 10 課、コラム	連音化、文字の順序と名称
第 9 週	第 11 課、第 12 課	疑問形と否定形、平音の濃音化 (1)
第 10 週	第 12 課、第 13 課	平音の濃音化 (2)、日本語のハングル表記 (1)
第 11 週	第 13 課、第 14 課	日本語のハングル表記 (2)、激音化
第 12 週	第 14 課、第 15 課	鼻音化、口蓋音化、子音語幹用言 (1)
第 13 週	第 15 課、コラム	子音語幹用言 (2)、外来語と外国地名
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。今学期は、日頃の課題の提出状況と中間課題および期末課題の評価、小テスト等を行い、それぞれの総合点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については学生によって、早すぎる、遅いと、その見解はわかれますが、授業がある程度進んだ段階ごとに調節を図っていくようにします。

【Outline and objectives】

In the spring course, you will study Korean from the beginning.
On the first phase, let's learn Korean characters and pronunciation precisely to acquire basic grammar.

LANk100EA

朝鮮語初級B

荻野 優子、李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語の基本的な文法を学習します。
教科書の本文は対話形式の会話文になり、文体も実際の会話で多く用いられ、親しみのあるへヨ体という文体が出てきます。実際の会話でよく使う表現を学びます。

【到達目標】

基本的な文法と語彙約 100 語をさらに習得し、簡単な文の読み書きができ、作文練習を通して語彙や文法がしっかり身につくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。

春学期同様、授業に出席するだけでなく、宿題や小テストの準備などを通して復習もきちんとするようにしてください。ほぼ毎回の授業で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	第 17 課	動詞の進行形と連体形
第 2 週	第 18 課	固有数字とその単位
第 3 週	第 19 課	過去形その 1
第 4 週	第 20 課	過去形その 2
第 5 週	第 21 課	あいさつと尊敬形
第 6 週	第 22 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基
第 7 週	まとめ、第 23 課	総復習 (1)、形容詞ともうひとつの否定形 (1)
第 8 週	第 23 課、第 24 課	形容詞ともうひとつの否定形 (2)、命令形と意思形 (1)
第 9 週	第 24 課、第 25 課	命令形と意思形 (2)、リウル語幹用言 (1)
第 10 週	第 25 課、第 26 課	リウル語幹用言 (2)、形容詞の連体形 (1)
第 11 週	第 26 課、第 27 課	形容詞の連体形 (2)、希望をあらわす (1)
第 12 週	第 27 課、第 28 課	希望をあらわす (2)、勧誘をあらわす (1)
第 13 週	第 28 課、第 29 課	勧誘をあらわす (2)、パンマルとへヨ体
第 14 週	試験・まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、小テスト等 20 %
評価基準：各教員の成績の素点を合計し、双方が同一の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期授業では、テキストに食べ物や生活習慣に関する記載もあるので、学生の知的興味を喚起するよう、朝鮮・韓国の歴史や文化、社会、生活、慣習などを折に触れて紹介していきます。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will study basic Korean grammar.
Sentences in the text will be advanced to interactive dialogue. Styles in the text are used in practical conversation, including 'haeyo' body which are familiar for you. You will learn common expressions in practical conversation.

LANk100EA

朝鮮語初級 B

荻野 優子、李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語の基本的な文法を学習します。教科書の本文是对話形式の会話文になり、文体も実際の会話で多く用いられ、親しみのあるヘヨ体という文体が出てきます。

【到達目標】

基本的な文法と語彙約 100 語をさらに習得し、簡単な文の読み書きができ、作文練習を通して語彙や文法がしっかり身につくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。

春学期同様、授業に出席するだけでなく、宿題や小テストの準備などを通して復習もきちんとするようにしてください。ほぼ毎回の授業で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	第 17 課	動詞の進行形と連体形
第 2 週	第 18 課	固有数字とその単位
第 3 週	第 19 課	過去形その 1
第 4 週	第 20 課	過去形その 2
第 5 週	第 21 課	あいさつと尊敬形
第 6 週	第 22 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基
第 7 週	まとめ、第 23 課	総復習 (1)、形容詞ともうひとつの否定形 (1)
第 8 週	第 23 課、第 24 課	形容詞ともうひとつの否定形 (2)、命令形と意思形 (1)
第 9 週	第 24 課、第 25 課	命令形と意思形 (2)、リウル語幹用言 (1)
第 10 週	第 25 課、第 26 課	リウル語幹用言 (2)、形容詞の連体形 (1)
第 11 週	第 26 課、第 27 課	形容詞の連体形 (2)、希望をあらわす (1)
第 12 週	第 27 課、第 28 課	希望をあらわす (2)、勧誘をあらわす (1)
第 13 週	第 28 課、第 29 課	勧誘をあらわす (2) パンマルとヘヨ体
第 14 週	試験・まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、小テスト等 20 %
評価基準：各教員の成績の素点を合計し、双方が同一の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期授業では、テキストに食べ物や生活習慣に関する記載もあるので、学生の知的興味を喚起するよう、朝鮮・韓国の歴史や文化、社会、生活、慣習などを折に触れて紹介していきます。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will study basic Korean grammar. Sentences in the text will be advanced to interactive dialogue. Styles in the text are used in practical conversation, including 'haeyo' body which are familiar for you. You will learn common expressions in practical conversation.

LANk200EA

朝鮮語中級 1

荻野 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法事項、語彙、作文、聞き取り、読解の能力向上を図り、総合的な実力の向上を目指します。

【到達目標】

初級で勉強したことを復習しつつ、さらに踏み込んだ文法理解、語彙力の強化、作文の書き方、聞き取り、読解問題などができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1 課 留学に行きたいと思っています (1)	・希望の表現 ・連体形
2	1 課 留学に行きたいと思っています (2)	・練習問題 ・連体形+コッ ・「～していた～」 ・類似表現の比較
3	2 課 私はソウルに住んでいる (1)	・書き言葉の文体、ハンダ体
4	2 課 私はソウルに住んでいる (2)	・練習問題 ・へ体
5	3 課 ドラマがお好きなんですって? (1)	・引用の表現
6	3 課 ドラマがお好きなんですって? (2)	・練習問題 ・平叙形の引用 ・疑問形・勧誘形・命令形の引用 ・引用連体形
7	4 課 ちょっと教えていただけますか (1)	・依頼の表現
8	4 課 ちょっと教えていただけますか (2)	・授受表現 ・シオッ変格用言
9	5 課 一緒に買い物に行きましょう (1)	・練習問題 ・許可の表現 ・接続形
10	5 課 一緒に買い物に行きましょう (2)	・練習問題 ・過去の事柄や話し手の意志、推量の理由づけ
11	韓国映画など視聴 (1)	単語、表現などを確認してから視聴する (1)
12	韓国映画など視聴 (2)	単語、表現などを確認してから視聴する (2)
13	まとめ	・総復習
14	試験・まとめと解説	1 課～5 課の範囲で実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学習した語彙、文法事項が身につくよう努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野間秀樹・金珍娥・高植旭著『はばたけ！ 韓国語 2 初中級編』朝日出版社

【参考書】

授業の中で必要な参考書や辞書について言及します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更します。今学期は、日頃の課題の提出状況と期末課題の評価、小テスト等を行い、それぞれの総合点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解しやすい授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

The intermediate course aims to improve your comprehensive ability, consisting of grammar items, vocabulary, composition, listening comprehension, reading comprehension skills.

LANk200EA

朝鮮語中級2

李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級レベルの朝鮮語を学ぶ。文章を読む力をつける。

【到達目標】

ハングル能力検定4級・3級の文法と単語をベースとした、身近で実践的な文章を理解できるようにする。
朝鮮語で書かれた文章の読解に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室での通常授業に復帰できるまでは、学習支援システムを通じてオンライン授業を行います。授業の開始日は5月8日です。この日までに授業の進め方等について「学習支援システム」に提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業ガイダンス、復習
第2回	第1課	学校生活（前半）
第3回	第1課	学校生活（後半）
第4回	第2課	アルバイト（前半）
第5回	第2課	アルバイト（後半）
第6回	第3課	私の一日（前半）
第7回	第3課	私の一日（後半）
第8回	第4課	プレゼント（前半）
第9回	第4課	プレゼント（後半）
第10回	第5課	風邪（前半）
第11回	第5課	風邪（後半）
第12回	第6課	休日（前半）
第13回	第6課	休日（後半）
第14回	まとめ	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金京子『読んでみよう韓国語 中級読解コース』白水社、2018年

【参考書】

小学館/韓国・金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館、1993）等

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講にともない成績評価の方法と基準も変更します。詳細は授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

語学の範囲にとどまらない情報の伝達を心がけます。

【Outline and objectives】

Intermediate Korean. This course focuses on reading skills.

LANk200EA

朝鮮語中級3

荻野 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で勉強した内容を踏まえつつ、文法事項、語彙、作文、聞き取り、読解の能力向上を図り、総合的な実力の向上を目指します。

【到達目標】

春学期で勉強したことを復習し、さらに踏み込んだ文法理解、語彙力の強化、作文の書き方、聞き取り、読解問題などができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めていき、春学期のレベルから徐々にレベルアップを図っていきます。物語や童話、新聞記事など、ある程度長い文章も読んでいきます。また、会話でよく使う話し言葉の表現なども実際に口に出して練習する時間を取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	6課 旅に出る(1)	・提案の表現 ・受け身(1)
2	6課 旅に出る(2)	・当為の表現 ・練習問題
3	7課 送別会(1)	・後悔と反省の表現 ・帰結、「するようになる」
4	7課 送別会(2)	・使役 ・印象描写、「～するみたいだ」
5	7課 送別会(3)	・練習問題 ・接続形
6	8課 訓民正音が創る知的世界(1)	・書き言葉の文章を読む、「～的」 ・結果状態の継続、「～している」
7	8課 訓民正音が創る知的世界(2)	・練習問題
8	8課 訓民正音が創る知的世界(3)	・まとめ ・応用練習
9	韓国映画など視聴(1)	単語、表現などを確認してから視聴する(1)
10	韓国映画など視聴(2)	単語、表現などを確認してから視聴する(2)
11	9課 朝鮮の文学者たちと日本語(1)	・書き言葉の文章を読む、受け身(2)
12	9課 朝鮮の文学者たちと日本語(2)	・練習問題
13	9課 朝鮮の文学者たちと日本語(3)	・まとめ ・応用練習
14	試験・まとめと解説	6課～9課の範囲で実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学習した語彙、文法事項が身につくよう努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野間秀樹・金珍娥・高権旭著『はばたけ！韓国語2初中級編』朝日出版社

【参考書】

授業の中で必要な参考書や辞書について言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(出席、授業態度など)：20%
課題、小テストなど：20%
中間試験、期末試験：60%
出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解しやすい授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

The intermediate course aims to improve your comprehensive ability, consisting of grammar items, vocabulary, composition, listening comprehension, reading comprehension skills.

LANk200EA

朝鮮語中級 4

李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級レベルの朝鮮語を学ぶ。文章を読む力をつける。

【到達目標】

ハングル能力検定 4 級・3 級の文法と単語をベースとした、身近で実践的な文章を理解できるようにする。
朝鮮語で書かれた文章の読解に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って学びつつ、教科書とは別に朝鮮語資料も読んでいきます。資料はこちらで用意します。資料の難易度は教科書より上と考えて下さい。課題も出します。文章を読んでいきますので辞書を用意して下さい。詳細は初めに説明します。

春学期（朝鮮語中級 2）との継続で履修する方がより理解がすすみますので、春秋通じての履修をおすすめします。

授業計画は進捗状況により若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンス、復習
第 2 回	第 7 課	夏休み（前半）
第 3 回	第 7 課	夏休み（後半）
第 4 回	第 8 課	趣味（前半）
第 5 回	第 8 課	趣味（後半）
第 6 回	第 9 課	大学祭（前半）
第 7 回	第 9 課	大学祭（後半）
第 8 回	第 10 課	仕事（前半）
第 9 回	第 10 課	仕事（後半）
第 10 回	第 11 課	日記（前半）
第 11 回	第 11 課	日記（後半）
第 12 回	第 12 課	外国語の勉強（前半）
第 13 回	第 12 課	外国語の勉強（後半）
第 14 回	まとめ	復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金京子『読んでみよう韓国語 中級読解コース』白水社、2018 年

【参考書】

小学館／韓国・金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館、1993）等

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、課題等 60 %

【学生の意見等からの気づき】

語学の範囲にとどまらない情報の伝達

【Outline and objectives】

Intermediate Korean. This course focuses on reading skills.

GEO100CA

地理学 I

朴 侗玄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、教員の講義と授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。緊急事態宣言の影響で、教室での対面式授業が行えない間は、学習支援システムを活用し、資料配信形のオンライン授業を進める。学習支援システムで授業が開始される日は 4 月 23 日である。発表やレポート提出内容に関する資料は学習支援システムで授業日に示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
2	大都市圏と地域区分の意義	都市をめぐるさまざまな概念を用いて、都市のテリトリーと地域区分の意義を学習する。
3	複写機メーカーの販売ネットワークの空間構造	経済・経営組織は、空間構造をどのように活用しているのかを学習する。事例として、大手複写機メーカーの販売ネットワーク事例に空間構造を学習する。
4	企業の支店配置の原理と地理学	大手複写機メーカーの販売ネットワークを用いて、地域区分や支店・営業所配置の原理を学習する。
5	買い物行動圏の地理学	東京大都市圏における消費者の買い物行動を用いて、商圏と地域区分を学習する。
6	日本の国土構造の変遷	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、日本の国土構造の特徴を解説する。
7	地域政策と国土構造	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、国土政策の特徴を解説する。
8	日本の地域構造の特徴	統計データに基づいて、日本の国土構造の特徴を学習する。
9	中枢管理機能	中枢管理機能の概念を用いて、中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
10	企業行動の空間構造	経済的中枢管理機能を用いて、経済的中枢管理機能からみた日本の都市階層を学習する。

11	支社配置と広域中心都市	日本の主要企業の支社配置を用いて、日本の国家的都市システムにおける広域中心都市の位置づけを学習する。
12	支社立地と日本の国土構造	企業の支社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
13	本社配置と日本の国土構造	企業の本社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
14	地理学の応用と課題	地理学で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

レポート(10%)、小テスト(35%)、平常点(5%)、定期試験(50%)などにより総合的に評価する。また、緊急事態宣言の影響で、資料配信形のオンライン授業を行う間は、毎週、小テスト、レポートや課題提出によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

GEO100CA

地理学Ⅱ

朴 侗玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学のモデル—都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地带モデル	多核心モデルと三地带モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	企業の海外進出行動と地理学 1	企業地理学について解説し、日本企業の海外進出の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。

- 14 地理学の応用と課題 応用地理学と地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

レポート (10%)、小テスト (35%)、平常点 (5%)、定期試験 (50%) などにより総合的に評価する。また、緊急事態宣言の影響で、資料配信形のオンライン授業を行う間は、毎週、小テスト、レポートや課題提出によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned, In addition, geographic analytical skills as well as geographic theory will be acquired.

FRI300ED

デジタル情報環境実習

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・プランニング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザイン思考」の視点と方法に基づきつつ、ウェブサービスやモバイルアプリの企画立案を行います（この授業で取り組むのはアプリの画面構成などを中心としたプロトタイプ制作までで、プログラミングは行いません）。エスノグラフィックな方法を中心とした生活者調査を行い、その知見に基づいて、独自のアイデアを導き出します。

【到達目標】

「デザイン思考」の視点と方法に基づいたプランニングの能力を身につけることを最終的な到達目標とします。同時に、ウェブやモバイルを中心としたデジタル情報環境について、ユーザーの視点から新たなデザイン提案をする能力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行われる一部の回を除いて、すべてグループワークの実習形式で行います。また、授業内で半期に 2 回程度のプレゼンテーションが課されます。調査、企画立案の進捗の度合いによって、スケジュールが変わることがあります。

2020/4/20 追記

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。この授業は、zoom（web 会議サービス）を活用したりリアルタイムの授業実施を予定しています。本授業の開始日は 4 月 23 日の 3 限の時間帯とします。詳細（web 会議の URL など）については、当日の朝までに、学習支援システムでお知らせします。なお、wifi などの環境が整わず、zoom への参加が不可能な受講生については、個別相談の上、別途方法を考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の目標／課題の設定について
2	視座と方法（1）	デザイン思考（Design Thinking）の思想と展開
3	視座と方法（2）	人々のふるまいを見るとき～行動観察とデザイン
4	視座と方法（3）	行動観察のシミュレーション
5	調査（1）	自分達のメディア利用行動を振り返る
6	調査（2）	行動観察調査の設計とデータ記録の方法
7	調査（3）	調査の知見の検討～魅力的な仮説を作り出す
8	調査（4）	調査の知見の検討～仮説をブラッシュアップする
9	調査（5）	調査結果のプレゼンテーション
10	プロトタイピング（1）	アイデア出しとペーパープロトタイピング
11	プロトタイピング（2）	プロトタイプの作成
12	プロトタイピング（3）	ペルソナシナリオの作成
13	プロトタイピング（4）	プロトタイプの修正
14	最終プレゼンテーション	企画案のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査・制作の作業の多くはグループごとに課外の時間を使って行うこととなります。さらに、企画の段階でも必要に応じてグループでの作業が相当程度必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。参考書の中から適宜必要な文献を紹介していきます。

【参考書】

ドミニク・チェン（2015）『脳のレリギオ:ビッグデータ社会で心をつくる』NTT 出版

トム・ケリー&ジョナサン・リットマン（2002）『発想する会社—世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房

岩崎博論（2016）『機会発見—生活者起点で市場をつくる』英治出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、各期の最終課題 50 %

2020/4/20 追記

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準については、学習支援システムで配布する初回の授業資料で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが軌道に乗るまでにはコミュニケーションの上で色々な難しさもありますが、その点についても適宜指導していきます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業でノートパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

・グループワークで作業が進みますので、チームでの作業を好まない人、出席に自信のない人は履修を避けて下さい（原則としてすべての回に出席するつもりのある学生のみ履修して下さい）。

・2017年度以前入学者については、この科目は通年科目（ウェブ・プランニング実習）となっています。このシラバスは春学期の内容となりますので、秋学期の内容については「特講（デジタル情報環境実習）」のシラバスを確認して下さい。2018年度以降入学者は、この科目に加えて、秋学期に「特講（デジタル情報環境実習）」もセットで履修することが可能です（必須ではありません）。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge to design the user experience of digital media. It also enhances the development of students' skill in ethnographic research of digital media use.

FRI200ED

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、メディアの仕組みそのものの分析（アーキテクチャ分析）、メディアをめぐる人やモノや空間の分析（布置連関の分析）などについて学び、さらに UX デザイン（User Experience Design）の領域で活用されるいくつかのユーザー調査の技法についても学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の布置連関の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論と調査法を具体的な事例と共に学んでいきます。各セクションの終了時には、課題として「分析レポート」が課されます。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析	アーキテクチャとは何か？
3	アーキテクチャの分析	検索エンジンのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析	ソーシャルメディアのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析	動画共有サイトのアーキテクチャ
6	人・モノ・空間の布置	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の布置	デジタルメディアのエコシステム
8	人・モノ・空間の布置	連関の分析（1）
9	人・モノ・空間の布置	連関の分析（2）
10	人・モノ・空間の布置	連関の分析（3）
11	人・モノ・空間の布置	連関の分析（4）
12	ユーザー調査の方法	ユーザーエクスペリエンスとは何か？
13	ユーザー調査の方法	行動観察・エスノグラフィ
14	ユーザー調査の方法	経験サンプリング調査
15	ユーザー調査の方法	カスタマージャーニーマップ

14 全体のまとめ 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくとう理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

セクションごとに1回ずつ課される「分析レポート」（計3回）で評価する（100%）

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例をできるだけ数多く取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布を授業支援システムで行います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user of digital media technologies.

FRI200ED

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっています。こうした情報環境がいかに成立してきたのか（第一部：流動化する情報環境）、またそれが、私たちの意識や行動にどのように作用しているのか（第二部：個人化する情報環境）、そしてその将来をどのように構想できるのか（第三部：情報環境の再帰的な構想）を考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境がいかなる情報環境なのかを、身近な具体的事例を通じて社会的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解をもてるようになることが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的な構想」の三セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。2020/4/20 追記

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。この授業は、非同期の「資料配信型」で進めます。これにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで配布する初回の授業資料で提示します。本授業の開始日（＝最初の資料配信日）は4月24日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境 (1)	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境 (2)	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境 (3)	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境 (4)	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境 (1)	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境 (2)	ソーシャルメディアとつながり・情報行動の変容
8	個人化する情報環境 (3)	パーソナライズ化される広告とコンテンツ
9	個人化する情報環境 (4)	ユビキタス環境における「わたし」と「みんな」
10	情報環境の再帰的構想 (1)	「再帰的構想」とは何か？
11	情報環境の再帰的構想 (2)	多元的リアリティにどう向き合うか

- | | | |
|----|-------------------|-------------------------|
| 12 | 情報環境の再帰的構想
(3) | テクノロジー的生活形式にどう向
き合うか |
| 13 | 情報環境の再帰的構想
(4) | 経験の断片化・非同期化にどう向
き合うか |
| 14 | 全体のまとめ | 全体のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくとう理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）と期末試験（80%）によって評価する。

2020/4/20 追記

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準については、学習支援システムで配布する初回の授業資料で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例をできるだけ数多く取り上げる。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

PHL100EA

哲学 I

大橋 基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「善／悪」や「美／醜」など、私たちの「常識」を形成している諸概念の内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「私の在り方」を探る。

*授業の進行は予定通りとしますが、新型コロナウイルス対策で講義が中止される期間があるため、範囲を短縮することがあります。そうした変更点に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」で告知するので、随時、確認して下さい。なお、本講義の「授業開始日」は4月23日とします。

【到達目標】

私たちが普段何気なく用いている「日本文化」・「アイデンティティ」・「倫理規範」といった諸概念に関して、その特徴や歴史的由来を説明できる。現在の社会生活を方向づけている「服飾」・「性愛」・「虚言」に関する規範に関して、その利点と難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が授業支援システムからプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。

毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する。

*新型コロナウイルス対策で講義ができない期間は、学習課題を課すので、随時、「学習支援システム」の「お知らせ」を確認して下さい。なお、学習に必要な資料に関しては、4月21日以降、「学習支援システム」の「教材」で配布されます。なお、本講義の「授業開始日」は4月23日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	日本人にとっての「日本文化」とは？	和辻哲郎『風土』とベネディクト『菊と刀』
3	「自由意志」は西洋固有のものか？	デカルトの「自由意志」とアリストテレスの「政治的動物」の相違
4	「私」とは誰のことか？	法律上の「人格の同一性」と現実的な「自己同一性」の違い
5	「アイデンティティ」が成立する条件	ヘーゲルにおける「自己意識」と「相互承認」の関係
6	もろく曖昧な「善／悪」の境界線	「記憶の喪失」や「集団の狂気」は何をもたらすか？
7	「善悪の彼岸」から眺めた世界	ニーチェの「宗教批判」と「永遠回帰」の思想
8	お仕着せの「らしさ」への反抗	シャネルの「モード革命」とカントの「人間学」
9	高潔な「理性」と狡猾な「理性」	人間の本質は「善意志」（カント）か「生存本能」（ホップズ）か？
10	「恋愛」に見出された対照的な目的	「結婚の準備」（ヘーゲル）と「性欲の偽装」（ショーペンハウアー）
11	「結婚生活」の近未来像	ラッセルの「試験結婚」とフロムの「愛する技術」
12	「嘘も方便」ではいけないのか？	「処世術」や「必要悪」といった日常的な許容条件
13	「正直にしていること」の難しさ	カントの「定言命法」は今日でも通用するか？
14	「日本人」が「西洋哲学」を学ぶ意味	「日本文化」と「自由意志」は両立可能なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。授業支援システムから該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。

毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。

講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

*新型コロナウイルス対策で講義ができない期間は、各自、自宅学習となります。学習内容に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」で確認し、「教材」にアップされている「資料」を参照し、質問は「掲示板」に書き込んで下さい。なお、質問がプライバシーに関わる場合は、教員の個人用アドレス (motoi.ohashi@gmail.com) までメールを送信して下さい。

【テキスト（教科書）】

大橋 基『18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019年（3200円＋税）

*法政大学生協書籍部で通信販売を予定しています。

【参考書】

授業内に指示する。

*「学習支援システム」の「掲示板」での質問にも対応します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30% の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやEメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

*新型コロナウイルス対策で教室での試験ができない場合、レポートの提出によって評価します。それ以外にも、学習の習熟度を測るために「学習支援システム」を通じて小テストを（上記平常点に代わるものとして）実施する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the conflicts between the Japanese culture and the free will, 2. the difference between juridical person and self-identity recognized in our social life, 3. the disintegration of the social norm to distinguish between "good" and "evil", 4. the attempt to change the instituted standard of "beauty" and "ugliness", 5. the modernization of the relation of love and sexual desire, 6. the reason to prohibit a lie.

PHL200EA

哲学Ⅱ

大橋 基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの「常識」のなかに組み込まれている「生命」や「自然」をめぐる諸概念に関して、それらの内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「倫理的態度」を探る。

【到達目標】

医療技術の進歩に応じて生じた「病院死」・「生殖医療」・「臓器移植」といった事例を通して、「生／死」に関する「常識」の歴史の変遷と問題点を説明できる。

「自然支配」・「環境破壊」・「人命軽視」といった事例を通して、「人間」や「動植物」の「生命」に関する現代哲学の提言とその難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が授業支援システムからプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	「死に場所」としての「病院」	現代医療の「進歩」が要求した「死の処方」
3	「孤独死」は「不幸な死」なのか？	「死」にまつわる偏見とメイヨロフの「ケアの倫理」
4	「人格」と「ヒト」の境界線は存在するか？	シンガーによる「パーソン論」と「功利主義」の接合
5	「障害」を避けたいのは誰？	「大人の事情」に抗うデイドロの「病人」論
6	「再生医療」という「夢の技術」	遺伝子研究の壁を越えた iPS 細胞とその落とし穴
7	「テクノロジー」は自己増殖する	フッサールとハイデッガーによる「科学」と「技術」への警鐘
8	「名前」という呪縛	「自然保護」から「環境倫理」への転換
9	「ミート・イズ・マター」	シンガーの「種差別」批判とネスの「ディーブ・エコロジー」
10	未来は「ユートピア」か「ディストピア」か？	ライブニッツの「可能世界」とハイデッガーの「死の先駆的決意」
11	「親の因果が子に報い」を避けるには	シュレーダー＝フレチュートとヨーナス、それぞれの「世代間倫理」
12	なぜ「人」を殺してはいけないのか？	サルトルとレヴィナスが見出した「禁止理由」
13	価値観が対立しても「善／悪」は成り立つか？	ハーバーマスの「討議倫理学」の意義と限界
14	「現代社会」のなかで「西洋哲学」を学ぶ意味	激変する「世界」で「倫理的態度」を貫くことは可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。授業支援システムから該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大橋 基『18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019年（3200円＋税）

【参考書】

授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30% の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやEメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the forms of death in the modern society and the difficulty of "caring", 2. the grave situation of modern medicine resulted from the redefinition of "person", 3. the relations of a cloning technique and the human being existence, 4. the human responsibility for "nature" as the victim of the industrial society, 5. the our duty for "future generations" in consideration of the environmental destruction, 6. the reason to prohibit murder.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級 A 1・B 1

三浦 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

【到達目標】

50 行程度のもつたテキストを丁寧に読むことができる。

テキスト内容を理解したかどうかチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。

穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。

テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の日常生活や社会の仕組みを理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講とする。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始は 4 月 24 日とし、学習支援システムに最初の課題を提示するので、それにしたがって課題作成の上、提出することになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	ガイダンスのあと、動詞の現在人称変化と動詞の位置、人称代名詞の格変化を復習しながら、自己紹介する会話文を読む。
2	地理と気候	冠詞の格変化に注意しながら、ドイツ語圏の位置と気候についての文章を読む。
3	食生活	前置詞に注意しながら、ドイツの代表的な料理と飲み物についての文章を読む。
4	ドイツ語という言葉	ドイツ語という言葉の系統を知るために、解説文を読む。
5	ドイツ語圏の偉人たち	ベスタロツィやマックス・ヴェーバーなどについての文章を読む。
6	ドイツの大学	ドイツの大学と学生たちの現状を概観する文章を読む。
7	話法の助動詞	話法の助動詞について復習しながら、与えられた語を使って文を作る練習をする。
8	祝日と休暇	主な祝日について概観し、余暇の過ごしたかについての文章を読む。
9	形容詞の付加語適用法と名詞化	形容詞の格変化を復習し、変化語尾を補いながら、練習問題の文を読む。
10	ドイツの治安事情	ドイツの治安と市民感情についての文章を読む。

- | | | |
|----|-----------|---|
| 11 | 形容詞の比較表現 | 形容詞を比較級・最上級にしなが
ら、ヨーロッパや日本の治安に関
する文を読む。 |
| 12 | 教育制度 | ドイツの教育制度とその特色につ
いての文章を読む。 |
| 13 | 分離動詞と再帰動詞 | 与えられた分離動詞や再帰動詞を
使って、教育や学校についての文
を作る。 |
| 14 | 期末試験 | 試験、まとめと解説を行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。
授業後、正答が出せなかった箇所重点を置きながら、全般につい
て確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「知りたいドイツ語～読みながらステップアップ」、Siegfried
Kohlhammer・Taro Saito 著、朝日出版社、2018 年、本体 2300 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとも
ない、成績評価の方法と基準も変更する。
成績の内訳は、平常点（複数回の課題提出における学習状況、参加
度）70%、期末の課題 30%とする。
力をつけるには日ごろの努力が欠かせないので、提出課題に見る不
断の学習状況を平常点で評価し、読解力がどの程度アップしたかを
期末の提出物で確かめる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts
on Germany and become more familiar with actualities in
Germany and Europe.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級 A 2・B 2

マルクス グラスミュック

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取り
の練習をする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこ
ちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 3 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 4 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 5 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 6 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 7 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 8 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 9 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 10 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 11 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 12 回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第 13 回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習
時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 薬谷郁美 (執筆協力: 太
田達也, Marco Raindl) (2006): 『Modelle 3 (問題発見のドイツ語 3)』三
修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である (授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A3・B3

マルクス グラスミュック

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の読書と作文

【到達目標】

実際の文章にふれ、読む力と書く力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では言語学習における2つの重要なスキルである「読む」と「書く」を組み合わせて扱います。毎週、授業ではドイツのさまざまなアクチュアルなテーマに関するテキストを読みます。そして、自宅での学習でそれについての意見やコメントを書きます。教員はその作文を添削して、より良いドイツ語を書くにはどうしたらよいかについて、アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Einführung	オリエンテーション
第2回	Familie und Freunde	Freunde und Kollegen
第3回	Menschen und Orte	König Ludwig II.
第4回	Menschen und Orte	Drei berühmte Kaffeehäuser
第5回	Kleidung und Aussehen	Mode von fünf Generationen
第6回	Kleidung und Aussehen	Schönheiten aus Deutschland
第7回	Gesundheit	MEDIZIN? Ja, aber NATÜRLICH!
第8回	Gesundheit	Lachen ist gesund
第9回	Essen und Trinken	Unser tägliches Brot
第10回	Essen und Trinken	Sund die Deutschen Bierweltmeister?
第11回	Schule und Ausbildung	Als Gast Schüler in Deutschland
第12回	Schule und Ausbildung	Das duale Ausbildungssystem
第13回	Arbeit und Beruf	Sonntag: Ruhe- oder Werktag
第14回	Arbeit und Beruf	Was am Arbeitsplatz wichtig ist

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の具体的な内容についての簡単な文章の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Zwischendurch mal ... Landeskunde, Hueber

【参考書】

和独辞書が必要である。常に授業へ持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German reading and writing skills

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A4・B4

三浦 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

【到達目標】

50行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。

テキストの内容を理解したかどうかをチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。

穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。

テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の現状について、グローバルな視点から理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と音声教材を用いた演習形式。原則的に、講読するテキストは学生が分担して読んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	政治制度	ドイツと日本の議会制度の仕組みとその違いについての文章を読む。
2	受動態と zu 不定詞	与えられた語を用いて、受動の文や zu 不定詞を使った文を作る。
3	ドイツの歴史概観	ゲルマン民族移動以後、神聖ローマ帝国やフランス革命の影響を経て、ドイツ帝国成立、ナチス政権までの歴史について読む。
4	過去形と現在完了形	過去形と現在完了形を使って、2017年に至るまでのドイツの出来事を表す文を作る。
5	音楽の国ドイツ	ドイツにオーケストラ等の音楽機関が多い理由と公的支援に関する文章を読む。
6	副文	与えられた文を副文にして、ドイツと日本の日常生活を説明する文を作る。
7	ドイツに宗教事情	ルターによる宗教改革、プロテスタントとカトリック信者の分布、現在の宗教事情についての文章を読む。
8	関係代名詞	定関係代名詞と不定関係代名詞を使った文を訳していく。
9	二つのドイツ	1945年の全面降伏から1990年の再統一に至るまで、第二次大戦後のドイツ史について読む。
10	分詞の用法と冠飾句	現在分詞と過去分詞を形容詞として用いた文と、ジャーナリズムや文学作品の講読に欠かせない「冠飾句」について学ぶ。

- | | | |
|----|---------------|--|
| 11 | EU とドイツ | EU 成立の歴史とドイツが果たした役割についての文章を読む。 |
| 12 | 接続法 | 接続法第 1 式と 2 式の作り方と用法の関係を把握して、その用法になかった訳し方を学ぶ。 |
| 13 | ドイツの外国人、難民、移民 | 第 2 次大戦後の経済復興期から現在に至るまで、ドイツにやってきた人々の流れをたどる文章を読む。 |
| 14 | 期末試験 | 試験、まとめと解説を行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。
授業後、正答が出せなかった箇所を重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「知りたいドイツ語～読みながらステップアップ～」、Siegfried Kohlhammer・Taro Saito 著、朝日出版社、2018 年、本体 2300 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、期末試験 60%、平常点（授業での学習状況、参加度）40%とします。

読解力がどの程度アップしたかを期末試験で確かめますが、実力をつけるには日ごろの努力が欠かせませんから、予習を含めた不断の学習状況を平常点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級 A 5・B 5

マルクス グラスミュック

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Wiederholung	復習
第 2 回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第 3 回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第 4 回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第 5 回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第 6 回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現 ほか
第 7 回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現ほか
第 8 回	Der sechsjaeehrige Autofahrer	接続法 I 式 ほか
第 9 回	Der sechsjaeehrige Autofahrer	接続法 I 式 ほか
第 10 回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第 11 回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第 12 回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第 13 回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 薬谷郁美 (執筆協力: 太田達也, Marco Raindl) (2006): 『Modelle 3 (問題発見のドイツ語 3)』三修社

【参考書】

家で学習には独和辞典が必要である (授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A6・B6

マルクス グラスミュック

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の読書と作文

【到達目標】

実際の文章にふれ、読む力と書く力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では言語学習における2つの重要なスキルである「読む」と「書く」を組み合わせて扱います。

毎週、授業ではドイツのさまざまなアクチュアルなテーマに関するテキストを読みます。そして、自宅での学習でそれについての意見やコメントを書きます。教員はその作文を添削して、より

良いドイツ語を書くにはどうしたらよいかについて、アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Konsum	Die Deutschen und ihr Geld
第2回	Konsum	Geld im Alltag
第3回	Natur und Umwelt	Wind im Aufwind
第4回	Natur und Umwelt	Umweltpolitik in Deutschland
第5回	Reisen	Die Deutschen und ihr Urlaub
第6回	Reisen	Berlin
第7回	Verkehr	VW Golf
第8回	Verkehr	Frankfurt Airport
第9回	Freizeit und Sport	Wo engagieren sich Jugendliche in ihrer Freizeit
第10回	Freizeit und Sport	Eine Nation greift zum Schläger
第11回	Feste	Feste feiern - rund ums Jahr
第12回	Feste	Die fünfte Jahreszeit
第13回	Medien	Bravo, eine deutsche Jugendzeitschrift
第14回	Medien	Made in Germany

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業での具体的な内容についての簡単な文章の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Zwischendurch mal ... Landeskunde, Hueber

【参考書】

和独辞書が必要である。常に授業へ持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)
小テスト(30%)
期末試験(40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German reading and writing skills

LANd100EA

ドイツ語初級A

武藤 陽子、齋藤 萌

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。

基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。

簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日(水)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の概要、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化(1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめてまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化(2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の3格と4格、その語順、非人称のes
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験	前半の学習内容についての試験
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをその都度復習することが大事です。宿題として出される練習問題は復習の一環ともなりますので、しっかり取り組んでください。また、会話文や読解テキストは予習をしてください。

予習・復習時間はこの授業(2単位)では1回につき4時間以上が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』(朝日出版社)

初回授業までに準備しておいてください。

【参考書】

独和辞典(電子辞書でも可)を必ず授業に持参してください。独和辞典については授業のなかで指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。評価は、授業関連（宿題・参加意欲など）20%、小テスト（数回）20%、中間試験30%、期末試験30%の比重で配分します。

【学生の意見等からの気づき】

「ドイツ語は難しい」との声を学生からよく聞きますが、初期の段階で覚えなければならぬ文法事項を習得できていないため、授業についていけなくなるようです。この初期段階のつまづきをこまめにフォローしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

「初級A」の単位を取得するまで「初級B」の履修はできません。同様に、「初級B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級A

武藤 陽子、齋藤 萌

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の概要、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化(1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化(2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の3格と4格、その語順、非人称のes
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験	前半の学習内容についての試験
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをその都度復習することが大事です。宿題として出される練習問題は復習の一環ともなりますので、しっかり取り組んでください。また、会話文や読解テキストは予習をしてください。

予習・復習時間はこの授業（2単位）では1回につき4時間以上が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）
初回授業までに準備しておいてください。

【参考書】

独和辞典（電子辞書でも可）を必ず授業に持参してください。独和辞典については授業のなかで指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。評価は、授業関連（宿題・参加意欲など）20%、小テスト（数回）20%、中間試験30%、期末試験30%の比重で配分します。

【学生の意見等からの気づき】

「ドイツ語は難しい」との声を学生からよく聞きますが、初期の段階で覚えなければならぬ文法事項を習得できていないため、授業についていけなくなるようです。この初期段階のつまづきをこまめにフォローしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

「初級A」の単位を取得するまで「初級B」の履修はできません。同様に、「初級B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級A

本田 博之、布川 恭子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の概要、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験	前半の学習内容についての試験
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをそのつど復習し、練習問題に取り組み、会話文や読解テキストの予習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業にも持参してください）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間テストおよび期末テスト 70% + 平常点（授業態度および小テストを含める）30% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

辞書が重いのは承知していますが、語学の学習においては必要です。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級 A

本田 博之、布川 恭子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週 2 回開講し、2 人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の概要、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのビエール
17	中間試験	前半の学習内容についての試験
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをそのつど復習し、練習問題に取り組み、会話文や読解テキストの予習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』(朝日出版社)

【参考書】

独和辞典 (授業にも持参してください)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週 2 回の授業でセットで 2 人の担当教員の合議によって行います。中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点 (授業態度および小テストを含める) 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

辞書が重いのは承知していますが、語学の学習においては必要です。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級 A

脇田 淳、濱中 春

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週 2 回開講し、2 人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の概要、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何か
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのビュール
17	中間試験	前半の学習内容についての試験
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをそのつど復習し、練習問題に取り組み、会話文や読解テキストの予習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』(朝日出版社)

【参考書】

独和辞典（授業にも持参してください）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週 2 回の授業でセットで 2 人の担当教員の合議によって行います。中間・期末試験 (70 %) と平常点 (30 %) にもとづき評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントをしばったわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

武藤 陽子、齋藤 萌

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	語法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見てみたい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験	前半の学習内容についての試験
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge- をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをその都度復習することが大事です。宿題として出される練習問題は復習の一環ともなりますので、しっかり取り組んでください。また、会話文や読解テキストは予習をしてください。予習・復習時間はこの授業（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（電子辞書でも可）を授業に必ず持参してください。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週 2 回の授業でセットで 2 人の担当教員の合議によって行います。中間テスト 30%、期末テスト 30%、小テスト 20%、平常点（授業での学習状況、授業への参加度、）20% の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期では授業の理解度にばらつきが出やすいため、なるべく学生間の理解度に差がつかないように工夫をしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級 B

武藤 陽子、齋藤 萌

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週 2 回開講し、2 人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	語法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見てみたい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験	前半の学習内容についての試験
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをその都度復習することが大事です。宿題として出される練習問題は復習の一環ともなりますので、しっかり取り組んでください。また、会話文や読解テキストは予習をしてください。予習・復習時間はこの授業（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（電子辞書でも可）を授業に必ず持参してください。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週 2 回の授業でセットで 2 人の担当教員の合議によって行います。中間テスト 30%、期末テスト 30%、小テスト 20%、平常点（授業での学習状況、授業への参加度、）20%の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期では授業の理解度にばらつきが出やすいため、なるべく学生間の理解度に差がつかないように工夫をしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級 B

本田 博之、布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週 2 回開講し、2 人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	語法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見てみたい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験	前半の学習内容についての試験
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge- をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをそのつど復習し、練習問題に取り組み、会話文や読解テキストの予習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業にも持参してください）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週 2 回の授業でセットで 2 人の担当教員の合議によって行います。中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点（授業態度および小テストを含める）30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

辞書が重いのは承知していますが、語学の学習においては必要です。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

本田 博之、布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	語法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験	前半の学習内容についての試験
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge- をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをそのつど復習し、練習問題に取り組み、会話文や読解テキストの予習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業にも持参してください）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点（授業態度および小テストを含める）30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

辞書が重いのは承知していますが、語学の学習においては必要です。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

脇田 淳、濱中 春

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。

基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。

簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

【変更】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習①	初級 A の復習①
2	復習②	初級 A の復習②
3	Lektion 6 文法①	話法の助動詞
4	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
5	Lektion 6 文法③	分離動詞と非分離動詞
6	Lektion 6 会話	チケットを買う
7	Lektion 6 読解	リョウタ、コンサートへ行く
8	Lektion 7 文法①	形容詞の格語尾変化
9	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
10	Lektion 7 会話	料理を注文する
11	Lektion 7 読解	原発に代わるエネルギーを！
12	Lektion 8 文法①	動詞の 3 基本形
13	Lektion 8 文法②	現在完了形①
14	Lektion 8 文法③	現在完了形②
15	中間試験	前半の学習内容についての試験
16	Lektion 8 会話	過去の事柄を語る
17	Lektion 8 読解	世界文化遺産ヴァルトブルク城
18	Lektion 9 文法①	過去形
19	Lektion 9 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
20	Lektion 9 会話	過去の出来事を語る
21	Lektion 9 読解	ドイツ屈指の文化都市ヴァイマル
22	Lektion 10 文法①	zu 不定詞（句）
23	Lektion 10 文法②	関係代名詞
24	Lektion 10 会話	予定を言う
25	Lektion 10 読解	ケルンの水
26	文法の補足①	受動態①
27	文法の補足②	受動態②
28	期末試験	後半の学習内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだことをそのつど復習し、練習問題に取り組み、会話文と読解テキストの予習をする。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子他『アーマラン・エルエー』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業にも持参してください）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間・期末試験（70%）と平常点（30%）にもとづき評価します。

【変更】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントをしばったわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd200EA

ドイツ語中級 1

兼子 安弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文体が多少違う、ドイツ語で書かれたさまざまな記事、民話を読むことによって、文法的知識の補足とドイツの新聞や雑誌といったドイツ語のジャーナリスティックな文体を読みこなせる能力を身につける。接続法を筆頭とする難易度の高い文法事項の理解する。

【到達目標】

ドイツの雑誌 Spiegel や Zeit、さらにネット上のドイツ関連の記事を調べつづも、読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ジャーナリスティックな文体で書かれたテキストを読むことによって「慣れ」を身につける。授業ではあらかじめ次回進行する範囲を明示しておくので、受講者は全員、その範囲を予習（読みと対訳をする）しておき、当該授業で担当者が受講者の発表にコメントをする。ここまでの部分はコロナ禍のため、保留とする。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文法後半事項の復習、まず分離動詞を復習	去年時、学習した文法後半事項の復習
第 2 回	文法復習、和訳するさいの諸注意	ドイツ語と英語の表現上の差異を説明する
第 3 回	文法単元として、関係代名詞を復習	テキスト第一課のサッカーに関する記述
第 4 回	文法単元として、関係副詞を復習	テキスト第一課のサッカーに関する記述
第 5 回	文法単元の再確認、形容詞の名詞化を復習	テキスト第一課の練習問題に取り組む
第 6 回	文法単元の形容詞の語尾、3 つの変化を復習	テキスト 2 冊目の第一課、ドイツの民話に関する記述
第 7 回	文法単元の副文を復習	テキスト 2 冊目の第一課、ドイツの民話に関する記述
第 8 回	再帰動詞とその用法を復習	テキスト第二課のドイツの経済に関する記述
第 9 回	文法単元の助動詞を読解、作文の方面から復習	テキスト第二課のドイツの経済に関する記述
第 10 回	接続法 1 式と間接話法をプリントを用いて学習	読解と作文の双方向で学習
第 11 回	接続法 1 式と要求話法をプリントを用いて学習	読解と作文の双方向で学習
第 12 回	ドイツの諸制度を日本と比較しつつ説明	テキスト第三課のドイツの時事ニュースに関する記述
第 13 回	ドイツの政治形態を日本と比較しつつ説明	テキスト第三課のドイツの時事ニュースに関する記述
第 14 回	習熟度の最終チェックとしての独文和訳テスト	習熟度チェックとテキストの練習問題に取り組む
	文法事項の再確認	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、上記で述べた進行範囲の丁寧な予習（読み発音と対訳）は絶対にしておかねばならない。授業後は授業内容（重要表現、語彙）を確認せねばならない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『時事ドイツ語 2020 年度版』 朝日出版

『花の精』 同学社

【参考書】

『独文解釈の研究』 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。ただし、独文和訳のレポート提出になる可能性が高い。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲を拡げ、それに対する例文をもっと紹介しようと思う。その他に受講者のさまざまな要望にも柔軟に対応していきたい。

【Outline and objectives】

learning of various sentences by German.

LANd200EA

ドイツ語中級1・2・3

兼子 安弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の諸能力（読む・書く）の総合的なステップアップを目指す。また独検受験を希望する者には、独検受験合格に対する対応力を取得する。最終目的として挙げるのは、より高次のドイツ語能力を取得できることである。

【到達目標】

ドイツ語力（読む・書く）を総合的に高める。難易度の高くない原書を読めるようになる。独検 3 級に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

見落とされがちだった多くの重要表現や語彙を認識させる。独検の過去問題を通し、読解や穴埋めなどのさまざまな問題に取り組むことによって、独検 3・2 級に対する傾向と対策を認識する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	助動詞	その余りにもさまざまなニュアンスを詳論
第 2 回	不定詞	不定詞の形態とその使い方を詳論
第 3 回	読む力の養成	難易度の高くない原文を実際に読んでみる
第 4 回	独検 3 級対策	独検 3 級に頻出する表現総ざらい
第 5 回	独検 3 級対策	独検過去問題を解いてみる。(長文読解)
第 6 回	分詞	意外と知られていない現在分詞、過去分詞の使い方を紹介
第 7 回	前置詞	人称代名詞、疑問代名詞との融合形を中心に
第 8 回	受動表現	自動詞の受動態を含め、受動表現全般を紹介
第 9 回	命令表現	Mach,dass~ といったものも含め詳論
第 10 回	書く力の養成	副文以降の文法単元を中心に、作文してみる
第 11 回	接続法二式	その形態と基本的な使い方を概論的に紹介説明
第 12 回	接続法二式	非現実話法、婉曲話法を中心に詳論
第 13 回	接続法二式	仮定的認容や否定話法を中心に説明
第 14 回	接続法二式	接続法二式を用いたさまざまな文例を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、与えられた課題は必ず準備学習（発音や和訳）しておくこと。授業後は、授業に出てきた諸表現を暗唱・復習し、我がものとする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に最適なように作成したプリントを随時配布する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業における質疑応答に対する対応度と解答の速さ）20 %、授業内実施の小テスト 80 %
希望する独検三級に合格できる。ドイツ語力の総合的な向上が見られる。

【学生の意見等からの気づき】

これまで以上に独検に対する最新の情報を提供したい。多少難しめの表現もより以上に紹介しようと思う。

【その他の重要事項】

この科目は「中級1・中級2・中級3」のいずれかが不合格だった場合、あるいはいずれかの履修を秋学期に始めたい場合に履修することができる。ただし「中級1・中級2・中級3」のうちの1科目にのみ充当可能である。

【Outline and objectives】

To step up the abilities in German,for example reading,writing and speaking.

LANd200EA

ドイツ語中級2

三浦 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な文法力を確認しながら、文法力のレベルを上げ、中級以上の文法知識を身につけるために練習問題を解いていく。

【到達目標】

基礎的な文法力を確認して定着させ、知覚動詞や使役動詞の構文など、さらに上のレベルの文法事項を理解できる。

ドイツ語検定試験に出題された問題と類似形式の文法練習問題を解いて、傾向を知ることができる。

ドイツ語検定試験の過去問で、読解力を含めて実力チェックができる。ドイツ語検定試験 4 級を受験できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始は 4 月 24 日とし、学習支援システムに第 1 回の課題を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音とアクセント	ガイダンスののち、発音とアクセントの基礎を確認し、11 頁の問題に取り組む。
2	動詞と文	動詞の現在人称変化と動詞の位置について確認し、16、17 頁の問題を行う。
3	冠詞と名詞の格変化	定冠詞と不定冠詞の格変化を確認し、21 頁の問題を行う。
4	人称代名詞の 1 格と 4 格、疑問詞	よく使われる 1 格と 4 格の人称代名詞と疑問詞を確認し、23 頁と 25 頁の問題を行う。
5	複数形	名詞の複数形の作り方と格変化を確認し、30 頁の問題を行う。
6	定冠詞類と不定冠詞類	さまざまな冠詞の意味と格変化を確認し、35 頁の問題を行う。
7	不規則動詞と複合的な疑問詞	現在形で不規則な変化をする動詞とやや複雑な形の疑問詞について確認し、41 頁の問題を行う。
8	前置詞	前置詞の意味と格変化を確認し、46 頁と 47 頁の問題を行う。
9	検定試験にチャレンジ	ドイツ語検定試験 4 級の過去問を解いたあと、解説を行う。
10	人称代名詞と再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の 3 格、主な再帰動詞の意味と変化について確認し、51 頁の問題を行う。
11	話法の助動詞、未来形	話法の助動詞と未来形について確認し、55 頁の問題を行う。 知覚動詞や使役動詞を用いた助動詞構文について、説明する。

12	分離動詞	主な分離動詞の意味と変化、文中での位置について確認し、58 頁の問題を行う。
13	命令形	命令形の作り方を確認し、61 頁の問題を行う。
14	期末試験	試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
文法説明の頁を事前に読み、練習問題を予習して準備する。
授業後、正答がだせなかった箇所に重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「独検 5 級・4 級・3 級対応 ドイツ語文法」、在間進・亀ヶ谷昌秀著、三修社、2019 年、本体 2400 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

成績の内訳は、平常点（複数回の課題提出物における学習状況、参加度）70 %、期末の課題 30 %とする。

実力をつけるためには日ごろの努力が欠かせないので、提出物に見る不断の学習状況を平常点で評価し、文法がどの程度身につく、ドイツ語検定試験のレベルに達しているかどうかを期末の提出物で確かめる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

By exercising check important basic grammar points and proceed own knowledge to the next level to prepare for taking a certification examination for German language.

LANd200EA

ドイツ語中級3

マルクス グラスミュック

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 3 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 4 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 5 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 6 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第 7 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第 8 回	Die schönsten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 9 回	Die schönsten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 10 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第 11 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第 12 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第 13 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第 14 回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語
三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

LANd200EA

ドイツ語中級4

兼子 安弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語のジャーナリスティックな文体に対するさらなる柔軟な対応力を取得する。それによって異文化理解の基礎を構築する。

【到達目標】

ドイツ語の雑誌 Spiegel や Zeit、ネット上のドイツ関連の記事を読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

あらかじめ次回進行する範囲を明示しておくので、受講者はその範囲を予習（発音と読みや対訳）をしっかりと準備しておく。授業でその発表に対して担当者がコメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ドイツ語の時制（現在形から未来完了まで）に関する基本事項の復習とトリビア	2 冊目のテキスト、第 2 課を読み切る
第 2 回	助動詞とさまざまな不定詞の組み合わせについて説明	テキスト第四課のドイツのメディアに関する記述
第 3 回	文法単元、関係代名詞の変則的な用法をプリントを用いて説明	テキスト第四課のドイツのメディアに関する記述
第 4 回	文法単元、関係代名詞の変則的な用法をプリントを用いて説明	2 冊目のテキスト第 3 課を読み切る
第 5 回	文法単元、比較表現の多様性をプリントを用いて説明	テキスト第五課のドイツの社会問題に関する記述
第 6 回	文法単元、比較表現の多様性をプリントを用いて説明	テキスト第五課のドイツの社会問題に関する記述
第 7 回	ドイツ語におけるレトリックを隠喩を中心に説明	2 冊目のテキスト第 4 課を読み切る
第 8 回	ドイツ語におけるレトリックを否定法法を中心に説明	テキスト第六課のドイツのアート事情に関する記述
第 9 回	文法単元、接続法 2 式の基本知識	テキスト第六課のドイツのアート事情に関する記述。接続法 2 式の表現方法
第 10 回	文法単元、接続法 2 式の用法説明、	非現実話法
第 11 回	文法単元、接続法 2 式の用法と時制の説明	非現実話法の時制
第 12 回	文法単元、接続法 2 式の用法と説明	婉曲話法と接続法全般の総まとめ
第 13 回	文法実行、関係副詞の多様な用法を説明	2 冊目のテキスト第 4 課を読み切る
第 14 回	習熟度最終チェックとしての独文和訳のテスト。重要表現総まとめ	プリントを用いて、類出する単語、熟語をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

明示された範囲の徹底した予習（発音と読み、対訳）を準備学習として行わなければならない。授業後は授業内容（重要表現、語彙）を必ず確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『時事ドイツ語 2020 年度版』 朝日出版
『花の精』 同学社

【参考書】

『独文解釈の研究』 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での発表の完成度）15 %、期末試験 85 %
妥当な難易度のドイツ語文献を読むことができる。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲をさらに広げて、より詳細な内容を持つ重要表現をもっと紹介したい。ドイツに関するさまざまな、日本との相違点も紹介したい。

【Outline and objectives】

To gain flexibility in the German language and learn journalistic sentences.

LANd200EA

ドイツ語中級4・5・6

兼子 安弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語諸能力の向上や独検合格を目指して、読解力、語彙力、作文力を中心に学習する。到達目標は諸能力の向上が実現されることと具体的に独検合格である。

【到達目標】

独検合格や中級ドイツ語として求められる知識を習得する、書籍、雑誌、新聞等の原文をある程度、読みこなすことができるようになる。独検 3 級に確実に合格する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

見落とされがちなさまざまな重要表現や重要語彙を再確認するとともに、過去の独検問題に取り組み、その傾向と対策を探る。さまざまなシチュエーションを想定したうえでドイツ語の会話の可能性を考える。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	形容詞語尾の再確認	付加語的用法における形容詞語尾と形容詞の名詞化
第 2 回	形容詞副詞の比較表現	比較級と最上級の再確認
第 3 回	独検対策	独検 3 級の長文読解の過去問
第 4 回	独検対策	独検 3 級合格に必要なイディオム力育成
第 5 回	否定表現	nicht と kein の使い分けと様々な否定表現紹介
第 6 回	不定代名詞	意外と知られていない einer や jemand の使い方
第 7 回	定関係代名詞、不定関係代名詞	welcher など紹介
第 8 回	接続法一式	その変化と直接法との違い
第 9 回	間接話法と要求話法	その概論とさまざまな文例紹介
第 10 回	リーダーを読む	接続法一式が出てくるリーダーを読む
第 11 回	接続法一式と認容文	接続法一式の追補
第 12 回	独検対策	独検 3 級の長文読解の過去問
第 13 回	接続詞	接続詞一般とあまり知られていないものを紹介
第 14 回	習熟度チェック	独文和訳の筆記試験と春学期総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として自身のドイツ語力のチェック（どこがわかって、どこが曖昧か）を常に行っておく。授業後は授業内容（イディオム、語彙）を再度チェックする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成したプリントを配布します。

【参考書】

独検関連の総合的参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業に対する準備度）20 %、授業内実施のテスト 80 %
上記の記載は、コロナ禍で保留とする。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったため、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。なお、レポート提出による評価になる可能性が高い。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲をこれまでよりも広範囲に設定し、それに対する例文の紹介もより充実したものにとしようと思う。

【その他の重要事項】

この科目は「中級4・中級5・中級6」のうち1科目にのみ充当できる。「中級4」は「中級1」、「中級5」は「中級2」、「中級6」は「中級3」の単位を取得していることを履修の前提とする。

【Outline and objectives】

To step up the abilities in German, for example reading, writing and speaking

LANd200EA

ドイツ語中級5

三浦 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な文法力を確認しながら、さらにレベルを上げ、中級以上の文法知識を身につけるために練習問題を解いていく。

【到達目標】

基礎的な文法力を確認して定着させ、受動文の完了形や接続法など、さらに上のレベルの文法事項を理解できる。

ドイツ語検定試験に出題される問題と類似の文法問題を解いて、傾向を知ることができる。

ドイツ語検定試験の過去問で、読解問題を含めた実力チェックができる。

ドイツ語検定試験 3 級を受験できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と音声教材を用いた演習形式。演習問題は、原則的に学生が行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	三基本形	分離動詞・非分離動詞を含め、規則変化、不規則変化をする動詞の三基本形を確認し、64 頁の問題を行う。
2	過去形	過去形の人称変化を確認し、67 頁の問題を行う。
3	現在完了形	現在完了形の作り方を確認し、71 頁の問題を行う。
4	過去完了形、未来完了形	現在完了形の知識をもとに、過去完了形、完了不定詞、未来完了形について説明する。
5	受動文	受動文について、現在・過去・現在完了形の時制を確認し、75 頁の問題を行う。
6	接続詞と副文	並列の接続詞とそれを用いた慣用表現、従属の接続詞とそれを用いた副文について確認し、79 頁の問題を行う。
7	接続法第 1 式	接続法第 1 式の作り方と用法について説明し、83 頁 1 の (1) と (2)、2(1) の問題を行う。
8	接続法第 2 式	接続法第 2 式の作り方と用法について説明し、83 頁 1 の (3)、2 の (2)~(7) の問題を行う。
9	比較変化	形容詞と副詞の比較変化を確認し、86 頁の問題を行う。
10	独検にチャレンジ	読解問題を含め、ドイツ語検定試験 3 級の過去問を解いてみる。
11	関係文	定関係代名詞、不定関係代名詞について確認して、89 頁の問題を行った後、関係副詞について説明する。

12	zu 不定詞句	zu 不定詞句の作り方と使い方、zu 不定詞句を用いた熟語表現について確認し、92 頁の問題を行う。
13	形容詞の格変化	形容詞の格変化と名詞化を確認し、96 頁の問題を行った後、現在分詞と過去分詞の形容詞的・名詞的用法について説明する。
14	期末試験	試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。文法説明の頁を事前に読み、演習問題を予習して準備する。授業後、正答が出せなかった箇所に重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「独検 5 級・4 級・3 級対応 ドイツ語文法」、在間進・亀ヶ谷昌秀著、三修社、2019 年、本体 2400 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、期末試験 60%、平常点（授業での学習状況、参加度）40%とします。

文法がどの程度身につく、ドイツ語検定試験のレベルに達しているかどうかを期末試験で確かめますが、実力をつけるためには日ごろの努力が欠かせませんから、予習を含めた不断の学習状況を平常点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

By exercising check important basic grammar points and proceed own knowledge to the next level to prepare for taking a certification examination for German language.

LANd200EA

ドイツ語中級6

マルクス グラスミュック

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する授業。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Wiederholung	復習
第2回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第3回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第4回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, ……のひとり, ……のひとりつ, Student 型の男性名詞)
第5回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, ……のひとり, ……のひとりつ, Student 型の男性名詞)
第6回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um ..., Was fuer ein...?)
第7回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um ..., Was fuer ein...?)
第8回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第9回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第10回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「~だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第11回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「~だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第12回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第13回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第14回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語
三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

PRI100EA

統計学 I

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データの分析結果の手法として、社会科学・人文科学など広い分野において統計的分析が多く使われる。しかしながら、実際のその統計的分析の中には「正しくない分析」も多い。そこで、この講義では記述統計学の基本の理解と、基本的な統計分析の正しい理解を目指す。

【到達目標】

記述統計と推測統計の入口までを学ぶ。統計データの代表値および標準偏差をはじめとし、データの散らばり具合を示す指標および複数のデータ分布の相関関係を学ぶ。さらに、この授業に続く統計学 II のテーマである推測統計学の中の代表的なデータ分布である正規分布について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンピュータを使わずに、電卓を用いて例題を実際に計算し、統計数値の導出方法を見につけることを目指す。この科目は、一つ一つの積み重ねが重要であるので、前回までの復習と予習を十分に行うことを前提に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび資料の整理	統計学の基礎概念と、講義の進め方および成績評価についての説明および様々なグラフや度数分布表によるデータの表現方法を学ぶ。
2	平均値	平均値の意味と、平均を求める方法を学ぶ。
3	いろいろな代表値 (1)	平均値以外の代表値と、それぞれの特徴について学ぶ。
4	いろいろな代表値 (2)	度数分布表から代表値を求める
5	データの散らばり具合 (1)	データの散らばり具合を表すいくつかの値について学ぶ。
6	データの散らばり具合 (2)	分散および標準偏差を学ぶ。さらに T スコア（偏差値）に関して学ぶ。
7	相関関係	2種類のデータについて、互いの関係性の有無についての判断方法を学ぶ
8	回帰分析	関係性を持つ2種のデータについて、その関係を表す関数を学ぶ。
9	全数調査と標本調査	調査の対象による2通りの方法について学ぶ。
10	正規分布と確率変数	正規曲線と正規分布の概念を導入し、確率変数と確率密度関数について学ぶ。
11	標準正規分布	標準正規分布における確率について学ぶ。
12	まとめ	前回までの講義のまとめ。

- 13 課題作成 これまでの講義をもう一度振り返り、重要な点に関して、もう一度確認をする。
- 14 課題提出 これまでの講義に関してのまとめと課題を提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、授業前には教科書とノートで前回までの復習と予習を十分に行うことを前提として授業を進める。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて4時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】

「看護学系の統計入門」水野恭之 著, 培風館

【参考書】

「確率統計序論」土井誠 他 著, 東海大学出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを書くことと課題への取り組みにより「学力が身に付いた・スキルが身に付いた」という回答が多かった。「もっと難しいテキストで応用を学んでみたい」と意欲的な学生も居たが、この場合は統計学Ⅱの履修を勧める。

【学生が準備すべき機器他】

平方根(√)の計算が可能な関数機能の無い電卓。

【Outline and objectives】

As a method of data analysis, statistical analysis is widely used in the social science, the humanities and in many other field. However, in fact many of the statistical analyzes are "incorrect". Therefore, this lecture aims to understand the basics of descriptive statistics and the basic statistical analysis.

PRI100EA

統計学Ⅱ

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は統計学Ⅰの続きとして、母集団から抽出されたサンプルから母集団の様子を正しく推察する「推測統計学」を学び、世の中に氾濫する統計分析を正しく見極めることができる能力の習得を目指す。

【到達目標】

推測統計学のなかで最も基本と言える「正規分布」および社会科学では良く使われる「t-分布」を中心に、その他いくつかの分布について「標本から母集団の分布の様子を推定する」あるいは「仮説を立ててその仮説を検定する」ことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実際に数式から手計算を使って学ぶことで、統計数値の「導出方法」を見つけていることを目指す。授業は黒板を使って解説ならびに多くの例題や問題を実際に解く。問題を解く際には、各自ノートに問題を解き、解答を自ら導くこと。その後、黒板の模範解答をすべて書き写し、復習に役立ててほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび母集団と標本	統計Ⅰで学んだ内容の確認と、講義の進め方および成績評価について説明し、また母集団と標本について学ぶ。
2	推定	不偏推定量と不偏推定値に関して学ぶ。
3	点推定と区間推定	点推定と区間推定の優位性と信頼度に関して学ぶ。
4	母平均の区間推定Ⅰ	正規分布である母集団の標本から母平均の推定を学ぶ。
5	中心極限定理	十分大きな標本から母平均の推定を学ぶ。
6	母平均の区間推定Ⅱ	小標本から母平均の推定を学ぶ。
7	t-分布による推定	t-分布を用いて標本から母平均を推定することを学ぶ。
8	検定	仮説検定の基礎概念を学ぶ。
9	仮説と検定（1）	正規分布による検定を学ぶ。
10	仮説と検定（2）	t-分布と χ^2 分布による検定を学ぶ。
11	仮説と検定（3）	分割表による検定を学ぶ。
12	中間まとめ	前回までのまとめ
13	課題作成	これまでの講義内容に関して全体を振り返り、重要な点に関しもう一度確認をする。
14	総括	これまでの講義に関する総括および課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、授業前には教科書とノートで前回までの復習と予習を十分に行うことを前提として授業を進める。予習復習は通常合わせて1回の授業につき4時間程度と考えるが、この他、試験の準備に掛ける時間はさらに多くの時間が必要であろう。毎週この予習復習をしっかりとしておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

「看護学系の 統計入門」 水野恭之 著, 培風館

【参考書】

「確率統計序論」 土井誠 他 著, 東海大学出版,

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

統計学Ⅱで「自分が分かっていない」ということが分かった」という意見が出るようになる。「どこがどう理解できていないのか」が明確になるように講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

平方根（√）の計算が可能な関数機能の無い電卓。

【その他の重要事項】

統計学Ⅰの続きの内容のため、事前にそちらを履修していることを前提とする。統計学の活用には「推測統計学」が重要なため、是非、統計学Ⅱまでの履修を期待する。

【Outline and objectives】

This lecture is a continuation of Statistics I, and we learn "inferential statistics" which correctly infers the state of a population from a sample extracted from the population. The purpose is to acquire the ability to correctly identify statistical analysis.

PRI200EA

統計基礎実習

橋本 政樹

サブタイトル：統計基礎実習Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフト MS-EXCEL を使いこなして、社会調査データの分析ができるようになる。

【到達目標】

- ・社会調査に必要なデータを収集し編集できること。
- ・表計算ソフト MS-EXCEL の専門的技法を習得すること。
- ・データを統計的に扱う意義と分析方法を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

表計算ソフト MS-EXCEL を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する。

授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。最後に、その結果を発表するまでを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の目的・内容、課題等について説明する。また統計分析の意義を考える
第 2 回	表計算ソフトの操作復習	データ入力・表示形式、数式入力・関数計算・セル参照など、基本的な EXCEL の機能を復習する。
第 3 回	表計算ソフトの操作復習 2	サンプルデータから、目的に応じたグラフを作成し、見栄えの良いグラフへ装飾する。
第 4 回	データの収集・整理 1	様々なデータ収集法と、データの種類とそれらの整理の仕方を学ぶ。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計や政府統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム、散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する。
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・中央値・分散・標準偏差等の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	従来の統計学の考え方 1	ピギナーズラックの原理、超能力の成否、を通じて従来の統計学（記述統計）の概要を学ぶ。
第 8 回	従来の統計学の考え方 2	実験の偏り、事象の関係を通じて従来の統計学（推測統計）の概要を学ぶ。
第 9 回	質的データの処理	ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴を抽出する。
第 10 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 11 回	回帰分析	独立変数・従属変数・回帰係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 12 回	多項式・ロジスティック回帰分析	2 次関数や対数関数を用いて、非線形の回帰式を求める。また線形回帰式との比較を試みる。
第 13 回	VBA を用いた分析 1	VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数による分析を試みる。
第 14 回	VBA を用いた分析 2	企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計理論の学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り出席し、継続的かつ積極的に授業に取り組むこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントおよび WEB の教材を使用する。

【参考書】

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%)、発表 (30%)、小テスト (30%) により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

いくつもの異なったデータを、1つの手法で繰り返し分析実習することにより、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット、表計算ソフト (MS-EXCEL)

【その他の重要事項】

社会調査士資格<C>区分の認評価方法

就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。

また実社会で活躍する IT 系の専門家・経営者のセミナーなども

随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline and objectives】

表計算ソフトを利用して、社会に散在するデータを、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。

表計算ソフトの専門的な操作技法を習得し、実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する。

PRI200EA

統計基礎実習

橋本 政樹

サブタイトル：統計基礎実習 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

表計算ソフト MS-EXCEL を使いこなして、社会調査データの分析ができるようになる。

【到達目標】

- ・社会調査に必要なデータを収集し編集できること。
- ・表計算ソフト MS-EXCEL の専門的技法を習得すること。
- ・データを統計的に扱う意義と分析方法を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

表計算ソフト MS-EXCEL を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。表計算ソフト MS-EXCEL を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する。授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。最後に、その結果を発表するまでを学習する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の目的・内容、課題等について説明する。また統計分析の意義を考える
第 2 回	表計算ソフトの操作復習	データ入力・表示形式、数式入力・関数計算・セル参照など、基本的な EXCEL の機能を復習する。
第 3 回	表計算ソフトの操作復習 2	サンプルデータから、目的に応じたグラフを作成し、見栄えの良いグラフへ装飾する
第 4 回	データの収集・整理 1	様々なデータ収集法と、データの種類とそれらの整理の仕方を学ぶ。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計や政府統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム、散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・中央値・分散・標準偏差等の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	従来の統計学の考え方 1	ピギナズラックの原理、超能力の成否、を通じて従来の統計学 (記述統計) の概要を学ぶ。
第 8 回	従来の統計学の考え方 2	実験の偏り、事象の関係を通じて従来の統計学 (推測統計) の概要を学ぶ。
第 9 回	質的データの処理	ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴を抽出する。
第 10 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 11 回	回帰分析	各変数・係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 12 回	多項式・ロジスティック回帰分析	2 次関数や対数関数を用いて、非線形の回帰式を求める。また線形回帰式との比較を試みる。
第 13 回	VBA を用いた分析 1	VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数による分析を試みる。
第 14 回	VBA を用いた分析 2	企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

統計理論の学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り出席し、継続的かつ積極的に授業に取り組むこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

統計理論の学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り出席し、継続的かつ積極的に授業に取り組むこと

【参考書】

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%), 発表 (30%), 小テスト (30%) により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

いくつもの異なったデータを、1つの手法で繰り返し分析実習することにより、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【その他の重要事項】

社会調査士資格<C>区分の認評価方法

就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。

また実社会で活躍する IT 系の専門家・経営者のセミナーなども

随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline and objectives】

表計算ソフトを利用して、社会に散在するデータを、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。

表計算ソフトの専門的な操作技法を習得し、実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する

PRI300EB, PRI300EC, PRI300ED

統計基礎実習Ⅱ

橋本 政樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計解析ソフトを使って、大量のデータから、情報の鉱石を掘り起こそう。

【到達目標】

- ・データマイニングの意義を理解し、常に情報の山から新たな知識を掘り起こす意識をもつこと。
- ・統計解析ソフト R や S P S S の操作方法を習得し、様々な分析を実践すること。
- ・分析結果を分かりやすくまとめ、効果的なプレゼンテーションができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

統計解析ソフト R や S P S S を利用したデータマイニングを実習形式で進めていく。

授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。さらにその結果（知識発見）を創造的に発表するまで、を繰り返して学習する。これらのプロセスでは、継続的なスキルアップを必要とするので、授業態度を重視し出席は毎回採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	R と S P S S の基本操作	代表的な統計解析ソフトのデータ入力や保存、データ読み込みのやり方を学ぶ。
第 2 回	データマイニング（ビッグデータ）の意義	大量のデータから、価値ある情報を掘り起こす処理技術の概要を理解する。
第 3 回	データの収集	様々なデータ収集法と、データの種類およびそれらの整理の仕方を学ぶ。
第 4 回	データの整理	政府統計のデータを目的に応じて整理する。またデータの特徴をグラフで把握する。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計データを用いて、分布表・ヒストグラムを作成し、データの特徴を図表で把握する。
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・標準偏差の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	質的データの処理	生活アンケートを用いて、クロス集計表を作成し、質的データの特徴を抽出する。
第 8 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 9 回	回帰分析	各変数・係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 10 回	多項式（ロジスティック）回帰分析	2 次関数や対数関数により、経済データや生活データの非線形の回帰式を求める。
第 11 回	判別分析とクラスター分析	選挙や購買データを用いて、2 者択一判断、グループ分けを試みる。
第 12 回	因子分析と主成分分析	嗜好や購買データを用いて、共通の因子を見つけ、成分比較する。
第 13 回	オリジナルデータ分析	各自興味のあるデータを集めて、編集・分析し、発表の準備を行う。
第 14 回	オリジナルデータ分析 2	各自興味のあるデータを集めて、編集・分析し、発表の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会ネットワークから常に有用な情報を得るように努めること本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布し、また適宜参考文献を紹介する。

【参考書】

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (50%), 中間発表 (20%), 期末発表 (30%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いくつもの異なったデータを、1つの手法で繰り返し分析実習することにより、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット、統計解析ソフトR、SPSS

【その他の重要事項】

社会調査士資格<C>区分の評価方法
就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。
また実社会で活躍するIT系の専門家・経営者のセミナーなども
随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline and objectives】

統計解析ソフトを利用して、社会調査分野のデータマイニングの実習を行う。
データマイニングの意義を理解し、各自が選択したテーマに従って大量のデータを収集・分析し、その結果（知識発見）を創造的に発表するまでを目指す。

PRI300EB, PRI300EC, PRI300ED

統計基礎実習Ⅱ

橋本 政樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計解析ソフトを使って、大量のデータから、情報の鉱石を掘り起こそう。

【到達目標】

- ・データマイニングの意義を理解し、常に情報の山から新たな知識を掘り起こす意識をもつこと。
- ・統計解析ソフトRやSPSSの操作方法を習得し、様々な分析を実践すること。
- ・分析結果を分かりやすくまとめ、効果的なプレゼンテーションができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

統計解析ソフトRやSPSSを利用したデータマイニングを実習形式で進めていく。

授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。さらにその結果（知識発見）を創造的に発表するまで、を繰り返し学習する。これらのプロセスでは、継続的なスキルアップを必要とするので、授業態度を重視し出席は毎回採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	RとSPSSの基本操作	代表的な統計解析ソフトのデータ入力や保存、データ読み込みのやり方を学ぶ。
第2回	データマイニング（ビッグデータ）の意義	大量のデータから、価値ある情報を掘り起こす処理技術の概要を理解する。
第3回	データの収集	様々なデータ収集法と、データの種類およびそれらの整理の仕方を学ぶ。
第4回	データの整理	政府統計のデータを目的に応じて整理する。またデータの特徴をグラフで把握する。
第5回	グラフと表の作成	世界統計データを用いて、分布表・ヒストグラムを作成し、データの特徴を図表で把握する。
第6回	データの代表値・散布度	平均値・標準偏差の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第7回	質的データの処理	生活アンケートを用いて、クロス集計表を作成し、質的データの特徴を抽出する。
第8回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第9回	回帰分析	各変数・係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第10回	多項式（ロジスティック）回帰分析	2次関数や対数関数により、経済データや生活データの非線形の回帰式を求める。
第11回	判別分析とクラスター分析	選挙や購買データを用いて、2者択一判断、グループ分けを試みる。
第12回	因子分析と主成分分析	嗜好や購買データを用いて、共通の因子を見つけ、成分比較する。
第13回	オリジナルデータ分析	各自興味のあるデータを集めて、編集・分析し、発表の準備を行う。
第14回	オリジナルデータ分析 2	各自興味のあるデータを集めて、編集・分析し、発表の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会ネットワークから常に有用な情報を得るように努めること本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布し、また適宜参考文献を紹介する。

【参考書】

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】

課題レポート(50%)、中間発表(20%)、期末発表(30%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いくつもの異なったデータを、1つの手法で繰り返し分析実習することにより、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット、統計解析ソフトR、SPSS

【その他の重要事項】

社会調査士資格<C>区分の評評価方法
就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。
また実社会で活躍するIT系の専門家・経営者のセミナーなども
随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline and objectives】

統計解析ソフトを利用して、社会調査分野のデータマイニングの実習を行う。
データマイニングの意義を理解し、各自が選択したテーマに従って大量のデータを収集・分析し、その結果（知識発見）を創造的に発表するまでを目指す。

SOC300EB, SOC300EC

統計調査法

齋藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎。社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいかを「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

少なくとも春学期の前半は学習支援システムを使用して授業を実施する。4月22日から学習支援システムでの授業関連情報や教材、課題の配信を開始するので、履修を希望する人は学習支援システムへ登録してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第2回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第3回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第4回	確率分布について	統計分布について説明する
第5回	統計的推測(1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第6回	統計的推測(2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際を学ぶ
第7回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第8回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第9回	クロス集計(1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第10回	クロス集計(2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第11回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第12回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第13回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第14回	まとめ	授業のふり返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline and objectives】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

SES200EC, SES200ED

都市空間とデザイン I

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：都市景観論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代とこれからの、ふつうの街の都市景観を理解し、消費者・有権者として参加できるようにすること。

【到達目標】

前半となる本講義では、そのうち、現代の都市空間の前提となる建築デザインを言語化するための学習を中心として、ヨーロッパ古典建築から近代建築までを概観し、さらに、戦後日本の具体的な事例を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドや google マップを利用して授業をすすめる
受講者にはリアクションペーパーの提出を求める
学習支援システムでの授業の開始は 5 月 8 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	通年の流れと概念の説明	なぜ「都市景観」を読み解く必要があるのか？
1	古典建築 1	ギリシア、ローマの建築
2	古典建築 2	ロマネスク/ゴシック/ルネサンス/バロック
3	古典建築 3	19 世紀建築と西洋建築史まとめ
4	近代建築 1	シカゴ派とアメリカ/ヨーロッパの近代建築運動
5	近代建築 2	世界への波及と日本の近代建築
6	都市空間への展開 1	建築物から都市空間へ
7	都市空間への展開 2	都市空間の変遷
8	現代日本の都市空間	現代日本の都市空間
9	都市景観と保全 1	アメリカの都市美運動
10	都市景観と保全 2	イギリスの都市計画
11	都市景観と保全 3	まちづくり活動と景観
12	都市景観と保全 4	都市計画と景観まちづくり
12	全体のまとめ	全体のまとめと期末レポートの出題 or テスト対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 建築デザインについて予習もしくは復習
通学途中や身の回りの建物を意識して（少し分析的に）「見る」ようにすること。リアクション・ペーパーの「ネタさがし」と絡めると、授業の理解度が高まる。
2. 建築デザインについて復習
授業内で興味のある建築があるとき、授業終了後※重要！ ※ゆっくりとウェブなどで画像を確認すること。また google map / street view などとあわせて確認するのも良い。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

西村幸夫：都市美、学芸出版社
大川三雄、川向正人、初田亨、吉田綱市：近代建築の系譜、彰国社
日本建築学会（編）：景観まちづくり（まちづくり教科書〈第 8 巻〉、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：50 %
期末試験（レポートまたはテスト）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出のため PC もしくはタイプ入力できるタブレットの準備をお願いします（実習室のものでは厳しいので）

【Outline and objectives】

"urban landscapes" as popular culture

SES200ED

都市空間とデザイン II

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：景観文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の都市景観とは、映画に出てくるような憧れの「見知らぬ街」でも、ノスタルジーあふれる「美しかった過去」でもなく、多くの本学 OGB がローンを組み家を建て、投票して実現する、ほくらにとって近未来に可能な「美しい街」参加するための目標である。

(※) ふつうの定義は難しい。暫定的には〈ほくらが参加できる、現実的な街〉とする。しかし、積み残し課題となる可能性が高い。

【到達目標】

日常的に目にする都市景観の裏側にある思想や文化、仕組みなどを学習する。表層を読みとるといったことはどういうことなのか、それを変容させる可能性はどこにあるのか、授業を通して考える力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドや google マップを利用して授業をすすめる
受講者にはリアクションペーパーの提出を求める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代日本の都市空間/建築デザイン	前期のまとめや、講義の目標、履修上の注意など
2	都市空間の概説	様々な都市空間をみていく
3	近代の都市計画史 1	都市計画の誕生と変容
4	近代の都市計画史 2	都市計画の成熟
5	広場と街路 1	広場の伝統、広場の再生
6	広場と街路 2	街路の文化、人間の場所
7	都市と街路 1	都市の骨格
8	都市と街路 2	骨格と生活
9	生活空間のデザイン	近隣住区論と住宅団地、そしてリノベーション
10	都市美 1	丸の内通り
11	都市美 2	アメニティの考え方
12	場所、空間の把握 1	場所を捉える
13	場所、空間の把握 2	場所を使う
14	全体のまとめ	まとめと期末レポート or テスト解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 建築デザインについて予習もしくは復習
通学途中や身の回りの建物を意識して（少し分析的に）「見る」ようにすること。これは洋服と一緒にダサいのも素敵なものもある。リアクション・ペーパーの「ネタさがし」と絡めると、授業の理解度が高まる。
2. カルチュラル・スタディーズについて復習
授業でくる概念に興味を持ったとき、一夜漬けにならないタイミングで、図書館に行って関連する参考書に目を通し、必要部分のメモをとっておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

随時紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：50 %
期末テスト or レポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

スライドが早いようですので、要点の説明を心掛け、学習に寄与する展開を心掛けたいと思います。また、授業の理解度の確認をするため、時々、受講者への簡単な質問をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

自己所有のパソコンもしくはキーボード付き端末を用意してください。

【Outline and objectives】

"urban landscapes" as popular culture

COT300ED

都市空間分析

郭 東潤

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流動化する多摩ニュータウンにおいて、人々の生活や多様な都市活動の実態を踏まえて、地域の諸問題や生活問題に関する現代的要因、都市機能と空間構成、景観構成の関係等を理解し、望ましい都市空間のあり方、および実現プロセスの組立て方を経験することを目的とする。

【到達目標】

都市の物的環境とその背後に存在する社会的諸条件への洞察力を養い、その上に立って生活の場所としての都市空間の計画とデザインを構想し、都市環境の質的向上を実現することができる能力を育てることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業は受講生がフィールドワークの計画から実施、集計・分析、考察、報告書作成に至る一連のプロセスを進める。授業実施にあたり、全体テーマを設定したうえで、複数のサブテーマに基づくグループを編成する。各グループは各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）から都市の暮らし・住環境・まちづくり・企画政策・計画・デザインに関するプレゼンテーション&ディベート等を行い、これらを踏まえた報告書を執筆する。

<重要>

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	先行研究から学ぶ	先行研究から調査方法を理解する
3	地域の課題を考える	これまでの自分の経験や知見などに基づき、地域の課題を共有する。
4	地域の課題を見つける	実際にフィールドワークを行い、地域の課題や可能性について整理する。
5	地域の情報を共有する	自分の視点からフィールドワークの課題や可能性等を整理し発表する。
6	計画や企画を立案する	自分の視点から地域の課題等を解決するための計画や企画を立案する。
7	都市空間分析を計画する	グループとして都市空間を分析するための資料収集の方法を計画する。
8	都市空間を分析する	収集情報から都市空間の分析を行う。
9	都市空間のあり方を構想する	各グループの都市空間分析について共有しながらディスカッションする。

10	計画実現のプロセスを考える1	各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）の視点から計画実現に向けて討議する
11	計画実現のプロセスを考える2	各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）の視点から計画実現に向けて討議する
12	実施計画を策定する	各立場の意見等に応じた具体的な実施計画を策定する
13	計画をプレゼンテーションする	地域の当事者にグループの計画が丁寧に伝達できるプレゼンテーション方法を考える。
14	報告書を執筆する	各立場の視点から報告書を執筆する。加えて、残された課題を明確にするとともに、全体のプロセスを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各グループのテーマに応じたフィールドワークやインタビュー調査等の準備・実施、収集データの分析、授業時間内の発表準備、報告書作成。なお、本授業の準備・復習時間は、各回につき標準的に4時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

1. まちづくりの方法- まちづくり教科書1-、日本建築学会、丸善
2. わが町発見！- 絵地図づくりからまちづくりへ-、世田谷まちづくりセンター編、晶文社
3. まちづくり学- アイディアから実現までのプロセス-、西村幸夫他、朝倉書店
4. まちの見方・調べ方- 地域づくりのための調査法入門-、西村幸夫他、朝倉書店
5. Jan Gehl and irgitte Svarre, How To Study Public Life, Island Press

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席や共同作業への貢献など）30%、データ整理分析及び発表40%（個人20%/グループ20%）、報告書30%によって総合的に評価する。

<重要>

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This class has a series of lectures on how to understand the characteristics of urban space and society in TAMA new town, and basic approaches related to urban space design and planning.

都市政策論

長谷部 俊治

サブタイトル：特講（都市政策論）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Understanding of urban policy

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代都市は様々な課題に直面しているが、それらの課題は相互に関連しあって都市の問題構造を形成する一方で、それぞれの課題がそれぞれ特有の問題事情を抱えている。都市政策は、このような構造化された問題を解きほぐしながら、それぞれの都市の特性に即しつつ、課題を具体的に解決していくというダイナミックな営みである。

この授業では、都市問題の多面的な様相を示したうえで、その解決に向けて都市政策がどのように展開されているかを理論的な基盤に焦点をあてながら考えていくこととする。

【到達目標】

- ・都市という現象、都市運営のための制度、都市が直面している問題、都市政策の構造や考え方などについて理解する。
- ・市民社会の構成員として、社会の抱える問題の解決に参加するための基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1) 現代都市の特性とその運営、2) 主要な都市問題の構造と政策対応について、順に講義するとともに、適宜、質疑を交えて授業を進める。受講に当たっては都市に対する関心が必須である。

注：授業は学年暦どおり 4 月 21 日から開始する。COVID-19 対策のため教室授業ができないあいだは、学習支援システムを通じて授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代都市の課題	都市問題の諸相、二極化、ローカルな戦略
2	都市をかたちづくるもの	都市の特質、都市アイデア
3	都市社会の特質	アーバンイズムと都市表象、都市コミュニティ
4	市民という概念	近代市民像、市民組織
5	まちづくり	シビルミニマム、都市ビジョン、「場」としての都市空間
6	都市の運営- 都市行政-	都市の統治機構、都市経営
7	都市空間の秩序	都市計画制度、私権制限の問題
8	都市開発・都市再生	市街地開発、ニュータウン、都市再生
9	都市環境の保全	都市環境の要素、アメニティ、緑と水の保全、環境政策と都市構造
10	住宅と住生活	居住の意味、住宅セーフティネット、地域包括ケア
11	中心市街地の活性化	空洞化と活性化制度、コンパクトシティ化、魅力の回復
12	都市産業- 経済的基盤-	産業の集積、都市産業の特質
13	都市文化- 文明の孵化器? -	都市への期待、都市と文化、都市の位相
14	まとめ	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都市への関心を高めるため、街を見て歩くことを推奨する。そこでの発見が、講義内容の理解を深めるであろう。

本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

授業期間中に、レポートを 1 回課す。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、講義レジュメを配布する。

【参考書】

基本的な参考書は次のとおり。

- ・『岩波講座 都市の再生を考える (1) ~ (8)』岩波書店、2004/2005
- ・リチャード・ロジャーズ+フィリップ・グムチジャン『都市 この小さな惑星の』鹿島出版会、2002

- ・リチャード・ロジャーズ+アン・パワー『都市 この小さな国の』鹿島出版会、2004

- ・今橋映子編著『都市と郊外 比較文化論への通路』NTT 出版、2004

また、文献を適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）及びレポート（1回・40%）によって評価する予定。

注：試験を教室で実施できない場合には、レポートの提出に変更する予定である。変更の有無は学習支援システムで知らせる。

SOC200EB

特講（NPO 論）

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本社会における公共の担い手として 1990 年代半ばに期待が高まった NPO（非営利組織）は、1998 年の法人制度創設を経て一定の社会的地位を確立しました。近年では、行政との連携・協働関係のみならず、企業 CSR のパートナーとして事業展開を行う例も増加し、NPO は社会的な課題解決に取り組む市民社会組織として、また地域レベルの社会参加組織としてなど、多方面で各々の組織特性を活かした役割を担っています。

この授業では、そうした NPO の多様な活動と法人運営に関わる基本的な事項を理解した上で、NPO のネットワーク型の事業展開や、行政や企業等の他セクターとのパートナーシップないし緊張関係を通じた公共的な課題解決の事例を検討する中から、NPO による社会課題解決策についての考察をすすめます。

【到達目標】

- ・ NPO の活動特性やマネジメントに関わる知識を習得する
- ・ NPO による公共課題解決の実際について理解を深める
- ・ セクター間のパートナーシップや対話による課題解決の思考力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を用いて、できる限り実際の NPO の活動から検討します。内容に応じて適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

序盤は、NPO の活動事例を手がかりに日本と諸外国における NPO の概念の比較や社会的意義について学びます。

中盤以降は、NPO に関わる仕組みや制度についての理解を深めた上で、NPO 間の連携や政府セクター・市場セクターとの関係性についても検討しながら、日本における NPO の今後の可能性について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス－ NPO とは？	NPO の多様な活動内容について事例から紹介
第 2 回	NPO の概念と組織形態	NPO の用語が示す概念や組織形態について、グローバルスタンダードな使用方法も含め、概説
第 3 回	NPO の活動特性と社会的意義	NPO の活動事例から、活動特性や社会的意義を検討する
第 4 回	特定非営利活動法人制度	現行の通称 NPO 法人制度の概要と成立過程を概説
第 5 回	NPO のマネジメント	NPO の組織特性として、ボランティアの参加による運営を検討する
第 6 回	NPO の資金調達	NPO の事業継続のための資金調達手段を検討する
第 7 回	NGO の活動	国境を超えて活動する非政府組織 (NGO) の活動から、国際課題を理解する
第 8 回	市民社会のネットワーク	NPO 同士のネットワーク型の事業展開の事例を詳説
第 9 回	NPO と政策提言	政府や自治体などに対し政策的な提言活動を行う事例から、NPO の政策提言活動の特性を検討する
第 10 回	NPO と自治体行政	自治体行政と連携・協力関係にある NPO の活動を検討する
第 11 回	NPO と企業活動	企業の CSR や社会貢献との結節点にある NPO の活動を理解する
第 12 回	NPO と地域社会	地域レベルの課題解決に取り組む NPO の事例を通じ、地縁組織との関係性を検討する
第 13 回	日本の非営利法人制度	特定非営利活動法人制度以外の日本の非営利法人の制度についての解説
第 14 回	NPO 活動を支える社会的基盤	NPO 活動の持続性や発展可能性の観点から、それを支える社会的基盤のあり方について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
NPO・NGO の活動に関連のありそうな新聞記事やニュースを自ら探索し、そこから背景にある社会課題を発見してノートにまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

雨森孝悦『テキストブック NPO（第 2 版）』（東洋経済新報社）
坂本治也『市民社会論－理論と実証の最前線』（法律文化社）
山岡義則編著『NPO 基礎講座（新版）』（ぎょうせい）
その他、必要に応じ授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80%）とリアクションペーパーの提出状況（20%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The NPO (Non-Profit Organization), which was start being notice in Japanese society in the mid-1990s, has established a certain social position through the enforcement of NPO law in 1998. In recent years, the partnerships between NPO and business society have increasing like the partnerships with the government. NPO work on solving social issues in various fields so their worth of their role is getting up.

In this class, after understanding the various activities of the NPO and the basic matters related to management, we will consider the solution for social problems by NPO and the social infrastructure to support them.

SOC300ED

特講（広告制作実習）

青木 貞茂

サブタイトル：広告制作実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的なTVCMの企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、実際の商品を仮想ケースとして選択し、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。企画立案、表現制作にあたっては、グループでの共同作業を実施してもらう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	広告企画書のブラッシュアップ	ブリーフシート改善と広告表現開発の前提条件への深い考察
第 16 回	キャッチコピー開発 (1)	CM のキャッチフレーズ、商品説明案の作成
第 17 回	キャッチコピー開発 (2)	CM のキャッチフレーズ、商品説明案の作成
第 18 回	キャッチコピー開発 (3)	CM のキャッチフレーズ、商品説明案の作成
第 19 回	CM コンテ作成 (1)	CM 表現案の企画コンテを制作
第 20 回	CM コンテ作成 (2)	CM 表現案の企画コンテを制作
第 21 回	CM コンテ作成 (3)	CM 表現案の企画コンテを制作
第 22 回	CM 撮影 (1)	コンテに基づき演出を行ない撮影
第 23 回	CM 撮影 (2)	コンテに基づき演出を行ない撮影
第 24 回	CM 編集・完成 (1)	撮影素材の編集、音入れ
第 25 回	CM 編集・完成 (2)	撮影素材の編集、音入れ
第 26 回	プレゼンテーションと評価 (1)	企画書と CM によるプレゼンとディスカッション撮影素材の編集、音入れ
第 27 回	プレゼンテーションと評価 (2)	企画書と CM によるプレゼンとディスカッション
第 28 回	プレゼンテーションと評価 (3)	企画書と CM によるプレゼンとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007 年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（50%）、広告制作の各ステップにおける発表・報告（50%）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

・受講は、メディア社会学科において映像制作の科目を履修済みか、年初（前期内）に 101 教室が主催する映像編集の講習を受け、受講修了証を得ていることを条件とする。

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

・2017 年度以前入学者については、この科目は通年科目となっています。このシラバスは秋学期の内容となりますので、春学期の内容については「広告制作実習」のシラバスを確認して下さい。2018 年度以降入学者は、春学期の「広告制作実習」に加えて、この科目もセットで履修することが可能です。この科目は、春学期の「広告制作実習」を履修し CM の企画法を理解していることを前提とした内容のため、2 科目合わせての履修を強く推奨します。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【Outline and objectives】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

SOC300ED

特講（広告制作実習）

川越 智勇

サブタイトル：広告制作実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TVCM 制作実習のプロセスを体験することにより、課題発見、解決手段としての企画発想、CM の実制作、プレゼンテーションの方法などを学びます。

【到達目標】

課題の抽出、解決方針の検討、具体策の立案のプロセスを実際に体験し、広告的な課題解決プロセスをひとつと実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

提示された課題について、CM を企画、制作、プレゼンテーションまでをグループワークで実践していただきます。全体を通して手法の実践をとまなう内容になるため、受講者の積極的・主体的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	課題のオリエン～環境分析作業	CM 制作課題の発表およびチームでの作業
第 16 回	課題抽出作業	主に課題抽出プロセスの進行
第 17 回	企画発想のためのベースまとめ	企画発想プロセスに進むために、環境分析および課題抽出内容をチーム内でまとめる
第 18 回	CM 企画開発①発散	チーム内で企画を発散する
第 19 回	CM 企画開発②選択	チーム内で企画を選定する
第 20 回	CM 企画開発③定着	チーム内で制作する CM 企画をコンテ化する
第 21 回	CM 制作準備	実制作にあたってのチーム内の役割分担および撮影手順の設定
第 22 回	CM 撮影・編集①	CM の撮影、編集作業
第 23 回	CM 撮影・編集②	CM の撮影、編集作業
第 24 回	CM 撮影・編集③	CM の撮影、編集作業、仕上げ
第 25 回	プレゼンテーション準備	企画内容の発表のための構成づくり
第 26 回	① プレゼンテーション準備	企画内容の発表のためのマテリアルづくり
第 27 回	② プレゼンテーション実施	各チームの企画内容および制作した CM を発表
第 28 回	評価	各チームの企画の評価、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いち生活者／消費者としての自己の購買行動について客観的に観察すること、日常触れる広告について考察すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、広告制作作業の各ステップにおける発表・報告（50%）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを円滑に進行するためのアドバイスをより多くおこなうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

101 教室の撮影・編集機器を使用します。全員に講習受講をお願いします。

【その他の重要事項】

広告会社、クリエイティブディレクター、フリーランス、ベンチャーでのクリエイティブ・ディレクター経験があり、現在も広告制作に携わる教員が、最新事例も交えながら広告制作について講義をおこないます。

2017 年度以前入学者については、この科目は通年科目となっています。このシラバスは秋学期の内容となりますので、春学期の内容については「広告制作実習」のシラバスを確認して下さい。2018 年度以降入学者は、春学期の「広告制作実習」に加えて、この科目もセットで履修することが可能です。この科目は、春学期の「広告制作実習」を履修し CM の企画法を理解していることを前提とした内容のため、2 科目合わせての履修を強く推奨します。

なお、授業計画は、授業の展開によって変更することもあります。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the ways of discovering issues, finding solution, and planning for TVC through the process of producing TVCs.

POL300EB,POL300EC,POL300ED

特講（国土政策論）

長谷部 俊治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国土を開発し、保全を図ることは、国の基盤をかたちづくる重要な営為である。また、そのための政策の展開に当たっては、生活水準の維持向上と環境の保全という質の異なる二つの要請がせめぎあい、地域社会との協働関係が不可欠であって、様々な調整が必要となる。国土政策は、社会経済に大きな影響を及ぼすとともに、様々な政策手法が体系的に展開される総合的な政策の一つである。

この授業は、そのような国土政策について、主として制度的な視点から分析・考察することとする。

【到達目標】

・土地、水、自然生態系、社会資本などの社会経済を支える基盤の現状と課題や利活用のしくみについて理解を深め、それらをコントロールするための政策的な思考能力を養う。

・制度的なアプローチ（「ルール」に着目して課題に取り組む手法）を学ぶことによって、政策立案・制度整備の技法を理解し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、国土の開発と保全のしくみについて、次に、国土政策上の主要なテーマについて講義する。講義に当たっては、適宜事例を紹介する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国土開発- 発展の論理-	国土開発の思想、開発政策の転換、地域の自律
2	国土環境- 保全の思想-	公害問題、国土環境の捉え方、環境保全の体系
3	土地利用- 土地問題の諸相-	土地利用計画、土地問題、公共的な利用
4	水利用- 水循環の健全性-	水循環、水利権秩序、水質の保全
5	社会資本- 公共ストックの形成-	インフラストラクチャーの意味、公共投資
6	エネルギー構造	エネルギー政策、低炭素化戦略、地域構造とエネルギー
7	自然保護- 生態系の保全-	生物多様性、生態系サービス、生態系の保全手法
8	産業基盤の維持と形成	産業集積論、イノベーション、人的資本の集積
9	防災- 危機管理と復興-	防災基本計画、東日本大震災、原発事故への対応問題
10	地域の再生- 価値の再発見-	産業転換と地域再生、自然の再生、地域資源への着目
11	ローカル・ガバナンス	人口動態、グローバル化との関係、自治の意味
12	開発の問い直し	豊かさの意味、内発的発展論、開発の再定義
13	エコロジーとエコノミー	エコロジーの思想、経済システムの特性、生態系の論理
14	まとめ	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

人間と自然との関係について関心を深めることが、講義内容に対する理解に資するであろう。

授業期間中に、レポートを1回課す予定。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、講義レジュメを配布する。

【参考書】

講義のなかで適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）及びレポート（1回・40%）によって評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Understanding of national land policy

FRI300ED

特講（デジタル情報環境実習）

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・プランニング実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザイン思考」の視点と方法に基づきつつ、ウェブサービスやモバイルアプリの企画立案を行います（この授業で取り組むのはアプリの画面構成などを中心としたプロトタイプ制作までで、プログラミングは行いません）。エスノグラフィックな方法を中心とした生活者調査を行い、その知見に基づいて、独自のアイデアを導き出します。

【到達目標】

「デザイン思考」の視点と方法に基づいたプランニングの能力を身につけることを最終的な到達目標とします。同時に、ウェブやモバイルを中心としたデジタル情報環境について、ユーザーの視点から新たなデザイン提案をする能力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行われる一部の回を除いて、すべてグループワークの実習形式で行います。また、授業内で半期に2回程度のプレゼンテーションが課されます。調査、企画立案の進捗の度合いによって、スケジュールが変わることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の目標/課題の設定について
2	調査（1）	自分達のメディア利用行動を振り返る
3	調査（2）	日記式調査、行動文脈調査の手法解説
4	調査（3）	調査の知見の検討～魅力的な仮説を作り出す
5	調査（4）	調査の知見の検討～仮説をブラッシュアップする
6	調査（5）	調査結果のプレゼンテーション
7	プロトタイピング（1）	アイデア出しとペーパープロトタイピング
8	プロトタイピング（2）	プロトタイプの作成
9	プロトタイピング（3）	ペルソナシナリオの作成
10	プロトタイピング（4）	プロトタイプの修正
11	デモ動画の作成（1）	企画したサービスのデモ動画用絵コンテを作成する
12	デモ動画の作成（2）	デモ動画の映像素材撮影
13	デモ動画の作成（3）	デモ動画の編集
14	最終プレゼンテーション	企画案のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査・制作の作業の多くはグループごとに課外の時間を使って行うことになります。さらに、企画の段階でも必要に応じてグループでの作業が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。参考書の中から適宜必要な文献を紹介していきます。

【参考書】

ドミニク・チェン（2015）『脳のレリギオ:ビッグデータ社会で心をつくる』NTT出版

トム・ケリー&ジョナサン・リットマン（2002）『発想する会社—世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房

岩密博論（2016）『機会発見—生活者起点で市場をつくる』英治出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、各期の最終課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが軌道に乗るまでにはコミュニケーションの上で色々な難しさもありますが、その点についても適宜指導していきます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業でノートパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

・グループワークで作業が進みますので、チームでの作業を好まない人、出席に自信のない人は履修を避けて下さい（原則としてすべての回に出席するつもりのある学生のみ履修して下さい）。

・2017年度以前入学者については、この科目は通年科目（ウェブ・プランニング実習）となっています。このシラバスは秋学期の内容となりますので、春学期の内容については「デジタル情報環境実習」のシラバスを確認して下さい。2018年度以降入学者は、春学期の「デジタル情報環境分析」に加えて、この科目もセットで履修することが可能です（必須ではありません）。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge to design the user experience of digital media. It also enhances the development of students' skill in ethnographic research of digital media use.

LANj300EA

特講（ビジネス日本語）

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

第1回の授業は、4月22日（水）です。第1回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2回目以降については、第1回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	報告書の書き方	報告書の書き方
第2回	履歴書	履歴書を作成する
第3回	自己PR	自己PRを書く
第4回	面接（1）	敬語の基礎知識
第5回	面接（2）	個人面接
第6回	面接（3）	グループ討論
第7回	ビジネスメール（1）	許可求め
第8回	ビジネスメール（2）	依頼／断り
第9回	ビジネスメール（3）	謝罪／説明
第10回	社内での会話（1）	確認／報告
第11回	社内での会話（2）	依頼／要望
第12回	社内での会話（3）	交渉
第13回	異文化摩擦	ケース学習 話し合い
第14回	異文化摩擦	ケース学習 ロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習【教材編】』近藤他（2013）ココ出版（1600円税抜）

『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1500円税抜）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 50 %，定期テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

LANj300EA

特講（ビジネス日本語）

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけでなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず初めに履歴書を書くといった課題に取り組む。それから、言語表現や日本の慣習等を学び再度課題に取り組む。授業後には、授業の内容を報告書にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	報告書の書き方	報告書の書き方
第2回	履歴書	履歴書を作成する
第3回	自己PR	自己PRを書く
第4回	面接（1）	敬語の基礎知識
第5回	面接（2）	個人面接
第6回	面接（3）	グループ討論
第7回	ビジネスメール（1）	許可求め
第8回	ビジネスメール（2）	依頼/断り
第9回	ビジネスメール（3）	謝罪/説明
第10回	社内での会話（1）	確認/報告
第11回	社内での会話（2）	依頼/要望
第12回	社内での会話（3）	交渉
第13回	異文化摩擦のケース学習（1）	読解と話し合い
第14回	異文化摩擦のケース学習（2）	ロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習【教材編】』近藤彩他（2013）ココ出版（1600円税抜）
『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1500円税抜）

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題等提出物50%、定期テスト30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

SOC200ED

特講（ローカルジャーナリズム論）

土橋 臣吾

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ソーシャルメディアの登場により誰もが情報を発信できるようになり、東京を経由せずとも、地域から地域へとニュースは伝わるようになりました。このようなメディア環境により、地域に根ざし、地域の課題解決を実践する、ローカルジャーナリズムが新たな展開を見せています。この授業では、地方新聞やローカルテレビ局による調査報道やデジタル展開などを事例に、ローカルジャーナリズムの可能性と課題を学びます。

【到達目標】

地域社会の課題を知り、解決について自ら考える力を身につける。全国メディアとは異なるローカルジャーナリズムの魅力を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義に加えワークショップを実施することで、講師や学生と議論することでより深い理解につながるよう進めていく。なお、授業計画については、展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ローカルメディアの課題と可能性
第2回	課題と向き合う(1)	地域における課題
第3回	課題と向き合う(2)	地域からの発信
第4回	課題と向き合う(3)	地域と大規模災害
第5回	ワークショップ	ローカルジャーナリズムと地域課題について考える
第6回	地域とつながる(1)	報道でつながる
第7回	地域とつながる(2)	まちづくりでつながる
第8回	地域とつながる(3)	知識でつながる
第9回	ワークショップ	ローカルジャーナリズムと地域のつながりについて考える
第10回	地域を伝える(1)	ローカルジャーナリズムの新たなデザイン
第11回	地域を伝える(2)	ローカルジャーナリズムの課題
第12回	地域を伝える(3)	ローカルジャーナリズムの可能性
第13回	ワークショップ	ローカルジャーナリズムの未来について考える
第14回	まとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義とワークショップを組み合わせで行いますので、積極的に参加してください。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

寺島英弥（2005年）『シビック・ジャーナリズムの挑戦—コミュニティとつながる米国の地方紙』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、平常点40%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者はガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。この授業は、オータムセッションの集中講義として行われます。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the possibilities and challenges of local journalism.

LANe300EA

Topics in Comparative Culture

ジョージ・ハン

サブタイトル：Comparative Culture

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who:

- 1) plan to study abroad in an English-speaking country
- 2) have returned to Japan after living in an English-speaking country
- 3) wish to learn more about world cultures

【到達目標】

This course has three goals: 1) to show students who will soon study abroad what to expect from a North American classroom environment; 2) to allow students returning from study abroad to maintain their English level; 3) to introduce students to current topics in cross-cultural communication and understanding.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, most of the spring semester will be conducted online. Please note that this class will start on MAY 5, 2020.

Each lecture is based on a reading which focuses on a subtopic within the field of Comparative Culture. Students will engage in group and class discussions on the topic. Students will also perform independent research on one of the lecture topics and make a team presentation of their findings.

Past topics have included (but are not limited to):

- Language and Culture
- Work and Leisure
- Religion and Spirituality
- Monocultures vs Multicultures
- Marriage and Family Structure
- Cultural Imperialism
- Sexuality

PLEASE NOTE THE FOLLOWING:

1)THIS CLASS IS CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH. Students with no confidence in their English listening or speaking skills should NOT take this class.

2)Students must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Interviews and introductions; Topic 01 introduction
2	Topic 01: What is Culture?	Introduction to macro culture and micro culture
3	Topics 01-02	Topics 01 and 02: Assimilation vs accommodation
4	Topics 02-03	Topics 02 and 03: LGBT culture in Japan and abroad
5	Topics 03-04	Topics 03 and 04: Leaving the nest
6	Topics 04-05	Topics 04 and 05: Work ethic - Japan vs. Europe
7	Topics 05-06	Topics 05 and 06: Proxemics
8	Topics 06-07	Topics 06 and 07: Can culture be protected?
9	Topics 07-08	Topics 07 and 08: World religions
10	Topics 08-09	Topics 08 and 09: Love and marriage
11	Research Day	Preparations for reports and presentations.
12	Topics 09-10	Topics 09 and 10: Education systems
13	Presentations 01	Research group presentations
14	Presentations 02	Research group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Handouts provided by instructor

【参考書】
To be announced in class

【成績評価の方法と基準】
NOTE: As most of the spring semester will be conducted online, there will be changes to the grading criteria. Details will be posted on Hoppii on the first day of class.

Participation: 50%
Team Research Presentation: 25%
Research Report: 25%

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
Each 100 minute class is a rare opportunity for you to interact in English. Don't waste the opportunity. Participate and you will do well. Don't participate, and you will fail.

【Outline and objectives】
This class is for students who:
1) plan to study abroad in an English-speaking country
2) have returned to Japan after living in an English-speaking country
3) wish to learn more about world cultures

ECN200EB

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学ぶものである。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
2 回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
3 回	白書の読み方	『経済白書』『経済財政白書』を読む
4 回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
5 回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
6 回	戦後日本の経済発展 (1)	戦後日本の経済復興
7 回	戦後日本の経済発展 (2)	高度成長時代から低成長時代へ
8 回	戦後日本の経済発展 (3)	戦後日本のエネルギー政策
9 回	戦後日本の経済発展 (4)	バブル景気とそのメカニズム
10 回	日本の長期経済停滞 (1)	バブル崩壊後の日本経済
11 回	日本の長期経済停滞 (2)	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
12 回	ICT 化社会と日本経済	ICT 化の進展と経済構造の変化
13 回	日本の農業政策	日本の農業政策と農業構造問題
14 回	日本経済論のまとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から各メディアの報道を通じて、日本経済の動向に目を向けておく。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第 5 版]』日本評論社、2016 年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第 3 版]』東洋経済新報社、2019 年。
3. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (70%)、平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーで寄せられた学生からの意見を講義に反映させていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy.

LANj100EA

日本語 1 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第 1 回の授業は、4 月 24 日（金）です。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつと提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 実力試しテスト	授業の説明、簡単な自己紹介 今時点での文章作成力のチェック
2	L1(1) 書き言葉に統一する	書き言葉の文末と接続表現の理解 書き言葉と話し言葉の使い分け
3	L2(1) 文の意味を明確にする	同じ接続表現の繰り返しを避ける練習 長文を避けて意味をわかりやすくする練習
4	L3(1) 「こと」と「の」を使い分ける	「こと」と「の」の使い分けの理解 文法的な間違いをなくす練習 学術的な文章を書く練習
5	L4(1) 文をシンプルにする	名詞化にする方法の理解 名詞化と助詞の理解 名詞化を正確に使う練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L5(1) 語彙を適切に選択する 1	レポート・論文でよく使う語彙 「漢語+する」が使える場合と使えない場合
9	L5(2) 語彙を適切に選択する 2	類義語や漢語を適切に使う練習
10	L6(1) 文を首尾一貫させる 1	文頭と文末の呼応のさせ方
11	L6(2) 文を首尾一貫させる 2	文頭と文末を適切に呼応させる練習
12	L7(1) 形が似ている表現を使い分ける	形が似ている助詞相当語の使い分け
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
- ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
- ・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
- ・（復習）添削された作文を見直すこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】

石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の 1 週目から必ず出席してください。

LANj100EA

日本語 1 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第1回の授業は、4月24日（金）です。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつと提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 実力試しテスト	授業の説明、簡単な自己紹介 今時点での文章作成力のチェック
2	L1(1) 書き言葉に統一する	書き言葉の文末と接続表現の理解 書き言葉と話し言葉の使い分け
3	L2(1) 文の意味を明確にする	同じ接続表現の繰り返しを避ける練習 長文を避けて意味をわかりやすくする練習
4	L3(1) 「こと」と「の」を使い分ける	「こと」と「の」の使い分けの理解 文法的な間違いをなくす練習 学術的な文章を書く練習
5	L4(1) 文をシンプルにする	名詞化にする方法の理解 名詞化と助詞の理解 名詞化を正確に使う練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L5(1) 語彙を適切に選択する 1	レポート・論文でよく使う語彙 「漢語+する」が使える場合と使えない場合
9	L5(2) 語彙を適切に選択する 2	類義語や漢語を適切に使う練習
10	L6(1) 文を首尾一貫させる 1	文頭と文末の呼応のさせ方
11	L6(2) 文を首尾一貫させる 2	文頭と文末を適切に呼応させる練習
12	L7(1) 形が似ている表現を使い分ける	形が似ている助詞相当語の使い分け
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
- ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
- ・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
- ・（復習）添削された作文を見直すこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】

石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の1週目から必ず出席してください。

LANj100EA

日本語 1 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第 1 回の授業は、4 月 24 日（金）です。第 1 回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2 回目以降については、第 1 回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／リアクションペーパーの書き方	授業の説明／リアクションペーパーの書き方を学ぶ
第 2 回	意見文	意見文の作成
第 3 回	表現の学習（1）	第 1 課 書き言葉
第 4 回	要約文	要約文の作成
第 5 回	表現の学習（2）	第 10 課 タ形・テイル形
第 6 回	説明文（原因・理由）	説明文の作成
第 7 回	表現の学習（3）	第 3 課 「こと」と「の」
第 8 回	表現の学習（4）	第 6 課 文の首尾を一貫させる
第 9 回	意見文	意見文の作成
第 10 回	表現の学習（5）	第 2 課 複文
第 11 回	表現の学習（6）	第 4 課 語や節の名詞化
第 12 回	表現の学習（7）	第 5 課 語彙の使い分け
第 13 回	レポート	レポートの作成
第 14 回	試験・まとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。教科書の予習と復習、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』（1,600 円税抜）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %、課題等提出物 40 %、定期テスト 35 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - I

李 址遠

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 4 月 24 日とする。この日に具体的なオンライン授業の方法およびそれに伴う授業計画の変更などを学習支援システムで提示する。なお、本授業は主な情報の提示・共有の手段として Google Classroom を用いる。Google Classroom への参加のためのクラスコードは、学習支援システムおよび法政大学の個人メールを通して通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業運営に関する説明と実力試しテスト
2	L1 書き言葉	書き言葉の文体、語彙や表現に関する講義と練習
3	L2 文の意味の明確化	接続表現の工夫および、長文を避けることに関する講義と練習
4	L3「こと」と「の」の使い分け	「こと」および「の」の意味と用法に関する講義と練習
5	L4 文の単純化	節の名詞化に関する講義と練習
6	L1~L4 まとめテスト／作文①	試験・まとめと解説／作文①の検討と修正
7	L5 適切な語彙の選択	レポートにおける語彙の使い分けおよび「漢語＋する」に関する講義と練習
8	L6 文の首尾一貫性	文頭と文末の呼応および、副詞・疑問詞との呼応に関する講義と練習
9	L7 形が似ている表現の使い分け	形が似ている助詞相当語の使い分けに関する講義と練習
10	L5~L7 まとめテスト／作文②	試験・まとめと解説／作文②の検討と修正
11	レポート作成準備	テーマ決めとアンケート項目の検討
12	アンケート調査	アンケートの実施と結果まとめ、アウトライン作成
13	レポートの検討	レポートの読み合いとフィードバック
14	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とします。
・準備：次の授業で扱うテキストの課を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。授業の中でもらったフィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの問題を解きながら、教師の補足説明を聞く。
- ②課題作文を書く。
- ③課題作文の添削部分を見直す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップ 実力試しテスト、春学期の復習	夏季休暇中の出来事についてディスカッション 今時点での文章作成力のチェック
2	L8(1)「は」と「が」を使い分ける	「は」と「が」の使い分け 対比の「は」と主題化の「は」の理解
3	L9(1) 書き手の視点を示す	「他動詞/使役形」と「自動詞/受身形」の使い分け レポート・論文中の「自・他」「使役・受身」の使い分け
4	L10(1) 過去と現在のつながりを示す	「ル形・タ形・テイル形」の使い分け 「テイタ形・テイル形」「テイル形・タ形」の使い分け
5	L11(1) 文章の中の語を指し示す	指示詞の使い分け 指示詞を使った定型表現の練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L12(1) 前後の関係を表す 1	レポート・論文で使われる接続詞・接続表現の練習
9	L12(2) 前後の関係を表す 2	間違えやすい接続詞の練習
10	L13(1) 前の文に関係づける 1	「のだ文」の特徴の理解
11	L13(2) 前の文に関係づける 2	「のだ文」の用法の理解
12	L14(1) 効果的に意見を述べる	自分の意見と他者の意見の区別
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
- ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
- ・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
- ・（復習）添削された作文を見直すこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】

石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの問題を解きながら、教師の補足説明を聞く。
- ②課題作文を書く。
- ③課題作文の添削部分を見直す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップ 実力試しテスト、春学期の復習	夏季休暇中の出来事についてディスカッション 今時点での文章作成力のチェック
2	L8(1)「は」と「が」を使い分ける	「は」と「が」の使い分け 対比の「は」と主題化の「は」の理解
3	L9(1) 書き手の視点を示す	「他動詞/使役形」と「自動詞/受身形」の使い分け レポート・論文中の「自・他」「使役・受身」の使い分け
4	L10(1) 過去と現在のつながりを示す	「ル形・タ形・テイル形」の使い分け 「テイタ形・テイル形」「テイル形・タ形」の使い分け
5	L11(1) 文章の中の語を指し示す	指示詞の使い分け 指示詞を使った定型表現の練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L12(1) 前後の関係を表す 1	レポート・論文で使われる接続詞・接続表現の練習
9	L12(2) 前後の関係を表す 2	間違えやすい接続詞の練習
10	L13(1) 前の文に関係づける 1	「のだ文」の特徴の理解
11	L13(2) 前の文に関係づける 2	「のだ文」の用法の理解
12	L14(1) 効果的に意見を述べる	自分の意見と他者の意見の区別
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
- ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
- ・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
- ・（復習）添削された作文を見直すこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】

石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初めに意見文やレポートを書いてみる。それから、表現や語彙を学び、学んだ語彙や表現を使いながら、意見文やレポートを修正していく。そして、受講生同士でレポートを読みあい、話し合いを行う。また、各課ごとに、語彙や表現のクイズを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	要約	要約文の作成
第 2 回	表現の学習（1）	第 7 課 類似表現
第 3 回	説明文（社会現象）	説明文の作成
第 4 回	表現の学習（2）	第 8 課 「は」と「が」
第 5 回	説明文（原因・理由）	説明文の作成
第 6 回	表現の学習（3）	第 9 課 動詞の自他
第 7 回	意見文	意見文の作成
第 8 回	表現の学習（4）	第 11 課 「こ」と「そ」
第 9 回	表現の学習（5）	第 12 課 接続詞
第 10 回	レポート	アウトラインの作成
第 11 回	表現の学習（6）	第 13 課 のだ文
第 12 回	表現の学習（7）	第 14 課 文末表現
第 13 回	レポート	レポートの作成
第 14 回	試験・まとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。教科書の予習と復習、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』（1,600 円税抜）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

李 址遠

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は、①日本語で文章を書くために必要となる語彙や表現に関する学習と、②授業で学んだ語彙や表現を用いた作文・レポートの作成および検討という二つの部分からなる。①はテキストをベースとした講義と練習を中心に、②はグループでの話し合いを中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業運営に関する説明
	L8「は」と「が」の使い分け	「は」と「が」の意味・用法に関する講義と練習
2	L9 書き手の視点	自動詞と他動詞、受身形と使役形に関する講義と練習
3	L10 過去と現在のつながり	ル形、タ形、テイル形、テイタ形の使い分けに関する講義と練習
4	L11 文中の語の指し示し方	指示詞「こ」と「そ」の使い分けに関する講義と練習
5	L8~L11 まとめテスト／作文①	試験・まとめと解説／作文①の検討と修正
6	L12 前後の関係の表し方	接続詞・接続表現の使い分けに関する講義と練習
7	L13 前の文への関係づけ	「のだ」の使い方に関する講義と練習
8	L14 効果的な意見の述べ方	意見を述べる文末表現の使い分けに関する講義と練習
9	L12~L14 まとめテスト／作文②	試験・まとめと解説／作文②の検討と修正
10	レポートの作成準備	テーマ決めと調査方法の検討
11	アウトライン	レポートのアウトラインの作成と検討
12	初稿の検討	初稿の読み合いとフィードバック
13	修正稿の検討	修正稿の読み合いとフィードバック
14	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とします。
・準備：次の授業で扱うテキストの課を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。授業の中でもらったフィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】

『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』小森万里・三井久美子著、くろしお出版、2016 年、1,600 円＋税

【参考書】

『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・平常点 25 %
・課題等提出物 40 %（作文 10 % ×2、レポート 20 %）
・定期テスト 35 %（まとめテスト 10 % ×2、期末テスト 15 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第 1 回の授業は、4 月 22 日 (水) です。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつと提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表準備、読解、討論	発表の基本的な技術の確認 ②都市の暮らし・地方の暮らし ③日本の旅を楽しもう
3	発表、読解、討論	④いただきます!
4	発表、読解、討論	⑤季節を楽しむ年中行事
5	発表、読解、討論	⑥知っておきたい日本の歴史
6	発表、読解、討論	⑦伝統文化体験
7	発表、読解、討論	中間試験
8	発表、読解、討論	⑧現代文化とポップカルチャー
9	発表、読解、討論	⑨スポーツの楽しみ方
10	発表、読解、討論	⑩教育と子供たち
11	発表、読解、討論	⑪政治と憲法
12	発表、読解、討論	⑫多文化共生社会を目指して
13	発表、読解、討論	試験・まとめと解説
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
 - ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくる。
 - ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第 1 回の授業は、4 月 22 日 (水) です。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつと提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表準備、読解、討論	発表の基本的な技術の確認 ②都市の暮らし・地方の暮らし ③日本の旅を楽しもう
3	発表、読解、討論	④いただきます!
4	発表、読解、討論	⑤季節を楽しむ年中行事
5	発表、読解、討論	⑥知っておきたい日本の歴史
6	発表、読解、討論	⑦伝統文化体験
7	発表、読解、討論	中間試験
8	発表、読解、討論	⑧現代文化とポップカルチャー
9	発表、読解、討論	⑨スポーツの楽しみ方
10	発表、読解、討論	⑩教育と子供たち
11	発表、読解、討論	⑪政治と憲法
12	発表、読解、討論	⑫多文化共生社会を目指して
13	発表、読解、討論	試験・まとめと解説
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
 - ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくる。
 - ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第1回の授業は、4月22日（水）です。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつと提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表準備、読解、討論	発表の基本的な技術の確認 ②都市の暮らし・地方の暮らし ③日本の旅を楽しもう ④いただきます！
3	発表、読解、討論	⑤季節を楽しむ年中行事
4	発表、読解、討論	⑥知っておきたい日本の歴史
5	発表、読解、討論	⑦伝統文化体験
6	発表、読解、討論	⑧現代文化とポップカルチャー
7	発表、読解、討論	⑨スポーツの楽しみ方
8	発表、読解、討論	⑩教育と子供たち
9	発表、読解、討論	⑪政治と憲法
10	発表、読解、討論	⑫多文化共生社会を目指して
11	発表、読解、討論	試験・まとめと解説
12	発表、読解、討論	
13	発表、読解、討論	
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
 - ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
 - ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

授業の1週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200EA

日本語 2 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第1回の授業は、4月22日（水）です。第1回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。

2回目以降については、第1回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第2回	発表のし方	発表の構成、表現
第3回	1課日本ってどんな国？	教科書の読解と話し合い
第4回	1課日本ってどんな国？	受講生による発表
第5回	2課都市の暮らし・地方の暮らし	教科書の読解と話し合い
第6回	2課都市の暮らし・地方の暮らし	受講生による発表
第7回	中間テスト	中間テストを実施する
第8回	4課いただきます！	教科書の読解と話し合い
第9回	4課いただきます！	受講生による発表
第10回	9課スポーツ	教科書の読解と話し合い
第11回	9課スポーツ	受講生による発表
第12回	10課科学技術	教科書の読解と話し合い
第13回	10課科学技術	受講生による発表
第14回	まとめ/期末テスト	今学期の振り返り/期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』佐々木瑞枝（2017）The Japan Times（2,500円税抜）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②発表についての質疑応答を行う。
- ③テキストを読み、要点をまとめる。
- ④グループ討論を行う。

「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表、読解、討論	①覚えておきたい日本語の日常表現
3	発表、読解、討論	②日本の生活事情
4	発表、読解、討論	③日本の交通事情
5	発表、読解、討論	④留学生のための法律知識
6	発表、読解、討論	⑤日本人の食生活
7	発表、読解、討論	⑥日本の大学
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑦大学の四年間
10	発表、読解、討論	⑧現代日本と世界とのつながり
11	発表、読解、討論	⑨現代日本の家族
12	発表、読解、討論	⑩働く人々の諸問題
13	発表、読解、討論	⑪日本の方言
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
 - ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくる。
 - ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②発表についての質疑応答を行う。
- ③テキストを読み、要点をまとめる。
- ④グループ討論を行う。

「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表、読解、討論	①覚えておきたい日本語の日常表現
3	発表、読解、討論	②日本の生活事情
4	発表、読解、討論	③日本の交通事情
5	発表、読解、討論	④留学生のための法律知識
6	発表、読解、討論	⑤日本人の食生活
7	発表、読解、討論	⑥日本の大学
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑦大学の四年間
10	発表、読解、討論	⑧現代日本と世界とのつながり
11	発表、読解、討論	⑨現代日本の家族
12	発表、読解、討論	⑩働く人々の諸問題
13	発表、読解、討論	⑪日本の方言
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
 - ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくる。
 - ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②発表についての質疑応答を行う。
- ③テキストを読み、要点をまとめる。
- ④グループ討論を行う。

「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表、読解、討論	①覚えておきたい日本語の日常表現
3	発表、読解、討論	②日本の生活事情
4	発表、読解、討論	③日本の交通事情
5	発表、読解、討論	④留学生のための法律知識
6	発表、読解、討論	⑤日本人の食生活
7	発表、読解、討論	⑥日本の大学
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑦大学の四年間
10	発表、読解、討論	⑧現代日本と世界とのつながり
11	発表、読解、討論	⑨現代日本の家族
12	発表、読解、討論	⑩働く人々の諸問題
13	発表、読解、討論	⑪日本の方言
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
 - ・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
 - ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200EA

日本語 2 - II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、日本の社会と文化についてのテキストを読み、日本の社会への理解を深める。担当者は、テキストの担当部分をまとめ発表し、質疑応答を行う。テキストは、授業中に指示する。また、各課毎に単語と漢字（読み）の小テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	発表のし方	発表の構成、表現、質疑応答の方法を学ぶ
第 3 回	時事問題 1	テキストの読解と話し合い
第 4 回	時事問題 1	受講生による発表
第 5 回	時事問題 2	テキストの読解と話し合い
第 6 回	時事問題 2	受講生による発表
第 7 回	中間テスト	中間テスト
第 8 回	時事問題 3	テキストの読解と話し合い
第 9 回	時事問題 3	受講生による発表
第 10 回	時事問題 4	テキストの読解と話し合い
第 11 回	時事問題 4	受講生による発表
第 12 回	時事問題 5	テキストの読解と話し合い
第 13 回	時事問題 5	受講生による発表
第 14 回	まとめ / 期末テスト	今学期の振り返りと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。テキストの予習と復習、発表の準備などに取り組む。

【テキスト（教科書）】

初回の授業で指示をする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。各回のはじめに、5分ほど聴解力を伸ばすための練習も行う。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②論理的な文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。
- ④紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントを正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、この授業のオンライン授業の開始は5月8日とする。学生の皆さんのIT環境アンケートの結果をみて、zoomや、Google classroom、LINE、wechatなどの連絡方法を決める。教室での対面授業が開始されたら、次のように実施する予定。授業の始めに毎回5分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。ピア学習により、毎回資料（レポート失敗例など）を読み、ディスカッションした後、自分の意見をレポートにまとめる。書いたレポートは相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション レポートとは何か	レポートの構成要素を知る。レポートを読んでみる（日本語レベルチェック）。
第2回	パラグラフ・ライティングとは何か	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第3回	パラグラフ・ライティング（論を展開する）	パラグラフ・ライティングにおいて論を展開するとはどういうことかを学ぶ。
第4回	図表の説明	図表の説明を書く。
第5回	引用とは	引用のルールを学ぶ。
第6回	引用を効果的に使う	引用を効果的に使用して自分の意見を述べる文を書く。
第7回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み、話し合う。
第8回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ。
第9回	論理的であるとは？	論理的であるとはどういうことかを考え、論理的な文章を書いてみる。
第10回	アウトラインの作成	レポートのアウトラインを作成する。
第11回	主張と根拠の書き方	レポートの主張と根拠を書く。
第12回	予想される反論と反駁	主張に対する予想される反論と反駁を書く。
第13回	序論と結びの書き方	序論とむすびの書き方を学ぶ。
第14回	ふりかえり（ピア・レスポンス）	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。レポート課題に応じた資料の予習・復習等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『5分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）
その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題等提出物40%、期末レポート40%（ただし、春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにより、成績評価の方法を変更する場合は、5月8日の授業開始日に授業支援システムに掲示する）

【学生の意見等からの気づき】

音の聞きわけは役に立つ、との声が多かったのなるべく実施回数を多くしたい。先輩社会人の話を聞いて良かったとのことで、20年度も可能なら実施したい。グループワークがもっと欲しいとの声があったので増やす予定である。

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学んでいき、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。各回のはじめに、5分ほど聴解力を伸ばすための練習も行う。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②論理的な文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。
- ④紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントを正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、この授業のオンライン授業の開始は5月8日とする。学生の皆さんのIT環境アンケートの結果をみて、zoomや、Google classroom、LINE、wechatなどの連絡方法を決める。教室での対面授業が開始されたら、次のように実施する予定。授業の始めに毎回5分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。ピア学習により、毎回資料（レポート失敗例など）を読み、ディスカッションした後、自分の意見をレポートにまとめる。書いたレポートは相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション レポートとは何か	レポートの構成要素を知る。レポートを読んでみる（日本語レベルチェック）。
第2回	パラグラフ・ライティングとは何か	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第3回	パラグラフ・ライティング（論を展開する）	パラグラフ・ライティングにおいて論を展開するとはどういうことかを学ぶ。
第4回	図表の説明	図表の説明を書く。
第5回	引用とは	引用のルールを学ぶ。
第6回	引用を効果的に使う	引用を効果的に使用して自分の意見を述べる文を書く。
第7回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み、話し合う。
第8回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ。
第9回	論理的であるとは？	論理的であるとはどういうことかを考え、論理的な文章を書いてみる。
第10回	アウトラインの作成	レポートのアウトラインを作成する。
第11回	主張と根拠の書き方	レポートの主張と根拠を書く。
第12回	予想される反論と反駁	主張に対する予想される反論と反駁を書く。
第13回	序論と結びの書き方	序論とむすびの書き方を学ぶ。
第14回	ふりかえり（ピア・レスポンス）	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。レポート課題に応じた資料の予習・復習等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『5分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）
その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題等提出物40%、期末レポート40%（ただし、春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにより、成績評価の方法を変更する場合は、5月8日の授業開始日に授業支援システムに掲示する予定）

【学生の意見等からの気づき】

音の聞きわけは役に立つ、との声が多かったのなるべく実施回数を多くしたい。先輩社会人の話を聞いて良かったとのことで、20年度も可能なら実施したい。グループワークがもっと欲しいとの声があったので増やす予定である。

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。各回のはじめに、5分ほど聴解力を伸ばすための練習も行う。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②論理的な文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。
- ④紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントを正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、この授業のオンライン授業の開始は5月8日とする。学生の皆さんのIT環境アンケートの結果をみて、zoomや、Google classroom、LINE、wechatなどの連絡方法を決める。教室での対面授業が開始されたら、次のように実施する予定。授業の始めに毎回5分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。ピア学習により、毎回資料（レポート失敗例など）を読み、ディスカッションした後、自分の意見をレポートにまとめる。書いたレポートは相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション レポートとは何か	レポートの構成要素を知る。レポートを読んでみる（日本語レベルチェック）。
第2回	パラグラフ・ライティングとは何か	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第3回	パラグラフ・ライティング（論を展開する）	パラグラフ・ライティングにおいて論を展開するとはどういうことかを学ぶ。
第4回	図表の説明	図表の説明を書く。
第5回	引用とは	引用のルールを学ぶ。
第6回	引用を効果的に使う	引用を効果的に使用して自分の意見を述べる文を書く。
第7回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み、話し合う。
第8回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ。
第9回	論理的であるとは？	論理的であるとはどういうことかを考え、論理的な文章を書いてみる。
第10回	アウトラインの作成	レポートのアウトラインを作成する。
第11回	主張と根拠の書き方	レポートの主張と根拠を書く。
第12回	予想される反論と反駁	主張に対する予想される反論と反駁を書く。
第13回	序論と結びの書き方	序論とむすびの書き方を学ぶ。
第14回	ふりかえり（ピア・レスポンス）	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。レポート課題に応じた資料の予習・復習等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『5分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）
その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題等提出物40%、期末レポート40%（ただし、春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにより、成績評価の方法を変更する場合は、5月8日の授業開始日までに授業支援システムに掲示する予定）

【学生の意見等からの気づき】

音の聞きわけは役に立つ、との声が多かったのなるべく実施回数を多くしたい。先輩社会人の話を聞いて良かったとのことで、20年度も可能なら実施したい。グループワークがもっと欲しいとの声があったので増やす予定である。

LANj200EA

日本語 3 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論証型のレポートの作成方法を学ぶ。資料を読み、情報を整理し、論理的に自分の考えをまとめる力を養う。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②論理的な文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第 1 回の授業は、4 月 24 日（金）です。第 1 回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2 回目以降については、第 1 回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートとは何か	レポートの構成要素
第 2 回	パラグラフ・ライティング（1）	パラグラフ・ライティングで文章を書く
第 3 回	パラグラフ・ライティング（2）	論を展開する
第 4 回	図表の説明	図表の説明を書く
第 5 回	引用（1）	引用のルール
第 6 回	引用（2）	引用を効果的に使用する
第 7 回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み話し合う
第 8 回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ
第 9 回	論理的であるとは？	論理的な文章を書く
第 10 回	アウトラインの作成	アウトラインを作成する
第 11 回	主張と根拠の書き方	主張と根拠を書く
第 12 回	予想される反論と反駁	予想される反論と反駁を書く
第 13 回	序論と結びの書き方	序論と結びを書く
第 14 回	ピア・リーディング	完成したレポートを読み合い修正点を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】

『5 分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク（1,400 円税抜）
その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】

『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』近藤裕子他（2019）ひつじ書房（1,600 円税抜）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語 3 - II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。受講生は、発表に向けて計画的に情報収集をし、発表原稿を作成し、発表の準備をする。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表の準備の手順	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える
第 3 回	出来事とその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える練習をする
第 4 回	発表の準備	社会の現象とその原因の発表原稿を作成する
第 5 回	グループでの発表①	グループで社会の現象とその原因を発表する
第 6 回	意見と根拠を発表する	意見と根拠の発表原稿を作成する
第 7 回	グループでの発表②	グループで意見とその根拠を発表し、改善点を検討する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	受講生による発表①	受講生による発表と質疑応答を行う
第 10 回	受講生による発表②	受講生による発表と質疑応答を行う
第 11 回	受講生による発表③	受講生による発表と質疑応答を行う
第 12 回	受講生による発表④	受講生による発表と質疑応答を行う
第 13 回	受講生による発表⑤	受講生による発表と質疑応答を行う
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

聴解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。発表のレジュメ作成、レポート作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『5 分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク。その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】

『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』近藤裕子他（2019）ひつじ書房など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 40 %，発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

映像教材等で語彙や表現を学ぶことは自然な日本語の習得に役に立ったとの意見が多かった。20 年度もできる範囲で、レポートや発表の資料等として適宜新聞、映像などの生教材を扱いたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語 3 - II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。受講生は、発表に向けて計画的に情報収集をし、発表原稿を作成し、発表の準備をする。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表の準備の手順	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える
第 3 回	出来事とその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える練習をする
第 4 回	発表の準備	社会の現象とその原因の発表原稿を作成する
第 5 回	グループでの発表①	グループで社会の現象とその原因を発表する
第 6 回	意見と根拠を発表する	意見と根拠の発表原稿を作成する
第 7 回	グループでの発表②	グループで意見とその根拠を発表し、改善点を検討する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	受講生による発表①	受講生による発表と質疑応答を行う
第 10 回	受講生による発表②	受講生による発表と質疑応答を行う
第 11 回	受講生による発表③	受講生による発表と質疑応答を行う
第 12 回	受講生による発表④	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 13 回	受講生による発表⑤	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。発表のレジュメ作成、レポート作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

【5 分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング】宮本典以子・大崎伸城 (2011) スリーエーネットワーク。その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】

【失敗から学ぶ大学生のレポート作成法】近藤裕子他 (2019) ひつじ書房など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 40 %、発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

映像教材等で語彙や表現を学ぶことは自然な日本語の習得に役に立ったとの意見が多かった。20 年度もできる範囲で、レポートや発表の資料等として適宜新聞、映像などの生教材を扱いたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語 3 - II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。受講生は、発表に向けて計画的に情報収集をし、発表原稿を作成し、発表の準備をする。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表の準備の手順	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える
第 3 回	出来事とその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える練習をする
第 4 回	発表の準備	社会の現象とその原因の発表原稿を作成する
第 5 回	グループでの発表①	グループで社会の現象とその原因を発表する
第 6 回	意見と根拠を発表する	意見と根拠の発表原稿を作成する
第 7 回	グループでの発表②	グループで意見とその根拠を発表し、改善点を検討する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	受講生による発表①	受講生による発表と質疑応答を行う
第 10 回	受講生による発表②	受講生による発表と質疑応答を行う
第 11 回	受講生による発表③	受講生による発表と質疑応答を行う
第 12 回	受講生による発表④	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 13 回	受講生による発表⑤	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。発表のレジュメ作成、レポート作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

【5 分でできる にほんご音の聞きわけトレーニング】宮本典以子・大崎伸城 (2011) スリーエーネットワーク。その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】

【失敗から学ぶ大学生のレポート作成法】近藤裕子他 (2019) ひつじ書房など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 40 %、発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

映像教材等で語彙や表現を学ぶことは自然な日本語の習得に役に立ったとの意見が多かった。20 年度もできる範囲で、レポートや発表の資料等として適宜新聞、映像などの生教材を扱いたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。また、各回のはじめに、5分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	発表の準備の手順	わかりやすい発表とは？
第2回	情報のまとめ方	ニュースを伝える
第3回	情報のまとめ方	身近な問題とその原因を伝える
第4回	発表（現象と原因）	発表原稿を作成する
第5回	発表（現象と原因）	グループ内で発表する
第6回	発表（意見と根拠）	発表原稿を作成する
第7回	発表（意見と根拠）	グループ内で発表する
第8回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第9回	発表①	受講生による発表
第10回	発表②	受講生による発表
第11回	発表③	受講生による発表
第12回	発表④	受講生による発表
第13回	発表⑤	受講生による発表
第14回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】

5分のできる にはんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城(2011) スリーエーネットワーク (1,400 円税抜)
その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】

近藤裕子他 (2020)『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房 (1600 円税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 40 %、発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

SOC300ED

ニュース・ライティング

飯田 裕美子

サブタイトル：取材文章実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では抽象的な概念を学ぶことが多いと思います。一方、ジャーナリズムでは、事実を具体的に書くことが必要です。そのために必要なのは、踏み込んでディテールから核心を聞き出す質問力です。講師の実務経験（通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上）を参考に、マクロよりミクロ、鳥の目より虫の目で、具体的に文章を書く力を身につけてください。社会人として生きていく上で、必ず役に立つ力になると思います。

【到達目標】

文章が具体的に書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、相手の内側に踏み込んでいく取材が不可欠です。取材演習を通じ、「この言葉が引き出せたから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

7回の記事作成は、①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、メールで提出をお願いします。授業計画は、授業の展開によって変更になる場合もあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	取材の手法	ニュース記事の特徴。どんな準備をして何を取材するか
2	インタビュー1	人から話を引き出すには（記事作成1）
3	講評	互いに読み合う。どの記事が印象的か
4	取材1	ネタの探し方（記事作成2）
5	講評	ググっても出てこない事実が入っているか
6	インタビュー2	下調べと質問力（記事作成3）
7	講評	会って初めて分かったことは
8	取材2	対立する意見を扱う（記事作成4）
9	講評	読者に考える材料を与えられたか
10	インタビュー3	もう1歩踏み込む（記事作成5）
11	講評	その人にしか言えない言葉は
12	取材3	伝える技術（記事作成6）
13	講評	具体的に、分かりやすく書けているか
14	自由課題	（記事作成7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事は5日以内にメールで提出。記事の長さは毎回800～1000字程度です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】

そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

7回の記事作成（80%）と平常点（20%）で評価します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

学生生活に身近なテーマから取材対象を選んでいきます。

【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。メディアの仕事に興味をもつ方を特に歓迎しますが、限定ではありません。質問や文章に関する相談はメールでも受け付けます。

【Outline and objectives】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to write specifically, not theoretically.

SOC300ED

ニュース・ライティング

別府 三奈子

サブタイトル：取材文章実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公的記録としての記事について、ニュース価値、および、二つの文章構造を学ぶ。ストレートニュースは現場の状況・人間関係・因果関係の正確な記述、論評は主張とその根拠の明示が軸となる。後半では、ポートレート集「75 年前のあの日に」の作成を通して、人を記録する意義を熟考する（オンライン授業が続く場合は、学外での対面聞き取りではなく、別の方法を用いる可能性もある）。

【到達目標】

記事の分析と作成を通して、公的記録としてのニュース価値について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

様々なニュース・論評の分析作業と、個別の聞き取り作業によるポートレートの作成を行う。

→ 4 月 21 日更新：オンライン授業に対応し、履修人数によって、Hoppii をベースとする教材・課題・質疑やりとりと、双方向システムを利用した対面授業のバランスを考慮中です。初回授業は、4 月 29 日 13 : 40 に課題をシステムにアップします。最初の一カ月は、Hoppii ベースで理解を深めます。その後は双方向オンライン方式のピアレビューなども取り入れる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ニュース観察	真偽の根拠をめぐる視野
第 2 回	情報源の抽出	記者の動きと信ぴょう性
第 3 回	人間関係の抽出	力関係を明確にする人間関係図
第 4 回	因果関係の抽出	出来事を時系列で捉える年表化
第 5 回	早さと正確さの検討	ストレートニュース Q&A
第 6 回	「意見」の構造	意見の表明と根拠の提示
第 7 回	公論を耕す是非の根拠	個人の判断を支える根拠の多様性と客観性
第 8 回	編集企画と人選	なぜ今、その切り口か
第 9 回	説得力の考察	ピアレビュー 1
第 10 回	人を描く	何故、今、その人なのか
第 11 回	写真の持つ意味	その人の姿・イメージ
第 12 回	タイトル	先有傾向を想定する
第 13 回	今、聞き取る意義	ピアレビュー 2
第 14 回	振り返りと考察	公的記録の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

聞き取りと原稿制作は、ほぼ授業時間外で各自で行う。予習・復習に各 2 時間が目安。

【テキスト（教科書）】

4 月 29 日以降の授業にて、指示する予定。

【参考書】

『戦後史入門』成田龍一、河出文庫、2015 年

【成績評価の方法と基準】

授業期間内に提出された課題によって評価する予定。授業期間を通してのオンライン授業だった場合や、授業に双方向のピアレビューなどを組み込んだときは、成績評価方法に変更がある可能性もある。その時は、事前に説明し、学生さんの不利益にならないように配慮する。

【学生の意見等からの気づき】

ジャーナリズムに関する基礎知識を補足する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。配布教材でもお伝えしますが、学外から図書館データベースに入れるように準備してください。

【Outline and objectives】

Learn the news value and two sentence structures for articles as public records. In the second half, he ponders the significance of recording people through the creation of a portrait book, "That Day 75 Years Ago."

SOC100EC

人間・社会論

土倉 英志

サブタイトル：人間・社会論A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人や社会を研究するには視点（理論）と研究方法を欠くことができない。本講義では、心理学の観点から、人や社会をとらえるための研究方法に焦点をあてる。複数の研究方法を取り上げて、実際にデータを収集し、分析する。これにより、人の心や活動を、また、人びとが作り上げている社会を可視化することはどういうことなのかを理解することを目指す。

【到達目標】

- ・心理学の研究方法を理解できる
- ・現象をとらえるのに必要な研究方法を選択できる
- ・データに基づいた考察ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者によるワークを中心に展開する。適宜、教員が解説を加える。
- ・複数の研究方法について自らの手と足と頭を動かして学んでいく。
- ・個人で取り組む課題、グループで取り組む課題がある。
- ・成果は授業内で適宜報告してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	さまざまな研究方法、記述統計
2	心理学実験	心理学実験、実験計画、推測統計
3	観察法 (1)	さまざまな観察法
4	観察法 (2)	写真を活用した調査
5	観察法 (3)	ビデオを活用した調査
6	観察法 (4)	SNS を対象とする調査
7	質問紙と心理尺度 (1)	クロス集計、 χ^2 検定
8	質問紙と心理尺度 (2)	「心」を可視化するものさし
9	質問紙と心理尺度 (3)	SNS を活用した調査
10	質問紙と心理尺度 (4)	目に見えないものをとらえる
11	データ分析、資料作成 (1)	データ分析とプレゼン資料の作成
12	データ分析、資料作成 (2)	データ分析とプレゼン資料の作成
13	プレゼン (1)	受講者によるプレゼンと討論
14	プレゼン (2)、まとめ	受講者によるプレゼンと討論、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・データ収集、データ分析、報告資料の作成等、授業時間外に多くの取り組みが必要となります。
- ・授業時間外にグループで集まって作業を進めることが必要になります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない

【参考書】

・適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業内・外で課される課題）で評価する（100 %）。
- ・授業外の課題も多くある。こうした課題に取り組むことが重要になる。

【学生の意見等からの気づき】

・新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器等】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・受講者数が例年（50 名程度）を大きく上回る場合、スケジュールや進め方を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

Psychological research uses varied methodologies to approach phenomena for study. In this course, students learn about three of these psychological methodologies: experiment, questionnaire, and, particularly, observation. Students will obtain basic knowledge of psychological methodologies by collecting and analyzing data and reporting their research outcomes.

SOC100EB, SOC100EC, SOC100ED

人間・社会論 B

荒井 容子

サブタイトル：特講（社会問題を感じとる）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題と格闘する人々の事例・思想について学び、自分の感じ方・考え方・生き方と対比させながら、人間と社会に対する感性を豊かにし、認識を深めていくことを目的とする。

【到達目標】

人間と社会の関係を、自分自身のものの見方・考え方・生き方を問い返ししながら、深くとらえ、社会問題をとらえる感性、認識の深化に自覚的になることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会問題と格闘する人々の事例及び思想について自分の感じ方、考えを問い直す。その上でバズセッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）に臨む。この過程で社会問題を感じ取り、問題に取り組もうとする能動性につながる感性を磨き、人間と社会に関する認識を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 感じとる カーセンス・オブ・ワンダー-自然、そして社会へ	「センス・オブ・ワンダー」とはなんだろうー
2	第1ラウンド 感じとる カーセンス・オブ・ワンダー-自然、そして社会へ	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』をもとに考える。
3	第1ラウンド 感じとる カーセンス・オブ・ワンダー-自然、そして社会へ	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』と『沈黙の春』をつなぐもの。
4	第2ラウンド 社会の矛盾 社会の矛盾をつく眼差しはどこからくるのか	「ガタロさん」の眼差し
5	第2ラウンド 社会の矛盾 社会の矛盾をつく眼差しはどこからくるのか	自閉症の東田直樹さんの眼差し。
6	第2ラウンド 社会の矛盾 社会の矛盾をつく眼差しはどこからくるのか	パウロ・フレイレの識字教育実践—非抑圧者の人間化—
7	第2ラウンド 社会の矛盾 社会の矛盾をつく眼差しはどこからくるのか	夜間中学の教師がとらえた、学習者の「学ぶ」力。
8	第3ラウンド 「死」から「生」へ	山崎章郎『病院で死ぬということ』、キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』、「死」と向き合った様々な「生」
9	第3ラウンド 「死」から「生」へ	誰れも逃れられない「死」—「人間の共通の惨めさ」をとらえ返す
10	第4ラウンド 貧困・格差問題 再考	NHK 番組「ワーキングプア」の観賞
11	第4ラウンド 貧困・格差問題 再考	NHK 番組「ワーキングプア」I の感想をもとにバズセッション
12	第5ラウンド 社会と人間—原理的な問いを受けとめて	ジャンジャック・ルソ『人間不平等起源論』の問題提起について
13	第5ラウンド 社会と人間—原理的な問いを受けとめて	ジャンジャック・ルソ『社会契約論』と『エミル（エミール）』の構造
14	第6ラウンド 総括討議	各自のレポートをもとにバズセッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布・回収する「感想・意見メモ」は熟考する機会として活用してほしい。これは熟考し追記したのち次週に提出してもよい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する資料と授業計画で記述している文献。

【参考書】

授業計画で言及している文献のほか、講義時に紹介する文献。

【成績評価の方法と基準】

毎回配布・回収する講義内容に関する「感想・意見メモ」（本人が内省する契機とするためのものであるため、執筆者自身にとって無意味と思われることや名前だけの記述は減点とする）を 50 %、学期末に授業内試験として講義中に提出してもらった最終レポートを 50 % で評価する。この最終レポートをもとにしたバズ・セッションへの参加は単位取得のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

討議時にグループ分けをするかどうかは臨機応変に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain profound understanding about the people and society together with sensitivity about them. Some stories that people fight the social problems or some hardship they have faced will be provided. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

SOC200EA

人間論

鈴木 智之

サブタイトル：人間論A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度は、「この身体を生きる」と題して、「人間」存在の基盤としての「身体」と「生命」について、人文社会科学的な視点から考察することを目指す。

【到達目標】

私たちは、身体的な存在として、この世界の中に投げ込まれている。身体は、「私」そのものであると同時に、「私」がなにごとか行う上での条件でもある。

身体的な所与との関係において、私たちの生活はどのように形作られていくのか。「身体的存在」としての「私」は、どのように他者と関わり、自己を実現していくのか。

本年度は、さまざまな「疾患」や「障害」に着目しながら、「身体を生きる」ものとしての人間のありようを考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

当面のあいだ、オンラインで「教材」を提示することによって講義を進める。毎週、木曜日の夕方（5 時間目が始まる時間）までに教材を提示するので、原則としてその日の内に確認すること。

初回は、4 月 23 日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	身体的な存在としての「私」
第 2 回	「管」としての身体	三木成夫の生物形態学から
第 3 回	身体の発生	ジェイミー・デイヴィス『人体はこうして作られる』を中心に
第 4 回	この心臓を生きる (1)	先天性心疾患とともに生きる人の語りから
第 5 回	この心臓を生きる (2)	先天性心疾患とともに生きる人の生活史調査から
第 6 回	植物状態を生きる	A. オーウェン『生存する意識』と西村ユミ『語りかける身体』から
第 7 回	しびれている身体を生きる	坂井志織『しびれている身体で生きる』から
第 8 回	リスク論の世界の中で、身体の偶発性を生きる	磯野満穂・宮野真生子『急に具合が悪くなる』を読みながら
第 9 回	自閉症という存在様式	村上靖彦『自閉症の現象学』を読む
第 10 回	吃音を生きる	伊藤亜紗『どもる体』を中心に
第 11 回	透析を生きる (1)	「自己決定」の名のもとに
第 12 回	透析を生きる (2)	「ネガティブ・ケイバリティ」とともに
第 13 回	死にゆこうとする身体のために	「父の最後の 2 日間」から
第 14 回	まとめ	講義全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で参考にするテキストを指定する。そのテキストを読んだ上で、講義にのぞむことを原則とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

出席は評価に関与しない。学期末の試験によって評価する（100 %）ただし、コロナウィルスの感染状況によっては、教室での試験が行えない可能性がある。

その場合には、評価方法を変更することがあるので、学習支援システムに提示される情報に、よく注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

講義は身体的相互作用の場です。関係性から撤退して、情報だけを収集する態度をとるのはやめましょう。私も、情報をばらまくのではなく、聴き手との相互性を大切にするように努力します。

【その他の重要事項】

講義のプログラムは進めていく中で変更することもあります。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture are to inquire the points of view to understand the human being as bodily existence and to describe the concrete situations of illness and disability. .

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

人間論 B

宮下 阿子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「食ること × 生きること」をテーマとする。

「食ること」は人間が存在するために欠かせない営みである。私たちは「食ること」を通して、たんに自分の命を繋げるだけではなく、あまたの命やさまざまな他者と繋がりながら生きている。本講義では、毎回「食」に関わる具体的な題材を取り上げながら、私たち「人間」のありようについて考えていく。

【到達目標】

食の研究に関する知識や理解を深めるとともに、人間存在と食について、人文社会科学的な視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿って講義を進める。なお授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

出席は評価の対象としないが、毎回参加者にリアクションペーパーの提出を求め、適宜紹介・応答を試みる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	私たちは何をいかに食べているのか
第 2 回	食の記憶をたどる (1)	子どもの絵本を題材として
第 3 回	食の記憶をたどる (2)	食卓の風景から
第 4 回	食事を供する	キッチンにおけるジェンダー実践
第 5 回	選別する (1)	食べられるもの / 食べられないもの / 食べてはならないもの
第 6 回	喰う / 喰われる (1)	命を糧にすること
第 7 回	喰う / 喰われる (2)	他者の肉を食べること
第 8 回	食べる / 交わる / 繋がる (1)	吸血鬼の食餌を題材として、他
第 9 回	食べる / 交わる / 繋がる (2)	ロボットの食餌を題材として、他
第 10 回	選別する (2)	好き / 嫌い、良い / 悪い、他
第 11 回	食べない / 食べられない	食べることのこわさ (摂食障害の事例を通して)
第 12 回	食べたらずまらない	食べることのままならなさ (摂食障害の事例を通して)
第 13 回	共に食べる / 味わう / 噛みしめる	再び普通に食べるために (摂食障害の事例を中心に)
第 14 回	まとめ	講義の内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に応じて、参考文献を読み進めるとともに、自分が興味・関心を持ったテーマや題材について、自分なりに考察してみる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出してもらったレポートによって評価する (100%)。ただし履修者の人数によっては試験に変更する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to deepen knowledge and understanding of food studies.

HUI200ED

認知映像論

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、映像表現の在り方、および「映像作品を見る」という人間の行為について改めて問い直し、再考する授業である。映像作品の中でも、主に映画を取り上げる。今日、映像表現が私たちの生活に深く入り込んでいることを、様々な作品の鑑賞を通して学ぶ。また、映像を見る際の人間の認知（いわゆる心）について基礎的な知識を習得しながら、映像作品ひいては芸術全般と人間の関係性を考察していく。これらの講義に 2 回の映像作品鑑賞実習を交え、映像を見ることによって生じる人間の心の揺れ動きを、生で体感する。

【到達目標】

映像・映画の歴史と変遷を踏まえて、今日の映像表現（特に映画）がどのような状況にあるのかを統合的に理解できるようになることを 1 つ目の目標とする。それに基づき、人間の映像認知の特性や、人間と映像の関係性について、自分なりに分析し考察できるようになることを 2 つ目の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では多くの映像に実際に接し、認知的に生じる効果について、皆さんが提出するレポートやリアクションペーパーを基に議論していく。なお、通常時は授業開始 30 分後以降の教室への入室を禁じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、映像を見ることへのイントロダクション
第 2 回	メディアの歴史、映像の歴史	メディアの変遷と、映像・映画の誕生について
第 3 回	映像表現の理論 (1)	映像・映画の仕組みと、初期の映画について
第 4 回	映像表現の理論 (2)	ストーリーを認知するプロセスについて
第 5 回	第 1 回レポート課題	第 1 回レポート課題映像の上映
第 6 回	第 1 回レポート課題映像の解説	関連する作家や作品にも触れながら、課題映像について考察する
第 7 回	人間の心の理論 (1)	感情移入と共感について
第 8 回	人間の心の理論 (2)	感情移入と異化効果について
第 9 回	第 2 回レポート課題	第 2 回レポート課題映像の上映
第 10 回	第 2 回レポート課題映像の解説	関連する作家や作品にも触れながら、課題映像について考察する
第 11 回	芸術の理論	主として近代以降の芸術の変遷について
第 12 回	映像表現とリアリズム (1)	映像作品の細部を見る観点について
第 13 回	映像表現とリアリズム (2)	今日の映像表現の可能性について
第 14 回	まとめと授業内論文	半期の授業のまとめと、それに基づいた論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、次週までに自分なりに理解を深めておくこと。授業後は関連する映像を自主的に見てみる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート提出 60%（1 回あたり 30%）、最終授業内論文 40%をおおよその配分として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映中は、一切の電子機器の使用を禁じる。時間を見るのにも使わないこと。映像鑑賞環境の構築にご協力お願いいたします。

【その他の重要事項】

レポート課題映像を上映する日は早い時間に教室を閉め切るので、遅刻しないこと。

【Outline and objectives】

This course deals with the techniques of film and images, rhetoric, narrative, and cognition.

HUI300ED

認知科学

森 健治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活は、私たち自身すら意識しない知的な諸活動、すなわち認知機能の働きによって成り立っている。本講義は、人の生活を支える認知機能の仕組みをテーマとする。受講生は、記憶、注意など基礎的な認知の諸特性とその仕組みを学ぶ。さらに、ヒューマンエラー、認知の高齢化などのメカニズムを理解することで、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解し、また、社会を分析的に捉えることが出来るようになる。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<変更>

- ・本講義の開始日は、5/8(金)です。
- ・教室で講義が出来るようになるまで、学習支援システムを通じてオンラインで開講します。
- ・オンライン講義に伴う具体的な授業計画の変更については、初回の講義教材(5/8 公開)で提示します。
- ・講義形式によらず、当初の学習範囲を学び、目標に到達できるよう講義を展開する予定です。
- ・なお、授業の進め方と方法など講義の進め方全般について、社会情勢を踏まえ適宜変更の可能性をあることを念頭においてください。

<変更前>

各回のテーマについて講義形式で学習する。記憶や注意などの基礎的な認知機能の理解から始め、人工物(モノ)の利用など、日常場面での認知の働きについて学習を進める。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目的と目標を理解する
2	認知とは何か	私たちの「知」の捉え方を知る
3	記憶の多段階モデル	記憶のメカニズムを理解する
4	注意とは何か	注意の働きを理解する
5	記憶と注意のまとめ	記憶・注意のまとめと展開
6	ヒューマンエラー 1	人の失敗のメカニズムを学ぶ
7	ヒューマンエラー 2	社会生活におけるエラー発生と予防について
8	知識表現	知識がいかに蓄えられているか
9	問題解決	問題の解決過程を知る
10	認知的高齢化 1	加齢による認知機能の変化を学ぶ
11	認知的高齢化 2	認知加齢を理解し高齢社会を捉える
12	使いやすさの認知科学	モノの利用と認知、使いやすさについて学ぶ
13	魅力的なデザインと認知	感情、認知、ユーザ体験を考慮したデザインを学ぶ
14	総まとめ	まとめと復習、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容の理解に努め、分からない箇所については質問をする。講義を欠席した場合は、授業支援システムから配布資料を取得する。講義時間外の学習として、講義の復習及び紹介文献等の確認を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義時に適宜紹介します（各回の配布資料に記載します）。

【成績評価の方法と基準】

<変更>

- ・オンライン講義に伴い、成績評価の方法と基準も変更します。
- ・具体的な変更内容は、初回の講義教材(5/8 公開)で提示します。

<変更前>

期末試験を成績評価対象とします(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の進行速度や受講生の理解度をもとに、より分かりやすい講義となるよう努めます。特に、人間の認知機能と私たちの日常生活、社会との関わりをより理解できるように、講義で取り上げる話題や事例を工夫した講義内容にします。

【学生が準備すべき機器他】

<変更>

・学習支援システムにアクセスし、講義教材をダウンロードできる環境を準備してください。

<変更前>

・特になし

【Outline and objectives】

The theme of this lecture is the mechanism of the cognitive functions that support human life. Students learn about various characteristics of cognition such as memory, attention, and their mechanisms. Furthermore, by understanding the mechanisms such as human error and cognitive aging, students will be able to analytically comprehend our everyday life and society.

COT300ED

ネットワーク・プログラミング

堀 亜砂実

サブタイトル：データベース実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラムで Web サイトの情報を効率的に収集・抽出することを「Web スクレイピング」といい、昨今幅広く利用されています。この技術を身につけて、情報をより主体的に活用して社会や物事の考察に役立てられるようにします。

【到達目標】

1) プログラミング言語「Python」の基礎を習得しライブラリを活用したプログラムを作成できるようになること、2) 「Web スクレイピング」の手法を理解しプログラミング全般の有用性や活用法への理解を深めること、3) 与えられるままに情報をただ見るのではなく自らの見立てで情報を収集して物事を分析・考察できるようになること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Mac と UNIX の基本を確認した上で、Web スクレイピングの概念や Python の基礎を学び、最終的に Python で Web スクレイピングを行います。毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、試験の代わりに大課題を 2 回程度出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	MacOS と UNIX	MacOS と UNIX の基本操作
2	ディレクトリ構造	ディレクトリ構造を理解し操作する
3	テキストエディタ	テキストエディタ「Vim」を使う
4	シェルスクリプト	シェルスクリプトを作って活用する
5	Web スクレイピング	クローラーやスクレイピングを学ぶ
6	UNIX サーバの利用	ネットワークを介して UNIX を使う
7	Python の基礎-変数/関数	Python の変数や関数の扱いを学ぶ
8	Python の基礎-配列	Python での配列の使い方を学ぶ
9	復習	復習を兼ねたプログラムを作る
10	Python の基礎-条件分岐	Python での if 文を学ぶ
11	Python の基礎-繰り返し	Python での for 文を学ぶ
12	スクレイピング-基本	Python でスクレイピングを行う
13	スクレイピング-発展	目的に応じたスクレイピングを行う
14	まとめ	これまでに学んだ事柄を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・これまでに学んだプログラミングや UNIX の基礎を復習しておくこと。
・毎回新しい事柄を取り上げるので、復習を積極的に行うこと。
・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的・積極的に取り組むこと。
・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書の指定なし。参考文献や Web サイトを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

UNIX や Python、Web スクレイピングに触れるよいきっかけになった、授業でやったことを活用してみたという前向きな履修者揃いだったので、引き続き、自由な思考・新しい挑戦を志す若いみなさんに応えられるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業は社会学部棟 101 教室の Mac で行います。Mac を所有している必要はありませんが、操作に不慣れな場合は復習の時間を取るなどして下さい。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中および授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you understand how to get the data you want from websites. Finally, you develop some basic programs for crawling and scraping.

EDU200EC

発達・教育の理論 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代と近現代における、教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育思想、発達論について理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドと配布資料、映像資料を用いて講義を行い、リアクションペーパーで受講生の理解度を確かめながら進める。また、授業計画は適宜変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	education の語源と「発達」／教育を受ける権利と子どもの権利条約
第 2 回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第 3 回	子ども（観）の歴史	前近代の産育／ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第 4 回	児童中心主義の展開	ペスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第 5 回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第 6 回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第 7 回	帝国主義の展開と進歩主義教育	デュルケム/デューイ/ラッセル
第 8 回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第 9 回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン
第 10 回	発達の諸理論 (1)	ピアジェ/ゲゼル/ブルーナー
第 11 回	発達の諸理論 (2)	ヴィゴツキー/バンデューラ/ボウルビイ
第 12 回	発達の諸理論 (3)	A・フロイト/エリクソン/チオドロウ
第 13 回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第 14 回	教育における今日的課題	神経科学時代の子どもと教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。準備学習用の資料を事前に読み、講義での配布資料を講義を踏まえて復習し理解を深めること。普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道に注意するようにして欲しい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。資料プリントを随時配布するが、試験に必要なとなるので、整理して保存すること。

【参考書】

上笹一郎ほか編, 1977, 『日本子どもの歴史 1～7』 第一法規。
ジョージ・バターワース, ハリス・マーガレット, 1997, 『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』 ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：期末試験とリアクションペーパー (3 回)。
評価のウェイト：期末試験 (70%), リアクションペーパー (30%)
評価の基準：期末試験は、学習した内容と、しかるべき観点を正しく理解し、問いに適切に答えているか。リアクションペーパーについては、そのときのテーマに対して適切に理解して書いているか、注目して読ませてもらっている。

【学生の意見等からの気づき】

試験ではなくレポートを望む声が多いが、主体的で対話的な意見や考えの表明はリアクションペーパーを利用してもらい、講義の中でも何か工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義の前後、もしくはメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the modern/pres-modern history of education, philosophy of education and theories of human development to students taking this course.

EDU300EC

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代的課題に対応した新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

変化する社会の中で、学校教育の場も社会や地域、現代的課題に「開かれた学校」であることが求められ、その対応が学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドと配布資料、映像資料を用いて講義を行う。なお、授業計画は適宜変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第2回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第3回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第4回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第5回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第6回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第7回	学校のガバナンス	学校経営とアカウントビリティ
第8回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第9回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第10回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第11回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第12回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第13回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第14回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。準備学習用の資料を事前に読み、講義での配布資料を講義を踏まえて復習し理解を深めること。普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道に注意するようにして欲しい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。随時配布する資料プリントは試験に必要となるので、整理して保存すること。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）相澤真一ほか、2016、『子どもと貧困の戦後史』青弓社/佐藤晴雄、2017、『コミュニティ・スクールの成果と展望：スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房/グループ・ディダクティカ編、2012、『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房/田中正博、佐藤晴雄、2013、『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：期末試験とリアクションペーパー（3回）。
評価のウェイト：期末試験（70%）、リアクションペーパー（30%）
評価の基準：期末試験は学習内容と観点を正しく理解し適切に答えているか。リアクションペーパーはテーマに即して適切に理解しているか。

【学生の意見等からの気づき】

試験ではなくレポートを望む声が多いが、主体的に対話的な意見や考えの表明はリアクションペーパーを利用してもらい、講義の中でも何か工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録のこと。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義の前後、もしくはメールで受け付ける。発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the current education reform in Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

ART100EC

表象文化論 A

高橋 愛

サブタイトル：文化表象論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的な脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】

本授業では、言語テキスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

澤田肇、北山研二、南明日香共編『パリという首都風景の誕生——フランス大革命期から両大戦間まで』（上智大学出版、2014年）をテキストとするので、用意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明 表象を成立させるさまざまな要素や構造について
2	視覚に映る都市（1）	パリと変容する風景について——絵画的次元から写真的次元へ
3	視覚に映る都市（2）	ガラスのつくった近代の都市景観
4	視覚に映る都市（3）	遊歩者のパリ——カイユボットの眼差し
5	視覚に映る都市（4）	彫像狂のパリの景観形成と日本人作家たち
6	計画が作る都市（1）	地上の世界、地下の世界——十九世紀パリにおける「新鮮な空気」と「安全な水」
7	計画が作る都市（2）	そぞろ歩きの首都風景パリ——通り、公園をめぐって
8	計画が作る都市（3）	首都パリの霊性の場——パンテオンとサクレジュール
9	計画が作る都市（4）	空気と光を求めて——監獄改革と首都改造
10	文学が表す都市（1）	バルザックのパリ——歴史・小説・神話
11	文学が表す都市（2）	ゾラとパリの創出
12	文学が表す都市（3）	日本人作家と墓地——これもまた、パリ
13	全12回の変更に合わせて実施しない	なし
14	全12回の変更に合わせて実施しない	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

澤田肇、北山研二、南明日香共編『パリという首都風景の誕生——フランス大革命期から両大戦間まで』（上智大学出版、2014年）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も随時アクチュアルなテーマを交えて授業を進めたい。

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to help students understand the various cultural phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation.

ART200EC

表象文化論 B

野田 吉郎

サブタイトル：芸術文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「表象」の分析という観点から、日本戦後美術へのさまざまなアプローチを試みる。また、20 世紀後半から現代までの通史的な考察を行い、世界美術史における日本戦後美術、日本現代美術の特殊性について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 日本の戦後美術に関する基礎知識を身につける。
- 2) 現代美術の作品を多角的に分析する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

レジュメとパワーポイントを用いて講義を行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と補足、導入
2	記憶	原爆の図
3	物質	静物としての身体
4	記録	ルポルターージュ絵画
5	アクション（その1）	具体美術協会
6	アクション（その2）	ハイレッド・センター
7	メディア	実験工房
8	環境	日本万国博覧会（大阪万博）
9	制度（その1）	もの派
10	制度（その2）	美術館
11	ジェンダー	アンチ・アクション
12	テキスト	詩と批評
13	歴史	類としての美術、悪い場所
14	まとめと期末試験	総論、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 美術館で展覧会を鑑賞し、レポートを作成する。
- 2) 授業で紹介された参考文献を読み、知識を広げる（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点…… 20 %
レポート課題…… 30 %
期末試験…… 50 %

【学生の意見等からの気づき】

社会学部で開講する意義を確かめながら授業を進めていきたいと考える。

【その他の重要事項】

授業に関連して展覧会の鑑賞を求めることがある。その際の費用は自己負担となる。

【Outline and objectives】

This course introduces students to various approaches to postwar Japanese art.

SOC200EB, SOC200EC

福祉社会学 I

堅田 香緒里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の歴史/学説史を理解する。
- 2) 現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
- 3) これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※ 5/8 に初回授業を行います。詳細は、学習支援システムのお知らせ欄を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救貧法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジュム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジュム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	福祉国家論③	福祉レジュム論への批判と、新しいレジュム論
9	シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
10	自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	自立と依存	フェミニズム/障害学が投げかける問い
13	再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	授業内試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾（2011）『新版・福祉社会—包括の社会政策』有斐閣
平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人（2011）『社会福祉学』有斐閣
など

【成績評価の方法と基準】

原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state.

SOC300EB, SOC300EC

福祉社会学Ⅱ

堅田 香緒里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】

- 1) 既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
- 2) 福祉政策が現在直面している課題について理解する。
- 3) これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代的文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。
※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①：障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②：高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③：子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ソロマザー
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①：健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②：教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③：住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア、アクティベーション
13	新しい福祉政策②	ベーシックインカム、参加所得
14	授業内試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

三重野卓・平岡公一編（2006）『改訂版・福祉政策の理論と実際—福祉社会学研究入門』東信堂
坏洋一・堅田香緒里・金子充・西村貴直・畑本裕介（2011）『社会政策の視点—現代社会と福祉を考える』法律文化社

【成績評価の方法と基準】

原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出してもらったアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state.

PHY100CA

物理学Ⅰ

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月27日（月）とする。受講を希望する人は、4月30日（木）までには学習支援システムにアクセスし、授業内容などを確認すること。

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなからできて	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の4種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	二重スリット実験	素粒子の二面性を示す二重スリット実験について理解する
13	放射線	放射線とはどのようなものかを理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業内に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の実施により、変更となりました。

・毎回のオンライン課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術の発展と課題	科学技術の発展に伴って、現代社会にどのような問題が生じたかを考える
2	中間子	中間子について理解する
3	反物質	反物質の構成について理解する
4	素粒子を並べる	素粒子をグループ化し、法則性を理解する
5	粒子のカラー	素粒子の特性であるカラーを理解する
6	質量の正体	質量の実態について理解する
7	弱い力	素粒子論で考えられている、弱い力について理解する
8	対称性	対称性について理解する
9	ヒッグス場	ヒッグス場やヒッグス粒子について理解する
10	ニュートリノ	ニュートリノの特徴について理解する
11	対称性の破れ	対称性の破れと、それがもたらす物理学的な意義を理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業中に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

期末試験（秋学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP1についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月27日（月）とする。受講を希望する人は、4月30日（木）までには学習支援システムにアクセスし、授業内容などを確認すること。

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなにからできているか	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の4種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	二重スリット実験	素粒子の二面性を示す二重スリット実験について理解する
13	放射線	放射線とはどのようなものかを理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業内に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の実施により、変更となりました。

・毎回のオンライン課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術の発展と課題	科学技術の発展に伴って、現代社会にどのような問題が生じたかを考える
2	中間子	中間子について理解する
3	反物質	反物質の構成について理解する
4	素粒子を並べる	素粒子をグループ化し、法則性を理解する
5	粒子のカラー	素粒子の特性であるカラーを理解する
6	質量の正体	質量の実態について理解する
7	弱い力	素粒子論で考えられている、弱い力について理解する
8	対称性	対称性について理解する
9	ヒッグス場	ヒッグス場やヒッグス粒子について理解する
10	ニュートリノ	ニュートリノの特徴について理解する
11	対称性の破れ	対称性の破れと、それがもたらす物理学的な意義を理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業中に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

期末試験（秋学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A 1・B 1

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は「出会い」をテーマとし、回想録、手紙、小説、詩において作家たちが綴った感動的な出会いの場面を読み、さまざまなタイプの文章に慣れ、読解力を向上させる。詩を通して名曲となったシャンソンも聞く。教科書には詳注・解説がついており、それらを確認しながら中級の復習も行い、文章が書かれた時代背景にも注目して理解を深める。

【到達目標】

辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章を読むうえで必要となる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、教科書の説明
2	講読、第1回目	Jacques Prévert, « Barbara »
3	講読、第2回目	Henri Contet, « C'est merveilleux ! »
4	講読、第3回目	Charles-Louis Philippe, <i>La Rencontre</i>
5	講読、第4回目	Alphonse Daudet, <i>L'Arlésienne</i>
6	講読、第5回目	Jean de La Fontaine, « Le Loup et l'Agneau » (<i>Fables</i>)
7	講読、第6回目	Lettre d'Arthur Rimbaud à Paul Verlaine
8	講読、第7回目	André Gide, « Cet instant décisif de ma vie » (<i>La Porte étroite</i>)
9	講読、第8回目	La première rencontre de Pierre et Marie Curie
10	講読、第9回目	Simone de Beauvoir, « Avec lui, je pourrais toujours tout partager » (<i>Mémoires d'une fille rangée</i>)
11	講読、第10回目	Jean-Jacques Rousseau, « A l'instant de cette lecture...je devins un autre homme » (<i>Les Confessions</i>)
12	講読、第11回目	Gustave Flaubert, « Ce fut comme une apparition » (<i>L'Education sentimentale</i>)
13	講読、第12回目	Gérard de Nerval, <i>Sylvie, Souvenir du Valois, Adrienne</i>
14	講読、第13回目	Stendhal, « On m'appelle Julien Sorel, madame », (<i>Le Rouge et le Noir</i>)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので、準備のうえ授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池澤克夫編『邂逅』、第三書房、1997年

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分や訳出しにくかったところは遠慮なく質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A2・B2

ヴェロゾ クリステル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、フランス語の文法、語彙、表現が学べ、筆記、口頭の両面での実力がつくようになります。

【到達目標】

この授業の達成目標は受講生がフランス語の文法、語彙、表現が学べ、筆記、口頭の両面での実力がつけられることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Enquête	興味、趣味について話す
2 回目	Enquête	興味、趣味について話す
3 回目	Quitter Paris	反対の意見述べる
4 回目	Quitter Paris	反対の意見述べる
5 回目	Vivement les vacances	相談する
6 回目	Vivement les vacances	相談する
7 回目	Les Français en vacances	フランス文化
8 回目	On fait des crêpes?	レシピを説明する
9 回目	On fait des crêpes?	レシピを説明する
10 回目	Il est comment?	意見を述べる
11 回目	Il est comment?	意見を述べる
12 回目	Chère Léa...	思い出を語る
13 回目	Chère Léa...	思い出を語る
14 回目	Test final	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

和仏、仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活とフランス人の考え方の話をもっとします。

【Outline and objectives】

Le but de ce cours est d'améliorer les compétences linguistiques, en particulier à l'oral, des étudiants de niveau avancé à travers la découverte de situations de la vie quotidienne en France.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A3・B3

ヴェロゾ クリステル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はフランス語で作文と小論文を書く練習をします。

【到達目標】

この授業の達成目標はフランスの文章構成を学びながら、実際に文章を作成することである。必用な文法と表現を練習してから、簡単な作文を書きます。フランス語で書く喜びを体験しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	La société française : la vie en solo	Les célibataires en France
2 回目	La société française : la vie en solo	Opinions sur le célibat
3 回目	La société française : la vie en solo	Votre opinion, votre expérience
4 回目	La société française : la vie à deux	Le mariage
5 回目	La société française : la vie à deux	Le divorce
6 回目	La société française : la vie à deux	La famille recomposée
7 回目	Vivre différemment : la colocation	portraits de jeunes
8 回目	Vivre différemment : la colocation	avantages et inconvénients
9 回目	Vivre différemment : où vivent les étudiants	vos opinions, vos expériences
10 回目	Trouver un travail	Ecrire un CV
11 回目	Trouver un travail	Ecrire une lettre de motivation
12 回目	Trouver un travail	Répondre à une annonce
13 回目	Révisions	復習
14 回目	Test final	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

仏和、和仏辞典

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

生徒の弱点を克服する内容を中心に説明をします。

【Outline and objectives】

Le but de ce cours est de améliorer les compétences à l'écrit des étudiants de niveau intermédiaire à avancé, en étudiant des textes, des statistiques à propos de la société française. Certains travaux abordent des notions pratiques (écrire un CV et une lettre de motivation en français)

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A4・B4

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦を中心に、エリュアール、カミュ、ポーヴォワール、サルトルといった作家たちがこの悲劇的な時期に何を考え、どのような発言や証言を行ったのかを発表された年代順に選んで丁寧に読む。教科書には各テキストの表現と内容に関する注があるので、それらも確認しながら中級の復習を行い、それぞれの文章が書かれた時代背景等にも注目して理解を深める。

【到達目標】

辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章を読むうえで必要となる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、次週までに予習する範囲を教員が指定し、その範囲の文章を構文や時制などに注意しながら全員で読み進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
1	講読、第1回目	Max-Pol Fouchet, « Nous ne sommes pas vaincus... »
2	講読、第2回目	Robert Desnos, « Demain »
3	講読、第3回目	Jean Starobinski, « Un nouveau poétique ? » (<i>La Résistance et ses poètes</i>) 前半
4	講読、第4回目	Jean Starobinski, « Un nouveau poétique ? » (<i>La Résistance et ses poètes</i>) 後半
5	講読、第5回目	Paul Eluard, « Gabriel Péri » (<i>Au rendez-vous allemand</i>) 前半
6	講読、第6回目	Paul Eluard, « Gabriel Péri » (<i>Au rendez-vous allemand</i>) 後半
7	講読、第7回目	Paul Eluard, « Courage » (<i>Au rendez-vous allemand</i>) 前半
8	講読、第8回目	Paul Eluard, « Courage » (<i>Au rendez-vous allemand</i>) 後半
9	講読、第9回目	Simone de Beauvoir, « Mort de Bourla » (<i>La Force de l'Age</i>) 前半
10	講読、第10回目	Simone de Beauvoir, « Mort de Bourla » (<i>La Force de l'Age</i>) 後半
11	講読、第11回目	Albert Camus, « Le temps du mépris » (<i>Combat</i> , le 30 août 1944) 前半
12	講読、第12回目	Albert Camus, « Le temps du mépris » (<i>Combat</i> , le 30 août 1944) 後半
13	講読、第13回目	Jean-Paul Sartre, « La République du silence » (<i>Situation III</i>) 前半
14	講読、第14回目	Jean-Paul Sartre, « La République du silence » (<i>Situation III</i>) 後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回次週の授業で読む部分を指定するので、準備のうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安藤玲子編「戦争と人間」、第三書房、1981年

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題の取り組みも含めた授業への参加度を重視し、平常点（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分等は遠慮なく質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A5・B5

ヴェロゾ クリステル

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、フランス語の文法、語彙、表現が学べ、筆記、口頭の両面での実力がつくようになります。

【到達目標】

この授業の達成目標は受講生がフランス語の文法、語彙、表現が学べ、筆記、口頭の両面での実力がつけられることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Ce cours est conçu selon une approche privilégiant l'oral. Les documents écrits et audios n'interviennent qu'en second lieu.

Une grande importance est accordée aux interactions en classe, sans délaissier l'écrit.

Une communication naturelle et spontanée est privilégiée.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Enfant de la ville	過去形、半過去
2 回目	Enfant de la ville	過去形、半過去
3 回目	Fait divers	過去形、複合過去
4 回目	Fait divers	過去形、複合過去
5 回目	Ma première histoire d'amour	思い出を語る
6 回目	Ma première histoire d'amour	思い出を語る
7 回目	La 2CV	フランス文化
8 回目	Beau fixe	天気予報
9 回目	Beau fixe	近未来形
10 回目	Projets d'avenir	未来形、予定について話す
11 回目	Projets d'avenir	未来形、予定について話す
12 回目	Envie de changement	まとめ
13 回目	Envie de changement	復習
14 回目	Test final	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

和仏、仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

試験（授業内で実施する複数回の小テストを含む）80 %

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化及びフランス人の考え方をもち紹介します。

【Outline and objectives】

Le but de ce cours est d'améliorer les compétences linguistiques, en particulier à l'oral, des étudiants de niveau avancé à travers la découverte de la vie d'une famille française.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A6・B6

ヴェロゾ クリステル

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はフランス語で作文と小論文を書く練習をします。

【到達目標】

この授業の達成目標はフランスの文章構成を学びながら、実際に文章を作成することである。必用な文法と表現を練習してから、簡単な作文を書きます。フランス語で書く喜びを体験しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進みます。クラスで語彙や文法の練習をしてから文章を書きます。間違えた所を一緒に考えて直します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	L'école à deux ans?	Apprendre à argumenter (1)
2 回目	L'école à deux ans?	Apprendre à argumenter (2)
3 回目	L'école à deux ans?	Apprendre à argumenter (3)
4 回目	Pour ou contre la mixité?	Comparer des époques
5 回目	Pour ou contre la mixité?	Trouver des contre-arguments
6 回目	Pour ou contre la mixité?	Rédiger une argumentation
7 回目	L'uniforme à l'école	Construire son argumentation
8 回目	L'uniforme à l'école	Construire son argumentation
9 回目	L'examen d'entrée à l'université	Avantages et inconvénients d'un système
10 回目	L'examen d'entrée à l'université	Avantages et inconvénients d'un système
11 回目	Egalité hommes/femmes	Débat de société
12 回目	Egalité hommes/femmes	Débat de société
13 回目	Révisions	復習
14 回目	Test final	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布をします。

【参考書】

和仏、仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

試験（授業内で実施する複数回の小テストを含む）80 %

【学生の意見等からの気づき】

生徒の弱点を克服する内容を中心に説明をします。

【Outline and objectives】

Le but de ce cours est de améliorer les compétences à l'écrit des étudiants de niveau intermédiaire à avancé, en étudiant des textes, des statistiques à propos de la société française.

Ce semestre portera sur les débats de la société française.

LANf100EA

フランス語初級A

村上 由美、實谷 総一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。

短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(きちんと1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文房具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (V)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞
25	8 課	数量表現/名詞+à+不定詞
26	8 課	目的補語人称代名詞
27	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
28	試験	動詞 connaître, faire, écrire
		試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。

授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属のCDも利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!初級フランス語 会話・文法そして文化一』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

村上 由美、實谷 総一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。（きちんと1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (V)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞 数量表現/名詞+à+不定詞
25	8 課	目的補語人称代名詞
26	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
27	8 課	動詞 connaître, faire, écrire
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属の CD も利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。（きちんと1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文具具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (V)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞 数量表現/名詞+à+不定詞 目的補語人称代名詞
25	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
26	8 課	動詞 connaître, faire, écrire
27	8 課	試験
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属の CD も利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。（きちんと1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文具具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (V)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現（曜日・月・季節）
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞 数量表現/名詞+à+不定詞
25	8 課	目的補語人称代名詞
26	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
27	8 課	動詞 connaître, faire, écrire
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属の CD も利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

美頭 千不美、高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。（きちんと1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初級教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。文法を初歩から学び、発音練習を通じて、簡単な会話表現も覚える。授業は毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。（必ず、水曜日・金曜日両方の授業に出席すること。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (V)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞 数量表現/名詞+à+不定詞
25	8 課	目的補語人称代名詞
26	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
27	8 課	動詞 connaître, faire, écrire
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属の CD も利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回実施される小テスト、期末試験である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われるので、期末試験はもちろん、随時行われる小テストにも力を注いでほしい。なにより、遅刻せず、休まず、で臨むことが肝要である。成績評価の内訳は、期末試験50%、平常点50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

村上 由美、實谷 総一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級Aに引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。

短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級Bまできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初級Aで用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎文法を学び、発音練習を通じて、簡単な会話表現も覚える。授業は毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。(必ず、水曜日・金曜日両方の授業に出席すること。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字(70~100)
7	11 課	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去
8	11 課	代名動詞の直説法複合過去
9	11 課	中性代名詞 en、覚えておきたい副詞、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現、よく使う接続詞句
27	まとめ	全体の復習
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属のCDも利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回実施される小テスト、期末試験である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われるので、期末試験はもちろん、随時行われる小テストにも力を注いでほしい。なにより、遅刻せず、休まず、で臨むことが肝要である。成績評価の内訳は、期末試験50%、平常点50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

村上 由美、實谷 総一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級Aに引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。

短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級Bまできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初級Aで用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎文法を学び、発音練習を通じて、簡単な会話表現も覚える。授業は毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。(必ず、水曜日・金曜日両方の授業に出席すること。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字(70~100)
7	11 課	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去
8	11 課	代名動詞の直説法複合過去
9	11 課	中性代名詞 en、覚えておきたい副詞、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現、よく使う接続詞句
27	まとめ	全体の復習
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属のCDも利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回実施される小テスト、期末試験である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われるので、期末試験はもちろん、随時行われる小テストにも力を注いでほしい。なにより、遅刻せず、休まず、で臨むことが肝要である。成績評価の内訳は、期末試験50%、平常点50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級Aに引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。

短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級Bまできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初級Aで用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎文法を学び、発音練習を通じて、簡単な会話表現も覚える。授業は毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。(必ず、水曜日・金曜日両方の授業に出席すること。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字(70~100)
7	11 課	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去
8	11 課	代名動詞の直説法複合過去
9	11 課	中性代名詞 en、覚えておきたい副詞、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現、よく使う接続詞句
27	まとめ	全体の復習
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属のCDも利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回実施される小テスト、期末試験である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われるので、期末試験はもちろん、随時行われる小テストにも力を注いでほしい。なにより、遅刻せず、休まず、で臨むことが肝要である。成績評価の内訳は、期末試験50%、平常点50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級Aに引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。

短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級Bまできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初級Aで用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎文法を学び、発音練習を通じて、簡単な会話表現も覚える。授業は毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。(必ず、水曜日・金曜日両方の授業に出席すること。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字(70~100)
7	11 課	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去
8	11 課	代名動詞の直説法複合過去
9	11 課	中性代名詞 en、覚えておきたい副詞、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現、よく使う接続詞句
27	まとめ	全体の復習
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属のCDも利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回実施される小テスト、期末試験である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われるので、期末試験はもちろん、随時行われる小テストにも力を注いでほしい。なにより、遅刻せず、休まず、で臨むことが肝要である。成績評価の内訳は、期末試験50%、平常点50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

美頭 千不美、高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級Aに引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。

短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級Bまできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字(70~100)
7	11 課	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去
8	11 課	代名動詞の直説法複合過去
9	11 課	中性代名詞 en、覚えておきたい副詞、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現、よく使う接続詞句
27	まとめ	全体の復習
28	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題をきちんと行う。授業での教員の発音や説明にしっかり耳を傾け、教科書付属のCDも利用し、授業外でもみずから口に出して繰り返し練習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf200EA

フランス語中級 1

高橋 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法を一通り学んだ学習者が、比較的平易でかつ読み応えのある文章を読むことで、中級フランス語を身につける。

【到達目標】

辞書を引きながら、自力である程度まとまった分量の文章を読みこなすことができる。テキスト読解によって新しい語彙や表現を習得し、仏検3級受験準備ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、1. Roger Grenier, "Léonore"	授業の進め方の説明、ロジェ・グルニエ「レオノーレ」
第 2 回	1. Roger Grenier (続き)	ロジェ・グルニエ (続き)
第 3 回	2. Nathalie Sarraute, <i>Pour un oui ou pour un non</i>	ナタリー・サロート「つまらぬことで」
第 4 回	2. Nathalie Sarraute (続き)	ナタリー・サロート (続き)
第 5 回	3. Antoine Leiris, <i>Vous n'aurez pas ma haine</i>	アントワーン・レリス「ぼくは君たちを憎まない」
第 6 回	3. Antoine Leiris (続き)	アントワーン・レリス (続き)
第 7 回	4. Éric-Emmanuel Schmitt, <i>Lenfant de Noé</i>	エリック＝エマニュエル・シュミット「ノアの子」
第 8 回	5. Jacques Prévert, "Familiale"	ジャック・プレヴェール「家族のうた」
第 9 回	6. Jules Supervielle, <i>Le Voleur d'enfants</i>	ジュール・シュベルヴィエル「人さらい」
第 10 回	7. Patrick Modiano, <i>Un Pedigree</i>	パトリック・モディアノ「血統書」
第 11 回	8. François de La Rochefoucauld, <i>Maximes</i>	フランソワ・ド・ラ・ロシュフーコー「箴言集」
第 12 回	9. Jules Supervielle, "Docilité"	ジュール・シュベルヴィエル「すなおさ」
第 13 回	10. Hubert Mingarelli, <i>La dernière neige</i>	ユベール・マンガレリ「終わりの雪」
第 14 回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず自分で辞書を使って予習して授業に臨むこと。付属の音声で音読の練習とテキストの復習もすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本圭子、福田桃子、岡部杏子『ことばの色—中級からのフランス文学読本』、朝日出版社、2020 年。（2100 円＋税）

【参考書】

一年次に使用した教科書。仏和辞書（紙ポケット版は不適、プチ・ロワイヤル、スタンダードなど用例が載っている辞書）。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義の授業だが、音読の練習も丁寧に行う。読める語は覚えられるからである。

【Outline and objectives】

The aim of this intermediate French course is to help students improve their reading comprehension.

LANF200EA

フランス語中級 1・2・3

美頭 千不美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の総復習。およびその延長線上で問題となる中級文法事項の学習。

【到達目標】

練習問題を解きながら、フランス語の初級文法を一通り復習し、必要に応じて中級文法の事項に少しずつ親しむこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

練習問題の解答・解説を中心に、フランス語の読み・書き・聴き取りの訓練を丁寧に行なう。

少人数のクラスであるため、受講生の実力に合わせて個別指導の形態を取ること可能である。初級文法における未習得分野・弱点の克服を重要な課題として各回の授業展開を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	顔合わせ。秋学期授業内容と評価方法に関する簡単な案内。また、簡単な実力テストを実施する。
第 2 回	簡単に重要な日常会話の表現あれこれ／発音の練習①／-er 動詞の直説法現在	簡単に重要な日常会話の表現あれこれ（挨拶表現ほか）／発音の練習（r の発音、鼻母音ほか）／第 1 群規則動詞・直説法現在の活用
第 3 回	簡単に重要な日常会話の表現あれこれ／発音の練習②	簡単に重要な日常会話の表現あれこれ（学校で、旅先でよく使う表現）／発音の練習（リエゾン、アンシェスマン、エリズイオンほか）
第 4 回	定冠詞・不定冠詞／指示形容詞／名詞の複数形	定冠詞・不定冠詞／指示形容詞／名詞の複数形
第 5 回	形容詞の位置	品質形容詞の位置の原則
第 6 回	所有形容詞	所有形容詞（son, sa, ses など）
第 7 回	S+V+A（属詞）文型／さまざまな質問文／前置詞	主語＋動詞＋属詞の文／さまざまな質問文／前置詞（chez, dans, pour, sur など）
第 8 回	S+V+OD（直接目的語）文型／疑問代名詞（1）／部分冠詞	主語＋動詞＋直接目的語の文／疑問代名詞／部分冠詞
第 9 回	S+V+OI（間接目的語）文型／-ir 型動詞の直説法現在	文型／第 2 群規則動詞・直説法現在の活用
第 10 回	疑問代名詞（2）／数詞	疑問代名詞（que など）／数詞（基数詞・序数詞）／年号・日付・時刻の表現ほか
第 11 回	不規則動詞の直説法現在あれこれ／疑問代名詞（3）／疑問形容詞・疑問副詞	不規則動詞・直説法現在／疑問代名詞／疑問形容詞／疑問副詞
第 12 回	非人称構文あれこれ	非人称構文（天候／時間／存在／必要の表現など）
第 13 回	S+V+OD+OI 文型	主語＋動詞＋直接目的語＋間接目的語の文
第 14 回	S+V+OD+A 文型／直説法半過去／否定の表現あれこれ	主語＋動詞＋直接目的語＋属詞／直説法半過去／否定の表現 ne～pas, ne～plus, ne～jamais など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初級・中級クラスで使用したテキストを用い、これまで学習してきたことをひたすら復習する。どの文法事項をよくマスターしていないかを、自分できちんと自覚すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回ガイダンスの折に受講生の要望を入れて選定する。場合によっては配布プリントをテキストとして使用する。

【参考書】

初級文法の参考書等、教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席の有無、授業態度、毎回の課題の習得度を評点化）のみにより 100 点満点で評価する。学期末試験（筆記試験）を特に行わない代わりに毎回の授業参加が重視されるため、あまりに欠席しがちであると単位を取得できない恐れがある。

【学生の意見等からの気づき】

語学は、とかく学習の目的を見失いがちで、途中で意欲を失い、挫折することも多いと思う。そこで、授業では、受講生のそのときどきの関心に合わせ、さまざまな手段を通じてフランス文化の簡単な紹介を適宜行なう。そうした時間を多少なりとも共有することで、フランスに対する各自の興味を互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら必要な語学力をきちんと身につけることができるよう取り計らう。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続することの可能な通信機器（スマートフォン等）は、持参していると便利である。

【その他の重要事項】

仏和辞典を毎回必ず持参すること。

【Outline and objectives】

Totally reviewing of the French beginner's course grammar. And, as necessary, learning step by step about the intermediate level matters.

LANf200EA

フランス語中級2

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級 A・B で学習した文法知識を確実にし、「読む・書く・話す・聞く」の全ての場面において必要な表現を習得しながら、フランス語の運用能力を高める。各課で扱う文化・歴史の紹介、関連映像を通じて、実際にフランスへ行って役立つ実用的な知識や表現、語彙を身につける。

【到達目標】

基本的な語句や表現を用いた簡単な構文による長文の内容を理解し、直説法、条件法、接続法の動詞を使うことができる。「フランス語中級5」とセットで履修して、仏検3級に合格できるレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 : C'est incroyable !	半過去、人称代名詞強勢形、代名動詞の肯定命令形
2	Leçon 2 : Quelle coïncidence !	ジェロンディフ、過去分詞の性数一致
3	Leçon 2 : Quelle coïncidence !	疑問形容詞、近接過去
4	Leçon 3 : C'est l'appli Oui. sncf !	数字と時間の復習、関係代名詞 qui と que
5	Leçon 3 : C'est l'appli Oui. sncf !	単純未来、中性代名詞 en
6	Leçon 4 : Comment ça marche ?	関係代名詞 où と dont
7	Leçon 4 : Comment ça marche ?	受動態、形容詞 tout
8	Leçon 5 : Nous voilà à Bordeaux !	中性代名詞 y、条件法 (1)
9	Leçon 5 : Nous voilà à Bordeaux !	代名動詞の相互的用法、代名動詞の否定命令形
10	Leçon 6 : Ça fait longtemps !	voilà と補語人称代名詞
11	Leçon 6 : Ça fait longtemps !	形容詞の副詞化、depuis と il y a を使った表現
12	Leçon 7 : Au marché bio !	中性代名詞 en、性数変化する指示代名詞
13	Leçon 7 : Au marché bio !	分量表現、値段の比較
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題の箇所は授業中に指定し、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Florence Yoko Sudre 他、*Café Français 2*, 朝日出版社、2020年

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もフランスの日常生活や文化が見えてくるような授業を行いたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French skills and reach the intermediate level.

LANf200EA

フランス語中級3

ヴェロゾ クリステル

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級コミュニケーションと文法の授業とする。時間のゆるすかぎりフランス語圏の社会・文化に関する情報を紹介する。

【到達目標】

初心者のフランス語でコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）ができるようになること。フランス語の毎日会話楽しめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Bienvenue !	挨拶
2 回目	Bienvenue !	自己紹介、現在形
3 回目	QUi est-ce?	人について話す 国籍、名詞と形容詞
4 回目	QUi est-ce?	年齢、連絡先、数字
5 回目	ça va bien?	現在形
6 回目	ça va bien?	興味について話す
7 回目	Correspondances	ペンパルを探す
8 回目	Trouvez l'objet	場所の前置詞
9 回目	Trouvez l'objet	名詞の複数
10 回目	Portrait-robot	服と様子
11 回目	Portrait-robot	服と様子
12 回目	Le coin des artistes	フランス文化
13 回目	Révisions	復習
14 回目	Test final	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

習った文法事項は、その日のうちに復習しておきましょう。次の日に備えて、付属のCDを使って会話文を練習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

和仏、仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化をもっと紹介します。

【Outline and objectives】

Le but de ce cours est de améliorer les compétences de communication des étudiants de niveau intermédiaire, à travers des jeux, des dialogues et des documents audio et vidéo.

LANF200EA

フランス語中級4

高橋 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、比較的平易でかつ読み応えのある文章を読むことで、中級フランス語を身につける。

【到達目標】

辞書を引きながら、自力でまとまった分量の文章を読みこなすことができる。読解によって語彙や表現を更に習得し、仏検 3 級・準 2 級受験準備ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期と同様、小説、詩、エッセーなど様々な作品の一節を読む。フランス語の綴り字と発音の関係の確認、テキスト和訳で語彙力を強化する。仏和辞書を必ず持参すること。なお、秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期末試験の解説、11. Arthur Rimbaud, "Aube"	春学期末試験の解説、アルチュール・ランボー「夜明け」
第 2 回	11. Arthur Rimbaud (続き)	アルチュール・ランボー (続き)
第 3 回	12. Guillaume Apollinaire, "L'Orangeade"	ギヨーム・アポリネール「オレンジエード」
第 4 回	13. Alain-Fournier, <i>Le grand Meaulnes</i>	アラン＝フルニエ『グラン・モーヌ』
第 5 回	14. Honoré de Balzac, <i>Une Passion dans le désert</i>	オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』
第 6 回	15. Irène Némirovsky, <i>Le Bal</i>	イレース・ミネロフスキー『舞踏会』
第 7 回	16. Georges Sand, "Ce que disent les fleurs"	ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」
第 8 回	17. Charles Baudelaire, "Les fenêtres" et "La soupe et les nuages"	シャルル・ボードレール「窓」、「スープと雲」
第 9 回	17. Charles Baudelaire (続き)	シャルル・ボードレール (続き)
第 10 回	18. Francis Ponge, "De l'eau"	フランシス・ボンジュ「水について」
第 11 回	19. Georges Perec, <i>La Disparition</i>	ジョルジュ・ペレック『消滅』
第 12 回	20. Michel Butor, "Georges de La Tour : Le Tricheur à l'as de carreau"	ミシェル・ビュートル「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」
第 13 回	20. Michel Butor (続き)	ミシェル・ビュートル (続き)
第 14 回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず自分で辞書を使って予習して授業に臨むこと。付属の音声で音読の練習とテキストの復習もすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本圭子、福田桃子、岡部杏子『ことばの色—中級からのフランス文学読本』、朝日出版社、2020 年。（2100 円＋税）

【参考書】

一年次に使用した教科書。仏和辞書（紙ポケット版は不適、プチ・ロワイヤル、スタンダードなど用例の載った辞書）。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点（予習状況、訳読の出来具合、授業への参加度など）50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

講読の授業だが、音読の練習も丁寧に行う。読める語は覚えられるからである。

【Outline and objectives】

The aim of this intermediate French course is to help students improve their reading comprehension.

LANF200EA

フランス語中級4・5・6

美頭 千不美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の総復習。およびその延長線上で問題となる中級文法事項の学習。

【到達目標】

フランス語の初級文法を確実に習得し、且つ中級文法の初歩を固めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

練習問題の解答・解説を中心に、フランス語の読み・書き・聴き取りの訓練を丁寧に行なう。

少人数のクラスであるため、受講生の実力に合わせて個別指導の形態を取ることも可能である。初級文法における未習得分野・弱点の克服を重要な課題として各回の授業展開を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	具体的な教材の選定 簡単な実力テスト
第2回	近接未来・近接過去	aller+動詞の原形 venir de +動詞の原形
第3回	複合過去	助動詞 avoir/être の現在形+動詞の過去分詞
第4回	受動態	être + 他動詞の過去分詞 (+ par/de~)
第5回	関係代名詞	qui/que/dont/où
第6回	代名詞 (1)	人称代名詞
第7回	代名詞 (2)	指示代名詞
第8回	代名詞 (3) / 形容詞・副詞の比較級・最上級	中性代名詞 比較級・最上級表現
第9回	代名動詞	再帰代名詞 代名動詞の用法
第10回	直説法大過去 / 条件法現在	助動詞 avoir/être の半過去+過去分詞 条件法現在の活用
第11回	直接話法と間接話法	主節の動詞が過去の場合の時制表現
第12回	条件法過去	助動詞 avoir/être の条件法現在+過去分詞 条件法過去の用法
第13回	接続法の用法 (1)	接続法現在の活用
第14回	接続法の用法 (2)	接続法過去

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にこまめに当たりながら、初級文法の問題集を繰り返し解くこと。未習得の文法事項や不得意分野を把握すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回のガイダンスの折に受講者の要望を入れて選定する。場合によっては配布プリントをテキストとして使用する。

【参考書】

文法の参考書等は、教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席の有無、授業態度、毎回の課題の習得度を評点化）のみにより100点満点で評価する。学期末試験（筆記試験）を特に行わない代わりに毎回の授業参加が重視されるため、あまりに欠席しがらであると単位を取得できない恐れがある。

【学生の意見等からの気づき】

語学は、とかく学習の目的を見失いがちで、途中で意欲を失い、挫折することも多いと思う。そこで、授業では、受講生のそのときどきの関心に合わせ、さまざまな手段を通じてフランス文化の簡単な紹介を適宜行なう。そうした時間を多少なりとも共有することで、フランスに対する各自の興味を互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら必要な語学力をきちんと身につけることができるよう取り計らう。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続することの可能な通信機器（スマートフォン等）は、持参していると便利である。

【その他の重要事項】

仏和辞典は毎回必ず持参すること。

【Outline and objectives】

Totally reviewing about the French beginner's course grammar. And, as necessary, learning step by step about the intermediate level matters.

LANf200EA

フランス語中級5

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、教科書の後半部分を学習する。「読む・書く・話す・聞く」の全ての場面において必要な表現を習得しながら、フランス語の運用能力を高める。各課で扱う文化・歴史の紹介、関連映像を通じて、実際にフランスへ行って役立つ実用的な知識や表現、語彙を身につける。

【到達目標】

基本的な語句や表現を用いた簡単な構文による長文の内容を理解し、直説法、条件法、接続法の動詞を使うことができる。仏検3級に合格できるレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の一課につき、二回の授業を充てる。一回目は主に文法的な事項に関する説明と練習をし、二回目はそれらを生かした具体的な表現を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 8 : Je ne me sens pas bien !	体調を説明する（身体について、症状と病気）
2	Leçon 8 : Je ne me sens pas bien !	仮定の話をする
3	Leçon 9 : J'espère qu'il viendra !	招待する、提案する
4	Leçon 9 : J'espère qu'il viendra !	条件法を使った説明
5	Leçon 10 : Il me dit qu'il peut venir.	直接話法と間接話法
6	Leçon 10 : Il me dit qu'il peut venir.	料理のレシピ
7	Leçon 11 : Il m'a raconté qu'il avait eu un accident !	大過去、時制の一致
8	Leçon 11 : Il m'a raconté qu'il avait eu un accident !	出来事の順序、間接話法（過去）
9	Leçon 12 : Je voudrais que tu m'aides !	接続法、強調構文
10	Leçon 12 : Je voudrais que tu m'aides !	人に頼みごとをする、不満を伝える
11	Leçon 13 : C'est l'endroit le plus touristique de Bordeaux.	受動態（複合過去）、比較級、最上級
12	Leçon 14 : Je me suis fait voler mon portable !	人の外見や特徴を説明し、出来事を具体的に語る
13	Leçon 15 : Si je pouvais, je resterais !	条件法現在・過去、感情を説明する、夢を語る、履歴書の書き方、文通
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題の箇所は授業中に指定し、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Florence Yoko Sudre 他、*Café Français 2*, 朝日出版社、2020年

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、試験（授業内で実施する複数回の小テストを含む）60%

【学生の意見等からの気づき】

今学期もフランスにおける日常生活や文化が見えてくるような授業を心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French skills and reach the intermediate level.

LANf200EA

フランス語中級6

ヴェロゾ クリステル

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級コミュニケーションと文法の授業とする。フランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

【到達目標】

初心者のフランス語でコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）ができるようになること。フランス語の毎日会話楽しめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書、プリント、ビデオを参考にしてから、学生同士でペアグループで練習して話す。又、フランス文化について易しい文章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Appartement à louer	住む場所
2 回目	Appartement à louer	アパート探し
3 回目	C'est par où?	行き先聞く
4 回目	C'est par où?	行き先聞く
5 回目	Bon voyage !	旅行の準備する
6 回目	Bon voyage !	旅行の準備する
7 回目	Marseille	フランスの文化
8 回目	Un aller simple	電車のチケットを買う
9 回目	Un aller simple	電車のチケットを買う
10 回目	A Londres	外国で働く
11 回目	A Londres	外国で働く
12 回目	Le dimanche matin	週末の活動
13 回目	Le dimanche matin	復習
14 回目	Test final	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

和仏、仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %
試験（授業内で実施する複数回の小テストを含む）80 %

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと紹介します。

【Outline and objectives】

Le but de ce cours est de d'améliorer les compétences de communication des étudiants de niveau intermédiaire, à travers des jeux, des dialogues et des activités ludiques.

COT200EA

プログラミング初級

伊藤 真利子

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java 言語によるプログラミングにはじめて挑戦する人を対象として、基本的な手順になじめるように導きます。オブジェクト指向プログラミングというものを「知っている」と言えるようになることを目指します。

【到達目標】

毎回のテーマに沿った簡単なプログラムを作り、java 言語によるプログラムを解説したり、クラスという単位でプログラムをイメージできることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実習室の機器を利用して進めます。毎回、小さな課題に取り組みます。本格的なプログラミング環境の日本語化 eclipse(java) を使います。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

(2020/4/14 追記 →) 春学期は原則としてオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日（まで）に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の目標、予定、進め方
第 2 回	心構えと基本手順	最初の基本的なプログラミング
第 3 回	変数と型	変数という概念、意義、使用方法
第 4 回	メソッド	メソッドという概念、意義、使用方法
第 5 回	オブジェクト指向 (1)	クラスという概念、意義、使用方法
第 6 回	オブジェクト指向 (2)	インスタンスという概念、意義、使用方法
第 7 回	コンストラクタ	コンストラクタという概念、意義、使用方法
第 8 回	ここまでのまとめ	ここまでの振り返り
第 9 回	情報のカプセル化 (1)	カプセル化という概念、意義、使用方法
第 10 回	情報のカプセル化 (2)	カプセル化に“安全装置”を加えた使用方法
第 11 回	クラスの継承	継承という概念、意義、使用方法
第 12 回	ファイル入出力 (1)	テキストファイルに書き出す方法
第 13 回	ファイル入出力 (2)	テキストファイルを読み込む方法
第 14 回	最終課題	これまでの学習内容を盛り込んだ作品づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には予習は必要ありません。ただし、授業内での理解が不十分だと感じたり、授業時間内に課題を提出できなかった場合や、やむを得ず欠席した場合には自習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。PowerPoint の資料を毎回提示します。

【参考書】

参考書や URL は必要に応じて講義の中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点 (50%) と最終提出課題 (50%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

スピードは人それぞれなので、一人ひとりに合わせた助言を行います。

【その他の重要事項】

質問は授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This class is designed for those who trying to write source code in Java programming language for the first time. Course objective is to introduce students to basic concept of object-oriented programming and to the use of Java programming language.

COT200EA

プログラミング初級

加藤 徹郎

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統合開発環境 eclipse を用いた本格的 Java 言語を学習することで、Processing で学んだプログラミングへの理解をさらに深めています。

【到達目標】

入門で学んだ知識をさらに発展させ、自身で問題解決できるような力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【変更】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日・ガイダンスは【4 月 23 日】とするが、以降、【5 月 7 日】までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この授業では、Java のオブジェクト指向に基づき、メソッドやインスタンス、コンストラクタ、クラス、クラスの継承といった概念を理解していきます。抽象的思考と具体的な成果を行ったり来たりしながら、「プログラムを書く」ということの意味を、経験的に学んでいきましょう。
※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業進行についての説明。eclipse の使い方の確認。
2	Hello World	Processing から Java への移行・応用と新規学習
3	Variable	変数と代入文の確認
4	Control Structure	if 文、for 文の復習と、do-while、switch 文などの紹介
5	Array	for 文と配列を用いた複雑な繰り返し構文の理解
6	Method_01	Java におけるメソッドの考え方
7	Method_02	リターン文の習得
8	Object Orientation	オブジェクト指向の概念的理解
9	Instance	クラスとインスタンスの違いについて
10	Constructor	クラスにおけるコンストラクタの役割
11	Encapsulation	カプセル化。メソッドを限定的に制御するには
12	Inheritance	継承とスーパークラスの理解
13	Import Statement	インポート文とライブラリの活用
14	CUI / GUI	GUI でプログラムを作成してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、週週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはずで。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

【変更】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

平常点 (10 %)、毎回の課題提出 (90 %)

【学生の意見等からの気づき】

いぜん学生から「シラバスのタイトルが英語ばかりで難しそうだ」という意見を聞きましたが、そんなことはありません (笑)。ひとつひとつの項目を、丁寧にわかりやすく説明することを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを持参してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline and objectives】

This course deal with the basic of programming with Java / Eclipse.It also enhance the development of students' skill in making a program by oneself.

COT200EA

プログラミング初級

近藤 恵子

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラムにおける問題解決のアプローチの一手法であるオブジェクト指向の概念を学ぶ。

プログラミング入門で得た知識を更に深め、新たな技術を身に付ける。

【到達目標】

変数の扱いや制御構造を習得する。

提示された問題に対し、それを解くためのプログラムをオブジェクト指向でデザインし、実装する事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業は 5 月 15 日に本格的に開始するが、4 月 24 日には具体的なオンライン授業の方法と準備しておくべき物を学習支援システムにて提示するので、各自必ず確認しておく。

本授業では統合開発環境 Eclipse を用いてオブジェクト指向言語 Java を学ぶ。毎回説明と共に練習問題を解き、最後に課題を課す。授業の最後に応用課題としてそれまでの内容を元に自分でプロジェクトを考え、制作する。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、Java について
第 2 回	休講	準備期間として休講とする
第 3 回	環境構築	Eclipse のインストールと基本的な使い方
第 4 回	変数と関数について基本学習	変数の型変換、関数の役割と作り方
第 5 回	クラス作成の基本	フィールド、コンストラクタ、メソッド
第 6 回	繰り返し	for 文、while 文、break 文
第 7 回	配列	配列の考え方と基本的な操作
第 8 回	ファイル操作	テキストの書き出しと読み込み
第 9 回	カプセル化	アクセス修飾子とセッター、ゲッター
第 10 回	継承とオーバーライド	クラスの継承
第 11 回	応用課題 (1)	作品設計
第 12 回	応用課題 (2)	作品制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムの学習は毎回の積み重ねである。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題と課題の達成度、最後の応用課題の完成度で総合的に評価する。

平常点 70%

応用課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

履修者が少ないためアンケートは実施していない。

【Outline and objectives】

This course deals with the object-oriented method which is an approach to problem solving.

It also enhances the development of students'skills and knowledge in programming.

COT200EA

プログラミング初級

諸上 茂光

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界でシステムやアプリケーションの開発に幅広く使用されている Java の統合開発環境である eclipse を使用し、オブジェクト指向プログラミングに必要な知識とスキルの習得を目指す。

【到達目標】

プログラミングに必要な変数や制御構造等の知識を身につけるだけでなく、オブジェクト指向の構造を理解することや、プログラムをどのように設計するのかというアルゴリズム自体の構成方法を学習し、基礎的な Java アプリケーションを「自分で一から作り上げる」ことができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではプログラミング入門の復習と、新しい文法の習得により、さらに幅広いプログラムスキルを身につけ、最終課題では実際に動くアプリケーションソフトを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明
2.	eclipse の復習 (1)	変数、if 文
3.	eclipse の復習 (2)	while 文
4.	オブジェクト指向の基本 (1)	クラスとインスタンス
5.	オブジェクト指向の基本 (2)	継承
6.	オブジェクト指向の基本 (3)	キャスト・参照
7.	配列 (1)	for 文と配列処理
8.	配列 (2)	多次元配列
9.	ファイルの入出力 (1)	ファイルからの入力
10.	ファイルの入出力 (2)	ファイルへの出力
11.	最終課題作成 (1)	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成 (2)	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成 (3)	各自で最終課題を作成
14.	プログラミング初級 II への橋渡し	Android について紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられるようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・小課題に対する評価 (40%)
 - ・最終課題に対する評価 (30%)
 - ・平常点 (30%)
- による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスキルに合わせて授業内で復習を取り入れる

【Outline and objectives】

To acquire the basic concepts and skills of programming using JAVA(eclipse).

COT200EA

プログラミング初級

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

週に一度、論理的に考え、プログラミングの「？」という感覚を「!」という感嘆に変えて行く（案外と心地良いものです）。

【到達目標】

「プログラミング？ 基本的な部分は分かるよ。」と言えるようになることが目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主に Eclipse(開発用ソフト) を利用し、Java 言語の文法やプログラミングの書き方・考え方を基本から学ぶ。また、Python 言語の基礎部分も学習する。丁寧な解説と無理のない内容を心がけるので、考えつつ実習に取り組んでもらいたい。プログラミングに関連する IT 用語についても、きちんと解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紹介 前編	プログラミング用語の解説 (Class という言葉がキー)。
第 2 回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか。またそれには何を必要とするか。
第 3 回	変数	たとえ数でなくても「変数」という紛らわしい用語。
第 4 回	構成	プログラムの構成要素。
第 5 回	既存のものの流用の仕方	プログラムをゼロから書くという「修行」は不要。
第 6 回	動かすための書き方	実はプログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある。
第 7 回	読み書き	「ファイル」という単位での読み書きについて。
第 8 回	画面プログラム 前編	画面作成の取っかかり。
第 9 回	画面プログラム 中編	画面作成は一筆書きでも一枚岩でもない。
第 10 回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける。
第 11 回	コンピュータの外部からアクションを起こす	イベントの話。
第 12 回	Python その 1	Java とは全然違うスクリプト言語の紹介。
第 13 回	Python その 2	計算等の機能。
第 14 回	Python その 3	繰り返し等の機能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外の学習は、平均毎回 2 時間程度。
- ・授業は長丁場なので、理解の深まらない回もあり得る。資料を読み直したり、教員や TA に積極的に質問することが重要。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

特に指定なし。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (50%)、提出物 (50%) を総合的に判断して、成績を評価する。好奇心と向学心がプラス評価の対象になる。提出物 (課題) は、どの程度理解しているかの確認のために行うもの。ほぼ毎回提出をお願いする。
- ・現在では、既に世の中に存在するプログラムの例を探し出して、自分の作りたいものに流用する方法が重要なので、その手法をつかむ。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見は、講義に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意のこと。

【その他の重要事項】

- ・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。
- ・止むを得ず欠席する場合は、メールで連絡のこと。欠席時には、配布資料を自習のこと。

【Outline and objectives】
Changing questions about programming into admirations

COT300EB, COT300EC, COT300ED

プログラミング中級 E

近藤 恵子

サブタイトル：プログラミング初級Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門、プログラミング初級を通して学んだ知識を前提とし、オブジェクト指向言語によりソフトウェアを設計する力を身に付ける。

【到達目標】

継承を理解し効率の良いクラスを設計できる。

修飾子の意味を理解する。

アプリケーションソフトを Java で効果的に設計することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

統合開発環境を用いてオブジェクト指向言語 Java を学ぶ。動くプログラムを体感するために Android アプリ制作を取り入れている。

Android のマスコットキャラクターである Droid 君をモチーフとしたゲーム感覚のミニアプリを作成する。1～2 回で一つのアプリを作成し、内容に応じて途中や最後に練習問題や課題を提示する。

最後に自由課題として、自分でアプリケーションを設計し完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと練習問題	ガイダンス、統合開発環境の操作方法の習得、クラスの基本を復習
第 2 回	クラスの作成	オーバーロード
第 3 回	ドロイド探し (1)	クラスの継承とアクセス制限
第 4 回	ドロイド探し (2)	オーバーライド
第 5 回	神経衰弱ゲーム (1)	二次元配列、継承とコンストラクタ
第 6 回	神経衰弱ゲーム (2)	static 修飾子、画面遷移
第 7 回	タップゲーム (1)	ArrayList(コレクション)
第 8 回	タップゲーム (2)	クラスの練習
第 9 回	スケジューラ (1)	子クラス、孫クラスの設計
第 10 回	スケジューラ (2)	総復習
第 11 回	自由課題 (1)	アプリの設計
第 12 回	自由課題 (2)	オブジェクトの設計と作成
第 13 回	自由課題 (3)	オブジェクトの組合せ、クラスの継承
第 14 回	自由課題 (4)	画面遷移の導入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各テーマ毎の課題の達成度と自由課題の完成度で総合的に評価する。

平常点 50%

自由課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

履修者が少ないためアンケートは実施していない。

年によっては開始時の実力差が大きい。課題が難しい学生はフォローし、出来る学生は各自で先に進められるよう資料を整備していく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the ability to design application software by an object-oriented language.

COT300ED

プログラミングと論理的思考

湯本 正実

サブタイトル：特講（プログラミング上級）
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「プログラミング」と名前に留まらず、レポート、論文の執筆や、面接の想定問答等にも役に立つ総合的な論理的アプローチについての説明を行う。

【到達目標】

自分の考えを、矛盾や破綻がないように組み立てて、他人に伝えるための、有用な手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・授業の進め方についての説明 ・メール・アドレスの連携
2	メモ書きから	・考え事をするときに、メモをフローチャートやプログラムの記述にする。
3	論理（ロジック）についての具体例	・否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点について、ロジックの観点から考察して行く。
4	論理（ロジック）についての具体例（続き）	・面接での想定問答 講師の実体験や、伝聞に沿った事例を紹介する
5	モンティ・ホール問題の解析	・ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった、実際に起こった「モンティ・ホール問題」を解析し、その問題発生の原因を探る。
6	モンティ・ホール問題についての考察発表、および四色問題	・モンティ・ホール問題についての私見、感想等を自由に発表する。逆の現象とも言える四色問題の説明。
7	社会的実事例に基づく処理の流れの分析	・フローチャート形式で、各自で処理の流れをまとめてみる
8	ブラックボックス付きフローチャート	・自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
9	よく話題に出るアルゴリズム問題の学習	・アルゴリズムとしてよく例に出される問題についての説明を行う。
10	よく話題に出るアルゴリズム問題の学習（続き）	・アルゴリズムとしてよく例に出される問題についての説明を行う（続き）。
11	頭が先か手が先かのアプローチ	・言い換えれば、処理フロー前提のアプローチ vs. 先ずは作ってみたいのアプローチの使い分け。
12	今までの説明内容の振り返り+課題作成検討	・各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
13	課題作成	・発表用課題作成
14	課題発表	・課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題については、各自がそれぞれの工夫により、自由に課題発表の題材を作成してもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

・実習室での授業が実施出来ない期間は基本的に課題点により評価する。
 ・質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

客観的+順序決め+重要度決めを考える習慣付けを期待する。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Master logical thinking and expression

PRI100EA

プログラミング入門

石井 由起

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なプログラミングを通して、既製のアプリケーションの基本操作だけの受け身のコンピュータ利用から、より積極的に問題解決思考でコンピュータと関わるための実習です。

【到達目標】

プログラミングの基礎を身につけ、ビジュアル表現を用いた簡単なプログラムを作成することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing という言語を駆使して制作する実習です。プログラミングの一連の過程を体験し、段階的な解説と実習で、各自成果物を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ 前編	プログラミング用語の説明
第 2 回	イントロ 中編	プログラミングの心構え
第 3 回	イントロ 後編	プログラミングの作法
第 4 回	変数 前編	2 進数にまつわる話
第 5 回	変数 中編	数値データの扱い方
第 6 回	変数 後編	文字データの扱い方
第 7 回	定数	値が一定しているデータの話
第 8 回	条件分岐 if 文	単純な分岐
第 9 回	条件分岐 switch 文	複雑な分岐
第 10 回	繰り返し for 文	何回繰り返すのか？ の話
第 11 回	繰り返し while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 12 回	繰り返し do~while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 13 回	アニメーション 前編	動画のつくり方
第 14 回	アニメーション 後編	簡単な動画の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。課題（提出物）は実習の内容を、どの程度、理解しているか？を確認するために行います。課題（提出物）で主に評価するのは、プログラム制作に取り組んだプロセスです。次いでプログラムの完成度です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。授業補充計画です。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意して下さい。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To create visual programming artifacts by using Processing application.
 To accomplish problem-solving approaches through the programming activities.

COT100EA

プログラミング入門

石井 由起

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なプログラミングを通して、既製のアプリケーションの基本操作だけの受け身のコンピュータ利用から、より積極的に問題解決思考でコンピュータと関わるための実習です。

【到達目標】

プログラミングの基礎を身につけ、ビジュアル表現を用いた簡単なプログラムを作成することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing という言語を駆使して制作する実習です。プログラミングの一連の過程を体験し、段階的な解説と実習で、各自成果物を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ 前編	プログラミング用語の説明
第 2 回	イントロ 中編	プログラミングの心構え
第 3 回	イントロ 後編	プログラミングの作法
第 4 回	変数 前編	2 進数にまつわる話
第 5 回	変数 中編	数値データの扱い方
第 6 回	変数 後編	文字データの扱い方
第 7 回	定数	値が一定しているデータの話
第 8 回	条件分岐 if 文	単純な分岐
第 9 回	条件分岐 switch 文	複雑な分岐
第 10 回	繰り返し for 文	何回繰り返すのか？ の話
第 11 回	繰り返し while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 12 回	繰り返し do~while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 13 回	アニメーション 前編	動画のつくり方の話
第 14 回	アニメーション 後編	簡単な動画の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。
毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。課題（提出物）は実習の内容を、どの程度、理解しているか？を確認するために行います。課題（提出物）で主に評価するのは、プログラム制作に取り組んだプロセスです。評いでプログラムの完成度です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意して下さい。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To create visual programming artifacts by using Processing application.
To accomplish problem-solving approaches through the programming activities.

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第 2 回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第 3 回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第 4 回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第 5 回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第 6 回	繰り返し	繰り返し構文の書き方
第 7 回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第 8 回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第 9 回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第 10 回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第 11 回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 12 回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 13 回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくれること。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題と最終課題の提出内容 (70%) に平常点 (30%) を加味して、総合的に評価する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing.

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第 2 回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第 3 回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第 4 回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第 5 回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第 6 回	繰り返し	繰り返し構文の書き方
第 7 回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第 8 回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第 9 回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第 10 回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第 11 回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 12 回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 13 回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題と最終課題の提出内容 (70%) に平常点 (30%) を加味して、総合的に評価する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing.

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第 2 回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第 3 回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第 4 回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第 5 回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第 6 回	繰り返し	繰り返し構文の書き方
第 7 回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第 8 回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第 9 回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第 10 回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第 11 回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 12 回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 13 回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題と最終課題の提出内容 (70%) に平常点 (30%) を加味して、総合的に評価する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing.

COT100EA

プログラミング入門

加藤 徹郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎知識の習得。

【到達目標】

プログラミングの初歩的な作業を、スムーズに運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、初心者を対象として、プログラミングの基本的な知識の習得を目指します。具体的には、Processing を用いてプログラミングの実際と面白さを体験するとともに、プログラム構築の基本的な理屈と文法を学んでもらいます。まずは簡単な記述からはじめつつ、プログラムの組み方を、経験的に学んでいきましょう。

※ 春学期の「コンピューター入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進行についての説明。 Processing の起動と保存。
2	Processing ①	簡単な図形の作成と関数について。
3	Processing ②	変数についての初歩。簡単な図形を変数を用いて描いてみる。
4	Processing ③	Processing に特有な変数の説明。 setup/draw 関数について。
5	Processing ④	制御文についての考え方。条件分岐 (if 文) の解説。
6	Processing ⑤	演算子と変数の関係。繰り返し (for 文) について。
7	Processing ⑥	繰り返し (for 文) についての解説。
8	Processing ⑦	第 6 回の内容をさらに深めていく。 繰り返し (while 文) について。for 文との相違について。
9	Processing ⑧	条件分岐と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成。
10	Processing ⑨	物体に動きをつけるアニメーションの作成。
11	Processing ⑩	Processing における画像と文字の挿入。
12	Processing ⑪	配列についての解説。コンソールボックスの使用を試してみる。
13	Eclipse ①	本格的な Java への第一歩。プロジェクト/パッケージ/クラスなどについての基本的な考え方について解説。
14	Eclipse ②	体験入門編。こちらが用意したテンプレートをもとに、Eclipse を使用してどのようなことができるのか、体験してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはず。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)、最終課題 = Processing のオリジナル作品 (90%)

【学生の意見等からの気づき】

プログラミンの“コツ”を、なるべく分かりやすく、繰り返し説明することを心がけますので、若干難しいと思ってもあきらめず、授業に参加するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリの用意。ファイル管理は各自で徹底すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of programming with Processing to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

加藤 徹郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of programming with Processing to students taking this course.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎知識の習得。

【到達目標】

プログラミングの初歩的な作業を、スムーズに運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、初心者を対象として、プログラミングの基本的な知識の習得を目指します。具体的には、Processing を用いてプログラミングの実際と面白さを体験するとともに、プログラム構築の基本的な理屈と文法を学んでもらいます。まずは簡単な記述からはじめつつ、プログラムの組み方を、経験的に学んでいきましょう。

※ 春学期の「コンピューター入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進行についての説明。 Processing の起動と保存。
2	Processing ①	簡単な図形の作成と関数について。
3	Processing ②	変数についての初歩。簡単な図形を変数を用いて描いてみる。
4	Processing ③	Processing に特有な変数の説明。 setup/draw 関数について。
5	Processing ④	制御文についての考え方。条件分岐 (if 文) の解説。
6	Processing ⑤	演算子と変数の関係。繰り返し (for 文) について。
7	Processing ⑥	繰り返し (for 文) についての解説。 第 6 回の内容をさらに深めていく。
8	Processing ⑦	繰り返し (while 文) について。for 文との相違について。
9	Processing ⑧	条件分岐と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成。
10	Processing ⑨	物体に動きをつけるアニメーションの作成。
11	Processing ⑩	Processing における画像と文字の挿入。
12	Processing ⑪	配列についての解説。コンソールボックスの使用を試してみる。
13	Eclipse ①	本格的な Java への第一歩。プロジェクト/パッケージ/クラスなどについての基本的な考え方について解説。
14	Eclipse ②	体験入門編。こちらが用意したテンプレートをもとに、Eclipse を使用してどのようなことができるのか、体験してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはず。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)、最終課題 = Processing のオリジナル作品 (90%)

【学生の意見等からの気づき】

プログラミンの“コツ”を、なるべく分かりやすく、繰り返し説明することを心がけますので、若干難しいと思ってもあきらめず、授業に参加するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリの用意。ファイル管理は各自で徹底すること。

COT100EA

プログラミング入門

近藤 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基本技術を習得すると共に、プログラミング的思考を学ぶ。

【到達目標】

プログラムの基本的な命令や制御構造の書き方を理解する。
プログラムの目的を意識して流れを考えながら全体を組み立てる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プログラミング入門者を対象とし、初学者にも取り組みやすい Processing を用いて学習を進める。
まずその回の内容を説明し練習問題を解いていく事で学習する。さらに課題を自力で解く事で学んだ内容を自分のものとする。
この繰り返しにより知識を積み重ねスキルを身につける。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図形描画	座標を指定し画面に図形を描画する
第 2 回	変数	変数の型と基本的な使い方
第 3 回	繰り返し描画	setup 関数と draw 関数による繰り返し、変数のスコープ
第 4 回	ランダム	必要な範囲の乱数を発生させる
第 5 回	条件分岐 (1)	if 文による基本的な分岐構造、条件の記述方法
第 6 回	第 1 回テスト	ここまでの内容を確認する
第 7 回	解答と練習問題	第 1 回テストの解説と練習問題
第 8 回	条件分岐 (2)	複数条件がある場合
第 9 回	繰り返し構造	for 文を使用した繰り返し構造
第 10 回	マウスで描画	マウスの位置座標を用いたプログラミング
第 11 回	マウスクリックで操作	マウスクリックによる入力
第 12 回	第 2 回テスト	全体の内容の確認
第 13 回	解答と練習問題	第 2 回テストの解説と練習問題
第 14 回	自由課題	自分でプログラムを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全ての内容が積み重ねになっており、前回までの内容を理解していないと理解が覚束なくなる。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

Processing をはじめよう 第 2 版 / Casey Reas, Ben Fry 著、オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

授業内で 2 回テストを実施する。テストは記述問題とプログラムの作成を課す。その成績と自由課題の成果、毎回の課題の達成度で総合的に評価する。

第 1 回試験 30%

第 2 回試験 30%

自由課題 10%

平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しく付いていけないと言う学生が、必ずしも評価が低い訳ではない。なんとなく出来たではなく、分かったと自分で思えるようにする。

【Outline and objectives】

This course introduces fundamental technique of programming and computational thinking to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

近藤 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基本技術を習得すると共に、プログラミング的思考を学ぶ。

【到達目標】

プログラムの基本的な命令や制御構造の書き方を理解する。
プログラムの目的を意識して流れを考えながら全体を組み立てる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プログラミング入門者を対象とし、初学者にも取り組みやすい Processing を用いて学習を進める。
まずその回の内容を説明し練習問題を解いていく事で学習する。さらに課題を自力で解く事で学んだ内容を自分のものとする。
この繰り返しにより知識を積み重ねスキルを身につける。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図形描画	座標を指定し画面に図形を描画する
第 2 回	変数	変数の型と基本的な使い方
第 3 回	繰り返し描画	setup 関数と draw 関数による繰り返し、変数のスコープ
第 4 回	ランダム	必要な範囲の乱数を発生させる
第 5 回	条件分岐 (1)	if 文による基本的な分岐構造、条件の記述方法
第 6 回	第 1 回テスト	ここまでの内容を確認する
第 7 回	解答と練習問題	第 1 回テストの解説と練習問題
第 8 回	条件分岐 (2)	複数条件がある場合
第 9 回	繰り返し構造	for 文を使用した繰り返し構造
第 10 回	マウスで描画	マウスの位置座標を用いたプログラミング
第 11 回	マウスクリックで操作	マウスクリックによる入力
第 12 回	第 2 回テスト	全体の内容の確認
第 13 回	解答と練習問題	第 2 回テストの解説と練習問題
第 14 回	自由課題	自分でプログラムを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全ての内容が積み重ねになっており、前回までの内容を理解していないと理解が覚束なくなる。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

Processing をはじめよう 第 2 版 / Casey Reas, Ben Fry 著、オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

授業内で 2 回テストを実施する。テストは記述問題とプログラムの作成を課す。その成績と自由課題の成果、毎回の課題の達成度で総合的に評価する。

第 1 回試験 30%

第 2 回試験 30%

自由課題 10%

平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しく付いていけないと言う学生が、必ずしも評価が低い訳ではない。なんとなく出来たではなく、分かったと自分で思えるようにする。

【Outline and objectives】

This course introduces fundamental technique of programming and computational thinking to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ビジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感することが最大の目標である。その上で、本実習を通して、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることを期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の processing を利用する事でプログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業では毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムを作成・実行・修正するという一連の作業手順を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と、JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画（1）	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
4.	processing による図形描画（2）	色の指定とカラーモード
5.	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
6.	processing による図形の制御（1）	変数を用いた図形描画
7.	processing による図形の制御（2）	図形の移動と回転
8.	processing による図形の制御（3）	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
9.	processing におけるインタラクティブ制御（1）	マウス入力を反映
10.	processing におけるインタラクティブ制御（2）	キーボード入力を取り込む
11.	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成
14.	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられないような暗記科目ではありません。空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられないように努力しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・小課題に対する評価 (40%)
・最終課題に対する評価 (30%)
・平常点 (30%)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

COT100EA

プログラミング入門

林田 和人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決していくためには、論理的な思考ができることが必要となります。

この論理的な思考力を伸ばすために、コンピュータでアプリケーションを作成するための環境であるプログラミングを学習します。

動きがあり、またビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミングの基礎的な知識を習得し、論理的な思考能力を高めます。

【到達目標】

プログラムは、与えられた教材を学ぶだけでは上達しません。アプリケーションをうまく作れるようになるためには、自分自身で作りたいものを考え、それを作っていくことが上達のための唯一の方法です。

よって、プログラミング言語の一つである Processing の基礎的な知識を学び、自分自身で作りたいものを考え、そしてそれを作れるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing は無料のアプリケーションを開発する環境で、時間変化のあるビジュアルな表現を容易に実現できます。

この Processing の基礎を学び、ビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミング能力と、論理的な思考力を養います。

課題では、自分自身のオリジナリティを発揮したアプリケーションを制作してください。

試行錯誤し、試す能力を伸ばすことで、論理的な思考力を高めましょう。授業内での活動を充実したものにすため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Processing の基本を知る	ガイダンス、変数を知り、簡単な画像を作成する
第 2 回	座標を理解する	座標を意識しながら、2 次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第 3 回	条件分岐を知る	条件分岐 if を理解し、値段表を作る
第 4 回	繰り返しを知る	繰り返し for と条件分岐 if を理解し、静止画を作る
第 5 回	2 次元の静止画を制作	座標を意識し、繰り返しを使って 2 次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第 6 回	イベントを知る 1	時間変化するアニメーションを理解する
第 7 回	イベントを知る 2	マウスイベント、キーボードイベントを理解する
第 8 回	「課題 1（アニメーション）」の制作 1	Processing で「課題 1（アニメーション）」を制作する、課題 1 のポイントは時間変化するアニメーション、インタラクティブ
第 9 回	「課題 1（アニメーション）」の制作 2	Processing で「課題 1（アニメーション）」を制作する
第 10 回	「課題 1（アニメーション）」の発表	「課題 1（アニメーション）」を発表し意見交換する
第 11 回	時間と音の制御を知る	時間を制御することを理解し、音を使った簡単なアニメーションを作成する
第 12 回	「課題 2（音とアニメーション）」の制作 1	Processing で「課題 2（音とアニメーション）」を制作する、課題 2 のポイントは音を使うことと時間のコントロール
第 13 回	「課題 2（音とアニメーション）」の制作 2	Processing で「課題 2（音とアニメーション）」を制作する
第 14 回	「課題 2(音とアニメーション)」の発表	「課題 2(音とアニメーション)」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に来れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。

余裕のある人は、適宜配布するプリントで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）

課題点（40%）

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。課題の評価は、授業で学んだことの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, logical thinking skill is necessary.

Learn programming to extend logical thinking skills.

By creating an application, you will acquire the basic knowledge of programming.

And increase the logical thinking abilities.

COT100EA

プログラミング入門

林田 和人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決していくためには、論理的な思考ができることが必要となります。

この論理的な思考力を伸ばすために、コンピュータでアプリケーションを作成するための環境であるプログラミングを学習します。

動きがあり、またビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミングの基礎的な知識を習得し、論理的な思考能力を高めます。

【到達目標】

プログラムは、与えられた教材を学ぶだけでは上達しません。アプリケーションをうまく作れるようになるためには、自分自身で作りたいものを考え、それを作っていくことが上達のための唯一の方法です。

よって、プログラミング言語の一つである Processing の基礎的な知識を学び、自分自身で作りたいものを考え、そしてそれを作れるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing は無料のアプリケーションを開発する環境で、時間変化のあるビジュアルな表現を容易に実現できます。

この Processing の基礎を学び、ビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミング能力と、論理的な思考力を養います。

課題では、自分自身のオリジナリティを發揮したアプリケーションを制作してください。

試行錯誤し、試す能力を伸ばすことで、論理的な思考力を高めましょう。

授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Processing の基本を知る	ガイダンス、変数を知り、簡単な画像を作成する
第2回	座標を理解する	座標を意識しながら、2次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第3回	条件分岐を知る	条件分岐 if を理解し、値段表を作る
第4回	繰り返しを知る	繰り返し for と条件分岐 if を理解し、静止画を作る
第5回	2次元の静止画を制作	座標を意識し、繰り返しを使って2次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第6回	イベントを知る 1	時間変化するアニメーションを理解する
第7回	イベントを知る 2	マウスイベント、キーボードイベントを理解する
第8回	「課題1（アニメーション）」の制作 1	Processing で「課題1（アニメーション）」を制作する、課題1のポイントは時間変化するアニメーション、インタラクティブ
第9回	「課題1（アニメーション）」の制作 2	Processing で「課題1（アニメーション）」を制作する
第10回	「課題1（アニメーション）」の発表	「課題1（アニメーション）」を発表し意見交換する
第11回	時間と音の制御を知る	時間を制御することを理解し、音を使った簡単なアニメーションを作成する
第12回	「課題2（音とアニメーション）」の制作 1	Processing で「課題2（音とアニメーション）」を制作する、課題2のポイントは音を使うことと時間のコントロール
第13回	「課題2（音とアニメーション）」の制作 2	Processing で「課題2（音とアニメーション）」を制作する
第14回	「課題2（音とアニメーション）」の発表	「課題2（音とアニメーション）」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に来れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。

余裕のある人は、適宜配布するプリントで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）

課題点（40%）

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, logical thinking skill is necessary.

Learn programming to extend logical thinking skills.

By creating an application, you will acquire the basic knowledge of programming.

And increase the logical thinking abilities.

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成の基本手順を学ぶ
第 2 回	「関数」の理解	関数の意義と使用方法を学ぶ
第 3 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用と「データ型」の理解	if 文のより複雑な利用法とデータ型の必要性を学ぶ
第 9 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 10 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 11 回	仕掛けのあるプログラム	学んできた手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 12 回	見栄えのよいプログラム	学んできた手法を応用し見栄えの工夫を行なう
第 13 回	Java 言語の基本	Java 言語の基本を学ぶ
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習を積極的に行うこと。

・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。

・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を渡し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧訳『Processing をはじめよう』オライリージャパン,2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%

・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

最初のうちは慣れないプログラミングに戸惑う人も多いですが、自信がついた、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかった等の前向きな感想が多い科目です。実習ならではのやりがいや楽しさを感じてもらえるよう心掛けています。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータを使用して行います。

課題作成や復習のため、授業時以外にもコンピュータを使用する必要がありますが、大学には自習室や貸出機器があるため、必ずしもパソコンを購入することはありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand the basics of programming.

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成の基本手順を学ぶ
第 2 回	「関数」の理解	関数の意義と使用方法を学ぶ
第 3 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用と「データ型」の理解	if 文のより複雑な利用法とデータ型の必要性を学ぶ
第 9 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 10 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 11 回	仕掛けのあるプログラム	学んできた手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 12 回	見栄えのよいプログラム	学んできた手法を応用し見栄えの工夫を行なう
第 13 回	Java 言語の基本	Java 言語の基本を学ぶ
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習を積極的に行うこと。
 ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
 ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧 訳『Processing をはじめよう』オライリージャパン,2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
 ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
 授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

最初のうちは慣れないプログラミングに戸惑う人も多いですが、自信がついた、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかった等の前向きな感想が多い科目です。実習ならではのやりがいや楽しさを感じてもらえるよう心掛けています。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータを使用して行います。課題作成や復習のため、授業時以外にもコンピュータを使用する必要がありますが、大学には自習室や貸出機器があるため、必ずしもパソコンを購入することはありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand the basics of programming.

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。こうした実習形式なので毎回出席するだけでなく、積極的な取り組みが必要です。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成の基本手順を学ぶ
第 2 回	「関数」の理解	関数の意義と使用方法を学ぶ
第 3 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用と「データ型」の理解	if 文のより複雑な利用法とデータ型の必要性を学ぶ
第 9 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 10 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 11 回	仕掛けのあるプログラム	学んできた手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 12 回	見栄えのよいプログラム	学んできた手法を応用し見栄えの工夫を行なう
第 13 回	Java 言語の基本	Java 言語の基本を学ぶ
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習を積極的に行うこと。
 ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
 ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧 訳『Processing をはじめよう』オライリージャパン、2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
 ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
 授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

最初のうちは慣れないプログラミングに戸惑う人も多いですが、自信がついた、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかった等の前向きな感想が多い科目です。実習ならではのやりがいや楽しさを感じてもらえるよう心掛けています。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータを使用して行います。課題作成や復習のため、授業時以外にもコンピュータを使用する必要がありますが、大学には自習室や貸出機器があるため、必ずしもパソコンを購入することはありません。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand the basics of programming.

COT100EA

プログラミング入門

諸上 茂光

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ビジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感することが最大の目標である。その上で、本実習を通して、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の processing を利用する事でプログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業では毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムを作成・実行・修正するという一連の作業手順を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と、JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画（1）	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
4.	processing による図形描画（2）	色の指定とカラーモード
5.	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
6.	processing による図形の制御（1）	変数を用いた図形描画
7.	processing による図形の制御（2）	図形の移動と回転
8.	processing による図形の制御（3）	分岐・繰り返し処理を利用した複数形の描画
9.	processing におけるインタラクティブ制御（1）	マウス入力を反映
10.	processing におけるインタラクティブ制御（2）	キーボード入力を取り込む
11.	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成
14.	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられるような暗記科目ではありません。空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられるようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・小課題に対する評価 (40%)
・最終課題に対する評価 (30%)
・平常点 (30%)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline and objectives】

To acquire the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。千里の道も一歩から。

【到達目標】

簡単なプログラミングをサンプルを見つけて作成できるレベルを達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing および Java 言語のサンプル・プログラムの一部を改変することにより、徐々に共通にプログラミングに存在する勘所を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部	・プログラミング言語の歴史および 衰勢
第 2 週	導入部の続き 描画（グラフィックス）	・サンプル・プログラムの説明 ・コメントとは？ 実は重要 ・数値データと文字データという融通 の利かない概念について ・絵を描いてみる
第 3 週	マルチメディアおよび Java 言語	・音を出してみる ・動画を動かしてみる
第 4 週	演算	・Java 言語 と Eclipse の紹介 ・定数、変数という概念。コンピュータは察してくれない。日本語をゴミと扱うことさえある。
第 5 週	数値の表現および文字 コードについて	・数値データの算術操作 ・10 進以外の数値表現 ・文字コードの概念：文字の数値との 紐付け、複数のコード体系
第 6 週	条件分岐 (1)	・if 文という概念。プログラミング言 語間での共通記述
第 7 週	条件分岐 (2)	・else 文：もはや英語とは言えない ・switch 文。if 文以外にこれが必要と なる「ケース」
第 8 週	繰り返し処理	・for, while 文という概念。プログラ ミング言語間での共通記述
第 9 週	データの扱い	・文字&数値データ
第 10 週	配列	・配列って何？ - 具体例と操作方法
第 11 週	人間との「対話」	・キーボード入力を処理に反映させる
第 12 週	Java と Eclipse	・これであなたもエンジニアの一步 目！
第 13 週	提出課題の準備	・Processing または Eclipse を使って 自由にプログラミングを動かしてみる
第 14 週	課題提出	・課題を仕上げて提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・欠席した場合は、前回の講義内容を授業支援システム等から入手の上自主的に学習すること。
・授業時間外での質問等は基本的に電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (50%) + 課題点 (50%) で評価する。
・質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。
・提出課題は、見つけたものの流用が良いが、内容を概括的に理解すること。

【学生の意見等からの気づき】

・途中で「ついていけない」と悲観しないでください。分野分野によって、得手不得手が出るのは当然のことです。
・また、長期的に見ると、知らない内に得意分野になっていることもあります。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

LIT100EA

文学

彭丹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： いにしえの恋歌 ―漢詩と和歌の世界

授業の概要と目的：この講義は、詩歌そして人生最大の主題である「恋」を取り上げる。中国の漢詩と日本の和歌は、どのように恋を表現し、人生を豊かにしてきたのか。日中文学と日中文化の基本的知識を修得するとともに、その比較を通じて、人間の生き方や歴史社会についての理解を深める。

【到達目標】

現代文学を生み出す源流である和歌や漢詩の中から、恋を主題とする作品をとりあげ、その鑑賞と批評を通して、東洋文学の精神と古代から未来への展望を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1 学習支援システムより、4月22日から授業を開始いたします。
2 学習支援システムにて資料を配布し、各自に読んでいただきます。
3 学習支援システムにて、毎週水曜日（講義日）前日までに課題を出します。これに対して、皆さまから水曜日18時までに、自分なりの感想や意見をオンラインで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	日本文学と中国文学における恋歌の系譜の概観。授業内容の概説及び評価方法について説明する。
第2回	若菜 1	『万葉集』の巻頭歌・籠もみ籠持ちに見る古代日本の恋のかたち
第3回	若菜 2	『詩経』の巻頭歌・関雎に見る古代中国の恋のかたち
第4回	恋の声 1	琴と雨の音に寄する恋歌
第5回	恋の声 2	和歌と漢詩の美 無声は有声に勝る
第6回	秘すれば恋 1	在原業平と二条后高子の忍ぶ恋 なぜ歌人は忍ぶ恋をするのか
第7回	秘すれば恋 2	神女に恋する なぜ詩人は神女に恋するのか
第8回	秘すれば恋 3	和歌と漢詩の美 秘すれば花
第9回	恋と宇宙 1	建礼門院右京大夫と李清照、その恋と作品
第10回	恋と宇宙 2	悲劇の帝王詩人後鳥羽院と李后主
第11回	長恨歌 1	亡国の恋ものがたり
第12回	長恨歌 2	和歌と漢詩の美 ものあはれと雅怨
第13回	長恨歌 3	和歌と漢詩の美 愛国と恋
第14回	まとめ	まとめと試験ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和歌と漢詩を朗読してみる。ジャンル・題材を問わず、内外の文学作品を広く読む。映画・演劇・美術・音楽を鑑賞する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布。

【参考書】

授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

1 期末試験はやりません。
2 試験に代わり、毎回課題の回答を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

近年は古典文学に馴染みのない受講生が多いので、近現代の文学作品、小説・演劇・映画なども取り入れて分かりやすく解説し、古典への理解と興味を高めてゆく。

【Outline and objectives】

Ancient Love Songs: The World of Chinese Poetry and Japanese Poetry This course examines poetry and "love", which is the most important them for people's life. How did Chinese poetry (kanshi) and Japanese poetry (waka) express love and enrich our life? In this course we acquire basic knowledge of Japanese-Chinese literature and culture and deepen understanding about the way of life, history and society of human being through comparison on these topics.

SOC100EC

文化社会学A

武田 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常や暮らしに文化社会学・歴史社会学の観点から光を当てて。一般的には「民俗学者」として考えられている柳田國男の『明治大正史世相篇』や他の幾つかの著書を手がかりに、私たちの日常の衣食住、人間同士の生活や文化のありように刻印された歴史性や社会性を分析する視点を学ぶ。その視角を現代にどう応用できるか説明することで、学生が具体的な生活の場から出発して「社会」のしくみを明らかにするための視点を身につけられることを目的としている。

【到達目標】

日常生活や文化に対して（文化）社会的な分析がどのような新たな見方をもたらすものなのか、何気ない暮らしの一コマからいかして「社会」の姿を映し出すことができるのかを理解すること。また講義内で示した視点を自分なりに活用して、日常生活についての文化社会的な分析を実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインを前提として、授業当日に資料を配信する。受講生は、事前に指定する『明治大正史世相篇』の該当ページや、事前に配信する資料を予習し、読了していることを前提とする。毎回の資料の前半では、柳田の『明治大正史世相篇』をはじめとする幾つかのテキストから見出される日常生活の分析視角を発見し、読みといていく。その上で後半では、そうした視角から現代の私たちの生活を分析し、それによってどんなことが明らかになるのかについて考えていく。毎回、期限を決めて、受講生各自に具体的な事例に基づいた分析のアイデアをリアクションペーパーとして提出してもらい。最終的には自分が書いたリアクションペーパーのうちどれか一つをもとにして（どの回のリアクションペーパーをもとにしたか明記すること）、より本格的に分析を展開したレポートを提出してもらい。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「日常」の文化社会学	柳田國男『明治大正史世相篇』から考える
2	木綿以前の事	衣服・靴をめぐる模索と#KuToo
3	食物の個人自由	コンビニなのに「お母さん食堂」
4	家と住心地	「心の小座敷」をめぐる
5	風光推移	メディアを通じた風景の創出
6	新交通と文化輸送者	移動をめぐる社会学
7	旅行の進歩及び退歩	夜行バスとハッシュタグが開く「旅行道」
8	酒	酒をめぐる社交の変容
9	恋愛技術の消長	若者組からマッチングサイトまで
10	家永続の願い	家の分裂・孤独な死
11	労力の配賦	「ハケン」の困難
12	貧と病	所得の格差・希望の格差
13	言葉としぐさの近代	「言えない人」のための民主主義
14	まとめ	「実用の学」としての文化社会学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で使用するテキストはその前の回の講義内で提示する。事前に読んできた上で講義に臨むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田國男,1930→1993,『明治大正史世相篇』講談社学術文庫。

【参考書】

佐藤健二,2015,『柳田国男の歴史社会学：続・読書空間の近代』せりか書房。

他についてはその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（55%）

最終レポート（45%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当のため、特になし。

【Outline and objectives】

This lecture analyze our daily lives from sociology of culture and historical sociology while referring to the viewpoint shown by Kunio Yanagida. It explains how we can apply his perspective to the analysis of contemporary daily life, and intends to give students perspectives to clarify the structure of everyday life.

SOC100EC

文化社会学B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。そうした中で地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

地域やコミュニティにおいて人口減少や過疎高齢化が進む中での継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜかけがえないものと感じられるのか、観光やまちづくりのなかで生みだされる矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさといった点について、社会的に分析・理解できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために映像・視聴覚資料を用いつつ、講義を行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのか
2	「伝統」が創られるとき(1)	「民謡」から「世界遺産」まで
3	「伝統」が創られるとき(2)	メディアが創りだした「伝統」の和太鼓
4	正しさをめぐる揺らぎ(1)	伝統文化における「保存」と「観光」
5	正しさをめぐる揺らぎ(2)	担い手にとっての「本物」・観光客にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
6	「伝統」のダイナミズム(1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
7	「伝統」のダイナミズム(2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
8	「伝統」のダイナミズム(3)	「ふるさと」イメージの構築と変容
9	「伝統」のダイナミズム(4)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混濁が生みだす「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造
11	移動と混濁が生みだす「伝統」(2)	アイヌ舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形(1)	被災地における民俗芸能の再生と移植

- 13 新たな継承の形 (2) アーティストを介した民俗芸能の継承
- 14 まとめ 地域社会と「伝統」をめぐる可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内容は深く連関しているため、前回の講義内容を復習した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

その都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当のため、特になし。

【Outline and objectives】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan.

CUA200EC

文化人類学

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は人間の文化の多様性と普遍性を研究する分野である。授業では、人間の生活様式の多様性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

講義を通じて、文化人類学の諸概念、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などにみられる事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化についての理解を深め、視野を広げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を説明していく。講義においてはパワーポイントを使用し、講義内容の見出しと小見出しのレジュメを配布する。受講者はそれを参照しながら講義を集中して聞き、各自が自分なりに講義ノートを作成する。授業の最後には、授業内容に即したコメントを書いたリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1) 文化人類学とは、(2) 隣接の研究分野との関連性、(3) 授業の内容、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、季節儀礼（暦と季節関連の行事）
3.	通過儀礼	季節儀礼（祝祭日）
4.	通過儀礼	葬送儀礼、新しいかたちの埋葬「樹木葬」
5.	家族と親族	家族のかたちと居住空間
6.	宗教と世界観	神話
7.	宗教と世界観	風水の思想と実践
8.	人間と生業形態	狩猟採集社会の文化変容
9.	人間と生業形態	牧畜社会の文化変容
10.	人間と生業形態	農業（「文化的景観」と「世界農業遺産」）
11.	嗜好品文化	ワイン（ブドウ栽培、ワインづくり）
12.	嗜好品文化	コーヒー（栽培、飲用、儀礼）
13.	文化の展示	民族学博物館と文化の展示
14.	授業内試験	論文試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントを映して進める授業形式であり、授業中にノートをとる能力が要求される。講義内容のノートをとること自体が情報を収集・整理しそれについて思考するトレーニングとして捉える方針であるため、ノートが十分にとれなかった場合は授業中に提示された参考書を読んで補足してほしい。参考書を積極的に読み、講義内容の理解を深めたり、論文試験に生かしたりすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる平常点（50%）と論文試験（50%）を合わせて評価する。

リアクションペーパーに書かれたものが授業の具体的な内容に即していない場合は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れること。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、各回の内容や順番に若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

SOC200EA

平和論

中村 長史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じる問題は、自然現象ではなく社会現象である以上、一人一人の力によってわずかながらでも良くすることもできるし、さらに悪くしてしまうこともある。平和論の授業を受ける皆さんには、この点を意識し、自分の頭で国際問題の解決策を考えられるようになってほしい。

この講義では、国際問題を「諸国家・諸国民の共存」を脅かすものと「諸国家・諸国民の協力」を脅かすものとに便宜的に分けて学んでいく。具体的には、まず北朝鮮核開発問題（共存を脅かす）とシリア難民問題（協力を脅かす）という現在進行形の事例について、その「構図（What）」、「原因（Why）」、「解決策（How to do）」を考えてみる。次に、過去の事例を確認しながら、平和に関する基礎的な概念を学ぶ。最後に、これらの概念や過去の事例を踏まえて、北朝鮮核開発問題とシリア難民問題について再び考える。

本講義で学んだ概念と事例を使いこなして、現在の世界における問題の構図や原因、解決法を自分の頭で考えられるようになることを目指す。

【到達目標】

- ①学んだ概念や事例に関するキーワードについて正確に説明することができる【2回の小テストで評価】。
- ②現在の国際問題の構図について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。
- ③現在の国際問題の原因について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。
- ④現在の国際問題を解決するための政策の選択肢を複数挙げたうえで、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、メリットとデメリットを比べて判断することができる【期末レポートで評価】。
- ⑤多様な利害・価値観に配慮したうえで、問題に対して自分なりの考えを持ち、他者と相談したり、ときには説得したりするという実社会でも求められる方法を習得する【期末レポートで間接的に評価】。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4/22（水）より資料配布で授業を開始する。5/6（水）より事前に収録した動画で授業を進める。動画は一学期間いつでも閲覧できるようにする。

講義で用いるパワーポイントは、講義前に各自ダウンロード可能である。ノートをとる負担が少ない分、講義中は教員からの問い掛けに自分の頭で考えることが求められる。ただし、グループワークの時間も適宜設けるので、教員からの問い掛けに一人で悩む必要はなく、仲間の見解も参考にしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1部：現在の国際問題に挑戦！	北朝鮮核開発問題とシリア難民問題

2	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存を脅かすもの：戦争
3	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法①：自衛と集団安全保障 *教科書 1・3・4 章
4	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法②：軍縮と軍備管理 *教科書 12・13 章
5	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法③：基地問題 *教科書 2 章
6	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法④：領土問題 *教科書 6 章
7	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	小括（小テストの実施・解説を含む）
8	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力を脅かすもの：貧困と人権侵害
9	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法①：開発援助 *教科書 16 章
10	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法②：環境保護 *教科書 18 章
11	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法③：歴史認識問題 *教科書 8 章
12	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法④：難民保護 *教科書 17 章
13	第2部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法⑤：人道的介入と PKO *教科書 10・11 章
14	第3部：現在の国際問題に再挑戦！	北朝鮮核開発問題とシリア難民問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤史郎、川名晋史、上野友也、齊藤孝祐編『日本外交の論点』（法律文化社、2018 年）2640 円

*毎回の予習や期末レポートに際して利用するので手元に置いておくこと。

【参考書】

日本平和学会編『平和をめぐる 14 の論点』（法律文化社、2018 年）

*持参する必要はないが、授業中に関連箇所の頁数を述べるので、復習に役立ててほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）【到達目標②～⑤に対応】

第 1 回小テスト（15%）【到達目標①に対応】

第 2 回小テスト（15%）【到達目標①に対応】

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

学びに集中できる環境をつくるため、以下のルールを設ける。

①提出期限を遅れての課題提出は、いかなる理由であれ、受け付けられない。

②小テストを受験できないことがわかっている者は、必ず事前に相談に来ること。追試の機会を別日に設ける。事前に相談に来なかった者の追試受験は認めない。

③配布物の予備は保管しないので、欠席した場合は、他の受講者から借りること。

④講義中の飲食は原則禁止。体調によりやむを得ない場合は認めるが、机上には飲食物を置かないこと。

⑤講義中の私語や通話は厳禁。

⑥レポートについて酷似した答案を発見した場合は、いずれも 0 点とする。

【Outline and objectives】

In this course, we will study global issues separately for the threat to "coexistence of nations and people" and the threat to "cooperation of nations and people". First, we will focus the ongoing cases of the Democratic People's Republic of Korea(DPRK) nuclear development issue (the threat to coexistence) and the Syrian refugee issue (the threat to cooperation). Next, while reviewing past cases, we will discuss the basic concepts of international politics. Finally, considering these concepts and past cases, we will reconsider the DPRK nuclear development issue and the Syrian refugee issue.

Basic English 1 - I 1

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

通常の教室授業では、英語4技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。とりわけ、英文テキストの音読と読み（意味把握）に重点を置きます。

しかし残念ながら、現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、春学期授業をオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する意見形成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 4/27（月）～5/11（月）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDFファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/18（月）～7/13（月）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルのURLを記入します。諸君はそのURLをクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし、適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。

3. 最終日（7/20）の授業

追って連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/27	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
5/11	プリント Reading ①	音読と意味把握①：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/18	プリント Reading ②	音読と意味把握②：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/25	プリント Reading ③ Audio&Visual 教材	音読と意味把握③：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/1	プリント Reading ④ Audio&Visual 教材	音読と意味把握④：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/8	プリント Reading ⑤ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑤：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/15	プリント Reading ⑥ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑥：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/22	プリント Reading ⑦ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑦：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/29	プリント Reading ⑧ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑧：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/6	プリント Reading ⑨ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑨：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/13	プリント Reading ⑩ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑩：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/20	春学期授業のまとめ	春学期のまとめ。レポート提出。提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を授業一週間前に配布。

教材テーマは「Global Society」

各回、予習のポイントの説明。

学生諸君がテキストを購入する必要はない。

具体的には以下の通り：

1. 4/27（月）～5/11（月）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDFファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/18（月）～7/13（月）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルのURLを記入します。諸君はそのURLをクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし、適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。

3. 最終日（7/20）の授業

追って連絡します。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業における予習成果・課題（80%）＋期末レポート（20%）＝成績（100%）

授業で重要な質問、興味深い質問、意欲ある質問をした学生にはその分、特別に加点して評価します。まじめで熱心な受講生は、常に高評価の対象です。

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59以下 : D

未受験、採点不能: E

今回の事態は異例中の異例であり、その特殊性からレポートならびに毎回の課題提出を成績基準とします。その時、十分に気をつけて欲しい事柄を2点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末。

【Outline and objectives】

This course is intended to help students improve their basic English skills including: vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held a bilingual environment, both Japanese and English.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 4

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

通常の教室授業では、英語4技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。とりわけ、英文テキストの音読と読み（意味把握）に重点を置きます。

しかし残念ながら、現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、春学期授業をオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する意見形成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 4/27（月）～5/11（月）の授業
ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDFファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。
- 5/18（月）～7/13（月）の授業
順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルのURLを記入します。諸君はそのURLをクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし、適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。
- 最終日（7/20）の授業
追って連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/27	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
5/11	プリント Reading ①	音読と意味把握①：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
5/18	プリント Reading ②	音読と意味把握②：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
5/25	プリント Reading ③ Audio&Visual 教材	音読と意味把握③：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
6/1	プリント Reading ④ Audio&Visual 教材	音読と意味把握④：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
6/8	プリント Reading ⑤ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑤：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
6/15	プリント Reading ⑥ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑥：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
6/22	プリント Reading ⑦ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑦：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
6/29	プリント Reading ⑧ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑧：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
7/6	プリント Reading ⑨ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑨：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
7/13	プリント Reading ⑩ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑩：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 課題提出。
7/20	春学期授業のまとめ	春学期のまとめ。レポート提出。提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を授業一週間前に配布。

教材テーマは「Global Society」

各回、予習のポイントの説明。

学生諸君がテキストを購入する必要はない。

具体的には以下の通り：

1. 4/27（月）～5/11（月）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDFファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/18（月）～7/13（月）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルのURLを記入します。諸君はそのURLをクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし、適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。

3. 最終日（7/20）の授業

追って連絡します。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業における予習成果・課題（80%）＋期末レポート（20%）＝成績（100%）

授業で重要な質問、興味深い質問、意欲ある質問をした学生にはその分、特別に加点して評価します。まじめで熱心な受講生は、常に高評価の対象です。

100～90：S

89～87：A+

86～83：A

82～80：A-

79～77：B+

76～73：B

72～70：B-

69～67：C+

66～63：C

62～60：C-

59以下：D

未受験、採点不能：E

今回の事態は異例中の異例であり、その特殊性からレポートならびに毎回の課題提出を成績基準とします。その時、十分に気をつけて欲しい事柄を2点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末。

【Outline and objectives】

This course is intended to help students improve their basic English skills including: vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held a bilingual environment, both Japanese and English.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ ABC 放送のニュース番組、ABC World News Tonight を使ったテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。
二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は少なくとも前半はオンラインでの開講が予想されます。それにともなう授業計画の変更につきましては、学習支援システムでその都度指示します。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、初回はオンラインでの授業方法（決定しているところまで）と具体的な課題を提示したいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	News Story 1	Legacy of Captain Mariner
第 3 回	News Story 1	Legacy of Captain Mariner
第 4 回	News Story 2	America Strong: Foster Grandparents
第 5 回	News Story 2	America Strong: Foster Grandparents
第 6 回	News Story 3	Assault Weapons Ban in New Zealand
第 7 回	News Story 3	Assault Weapons Ban in New Zealand
第 8 回	News Story 4	Sumo Diplomacy
第 9 回	News Story 4	Sumo Diplomacy
第 10 回	News Story 5	American ISIS Bride
第 11 回	News Story 5	American ISIS Bride
第 12 回	News Story 6	Milestone Mission: Virgin Galactic
第 13 回	News Story 6	Milestones Mission: Virgin Galactic
第 14 回	定期試験	定期試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は必ずやっておくこと。また、リスニングが苦手な人は視聴しておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Broadcast: ABC World News Tonight 2 (『映像で学ぶ ABC ワールドニュース 2』 山根 繁 他編集、金星堂 2020 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更になります。具体的な方法と基準は、春学期の後半までには決定し、学習支援システムなどで提示したいと考えています。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

可能な場合には CALL 教室を使用する予定です。

【その他の重要事項】

以下の基準は対面になった場合の基準となります。
オンライン授業に関しての基準はまた決まり次第お伝えします。
辞書はかならず持参してください。
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回遅刻で 1 回欠席となり、5 回欠席した場合には単位取得はできません。
(公欠の基準は授業開始日にお知らせします)
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。(バスは遅延に含みません)
また、英作文などの提出物は、後からの提出は減点となります(公欠の場合を除く)。小テストは、後から受けることはできませんが、公欠や遅延の場合には考慮します。

LANe100EA

Basic English 1 - I 4

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

This chief aim of this course is to familiarize students with the process of developing and expressing an opinion on a topic of current interest. The textbook includes both pros and cons of fifteen current topics, which students read closely to acquire the necessary expressions and ideas needed to state their own opinions. Each session consists of a vocabulary quiz, close reading, and writing on the specific topics. Students are also required to submit the review sheets at the end of the session. Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations and usual performance (involving the average score of quizzes and review sheets).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会が抱える諸問題について論じた英文を読み、自分自身の考えを英語で論じるための表現とプロセスを習得する。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の通りである。

- 1、社会問題を英語で読み、論じることができるための表現を習得する
- 2、syntax に注目して、正確に英文を読むことができる
- 3、英文の内容を簡潔な日本語と英語の両方で要約できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この前日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について、実際にテキストを用いて説明する（テキストは初回のみプリントを用意する。各自、辞書を持参すること。）
第2回	School clubs	部活動の功罪について考察する
第3回	Food Additives	食品添加物の功罪について考察する①
第4回	Food Additives	食品添加物の功罪について考察する②
第5回	The Olympics	オリンピック開催について考察する①
第6回	The Olympics	オリンピック開催について考察する②
第7回	mid-term examination	中間考査（既習範囲についての理解を確認する）
第8回	Mobile Ads	情報化社会の功罪について考察する①
第9回	Mobile Ads	情報化社会の功罪について考察する②
第10回	100-Yen Shop	消費社会の功罪について考察する①
第11回	100-Yen Shop	消費社会の功罪について考察する②
第12回	Barrier-Free	バリアフリー社会の課題について考察する①
第13回	Barrier-Free	バリアフリー社会の課題について考察する②
第14回	term-end examination	期末考査（既習範囲についての理解を確認する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間以上を目安とする。

準備：学習予定に従ってテキスト本文を読み、重要な表現を暗記する。

復習：quizに出題された語彙と、授業中の解説及びreview sheetを参考に、本文を読み返す。writingが返却された週は添削と解説を参考に書き直す。

【テキスト（教科書）】

『議論伯仲：ふたつの意見』Mark Jewel 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

なし

LANe100EA

Basic English 1 - I 15

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在学生が持っている英語の能力を少しでも伸ばすことを目指します。まず英語を読むこと。そこから英語を書くことと聴く能力も伸ばしたいと思っています。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にしながら、中級者に向けてつくられた教科書を読み、それを正確な日本語に置き換えられる。そこに書かれた英語を参考にして、簡単な英作文ができる。さらに文全体ではなくとも、知っている単語のレベルでは聴き取りができる。以上 3 点が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の穂違法と基準も変更する。学習支援システムを使った授業は 4 月 27 日から開始する。

この授業は 1 年生の授業なので、教科書用に書かれた英文を読んで訳すことを中心に、あわせてライティングとリスニングの練習を行います。また、語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、毎回単語のテストを行います（オンライン授業んでもマイカ 15 問ずつ単語を覚えること）。教科書はページの分量が多めで、単語試験や英作問題も行うので、1 章に授業は 2 回から 3 回を予定しています。若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文具	ポストイット・ノートはいかにして生まれたか
第 2 回	ファッション	小さすぎる、あるいは大きすぎる靴。靴の歴史と社会的意味
第 3 回	ファッション	とがった靴先、あるいは靴先への病的なこだわり
第 4 回	ファッション	ユニット 1 前半の練習問題
第 5 回	ファッション	スカートとズボンの歴史
第 6 回	ファッション	スカート、あるいはズボンをはく意味
第 7 回	ファッション	ユニット 1 後半の練習問題
第 8 回	衛生法	清潔であることは美德である
第 9 回	衛生法	文化的習慣としての衛生法
第 10 回	衛生法	ユニット 2 前半の練習問題
第 11 回	衛生法	掃除魚という存在
第 12 回	衛生法	掃除魚と顧客魚に見る共生関係
第 13 回	衛生法	ユニット 2 後半の練習問題
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読む予定の文中に出てくる単語の中で、知らないものについてはその意味を調べる。

毎回単語の試験を行うので、その準備をすること。

辞書を持参すること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal『Connection 4 Advanced Level（松柏社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他外必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最初の数回の授業がオンラインで行うものになったために成績評価の方法と基準にも変更があります。

教室で試験が行える場合は、定期試験の結果をもって評価します（定期試験 100 パーセント）。試験は、読む、書くの 2 部門で試験します。試験における配分は、読む 60 点、書く 25 点、85 点満点です（教室で授業が数回でも行える場合は、聞き取り問題 15 点も含めて 100 点満点とする）。

授業がすべてオンラインで行われ、試験もできない場合は、授業開始日に授業支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書はできる限りきれいに丁寧にしよう努力することは必要だと思っています。聞き取りの練習はもっとやりたいともいます。

【その他の重要事項】

毎授業中に行う予定だった単語の試験は、オンライン授業になった場合でも毎回 15 問ずつ出すので覚えていってください。もし授業が可能なら、まとめて単語試験を行うので、6 割以上の成績を収めることが必須です。オンライン授業のみだった場合は、単語試験は春学期は行わない。

試験が行えた場合は、かならず試験を受けて、できる限り追試になることは避けてください。やむを得ない理由で試験を受けられない場合も、当日試験の始まる前に連絡をすること。無断で試験を休んだ場合は不可とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read and write English, as well as to hear English words. At the end of the course, students read English texts well and translate them into Japanese correctly, and they write readable English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 16

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在学生が持っている英語の能力を少しでも伸ばすことを目指します。まず英語を読むこと。そこから英語を書くことと聴く能力も伸ばしたいと思っています。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にしながら、中級者に向けてつくられた教科書を読み、それを正確な日本語に置き換えられる。そこに書かれた英語を参考にして、簡単な英作文ができる。さらに文全体ではなくとも、知っている単語のレベルでは聞き取りができる。以上 3 点が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の穂違法と基準も変更する。学習支援システムを使った授業は 4 月 27 日から開始する。

この授業は 1 年生の授業なので、教科書用に書かれた英文を読んで訳すことを中心に、あわせてライティングとリスニングの練習を行います。また、語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、毎回単語のテストを行います（オンライン授業んでもマイカ 15 問ずつ単語を覚えること）。教科書はページの分量が多めで、単語試験や英作問題も行うので、1 章に授業は 2 回から 3 回を予定しています。若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文具	ポストイット・ノートはいかにして生まれたか
第 2 回	ファッション	小さすぎる、あるいは大きすぎる靴。靴の歴史と社会的意味
第 3 回	ファッション	とがった靴先、あるいは靴先への病的なこだわり
第 4 回	ファッション	ユニット 1 前半の練習問題
第 5 回	ファッション	スカートとズボンの歴史
第 6 回	ファッション	スカート、あるいはズボンをはく意味
第 7 回	ファッション	ユニット 1 後半の練習問題
第 8 回	衛生法	清潔であることは美德である
第 9 回	衛生法	文化的習慣としての衛生法
第 10 回	衛生法	ユニット 2 前半の練習問題
第 11 回	衛生法	掃除魚という存在
第 12 回	衛生法	掃除魚と顧客魚に見る共生関係
第 13 回	衛生法	ユニット 2 後半の練習問題
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読む予定の文中に出てくる単語の中で、知らないものについてはその意味を調べる。

毎回単語の試験を行うので、その準備をすること。

辞書を持参すること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal『Connection 4 Advanced Level（松柏社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他外必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最初の数回の授業がオンラインで行うものになったために成績評価の方法と基準にも変更があります。

教室で試験が行える場合は、定期試験の結果をもって評価します（定期試験 100 パーセント）。試験は、読む、書くの 2 部門で試験します。試験における配分は、読む 60 点、書く 25 点、85 点満点です（教室で授業が数回でも行える場合は、聞き取り問題 15 点も含めて 100 点満点とする）。

授業がすべてオンラインで行われ、試験もできない場合は、授業開始日に授業支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書はできる限りきれいに丁寧にしよう努力することは必要だと思っています。聞き取りの練習はもっとやりたいともいます。

【その他の重要事項】

毎授業中に行う予定だった単語の試験は、オンライン授業になった場合でも毎回 15 問ずつ出すので覚えていってください。もし授業が可能なら、まとめて単語試験を行うので、6 割以上の成績を収めることが必須です。オンライン授業のみだった場合は、単語試験は春学期は行わない。

試験が行えた場合は、かならず試験を受けて、できる限り追試になることは避けてください。やむを得ない理由で試験を受けられない場合も、当日試験の始まる前に連絡をすること。無断で試験を休んだ場合は不可とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read and write English, as well as to hear English words. At the end of the course, students read English texts well and translate them into Japanese correctly, and they write readable English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 9

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture, a western culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The class will begin May 11,2020. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory exercise	Orientation of class materials. Self-introductory assignment . Short video presentation (2 minutes). Written Self introduction explaining video presentation 15 sentences(one paragraph)
2	Exercise I	Introduce Unit 1 of text. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
4	Exercise III	Complete and review Unit 1. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Unit 2 of text. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Listen to audio file for reading exercise. Practice pronunciation and vocabulary comprehension.
7	Exercise VI	Complete And review unit 2. Test oral or written optional
8	Exercise VII	Introduce Unit 3 of text. Study vocabulary and reading exercises.
9	Exercise VIII	Listen to audio file for reading exercise. Practice pronunciation and vocabulary comprehension.
10	Exercise VIIV	Complete And review Unit 3. Optional test or report.
11	Exercise X	Start Unit 4 of text. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Listen to audio file for reading exercise. Practice pronunciation and vocabulary comprehension.
13	Exercise XII	Complete and review unit 4. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
14	Exercise XIII	Final reports on topic related to units studied in textbook. Incorporate vocabulary, grammar and information from textbook units Studied in class. Add extra data from independent research. Written 500 word report+audio file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings,research and prepare final written reports. Final Oral presentation of written report. 本授業の準備学習・k 復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook + selected readings

【参考書】

Textbook, selected readings

【成績評価の方法と基準】

Textbook exercises 25%,Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone, iPhone, iPad , computer

【Outline and objectives】

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - I 3

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業オンライン化のためシラバス内容を随時変更します。

基礎的な英語力を身につけるための授業である。課題をこなすことにより reading, listening, writing, speaking の 4 skills を鍛え、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web 上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*本授業の開始日は 4/27（月）です。

- ・主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示する。それを元に学生は各自で学習を行う。
 - ・可能な場合は教室での対面授業に移行する。
 - ・成績評価は、主にテキスト類や音声ファイル等の提出物などで行う。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明
第 2 回	Chapter 1 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング・音読練習
第 3 回	Chapter 1 (Part 2)	パラグラフの基礎
第 4 回	Chapter 2 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング練習＋音読練習；文法テスト
第 5 回	Chapter 2 (Part 2)	パラグラフ作文；音読テスト
第 6 回	Chapter 3 (Part 1)	読解・要約練習（英）；リスニング・音読練習；文法テスト
第 7 回	Chapter 3 (Part 2)	パラグラフ作文
第 8 回	Chapter 4 (Part 1)	読解；リスニング；プレゼンテーションの準備；文法テスト
第 9 回	Chapter 4 (Part 2)	パラグラフ作文；プレゼンテーションの準備；音読テスト
第 10 回	Chapter 5 (Part 1)	読解・リスニング；プレゼンテーション 1 回目
第 11 回	Chapter 5 (Part 2)	読解・リスニング；プレゼンテーション 2 回目
第 12 回	まとめ	学期末課題；学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・宿題・課題の作成
- ・音読・リスニングの反復練習
- ・指定文法参考書の自習
- ・Web 上の教材の自習
- ・上記の作業時間は授業 1 回あたり 1～2 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材については学習支援システム上で随時指示する。
- ②大西泰斗他著「一億人の英文法」東進ブックス（1800 円）& 「一億人の英文法 CD ブック」（1500 円）（後者 CD ブックの内容はスマホアプリでもより安く入手できる。CD ブック・アプリどちらでも可）
- ③英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回の Quiz、課題、提出物など）60%
- ・音読テスト 10%
- ・プレゼンテーション 15%
- ・学期末課題 15%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズによりあった柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や授業時間外の個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業オンライン化のためシラバス内容を随時変更します。

基礎的な英語力を身につけるための授業である。課題をこなすことにより reading, listening, writing, speaking の 4 skills を鍛え、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*本授業の開始日は4/27（月）です。

- ・主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示する。それを元に学生は各自で学習を行う。
 - ・可能な場合は教室での対面授業に移行する。
 - ・成績評価は、主にテキスト類や音声ファイル等の提出物などで行う。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	Chapter 1 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング・音読練習
第3回	Chapter 1 (Part 2)	パラグラフの基礎
第4回	Chapter 2 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング練習＋音読練習；文法テスト
第5回	Chapter 2 (Part 2)	パラグラフ作文；音読テスト
第6回	Chapter 3 (Part 1)	読解・要約練習（英）；リスニング・音読練習；文法テスト
第7回	Chapter 3 (Part 2)	パラグラフ作文
第8回	Chapter 4 (Part 1)	読解；リスニング；プレゼンテーションの準備；文法テスト
第9回	Chapter 4 (Part 2)	パラグラフ作文；プレゼンテーションの準備；音読テスト
第10回	Chapter 5 (Part 1)	読解・リスニング；プレゼンテーション1回目
第11回	Chapter 5 (Part 2)	読解・リスニング；プレゼンテーション2回目
第12回	まとめ	学期末課題；学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・宿題・課題の作成
- ・音読・リスニングの反復練習
- ・指定文法参考書の自習
- ・Web上の教材の自習
- ・上記の作業時間は授業1回あたり1～2時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材については学習支援システム上で随時指示する。
- ②大西泰斗他著「一億人の英文法」東進ブックス（1800円）＆「一億人の英文法 CD ブック」（1500円）（後者 CD ブックの内容はスマホアプリでもより安く入手できる。CD ブック・アプリどちらでも可）
- ③英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回の Quiz、課題、提出物など）60%
- ・音読テスト 10%
- ・プレゼンテーション 15%
- ・学期末課題 15%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズによりあった柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や授業時間外の個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 1

ジョナサン ブラウン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目的は個人的又は文化的なリーディング及びディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to culture in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な文化に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにする。また、読みの流暢さ及び読解力を向上です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will begin May 11. Discussion activities will be done in pairs and the results of the discussions will be submitted to the instructor via Google Classroom and/or email. この授業が5月11日に始まります。学生が主体的に学ぶ。ディスカッションアクティビティはペアで行われる。ディスカッションの結果を教師に提出することです。（この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus; Self-introductions; Read pp. 2-5; Complete pp. 6-7; Vocabulary Quiz 1
第2回	Unit 2: Kiss, Bow, Or Shake Hands	Read pp. 8-11; Complete pp. 12-13; Complete Unit 2 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 2
第3回	Unit 3: Prized Possessions	Read pp. 14-17; Complete pp. 18-19; Complete Unit 3 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 3
第4回	Unit 4: Cheers	Read pp. 20-23; Complete pp. 24-25; Complete Unit 4 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 4 : Watch example mid-term presentation; prepare presentations
第5回	Mid-term Presentations	Submit mid-term presentations via Google Classroom
第6回	Unit 5: What's the Occasion?	Read pp. 26-29; Complete pp. 30-31; Complete Unit 5 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 5
第7回	Unit 6: First Dates	Read pp. 32-35; Complete pp. 36-37; Complete Unit 6 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 6
第8回	Review	Comprehensive Vocabulary Quiz (Units 1-6); Watch example final presentations; prepare presentations
第9回	Final Presentations Preparation	Prepare presentations
第10回	Final Individual Presentations	Final presentations

第11回	none	none
第12回	none	none
第13回	none	none
第14回	none	none

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

発表の準備：リスニングの復習；語彙学習；オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary. 和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 20%
Online Reading Assignments オンラインリーディング課題 30%
Mid-term Group Presentation 中期グループ発表: 20%
Final Presentations 最終発表: 30%

【学生の意見等からの気づき】

リーディング学習を増やした。

Increased reading practice.

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - I 23

ジョナサン ブラウン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目指は個人的又は文化的なディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to culture in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な文化に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにする。また、読みの流暢さ及び読解力を向上です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will begin May 11. Discussion activities will be done in pairs and the results of the discussions will be submitted to the instructor via Google Classroom and/or email. この授業が5月11日に始まります。学生が主体的に学ぶ。ディスカッションアクティビティはペアで行われる。ディスカッションの結果を教師に提出することです。(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus; Self-introductions; Read pp. 2-5; Complete pp. 6-7; Vocabulary Quiz 1
第2回	Unit 2: Kiss, Bow, Or Shake Hands	Read pp. 8-11; Complete pp. 12-13; Complete Unit 2 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 2
第3回	Unit 3: Prized Possessions	Read pp. 14-17; Complete pp. 18-19; Complete Unit 3 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 3
第4回	Unit 4: Cheers	Read pp. 20-23; Complete pp. 24-25; Complete Unit 4 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 4; Watch example mid-term presentation; prepare presentations
第5回	Mid-term Presentations	Submit mid-term presentations via Google Classroom
第6回	Unit 5: What's the Occasion?	Read pp. 26-29; Complete pp. 30-31; Complete Unit 5 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 5
第7回	Unit 6: First Dates	Read pp. 32-35; Complete pp. 36-37; Complete Unit 6 Conversation Strategy with a partner. ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes. Vocabulary Quiz 6
第8回	Review	Comprehensive Vocabulary Quiz (Units 1-6); Watch example final presentations; prepare presentations
第9回	Final Presentations Preparation	Prepare presentations
第10回	Final Individual Presentations	Submit final presentations via Google Classroom
第11回	none	none

第12回	none	none
第13回	none	none
第14回	none	none

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary. 和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 20%

Online Reading Assignments オンラインリーディング課題 30%

Group Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

【学生の意見等からの気づき】

リーディング学習を増やした。

Increased reading practice.

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - I 5

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（前半）	記事を講読します。
第3回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（後半）	記事を講読します。
第4回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第5回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第6回	地撮り投稿を考える（前半）	記事を講読します。
第7回	地撮り投稿を考える（後半）	記事を講読します。
第8回	中間テスト	講読した記事をまとめ、振り返る試験です。
第9回	デジタルデトックスのヒント（前半）	記事を講読します。
第10回	デジタルデトックスのヒント（後半）	記事を講読します。
第11回	中国発：一人っ子政策、その後（前半）	記事を講読します。
第12回	中国発：一人っ子政策、その後（後半）	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説	中間テスト以降に講読した記事をまとめ、振り返る試験です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女/ Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社。(¥ 2100 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（前半）	記事を講読します。
第3回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（後半）	記事を講読します。
第4回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第5回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第6回	地撮り投稿を考える（前半）	記事を講読します。
第7回	地撮り投稿を考える（後半）	記事を講読します。
第8回	中間テスト	講読した記事をまとめ、振り返る試験です。
第9回	デジタルデトックスのヒント（前半）	記事を講読します。
第10回	デジタルデトックスのヒント（後半）	記事を講読します。
第11回	中国発：一人っ子政策、その後（前半）	記事を講読します。
第12回	中国発：一人っ子政策、その後（後半）	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説	中間テスト以降に講読した記事をまとめ、振り返る試験です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女/ Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社。(¥ 2100 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - I 7

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確実にものとします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義型の授業で、英文を精読します。必要な時にはグループ・ディスカッションを行います。毎回授業時には小テストを行い、授業の理解度を確認します。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD も小説を読み進めた箇所まで鑑賞します。

注意：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法など、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter1	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
5	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
8	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。

10	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
11	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
13	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
14	Chapter1-4	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

注意：春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 10

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確かなものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義型の授業で、英文を精読します。必要な時にはグループ・ディスカッションを行います。毎回授業時には小テストを行い、授業の理解度を確認します。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD も小説を読み進めた箇所まで鑑賞します。

注意：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法など、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter1	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
5	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
11	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
13	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter1-4	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

注意：春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 2

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<概要>授業のはじめ 30 分は英語イディオム表現のワークブック形式のテキストを使い、残りの時間はリーディングのテキストを使って学習する。

<目的>さまざまなイディオムの意味や用法を習得するとともに、長文の読解およびリスニングや英作文のスキルを身につける。

【到達目標】

テーマごとに分類されたイディオム表現を覚え、読解および英作文で使えるようになる。長文を読んで意味を解釈するとともに、関連した内容のリスニングおよび英作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4月27日が第一回授業です。第一回は課題とアンケート実施のみとして、学習支援システムを使用した授業がどのように機能するかを判断しながら、次回に続けていこうと思います。

当面は学習支援システムを使った授業をおこなう予定です。zoom を使ったオンライン授業をおこなうかどうかは、人数が多いこともあり、まだわかりません。

また、成績評価の要件として、本シラバスには小テストと期末テスト 50 パーセントずつ記載しておりますが、これについても、学習支援システムで授業を進めながら、考えていくことになります。春学期の途中から教室での対面授業が可能になれば、小テストや期末テストも普通に実施できますが、そうでなければ、課題中心にせざるを得ません。状況をみながらできるだけ早めに決めて周知していきますので、ご理解をお願いします。

というわけで、4月27日には必ず学習支援システムをチェックしてください。なお、使用テキストに変更はありません。本シラバスに記載した2種類のテキストを入手してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進行とテキストの説明
第 2 回	ドリル Lesson1/テキスト Chapter1 前半	「天体・天候」を用いたイディオム/長文リーディング
第 3 回	ドリル Lesson2/テキスト Chapter1 後半	「空気・水」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 4 回	ドリル Lesson3/テキスト Chapter2 前半	「地・火」を用いたイディオム/長文リーディング
第 5 回	ドリル Lesson4/テキスト Chapter2 後半	「自然」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 6 回	ドリル Lesson5/テキスト Chapter3 前半	「時」を用いたイディオム/長文リーディング
第 7 回	ドリル Lesson6/テキスト Chapter3 後半	「植物」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 8 回	ドリル Lesson7/テキスト Chapter4 前半	「鳥」を用いたイディオム/長文リーディング
第 9 回	ドリル Lesson8/テキスト Chapter4 後半	「動物」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 10 回	ドリル Lesson9/テキスト Chapter5 前半	「色」を用いたイディオム (1)/長文リーディング
第 11 回	ドリル Lesson10/テキスト Chapter5 後半	「色」を用いたイディオム (2)/英作文・リスニング
第 12 回	全体の復習	春学期の復習・疑問点の解決
第 13 回	期末テスト	春学期で学んだ内容についてのテスト
第 14 回	期末テスト	再試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークブックは毎回宿題として事前にすませる。リーディングテキストも学習必須。単語や解釈、英作文など、教員の指示に従って準備する。あわせて 90 分以上の自宅学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

『5 分間英語イディオム表現』南雲堂・700 円

『Insight into Britain』金星堂・1800 円

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口であるとの指摘を受けたので、注意したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の通知等のため授業支援システムを使用することがある。

【その他の重要事項】

Basic English 1 の再履修で西田の授業を履修する学生が、同時にこの授業も履修することは好ましくない。授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Two textbooks are to be used for the class. One of them is an idiom-oriented drill book. The other is a reading textbook that also has listening and composition exercises.

LANe100EA

Basic English 1 - I 13

ジョージ・ハン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

【到達目標】

Through reading aloud and oral elaboration, students will gain the ability to not simply translate English texts (直訳), but to comprehend the overall meanings and express them in natural, easy to understand summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちらから <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, most of the spring semester will be conducted online. Please note that this class will start on MAY 11, 2020.

Texts topics will have a connection to the students' life, covering such areas as health, work, culture, entertainment, etc. Each topic will introduce a reading and dialog, new vocabulary, grammar and idioms. Students will complete grammar exercises and write short essays about the topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course.	Explain goals of the class; explain evaluation criteria; distribute first reading.
第 2 回	Reading 01: Greetings Around the World	Reading aloud and oral explanation.
第 3 回	Reading 01 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 4 回	Reading 02: Directions & Getting Around	Reading aloud and oral explanation.
第 5 回	Reading 02 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 6 回	Reading 03: Architecture	Reading aloud and oral explanation.
第 7 回	Reading 03 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 8 回	Reading 04: American Customs	Reading aloud and oral explanation.
第 9 回	Reading 04 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 10 回	Reading 05: Travel and Hotels	Reading aloud and oral explanation.
第 11 回	Reading 05 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 12 回	Reading 06: Shopping and Hagglng	Reading aloud and oral explanation.
第 13 回	Reading 06 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 14 回	Reading 07: Interior Design	Reading aloud and oral explanation; discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. Students will also submit short summaries of each topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Texts will be distributed by the instructor. Students do not need to buy a textbook.

【参考書】

A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

【成績評価の方法と基準】

NOTE: As most of the spring semester will be conducted online, there will be changes to the grading criteria. Details will be posted on Hoppii on the first day of class.

平常点（音読と訳読への取り組み；ディスカッションの参加）：40%

課題提出：60%

NOTE: 5 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があります。

【Outline and objectives】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

LANe100EA

Basic English 1 - I 17

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習（listening）を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味（reading）を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す（speaking）練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート（writing）にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン（課題提示、提出など）での開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	テスト	配布済みの資料からのテスト。
第 12 回	総復習	テスト問題の解説など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が例年多く、少人数の理想的な授業展開にしにくい、できるだけ工夫して進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等のセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。

2. 動画配信サービス (U-NEXT、Netflix 等)

課題によっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、またはアマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【Outline and objectives】

A good tip for learning English is reading aloud. When you read aloud, you listen to yourself, and notice you have a lot to learn, i.e. vocabulary, accurate pronunciation, natural vocal tone to convey what is written on the page.

Meanwhile, I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

If you think you don't have anything left to learn lines by heart, you're wrong. Pick out details, i.e. tone of voice, gesture, facial expression and manner of walking. Final presentation will require you to play with emotion by laughing, getting angry and weeping. Don't be afraid to look stupid. You could be Emma Stone or Hugh Jackman in this class.

LANe100EA

Basic English 1 - I 18

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習（listening）を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味（reading）を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す（speaking）練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート（writing）にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇を紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	曲のリスニング、歌詞の意味等。
第 4 回	洋楽 (2)	曲のリスニング、歌詞の意味等。
第 5 回	洋楽 (3)	曲のリスニング、歌詞の意味等。
第 6 回	映画 (1)	映画シナリオをテキストとする。
第 7 回	映画 (2)	映画シナリオをテキストとする。
第 8 回	映画 (3)	映画シナリオをテキストとする。
第 9 回	映画 (4)	映画シナリオをテキストとする。
第 10 回	映画 (5)	映画シナリオをテキストとする。
第 11 回	テスト	配布済みのプリントからの出題。
第 12 回	授業内容の総復習	テスト問題の解説など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート準備のための時間が必要。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

授業内で紹介、解説する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が例年多く、少人数の理想的な授業展開にしにくい、できるだけ工夫して進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等のセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。

2. 動画配信サービス (U-NEXT、Netflix 等)

課題によっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD (再生画面付のもの、平均 ¥5,000 程度) を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、またはアマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【Outline and objectives】

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

If you think you don't have anything left to learn lines by heart, you're wrong. Pick out details, i.e. tone of voice, gesture, facial expression and manner of walking. Final presentation will require you to play with emotion by laughing, getting angry and weeping. Don't be afraid to look stupid. You could be Emma Stone or Hugh Jackman in this class.

LANe100EA

Basic English 1 - I 2 4

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界で問題となっている様々な社会事象について、映画を通じて検討していく。この授業では、社会の多様な視点を学ぶことによって、大学における学びの基礎を構築することを一つの目的とする。教科書に沿った学習を基本とするが、適宜、英文記事等の課題を課すことでリーディング力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・長文の内容を理解し、それを簡潔にまとめる（要約）ことができるようになる。
- ・現代社会が抱える問題について関心を持てるようになる。
- ・与えられたテーマにそって情報を収集することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じて授業を開始するのは5月11日とする。各Unitを長文読解と課題活動の概ね2回に分けて学んでいく。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。レポートの提出を基本課題とする。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
5/11	ガイダンス	授業の進め方、課題の進め方・提出方法・質問方法・フィードバックに関する指示。
5/18	Unit1 : United and Desperation: White Trush (1)	長文読解（訳文の提出）
5/25	Unit1 : United and Desperation (2)	課題活動（課題の答えを提出）
6/1	Unit2: Assigning a Label: LGBT (1)	長文読解（訳文の提出）
6/8	Unit2: Assigning a Label: LGBT (2)	課題活動（課題の答えを提出）
6/15	Unit 3: Prejudice and Egocentrism (1)	長文読解（訳文の提出）
6/22	Unit 3: Prejudice and Egocentrism (1)	課題活動（課題の答えを提出）
6/29	Unit4: Human vs. Property: Slavery Systems (1)	長文読解（訳文の提出）
7/6	Unit4: Human vs. Property: Slavery Systems (1)	課題活動（課題の答えを提出）
7/13	Unit 5: Choosing a Home: Immigrants (1)	長文読解（訳文の提出）
11	Unit 5: Choosing a Home: Immigrants (2)	課題活動
12	プレゼンテーション①	授業で扱ったトピックスに関連する映画を視聴し、発表する。
13	プレゼンテーション②	授業で扱ったトピックスに関連する映画を視聴し、発表する。
14	期末考査	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には訳文とそれぞれのテーマに対する考察をレポートとしてまとめ、提出する。（締切厳守）本授業の準備学習・復習時間は合わせて4.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Joseph Tabolt, Our Society, Our Diversity, Our Movies (Kinseido, 2019).

【参考書】

適宜、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの提出（100%）尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

繰り返しになるが、教科書のレベルや内容が自身の関心、英語力に合っているかを確認の上で履修すること。

【Outline and objectives】

This course introduces social issues through movies to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

LANe100EA

Basic English 1 - I 8

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

(変更点)

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1A	Inspired Leadership
3	Unit 1B	How to Start a Movement
4	Unit 2A	Trouble for the Air Plants
5	Unit 2B	Conserving the Canopy
6	Unit 3A	Big Problems, Simple Solutions
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 3B	A Warm Embrace that Saves Lives
9	Unit 4A	Is Gaming Good For You?
10	Unit 4B	Gaming Can Make a Better World
11	Unit 4 Review	Jane McGonigal についての補足資料を読む、聞く。

12	Unit 5A	Engaging Learners
13	Unit 5B	The Key to Success? Grit
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書 21st Century Reading 2

著者 Laurie Blass/Mari Vargo/ Eunice Yeates

出版社 National Geographic Learning

出版年：2016

価格 2,900 円+税

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/audio>

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>

<https://www.ted.com/>

<https://www.ted.com/podcasts/ted-radio-hour>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中の欠席は3回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2回の遅刻を1回分の欠席として扱います。

(変更点)

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目のため、アンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 9

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

(変更点)

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 7a	Before New York City
3	Unit 7b	Homes around the world
4	Unit 7c	Sweet songs and strong coffee
5	Unit 7d	To rent or to buy?
6	Unit 7f	The town with no Wi-Fi
7	中間試験	試験・まとめと解説
8	Unit 8a	Vacations and memories
9	Unit 8b	Walking for wildlife
10	Unit 8f	Questions and answers
11	Workbook: Unit 8b	Where to go, what to do there
12	Unit 9a	Shopping trends
13	Workbook Unit 9a	Gift items
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。

この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4B Combo Split

著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-4/level-4-workbook-audio>
<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-4/level-4-students-book-video>
<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-4/level-4-audio-students-book>

【成績評価の方法と基準】

中間試験：40%

期末試験：40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）：20%
 学期中の欠席は3回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2回の遅刻を1回分の欠席として扱います。

(変更点)

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - I 20

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事を、英文で書かれた記事の中で読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力が増します。

【到達目標】

時事英語の特徴が分かるようになることと、馴染みのある単語であっても新しい文脈の中でより深い理解を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・オンライン授業の配信は、5月4日から始まります。
- ・配信された時事英語の精読、和訳および音読を行います。教室授業になったら、音声聞き、数人でお互いの音読を聞きあうことも取り入れます。
- ・毎回の授業で小テストは、教室授業が可能になったら行います。
- ・授業計画は授業の展開により、進度、内容に若干の変更もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方の説明
2	Introduction to Unit 1	Unit 1 の語彙の確認、精読
3	Patriarchal Japan faces a Demographic Crisis	Unit 1 の記事の精読と練習問題
4	Introduction to Unit 2	Unit 2 の語彙の確認、精読
5	Brits and Americans no longer own English	Unit 2 の記事の精読と練習問題
6	Introduction to Unit 3	Unit 3 の語彙の確認、精読
7	Why isn't 5G secure?	Unit 3 の記事の精読と練習問題
8	Introduction to Unit 4	Unit 4 の語彙の確認、精読
9	China's edge in Africa: Loans	Unit 4 の記事の精読と練習問題
10	Introduction to Unit 5	Unit 5 の語彙の確認、精読
11	iPS cells used in treatment for Parkinson's	Unit 5 の記事の精読と練習問題
12	Introduction to Unit 6	Unit 6 の語彙の確認、精読
13	Flower worship gives way to Quran	Unit 6 の記事の精読と練習問題
14	レポート提出（教室授業が可能であれば期末試験）	レポートか試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味を確認した文を音読することにより、その英語を身につけましょう。また、和訳をもとにして英文を書けるようにすると、さらに効果的です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2020 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2020年) 1200 円+税
 ・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018年) 700 円+税

【参考書】

『京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110』（京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009年）1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

・春学期がすべてオンライン授となった場合：配信された記事を読み、英文の分析や問いについて考えることを平常点とし、レポートを定期試験の代わりとします。レポートについては後日配信します。評価は、レポートで判断します。

・教室授業になった場合：平常点（40%）＋小テスト（20%）＋定期試験の得点（40%）（平常点は、予習を含む授業の参加の度合や、課題に関する評価です。）

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明を黒板を使用しつつゆっくり行います。（教室授業の場合）

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world - and around you.

LANe100EA

Basic English 1 - I 2 1

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読む中で、読解力及び報道をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の特徴が分かるようになることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・オンライン授業の配信は、5月4日から始まります。
- ・時事英語の精読、和訳および音読を行います。教室授業が可能になれば、音声を読み、数人でお互いの音読を聞きあうことも取り入れます。
- ・教室授業が可能になれば、毎回の授業で小テストもあります。
- ・状況によっては、授業進度、内容に変更もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方の説明
2	Introduction to Unit 1	Unit 1 の語彙の確認、精読
3	Patriarchal Japan faces a Demographic Crisis	Unit 1 の記事の精読と練習問題
4	Introduction to Unit 2	Unit 2 の語彙の確認、精読
5	Brits and Americans no longer own English	Unit 2 の記事の精読と練習問題
6	Introduction to Unit 3	Unit 3 の語彙の確認、精読
7	Why isn't 5G secure?	Unit 3 の記事の精読と練習問題
8	Introduction to Unit 4	Unit 4 の語彙の確認、精読
9	China's edge in Africa: Loans	Unit 4 の記事の精読と練習問題
10	Introduction to Unit 5	Unit 5 の語彙の確認、精読
11	iPS cells used in treatment for Parkinson's	Unit 5 の記事の精読と練習問題
12	Introduction to Unit 6	Unit 6 の語彙の確認、精読
13	Flower worship gives way to Quran	Unit 6 の記事の精読と練習問題
14	レポート提出か期末試験	レポート提出（教室授業が可能になれば、試験）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味を確認した文を音読することにより、その英語を身につけましょう。また、和訳をもとに、英文を書けるようにすると、さらに効果的です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2020 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2020年) 1200円+税
・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018年) 700円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009年) 1400円+税

【成績評価の方法と基準】

・春学期がすべてオンライン授業の場合：配信された記事を読み、分析し、問いについて考え、音読することを平常点とします。また、レポート提出を期末試験の代わりとします。レポート課題についての詳細は、後日配信します。評価はレポートで判断します。

・教室授業が可能になれば、平常点(40%) + 小テスト(20%) + 定期試験の得点(40%) (平常点は、予習を含む授業の参加の度合や、課題に関する評価です。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明を黒板を使用しつつゆっくり行います。(教室授業の場合)

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world - and around you.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）に重点を置きます。

【到達目標】

正しい音読と英語読解力の向上、内容把握。

単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。受験英語的には正しくても、意味不明な和訳で済ませるようなことはありません。分かりやすく、内容をしっかり理解できるような授業を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

眼前の学生諸君の理解度を常に注視しながら指導を行います。

言語の技能修得とともに、受講した「甲斐のある」、「内容を考えることのできる」授業になるよう心がけます。学生諸君が抱えているかも知れない、英語に対する先入観を少しでも払拭できれば幸いです。

なお、この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
第2回	プリント Reading ①	音読と意味把握①：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第3回	プリント Reading ②	音読と意味把握②：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第4回	プリント Reading ③	音読と意味把握③：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第5回	プリント Reading ④	音読と意味把握④：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第6回	プリント Reading ⑤	音読と意味把握⑤：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第7回	プリント Reading ⑥	音読と意味把握⑥：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第8回	プリント Reading ⑦	音読と意味把握⑦：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第9回	プリント Reading ⑧	音読と意味把握⑧：課題部分の予習確認&評価
第10回	プリント Reading ⑨	音読と意味把握⑨：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第11回	プリント Reading ⑩	音読と意味把握⑩：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第12回	プリント Reading ⑪	音読と意味把握⑪：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第13回	半期のまとめと学習事項確認	半期の学習成果をまとめ、評価方法等の再確認をし、重点的に復習すべき事柄を指摘する。
第14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を授業一週間前に配布。

教材テーマは「Global Society」

各回、予習のポイントを説明。

学生諸君がテキストを購入する必要はない。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業における予習成果・平常点(70%) + 期末試験(30%) = 成績(100%)

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59以下: D

未受験、採点不能: E

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いを中心に、学生諸君の真面目な努力を評価する。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明する。

・学生の申し出があれば、随時、成績評価についての個別対応と指導を行う。

本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is intended to help students improve their basic English skills including: vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages.

The class will be held a bilingual environment, both Japanese and English.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 4

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）に重点を置きます。

【到達目標】

正しい音読と英語読解力の向上、内容把握。

単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。受験英語的には正しくても、意味不明な和訳で済ませるようなことはありません。分かりやすく、内容をしっかり理解できるような授業を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

眼前の学生諸君の理解度を常に注視しながら指導を行います。言語の技能修得とともに、受講した「甲斐のある」、「内容を考えることのできる」授業になるよう心がけます。学生諸君が抱えているかも知れない、英語に対する先入観を少しでも払拭できれば幸いです。

なお、この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
第 2 回	プリント Reading ①	音読と意味把握①：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 3 回	プリント Reading ②	音読と意味把握②：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 4 回	プリント Reading ③	音読と意味把握③：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 5 回	プリント Reading ④	音読と意味把握④：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 6 回	プリント Reading ⑤	音読と意味把握⑤：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 7 回	プリント Reading ⑥	音読と意味把握⑥：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 8 回	プリント Reading ⑦	音読と意味把握⑦：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 9 回	プリント Reading ⑧	音読と意味把握⑧：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 10 回	プリント Reading ⑨	音読と意味把握⑨：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 11 回	プリント Reading ⑩	音読と意味把握⑩：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 12 回	プリント Reading ⑪	音読と意味把握⑪：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 13 回	半期のまとめと学習事項確認	半期の学習成果をまとめ、評価方法等の再確認をし、重点的に復習するべき事柄を指摘する。
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を授業一週間前に配布。

教材テーマは「Global Society」

各回、予習のポイントを説明。

学生諸君がテキストを購入する必要はない。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業における予習成果・平常点 (70%) + 期末試験 (30%) = 成績 (100%)
100~90: S

89~87 : A+

86~83 : A

82~80 : A-

79~77: B+

76~73 : B

72~70 : B-

69~67 : C+

66~63 : C

62~60 : C-

59 以下 : D

未受験、採点不能: E

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いを中心に、学生諸君の真面目な努力を評価する。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明する。

・学生の申し出があれば、随時、成績評価についての個別対応と指導を行う。

本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is intended to help students improve their basic English skills including: vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages.

The class will be held a bilingual environment, both Japanese and English.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ ABC 放送のニュース番組、ABC World News Tonight を使ったテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。
二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

後期はユニット 12 まで進むことを目標にします。進め方は前期と同じです。テキストに沿って、語彙問題、リスニング問題、内容理解に関する問題、トピックに関する長めの英作文という順番で進んでいきます。作文は提出していただき、ユニットごとに語彙問題と内容理解に関する小テストを行う予定です。また時間があれば、トピックに関する新聞記事などを読んで意見を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	News Story 7	Notre Dame Cathedral: Full Damage Revealed
第 3 回	News Story 7	Notre Dame Cathedral: Full Damage Revealed
第 4 回	News Story 8	Three-year-old Boy Fighting Cancer
第 5 回	News Story 8	Three-year-old Boy Fighting Cancer
第 6 回	News Story 9	Journey to the Edge
第 7 回	News Story 9	Journey to the Edge
第 8 回	News Story 10	Special Olympics Funding Furor
第 9 回	News Story 10	Special Olympics Funding Furor
第 10 回	News Story 11	American Heroes in Vietnam
第 11 回	News Story 11	American Heroes in Vietnam
第 12 回	News Story 12	Measles Outbreak Quarantine in L.A.
第 13 回	News Story 12	Measles Outbreak Quarantine in L.A.
第 14 回	定期試験	定期試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は必ずやってくる。また、リスニングが苦手な人は視聴しておくこと。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Broadcast: ABC World News Tonight 2 (『映像で学ぶ ABC ワールドニュース 2』 山根 繁 他編集、金星堂 2020 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、小テスト、宿題 (50 パーセント)
前期試験 (50 パーセント)

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

可能な場合には CALL 教室を使用する予定です。

【その他の重要事項】

辞書はかならず持参してください。
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回遅刻で 1 回欠席となり、5 回欠席した場合には単位取得はできません。
(公欠の基準は授業開始日にお知らせします)
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。(バスは遅延に含みません)
また、英作文などの提出物は、後からの提出は減点となります(公欠の場合を除く)。小テストは、後から受けることはできませんが、公欠や遅延の場合には考慮します。

LANe100EA

Basic English 1 - II 4

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会が抱える諸問題について論じた英文を読み、自分自身の考えを英語で論じるための表現とプロセスを習得する。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の通りである。

- 1、社会問題を英語で読み、論じることができるための表現を習得する
- 2、**syntax** に注目して、正確に英文を読むことができる
- 3、英文の内容を簡潔な日本語と英語の両方で要約できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期の各授業は以下のように構成される予定である。

- ① 予習を前提とした語彙に関する小テスト
 - ② **exercise** を用いた内容確認
 - ③ **syntax** に重点を置いた英文精読
 - ④ **exercise** を用いた **writing** 演習
 - ⑤ **review sheet** の作成と提出
- ただし状況によっては変更の可能性もあるため、秋学期開始時に必ず学習支援システムをチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について、実際にテキストを用いて説明する（テキスト、辞書を持参すること）
第 2 回	Elderly Drivers	高齢化社会の課題について考察する①
第 3 回	Elderly Drivers	高齢化社会の課題について考察する②
第 4 回	The NIMBY Syndrome	地域社会のあり方について考察する①
第 5 回	The NIMBY Syndrome	地域社会のあり方について考察する②
第 6 回	Electronic Voting	民主主義と情報化について考察する①
第 7 回	Electronic Voting	民主主義と情報化について考察する②
第 8 回	mid-term examination	中間考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 9 回	Aid in Dying	安楽死について考察する①
第 10 回	Aid in Dying	安楽死について考察する②
第 11 回	Animal Testing	動物実験について考察する①
第 12 回	Animal Testing	動物実験について考察する②
第 13 回	term-end examination	期末考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 14 回	Review	1 年間の学習の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を目安とする。

準備：学習予定に従ってテキスト本文を読み、重要な表現を暗記する。
復習：quiz に出題された語彙と、授業中の解説及び **review sheet** を参考に、本文を読み返す。**writing** が返却された週は添削と解説を参考に書き直す。

【テキスト（教科書）】

『議論伯仲：ふたつの意見』Mark Jewel 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価は以下のように行われる予定である。ただし状況によっては変更の可能性もあるため、秋学期開始時に必ず学習支援システムをチェックすること。

定期試験 50 %（中間・期末の平均）+ 小テスト 20 %（各 20 点満点 ÷ 実施回数）+ 平常点 30 %（提出物、授業内評価）。なお、一学期中の欠席が 4 回を越える場合は単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【Outline and objectives】

This chief aim of this course is to familiarize students with the process of developing and expressing an opinion on a topic of current interest. The textbook includes both pros and cons of fifteen current topics, which students read closely to acquire the necessary expressions and ideas needed to state their own opinions. Each session consists of a vocabulary quiz, close reading, and writing on the specific topics. Students are also required to submit the review sheets at the end of the session. Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations and usual performance (involving the average score of quizzes and review sheets).

LANe100EA

Basic English 1 - II 15

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English1 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 1-1 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、普通の本（定期テストに出すレベルの）を読んで、訳せること、2 年生になってさらに高度な英語が読めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は春学期と同じです。英文を読んで訳すことが中心です。単語テストは毎回行います。英作問題と聴き取り練習も行います。授業計画には若干の変更があります。

単語テストや出席条件などは英語 1 - I と同じです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Basic English 1- I の試験結果や秋学期の予定などについて説明します。
第 2 回	芸術	フリーダ・カーロの青春時代
第 3 回	芸術	1925 年 9 月以降のカーロ。痛みを芸術に変える
第 4 回	芸術	ユニット 3 前半の練習問題
第 5 回	心理学	体型と個性の関係。太っている人は温和である？
第 6 回	心理学	体の各部分がその人となり語る。ユニット 4 前半の練習問題
第 7 回	心理学	内向的と外交的。アイゼンクの研究
第 8 回	心理学	内向的性格と外交的性格、その逆説
第 9 回	心理学	ユニット 4 後半の練習問題
第 10 回	集団、組織、そして社会	国境なき医師団の歴史
第 11 回	集団、組織、そして社会	国境なき医師団の使命
第 12 回	集団、組織、そして社会	ユニット 5 の練習問題
第 13 回	光公害	街の灯りと自然に及ぼすその影響
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。

教科書を必ず持つてくること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal『Connection 4 Advanced Level』（松柏社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します（期末テストの割合が 100 パーセント）。試験は、書く、聞くの 3 部門ですべてで行う。配分は読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点、です。

【学生の意見等からの気づき】

板書はできる限り丁寧に書くよう努力すべきだとも思っています。聞き取りの練習をもっとやりたいと思います。出席状況はもっとチェックしていこうと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取ること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来てても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件を一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

教科書と辞書は必ず教室に持つてくること。持つてない場合は、出席を認めないので注意すること。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

【Outline and objectives】

Following BE 1, this course aims at improving students' basic English skills further. At the end of the course, students manage to read advanced English texts and write good sentences, as well as hear English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 16

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English1 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 1-1 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、普通の本（定期テストに出すレベルの）を読んで、訳せること、2 年生になってさらに高度な英語が読めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は春学期と同じです。英文を読んで訳すことが中心です。単語テストは毎回行います。英作問題と聴き練習も行います。授業計画には若干の変更があります。

単語テストや出席条件などは英語 1 - I と同じです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Basic English 1- I の試験結果や秋学期の予定などについて説明します。
第 2 回	芸術	フリーダ・カーロの青春時代
第 3 回	芸術	1925 年 9 月以降のカーロ。痛みを芸術に変える
第 4 回	芸術	ユニット 3 前半の練習問題
第 5 回	心理学	体型と個性の関係。太っている人は温和である？
第 6 回	心理学	体の各部分がその人となり語る。ユニット 4 前半の練習問題
第 7 回	心理学	内向的と外交的。アイゼンクの研究
第 8 回	心理学	内向的性格と外交的性格、その逆説
第 9 回	心理学	ユニット 4 後半の練習問題
第 10 回	集団、組織、そして社会	国境なき医師団の歴史
第 11 回	集団、組織、そして社会	国境なき医師団の使命
第 12 回	集団、組織、そして社会	ユニット 5 の練習問題
第 13 回	光公害	街の灯りと自然に及ぼすその影響
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。

教科書を必ず持つてくること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal 『Connection 4 Advanced Level』（松柏社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します（期末テストの割合が 100 パーセント）。試験は、書く、聞くの 3 部門ですべてで行う。配分は読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点、です。

【学生の意見等からの気づき】

板書はできる限り丁寧に書くよう努力すべきだとも思っています。聞き取りの練習をもっとやりたいと思います。出席状況はもっとチェックしていこうと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取ること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来てても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件を一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

教科書と辞書は必ず教室に持つてくること。持つてない場合は、出席を認めないので注意すること。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

【Outline and objectives】

Following BE 1, this course aims at improving students' basic English skills further. At the end of the course, students manage to read advanced English texts and write good sentences, as well as hear English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 9

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Realize the repercussions of a society encumbered with a history of slavery and religious persecution. Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Absorb the contents of written and audio information. Gain a personal understanding of the difference language and culture may mean on a global scale.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Study of Cultural Differences/ Similarities. Discussions of Racial Discrimination. Q/A sessions encouraged. Class assignments will include reading materials and study of vocabulary and idiomatic expressions found in song, dialogue and reading materials. Cultural differences and similarities introduced and discussed. Q/A sessions encouraged. Personal study and inspired research encouraged. Q/A sessions appreciated.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Exercise I	Discuss Transition of Blues/Jazz to Rock & Roll.
2	Exercise II	Introduction of Jimi Hendrix. Biography Reading.
3	Exercise III	Reading and Vocabulary Drills.Q/A Session.
4	Exercise IV	Film Presentation.
5	Exercise V	Discussion of Film .Q/A Session -Cultural /Historical Content of Film.
6	Exercise VI	Listening Exercises.Vocabulary Drills.
7	Exercise VII	Listening Exercises.Vocabulary Drills.
8	Exercise VIII	Introduction of Janis Joplin. Biography Reading.
9	Exercise VIV	Listening Exercises.Vocabulary Drills.
10	Exercise X	Listening Exercises.Vocabulary Drills.
11	Exercise XI	Documentary Interview Text Explanation
12	Exercise XII	Film Presentation.
13	Exercise XIII	Student Presentations of Selected Rock & Roll Musician.
14	Exercise IV	Student Presentations of Selected Rock & Roll Musician.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports and presentations
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Selected Readings, Biographical Information, Documentaries

【参考書】

Film Presentations, Musical Recordings, Documentaries, Encyclopedia

【成績評価の方法と基準】

Class Participation 25%, Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" classroom environment.

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills. Exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - II 3

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業オンライン化のためシラバス内容を随時変更します。

基礎的な英語力を身につけるための授業である。課題をこなすことにより reading, listening, writing, speaking の 4 skills を鍛え、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・ 主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示する。それを元に学生は各自で学習を行う。
 - ・ 可能な場合は教室での対面授業に移行する。
 - ・ 成績評価は、主にテキスト類や音声ファイル等の提出物などで行う。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	Chapter 1 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング・音読練習
第3回	Chapter 1 (Part 2)	パラグラフの基礎；文法テスト
第4回	Chapter 2 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング練習＋音読練習；課題図書レポート提出
第5回	Chapter 2 (Part 2)	パラグラフ作文；文法テスト；音読テスト
第6回	Chapter 3 (Part 1)	読解・要約練習（英）；リスニング・音読練習
第7回	Chapter 3 (Part 2)	パラグラフ作文；文法テスト
第8回	Chapter 4 (Part 1)	読解；リスニング；プレゼンテーションの準備
第9回	Chapter 4 (Part 2)	パラグラフ作文；文法テスト；プレゼンテーションの準備；音読テスト
第10回	Chapter 5 (Part 1)	読解・リスニング；プレゼンテーション1回目
第11回	Chapter 5 (Part 2)	読解・リスニング；プレゼンテーション2回目
第12回	まとめ	学期末課題提出；学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 宿題・課題の作成
- ・ 音読・リスニングの反復練習
- ・ 指定文法参考書の自習
- ・ Web上の教材の自習
- ・ 上記の作業時間は授業1回あたり1～2時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材については学習支援システム上で随時指示する。
- ②大西泰斗他著「一億人の英文法」東進ブックス（1800円）＆「一億人の英文法 CD ブック」（1500円）（後者 CD ブックの内容はスマホアプリでもより安く入手できる。CD ブック・アプリどちらでも可）
- ③英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点（毎回の課題など）30%
- ・ 文法テスト 15%
- ・ 音読テスト 15%
- ・ プレゼンテーション 20%
- ・ 学期末課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズによりあった柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や授業時間外の個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業オンライン化のためシラバス内容を随時変更します。

基礎的な英語力を身につけるための授業である。課題をこなすことにより reading, listening, writing, speaking の 4 skills を鍛え、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web 上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・ 主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示する。それを元に学生は各自で学習を行う。
 - ・ 可能な場合は教室での対面授業に移行する。
 - ・ 成績評価は、主にテキスト類や音声ファイル等の提出物などで行う。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明
第 2 回	Chapter 1 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング・音読練習
第 3 回	Chapter 1 (Part 2)	パラグラフの基礎；文法テスト
第 4 回	Chapter 2 (Part 1)	読解・要約練習（日）；リスニング練習＋音読練習；課題図書レポート提出
第 5 回	Chapter 2 (Part 2)	パラグラフ作文；文法テスト；音読テスト
第 6 回	Chapter 3 (Part 1)	読解・要約練習（英）；リスニング・音読練習
第 7 回	Chapter 3 (Part 2)	パラグラフ作文；文法テスト
第 8 回	Chapter 4 (Part 1)	読解；リスニング；プレゼンテーションの準備
第 9 回	Chapter 4 (Part 2)	パラグラフ作文；文法テスト；プレゼンテーションの準備；音読テスト
第 10 回	Chapter 5 (Part 1)	読解・リスニング；プレゼンテーション 1 回目
第 11 回	Chapter 5 (Part 2)	読解・リスニング；プレゼンテーション 2 回目
第 12 回	まとめ	学期末課題提出；学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 宿題・課題の作成
- ・ 音読・リスニングの反復練習
- ・ 指定文法参考書の自習
- ・ Web 上の教材の自習
- ・ 上記の作業時間は授業 1 回あたり 1～2 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材については学習支援システム上で随時指示する。
- ②大西泰斗他著「一億人の英文法」東進ブックス（1800 円）＆「一億人の英文法 CD ブック」（1500 円）（後者 CD ブックの内容はスマホアプリでもより安く入手できる。CD ブック・アプリどちらでも可）
- ③英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点（毎回の課題など）30%
- ・ 文法テスト 15%
- ・ 音読テスト 15%
- ・ プレゼンテーション 20%
- ・ 学期末課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズによりあった柔軟な指導を目指す。追加教材の提案や授業時間外の個別相談を行う予定である。

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 1

ジョナサン ブラウン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目指は個人的又は文化的なディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to read and listen in English on topics related to culture. Also, students learn to effectively respond with their own ideas in English.

英語で様々な文化に関するテーマを読み及び聞き、要点を正しく理解することができるようにする。また、与えられたテーマについて、英語で効果的に自分の意見を発言できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class is interactive and student centered. Discussion activities will be done in groups and/or pairs. Students will set the pace and content of class discussions.

学生が主体的に学ぶ。ディスカッションアクティビティはグループ又はペアで行われる。学生のレベルにクラスディスカッションのペース及び内容を先導される。（この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus
第 2 回	Unit 7: On the Job	Talking about part-time jobs; Have to vs. get to; Speed Reading 1
第 3 回	Unit 8: A Gift for Me?	Vocabulary Quiz 1; Talking about gift giving in Japan and other countries; Speed Reading 2
第 4 回	Unit 9: Feast On This	Vocabulary Quiz 2; Talking about food; Dishes from other cultures; Speed Reading 3
第 5 回	Mid-term Group Presentations Preparation	Vocabulary Quiz 3; Prepare presentations
第 6 回	Mid-term Group Presentations	Presentations
第 7 回	Unit 10: Looking Good	Talking about fashion; Traditional wear in Japan and other countries; Speed Reading 4
第 8 回	Unit 11: That's Shocking!	Vocabulary Quiz 4; Talking about embarrassing situations; Social rules across cultures; Speed Reading 5
第 9 回	Review	Comprehensive Vocabulary Quiz; Review of Units 7-11
第 10 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations
第 11 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations continued
第 12 回	Final Individual Presentations	Final presentations
第 13 回	Christmas Movie Party	Christmas Movie Party
第 14 回	Final Individual Presentations	Final presentations continued

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.
和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 15%

Online Reading Assignments オンラインリーディング課題 15%

Class Participation 授業参加: 20%

Mid-term Group Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

リーディング学習を増やした。

Increased reading practice.

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - II 23

ジョナサン ブラウン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目指は個人的又は文化的なディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to read and listen in English on topics related to culture. Also, students learn to effectively respond with their own ideas in English.

英語で様々な文化に関するテーマを読み及び聞き、要点を正しく理解することができるようにする。また、与えられたテーマについて、英語で効果的に自分の意見を発言できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class is interactive and student centered. Discussion activities will be done in groups and/or pairs. Students will set the pace and content of class discussions.

学生が主体的に学ぶ。ディスカッションアクティビティはグループ又はペアで行われる。学生のレベルにクラスディスカッションのペース及び内容を先導される。（この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus
第 2 回	Unit 7: On the Job	Talking about part-time jobs; Have to vs. get to; Speed Reading 1
第 3 回	Unit 8: A Gift for Me?	Vocabulary Quiz 1; Talking about gift giving in Japan and other countries; Speed Reading 2
第 4 回	Unit 9: Feast On This	Vocabulary Quiz 2; Talking about food; Dishes from other cultures; Speed Reading 3
第 5 回	Mid-term Group Presentations	Vocabulary Quiz 3; Prepare presentations
第 6 回	Mid-term Group Presentations	Presentations
第 7 回	Unit 10: Looking Good	Talking about fashion; Traditional wear in Japan and other countries; Speed Reading 4
第 8 回	Unit 11: That's Shocking!	Vocabulary Quiz 4; Talking about embarrassing situations; Social rules across cultures; Speed Reading 5
第 9 回	Review	Comprehensive Vocabulary Quiz; Review of Units 7-11
第 10 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations
第 11 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations continued
第 12 回	Final Individual Presentations	Final presentations
第 13 回	Christmas Movie Party	Christmas Movie Party
第 14 回	Final Individual Presentations	Final presentations continued

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 15%

Online Reading Assignments オンラインリーディング課題 15%

Class Participation 授業参加: 20%

Mid-term Group Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

リーディング学習を増やした。

Increased reading practice.

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - II 5

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスキング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察し、その結果を日本語でまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（前半）	記事を講読します。
第3回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（後半）	記事を講読します。
第4回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第5回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第6回	地撮り投稿を考える（前半）	記事を講読します。
第7回	地撮り投稿を考える（後半）	記事を講読します。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	デジタルデトックスのヒント（前半）	記事を講読します。
第10回	デジタルデトックスのヒント（後半）	記事を講読します。
第11回	中国発：一人っ子政策、その後（前半）	記事を講読します。
第12回	中国発：一人っ子政策、その後（後半）	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女/Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社. (¥ 2100 円+税)
 ・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂. (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - II 6

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察し、その結果を日本語でまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	エアコンの寒さに耐える夏（前半）	記事を講読します。
第3回	エアコンの寒さに耐える夏（後半）	記事を講読します。
第4回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第5回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第6回	節水対策は互いの監視から（前半）	記事を講読します。
第7回	節水対策は互いの監視から（後半）	記事を講読します。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	善意で始まるペア型腎臓移植（前半）	記事を講読します。
第10回	善意で始まるペア型腎臓移植（後半）	記事を講読します。
第11回	中国発：英語？ フランス語？ ブランド名は意味不明（前半）	記事を講読します。
第12回	中国発：英語？ フランス語？ ブランド名は意味不明（後半）	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女/ Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社. (¥ 2100 円+税)
 ・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC®テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂. (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。
 欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - II 7

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確実なものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義型の授業で、英文を精読します。必要な時にはグループ・ディスカッションを行います。毎回授業時には小テストを行い、授業の理解度を確認します。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD も小説を読み進めた箇所まで鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter5	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter5	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter5	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
5	Chapter6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
8	Chapter7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
11	Chapter8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。

12	Chapter8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
13	Chapter8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
14	Chapter5-8	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %), 小テスト (30 %) の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 10

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確かなものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義型の授業で、英文を精読します。必要な時にはグループ・ディスカッションを行います。毎回授業時には小テストを行い、授業の理解度を確認します。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD も小説を読み進めた箇所まで鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter5	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter5	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter5	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
5	Chapter6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
11	Chapter8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
13	Chapter8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter5-8	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』、フィッツジェラルド、野崎孝訳、新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %)、小テスト (30 %) の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 2

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<概要>授業のはじめ 30 分は英語イディオム表現のワークブック形式のテキストを使い、残りの時間はリーディングのテキストを使って学習する。
<目的>さまざまなイディオムの意味や用法を習得するとともに、長文の読解およびリスニングや英作文のスキルを身につける。

【到達目標】

テーマごとに分類されたイディオム表現を覚え、読解および英作文で使えるようになる。長文を読んで意味を解釈するとともに、関連した内容のリスニングおよび英作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

イディオムの学習は、宿題の答えあわせという方式でおこなう。リーディングのテキストは予習の発表と解説により進める。適宜小テストを行い、最後に期末テストをおこなう。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進行とテキストの説明
第 2 回	ドリル Lesson11/テキスト Chapter6 前半	「数字」を用いたイディオム/長文リーディング
第 3 回	ドリル Lesson12/テキスト Chapter6 後半	「衣服」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 4 回	ドリル Lesson13/テキスト Chapter7 前半	「道具・武器」を用いたイディオム/長文リーディング
第 5 回	ドリル Lesson14/テキスト Chapter7 後半	「家具」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 6 回	ドリル Lesson15/テキスト Chapter8 前半	「家屋」を用いたイディオム/長文リーディング
第 7 回	ドリル Lesson16/テキスト Chapter8 後半	「食べ物」を用いたイディオム/英作文・リスニング
第 8 回	ドリル Lesson17/テキスト Chapter9 前半	「飲食」を用いたイディオム (1)/長文リーディング
第 9 回	ドリル Lesson18/テキスト Chapter9 後半	「飲食」を用いたイディオム (2)/英作文・リスニング
第 10 回	ドリル Lesson19/テキスト Chapter10 前半	「身体」を用いたイディオム (1)/長文リーディング
第 11 回	ドリル Lesson20/テキスト Chapter10 後半	「身体」を用いたイディオム (2)/英作文・リスニング
第 12 回	全体の復習	秋学期の復習・疑問点解決
第 13 回	期末テスト	秋学期で学んだ内容についてのテスト
第 14 回	期末テスト	再試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークブックは毎回宿題として事前にすませる。リーディングテキストも予習必須。単語や解釈、英作文など、教員の指示に従って準備する。あわせて 90 分以上の自宅学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

「5 分間英語イディオム表現」南雲堂・700 円
「Insight into Britain」金星堂・1800 円

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口であるとの指摘を受けたので、注意したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の通知等のため授業支援システムを使用することがある。

【その他の重要事項】

Basic English 1 の再履修で西田の授業を履修する学生が、同時にこの授業も履修することは好ましくない。授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Two textbooks are to be used for the class. One of them is an idiom-oriented drill book. The other is a reading textbook that also has listening and composition exercises.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 3

ジョージ・ハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

【到達目標】

Through reading aloud and oral elaboration, students will gain the ability to not simply translate English texts (直訳), but to comprehend the overall meanings and express them in natural, easy to understand summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Topics will be chosen according to the level of the students in the class. Topics will have a connection to the students' life, covering such areas as health, work, culture, entertainment, etc. After each topic, there will be a discussion based on the text, and students will write short essays about the topic.

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course.	Explain goals of the class; explain evaluation criteria; distribute first reading.
第 2 回	Reading 01: Humor	Reading aloud and oral explanation.
第 3 回	Reading 01 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 4 回	Reading 02: Stress	Reading aloud and oral explanation.
第 5 回	Reading 02 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 6 回	Reading 03: Health and Fitness	Reading aloud and oral explanation.
第 7 回	Reading 03 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 8 回	Reading 04: CPR	Reading aloud and oral explanation.
第 9 回	Reading 04 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 10 回	Reading 05: Fears and Phobias	Reading aloud and oral explanation.
第 11 回	Reading 05 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 12 回	Reading 06: The Automobile	Reading aloud and oral explanation.
第 13 回	Reading 06 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 14 回	Reading 07: Complaints	Reading aloud and oral explanation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. Students will also submit short summaries of each topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Texts will be distributed by the instructor. Students do not need to buy a textbook.

【参考書】

A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

【成績評価の方法と基準】

平常点（音読と訳読への取り組み；ディスカッションの参加）：40%
課題提出：60%

NOTE: 5 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

LANe100EA

Basic English 1 - II 17

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画の関連資料等を朗読 (reading aloud) して英語表現を学ぶ。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞等を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (3) 映画の場面を 2 人 1 組になって演じる (speaking) 練習もする。
- (4) 映画、舞台を観に行き、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

演劇や映画を題材にして英語に親しむこと、演技の発表などを通して、人前で発表する表現力を養うことを目的とする。演技は泣く、怒る、笑うなど、様々な感情表現を必要とするリアルで本格的な演技を目指すので、単なる英会話の暗記発表でないのに注意。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【受講の条件】

1. 映画の場面を演じる
「英語を話す時はみんな俳優」のつもりで。
2. 授業中の居眠、他の授業の準備、携帯、読書等は欠席扱い
集中して授業に参加できること。特にスマホは厳禁、受講不可。
3. 遅刻も欠席扱い
遅刻が欠席扱いの他、欠席が 5 回以上の受講者に単位の保証はない。
大会参加等で長期欠席予定のある人は受講不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	洋楽 (1)	曲のリスニング等、歌詞のリーディング等。
第 3 回	映画 (1)	映画関連のプリントよりリーディング等。
第 4 回	映画 (2)	映画関連のプリントよりリーディング等。
第 5 回	映画 (3)	映画関連のプリントよりリーディング等。
第 6 回	映画 (4)	映画関連のプリントよりリーディング等。
第 7 回	映画 (5)	映画関連のプリントよりリーディング等。
第 8 回	筆記テスト I	映画関連のプリント等からのテスト。
第 9 回	洋楽 (2)	曲のリスニング等、歌詞のリーディング等。
第 10 回	筆記テスト II	歌のプリント等からのテスト。
第 11 回	リーディング・テスト	テキストの朗読のテスト。
第 12 回	リハーサル・テスト	身体表現、表情の変化等も含めたテスト。
第 13 回	プレゼンテーション (1)	最終リハーサル、または演技の発表。
第 14 回	プレゼンテーション (2)	本番。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テスト、発表のための準備や暗記が必要。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業内にて紹介、解説する。

【成績評価の方法と基準】

1. 筆記試験：25%
 2. 平常点、課題、発表など：75%
- *発表の準備段階では、観劇レポート（配布するリストの公演より各自選び予約。1公演平均¥3000）と映画レポートの提出も予備作業として必要となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が例年多く、少人数の理想的な授業展開にしにくいですが、できるだけ工夫して進めたい。

【Outline and objectives】

A good tip for learning English is reading aloud. When you read aloud, you listen to yourself, and notice you have a lot to learn, i.e. vocabulary, accurate pronunciation, natural vocal tone to convey what is written on the page.

Meanwhile, I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You'll start with practices covering a diverse genres of films, for instance, you could be playing the role of The Devil Wears Prada one week and The King's Speech the next.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

If you think you don't have anything left to learn lines by heart, you're wrong. Pick out details, i.e. tone of voice, gesture, facial expression and manner of walking. Final presentation will require you to play with emotion by laughing, getting angry and weeping. Don't be afraid to look stupid. You could be Emma Stone or Hugh Jackman in this class.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 8

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画の関連資料等を朗読 (reading aloud) して英語表現を学ぶ。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞等を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (3) 映画の場面を 2 人 1 組になって演じる (speaking) 練習もする。
- (4) 映画、舞台を観に行き、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

演劇や映画を題材にして英語に親しむこと、演技の発表などを通して、人前で発表する表現力を養うことを目的とする。演技は泣く、怒る、笑うなど、様々な感情表現を必要とするリアルで本格的な演技を目指すので、単なる英会話の暗記発表でないの注意。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【受講の条件】

1. 映画の場面を演じる
「英語を話す時はみんな俳優」のつもりで。
2. 授業中の居眠、他の授業の準備、携帯、読書等は欠席扱い
集中して授業に参加できること。
3. 遅刻も欠席扱い
遅刻が欠席扱いの他、欠席が 5 回以上の受講者に単位の保証はない。
部活動の大会参加、公演等で欠席予定がある人は受講不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、レポートの説明。
第 2 回	洋楽 (1)	曲のリスニング、歌詞のリーディング等。
第 3 回	映画 (1)	映画関連のプリントのリーディング等。
第 4 回	映画 (2)	映画関連のプリントのリーディング等。
第 5 回	映画 (3)	映画関連のプリントのリーディング等。
第 6 回	映画 (4)	映画関連のプリントのリーディング等。
第 7 回	映画 (5)	映画関連のプリントのリーディング等。
第 8 回	筆記テスト I	映画関連のプリント等からのテスト。
第 9 回	洋楽 (2)	曲のリスニング、歌詞のリーディング等。
第 10 回	筆記テスト II	歌のプリントからのテスト。
第 11 回	リーディング・テスト	映画関連のプリントのリーディング・テスト。
第 12 回	リハーサル・テスト	身体の表現、表情の変化も含めたテスト。
第 13 回	プレゼンテーション (1)	最終リハーサル、または演技発表
第 14 回	プレゼンテーション (2)	本番。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

セリフや歌の暗記が必要。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

1. 筆記試験：25%
2. プレゼンテーション：75%

*発表の準備段階では、観劇レポート（配布するリストの公演より各自選び予約。

1 公演平均 ¥3000）と映画レポートの提出も必要となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が例年多く、少人数の理想的な授業展開にしにくいですが、できるだけ工夫して進めたい。

【Outline and objectives】

A good tip for learning English is reading aloud. When you read aloud, you listen to yourself, and notice you have a lot to learn, i.e. vocabulary, accurate pronunciation, natural vocal tone to convey what is written on the page.

Meanwhile, I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

If you think you don't have anything left to learn lines by heart, you're wrong. Pick out details, i.e. tone of voice, gesture, facial expression and manner of walking. Final presentation will require you to play with emotion by laughing, getting angry and weeping. Don't be afraid to look stupid. You could be Ryan Gosling or Emma Stone in this class.

LANe100EA

Basic English 1 - II 24

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界で問題となっている様々な社会事象を映画を通じて検討していく。この授業では、社会の多様な視点を学ぶことによって、大学における学びの基礎を構築することを一つの目的とする。教科書に沿った学習を基本とするが、適宜、英文記事等の課題を課すことでリーディング力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・長文の内容を理解し、それを簡潔にまとめる（要約）ことができるようになる。
- ・現代社会が抱える問題について関心を持てるようになる。
- ・与えられたテーマにそって情報を収集することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習での授業を基本とする。各 Unit を長文読解と課題活動の概ね 2 回に分けて学んでいく。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点などについて
2	Unit6 : Be a Intercultural Interpreter: Immigrants (1)	長文読解
3	Unit6 : Be a Intercultural Interpreter: Immigrants (2)	課題活動
4	Unit 7: An Illegal Life: Illegal Immigrants (1)	長文読解
5	Unit 7: An Illegal Life: Illegal Immigrants (2)	課題活動
6	Unit 10: An Individual or A Number: State Welfare(1)	長文読解
7	Unit 10: An Individual or A Number: State Welfare(2)	課題活動
8	Unit11:Pushing Past Boundaries: Physical Disability (1)	長文読解
9	Unit11:Pushing Past Boundaries: Physical Disability (2)	課題活動
10	Unit 12: Does It Divide or Unite? Disease (1)	長文読解
11	Unit 12: Does It Divide or Unite? Disease(2)	課題活動
12	プレゼンテーション①	授業で扱ったトピックスに関連する映画を視聴し、発表する。
13	プレゼンテーション②	授業で扱ったトピックスに関連する映画を視聴し、発表する。
14	期末考査	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には一行ごとに学生に翻訳をしてもらいながら授業を進めていく。その為、どこを指名されても対応できるように読み込んでおくこと。尚、教科書のレベルは中程度であり、各自、金星堂の HP に記載されたサンプルを読み、自身の英語力、学びたい内容と一致しているか確認した上で履修登録を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Joseph Tabolt, Our Society, Our Diversity, Our Movies (Kinseido, 2019).

【参考書】

適宜、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30%、筆記試験 70%の総合点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

繰り返しになるが、教科書のレベルや内容が自身の関心、英語力に合っているかを確認の上で履修すること。

【Outline and objectives】

This course introduces social issues through movies to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

LANe100EA

Basic English 1 - II 8

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1-I までに学んだことを基礎に、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 6A	Food Revolution
2	Unit 6B	Teach Every Child About Food
3	Unit 6 Review	Jamie Oliver について補足資料を読む、聞く。
4	Unit 7A	Power Poses
5	Unit 7B	Your Body Language Shapes Who You Are
6	Unit 7 Review	Amy Cuddy についての補足資料を読む、聞く。
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8A	Kite Power
9	Unit 8B	How I harnessed the Wind
10	Unit 9A	Thinking in Pictures
11	Unit 9B	Deep Sea Diving... in a Wheelchair
12	Unit 10A	Information is Beautiful
13	Unit 10B	The Beauty of Data Visualization
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: 21st Century Reading 2

著者: Laurie Blass/Mari Vargo/ Eunice Yeates

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2016

価格 2,900+税

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/audio>

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>

<https://www.ted.com/>

<https://www.ted.com/podcasts/ted-radio-hour>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中の欠席は3回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2回の遅刻を1回分の欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目のため、アンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 9

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1-I までに学んだことを基礎に、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補足すれば、テキストの本文の語句、表現、文法事項の確認、内容に関する補足説明といった講義的な要素は当然ありますが、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことについて学生が発表すること、そうした活動が授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9b	Spend or save?
2	Unit 9c	The art of the deal
3	Unit 9f	Making a deal
4	Unit 10a	Leaving Earth
5	Unit 10b	The superhumans
6	Unit 10c	Two journeys, two lives
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 11a	Uncontacted tribes
9	Unit 11b	Sending a message
10	Unit 11c	Spreading the news
11	Unit 12a	The man who ate his boots
12	Unit 12b	Experts in the wild
13	Workbook: Unit 12b	A man of many talents
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4B Combo Split

著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-4/level-4-workbook-audio>
<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-4/level-4-students-book-video>
<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-4/level-4-audio-students-book>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%
 期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%
 学期中の欠席は3回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2回の遅刻を1回分の欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - II 20

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読むことにより時事英語に慣れ、報道をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の特徴が分かるようになることと、馴染みのある言葉でも新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・時事英語の精読、和訳を行います。意味確認の後は、数人でお互いの音読を聞きあいます。尚、見出しの読み方の練習としてのワークブックも使用します。
 ・毎回の授業で小テストがあります。
 ・授業展開によっては、進度、内容などに若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方の説明
2	Introduction to Unit 7	Unit 7 の語彙の確認、精読、小テスト
3	Fleeing Venezuela, on foot	Unit 7 の記事の精読と練習問題、小テスト
4	Introduction to Unit 8	Unit 8 の語彙の確認、精読、小テスト
5	Our disgrace at the Border	Unit 8 の記事の精読と練習問題、小テスト
6	Introduction to Unit 9	Unit 9 の語彙の確認、精読、小テスト
7	Some Ukraine Jews are unhappy	Unit 9 の記事の精読と練習問題、小テスト
8	Introduction to Unit 10	Unit 10 の語彙の確認、精読、小テスト
9	Iranians Loosen Ideology's Grip	Unit 10 の記事の精読と練習問題、小テスト
10	Introduction to Unit 11	Unit 11 の語彙の確認、精読、小テスト
11	In Kenya, running can be a road to ruin	Unit 11 の記事の精読と練習問題、小テスト
12	Introduction to Unit 12	Unit 12 の語彙の確認、精読、小テスト
13	Strain on Russia's backbone	Unit 12 の記事の精読と練習問題、小テスト
14	期末試験	Unit 7 - 12 の理解を確認する期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

記事の意味を発表できるように準備しましょう。また、授業で意味を確認した文を音読することにより、再び英語に戻しましょう。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2020 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2020年) 1200円+税
 ・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018年) 700円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009年) 1400円+税

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) + 小テスト (20%) + 定期試験の得点 (40%) (平常点は、予習を含めた授業の参加度合や、提出課題に対する評価です。授業の到達目標に到達したかどうかについては、小テストと定期試験の中で確認します。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明を黒板を使用しつつゆっくり行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can enhance your reading skills. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LANe100EA

Basic English 1 - II 2 1

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読む中で、読解力及び報道をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の読み方に慣れることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・時事英語の精読、和訳を行います。意味確認の後に数人でお互いの音読を聞きあいます。尚、見出しの読み方の練習としてのワークブックも使用します。
・毎回の授業で小テストがあります。
・授業展開によっては、進度、内容に若干の変更があります。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方の説明
2	Introduction to Unit 7	Unit 7 の語彙の確認、精読、小テスト
3	Fleeing Venezuela, on foot	Unit 7 の記事の精読と練習問題、小テスト
4	Introduction to Unit 8	Unit 8 の語彙の確認、精読、小テスト
5	Our disgrace at the Border	Unit 8 の記事の精読と練習問題、小テスト
6	Introduction to Unit 9	Unit 9 の語彙の確認、精読、小テスト
7	Some Ukraine Jews are unhappy	Unit 9 の記事の精読と練習問題、小テスト
8	Introduction to Unit 10	Unit 10 の語彙の確認、精読、小テスト
9	Iranians Loosen Ideology's Grip	Unit 10 の記事の精読と練習問題、小テスト
10	Introduction to Unit 11	Unit 11 の語彙の確認、精読、小テスト
11	In Keyna, running can be a road to ruin	Unit 11 の記事の精読と練習問題、小テスト
12	Introduction to Unit 12	Unit 12 の語彙の確認、精読、小テスト
13	Strain on Russia's backbone	Unit 12 の記事の精読と練習問題、小テスト
14	期末試験	Unit 7 - 12 の理解を確認する期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

記事の意味を発表できるように準備しましょう。また、授業で意味を確認した文を音読することにより、再び英語に戻しましょう。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2020 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2020 年) 1200 円+税
・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018 年) 700 円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) + 小テスト (20%) + 定期試験の得点 (40%) (平常点、予習を含めた授業の参加度合や、提出課題に対する評価です。授業の到達目標に到達したかどうかについては、小テストと定期試験の中で確認します。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明を黒板を使用しつつゆっくり行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 1

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

通常の教室授業では、英語 4 技能 (Reading, Writing, Listening, Speaking) の向上を目指します。とりわけ、英文テキストの音読と読み (意味把握) に重点を置きます。

しかし残念ながら、現在、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行による日本政府の「緊急事態宣言」発出に伴い、当面の間、春学期授業をオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する意見形成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 4/27 (月) ~ 5/11 (月) の授業
ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース (PDF ファイル) で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム (Hoppii)」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。
- 5/18 (月) ~ 7/13 (月) の授業
順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube 等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルの URL を記入します。諸君はその URL をクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム (Hoppii)」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし、適切な会議用システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。
- 最終日 (7/20) の授業
追って連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/27	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
5/11	プリント Reading ①	音読と意味把握①：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/18	プリント Reading ②	音読と意味把握②：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/25	プリント Reading ③ Audio&Visual 教材	音読と意味把握③：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/1	プリント Reading ④ Audio&Visual 教材	音読と意味把握④：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/8	プリント Reading ⑤ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑤：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/15	プリント Reading ⑥ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑥：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/22	プリント Reading ⑦ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑦：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/29	プリント Reading ⑧ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑧：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/6	プリント Reading ⑨ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑨：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/13	プリント Reading ⑩ Audio&Visual 教材	音読と意味把握⑩：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/20	春学期授業のまとめ	春学期のまとめ。レポート提出。提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を授業一週間前に配布。

教材テーマは「Global Society」

各回、予習のポイントの説明。

学生諸君がテキストを購入する必要はない。

具体的には以下の通り：

1. 4/27（月）～5/11（月）の授業

ファイル・サイズを考慮して、この期間中は、全ての教材を文字ベース（PDFファイル）で提示します。映像ならびに音声を使つての授業は行いません。全ての授業はオンデマンド形式で行います。教材提示場所は現在このファイルをおいている「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。

2. 5/18（月）～7/13（月）の授業

順次、音声並びに映像を用いた授業を加えていきます。YouTube等の映像を加える場合は、基となる文字教材にファイルのURLを記入します。諸君はそのURLをクリックし、内容を確認してください。なお、この場合も基本はオンデマンド形式での授業です。授業日の開始時刻前にアップロードしますので、各自、「学習支援システム（Hoppii）」の「教材」から都合の良いときにダウンロードして受け取ってください。ただし、適切な会議システムがこの時点で大学から提示された場合、このシステムを使ってグループワークを行うことも考えています。

3. 最終日（7/20）の授業

追って連絡します。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業における予習成果・課題（80%）+期末レポート（20%）=成績（100%）

授業で重要な質問、興味深い質問、意欲ある質問をした学生にはその分、特別に加点して評価します。まじめで熱心な受講学生は、常に高評価の対象です。

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59 以下: D

未受験、採点不能: E

今回の事態は異例中の異例であり、その特殊性からレポートならびに毎回の課題提出を成績基準とします。その時、十分に気をつけて欲しい事柄を2点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末。

【Outline and objectives】

This course is intended to help students improve their basic English skills including: vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held a bilingual environment, both Japanese and English.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は少なくとも前半はオンラインでの開講が予想されます。それにとまなう授業計画の変更につきましては、学習支援システムでその都度指示します。本授業の開始日は5月11日とし、初回はオンラインでの授業方法（決定しているところまで）と具体的な課題を提示したいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第2回	Unit 1	Japan: What's for lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy
第3回	Unit1	Japan: What's for lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy
第4回	Unit2	BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
第5回	Unit2	BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
第6回	Unit3	How a Dog Can Improve Your Health
第7回	Unit3	How a Dog Can Improve Your Health
第8回	Unit4	The Shoe That Grows: Expandable Shoes Aim to Keep Up With Kid's Growing Feet
第9回	Unit4	The Shoe That Grows: Expandable Shoes Aim to Keep Up With Kid's Growing Feet
第10回	Unit5	"Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress
第11回	Unit5	"Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress
第12回	Unit6	The Evolution of Comic Books in the Digital Age
第13回	Unit6	The Evolution of Comic Books in the Digital Age
第14回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は必ずやってきてください。また、リスニングが苦手な人は視聴しておくこと。

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3（熊井信弘編、成美堂、2017年）

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったこととともない、成績評価の方法と基準も変更になります。具体的な方法と基準は、春学期の後半までには決定し、学習支援システムなどで提示したいと考えています。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

可能な場合にはCALL教室を使用する予定です。

【その他の重要事項】

以下の基準は対面になった場合の基準となります。

オンライン授業に関しての基準はまた決まり次第お伝えします。
 辞書はかならず持参してください。
 授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
 2 回遅刻で 1 回欠席となり、5 回欠席した場合には単位取得はできません。
 (公欠の基準は授業開始日にお知らせします)
 遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。(バスは遅延に含みません)
 また、英作文などの提出物は、後からの提出は減点となります(公欠の場合を除く)。小テストは、後から受けることはできませんが、公欠や遅延の場合には考慮します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - I 3

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は少なくとも前半はオンラインでの開講が予想されます。それにともなう授業計画の変更につきましては、学習支援システムでその都度指示します。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、初回はオンラインでの授業方法（決定しているところまで）と具体的な課題を提示したいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 1	Japan: What's for lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy
第 3 回	Unit1	Japan: What's for lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy
第 4 回	Unit2	BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
第 5 回	Unit2	BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
第 6 回	Unit3	How a Dog Can Improve Your Health
第 7 回	Unit3	How a Dog Can Improve Your Health
第 8 回	Unit4	The Shoe That Grows: Expandable Shoes Aim to Keep Up With Kid's Growing Feet
第 9 回	Unit4	The Shoe That Grows: Expandable Shoes Aim to Keep Up With Kid's Growing Feet
第 10 回	Unit5	"Cat Libraty" Offers Purrfect Solution to Stress
第 11 回	Unit5	"Cat Libraty" Offers Purrfect Solution to Stress
第 12 回	Unit6	The Evolution of Comic Books in the Digital Age
第 13 回	Unit6	The Evolution of Comic Books in the Digital Age
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は必ずやってきてください。また、リスニングが苦手な人は視聴しておくこと。

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3 (熊井信弘編、成美堂、2017 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更になります。具体的な方法と基準は、春学期の後半までには決定し、学習支援システムなどで提示したいと考えています。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

可能な場合には CALL 教室を使用する予定です。

【その他の重要事項】

以下の基準は対面になった場合の基準となります。

オンライン授業に関しての基準はまた決まり次第お伝えします。
 辞書はかならず持参してください。
 授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
 2 回遅刻で 1 回欠席となり、5 回欠席した場合には単位取得はできません。
 (公欠の基準は授業開始日にお知らせします)
 遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。(バスは遅延に含みません)
 また、英作文などの提出物は、後からの提出は減点となります(公欠の場合を除く)。小テストは、後から受けることはできませんが、公欠や遅延の場合には考慮します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - I 4

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会が抱える諸問題について論じた英文を読み、自分自身の考えを英語で論じるための表現とプロセスを習得する。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の通りである。

- 1、社会問題を英語で読み、論じることができるための表現を習得する
- 2、syntax に注目して、正確に英文を読むことができる
- 3、英文の内容を簡潔な日本語と英語の両方で要約できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開講日は 5 月 11 日とし、この前日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について、実際にテキストを用いて説明する（テキストは初回のみプリントを用意する。各自、辞書を持参すること。）
第 2 回	School clubs	部活動の功罪について考察する
第 3 回	Food Additives	食品添加物の功罪について考察する①
第 4 回	Food Additives	食品添加物の功罪について考察する②
第 5 回	The Olympics	オリンピック開催について考察する①
第 6 回	The Olympics	オリンピック開催について考察する②
第 7 回	mid-term examination	中間考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 8 回	Mobile Ads	情報化社会の功罪について考察する①
第 9 回	Mobile Ads	情報化社会の功罪について考察する②
第 10 回	100-Yen Shop	消費社会の功罪について考察する①
第 11 回	100-Yen Shop	消費社会の功罪について考察する②
第 12 回	Barrier-Free	バリアフリー社会の課題について考察する①
第 13 回	Barrier-Free	バリアフリー社会の課題について考察する②
第 14 回	term-end examination	期末考査（既習範囲についての理解を確認する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を目安とする。
 準備：学習予定に従ってテキスト本文を読み、重要な表現を暗記する。
 復習：quiz に出題された語彙と、授業中の解説及び review sheet を参考に、本文を読み返す。writing が返却された週は添削と解説を参考に書き直す。

【テキスト（教科書）】

『議論伯仲：ふたつの意見』 Mark Jewel 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

This chief aim of this course is to familiarize students with the process of developing and expressing an opinion on a topic of current interest. The textbook includes both pros and cons of fifteen current topics, which students read closely to acquire the necessary expressions and ideas needed to state their own opinions. Each session consists of a vocabulary quiz, close reading, and writing on the specific topics. Students are also required to submit the review sheets at the end of the session. Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations and usual performance (involving the average score of quizzes and review sheets).

LANe100EA

Basic English 2 - I 5

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞や雑誌に掲載された社説の精読を通じて文化についての考えを深めると共に、内容を適切に要約する技術を日本語英語共に習得する。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の通りである。

- 1、社説を英語で読み、自分の考えを論じることができるための表現を習得する
- 2、syntax に注目して、正確に英文を読むことができる
- 3、英文の内容を簡潔な日本語と英語の両方で要約できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この前日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について、実際にテキストを用いて説明する（テキストは初回のみプリントを用意する。各自、辞書を持参すること。）
第 2 回	Nelson Mandela	異文化共生について考察する
第 3 回	Englishes	共通語としての英語について考察する ①
第 4 回	Englishes	共通語としての英語について考察する ②
第 5 回	Tax Haven	地域振興策について考察する①
第 6 回	Tax Haven	地域振興策について考察する②
第 7 回	mid-term examination	中間考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 8 回	AI	AI と人間の関わりについて考察する①
第 9 回	AI	AI と人間の関わりについて考察する②
第 10 回	Climate Change	気候変動に対する取り組みについて考察する①
第 11 回	Climate Change	気候変動に対する取り組みについて考察する②
第 12 回	Japanese Food	和食の未来について考察する①
第 13 回	Japanese Food	和食の未来について考察する②
第 14 回	term-end examination	期末考査（既習範囲についての理解を確認する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を目安とする。

準備：学習予定に従ってテキスト本文を読み、重要な表現を暗記する。

復習：quiz に出題された語彙と、授業中の解説及び review sheet を参考に、本文を読み返す。writing が返却された週は添削と解説を参考に書き直す。

【テキスト（教科書）】

『世界を読み解く 15 の鍵』河原真也、伊藤健一郎 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【Outline and objectives】

This chief aim of this course is to familiarize students with critical reading and the cultural diversity. The textbook includes editorials from major papers and magazines, which students read closely to acquire the necessary expressions and ideas needed to think about modern culture. Each session consists of a vocabulary quiz, close reading, and summary writing. Students are also required to submit the review sheets at the end of the session. Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations and usual performance (involving the average score of quizzes and review sheets).

LANe100EA

Basic English 2 - I 16

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の持っている英語の能力を少しでも伸ばすことが目標です。まずは英語を読んで理解すること、そしてそれを他人に伝わる日本語に置き換えられることを練習します。そこから英語を書くこと、聴くことも練習します。通年での履修を希望します。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にして、上級者向けの英語教科書を読める。またそこに使われている表現を用いて作文ができる。さらに、聴き取りは、文全体ではなくても、知っている単語は聞き取れる。以上 3 点が到達目標です。

そして、映画に描かれた女性像（今年）に関するエッセイを読むことで、フェミニスト的思考にも触れることも目標です。自分もフェミニズムの事は知らないで、学生と一緒に勉強したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。授業支援システムを使った授業は 4 月 27 日から始める。

映画の中にとどように男性や女性が描かれ来たかを論じるエッセイを読むことを中心に授業を行います（この教科書は読み物として面白いと思います）。その他にライティングやリスニングの練習を行います。また語学の習得には語彙を増やすことが必要なので毎回テストを行います（オンライン授業の場合でも、毎回 15 もずつ覚えていってください）教科書の英語は難しすぎるものではないと思います。授業は比較的ゆっくり行われるので、練習問題などとあわせると、1 回の授業で進むのは 1 ページ半から 2 ページになると思います。授業計画は若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイ・フォークス祭り	ガイ・フォークス祭りの由来
第 2 回	ジェンダーとは何か？	古典的ハリウッド映画の物語形式
第 3 回	ジェンダーとは何か？	父権制の意味
第 4 回	ジェンダーとは何か？	2・3 回目の練習問題
第 5 回	ジェンダーとは何か？	セックスとジェンダーの違いについて
第 6 回	ジェンダーとは何か？	ジェンダー・アイデンティティ
第 7 回	初期映画の女性像	4 回目から 6 回目までの練習問題
第 8 回	初期映画の女性像	ヴィクトリアの女性像—リアン・ギッシュとメアリー・ピックフォード
第 9 回	初期映画の女性像	処女・娼婦コンプレックス
第 10 回	初期映画の女性像	映画における大恐慌の影響
第 11 回	初期映画の女性像	7 回目から 9 回目までの練習問題
第 12 回	初期映画の女性像	第一のフェミニズムの波と女性像
第 13 回	初期映画の女性像	白人奴隷映画に描かれる恐怖
第 14 回	まとめ	It ガールが表象するもの
		第 10 回から 12 回目までの練習問題
		春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキスト中に出てくる単語で知らないものについては、その意味を調べておくこと。

単語試験にそなえて、その準備をしておくこと

授業が行えた場合は、辞書を持参すること、教科書を購入して、忘れずに教室に持ってくること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H.M. ベンショフ S. グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の、少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準もへんこうします。

教室で試験が行えるならば、期末テストの結果で評価します（試験 100 パーセント）。試験は、読む、書く、聞くのすべてを試験をします。配分は、読む 60 点、書く 25 点の 85 点満点で評価するが、授業が数回でも行えるならば、聞く練習もして、試験でも聞き取り問題 15 点を行って 100 点満点とします。

試験が教室でできないならば、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書は下手なりにできる限り丁寧に、気をつけようといつも思っています。聞き取りの練習を増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

教室で授業行えるなら、毎回単語の試験を行うので、6 割以上の成績を取めること、オンライン授業になっても毎回 15 問ずつ覚えていってください。授業が行えるようになったときにまとめて試験します。

なお、試験が行われた場合、試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時も、かならず試験の始まりまでに連絡をすること。無断で受験をしなかった場合は不可とする。教科書と辞書は必ず教室に持参すること。教科書はできる限り購入してください。教科書、辞書がない場合は、授業の出席を認めない。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read advanced English texts, translate them into Japanese correctly, and write good English sentences, as well as to hear English sentences. At the end of the course, students read English textbooks well, and write good English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 3

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の持っている英語の能力を少しでも伸ばすことが目標です。まずは英語を読んで理解すること、そしてそれを他人に伝わる日本語に置き換えられることを練習します。そこから英語を書くこと、聴くことも練習します。通年での履修を希望します。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にして、上級者向けの英語教科書を読める。またそこに使われている表現を用いて作文ができる。さらに、聴き取りは、文全体ではなくても、知っている単語は聞き取れる。以上 3 点が到達目標です。

そして、映画に描かれた女性像（今年は）に関するエッセイを読むことで、フェミニスト的思考にも触れることも目標です。自分もフェミニズムの事は知らないの、学生と一緒に勉強したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。授業支援システムを使った授業は 4 月 27 日から始める。

映画の中にどのように男性や女性が描かれ来たかを論じるエッセイを読むことを中心に授業を行います（この教科書は読み物として面白いと思います）。その他にライティングやリスニングの練習を行います。また語学の習得には語彙を増やすことが必要なので毎回テストを行います（オンライン授業の場合でも、毎回 15 もずつ覚えていってください）教科書の英語は難しすぎるものではないと思います。授業は比較的ゆっくり行われるので、練習問題などとあわせると、1 回の授業で進むのは 1 ページ半から 2 ページになると思います。

授業計画は若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイ・フォークス祭り	ガイ・フォークス祭りの由来
第 2 回	ジェンダーとは何か？	古典的ハリウッド映画の物語形式
第 3 回	ジェンダーとは何か？	父権制の意味
第 4 回	ジェンダーとは何か？	2・3 回目の練習問題 セックスとジェンダーの違いについて
第 5 回	ジェンダーとは何か？	ジェンダー・アイデンティティ
第 6 回	ジェンダーとは何か？	ホモソーシャルな集団 4 回目から 6 回目までの練習問題
第 7 回	初期映画の女性像	ヴィクトリアの女性像ーリアン・ギッシュとメアリー・ピックフォード
第 8 回	初期映画の女性像	処女・娼婦コンプレックス
第 9 回	初期映画の女性像	映画における大恐慌の影響 7 回目から 9 回目までの練習問題
第 10 回	初期映画の女性像	第一のフェミニズムの波と女性像
第 11 回	初期映画の女性像	白人奴隷映画に描かれる恐怖
第 12 回	初期映画の女性像	It ガールが表象するもの

第13回 初期映画の女性像 第10回から12回までの練習問題
 第14回 まとめ 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキスト中に出てくる単語で知らないものについては、その意味を調べておくこと。

単語試験にそなえて、その準備をしておくこと

授業が行えた場合は、辞書を持参すること、教科書を購入して、忘れずに教室に持ってくる。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H.M. ベンショフ S. グリフィン 『映画の中の男と女』（英宝社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の、少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準もへんこうします。

教室で試験が行えるならば、期末テストの結果で評価します（試験100パーセント）。試験は、読む、書く、聞くのすべてを試験をします。配分は、読む60点、書く25点の85点満点で評価薄するか、授業が数回でも行えるならば、聞く練習もして、試験でも聞き取り問題15点を行って100点満点とします。

試験が教室でできないならば、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書は下手なりにできる限り丁寧に、気をつけようといつも思っています。聞き取りの練習を増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

教室で授業行えるなら、毎回単語の試験を行うので、6割以上の成績を取めること、オンライン授業になっても毎回15問ずつ覚えていってください。授業が行えるようになったときにまとめて試験します。

なお、試験が行われた場合、試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時も、かならず試験の始まりまでに連絡をすること。無断で受験をしなかった場合は不可とする。

教科書と辞書は必ず教室に持参すること。教科書はできる限り購入してください。教科書、辞書がない場合は、授業の出席を認めない。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read advanced English texts, translate them into Japanese correctly, and write good English sentences, as well as to hear English sentences. At the end of the course, students read English textbooks well, and write good English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 7

高 美智

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。

【到達目標】

- － 総合的な英語力の向上。
- － 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- － 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- － 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020年度前期授業はコロナ感染症対策のため、当面、授業は対面ではなくオンラインで行います。

初回オンライン授業は4月27日です。

必ず4月27日に学習支援システムにログインし指示に従って学習をすすめてください。

その後も毎週必ず月曜日にログインしその日の課題を行うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第2回	Speech by Steve Jobs 1	スピーチを視聴後、ボキャブラリー確認
第3回	Speech by Steve Jobs 2	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第4回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 1	英文記事の音読・読解 小テスト
第5回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 2	英文記事の音読・読解 小テスト
第6回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 3	英文記事の音読・読解 小テスト
第7回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 1	英語で東京ツアーを企画
第8回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 2	英語で東京ツアーを企画
第9回	Supersize Me vs. McDonald 1	映画鑑賞とリスニング練習
第10回	Supersize Me vs. McDonald 2	英文記事の読解 小テスト
第11回	Supersize Me vs. McDonald 3	英文記事の読解

第12回	期末課題の提出 (期末テスト)	期末課題の提出 (期末テスト)
第13回	なし	なし
第14回	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

プリントを教材セクションにアップロードしますので、自宅あるいはコンビニなどで必ずプリントアウトして授業課題を行うようにしてください。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30%

宿題 30%

期末課題（期末テスト）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムのお知らせセクションにもシラバスがアップロードしてありますので確認しておいてください。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to develop English-speaking skills through a group project that involves discussions and presentations in English.

LANe100EA

Basic English 2 - I 8

高 美 智

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。

【到達目標】

- 総合的な英語力の向上。
- 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2020年度前期授業はコロナ感染症対策のため、当面、授業は対面ではなくオンラインで行います。

初回オンライン授業は4月27日です。

必ず4月27日に学習支援システムにログインし指示に従って学習をすすめてください。

その後も毎週必ず月曜日にログインしその日の課題を行うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第2回	Speech by Steve Jobs 1	スピーチを視聴後、ボキャブラリー確認
第3回	Speech by Steve Jobs 2	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第4回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 1	英文記事の音読・読解 小テスト
第5回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 2	英文記事の音読・読解 小テスト
第6回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 3	英文記事の音読・読解 小テスト
第7回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 1	英語で東京ツアーを企画
第8回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 2	英語で東京ツアーを企画
第9回	Supersize Me vs. McDonald 1	映画鑑賞とリスニング練習
第10回	Supersize Me vs. McDonald 2	英文記事の読解 小テスト
第11回	Supersize Me vs. McDonald 3	英文記事の読解
第12回	期末課題の提出 (期末テスト)	期末課題の提出 (期末テスト)
第13回	なし	なし
第14回	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

プリントを教材セクションにアップロードしますので、自宅あるいはコンビニなどで必ずプリントアウトして授業課題を行うようにしてください。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30%

宿題 30%

期末課題（期末テスト）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムのお知らせセクションにもシラバスがアップロードしてありますので確認しておいてください。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to develop English-speaking skills through a group project that involves discussions and presentations in English.

LANe100EA

Basic English 2 - I 9

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The class will begin May 11,2020. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Orientation of class materials. Self-introductory assignment . Short video presentation (2 minutes). Written Self introduction explaining video presentation 15 sentences(one paragraph)
2	Exercise I	Introduce Unit 1 of text. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
4	Exercise III	Complete and review Unit 1. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Unit 2 of text. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
7	Exercise VI	Complete and review Unit 2. Test oral and written optional.
8	Exercise VII	Introduce Unit 3 of text. Study vocabulary and reading exercises.
9	Exercise VIII	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
10	Exercise VIV	Complete and review Unit 3. Test oral and written optional.
11	Exercise X	Introduce Unit 4 of text. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
13	Exercise XII	Complete and review unit 4. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
14	Exercise XIII	Final reports on topic related to units studied in textbook. Incorporate vocabulary, grammar and information from textbook units Studied in class. Add extra data from independent research. Written 500 word report+audio file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports and presentations. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook and Selected Readings

【参考書】

Textbook, selected research readings, video clips, websites

【成績評価の方法と基準】

Textbook exercises 25%, Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" environment.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone or iPhone Or iPad or computer

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - I 10

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The class will begin May 11,2020. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Orientation of class materials. Self-introductory assignment . Short video presentation (2 minutes). Written introduction explaining video presentation 15 sentences(one paragraph)
2	Exercise I	Introduce Unit 1 of text. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
4	Exercise III	Complete and review Unit 1. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Unit 2 of text. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
7	Exercise VI	Complete and review Unit 2. Test oral and written optional.
8	Exercise VII	Introduce Unit 3 of text. Study vocabulary and reading exercises.
9	Exercise VIII	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
10	Exercise VIV	Complete and review Unit 3. Test oral and written optional.
11	Exercise X	Introduce Unit 4 of text. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Use audio PDF to read full article learn pronunciation and vocabulary.
13	Exercise XII	Complete and review unit 4. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
14	Exercise XIII	Complete and review unit 4. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook, Selected Readings

【参考書】

Textbook, Selected readings, video clips, websites

【成績評価の方法と基準】

Textbook exercises 25%, Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" environment.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone oriPhone or iPad or computer

【Outline and objectives】

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業のオンライン化のためシラバス内容を変更中です！

再履修向け授業。英語力が比較的低い学生を主な対象とし、基礎的な英語力の習得に重点を置く。

学生は読解・リスニング・音読の能力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・英文読解のスピードを向上させる。
- ・英文読解の正確さを向上させる。
- ・リスニング力を向上させる。
- ・英文を自信をもってスムーズに音読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・読解・速読練習：教材のタスクをこなす。
- ・和訳・精読練習：予習に基づき発表する。
- ・リスニング：ディクテーションなど
- ・各種テスト：小テスト（quiz）、期末テスト（筆記、音読）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 Chapter 7	授業の説明。読解作業中心
第 2 回	Chapter 7	精読作業中心
第 3 回	Chapter 8	読解作業中心
第 4 回	Chapter 8	精読作業中心
第 5 回	Quiz 3 Chapter 9	Chapter 7, 8 に関する小テスト。読解作業中心
第 6 回	Chapter 9	精読作業中心
第 7 回	Chapter 10	読解作業中心
第 8 回	Chapter 10	精読作業中心
第 9 回	Chapter 11	読解作業中心
第 10 回	Chapter 11	精読作業中心
第 11 回	Quiz 4 Chapter 12	Chapter 9, 10, 11 に関する小テスト。読解作業中心
第 12 回	Quiz 2 Chapter 12	精読作業中心
第 13 回	音読テスト	音読能力測定など
第 14 回	筆記テスト まとめ	記述式試験、学習相談など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：和訳発表の準備
- ・復習：授業内容の確認・定着、テストの準備
- ・宿題：インターネット上の教材を利用した自習
- ・リスニング、音読の反復練習：音声資料を利用して頻繁に実施
- ・通常 1 回につき 1 ～ 2 時間程度かかる見込み

【テキスト（教科書）】

- ・各 chapter 500~600 単語程度の長さのリーディング向け英文とその音声ファイルを使用する。（配布するので購入の必用はない。）
- ・英語辞書：毎回の授業で必須（スマホ等による代用は原則不可）

【参考書】

- ・文法参考書：基礎的な文法事項については、高校時代に使った文法書を復習するなどして自習すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業中の発表、発言、宿題など） 30 %
- ・小テスト（2 回の quiz） 20 %
- ・音読テスト（学期末、教員と 1 対 1 の対面式） 20 %
- ・筆記テスト（学期末） 30 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズに応じてより柔軟な指導を行いたい。学生の要望があれば、追加教材の提案や授業時間外の個別指導を行う。

【その他の重要事項】**【重要】**

- ・詳細は初回授業（ガイダンス）で説明するので受講者予定者はかならず出席すること。教材の入手方法なども説明する。
- ・授業の運営上遅刻者への対応が困難。授業開始までに教室にいること。

・10分以上遅刻した場合は出席と認めない（遅刻が多い学生は平常点が伸びない）。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to their reading and listening comprehension skills and pronunciation.

LANe100EA

Basic English 2 - I 6

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や最新技術に関する様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	Fast Asleep? 動物たちの眠り	記事を講読します。
第3回	All Gone? 種消滅の危機	記事を講読します。
第4回	Beeing and Nothingness ミツバチがいなくなったら	記事を講読します。
第5回	As Clever as Us? 賢い動物たち	記事を講読します。
第6回	Life in the Oceans 海洋の生態系	記事を講読します。
第7回	Powering Our World クリーンエネルギー	記事を講読します。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	Hot, Powerful, and Clean 太陽光発電	記事を講読します。
第10回	Keep on Running 水の重要性	記事を講読します。
第11回	Where Are All the Trees? 深刻な森林破壊の現状	記事を講読します。
第12回	Too Hot to Live? 気象変動がもたらすもの	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んてくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・Science Quest 未来科学への誘い、安浪 誠祐 / Richard S. Lavin 著、成美堂。(¥ 1,900 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 4

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義型の授業で、英文を精読します。必要な時はグループ・ディスカッションを行います。毎回授業時には小テストを行い、授業の理解度を確認します。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD も小説を読み進めた箇所まで鑑賞します。

注意：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法など、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
4	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter2-3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
6	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter3-4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
8	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter4-5	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
10	Chapter5-6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter6-7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
12	Chapter7-8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
13	chapter9	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
14	Chapter1-9	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参すること。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

注意：春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 5

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義型の授業で、英文を精読します。必要な時はグループ・ディスカッションを行います。毎回授業時には小テストを行い、授業の理解度を確認します。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD も小説を読み進めた箇所まで鑑賞します。

注意：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法など、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
4	Chapter2	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter2-3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
6	Chapter3	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter3-4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter4	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter4-5	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
10	Chapter5-6	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter6-7	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
12	Chapter7-8	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
13	chapter9	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter1-9	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参すること。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

注意：春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 17

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<概要>授業のはじめ 30 分は英文書き換えのワークブック形式のテキストを使い、残りの時間はリーディングのテキストを使って学習する。

<目的>さまざまなタイプの書き換えを習得するとともに、長文の読解およびリスニングや英作文のスキルを身につける。

【到達目標】

さまざまな文法項目ごとの書き換えテクニック覚え、応用できるようになる。長文を読んで意味を解釈するとともに、関連した内容のリスニングおよび英作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4月27日が第一回授業です。第一回は課題とアンケート実施のみとして、学習支援システムを使用した授業がどのように機能するかを判断しながら、次回に続けていこうと思います。

当面は学習支援システムを使った授業をおこなう予定です。zoom を使ったオンライン授業をおこなうかどうかは、人数が多いこともあり、まだわかりません。

また、成績評価の要件として、本シラバスには小テストと期末テスト50パーセントずつと記載しておりますが、これについても、学習支援システムで授業を進めながら、考えていくこととなります。春学期の途中から教室での対面授業が可能になれば、小テストや期末テストも普通に実施できますが、そうでなければ、課題中心にせざるを得ません。状況をみながらできるだけ早めに決めて周知していきますので、ご理解をお願いします。

というわけで、4月27日には必ず学習支援システムをチェックしてください。なお、使用テキストに変更はありません。本シラバスに記載した2種類のテキストを入手してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進行とテキストの説明
第2回	ドリル Lesson1/テキスト Chapter1 前半	名詞節の書き換え (1)/長文リーディング
第3回	ドリル Lesson2/テキスト Chapter1 後半	名詞節の書き換え (2)/英作文・リスニング
第4回	ドリル Lesson3/テキスト Chapter2 前半	名詞節の書き換え (3)/長文リーディング
第5回	ドリル Lesson4/テキスト Chapter2 後半	形容詞節の書き換え/英作文・リスニング
第6回	ドリル Lesson5/テキスト Chapter3 前半	「時」を表す副詞節の書き換え/長文リーディング
第7回	ドリル Lesson6/テキスト Chapter3 後半	「理由・原因」を表す副詞節の書き換え/英作文・リスニング
第8回	ドリル Lesson7/テキスト Chapter4 前半	「目的・結果」を表す副詞節の書き換え/長文リーディング
第9回	ドリル Lesson8/テキスト Chapter4 後半	「譲歩」を表す副詞節の書き換え/英作文・リスニング
第10回	ドリル Lesson9/テキスト Chapter5 前半	「仮定・条件」を表す副詞節の書き換え/長文リーディング
第11回	ドリル Lesson10/テキスト Chapter5 後半	重文の書き換え (1)/英作文・リスニング
第12回	全体の復習	春学期の復習・疑問点の解決
第13回	期末テスト	春学期で学んだ内容についてのテスト
第14回	期末テスト	再試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークブックは毎回宿題として事前にすませる。リーディングテキストも学習必須。単語や解釈、英作文など、教員の指示に従って準備する。あわせて90分以上の自宅学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

『5 分間英文書き換えトレーニング』南雲堂・700 円
『Step Up to Better English』朝日出版社・1700 円

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口であるとの指摘を受けたので、注意したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の通知等のため授業支援システムを使用することがある。

【その他の重要事項】

Basic English 1 の再履修で西田の授業を履修する学生が、同時にこの授業も履修することは好ましくない。授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Two textbooks are to be used for the class. One of them is an paraphrasing drill book. The other is a reading textbook that also has listening and composition exercises.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 8

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<概要>授業のはじめ 30 分は英文書き換えのワークブック形式のテキストを使い、残りの時間はリーディングのテキストを使って学習する。

<目的>さまざまなタイプの書き換えを習得するとともに、長文の読解およびリスニングや英作文のスキルを身につける。

【到達目標】

さまざまな文法項目ごとの書き換えテクニック覚え、応用できるようになる。長文を読んで意味を解釈するとともに、関連した内容のリスニングおよび英作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4月27日が第一回授業です。第一回は課題とアンケート実施のみとして、学習支援システムを使用した授業がどのように機能するかを判断しながら、次回に続けていこうと思います。

当面は学習支援システムを使った授業をおこなう予定です。zoom を使ったオンライン授業をおこなうかどうかは、人数が多いこともあり、まだわかりません。

また、成績評価の要件として、本シラバスには小テストと期末テスト50パーセントずつと記載しておりますが、これについても、学習支援システムで授業を進めながら、考えていくこととなります。春学期の途中から教室での対面授業が可能になれば、小テストや期末テストも普通に実施できますが、そうでなければ、課題中心にせざるを得ません。状況をみながらできるだけ早めに決めて周知していきますので、ご理解をお願いします。

というわけで、4月27日には必ず学習支援システムをチェックしてください。なお、使用テキストに変更はありません。本シラバスに記載した2種類のテキストを入手してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進行とテキストの説明
第2回	ドリル Lesson1/テキスト Chapter1 前半	名詞節の書き換え (1)/長文リーディング
第3回	ドリル Lesson2/テキスト Chapter1 後半	名詞節の書き換え (2)/英作文・リスニング
第4回	ドリル Lesson3/テキスト Chapter2 前半	名詞節の書き換え (3)/長文リーディング
第5回	ドリル Lesson4/テキスト Chapter2 後半	形容詞節の書き換え/英作文・リスニング
第6回	ドリル Lesson5/テキスト Chapter3 前半	「時」を表す副詞節の書き換え/長文リーディング
第7回	ドリル Lesson6/テキスト Chapter3 後半	「理由・原因」を表す副詞節の書き換え/英作文・リスニング
第8回	ドリル Lesson7/テキスト Chapter4 前半	「目的・結果」を表す副詞節の書き換え/長文リーディング
第9回	ドリル Lesson8/テキスト Chapter4 後半	「譲歩」を表す副詞節の書き換え/英作文・リスニング
第10回	ドリル Lesson9/テキスト Chapter5 前半	「仮定・条件」を表す副詞節の書き換え/長文リーディング
第11回	ドリル Lesson10/テキスト Chapter5 後半	重文の書き換え (1)/英作文・リスニング
第12回	全体の復習	春学期の復習・疑問点の解決
第13回	期末テスト	春学期で学んだ内容についてのテスト
第14回	期末テスト	再試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークブックは毎回宿題として事前にすませる。リーディングテキストも学習必須。単語や解釈、英作文など、教員の指示に従って準備する。あわせて90分以上の自宅学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

『5分間英文書き換えトレーニング』南雲堂・700円

『Step Up to Better English』朝日出版社・1700円

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、期末テスト 50%。

【学生の意見等からの気づき】

早口であるとの指摘を受けたので、注意したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の通知等のため授業支援システムを使用することがある。

【その他の重要事項】

Basic English 1 の再履修で西田の授業を履修する学生が、同時にこの授業も履修することは好ましくない。授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Two textbooks are to be used for the class. One of them is an paraphrasing drill book. The other is a reading textbook that also has listening and composition exercises.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 2

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アカデミー賞の歴史」をテーマとし、様々な英語表現を学ぶ。アカデミー賞に関する研究書やレビュー（英文の難易度は英検 2 級から準 1 級程度）を読み、過去の受賞作またはノミネート作品について調べてレポートにまとめる。授賞式での俳優や監督のスピーチもテキストとし、Recitation Contest 形式のプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

1. アカデミー賞に関する英文（難易度は英検 2 級から準 1 級程度）の精読を通して、英語の語彙を増やし、英文の理解度を高める。
2. アカデミー賞受賞作やノミネート作品に関して調べ、関連資料の英文を多読してまとめることによって、英文読解に慣れる。
3. アカデミー賞授賞式でのスピーチを模倣して発表することによって、英語の表現力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テスト、レポート、発表について解説
第 2 回	映画レポートについて	レポート対象作品を紹介、解説
第 3 回	アカデミー賞入門	アカデミー賞の内容、歴史について学ぶ。
第 4 回	アカデミー賞授賞式 (1)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (1)
第 5 回	アカデミー賞授賞式 (2)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (2)
第 6 回	アカデミー賞授賞式 (3)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (3)
第 7 回	アカデミー賞授賞式 (4)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (4)
第 8 回	アカデミー賞授賞式 (5)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (5)
第 9 回	テスト	受賞スピーチ、関連資料から出題
第 10 回	Recitation	受賞スピーチを朗読する。
第 11 回	Recitation Contest(1)	リハーサルにあたる練習。
第 12 回	Recitation Contest(2)	受賞スピーチを暗記して発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献の予習・復習、授業内で示される課題への対応をする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

1. Internet Movie Database (<https://www.imdb.com/oscars/>)
2. Official site of Academy of Motion Picture Arts and Sciences(<https://www.oscars.org/>)

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業の形式と内容は初めてだが、学生の発言、発表の機会はこの授業と同様に増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等のセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。

2. 動画配信サービス (U-NEXT、Netflix 等)

課題によっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度) を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、またはアマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

以下の項目に関して、問題がないことを受講の条件とする。

1. 英文の難易度は英検 2 級から準 1 級なので、少なくとも学習目標として取り組めること。
2. 映画を数多く鑑賞し、英文の関連サイト、資料を調べる意欲がある者。

【Outline and objectives】

1. The aim of this course is to develop vocabulary, reading comprehension and public speaking skills by learning the history of the Academy Awards from the 1st ones (1927-28) to the latest (2019).
2. There have been a number of movies which were nominated for and won the Oscars. Books and articles about the movies will be used for enhancing reading comprehension.
3. The acceptance speeches which have always been a significant aspect of the Oscar history will also be used as one of the texts in order to improve public speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 9

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では演劇・映画をテーマとし、シナリオを聞き (listening)、朗読し (reading aloud)、最終的には俳優になったつもりで演技の発表 (speaking) をする。さらに授業外でも、指定する作品のリストから数多くの映画を各自、鑑賞し、レポートを書いて (writing) 提出する。ただし、対面式授業が最後までできない場合は、課題提出中心の授業、評価になる可能性がある。

【到達目標】

テキスト、関連資料を的確に英語を声に出して読み (reading aloud)、感情表現も伴う英語の表現力を高め、英語の感性を磨くことを目標とする。演技は泣く、怒る、笑うなど、様々な感情表現を必要とするリアルで本格的な演技を目指すもので、単なる英会話の暗記発表とは異なるので注意。

前期がほとんどオンライン授業になった場合は、映像で演技や演出の基礎知識を勉強する期間と捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	映画レポート、観劇レポートの説明	レポート対象の様々な演劇、映画を紹介。
第 3 回	映画 (1)	テキストのリグニング、リーディング。
第 4 回	映画 (2)	テキストのリグニング、リーディング。
第 5 回	映画 (3)	テキストのリグニング、リーディング。
第 6 回	映画 (4)	テキストのリグニング、リーディング。
第 7 回	筆記テスト	配布プリントからのテスト。
第 8 回	キャストイング	最終的な演技の発表に向けての配役の決定。
第 9 回	リーディング・テスト	声に出してテキストを読み、表現するテスト。
第 10 回	リハーサル・テスト	身体の動き、表情等も含めたテスト。
第 11 回	演技発表 (1)	直前のリハーサル、または演技発表。
第 12 回	演技発表 (2)	本番。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布するので、テキスト代は必要ないが、レポートに必要な鑑賞費用と時間が必要である。

【参考書】

必要と内容に応じて授業内に指示。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が例年多く、少人数の理想的な授業展開にしにくいのが、できるだけ工夫して進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等のセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。

2. 動画配信サービス (U-NEXT、Netflix 等)

課題によっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、またはアマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【Outline and objectives】

A good tip for learning English is reading aloud. When you read aloud, you listen to yourself, and notice you have a lot to learn, i.e. vocabulary, accurate pronunciation, natural vocal tone to convey what is written on the page.

Meanwhile, I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You'll start with practices covering a diverse genres of films, for instance, you could be playing the role of The Devil Wears Prada one week and La La Land the next.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

If you think you don't have anything left to learn lines by heart, you're wrong. Pick out details, i.e. tone of voice, gesture, facial expression and manner of walking. Final presentation will require you to play with emotion by laughing, getting angry and weeping. Don't be afraid to look stupid. You could be Ryan Gosling or Emma Stone in this class.

LANe100EA

Basic English 2 - I 24

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画（『エリン・ブロコビッチ』）を題材とした教科書を用いて、読解力とリスニング力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 臨場感のある英文や会話を聞いて、内容を理解することができる。
- (3) 英文読解・リスニングにおいて、意味を推察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じての授業は、5 月 11 日から開始する。適宜、新聞記事等の追加の課題を課す。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、教科書の難易度は中程度である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
5/11	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出方法、注意事項などについて解説する。
5/18	課題活動	教員にメールを送る。教科書の映画を全編を通して視聴する。
5/25	Story 1 Job Hunting Unit 2 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6/1	Story 2 Discovery Unit 4 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6/8	Story 3 Getting Ready for the Suit Unit 6 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6/15	新聞講読 1	新聞記事を読み、内容を要約する。
6/22	新聞講読 2	新聞記事を読み、内容を要約する。
6/29	新聞講読 3	新聞記事を読み、内容を要約する。
7/6	英文講読①	インタビュー記事を読む。
7/13	英文講読②	インタビュー記事を読む。
11	Story 1 Job Hunting Unit 3 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
12	Story 3 Getting Ready for the Suit Unit 7 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
13	Story 3 Getting Ready for the Suit Unit 7 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
14	期末考査	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には、教科書の英文を訳し、設問に答えて提出する。新聞講読・英文講読の回には、課された課題に関するレポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

井村誠ほか編『映画「エリン・ブロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂、2015 年）。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の提出（100%）。締め切りを過ぎた課題は受け取らない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対処する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill and listening skill through the movie "Erin Brockovich".

LANe100EA

Basic English 2 - I 23

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画（『エリン・ブロコビッチ』）を題材とした教科書を用いて、読解力とリスニング力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 臨場感のある英文や会話を聞いて、内容を理解することができる。
- (3) 英文読解・リスニングにおいて、意味を推察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じての授業は、5月11日から開始する。適宜、新聞記事等の追加の課題を課す。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、教科書の難易度は中程度である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
5/11	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出方法、注意事項などについて解説する。
5/18	課題活動	教員にメールを送る。教科書の映画を全編を通して視聴する。 長文読解と文法問題を実施する。
5/25	Story 1 Job Hunting Unit 2 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6/1	Story 2 Discovery Unit 4 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6/8	Story 3 Getting Ready for the Suit Unit 6 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6/15	新聞講読1	新聞記事を読み、内容を要約する。
6/22	新聞講読2	新聞記事を読み、内容を要約する。
6/29	新聞講読3	新聞記事を読み、内容を要約する。
7/6	英文講読①	インタビュー記事を読む。
7/13	英文講読②	インタビュー記事を読む。
11	Story 1 Job Hunting Unit 3 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
12	Story 3 Getting Ready for the Suit Unit 7 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
13	Story 3 Getting Ready for the Suit Unit 7 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
14	期末考査	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には、教科書の英文を訳し、設問に答えて提出する。新聞講読・英文講読の回には、課された課題に関するレポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

井村誠ほか編『映画「エリン・ブロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂、2015年）。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の提出（100%）。締め切りを過ぎた課題は受け取らない。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対処する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill and listening skill through the movie "Erin Brockovich".

LANe100EA

Basic English 2 - I 20

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1（大学1年）までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in Englishのテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

（シラバス変更）

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1.1	Personality types
3	Unit 1.2	Method acting
4	Unit 1.3	Charisma: A kind of magic?
5	Unit 2.1	Getting away from it all?
6	Unit 2.2	Explorers
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 2.3	Wilfred Thesiger
9	Unit 3.1	Jobs
10	Unit 3.2	Homeworking
11	Unit 3.3	Work placements
12	Unit 4.1	Not Only English Spoken Here!
13	Unit 4.2	Why study Chinese?
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組み。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：New Language Leader (Intermediate)
 著者：David Cotton, David Falvey, Simon Kent
 出版社：Pearson
 出版年：2013
 価格：2,695 円

【参考書】

<https://www.english.com/languagelead>
<http://www.bbc.co.uk/radio>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%
 期末試験 40%
 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%
 学期中の欠席は3回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2回の遅刻を1回分の欠席として扱います。
 (変更点)
 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったため、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2 1

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1（大学1年）までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in Englishのテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

(変更点)

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 7a	Cruel to be kind
3	Unit 7b	A matter of taste
4	Unit 7c	Cultural conventions
5	Unit 7d	Wedding customs
6	Workbook 7b	Globalization of the food market
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8a	Rise of the rocket girls
9	Unit 8b	I wish I could...
10	Unit 8c	Saving Madagascar
11	Unit 8f	What would you do if money didn't matter?
12	Workbook 8b	The forget-it list
13	Workbook 8c	A cause for hope
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を開き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5B Combo Split
 著者：Paul Dummett
 出版社：National Geographic Learning
 出版年：2019
 価格：2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-5/level-5-students-book-video>
<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-5/level-5-audio-students-book>
<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-5/level-5-workbook-audio>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%
 期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%
 学期中の欠席は3回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2回の遅刻を1回分の欠席として扱います。

【変更点】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったため、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2 2

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。様々な分野における英文記事に触れることにより、読解力及び情報をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の読み方に慣れることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味の発見をしていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・オンライン授業の配信は、5月4日から始まります。
- ・時事英語の精読が中心となり、英文の和訳と分析を行います。教室授業が可能になれば、数人でお互いの音読を聞きあいます。
- ・教室授業が可能になれば、毎回の授業で小テストもあります。
- ・授業展開によっては、進度や内容に若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方の説明
2	Introduction to Chapter 1	第一章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
3	第一章（国内政治）	第一章の精読と練習問題、
4	Introduction to Chapter 2	第二章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
5	第二章（経済）	第二章の精読と練習問題、
6	Introduction to Chapter 3	第三章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
7	第三章（ビジネス）	第三章の精読と練習問題
8	Introduction to Chapter 4	第四章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
9	第四章（外交）	第四章の精読と練習問題
10	Introduction to Chapter 5	第五章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
11	第五章（軍事）	第五章の精読と練習問題
12	Introduction to Chapter 6	第六章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
13	第六章（海外政治情勢）	第六章の精読と練習問題
14	レポート提出か、期末試験	レポート提出、教室授業が可能になれば、理解を確認する期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味を確認した文を音読することにより、再び英語に戻し、英語を身につけましょう。また、和訳をもとに、英文を書けるようにすると、さらに効果的です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】

・English for Mass Communication・2020 Edition（堀江洋文、他 編著・朝日出版社・2020年）1600円＋税
 ・Newspaper English [Revised Edition]（大澤岳彦 著・南雲堂・2018年）700円＋税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110（京都大学英語学術語彙研究グループ＋研究社 著・研究社・2009年）1400円＋税

【成績評価の方法と基準】

・春学期がすべてオンライン授業となる場合：配信された英文を分析し、問いについて考え、音読することで授業参加とします。また、レポート提出を期末試験のかわりとして。内容についての詳細は、後日配信します。評価は、レポートによって判断します。

・教室授業が可能になった場合：平常点（40%）＋小テスト（20%）＋定期試験の得点（40%）（平常点は、予習を含む授業の参加度合や提出課題に対する評価です。授業の到達目標に到達したかどうかについては、小テストと定期試験の中で確認します。）

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明を黒板を使用しつつゆっくり行います。（教室授業の場合）

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 1

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）に重点を置きます。

【到達目標】

正しい音読と英語読解力の向上、内容把握。

単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。受験英語的には正しくても、意味不明な和訳で済ませるようなことはありません。分かりやすく、内容をしっかり理解できるような授業を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

眼前の学生諸君の理解度を常に注視しながら指導を行います。

言語の技能修得とともに、受講した「甲斐のある」、「内容を考えることのできる」授業になるよう心がけます。学生諸君が抱えているかも知れない、英語に対する先入観を少しでも払拭できれば幸いです。

なお、この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
第 2 回	プリント Reading ①	音読と意味把握①：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 3 回	プリント Reading ②	音読と意味把握②：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 4 回	プリント Reading ③	音読と意味把握③：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 5 回	プリント Reading ④	音読と意味把握④：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 6 回	プリント Reading ⑤	音読と意味把握⑤：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 7 回	プリント Reading ⑥	音読と意味把握⑥：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 8 回	プリント Reading ⑦	音読と意味把握⑦：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 9 回	プリント Reading ⑧	音読と意味把握⑧：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 10 回	プリント Reading ⑨	音読と意味把握⑨：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 11 回	プリント Reading ⑩	音読と意味把握⑩：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 12 回	プリント Reading ⑪	音読と意味把握⑪：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
第 13 回	半期のまとめと学習事項確認	半期の学習成果をまとめ、評価方法等の再確認をし、重点的に復習するべき事柄を指摘する。
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を授業一週間前に配布。

教材テーマは「Global Society」

各回、予習のポイントを説明。

学生諸君がテキストを購入する必要はない。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業における予習成果・平常点 (70%) + 期末試験 (30%) = 成績 (100%)

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67：C+

66～63：C

62～60：C-

59以下：D

未受験、採点不能: E

【学生の意見等からの気づき】

- ・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。
 - ・毎回の授業における予習の度合いを中心に、学生諸君の真面目な努力を評価する。
 - ・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明する。
 - ・学生の申し出があれば、随時、成績評価についての個別対応と指導を行う。
- 本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is intended to help students improve their basic English skills including: vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages. The class will be held a bilingual environment, both Japanese and English.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2

石垣 弥麻

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

後期はユニット 12 まで進むことを目標にします。進め方は前期と同じです。映像に関する短い英作文を書き、その後語彙問題、リスニング問題、内容理解に関する問題、トピックに関する長めの英作文という順番で進んでいきます。作文は提出していただき、ユニットごとに語彙問題と内容理解に関する小テストを行う予定です。また時間があれば、トピックに関する新聞記事などを読んで意見を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 7	Can Drinking Soda Make You Age Faster?
第 3 回	Unit 7	Can Drinking Soda Make You Age Faster?
第 4 回	Unit 8	What You Like On Facebook Could Affect Your Job Search
第 5 回	Unit 8	What You Like On Facebook Could Affect Your Job Search
第 6 回	Unit 9	Is Sitting the New Smoking?
第 7 回	Unit 9	Is Sitting the New Smoking?
第 8 回	Unit 10	Matcha Madness Sparks New Tea Craze
第 9 回	Unit 10	Matcha Madness Sparks New Tea Craze
第 10 回	Unit 11	Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
第 11 回	Unit 11	Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
第 12 回	Unit 12	One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
第 13 回	Unit 12	One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は必ずやってきてください。また、リスニングが苦手な人は視聴しておくこと。

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3 (熊井信弘編、成美堂、2017 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、小テスト、宿題 (50 パーセント)
前期試験 (50 パーセント)

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

可能な場合には CALL 教室を使用する予定です。

【その他の重要事項】

辞書はかならず持参してください。
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回遅刻で 1 回欠席となり、5 回欠席した場合には単位取得はできません。(公欠の基準は授業開始日にお知らせします)
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。(バスは遅延に含みません)

また、英作文などの提出物は、後からの提出は減点となります（公欠の場合を除く）。小テストは、後から受けることはできませんが、公欠や遅延の場合には考慮します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - II 3

石垣 弥麻

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

後期はユニット 12 まで進むことを目標にします。進め方は前期と同じです。映像に関する短い英作文を書き、その後語彙問題、リスニング問題、内容理解に関する問題、トピックに関する長めの英作文という順番で進んでいきます。作文は提出していただき、ユニットごとに語彙問題と内容理解に関する小テストを行う予定です。また時間があれば、トピックに関する新聞記事などを読んで意見を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 7	Can Drinking Soda Make You Age Faster?
第 3 回	Unit 7	Can Drinking Soda Make You Age Faster?
第 4 回	Unit 8	What You Like On Facebook Could Affect Your Job Search
第 5 回	Unit 8	What You Like On Facebook Could Affect Your Job Search
第 6 回	Unit 9	Is Sitting the New Smoking?
第 7 回	Unit 9	Is Sitting the New Smoking?
第 8 回	Unit 10	Matcha Madness Sparks New Tea Craze
第 9 回	Unit 10	Matcha Madness Sparks New Tea Craze
第 10 回	Unit 11	Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
第 11 回	Unit 11	Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
第 12 回	Unit 12	One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
第 13 回	Unit 12	One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は必ずやってきてください。また、リスニングが苦手な人は視聴しておくこと。

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3（熊井信弘編、成美堂、2017 年）

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、小テスト、宿題 (50 パーセント)

前期試験 (50 パーセント)

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

可能な場合には CALL 教室を使用する予定です。

【その他の重要事項】

辞書はかならず持参してください。

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回遅刻で 1 回欠席となり、5 回欠席した場合には単位取得はできません。（公欠の基準は授業開始日にお知らせします）

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。（パスは遅延に含みません）

また、英作文などの提出物は、後からの提出は減点となります（公欠の場合を除く）。小テストは、後から受けることはできませんが、公欠や遅延の場合には考慮します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - II 4

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会が抱える諸問題について論じた英文を読み、自分自身の考えを英語で論じるための表現とプロセスを習得する。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の通りである。

- 1、社会問題を英語で読み、論じることができるための表現を習得する
- 2、**syntax** に注目して、正確に英文を読むことができる
- 3、英文の内容を簡潔な日本語と英語の両方で要約できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期の各授業は以下のように構成される予定である。

- ① 予習を前提とした語彙に関する小テスト
- ② **exercise** を用いた内容確認
- ③ **syntax** に重点を置いた英文精読
- ④ **exercise** を用いた **writing** 演習
- ⑤ **review sheet** の作成と提出

ただし状況によっては変更の可能性もあるため、秋学期開始時に必ず学習支援システムをチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について、実際にテキストを用いて説明する（テキスト、辞書を持参すること）
第 2 回	Elderly Drivers	高齢化社会の課題について考察する①
第 3 回	Elderly Drivers	高齢化社会の課題について考察する②
第 4 回	The NIMBY Syndrome	地域社会のあり方について考察する①
第 5 回	The NIMBY Syndrome	地域社会のあり方について考察する②
第 6 回	Electronic Voting	民主主義と情報化について考察する①
第 7 回	Electronic Voting	民主主義と情報化について考察する②
第 8 回	mid-term examination	中間考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 9 回	Aid in Dying	安楽死について考察する①
第 10 回	Aid in Dying	安楽死について考察する②
第 11 回	Animal Testing	動物実験について考察する①
第 12 回	Animal Testing	動物実験について考察する②
第 13 回	term-end examination	期末考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 14 回	Review	1 年間の学習の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を目安とする。

準備：学習予定に従ってテキスト本文を読み、重要な表現を暗記する。

復習：quiz に出題された語彙と、授業中の解説及び **review sheet** を参考に、本文を読み返す。要約が返却された週は添削と解説を参考に書き直す。

【テキスト（教科書）】

『議論伯仲：ふたつの意見』Mark Jewel 朝日出版社

【参考書】

特に定めない

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価は以下のように行われる予定である。ただし状況によっては変更の可能性もあるため、秋学期開始時に必ず学習支援システムをチェックすること。

定期試験 50 %（中間・期末の平均）＋小テスト 20 %（各 20 点満点 ÷ 実施回数）＋平常点 30 %（提出物、授業内評価）。なお、一学期中の欠席が 4 回を越える場合は単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

This chief aim of this course is to familiarize students with the process of developing and expressing an opinion on a topic of current interest. The textbook includes both pros and cons of fifteen current topics, which students read closely to acquire the necessary expressions and ideas needed to state their own opinions. Each session consists of a vocabulary quiz, close reading, and writing on the specific topics. Students are also required to submit the review sheets at the end of the session. Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations and usual performance (involving the average score of quizzes and review sheets).

LANe100EA

Basic English 2 - II 5

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞や雑誌に掲載された社説の精読を通じて文化についての考えを深めると共に、内容を適切に要約する技術を日本語英語共に習得する。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の通りである。

- 1、社説を英語で読み、自分の考えを論じることができるための表現を習得する
- 2、syntax に注目して、正確に英文を読むことができる
- 3、英文の内容を簡潔な日本語と英語の両方で要約できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期の各授業は各 Unit を 2 回の授業を用い、それぞれの Unit を以下のように進める予定である。

- ①予習を前提とした語彙に関する小テスト
- ②本文欄外の quiz を用いた英文精読
- ③各 Unit の Questions を用いた内容確認
- ④要約作成
- ⑤ review sheet の作成と提出

ただし状況によっては変更の可能性もあるため、秋学期開始時に必ず学習支援システムをチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について、実際にテキストを用いて説明する（テキスト、辞書を持参すること）
第 2 回	Fashion	ファッションについて考察する
第 3 回	Art Biennial	アートによる地域振興について考察する①
第 4 回	Art Biennial	アートによる地域振興について考察する②
第 5 回	Literature	文学の役割について考察する①
第 6 回	Literature	文学の役割について考察する②
第 7 回	mid-term examination	中間考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 8 回	Ireland	宗教対立について考察する①
第 9 回	Ireland	宗教対立について考察する②
第 10 回	Marriage	結婚について考察する①
第 11 回	Marriage	結婚について考察する②
第 12 回	Hanukkah	ユダヤ教のハヌカについて知る
第 13 回	term-end examination	期末考査（既習範囲についての理解を確認する）
第 14 回	Review	1 年間の学習の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を目安とする。

準備：学習予定に従ってテキスト本文を読み、重要な表現を暗記する。

復習：quiz に出題された語彙と、授業中の解説及び review sheet を参考に、本文を読み返す。要約が返却された週は添削と解説を参考に書き直す。

【テキスト（教科書）】

『世界を読み解く 15 の鍵』河原真也、伊藤健一郎 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価は以下のように行われる予定である。ただし状況によっては変更の可能性もあるため、秋学期開始時に必ず学習支援システムをチェックすること。

定期試験 50 %（中間・期末の平均）＋小テスト 20 %（各 20 点満点 ÷ 実施回数）＋平常点 30 %（提出物、授業内評価）。なお、一学期中の欠席が 4 回を越える場合は単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

This chief aim of this course is to familiarize students with critical reading and the cultural diversity. The textbook includes editorials from major papers and magazines, which students read closely to acquire the necessary expressions and ideas needed to think about modern culture. Each session consists of a vocabulary quiz, close reading, and summary writing. Students are also required to submit the review sheets at the end of the session. Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations and usual performance (involving the average score of quizzes and review sheets).

LANe100EA

Basic English 2 - II 16

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2-I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間はかかるにしろ、普通原書（定期テストに出すレベルの）を読んで、訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上 2 点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は春学期と同じです。英文を読んで訳すことが中心です。単語テストは毎回行います。英作問題と聴き取り練習も行います。授業計画には若干の変更があります。単語テストや出席条件などは英語 2 - I と同じです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Basic English 2-I の試験結果や秋学期の予定などについて説明しよう。古典的ハリウッド・スタイル
第 2 回	30年代ハリウッドの女性像	
第 3 回	30年代ハリウッドの女性像	プロダクション・コード（映画製作倫理規定）が与えた影響 1 回目から 3 回目までの練習問題 メロドラマという女性映画
第 4 回	30年代ハリウッドの女性像	
第 5 回	30年代ハリウッドの女性像	「女は結局男を必要としている」 4 回目と 5 回目の練習問題
第 6 回	第二次世界大戦後の女性像	ロージー・ザ・リバッターに見る大戦中の女性像
第 7 回	第二次世界大戦後の女性像	フィルム・ノアールと運命の女
第 8 回	第二次世界大戦後の女性像	戦後の自由な空気 6 回目から 8 回目までの練習問題
第 9 回	第二次世界大戦後の女性像	キンゼイ報告書、『奇跡』をめぐる判決、そしてセックスコメディ
第 10 回	第二次世界大戦後の女性像	「金髪美人」と 50 年代の女性像
第 11 回	第二次世界大戦後の女性像	郊外に住む主婦と隣の女の子
第 12 回	第二次世界大戦後の女性像	女の居場所は家 9 回目から 12 回目までの練習問題
第 13 回	ヴァーチャル・リアリティー・セラピー	ヴァーチャル・リアリティー・セラピーの利点
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。

教科書を必ず持ってくる t こと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H・M・ベンシヨフ S・グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します。試験は、読む、書く、聞くの部門すべてで行います。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点、です。

【学生の意見等からの気づき】

板書はできる限り丁寧に書くよう努力すべきだといつも思っています。聞き取りの練習をもっとやりたいと思います。出席状況はもっとチェックしていこうと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で6割以上の成績を取めること、出席を3分の2以上すること(授業開始後20分を過ぎてから来てもらっても出席とはならない)は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件を一つでも満たせない場合、単位取得ができませんので、気を付けてください。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

【Outline and objectives】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and head English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 13

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2- I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間はかかるにしろ、普通の原書(定期テストに出すレベルの)を読んで、訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上2点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は春学期と同じです。英文を読んで訳すことが中心です。単語テストは毎回行います。英作問題と聴き取り練習も行います。授業計画には若干の変更があります。

単語テストや出席条件などは英語2 - I と同じです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	Basic English 2- I の試験結果や秋学期の予定などについて説明しよう。
第2回	30年代ハリウッドの女性像	古典的ハリウッド・スタイル
第3回	30年代ハリウッドの女性像	プロダクション・コード(映画製作倫理規定)が与えた影響 1回目から3回目までの練習問題
第4回	30年代ハリウッドの女性像	メロドラマという女性映画
第5回	30年代ハリウッドの女性像	「女は結局男を必要としている」 4回目と5回目の練習問題
第6回	第二次世界大戦後の女性像	ロージー・ザ・リパッターに見る大戦中の女性像
第7回	第二次世界大戦後の女性像	フィルム・ノアールと運命の女性像
第8回	第二次世界大戦後の女性像	戦後の自由な空気 6回目から8回目までの練習問題
第9回	第二次世界大戦後の女性像	キンゼイ報告書、『奇跡』をめぐる判決、そしてセックスコメディ
第10回	第二次世界大戦後の女性像	「金髪美人」と50年代の女性像
第11回	第二次世界大戦後の女性像	郊外に住む主婦と隣の女の子
第12回	第二次世界大戦後の女性像	女の居場所は家 9回目から12回目までの練習問題
第13回	ヴァーチャル・リアリティ・セラピー	ヴァーチャル・リアリティー・セラピーの利点
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。
 毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。
 辞書を持参すること。
 教科書を必ず持ってくる。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H・M・ベンショフ S・グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社）

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）
 『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）
 その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します。試験は、読む、書く、聞くの部門すべてで行います。配分は、読む60点、書く25点、聞く15点、です。

【学生の意見等からの気づき】

板書はできる限り丁寧に書くよう努力すべきだといつも思っています。聞き取りの練習をもっとやりたいと思います。出席状況はもっとチェックしていこうと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で6割以上の成績を収めること、出席を3分の2以上すること（授業開始後20分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件を一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

【Outline and objectives】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and head English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 7

高 美智

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
 曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。（レベル：初級～中級向け）

【到達目標】

- － 総合的な英語力の向上。
- － 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- － 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- － 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業においては、内容の精読に加え、大意を把握する速読を組み合わせます。音読の練習やニュースの視聴によってリスニング力の向上をはかるとともに、グループディスカッションやプロジェクトを通して、自分の考えを英語で表現する力を身につけます。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第2回	著名人のスピーチ 1	著名人のスピーチを視聴後、ボキャブラリー確認
第3回	著名人のスピーチ 2	著名人のスピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第4回	Japanese society and culture 1	英文記事の音読・読解 小テスト
第5回	Japanese society and culture 2	英文記事の音読・読解 小テスト
第6回	Japanese society and politics 1	英文記事の音読・読解 小テスト
第7回	Japanese society and politics 2	英文記事の音読・読解 小テスト
第8回	Group project 1	グループ・ディスカッション
第9回	Group project 2	プレゼンテーションの準備
第10回	Group project 3	グループ・プレゼンテーション
第11回	Film viewing, listening and speaking practice	映画鑑賞とリスニング練習
第12回	Global issues 1	英文記事の読解 小テスト
第13回	Global issues 2	英文記事の読解 小テスト
第14回	期末テスト・まとめ	期末テスト・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを授業内に配布します。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、課題・プレゼンテーション (20%)、期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

欠席が3回を超えた場合は期末試験の受験を認めません。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to develop English-speaking skills through a group project that involves discussions and presentations in English.

LANe100EA

Basic English 2 - II 8

高 美 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。(レベル：初級～中級向け)

【到達目標】

- － 総合的な英語力の向上。
- － 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- － 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- － 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業においては、内容の精読に加え、大意を把握する速読を組み合わせます。音読の練習やニュースの視聴によってリスニング力の向上をはかるとともに、グループディスカッションやプロジェクトを通して、自分の考えを英語で表現する力を身につけます。

【注】 授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第 2 回	著名人のスピーチ 1	著名人のスピーチを視聴後、ボキャブラリー確認
第 3 回	著名人のスピーチ 2	著名人のスピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第 4 回	Japanese society and culture 1	英文記事の音読・読解 小テスト
第 5 回	Japanese society and culture 2	英文記事の音読・読解 小テスト
第 6 回	Japanese society and politics 1	英文記事の音読・読解 小テスト
第 7 回	Japanese society and politics 2	英文記事の音読・読解 小テスト
第 8 回	Group project 1	グループ・ディスカッション
第 9 回	Group project 2	プレゼンテーションの準備
第 10 回	Group project 3	グループ・プレゼンテーション
第 11 回	Film viewing, listening and speaking practice	映画鑑賞とリスニング練習
第 12 回	Global issues 1	英文記事の読解 小テスト
第 13 回	Global issues 2	英文記事の読解 小テスト
第 14 回	期末テスト・まとめ	期末テスト・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを授業内に配布します。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), 小テスト (20%), 課題・プレゼンテーション (20%), 期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

欠席が 3 回を超えた場合は期末試験の受験を認めません。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to develop English-speaking skills through a group project that involves discussions and presentations in English.

LANe100EA

Basic English 2 - II 9

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The introduction of Racial Discrimination as a Cultural and Socio-Political issues via the medium of Rock&Roll.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Selected Reading Exercises. Vocabulary and Idiomatic Expression Drills. Study of Cultural Differences/ Similarities. Discussions of Racial Discrimination. Q/A sessions encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Orientation and Introduction of class materials.
2	Exercise I	Analysis of Civil Rights Struggle in the USA via world of American Rock&Roll.
3	Exercise II	Introduction of Racial Problems in the USA Listening and Reading Exercises. Vocabulary Drills.
4	Exercise III	Selected Readings:
5	Exercise IV	Film Presentation.
6	Exercise V	Film Presentation.
7	Exercise VI	Explanation of Film.Cultural/Historical Explanation. Vocabulary Drills.
8	Exercise VII	Discussion of Film .Q/A Session - Cultural & Historical Content of Video.
9	Exercise VIII	Introduction of Afro-American Struggle in a WASP Oriented Society.
10	Exercise IV	Film Presentation.
11	Exercise X	Film Presentation Discussion of Peace-Making Solutions.
12	Exercise XI	Discussion of Film Content. Final Analysis of Civil Rights Struggle, Anti- Discrimination Issues,Slavery.
13	Exercise XII	Student Presentations on Racial Discrimination.
14	Exercise XIII	Student Presentations on Racial Discrimination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Selected Readings

【参考書】

Film Presentations, Social Documentaries, Articles and Essays on Peace-Making Policies and Racial Equality Measures.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation 25%,Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an " English speaking only" classroom environment.

【学生が準備すべき機器他】

DVD Player,CD Player

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of Cultural and Historical background of American Rock&Roll.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials.

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to the development of Rock&Roll in America

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - II 10

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The introduction of Racial Discrimination as a Cultural and Socio-Political issues via the medium of American Rock&Roll.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Selected Reading Exercises. Vocabulary and Idiomatic Expression Drills. Study of Cultural Differences/ Similarities. Discussions of Racial Discrimination. Q/A sessions encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Orientation and Introduction of class materials.
2	Exercise I	Analysis of Civil Rights Struggle in the USA via world of Rock&Roll.
3	Exercise II	Introduction of Racial Problems in the USA Listening and Reading Exercises. Vocabulary Drills.
4	Exercise III	Selected Readings:
5	Exercise IV	Film Presentation.
6	Exercise V	Film Presentation.
7	Exercise VI	Explanation of Film.Cultural/Historical
8	Exercise VII	Explanation. Vocabulary Drills. Discussion of Film .Q/A Session - Cultural & Historical Content of Video.
9	Exercise VIII	Introduction of Afro-American Struggle in a WASP Oriented Society.
10	Exercise VIV	Film Presentation.
11	Exercise X	Film Presentation Discussion of Peace-Making Solutions.
12	Exercise XI	Discussion of Film Content. Final Analysis of Civil Rights Struggle, Anti- Discrimination Issues,Slavery.
13	Exercise XII	Student Presentations on Racial Discrimination.
14	Exercise XIII	Student Presentations on Racial Discrimination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Selected Readings

【参考書】

Film Presentations, Social Documentaries, Articles and Essays on Peace-Making Policies and Racial Equality Measures.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation 25%,Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an " English speaking only" classroom environment.

【学生が準備すべき機器他】

DVD Player,CD Player

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of Cultural and Historical background of American Rock&Roll.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials.

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to the development of Rock&Roll in America

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：授業のオンライン化のためシラバス内容を随時変更します！

再履修向け授業。英語力が比較的低い学生を主な対象とし、基礎的な英語力の習得に重点を置く。

学生は主に読解・リスニング・音読・パラグラフ作文の練習を行う。

【到達目標】

- ・英語に慣れる。
- ・英文読解のスピード・正確さを向上させる。
- ・リスニング力を向上させる。
- ・英文を自信をもってスムーズに音読できるようになる。
- ・簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*本授業の開始日は 4/27（月）です。

・主に「学習支援システム」を使用し教材・課題を指示・配布する。それを元に学生は各自で学習を行う。

・可能な場合は教室での対面授業に移行する。

・成績評価は、主に Quiz（小テスト）、文書・音声（動画）ファイル等の提出物などで行う。

*詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明
第 2 回	Chapter 1 (1)	読解・リスニング パラグラフについて
第 3 回	Chapter 1 (2)	作文（要約など）
第 4 回	Chapter 2 (1)	読解・リスニング
第 5 回	Chapter 2 (2)	作文（要約など）
第 6 回	Chapter 3 (1)	読解・リスニング
第 7 回	Chapter 3 (2)	作文（要約など）
第 8 回	Chapter 4 (1)	読解・リスニング
第 9 回	Chapter 4 (2)	作文（要約など）
第 10 回	Chapter 5 (1)	読解・リスニング
第 11 回	学期末課題 (1)	音読テスト
第 12 回	学期末課題 (2)	学期末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、課題の作成など
- ・リスニング／音読の反復練習
- ・Web 上の教材を利用した自習
- ・1 回につき 1 ～ 2 時間程度かかる見込み

【テキスト（教科書）】

①教材は「学習支援システム」上で随時指示、配布する。

②英語辞書（学習向けのものが望ましい）

【参考書】

・文法参考書：基礎的な文法事項については、高校時代に使った文法書を復習するなどして自習すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回の Quiz、課題など）60%
- ・音読テスト 20%
- ・学期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズに応じてより柔軟な指導を行いたい。学生の要望があれば、追加教材の提案や授業時間外の個別指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を主に利用した授業で Web 上の教材も利用するため、インターネットを利用できる環境が必要。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to their reading and listening comprehension skills, paragraph writing and pronunciation.

LANe100EA

Basic English 2 - II 6

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や最新技術に関する様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	Reading Anywhere 電子書籍	記事を講読します。
第3回	Controlling Everything モノのインターネット	記事を講読します。
第4回	Easy Payments 電子商取引の世界	記事を講読します。
第5回	Let's All Pay クラウドファンディング	記事を講読します。
第6回	Where Do You Want to Fly Today? 空飛ぶクルマ	記事を講読します。
第7回	Flying Tonight これからの月面開発	記事を講読します。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	Off to the Asteroids ハヤブサの偉業	記事を講読します。
第10回	Going Beyond 宇宙開発競争	記事を講読します。
第11回	The Red Planet 火星の魅力	記事を講読します。
第12回	Casting a Shadow ブラックホールの神秘	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

- ・ Science Quest 未来科学への誘い、安浪 誠祐 / Richard S. Lavin 著、成美堂。(¥ 1,900 円+税)
- ・ STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC®テストリスニング演習、塚田幸光著、金星堂。(¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。
欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 4

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に各 Unit の英文の精読を精読し、"Before You Read", "Reading Comprehension", "Reading Skill", "Vocabulary Practice"をすべて解きます。Unit の文法内容によっては理解を深めるためにプリントによる演習を行うこともあります。各 Unit 終了時、あるいは各授業ごとに毎回小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter10	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter10-11	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
4	Chapter11	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter11-12	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter12	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter12-13	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter13	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter13-14	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
10	Chapter15	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
11	Chapter16	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
12	Chapter17	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
13	Chapter18	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter10-18	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている各 Unit の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %), 小テスト (30 %) の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 15

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に各 Unit の英文の精読を精読し、"Before You Read", "Reading Comprehension", "Reading Skill", "Vocabulary Practice"をすべて解きます。Unit の文法内容によっては理解を深めるためにプリントによる演習を行うこともあります。各 Unit 終了時、あるいは各授業ごとに毎回小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter10	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter10-11	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
4	Chapter11	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter11-12	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter12	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter12-13	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter13	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter13-14	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
10	Chapter15	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter16	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
12	Chapter17	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
13	Chapter18	小テスト。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter10-18	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている各 Unit の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %)、小テスト (30 %) の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果からは毎回の小テストに対してよい評価が得られたので、今年も実施します。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 17

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<概要>授業のはじめ 30 分は英文書き換えのワークブック形式のテキストを使い、残りの時間はリーディングのテキストを使って学習する。
<目的>さまざまなタイプの書き換えを習得するとともに、長文の読解およびリスニングや英作文のスキルを身につける。

【到達目標】

さまざまな文法項目ごとの書き換えテクニック覚え、応用できるようになる。長文を読んで意味を解釈するとともに、関連した内容のリスニングおよび英作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文書き換えの学習は、宿題の答えあわせという方式でおこなう。リーディングのテキストは予習の発表と解説により進める。適宜小テストを行い、最後に期末テストをおこなう。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進行とテキストの説明
第 2 回	ドリル Lesson11/テキスト Chapter6 前半	重文の書き換え (2)/長文リーディング
第 3 回	ドリル Lesson12/テキスト Chapter6 後半	重文の書き換え (3)/英作文・リスニング
第 4 回	ドリル Lesson13/テキスト Chapter7 前半	態の書き換え/長文リーディング
第 5 回	ドリル Lesson14/テキスト Chapter7 後半	肯定・否定の書き換え/英作文・リスニング
第 6 回	ドリル Lesson15/テキスト Chapter8 前半	話法の書き換え/長文リーディング
第 7 回	ドリル Lesson16/テキスト Chapter8 後半	主語の書き換え (1)/英作文・リスニング
第 8 回	ドリル Lesson17/テキスト Chapter9 前半	主語の書き換え (2)/長文リーディング
第 9 回	ドリル Lesson18/テキスト Chapter9 後半	主語の書き換え (3)/英作文・リスニング
第 10 回	ドリル Lesson19/テキスト Chapter10 前半	主語の書き換え (4)/長文リーディング
第 11 回	ドリル Lesson20/テキスト Chapter10 後半	主語の書き換え (5)/英作文・リスニング
第 12 回	全体の復習	秋学期の復習・疑問点の解決
第 13 回	期末テスト	秋学期で学んだ内容についてのテスト
第 14 回	期末テスト	再試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークブックは毎回宿題として事前にすませる。リーディングテキストも予習必須。単語や解釈、英作文など、教員の指示に従って準備する。あわせて 90 分以上の自宅学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

『5 分間英文書き換えトレーニング』南雲堂・700 円
『Step Up to Better English』朝日出版社・1700 円

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口であるとの指摘を受けたので、注意したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の通知等のため授業支援システムを使用することがある。

【その他の重要事項】

Basic English 1 の再履修で西田の授業を履修する学生が、同時にこの授業も履修することは好ましくない。授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Two textbooks are to be used for the class. One of them is an paraphrasing drill book. The other is a reading textbook that also has listening and composition exercises.

LANe100EA

Basic English 2 - II 18

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<概要>授業のはじめ 30 分は英文書き換えのワークブック形式のテキストを使い、残りの時間はリーディングのテキストを使って学習する。
<目的>さまざまなタイプの書き換えを習得するとともに、長文の読解およびリスニングや英作文のスキルを身につける。

【到達目標】

さまざまな文法項目ごとの書き換えテクニック覚え、応用できるようになる。長文を読んで意味を解釈するとともに、関連した内容のリスニングおよび英作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文書き換えの学習は、宿題の答えあわせという方式でおこなう。リーディングのテキストは予習の発表と解説により進める。適宜小テストを行い、最後に期末テストをおこなう。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進行とテキストの説明
第 2 回	ドリル Lesson11/テキスト Chapter6 前半	重文の書き換え (2)/長文リーディング
第 3 回	ドリル Lesson12/テキスト Chapter6 後半	重文の書き換え (3)/英作文・リスニング
第 4 回	ドリル Lesson13/テキスト Chapter7 前半	態の書き換え/長文リーディング
第 5 回	ドリル Lesson14/テキスト Chapter7 後半	肯定・否定の書き換え/英作文・リスニング
第 6 回	ドリル Lesson15/テキスト Chapter8 前半	話法の書き換え/長文リーディング
第 7 回	ドリル Lesson16/テキスト Chapter8 後半	主語の書き換え (1)/英作文・リスニング
第 8 回	ドリル Lesson17/テキスト Chapter9 前半	主語の書き換え (2)/長文リーディング
第 9 回	ドリル Lesson18/テキスト Chapter9 後半	主語の書き換え (3)/英作文・リスニング
第 10 回	ドリル Lesson19/テキスト Chapter10 前半	主語の書き換え (4)/長文リーディング
第 11 回	ドリル Lesson20/テキスト Chapter10 後半	主語の書き換え (5)/英作文・リスニング
第 12 回	全体の復習	秋学期の復習・疑問点の解決
第 13 回	期末テスト	秋学期で学んだ内容についてのテスト
第 14 回	期末テスト	再試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークブックは毎回宿題として事前にすませる。リーディングテキストも予習必須。単語や解釈、英作文など、教員の指示に従って準備する。あわせて 90 分以上の自宅学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

『5 分間英文書き換えトレーニング』南雲堂・700 円
『Step Up to Better English』朝日出版社・1700 円

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口であるとの指摘を受けたので、注意したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の通知等のため授業支援システムを使用することがある。

【その他の重要事項】

Basic English 1 の再履修で西田の授業を履修する学生が、同時にこの授業も履修することは好ましくない。授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Two textbooks are to be used for the class. One of them is an paraphrasing drill book. The other is a reading textbook that also has listening and composition exercises.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 2

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アカデミー賞の歴史」をテーマとし、様々な英語表現を学ぶ。アカデミー賞に関する研究書や論評（英文の難易度は英検 2 級から準 1 級程度）を読み、過去の受賞作またはノミネート作品について調べてレポートにまとめる。授賞式での俳優や監督のスピーチもテキストとし、recitation contest 形式のプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

1. アカデミー賞に関する英文（難易度は英検 2 級から準 1 級程度）の精読を通して、英語の語彙を増やし、英文の理解度を高める。
2. アカデミー賞受賞作やノミネート作品に関して調べ、関連資料の英文を多読してまとめることによって、英文に慣れる。
3. アカデミー賞授賞式でのスピーチを模倣して発表することによって、英語の表現力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 演習形式および講義形式で英文（難易度は英検 2 級から準 1 級程度）の精読を行う。
2. 授賞式の映像を見ながら、受賞者の発表内容、表現を学ぶ。
3. 授業内での発表としては、レポート内容の発表や受賞スピーチの朗読を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テスト、レポート、発表について解説
第 2 回	アカデミー賞入門	アカデミー賞の内容、歴史について学ぶ。
第 3 回	アカデミー賞授賞式 (1)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (1)
第 4 回	アカデミー賞授賞式 (2)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (2)
第 5 回	アカデミー賞授賞式 (3)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (3)
第 6 回	アカデミー賞授賞式 (4)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (4)
第 7 回	筆記テスト (小テスト)	配布した資料から出題。
第 8 回	アカデミー賞授賞式 (5)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (5)
第 9 回	アカデミー賞授賞式 (6)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (6)
第 10 回	アカデミー賞授賞式 (7)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (7)
第 11 回	アカデミー賞授賞式 (8)	受賞スピーチ、関連資料から学ぶ英語表現 (8)
第 12 回	Recitation Contest 予選	受賞スピーチを朗読する。
第 13 回	Recitation Contest	受賞スピーチを暗記して発表する。
第 14 回	まとめ	提出したレポート内容について発表 (他の回でも随時発表はあり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献の予習・復習、授業内で示される課題への対応をする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

1. Internet Movie Database (<https://www.imdb.com/oscars/>)
2. Official site of Academy of Motion Picture Arts and Sciences(<https://www.oscars.org/>)

【成績評価の方法と基準】

1. 小テスト (筆記テスト) 25 %
 2. レポート課題および発表 50 %
 3. 発表 (受賞スピーチ) 25 %
- * 他に出席状況や授業の参加度が成績評価に影響する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

前期の授業結果や学生の意見等を参考にし、授業の進め方を修正していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

以下の項目に関して、問題がないことを受講の条件とする。

1. 英文の難易度は英検 2 級から準 1 級、時には 1 級なので、見合った英語力があるか、目標として取り組むこと。
 2. 映画を数多く鑑賞し、多数の関連サイト、資料を調べられること。
 3. 授業中の居眠、他の授業の準備、読書等は欠席扱いとなるので、集中して授業に参加できること (特にスマートフォンは厳禁、受講不可)。
 4. 遅刻が欠席扱いで、欠席が 5 回以上は不可なので、課外活動の大会参加等で欠席予定がなく、テストの日程に支障がなく出席できること。
- * オフィスアワーは月曜日のみ (1 限から 4 限までの授業の前後)。

【Outline and objectives】

1. The aim of this course is to develop vocabulary, reading comprehension and public speaking skills by learning the history of the Academy Awards from the 1st ones (1927-28) to the latest (1919).
2. There have been a number of movies which were nominated for and won the Oscars. Books and articles about the movies will be used for enhancing reading comprehension.
3. The acceptance speeches which have always been a significant aspect of the Oscar history will also be used as one of the texts in order to improve public speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - II 19

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では演劇・映画をテーマとし、シナリオを聞き（listening）、朗読し（reading aloud）、俳優になったつもりで演技の発表（speaking）をする。さらに授業外でも、指定する作品のリストから数多くの映画・演劇・DVDを各自、鑑賞し、レポートを書いて（writing）提出する。映画の場面や関連資料をプリントし、授業で取り上げるが、テキストとする作品については、受講者の人数や男女比、新作映画のDVDの発売等を確認してから授業で発表する。

【到達目標】

テキスト、関連資料を的確に英語を声に出して読み（reading aloud）、感情表現も伴う英語の表現力を高め、英語の感性を磨くことを目標とする。演技は泣く、怒る、笑うなど、様々な感情表現を必要とするリアルで本格的な演技を目指すもので、単なる英会話の暗記発表とは異なるので注意。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【受講の条件】1. 英語のセリフを通じて、笑ったり、泣いたり演技を楽しみたいという人が受講に最適。昨年度の1年生の授業と異なり、受講者全員、演技が評価の中心になるため、レポートとテストのみの成績評価は行わない。2. 演劇と映画のレポートのための時間と費用が準備できること。（計¥3000以上）3. 授業中の居眠、他の授業の準備、携帯、読書等は欠席扱い、または単位取得不可に通じるので、集中して授業に参加できること。4. 遅刻も欠席扱いの他、欠席が5回以上の受講者に単位の保証はない。部活動の大会参加、公演、私用等で欠席予定のある人は受講不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明。
第2回	観劇レポート、映画レポートの説明	レポート対象の演劇、映画を紹介。
第3回	映画(1)	映画シナリオのリーディング、演技。
第4回	映画(2)	映画シナリオのリーディング、演技。
第5回	映画(3)	映画シナリオのリーディング、演技。
第6回	映画(4)	映画シナリオのリーディング、演技。
第7回	映画(5)	映画シナリオのリーディング、演技。
第8回	筆記テスト	映画のシナリオからのテスト。
第9回	キャストイング	最終的な演技の発表に向けての配役の決定。
第10回	リーディング・テスト	声に出してテキストを読み、表現するテスト。
第11回	リハーサル・テスト	身体の動き、表情等を伴ったテスト。
第12回	演技発表(1)	本番直前の練習または発表。
第13回	演技発表(2)	本番。
第14回	再試験またはレポート提出等。	成績によって各々に指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

セリフの暗記や、演技のペアの相手やグループのメンバーとの授業外での練習の時間も必要になる。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、テキスト代は必要ないが、劇場・映画館・DVDでの鑑賞のための費用と時間が必要である。

【参考書】

必要に応じて授業内にて指示。

【成績評価の方法と基準】

- 筆記試験：25%
- 平常点、発表の結果：75%

*発表の準備作業として、観劇レポート（配布するリストの公演より各自選び予約。）

と映画レポートの提出も必要となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が例年多く、少人数の理想的な授業展開にしにくいですが、できるだけ工夫して進めたい。

【Outline and objectives】

A good tip for learning English is reading aloud. When you read aloud, you listen to yourself, and notice you have a lot to learn, i.e. vocabulary, accurate pronunciation, natural vocal tone to convey what is written on the page.

Meanwhile, I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You'll start with practices covering a diverse genres of films, for instance, you could be playing the role of The Devil Wears Prada one week and La La Land the next.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

If you think you don't have anything left to learn lines by heart, you're wrong. Pick out details, i.e. tone of voice, gesture, facial expression and manner of walking. Final presentation will require you to play with emotion by laughing, getting angry and weeping. Don't be afraid to look stupid. You could be Ryan Gosling or Emma Stone in this class.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 4

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画『エリン・ブロコビッチ』を題材とした教科書を用いて、読解力とリスニング力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 臨場感のある英文や会話を聞いて、内容を理解することができる。
- (3) 英文読解・リスニングにおいて、意味を推察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。適宜、新聞記事等の追加の課題を課す。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、教科書の難易度は中程度である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、注意事項などについて解説する。
2	Unit 8 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
3	Unit 9 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
4	新聞購読 1	英字新聞を読み内容を要約する。
5	Unit 10 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6	Unit 11 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
7	新聞購読 2	英字新聞を読み内容を要約する。
8	Unit 12 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
9	Unit 13 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
10	新聞購読 3	英字新聞を読み内容を要約する。
11	Unit 14 Extra Reading ①	長文読解と文法問題を実施する。
12	英文講読①	アメリカ合衆国の元奴隷へのインタビューを読む
13	英文講読②	アメリカ合衆国の元奴隷へのインタビューを読む
14	期末考査	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には、一文ごとに指名した学生に和訳を行ってもらいながら授業を進行する。従って、全員がどこの箇所を指名されても困らないように精読して授業に出席すること。英文講読の回には、新聞記事を読み、内容を要約する課題を課す。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

井村誠ほか編『映画「エリン・ブロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂、2015年）。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

課題（英文の内容要約）30%、筆記試験 70%の総合点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

教科書の難易度を確認した上で履修すること。金星堂のHPに見本あり。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill and listening skill through the movie "Erin Brockovich".

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 3

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画『エリン・ブロコビッチ』を題材とした教科書を用いて、読解力とリスニング力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 臨場感のある英文や会話を聞いて、内容を理解することができる。
- (3) 英文読解・リスニングにおいて、意味を推察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。適宜、新聞記事等の追加の課題を課す。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、教科書の難易度は中程度である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、注意事項などについて解説する。
2	Unit 8 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
3	Unit 9 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
4	新聞購読 1	英字新聞を読み内容を要約する。
5	Unit 10 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
6	Unit 11 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
7	新聞購読 2	英字新聞を読み内容を要約する。
8	Unit 12 Reading	長文読解と文法問題を実施する。
9	Unit 13 Audio Visual Learning	英語での映像と音声を通じて内容を理解する。
10	新聞購読 3	英字新聞を読み内容を要約する。
11	Unit 14 Extra Reading ①	長文読解と文法問題を実施する。
12	英文講読①	アメリカ合衆国の元奴隷へのインタビューを読む
13	英文講読②	アメリカ合衆国の元奴隷へのインタビューを読む
14	期末考査	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には、一文ごとに指名した学生に和訳を行ってもらいながら授業を進行する。従って、全員がどこの箇所を指名されても困らないように精読して授業に出席すること。英文講読の回には、新聞記事を読み、内容を要約する課題を課す。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

井村誠ほか編『映画「エリン・ブロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂、2015年）。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

課題（英文の内容要約）30%、筆記試験 70%の総合点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習者のレベルに配慮した授業を心掛ける。

【その他の重要事項】

教科書の難易度を確認した上で履修すること。金星堂のHPに見本あり。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill and listening skill through the movie "Erin Brockovich".

Basic English 2 - II 20

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 2-I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5.1	What makes a good advert
2	Unit 5.2	Manipulating images
3	Unit 6.1	Education issues
4	Unit 6.2	Montessori
5	Unit 7.1	Design is everywhere
6	Unit 7.2	Design through the ages
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8.1	In business
9	Unit 8.2	Business Dilemmas
10	Unit 10.1	Tipping points
11	Unit 10.2	Trends in fashion
12	Unit 11.2	Media recluses in the arts
13	Unit 11.3	The life of a foreign correspondent
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：New Language Leader (Intermediate)
著者：David Cotton, David Falvey, Simon Kent
出版社：Pearson
出版年：2013
価格：2,646 円

【参考書】

<https://www.english.com/languagelead>
<http://www.bbc.co.uk/radio>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%
期末試験 40%
平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%
学期中の欠席は 3 回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は 30 分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2 回の遅刻を 1 回分の欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったため、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 1

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 2-I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9a	A life revealed
2	Unit 9b	And finally ...
3	Unit 9c	From hero to zero
4	Workbook 9a	Photojournalism
5	Workbook 9c	Fairness in reporting
6	Unit 10a	An ordinary man
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 10b	The real-life Batman?
9	Workbook 10b	An inspirational scientist
10	Workbook 10c	Harriet Tubman
11	Unit 11a	Innovation in learning
12	Unit 11b	Memory
13	Unit 12b	Get someone else to do it
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。

この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5B Combo Split

著者：Paul Dummett

出版社：National Geographic Learning

出版年：2019

価格：2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-5/level-5-students-book-video>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-5/level-5-audio-students-book>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-5/level-5-workbook-audio>

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問等）20%

学期中の欠席は 3 回までとし、それ以上欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は 30 分以内とし、それ以上遅れた場合は欠席扱いとします。2 回の遅刻を 1 回分の欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったので、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - II 22

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。様々な分野の英文記事に触れることにより、読解力と情報をより多角的に捉える力がさらに向上します。

【到達目標】

時事英語の読み方に慣れることと、馴染みのある言葉に対して新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・時事英語の精読が中心となるため、英文の和訳を行います。その後、数人でお互いの音読を聞きあいます。また、見出しの読み方の練習ワークブックも使用します。

・毎回の授業で小テストがあります。

・授業展開によっては、進度、内容に若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方の説明
2	Introduction to Chapter 7	第七章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読
3	第七章（文化・社会）	第七章の精読と練習問題、小テスト
4	Introduction to Chapter 8	第八章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読、小テスト
5	第八章（犯罪・事件）	第八章の精読と練習問題、小テスト
6	Introduction to Chapter 9	第九章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読、小テスト
7	第九章（裁判・法令）	第九章の精読と練習問題、小テスト
8	Introduction to Chapter 10	第十章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読、小テスト
9	第十章（地球環境）	第十章の精読と練習問題、小テスト
10	Introduction to Chapter 11	第十一章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読、小テスト
11	第十一章（気象・災害）	第十一章の精読と練習問題、小テスト
12	Introduction to Chapter 12	第十二章の語彙や見出しの確認、及び記事の精読、小テスト
13	第十二章（人口・労働問題）	第十二章の精読と練習問題、小テスト
14	期末試験	第七章から進んだ所までの理解を確認する期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

記事を読み、意味を発表できるように準備しましょう。また、授業で意味を確認した文を音読することにより、再び英語に戻し、英語を身につけましょう。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】

・English for Mass Communication・2020 Edition（堀江洋文、他 編著・朝日出版社・2020 年）1600 円＋税

・Newspaper English [Revised Edition]（大澤岳彦 著・南雲堂・2018 年）700 円＋税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110（京都大学英語学術語彙研究グループ＋研究社 著・研究社・2009 年）1400 円＋税

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）＋小テスト（20%）＋定期試験の得点（40%）（平常点は、予習を含む授業の参加度合や提出課題に対する評価です。授業の到達目標に到達したかどうかについては、定期試験の中で確認します。）

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明を黒板を使用しつつゆっくり行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

編集出版論

熊谷 伸一郎

サブタイトル：特講（編集出版論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本／雑誌が編まれて読者のもとに届くまでの実際を学ぶことを通じて、出版・読書と編集についての基礎的知識を得る。また、言論・表現の自由をはじめとする、出版という営みの基盤や社会的役割について理解する。

【到達目標】

本／雑誌が作られる過程を具体的に理解し、本／雑誌をより深く読む技量を習得する。企画立案や著作権など編集についての技量の基礎を学ぶ。また、知的インフラとしての出版の社会的役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講師は現役の雑誌編集者なので、実際に雑誌が編まれていく過程を同時進行的に把握できるよう工夫する。時事的話題を取り上げつつ、企画立案の演習を行なう。受講者の関心・疑問をリアクションペーパー等で把握しながら、講義形式で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本／雑誌を読む・編む	概要説明と自己紹介、アンケート
2	編集者の仕事（1）	吉野源三郎『職業としての編集者』① 表現の自由
3	編集者の仕事（2）	吉野『職業としての編集者』② 出版の社会的役割
4	編集者の仕事（3）	吉野『職業としての編集者』③ 原稿が活字として世に出るまで
5	出版社の仕事（1）	日本の出版の現況、市場環境と出版の未来
6	出版社の仕事（2）	出版社のさまざまな仕事と機能
7	編集者の仕事（4）	企画立案① 企画成立の三条件
8	本を読む技術（1）	本の読み方① 精読と多読
9	本を読む技術（2）	本の読み方② 読書ノート・読書会・書店
10	編集者の仕事（5）	校閲・校正、差別的表現
11	言論・表現の自由	企画立案② 演習
12	編集者の仕事（6）	企画立案③ 演習
13	編集者の仕事（7）	企画立案④ まとめ
14	試験（予定）	試験（予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で次回講義の参考文献を示した際には、該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておくことが望ましい。また、出版界をめぐる新聞・テレビなどの報道に注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉野源三郎『職業としての編集者』岩波新書、1989 年、842 円

【参考書】

鷺尾賢也『新版 編集とはどのような仕事なのか』（トランスビュー、2014 年、本体：2000 円）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 % の比率で成績評価を行います。平常点は、出席のほか、リアクションペーパー等での参加の積極性（質問や意見等）を参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで寄せられる質問などには引き続き丁寧に対応していく。出版社やメディア関連企業への就職を希望する学生の学習に資するとともに、読書の方法等について深めることでそれ以外の学生にも得るところの多い授業にしたい。

【その他の重要事項】

・現在、出版社に勤務し、総合月刊誌の編集長をつとめている教員が、実際に月刊誌や書籍をつくっている過程を紹介しながら、編集や出版の基礎から応用までを講義する。

・質問は授業後および電子メールにて受け付けます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the publishing and editing.

LAW200EA

法と社会

白田 秀彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における法の機能について概観したあと、歴史をたどりながら、社会の状況と法がどのようにかわりあい、現在のよな法の姿となったのかを解説する。また、受講生にとって身近であり、社会変動の影響を強く受けた、家族制度を例として具体例を提示する。

【到達目標】

現代社会における法の実際の機能について考察して、多面的な理解を得ることを目的とする。また、常識を疑う問題意識を獲得してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広い意味での法の発展史をまとめたプレゼンテーションを使いながら、その当時の事例や学説を紹介し、それが現在の法のあり方をどのように導いたのかを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法の現実的機能	社会において現実に法が果たしている機能について。
2	法の歴史的遷移 その1 日本法の基盤	現在の法制度が形成されるまでの歴史を法制史・社会史から解説する。明治期に現行法が導入された経緯や思考様式について。
3	その2 支配権力なき紛争解決	法が前提としている「権力」が制度的に存在していない状態での紛争解決法について。
4	その3 古代ローマ法	西洋法の基礎を形成している古代ローマ法について。
5	その4 古代ローマの法学	古代ローマ共和政期に成立した法学の状況について。また、現代まで続く普遍的な思考法について。
6	その5 中世初期の部族法	古代ローマを継いだゲルマン諸部族において行われた紛争解決法や法について。
7	その6 ローマ法の再発見	ルネサンス期に再発見されたローマ法の遺産が、現代の法の基盤として再構成される様子について。
8	その7 教会の法と世俗の法	1 市民生活に強い影響力を及ぼしていた教会法について。また、世俗の法との違いを法理や管轄の面から。
9	その8 絶対王政下の法と法律	絶対王政下の法の様子を解説。また、この時期生じた「法」概念の変化について。
10	その9 自然法という切り札	絶対王政の問題点を克服するために、法の歴史に通底してきた基本的思想が理論化・制度化されていく様子について。
11	その10 大法典時代と法	現在一般的な「法典」が形成されていく過程について。また、法典形成を支えた法学・法理論について。
12	家族と結婚の制度 1	家族制度を素材として、現行法が依拠している社会状況について解説する。
13	家族と結婚の制度 2	現在の家族制度が形成されてきた歴史的背景について、主として西洋法制史・文化史から解説する。
14	家族と結婚の制度 3	現在の家族制度が形成されてきた歴史的背景について、主として日本法制史・文化史から解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

参考書は適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその素点を合算する。最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき60点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力する。

【Outline and objectives】

Firstly, we will overview functions of law in the modern society. Then students will be given an explanation of how social circumstances and laws have interacted each other ending up with a form of law which we see these days, while tracing back history.

LAW100EA

法律学

清水 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①市民として知識を備えておくべき基本的な法である刑法、民法、労働法の、趣旨と基本内容を学ぶ。②刑法、民法、労働法の現実社会での適用の仕組みを学ぶ。

【到達目標】

①刑法の基礎知識の修得を通じて、公正かつ適切に判断する基本知識を得る。②民法の基礎知識の修得を通じて、権利と義務の関係、自由と責任についての法的にとらえる力を得る。③労働法の基礎知識の修得を通じて、少子高齢問題や社会保障財源不足問題を抱える現代の社会の中で働く際の法的根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナの収束状況によりますが、秋学期は学事暦通りの予定です。講義形式。クリッカーを使用する予定であるが、受講生の私的行動に繋がる場合は中止する。理解の確認をリアクションペーパーにより行う。授業進度や展開により受講生に告知のうえで、若干の内容変更がありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義概要の説明。刑法の役割	全体の流れと学び方。罪とは刑罰とは何か。
第2回	刑法の基本原則	罪刑法定主義
第3回	刑法の適用①	犯罪の構成要件
第4回	刑法の適用②	違法性阻却事由、責任阻却事由、故意
第5回	民法の役割と3原則	過失責任主義と私的自治の原則と所有権絶対の原則
第6回	民法の3原則の例外①	PL法、時効
第7回	民法の3原則の例外②	制限行為能力者
第8回	家族関係と法	婚姻、夫婦、扶養
第9回	財産関係と法①	契約の成立と意思表示
第10回	労働法①	労働法の意義と労働条件の決定
第11回	労働法②	労働契約の成立まで
第12回	労働法③	労働時間
第13回	労働法④	賃金、休憩、休日
第14回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習> 翌週範囲や参考資料を前週に示すので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習2時間。
<復習> 制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。小テストを解く。2時間。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

末川博、伊藤正巳、碧海純一先生等の「法学」の入門書を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

数回のWEB小テスト30%。小テストにおける理解を再構築した定期試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい言葉で、ゆっくり伝えるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

クリッカーを使用するので、インターネット機能を用意できる人は持参（必須ではない）。

【その他の重要事項】

成績評価は、テストのみ。進度が早いので自分で予習復習することが苦にならない人の受講を希望する。

【Outline and objectives】

① You learn the basic knowledge of criminal law, civil law, labour law, of basic law which should have knowledge as citizen. ② You learn the mechanism of practical application of criminal law, civil law, labor law.

LAW100EA

法律学（日本国憲法）

清水 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①日本国憲法は誰に対し何を定め、どのように国家をコントロールしているのかという基本知識を包括的に学ぶ。②基本的人権の保障と民主主義という観点から、統計などの諸資料を通じ、社会事情の変化や社会通念の変化を学ぶ。そしてそれらが最高裁判例にどのように映り込んできたかを学ぶ。

【到達目標】

①各テーマごとに、憲法の基本的な法的性質をひとに説明することができる。②各テーマごとに、憲法の現代における課題をひとに説明することができる。③広い視野から現代の社会について主体的に考察するための、少しでも高いレベルの基礎知識を得ている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4月21日開始。オンライン形式。①教材を学習支援システムにアップします。当面はパワーポイント資料を基にしたPDFやワード資料をアップします。②携帯容量についての学生負担が減る対策が取られた後からは、必要性に応じて、PDFやワード資料と同じ内容にはほぼ同じ音声を入れたものを、同時に併せて掲載する予定です。③可能な限りクリッカーを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義概要の説明。憲法とはなにか。	憲法の特徴。
第2回	憲法の構造	権力分立と法の支配について。
第3回	国会・内閣・裁判所	三権と裁判所の権能。
第4回	国民主権と象徴天皇制	主権と国民主権。天皇
第5回	基本的人権の及ぶ範囲	人権と外国人（マクリーン事件）
第6回	基本的人権の適用関係	憲法の私人間適用（三菱樹脂事件等）
第7回	平等とは何か	絶対的平等と相対的平等。実質的平等と形式的平等。
第8回	日本国憲法と平等	（夫差別姓事件）（生後認知子国籍法事件）
第9回	13条と新しい人権	13条と幸福追求権
第10回	13条と新しい人権	13条と人格権
第11回	表現の自由	今日的意義。事前抑制と検閲の禁止。
第12回	表現の自由	名誉棄損、プライバシー侵害。（「宴のあと」事件）
第13回	平和主義	9条の歴史的背景と意味。平和主義と国際協調主義。
第14回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習> 2時間①翌週範囲や判例等の参考資料を前週に示すので、社会背景等の大まかな理解を独自にしておく。
<復習> 2時間①「学習支援システム」の「課題」に、「第1回、第2回…」と掲載しますので、各回の終了ごとに与えられたテーマに沿って100文字以内で、分かったこと考えたことを記述して提出。これは成績評価には反映されません。皆さん自身の学習のためです。②事件や判例について、背後にある制度や根拠法を復習し、判例の意義を自分なりにまとめ、理解を再構築する。③学習支援システム上の小テストを解く。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

学びの助けとして、できれば芦部信喜、伊藤正巳、末川博先生など「憲法」関連著作。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上での小テスト30%。
②定期試験70%。定期試験は、新型コロナウイルスの収束が長引き対面で行うことが不可能な場合、学習支援システム上での試験といたします。小テストを再構成した総合的なテストとする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすい言葉を用いるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PDF資料は1mb以下にする予定です。可能であれば条文や判例を検索できるように、インターネットの利用できる機器。

【Outline and objectives】

① You learn comprehensively the basic knowledge of the Japanese Constitution. You learn how the Japanese Constitution controls the state. ② From the viewpoint of fundamental human rights security and democracy, you learn changes in social circumstances and changes in social wisdom through materials such as statistics. And you learn how it affected the Supreme Court precedent

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

保健医療論

森岡 崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

到達目標：「自分自身」の問題として「医療」を考える基本視角の習得
テーマ：社会における医療のあり方を考える

【到達目標】

医療という制度に対する自分の考えをもつための、基本姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

◆コロナウイルス 関連の話は特別扱わない。履修の際は注意されたい。少なくとも前半は、web による授業となる。なるべく当初の計画にそう形を取りたいが、変更となることもありうる。

授業開始日は 4 月 27 日で変更はない。

《自分の考えをみんなの前で発表して行く講義形式ですので、そのつもりで以下の文章を読んで下さい》

あなたもわたしも必ず死にます。本意ながらも大怪我をしたり病に冒される場合もあります。そんなときわたしたちの「生活」はどうなるのでしょうか？

私たちの社会にはそんな事態に対応する様々な装置（医療）が組み込まれています。本講義では、そういった装置を「自分の」問題として見つめなおすことをめざしています。

では、「死ぬ」とはどういうことでしょうか？ 実はこれは、「生きるとはどういうことなのか？」という問いを抜きには語り得ない問いです。そして「あなた自身」を抜きにして「客観的に」など語り得ない問いでもあるのです。ですから本講義では、徹底して「あなた自身」について考えていただくこととなります。

この機会に、みんなで自分自身を見つめなおしてみたいかでしょうか。医療に関する基礎知識は一切必要ありません。また、社会学の理屈も、必要な場合には再確認しながら授業を進めてゆきます。主に法・ルールといった側面からのアプローチになりますが、法律や法社会学に関する事前知識も不要です。

ただし、履修人数に応じて、可能な限り毎時間課題を出し、発表・ディスカッション・小テスト・小レポートなどを実施したいと考えています。基本的に黙っていることはマイナスにしかならないと考えてください。キッチリ意見交換を行なうつもりです。

なお、事情が許す限り、現場の方々（医師/看護師/薬剤師/患者・・・）に御登壇いただく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 Life とは？	人生・生命をとらえる基礎視角について
2	総論 技術とルール	先端技術と倫理の関係について
3	事例 1 人はどこまで人なのか 脳死・臓器移植	『サクリファイス』を巡って
4	事例 1 人はどこまで人なのか 脳死・臓器移植	脳死をめぐる倫理と技術について
5	事例 1 人はどこまで人なのか 脳死・臓器移植	人の生命の法的保護はどこまで可能か
6	事例 2 病と社会 ハンセン病	社会制度としてのハンセン病政策 隔離問題
7	事例 2 病と社会 ハンセン病	『いのちの初夜』を巡る生命観
8	事例 3 人はどこから人なのか 中絶を巡る問い	中絶技術と社会のルール
9	事例 3 人はどこから人なのか 中絶を巡る問い	生命の選択はどこまで可能か・許されるのか？
10	事例 4 「わたし（あなた）」が死ぬってどういうこと？	「死とは何？」をめぐる議論を、事例を通して考えてゆく。
11	事例 4 「わたし（あなた）」が死ぬってどういうこと？	「死とは何？」をめぐる議論を、事例を通して考えてゆく。
12	事例 4 「わたし（あなた）」が死ぬってどういうこと？	「わたし」の延長線上の死
13	まとめ 日時未定 ゲスト講師 1	私が生きていくとはどういうことか 可能な限り、医療従事者などの現場の声を聞く機会を設けたい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは次回の授業でしっかりと発言できるように、復習と課題の読み込みが必要です。
 テキスト・授業時配布の資料などは、各自が読み込んで来たことを前提に質問・授業内小テスト・小レポートを行うので、注意して下さい。
 生命に関わる裁判記録も読む予定です。各自しっかりと読んで来て頂きます。
 また授業以外の曜日・時間に、東村山市の「多磨全生園（国立ハンセン病療養所）」見学会を行う予定です（希望者のみ）。
 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田邦男『サクリファイス（犠牲） わが息子・脳死の 11 日』、文春文庫、1999

【参考書】

村上絢子『証言ハンセン病 もう、うつむかない』、筑摩書房、2004
 藤田真一（編著）『証言・日本人の過ち ハンセン病を生きて一森元美代治・恵美子は語る』、人間と歴史社、1996

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの発言・小テスト・小レポート（25%）、および大レポート（75%）
 なお、履修人数によっては大レポートの代わりに試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストをお招きしたいと考えています。
 過去の例

医師（研究医/臨床医）、患者、患者家族、看護師、薬剤師、MR、臨床検査技師、臓器移植コーディネーターなど

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないが、Pc、スマホやタブレットなど、その場でネット公開の統計データなどが確認ができる機器を所持していると理想的です。

【その他の重要事項】

履修者への要望

1. 毎回、出来るだけ口頭で、各自の考えを述べてもらいます。受身では済みませんので、その覚悟で履修してください。
2. 正解があると錯覚しないこと：グルグル考え続ける以外対応策のない領域に踏み込みます。
3. あなた自身に興味を持つこと：自分を抜きに話を進めることはできません。しつこく自問自答して、「私の人生って何？」とか、「私がしたいことは何？」あたりを真剣にグルグルやってみてください。

【Outline and objectives】

To acquire a way of thinking about healthcare system.

That system is a part of our society and we(as a student also) are still constructing it.

How to define death or life? What is a life? For such questions, there are many alternatives to answer. This means, we have to make decision even about life.

In this lecture, we will treat your own decisions or ways of thinking about life.

The most important point is yourself.

MAN300ED

マーケティング実践

諸上 茂光

サブタイトル：ソーシャル・シミュレーション

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競争力のある商品開発や、訴求力のある広告活動を行うためには、消費者心理に関する理論的な基礎と、妥当性の高いアンケート調査やその分析の遂行に基づいたマーケティング戦略の立案が重要である。そのため、本授業では、実際のマーケティング課題を題材に、同一モジュールですでに履修した「消費者行動論」における消費者の心理の理解と「消費者行動モデリング」で習得した消費者の分析技法を駆使し、実践的なマーケティング戦略の構築を行う。

【到達目標】

消費者心理の理論と分析技法に基づいた、マーケティング戦略の企画と発表を行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に
 関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実際の商品開発やブランディング等の課題を題材に、消費者心理や行動に関する理論や各種データ、シミュレーション手法などを使用し、グループワークによりマーケティング戦略を構築し、発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明、グルーピング等
2.	マーケティング戦略の立案 1	市場分析・ポジショニング分析
3.	マーケティング戦略の立案 2	ニーズの把握
4.	課題のキックオフ	取り組み課題と制約条件の確認、質疑応答（キックオフミーティング）
5.	課題の分解	課題の客観的な分析
6.	戦略の構築活動 1	課題の分析（現状分析）
7.	戦略の構築活動 2	ゴールの設定
8.	調査 1	ヒアリング調査・アンケート調査の実施
9.	調査 2	調査結果の分析
10.	中間報告会	各グループ活動の中間報告と質疑応答
11.	課題解決活動 1	中間報告での質疑応答を受けた戦略の再検討
12.	課題解決活動 2	データの分析と効果考察
13.	課題解決活動 3	提案資料の作成
14.	最終発表	構築した課題解決の戦略について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外にも、実地調査や分析など、進度によってグループワークの時間を一部確保する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
 必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実践活動における平常点（60 %）と最終発表（40 %）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【Outline and objectives】

To develop the students' skill in making marketing strategy.

ECN200EB, ECN200ED

マクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：マクロ経済学 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学の基本的なモデルについてグラフを活用して学ぶ。「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

- (1) 日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
- (2) 簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
- (3) 45 度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
- (4) IS-LM 分析を用いて、財政政策と金融政策の効果を議論できる。
- (5) AD-AS 分析を用いて、失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半では、とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半、財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線と総供給曲線を用いた分析を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス, ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想法を紹介します。
2	GDP	GDP について解説します。
3	三面等価の原則	三面等価の原則について解説します。
4	消費の決定	財市場における需要の構成項目として大事な消費について解説します。
5	投資の決定	財市場における需要の構成項目として大事な投資について解説します。
6	財市場の分析— IS 曲線の導出	財市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示す IS 曲線を導出します。
7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ、利子率の決定を解説します。
8	貨幣市場の分析— LM 曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示す LM 曲線を導出します。
9	IS-LM 分析	IS 曲線と LM 曲線を用いて、均衡国民所得と均衡利子率を導出します。
10	中間試験	計算問題中心の試験を行います。
11	IS-LM 分析と財政・金融政策	財政政策の効果について IS-LM 曲線を用いて図解します。
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。

- 13 物価水準の決定—総需要と総供給（1） 総需要曲線と呼ばれる AD 曲線を定義した後、導出します。
- 14 物価水準の決定—総需要と総供給（2） 総供給曲線と呼ばれる AS 曲線を定義した後、導出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験（中間試験 50 %，期末試験 50 %，両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
- (2) the role of fiscal and monetary policy.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

マクロ経済学Ⅱ

北浦 康嗣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学の1分野である経済成長論についてグラフを活用して学ぶ。

【到達目標】

- (1) 成長会計を用いて、経済成長について議論することができるようになる。
- (2) 経済成長の源泉について議論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

マクロ経済学分野の経済成長に注目します。

＜注意事項＞

この授業は春学期開講です。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日（木）です。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、静学と動学の違い	時間を通じた意思決定について解説します。
2	マクロ経済学Ⅱで用いる数学	経済成長論に必要な数学の知識について確認します。
3	生産関数（1）	マクロ生産関数について解説します。
4	生産関数（2）	マクロ生産関数を理解した上で、資本蓄積について解説します。
5	生産性（1）	成長会計について解説します。
6	生産性（2）	成長会計を計算します。
7	経済成長（1）	経済成長のメカニズムについて解説します。
8	経済成長（2）	経済成長のメカニズムを理解した上で、計算を用いて経済成長率を導出します。
9	中間試験	計算中心の確認を行います。
10	経済成長における教育の役割	経済成長における教育の役割について議論します。
11	経済成長における公共投資の役割	経済成長における公共投資の役割について議論します。
12	経済成長における保健の役割	経済成長における保健の役割について議論します。
13	経済成長におけるR&Dの役割	経済成長におけるR&Dの役割について議論します。
14	経済成長と環境問題	経済成長と環境問題について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが、毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50%、期末試験50%、両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

＜注意事項＞

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準については、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the understanding and tools of macroeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of long-run economic growth;
- (2) the role of Human Capital Formation, Physical Capital Accumulation, Research and Development, Technological Progress, and Public Policy.

SOC200ED

マス・コミュニケーション論

藤田 真文

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mass communication theories.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は4月23日（木）1限から学習支援システムで教材の配布を開始します。

マス・コミュニケーション（＝マス・メディア（新聞・放送など）を通じた大量の情報伝達）を扱った理論で、これまでどのようなことが問題とされてきたか、時代を追ってたどります。デジタル化による近年の変化も視野に入れながら考えていきます。

【到達目標】

マス・コミュニケーション理論を単に学説史として把握するのではなく、当時のメディア状況の中に位置づけて理解し、さらには現代のメディア現象をとらえる視座を得ることができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。授業後にみなさんに理論の意味を考えてもらう課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メディア史概説	マス・メディアの発達史を概説する。
第2回	弾丸効果モデル	大衆動員などマス・メディアの効果の強調について
第3回	メディアイベント論	イベントによる大衆動員などマス・メディアの効果の強調について
第4回	限定効果モデル	マス・メディアの効果への懐疑が問われるケースの解説
第5回	普及過程論①	情報の社会的浸透過程の考察
第6回	普及過程論②	広告効果論など現代社会への応用の可能性について
第7回	デジタル時代への示唆①	インフルエンサーなどへの応用の可能性について
第8回	中範囲の理論	議題設定理論や世論の構築過程などの解説
第9回	強力効果論の捉えなおし	沈黙のらせんと第三者効果、培養理論の解説
第10回	社会的責任論	メディアの倫理的責任の議論の解説
第11回	デジタル時代への示唆②	社会的構築主義、言説分析への展開の可能性について
第12回	カルチュラル・スタ ディーズ①	利用満足研究とカルチュラル・スタ ディーズによる能動的受け手論
第13回	カルチュラル・スタ ディーズ②	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの分析手法について
第14回	デジタル時代への示唆③	リキッド・モダリティなど現代社会論への展開の可能性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業後にみなさんに理論の意味を考えてもらう課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。授業支援システムによって配布するプリントを中心に進めて行きます。

【参考書】

スタンリー・J・バラン、デニス・K・デイビス『マス・コミュニケーション理論（上・下）』新曜社、3600円・3200円

【成績評価の方法と基準】

①中間レポート＝30％ ②定期試験＝50％ ③毎回の課題＝20％

【学生の意見等からの気づき】

学生から基礎的知識を問う評価にしてほしいとの要望がありました。定期試験も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、授業支援システムによって配布します。受講する学生は、2回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、マス・コミュニケーション理論に関する講義に知見を活かしている。

ECN200EB, ECN200ED

ミクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：ミクロ経済学 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 部分均衡分析の枠組みでミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。
- (2) 一般均衡分析の枠組みで需要と供給、資源配分について理解を深める。
- (3) 「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

- (1) 身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。
- (2) ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。
- (3) 簡単な数値計算によって余剰分析ができる。
- (4) 数値計算によって効用最大化問題が解ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

<注意事項>

この授業は春学期開講です。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日（木）です。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想を紹介し、(機会費用、比較優位など)
2	需要の理論 (1)	支払意思額について図解します。
3	需要の理論 (2)	消費者余剰について図解します。
4	供給の理論 (1)	供給の理論を学んだ後、生産者余剰を図解します。
5	供給の理論 (2)	生産者余剰について演習を行います。
6	市場の理論 (1)	社会的余剰を導出した後、効率性・公平性について議論します。
7	市場の理論 (2)	社会的余剰について演習を行います。
8	中間試験	計算問題中心の確認を行います。
9	経済学に必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。
10	家計の行動 (1)	効用最大化問題について解説します。
11	家計の行動 (2)	予算制約式について図解します。
12	家計の行動 (3)	効用について図解します。
13	家計の行動 (4)	無差別曲線について図解します。
14	家計の行動 (5)	最適消費点について図解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学 (第2版)」中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験 50%，期末試験 50%，両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

<注意事項>

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する予定です。具体的な方法と基準については、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
- (2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
- (3) how and why equilibrium prices might change and their impact on resource allocation;
- (4) the theory of consumer behavior.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

ミクロ経済学Ⅱ

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

- (1) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
 (2) how and why equilibrium prices might change and their impact on resource allocation;
 (3) the theory of market failures such as imperfect competition (monopoly, oligopoly), externalities and asymmetric information.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 主に部分均衡分析の枠組みを用いて、ミクロ経済学の概念・理論について余剰問題を中心に学びます。
 (2) 市場の失敗について理解を深めます。

【到達目標】

- (1) 数値計算を用いることで、社会的余剰および厚生を解説することができる。
 (2) 市場の失敗に関して、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半では部分均衡の枠組みで社会的余剰を導出した後に、政府による規制を分析します。後半では市場の失敗について図解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび春学期の確認	部分均衡分析の枠組みで、ミクロ経済学の体系を確認します。
2	消費の理論	消費者余剰を導出します。
3	生産の理論	生産者余剰を導出します。
4	市場の理論（1）	社会的余剰を導出します。
5	市場の理論（2）	価格規制について図解します。
6	市場の理論（3）	数量規制について図解します。
7	中間試験	計算問題中心の確認を行います。
8	市場の失敗	市場の失敗について解説します。
9	外部性（1）	外部性について図解します。
10	外部性（2）	外部性について計算します。
11	不完全競争（1）	不完全競争について図解します。
12	不完全競争（2）	不完全競争について計算します。
13	情報の非対称性（1）	情報の非対称性について図解します。
14	情報の非対称性（2）	情報の非対称性について計算します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが、毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50%、期末試験50%、両方受験すること）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

民法（家族法）

三宅 利昌

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn the legal system related to the family of the Civil Code.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、民法の家族に関する法制度を学びます。

【到達目標】

法的な視点から家族間の紛争を分析・検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**【授業の進め方と方法】**

家族を取り巻く社会状況や価値観には、近時、著しい変化がみられます。特に親族法の領域では、夫婦の別姓などの自由と平等をめぐる問題や、子の監護に関する紛争解決の基準やその手続など子の利益に関する問題が検討課題として山積しています。授業ではこれらの問題にも触れたいと考えています。授業は、講義形式によって行います。なお、授業計画は、授業の進行状況に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、家族法の概要、婚約	家族法を概観した後、婚約について学びます。
2	婚姻の成立	婚姻意思、婚姻の障害事由について学びます。
3	婚姻の効果	婚姻により夫婦間にどのような法律効果が生じるかを学びます。
4	婚姻の解消①（離婚の成立）	離婚制度の概要を解説し、有責配偶者からの離婚請求の問題を取り上げます。
5	婚姻の解消②（離婚の効果）	離婚の際の財産分与、子の監護、養育費の問題について学びます。
6	婚姻外の男女関係の法的保護	内縁、事実婚をめぐる問題について学びます。
7	親子関係の発生①（実親子関係）	嫡出親子関係、非嫡出親子関係について学びます。
8	親子関係の発生②（養親子関係）	普通養子縁組と特別養子縁組について学びます。
9	親子関係の効力（親権）、扶養	親権の内容とその制限、扶養の意義について学びます。
10	相続法の概要	相続法の基本構造、相続の根拠、相続の承認と放棄について学びます。
11	遺言と遺留分	遺言の方式と効力、遺留分減殺請求権について学びます。
12	法定相続①（相続人）	相続人の範囲と順位、相続欠格と相続人廃除について学びます。
13	法定相続②（相続分、相続財産、遺産分割）	相続分、特別受益、寄与分、遺産分割について学びます。
14	学期末試験・まとめと解説	授業内試験を実施します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマを確認し、テキストおよびレジュメにあらかじめ目を通してから授業に出席してください。授業後は、内容を振り返り、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松川正毅著『民法 親族・相続（第 6 版）』（有斐閣、2019 年）

【参考書】

本山敦『家族法の歩き方（第 2 版）』（日本評論社、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

- (1) 小テスト (20%) : 2 回実施します (第 6 回、第 12 回の授業時に実施予定)。夫婦、親子、相続について基本的な知識を修得しているかをテストします。
- (2) 定期試験 (70%) : 判例に基づいた設例を出題し、①設問の法的問題点を把握しているか、②論点についての学説や判例の考え方を理解し、それらを解説しながら、きちんと論理づけしているか、③解答全体が、論旨が明確になるように構成されているか、以上の観点から総合的に評価を行います。
- (3) 平常点 (10%) : 授業への参加度 (質問や意見など) を加味します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な内容をわかりやすく解説するように努めます。

【その他の重要事項】

春学期に「民法（入門）」を履修していることが必要です。

LAW200EB

民法（財産法）

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の順序に従って進める。板書が中心。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	売買契約による目的物の所有権移転 1	不動産物権変動
2	売買契約による目的物の所有権移転 2	不動産登記
3	民法 177 条の第三者	売買契約の取消後の第三者との関係、契約解除後の第三者との関係、取得時効完成後の第三者との関係、遺産分割後の第三者との関係
4	動産物権変動	4 種類の引渡し
5	物権の客体の内容・性質	物権的請求権
6	売買契約以外の所有権取得原因	無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、添付
7	債権担保の制度	強制執行
8	債権保全手段	債権者代位権、詐害行為取消権
9	責任財産の拡大 1	連帯債務
10	責任財産の拡大 2	保証
11	担保物権 1	抵当権、根抵当権
12	担保物権 2	仮登記担保、譲渡担保
13	法定債権 1	事務管理、不当利得
14	法定債権 2	不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○テキストに事前に目を通してから授業に出席し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『コンダクト民法』（嵯峨野書院、第二版、2020 年）

【参考書】

判例百選 民法 I（第 8 版）

判例百選 民法 II（第 8 版）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって評価する。

定期試験の結果で 100 % 評価する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 講義前に必要な板書かどうかを十分に検討した上で、板書にのぞむ。
2. 受講生がノートに書き終わることを確認して次に進む。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業には小六法を必ず持参すること。

○テキストについては初回授業で説明する。

【Outline and objectives】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property"

LAW200EB

民法（総則）

松田 佳久

サブタイトル：民法（入門）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書にある順に従って授業を進める。板書が中心。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	民法典の内容と構成	1. 公法と私法の違い 2. パンデクテン方式
2	物権と債権の相違	物権と債権の特徴の比較を通じて相違を把握
3	売買契約を有効に成立させる成立要件	当事者の存在、権利能力の存在、意思の合致（合意）
4	売買契約を有効に成立させる有効要件 1	制限行為能力制度、瑕疵ある意思表示（詐欺、強迫）
5	売買契約を有効に成立させる有効要件 2	意思の不存在（心裡留保、虚偽表示、錯誤）
6	契約の効果帰属要件 1	代理制度
7	契約の効果帰属要件 2	無権代理の制度
8	売買契約が成立した場合における売主の義務	売主による目的物の種類に応じた引渡義務
9	売買契約が成立した場合の買主の義務	代金の支払い義務と同時履行の抗弁権
10	金銭消費貸借	利息制限法
11	債権の終了する弁済以外の方法 1	第三者による弁済、相殺
12	債権の終了する弁済以外の方法 2	契約の解除・取消、時効消滅
13	債務不履行の効果 1	債権者による債務者に対する損害賠償請求
14	債務不履行の効果 2	契約の解除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○テキストに事前に目を通してから授業に出席すること

○授業後に各自で内容を復習すること

○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみることを本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『コンダクト民法』（嵯峨野書院、第二版、2020 年）

【参考書】

金子宏=新堂幸司=平井宜雄編集代表『法律学小辞典（第 5 版）』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。

定期試験結果が 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

1. 板書が多いとのアンケート調査でしたので、必要な板書にのみ限定し、わかりやすく記載することに心がけます。
2. 受講生がノートに記載し終える前に次の講義内容に行ってしまうこともあったようなので、受講生が書き終えたことを十分に確認します。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。

○授業には小六法を必ず持参すること。

○テキストについては初回授業で説明します。

【Outline and objectives】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law.

SOC100ED

メディア研究法入門A

藤田 真文

サブタイトル：メディア社会学入門A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は4月21日（火）1限から学習支援システムで教材の配布を開始します。

ただし授業中の課題提出は4、5月中はすべて5月31日（日）までとします。メディアのオーディエンス、利用行動などの質的調査の代表的手法である「観察」「インタビュー」の基礎的な内容を学んでもらいます。

【到達目標】

①質的調査の手法を理解する。②質的調査を設計し、調査を実施する。③質的調査データの取りまとめから知見を引き出す。以上3点ができるようになっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が課題を提示し、受講生が報告するアクティブ・ラーニング方式で行います。質的調査データとは何か、「観察」「インタビュー」それぞれの手法についての理解を深め、受講生自ら調査を設計し、調査を実施した後、質的調査データから調査課題についての知見をどのように引き出すかを学んでいきます。最後に調査結果について、受講生から報告してもらい、相互評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	質的データについての解説、調査テーマ設定と受講者グループ分け
第2回	「インタビュー」という方法	先行研究からインタビュー調査の焦点を解説
第3回	インタビュー調査の設計	インタビューの設計を行う
第4回	インタビュー調査の実施報告	インタビューの実施結果を報告する
第5回	インタビュー調査からの知見	インタビュー調査から調査テーマに関する知見を引き出す
第6回	調査結果の報告①	前半グループが調査結果を報告する
第7回	調査結果の報告②	後半グループが調査結果を報告する
第8回	「観察」という方法	先行研究から観察の焦点、フィールドノートの取り方などを解説
第9回	観察の設計	受講生が調査テーマ解明の観察方法を考える
第10回	観察の実施報告	観察の実施結果を報告する
第11回	観察からの知見	観察から調査テーマに関する知見を引き出す
第12回	調査結果の報告①	後半グループが調査結果を報告する
第13回	調査結果の報告②	前半グループが調査結果を報告する
第14回	ふりかえりと相互評価	最終試験について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。「観察」「インタビュー」それぞれの調査実施、結果の取りまとめは、授業時間外に行っていただきます。授業は調査設計の進行状況、調査結果の報告に当てられます。

【テキスト（教科書）】

梅津順江（2015）『心理マーケティングの基本』日本実業出版社

【参考書】

初回にリストを提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等30%、グループレポート20%、グループ間相互評価10%、グループ内相互評価10%、筆記試験30%。

【学生の意見等からの気づき】

担当が初年度につきありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of qualitative media research.

SOC100ED

メディア研究法入門B

宇野 斉

サブタイトル：メディア社会学入門B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 量的調査データの分析を学びます。2 グループ実習で量的調査を体験します。

【到達目標】

1 調査プロセスの体験。2 数量データの基本的分析に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業とグループ実習を折り混ぜて進めます。随時発表と評価やレポート提出があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスと課題設定	進め方と課題説明、グループテーマ設定、先行研究調査の開始。
02	表・グラフを読む	表・グラフ表現を適切に考察するプロセスを学びます。
03	テーマと先行研究調査分析の発表	テーマに対応する先行調査研究をグループごとに発表します。
04	数値を読む	分析に必要な尺度、時間、単位、集計やグラフ表現を学びます。
05	調査の企画と作成	仮説内容と設問内容の発表と具体的な調査作成説明をします。
06	調査票の作成	各グループで仮説に則した調査票を作成します。
07	調査票の確認	各グループの調査票の内容、構造を発表し確認します。
08	調査の実施とデータ分析準備	調査に相互回答し、調査データを得ます。必要な変換をし、分析を始めます。
09	調査の分析・考察1	調査での設問ごとの単純集計から分析考察します。
10	調査の分析・考察2	調査での設問間のクロス集計から分析考察します。
11	調査結果の記述	分析考察から、仮説に対応した結果の記述、確認を行います。
12	調査レポートの作成	調査企画作成実施内容を順次記述し、レポート作成を始めます。
13	まとめ発表1	調査の分析結果をグループ発表します。相互評価します。
14	まとめ発表2	調査の分析結果をグループ発表します。相互評価します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループでの先行研究の調査・分析、調査企画、作成、実施、集計、分析、レポート作成、プレゼン資料作成、発表が設定されます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。必要に応じて追加の作業時間が生じます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

轟、杉野編（2017）『入門・社会調査法【第3版】』法律文化社
その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点28%、グループレポート20%、グループ間相互評価11%、グループ内相互評価11%、期末試験30%。

【学生の意見等からの気づき】

不明点はすみやかに質問しましょう。

大学提供のMS-Office最新版を利用して下さい。

グループ内での作業負担が偏らないように協働してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。その中で大学付与メールアドレスを登録し、受信対応設定して下さい。その他必要なインターネットサービスも利用します。

授業や作業でPCを利用したい人は持参または多摩情報センターからの貸出等を利用してください。

【その他の重要事項】

授業計画は授業展開により若干変更があり得ます。
基礎演習クラス単位でのグループ作業への参加は必須です。
春学期開講コンピュータ入門の内容を相互に確認理解し利用が必要です。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行）履修して下さい。

【Outline and objectives】

1: Learn to analyze quantitative survey data. 2: Experience quantitative research in groups.

FRI300ED

メディアコンテンツ分析

藤田 真文

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディアコンテンツ論」で解説した方法論を使い、映像論、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを分析する受講生の力を養います。

【到達目標】

映像論、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを分析することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が課題を提示し、受講生が報告するアクティブ・ラーニング方式で行います。授業の前半は、映像論などから広告などのメディア・コンテンツを、後半は、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを受講生自ら分析してもらいます。受講生相互に報告を評価してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進行について	授業内容の説明
第 2 回	映像の技巧と意味（復習）①	構図、カメラワーク（テキスト 1 章 2 章）
第 3 回	映像の技巧と意味（復習）②	編集、語り（テキスト 3 章 5 章）
第 4 回	中間課題の提示①	広告分析とストーリーマッピングの仕方
第 5 回	映像分析の実際（復習）	構造主義的分析、ジェンダー批評（テキスト 9 章 12 章）
第 6 回	受講生の報告①	分析結果の報告
第 7 回	受講生の報告②	分析結果の報告
第 8 回	計量言語分析の原理（復習）	計量言語分析の原理を知る
第 9 回	言説分析とは（復習）	言説分析の原理を知る
第 10 回	中間課題の提示②	計量言語分析、言説分析の応用課題
第 11 回	受講生の報告③	分析結果の報告
第 12 回	受講生の報告④	分析結果の報告
第 13 回	最終課題の提示	最終レポートの作成方法
第 14 回	メディアコンテンツの意義	実務などへの応用を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回、テキストの読むべき章ないし課題提示を行いますので、必ず取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税

【参考書】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税

これは「メディアコンテンツ論」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間に2回各2000字程度、学期末に1回4000字程度のメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を3回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート(3回) = 80% ②毎回の課題 = 20%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当なのでありません。

【学生が準備すべき機器他】

計量言語分析のツールとして、KH Coderを使います。Windowsは無料ですが、Macの場合は、導入費用(3,980円)がかかります。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、コンテンツ分析に関する講義に知見を活かしている。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of media contents research.

SOC200ED

メディアコンテンツ論

藤田 真文

サブタイトル：コミュニケーション論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】

受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返しお見せします。また後半では計量言語分析の方法を解説した後に、受講者自らが選んだテキストで、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	映像における意味(授業ガイダンス)	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について(テキスト1章)
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて(テキスト2章)
4	映像の技巧と意味③	編集について(テキスト3章)
5	映像の技巧と意味④	語りについて(テキスト5章)
6	映像分析の実際①	構造主義的分析(テキスト9章)
7	映像分析の実際②	ジェンダー批評(テキスト12章)
8	物語分析の応用	広告分析/ストーリーマッピング
9	計量言語分析の原理	計量言語分析の原理を知る
10	計量言語分析の応用	計量言語分析を応用した成果を知る
11	言説分析とは	言説分析の原理を知る
12	言説分析の応用①	言説分析を応用した成果を知る
13	言説分析の応用②	言説分析を応用した成果を知る
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト(教科書)】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス(2014)『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400円+税

【参考書】

末吉美喜(2019)『テキストマイニング入門 ExcelとKH Coderでわかるデータ分析』オーム社、2500円+税

これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間と学期末に2回4000字程度(最低でも3000字)の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を3回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート(2回) = 80% ③毎回の課題 = 20%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、授業支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も授業支援システムで行います。受講する学生は、2回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】

この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎期限までに授業支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、コンテンツ分析に関する講義に知見を活かしている。

【Outline and objectives】
Students will learn about the image and discourse theory.

SOC200EC, SOC200ED

メディア社会学基礎A

土橋 臣吾

サブタイトル：音楽社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポピュラー音楽を議論の対象としながらメディア社会学の基礎を学ぶことが目的です。メディアの変化はあらゆる文化作品の生産・流通・受容に影響を与えますが、音楽にはその変化が特に顕著に現れます。音楽に関する身近な事例の分析を通じて、様々な文化実践をメディア社会学的に捉えるための視点を獲得していきます。

【到達目標】

ポピュラー音楽に関するメディア社会学的な分析に触れることで、メディアと文化に関する社会学的視点を身につけることが第一の目的です。特に、情報環境としてのマスメディアとデジタルメディアの違い、今日の情報環境の中での新たな文化実践の可能性について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、授業の全体を「マスメディアと音楽」「デジタルメディアと音楽」「参加のメディアと音楽」「生成のメディアと音楽」の4セクションに分け、それぞれのセクションの初回で重要な理論や概念について学び、その上で、事例の分析を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	マスメディアと音楽（1）	マスメディアの時代
3	マスメディアと音楽（2）	放送メディアとポピュラー音楽
4	マスメディアと音楽（3）	音楽雑誌という文化装置
5	デジタルメディアと音楽（1）	パーソナライズ化する情報環境
6	デジタルメディアと音楽（2）	iPod+iTunes は何を変えたか
7	デジタルメディアと音楽（3）	ストリーミング時代の音楽環境
8	参加のメディアと音楽（1）	経験・体験を享受する
9	参加のメディアと音楽（2）	フェスの隆盛とライブ文化の変容
10	参加のメディアと音楽（3）	ソーシャルメディアとファンダム
11	生成のメディアと音楽（1）	インターネットの生成力
12	生成のメディアと音楽（2）	制作を支えるプラットフォーム
13	生成のメディアと音楽（3）	ネットに生まれる新しいシーン
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行してそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくとう理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

To acquire the basic perspectives of current media studies, we will learn the changing relationship between media technology and popular music.

SOC200EC, SOC200ED

メディア社会学基礎B

稲増 龍夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像メディアの制作・情報発信の基礎となる技術を取得し、送り手の立場からメディアの総体を理解することを目指します。受け身の授業ではない、ワークショップ形式の「アクティブラーニング」を目指します。

【到達目標】

個人やグループで企画し、スマホやビデオカメラを使って撮影し、PCを使って編集作業をおこないます。さらには YouTube からの情報発信をおこなう映像制作技術を習得します。その過程を通して、実践的にコンテンツ制作の実相を体得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半の数は実践の基礎となる理論枠組みを講義しますが、その後、全員がスマホで「自己紹介ビデオ」を制作し、その後、数人のグループに分かれ、社会学部や大学の中を取材し、情報番組を制作して情報発信してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと課題 作品Aの提示	授業の概要説明と課題のオリエン テーション
2	映像コミュニケーションの歴史と特色	映像の基礎理論と機能の解題
3	メディア実践の基礎 (1)	企画する
4	メディア実践の基礎 (2)	撮影する
5	メディア実践の基礎 (3)	編集する
6	メディア実践の基礎 (4)	デジタルする
7	メディア実践の基礎 (5)	プロデュースする
8	課題作品A発表	自己紹介ビデオの上映と講評
9	課題作品B&Cの提示	オリエンテーションと班分け
10	メディア実践の応用 (1)	YouTube の伝播力
11	メディア実践の応用 (2)	クラウドの力
12	メディア実践の応用 (3)	クールジャパン戦略の現在
13	課題作品B発表	上映と講評
14	課題作品C発表	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、映画、ネットなどの最新映像コンテンツに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。なお、課題制作にかかる時間が別途必要になります。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+課題作品制作・上映（70%）

【学生の意見等からの気づき】

座学ではない、実践的授業を目指します。よって、授業時間外の活動も多くなるので、課題作品を制作するためには相応の負担を覚悟してください。映像コンテンツ関係への進路を希望している学生にとっては必須の基礎スキルを学ぶのと同時に、映像制作を通して、自分、社会学部、法政大学、多摩を取材し、これからの大学生活へのビジョンを構築してもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホはほぼ所有していると思うので、そのカメラ機能は必須です。ビデオカメラ・三脚・ライト・マイクや編集用のパソコンは社会学部の映像実習室を利用できるので、個人で用意する必要はありません。

【Outline and objectives】

Introduction to Practical Study of Video Production

LAW200EC, LAW200ED

メディア社会学基礎C

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後さらさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学校に対する履修登録に加えて、この講義に対する履修登録をインターネット経由で履修登録することが受講の条件となる。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報法の現在	「情報法」という学問領域は何を問題としているのか。情報法という領域の成立史と現状について紹介する。
2	情報と社会	法学とのかかわる情報概念について検討する。また、文明史と未来学の見解をもとに、現在の社会とこれからの社会について検討する。
3	情報化社会とこれから	文明史と未来学の見解をもとに、現在の社会とこれからの社会について検討する。
4	情報技術 / 法と経済学 1	コンピュータやネットワークの動作原理を説明する。また、それらの技術がもつ法学的意味について説明する。
5	情報技術 / 法と経済学 2	経済学の考え方を法学に応用する手法について紹介する
6	ネットワークと刑事法 1	犯罪白書でのネットワーク関連犯罪の取り上げ方およびマスコミでのネットワーク関連犯罪の取り上げ方を検討。
7	ネットワークと刑事法 2	ネットワーク世界での法執行について概観する。
8	言論表現の自由 1	言論規制と言論の自由の歴史。情報化が言論の自由に寄与するために、いかにあるべきか。
9	言論表現の自由 2	議会制民主主義政体における言論表現の自由の重要性について解説。
10	言論表現の自由 3	情報技術の発展にともない基礎条件がどのように変化しつつあるか。
11	秘密の保護 1	伝統的な秘密の概念および近年までの法律における秘密の定義や取扱いに関する解説。
12	秘密の保護 2	情報社会への移行にともない、法律における秘密の定義や取扱いがどのように変化したのかの解説。
13	情報公開/公文書管理 1	情報公開制度の理念、沿革、先行国の制度について解説したうえで、情報公開制度について概観する。
14	情報公開/公文書管理 2	公文書管理制度の理念、沿革、先行国の制度について解説したうえで、公文書管理制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』 講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は、講義中に指示する。

【参考書】

ガイダンス時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Information has played an important role in numerous social circumstances. This development of a computer network is estimated to make much progress. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. Therefore it is true that advocates' points of view differ from each others'. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC100EB, SOC100EC, SOC100ED

メディア社会学への招待

藤田 真文

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は 2017 年度以前入学者用の授業です。
初回授業は 4 月 21 日（火）2 限から学習支援システムで教材の配布を開始します。
人間・社会・メディアの関係について考える。

【到達目標】

学生が、メディアについて自ら思考し、想像力を鍛え、そこからメディアについて認識し、表現していくための手がかりをつかむことでできている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今年度本授業は、履修者が比較的少数であることが予想されます。ゼミ形式で、履修者のレジュメ報告を中心に進めて行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01 回	授業の進め方	オリエンテーション
02 回	メディア社会論とは	メディア社会論の基礎を考える
03 回	メディアの歴史	メディアの歴史について考える
04 回	インターネットの歴史	インターネットの歴史について考える
05 回	メディアと人間関係の構築	メディアと人間関係の構築について考える
06 回	モバイル社会前史	モバイル社会前史について考える
07 回	モバイル社会の意味	モバイル社会の意味について考える
08 回	モバイルと居場所	モバイルと居場所について考える
09 回	コンテンツ・メディア前史	コンテンツ・メディア前史について考える
10 回	テレビと大衆文化	テレビと大衆文化について考える
11 回	メディアと民主主義	メディアと犯罪の関係について考える
12 回	ソーシャルメディアの功罪	ソーシャルメディアの功罪について考える
13 回	デジタルコンテンツの功罪	デジタルコンテンツの功罪について考える
14 回	ネット広告の功罪	ネット広告の功罪について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業項目についてテキストの関連した章を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のレジュメ報告 40% 最終レポート 40% 授業内での発言 20%

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目のためアンケートを実施しています

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

この科目は「2017 年度以前入学生」のための旧カリ科目です。「2017 年度以前入学生」で学科基礎科目が未履修の学生に向けた授業内容となります。レジュメ報告など授業への積極的な参加が求められる。一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送業界などメディア企業に関する講義に知見を活かしている。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of media sociology.

SOC100ED

メディア社会入門 I

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論 I
開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「メディア社会」とは何か、それを学ぶために知っておくべき基礎概念について説明したのち、国家や政治とメディアとの関わりを中心に解説を行う。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアの役割をより幅広い視点から理解できるようにすることに加えて、自らの手で分析、研究を行うための方法論を学ぶことにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、リアクション・ペーパーに応募することで、受講者の疑問にできるだけ答えるようにしていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「メディア社会」について考えることの意味	授業全体のイントロダクション
第 2 回	メディアが描く「現実」	「現実」とは何か、メディアといかなる関係にあるのかを考える
第 3 回	国家と情報ネットワーク	国家とは何か、国家と情報ネットワークはどのような関係にあるのかを考える
第 4 回	情報ネットワークの歴史と現在	情報ネットワークの発展を歴史的な文脈から考える
第 5 回	国民共同体とメディア	国民共同体の形成においてメディアがどのような役割を果たしてきたのかを考える
第 6 回	ナショナリズムの「日常化」とメディア	日常生活において当たり前のものとしてナショナリズムが再生産される過程を考える
第 7 回	戦争とメディア（1）	戦争時にメディアが国内でどのような役割を担うのかを考える
第 8 回	戦争とメディア（2）	戦争時の対外的宣伝のためにメディアが果たす役割について考える
第 9 回	資本主義におけるメディアの役割	資本主義の発達過程においてメディアが果たしてきた役割について考える
第 10 回	消費社会とメディア	消費を促進する手段としてのメディアとその社会的文脈について考える
第 11 回	都市とメディア	都市とメディアはいかなる関係にあるのかを考える
第 12 回	東京とメディア	東京の歴史的な発展過程を踏まえながら、メディアによる空間の意味づけについて考える
第 13 回	開発途上国とメディア	開発途上国の発展にとってメディアはいかなる役割を果たしうるのであるのかを考える
第 14 回	グローバリゼーションとメディア	国境を越えるメディア流通とそれが社会にもたらす影響について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

通常は学期末試験によって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、リアクション・ペーパーによるインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to explain the basic concepts for learning 'mediated-society'.

SOC100ED

メディア社会入門Ⅱ

津田 正太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「大学でメディアについて学ぶ」とはどういうことなのかという問いを出発点として、われわれを取り巻くメディアの現状や、そこで発生している諸問題、さらにはメディアを介した日常的なコミュニケーションを学術的に理解するための視点について解説を行う。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアの役割をより幅広い視点から理解し、大学でメディアを学ぶための基礎を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、リアクション・ペーパーに应答することで、受講者の疑問にできるだけ答えるようにしていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大学でメディアを学ぶとはどういうことか？	授業全体のイントロダクション
第2回	メディア産業の現状（1）新聞	マスコミュニケーションの原点である新聞の今について考える
第3回	メディア産業の現状（2）テレビ（上）	テレビの発達過程をたどる
第4回	メディア産業の現状（3）テレビ（下）	現在のテレビが抱える問題について考える
第5回	メディア産業の現状（4）インターネット	産業という観点からインターネットについて考える
第6回	現代メディアの諸相（1）マスメディア批判の高まり	世界中で高まっている「メディア不信」とその構造について考える
第7回	現代メディアの諸相（2）ネット炎上	ネット炎上とそのメカニズムについて実例を交えながら考える
第8回	現代メディアの諸相（3）表現の自由と差別表現	ネット上でしばしば問題になる差別表現について考える
第9回	現代メディアの諸相（4）監視社会	情報ネットワークの高度化に伴って生じてきた監視社会の現状について考える
第10回	メディア・コミュニケーション（1）遠隔地とのコミュニケーション	メディアを介したコミュニケーションの性質について考える
第11回	メディア・コミュニケーション（2）「わたし」をめぐる問題	現代的な自我のあり方についてメディア・コミュニケーションとの関わりをなかで論じる
第12回	メディア・コミュニケーション（3）モバイルメディアと人間関係の変容	モバイルメディアの普及に伴う人間関係の変容について考える

第13回	メディア・コミュニケーション (4) 恋愛コミュニケーション	現代的な恋愛コミュニケーションについてメディアとの関係で考える
第14回	ふりかえり	授業全体を総括し、「大学でメディアについて学ぶこと」の意味について改めて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や授業で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

通常は学期末試験によって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、リアクション・ペーパーによるインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【Outline and objectives】

This lecture starts with the question: "What is the meaning of studying media at university?". Then, I explain the current situation of media industries, contentious issues about media, and our daily mediated-communication from academic perspectives.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

メディア政策論

松本 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第4の権力」とも言われるメディアについて、その構造とメディアや個人が政策に関わる仕組みを学びます。

【到達目標】

メディアと政策の関係についての理解を深め、選挙・投票だけでなくメディアの観点から政策に与える影響の実際を把握する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

メディア政策には、政策決定者側から見た「メディアに対する政策」と、メディア側から見た「政策に与えるメディアの影響」があります。講義ではその両面を学び、さらにソーシャルメディアの影響についても検討を行います。講義は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と方針の説明
第2回	メディア政策の実際	メディアを巡る関連法などを概観
第3回	政権とメディア	両者がどのような関係にあるか
第4回	政策を読み解く (1)	クールジャパンとメディア (1)
第5回	政策を読み解く (2)	クールジャパンとメディア (2)
第6回	政策を読み解く (3)	審議会やパブリックコメント
第7回	レポート (1) について	レポート (1) のテーマと書き方
第8回	レポート討議 (1)	グループで議論を行います
第9回	政策とメディア (1)	政策決定とメディアの役割
第10回	政策とメディア (2)	Web メディアと法規制
第11回	政策とメディア (3)	政党・政治家・記者による直接発信
第12回	政策とメディア・レポート (2) について	有識者会議等・レポート (2) のテーマ発表
第13回	レポート討議 (2)	グループで議論を行います
第14回	まとめ	講義全体を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2回のレポートの執筆と討議参加が必須です。授業中に発言、質問するために問題意識を持つようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。ある場合は適宜指示します。

【参考書】

鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法』（ミネルヴァ書房、2012年）

【成績評価の方法と基準】

レポート 60%、平常点 40%。平常点では授業中の発言や質問といった積極的な参加を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スライド投影にて授業を進めます。画面が見づらい場合は、各自のパソコン等で講義資料をダウンロードし参照してください。

【その他の重要事項】

オンライン講義に用いる URL は授業支援システム（Hoppii）にてお知らせします／受講希望者は第1回のガイダンスに必ず出席してください。授業の方針を説明します／授業計画は変更することがあります。

【Outline and objectives】

Media is also called "The Fourth Estate". This course will help you to understand its structure and the methods for involving the policy planning.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

4/23(木)に、2020年度の授業の進め方を『学習支援システム』を通してご連絡します。

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス 1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス 2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン 1	人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
9	インタフェースデザイン 2	人間の認知的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン 3	デザインアプローチの基本
11	コミュニケーション	人間の社会的側面を支援するメディアテクノロジー
12	テクノロジーとの共生 1	VR と AR
13	テクノロジーとの共生 2	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生 3	情報社会に存在する様々な格差と情報へのアクセシビリティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。

平常点は、授業への参加の姿勢やリアクションペーパーの内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

FRI300ED

メディアテクノロジーと社会実習

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザ中心設計の設計プロセスに沿って、各自の問題意識に基づいて、それを解決するためのサービス案を検討していきます。また、ユーザを理解するための手法に関して、実践的スキルの習得を目指します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計で行う各活動で用いる手法の習得
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するための実践的スキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の準備 1	計画の立案、予備調査
3	ユーザ調査の準備 2	ゴールの設定
4	ユーザ調査の準備 3	仮説生成、RQ の作成
5	中間発表 1	グループによる発表と質疑
6	ユーザ調査の準備 4	計画の再検討、RQ の見直し
7	ユーザ調査の実施 1	調査の実施と分析
8	ユーザ調査の実施 2	調査の実施と分析
9	中間発表 2	グループによる発表と質疑
10	ユーザ調査の実施 3	再調査、分析
11	調査に基づく設計 1	サービス案の検討
12	中間報告 3	グループによる発表と質疑
13	調査に基づく設計 2	サービス案の再検討
14	最終発表	グループによる発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word, Excel, PowerPoint) を使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、前年度に「メディアテクノロジーと社会」と「メディアテクノロジーと社会分析」の受講済みであることを前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施するため、全ての回への出席が求められます。

【Outline and objectives】

We will consider service proposals to solve the issues along with the User Centered Design process based on the awareness of each problem. We'll also aim at acquiring practical skills for understanding users.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザーに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計 no 各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザーを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ中心設計	ユーザ中心設計における調査と評価
3	ユーザ調査	利用状況の理解と明示
4	UX 評価	ユーザーの経験の把握とその評価
5	ユーザビリティ評価	利用におけるユーザビリティとその評価
6	ユーザ調査法	ユーザ調査のための様々な手法
7	調査の準備 1	ゴールと RQ の設定
8	調査の準備 2	練習と RQ の確認
9	調査の実施 1	調査を実施する際の留意点
10	調査の実施 2	調査の実施
11	結果の分析 1	調査結果の分析手法
12	結果の分析 2	調査結果の分析の実施
13	発表 1	グループによる発表と質疑
14	発表 2	グループによる発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word、Excel、PowerPoint) を使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施するため、全ての回への出席が求められます。

【Outline and objectives】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

SOC200ED

メディアと人間 I

坂上 香

サブタイトル：比較文化論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何であるのか？ その成り立ちや変遷から、メディアと私たち（文化、社会、時代など）の関係性をひもといていきます。具体的には、ことば、写真、新聞、雑誌と広告、映画、ラジオ、テレビ、監視社会をメディア文化と捉えることによって、私たちが巻き込むコミュニケーションのありかたを考察します。「いまここ」を意識しつつ、時代や国を超えた事例を扱います。メディアと人間 I は現代社会を生き抜くためのメディア・リテラシーの基礎編で、後期の II は応用編という位置づけです。

【到達目標】

- ①メディアの多義的な意味と変遷を理解する。
- ②具体的なメディアの事例を通して、特定の時代や文化におけるメディアと人々の関係性を理解する。
- ③メディアと私たちの関係性を、多角的に考察することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業の開始は 4/21 です。新型コロナウイルス感染拡大への対応として、当面の間、オンライン授業になる予定です。4/21～5/12までは、履修生の wifi および PC 環境が把握できないため、教材は履修生にとって負担が少ないテキストデータ (pdf とワード) のみで対応します (リンクで資料を提示したりもしますが、ネット環境が厳しい人は、無理はしないでください)。教材は「授業支援システム」(Hoppii) に毎回掲載するので、各自でアクセスして自習してください。授業の進め方と方法については、授業支援システムで随時アップデートしていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/21	ガイダンスとイントロダクション	講義の概要と進め方 メディアとは？
4/28	メディアをクリティカルに捉え直す	メディア研究 メディアの捉え方
5/12	メディア文化としての書物	書物の大衆化
5/19	メディア文化としての写真	社会政策としての写真
5/26	メディア文化としての新聞	新聞の出現
6/2	メディア文化としての雑誌と広告	雑誌と広告の歴史と関係性
6/9	メディア文化としての映画	映画の誕生
6/16	メディア文化としてのラジオ	2つの映画（「ラジオデイズ」と「ラジオの時間」）におけるラジオの意味と変遷
6/23	メディア文化としてのテレビ（1）	テレビと家族
6/30	メディア文化としてのテレビ（2）	番組改ざん事件
7/7	ネットと SNS	分極化される世論
7/14	メディアに希望はあるか？	新しいメディアと新しい文化？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週の課題リーディング等が、「授業支援システム」(Hoppii) に毎回掲載されます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、毎回授業の資料を、授業日時までに「授業支援システム」(Hoppii) に掲載します。

【参考書】

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、2018年）
ジョン・パージャー 伊藤俊治（訳）『イメージ 視覚とメディア』（PARCO 出版、2005年）
*その他の参考書については講義内で適宜例示します。

【成績評価の方法と基準】

学期内に3回ほど、課題ワークシートを提出してもらおう予定です。

課題ワークシート 1 30%

課題ワークシート 2 35%

課題ワークシート 3 35%

評価方法や基準については、変更の可能性があります。「授業支援システム」(Hoppii) のお知らせをご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見がある場合は、個別にメールをください。授業の内容に関係することであれば、次回の授業に反映させるようにします。公言されたくない場合はメールでその旨お伝えください。

【学生が準備すべき機器他】

5/12 までは pdf やワードを中心に「学習支援システム」(Hoppii) に掲載するので、それらが使える環境。5/19 以降は、pdf、ワードに加えて、オンデマンド形式のオンライン授業を何度か行いたいと考えているので、アクセスできる環境。ただし、オンデマンドにアクセスが難しい学生が多い場合は、再検討します。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染拡大への対応として、しばらくの間、オンライン授業になる予定です。変更については「授業支援システム」(Hoppii) で随時アップデートしていく予定です。

【Outline and objectives】

This is a basic course on Media Studies.Students who wish to take Media and Human II are recommended to take this.

SOC200ED

メディアと人間Ⅱ

坂上 香

サブタイトル：比較文化論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TV、映画、マンガ、アニメ、音楽、ゲーム、ネット動画等、私たちの身近にあるポピュラーカルチャーは、文化や社会制度と密接な関係を持っています。本講義では、そうした関係性を、いくつかのテーマに絞って、主にメディア表象を通して読み解きます。それらはまた、どのような言説を生み、どのような形で個人の思考や社会、世界に反映されているのでしょうか？ 人道的なメディアの実現は、果たして可能でしょうか？ フェイクニュースや表現の不自由が指摘される現代において、メディアに飲み込まれてしまわない姿勢と視点を養います。前期に「メディアと人間Ⅰ」の履修を薦めます。

【到達目標】

- ①メディア・リテラシーとは何であるかを理解する。
- ②メディアを鵜呑みにせず、クリティカルに眼差すことができるよう、イメージを読み解くためのスキルを身につける。
- ③イメージやその影響は、社会や時代のありかた、新しいメディアの出現（新たな作り手とオーディエンス）によっても変化することを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で、映像とパワーポイントを使います。学期中、ペアや小グループになって話をする時間も作ります。なお、授業内容は、進度と展開に応じて、多少変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	講義の概要と進め方
2	メディアを読み解く	メディア・リテラシーと表象分析のアプローチ
3	メディアとジェンダー（1）	女性の描かれ方とその影響
4	メディアとジェンダー（2）	男性の描かれ方とその影響
5	メディアとジェンダー（3）	セクシュアルマイノリティの描かれ方とその影響
6	メディアと民族的マイノリティ	移民・難民とヘイト
7	メディアと子ども	日米のエンタメ映画における虐待とDV
8	中間試験	*ワークシート持参のこと
9	メディアと加害者	編集と加害者の印象
10	メディアと被害者	報道における被害者と「公認されない被害者」
11	メディアと死刑（1）	映画「デッドマン・ウォーキング」と米国の死刑
12	メディアと死刑（2）	マンガと日本の死刑
13	メディアと警察	ドラマ Cops と警察 24 時をめぐって
14	人道的なメディアは可能か？	ミニディスカッション「もうひとつの表現」をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントのスライドや資料は、授業支援システムに事前に掲載します。中間と期末試験の前には、講義の復習や多少の独自調査が要求される「ワークシート」を課題として出します。試験当日は、そのワークシートを参考に記述してもらおうので準備をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、毎回スライド資料を準備し、事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー入門編』（リベルタ出版、2013 年）

デイビッド・T・ジョンソン 笹倉香奈（訳）『アメリカ人のみた日本の死刑（岩波新書）』（岩波書店、2019 年）

*その他の参考書については講義内で適宜例示します。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）*事前に配布されるワークシートの持ち込み可

期末試験（40%）*事前に配布されるワークシートの持ち込み可
平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーは義務付けません。伝えたいこと、聞きたいことがある場合のみ、提出してください。提出されたコメントや質問は、次の授業の始めに紹介したり、授業に反映させたりするよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントのスライドや資料などを授業支援システムに事前に掲載します。各自、印刷して、持参してください。

【その他の重要事項】

講義の進め方や評価、課題などの説明は初回の授業でカバーします。必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This is an advanced Media Studies course. Students are expected to take I level before taking this course.

FRI300EC, FRI300ED

メディアの思想

小林 直毅

サブタイトル：記号論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とは thought、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解することを第一の目標にします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、3 回のリアクションペーパーの提出があります。そのなかの特徴的なもの（優れたものではない！）について、簡単なプレゼンテーションをしてもらいます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（1）
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（2）
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の実験を考える。
12	小括「メディアテキスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリプライ（3）
13	メディアと権力	メディア環境のポリテクスを考える。
14	メディアと主体	メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。そして講義の概要を自分なりに把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

毎回の講義後に、テキストや参考文献を参照しながら講義ノートを整理することも必須です。その際、事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：20%、期末試験：80%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand the thought of media as technology and institution.

FRI200EC, FRI200ED

メディアの歴史

小林 直毅

サブタイトル：メディア史 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の実験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業とします。それにとまう各回の授業計画の変更には、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月8日とし、それまでを準備期間として具体的なオンライン授業の方法や準備のための課題などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第 2 回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第 3 回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第 4 回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第 5 回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第 6 回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ（1）
第 7 回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第 8 回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第 9 回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第 10 回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ（2）
第 11 回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第 12 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その1）	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第 13 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その2）	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか
第 14 回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

講義後に、参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともなって、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日（5月8日）に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand the history of media as technology and institution.

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアという多義語の中で、ここでは大きく①情報媒体②電子媒体の2つについて、この両方を扱う「手段」を、Web ページ作成方法の基本を中心に説明する。

【到達目標】

メディア・リテラシーとコンピュータ・リテラシーの両方の基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、基本重視の内容と丁寧な解説を行う。Web ページの基本となる HTML の知識を軸として、他の周辺的な説明も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language)の基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本：タグは応用範囲が広い。
第3回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて。
第4回	HTML 属性	属性とは？ リソース/イメージデータについて。マルチメディアの萌芽。
第5回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクおよびアンカー、Java 言語のクラスについて。
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて。テーブルとは2次元情報のこと。
第7回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)。実は Excel もテーブル。
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて。リストの Linux や Windows の例。
第9回	レイアウト	HTML レイアウト(id attribute, division etc.)。
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念および Javascript の例。
第11回	イベント処理	HTML + Javascript でのイベント処理。
第12回	より細かい表現のために	HTML のブロックとインライン。Java プログラムの紹介。
第13回	最終提出課題作成検討	Search Engine Object と Prototype および最終提出課題作成。
第14回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題作成および全体的な授業に関する質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習は、平均毎回 2 時間程度。
・不明点は、遠慮せずに教員や TA に質問したりする姿勢が重要。質疑応答はメール・ベースで行う。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

・実習室での授業が実施出来ない期間は基本的に課題点により評価する。
・質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Enable acquiring basic effective information via programming

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアという多義語の中で、ここでは大きく①情報媒体②電子媒体の2つについて、この両方を扱う「手段」を、Web ページ作成方法の基本を中心に説明する。

【到達目標】

メディア・リテラシーとコンピュータ・リテラシーの両方の基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、基本重視の内容と丁寧な解説を行う。Web ページの基本となる HTML の知識を軸として、他の周辺的な説明も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念。
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本：タグは応用範囲が広い。
第 3 回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて。
第 4 回	HTML 属性	属性とは？ リソース/イメージデータについて。マルチメディアの萌芽。
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクおよびアンカー、Java 言語のクラスについて。
第 6 回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて。実は Excel はテーブル。
第 7 回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)。2次元情報。
第 8 回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて。リストの Linux や Windows の例。
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウト (id attribute, division etc.)。
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念および Javascript の例。
第 11 回	イベント処理	HTML + Javascript でのイベント処理。Processing でのイベント処理。
第 12 回	より細かい表現のために	HTML のブロックとインライン。Java プログラムの紹介。
第 13 回	最終提出課題作成検討	Search Engine Object と Prototype および最終提出課題作成。
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題作成および全体的な授業に関する質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外の学習は、平均毎回 2 時間程度。
- ・不明点は、遠慮せずに教員や TA に質問したりする姿勢が重要。
- ・授業時間以外はメール・ベースでの質疑応答となる。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、提出物 (50%) を総合的に判断して、成績を評価する。提出物(課題)は、授業内容の理解度を確認するためのもの。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意のこと。

【その他の重要事項】

- ・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。
- ・止むを得ず欠席する場合は、メールで連絡のこと。欠席時には、配布資料を自習すること。

【Outline and objectives】

Enable acquiring basic effective information via programming

SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論

稲増 龍夫

サブタイトル：メディア文化論Ⅱ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストモダン社会の深化と、ネットメディアの発展が相関している構図を多角的に析出し、今を映したビビッドな現代社会論を目指します。

【到達目標】

日常的に接しているメディア文化現象を素材に、ポストモダン社会論とネットメディア論がいかにシンクロしているかを理解し、テクノロジーの文脈で語られてきたネットメディアの社会的背景を概観します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本は映像資料を駆使した講義形式ですが、全員参加の「白熱教室」＝ソクラテス的対話形式を導入します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概略と進め方のオリエンテーション
2	ポストモダンとは何か	すみわけ社会と分断社会の相克
3	高度消費社会の実相	現代広告における「差異化」の文法
4	アイデンティティの変容	「自分探し」の現代的構図
5	第1回白熱教室	ミニレポートと討論
6	価値の相対化と「正義」の解体	アメコミヒーローの変遷
7	アイドル工学	アイドル文化の日本の特性
8	メディアとしてのテレビゲームとARの位相	双方向のベクトルの進化とリアリティの変容
9	第2回白熱教室	ミニレポートと討論
10	インターネットの社会的変革力	インターネットの歴史とそのポストモダン性
11	グーグル化する社会におけるプライバシー問題	個人情報を私企業に提供して得られる便益とその危険性
12	ネット時代の著作権と二次創作の時代	モダンの時代に確立した著作権の変容を解説
13	第3回白熱教室	動画投稿サイトによつ生まれた新たなメディア制作者としてのYouTuberに注目する
14	白熱教室（補講）、	総括とミニレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今という時代のメディア文化の変容に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期同様、3 + 1回の白熱教室で評価をおこない（100%）、定期試験はおこないません。毎回の出席は取りませんが、白熱教室に参加するには出席が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

ネットに関する最新の動向をフォローしている受講者から「話題が古い」という指摘がありましたが、情報番組ではないので、最新情報ではなく、理論的文脈に沿った現象を取りあげています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Study of Contemporary Media Culture

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論 I

稲増 龍夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春楽器に習得した「ポストモダン社会論」を前提に、現代メディア文化の変容を反映した映画を取り上げ、毎回、全員参加の討論で議論を進めていく。

【到達目標】

「ポストモダン」という切り口で、現代メディア文化を反映した映画を取り上げ、現代社会の変化の諸相を横断的＝総合的に解題する分析視角を学んでもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本は映像資料を駆使した講義形式ですが、「ハーバード白熱教室」的対話方式を参考に、セメスターに3回の白熱教室を導入し、各回のテーマについて受講者間で議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とメディア文化論オープニングビデオの上映
2	オリエンテーション	「ポストモダン社会」論の概略
3	「カメラを止めるな！」	ミニレポートと討論
4	「ジョーカー」	ミニレポートと討論
5	「レディ・プレイヤー1」	ミニレポートと討論
6	「トゥルーマン・ショー」	上記テーマに関する議論
7	「マトリックス」	ミニレポートと討論
8	「ソーシャル・ネットワーク」	ミニレポートと討論
9	「トータル・リコール」	ミニレポートと討論
10	「Her/世界で一人の彼女」	ミニレポートと討論
11	「シン・ゴジラ」	ミニレポートと討論
12	「スティーブ・ジョブズ」	ミニレポートと討論
13	「スノーデン」	ミニレポートと討論
14	まとめ	総括議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今が旬のメディア文化現象にアンテナを張っておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回冒頭に、その回の課題映画に関するミニレポートを書いてもらい、それに基づき全員参加で討論をおこないます（100%）。よって、事前に課題映画をみることが討論参加の必須条件です。

【学生の意見等からの気づき】

白熱教室は好評ですが、議論に参加できる人数が限られてしまうのが問題でした。この講義は旧カリ科目ということもあり、少数精鋭で積極的な討論参加が必要です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Study of Contemporary Media Culture

FRI200ED

メディア分析技法

小林 直毅

サブタイトル：メディア分析実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テレビアーカイブという「記録」の森に分け入り、それを読み解き、たんなる過去の記録としてではなく、「いま」を問い、未来を照らし出していく方法を学びます。

【到達目標】

水俣病事件は「近代とは何か」を問いつづけています。そのような「水俣」の「記録と記憶」を考えることこそが、メディアの可能性と課題を考えることなのです。狭苦しい「メディア研究」から脱却して、「水俣」の「記録と記憶」としてのテレビドキュメンタリー・アーカイブを読み解き、近現代社会への問いを構築する方法を学ぶことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業とします。それにとりま各回の授業計画の変更には、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日とし、それまでを準備期間として具体的なオンライン授業の方法や準備のための課題などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の概要とねらい。
第2回	「記録と記憶」としてのテレビアーカイブ	テレビドキュメンタリーとそのアーカイブをどのように分析するのか。
第3回	水俣病事件史とテレビドキュメンタリー	NHK（1959）『奇病のかけに』の概説。
第4回	テレビが初めて描いた「水俣」	NHK（1959）『奇病のかけに』のシーンの解説。
第5回	水俣病事件の構図と責任を読み解く（1）	NHK（1976）『埋もれた報告』の概説。
第6回	水俣病事件の構図と責任を読み解く（2）	NHK（1976）『埋もれた報告』のシーンの解説。
第7回	「政府公式見解」の発表と地域社会「水俣」（1）	RKK（1969）『1111』の概説。
第8回	「政府公式見解」の発表と地域社会「水俣」（2）	RKK（1969）『1111』のシーンの解説。
第9回	テレビアーカイブで考える「水俣」の記録と記憶	中間総括。
第10回	「水俣」の混迷（1）	RKK（2006）『国の病としての水俣病』の概説。
第11回	「水俣」の混迷（2）	RKK（2006）『国の病としての水俣病』のシーンの解説。
第12回	「水俣」の長い時間（1）	RKK（2006）『水俣病2度目の幕引きへ』の概説。
第13回	「水俣」の長い時間（2）	RKK（2006）『水俣病2度目の幕引きへ』のシーンの解説。
第14回	「近代化」と「水俣」の記録と記憶	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げるドキュメンタリー番組を授業の前夜で視聴することが必須です。また、参考文献、資料を精読して、番組の視聴経験と重ねて考察することも必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回の授業の前夜でこれらができなければ、リアクションペーパーも期末課題もけつて書けませんので、単位取得はできません。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

授業のなかで随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったこととともなって、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日（5月8日）に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーと期末課題以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

DVDの再生が可能なPC、プレイヤー等を準備してください。

【その他の重要事項】

【2017年度以前入学生への注意事項】

水曜3限の「メディア分析実習」(通年開講)は、2018年度以降入学生向けで秋学期開講のこの科目「メディア分析技法」と、春学期開講の「メディア分析実践」と同一内容での合併開講になります。したがって水曜3限の「メディア分析実習」(通年開講)の受講希望者はこちらのシラバスに加えて、「メディア分析実践」(授業コードLD208)のシラバスも確認して下さい。「メディア分析実習」は両科目の内容を通年科目として受講することになります。

【Outline and objectives】

Students learn techniques to read and understand television archives as records and memories.

FRI200ED

メディア分析実践

小林 直毅

サブタイトル：メディア分析実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学環境アーカイブズに構築された「放送アーカイブ」と地域民放局との連携によって「水俣」のテレビアーカイブを分析、再構築するとともに、「水俣」の記録と記憶としてのテレビドキュメンタリーの企画案を構想します。

【到達目標】

一世紀以上の長い時間をかけて「近代とは何か」を問いつづけている「水俣」の「記録と記憶」を考えることは、メディアの可能性と課題を考えることです。その一環として、水俣病事件研究の成果をはじめとして、写真や文学作品とテレビドキュメンタリー・アーカイブとの相互作用による「水俣」の「記録と記憶」の可能性と課題を明らかにし、近現代社会を問うドキュメンタリーの企画を構想できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法政大学環境アーカイブズに構築された「放送アーカイブ」が所蔵する16編のドキュメンタリー番組を対象として、それらを構成するシーンが、「水俣」の何を、どのように記録し、そうしたシーンにどのような「水俣」の記憶としての可能性があるのかを分析し、その結果について学生相互の議論を重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の概要とねらい。
第2回	テレビドキュメンタリー・アーカイブとは何か	「記録と記憶」としてのテレビアーカイブをとらえる視点を形成する。
第3回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（1）	1970年代までの「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第4回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（2）	1980～1990年代の「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第5回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（3）	2000年代以降の「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第6回	近代という名の「水俣」の変貌（1）	水俣病事件の長い時間の記録と記憶を構成する。
第7回	近代という名の「水俣」の変貌（2）	失われた「水俣」の生活と文化の記録と記憶を構成する。
第8回	水俣病という苦難とは何か（1）	水俣病患者と家族の苦難の記録と記憶を構成する。
第9回	水俣病という苦難とは何か（2）	言葉を奪われる患者と家族の記録と記憶を構成する。
第10回	加害としての「豊かさ」（1）	潜在化の力学、抑圧と排除の構造の記録と記憶を構成する。
第11回	加害としての「豊かさ」（2）	加害・原因者としての企業と国の記録と記憶を構成する。
第12回	水俣病事件の「解決」、患者の「救済」とは何か（1）	「水俣」の混迷の記録と記憶を構成する。
第13回	水俣病事件の「解決」、患者の「救済」とは何か（2）	「近代」への問いの記録と記憶を構成する。
第14回	「水俣」に耳を澄まし、その声を語り、描く	「水俣」のテレビドキュメンタリー・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる16編のドキュメンタリー番組は全員が必ず視聴することが必須です。また、参考文献、資料を精読することも必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回の授業の前後でこれらができていなければ、ほぼ毎回提出を求められるリアクションペーパーも期末課題もけっして書けませんので、単位取得はできません。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

授業のなかで随時提示します。これを読むことがドキュメンタリー番組の視聴とともに履修上必須です。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる分析結果の報告（50％）と、期末課題（50％）の達成度で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーと期末課題以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

DVDの再生およびMP4形式の動画の編集ができるPCと、この授業専用に32Gバイト以上のUSBメモリー等の記録媒体を準備してください。

【その他の重要事項】

【2017年度以前入学生への注意事項】

水曜3限の「メディア分析実習」（通年開講）は、2018年度以降入学生向けで春学期開講のこの科目「メディア分析実践」と、秋学期開講の「メディア分析技法」と同一内容での合併開講になります。したがって水曜3限の「メディア分析実習」（通年開講）の受講希望者はこちらのシラバスに加えて、「メディア分析技法」（授業コードLD207）のシラバスも確認して下さい。「メディア分析実習」は両科目の内容を通年科目として受講することになります。

【Outline and objectives】

Students will be able to practice reconstruction of television archives as record and memory.

LAW300ED

メディア法

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後さらさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法律学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学校に対する履修登録に加えて、この講義に対する履修登録をインターネット経由で行ってもらおう。講義中に提示された方法で履修登録することが受講の条件となる。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するのか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開設する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は、講義中に指示する。

【参考書】

ガイダンス時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Information has played an important role in numerous social circumstances. This development of a computer network is estimated to make much progress. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. Therefore it is true that advocates' points of view differ from each others'. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

HUI300ED

物語シミュレーション

小川 有希子

サブタイトル：特講（物語プログラミング）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータと（広義の）物語は密接な関係があり、コンピュータゲームやグラフィックス、Web、さらには昨今のほとんどの映像など、デジタル技術に関わるコンテンツは、プログラミング的な発想に基づく物語として捉えなおすことができる。さらに、検索や翻訳、言語処理、ロボットなどで実用化されている様々な人工知能自体が、物語論や言語学などの強い影響下にある。

本授業では、コンピュータ上で、シミュレーション的にベースとなる物語を操作することで、様々な物語生成を行なう。特に、ストーリーの側面を強調する物語と、切断技法によってストーリー以外の側面も強調する物語に関し、それぞれの原理と意義、その認知を、プログラミングに基づく物語シミュレーションを基に考察していく。

【到達目標】

コンピュータ・デジタル情報と物語の関係に関し、切斷的観点も含め、深い探究を行うとともに、コンピュータ上のプログラムを用いて複数の物語をシミュレーション的に生成できるようになることを目的とする。さらに、デジタル技術の制約と限界についても考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業期間中に随時、課題を出す。プログラミ的な課題だけでなく、物語的な課題もある。これらを通し、皆で、物語とプログラムについての考察を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の説明
第 2 回	コンピュータ上の物語とその表現	コンピュータと物語のつながり
第 3 回	物語と、その例	物語についての説明
第 4 回	物語の構造	切斷的観点も含め、物語の構造についての説明
第 5 回	シミュレーションの原理	シミュレーションの原理と物語やその修辭（表現）との関係
第 6 回	物語論と人工知能	人工知能と物語やその修辭（表現）との関係
第 7 回	映像とプログラミング	映像修辭とプログラミングの関係
第 8 回	映像と物語のシミュレーション	物語的側面から、映像修辭に基づくシミュレーションを行う
第 9 回	まとめと中間課題	ここまでのまとめと中間課題
第 10 回	中間課題発表	中間課題の発表
第 11 回	Web と物語シミュレーション	Web と物語シミュレーションの関係について
第 12 回	最終課題案作成	最終課題の物語を決定する
第 13 回	最終課題に関する議論	決定した物語に関する議論
第 14 回	最終課題提出・発表	最終課題の提出と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングを実際に行わない場合でも、随時、物語とシミュレーション、デジタル技術に関する考察を行い、授業へ活かしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

小方孝・金井明人(2010)『物語論の情報学序説』学文社

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題 (40%) と、最終的な課題 (50%) を総合して判断する。また、授業の議論への積極的な参加 (10%) についても評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでの議論なども重視していきたいが、具体的な方法は、皆さんと議論して決めていきたい。どのような物語を具体的に扱うかは、早い段階で設定する予定。

【その他の重要事項】

初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。

【Outline and objectives】

This course deals with the narrative simulation and cognitive processes.

SOC300EC

理論社会学

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近代化」「脱近代」「第二の近代」をめぐる社会学理論について学ぶ。

【到達目標】

マクロな社会変動に関する社会学理論の見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP
 についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回課題図書・論文を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標・概要
2	近代、ポスト近代、第二の近代	「近代化」とそれ「以後」をめぐる社会学理論の状況
3	前近代から近代へ社会学の発生	西欧啓蒙主義思想の社会契約論、コントとスペンサーの社会学、「個人からなる社会」という発想
4	個人を規定する社会—デュルケムの「社会学」主義	デュルケム理論における「個人」と「社会」の関係、「契約の非契約的要素」という発想
5	「世俗内禁欲」のエートス—ヴェーバーの資本主義論	宗教倫理が「合理的」な資本主義発生の要因になったとするヴェーバーの議論
6	ホブズの秩序的秩序の問題—パーソンズの主眼主義的行為の理論	パーソンズの行為理論における利己的個人と「価値・規範」の内面化
7	社会の進化—パーソンズの近代社会論	「諸社会のシステム」の進化論、「教育革命」とアメリカ社会
8	機能分化の理論—ベンサーからルーマンまで	「社会の機能分化」についての理論の系譜
9	「未完のプロジェクト」—ハーバーマスの近代社会論	ハーバーマスの「生活世界の植民地化」論から「民主的法治国家」論への変遷
10	監視と統治のテクノロジー—フーコーの権力批判とその後	フーコーの「パノプティコン」、「統治」と「生政治」、監視社会論
11	時空間の拡大と近代—ギデンズの近代社会論	ギデンズの「脱埋め込み」と「再埋め込み」をめぐる近代社会論と「高度近代」論
12	「個人化」と「第二の近代」—ベックとバウマン	ベックとバウマンの「個人化」論における「社会と個人」関係の変容
13	産業社会から「リスク社会」へ—ベックの「リスク社会」論	ベックの「リスク社会」について
14	グローバル化とコスモポリタニズム	グローバル化をめぐるギデンズ、ベック、バウマンの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

後で指示する

【参考書】

後で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is study several sociological theories of "modernity," "post-modernity," and "second modernity" and comprehend sociological views on macro-historical social changes.

SOC200EB, SOC200EC

臨床社会学 I

木矢 幸孝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「病いを患う」とは、どのような経験なのだろうか。私たちの人生において、病気を避けることは不可避であるにもかかわらず、病いの経験についてはわからないことが多い。病いとともに生きている人はどのような日々をおくり、どのような葛藤を抱えているのだろうか。本授業では、病いとともに生きている人々の経験に焦点をあて、現代社会において「病いを患う」ことの意味を考える。

【到達目標】

病いとともに生きる人々の経験を学ぶとともに、病いの経験について多様な視点があることを理解する。そこから、自己と他者への想像力を喚起する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

病気になることをめぐる理論的水準から授業をスタートさせ、実際に病いをめぐる経験を歴史的・政策的・個別的観点から論じていく。具体的な疾患名については、ハンセン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、糖尿病、認知症、うつ病等である。

なお、授業は毎回配布するレジュメに沿って行い、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらい、リアクションペーパーの結果は、次の授業で学生にフィードバックする。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンラインでの授業方法などを、学習支援システムで提示する。

また、本授業は Google Classroom をバックアップシステムとして利用する。各自で、5月7日までに登録しておくことを推奨する。クラスコード：uqpsb75

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	病気になる	諸概念の検討
第3回	医療化	病いとは何か
第4回	スティグマ	病いとスティグマ
第5回	「病い」の経験（1）	ハンセン病
第6回	「病い」の経験（2）	筋萎縮性側索硬化症（ALS）
第7回	「病い」の経験（3）	糖尿病
第8回	映像教材鑑賞	「生きる」
第9回	セルフヘルプ・グループ	ピア・サポートの意味
第10回	家族の視点	家族を介護する
第11回	当事者の視点	認知症
第12回	精神医療	うつ病をめぐって
第13回	視覚という感覚	視覚障害者
第14回	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、レジュメを配布する予定。

【参考書】

講義やレジュメの中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）とレポート（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、変更の可能性がある。

【Outline and objectives】

What kind of experience is "living with illness"? It is inevitable in our lives to avoid illness. However, We don't know much about my experience of illness. How do people living with an illness live and what conflicts do they have? This class focuses on the experiences of people living with illness and considers the meaning of "living with illness" in modern society.

SOC300EC

臨床社会学Ⅱ

木矢 幸孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療技術の進展は私たちに恩恵をもたらしたが、新たな問題も浮上させている。本授業において、焦点を当てるのは医療技術をめぐる諸問題である。また、私たちはどのような医療システムの上で、医療を享受しているのだろうか。これまでの医療システムの歴史を論じ、これからの医療のあり方について考えていく。

【到達目標】

医療技術をめぐる諸問題および医療の歴史を理解し、説明できるようになる。本授業で取り上げる問題に対して、自己の意見の論理的根拠を認識し、他者の意見がどのような論理的根拠を土台に議論が構築されているかを把握できる力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

優生思想の歴史を確認したのち、医療技術めぐる諸問題および医療の歴史について論じていく。医療技術に関しては、それによってどのようなことが可能になり、どのような問題が生じているのか、という点を踏まえて授業を進めていく。

なお、授業は毎回配布するレジュメに沿って行い、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう。リアクションペーパーの結果は、次の授業で学生にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	概要の説明
第2回	優生思想	優生思想の歴史
第3回	障害者運動	自立生活運動
第4回	安楽死・尊厳死	安楽死・尊厳死をめぐって
第5回	臓器移植	脳死から考える
第6回	生殖技術	妊娠と出生前検査
第7回	映像教材鑑賞	「ガタカ」
第8回	ヒトゲノムと ELSI	知る権利／知らないでいる権利
第9回	遺伝情報	遺伝学的知識と病い
第10回	再生医療	幹細胞研究をめぐると倫理
第11回	医療システム (1)	20 世紀の医療
第12回	医療システム (2)	精神科
第13回	地域包括ケアシステム	生活の質
第14回	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、レジュメを配布する予定。

【参考書】

講義やレジュメの中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末試験 (70%) で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、変更の可能性がある。

【Outline and objectives】

Although advances in medical technology have benefited us, new problems are emerging. This class focuses on issues related to medical technology. What medical system do we enjoy medical care? We will discuss the history of the medical system to date and consider the future of medical care.

SOC300EC

歴史社会学Ⅰ

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業とする。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度知らせる。また、本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムにアップするのであらかじめ確認すること。

【到達目標】

・社会的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。

・あわせて、歴史的な視点が、いま・ここを見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。ただし、その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	イデオロギーとしての〈近代家族〉
14	エビローク	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。

・中間および期末の 2 度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

各トピックごとに出题される課題レポート (25 % × 4 回) により評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective.

SOC300EC

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

・「暗記科目としての「歴史」」を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。ただし、その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる“現場”を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	〈近代化〉に向けられた歴史的想像力
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エピソード	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

小課題レポート（20%×2回）+期末試験（60%）により評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events.

LANr100EA

ロシア語初級A

佐藤 裕子、長屋 房夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを書き、発音することから始めて、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようになる。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい（秋学期授業を受けるためには春学期試験の合格が前提）

【到達目標】

ロシア語の文字や文章を正確で美しい発音で読むことができる。教科書の単語と文法を着実に習得する。各課の練習問題で文法力の強化と語彙力を増すことができる。テキストを的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで、の講義となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで、その都度提示します。本授業の開始日は4月22日（水1）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付しますので、ご記入ください。（旧シラバス：2名の教員がリレー方式で授業を行います。基本的に前回の授業で終えたところから次の教員が続きます。ロシア語の文法的な特徴を踏まえて作成された本校の教科書に沿って学習を勧めます。各課の新出単語の発音と意味の確認、文法の説明とその習得、文法を用いて練習問題を解き、テキスト本文の音読と和訳、会話の練習といった流れとなります。下記の授業計画の中でミニテストや中間テストを適時行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ロシア語の予備知識（ロシアとロシア語について）	ロシアとロシア語についての予備知識
第2回	第1課 文字と発音（アルファベットの発音）	ロシア語のアルファベットについて、ロシア語文字の発音と書き方を学ぶ
第3回	第1課 アクセント、母音文字とその発音、子音文字とその発音	ロシア語アクセントの説明と発音練習、母音の発音、子音の発音、子音の同化の説明と単語の発音練習
第4回	第2課 基本文型、イントネーション	ロシア語基本文型とその文法説明、イントネーションを明確にした会話の読解と練習
第5回	第2課 人称代名詞と名詞の性	名詞の性と人称代名詞の説明、練習問題の解答
第6回	第3課 名詞の複数形、所有代名詞	名詞の複数形の作り方、名詞と所有代名詞の関係の説明
第7回	第3課 テキスト、会話と練習問題	テキストの音読と和訳、会話の発話練習と和訳、練習問題の解答
第8回	第4課 指示代名詞と形容詞	指示代名詞と形容詞の文法説明とその用法
第9回	第4課 テキスト、会話と練習問題	テキストの音読と和訳、会話の発話練習と和訳、練習問題の解答、露訳
第10回	第5課 動詞の過去形、副詞、格の概念	動詞の過去形の説明、副詞の作り方、ロシア語の主要な文法である格についての説明
第11回	第5課 テキスト、会話、練習問題	テキストの音読と和訳、会話の発話練習と和訳、練習問題の解答、露訳
第12回	第6課 動詞の現在人称変化と未来形	動詞の現在人称変化（第一変化、第二変化、不規則変化）と未来形の文法説明
第13回	第6課 前置格の説明、テキスト、会話、練習問題	前置格の文法説明とその用法、テキストと会話の音読と読解、練習問題の解答
第14回	春学期授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語も他言語と同様に予習・復習・反復が必要不可欠のため、時間を見つけて行う。例えば、テキスト本文の復唱や和訳、文法の復習と暗記、授業内で示される課題や練習問題の予習と復習など。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編 2020 年版）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き－3級・4級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005年、¥1650）
 ・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。水曜日と金曜日の授業で、一つの総合評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業でゆっくりとした発音練習から始め、文法も詳しく説明しながらロシア語テキストに馴染んでゆく。要望のあった単語の小テストや文法のミニテストを実施します。

【学生が準備すべき機器他】

秋学期までに露和辞書を用意する。

【その他の重要事項】

語学は継続性を重視しますので、正当な理由無くして3回以上欠席した学生は授業内試験受験の資格を失います。授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Starting with writing Russian alphabet and pronunciation, you can read simple sentences and understand meanings using dictionaries. It is advisable to take this course through the Spring Semester and the Fall Semester (In order to take the Fall semester classes, it is assumed that you will pass the Spring Semester exams)

LANr100EA

ロシア語初級B

佐藤 裕子、長屋 房夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期セメスターでは、初級文法の全体像を見渡せるよう効率的に文法を学んでいきます。文法の規則性を覚えながら、和訳、露訳作文に挑戦する中で、着実に力をつけます。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい（秋学期の履修は春学期での試験合格が前提）。

【到達目標】

簡単な文章を正確に音読でき、これまで学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてその意味が理解できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2名の教員がリレー方式で授業を行います。基本的に前回の授業で終えたところから次の教員が続けます。ロシア語の文法的な特徴を踏まえて作成された本校の教科書に沿って学習を勧めます。各課の新出単語の発音と意味の確認、文法の説明とその習得、文法を用いて練習問題を解き、テキスト本文の音読と和訳、会話の練習といった流れとなります。下記の授業計画の中でミニテストや中間テストを適時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	発音の確認、春学期の文法と単語の復習
第2回	第7課 動詞の命令形	動詞の命令形の作り方とその用法、動詞の唇音変化・歯音変化、с я 動詞
第3回	第7課 対格、曜日	名詞の対格の説明、曜日の表現
第4回	第7課 本文テキストの読解、会話とユーモア、練習問題	本文テキストの音読と和訳、会話とユーモアの和訳と発話、練習問題の答え合わせ
第5回	第8課 運動の動詞	運動の動詞の文法説明とその用法、交通手段や行先の表現
第6回	第8課 目的を表わす動詞の不定形の用法、テキストの読解	目的を表わす動詞の不定形の文法説明とその用法、テキスト、会話とユーモアの音読と和訳
第7回	第8課 練習問題、まとめと解説	運動の動詞に関する練習問題の解答、まとめと解説
第8回	第9課 形容詞、所有代名詞の対格、前置格	文法説明（形容詞、所有代名詞の対格、前置格）とその用法
第9回	第9課 テキスト、会話、練習問題	テキストの読解、会話の練習、練習問題の答え合わせ
第10回	第10課 生格、テキスト	生格の文法説明とその用法、テキストの読解
第11回	第10課 会話と練習問題	会話の練習、練習問題の答え合わせ
第12回	第11課 与格と造格、テキスト	与格と造格の文法説明とその用法、テキストの読解
第13回	第11課 会話と練習問題、まとめと解説（格変化を中心に）	会話の練習、練習問題の答え合わせ、格変化に関する文法の復習（まとめと解説）
第14回	秋学期授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語も他言語と同様に予習・復習・反復が必要不可欠ですので、時間を見つけて行いましょう。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編 2020年度版）
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
 ・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き－3級・4級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005年、¥1650）
 ・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（50%）、ミニテスト・中間テストと宿題（30%）、平常点（20%）から各先生の評価を総合的に判断して秋学期の評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。小テストの実施（単語の暗記と文法）

【学生が準備すべき機器他】

秋学期には露和辞典を使用して、新出単語を調べテキストを読解するので辞書を用意する。

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして3回以上欠席した学生は授業内受験の権利を失います（授業の中で詳しく説明します）。授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

In the fall semester semester, we will learn grammar efficiently so that you can see the whole picture of beginner grammar. While remembering the regularity of the grammar, I am steadily putting my emphasis on challenging Japanese translation and translation work. It is advisable to take this course through the Spring Semester and the Fall Semester (Fall semester term is subject to the examination passed in the Spring semester)

LANr200EA

ロシア語中級 1

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本学期では、初級で学んだ基礎をもとに、ロシア語の文章を読み理解していくうえで必要となる文法事項（関係代名詞、数詞を用いた表現など）を学び、基本的な文法をひとつお終えることを目指します。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に理解し運用できること、数詞を含む表現を理解し表現できること、辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるのにもない、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度お知らせします。本授業の開始日は4月22日です。具体的な授業の方法は学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習	既習文法の確認と復習
2	動詞の体の用法①	動詞の完了体、完了体の説明と練習
3	動詞の体の用法②	動詞の体を意識したテキストの読解
4	関係代名詞	関係代名詞の用法の説明と練習
5	関係副詞	関係代名詞、関係副詞が含まれるテキストの読解
6	数詞を含む表現①	数詞と名詞の結びつきの説明、時間の表現
7	数詞を含む表現②	年齢と年月日の表現の練習
8	数詞を含む表現③	数詞が含まれるテキストの読解
9	形容詞、副詞の比較級	形容詞、副詞の比較級の用法
10	形容詞、副詞の最上級	形容詞・副詞の最上級の用法
11	仮定法	仮定法の説明と用法
12	形容詞・副詞のまとめ	形容詞、副詞関連の総復習
13	まとめと練習	既習事項のまとめと練習
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に新出単語を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形は格変化表を繰り返し見て覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 法政大学ロシア語担当教員編』
辞書を持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利智一、白水社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準を変更します。具体的には授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

疑問点はその場で質問し解決に努めましょう。個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts and everyday conversation.

LANr200EA

ロシア語中級2

長屋 房夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年学んだロシア語文法の復習、そして残っている文法をなるべく早く終える。辞書を用いて文章を読解できるよう実践的な学習をする

【到達目標】

テキストを辞書を用いてロシア語文章の読解を中心に行うが、簡単な会話もできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と配布するテキストの読解を行う。毎回宿題を出します。また新出単語や練習問題は学生が準備する。短文の暗記や簡単な会話の練習も行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習①	これまでの復習（運動の動詞）
第2回	復習②	これまでの復習（名詞の前置格、対格、生格、与格と造格）
第3回	教科書 第12課 動詞の体①	動詞の完了体、不完了体の文法説明
第4回	教科書 第12課 動詞の体② テキスト、会話、練習問題	動詞の完了体、不完了体の文法説明、テキストの読解、会話と練習問題
第5回	教科書 第13課 関係代名詞と関係副詞①	関係代名詞の文法説明
第6回	教科書 第13課 関係代名詞と関係副詞②	関係代名詞と関係副詞の文法説明、テキストの読解
第7回	教科書 第13課 関係代名詞と関係副詞③	会話とことわざ、練習問題
第8回	教科書 第14課 数詞、時間①	数詞と名詞の結合文法説明
第9回	教科書 第14課 数詞、時間②	数詞と順序数詞、ロシア語の年月日の表現
第10回	教科書 第14課 数詞、時間③	年月日表現、テキストと会話の読解、文法説明、練習問題
第11回	教科書 第15課 比較級、最上級、仮定法①	比較級、最上級の文法説明
第12回	教科書 第15課 比較級、最上級、仮定法②	仮定法の文法説明、会話の読解、練習問題
第13回	春期の総復習	第12課から第15課までの総復習
第14回	授業内試験	春期の試験（1時間）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語に関する新聞・雑誌等の記事を読み、ロシア語だけでなく、ロシアのことにも関心を持ちましょう

【テキスト（教科書）】

1年生から継続の教科書と「入門ロシア語文法」和久利晋一著、白水社

【参考書】

参考書は使用しませんが、自分の露和辞書をもつか、ネット上の辞書が使える状況にあることが好ましい

【成績評価の方法と基準】

学期の最終日に筆記試験（60%）を行います。平常点（20%）と宿題・中間テスト（20%）を重要視し、総合的に評価します

【学生の意見等からの気づき】

単語や文法の小テストを行う。ロシア語文章を読むとき発音に注意する

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして3回以上欠席した学生は授業内受験の権利を失います。（授業の中で詳しく説明します）

【Outline and objectives】

We will review the Russian grammar. We learned in a year and finish the remaining grammar as quickly as possible.learn to use a dictionary to read sentences

LANr200EA

ロシア語中級3

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学習してきた文法事項を土台に、読解力・音読力・リスニング力を養う練習を行います。文章読解によりロシア語に慣れると同時に、ロシア映画などを教材としてロシア語のリスニング力や会話表現などを学びます。

【到達目標】

辞書を用いて文章を的確に理解し、日本語に訳することができる。アクセントの位置を意識して正確に音読ができる。音読したフレーズを聞き取ることができる。文章の内容についてロシア語の質問を理解し、適切に答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ロシア語で書かれた様々な文章を読んでいくことで読解力を養う訓練を行います。必要に応じて文法事項の補足説明を行います。また、ロシア映画や演説を学ぶ授業の際には音読練習が中心となりますが、日本語への訳出も行います。いずれも授業は学生主体で行います。この授業を理解するためには、一通りの文法事項を学習し終えていることが前提となるため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましいと思われる。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法事項の総復習	既習文法事項の確認
2	文章読解の基礎	長文読解に必要な構文の確認
3	文章読解（歴史）	ロシアの歴史に関する文章読解
4	文章読解（都市）	ロシアの都市（モスクワあるいはサンクトペテルブルク）に関する文章読解
5	文章読解（社会）	ロシアの社会に関する文章読解
6	詩の朗読	詩の音読練習
7	詩の暗唱	詩の暗唱の試み
8	ロシア映画に学ぶ会話とソ連社会	ロシア映画を教材とするリスニング・音読練習
9	ロシア映画に学ぶ会話とロシア社会	ロシア映画を教材とするリスニング・音読練習
10	ロシア映画に見るロシア人とロシア	ロシア映画を教材としてロシア人とロシアを理解する
11	ロシア映画に見るロシアの歳時記	リスニング・音読練習
12	大統領演説に学ぶロシア語表現	リスニングとロシア語表現練習
13	大統領演説の音読練習	音読練習
14	試験・まとめと解説	本学期的総復習としての試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章読解の授業では予習は不可欠です。単語は辞書で確認し、わからない部分は授業で質問し、授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を適宜配布します。辞書と格変化表は持参のこと。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利晋一、白水社

【成績評価の方法と基準】

試験60%、平常点（事前の予習、授業参加態度、課題提出などを含む）40%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に授業に参加し、理解しようとする姿勢が大切です。わからないことはその都度質問しましょう。

【Outline and objectives】

Through reading comprehension, we aim for confirmation, fixing and application of what we have learned so far. In the second half, learn Russian conversation expression using materials such as movies and presidential speech.

LANr200EA

ロシア語中級4

長屋 房夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法を終えたので、配布するテキストの読解に入る。今まで学んだ文法を文章の中で確認し復習、また新たな構文を学習して理解する

【到達目標】

新しい単語や文法の学習。簡単な会話にも慣れ、短い構文を覚える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストの読み、文法解釈を中心に、テキストに関係する単語も覚え、会話になるように練習する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習①	春学期で履修した文法、単語などの復習
第2回	復習②	春学期で履修した文法、単語などの復習
第3回	ロシア語文の読解①	配布テキストの読みと訳、文法説明
第4回	ロシア語文の読解②	配布テキストの読みと訳、文法説明
第5回	ロシア語文の読解③	配布テキストの読みと訳 文法解説、無人称文の学習
第6回	ロシア語文の読解④	配布テキストの読みと訳。文法説明
第7回	ロシア語文の読解⑤	配布テキストの読みと訳、文法説明
第8回	ロシア語文の読解⑥	配布テキストの読みと訳 文法説明
第9回	ロシア語文の読解⑦	配布テキストの読みと訳 文法説明
第10回	ロシア語文の読解⑧	配布テキストの読みと訳 文法説明、副動詞の学習
第11回	ロシア語文の読解⑨	配布テキストの読みと訳 文法説明、形動詞の学習①
第12回	ロシア語文の読解⑩	配布テキストの読みと訳 文法説明、形動詞の学習②
第13回	秋学期に配布したプリントの復習	秋期試験範囲の総復習
第14回	授業内試験	秋期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語に関する新聞・雑誌等の記事に慣れ親しむ。ロシアのニュースや文化に関心を持つ。自分の辞書をもつ。

【テキスト（教科書）】

書籍やネットからのテキストをプリント配布します

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

学期最終日に筆記試験（60％）を行なう。平常点（20％）と中間テスト・宿題（20％）も重要視して、総合評価する

【学生の意見等からの気づき】

例文を多く挙げ、ロシア語の特徴をより明確にするような文法説明と類似語、関係する単語も挙げる。

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして3回以上欠席した学生は授業内受験の権利を失います。（授業の中で詳しく説明します）

【Outline and objectives】

Now that you've completed the basic grammar, you can start reading the text you're distributing to confirm and review the grammar one has learned so far in writing and to learn and understand new syntax

